

# 2024年度 実務経験のある教員による授業科目 講義概要（シラバス）



法政大学

# 科目一覽

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【56001】 経済学入門Ⅰ(前期メディア) [平田 英明] 前期 .....	1
【56009】 マーケティング論Ⅰ(前期メディア) [竹内 淑恵] 前期 .....	2
【A0001】 憲法Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring .....	4
【A0002】 憲法Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall .....	5
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ [寺原 真希子、三浦 徹也] 秋学期授業/Fall .....	6
【A0015】 憲法訴訟論 [大津 浩] 秋学期授業/Fall .....	7
【A0027】 租税手続法 [中村 信行] 秋学期授業/Fall .....	9
【A0028】 租税実体法 [中村 信行] 春学期授業/Spring .....	10
【A0046】 親族法 [和田 幹彦] 春学期授業/Spring .....	11
【A0047】 相続法 [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall .....	13
【A0095】 労働法特論 [細川 良] 秋学期授業/Fall .....	15
【A0111】 国際環境法 [木村 ひとみ] 春学期授業/Spring .....	16
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [黒岩 操] 春学期授業/Spring .....	17
【A0132】 法と遺伝学Ⅰ [和田 幹彦] 春学期授業/Spring .....	18
【A0133】 法と遺伝学Ⅱ [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall .....	21
【A0159】 演習 [高須 順一] 年間授業/Yearly .....	23
【A0189】 演習 [和田 幹彦] 年間授業/Yearly .....	25
【A0282】 経済政策Ⅱ [前田 佐恵子] 秋学期授業/Fall .....	27
【A0485】 政治学特殊講義Ⅰ(安全保障政策) [半田 滋] 春学期授業/Spring .....	28
【A0503】 外国書講読(英語)Ⅰ [和田 幹彦] 春学期授業/Spring .....	30
【A0504】 外国書講読(英語)Ⅱ [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall .....	32
【A0514】 憲法と政治Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring .....	34
【A0515】 憲法と政治Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall .....	35
【A0520】 都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring .....	36
【A0521】 まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall .....	38
【A0531】 都市の環境問題 [松村 正治] 秋学期授業/Fall .....	40
【A0596】 現代イスラム世界論 [出川 展恒] 春学期授業/Spring .....	42
【A0606】 財政と金融Ⅰ [鳥澤 諭] 春学期授業/Spring .....	43
【A0607】 財政と金融Ⅱ [鳥澤 諭] 秋学期授業/Fall .....	44
【A0649】 国際NGO論Ⅰ [高橋 清貴] 春学期授業/Spring .....	45
【A0662】 アジア国際政治概論 [水野 孝昭] 秋学期授業/Fall .....	47
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring .....	49
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall .....	51
【A0725】 アジア比較政治論Ⅰ [高橋 徹] 春学期授業/Spring .....	53
【A0726】 アジア比較政治論Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall .....	54
【A0769】 国際社会の法Ⅰ [新垣 修] 春学期授業/Spring .....	55
【A0770】 国際社会の法Ⅱ [新垣 修] 秋学期授業/Fall .....	57
【A0779】 演習 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring .....	59
【A0780】 演習 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall .....	60
【A0921】 現代政策学特講Ⅰ(立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring .....	61
【A0922】 現代政策学特講Ⅱ(立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall .....	62
【A0947】 演習 [土山 希美枝] 春学期授業/Spring .....	63
【A0948】 演習 [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall .....	64
【A2441】 日本文章史A [中沢 けい] 春学期授業/Spring .....	65

【A2443】	日本文学史B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	66
【A2445】	文章表現論A [田中 和生] 春学期授業/Spring	67
【A2447】	文章表現論B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	68
【A2584】	表現と著作権A [平井 彰司] 春学期授業/Spring	69
【A2586】	表現と著作権B [平井 彰司] 秋学期授業/Fall	70
【A2647】	ゼミナール17A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	71
【A2648】	ゼミナール17B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	72
【A2649】	ゼミナール18A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	73
【A2650】	ゼミナール18B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	74
【A2651】	ゼミナール19A [田中 和生] 春学期授業/Spring	75
【A2652】	ゼミナール19B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	76
【A2653】	ゼミナール20A [田中 和生] 春学期授業/Spring	77
【A2654】	ゼミナール20B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	78
【A2655】	ゼミナール21A [山口 和人] 春学期授業/Spring	79
【A2656】	ゼミナール21B [山口 和人] 秋学期授業/Fall	80
【A2687】	日本文芸研究特講(9)表現A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	81
【A2688】	日本文芸研究特講(9)表現B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	82
【A2709】	編集理論A [福江 泰太] 春学期授業/Spring	83
【A2710】	編集理論B [福江 泰太] 秋学期授業/Fall	84
【A2717】	情報メディア演習A [武田 俊] 春学期授業/Spring	85
【A2718】	情報メディア演習B [武田 俊] 秋学期授業/Fall	86
【A2719】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	87
【A2720】	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	88
【A2721】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	89
【A2722】	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	90
【A3101】	日本史概説I [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	91
【A3113】	日本考古学 [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	92
【A3124】	日本近世史科学I [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	93
【A3125】	日本近世史科学II [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	94
【A3128】	日本考古学演習 [小倉 淳一] 年間授業/Yearly	95
【A3412】	地球科学概論I [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	96
【A3413】	地球科学概論II [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	97
【A3446】	世界地誌(4) [浦部 浩之] 春学期授業/Spring	98
【A3461】	測量学及び測量実習I [菅 富美男] 春学期授業/Spring	99
【A3462】	測量学及び測量実習II [菅 富美男] 春学期授業/Spring	100
【A3510】	地学実験(1)(コンピュータ活用含む) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	101
【A3527】	理科教育法(1) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	102
【A3528】	理科教育法(2) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall	103
【A3530】	理科教育法(3) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	104
【A3531】	理科教育法(4) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall	105
【A3619】	脳の科学 [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	106
【A3643】	研究法I(1) [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	107
【A3651】	研究法II(1) [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	108
【A3659】	精神生理学特講 [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	109
【A3667】	言語心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	110
【A3669】	行動分析学特講 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	111
【A3670】	行動分析学 [島宗 理] 春学期授業/Spring	112
【A3685】	精神保健学I [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	113
【A3686】	精神保健学II [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	114
【A3721】	産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	115
【A3722】	心理学特殊講義I [島宗 理] 秋学期授業/Fall	117
【A3727】	心理学特殊講義II [門本 泉] 秋学期授業/Fall	118
【A3813】	文学部生のキャリア形成 [小寺 浩二、利根川 真紀、渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	119
専門入門科目100番台	【A4002】 組織論入門 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	120
専門入門科目100番台	【A4003】 組織論入門 [橋本 諭] 春学期授業/Spring	121
専門入門科目100番台	【A4004】 組織論入門 [橋本 諭] 秋学期授業/Fall	122
専門入門科目100番台	【A4009】 マーケティング入門 [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring	123

専門入門科目100番台	<b>【A4010】</b>	マーケティング入門 [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall	125
専門入門科目100番台	<b>【A4013】</b>	ファイナンス入門 [山崎 輝] 春学期授業/Spring	127
専門入門科目100番台	<b>【A4014】</b>	ファイナンス入門 [岸本 直樹] 秋学期授業/Fall	128
専門入門科目100番台	<b>【A4030】</b>	簿記入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	129
専門入門科目100番台	<b>【A4031】</b>	簿記入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	130
専門入門科目100番台	<b>【A4040】</b>	情報学入門Ⅰ (表計算) (2019年度以降入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	131
専門入門科目100番台	<b>【A4041】</b>	情報学入門Ⅱ (表計算) (2019年度以降入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	132
専門入門科目100番台	<b>【A4042】</b>	情報学入門Ⅰ (表計算) (2019年度以降入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	133
専門入門科目100番台	<b>【A4043】</b>	情報学入門Ⅱ (表計算) (2019年度以降入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	134
専門入門科目100番台	<b>【A4048】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	135
専門入門科目100番台	<b>【A4049】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	136
専門入門科目100番台	<b>【A4072】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	137
専門入門科目100番台	<b>【A4073】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	138
専門入門科目100番台	<b>【A4078】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 春学期授業/Spring	139
専門入門科目100番台	<b>【A4079】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 秋学期授業/Fall	140
専門入門科目100番台	<b>【A4084】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 春学期授業/Spring	141
専門入門科目100番台	<b>【A4085】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 秋学期授業/Fall	142
専門入門科目100番台	<b>【A4088】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 春学期授業/Spring	143
専門入門科目100番台	<b>【A4089】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 秋学期授業/Fall	144
専門入門科目100番台	<b>【A4090】</b>	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 春学期授業/Spring	146
専門入門科目100番台	<b>【A4091】</b>	情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者) [田中 元一郎] 秋学期授業/Fall	147
専門入門科目100番台	<b>【A4096】</b>	情報学入門Ⅰ (データベース) (2019年度以降入学者) [木村 昌史] 春学期授業/Spring	148
専門入門科目100番台	<b>【A4097】</b>	情報学入門Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者) [木村 昌史] 秋学期授業/Fall	149
専門入門科目100番台	<b>【A4100】</b>	情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019年度以降入学者) [森本 洋一] 春学期授業/Spring	150
専門入門科目100番台	<b>【A4101】</b>	情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019年度以降入学者) [森本 洋一] 秋学期授業/Fall	152
	<b>【A4110】</b>	情報科学実習Ⅰ (aコース) (2018年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	153
	<b>【A4111】</b>	情報科学実習Ⅱ (aコース) (2018年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	154
	<b>【A4112】</b>	情報科学実習Ⅰ (aコース) (2018年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	155
	<b>【A4113】</b>	情報科学実習Ⅱ (aコース) (2018年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	156
	<b>【A4118】</b>	情報科学実習Ⅰ (bコース) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	157
	<b>【A4119】</b>	情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	158
	<b>【A4180】</b>	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	159
	<b>【A4181】</b>	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	160
	<b>【A4182】</b>	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	161
	<b>【A4183】</b>	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	162
	<b>【A4188】</b>	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	163
	<b>【A4189】</b>	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	164
専門入門科目200番台	<b>【A4303】</b>	会計学入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	165
専門入門科目200番台	<b>【A4304】</b>	会計学入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	166
専門入門科目200番台	<b>【A4305】</b>	会計学入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	167
専門入門科目200番台	<b>【A4306】</b>	会計学入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	168
	<b>【A4325】</b>	マーケティング論Ⅰ [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring	169
	<b>【A4326】</b>	マーケティング論Ⅱ [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall	171
	<b>【A4329】</b>	金融論Ⅰ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring	173
	<b>【A4330】</b>	金融論Ⅱ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall	174
経営学科専門科目200番台	<b>【A4357】</b>	検定会計Ⅰ (2019年度以降入学者) [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	175
経営学科専門科目200番台	<b>【A4358】</b>	検定会計Ⅱ (2019年度以降入学者) [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	176
経営学科専門科目200番台	<b>【A4361】</b>	キャリア・マネジメントⅠ (2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 春学期授業/Spring	177
経営学科専門科目200番台	<b>【A4362】</b>	キャリア・マネジメントⅡ (2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	178
経営学科専門科目300番台	<b>【A4393】</b>	組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	179
	<b>【A4394】</b>	組織経済学Ⅰ (2018年度以前入学者) [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	180
経営戦略学科専門科目200番台	<b>【A4405】</b>	国際経営論Ⅰ [洞口 治夫] 春学期授業/Spring	181
経営戦略学科専門科目200番台	<b>【A4406】</b>	国際経営論Ⅱ [洞口 治夫] 秋学期授業/Fall	183
経営戦略学科専門科目200番台	<b>【A4411】</b>	日本経済論Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	185
経営戦略学科専門科目200番台	<b>【A4412】</b>	日本経済論Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	186
	<b>【A4417】</b>	オペレーションズ・マネジメント [吉村 喜子] 春学期授業/Spring	187

【A4418】 オペレーションズ・マネジメント [吉村 喜予子] 秋学期授業/Fall .....	189
経営戦略学科専門科目300番台 【A4431】 システム管理論Ⅰ [児玉 靖司] 春学期授業/Spring .....	190
経営戦略学科専門科目300番台 【A4432】 システム管理論Ⅱ [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall .....	191
市場経営学科専門科目200番台 【A4451】 マーケティング・マネジメント論Ⅰ [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring..	192
市場経営学科専門科目200番台 【A4452】 マーケティング・マネジメント論Ⅱ [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall .....	194
市場経営学科専門科目200番台 【A4455】 金融論Ⅰ (2019年度以降入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring .....	196
市場経営学科専門科目200番台 【A4456】 金融論Ⅱ (2019年度以降入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall .....	197
市場経営学科専門科目200番台 【A4457】 マーケティング・リサーチ論Ⅰ (2019年度以降入学者) [西川 英彦] 春学 期授業/Spring .....	198
市場経営学科専門科目200番台 【A4458】 マーケティング・リサーチ論Ⅱ (2019年度以降入学者) [西川 英彦] 秋学 期授業/Fall .....	200
市場経営学科専門科目200番台 【A4467】 製品開発論Ⅰ [田路 則子] 春学期授業/Spring .....	202
市場経営学科専門科目200番台 【A4468】 製品開発論Ⅱ [田路 則子] 秋学期授業/Fall .....	203
市場経営学科専門科目200番台 【A4471】 デリバティブ入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	204
市場経営学科専門科目200番台 【A4472】 デリバティブ入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	205
市場経営学科専門科目200番台 【A4473】 投資入門 (2019年度以降入学者) [岸本 直樹] 春学期授業/Spring .....	206
市場経営学科専門科目200番台 【A4474】 ポートフォリオ理論入門 (2019年度以降入学者) [岸本 直樹] 秋学期授 業/Fall .....	207
市場経営学科専門科目300番台 【A4481】 経営のための経済学 [宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring .....	208
【A4483】 マーケティング・リサーチⅠ (2018年度以前入学者) [西川 英彦] 春学期授業/Spring .....	209
【A4484】 マーケティング・リサーチⅡ (2018年度以前入学者) [西川 英彦] 秋学期授業/Fall .....	211
【A4487】 ファイナンス論Ⅰ (2018年度以前入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring .....	213
【A4488】 ファイナンス論Ⅱ (2018年度以前入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall .....	214
【A4489】 証券経済論Ⅰ (2018年度以前入学者) [岸本 直樹] 春学期授業/Spring .....	215
【A4490】 証券経済論Ⅱ (2018年度以前入学者) [岸本 直樹] 秋学期授業/Fall .....	216
市場経営学科専門科目300番台 【A4495】 Excelで学ぶファイナンス理論Ⅱ [山崎 輝] 秋学期授業/Fall .....	217
市場経営学科専門科目300番台 【A4496】 広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall .....	218
グローバル・ビジネス/GBP科目 【A4501】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [吉村 喜予子] 春学期授業/Spring	219
【A4506】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [依田 光広] 春学期授業/Spring .....	221
【A4507】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [依田 光広] 秋学期授業/Fall .....	223
【A4508】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	225
【A4509】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [秋友 一広] 秋学期授業/Fall .....	227
【A4510】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall .....	229
【A4516】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall .....	230
【A4522】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	231
【A4523】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	233
【A4529】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall .....	235
【A4537】 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring .....	236
【A4541】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [吉村 喜予子] 春学期授業/Spring .....	238
【A4546】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [依田 光広] 春学期授業/Spring .....	240
【A4547】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [依田 光広] 春学期授業/Spring .....	242
【A4548】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [秋友 一広] 秋学期授業/Fall .....	244
【A4549】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	246
【A4550】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall .....	248
【A4556】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall .....	249
【A4562】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	250
【A4563】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring .....	252
【A4569】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall .....	254
【A4570】 入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring .....	255
【A4585】 検定会計Ⅰ (2018年度以前入学者) [近藤 大輔] 春学期授業/Spring .....	257
【A4586】 検定会計Ⅱ (2018年度以前入学者) [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall .....	258
【A4587】 キャリア・マネジメントⅠ (2018年度以前入学者) [小川 憲彦] 春学期授業/Spring .....	259
【A4588】 キャリア・マネジメントⅡ (2018年度以前入学者) [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall .....	260
演習 【A4693】 演習1 [小川 憲彦] 春学期授業/Spring .....	261
演習 【A4694】 演習2 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall .....	263
演習 【A4695】 演習3 [小川 憲彦] 春学期授業/Spring .....	265
演習 【A4696】 演習4 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall .....	267

演習 【A4697】	演習5	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	269
演習 【A4698】	演習6	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	271
演習 【A4699】	演習1	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	273
演習 【A4700】	演習2	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	274
演習 【A4701】	演習3	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	275
演習 【A4702】	演習4	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	276
演習 【A4703】	演習5	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	277
演習 【A4704】	演習6	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	278
演習 【A4735】	演習1	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	279
演習 【A4736】	演習2	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	281
演習 【A4737】	演習3	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	283
演習 【A4738】	演習4	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	285
演習 【A4739】	演習5	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	287
演習 【A4740】	演習6	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	289
演習 【A4867】	演習1	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	291
演習 【A4868】	演習2	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	292
演習 【A4869】	演習3	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	293
演習 【A4870】	演習4	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	294
演習 【A4871】	演習5	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	295
演習 【A4872】	演習6	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	296
演習 【A4897】	演習1	[平田 英明]	春学期授業/Spring	297
演習 【A4898】	演習2	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	298
演習 【A4899】	演習3	[平田 英明]	春学期授業/Spring	299
演習 【A4900】	演習4	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	300
演習 【A4901】	演習5	[平田 英明]	春学期授業/Spring	301
演習 【A4902】	演習6	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	302
演習 【A4921】	演習1	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	303
演習 【A4922】	演習2	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	305
演習 【A4923】	演習3	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	307
演習 【A4924】	演習4	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	309
演習 【A4925】	演習5	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	311
演習 【A4926】	演習6	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	313
演習 【A4933】	演習1	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	315
演習 【A4934】	演習2	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	316
演習 【A4935】	演習3	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	317
演習 【A4936】	演習4	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	318
演習 【A4937】	演習5	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	319
演習 【A4938】	演習6	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	320
演習 【A4957】	演習1	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	321
演習 【A4958】	演習2	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	322
演習 【A4959】	演習3	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	323
演習 【A4960】	演習4	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	324
演習 【A4961】	演習5	[吉田 康伸]	春学期授業/Spring	325
演習 【A4962】	演習6	[吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	326
情報関係科目 【A5205】	プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	327
情報関係科目 【A5206】	プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	328
情報関係科目 【A5207】	プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	329
情報関係科目 【A5208】	プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	330
【A5221】	プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	331
【A5222】	プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	332
【A5223】	プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	333
【A5224】	プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	334
【A5233】	プログラミング言語Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	335
【A5234】	プログラミング言語Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	336
【A5235】	プログラミング言語Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	337
【A5236】	プログラミング言語Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	338
情報関係科目 【A5260】	情報学応用Ⅰ (データベース) (2019年度以降入学者)	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	339

情報関係科目	<b>【A5261】</b>	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	340
情報関係科目	<b>【A5262】</b>	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	341
情報関係科目	<b>【A5263】</b>	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	342
情報関係科目	<b>【A5268】</b>	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	343
情報関係科目	<b>【A5269】</b>	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	344
情報関係科目	<b>【A5270】</b>	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	345
情報関係科目	<b>【A5271】</b>	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	346
情報関係科目	<b>【A5272】</b>	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	347
情報関係科目	<b>【A5273】</b>	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	348
情報関係科目	<b>【A5274】</b>	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	349
情報関係科目	<b>【A5275】</b>	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	350
情報関係科目	<b>【A5276】</b>	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	351
情報関係科目	<b>【A5277】</b>	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	352
情報関係科目	<b>【A5278】</b>	情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	353
情報関係科目	<b>【A5279】</b>	情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	354
	<b>【A5290】</b>	データ処理論Ⅰ（CG）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	355
	<b>【A5291】</b>	データ処理論Ⅱ（CG）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	356
	<b>【A5292】</b>	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	357
	<b>【A5293】</b>	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	358
	<b>【A5294】</b>	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	359
	<b>【A5295】</b>	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	360
	<b>【A5296】</b>	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	361
	<b>【A5297】</b>	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション・コース）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	362
	<b>【A5298】</b>	データ処理論Ⅰ（空間情報システム・コース）（2018年度入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	363
	<b>【A5299】</b>	データ処理論Ⅱ（空間情報システム・コース）（2018年度入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	364
	<b>【A5310】</b>	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	365
	<b>【A5311】</b>	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	366
	<b>【A5312】</b>	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	367
	<b>【A5313】</b>	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	368
	<b>【A5314】</b>	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	369
	<b>【A5315】</b>	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	370
	<b>【A5316】</b>	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	371
	<b>【A5317】</b>	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	372
	<b>【A5318】</b>	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	373
	<b>【A5319】</b>	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	374
情報関係科目	<b>【A5332】</b>	情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	375
情報関係科目	<b>【A5333】</b>	情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	376
情報関係科目	<b>【A5334】</b>	情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	377
情報関係科目	<b>【A5335】</b>	情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	378
情報関係科目	<b>【A5338】</b>	情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	379
情報関係科目	<b>【A5339】</b>	情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	380
	<b>【A5344】</b>	ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	381
	<b>【A5345】</b>	ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	382
	<b>【A5346】</b>	ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	383
	<b>【A5347】</b>	ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	384
	<b>【A5350】</b>	ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	385
	<b>【A5351】</b>	ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	386
	<b>【A5356】</b>	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	387
	<b>【A5357】</b>	ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	388
	<b>【A5358】</b>	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	389
	<b>【A5359】</b>	ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	390
	<b>【A5362】</b>	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	391
	<b>【A5363】</b>	ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	392
連環科目	<b>【A5381】</b>	民法 [松田 佳久]		年間授業/Yearly	393
特殊講義	<b>【A5401】</b>	広告論 [宮井 弘之]		秋学期授業/Fall	395
特殊講義	<b>【A5411】</b>	寄附講座・日本の物流と企業経営 [李 瑞雪]		秋学期授業/Fall	396

専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration [A5504] Introduction to Finance [Naoki KISHIMOTO] 秋学期授業/Fall .....	397
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration [A5506] Introduction to Operations Management [Kiyoko YOSHIMURA] 春学期授業/Spring .....	398
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration [A5507] Introduction to Japanese Economy [Hideaki HIRATA] 春学期授業/Spring ...	399
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration [A5509] Introduction to Informatics [Yasushi KODAMA] 秋学期授業/Fall .....	401
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5512] Organizational Management II [Akira KAMOSHIDA] 春学期授業/Spring ...	402
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5515] Human Resource Management I [Yoshio OKUNISHI] 秋学期授業/Fall .....	403
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5533] Operations Management I [Kiyoko YOSHIMURA] 秋学期授業/Fall .....	404
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5534] Operations Management II [Kiyoko YOSHIMURA] 春学期授業/Spring .....	405
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5535] Principles of Macroeconomics [Mitsuru Katagiri] 春学期授業/Spring .....	406
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration [A5537] Japanese Innovation Management [Noriko TAJI] 秋学期授業/Fall .....	407
専門教育科目／ Business Administration Courses_特殊講義／ Special Topics in Management [A5540] Special Topics in Management B [Akira KAMOSHIDA] 春学期授業/Spring .....	408
Advanced Courses／専門科目_Elective Courses／自由科目_Faculty of Business Administration／経営学部開講科目 [A5542] Workshop I [Akira KAMOSHIDA] 秋学期授業/Fall .....	409
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5542] Workshop I [Akira KAMOSHIDA] 秋学期授業/Fall .....	410
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5543] Workshop II [Azusa Ebisuya] 春学期授業/Spring .....	411
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5546] Special Topics in Global Business C [Kazuhiro AKITOMO] 秋学期授業/Fall .....	412
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5548] Internship [Akira KAMOSHIDA] 秋学期授業/Fall .....	414
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5552] Seminar [Kiyoko YOSHIMURA] 秋学期授業/Fall .....	415
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5553] Seminar [Kiyoko YOSHIMURA] 春学期授業/Spring .....	416
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5554] Seminar [Akira KAMOSHIDA] 秋学期授業/Fall .....	417
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP科目／ Global Business Courses [A5555] Seminar [Akira KAMOSHIDA] 春学期授業/Spring .....	418
[A6065] Leadership and Career Development [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring .....	419
[A6177] Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 春学期授業/Spring .....	420
[A6178] Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 秋学期授業/Fall .....	421
[A6231] Brand Management [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring .....	422
[A6232] Business Negotiation [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall .....	423
[A6264] Event Management [John Melvin] 秋学期授業/Fall .....	424
[A6265] Tourism Development in Japan [John Melvin] 春学期授業/Spring .....	425
[A6337] Services Marketing [John Melvin] 春学期授業/Spring .....	426
[A6352] Cultural Tourism [John Melvin] 秋学期授業/Fall .....	427
[A6421] Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring .....	428
[A6422] Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring .....	429
[A6423] Seminar: Tourism Management II [John Melvin] 秋学期授業/Fall .....	430
[A6424] Seminar: Tourism Management II [John Melvin] 秋学期授業/Fall .....	431
[A6429] Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring .....	432
[A6430] Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring .....	433
[A6431] Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall .....	434

【A6432】 Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall .....	435
【A8000】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Matt McCabe] 春学期授業/Spring .....	436
【A8001】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Matt McCabe] 春学期授業/Spring .....	437
【A8002】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring .....	438
【A8003】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring ..	439
【A8004】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring	440
【A8005】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	441
【A8006】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Stephen O' Leary] 春学期授業/Spring .....	442
【A8007】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring .....	443
【A8008】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Thomas Rapsey] 春学期授業/Spring .....	444
【A8009】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring	445
【A8010】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring .....	446
【A8011】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring .....	447
【A8012】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Stephen O' Leary] 春学期授業/Spring .....	448
【A8013】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring .....	449
【A8014】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring .....	450
【A8015】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring	451
【A8016】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Matt McCabe] 春学期授業/Spring .....	452
【A8017】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Stephen O' Leary] 春学期授業/Spring..	453
【A8018】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Joe Trujillo] 春学期授業/Spring .....	454
【A8019】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring....	455
【A8020】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring .....	456
【A8050】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Joe Trujillo] 秋学期授業/Fall	457
【A8051】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall.....	458
【A8052】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II [Matt McCabe] 秋学期授業/Fall ....	459
【A8053】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall ....	461
【A8054】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Matt McCabe] 秋学期授業/Fall .....	462
【A8055】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall .....	463
【A8056】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall	464
【A8057】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall .....	465
【A8058】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Andrew Finegan] 秋学期授業/Fall .....	466
【A8059】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall	467
【A8060】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall .....	468
【A8061】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II [Thomas Rapsey] 秋学期授業/Fall.....	469
【A8062】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall	470
【A8063】 ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall...	471
【A8080】 ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1 [ERP担当教員] スプリングセッション/Spring Session ..	472
【A8081】 ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2 [ERP担当教員] スプリングセッション/Spring Session ..	473
【A8100】 ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring	474
【A8102】 ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring	475

[A8103] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Matt Fuller] 春学期授業/Spring.....	476
[A8104] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Jason Burnett] 春学期授業/Spring.....	477
[A8106] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Andrew Finegan] 春学期授業/Spring.....	478
[A8107] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Matt McCabe] 春学期授業/Spring.....	479
[A8108] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring.....	480
[A8109] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring.....	481
[A8110] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Matt McCabe] 春学期授業/Spring.....	482
[A8111] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Joe Trujillo] 春学期授業/Spring.....	483
[A8112] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring.....	484
[A8113] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Matt Fuller] 春学期授業/Spring.....	485
[A8114] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Jason Burnett] 春学期授業/Spring.....	486
[A8115] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring.....	487
[A8116] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I [Takao Kasumi] 春学期授業/Spring.....	488
[A8117] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I [Sandor Dome] 春学期授業/Spring.....	489
[A8150] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Matt Fuller] 秋学期授業/Fall.....	490
[A8151] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Jason Burnett] 秋学期授業/Fall.....	491
[A8152] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall.....	492
[A8154] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall.....	493
[A8155] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall.....	494
[A8156] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Matt Fuller] 秋学期授業/Fall.....	495
[A8157] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Andrew Finegan] 秋学期授業/Fall.....	497
[A8158] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Matt McCabe] 秋学期授業/Fall.....	498
[A8159] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Jason Burnett] 秋学期授業/Fall.....	499
[A8160] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall.....	500
[A8161] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II [Sandor Dome] 秋学期授業/Fall.....	501
[A8162] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Takao Kasumi] 秋学期授業/Fall.....	502
[A8200] ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring.....	503
[A8201] ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I [Stephen O' Leary] 春学期授業/Spring.....	504
[A8202] ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Ron Reid] 春学期授業/Spring.....	505
[A8203] ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Stephen O' Leary] 春学期授業/Spring.....	506
[A8204] ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Ron Reid] 春学期授業/Spring.....	507
[A8206] ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I [Steven Braunbach] 春学期授業/Spring.....	508
[A8250] ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall.....	509
[A8251] ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II [Stephen O' Leary] 秋学期授業/Fall.....	510
[A8252] ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Ron Reid] 秋学期授業/Fall.....	511
[A8253] ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Stephen O' Leary] 秋学期授業/Fall.....	512
[A8254] ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Ron Reid] 秋学期授業/Fall.....	513
[A8256] ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II [Steven Braunbach] 秋学期授業/Fall.....	514
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall.....	515
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall.....	516
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall.....	517
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall.....	518
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall.....	520

建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring .....	521
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring .	522
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	523
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	524
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall .....	526
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	528
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring .....	530
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring .....	532
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring .....	534
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1150】 数学1 [浜田 英明] 春学期授業/Spring .....	536
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1264】 工業力学及演習 X [網谷 岳夫] 秋学期授業/Fall	537
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1265】 工業力学及演習 Y [内田 大介] 秋学期授業/Fall	538
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1266】 図学及演習 [山田 裕貴、福井 恒明、金城 正 紀、今井 裕久] 秋学期授業/Fall .....	539
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1268】 ジオロジカルエンジニアリング [中谷 匡志] 秋 学期授業/Fall .....	540
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1300】 技術者倫理 [北原 義典] 春学期授業/Spring	542
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2007】 色彩論 [大高 知子] 秋学期授業/Fall .....	544
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B2009】 哲学 [大西 悟、横山 奈那] 秋学期授業/Fall	546
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B2009】 哲学 [大西 悟、横山 奈那] 秋学期授業/Fall .....	548
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 【B2009】 哲学 [大西 悟、横山 奈那] 秋学期授業/Fall ..	550
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half) ....	551
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half) .	552
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2051】 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half) .....	553
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half) .	554
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	555
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half) .....	556
建築学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、 伊藤 登、大西 景太] 秋学期授業/Fall .....	557
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公 雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太] 秋学期授業/Fall .....	558
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 [竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太] 秋学期授業/Fall .....	559
建築学科_専門科目_導入科目 【B2150】 デザインスタジオ2 (建築) W [小堀 哲夫] 秋学期授業/Fall .....	560
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	562
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	563
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	564
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	565
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	566
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	567
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	568
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	569
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善 晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	570
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2232】 国土・地域概論 [高見 公雄、堀川 洋子] 秋学期授業/Fall	571
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2234】 都市計画法と政策 [福井 恒明] 秋学期前半/Fall(1st half)	572
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2237】 地盤力学及演習 X [酒井 久和] 春学期授業/Spring .....	573
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2238】 地盤力学及演習 Y [澤田 俊一] 春学期授業/Spring .....	574
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2240】 工業英語 X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall .....	575

建築学科_専門科目_導入科目 【B2250】 デザインスタジオ2 (建築) X [小池 ひろの] 秋学期授業/Fall .....	577
システムデザイン学科_専門科目_導入科目 【B2344】 デザインスタジオ2 (SD) [相川 真実、山田 泰之、飯村 武志、西岡 靖之、安積 伸] 秋学期授業/Fall .....	579
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2345】 デザイン理論 (SD) [秋元 淳] 秋学期授業/Fall .....	581
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2346】 図形科学基礎演習X [梶本 博司、石橋 忠人] 秋 学期授業/Fall .....	583
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2347】 図形科学基礎演習Y [梶本 博司、石橋 忠人] 秋 学期授業/Fall .....	584
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2356】 クリエーション基礎論 [土屋 雅人、大西 景太] 秋学期授業/Fall	585
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2357】 プレゼンテーション技術X [豊島 純子] 秋学期授業/Fall...	586
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2358】 プレゼンテーション技術Y [豊島 純子] 秋学期授業/Fall...	588
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2402】 材料の力学 [浜田 英明] 春学期授業/Spring .....	590
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2405】 骨組の力学 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall .....	591
General Education Courses/総合教育科目_Global Open Program/グローバルオープン科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall .....	592
建築学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall.....	594
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授 業/Fall .....	596
システムデザイン学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	598
建築学科_専門科目_導入科目 【B2450】 デザインスタジオ2 (建築) Y [山道 拓人] 秋学期授業/Fall.....	600
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2531】 交通計画 [今井 龍一] 春学期前半/Spring(1st half) .....	602
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2533】 建築設計基礎 [瀬戸 健似、今井 裕久] 秋学期授業/Fall.	603
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2538】 鋼構造デザイン実習 [鈴木 泰之、山下 修平] 春学期授 業/Spring .....	604
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2545】 工学実験2 [鈴木 善晴、酒井 久和、鈴木 弘明、池田 勇司、道奥 康治、北條 幸雄] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	606
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2549】 メンテナンス工学 [溝淵 利明、白井 則生] 春学期前半/Spring(1st half).....	607
建築学科_専門科目_導入科目 【B2550】 デザインスタジオ2 (建築) Z [塩田 能也] 秋学期授業/Fall .....	608
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [安積 伸] 春学期授業/Spring.....	610
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2715】 プロダクトデザイン1 (2019~2022年度入学生用) [安 積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring.....	611
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2716】 プロダクトデザイン2 (2019~2022年度入学生用) [安 積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring.....	612
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2717】 プロダクトデザイン3 (2019~2022年度入学生用) [梶 本 博司、宮沢 哲、谷口 武司、安積 伸] 秋学期授業/Fall .....	613
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2718】 プロダクトデザイン4 (2019~2022年度入学生用) [梶 本 博司、安積 伸、宮沢 哲、谷口 武司] 秋学期授業/Fall .....	614
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2719】 3DCADデザインX 秋学期授業/Fall .....	615
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2720】 3DCADデザインY 秋学期授業/Fall .....	616
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2721】 デザインシンキング [吉見 奈々、金田 遼平] 秋学期前半/Fall(1st half).....	617
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2728】 インクルーシブデザイン (2019~2022年度入学生) [安 積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	618
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2729】 デザイン・バックキャスト [松山 祥樹] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	619
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2730】 サービスUXデザイン [平田 昌大] 春学期後半/Spring(2nd half).....	621
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2733】 映像制作演習 [北村 拓司] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	623
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	625
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring ..	627
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring.....	629
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡 邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall .....	631
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3014】 テクニカルライティング X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall	633
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語 【B3014】 テクニカルライティング X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall ..	635
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3014】 テクニカルライティング X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall ..	637

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3015】テクニカルライティング Y [浅川 英理子] 秋学期授業/Fall	639
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3015】テクニカルライティング Y [浅川 英理子] 秋学期授業/Fall	641
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3015】テクニカルライティング Y [浅川 英理子] 秋学期授業/Fall	643
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	645
建築学科_基礎科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	646
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	647
建築学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	648
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	649
建築学科_専門科目_基礎科目【B3402】デザインスタジオ 4 [下吹越 武人、榮家 志保、岩佐 明彦、福留 愛、池田 賢、青木 弘司] 秋学期授業/Fall	650
建築学科_専門科目_展開科目【B3403】デザインスタジオ 5 [下吹越 武人、山道 拓人、山田 紗子、御手洗 龍] 春学期授業/Spring	651
建築学科_専門科目_展開科目【B3404】デザインスタジオ 6 [赤松 佳珠子、渡邊 健介、仲 俊治、平井 政俊] 秋学期授業/Fall	653
建築学科_専門科目_基礎科目【B3413】建築材料 [網野 禎昭] 春学期前半/Spring(1st half)	655
建築学科_専門科目_展開科目【B3416】施工管理 [三上 孝明] 春学期授業/Spring	656
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】木造建築の構法 [網野 禎昭] 秋学期前半/Fall(1st half)	659
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】空間の構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring	660
建築学科_専門科目_展開科目【B3428】鉄筋コンクリートのデザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring	661
建築学科_専門科目_展開科目【B3446】構造計算プログラミング [浜田 英明] 秋学期前半/Fall(1st half)	662
建築学科_専門科目_基礎科目【B3535】設備入門 [石川 裕司] 春学期授業/Spring	663
建築学科_専門科目_展開科目【B3538】建築デザイン論 1 [下吹越 武人、今村 創平] 春学期授業/Spring	665
建築学科_専門科目_展開科目【B3539】建築デザイン論 2 [赤松 佳珠子、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	666
建築学科_専門科目_基礎科目【B3541】構法スタジオ 1 [永野 尚吾、溝部 公寛、飯塚 豊、鍋野 友哉、鈴木 理考、河野 泰治] 春学期前半/Spring(1st half)	667
建築学科_専門科目_基礎科目【B3542】構法スタジオ 2 [永野 尚吾、溝部 公寛、飯塚 豊、鍋野 友哉、鈴木 理考、河野 泰治] 秋学期前半/Fall(1st half)	668
建築学科_専門科目_展開科目【B3544】ビルディングワークショップ [浜田 英明] 年間授業/Yearly	669
建築学科_専門科目_展開科目【B3545】ビルディングワークショップ [宮田 雄二郎] 年間授業/Yearly	670
建築学科_専門科目_展開科目【B3546】ビルディングワークショップ [中山 翔太] 年間授業/Yearly	671
建築学科_専門科目_展開科目【B3548】エンジニアリングスタジオ X [浜田 英明、富岡 庸平] 春学期授業/Spring	672
建築学科_専門科目_展開科目【B3549】エンジニアリングスタジオ Y [中野 淳太] 春学期授業/Spring	673
建築学科_専門科目_展開科目【B3550】エンジニアリングスタジオ Z [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	674
建築学科_専門科目_展開科目【B3567】卒業制作 2 [宮田 雄二郎] 秋学期授業/Fall	675
建築学科_専門科目_展開科目【B3568】卒業制作 2 [山道 拓人] 秋学期授業/Fall	676
建築学科_専門科目_展開科目【B3569】卒業制作 2 [安藤 直見] 秋学期授業/Fall	677
建築学科_専門科目_展開科目【B3570】卒業制作 2 [下吹越 武人] 秋学期授業/Fall	678
建築学科_専門科目_展開科目【B3571】卒業制作 2 [網野 禎昭] 秋学期授業/Fall	679
建築学科_専門科目_展開科目【B3572】卒業制作 2 [赤松 佳珠子] 秋学期授業/Fall	680
建築学科_専門科目_展開科目【B3573】卒業制作 2 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall	681
建築学科_専門科目_展開科目【B3575】卒業制作 2 [高村 雅彦] 秋学期授業/Fall	682
建築学科_専門科目_展開科目【B3576】卒業制作 2 [岩佐 明彦] 秋学期授業/Fall	683
建築学科_専門科目_展開科目【B3577】卒業制作 2 [小堀 哲夫] 秋学期授業/Fall	684
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3589】デザイン思考基礎演習 (2023年度以降入学生) [安積 伸、三浦 秀彦、相川 真実、石橋 忠人] 春学期後半/Spring(2nd half)	685
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野【B3591】図学設計基礎演習 X (2023年度以降入学生) [梶本 博司、石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	686
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野【B3592】図学設計基礎演習 Y (2023年度以降入学生) [梶本 博司、石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	687
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3595】プロダクトデザイン演習 (2023年度以降入学生) [安積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring	688
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3596】インダストリアルデザイン実習 (2023年度以降入学生) [梶本 博司、宮沢 哲、谷口 武司、安積 伸] 秋学期授業/Fall	690
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3597】メディアデザイン演習 (2023年度以降入学生) [大西 景太] 秋学期授業/Fall	691

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3601】 測量実習X [今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)...	692
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3602】 測量実習Y [大山 容一、渡辺 一博] 春学期後半/Spring(2nd half).....	693
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3611】 都市調査解析 [今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half).	694
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3617】 構造力学2 [小笠原 照夫] 秋学期前半/Fall(1st half).....	695
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	696
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	697
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	698
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	699
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	700
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	701
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	702
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	703
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall .....	704
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3637】 インターンシップ(都市) [山本 佳士、内田 大介] 秋学期 授業/Fall .....	705
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3645】 上下水道システム [島田 裕康] 秋学期前半/Fall(1st half)	706
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3660】 建築法規(都市) [飯田 直彦] 春学期前半/Spring(1st half)	707
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3662】 海洋環境工学 [東 博紀、越川 海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	709
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3670】 卒業研究1(都市) [溝渕 利明] 春学期授業/Spring.....	710
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3671】 卒業研究1(都市) [今井 龍一] 春学期授業/Spring.....	711
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3672】 卒業研究1(都市) [内田 大介] 春学期授業/Spring.....	712
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3674】 卒業研究1(都市) [高見 公雄] 春学期授業/Spring.....	713
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3676】 卒業研究1(都市) [福島 秀哉、荻原 知子] 春学期授業/Spring	714
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3677】 卒業研究1(都市) [山本 佳士] 春学期授業/Spring.....	715
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3678】 卒業研究1(都市) [酒井 久和] 春学期授業/Spring.....	716
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3679】 卒業研究1(都市) [道奥 康治] 春学期授業/Spring.....	717
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3680】 卒業研究2(都市) [溝渕 利明] 秋学期授業/Fall .....	718
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3681】 卒業研究2(都市) [今井 龍一] 秋学期授業/Fall .....	720
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3682】 卒業研究2(都市) [内田 大介] 秋学期授業/Fall .....	721
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3684】 卒業研究2(都市) [高見 公雄] 秋学期授業/Fall .....	722
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3686】 卒業研究2(都市) [福井 恒明、荻原 知子] 秋学期授業/Fall	723
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3687】 卒業研究2(都市) [山本 佳士] 秋学期授業/Fall .....	725
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3688】 卒業研究2(都市) [酒井 久和] 秋学期授業/Fall .....	726
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3689】 卒業研究2(都市) [道奥 康治] 秋学期授業/Fall .....	727
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	729
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	731
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	733
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	735
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	737
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目	【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒 井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	739

都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	741
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	743
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3700】 基礎ゼミナール [溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	745
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3704】 鋼構造学及演習 X [内田 大介] 秋学期授業/Fall.....	747
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3705】 鋼構造学及演習 Y [平山 繁幸] 秋学期授業/Fall.....	748
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3709】 デザインスタジオ [高見 公雄、袴田 喜夫、金城 正紀、佐多 祐一、福井 恒明] 春学期授業/Spring .....	749
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3711】 プロジェクトスタジオ (都市) [高見 公雄、袴田 喜夫、椿 真吾、福井 恒明] 秋学期授業/Fall.....	750
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3713】 景観とデザイン [福井 恒明] 春学期後半/Spring(2nd half)	751
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3714】 ジオテクニカルデザイン [酒井 久和] 春学期授業/Spring	752
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3715】 環境マネジメント [弘末 文紀] 秋学期前半/Fall(1st half)	753
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3718】 風土と建築 (都市) [高見 公雄、金城 正紀、桂 有生] 秋学期授業/Fall.....	755
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3718】 風土と建築 (都市) [高見 公雄、金城 正紀、桂 有生] 秋学期授業/Fall .....	756
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3809】 メカトロニクス [伊藤 文臣] 秋学期前半/Fall(1st half).....	757
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3812】 システム工学 [森 健一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) ...	759
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3816】 素材と機能 [堀井 辰衛] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	761
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall .....	763
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall .....	764
建築学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall.....	765
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3831】 プロジェクトマネジメント (SD) [村上 季史、永田 義昭] 春学期授業/Spring .....	766
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3832】 ブランディングデザイン (2023年度以降入学生) [金田 遼平、吉見 奈々] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	768
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3837】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	769
【B3837】 マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) 都市 [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half) ..	770
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3837】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	771
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3837】 マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) SD [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	772
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3837】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	773
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3837】 マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) 建築 [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half).....	774
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野 【B3847】 数理統計学 (2023年度以降入学生) [牧野 倫子] 春学期授業/Spring .....	775
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B3848】 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall .....	776
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B3848】 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall.....	777
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B3848】 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久] 秋学期授業/Fall.....	779
【C0200】 国際文化情報学の展開 [林 志津江] 春学期授業/Spring .....	780
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring .....	782
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring .....	783
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall .....	784
【C0410】 メディア情報基礎 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall.....	785
【C0411】 メディア情報基礎 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall.....	786
【C0412】 メディア情報基礎 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall .....	787
【C0413】 メディア情報基礎 [米倉 明男] 秋学期授業/Fall.....	788
【C0414】 メディア情報基礎 [菊池 司] 秋学期授業/Fall .....	789
【C0415】 メディア情報基礎 [菊池 司] 秋学期授業/Fall .....	790
【C0420】 ネットワーク基礎 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring .....	791
【C0421】 ネットワーク基礎 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring .....	793

【C0422】	ネットワーク基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	795	
【C0423】	ネットワーク基礎 [金 勇] 春学期授業/Spring	797	
【C0424】	ネットワーク基礎 [金 勇] 春学期授業/Spring	799	
【C0432】	メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	801	
【C0439】	メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	803	
【C0810】	道具のデザイン学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	805	
【C0821】	コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	806	
【C0860】	マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	808	
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	810	
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	811	
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	812	
【C1049】	途上国経済論 [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	813	
【C1060】	インターンシップ事前学習 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	815	
【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	817	
【C2105】	ビジネスストーリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	819	
【C2116】	CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	821	
【C2117】	CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	823	
【C2120】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	825	
【C2121】	途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	827	
【C2122】	国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	829	
【C2123】	国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	831	
【C2208】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	833	
【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	835	
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	836	
【C2240】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	839	
【C2243】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	841	
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	843	
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	844	
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	845	
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	846	
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	847	
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	848	
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	849	
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	850	
【C3015】	研究会A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	851	
【C3024】	研究会A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	853	
【C3035】	研究会A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	855	
【C3043】	研究会B [武貞 稔彦、竹本 研史] 年間授業/Yearly	857	
【C3049】	研究会B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	859	
【C3052】	研究会A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	861	
【C3095】	研究会B [高田 雅之] 年間授業/Yearly	863	
Advanced Courses／専門科目_Elective Courses／自由科目_Faculty of Sustainability Studies／人間環境学部開			
講科目【C3511】 Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society [武貞 稔彦]			
	春学期授業/Spring	865	
展開科目／Disciplinary & Elective Courses_日本社会とサステナビリティ／Japan & Sustainability【C3511】			
	Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	866	
Advanced Courses／専門科目_Elective Courses／自由科目_Faculty of Sustainability Studies／人間環境学部開			
講科目【C3607】 Environmental Science [藤倉 良] 秋学期授業/Fall			868
展開科目／Disciplinary & Elective Courses_環境総合科目／Environment & Society【C3607】 Environmental			
	Science [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	869	
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7061】 ビジネスキャリア入門D [酒井 理] 秋学期授業/Fall			870
基幹科目_選択【C7086】 生活設計論Ⅱ(生活設計) [林 奈生子] 秋学期授業/Fall			872
展開科目_選択必修(体験型)【C7117】 キャリア体験事前指導(インターン) [松浦 民恵] 春学期授業/Spring			874
展開科目_選択必修(体験型)【C7118】 キャリア体験事前指導(プロジェクト) [山岡 義卓] 春学期授業/Spring			876
展開科目_選択必修(体験型)【C7123】 キャリア体験学習(プロジェクト) [山岡 義卓] 秋学期授業/Fall			878
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7156】 臨床教育相談論Ⅰ [土屋 弥生] 春学期授業/Spring			880
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7157】 臨床教育相談論Ⅱ [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall			881

展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7160】キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ)[宮脇 優子] 秋学期授業/Fall .....	883
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7163】教育相談[土屋 弥生] 秋学期授業/Fall .....	885
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7166】教育相談[土屋 弥生] 春学期授業/Spring .....	887
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7168】教育心理学[輕部 雄輝] 春学期授業/Spring .....	889
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7183】図書館情報学概論Ⅱ[竹之内 明子] 秋学期授業/Fall .....	890
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7186】図書館情報学概論Ⅱ[竹之内 明子] 春学期授業/Spring .....	892
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7251】キャリア研究調査実習D(仕事とビジネスの質的研究)[岸田 泰則] 秋学期授業/Fall .....	894
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7253】外書講読B(ビジネス)[杉原 弘恭] 春学期授業/Spring .....	895
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7274】シティズンシップ論[榎並 利博] 春学期授業/Spring .....	897
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7275】生産システム論[北原 成憲] 秋学期授業/Fall .....	899
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7278】産業論[青木 成樹] 春学期授業/Spring .....	901
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7282】流通・サービスビジネス論[村田 茂] 春学期授業/Spring .....	903
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7283】就業機会発見実務[今井 道子] 春学期授業/Spring .....	905
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7313】NPO論[山口 佳子] 秋学期授業/Fall .....	907
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7322】ミュージアム経営論[杉長 敬治] 秋学期授業/Fall .....	908
展開科目_総合【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2021年度以前入学者用】[島村 泰子] 春学期授業/Spring .....	910
展開科目_選択必修(体験型)【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2022年度以降入学者用】[島村 泰子] 春学期授業/Spring .....	912
展開科目_総合【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2021年度以前入学者用】[島村 泰子] 秋学期授業/Fall ..	914
展開科目_選択必修(体験型)【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2022年度以降入学者用】[島村 泰子] 秋学期授業/Fall .....	916
演習科目【C7477】演習(ビジネス)[松浦 民恵] 秋学期授業/Fall .....	918
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ[鈴木 美伸] 春学期授業/Spring .....	920
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ[鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall .....	922
関連科目【C7905】図書館サービス概論[栗原 智久] 秋学期授業/Fall .....	924
関連科目【C7948】現代生活・文化と社会教育Ⅰ[鈴木 悌遍] 春学期授業/Spring .....	925
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5023】機械製図[五嶋 裕之] 春学期授業/Spring .....	927
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5024】機械製図[吉田 一朗] 春学期授業/Spring .....	929
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5049】設計工学[吉田 一朗] 秋学期授業/Fall .....	931
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5065】宇宙工学[矢野 創] 秋学期授業/Fall .....	933
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5075】製品開発工学[吉田 一朗] 春学期授業/Spring .....	936
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5076】CAD/CAM/CAE[吉田 一朗、加藤 友規] 秋学期授業/Fall .....	938
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5091】環境工学[西井 啓典] 春学期授業/Spring .....	940
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5119】図形科学[吉田 一朗] 春学期授業/Spring .....	942
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5157】データサイエンス・計測工学[吉田 一朗] 春学期授業/Spring ..	944
電気電子工学科_学科専門科目【H5516】基礎電気電子材料工学[笠原 崇史] 春学期授業/Spring .....	946
電気電子工学科_学科専門科目【H5520】ロボット知能[伊藤 一之] 春学期授業/Spring .....	947
電気電子工学科_学科専門科目【H5530】知的制御[伊藤 一之] 秋学期授業/Fall .....	948
電気電子工学科_学科専門科目【H5541】電磁波情報工学[柴山 純] 春学期授業/Spring .....	949
電気電子工学科_学科専門科目【H5566】認知ロボティクス[伊藤 一之] 春学期授業/Spring .....	950
電気電子工学科_学科専門科目【H5580】電気機器設計[近藤 稔] 春学期授業/Spring .....	951
電気電子工学科_学科専門科目【H5606】分布定数回路論[柴山 純] 秋学期授業/Fall .....	953
電気電子工学科_学科専門科目【H5612】自然科学の方法(電気)[柴山 純] 春学期授業/Spring .....	954
電気電子工学科_学科専門科目【H5661】制御工学入門[伊藤 一之] 春学期授業/Spring .....	955
電気電子工学科_学科専門科目【H5687】半導体工学入門[笠原 崇史] 秋学期授業/Fall .....	956
応用情報工学科_学科専門科目【H6006】セキュリティ概論[菊池 亮、野岡 弘幸] 春学期授業/Spring .....	957
応用情報工学科_学科専門科目【H6007】基礎電気回路(情報)[品川 満] 秋学期授業/Fall .....	959
応用情報工学科_学科専門科目【H6009】組込システムの基礎[足立 正二] 春学期授業/Spring .....	960
応用情報工学科_学科専門科目【H6034】ネットワークプログラミング[下村 道夫] 秋学期授業/Fall .....	961
応用情報工学科_学科専門科目【H6047】情報ネットワーク設計論[原田 薫明] 春学期授業/Spring .....	963
応用情報工学科_学科専門科目【H6068】パターン認識[森 稔] 春学期授業/Spring .....	964
応用情報工学科_学科専門科目【H6070】セキュアシステム設計[齊藤 典明] 秋学期授業/Fall .....	965
応用情報工学科_学科専門科目【H6078】ユビキタスネットワーク[若林 哲] 春学期授業/Spring .....	966
応用情報工学科_学科専門科目【H6102】インターネットプロトコル[原 潤一] 秋学期授業/Fall .....	967
応用情報工学科_学科専門科目【H6110】クラウドコンピューティング[下村 道夫] 秋学期授業/Fall .....	968

応用情報工学科_学科専門科目	【H6159】電子回路 [品川 満] 春学期授業/Spring	969
応用情報工学科_学科専門科目	【H6198】IoTシステム工学 [品川 満] 秋学期授業/Fall	970
経営システム工学科_学科専門科目	【H6538】アクチュアリー数理 [佐伯 利明] 秋学期授業/Fall	971
経営システム工学科_学科専門科目	【H6546】計量経済学 [劉 慶豊] 春学期授業/Spring	972
経営システム工学科_学科専門科目	【H6547】保険数理論 [三戸 亮平] 春学期授業/Spring	973
経営システム工学科_学科専門科目	【H6558】国際経営分析 [赤塚 正樹] 春学期授業/Spring	974
経営システム工学科_学科専門科目	【H6568】管理会計論 [熊谷 均] 秋学期授業/Fall	975
経営システム工学科_学科専門科目	【H6809】産業組織論 [高野 直樹] 春学期集中/Intensive(Spring)	977
学部共通科目	【H7023】物質構造化学 [緒方 啓典] 秋学期授業/Fall	979
学部共通科目	【H7033】物質機能化学 [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	980
学部共通科目	【H7035】物質循環化学 [明石 孝也] 秋学期授業/Fall	981
学部共通科目	【H7040】蛋白工学 [常重 アントニオ] 秋学期授業/Fall	982
生命機能学科_学科専門科目	【H7045】生体超分子 [曾和 義幸] 春学期授業/Spring	983
学部共通科目	【H7083】分子生物学 I I [木口 悠也] 秋学期授業/Fall	984
学部共通科目	【H7085】生物化学 I [廣野 雅文] 春学期授業/Spring	985
学部共通科目	【H7087】蛋白質構造機能学 I [廣野 雅文] 春学期授業/Spring	986
学部共通科目	【H7088】蛋白質構造機能学 I I [曾和 義幸] 秋学期授業/Fall	987
学部共通科目	【H7304】植物病学概論 [濱本 宏] 秋学期授業/Fall	988
生命機能学科_学科専門科目	【H7533】細胞工学 [廣野 雅文] 秋学期授業/Fall	989
生命機能学科_学科専門科目	【H7551】生物化学 I I [西川正俊] 秋学期授業/Fall	990
生命機能学科_学科専門科目	【H7552】生物物理学 I [西川正俊] 春学期授業/Spring	991
生命機能学科_学科専門科目	【H7553】生物物理学 I I [曾和義幸] 秋学期授業/Fall	992
学部共通科目	【H7554】細胞生物学 I [金子 智行] 春学期授業/Spring	993
学部共通科目	【H7562】細胞構造機能学 I [川岸 郁朗] 春学期授業/Spring	994
生命機能学科_学科専門科目	【H7571】バイオエナジェティクス [常重 アントニオ] 春学期授業/Spring	996
生命機能学科_学科専門科目	【H7572】医用生体工学 [金子 智行] 秋学期授業/Fall	997
応用植物科学科_学科専門科目	【H8005】植物病防除学 [池田 健太郎] 秋学期授業/Fall	998
学部共通科目	【H8024】植物ウイルス学 [津田 新哉] 秋学期授業/Fall	999
応用植物科学科_学科専門科目	【H8027】媒介システム学 [津田 新哉] 春学期授業/Spring	1001
応用植物科学科_学科専門科目	【H8028】植物メディカルシステム学 [濱本 宏] 春学期授業/Spring	1003
応用植物科学科_学科専門科目	【H8031】植物臨床医科学 [池田 健太郎] 春学期授業/Spring	1004
応用植物科学科_学科専門科目	【H8106】基礎植物害虫学 [大井田 寛] 秋学期授業/Fall	1005
応用植物科学科_学科専門科目	【H8113】応用植物害虫学 [大井田 寛] 春学期授業/Spring	1006
環境応用化学科_学科専門科目	【H8512】無機化学概論 [明石 孝也] 秋学期授業/Fall	1007
環境応用化学科_学科専門科目	【H8525】物理化学 I [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1008
環境応用化学科_学科専門科目	【H8527】無機化学 I [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1009
環境応用化学科_学科専門科目	【H8528】無機化学 I I [石垣 隆正] 秋学期授業/Fall	1010
環境応用化学科_学科専門科目	【H8556】触媒化学 [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1011
環境応用化学科_学科専門科目	【H8581】環境化学工学応用 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1012
環境応用化学科_学科専門科目	【H8582】環境化学工学演習 [山下 明泰] 秋学期授業/Fall	1014
環境応用化学科_学科専門科目	【H8584】無機素材反応化学 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1015
創生科学科_学科専門科目	【H9017】解析力学 [田中 幹人] 春学期授業/Spring	1016
創生科学科_学科専門科目	【H9062】数値計算 [田村 祐介] 春学期授業/Spring	1017
創生科学科_学科専門科目	【H9063】シミュレーション技法 [田村 祐介] 秋学期授業/Fall	1018
創生科学科_学科専門科目	【H9071】メディアインタラクション [鈴木 郁] 春学期授業/Spring	1019
創生科学科_学科専門科目	【H9085】宇宙科学計測 [田中 幹人] 春学期授業/Spring	1020
創生科学科_学科専門科目	【H9086】データ発見と仮想天文台 [田中 幹人] 秋学期授業/Fall	1021
創生科学科_学科専門科目	【H9269】科学実験リテラシー [田中 幹人] 春学期授業/Spring	1022
創生科学科_学科専門科目	【H9274】電気電子回路の基礎 [鈴木 郁] 春学期授業/Spring	1023
創生科学科_学科専門科目	【H9278】数理モデルと統計 [田中 幹人] 春学期授業/Spring	1025
創生科学科_学科専門科目	【H9357】フィールドワーク [福澤 レベッカ] 秋学期授業/Fall	1026
	【J0406】コンピュータシステム入門2 [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	1027
	【J0409】離散構造1 [佐藤 裕二] 春学期授業/Spring	1028
	【J0440】最適化 [佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1029
	【J0511】形式言語とオートマトン [藤田 悟] 春学期授業/Spring	1030
	【J0537】データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1032
	【J0540】人工知能 [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	1033

【J0542】	コンピュータネットワーク [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1035
【J0543】	サービスコンピューティング [藤田 悟] 春学期授業/Spring	1036
【J0545】	オブジェクト指向プログラミング [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	1038
【J0548】	CGのための幾何学 [小池 崇文] 春学期授業/Spring	1039
【J0551】	プログラミング(MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1040
【J0555】	デジタル信号処理 [高村 誠之] 春学期授業/Spring	1042
【J0556】	画像処理 [花泉 弘] 秋学期授業/Fall	1043
【K5353】	物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	1044
【K5354】	物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	1045
【K5355】	物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	1046
【K5356】	物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	1047
General Education Courses / 総合教育科目_Tama Campus General Education Courses / 多摩総合教育科目		
【K5365】	Basic Science for Global Environment A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	1048
General Education Courses / 総合教育科目_Tama Campus General Education Courses / 多摩総合教育科目		
【K5366】	Basic Science for Global Environment B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	1049
【K6243】	社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	1050
【K6244】	社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1051
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券(株)] 春学期授業/Spring	1052
【L0082】	自然環境論I [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	1053
【L0083】	自然環境論II [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	1054
【L0088】	自然科学特講 (地学) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	1055
【L0089】	自然科学特講 (地学) [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	1056
【L0106】	職業社会論 [依田 素味] 秋学期授業/Fall	1057
【L0115】	地球と自然I [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	1058
【L0116】	地球と自然II [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	1059
【L0131】	コンピュータ入門 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	1060
【L0132】	プログラミング入門 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	1061
【L0509】	スポーツ総合2-I (バドミントン) [升 佑二郎] 春学期授業/Spring	1062
【L0510】	スポーツ総合2-II (バドミントン) [升 佑二郎] 秋学期授業/Fall	1063
【L0511】	スポーツ総合2-I (バドミントン) [升 佑二郎] 春学期授業/Spring	1064
【L0512】	スポーツ総合2-II (バドミントン) [升 佑二郎] 秋学期授業/Fall	1065
【L0582】	環境問題B [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1066
【L0585】	コミュニティ・デザイン論A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	1067
【L0668】	社会保障法I [CDC] [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1068
【L0669】	社会保障法II [CDC] [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1069
【L0733】	広告・消費文化論 [MCC] [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1070
【L0734】	広告・PR論 [MCC] [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1071
【L0758】	南北問題 [ISC] [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1072
【L0763】	地域研究 (イスラーム) [ISC] [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1073
【L0887】	社会保障法I [PSP] [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1074
【L0888】	社会保障法II [PSP] [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1075
【L0895】	政策と制度 [PLP] [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1076
【L0896】	政策と制度 [PSP] [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1077
【L1024】	プログラミング初級I [ICP] [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	1078
【L1025】	プログラミング初級II [ICP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring	1079
【L1030】	プログラミング初級II [ICP] [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	1080
【L1042】	表現プログラミング実習 [ICP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring	1081
【L1046】	特講 (プログラミング上級) [ICP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring	1082
【L1058】	取材文章実習 [MLP] [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall	1083
【L1070】	特講 (映像制作実習) [MLP] [小坂 一順] 秋学期授業/Fall	1084
【L1072】	特講 (広告制作実習) [MLP] [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1086
【L1073】	特講 (広告制作実習) [MLP] [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1087
【L1079】	表現プログラミング実習 [MLP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring	1088
【L1087】	エッセイ文章実習 [MLP] [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	1089
【L1088】	エッセイ文章実習 [MLP] [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	1090
【L1090】	エッセイ文章実習 [MLP] [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	1091
【L1091】	エッセイ文章実習 [MLP] [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	1092

<b>[L1401]</b>	演習1 [青木 貞茂] 年間授業/Yearly .....	1093
<b>[L1402]</b>	演習2 [青木 貞茂] 年間授業/Yearly .....	1095
<b>[L1403]</b>	演習3 (卒業論文) [青木 貞茂] 年間授業/Yearly .....	1097
<b>[L1446]</b>	演習1 [岡野内 正] 年間授業/Yearly .....	1099
<b>[L1447]</b>	演習2 [岡野内 正] 年間授業/Yearly .....	1100
<b>[L1448]</b>	演習3 (卒業論文) [岡野内 正] 年間授業/Yearly .....	1101
<b>[L1680]</b>	演習1 [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly .....	1103
<b>[L1681]</b>	演習2 [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly .....	1105
<b>[L1682]</b>	演習3 (卒業論文) [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly .....	1106
<b>[L1931]</b>	特講 (メディア社会学 (表現)) [MSC] [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall .....	1107
<b>[L1981]</b>	特講 (メディア社会学 (表現)) [MCC] [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall .....	1108
<b>[L2860]</b>	表現プログラミング実習 [IDP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1109
<b>[L2879]</b>	プログラミング初級 [IDP] [湯本 正実] 秋学期授業/Fall .....	1110
<b>[L2880]</b>	プログラミング中級D [IDP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1111
<b>[L2884]</b>	プログラミングと論理的思考 [IDP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1112
<b>[L2887]</b>	プログラミング中級D [IDP] [湯本 正実] 秋学期授業/Fall .....	1113
<b>[L2908]</b>	ニュース・ライティング [MPP] [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall .....	1114
<b>[L2912]</b>	クリエイティブ・ライティング [MPP] [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring .....	1115
<b>[L2913]</b>	クリエイティブ・ライティング [MPP] [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall .....	1116
<b>[L2914]</b>	クリエイティブ・ライティング [MPP] [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring .....	1117
<b>[L2915]</b>	クリエイティブ・ライティング [MPP] [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall .....	1118
<b>[L2917]</b>	表現プログラミング実習 [MPP] [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1119
<b>[L2969]</b>	特講 (映像制作実習) [MPP] [小坂 一順] 秋学期授業/Fall .....	1120
<b>[L2971]</b>	特講 (広告制作実習) [MPP] [青木 貞茂] 春学期授業/Spring .....	1122
<b>[L2972]</b>	特講 (広告制作実習) [MPP] [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall .....	1123
<b>[L3007]</b>	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring .....	1124
<b>[L3008]</b>	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall .....	1125
<b>[L3014]</b>	政策と制度 [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring .....	1126
教職関係科目	<b>[L3107]</b> 教育心理学 [安齊 順子] 秋学期授業/Fall .....	1127
教職関係科目	<b>[L3108]</b> 教育心理学 [安齊 順子] 秋学期授業/Fall .....	1128
資格関係科目	<b>[L3153]</b> 生涯学習支援論 [栗山 究] 年間授業/Yearly .....	1129
教職関係科目	<b>[L3160]</b> 特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児] 春学期授業/Spring .....	1131
教職関係科目	<b>[L3161]</b> 特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児] 秋学期授業/Fall .....	1132
教職関係科目	<b>[L3162]</b> 総合的な学習の時間の指導法 [本山 明] 春学期授業/Spring .....	1133
教職関係科目	<b>[L3163]</b> 総合的な学習の時間の指導法 [本山 明] 秋学期授業/Fall .....	1134
<b>[L5013]</b>	基礎演習Ⅰ [岡野内 正] 春学期授業/Spring .....	1135
<b>[L5014]</b>	基礎演習Ⅱ [岡野内 正] 秋学期授業/Fall .....	1136
<b>[L5092]</b>	基礎演習Ⅰ [中村 尚樹] 春学期授業/Spring .....	1137
<b>[L5093]</b>	基礎演習Ⅱ [中村 尚樹] 秋学期授業/Fall .....	1138
<b>[L6008]</b>	社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring .....	1139
<b>[L6009]</b>	社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall .....	1140
<b>[L6015]</b>	国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall .....	1141
<b>[L6016]</b>	イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall .....	1142
<b>[LA019]</b>	政策と制度 [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring .....	1143
<b>[LA201]</b>	サステナビリティ論B [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall .....	1144
<b>[LA210]</b>	社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring .....	1145
<b>[LA211]</b>	社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall .....	1146
<b>[LA300]</b>	グローバル市民社会論A [岡野内 正] 春学期授業/Spring .....	1147
<b>[LA308]</b>	国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall .....	1148
<b>[LA309]</b>	イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall .....	1149
<b>[LD010-a]</b>	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring .....	1150
<b>[LD010-b]</b>	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall .....	1151
<b>[LD010-c]</b>	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring .....	1152
<b>[LD010-d]</b>	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall .....	1153
<b>[LD017]</b>	プログラミングと論理的思考 [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1154
<b>[LD018-b]</b>	ウェブ・プログラミングA [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1155
<b>[LD022-a]</b>	メディアプログラミング実習 [湯本 正実] 春学期授業/Spring .....	1156

【LD022-b】	メディアプログラミング実習 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	1157
【LD101-b】	映像制作技法 [小坂 一順] 春学期授業/Spring	1158
【LD102-b】	映像制作実習 [小坂 一順] 秋学期授業/Fall	1160
【LD103】	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1162
【LD104】	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1163
【LD105】	広告制作実習 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1164
【LD111-b】	ニュース・ライティング [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall	1165
【LD112】	メディア社会学特講(表現) [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1166
【LD125】	広告制作実習 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1167
【LL007-d】	プログラミング初級 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	1168
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0530】 経営学 [新海 貴弘] 春学期授業/Spring	1169
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0600】 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘] 春学期授業/Spring	1171
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0601】 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘] 春学期授業/Spring	1173
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0602】 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘] 春学期授業/Spring	1175
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0610】 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘] 秋学期授業/Fall	1177
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0611】 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘] 秋学期授業/Fall	1179
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0612】 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘] 秋学期授業/Fall	1181
総合教育科目_視野形成科目(必修選択)	【M0710】 障害者福祉論 [山岸 倫子] 春学期授業/Spring	1183
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)	【M1040】 スポーツ哲学 [小田 佳子] 春学期授業/Spring	1184
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M1730】 スポーツリスクマネジメント [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	1185
専門教育科目_専門基幹科目	【M1780】 予防医学概論 [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	1187
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2060】 運動処方・負荷テスト [木下 訓光] 春学期授業/Spring	1188
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2080】 生活習慣病と身体活動 [木下 訓光] 春学期授業/Spring	1190
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2090】 運動生理学 [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1192
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2190】 運動負荷テスト実習 [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	1193
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2191】 運動負荷テスト実習 [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	1195
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2320】 スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	1197
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2370】 スポーツ医学A [木下 訓光] 春学期授業/Spring	1199
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2400】 スポーツ医学B [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	1202
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3020】 スポーツ経済論 [得田 進介] 秋学期授業/Fall	1203
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3030】 スポーツと経済 [得田 進介] 秋学期授業/Fall	1204
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4380】 バドミントン指導論演習 [升 佑二郎] 秋学期授業/Fall	1205
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4550】 剣道指導論演習 [小田 佳子] 秋学期授業/Fall	1206
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4551】 剣道指導論演習 [小田 佳子] 秋学期授業/Fall	1207
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4640】 バドミントン実習 [升 佑二郎] 春学期授業/Spring	1208
専門教育科目_専門演習	【M5016】 専門演習Ⅰ [木下 訓光] 年間授業/Yearly	1209
専門教育科目_専門演習	【M5028】 専門演習Ⅰ [瀬戸 宏明] 年間授業/Yearly	1210
専門教育科目_専門演習	【M5116】 専門演習Ⅱ [木下 訓光] 年間授業/Yearly	1212
専門教育科目_専門演習	【M5128】 専門演習Ⅱ [瀬戸 宏明] 年間授業/Yearly	1214
専門教育科目_専門演習	【M5216】 専門演習Ⅲ [木下 訓光] 年間授業/Yearly	1215
専門教育科目_専門演習	【M5228】 専門演習Ⅲ [瀬戸 宏明] 年間授業/Yearly	1217
【N0005】	基礎演習Ⅰ (E・Rクラス) [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1218
【N0006】	基礎演習Ⅰ (F・Sクラス) [水野 雅男] 春学期授業/Spring	1219
【N0007】	基礎演習Ⅰ (G・Tクラス) [杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	1220
【N0008】	基礎演習Ⅰ (H・Uクラス) [岩田 千亜紀] 春学期授業/Spring	1221
【N0010】	基礎演習Ⅰ (J・Wクラス) [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	1222
【N0012】	基礎演習Ⅰ (L・Yクラス) [小林 由佳] 春学期授業/Spring	1223
【N0017】	基礎演習Ⅱ (E・Rクラス) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1224
【N0018】	基礎演習Ⅱ (F・Sクラス) [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	1225
【N0019】	基礎演習Ⅱ (G・Tクラス) [杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall	1226
【N0020】	基礎演習Ⅱ (H・Uクラス) [岩田 千亜紀] 秋学期授業/Fall	1227
【N0022】	基礎演習Ⅱ (J・Wクラス) [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1228
【N0024】	基礎演習Ⅱ (L・Yクラス) [小林 由佳] 秋学期授業/Fall	1229
【N0025】	フィールドスタディ入門 [岩田 美香、望月 聡、水野 雅男] 秋学期授業/Fall	1230
【N0053】	文化人類学 [松井 生子] 春学期授業/Spring	1231
【N0117】	老年学 [新名 正弥] 春学期授業/Spring	1232

[N0151]	人体の構造と機能及び疾病 [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1233
[N0152]	リハビリテーション概論 [後藤 圭介、酒井 克也、細井 雄一郎] 秋学期授業/Fall	1234
[N0159]	スポーツ総合Ⅰ [坪田 智夫] 春学期授業/Spring	1235
[N0162]	スポーツ総合Ⅱ [坪田 智夫] 秋学期授業/Fall	1236
[N0545]	中国語ⅡA [劉 紅] 春学期授業/Spring	1237
[N0546]	中国語ⅡB [劉 紅] 秋学期授業/Fall	1238
[N1001]	地域問題入門 [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	1239
[N1003]	社会問題論 [高良 麻子] 春学期授業/Spring	1240
[N1005]	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ [安西 美咲] 秋学期授業/Fall	1241
[N1051]	地域福祉論 [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	1242
[N1052]	社会的包摂論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	1243
[N1053]	地域計画論 [杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall	1244
[N1055]	ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	1245
[N1056]	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)Ⅱ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1246
[N1057]	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1247
[N1058]	心理学的支援法 [末武 康弘] 春学期授業/Spring	1248
[N1059]	アジア地域開発論(2021年度以降入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1249
[N1059]	アジア地域開発論(2020年度以前入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1250
[N1102]	医療政策論 [小磯 明] オータムセッション/Autumn Session	1251
[N1107]	都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	1252
[N1108]	地域文化政策論 [杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall	1253
[N1111]	政策評価論 [倉根 明德] サマーセッション/Summer Session	1254
[N1114]	刑事司法と福祉 [辰野 文理] 春学期授業/Spring	1255
[N1116]	国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1256
[N1117]	Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1257
[N1117]	Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1258
[N1151]	地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	1259
[N1153]	ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	1260
[N1154]	ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	1261
[N1155]	NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	1262
[N1157]	福祉サービスの組織と経営 [千葉 正展] 春学期授業/Spring	1263
[N1159]	災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄] 春学期授業/Spring	1264
[N1160]	人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring	1266
[N1162]	コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1267
[N1165]	地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1268
[N1167]	精神保健福祉制度論Ⅰ [三木 良子] 春学期授業/Spring	1269
[N1168]	精神保健福祉制度論Ⅱ [三木 良子] 春学期授業/Spring	1270
Advanced Courses/専門科目_Disciplinary Courses/IGESS科目_IV. Global Issues [N1172] Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall		1271
[N1172]	Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1272
[N1204]	子ども家庭福祉論 [岩田 美香] 秋学期授業/Fall	1273
[N1207]	権利擁護と成年後見 [西田 ちゆき] 秋学期授業/Fall	1274
[N1208]	セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1275
[N1209]	スクールソーシャルワーク [岩田 美香] 春学期授業/Spring	1276
[N1210]	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ [高良 麻子] 春学期授業/Spring	1277
[N1211]	多文化ソーシャルワーク [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	1278
[N1212]	死生観とソーシャルワーク [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1279
[N1216]	精神疾患とその治療 [関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	1280
[N1217]	臨床心理学概論 [小高 佐友里] 春学期授業/Spring	1281
[N1223]	異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1282
[N1225]	教育心理学特講 [大瀧 玲子] サマーセッション/Summer Session	1283
[N1226]	芸術療法 [蜂谷 和郎] 春学期授業/Spring	1284
[N1227]	芸術療法 [蜂谷 和郎] 春学期授業/Spring	1285
[N1454]	公認心理師の職責 [津村 麻紀] 秋学期授業/Fall	1286
[N1504]	産業・組織心理学 [小林 由佳] 春学期授業/Spring	1287
[N1505]	臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1288
[N1506]	精神分析学 [中 康] 秋学期授業/Fall	1289

【N1507】	児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1290
【N1508】	認知行動療法 [藤島 雄磨] 春学期授業/Spring	1291
【N1511】	投映法特講 [津村 麻紀] 秋学期授業/Fall	1292
【N1512】	グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1293
【N1551】	司法・犯罪心理学 [西田 俊男] 春学期授業/Spring	1294
【N1651】	関係行政論 [小磯 明] サマーセッション/Summer Session	1295
【N2001】	ソーシャルワーク演習Ⅰ [安西 美咲] 秋学期授業/Fall	1296
【N2002】	ソーシャルワーク演習Ⅰ [小野田 由実子] 秋学期授業/Fall	1297
【N2003】	ソーシャルワーク演習Ⅰ [中條 桂子] 秋学期授業/Fall	1298
【N2004】	ソーシャルワーク演習Ⅰ [西田 ちゆき] 秋学期授業/Fall	1299
【N2011】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1300
【N2012】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [岩田 美香] 春学期授業/Spring	1301
【N2013】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1302
【N2015】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	1303
【N2016】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1304
【N2017】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [岩田 千亜紀] 春学期授業/Spring	1305
【N2018】	ソーシャルワーク演習Ⅱ [山崎 禎広] 春学期授業/Spring	1306
【N2021】	ソーシャルワーク演習Ⅲ [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1307
【N2022】	ソーシャルワーク演習Ⅲ [小野田 由実子] 春学期授業/Spring	1308
【N2023】	ソーシャルワーク演習Ⅲ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1309
【N2024】	ソーシャルワーク演習Ⅲ [西田 ちゆき] 春学期授業/Spring	1310
【N2031】	ソーシャルワーク演習Ⅳ [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1311
【N2032】	ソーシャルワーク演習Ⅳ [小野田 由実子] 春学期授業/Spring	1312
【N2033】	ソーシャルワーク演習Ⅳ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1313
【N2034】	ソーシャルワーク演習Ⅳ [西田 ちゆき] 春学期授業/Spring	1314
【N2035】	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1315
【N2036】	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1316
【N2037】	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1317
【N2038】	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1318
【N2051】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	1319
【N2052】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [岩田 美香] 秋学期授業/Fall	1320
【N2053】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [島谷 綾郁] 秋学期授業/Fall	1321
【N2054】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [金 慧英] 秋学期授業/Fall	1322
【N2055】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [佐藤 繭美] 秋学期授業/Fall	1323
【N2056】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	1324
【N2057】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [岩田 千亜紀] 秋学期授業/Fall	1325
【N2058】	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [山崎 禎広] 秋学期授業/Fall	1326
【N2061】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1327
【N2062】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [岩田 美香] 春学期授業/Spring	1328
【N2063】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1329
【N2065】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	1330
【N2066】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1331
【N2067】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [岩田 千亜紀] 春学期授業/Spring	1332
【N2068】	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [山崎 禎広] 春学期授業/Spring	1333
【N2071】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	1334
【N2072】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [岩田 美香] 秋学期授業/Fall	1335
【N2073】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [島谷 綾郁] 秋学期授業/Fall	1336
【N2075】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [佐藤 繭美] 秋学期授業/Fall	1337
【N2076】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	1338
【N2077】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [岩田 千亜紀] 秋学期授業/Fall	1339
【N2078】	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ [山崎 禎広] 秋学期授業/Fall	1340
【N2081】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1341
【N2082】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [岩田 美香] 春学期授業/Spring	1342
【N2083】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1343
【N2085】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	1344
【N2086】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1345
【N2087】	ソーシャルワーク実習Ⅰ [岩田 千亜紀] 春学期授業/Spring	1346

[N2088]	ソーシャルワーク実習Ⅰ	[山崎 禎広]	春学期授業/Spring	1347
[N2091]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[伊藤 正子]	年間授業/Yearly	1348
[N2092]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[岩田 美香]	年間授業/Yearly	1349
[N2093]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[島谷 綾郁]	年間授業/Yearly	1350
[N2094]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[金 慧英]	年間授業/Yearly	1351
[N2095]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[佐藤 繭美]	年間授業/Yearly	1352
[N2096]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[宮城 孝]	年間授業/Yearly	1353
[N2097]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[岩田 千亜紀]	年間授業/Yearly	1354
[N2098]	ソーシャルワーク実習Ⅱ	[山崎 禎広]	年間授業/Yearly	1355
[N2101]	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	[岡田 栄作]	春学期授業/Spring	1356
[N2102]	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	[岡田 栄作]	秋学期授業/Fall	1357
[N2103]	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	[岡田 栄作]	秋学期授業/Fall	1358
[N2104]	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	[岡田 栄作]	春学期授業/Spring	1359
[N2105]	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	[岡田 栄作]	秋学期授業/Fall	1360
[N2106]	精神保健ソーシャルワーク実習	[岡田 栄作]	年間授業/Yearly	1361
[N2151]	スクールソーシャルワーク演習	[岩田 美香]	春学期授業/Spring	1362
[N2152]	スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ	[岩田 美香]	春学期授業/Spring	1363
[N2153]	スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ	[岩田 美香]	秋学期授業/Fall	1364
[N2154]	スクールソーシャルワーク実習	[岩田 美香]	年間授業/Yearly	1365
[N2201]	コミュニティマネジメント・リサーチ	[水野 雅男、土肥 将敦]	春学期授業/Spring	1366
[N2202]	コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ	[佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1367
[N2203]	コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ	[佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁]	秋学期授業/Fall	1368
[N2501]	心理演習Ⅰ	[小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵]	春学期授業/Spring	1369
[N2502]	心理演習Ⅱ	[小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵]	秋学期授業/Fall	1370
[N2503]	心理実習	[小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵、久保田 幹子、服部 環]	年間授業/Yearly	1371
[N3001]	専門演習ⅠA	[伊藤 正子]	春学期授業/Spring	1372
[N3002]	専門演習ⅠA	[岩崎 晋也]	春学期授業/Spring	1373
[N3003]	専門演習ⅠA	[岩田 美香]	春学期授業/Spring	1374
[N3006]	専門演習ⅠA	[高良 麻子]	春学期授業/Spring	1375
[N3007]	専門演習ⅠA	[佐藤 繭美]	春学期授業/Spring	1376
[N3008]	専門演習ⅠA	[佐野 竜平]	春学期授業/Spring	1377
[N3012]	専門演習ⅠA	[野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1378
[N3013]	専門演習ⅠA	[水野 雅男]	春学期授業/Spring	1379
[N3014]	専門演習ⅠA	[宮城 孝]	春学期授業/Spring	1380
[N3017]	専門演習ⅠA	[小林 由佳]	春学期授業/Spring	1381
[N3018]	専門演習ⅠA	[末武 康弘]	春学期授業/Spring	1382
[N3019]	専門演習ⅠA	[関谷 秀子]	春学期授業/Spring	1383
[N3031]	専門演習ⅠB	[伊藤 正子]	秋学期授業/Fall	1384
[N3032]	専門演習ⅠB	[岩崎 晋也]	秋学期授業/Fall	1385
[N3033]	専門演習ⅠB	[岩田 美香]	秋学期授業/Fall	1386
[N3036]	専門演習ⅠB	[高良 麻子]	秋学期授業/Fall	1387
[N3037]	専門演習ⅠB	[佐藤 繭美]	秋学期授業/Fall	1388
[N3038]	専門演習ⅠB	[佐野 竜平]	秋学期授業/Fall	1389
[N3042]	専門演習ⅠB	[野田 岳仁]	秋学期授業/Fall	1390
[N3043]	専門演習ⅠB	[水野 雅男]	秋学期授業/Fall	1391
[N3044]	専門演習ⅠB	[宮城 孝]	秋学期授業/Fall	1392
[N3046]	専門演習ⅠB	[藤島 雄磨]	秋学期授業/Fall	1393
[N3048]	専門演習ⅠB	[小林 由佳]	秋学期授業/Fall	1394
[N3049]	専門演習ⅠB	[末武 康弘]	秋学期授業/Fall	1395
[N3050]	専門演習ⅠB	[関谷 秀子]	秋学期授業/Fall	1396
[N3061]	専門演習ⅡA	[伊藤 正子]	春学期授業/Spring	1397
[N3062]	専門演習ⅡA	[岩崎 晋也]	春学期授業/Spring	1398
[N3063]	専門演習ⅡA	[岩田 美香]	春学期授業/Spring	1399
[N3066]	専門演習ⅡA	[高良 麻子]	春学期授業/Spring	1400
[N3067]	専門演習ⅡA	[佐藤 繭美]	春学期授業/Spring	1401
[N3068]	専門演習ⅡA	[佐野 竜平]	春学期授業/Spring	1402

【N3072】	専門演習Ⅱ A	〔野田 岳仁〕	春学期授業/Spring	1403
【N3073】	専門演習Ⅱ A	〔水野 雅男〕	春学期授業/Spring	1404
【N3074】	専門演習Ⅱ A	〔宮城 孝〕	春学期授業/Spring	1405
【N3075】	専門演習Ⅱ A	〔藤島 雄磨〕	春学期授業/Spring	1406
【N3077】	専門演習Ⅱ A	〔小林 由佳〕	春学期授業/Spring	1407
【N3078】	専門演習Ⅱ A	〔末武 康弘〕	春学期授業/Spring	1408
【N3079】	専門演習Ⅱ A	〔関谷 秀子〕	春学期授業/Spring	1409
【N3091】	専門演習Ⅱ B	〔伊藤 正子〕	秋学期授業/Fall	1410
【N3092】	専門演習Ⅱ B	〔岩崎 晋也〕	秋学期授業/Fall	1411
【N3093】	専門演習Ⅱ B	〔岩田 美香〕	秋学期授業/Fall	1412
【N3096】	専門演習Ⅱ B	〔高良 麻子〕	秋学期授業/Fall	1413
【N3097】	専門演習Ⅱ B	〔佐藤 繭美〕	秋学期授業/Fall	1414
【N3098】	専門演習Ⅱ B	〔佐野 竜平〕	秋学期授業/Fall	1415
【N3102】	専門演習Ⅱ B	〔野田 岳仁〕	秋学期授業/Fall	1416
【N3103】	専門演習Ⅱ B	〔水野 雅男〕	秋学期授業/Fall	1417
【N3104】	専門演習Ⅱ B	〔宮城 孝〕	秋学期授業/Fall	1418
【N3105】	専門演習Ⅱ B	〔藤島 雄磨〕	秋学期授業/Fall	1419
【N3107】	専門演習Ⅱ B	〔小林 由佳〕	秋学期授業/Fall	1420
【N3108】	専門演習Ⅱ B	〔末武 康弘〕	秋学期授業/Fall	1421
【N3109】	専門演習Ⅱ B	〔関谷 秀子〕	秋学期授業/Fall	1422
【N3121】	専門演習Ⅲ A	〔伊藤 正子〕	春学期授業/Spring	1423
【N3122】	専門演習Ⅲ A	〔岩崎 晋也〕	春学期授業/Spring	1424
【N3123】	専門演習Ⅲ A	〔岩田 美香〕	春学期授業/Spring	1425
【N3125】	専門演習Ⅲ A	〔高良 麻子〕	春学期授業/Spring	1426
【N3126】	専門演習Ⅲ A	〔佐藤 繭美〕	春学期授業/Spring	1427
【N3127】	専門演習Ⅲ A	〔佐野 竜平〕	春学期授業/Spring	1428
【N3131】	専門演習Ⅲ A	〔野田 岳仁〕	春学期授業/Spring	1429
【N3133】	専門演習Ⅲ A	〔水野 雅男〕	春学期授業/Spring	1430
【N3135】	専門演習Ⅲ A	〔小野 純平〕	春学期授業/Spring	1431
【N3136】	専門演習Ⅲ A	〔藤島 雄磨〕	春学期授業/Spring	1432
【N3138】	専門演習Ⅲ A	〔末武 康弘〕	春学期授業/Spring	1433
【N3139】	専門演習Ⅲ A	〔関谷 秀子〕	春学期授業/Spring	1434
【N3151】	専門演習Ⅲ B	〔伊藤 正子〕	秋学期授業/Fall	1435
【N3152】	専門演習Ⅲ B	〔岩崎 晋也〕	秋学期授業/Fall	1436
【N3153】	専門演習Ⅲ B	〔岩田 美香〕	秋学期授業/Fall	1437
【N3155】	専門演習Ⅲ B	〔高良 麻子〕	秋学期授業/Fall	1438
【N3156】	専門演習Ⅲ B	〔佐藤 繭美〕	秋学期授業/Fall	1439
【N3157】	専門演習Ⅲ B	〔佐野 竜平〕	秋学期授業/Fall	1440
【N3161】	専門演習Ⅲ B	〔野田 岳仁〕	秋学期授業/Fall	1441
【N3163】	専門演習Ⅲ B	〔水野 雅男〕	秋学期授業/Fall	1442
【N3165】	専門演習Ⅲ B	〔小野 純平〕	秋学期授業/Fall	1443
【N3166】	専門演習Ⅲ B	〔藤島 雄磨〕	秋学期授業/Fall	1444
【N3169】	専門演習Ⅲ B	〔末武 康弘〕	秋学期授業/Fall	1445
【N3170】	専門演習Ⅲ B	〔関谷 秀子〕	秋学期授業/Fall	1446
【N3201】	卒業論文	〔伊藤 正子〕	年間授業/Yearly	1447
【N3202】	卒業論文	〔岩崎 晋也〕	年間授業/Yearly	1448
【N3203】	卒業論文	〔岩田 美香〕	年間授業/Yearly	1449
【N3205】	卒業論文	〔高良 麻子〕	年間授業/Yearly	1450
【N3206】	卒業論文	〔佐藤 繭美〕	年間授業/Yearly	1451
【N3207】	卒業論文	〔佐野 竜平〕	年間授業/Yearly	1452
【N3211】	卒業論文	〔野田 岳仁〕	年間授業/Yearly	1453
【N3213】	卒業論文	〔水野 雅男〕	年間授業/Yearly	1454
【N3215】	卒業論文	〔小野 純平〕	年間授業/Yearly	1455
【N3216】	卒業論文	〔藤島 雄磨〕	年間授業/Yearly	1456
【N3219】	卒業論文	〔末武 康弘〕	年間授業/Yearly	1457
【N3220】	卒業論文	〔関谷 秀子〕	年間授業/Yearly	1458
【N5117】	老年学(SS1)	〔新名 正弥〕	春学期授業/Spring	1459

[N5151]	医学概論 [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1460
[N6002]	まちづくりの思想 [水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁] 春学期授業/Spring	1461
[N6005]	ソーシャルワークⅠ [安西 美咲] 秋学期授業/Fall	1462
[N6006]	ソーシャルワークⅠ (相談援助の基盤と専門職) [安西 美咲] 秋学期授業/Fall	1463
[N6055]	地域の歴史と文化 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	1464
[N6056]	コミュニティソーシャルワーク [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1465
[N6057]	ソーシャルワークⅢ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1466
[N6058]	カウンセリング [末武 康弘] 春学期授業/Spring	1467
[N6059]	現代福祉特講 (国際地域開発) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1468
[N6060]	ソーシャルワークⅢ (方法) [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1469
[N6114]	司法福祉論 [辰野 文理] 春学期授業/Spring	1470
[N6116]	国際支援論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1471
[N6151]	地域経営論 (SSI) [松本 昭] 春学期授業/Spring	1472
[N6155]	NPO論 (SSI) [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	1473
[N6162]	コミュニティアート (SSI) [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1474
[N6165]	地域ツーリズム (SSI) [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1475
[N6210]	ソーシャルワークⅡ [高良 麻子] 春学期授業/Spring	1476
[N6212]	ソーシャルワークⅡ (理論) [高良 麻子] 春学期授業/Spring	1477
[N6216]	精神医学 [関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	1478
[N6217]	臨床心理学Ⅰ [小高 佐友里] 春学期授業/Spring	1479
[N6218]	臨床心理学 [小高 佐友里] 春学期授業/Spring	1480
[N6225]	教育心理学 [大瀧 玲子] サマーセッション/Summer Session	1481
[N6505]	臨床心理学Ⅱ [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1482
[N6511]	投映法特論 [津村 麻紀] 秋学期授業/Fall	1483
[N7011]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1484
[N7012]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [岩田 美香] 春学期授業/Spring	1485
[N7013]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1486
[N7015]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	1487
[N7016]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	1488
[N7017]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [岩田 千亜紀] 春学期授業/Spring	1489
[N7018]	ソーシャルワーク演習Ⅱ [山崎 禎広] 春学期授業/Spring	1490
[N7021]	ソーシャルワーク演習Ⅲ [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1491
[N7022]	ソーシャルワーク演習Ⅲ [小野田 由実子] 春学期授業/Spring	1492
[N7023]	ソーシャルワーク演習Ⅲ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1493
[N7024]	ソーシャルワーク演習Ⅲ [西田 ちゆき] 春学期授業/Spring	1494
[N7031]	ソーシャルワーク演習Ⅳ [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1495
[N7032]	ソーシャルワーク演習Ⅳ [小野田 由実子] 春学期授業/Spring	1496
[N7033]	ソーシャルワーク演習Ⅳ [島谷 綾郁] 春学期授業/Spring	1497
[N7034]	ソーシャルワーク演習Ⅳ [西田 ちゆき] 春学期授業/Spring	1498
[N7035]	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1499
[N7036]	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1500
[N7037]	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1501
[N7038]	ソーシャルワーク演習Ⅴ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	1502
[N7091]	ソーシャルワーク実習 [伊藤 正子] 年間授業/Yearly	1503
[N7092]	ソーシャルワーク実習 [岩田 美香] 年間授業/Yearly	1504
[N7093]	ソーシャルワーク実習 [島谷 綾郁] 年間授業/Yearly	1505
[N7095]	ソーシャルワーク実習 [佐藤 蘭美] 年間授業/Yearly	1506
[N7096]	ソーシャルワーク実習 [宮城 孝] 年間授業/Yearly	1507
[N7097]	ソーシャルワーク実習 [岩田 千亜紀] 年間授業/Yearly	1508
[N7098]	ソーシャルワーク実習 [山崎 禎広] 年間授業/Yearly	1509
[N7501]	臨床心理実習指導Ⅰ [小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵] 春学期授業/Spring	1510
[N7502]	臨床心理実習指導Ⅱ [小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵] 秋学期授業/Fall	1511
[N7503]	臨床心理実習 [小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵、久保田 幹子、関谷 秀子、服部 環] 年間授業/Yearly	1512
福祉社会専攻_専門共通科目 [S0001]	福祉社会研究法Ⅰ [野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英] 春学期授業/Spring	1513

福祉社会専攻_専門共通科目 【S0003】 地域共生社会特論 [水野 雅男、佐野 竜平、岡司 直也、布川 日佐史、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall .....	1514
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0005】 ソーシャルワーク特論 I [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring .....	1515
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0007】 ソーシャルワーク理論研究特論 [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall .....	1516
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0009】 ソーシャルワーク・スーパービジョン [佐藤 繭美、岩田 美香、伊藤 正子、高良 麻子] 秋学期授業/Fall .....	1517
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0010】 地域福祉特論 [宮城 孝] 春学期授業/Spring .....	1518
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S0011】 児童福祉特論 [岩田 美香] 春学期授業/Spring .....	1519
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0011】 児童福祉特論 [岩田 美香] 春学期授業/Spring .....	1520
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0021】 ソーシャル・イノベーション特論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall .....	1521
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0022】 住宅政策特論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring .....	1522
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0025】 環境社会学特論 [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall .....	1523
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0026】 障害と開発特論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring .....	1524
福祉社会専攻_専門共通科目 【S0031】 福祉社会研究法 [野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英] 春学期授業/Spring .....	1525
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0033】 地域経営特論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall .....	1526
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0034】 都市・住宅政策特論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring .....	1527
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0037】 地域環境特論 [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall .....	1528
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0038】 アジア地域開発特論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring .....	1529
福祉社会専攻_演習科目 【S0101】 論文研究演習 I [伊藤 正子] 年間授業/Yearly .....	1530
福祉社会専攻_演習科目 【S0102】 論文研究演習 I [岩崎 晋也] 年間授業/Yearly .....	1531
福祉社会専攻_演習科目 【S0103】 論文研究演習 I [岩田 美香] 年間授業/Yearly .....	1532
福祉社会専攻_演習科目 【S0105】 論文研究演習 I [高良 麻子] 年間授業/Yearly .....	1533
福祉社会専攻_演習科目 【S0106】 論文研究演習 I [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly .....	1534
福祉社会専攻_演習科目 【S0107】 論文研究演習 I [佐野 竜平] 年間授業/Yearly .....	1535
福祉社会専攻_演習科目 【S0109】 論文研究演習 I [土肥 将敦] 年間授業/Yearly .....	1536
福祉社会専攻_演習科目 【S0110】 論文研究演習 I [野田 岳仁] 年間授業/Yearly .....	1537
福祉社会専攻_演習科目 【S0112】 論文研究演習 I [水野 雅男] 年間授業/Yearly .....	1538
福祉社会専攻_演習科目 【S0113】 論文研究演習 I [宮城 孝] 年間授業/Yearly .....	1539
福祉社会専攻_演習科目 【S0121】 論文研究演習 II [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly .....	1540
福祉社会専攻_演習科目 【S0122】 論文研究演習 II [宮城 孝] 年間授業/Yearly .....	1541
福祉社会専攻_演習科目 【S0201】 実践研究演習 I [伊藤 正子] 年間授業/Yearly .....	1542
福祉社会専攻_演習科目 【S0202】 実践研究演習 I [岩崎 晋也] 年間授業/Yearly .....	1543
福祉社会専攻_演習科目 【S0203】 実践研究演習 I [岩田 美香] 年間授業/Yearly .....	1544
福祉社会専攻_演習科目 【S0205】 実践研究演習 I [高良 麻子] 年間授業/Yearly .....	1545
福祉社会専攻_演習科目 【S0206】 実践研究演習 I [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly .....	1546
福祉社会専攻_演習科目 【S0207】 実践研究演習 I [佐野 竜平] 年間授業/Yearly .....	1547
福祉社会専攻_演習科目 【S0209】 実践研究演習 I [土肥 将敦] 年間授業/Yearly .....	1548
福祉社会専攻_演習科目 【S0210】 実践研究演習 I [野田 岳仁] 年間授業/Yearly .....	1549
福祉社会専攻_演習科目 【S0212】 実践研究演習 I [水野 雅男] 年間授業/Yearly .....	1550
福祉社会専攻_演習科目 【S0213】 実践研究演習 I [宮城 孝] 年間授業/Yearly .....	1551
福祉社会専攻_演習科目 【S0221】 実践研究演習 II [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly .....	1552
福祉社会専攻_演習科目 【S0222】 実践研究演習 II [宮城 孝] 年間授業/Yearly .....	1553
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1003】 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) [末武 康弘] 春学期授業/Spring .....	1554
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1004】 臨床心理面接特論 II [末武 康弘] 秋学期授業/Fall .....	1555
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1007】 臨床心理実習 I (心理実践実習) [関谷 秀子、丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly .....	1556
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1008】 臨床心理実習 II [関谷 秀子、丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly .....	1557
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目) 【S1011】 臨床心理学研究法特論 [小林 由佳] 秋学期授業/Fall .....	1558
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1018】 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) [関谷 秀子] 春学期授業/Spring .....	1559
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1020】 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 [小林 由佳] 春学期授業/Spring .....	1560

臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1023】教育分野に関する理論と支援の展開 [谷 由紀子] 春学期 集中 .....	1561
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1027】心の健康教育に関する理論と実践 [小高 佐友里] サマー セッション/Summer Session .....	1562
臨床心理学専攻_専門展開科目(専門技能科目)【S1028】力動的な心理療法特論 [中 康] 春学期授業/Spring .....	1563
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1103】論文研究指導 [小林 由佳] 年間授業/Yearly .....	1564
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1104】論文研究指導 [末武 康弘] 年間授業/Yearly .....	1565
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1105】論文研究指導 [関谷 秀子] 年間授業/Yearly .....	1566
【S9999】地域・政策系特殊講義Ⅰ [佐野 竜平] .....	1567
【S9999】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ [小林 由佳] .....	1568
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅱ [佐藤 蘭美] .....	1569
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [高良 麻子] .....	1570
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [佐野 竜平] .....	1571
【S9999】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ [末武 康弘] .....	1572
【S9999】地域・文化系特殊講義Ⅰ [野田 岳仁] .....	1573
【S9999】地域・文化系特殊講義Ⅱ [水野 雅男] .....	1574
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [宮城 孝] .....	1575
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅰ [佐藤 蘭美] .....	1576
【S9999】地域・政策系特殊講義Ⅱ [佐野 竜平] .....	1577
【S9999】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ [小林 由佳] .....	1578
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [伊藤 正子] .....	1579
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [岩田 美香] .....	1580
【S9999】人間福祉特別演習Ⅱ [佐野 竜平] .....	1581
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅱ [伊藤 正子] .....	1582
【S9999】人間福祉特別演習Ⅱ [末武 康弘] .....	1583
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅰ [伊藤 正子] .....	1584
【S9999】地域・政策系特殊講義Ⅱ [土肥 将敦] .....	1585
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅰ [宮城 孝] .....	1586
【S9999】地域・文化系特殊講義Ⅰ [水野 雅男] .....	1587
【S9999】人間福祉特別演習Ⅲ [宮城 孝] .....	1588
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅱ [岩田 美香] .....	1589
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [末武 康弘] .....	1590
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [佐藤 蘭美] .....	1591
【S9999】地域・政策系特殊講義Ⅰ [土肥 将敦] .....	1592
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅰ [岩田 美香] .....	1593
【S9999】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [関谷 秀子] .....	1594
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅱ [高良 麻子] .....	1595
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅰ [高良 麻子] .....	1596
【S9999】地域・文化系特殊講義Ⅱ [野田 岳仁] .....	1597
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [岩崎 晋也] .....	1598
【S9999】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [関谷 秀子] .....	1599
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [土肥 将敦] .....	1600
【S9999】人間福祉特別演習Ⅲ [末武 康弘] .....	1601
【S9999】福祉臨床系特殊講義Ⅱ [宮城 孝] .....	1602
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [関谷 秀子] .....	1603
【S9999】人間福祉特別演習Ⅰ [水野 雅男] .....	1604
【S9999】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ [末武 康弘] .....	1605
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論 [今村 創平] 秋学期授業/Fall .....	1606
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論 [今村 創平] 秋学期授業/Fall .....	1607
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論 [今村 創平] 秋学期授業/Fall .....	1608
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論 [荻原 知子、福島 秀哉] 春学期 前半/Spring(1st half) .....	1609
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論 [荻原 知子、福島 秀哉] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1610
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論 [荻原 知子、福島 秀哉] 春学期前 半/Spring(1st half) .....	1611

修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論 [高見 公雄] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1612
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論 [高見 公雄] 春学期後半/Spring(2nd half)...	1613
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論 [高見 公雄] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1614
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語 [大友 敬三] 春学期授業/Spring ....	1615
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語 [大友 敬三] 春学期授業/Spring .....	1618
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語 [大友 敬三] 春学期授業/Spring .....	1621
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論 [宮武 久佳] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1624
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論 [宮武 久佳] 秋学期後半/Fall(2nd half) .	1625
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論 [宮武 久佳] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1626
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論 [今橋 隆] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1627
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論 [今橋 隆] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1628
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論 [今橋 隆] 秋学期前半/Fall(1st half) ..	1629
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1317】建築プロフェッショナル総合演習1 [赤松 佳珠子、志賀 良和、坂田 泉、藤澤 百合] 春学期授業/Spring .....	1630
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1318】建築プロフェッショナル総合演習2 [赤松 佳珠子、石渡 智秋、鈴木 研一、畠中 克弘] 秋学期授業/Fall .....	1631
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1332】建築構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring .....	1632
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2001】都市環境デザイン工学基礎2 [高見 公雄、酒井 久和、内田 大介] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1633
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2002】災害リスクマネジメント [竹末 直樹、細川 雅則、真下 義章、泉 千年、加古 聡一郎、溝口 宏樹] 春学期授業/Spring.....	1634
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2004】材料科学概論 [羽原 俊祐] 春学期後半/Spring(2nd half)	1635
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2102】比較都市環境デザイン [高見 公雄、伊藤 香織、橋本 圭央] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1636
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2109】社会基盤施設の資産管理 [丸山 明] 春学期授業/Spring	1637
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2110】鋼橋の点検・診断・対策技術 [杉本 一朗] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1639
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2111】複合材料構造解析 [山本 佳士] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1640
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2300】サステイナブル都市デザイン [高見 公雄] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1641
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2302】構造解析と設計 [奥井 義昭] 春学期前半/Spring(1st half).....	1642
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3000】テクニカルライティング [豊島 純子] 春学期授業/Spring ..	1643
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3002】ヒューマンサイエンス論 [谷 直道、榎原 毅] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1645
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3006】身体表現論 [山中 玲子、観世 暁夫、観世 喜正、中司 由起子] 秋学期授業/Fall.....	1647
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3100】ソシオシステムデザイン論 [廣田 尚子] 春学期前半/Spring(1st half).....	1649
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3102】インタフェースデザイン論 [土屋 雅人] 秋学期授業/Fall...	1651
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3114】品質マネジメント論 [池庄司 雅臣] 春学期授業/Spring ....	1652
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3115】プロダクトデザイン論 [安積 伸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1653
修士課程_システムデザイン専攻_スタジオ科目【U3300】システムデザインワークショップ (PBL) [野々部 宏司、安積 伸、田中 豊] 春学期授業/Spring.....	1654
博士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3500】デザイン創生学特論 [土屋 雅人、安積 伸、大西 景太] 春学期授業/Spring .....	1655
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5403】建築学修士研修1 [小堀 哲夫] 春学期授業/Spring.....	1656
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5411】建築学修士研修1 [浜田 英明] 春学期授業/Spring.....	1657
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5418】建築学修士研修2 [山道 拓人] 春学期授業/Spring.....	1658
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5418】建築学修士研修2 [小堀 哲夫] 春学期授業/Spring.....	1659
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5426】建築学修士研修2 [浜田 英明] 春学期授業/Spring.....	1660
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5433】建築学修士プロジェクト1 [山道 拓人] 秋学期授業/Fall .....	1661
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5441】建築学修士プロジェクト1 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall .....	1662
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5448】建築学修士プロジェクト2 [山道 拓人] 秋学期授業/Fall .....	1663

修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5456】建築学修士プロジェクト2 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall	1664
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5903】修士論文(建築) [山道 拓人] 秋学期授業/Fall	1665
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5911】修士論文(建築) [浜田 英明] 秋学期授業/Fall	1666
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6404】都市環境デザイン工学研究1 [高見 公雄] 春学期授業/Spring	1667
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6407】都市環境デザイン工学研究1 [福島 秀哉、渡邊 竜一] 春学期授業/Spring	1668
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6408】都市環境デザイン工学研究1 [酒井 久和] 春学期授業/Spring	1669
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6414】都市環境デザイン工学研究2 [高見 公雄] 秋学期授業/Fall	1670
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6417】都市環境デザイン工学研究2 [福島 秀哉、渡邊 竜一] 秋学期授業/Fall	1671
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6418】都市環境デザイン工学研究2 [酒井 久和] 秋学期授業/Fall	1672
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6423】都市環境デザイン工学研究3 [内田 大介] 春学期授業/Spring	1673
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6424】都市環境デザイン工学研究3 [高見 公雄] 春学期授業/Spring	1674
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6427】都市環境デザイン工学研究3 [福島 秀哉、渡邊 竜一] 春学期授業/Spring	1675
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6428】都市環境デザイン工学研究3 [酒井 久和] 春学期授業/Spring	1676
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6429】都市環境デザイン工学研究3 [山本 佳士] 春学期授業/Spring	1677
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6433】都市環境デザイン工学研究4 [内田 大介] 秋学期授業/Fall	1678
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6434】都市環境デザイン工学研究4 [高見 公雄] 秋学期授業/Fall	1679
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6437】都市環境デザイン工学研究4 [福島 秀哉、渡邊 竜一] 秋学期授業/Fall	1680
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6438】都市環境デザイン工学研究4 [酒井 久和] 秋学期授業/Fall	1681
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6439】都市環境デザイン工学研究4 [今井 龍一] 秋学期授業/Fall	1682
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6600】都市環境デザイン工学特別研究1_2014年度以降入学 [今井 龍一] 春学期授業/Spring	1683
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6610】都市環境デザイン工学特別研究2_2014年度以降入学 [今井 龍一] 秋学期授業/Fall	1684
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6902】修士論文(都市) [今井 龍一] 秋学期授業/Fall	1685
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6905】修士論文(都市) [溝渕 利明] 秋学期授業/Fall	1686
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6906】修士論文(都市) [鈴木 善晴] 秋学期授業/Fall	1687
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7401】システムデザイン修士研修1 [安積 伸] 春学期授業/Spring	1688
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7406】システムデザイン修士研修1 [姜 理恵] 春学期授業/Spring	1689
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7412】システムデザイン修士研修2 [安積 伸] 秋学期授業/Fall	1690
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7417】システムデザイン修士研修2 [姜 理恵] 秋学期授業/Fall	1691
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7423】システムデザイン修士研修3 [安積 伸] 春学期授業/Spring	1692
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7428】システムデザイン修士研修3 [姜 理恵] 春学期授業/Spring	1693
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7434】システムデザイン修士研修4 [安積 伸] 秋学期授業/Fall	1694

修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7439】システムデザイン修士研修4 [姜 理恵] 秋学期授業/Fall .....	1695
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7445】システムデザイン修士プロジェクト1 [安積 伸] 春学期授業/Spring .....	1696
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7456】システムデザイン修士プロジェクト2 [安積 伸] 秋学期授業/Fall .....	1697
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7461】システムデザイン修士プロジェクト2 [姜 理恵] 秋学期授業/Fall .....	1698
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7467】システムデザイン修士プロジェクト3 [安積 伸] 春学期授業/Spring .....	1699
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7472】システムデザイン修士プロジェクト3 [姜 理恵] 春学期授業/Spring .....	1700
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7478】システムデザイン修士プロジェクト4 [安積 伸] 秋学期授業/Fall .....	1701
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7483】システムデザイン修士プロジェクト4 [姜 理恵] 秋学期授業/Fall .....	1702
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7901】修士論文(SD) [安積 伸] 秋学期授業/Fall .....	1703
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7906】修士論文(SD) [姜 理恵] 秋学期授業/Fall .....	1704
基礎科目【W0001】経営イノベーション体系 [玄場 公規、坂本 和子、高田 朝子、丹下 英明、豊田 裕貴、松本 敦則、山田 久] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1705
基礎科目【W0003】中小企業戦略論 [丹下 英明] 春学期授業/Spring .....	1706
基礎科目【W0004】マーケティング [坂本 和子] 春学期授業/Spring .....	1709
基礎科目【W0007】ファイナンスⅠ [山崎 泰明] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1711
基礎科目【W0008】ファイナンスⅡ [山崎 泰明] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1713
基礎科目【W0009】人的資源管理論 [山田 久] 春学期授業/Spring .....	1715
基礎科目【W0010】人的資源管理論Ⅰ [山田 久] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1717
基礎科目【W0011】人的資源管理論Ⅱ [山田 久] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1719
基礎科目【W0012】財務会計論(M特必修) [石島 隆] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1721
基礎科目【W0013】財務会計論 [内山 峰男] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1723
基礎科目【W0014】管理会計論 [石島 隆] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1724
基礎科目【W0015】ビジネスと租税法 [金田 勇] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1726
基礎科目【W0017】ロジカル・シンキング [村上 健一郎] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1727
基礎科目【W0018】コンサルティング技法 [並木 雄二] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1729
基礎科目【W0019】エスノグラフィのビジネス応用 [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1730
基礎科目【W0020】経営情報戦略 [大塚 有希子] 春学期授業/Spring .....	1732
基礎科目【W0022】消費者行動論 [坂本 和子] 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	1734
専門科目【W0101】創業・ベンチャー起業論 [丹下 英明] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1735
専門科目【W0102】コーチング [稲川 由太郎] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1737
専門科目【W0104】プロジェクト・デザインマネジメントⅠ [大塚 有希子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1739
専門科目【W0104】Project Design ManagementⅠ (Japanese curriculum) [大塚 有希子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1741
専門科目【W0105】Project Design ManagementⅡ (Japanese curriculum) [大塚 有希子] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1743
専門科目【W0105】プロジェクト・デザインマネジメントⅡ [大塚 有希子] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1745
専門科目【W0106】リスクマネジメント概論 [指田 朝久] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1747
専門科目【W0107】事業リスクマネジメントと内部統制 [石島 隆] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1749
専門科目【W0108】生産マネジメント [都丸 孝之] 春学期授業/Spring .....	1751
専門科目【W0109】サプライチェーンマネジメント [都丸 孝之] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1753
専門科目【W0112】プラットフォーム戦略 [長谷川 純一] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1754
専門科目【W0113】グローバルビジネス経営論 [山本 晋也] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1756
専門科目【W0114】コミュニケーションマネジメント [浦上 早苗] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1757
専門科目【W0115】ヘルスケアマネジメント [山田 敦弘] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1759
専門科目【W0117】コンテンツビジネス論 [岩崎 達也] 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	1761
専門科目【W0118】中小企業総合経営論Ⅰ [並木 雄二] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1763
専門科目【W0119】中小企業総合経営論Ⅱ [都丸 孝之] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1764
専門科目【W0120】リテール・マネジメント [並木 雄二] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1765
専門科目【W0121】MBA特別講義(マクロ経済と人材経営) [山田 久] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1766

専門科目 【W0122】 サービスマネジメント [齋藤 隆行] 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	1767
専門科目 【W0123】 流通・マーケティング戦略論 [岩瀬 敦智] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1768
専門科目 【W0125】 公共・非営利・社会的企業経営論 [佐藤 裕弥] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1770
専門科目 【W0126】 収益モデルの構築 [山崎 泰明] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1772
専門科目 【W0127】 事業再生・経営革新 [栗本 興治] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1774
専門科目 【W0129】 デジタル・マーケティング [村上 健一郎] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1776
専門科目 【W0130】 ITC ケース研修 [大塚 有希子] 秋学期授業/Fall .....	1778
専門科目 【W0131】 デジタル広告論 [高田 勝裕] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1780
専門科目 【W0132】 データマイニング [豊田 裕貴] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1783
専門科目 【W0133】 デザイン思考とビジネス創出 [都丸 孝之] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1784
応用科目 【W1002】 ビジネスイノベーション育成セミナー [坂本 和子] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1785
基礎科目 【W3001】 データベースの基礎 [五月女 健治] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1786
基礎科目 【W3002】 会計入門 [石島 隆] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1787
専門科目 【W3003】 クラウドコンピューティング [五月女 健治] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1789
専門科目 【W3004】 モバイルプログラミング [五月女 健治] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1791
専門科目 【W3005】 モバイルプログラミング (アドバンス) [五月女 健治] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1792
Foundation Courses 【W7001】 Global Management [山本 晋也] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1794
Foundation Courses 【W7002】 Business Communication in Japanese Organization [一守 靖] 春学期後半 /Spring(2nd half) .....	1796
Foundation Courses 【W7003】 Management Strategy [栗原 浩一] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1799
Foundation Courses 【W7004】 Strategic Organizational Management [伊東 久美子] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1800
Foundation Courses 【W7005】 Business Practice in Japan [高田 朝子、Kenneth Pechter] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1801
Specialized Courses 【W7050】 Accounting [鳥飼 裕一] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1803
Specialized Courses 【W7051】 Logical Thinking vs Intuition [西出 香] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1805
Specialized Courses 【W7052】 Financial Management [関 雄太] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1806
Specialized Courses 【W7053】 Global Economic Issues and Innovative Solutions [谷口 和繁] 春学期後半 /Spring(2nd half) .....	1808
Specialized Courses 【W7054】 Human Resource Management in Japan [Nichols David] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1810
Specialized Courses 【W7055】 Managing Talent [豊嶋 晴美] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1812
Specialized Courses 【W7056】 Opportunity and Entrepreneurship in Japan [KENNETH G PECHTER] 春 学期後半/Spring(2nd half) .....	1814
Specialized Courses 【W7057】 Media and Entertainment [KENNETH G PECHTER] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1816
Specialized Courses 【W7058】 Marketing in Japan [大澤 裕] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1818
Specialized Courses 【W7059】 Service Management in Japan [KENNETH G PECHTER] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	1819
Specialized Courses 【W7060】 Innovation in Global business [BIERER, Wolfgang] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1821
Specialized Courses 【W7061】 Leadership, Strategy, and Entrepreneurship [CONNOR Timothy Michael] 春 学期後半/Spring(2nd half) .....	1823
Specialized Courses 【W7062】 Applied Marketing [坂本 和子] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1824
Applied Courses 【W7100】 Project 1-A (Internship) [高田 朝子、Kenneth Pechter、HUG, Jose] 秋学期授業/Fall .....	1825
Applied Courses 【W7101】 Project 1-B (Field Research) [KENNETH G PECHTER] 秋学期授業/Fall .....	1828
Applied Courses 【W7102】 Project 2-A (Internship) [Kenneth Pechter、大澤 裕] 年間授業/Yearly .....	1832
Applied Courses 【W7103】 Project 2-B (Field Research) [Kenneth Pechter、佐藤 裕弥] 年間授業/Yearly ...	1835
Applied Courses 【W7104】 Japanese Management [長谷川 卓也] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1839
Applied Courses 【W7105】 Japanese Production Management & Supply Chain Management [長谷川 卓也] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1841
Applied Courses 【W7106】 Open Innovation [RADHAKRISHNAN NAIR] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1843
Applied Courses 【W7107】 Entrepreneurship and New Business Creation [小村 隆祐] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1845
(修士課程) 基本科目_必修 【XW001】 政策分析の基礎 [高尾 真紀子、石山 恒貴、柿野 成美、橋本 正洋、増淵 敏之、井上 善海、小方 信幸、北郷 裕美] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	1847
(修士課程) 基本科目_必修 【XW002】 政策ワークショップ [柿野 成美] 春学期前半/Spring(1st half) .....	1848
(修士課程) 基本科目_選択必修 【XW003】 調査法 [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	1849

(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW004】</b> 研究法 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	1850
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW007】</b> 日本経済論 [梅溪 健児] 秋学期前半/Fall(1st half)	1851
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW008】</b> 人的資源管理論 [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	1852
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW009】</b> 地域活性化システム論 [高尾 真紀子] 春学期後半/Spring(2nd half)	1853
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW010】</b> 文化地理学 [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	1854
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW011】</b> 都市空間論 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	1855
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW012】</b> 観光社会学 [北郷 裕美] 秋学期前半/Fall(1st half)	1856
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW013】</b> 地域産業論 [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half)	1857
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW014】</b> 中小企業論 [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half)	1858
(修士課程) 基本科目_選択必修	<b>【XW015】</b> CSR論 [小方 信幸] 春学期前半/Spring(1st half)	1859
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW101】</b> 少子高齢化と社会保障 [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1860
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW102】</b> ウェルビーイング論 [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half)	1861
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW103】</b> 実証分析入門 [柿野 成美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1862
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW104】</b> 雇用政策研究 (マクロ) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	1863
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW106】</b> キャリア政策研究 [岸田 泰則] 秋学期前半/Fall(1st half)	1865
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW107】</b> 地域雇用政策事例研究 [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1866
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW108】</b> 人材育成論 [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	1867
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW109】</b> 地域コミュニティ論 [中島 由紀] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1868
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW110】</b> 消費者政策論 [柿野 成美] 春学期後半/Spring(2nd half)	1870
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW111】</b> 生活政策論 [柿野 成美] 秋学期前半/Fall(1st half)	1871
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW112】</b> 男女共同参画政策論 [池永 肇恵] 春学期後半/Spring(2nd half)	1872
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW113】</b> 実践地方行政論 [池永 肇恵] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1873
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群	<b>【XW114】</b> 地域社会論 [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	1874
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW115】</b> 比較都市事例研究 [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	1875
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW116】</b> 文化基盤形成論 [増淵 敏之] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1876
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW117】</b> コミュニティメディア論 [北郷 裕美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1877
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW118】</b> 都市文化論 [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	1878
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW119】</b> ニューツーリズム論 [北郷 裕美] 春学期前半/Spring(1st half)	1879
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW121】</b> コンテンツツーリズム論 [増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half)	1880
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW122】</b> フィールドワーク論 [北郷 裕美] 春学期後半/Spring(2nd half)	1881
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW123】</b> メディア産業論 [増田 弘道] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1882
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW124】</b> イベント・フェスティバル論 [山中 聡] 秋学期後半/Fall(2nd half)	1884
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群	<b>【XW125】</b> 観光マーケティング論 [青木 洋高] 春学期集中/Intensive(Spring)	1885
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群	<b>【XW126】</b> 地域経営戦略論 [橋本 正洋] 春学期後半/Spring(2nd half)	1886

(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW127】 地域イノベーション論 [橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half).....	1887
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW128】 商店街活性化論 [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1888
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW129】 新産業創出論 [井上 善海] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1889
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW130】 イノベーション・マネジメント論 [田中 克昌] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1890
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW131】 事業承継論 [黒澤 佳子] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1891
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW132】 経営戦略論 [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half).....	1892
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW133】 ESG投資と企業経営 [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1893
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW134】 SDGsと企業経営 [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1894
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW136】 コーポレートガバナンス [林 順一] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1895
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW137】 企業活動と社会 I [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1896
(修士課程) 関連科目【XW138】 経済学 [梅溪 健児] 春学期前半/Spring(1st half).....	1897
(修士課程) 関連科目【XW141】 英語論文文献講読 [橋本 正洋] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1899
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW142】 非営利組織特論 [今瀬 政司] 春学期集中/Intensive(Spring).....	1900
(修士課程) 演習科目【XW201】 プログラム演習 [柿野 成美] 春学期授業/Spring.....	1902
(修士課程) 演習科目【XW202】 プログラム演習 [柿野 成美] 秋学期授業/Fall.....	1903
(修士課程) 演習科目【XW203】 プログラム演習 [石山 恒貴] 春学期授業/Spring.....	1904
(修士課程) 演習科目【XW204】 プログラム演習 [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall.....	1905
(修士課程) 演習科目【XW205】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring.....	1906
(修士課程) 演習科目【XW206】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall.....	1907
(修士課程) 演習科目【XW207】 プログラム演習 [増淵 敏之] 春学期授業/Spring.....	1908
(修士課程) 演習科目【XW208】 プログラム演習 [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall.....	1909
(修士課程) 演習科目【XW209】 プログラム演習 [上山 肇] 春学期授業/Spring.....	1910
(修士課程) 演習科目【XW210】 プログラム演習 [上山 肇] 秋学期授業/Fall.....	1911
(修士課程) 演習科目【XW211】 プログラム演習 [北郷 裕美] 春学期授業/Spring.....	1912
(修士課程) 演習科目【XW212】 プログラム演習 [北郷 裕美] 秋学期授業/Fall.....	1913
(修士課程) 演習科目【XW213】 プログラム演習 [橋本 正洋] 春学期授業/Spring.....	1914
(修士課程) 演習科目【XW214】 プログラム演習 [橋本 正洋] 秋学期授業/Fall.....	1915
(修士課程) 演習科目【XW215】 プログラム演習 [井上 善海] 春学期授業/Spring.....	1916
(修士課程) 演習科目【XW216】 プログラム演習 [井上 善海] 秋学期授業/Fall.....	1917
(修士課程) 演習科目【XW217】 プログラム演習 [小方 信幸] 春学期授業/Spring.....	1918
(修士課程) 演習科目【XW218】 プログラム演習 [小方 信幸] 秋学期授業/Fall.....	1919
(博士後期課程) 基本科目【XW301】 研究法 [石山 恒貴、増淵 敏之、北郷 裕美、井上 善海、高尾 真紀子、小方 信幸、橋本 正洋、上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half).....	1920
(博士後期課程) 基本科目【XW302】 外国語文献講読 [橋本 正洋] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1921
(博士後期課程) 基本科目【XW303】 合同ゼミ [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall.....	1922
(博士後期課程) 研究指導科目【XW314】 雇用政策特殊研究Ⅰ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses.....	1923
(博士後期課程) 研究指導科目【XW316】 雇用政策特殊研究Ⅲ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses.....	1925
(博士後期課程) 研究指導科目【XW317】 文化政策特殊研究Ⅰ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses.....	1927
(博士後期課程) 研究指導科目【XW318】 文化政策特殊研究Ⅱ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses.....	1928
(博士後期課程) 研究指導科目【XW319】 文化政策特殊研究Ⅲ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses.....	1929
(博士後期課程) 研究指導科目【XW328】 企業経営特殊研究Ⅲ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses.....	1930
(博士後期課程) 研究指導科目【XW333】 地域社会政策特殊研究Ⅱ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses.....	1932
(博士後期課程) 専門領域科目【XW351】 経済政策特殊講義 (実証分析入門) [柿野 成美] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1933
(博士後期課程) 専門領域科目【XW352】 経済政策特殊講義 (消費者政策論) [柿野 成美] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1934
(博士後期課程) 専門領域科目【XW353】 経済政策特殊講義 (生活政策論) [柿野 成美] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1935
(博士後期課程) 専門領域科目【XW354】 雇用政策特殊講義 (雇用政策研究 (マクロ)) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half).....	1936

(博士後期課程) 専門領域科目 【XW355】 雇用政策特殊講義 (人的資源管理論) [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1938
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW356】 雇用政策特殊講義 (人材育成論) [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1939
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW357】 雇用政策特殊講義 (地域雇用政策事例研究) [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1940
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW358】 地域社会政策特殊講義 (ウェルビーイング論) [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half).....	1941
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW359】 地域社会政策特殊講義 (少子高齢化と社会保障) [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1942
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW360】 地域社会政策特殊講義 (地域活性化システム論) [高尾 真紀子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1943
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW361】 都市政策特殊講義 (地域社会論) [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1944
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW362】 都市政策特殊講義 (都市空間論) [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half).....	1945
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW363】 都市政策特殊講義 (比較都市事例研究) [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1946
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW364】 文化政策特殊講義 (都市文化論) [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half).....	1947
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW365】 文化政策特殊講義 (コンテンツツーリズム論) [増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1948
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW366】 文化政策特殊講義 (文化地理学) [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1949
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW367】 文化政策特殊講義 (文化基盤形成論) [増淵 敏之] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1950
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW368】 観光政策特殊講義 (観光社会学) [北郷 裕美] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1951
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW369】 観光政策特殊講義 (フィールドワーク論) [北郷 裕美] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1952
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW370】 観光政策特殊講義 (コミュニティメディア論) [北郷 裕美] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1953
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW371】 観光政策特殊講義 (ニューツーリズム論) [北郷 裕美] 春学期前半/Spring(1st half).....	1954
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW372】 産業政策特殊講義 (地域産業論) [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1955
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW373】 産業政策特殊講義 (地域経営戦略論) [橋本 正洋] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1956
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW374】 産業政策特殊講義 (地域イノベーション論) [橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half).....	1957
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW375】 企業経営特殊講義 (中小企業論) [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1958
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW376】 企業経営特殊講義 (経営戦略論) [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half).....	1959
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW377】 企業経営特殊講義 (新産業創出論) [井上 善海] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1960
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW378】 企業経営特殊講義 (商店街活性化論) [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1961
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW379】 CSR特殊講義 (CSR論) [小方 信幸] 春学期前半/Spring(1st half).....	1962
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW380】 CSR特殊講義 (企業活動と社会 I) [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1963
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW381】 CSR特殊講義 (ESG投資と企業経営) [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half).....	1964
(博士後期課程) 専門領域科目 【XW382】 CSR特殊講義 (SDGsと企業経営) [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	1965
専門入門科目 100番台 【】 情報学入門 I / II (2019年度以降入学者)・情報科学実習 I / II (2018年度以前入学者) [ ]	1966

ECN100TG (経済学 / Economics 100)
<b>経済学入門 I (前期メディア)</b>
平田 英明
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

**【到達目標】**

現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、のうちいずれかを実施します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給 1	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給 2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給 3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致 (均衡) の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給 4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用 1	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用 2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策 1	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策 2	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性 1	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性 2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用 1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用 2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易 1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。

第14回 国際貿易 2 貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

**【テキスト (教科書)】**

『マンキュー経済学I ミクロ編 (第4版)』N. グレゴリ・マンキュー著 (東洋経済新報社)

第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。基礎的な理論がメインのテキストですので、両版に大差はありません。

**【参考書】**

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著 (東洋経済新報社)

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

毎年、答案の提出について、指示通りでは無い対応をする方がいらっしゃいます。そのような場合は、仮に正答であったとしても加点しない可能性があります。きちんとこちらの指示に従った対応をお願いします。

**【学生の意見等からの気づき】**

中間試験 (中間レポート)、レポート試験後、模範解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いします (お一人、最大で3問程度までとします)。

中間試験がよくても、レポート試験が悪いケースが散見されます。いろいろな理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

**【その他の重要事項】**

過去に試験について、Yahoo知恵袋やLine等で質問や共同作業をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間中は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間 (2日間程度 <毎年、『法政通信』に記載>) で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えます。

**【Outline (in English)】**

This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>マーケティング論 I (前期メディア)</b>
<b>竹内 淑恵</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

**【到達目標】**

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
- ・中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	第1章 マーケティング発想法 - ニューヨークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造 - ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造 - カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造 - サントマリーザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャネルによる顧客創造 - ネスレ日本 ネスカフェアンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。

第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造 - ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解 - ライオン株式会社「Ban 汗ブロック ロールオン」	Ban汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 - ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング - ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第10回	第10章 デイモンドチェーン - カルビー ポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築 - マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動 - カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開 - 花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生 - トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング3.0 - P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。
- ・今年度の配布資料には、新しいデータ等を参考資料として追加します。これらの資料は、企業が投資家向けに毎年公表しているIR情報である「統合報告書」に基づいています。講義の中では言及しませんが、追加資料も各自で確認してください。また、出所をURLで明示しますので、企業の経営戦略やマーケティング戦略等を「統合報告書」で一読するのも大変良い学習になります。チャレンジしてみてください。
- ・関連科目としてマーケティング論IIがあります。あわせて履修することをお勧めします。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

**【参考書】**

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
- ・コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵 直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・中間テスト1,2は各々25%、トータル50%を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
- ・最終課題であるレポート試験を50%として扱い、平常点と加算して評価します。
- ・平常点50点+レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
- ・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になる、大変だという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いします。
- ・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張つてマーケティング論を勉強しましょう！

**【その他の重要事項】**

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

**【Outline (in English)】**

Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and trading objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we will learn the basics of marketing through case studies.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

LAW100AB (法学 / law 100)

## 憲法 I

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 単位数：2単位  
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）  
 その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

### 【到達目標】

- ①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の基本原理、特に国民民主権の規範内容について理解する。
- ③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（Hoppii）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民民主権	国民民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。

第14回 人権の国際的保障 国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はHoppiiを通じて配布するプリントに沿って行う。

### 【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学 [第4版]』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法 I・II [第2版]』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法 I・II』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019年）を推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験の点数によって成績を評価する（100%）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者が変更されたため、フィードバックできない。

### 【その他の重要事項】

#### 【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の経験がある、授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

### 【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB (法学 / law 100)

## 憲法Ⅱ

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

## 【到達目標】

- ①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
- ②個々の人権の保障内容について理解する。
- ③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
- ④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

## 【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（Hoppii）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の種類	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下での平等（平等権）	法の下での平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はHoppiiを通じて配布するプリントに沿って行う。

## 【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験の点数によって成績を評価する（100%）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者が変更されたため、フィードバックできない。

## 【その他の重要事項】

## 【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の経験がある、授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

## 【Outline (in English)】

In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW200AB (法学 / law 200)

## ジェンダーと法 I

寺原 真希子、三浦 徹也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダーという言葉は多義的だが、本講義では「性差についての観念」と広く捉え、交際関係、職場、政治、行政、司法などの様々な場面におけるジェンダーに基づいた偏見や差別の問題を上げる。そして、ジェンダーに基づいた偏見や差別の構造を理解し、法律による対処とその理論的な問題について学ぶ。

対象とするのは女性差別に限られず、男性差別やセクシュアル・マイノリティに対する差別を含む。特にセクシュアル・マイノリティに関する議論は、近年、重要な裁判所の判断が続いているため、実際の裁判の事例を通じて、セクシュアル・マイノリティに関する議論に対する理論的なアプローチについて学ぶ。

2. 本講義の終盤では、それまでの講義の応用編として、選択的夫婦別姓訴訟と結婚の自由をすべての人に訴訟（いわゆる同性婚訴訟）について取り上げ、現在進行形の取組みとその法的な課題について学ぶ。

### 【到達目標】

1 日常の様々な場面にジェンダーの問題が潜んでいることを知り、それに対して日本や国際社会がどのように取り組んできた内容や議論の到達点を知る。

2 ジェンダーや人権に鋭敏な問題意識を養い、ジェンダーに関する新たな問題に対しても、理論的なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

1 対面での授業をおこなう。資料は授業日の2日前までに学習支援システムに掲載するので、予習として授業の前に資料に目を通してこること。

2 授業では毎回リアクションペーパーを作成し、学習支援システムに非公開で提出する。なお、講義ではセンシティブな内容を扱うことがあるが、リアクションペーパーは自分のことについて無理に開陳する必要は全くない。講義の感想や意見を、教員に開示できる範囲で記載して欲しい。リアクションペーパーに対しては適宜講義の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー論の歴史と意義
2	交際関係とジェンダー	デートDV、性加害等の問題
3	労働とジェンダー	男女間の雇用差別、賃金格差等の問題
4	政治・行政とジェンダー	政治参加の分野や行政における男女格差の問題
5	司法とジェンダー	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	男性にとってのジェンダー論	男性学、男性差別
7	セクシュアル・マイノリティをめぐる諸問題	セクシュアル・マイノリティに関する基本的な知識

8	性自認にかかる裁判事例	経済産業省事件、特例法4号要件事件
9	性的指向にかかる裁判事例	同性カップルをめぐる裁判例等
10	応用編：選択的夫婦別姓訴訟1	夫婦の氏に関する裁判の歴史
11	応用編：選択的夫婦別姓訴訟2	夫婦の氏に関する憲法論の現在
12	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）1	日本における婚姻平等の展開
13	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）2	法律上同性の者同士の婚姻に関する憲法論の現在
14	総括	これまでの講義の振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップする資料を使って予習すること。実際の裁判例を取り上げる場合には、紛争の内容や事件の争点を把握するよう努めること。

また、講義において取り上げる法は、憲法、民法、刑法、労働法など多岐にわたる。講義の中でも必要に応じて解説をするが、受講者において、予習・復習として各法の関連分野を学習し、各法の議論の中で、ジェンダーの問題がどのように位置づけられるのかを体系的に整理することが望ましい。

授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

六法（『ポケット六法』『デイリー六法』等）

### 【参考書】

授業で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（90%）及び平常点（リアクションペーパー含む）（10%）で判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更のため）特になし。

### 【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、ジェンダーやセクシュアリティに関する事案や訴訟に日頃から関与している弁護士として、その経験と知識を踏まえた授業を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, we are going to learn gender-based biases and discrimination in everyday situations.

Furthermore, students will delve into theoretical approaches to discussions about sexual minorities by analyzing real legal cases.

Towards the end of the course, we will examine ongoing efforts and legal challenges, including cases like selective surname use and same-sex marriage lawsuits.

### 【Learning Objectives】

1 To know about gender issues in various everyday situations, understand Japan's and the international community's efforts in response, and grasp the current state of gender discussions.

2 To aim to develop theoretical approaches to new gender-related issues

### 【Learning activities outside of classroom】

Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.

### 【Grading Criteria / Policy】

1 In-class contribution(including reaction papers)(10%)

2 Term-end examination(90%)

LAW300AB (法学 / law 300)

憲法訴訟論

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを目指す。

【到達目標】

付随審査制(司法審査制)としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に着けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制(司法審査制)としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論、諸法理について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

対面式を予定しているが、新型コロナ感性の再拡大などで大学の方針が変更された場合は、オンデマンド式のオンライン授業を行う(詳細は秋学期開始時の第1回授業のガイダンスにおいて説明する)。

授業はHoppiiに事前にアップしたレジュメや資料(資料は対面式が可能な場合は教室で配布する)を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後にHoppiiを通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて、授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合は、オンデマンド方式のビデオによるオンライン授業を行う(詳細は春学期開始時の第1回ガイダンス時に連絡する)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後に、授業の進め方を解説する。
第2回	違憲審査制の諸類型と日本の違憲審査制の特質	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第3回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第4回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。

第5回	憲法判断回避の準則・合憲的限定解釈	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則と合憲的限定解釈について講義する。
第6回	違憲判断の方法と違憲判決の効力(1)	具体的な判例の分析を通じて法令違憲について講義する。
第7回	違憲判断の方法と違憲判決の効力(2)	具体的な判例の分析を通じて適用違憲、処分違憲、違憲判決の効力について講義する。
第8回	立法行為の違憲訴訟	立法行為、とりわけ立法の不作为の違憲訴訟について講義する。
第9回	合理的期間論と事情判決の法理(1)	選挙訴訟を例に挙げて違憲・無効判断の回避手法の展開について講義する。
第10回	合理的期間論と事情判決の法理(2)	前回に引き続き、選挙訴訟を例に挙げて合理的期間論の新たな展開について講義する。
第11回	立法者の合理的意思推定と部分無効の法理	郵便法事件判決と国籍法事件判決を分析し、権利救済のための司法による事実上の立法の意味と限界を探る。
第12回	司法権の限界と部分社会の法理	具体的な判例を紹介しつつ、統治行為論や部分社会の法理の意味と限界を解説する。
第13回	裁判を受ける権利と対審・公開の原則	憲法32条と82条が保障する裁判を受ける権利の意味について、具体的な判例を通じて解説する。
第14回	違憲審査基準の現状と本授業のまとめ	二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業(憲法I~IV)で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。1回の授業につき最低でも4時間の予習復習を行うことが推奨される。

対面式授業の場合には、Hoppiiに事前にアップされた各回の授業内容のビデオ(オンデマンド式)を事前ないし事後に視聴し、また同じくアップされている各回の小テストに授業後に解答するよう努めること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書指定はせず、代わりにオンデマンド方式のビデオで授業内容を解説する予定である。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』(岩波書店、2017年)、3,800円(+税)  
初宿正典他共著『憲法Case and Materials 憲法訴訟』(有斐閣、第2版、2013年) 7,150円  
声部信喜(高橋和幸補訂)『憲法』(岩波書店、第8版、2023年) 3,400円(+税)  
L S憲法研究会編『プロセス演習・憲法』(信山社、第4版、2012年) 5,800円(+税)円

【成績評価の方法と基準】

定期試験(80%)、各回の小テストの合計(15%)、及び授業参加の積極度(5%)により評価する。

なお、対面式試験の実施が不可能になった場合や履修者が少なかった場合は、各回の小テストの合計(50%)、授業アンケートや期末レポート(45%)、その他の授業参加の積極度(5%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

事前や事後の学習、学習準備のため、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

**【その他の重要事項】**

弁護士として訴訟実務も行っているので、憲法訴訟論の中で、必要に応じて実際の訴訟との関連性を考慮した授業を行う。

授業で用いるレジュメや資料はHoppiiに事前にアップしておくので、各自で事前にダウンロード、プリントアウトして、特に対面式授業の場合は授業に持参すること。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** Lecture of Japanese constitutional litigation theories through analysis of some constitutional precedents in Japan.

**【Learning Objectives】** The goals of this course are to be able to understand the proper character of Japanese constitutional litigation system and the actualities of its constitutional decisions.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

**【Grading Criteria/Politics】** Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination:80%, Total of short tests:15%, and in-class contribution;5%.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 租税手続法

中村 信行

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

租税手続法とは、申告、更正・決定といった租税債務の確定手続きや、納税・滞納処分などの徴収手続に関する法を総称する法分野である。各税目の課税額は租税実体法が定めるが、租税手続法は、租税債務が成立してから消滅するまでの手続を定めている。各目税法に加えて、国税通則法と国税徴収法を導入する。租税実体法に比べると、抽象的な議論が一見多く見えるが、行政行為・行政手続・行政訴訟といった行政法一般の考え方や、憲法・民法等の基本法の考え方が多く出てくるので、基本法を学んだ者にとっては、租税実体法よりもなじみやすいかもしれない。なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

### 【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や納付・徴収手続を対象とする法分野である。本講義では、租税の確定手続及び納付・徴収手続に関する法律上の要件や効果について基本的な知識を習得する。また、行政法等の基本法で学んだことがどのように租税の分野に応用されているかを学ぶ。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できるようになる。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、教科書 (該当部分) 及び配布資料に沿って進める。授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として授業時間内に解説時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載したい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	租税手続法総論 課税要件総論	租税手続法総論 (実体法と手続法、行政手続法・行審法・行訴法との関係、通則法・徴収法と各税目との関係) 租税法の基本原則、納税義務の成立と確定
第2回	国税通則法 (1)	申告納税制度、青色申告制度、加算税、情報申告 (教科書 25-30 頁)
第3回	国税通則法 (2)	更正・決定、源泉徴収、質問検査権、推計課税 (教科書 30-39 頁)
第4回	国税通則法 (3)	納税義務者、納税義務の承継、第二次納税義務、租税の納付 (教科書 40-45 頁)
第5回	国税徴収法	徴収手続き (教科書 46-52 頁)
第6回	納税環境整備等	還付、マイナンバー制度 (教科書 52-54 頁)
第7回	租税争訟法 (1)	租税争訟制度
第8回	租税争訟法 (2)	租税法務と租税争訟の現状

第9回	憲法における租税	租税法主義、適法手続き
第10回	行政法における租税 (1)	行政行為 (処分の無効、行政行為の撤回、違法性の承継)
第11回	行政法における租税 (2)	行政手続 (理由附記、税務調査の要件、信義則)
第12回	行政法における租税 (3)	行政訴訟 (納税告知、原告適格、判決の効力、国家賠償)
第13回	民商法、刑法における租税	錯誤、損害賠償、租税処罰法
第14回	総括	租税法の実現過程、税制改正等

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の該当ページ、参考判例、配布資料にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

水野忠恒編『テキストブック租税法第3版』(中央経済社、2022)

### 【参考書】

中里実・弘中聡浩他編『租税法概説 (第4版)』(有斐閣、2023) (租税争訟制度・租税法務と租税争訟の現状)

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選 (第7版)』(有斐閣、2021)

税法については、一般の六法のほか、中里実ほか『租税法判例六法 (第6版)』(有斐閣、2023)、e-Gov法令検索により参照できる。

各税目については、税務大学校購本 (<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>) が参考になる。

金子宏『租税法』(弘文堂、2021)

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験20% (レポート)、期末試験70%、平常点10%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

### 【実務経験のある教員による授業】

税法の企画・執行部局での勤務経験、税務実務経験を基に、立法や執行の実態も含めて講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Tax procedural law is a legal field that collectively refers to laws related to procedures for determining tax liabilities, such as tax returns, corrections and determinations, and collection procedures, such as tax payments and delinquent tax payments. While the taxable amount of each tax item is determined by the Tax Substantive Law, the Tax Procedure Law defines the procedures from the establishment of tax liabilities until they are extinguished.

#### 【Learning Objectives】

In this lecture, students will acquire basic knowledge of the legal requirements and effects of tax finalization and payment/collection procedures. Students will also learn how what they have learned in basic laws such as administrative law is applied to the field of taxation.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Study based on the text, judicial precedents and references indicated in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report (20%), term-end examination (70%), and in-class contribution (10%) .

LAW300AB (法学 / law 300)

## 租税実体法

中村 信行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法などを総称する法分野である。これらの主要税目について、各法が課税要件の成立及び税額の確定をどのように定めているかを概観し、各税目の基礎理論を習得する。税制は法律で定められているので、各税目の理解は法の解釈や適用の問題であることを理解し、裁判例を通じて知識を深める。

なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

### 【到達目標】

税制へのアプローチは複数あるが、税制を法律としてとらえ、税法を読み解くことで、税額計算をし、現実の事象を理解し未解決の問題に自らの解決を見出す力を涵養する。これが、社会で必要な税法の知識を身につけ、税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもつことにつながる。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。

なお、後期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の理論、知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、教科書に沿って進め、前期を通して、一冊の通読を図る（前期は、租税実体法なので、租税手続法に関する部分は簡潔に触れる。）。授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載し解説したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	租税法の基本原則	租税法の基本原則
第2回	納税義務の確定手続、納税義務の履行・消滅	納税義務の確定手続、納税義務の履行・消滅
第3回	所得税（1）	所得税の概要～所得分類（1）（教科書55-76頁）
第4回	所得税（2）	所得分類（2）～必要経費（教科書77-100頁）
第5回	所得税（3）	損益通算～所得の帰属と課税単位（教科書100-127頁）
第6回	法人税（1）	法人税の概要～法人所得の概観（教科書128-154頁）
第7回	法人税（2）	法人税額の計算（教科書155-180頁）
第8回	法人税（3）	組織再編成、同族会社（教科書181-195頁）
第9回	相続税・贈与税	相続税・贈与税（教科書196-221頁）
第10回	消費税	消費税（教科書222-260頁）

第11回	国際課税（1）	国際課税（BEPS～納税義務者）（教科書261-278頁）
第12回	国際課税（2）	国際課税（国内源泉所得～国際二重課税の排除）（教科書279-302頁）
第13回	国際課税（3）	国際課税（外国子会社合算税制～支払利子規制税制）（教科書303-329頁）
第14回	総括	租税法及び租税法の解釈、税制改正等

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当ページ、参考判例、配布資料にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

水野忠恒編『テキストブック租税法第3版』（中央経済社、2022）

### 【参考書】

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）

税法については、一般の六法のほか、中里実ほか『租税法判例六法（第6版）』（有斐閣、2023）、e-Gov法令検索により参照できる。各税目については、税務大学校購本（<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>）が参考になる。

金子宏『租税法』（弘文堂、2021）

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験20%（レポート）、期末試験70%、平常点10%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

### 【実務経験のある教員による授業】

税法の企画・執行部局での勤務経験、税務実務経験を基に、立法や執行の実態も含めて講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Tax substantive law is a field of law that collectively refers to income tax law, corporate tax law, inheritance tax law, consumption tax law, and local tax law. This course provides an overview of how laws and regulations establish taxation requirements (and determine the amount of tax) for these major tax items, and acquaints students with the basic theory of each tax. Since each tax is stipulated by law, understanding each tax is a matter of interpretation and application of the law, and students will deepen their knowledge through court cases.

#### 【Learning Objectives】

Although there are multiple approaches to the tax system, we view the tax system as law and read and understand the tax laws to calculate tax amounts and to cultivate the ability to understand real world events and find our own solutions to unresolved problems. This will lead to the acquisition of knowledge of tax law necessary in society and an interest in tax reform debates and articles related to the tax system.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Study based on the text, judicial precedents and references indicated in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (70%), and in-class contribution (10%) .

LAW300AB (法学 / law 300)

## 親族法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

## 【授業の概要と目的】：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答えは一つではない。」

## 【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が行われました。第1編の「総則」も部分的に改正されています。こうした「民法大改正」のうねりの中で、本授業で扱う第4編「親族法」も今年2024年4月から施行される「女性のみの再婚禁止期間はついに撤廃」などの改正があります。さらなる改正も国会で提案されています。

そこで、どのような親族法改正が必須かも学び、考えます。本科目では「夫婦別姓」「同性婚」、さらに憲法との関連では毎年取り上げた「1）離婚後の未成年の子と、2）嫡出でない未成年の子の、片方の親のみによる『単独親権制度』は憲法違反で改正すべきか？」も議論します：1)はまさに「今」2024年3月の国会で民法が「共同親権」の選択肢も与えるように改正されようとしています。

以上を含めて、「民法、その中でも『親族編』の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

●3-4年生とも就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるよう工夫します。

●講義形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答えは一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	現行民法改正過程の前半（主に1946年）に関する講義&質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程の前半（主に1947年）に関する講義(場合によりオンデマンド)&質疑応答
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する講義(場合によりオンデマンド)&質疑応答
第4回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する講義&質疑応答
第5回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する講義&質疑応答
第6回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する講義&質疑応答
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する講義&質疑応答
第8回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第9回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第10回	実親子関係の発生（3）：人工生殖	不妊治療や、そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第11回	養親子関係：子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する講義&質疑応答
第12回	授業内試験【とその振り返り：第13、14回】	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第13回	本授業の総括；および授業内試験の振り返り（1）	本授業「親族法」の内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括&質疑応答
第14回	授業内試験の講評；授業内試験の振り返り（2）	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。  
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：

高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ¥2,500+税  
(前年 2023年度の旧版の教科書とは異なる新版なので注意して下さい。)

#### 【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

#### 【成績評価の方法と基準】

##### 【予定】

[1] 平常点【配点40点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約5グループ [グループ1, 2, 3, 4, 5] に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1回10点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも4回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第1回、第13回 グループ1：第2回、第7回 グループ2：第3回、第8回  
グループ3：第4回、第9回 グループ4：第5回、第10回  
グループ5：第6回、第11回

[2] 期末の「授業内試験」【配点50点】。

[3] 試験採点後の第14回「授業内試験の講評」1回出席で【講評の平常点10点】

●期末の「授業内試験」では、到達目標である：

- 1) 親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
  - 2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
- 以上2点を身につけたかどうかを評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- 【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
- 時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

#### 【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
- 法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。  
「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生も、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】： To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.

【Learning Objectives】： To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】： Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】： Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 相続法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法(労働法中心)」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

#### 【授業の概要と目的】：

●民法典の「第5編 相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する (自分の頭で考える)。正しい答は一つではない。」

#### 【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答は一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察 (自分の頭で考えること)」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」の大改正が、まさいに行われました。それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。

こうした「民法大改正」の一環として、第5編「相続法」にも2018年に国会で改正が行われたことを学びます。

そこで、どのような相続法改正が必須としてすでに行われたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し (自分の頭で考え)、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

●3-4年生とも就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるように工夫します。

●講義形式に加えて講義内容の質疑応答 (ディスカッション) 形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します (匿名です)。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第2回	相続法総論	相続法総論 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権。加えて相続法改正の要点と今後の改正の展望&質疑応答
第3回	相続人 (1)	1. 胎児と相続 2. 相続人の範囲 & 質疑応答
第4回	相続人 (2)	3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除 4. 同時死亡の推定 & 質疑応答
第5回	相続の効力 (1)	1. 相続財産の範囲 2. 法定相続分 & 質疑応答
第6回	相続の効力 (2)	3. 指定相続分 4. 具体的相続分・特別受益、寄与分 & 質疑応答
第7回	遺産分割	1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止 & 質疑応答
第8回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在 & 質疑応答
第9回	遺言	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止 4. 普通方式遺言と特別方式遺言 & 質疑応答
第10回	遺言の効力	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回 & 質疑応答
第11回	遺留分	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄 & 質疑応答
第12回	本授業の総括：相続法の全体像	本授業の総括：相続法の全体像をとらえる内容&質疑応答
第13回	授業内試験【とその振り返り：第14回】	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第14回	授業内試験の講評；授業内試験の振り返り	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書を使用する】：  
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ¥2,500+税  
(前年 2023 年度の旧版の教科書とは異なる新版なので注意して下さい。)

**【参考書】**

必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

**【成績評価の方法と基準】**

**【予定】**

[1] 平常点【配点40点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約5グループ [グループ1, 2, 3, 4, 5] に分け、学習支援システム上の「掲示板」でアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらおう。1回10点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも4回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はアクションペーパーを提出すること：

全員：第1回、第13回 グループ1：第2回、第7回 グループ2：第3回、第8回  
グループ3：第4回、第9回 グループ4：第5回、第10回  
グループ5：第6回、第11回

[2] 期末の「授業内試験」【配点50点】。

[3] 試験採点後の第14回「授業内試験の講評」1回出席で【講評の平常点10点】

●期末の「授業内試験」では、到達目標である：

- 1) 相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
  - 2) 相続法の改正と今後の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
- 以上2点を身につけたかどうかを評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- 【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
- 時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

**【その他の重要事項】**

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
- 法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。  
「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生は、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** : To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.

**【Learning Objectives】** : To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

**【Learning activities outside of classroom】** : Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

**【Grading Criteria/Policy】** : Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 労働法特論

細川 良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

## 【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※

・本講義は、対面授業とします。

※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンスで行います。ガイダンスの受講方法については、学習支援システム「HOPPII」で確認してください（シラバス執筆時点（2024年2月）では、第1回のガイダンスは、オンラインで配信する予定です）。

・授業計画に記載されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。

・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。

・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後に対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第11回	高齢者	高齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。

第13回 外国人 外国人労働者の就労と適用される労働法について学習する。

第14回 まとめ 本講義のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

## 【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

## 【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
- ※その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

## 【成績評価の方法と基準】

試験（100点）

- ・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせで出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
- ・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることとなります。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインに参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

## 【その他の重要事項】

- ・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
- ・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

## 【実務経験のある教員による授業】

講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

## 【Outline (in English)】

## 1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

## 2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

## 3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 4. Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

LAW300AB (法学 / law 300)

## 国際環境法

木村 ひとみ

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では国際社会における環境問題を解決する上で国際環境法・政策が果たす役割について学びます。本講義では、総論として、国際レベルにおける環境問題と国家のかかわり方に関する国際ルール、法構造、制度、実施手段、また、各論として、気候変動、生物多様性、越境大気汚染、海洋汚染、原子力汚染、世界遺産の保全、オゾン層保護、有害廃棄物の越境汚染などの代表的な国際環境問題について学びます。

### 【到達目標】

代表的な多国間環境条約について学び、判例の読み方を習得し、国際レベルでの環境問題への法的課題や時事問題を考察することで、グローバルなものの見方ができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出、演習・授業内での発表(一部)。学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス 国際環境条約の形成と発展	国際環境法とは、領域使用の管理責任(トレイル溶鉱所事件判決)、相隣関係の原則(ラヌー湖事件仲裁判決)
②	原子力汚染と核不拡散・軍縮、戦争と環境破壊	チェルノブイリ原発事件、核実験事件、湾岸戦争、ウクライナ戦争とエコサイド(環境犯罪)
③	国際環境条約の性質	地球環境条約の原則(予防原則など)、定立形式、制度化、手続的義務(事前通報協議義務、環境影響評価など)
④	気候変動	気候変動枠組条約・京都議定書、パリ協定(COP21)、気候変動交渉シミュレーション(演習)
⑤	オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化・森林保全	ウィーン条約・モントリオール議定書、大気汚染・酸性雨とECE長距離越境大気汚染条約、砂漠化対処条約、森林保全(違法伐採、REDD)
⑥	生物多様性	生物多様性条約・カタルヘナ議定書、COP15交渉
⑦	生物多様性	ラムサール条約(鳥インフルエンザと感染症)、ワシントン条約
⑧	世界遺産	世界遺産条約
⑨	海洋汚染	海を巡る日本の領土問題、海洋法条約、ロンドン条約、MARPOL条約、海洋汚濁防止条約、トリー・キャニオン号事件、南シナ海と環境問題
⑩	有害廃棄物の越境汚染	バーゼル条約、残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約、有害化学物質の国際貿易に関するロッテルダム条約(PIC条約)、水俣条約
⑪	地球環境条約の履行実施	報告審査制度、不遵守手続
⑫	南極条約・北極の環境保護	南極条約、北極のエネルギー開発と環境問題(北極航路、先住民族の権利)
⑬	企業のSDGs・ESGに関する環境情報開示とEU指令の域外適用	SDGs・ESGに関する環境情報開示(TCFD、コーポレートガバナンスコード、サステナブルファイナンス開示規則、企業の持続可能性報告指令、環境・人権DD)
⑭	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習：次回の授業で扱うテーマについて参考文献などで精読し、専門用語の意味等を調べておくこと。(2時間)

復習：翌週の授業で理解度を確認するため、授業で扱ったレジュメの箇所を読み返し、授業内容の理解を深めておくこと。(2時間)

### 【テキスト(教科書)】

参考書に挙げた西井(2005年)などをもとにしたレジュメを電子配布します。

### 【参考書】

西井正弘『地球環境条約 生成・展開と国内実施』有斐閣、2005年

水上千之・西井正弘・白杵知史編『国際環境法』有信堂、2006年  
 広部和也・白杵知史『解説国際環境条約集』三省堂、2003年  
 繁田泰宏・佐古田彰『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(100点)(定期試験時のノート・プリント等の持ち込みなし)により行います。授業内外の課題についても評価の対象とし、試験に出題します。

### 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材も効果的に活用しながら、なじみの薄いテーマについても時事問題や具体的事例を織り交ぜながら分かりやすい説明を心がけ、学生の理解度を確認しながら授業を進めたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業で映写する資料はすべて学習支援システム(Hoppi)で電子配布します。

### 【その他の重要事項】

【質問】 質問は授業内の最後に受け付けます。

【実務経験のある教員による授業】 地球環境戦略研究機関(IGES・気候政策プロジェクト)、民間シンクタンク(現三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)・東京経営戦略本部/国際本部)での、国内外政府機関(UNFCCC、UNEP、各国環境省など)への気候変動法政策の立案・海外の大学との共同研究(ケンブリッジ大学、LSE、豪国立大学など)、企業へのISO14001など環境コンサルティングの実務経験(計8年)を生かして、地球環境問題の実践的解決の手法やグローバルな視野の育成も目標とした授業を行います。

### 【Outline (in English)】

【Course outline&Learning Objectives】 Students of this course learn the role international law and policy to play in solving environmental problems in the international community. The course covers general theory of international law, legal structure, institution, and implementation measures, as well as specific areas including climate change, biodiversity, transboundary air pollution, nuclear pollution, world heritages, and ozone layer protection.

【Learning activities outside of classroom】 Students prepare for the class by reading reference books and studying technical words (2 hours) and review the resume after the class (2 hours).

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation is based on the exam at the end of this course (100%) without any materials to bring in. All assignments of this course are subject to the exam.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 社会安全政策論 I

黒岩 操

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

### 【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用したわかりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。出席した皆さんから講義に関する質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察概要、社会安全政策論の定義等
第2回	犯罪情勢	日本の犯罪情勢に係る統計、“安全”と“安心”の違い等
第3回	犯罪予防	犯罪予防総論・各論
第4回	犯罪捜査	捜査の概要、刑事司法手続の概要、捜査の高度化のための取組等
第5回	犯罪被害者支援	犯罪被害者を取り巻く状況、日本における被害者等施策の推移等
第6回	性犯罪対策等	性犯罪対策、ストーカー対策、DV対策等
第7回	子どもを守る施策	児童虐待対策、児童ポルノ対策等
第8回	少年非行対策	少年法の概要、少年非行情勢、少年非行への対策等
第9回	特別講義	実務の現状
第10回	特殊詐欺対策	特殊詐欺の発生状況、手口の詳細、対策等
第11回	サイバー犯罪対策	サイバー犯罪の現状、対策等
第12回	組織犯罪対策	暴力団とは、暴力団やその他の犯罪グループによる犯罪情勢、対策等

第13回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等
第14回	汚職・企業犯罪対策	贈収賄等の汚職事件、企業による不正活動、対策等

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しません

### 【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。その他、講義ごとに参考資料を示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度を平常点として評価します。また、学期末にレポートを提出してもらいます。成績評価に当たっては、それぞれ50%を配分します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう、最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として、事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷し、事前に目を通しておいてください。

### 【その他の重要事項】

#### 【実務経験のある教員による授業】

講師は警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

#### 【Outline (in English)】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.

#### 【Learning Objectives】

People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.

Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Please pay attention to media reports on security events.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.

The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.

50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 法と遺伝学 I

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

★この授業は、「他学部公開科目」であり、他学部生も3-4年生ならどなたでも履修できます！

●テーマ：21世紀の遺伝学・医学・細胞学と法・法学・政策  
その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。

#### 【授業の概要】

①デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？  
2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人はどうなったのでしょうか？

②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性2人の遺伝子を、あるいは男性2人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？

③イギリスでは2015年に既に「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？

#### 【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではないです。世界中で誰もこの3つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する (自分の頭で考える)」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学I」の内容は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

#### 【到達目標】

学生は、21世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的・社会的な解決法を、「正しい答は一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する (自分の頭で考える)」能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

●3-4年生とも就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるよう工夫します。

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。

●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します (匿名です)。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義&質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門；および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解；さらに21世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第2回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(1)	2001-02年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？を解説した上で(場合によりオンデマンド)、ディスカッションを行う。
第3回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(2)	2003-05年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？を解説した上で(場合によりオンデマンド)、ディスカッションを行う。
第4回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(3)	2015-17年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？そして2018年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？を解説した上で、ディスカッションを行う。
第5回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利、特に「出自を知る権利」、その父・母の「出自を知らせる権利・義務」について考え、ディスカッションを行う。多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学I」は近未来のテーマとして≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり、同性間の実子誕生があり得る場合≫を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する。関連するビデオ動画教材も見て、ディスカッションを行う。
第6回	同性間の実子(1)	

第7回	同性間の実子(2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成され、同性間の実子が誕生している≫マウス(ネズミ)、試行中のサイ(絶滅危惧種)、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。	★和田幹彦著『「デザイナー・ベビー」『同性間の実子』再訪：実現性高まる——『ゲノム編集』『男性iPS細胞からの卵子作製』の新技術と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決』2015年 ★和田幹彦著「3人のDNAを継ぐ子を認める法改正——英国の新『ヒト受精及び胚研究法』」2015年 ★ほかに、2020-2024年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など ★経塚淳子(監修)『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ
第8回	同性間の実子(3)	法的に同性婚をした2者の≪遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション≫した例(動画)を見て、「人工主体」の観点も交えて解説し、解説を踏まえたディスカッションを行う。	★経塚淳子(監修)『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ
第9回	「人工主体」と「法と遺伝学」	ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。	【参考書】 必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】
第10回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(1)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかでも、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した正当性と法的・倫理的・社会的諸問題の解説と、ディスカッションを行う。日本政府の対応も検討する。	【成績評価の方法と基準】 【予定】： [1] 平常点【配点40点上限】：【授業計画】の各回参照：初回授業で指示するとおり、履修者を約5グループ[グループ1, 2, 3, 4, 5]に分け、学習支援システム上の「掲示板」でアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらおう。1回10点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも4回の提出機会を与えるが、病欠者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。 以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること： 全員：第1回、第13回 グループ1：第2回、第7回 グループ2：第3回、第8回 グループ3：第4回、第9回 グループ4：第5回、第10回 グループ5：第6回、第11回
第11回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(2)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかで、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否についてディスカッションを行う。	[2] 期末の「授業内試験」【配点50点】。 [3] 試験採点後の第14回「授業内試験の講評」1回出席で【講評の平常点10点】 ● [2] の期末試験では、到達目標である：≪21世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する(自分の頭で考える)」能力を身につけた≫かどうかを基準として、評価します。
第12回	授業内試験【その振り返り：第13, 14回】	本授業「法と遺伝学I」到達目標に達したかを、問題を通じて考え、論述する。	【学生の意見等からの気づき】 ● 質問をしやすい環境をより良く整備します。 ● 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。 ● ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。 ● 時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。
第13回	本授業「法と遺伝学I」の総括：および授業内試験の振り返り(1)	デザイナー・チャイルド、同性間の実子、「人工主体」、3人のDNAを受け継ぐ子ども等のトピックを通じ、「法と遺伝学I」の分野を通じて「独自の思考で考察」した内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括し、ディスカッションを行う。	【その他の重要事項】 ● 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。 ● 法学部以外の学生でも3-4年生はどなたでも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。 ● 法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。 ● 法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。 ● 全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。
第14回	授業内試験の講評；授業内試験の振り返り(2)	本授業「法と遺伝学I」到達目標に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。	【Outline (in English)】 【Course outline】：To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century. 【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備(予習)・復習時間は、1回の授業につき各々2時間(合計4時間)である。

【テキスト(教科書)】

- 【教科書/教材】 必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】のPDF配布は以下の通り：

★和田幹彦著『法と遺伝学』2005年より、抜粋した教材。

**【Learning activities outside of classroom】** : Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

**【Grading Criteria/Policy】** : Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB (法学 / law 300)

## 法と遺伝学Ⅱ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」でもあり、他学部生も3-4年生はどなたでも履修できます！

★その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。

#### 【授業の概要】

人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化、そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょうか？ 例えば：

①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？ (あります！ 第8回授業【人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか】を参照)

②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？ (あります！ 第9回授業【「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説】を参照)

③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？ (あります！ 第5回授業【「法の進化的基盤」の解説】を参照)

#### 【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答え一つではない。世界中で誰もこの3つの間に絶対的な答えを出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学Ⅱ」の内容・到達目標の1つ「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

#### 【到達目標】

【1】学生は、21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに「応える」」能力を身につけること。

【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という考察に繋げること。  
以上の【1】【2】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

●3-4年生とも就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるように工夫します。

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：遺伝学・進化生物学・文化進化論の基礎と、さらに法・法学との関係を解説していきます。

●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答えは一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答え」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション；動画教材による人類400万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出】
第2回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類400万年史視聴(続き)【「成績評価の方法」欄のグループ1はリアクションペーパー提出】
第3回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(1) [(2)は第11回]	教科書欄の【教材1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」の概要解説とディスカッション【グループ2はリアクションペーパー提出】
第4回	遺伝学モデルに基づく「文化進化論」による「法の進化」	教科書13章「ヒトに於ける文化の重要性」に基づく「文化としての法」の「文化進化」の解説とディスカッション【グループ3はリアクションペーパー提出】
第5回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(1)	教科書1,2,3章+【教材2】に基づき「遺伝学は生物進化に直結すること」と「法の進化的基盤」の解説；動画教材視聴；テーマのディスカッション【グループ4はリアクションペーパー提出】
第6回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(2)	教科書1,2,3章に基づき「生物進化の遺伝学上のしくみ」の解説；テーマのディスカッション【グループ5はリアクションペーパー提出】
第7回	ヒト属集団・社会の200万年史における「法の進化」	教科書4,5,6章【+河田雅圭・動画教材】に基づき「人類史の上での法はどのように進化し得たか」の解説；テーマのディスカッション【グループ1はリアクションペーパー提出】
第8回	ヒト属集団・社会における「家族・家族法」の重要性；及び「家族以外との協力行動」としての「法の進化」	教科書7,8,9章に基づき「人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ「法の進化」の中核であること」の解説；テーマのディスカッション【グループ2はリアクションペーパー提出】

第9回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書10,11章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション【グループ3はリアクションペーパー提出】
第10回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書12章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかにつくかの考察・解説；テーマのディスカッション【グループ4はリアクションペーパー提出】
第11回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(2) [(1)は第3回]	教科書欄の【教材1】【教材4】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション【グループ5はリアクションペーパー提出】
第12回	「法と遺伝学II」総括：進化を通じて「法」の本質を探る	この授業の第11回目までを通じて、「進化」を手掛かりに、「法」の機能と本質がどこまで解明できたかの解説と、ディスカッション【リアクションペーパー全員提出】
第13回	授業内試験またはレポート【とその振り返り：第14回】	本授業「法と遺伝学II」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第14回	授業内試験またはレポートの講評	本授業「法と遺伝学II」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。【リアクションペーパー全員提出】

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- 学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

**【テキスト（教科書）】**

- 【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第2版（2022年）東京大学出版会（2,500円+税）：多用するので、必ず入手すること。

- 【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。

【例】【教材1】和田幹彦(2021年刊)「律する」『進化でわかる人間行動の事典』234-238頁.pdf

【教材2】和田幹彦(2023年刊)「『法の進化』研究・素描」.pdf

【教材3】河田雅圭〔東北大学教授・進化生物分野〕(2021年版：学術的内容)「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」

<https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860>

【教材4】河田雅圭〔同上〕『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021年）の第1章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）

<https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb>

【教材5】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ

**【参考書】**

不要（特に指定しない）。

**【成績評価の方法と基準】**

【予定】：

【1】平常点【配点40点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約5グループ〔グループ1, 2, 3, 4, 5〕に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1回10点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも4回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第1回、第13回 グループ1：第2回、第7回 グループ2：第3回、第8回

グループ3：第4回、第9回 グループ4：第5回、第10回

グループ5：第6回、第11回

【2】期末の「授業内試験」または「レポート課題」提出【配点50点】。

【3】「授業内試験」または「レポート課題」採点後の「講評」1回出席で【講評の平常点10点】

●【2】の期末試験またはレポートでは、到達目標である：「≪ 遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の発展の中で、これらの自然科学と連動して、「法とは何か?」という法学の根源的な問いと向き合い、この問いへの「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する」ことにより「この問いに『応える』」能力が身についた≫か、≪ 進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきかという考察に繋げられたか≫を基準として、評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- 【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
- 時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

**【その他の重要事項】**

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着目し、「法とは何か?」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

- 法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。

- 法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ!」姿勢をしっかりと持って下さい。

- 全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

**【Outline (in English)】**

【Course outline】： To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology & Psychology, and Neuroscience".

【Learning Objectives】： To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.

【Learning activities outside of classroom】： Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】： Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB (法学 / law 200)

**演習**

高須 順一

授業形式：演習 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
単位数：4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

民法財産法についてのケーススタディです。民法の解釈能力の向上を目指し、法科大学院への進学や各種法律試験の受験に有意義と想っています。「裁判と法コース」に直結する演習と理解しています。本年度は、昨年度に引き続き、2020年4月1日施行の改正債権法の習得に比重を置いて演習にしたい。また、その後の民法の改正にも留意する予定です。

**【到達目標】**

2年間のゼミを通じて民法財産法の主要な争点について、ひととおり学習することを目標とします。とりわけ、121年ぶりの抜本改正となった改正債権法の内容やその後の民法の改正を十分に学習できるようなゼミを行い、新しい民法の実像を理解することを目指します。また、ゼミ受講によって主体的に勉強するというスキルを身につけることができるようになります。法律の知識の習得はもちろんのこと、法的なものの考え方を体得することもできるようにします。

また、12月に京都で実施される予定のインターカレッジ民法討論会に参加し、プレゼンテーション能力の向上にも務めることも検討しています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

**【授業の進め方と方法】**

予め設例として提示された紛争事例の当事者の立場に立ってもらい、紛争の解決を目指すシミュレーション方法を採用しています。このような方式を取る関係上、毎回のゼミについて予習を行うことが不可欠です。そして、ゼミ当日は自分の頭で考え、対立当事者に対して自分の考えを主張し説得することを心がけてもらいます。また、私のゼミは単位の取得のみを目的とすることなく、卒業後も付き合い合えるような人間関係を作っていきたいと考えています。「元氣一杯、高須ゼミ」のキャッチフレーズのもと、勉強以外の活動も活発に行います。

なお、ゼミ形式での授業ですので教室での対面授業を前提としています。

ゼミ課題に関するフィードバックは、毎回の授業においてその都度、行うこととします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間のゼミの運営方法等を説明する。
第2回	シミュレーション問題の実例	実際にシミュレーション問題を利用してゼミを行ってみる。
第3回	総則法を中心とする問題の検討その1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。権利の濫用及び公序良俗則を扱う。
第4回	総則法を中心とする問題の検討その2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。意思表示の問題を取り上げ、虚偽表示や詐欺等を扱う。
第5回	総則法を中心とする問題の検討その3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。代理人の権限濫用及び表現代理等を扱う。

第6回	総則法を中心とする問題の検討その4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。消滅時効を扱う。
第7回	物権法を中心とする問題の検討その1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産物権変動論、とりわけ所有権の移転時期に関する議論を扱う。
第8回	物権法を中心とする問題の検討その2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産対抗問題を扱う。
第9回	物権法を中心とする問題の検討その3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。動産の即時取得を扱う。
第10回	物権法を中心とする問題の検討その4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。抵当権に基づく物上代位を扱う。
第11回	物権法を中心とする問題の検討その5	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。抵当権に基づく不法占拠者等への明渡請求の問題を扱う。
第12回	改正債権法を中心とする問題の検討その1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち特定物売買をめぐる問題を扱う。
第13回	改正債権法を中心とする問題の検討その2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち動産売買(種類売買)をめぐる問題を扱う。
第14回	改正債権法を中心とする問題の検討その3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち請負契約をめぐる問題を扱う。
第15回	改正債権法を中心とする問題の検討その4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。債権者代位権を扱う。
第16回	改正債権法を中心とする問題の検討その5	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。詐害行為取消権を扱う。
第17回	改正債権法を中心とする問題の検討その6	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産質借権をめぐる問題を扱う。
第18回	改正債権法を中心とする問題の検討その7	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。債権譲渡をめぐる問題を扱う。
第19回	改正債権法を中心とする問題の検討その8	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。差押えと相殺の問題を扱う。
第20回	改正債権法を中心とする問題の検討その9	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。契約不適合責任のうち追完請求の問題を扱う。
第21回	改正債権法を中心とする問題の検討その10	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。契約不適合責任のうちの代金減額請求権等の問題を扱う。
第22回	改正債権法を中心とする問題の検討その11	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不法行為責任を扱う。
第23回	改正債権法の検討その1	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。4大論点のうちの保証法制の改正を扱う。
第24回	改正債権法の検討その2	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。4大論点のうちの定型約款の改正を扱う。
第25回	改正債権法の検討その3	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。履行障害法の改正を扱う。
第26回	改正相続法の検討その1	相続法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。対抗要件主義の導入に関する改正を扱う。

- 第27回 改正相続法の検討その2 相続法改正に関する資料等を使用してゼミを行う。配偶者居住権の新設に関する改正を扱う。
- 第28回 改正所有権法の検討 物権編の中の所有権に関する改正法に関して資料等を使用して概括的なゼミを行う。

**【Grading Criteria/Policies】**

Grading will be decided based on the normal points in class (100%).

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

私のゼミでは他大学のゼミとの合同ゼミの実施や、毎年、関西で行われるインターカレッジ民法討論会への参加などの対外的な活動を積極的に行っています。昨年度は金沢大学のゼミとの間で合同ゼミを行いました。また、インカレ民法討論会では昨年度も上位入賞を果たしています。これらのイベントについても積極的に参加してもらい、民法の実力を付けてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

私が作成したゼミ教材（問題集）をテキストとして使用します。その他にも、私が法科大学院の民事法演習で使用している教材や、債権法改正に関して法務省が作成した法制審議会資料等についても適宜、利用する予定です。

**【参考書】**

必要があれば、その都度、指摘します。

**【成績評価の方法と基準】**

1年を通じたゼミにおける平常点で成績を評価します（100%）。ただし、ゼミ内においてレポート等を提出してもらうこともあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート該当科目ではありませんので、特にありません。

**【学生が準備すべき機器他】**

特に使用する予定はありません。

**【その他の重要事項】**

私は本学の1981年度卒業生であり、永年、弁護士を行ってきたものです。司法改革が現実のものとなった今、法曹養成制度も大きく変わろうとしています。このような時代にあって、私は、法律家をめざす後輩の皆さんのために、少しでもお役に立ちたいと考えております。2004年4月に設立された本学法科大学院の実務家教員に就任したのも、そのような考えからです。若い皆さんにとって、勉強よりも大切な何かがあることは、私自身の学生時代の実感からも理解できると思います。しかし、それと同時に自分自身の将来を自分自身の力で切り開くために努力することの大切さも分かって欲しいと思います。熱気あふれるゼミにしたいと考えています。元気な皆さんの参加を期待します。

なお、インターカレッジ民法討論会への参加等の事由により11月以降のスケジュール等が変更になる場合もありますので、その際には改めて学習計画を指示します。

**【副題】**

民法・改正債権法

**【聴講について】**

基本的には聴講は予定していません。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

It is a case study about civil law property law. Aiming at the improvement of the ability for interpretation of the civil law, I think it to be significant for the examination of the entrance into a school of higher grade to the law school and various law examinations. It is understood with practice to be connected directly with "a trial and the law course". This year, I want to make it the practice that placed more weight on the acquisition of the enforcement planned revised credit law on April 1, 2020. We also plan to pay attention to subsequent revisions to the Civil Code.

**【Learning Objectives】**

The goals of this course are to understand of contents of the revised credit law, understand the way of thinking of the legal thing, and it is independent and obtains a technique to study.

**【Learning activities of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content  
Experiment/Practice(one-credit)

LAW200AB (法学 / law 200)

演習

和田 幹彦

授業形式：演習 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
単位数：8単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・「法・生命工学・法解釈学 — 家族と民法特に『親族・相続法』、『法と遺伝学』を素材として —」【それ以外の法的问题の検討も、学生の希望により歓迎する】

・この科目は、6つのコースすべてに属する。

【到達目標】

1) 家族法：学説や判例を覚えるだけではなく、「答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法・相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。

2) 「法と遺伝学・神経科学 (脳科学)」：21世紀の遺伝学・脳科学・医学の発展の中で、新たな法的问题を発見し、その法的・政策的な解決法を、「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」能力を養う。

3) 学生は【授業の概要と目的】の枠外でも、家族・生命工学・生命倫理に直接関わらないテーマならすべて、法的観点から研究テーマとすることが可能。自由に自分の頭で考えたテーマについて、自力で図書館やデータベース、インターネットでリサーチを行い、チームを組んでディベートを行う能力を養う。さらにゼミ生と教員の前でレジュメをまとめ、口頭発表する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

●キーワード：【ワクワクするテーマ】について【自分の頭で考える】！ゼミのネライは、教育の最終ステージの大学だからこそ可能な【好きなことをやる！】【自由にモノを考える！】というチャンスを最大限に活かすこと。これを家族法と「法と遺伝学・脳科学」他の自由テーマの理解の深化につなげます。

●課題・報告等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

●概要：授業計画に示します。でも、この概要もテーマも過去の和田ゼミの例に過ぎません。今年度のゼミの方法も、ディベート・模擬裁判 (やるとして) も、テーマは皆で話し合っ決めてます！

●「ディベートなんかできない」と当初言ったゼミ生も、半年後には「やって良かった」という感想が多々出ています。

●私は日本とスイスで6年間銀行勤務し、ドイツに5年、アメリカに3年住みました。「自国の文化・他文化・多文化」を反映した日本法・諸国の法の理解は、教員の私にとっても、21世紀を生きる学生にとっても、ヒトゴトではありません。ディベートの論題や、個人/グループ研究のテーマに値する、「自分が当事者の課題」です。

●2001-03年、2020年にアメリカで「法と遺伝学/法と進化生物学・心理学」を研究しました。遺伝子操作によるデザイナー・ベビー出生は、遂に2018年11月中国で実現しましたが、事後的に法的対処がなされました。21世紀を生きる諸君に他文化・多文化との接触・紛争解決は日常茶飯事。激動の時代を生きるのに、法・遺伝学・脳科学・生命工学への取り組みも必須。ゼミでの法と文化、法と生命工学、そして法解釈学の研究は、在学中かぎりの「机上の空論」ではなく、諸君の人生に深く関連し、役に立つことに目覚めてほしいです。

●「親族法」「相続法」と、「法と遺伝学 I & II」の同時履修を勧めますが、義務ではありません。

●【重要】2-3年生、または3-4年生の2年間を続けて履修することが前提です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生と教員の自己紹介、今後の予定の打ち合わせ
第2回	ゼミ研究方法の選定	春学期～夏合宿にかけて、ディベートをやるかどうか選定：その一貫として「模範的なディベート試合」の録画を見る
第3回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(1)	ディベートを行う場合、指定する「ディベートの教科書」を少しずつ読み進め、ディベートの技術を身につける。質疑応答を歓迎する (次回以後も同様。)
第4回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(2)	全員で取組むテーマの絞り込み
第5回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(3)	全員で取組むテーマのさらなる絞り込み
第6回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(4)	全員で取り組むテーマの決定
第7回	ディベートの論題 (全体テーマ) についての発表 (1)	決定されたテーマについて、資料収集、発表
第8回	全体テーマについての発表 (2)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第9回	全体テーマについての発表 (3)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第10回	全体テーマについての発表 (4)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第11回	全体テーマについての発表 (5)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第12回	全体テーマについての発表 (6)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第13回	全体テーマについての討論 (1)	ディベートを行う場合、練習試合：第1試合
第14回	全体テーマについての討論 (2)	ディベートを行う場合、練習試合：第2試合
第15回	全体テーマについての討論 (3)	ディベートを行う場合、練習試合：第3試合
第16回	[ゼミ合宿]	ディベート本番試合 3ラウンドを行う
第17回	ゼミ合宿ディベートの成果発表	ディベートの「決勝戦」を行う
第18回	個人・グループ研究発表 (1)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第19回	個人・グループ研究発表 (2)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第20回	個人・グループ研究発表 (3)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第21回	個人・グループ研究発表 (4)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第22回	個人・グループ研究発表 (5)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。

第23回	個人・グループ研究発表(6)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第24回	個人・グループ研究発表(7)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第25回	個人・グループ研究発表(8)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第26回	個人・グループ研究発表(9)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第27回	個人・グループ研究発表(10)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第28回	ゼミ総括・総合討論	教材として、映像教材を用いる(予定)

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習は必須である。

- 準備(予習)・復習時間は、1回の授業につき各々2時間(合計4時間)である。
- 春学期は、各回とも、ディベートを行う場合は、教員が教科書を指定する。指示されたら必ず予習して、質問を考えてくること。
- 秋学期は、個人・グループ・研究発表の1週間前に、発表者は簡単なレジュメを配布する。発表者以外のゼミ生は、これを読んで自分の意見&質問を形成して、翌週の本番の個人発表に臨むこと。

#### 【テキスト(教科書)】

ディベートを行うことをゼミ生自身が決定した場合の教科書：西部直樹『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける—しくみから試合の模擬練習まで』あさ出版、2009年刊、1,575円(あくまで予定なので、ゼミ開講前には、絶対には買わないこと。)

#### 【参考書】

個人・グループ研究発表を行うゼミ生には、必要に応じて参考書・文献・資料を教員からも紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と、授業のディスカッション・ディベートへの参加(40%)、そして各自・各グループが取組んだ研究発表(30%;初年度ゼミ生の秋学期は2度目のディベート等も可能)を、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備する。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついてきやすいように工夫する。
- 時々、教科書や、参考書にもないが、法解釈や、「家族法」・「法と遺伝学」・「法と脳科学」・「家族に関わる諸問題」・法学・法そのものの理解に役に立つエピソードを挿入し、授業をに参加しやすくする。
- ゼミは、憲法と、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修済み、または履修中であることが望まれます。義務ではありません。
- オフィスアワーはアポイントメントが必要です。ゼミ生も、誰でも質問や相談に来ることを歓迎します。

#### 【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して主に日本の法学を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

#### 【副題】

「民法、特に親族法・相続法」「法と遺伝学」

#### 【聴講について】

許可していません。

#### 【Outline (in English)】

Seminar of approximately 20-25 students only,

【Course outline】 : We focus on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics & Neuroscience'" (Other topics are welcome to be discussed or debated on, provided that the students choose to.)

【Learning Objectives】 : To learn, to think on your own, and further to express your own understandings/opinions/assertion through debate and/or academic presentations on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics & Neuroscience'" (or other topics, which are welcome to be discussed, provided that the students choose to.)

【Learning activities outside of classroom】 : Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】 : Class participation for 30/100 points; class presentation through debate and/or of academic research for 70/100 points.

ECN200AC (経済学 / Economics 200)

**経済政策Ⅱ**

前田 佐恵子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

マクロ経済政策を検討するにあたって、政策当局者は様々な統計や分析を参照します。本授業では、さまざまなマクロ経済統計のデータの動きを確認し、また、IS-LMモデルなどの基本的なフレームワークを基に、過去の経済政策や経済状況を考察します。

**【到達目標】**

現実の経済政策を評価する力を身に着けることを目標にします。具体的には、マクロ統計データの動きから経済の状態を説明し、財政政策・金融政策が経済に与える影響を主体的に考察できるようになることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

各種統計の概念を図表などを用いて説明し、経済政策に関するトピックを紹介するなど講義形式で進めます。授業の途中、あるいは、授業後に分析課題等を考える機会を設け、その解答の提出を求めます。翌授業の際に課題の解説等を行い、関連資料をアップロードします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と生活の変遷
2	経済政策のためのマクロ統計1	GDPの概念
3	経済政策のためのマクロ統計2	名目値と実質値、物価
4	経済政策のためのマクロ統計3	景気動向
5	経済政策のためのマクロ統計4	金利と貨幣
6	経済政策のためのマクロ統計5	設備投資と企業行動
7	経済政策のためのマクロ統計6	雇用と賃金
8	経済政策のためのマクロ統計7	所得と消費
9	マクロ経済政策1	乗数理論とIS-LMモデル
10	マクロ経済政策2	景気動向と経済政策
11	マクロ経済政策3	財政政策の効果
12	マクロ経済政策4	金融政策の効果
13	マクロ経済政策5	構造変化と成長
14	期末試験	まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準的な目安とします。復習問題では統計データをパソコンを用いて分析することが望まれます。

**【テキスト（教科書）】**

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学Ⅰ（第4版）』東洋経済新報社

**【参考書】**

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣  
鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子、2019、『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞出版社

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業で授業中に簡単な質問に答えていただくことがあります。また、復習問題では、授業内容に即したデータを加工し、データの動きを確認してもらう内容を含む予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業中は必ずしも必要ありませんが、復習問題について、パソコンを利用した分析が行われることが望ましい。

**【Outline (in English)】****Course Outline**

Policy makers consider economic and financial policies based on a variety of statistics and analysis. In this class, we will look back on past policies and macroeconomic conditions through actual data and basic frameworks such as IS-LM model.

**Learning Objectives**

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

**Learning Activities Outside of Classroom**

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria /Policy**

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義 I (安全保障政策)

半田 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール (文民統制) の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。

【到達目標】

日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とします。仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義 I (安全保障政策)」にアクセスできます。仮登録後の授業は教科書の『変貌する日本の安全保障』(半田滋著・弓立社)や「学習支援システム」にアップする「お知らせ」「教材」を活用して授業を進めます。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、回答します。またメールなどでいただいた疑問についても回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (日本国憲法と自衛隊)	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲としています。自衛隊とはどのような存在なのでしょうか。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。自衛隊の全体像を勉強します。
第2回	日米安全保障体制とは	日米安全保障条約により、米国は日本に基地を置くことが認められています。基地の存在が日本の主権侵害につながる例もあります。米軍駐留の意味について学びます。
第3回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	国土面積の0.6%に過ぎない沖縄県に米軍専用施設の7割が集中しています。米海兵隊のための辺野古新基地の建設をめぐる、沖縄県は政府と鋭く対立しています。米軍基地の現状と問題点を学びます。

第4回	多様化する自衛隊の活動	自衛隊は、日本が他国から侵略されることがないので防衛出動をゼロ。その一方で災害派遣や福島第一原発の事故には出動し、災害救援隊の色彩が強まっています。自衛隊の国内における実像に迫ります。
第5回	国連平和維持活動 (PKO) の現実	冷戦後、自衛隊はPKOへの参加を開始しました。すでに14回の派遣実績があります。南スーダンPKOでは「違憲」との批判がある安法法制が適用されました。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第6回	ソマリア沖の海賊対処/拡大するジブチの自衛隊海外拠点	現在、自衛隊の海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のために初めてアフリカのジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いは何でしょうか。
第7回	テロ、イラク特別措置法による海外派遣	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるので。何が起きていたのか検証します。
第8回	中国の軍事力強化とその狙い	巨大経済圏・安全保障構想「一帯一路」を進める中国。海軍力を強め、外洋進出を図る一方で、米軍の南シナ海進出は阻止する構えです。中国の狙いは何か。日本の安全に影響があるのか学びます。
第9回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢は変化したといえるのでしょうか。北朝鮮の核・ミサイルが日本の安全保障にどのようにかわるのか学習します。
第10回	弾道ミサイル迎撃システムの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入しています。導入を断念したイージス・アショアに代わり、イージス・システム搭載艦2隻の建造が決まりました。問題点を探ります。
第11回	首都圏に配備されたオスプレイ	防衛省は千葉県にオスプレイ17機を配備します。米軍と合わせると日本を飛ぶオスプレイは合計53機に。欠陥機と呼ばれるオスプレイ配備の理由とその問題点を探ります。
第12回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その1	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の中身をみていきます。
第13回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その2	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。中国による台湾の武力統一への警戒を強める米国と日本の敵基地攻撃能力の保有を考えます。

## 第14回 テスト

これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。書籍、資料は持ち込み可とし、スマホ、パソコンなどの電子機器類は不可とします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は昨年12月、国家安全保障戦略、国家防衛戦略(旧防衛計画の大綱)、防衛力整備計画(旧中期防衛力整備計画)の3文書を改定し、「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費のGDP比2%増」を打ち出し、日本の安全保障政策は大転換しました。一方、中国は台湾を武力で統一するのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

半田滋『台湾侵攻に巻き込まれる日本』（あけび書房）

半田滋『変貌する日本の安全保障』（弓立社）

※ともに授業やテストに活用します。

## 【参考書】

防衛省『令和3年版防衛白書 日本の防衛』=あくまで参考資料です。

## 【成績評価の方法と基準】

テストにより、評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料はポータルサイト（Hoppiiの学習支援システム）にアップします。そのために必要な機材（パソコン、スマートフォン、プリンターなど）を準備してください。

## 【その他の重要事項】

東京新聞記者として防衛省・自衛隊、在日米軍の取材を30年以上、続けてきました。現在も防衛ジャーナリストとして、安全保障に関する論考を書籍や雑誌、インターネット番組（デモクラシータイムス『半田滋の眼』など）で発表しています。現場から見える安全保障の実像をみなさんと共有していきます。

## 【Outline (in English)】

I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control, of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

LAW200AB (法学 / law 200)

## 外国書講読 (英語) I

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

★本授業を同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の3-4年生の方も、再度履修できます (制度上許可されています)。

★2年生も履修できます。

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

### 【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の読解力の向上。

★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。

★英語の新たな表現、(たとえば「法と遺伝学」といった) 学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定

★3-4年生が就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるよう工夫します。

★初回授業以後：必ず英和・和英辞典を持参すること (電子辞書・スマホも可)。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。(但し、英語の聞き取り/発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。) ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を (英和・英英) 辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握 (要約：部分的に精読・全訳)

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。

★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習 (さらに授業中) に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①の配信・配布・講読	英和・和英辞典 (電子辞書・スマホも可能) での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション

第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材①テキストを各自講読→学生に授業支援システムを通じて質問させる→教師から学生に質問する (場合によりオンデマンド)→全体の内容の把握と理解
第3回	教材①の講読 (2)	教材①の英文の特徴の把握と授業支援システムを通じての学生・教員間のディスカッション (場合によりオンデマンド)
第4回	教材①の講読 (3)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第5回	教材①の講読 (4)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第6回	教材①の講読 (5)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第7回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第8回	教材②の講読 (2)	教材②の英文の特徴の把握とディスカッション
第9回	教材②の講読 (3)	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第10回	教材②の講読 (4)	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第11回	教材②の講読 (5)	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第12回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第13回	教材③の講読 (2)	教材③の英文の特徴の把握とディスカッション
第14回	教材③の講読 (3)	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

★本授業の予習・復習時間は、各2時間 (合計4時間) を標準とします。

★次回の授業以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布するので、授業参加者 (履修者) は、事前にダウンロード・持ち帰り、予習する。

★予習に際しては、教材の英語のみならず、【内容】を理解できるように、解らない新出の単語・熟語・表現、そして英文テキストの内容に関連する疑問点を、(英和・英英) 辞書やグーグルで徹底的に調べてくること。

★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習 (さらに授業中) に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

### 【テキスト (教科書)】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。

【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2024年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的政策に関する法的・倫理的・社会的諸問題に関する英語文献。具体的例としては：

★国連関連の条約や付随文書：国連憲章；国連人権規約；最新の国連総会議決；

"Resolution adopted by the General Assembly on 26 April 2022"

"Optional Protocol to the International Covenant on Civil and Political Rights"

<https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/optional-protocol-international-covenant-civil-and-political>

★The International Society for Stem Cell Research (ISSCR), "ISSCR Guidelines for Stem Cell Research and Clinical Translation"

<https://www.isscr.org/guidelines>

②先端的法分野：「医事法」「人工生殖」「法と遺伝学」等。具体的例としては：

★イギリスの代表的新聞 The Guardian, "Chinese scientist who edited babies' genes jailed for three years," 31 Dec 2019

<https://www.theguardian.com/world/2019/dec/30/gene-editing-chinese-scientist-he-jiankui-jailed-three-years>

★同上紙 "Scientist who edited babies' genes says he acted 'too quickly'," 4 Feb 2023

<https://www.theguardian.com/science/2023/feb/04/scientist-edited-babies-genes-acted-too-quickly-he-jiankui>

③SOGI (sexual orientation and gender identity)関連。具体的例としては：

★2015年6月のアメリカ連邦最高裁の、同性婚を全国で合憲とした判決文。

★CBS NEWSの書き起こし記事："Diving into the debate over trans athletes," MARCH 27, 2022

<https://www.cbsnews.com/news/diving-into-the-debate-over-trans-athletes/>

★BBC NEWS記事："What Singapore's move to legalise egg freezing says about its society," 28 April, 2022

<https://www.bbc.com/news/world-asia-61076349>

★同上："Toronto professor Jordan Peterson takes on gender-neutral pronouns," 4 November 2016

<https://www.bbc.com/news/world-us-canada-37875695>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト

#### 【参考書】

参考書は指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

#### 【学生の意見等からの気づき】

●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。

●英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。

●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。

●春学期の「法と遺伝学I」、秋学期の「法と遺伝学II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。

●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

#### 【学生が準備すべき機器他】

和英・英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

#### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】：Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both

【Learning activities outside of classroom】：Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria/Policy】：attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

LAW200AB (法学 / law 200)

## 外国書講読 (英語) II

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

★本授業を同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の3-4年生の方も、再度履修できます (制度上許可されています)。

★2年生も履修できます。

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。  
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

### 【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的な英語の読解力の向上。

★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。  
★英語の新たな表現、(たとえば「法と進化生物学・進化心理学・脳科学」という) 学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定

★3-4年生が就職活動などのやむをえない理由で教室授業に参加できない者が多い場合、教室授業+ハイフレックスで遠隔でも参加できるよう工夫します。

★初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること (電子辞書・スマホも可)。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。(但し、英語の聞き取り/発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。) ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を (英和・英英) 辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握 (要約；部分的に精読・全訳)

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。

★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習 (さらに授業中) に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①②の配信・配布	英和・和英辞典 (電子辞書・スマホも可能) での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション

第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材①テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第3回	教材①の講読 (2)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第4回	教材①の講読 (3)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第5回	教材①の講読 (4)	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく≪この論文が例えば「サイエンス誌 (Science)」 「ネイチャー誌 (Nature)」 に掲載された意味≫の英語による学習とディスカッション
第6回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第7回	教材②の講読 (2)	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第8回	教材②の講読 (3)	教材②における法学と、法学に直結する科学の専門的英語・熟語の学び方の解説と、ディスカッション
第9回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読 (1)	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第10回	教材③の講読 (2)	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第11回	教材③の講読 (3)	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第12回	教材③の講読 (4)	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく≪この論文が例えば一流新聞の「ガーディアン紙 (The Guardian)」 「ニューヨークタイムズ紙 (New York Times)」 に掲載された意味≫の英語による学習とディスカッション
第13回	教材④の講読 (1)	教材④テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第14回	教材④の講読 (2)	教材④における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の発展性の理解と、ディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

★本授業の予習・復習時間は、各2時間 (合計4時間) を標準とします。

★教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書 (スマホで使える辞書でも良い) とグーグルで予習して調べておくこと。

★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習 (さらに授業中) に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

### 【テキスト (教科書)】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。

【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2024年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的生命政策 関連:「デザイナー・ベビーの是非と国際的な規制の要否（ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる子どもに関する法的・倫理的・社会的諸問題)」。具体的例としては：

Rosario Isasi et al. (2016), "Editing policy to fit the genome?" in "Science"

②先端的法分野：「法と進化生物学・脳科学」。具体的例としては：

Frank Krueger and Morris Hoffman (2016), "The Emerging Neuroscience of Third-Party Punishment" in "Trends in Neurosciences"

Keelah E.G.Williams et al. (2019), "Capital and punishment: Resource scarcity increases endorsement of the death penalty"

③質の高い時事英語ニュース記事。具体的例としては：

Nature 誌："The effects of overturning Roe v. Wade in seven simple charts," 10 August 2022

<https://www.nature.com/articles/d41586-022-02139-3>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト。例えば日本語ではほとんど紹介されない諸外国の文化に関する記事。具体的例としては：

"Inclusion for All in Bengkulu, Bali's Deaf Village"

<https://www.ashleyderrington.com/blog/post-9>

#### 【参考書】

参考書は指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

#### 【学生の意見等からの気づき】

- クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
- 英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。
- 春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
- 春学期の「法と遺伝学I」、秋学期の「法と遺伝学II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
- 持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

#### 【学生が準備すべき機器他】

和英・英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

#### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】：Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both

【Learning activities outside of classroom】：Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria /Policy】：attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

POL100AC (政治学 / Politics 100)

## 憲法と政治 I

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と基本原則について概観する。

### 【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法の基本原理・基本原則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

Hoppiiを通じて配布するプリントを教材として、講義形式で授業を進める。質問やリアクションペーパー等に対するフィードバックは、授業中に適宜行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と受講上の注意点を説明する。
第2回	社会科学としての法学	法と法学の意義・内容・特徴等について学ぶ。
第3回	立憲主義の意義	立憲主義の意義・内容について学ぶ。
第4回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と法体系における憲法の特質について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家および近代憲法の成立過程について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変容とそれに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第7回	日本憲法史①：明治憲法の成立	明治憲法の成立過程とその運用について学ぶ。
第8回	日本憲法史②：日本国憲法の成立	日本国憲法の成立過程とその法理について学ぶ。
第9回	法の支配	法に支配と意義について学ぶ。
第10回	天皇制	象徴天皇制の意義と天皇の国事行為について学ぶ。
第11回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持の法的意味について学ぶ。
第12回	国民主権・選挙制度	国民主権の意義、および選挙制度の現状と課題について学ぶ。
第13回	憲法改正	憲法改正の手続と改正の限界について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめと期末試験を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】 Hoppiiを通じて配布するプリントを事前によく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。

【復習】 授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、下記に示す参考書等を使って、自分なりに学習を深める。

なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、Hoppiiを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

### 【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）  
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）  
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記到達目標が達成できたか否かを学期末に行う試験によって判定し、成績を評価する（100％）。

### 【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

### 【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

### 【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

POL100AC (政治学 / Politics 100)

## 憲法と政治Ⅱ

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法が定める各種の人権と国家機構の概要について学ぶ。その際、憲法が定める人権と現実の人権状況との乖離、あるいは憲法が定める国家運営の在り方と現実の政治との乖離を考察することによって、憲法と政治の間の落差と緊張関係について考察する。

### 【到達目標】

- ①日本国憲法が定める各種の人権の内容と現実の保障状況について理解する。
- ②日本国憲法が定める国家機構の原理と構造について理解する。
- ③日本国憲法が定める国家運営の在り方と現実政治とのギャップについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

Hoppiiを通じて配布するプリントを教材として、講義形式で授業を進める。質問やリアクションペーパー等に対するフィードバックは、授業中に適宜行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と受講上の注意点を説明する。
第2回	人権の種類	人権の種類の個々の人権の特質について学ぶ。
第3回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第4回	人権の私人間効力	人権の私人間効力の意義と内容、およびそれをめぐる学説・判例について学ぶ。
第5回	平等権	平等権の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第6回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第7回	信教の自由	信教の自由の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第8回	政教分離原則	政教分離原則の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第9回	表現の自由	表現の自由の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第10回	社会権	社会権の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第11回	権力分立制	権力分立制の制度概要と現代的な問題点について学ぶ。

第12回	議院内閣制	国会と内閣の関係、および議院内閣制の意義と問題点について学ぶ。
第13回	違憲審査制	違憲審査制の意義および違憲審査の範囲と限界について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】 Hoppiiを通じて配布するプリントを事前によく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。

【復習】 授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、下記に示す参考書等を使って、自分なりに学習を深める。

なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、Hoppiiを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

### 【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）  
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）  
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記到達目標が達成できたか否かを学期末に行う試験によって判定し、成績を評価する（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

### 【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will learn about the human rights and national institutions stipulated by the Constitution of Japan. And, we will consider the gap and tension between the Constitution and actual politics.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

## 都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

### 【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム (制度、プロセス等) を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ・2024年度から原則対面方式での授業を再開する (ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う)。
- ・授業資料は、授業前日 (月曜日) までに学習支援システムにアップロードする (印刷配布をしない)。
- ・受講者は、授業終了当日 (火曜日) 中 (締切：23時59分) までに講義課題を提出する (ただし、第1回のみは翌週締切とする)。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第2回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程と近代都市計画の誕生
第3回	日本における近代都市計画の導入	明治以降の近代都市の形成とそれを支える制度
第4回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第5回	都市施設1	都市施設の概要、道路
第6回	都市施設2	公園緑地
第7回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第8回	土地利用規制	ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定 (建築基準法)
第9回	地域特性に相応しい土地利用規制1	地区計画
第10回	地域特性に相応しい土地利用規制2	補助的地域地区
第11回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入
第12回	都市の計画	都市計画マスタープラン (都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン)
第13回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第14回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

### 【テキスト (教科書)】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

### 【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」(学芸出版社)  
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

### 【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題 (14回)」の合計 (70%)、「②レポート課題 (2回)」の合計点 (30%) の合計点で評価する (期末試験は実施しない)。

- ・なお、①の提出回数が9回未満 (全14回のうち)、または② (2回のレポートのいずれか) の未提出がある場合には成績評価をしない (E評価とする)。

- 「①授業ごとに出席する課題」の評価 (5段階) は下記になる。  
5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

- 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
- 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

- 0：未提出、締切期限以降の提出 (\*提出締切時間は厳守すること (締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない)。

### ■「②レポート課題」(2回) について

- ・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。

- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。

- ・評価 (5段階) は下記とする。

- 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。

- 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。

- 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。

- 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。

- \*締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

### 【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

### 【その他の重要事項】

受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること (動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること)。

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

**Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).**

POL200AC (政治学 / Politics 200)

## まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み(まちづくり)を対象とする。特に近講義では、物的空間を対象とした取り組みを中心に各テーマの背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

### 【到達目標】

- 1) 都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
- 2) まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ・2024年度から原則対面方式での授業を再開する(ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う)。
- ・授業資料は、授業前日(月曜日)までに学習支援システムにアップロードする(印刷配布をしない)。
- ・受講者は、授業終了当日(火曜日)中(締切：23時59分)までに講義課題を提出する(ただし、第1回のみは翌週締切とする)。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	まちづくりとは
第2回	住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅政策について理解する。
第3回	防災まちづくり1(地震)	地震に伴う大規模災害に備えた対策について理解する。
第4回	防災まちづくり2(風水害)	近年増加している水害等への対応について理解する。
第5回	商業・流通とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、また高齢社会における課題について理解する。
第6回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第7回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第8回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第9回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第10回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第11回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

第12回	公共施設マネジメント	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用のための再配分について理解する。
第14回	草の根まちづくりの事例	地域住民を主体としたまちづくり活動の具体的事例を紹介する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

### 【テキスト(教科書)】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

### 【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」(学芸出版社)  
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」(彰国社)

### 【成績評価の方法と基準】

②レポート課題(2回)の合計点(30%)の合計点で評価する(期末試験は実施しない)。

- ・なお、①の提出回数が9回未満(全14回のうち)、または②(2回のレポートのいずれか)の未提出がある場合には成績評価をしない(E評価とする)。

■「①授業ごとに出題する課題」の評価(5段階)は下記になる。  
5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

- 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
- 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

0：未提出、締切期限以降の提出(\*提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない)。

■「②レポート課題」(2回)について

・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。

- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。

・評価(5段階)は下記とする。

5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。

4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。

3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。

2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。

\*締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

### 【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

### 【その他の重要事項】

・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める(ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める)。

・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。

・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

### 【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.

B. Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

## 都市の環境問題

松村 正治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で扱う範囲は、都市の中で発生する環境問題だけではなく、都市に伴う力が引き起こす地方や遠方の環境問題も扱います。こうした対象に迫るために、都市と環境に関わる社会学・都市計画学・地理学・歴史学・生態学など、複合領域の知見を取り入れます。都市と環境は対立的な概念と思われがちですが、本講義では、都市が環境問題を引き起こす必要悪とは捉えません。環境問題を都市の問題として引き受け、どのような都市をつくれれば、誰ひとり取り残さない環境を実現できるのかを考えます。

### 【到達目標】

- ・環境問題とは何かについて、社会的に考えられるようになる。
- ・都市に伴う権力を理解し、さまざまな環境問題を都市の問題として認識できるようになる。
- ・環境-社会-経済というレイヤーで、環境問題の解決法を模索できるようになる。
- ・都市のあり方について具体的に考え行動することが面白いと思えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこないます。基本的にシラバスに示した進めませんが、受講生の理解度や社会情勢の変化などによって変更することがあります。

授業に用いる教材は学習支援システムを通して提供します。基本的に毎回アクションペーパーを提出していただき、次の授業にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス / 「環境問題」とは何か	本講義の進め方などを短く案内したあと、本講義でいう「環境問題」とは社会的に構築されるものであることを説明します。
2	都市の公害史・終わらない公害	都市の環境問題として「公害」に焦点を当て、おもに1960年代以降の公害史と今日の公害（光害・香害など）を紹介します。
3	「東京」にとっての水保・福島	公害を象徴する水俣病事件と今世紀最悪の公害である福島第一原発事故による放射能汚染を、見田宗介『現代社会の理論』を参考にして、これを「東京」の都市問題として考えます。
4	グローバル化と環境正義	現在の都市環境がきれいになったとしても、都市から排出される廃棄物が地方に、遠方に、将来に運ばれているとしたら公正ではありません。その不公正をただす環境正義や、近年話題の気候正義について考えます。

5	都市と物質循環・水循環	物質循環・水循環の視点から都市を見つめます。江戸のリサイクル事情、東京ごみ戦争、ダム問題、水道事業の民営化などを取りあげます。
6	都市と権力	都市は食料自給率が低いにもかかわらず、戦時中を除いて飢えることはありません。藤田弘夫『都市の論理』を参考にしながら、このような都市を支える権力構造について考えます。
7	都市の交通問題	都市内の交通問題と都市間的高速交通ネットワークの問題について考えます。宇沢弘文『自動車の社会的費用』、新幹線公害、リニア中央新幹線などを取りあげます。
8	都市再開発・ジェントリフィケーション	都市の再開発は環境の改善を目指すものですが、それによって行き場を失う人々が現れることがあります。批判的地理学の研究からジェントリフィケーションの議論を学びながら、誰ひとり取り残さない都市環境について考えます。
9	東京一極集中と脱成長	コロナ禍が落ち着き、日本国内では東京一極集中の傾向が依然として見られます。この弊害を理解するとともに、脱成長や里山資本主義の議論を参考に、これからの日本の都市のありかたを考えます。
10	都市と農・里山 commons	かつて都市には農地は不要と言われていましたが、今日では都市の諸問題を解決する場として農的な役割が期待されています。都市農業、コミュニティガーデン、里山 commons など、最新の動向を取りあげます。
11	都市の生態学	都市は人間生活の利便性を高めるための空間に違いないですが、この中にはさまざまな生きものがいます。都市生態学の最新の知見を参照しながら、都市の生物多様性を高め方について考えます。
12	都市に生きる幸福な若者	少子高齢化、低成長が続く日本社会ですが、若者の主観的な幸福感は高いことが知られています。コミュニティが希薄化し、社会問題・環境問題への当事者意識は低いなかで、都市の環境問題をどう解決できるのかを考えます。
13	社会を変えるには	都市的な経済社会のあり方に疑問を感じても、課題を解決していくイメージが湧かなければ、社会を変えようという気持ちにならないでしょう。環境や社会が「こうあるべき」と、私が「こうありたい」を両立させる方法を探ります。
14	まとめにかえて：都市と分解	これまでの講義をふりかえりながら、分解という視点からあらためて都市を捉えます。その上で、誰ひとり取り残さない環境に向けて、どうすれば持続可能な都市を実現できるのかを考えます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業終了後に、授業をふりかえり、リアクションペーパーを提出してください。

本講義に関連する参考図書を読むことを勧めます。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

さらに深く学びたい場合、以下の参考書が助けになります（発行年順）。

宇沢弘文（1974）『自動車の社会的費用』岩波書店。

藤田弘夫（1993）『都市の論理：権力はなぜ都市を必要とするか』中央公論社。

見田宗介（1996）『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店。

品田謙（2004）『ヒトと緑の空間：かかわりの原構造』東海大学出版会。

小熊英二（2012）『社会を変えるには』講談社。

デビッド・ハーヴェイ（2013）『反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社。

宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全部はうまくいかないのか：現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社。

矢部宏治（2014）『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』集英社。

藤原辰史（2019）『分解の哲学：腐敗と発酵をめぐる思考』青土社。

セルジュ・ラトゥーシュ（2020）『脱成長』白水社。

エマ・マリス（2018）『「自然」という幻想：多自然ガーデニングによる新しい自然保護』草思社。

安藤聡彦・林美帆・丹野春香編（2021）公害スタディーズ：哀しみ、闘い、語りつぐ』ころから。

マシュー・サイド（2021）『多様性の科学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

新保奈穂美（2022）『まちを変える都市型農園：コミュニティを育む空き地活用』学生出版社。

山本真人（2022）『コモンズ思考をマッピングする：ポスト資本主義的ガバナンス』BMFT出版部。

ジェレミー・リフキン（2023）『レジリエンスの時代：再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』集英社。

斎藤幸平（2023）『マルクス解体：プロメテウスの夢とその先』講談社。

藤川賢・友澤悠季編（2023）『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害（シリーズ 環境社会学講座 1）』新泉社。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回授業後に提出するコメント：80%

期末に提出するコメント：20%

※授業内容をまとめても評価できません。授業で取りあげた概念、方法論、事例などをもとに、何を考えたのかを評価します。

※授業中の発言内容によって加点することがあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度受講生の興味関心を踏まえて、授業計画を見直しました。

**【その他の重要事項】**

【実務経験のある教員による授業】環境コンサルタント会社・環境系行政研究機関に約5年勤務、環境NPO代表など市民活動の経験は20年以上。

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

The scope of this lecture covers not only environmental problems that arise within cities, but also local and remote environmental problems caused by the power that accompanies cities. In order to approach these subjects, we will incorporate knowledge from multidisciplinary fields such as sociology, urban planning, geography, history and ecology related to cities and the environment. We take on environmental problems as urban problems and consider what kind of city can realise an environment where no one is left behind.

**【Learning objectives】**

- ・ Be able to think sociologically about what environmental problems are.
- ・ Be able to understand the power that comes with cities and to recognise various environmental problems as urban problems.

・ Be able to seek solutions to environmental problems on an environment-social-economic layer.

・ It becomes interesting to think and act specifically about how cities should be.

**【Learning activities outside of classroom】**

After the class, look back at the class and submit a reaction paper.

I recommend that you read a reference books.

**【Grading Criteria /Policies】**

Reaction papers (may include quizzes): 100%

\*Additional points may be given depending on what is said in class.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

## 現代イスラム世界論

出川 展恒

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のイスラム世界（中東・アフリカ・アジアなど）で起きている重要な出来事や事象について、原因、背景、影響などを理解し、自ら考える習慣を身につけることを目標とする。たとえば、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘がなぜ発生し、世界にどんな影響を与えているか。イランが核開発を進める理由、及び、世界や日本にどんな問題が起きうるか。こうした具体的な問題の原因や背景を学び、解決への道筋を考えることで、激動する現代の国際社会で生きてゆくための基礎知識と思考力を身につける。

### 【到達目標】

①イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が起きた原因と背景、世界に与える影響。②イスラム革命後のイランとアメリカ・イスラエルが激しく敵対している理由は。イランが核開発を進めることで、世界と日本にどんな問題が起きうるか。③同じイスラムの国でも、サウジアラビアとイランが激しく対立してきた理由は。④イスラム過激派組織が生まれ、テロを行うのはなぜか。⑤アフガニスタンでイスラム主義勢力タリバンの支配が復活したのはなぜか。⑥イスラム世界で民主主義は定着するのか。⑦イスラム世界でも、国や地域によってイスラム教の戒律（たとえば飲酒、女性の服装）の規定や習慣が異なるのはなぜか。⑧日本とイスラム世界の関係はどう変化してきたか。こうした具体的な問題の背景や原因を学び、考えることで、激動する国際社会への理解を深め、異文化の人々との相互理解の態度を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。映像資料などを活用し、具体的なイメージを持つよう工夫する。問題意識を持ち、能動的に考える習慣を身につけることを目指す。リアクションペーパーの提出を求め、次回の講義で活用する。履修者数によって方法は変わるが、日本で生活するイスラム教徒との対話の機会を設けたい（1回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の紹介と現代イスラム世界で起きている問題の概略
第2回	イスラエル・パレスチナ問題①	イスラエルとイスラム組織ハマスの軍事衝突、その原因と背景
第3回	イスラエル・パレスチナ問題②	イスラエル建国とパレスチナ問題、中東和平プロセスとその挫折
第4回	サウジアラビア	イスラム教の2大聖地、女性の社会進出、脱石油の経済改革
第5回	イラン①	イラン革命とイスラム体制
第6回	イラン②	イランと対アメリカ、イスラエル、サウジアラビア関係、核開発問題の経緯と今後
第7回	イラク	湾岸戦争とイラク戦争、宗派対立とIS台頭、民主化プロセス
第8回	アラブの春①	「アラブの春」の経緯とその後のアラブ諸国（エジプトを中心に）

第9回	アラブの春②	内戦に陥ったシリア、リビア、イエメン
第10回	イスラム過激派	2001年アメリカ同時多発テロ事件、アルカイダ、IS（イスラム国）の台頭と欧米
第11回	アフガニスタン	タリバンの政権復活と国際社会
第12回	トルコ	トルコ共和国100年、世俗主義とエルドアン政権、クルド問題
第13回	イスラムと日本	日本のイスラム社会、ハラールとは、日本とイスラム世界の関係
第14回	現代世界とイスラム	欧米における反イスラム感情、難民問題、共存への努力

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料には必ず目を通してもらいたい。新聞や放送などメディアを通じて、イスラム世界（中東、アフリカ、アジアなど）で起きている大きな出来事や問題に関心を持つよう努力してほしい。本授業の準備・復習時間は、各90分を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。新聞や雑誌の記事、映像資料などを適宜使用する。

### 【参考書】

適宜紹介する。ベーシックな参考書としては、平凡社『新イスラム事典』、岩波書店『イスラーム辞典』、明石書店『イスラエルを知るための62章』、『パレスチナを知るための60章』、『現代イラクを知るための60章』、『現代エジプトを知るための60章』などエリア・スタディーズのシリーズの関連図書。

### 【成績評価の方法と基準】

中間と期末に合計2回のレポート提出を求め、その内容評価によって成績をつける。現代のイスラム世界で起きていることについて何を学び、どんな問題意識を持ち、さらに知りたいと思ったことは何かについて、記述を求める（中間30%、期末60%）。講義の終わりに提出を求めるリアクションペーパーの内容、講義中の質問、発言の内容を評価対象に加える（10%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、質問も受け付ける。関心が集まった問題、理解しにくかった問題、良い質問については、講義の中でより理解が深まるようフィードバックする。

### 【その他の重要事項】

#### 【実務経験のある教員による授業】

講師はNHKで記者を務め、その後解説委員を務めてきた。過去34年にわたり、中東・イスラム地域の報道に携わってきた。戦争報道も経験している。現場での取材体験に基づいた具体的な話を多く盛り込み、関連する映像も活用して、受講生の理解促進を図りたい。

#### 【Outline (in English)】

The main goals of this lecture are to understand the causes and background or effects of important events and issues happening in the modern Islamic world (in the Middle East, Africa, Asia), as well as, to have habits of thinking about those issues by yourselves. We focus on current world news events, such as the war between Israel and Hamas (Palestinian Islamist group), or Iranian nuclear development issue, and so on. Grading would be done by submitting report papers.

ECN100AC (経済学 / Economics 100)

## 財政と金融 I

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

### 【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政学の歴史	財政学の歴史
第3回	外部性 (1)	外部性の本質
第4回	外部性 (2)	ピグー税・補助金
第5回	外部性 (3)	コースの定理
第6回	公共財 (1)	公共財、準公共財
第7回	公共財 (2)	公共財の最適供給
第8回	公共選択 (1)	リンダールメカニズム、ただ乗り
第9回	公共選択 (2)	アローの不可能性定理、直接民主制
第10回	公共選択 (3)	間接民主制、ログローリング
第11回	税の帰着 (1)	租税原則
第12回	税の帰着 (2)	税の帰着
第13回	最適課税 (1)	超過負担
第14回	最適課税 (2)	最適物品税
第15回	最適課税 (3)	最適所得税

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学 (第4版)』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学 (第4版)』新世社

(6) Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

官庁エコノミスト (経済企画庁 (現内閣府)) として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN100AC (経済学 / Economics 100)

## 財政と金融Ⅱ

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

### 【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、 大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果 (1)	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果 (2)	国民所得の決定、乗数、ビルト インスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果 (3)	IS-LM分析、財政・金融政策の 効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担 (1)	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担 (2)	新古典派
第11回	国債の負担 (3)	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性 (1)	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性 (2)	ドーマーの条件、ドーマーの命 題
第14回	財政の持続可能性 (3)	ボンジスキーム、プライマリー バランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社

- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（40%）と期末試験（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

POL300AD (政治学 / Politics 300)

## 国際NGO論 I

高橋 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGOを含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。

この授業では、実際に国際協力NGOの実務に関わる講師と共に、世界のNGO・NPO、日本のNGO・NPOの発展と歴史について学ぶ。また、授業ではNGOの社会的意義のみならず、現場の経験や葛藤から感じた困難や課題について議論を行い、今後私たちが考えるべき論点を探る。これらを通して、現代社会、未来におけるNGO・NPOの可能性と課題を学ぶ。

## 【到達目標】

- 1、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
- 2、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
- 3、非営利組織の存在を身近なものとして捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

実際に現役でNPOの代表を務める講師が、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。講師が長年従事してきた国際協力NGOや政府開発援助での経験を踏まえて、その社会的意義と役割のみならず葛藤や課題についても率直に共有し、議論したいと思います。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。授業後には、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それを必要に応じて、次の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の狙い、春学期の授業計画の説明。また、講師の経験を通して得たNGOの意義について概説。
第2回	NGO・NPOとは何か	社会におけるNGO・NPOの位置付け。政府や企業との違い。国際NGOの歴史と主な活動。
第3回	国際NGOの実践手法	参加型開発と対話型ファシリテーション手法について
第4回	ワークショップ①	関心課題に取り組んでいるNGOについてリサーチ
第5回	ワークショップ②	グループワーク発表、質疑応答、講評。
第6回	『アフリカ支援は甘くない』を観る①	テーマ「無益な施し」。質疑応答、講評。

第7回	『アフリカ支援は甘くない』を観る②	テーマ「村人の協力」。質疑応答、講評。
第8回	『アフリカ支援は甘くない』を観る③	テーマ「時間との闘い」。質疑応答、講評。
第9回	『アフリカ支援は甘くない』を観る④	テーマ「村に残されたもの」。質疑応答、講評。
第10回	『アフリカ支援は甘くない』を観て	国際協力プロジェクトの進め方について、PCM手法を使って分析し、批評する。
第11回	NGO・NPOの組織マネジメント	NGOの財源、組織運営、ガバナンス、アカウンタビリティ
第12回	NGO・NPOの法人制度	組織に人格を与えるとは？1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第13回	NGOと社会運動	市民社会とは？ ニーズに応えるだけがNGOの役割か？ NGOは、「新しい社会」を拓けるか？ 春学期の授業の全体を振り返る
第14回	まとめ	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。

また、期末レポート提出があります。

本授業の準備学習・復習時間は計1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業にて固定的に使用するテキストはありません。必要に応じて、レジュメと参考文献をこちらで準備します。

また、授業にて使用するパワーポイント（スライド）は授業後、適切な方法で共有します。

## 【参考書】

『NPO・NGOの世界』大橋 正明／利根川 佳子編、放送大学教育振興会、2021年

『国際協力NGOダイレクトリー』JANIC編、JANIC、2008年  
『「連続講義」国際協力NGO』今田克司／原田勝弘編著、日本評論社、2004年

『NGOの選択』JVC、めこん、2005年

『人道援助、そのジレンマ』ロニー・ブローマン、産業図書、2000年

『子どものための小さな援助論』鈴木啓嗣、日本評論社、2012年

『NGOとボランティアの21世紀』デビッド・コーテン、学陽書房、1995年

『変容する参加型開発』サミュエル・ヒッキ／ジャイルズ・モハン編著、明石書店、2008年

『開発援助か社会運動か』定松栄一著、コモンズ、2002年

## 【成績評価の方法と基準】

「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40%）

グループ発表（20%）

期末レポート（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布：課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

## 【その他の重要事項】

授業後10分を、オフィスアワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。

・【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、30年近くODA、NGOで国際協力関係の仕事に従事してきた教員による授業です。これによって国際NGOの社会的意義と役割について実務者の視点から講義をすることができます。また、実際に活動する場合に必要なプロジェクト立案や組織マネジメントについても学ぶことができます。概念学習に終わらず、体験にもとづく具体的かつ実践的な授業科目です。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary. In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.

In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in development NGO practice. In addition, students will share the issues and difficulties attained from the experiences of the lecturer who has been directly involved in NGOs, and will be invited to explore through questions and discussions.

Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.

(Learning Objectives)

- 1、 To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
- 2、 To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
- 3、 Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion

Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.

(Grading Criteria /Policy)

In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.

After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.

Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)

Group presentation (20%)

Final report (40%)

POL300AD (政治学 / Politics 300)

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ウクライナ戦争の長期化や米中「新冷戦」の拡大で、覇権国・米国の地位が揺らいでいます。台湾海峡や朝鮮半島、南シナ海の緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続いています。欧米の自信喪失とグローバルサウスの台頭で、「戦後秩序」が揺らいでいるのです。冷戦後の「平和の配当」を一番享受してきたアジア諸国は、どう対応するのか。どうしたら戦争を予防できるのか。領土問題や歴史認識などお互いの立場の違いを理解しつつ「共存」できる視点を探ります。

【到達目標】

- ①アジアの熱戦と冷戦の経験を欧州と比較しつつ、国際政治の基礎を把握する
- ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
- ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムという「分断国家」を比較してアジア特有のナショナリズムを理解する
- ④グローバルサウスを代表するASEAN諸国の視点や、APEC, TPP など経済統合の意味を理解する
- ⑤以上を通じて、日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

参考にするべき動画や資料を事前に提供したうえで対面授業と討論を行います。

前半はアジアの戦争を欧州の経験と比較して「戦後の平和」を考えます。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など争点を取り上げます。テーマごとに受講生から「討論者」を募集して授業を進めます。国際社会のニュース解説もまじえます。複雑な国際問題を歴史的背景に基づいて理解して、現実の争点を「議論する力」を身につけましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ウクライナ戦争の余波は？ / リン・「冷戦後から新冷戦へ」
第2回	「冷戦の終わり方」欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い / 「封じ込め」と熱い戦争 / アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第3回	対立の原型①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」 / 毛沢東と蒋介石 / 中ソ対立と米中接近 / 共産党の世界観
第4回	対決の原型②：イデオロギーの対決 朝鮮戦争と日米安保	「民族解放」と朝鮮国連軍 / 米韓同盟と日米同盟 / 日韓基本条約と植民地支配の清算
第5回	対決の原型③ ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争 / 第3世界のナショナリズム / メディアと反戦運動 /

第6回	冷戦後①中国の「平和的台頭」とその変質	天安門事件と鄧小平 / APECとWTO加盟 / 香港返還と「一国二制度」 / 海洋強国路線へ
第7回	冷戦後②韓国の民主化と南北関係	軍服からシベリアンへ / 金大中というカリスマ / 米朝交渉の経緯
第8回	冷戦後③カンボジアの平和と米越和解	ドイモイと市場経済 / 日本の和平努力 / 国連PKOの役割 /
第9回	冷戦後④ASEAN : 地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟とARF外交 / アジア金融危機と開発独裁 / APECの迷走 / TPPと「一帯一路」
第10回	民主化と関与政策 : フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第11回	習近平体制の中国	「歴史決議」と「中華民族の偉大な復興」 / 「共同富裕」と市場経済 / ロシア、インド、日本の位置づけ
第12回	米中関係の展開	米国の大統領選挙と中国政策 / 経済安全保障と台湾 / ウクライナ戦争と核抑止
第13回	日本の選択は	日米同盟の深化とは / 台湾海峡と尖閣問題 / 朝鮮半島有事と日韓関係 / 歴史認識問題への姿勢
第14回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティー / 「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略 / 日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起る問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は指定しません。授業支援システムや google クラウドームを使ってレジュメや資料などを配布します。参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

- 小原雅博『戦争と平和の国際政治』(ちくま新書)
- 千々和泰明『戦後日本の安全保障』(中公新書)
- 千々和泰明『戦争はいかに終結したか』(中公新書)
- 佐橋亮『米中対立』(中公新書)
- 毛利和子『日中漂流』(岩波新書)
- 服部龍二『外交ドキュメント 歴史認識』(岩波新書)
- 同『日中国交正常化』(中公新書)
- 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』(新潮選書)
- 五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』(創元社)
- ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』(岩波書店)
- イアン・ブルマ『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
- 若宮啓文『和解とナショナリズム』(朝日新書)
- 波多野澄雄『日本の歴史問題』(中公新書)
- 朴裕河『帝国の慰安婦』(朝日新聞出版)
- 木宮正史『日韓関係史』(岩波書店)
- ドン・オーバードーフアー『二つのコリア』(共同通信)
- 吉田文彦『核のアメリカ』(岩波書店)
- 加納雄大『東南アジア外交』(信山社)

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、授業参加30%で評価します。期末試験の代わりに、自分で選んだテーマについてプレゼンをして、その内容をレポートにまとめて提出することも認めます。テーマ選択については授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipadなどネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

**【その他の重要事項】**

朝日新聞での30年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

**【Outline (in English)】**

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー (基礎的素養) となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助 (ODA) の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か (何と考えられているか) を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているのか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ?」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい! と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が (コロナ危機以前から) 直面する課題	途上国が (コロナ危機前から) 直面してきた様々な課題を、SDGS (持続可能な開発目標) を参考にしながら広く検討する。開発援助にはどのようなアクター (援助機関、途上国政府、企業、NGO等) が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター (援助機関、途上国政府、企業、NGO等) が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助 (ODA) ①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助 (ODA) ②	日本のODAの代表的な事例 (借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助) を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター (二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等) の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突きつけたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか? 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか?

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開:途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊:開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に提出を求める課題（40%）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自PC持参が望ましい。

**【その他の重要事項】**

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

**【Outline (in English)】**

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助 (ODA) の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い (そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである)。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36%という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどうか対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助 (平和構築支援) の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs (持続可能な開発目標) を読み、2000年に策定されたMDGs (ミレニアム開発目標) と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) 等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

- |    |                    |  |
|----|--------------------|--|
| 11 | 日本の政府開発援助（ODA）の特徴① | 第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にもどのように影響したかを検討する。 |
| 12 | 日本の政府開発援助（ODA）の特徴② | 日本のODAは借金を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。  |
| 13 | 日本の政府開発援助（ODA）の特徴③ | 2015年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。                       |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括       | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。  |

**【Outline (in English)】**

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー＜善く、生きる＞ための文章塾』、CCCメディアハウス。  
小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業で提出を求める課題（60%）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40%）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自PC持参が望ましい。

**【その他の重要事項】**

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

POL300AD (政治学 / Politics 300)

## アジア比較政治論 I

高橋 徹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 単位数：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバルサウス」という言葉を近ごろよく目にしませんか？ 新興国・途上国の総称で、人口パワーや高い経済成長を背景に、国際社会で発言力を強めています。とりわけ東南アジアや南アジアは、激化する米中対立の最前線ともなっています。日本にとってアジアとの関係はいっそう重要になり、皆さんも将来、好むと好まざるとにかかわらず、必ず接点を持つはずです。「アジアの中の日本」の行く末を考えるには、何よりも隣人たちとの相互理解が不可欠です。本講座では最新のアジア情勢を紹介しつつ、歴史の「縦軸」と国際関係の「横軸」に視野を広げながら、アジア地政学の理解に努めます。

## 【到達目標】

・アジアの基本知識が身につく、国際ニュースの背景がわかるようになります。  
 ・アジア情勢を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心に、皆さんの意見や問題意識も適宜問いかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバルサウスとアジア	何を、なぜ、どのように学ぶか
第2回	東南アジアとASEAN	この地域の多様性と結束について
第3回	ASEANと日本	50周年を迎えた友好協力の歩み
第4回	タイ①	「民主化の優等生」とクーデターの政治史
第5回	タイ②	「タクシン」とは何だったのか
第6回	インドネシア	ASEANの盟主と「多様性の中の統一」
第7回	マレーシアとシンガポール①	多民族国家の曲折
第8回	マレーシアとシンガポール②	都市国家の光と影
第9回	ミャンマー	遅れてきた民主化と「失敗国家」への退行
第10回	カンボジア	悲劇の現代史と「権力世襲」の力学
第11回	インド①	「グローバルサウスの雄」と戦略的自律
第12回	インド②	「世界最大の民主国家」の虚実
第13回	米中対立とアジア	冷戦からポスト冷戦、そして「新冷戦」へ
第14回	まとめ	アジアとどう向き合っていくか・試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・新聞や雑誌、ネットやテレビの時事ニュースを日々チェックするよう心がけてください。

・講義の前後で、興味を持ったテーマや国・地域があれば、後述する参考文献の一読をお薦めします。

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、パワーポイント等の資料に即して進めます。

## 【参考書】

入門書を列記します。読みやすい新書が多いので、興味に応じて手にとってみてください。

併せて基本情報にアクセスできるウェブサイトを記しております。

※アジア比較政治論（1）（2）共通です。

- ・アジア政治とは何か（岩崎育夫著、中公新書）
- ・入門 東南アジア近現代史（岩崎育夫著、講談社現代新書）
- ・東南アジア史10講（古田元夫著、岩波新書）
- ・アジア経済とは何か（後藤健太著、中公新書）
- ・デジタル化する新興国（伊藤聖聖著、中公新書）
- ・新貿易立国論（大泉啓一郎著、文春新書）
- ・老いていくアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
- ・消費するアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
- ・インド——グローバル・サウスの超大国（近藤正規著、中公新書）
- ・第三の大国 インドの思考（笠井亮平著、文春新書）
- ・インドの正体（伊藤融著、中公新書ラクレ）
- ・ミャンマー現代史（中西嘉宏著、岩波新書）
- ・タイ混迷からの脱出（高橋徹著、日本経済新聞社）
- ・経済大国インドネシア（佐藤百合著、中公新書）
- ・日本型開発協力（松本勝男著、ちくま新書）
- ・マレーシアに学ぶ経済発展戦略（熊谷聡・中村正志著、作品社）
- ・東南アジアスタートアップ大躍進の秘密（中野貴司・鈴木淳著、日経プレミアシリーズ）
- ・国際機関日本アセアンセンター <https://www.asean.or.jp/ja/>
- ・日本外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
- ・日本貿易振興機構（ジェトロ） <https://www.jetro.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験＝50点／小テストやレポート＝30点／平常点＝20点

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

## 【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

日本経済新聞社の編集委員兼論説委員です。2010年～15年にバンコク支局長、19年～22年にはアジア総局長としてタイに計8年間駐在し、広くアジア情勢を取材してきました。政治・経済・社会・外交・事件に関する現場での取材、要人インタビューなどのエピソードも適宜紹介しながら、アジアに興味を持ってもらえる講義を心がけます。

## 【Outline (in English)】

Have you heard the term 'Global South' used a lot these days? It is a collective term for emerging and developing countries that are gaining a stronger voice in the international community because of their population power and high economic growth. Southeast Asia and South Asia in particular are also at the forefront of the escalating US-China conflict. Japan's relations with Asia are becoming increasingly important, and you are bound to come into contact with them in the future, whether you like it or not. Mutual understanding with our neighbours is essential for the future of "Japan in Asia". In this course, while introducing the latest developments in Asia, we will strive to understand Asian geopolitics by broadening our perspective to the "vertical axis" of history and the "horizontal axis" of international relations.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

## アジア比較政治論 II

高橋 徹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバルサウス」と総称される新興国・途上国の中で、とりわけアジア経済は力強い成長を続け、世界経済のけん引役となっています。この地域はまた国境をまたいだ工程間の水平分業や、その原動力となる自由貿易協定（FTA）網でも世界の先頭を走り、日本にとって最重要地域となっています。激化する米中対立は、その入り組んだサプライチェーン（供給網）の再編を迫り、我々にも大きな課題を突きつけています。現代の国際関係において、政治と経済、地政学と「地経学」は不可分です。本講座では、主にマクロ経済や産業、通商といったプリズムを通して、アジア地政学の理解に努めます。

### 【到達目標】

・アジア経済の基本知識が身につく、国際ニュースの背景がわかるようになります。  
・アジア経済を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義を中心に、皆さんの意見や問題意識を適宜問いかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	世界の成長センター	何を、なぜ、どのように学ぶか
第2回	発展の歩みと経済連携	「東アジアの奇跡」と自由貿易の交差点
第3回	ASEANの自動車産業	日本車の「金城湯池」
第4回	勃興するデジタル経済	メガアプリの時代
第5回	開発援助	円借款と「一帯一路」
第6回	エネルギー	脱炭素と安全保障
第7回	タイ	「アジアの工場」の発展史
第8回	インドネシア	資源ナショナリズムの行方
第9回	マレーシア	「中所得国のワナ」抜け出すか
第10回	ベトナム	輸出立国の未来
第11回	インド	「世界の工場」になれるか
第12回	バングラデシュ	脱最貧国とインフラ開発
第13回	オーストラリア	アジアで生きる西欧国家
第14回	まとめ	アジアの成長をどう取り込むか・試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・新聞や雑誌、ネットやテレビのニュースを日々チェックするよう心がけてください。  
・講義の前後で、興味を持ったテーマや国があれば、後述する参考文献の一読をお薦めします。  
・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、パワーポイント等の資料に即して進めます。

### 【参考書】

入門書を列記します。読みやすい新書が多いので、興味に応じて手にとってみてください。

併せて基本情報にアクセスできるウェブサイトを記しておきます  
※アジア比較政治論（1）（2）共通です。

- ・アジア政治とは何か（岩崎育夫著、中公新書）
- ・入門 東南アジア近現代史（岩崎育夫著、講談社現代新書）
- ・東南アジア史10講（古田元夫著、岩波新書）
- ・アジア経済とは何か（後藤健太著、中公新書）
- ・デジタル化する新興国（伊藤亜聖著、中公新書）
- ・新貿易立国論（大泉啓一郎著、文春新書）
- ・老いていくアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
- ・消費するアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
- ・インド——グローバル・サウスの超大国（近藤正規著、中公新書）
- ・第三の大国 インドの思考（笠井亮平著、文春新書）
- ・インドの正体（伊藤融著、中公新書ラクレ）
- ・ミャンマー現代史（中西嘉宏著、岩波新書）
- ・タイ混迷からの脱出（高橋徹著、日本経済新聞社）
- ・経済大国インドネシア（佐藤百合著、中公新書）
- ・日本型開発協力（松本勝男著、ちくま新書）
- ・マレーシアに学ぶ経済発展戦略（熊谷聡・中村正志著、作品社）
- ・東南アジアスタートアップ大躍進の秘密（中野貴司・鈴木淳著、日経プレミアシリーズ）
- ・国際機関日本アセアンセンター <https://www.asean.or.jp/ja/>
- ・日本外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
- ・日本貿易振興機構 <https://www.jetro.go.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験＝50点／小テストやレポート＝30点／平常点＝20点

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

日本経済新聞社の編集委員兼論説委員です。2010年～15年にバンコク支局長、19年～22年にはアジア総局長としてタイに計8年間駐在し、広くアジア情勢を取材してきました。政治・経済・社会・外交・事件に関する現場での取材、要人インタビューなどのエピソードも適宜紹介しながら、アジアに興味を持ってもらえる講義を心がけます。

### 【Outline (in English)】

Among the emerging and developing countries called "Global South", the Asian economy in particular continues to grow strongly and is a driving force behind the global economy. The region also leads the world in the horizontal division of labor between cross-border processes and the network of free trade agreements (FTAs) that drive them, making it a region of paramount importance for the Japanese economy. The escalating conflict between the US and China is forcing a restructuring of its complex supply chains and posing a major challenge to Japan. In contemporary international relations, politics and economics, geo-politics and 'geo-economics' are inseparable. In this course we will seek to understand Asian geopolitics through the prism of macroeconomics, industry and trade.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際社会の法 I

新垣 修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。

【到達目標】

- 1 国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。
- 2 メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1 講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
- 2 アウトライン集 (添付) に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
- 3 授業内で適宜、クイズに対する答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法とは何か？	1 はじめに 2 法とは何か？ 3 国際法の法源 4 国際法の変化 5 まとめ
2	国際社会における法と政治	1 はじめに 2 国際法の法的性質 (1) 否定説 (2) 肯定説 3 法と社会の構造 4 国際社会における法と政治の関係 5 まとめ
3	法政大学は独立国家になれるか？	1 国家であるということ：主権 2 国家承認 (1) 法政大学は独立国家になれるか？ (2) 国家承認とは？ (3) 国家承認の法的性質 (4) 国家と認められるための要件 (5) 国家承認の方法 3 まとめ

4	戦争と平和について考えよう	1 はじめに 2 正戦論 3 無差別戦争観 4 国際連盟の時代：戦争の違法化 5 国際連合の時代：武力行使禁止 6 平和のための結集決議と国連平和維持活動 (PKO) 7 冷戦時代のPKO 8 冷戦終結後のPKO 9 まとめ
5	ウクライナ戦争	1 はじめに 2 背景事情 3 プーチン大統領の根拠 4 国連憲章と国連安保理理事会 5 国連はどうあるべきか？ 6 まとめ
6	国籍と無国籍	1 はじめに 2 国籍とその決定 3 国籍の得喪 4 国際法の機能：国籍の調整 5 無国籍 6 まとめ
7	ツアーでみるニュージーランド	1 はじめに 2 ニュージーランドの概 3 異文化の衝突と共存 4 ニュージーランドの難民保護制度 5 ニュージーランドでの体験：自分の発見と発掘 6 まとめ
8	授業内試験 (1)	第1回- 第7回までの範囲の試験
9	人道支援と法：救済と正義	1 はじめに 2 国際赤十字の誕生 3 その後のデユナン 4 国際人道法の発展 5 人道支援とは何か？ 6 人道支援のジレンマ 7 まとめ
10	気候変動で海に沈む国々？	1 はじめに 2 気候変動・海面上昇と適応策 3 ツバル 4 国外移住政策と外交 5 開発と適応策 6 まとめ
11	ルワンダとジェノサイド	1 はじめに 2 ルワンダ略史 3 ルワンダと植民地政策 4 ウガンダにおけるツチ難民 5 ジェノサイド 6 国際社会の対応 7 まとめ
12	フリチョフ・ナンセン	1 はじめに 2 極北探検と科学 3 外交官 4 国際連盟 5 現代の国際難民法の礎 6 おわりに
13	予備日	その時に話題となっている時事問題を法の観点から取り上げる
14	エピローグ&授業内試験 (2)	本講義全体のまとめ&授業内試験 (2) (第8回- 第13回)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

アウトライン集 (添付) にしたがって予習を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

アウトライン集（添付）に記載しています。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内クイズ	40%
授業内試験（1）の成績	30%
授業内試験（2）の成績	30%

**【学生の意見等からの気づき】**

「ディスカッションや意見共有の機会が多くて良かった」との趣旨の意見がありました。

**【その他の重要事項】**

アウトライン集(添付)を参照してください。

教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

**【Outline (in English)】**

This course explores to seek out the role of law in international society. Examining various topics, participants of the course will learn functions both of international law and municipal law.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際社会の法Ⅱ

新垣 修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。

【到達目標】

- 1 国際人権法の基本的概念を理解します。
- 2 国際社会における人権の価値や意義について考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1 講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
- 2 アウトライン集 (添付) に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
- 3 授業内で適宜、クイズへの答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法と何か？	1 コースオリエンテーション
		2 法とは何か？
		3 国際社会と法
		4 まとめ
2	人間とは何か、人権とは何か？	1 はじめに
		2 人間である条件
		3 人権と人間
		4 人間と他の境界
		5 人間という不確実な存在
		6 変化する人間の概念
		7 人間と人権
		8 おわりに
3	国際人権法の始まりと世界人権宣言	1 はじめに
		2 国際人権法の萌芽
		3 国際人権法の誕生と展開
		(1) 国際連盟と人権：労働と少数者保護
		(2) 国際連合と人権：平和と人権の連結
4	国際人権規約	4 世界人権宣言
		5 国際人権法の拡張
		1 はじめに
		2 市民的及び政治的権利に関する国際規約
		(1) 内容
		(2) 性質
		(3) 実施制度
		3 経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約
		(1) 内容
		(2) 性質
		(3) 実施制度
		4 その後の展開
		5 まとめ

5	第三世代の人権論	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 第三世代の人権論</li> <li>(1) 背景</li> <li>(2) 人権としての発展の権利</li> <li>(3) 概念</li> <li>(4) 批判</li> <li>3 地域的取組み</li> <li>(1) 欧州</li> <li>(2) 米州</li> <li>(3) アフリカ</li> <li>4 まとめ</li> </ol>
6	第1回授業内テスト 子ども (1)	第1回～第5回までの内容
7		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 子どもの権利の歴史</li> <li>(1) 第一次世界大戦後：ジュネーブ宣言 (1924年)</li> <li>(2) 第二次世界大戦後：子どもの権利宣言 (1959年)</li> <li>(3) 子どもの権利条約 (Convention on the Rights of the Child: 1989年国連総会で採択、1990年発効)</li> <li>3 子どもの権利条約：性質と内容</li> <li>(1) 「親によって保護される対象」から「権利の主体」へ</li> <li>① 保護思想と解放思想の対立</li> <li>② 生きる権利、意見表明権、表現・情報の自由、良心、宗教の自由、結社・集会の自由、プライバシー・通信・名誉の保護、参加する権利</li> <li>(2) 「発達するもの」としての子ども</li> <li>① 家庭環境の重視、差別禁止、親に養育される権利</li> <li>② 親と国家の責任</li> <li>(3) 子どもの最善の利益</li> <li>4 子どもの権利条約：実施措置</li> </ol>
8	子ども (2)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 子ども兵 (少年兵・少女兵：child soldier) とは？</li> <li>(1) 定義</li> <li>(2) 歴史</li> <li>2 子ども兵の実態</li> <li>(1) 子どもの徴兵：貧困と恐怖の背景</li> <li>(2) 紛争で消費される子ども達</li> <li>(3) 子どもを兵士に仕立てる方法</li> <li>3 紛争における子ども消費の構造</li> <li>(1) 洗脳と訓練</li> <li>(2) 武器の変化</li> <li>(3) 冷戦構造の崩壊と地域紛争の変化</li> <li>4 子ども兵の心の傷の回復と社会復帰</li> </ol>

9	ジェンダー (1)	1 はじめに 2 国際社会における女性 (1) 国連憲章 (2) 世界女性会議：Mankind から Humankind へ 3 女性差別撤廃条約（女性に 対するあらゆる形態の差別の撤 廃に関する条約：1979年） (1) 権利の内容 (2) 条約の特徴 (3) 条約の実施措置 4 貧困の中の女性 5 まとめ
10	ジェンダー (2)	はじめに 1 セックスとジェンダー 2 女性の排除 3 FGM (Female Genital Mutilation：女性器切除) 4 FGMと国際人権法 おわりに
11	人種差別	1 はじめに 2 人種差別撤廃条約 (1) 背景 (2) 国連と条約締結 (3) 実施制度 3 人種差別撤廃委員会 4 「人種化」する沖縄人 5 沖縄の基地と差別効果 6 プラグマティズムとしての レイシズム禁止規範 7 おわりに
12	難民 (1)	1 はじめに 2 第一次世界大戦後 3 第二次世界大戦後の難民問 題と米国、国連 4 難民条約 5 難民議定書 6 まとめ
13	難民 (2)	1 はじめに 2 難民認定 3 武力紛争と難民
14	エビローグ&第2回 授業内試験	第7回～第13回までの範囲のテ スト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

シラバスと添付のアウトラインにしたがい、予習を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

アウトライン集（添付）参照。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内クイズ 40%

授業内試験(1)の成績 30%

授業内試験(2)の成績 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

「具体的な事例を通して学んだことが良かった」との趣旨のフィードバックが多かったです。

**【その他の重要事項】**

教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

**【Outline (in English)】**

This course will explore history of international law and global policy concerning human rights. It deals with thematic areas including child, gender, refugees and so on.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

**演習**

杉崎 和久

授業形式：演習 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属する科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

**【到達目標】**

- 1) 都市空間に関する現代的課題について、その社会的背景、システム等の課題を理解すること
- 2) 現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

**【授業の進め方と方法】**

- ・授業は原則対面で行う予定であるが、一部リアルタイムオンライン授業などで行うこともある。
- ・東京を対象としたフィールドワーク等を通じて、現代の都市空間における課題の把握、夏期調査に向けた事前学習、秋学期以降のゼミ論文作成のための準備を行う。
- ・課題等については、授業内でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明します。
第2回	現代東京に関するフィールドワーク 1	現代の東京における特徴的な地域の現地踏査をする。
第3回	現代東京に関するフィールドワーク 2	現代の東京における特徴的な地域の現地踏査をする。
第4回	フィールドワーク振り返り	フィールドワークの知見を共有する。
第5回	文献探索方法	図書館利用に関するガイダンス等の方法を理解する。
第6回	現代の都市課題 1	関心ある都市課題について発表する。
第7回	現代の都市課題 2	関心ある都市課題について発表する。
第8回	夏季調査企画検討／ゼミ論文テーマ案検討	夏季調査の候補地の選定をする。
第9回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第10回	夏季調査企画検討／ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第11回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第12回	夏季合宿調査	夏期合宿地に関する事前調査を行う。
第13回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文テーマを検討する。
第14回	夏期調査準備	調査実施に向けた準備作業を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

演習のなかで適宜指示します。

**【参考書】**

演習のなかで適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (60点)、ゼミ内での発言や課題提出などゼミへの貢献度 (40点)

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【学生が準備すべき機器他】**

演習では、情報共有のためにPCあるいはタブレットを使用します。

**【その他の重要事項】**

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、演習を行う。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding the system that controls the formation of urban space
- B. Recognizing the contemporary problems of urban space

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

Grading will be decided based on Usual performance score (60%) and in-class contribution (40%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

## 演習

杉崎 和久

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属する科目である科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

### 【到達目標】

- 1) 都市空間に関する現代的課題について、その社会的拝見、システム等の課題を理解すること
- 2) 現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ・授業は原則対面で行う予定であるが、一部リアルタイムオンライン授業などで行うこともある。
- ・ゼミ論文の作成のための、研究企画作成、調査実施、論文執筆を進めながら、演習での指導を行います。
- ・課題等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏期調査報告書発表	夏期調査報告書内容を共有します
第2回	ゼミ論文作成にむけたオリエンテーション	ゼミ論文作成のための説明をします
第3回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文のテーマを決めます
第4回	既往研究の収集	テーマに関連する既往研究を収集します
第5回	ゼミ論文に関する論点整理	既往研究からテーマに関する論点を整理する
第6回	研究企画	研究企画を検討する
第7回	調査企画	調査企画を検討する
第8回	調査実施	調査を実施する (必要に応じて調査等の相談をうけます)
第9回	調査実施	調査を実施する (必要に応じて調査等の相談をうけます)
第10回	中間発表報告	調査状況の報告をします
第11回	論文相談 (論文作成)	論文執筆をします (必要に応じて相談をうけます)
第12回	論文相談 (論文作成)	論文執筆をします (必要に応じて相談をうけます)
第13回	ゼミ論文提出、発表1	論文を提出し、発表します
第14回	ゼミ論文発表2	提出した論文の発表をします

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

演習のなかで適宜指示します。

### 【参考書】

演習のなかで適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文指導を受けることや最終報告を行うことを前提として、最終提出された論文を対象に下記の評価を行う。

- ・S：論文の内容が優れている。
  - ・A：形式に不備がなく、論文の内容も不備がない。
  - ・B：形式に不備はないが、論文の内容が不整合であるなど、課題がみられる。
  - ・C：指定された期間内に提出しているが、形式等の不備がみられる。
- なお、最終提出を期限内に行うことを単位取得の必須条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【学生が準備すべき機器他】

演習では、情報共有のためにPCあるいはタブレットを使用します。

### 【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、演習を行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

To research advanced examples of solutions to local issues and propose improvements

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

< second year >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal point: 60%、in class contribution: 40%

< third year >

Submission of a paper is a prerequisite for evaluation.

Evaluation will be based on the content of the submitted paper.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

## 現代政策学特講 I (立法学)

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学(教育及び研究)の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、I・IIを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される(べき)内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Iでは、主に政策の形成過程から分析します。

### 【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において(法)制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程(1)	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究(1)	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成過程(2)	テーマに沿った講義
第8回	政府における政策形成の事例研究(2)	テーマに沿った講義

第9回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第10回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第11回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第12回	日本の選挙制度の実態(1)	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙制度の実態(2)	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえると思います。

### 【テキスト(教科書)】

毎回レジュメを配布します。

### 【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』(有斐閣、2021年)。その他については、講義において適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時(学期中に数回)課す課題(50%)、学期末レポート(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

### 【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ(近年の授業で紹介した事例として、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会の財産保全問題など)を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン(オンデマンド)に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

### 【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

## 現代政策学特講Ⅱ (立法学)

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学(教育及び研究)の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかんして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される(べき)内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会(国会)における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

### 【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において(法)制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらおうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「選挙」とは何か	テーマに沿った講義
第3回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第4回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第5回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第6回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第7回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第8回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第9回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義

第10回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第11回	事例研究(1)	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究(2)	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究(3)	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえると思います。

### 【テキスト(教科書)】

毎回レジュメを配布します。

### 【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』(有斐閣、2021年)。その他については、講義において適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時(学期中に数回)課す課題(50%)、学期末レポート(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

### 【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ(近年の授業で紹介した事例として、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会の財産保全問題など)を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン(オンデマンド)に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

### 【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

**演習**

土山 希美枝

授業形式：演習 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 単位数：4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

**【地域から公共政策を考える】**

いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。

このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけではなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。

自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

**【到達目標】**

学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。学生は文献や調査をつうじて政策を分析、検討、評価し、政策作成の基礎的な技法を身につけている。学生は自分の考察を言語化して意見とし、互いに対話し議論してその考察を深めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

**【授業の進め方と方法】**

2021年度の廣瀬の総長就任にともない、2020年度までの廣瀬ゼミを継続させるかたちで、土山希美枝と廣瀬克哉が共同で担当して運営する。主担当者は土山となる。

対面を基本として授業を行う予定だが、感染状況によっては一時Zoomによるオンラインに切りかえる場合がある。

文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう予定である。

課題に対するフィードバックは、主として授業におけるコメントとして行い、当事者への直接的な返答だけでなく、ゼミ員共通の学びとなるようにしたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介とアイスブレイキング	自己紹介とアイスブレイキング
第2回	導入とテキスト選定	3年生による前年度のゼミ論文の発表
第3回	導入テキスト講読1回め	導入段階の文献を分担して1回めの担当者が論評、意見交換
第4回	導入テキスト講読2回め	導入段階の文献を分担して2回めの担当者が論評、意見交換
第5回	導入テキスト講読3回め	導入段階の文献を分担して3回めの担当者が論評、意見交換
第6回	導入テキスト講読4回め	導入段階の文献を分担して4回めの担当者が論評、意見交換

第7回	グループワーク準備	春学期グループワークの具体化のための企画検討
第8回	導入テキスト講読5回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを行う
第9回	導入テキスト講読6回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを続ける
第10回	テキスト選定・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマで集約のためのグループワークを行う
第11回	フィールドワーク報告	テーマに関連したフィールドワークを行った結果を報告する
第12回	テキスト講読1・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第13回	テキスト講読2・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第14回	グループワーク発表	グループワークの成果を発表し、相互に批評検討する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

随時参加者と相談の上決めていく。

**【参考書】**

随時参加者と相談の上決めていく。

**【成績評価の方法と基準】**

授業での報告、討論などでの貢献度を総合的に評価する。現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身につけていればS。以下、その達成度によって成績評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

## 演習

土山 希美枝

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

#### 【地域から公共政策を考える】

いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。

このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけではなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。

自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

#### 【到達目標】

学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。学生は文献や調査をつうじて政策を分析、検討、評価し、政策作成の基礎的な技法を身につけている。学生は自分の考察を言語化して意見とし、互いに対話し議論してその考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

#### 【授業の進め方と方法】

2021年度の廣瀬の総長就任にともない、2020年度までの廣瀬ゼミを継続させるかたちで、土山希美枝と廣瀬克哉が共同で担当して運営する。主担当者は土山となる。

対面を基本として授業を行う予定だが、感染状況によっては一時Zoomによるオンラインに切りかえる場合がある。

文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう予定である。

課題に対するフィードバックは、主として授業におけるコメントとして行い、当事者への直接的な返答だけでなく、ゼミ員共通の学びとなるようにしたい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介とアイスブレイキング	自己紹介とアイスブレイキング
第2回	導入とテキスト選定	3年生による前年度のゼミ論文の発表
第3回	導入テキスト講読1回め	導入段階の文献を分担して1回めの担当者が論評、意見交換
第4回	導入テキスト講読2回め	導入段階の文献を分担して2回めの担当者が論評、意見交換
第5回	導入テキスト講読3回め	導入段階の文献を分担して3回めの担当者が論評、意見交換
第6回	導入テキスト講読4回め	導入段階の文献を分担して4回めの担当者が論評、意見交換

第7回	グループワーク準備	春学期グループワークの具体化のための企画検討
第8回	導入テキスト講読5回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを行う
第9回	導入テキスト講読6回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを続ける
第10回	テキスト選定・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマで集約のためのグループワークを行う
第11回	フィールドワーク報告	テーマに関連したフィールドワークを行った結果を報告する
第12回	テキスト講読1・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第13回	テキスト講読2・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第14回	グループワーク発表	グループワークの成果を発表し、相互に批評検討する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

随時参加者と相談の上決めていく。

#### 【参考書】

随時参加者と相談の上決めていく。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業での報告、討論などでの貢献度を総合的に評価する。現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身につけていればS。以下、その達成度によって成績評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【Outline (in English)】

Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 A

中沢 けい

## 昼間時間帯

授業コード：A2441 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んでいきます。

## 【到達目標】

文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。Hoppiiを用いて授業の感想を求めます。時にはkおちらから質問をする場合もあります。皆さんのお答えの中から必要なものを選び授業時にコメント付きでご紹介いたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第2回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話します。
第3回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょうか。
第4回	グーテンベルク登場当時の日本	グーテンベルクが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話します。
第5回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新田のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第6回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第7回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月1回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話します。
第8回	古代から中世末期までの日本の文章変化 1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第9回	古代から中世末期までの日本の文章変化 2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話します。
第10回	古代から沖積末期までの日本の文章変化 3	漢文脈、和文脈の2系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。
第11回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話いたします。
第12回	福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話します。
第13回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話いたします。
第14回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

## 【参考書】

授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.

**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学史 B

中沢 けい

### 昼間時間帯

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

### 【到達目標】

活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と質疑応答。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と 言う社会背景から概略を説明します。
第2回	産業革命から市民革命と日本の近世 1	欧州で産業革命と市民革命が起きた 時代と日本の近世を並行的に考察し ます。
第3回	産業革命と市民革命と日本の近世 2	欧州に登場した市民と日本の近世に 登場した町人の比較を試みます。
第4回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場が もたらした日本語文章の改革につい て再度、お話をします。
第5回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場しま す。また新聞が社会の中で大きな役 割を占めることをお話しします。
第6回	近代の映像を見てみましょう。	HNKで放送された「映像の世紀」か ら近代初期の映像を視聴します。
第7回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどの ようなイメージを持ったのかを質問 しながら質疑応答いたします。
第8回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中 戦争、日米戦争での主要メディアに ついてお話しします。
第9回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話しします。 マスメディアは後に頂上するパーソ ナルなメディアとの比較を試みます。
第10回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文 章を変化させるのか？この疑問につ いて、現在、考えていることをお話 します。
第11回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発 信を可能にしました。一方で、フェ イクニュースの流布などの問題をも たらしたことをお話しします。
第12回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物 語の比較文学に新しい研究成果をも たらしています。
第13回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された 価値観の構造的な問い直しが進んで います。価値観の問い直しは文章へ どのような影響を与えるでしょうか。
第14回	これからの文章	これからどのような文章が創造され て行くのか、受講生に皆さんと質疑 応答をいたします。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考えるようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

### 【参考書】

授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加40パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート40パーセント、期末レポート20パーセント

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.

**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

**文章表現論 A**

田中 和生

**昼間時間帯**

授業コード：A2445 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章が始まることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

**【到達目標】**

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第2回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第3回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第4回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第5回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第6回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第7回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第8回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第9回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第10回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけたとはどういうことかを理解します。
第11回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第12回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第13回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第14回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必要時に応じて指示しますが、とくに2回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

毎回プリントを配布します。

**【参考書】**

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

**【その他の重要事項】**

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

**【Outline (in English)】**

< Course Outline > Through the exploration of discovering what they want to write and writing it as they like, students experience the freedom of starting a new text and come to understand the difficulties involved in it. With an understanding of both its freedom and difficulties, they will search for phrases in Japanese to express what they want to say effectively, and acquire skill in the use of literary expression within poetry, stories and criticism.

< Learning Objectives > Students learn the basic stance necessary in writing, and learn how to write what they want to write as clearly as possible. This gives them an understanding of the nearly inexpressible freedom and difficulty that literary creation involves.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 文章表現論 B

田中 和生

## 昼間時間帯

授業コード：A2447 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

## 【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。

次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第2回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第3回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第4回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第5回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第6回	フィクションを評価する1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第7回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第8回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第9回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第10回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第11回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第12回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第13回	フィクションを評価する2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第14回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあけておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Students will come to understand the difficulty of writing what they know well precisely and the limitations on the content if they do so, and experience the freedom of writing what they don't know about, while incorporating fictional elements. With an understanding of the differences between writing about what they know and what they don't know, they will be able to explore their own subject matter deeply, and come to a realization as to what they really want to write as fiction.

< Learning Objectives > Students should first write about things with content that they do not know much about, as if they were writing only about things that they know well. Secondly, by doing so they learn that otherwise it is not possible to write in a way that clearly communicates content to others, and that some things are easier to write than others. With these goals in mind, they will deepen their understanding of the freedom of fiction, with reference to historical examples of successful novels.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

**表現と著作権A**

平井 彰司

**夜間時間帯**

授業コード：A2584 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

**【到達目標】**

我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求められます。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。
第2回	著作権とは	知的財産権の一種でありながら、他と一線を画す特殊な性格を知る。
第3回	創作の系譜	作品の形式と伝達の変化をおさえつつ、創作行為と受容の類型を理解する。
第4回	近代著作権の概要	著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。
第5回	著作権法	我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。
第6回	著作物	著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。
第7回	著作者	著作者とは誰か。著作権者との違いとは何かを整理する。
第8回	保護の対象・期間	法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。
第9回	権利の種類	著作権者が専有する権利（支分権）の詳細を理解する。
第10回	人格権・隣接権・出版権	著作者の財産権以外に法律で規定されている権利を知る。
第11回	権利の制限	例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を確認する。
第12回	許諾・契約	著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。
第13回	紛争処理・罰則	民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準、裁判について学ぶ。
第14回	補足・まとめ	学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

**【参考書】**

随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の日安とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度につき特になし。

**【その他の重要事項】**

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等に対するロビイングに従事。2021年より現職。

**【Outline (in English)】**

The aim is to master the content and utility of the main provisions of Japanese copyright law. At the same time, students will understand the basics of the legal order required of students of literature, and learn the rules for writing the law and the key points for reading the articles.

Work to be done outside of class : Students are expected to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations and business is required from time to time. Students are encouraged to do their own preparatory study according to their own needs. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria : The standard assessment is 50% of the ordinary marks, including the reaction paper, and 50% of the content of the final report.

Others : It is recommend taking Expression and Copyright A and B throughout the year.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 表現と著作権B

平井 彰司

### 夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化/深化を軸に著作権と外部とのかかわり=社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

### 【到達目標】

法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・伝達・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。
第2回	裁定・登録・あっせん	私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。
第3回	著作権管理、補償金	多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。
第4回	著作権制度	法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。
第5回	係争とソフトロー	著作権裁判の実例を見ていくとともに、ADRやガイドラインを紹介する。
第6回	印刷物の歴史	グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。
第7回	複製・伝達技術の展開	音響・映像、通信・放送。創作と伝達を革新する技術の歴史をたどる。
第8回	デジタルテクノロジー	コンピューターとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。
第9回	出版物の電子化	電子ジャーナル・書籍・図書館を手掛かりに読書行為への影響を探る。
第10回	メガプラットフォーム	世界中の情報を蓄積するテック企業による知の独占システムを垣間見る。
第11回	フリーテキスト	著作権を制限する運動や文化の共有を目指すCCライセンスを考える。
第12回	デジタルアーカイブ	古今の作品の集積をデジタル化し、世界に向けて発信する動きを概観する。
第13回	AI・メタバース	創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを採り上げる。
第14回	補足・まとめ	現在の著作権システムの考察を通じて、創作・受容の未来を展望する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

### 【参考書】

随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の日安とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき特になし。

### 【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等に対するロビイングに従事。2021年より現職。

### 【Outline (in English)】

Students will not only understand the interpretation of legal provisions, but also understand the role that copyright plays in creation, communication, and reception of society as a whole, and will acquire the copyright literacy that students of the Faculty of Letters should acquire.

Work to be done outside of class : Students are expected to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations and business is required from time to time. Students are encouraged to do their own preparatory study according to their own needs. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria : The standard assessment is 50% of the ordinary marks, including the reaction paper, and 50% of the content of the final report.

Others : It is recommend taking Expression and Copyright A and B throughout the year.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール17A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木4/Thu.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでおくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

## Literature creation

## 【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジメの内容などを質問することがあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	発表内容に対する質問を考えましょう。
第7回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第8回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第9回	受講生による発表	レジメの作り方受講生にを研究してみましょう。
第10回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第11回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第12回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第13回	受講生による発表	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第14回	受講生による発表	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第15回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第16回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第17回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第18回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第19回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第20回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第21回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第22回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第23回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第24回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第25回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第26回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第27回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第28回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第29回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第30回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第31回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第32回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第33回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第34回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第35回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第36回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第37回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第38回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第39回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第40回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第41回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第42回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第43回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第44回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第45回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第46回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第47回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第48回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第49回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第50回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第51回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第52回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第53回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第54回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第55回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第56回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第57回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第58回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第59回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第60回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第61回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第62回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第63回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第64回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第65回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第66回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第67回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第68回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第69回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第70回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第71回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第72回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第73回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第74回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第75回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第76回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第77回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第78回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第79回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第80回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第81回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第82回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第83回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第84回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第85回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第86回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第87回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第88回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第89回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第90回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第91回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第92回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第93回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第94回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第95回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第96回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第97回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第98回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第99回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第100回	受講生による発表	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「東京百年物語 1」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018年11月17日刊行 891円  
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

## 【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三  
テキストを読みながら東京の地形について学びます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

## 【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

## 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となる場合があります。あしからずご了解ください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The goal is to be able to critically read creative works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール17B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

### 【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジюмеを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジюмеの内容などを質問することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書くこと」のつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第11回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみましょ
第12回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第13回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

ゼミ誌

### 【参考書】

ゼミ誌の批評をレジюмеにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジюмеを読み比べてみましょう

### 【成績評価の方法と基準】

配分 (%) は授業へ積極的参加 50 % ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

### 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.

**Learning Objectives:** The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール18A

中沢 けい

### 夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

### Literature creation

#### 【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞き ましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表者に質問する前に、 おとなりの人と少し相 談するといいかも しません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 レジュメの作り方を研 究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生 にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場 合は申し出てください。 ゼミ誌制作の準備	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋 りをするのもおもしろ いものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてき ました。ゼミ誌の作品 制作は進んでいるで しょうか？ という時期 になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行 具合をお尋ねするかも しません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌 の制作にめどがたっ ているといいですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「東京百年物語 1」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018年11月17日刊行 891円  
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

### 【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三  
テキストを読みながら東京の地形について学べます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

### 【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

### 【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The goal is to be able to critically read creative works.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール18B

中沢 けい

### 夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

### 【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジユメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジユメの内容などを質問することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジユメにして提出してもらいます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第10回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第11回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第12回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第13回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうが良いのかを考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加50%ゼミ誌作品50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

**Course Outline:** Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

**Learning Objectives:** The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール19A

田中 和生

授業コード：A2651 | 曜日・時限：火4/Tue.4  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

## 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独自の作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	日本の詩歌を読む (1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	日本の詩歌を読む (2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	日本の詩歌を読む (3)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	日本の詩歌を読む (4)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	日本の詩歌を読む (5)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	日本の詩歌を読む (6)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	日本の戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	日本の小説を読む (1)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	日本の小説を読む (2)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	日本の小説を読む (3)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	日本の小説を読む (4)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	日本の小説を読む (5)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	日本の小説を読む (6)	発表と質疑、リレー小説13。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

## 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

## 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール19B

田中 和生

授業コード：A2652 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

### 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評 (1)	合評と作者質疑。
第4回	創作合評 (2)	合評と作者質疑。
第5回	創作合評 (3)	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評 (4)	合評と作者質疑。
第8回	創作合評 (5)	合評と作者質疑。
第9回	創作合評 (6)	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ!	文学的なものの調査。
第11回	創作合評 (7)	合評と作者質疑。
第12回	創作合評 (8)	合評と作者質疑。
第13回	創作合評 (9)	合評と作者質疑。
第14回	創作合評 (10)	合評と作者質疑。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容 (5割) と平常点 (5割) によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

### 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

### 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール20A

田中 和生

## 夜間時間帯

授業コード：A2653 | 曜日・時限：月6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

## 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	世界の詩歌を読む (1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	世界の詩歌を読む (2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	世界の詩歌を読む (3)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	世界の詩歌を読む (4)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	世界の詩歌を読む (5)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	世界の詩歌を読む (6)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	世界の戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	世界の小説を読む (1)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	世界の小説を読む (2)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	世界の小説を読む (3)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	世界の小説を読む (4)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	世界の小説を読む (5)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	世界の小説を読む (6)	発表と質疑、リレー小説13。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

## 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

## 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール20B

田中 和生

### 夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

### 【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

### 【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

### 【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール21A

山口 和人

授業コード: A2655 | 曜日・時限: 月6/Mon.6  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次: 2~4年

その他属性: 〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家(大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新(はか多数))の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的なヒントについて解説します。テーマ、プロット(ストーリー)、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。\*本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度(1年目)はテーマ、プロット(ストーリー)、小説構造、書き出し、登場人物、場所(セッティング・トボス、場面(シーン)、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度(2年目)はアナロジー、喩え(直喩・暗喩・メタファー)、伏線、小道具、声(ヴォイス)、引用、語り方(ナラティブ)、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象(大きな問題)への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

### 【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション & オリエンテーション および自己紹介	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て
第2回	現代日本の小説読解・批評その1	名作短篇小説を合評。創作のヒント ①優れた小説とは?
第3回	現代日本の小説読解・批評その2	名作短篇小説を合評。創作のヒント ②テーマ
第4回	現代日本の小説読解・批評その3	名作短篇小説を合評。創作のヒント ③プロット(ストーリー)
第5回	現代日本の小説読解・批評その4	名作短篇小説を合評。創作のヒント ④小説構造
第6回	現代日本の小説読解・批評その5	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑤書き出し
第7回	現代日本の小説読解・批評その6	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑥登場人物
第8回	現代日本の小説読解・批評その7	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑦場所(セッティング・トボス)
第9回	現代日本の小説読解・批評その8 ゼミ誌制作の準備	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑧場面(シーン) 創作は「本」になって初めて原稿ではなく「作品」になります。
第10回	現代日本の小説読解・批評その9	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑨描写

第11回	現代日本の小説読解・批評その10	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑩会話
第12回	現代日本の小説読解・批評その11	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑪文体
第13回	現代日本の小説読解・批評その12	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑫視点
第14回	現代日本の小説読解・批評その13	名作短篇小説を合評。創作のヒント ⑬推敲 *創作のヒントの各項目の扱い順は変動します。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

随時指定・配布します。

### 【参考書】

特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

### 【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%  
 無断欠席は3回目から減点の対象とします(欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください)。

### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

### 【学生が準備すべき機器他】

Wordソフトを搭載したPCを使用できる環境にあること。

### 【その他の重要事項】

#### 【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢朋、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K.ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

#### 【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## ゼミナール21B

山口 和人

授業コード：A2656 | 曜日・時限：月6/Mon.6  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

### 【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション & オリエンテーション	ゼミ誌の配布。 批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。
第2回	創作作品の相互鑑賞	以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。
第3回	創作作品の相互鑑賞	テーマ（以下順不同）
第4回	創作作品の相互鑑賞	プロット（ストーリー）
第5回	創作作品の相互鑑賞	小説構造
第6回	創作作品の相互鑑賞	書き出し
第7回	創作作品の相互鑑賞	登場人物
第8回	創作作品の相互鑑賞	場所（セッティング・トボス）
第9回	創作作品の相互鑑賞	場面（シーン）
第10回	創作作品の相互鑑賞	描写
第11回	創作作品の相互鑑賞	会話
第12回	創作作品の相互鑑賞	文体
第13回	創作作品の相互鑑賞	視点
第14回	創作作品の相互鑑賞	推敲

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
随時指定・配布します。

【参考書】  
特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

### 【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%  
無断欠席は3回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までご連絡ください）。

### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

### 【学生が準備すべき機器他】

Wordソフトを搭載したPCを使用できる環境にあること。

### 【その他の重要事項】

#### 【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷲沢萌、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

#### 【Outline (in English)】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

#### 【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講 (9) 表現 A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

## 【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第2回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第3回	文学とは何か	文学を定義する
第4回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第5回	文学の拠点	文学のありかについて
第6回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第7回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第8回	小説・人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第9回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第10回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第11回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第12回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第13回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第14回	まとめ	これまでのまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

藤谷治「小説は君のためにある」(ちくまプリマー新書)

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

## 【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』(第21回三島由紀夫賞候補)『船に乗れ!』(第7回本屋大賞第7位)『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of "expression" from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講 (9) 表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

### 【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びポルノの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

藤谷治「燃えよ、あんず」(小学館文庫)

### 【参考書】

特になし

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

### 【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

**Learning Objectives:** The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集理論 A

福江 泰太

## 夜間時間帯

授業コード：A2709 | 曜日・時限：月5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

## 【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	出版・編集の現在	現在の出版界がおかれている状況を概観し、ガイダンスとします。
第2回	日本の出版流通の特殊性①	再販売価格維持制度について考えます。
第3回	日本の出版流通の特殊性②	委託制度について考えます。
第4回	日本の出版流通の特殊性③	出版取次の役割について考えます。
第5回	日本の出版流通の歴史的変遷	明治以降、出版物の流通制度がどのように変わったかを概観します。
第6回	定価の構成要素	書籍や雑誌の定価はどのように決まるのか、その構成要素から考えていきます。
第7回	印税という制度	著作権およびその使用についての基礎的知識を概観していきます。
第8回	編集の流れ	8回からは、実際の編集制作過程について講義します。その初回は「ゲラ」の流れから編集の流れを概観します。
第9回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。校正作業の詳細については、編集理論Bで扱い、ここでは全体像を示します。
第10回	文字と組版①	本文に使われている文字はどのように選ばれるのか、印刷文字の基礎を学びます。
第11回	文字と組版②	本文の読みやすく、美しい版面はどのように構成すればよいのか、組版の基礎を学びます。
第12回	折と台割	本文はどのようにして印刷されるのか、「折」という単位について考えます。
第13回	紙について①	書籍・雑誌の素材としていちばん大切な「紙」についての基礎知識を概観します。
第14回	紙について②	A判、B判、四六判など、色々な印刷用紙からどのような書籍・雑誌が作り出されるのか、概観します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くりアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

## 【参考書】

随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

随時DVDを視聴します。

## 【その他の重要事項】

編集理論ABの通年履修が好ましい。

「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** We often receive texts in the form of books and magazines (web-based texts will be covered in the fall semester). First, we will gain a solid understanding of the process by which texts are transformed into books and magazines.

**Learning Objectives:** Students will acquire knowledge to appreciate books and magazines not only from the perspective of “reading” but also from the perspective of “creating,” or editing and producing.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Please carefully think about what makes a book or magazine attractive to you, as if you were the editor of the book or magazine, by visiting real bookstores frequently. Key words for the next class will be presented beforehand, so please get as much prior knowledge as possible. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** The evaluation of your performance will be based on your participation in class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

## 編集理論 B

福江 泰太

## 夜間時間帯

授業コード：A2710 | 曜日・時限：月5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前半は、日本語の表記法と校正について学びます。基本的な校正記号は使えるようにします。後半は、書物の歴史を振り返りながら、書物の姿がどのように変容してきたのか、その歴史の中に現在の電子書籍やWeb上のコンテンツを位置づけ、書物の将来を考えていきます。

## 【到達目標】

編集理論Aは、実際の書物や雑誌の編集制作過程を順に講義しましたが、編集理論Bでは、Aで詳論できなかった「校正」や「表記法」について学びます。皆さんの中には、組版ソフトのInDesignを使って雑誌作りを経験した人も多いと思います。InDesignを使えば誰でも簡単に組版ができます。しかし組版のもとになる表記法の知識がなければ、美しく正確な組版ができません。当たり前と思っていた日本語表記法を編集の視点から見直します。また後半では書物の歴史をラフスケッチし、その歴史の中にデジタル書籍を新しい書物像として位置づけます。しかし現在の電子書籍はまだ未成熟です。電子書籍、紙媒体の書籍、それぞれを自由に見るための視点を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的な校正記号の理解にはテキストを使います。テキストに準じ、20程度の校正記号を使うようにします。書物史の講義では、DVD視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語の表記法はどのように変わったか	編集者は日本語の表記法について考える最前線に立っています。編集という視点から見た日本語の表記法を考えます。
第2回	組版の特性と表記法	原稿用紙に書く場合、ワードで入力する場合、印刷組版の場合、それぞれに表記法のズレが生じます。その違いを理解することが大切です。
第3回	約物について	文字以外の句読点や様々な括弧の類を「ヤクモノ」と言います。約物は新たに日本語表記に付与された記号です。約物について概観します。
第4回	漢字について① 当用漢字・常用漢字・人名漢字	漢字行政の変遷を概観します。当用漢字と常用漢字、人名漢字、それぞれがもたらした問題について考えていきます。
第5回	漢字について② 拡張新字体	新たに生み出された拡張新字体がもたらした問題について考えます。
第6回	校正記号について① テキスト1~5	下記に示したテキストを使って、基礎的な校正記号を学び、練習問題を解いていきます。4回の授業で全篇仕上げます。
第7回	校正記号について② テキスト6~10	字間や行間の訂正など。
第8回	校正記号について③ テキスト11~15	中つきルビ、肩つきルビ、グループルビについて。
第9回	校正記号について④ テキスト16~20	校正記号のまとめ。
第10回	書物の歴史① 卷子本から冊子本へ	百万塔陀羅尼から和本の形が成立するまでを概観します。
第11回	書物の歴史② 江戸から明治へ	江戸時代の書物文化と洋装本の成立について概観します。
第12回	書物の歴史③ 活版印刷と写真の誕生	書物文化にとっての革命、活版印刷と写真について考えます。
第13回	書物の歴史④ 活版印刷以降	写真植字、電子組版、オフセット印刷などについて概観します。
第14回	書物の歴史⑤ デジタル書物へ	書物が紙という支持体から解放される過程を考えます。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

校正練習帳(1) 校正記号を使ってみよう タテ組編 日本エディタースクール 550円

## 【参考書】

随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢50% 期末のレポート内容50% を併せ成績の評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

随時DVDを視聴します。

## 【その他の重要事項】

編集理論ABの通年履修が好ましい。「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** In the first half of the course, students will learn about how written Japanese is laid out and proofread. Students will learn to use basic proofreading symbols. The second half of the course will look back at the history of the book and how the form of the book has transformed, situate current e-books and web-based content within that history, and consider the future of the book.

**Learning Objectives:** In the spring semester, we dealt with the process of editing and producing books and magazines. In the fall semester, students will learn about “proofreading” and “layout,” which could not be discussed in detail in the spring semester. Many of you may have used the typesetting software InDesign to create magazines, and anyone can use InDesign to create typesetting easily. However, without knowledge of the norms of layout that form the basis of typesetting, it is impossible to create beautiful and accurate typesetting. This lecture will review how written Japanese is laid out, a subject that we take for granted, from an editorial point of view. In the second half of the course, we will do a rough survey of the history of books and situate digital books as a new image of books within that history. However, the current digital book is still in its infancy. Students will acquire perspectives to view and appreciate both e-books and paper books.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students are encouraged to use catalogs available in libraries and other institutions to investigate the various forms of books from the past and present. For the history of books, knowledge of Japanese and world history is required as background. Students should study the historical background of the period applicable to the class content in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** The evaluation of your performance will be based on your participation in the class (50%) and the contents of your final report (50%).

PRI100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報メディア演習A

武田 俊

## 夜間時間帯

授業コード：A2717 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

## 【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。
第2回	現代メディア論：人類とメディア	メディアとはそもそも何か。人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。
第3回	現代メディア論：現代のメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web…現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第4回	記事制作 ワークショップ1：メディアにはどのような記事があるか	実在するメディアを参照し、記事のタイプや特徴などをグループに分かれリサーチします。
第5回	記事制作ワークショップ2：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第6回	記事制作ワークショップ3：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように編集し記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第7回	講評	できあがった記事について、発表と講評を行います。
第8回	現代編集論：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがあり、どのような仕事のしかたをしているのか。講師の経験と事例をもとにお話しします。
第9回	編集者とクリエイター：ライター／小説家の場合	ライターや小説家とはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第10回	編集者とクリエイター：デザイナーの場合	デザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第11回	編集者とクリエイター：フォトグラファーの場合	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第12回	企画制作ワークショップ1：企画のつくり方	企画はどのようにうまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。

第13回	企画制作ワークショップ2：企画書のつくり方	アイデアを実現させるために、企画書には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を制作します。
第14回	講評／まとめ	企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性もあります。

## 【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

## 【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

## 【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

## 【Outline (in English)】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course. It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

There will be workshops and assignments during lectures, and students may be asked to do work outside of lectures.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%, Attendance&reaction paper : 30%

PRI100BC (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報メディア演習B

武田 俊

### 夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

#### 【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メディアと編集	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、メディアと編集の基礎を理解するためのミニ講義を行います。
第2回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第3回	デジタルメディアワークショップ1：リサーチ	グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。
第4回	デジタルメディアワークショップ2：ヒアリングとアイデアメイク	リサーチ結果のプレゼンを行います。講義の後半では、与えられたお題に対し、デジタルメディアを活用した企画のアイデアを生み出してもらいます。
第5回	デジタルメディアワークショップ3：企画化	生み出したアイデアを企画書の形に落とし込みます。
第6回	デジタルメディアワークショップ4：プレゼン/講評	グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。
第7回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的に話します。
第8回	デジタルメディアの編集感覚	多種多様化するデジタルメディアにおいて、編集者はどのような存在として仕事をしているのか。講師の経験と事例をもとにお話します。
第9回	編集者とクリエイター：Webデザイナーの場合	Webデザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第10回	集者とクリエイター：映像ディレクターの場合	映像ディレクターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第11回	編集者とクリエイター：イラストレーターの場合	イラストレーターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第12回	PRワークショップ：PRとはなにか	デジタルメディアを使ったPR（パブリックリレーション）のしかたについて、具体例を交えて学びます。

第13回 PRワークショップ：PR企画の作り方

お題に対して、デジタルメディアを使ったPR企画を実際につくってもらいます。

第14回 講評/まとめ

お題に対して、デジタルメディアを使ったPR企画を実際につくってもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。

#### 【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

#### 【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

講義内での課題70%、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30%。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

#### 【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course. It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

There will be workshops and assignments during lectures, and students may be asked to do work outside of lectures.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Assignments in lectures 70%, Attendance&reaction paper : 30%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2719 | 曜日・時限：金4/Fri.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年  
 その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

## 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持つるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）  
 ②プリント配布

## 【参考書】

プリント配布

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80%）  
 適時レポート（20%）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

## 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

## 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2720 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

### 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところ」に従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持つるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)
第4回	行書①	行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」(大筆)
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」(大筆)
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト(教科書)】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻(講談社)
- ②プリント配布

### 【参考書】

プリント配布

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆(最低各一本)/硯一面/墨一丁(墨汁の使用可ただし墨も必要)/文鎮/水滴(スポイドも可)/半紙(毎回最低20枚ぐらい用意)/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷(書道用フェルト)/その他必要な道具は事前に連絡

### 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

## 夜間時間帯

授業コード：A2721 | 曜日・時限：金5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

## 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）

②プリント配布

## 【参考書】

プリント配布

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80%）

適時レポート（20%）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

## 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

## 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

## 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

## 書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

### 夜間時間帯

授業コード：A2722 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

### 【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

### 【参考書】

プリント配布

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。

(80%)

適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

### 【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

### 【Outline (in English)】

**Course Outline:** From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

**Learning Objectives:** What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

**Learning Activities Outside of the Classroom:** Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

HIS100BE (史学/History 100)

## 日本史概説 I

小倉 淳一

授業コード：A3101 | 曜日・時限：水1/Wed.1  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。  
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。  
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

## 【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。  
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。  
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。  
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。  
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内を行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第4回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第5回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第6回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第7回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第8回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第9回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第10回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀式・祭器のありかた
第11回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第12回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第13回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第14回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

## 【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。  
吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社  
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館  
白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館  
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館  
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書  
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書  
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

## 【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（参照不可）。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の70%とする。平常点は成績評価の30%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。  
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

## 【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.

Students will be able to describe the cultural characteristics of each period based on archaeological materials.

Students will be able to examine how people in each period responded to their natural and social environments.

Students will be able to explain and compare the characteristics of human groups from the Paleolithic to the Kofun period.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS200BE (史学 / History 200)

## 日本考古学

小倉 淳一

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用 (A3856) で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

### 【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー (月曜5限) で対応する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第2回	旧石器時代のアジアと日本列島(1)	文化交流基盤の形成
第3回	旧石器時代のアジアと日本列島(2)	縄文文化形成への道程
第4回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第5回	弥生文化と対外交流 (1)	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第6回	弥生文化と対外交流 (2)	稲作技術と集落遺跡
第7回	弥生文化と対外交流 (3)	倭人の対外交渉のはじまり
第8回	弥生文化と対外交流 (4)	【魏志】倭人伝の世界
第9回	弥生文化と対外交流 (5)	玉生産と対外交流
第10回	古墳文化と対外交流(1)	前方後円墳と船載鏡
第11回	古墳文化と対外交流(2)	ヤマト王権の対外交渉
第12回	古墳文化と対外交流(3)	渡来系技術と遺物
第13回	古墳文化と対外交流(4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第14回	考古学からみた交流史	成果 (レポート) 提出と講評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』(1)～(3) (新版) 有斐閣、鈴木公雄 (1988) 『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全9巻) などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第01巻～第03巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

### 【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の講読を推奨する。

### 【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials. Students will be able to understand archeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final report (70%) and normal score (30%).

HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

## 【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーをHoppiiにアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第2回	古文書解読入門	近世史科学講義
第3回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第4回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第5回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第6回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第7回	領知宛行状読解	大名家領の安堵
第8回	年貢割付状読解	年貢請求書
第9回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第10回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第11回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第12回	変体仮名読解	俳句をよむ
第13回	金子借用証文読解	年貢滞納
第14回	試験とまとめ	解説とも

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

『新編古文書解読辞典』（柏書房）  
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など  
辞書は必須。毎回持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大切です。

## 【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に関与する実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE (史学 / History 300)

## 日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

### 【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppiiに古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組み。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発句読解	変体仮名
第2回	離縁状読解	三行半
第3回	触書読解（1）	ペリー来航
第4回	触書読解（2）	株仲間再興
第5回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第6回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第7回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第8回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第9回	漢詩読解	七言絶句
第10回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第11回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第12回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第13回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第14回	試験とまとめ	解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし。

### 【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）  
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）  
辞書は必須。毎回持参のこと。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

### 【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

### 【その他の重要事項】

本授業担当は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE (史学/History 300)

## 日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月4/Mon.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

## 【到達目標】

2年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、レポートの研究発表も実施する。

毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。

レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第2回	論文講読発表 (1)	文献解題と討論 (1)
第3回	論文講読発表 (2)	文献解題と討論 (2)
第4回	論文講読発表 (3)	文献解題と討論 (3)
第5回	論文講読発表 (4)	文献解題と討論 (4)
第6回	論文講読発表 (5)	文献解題と討論 (5)
第7回	研究発表 (1)	卒業論文に関連する研究発表 (1)
第8回	研究発表 (2)	卒業論文に関連する研究発表 (2)
第9回	研究発表 (3)	卒業論文に関連する研究発表 (3)
第10回	論文講読発表 (6)	文献解題と討論 (6)
第11回	論文講読発表 (7)	文献解題と討論 (7)
第12回	論文講読発表 (8)	文献解題と討論 (8)
第13回	論文講読発表 (9)	文献解題と討論 (9)
第14回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第15回	概要説明・レポート提出	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの提出
第16回	論文講読発表 (10)	文献解題と討論 (10)
第17回	論文講読発表 (11)	文献解題と討論 (11)
第18回	論文講読発表 (12)	文献解題と討論 (12)
第19回	論文講読発表 (13)	文献解題と討論 (13)
第20回	論文講読発表 (14)	文献解題と討論 (14)
第21回	研究発表 (4)	卒業論文に関連する研究発表 (4)
第22回	研究発表 (5)	卒業論文に関連する研究発表 (5)
第23回	研究発表 (6)	卒業論文に関連する研究発表 (6)
第24回	論文講読発表 (15)	文献解題と討論 (15)
第25回	論文講読発表 (16)	文献解題と討論 (16)
第26回	論文講読発表 (17)	文献解題と討論 (17)
第27回	論文講読発表 (18)	文献解題と討論 (18)
第28回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

## 【参考書】

佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』 有斐閣アルマ、勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』 名著出版、岩波書店刊 『岩波講座日本考古学』 (全9巻)、コリン・レンフルー、ポール・バーン/池田裕ほか訳 (2007) 『考古学 理論・方法・実践』 東洋書林

## 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は30%）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて70%）、総合的に成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2年生から4年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

## 【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.

Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地球科学概論 I

宍倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年  
 備考(履修条件等)：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期授業/Fallの「地球科学概論 II」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理(ことわり)で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や津波の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

## 【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震のメカニズムなど、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー(講義やグループワークの感想や質問)を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習(日帰りの現地見学等)も予定している。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第2回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球の大きさについて説明する。
第3回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第4回	地球に働く力	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第5回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第6回	プレートテクトニクス2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第7回	地球誕生からの歴史	地球誕生46億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第8回	地震の基礎1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第9回	地震の基礎2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第10回	地震の基礎3	地震予知情報に関する説明を行う。
第11回	グループワーク(地震)	地震予測をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第12回	津波1	津波発生のしくみ、津波の高さの定義について説明する。
第13回	津波2	過去の津波災害や津波堆積物について説明する。
第14回	グループワーク(津波)	津波災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

## 【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の46億年」合同出版

http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product\_id=487

泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会

http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html

宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

http://www.schoolpress.co.jp/s-293/

大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版

http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

## 【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらいアクションペーパーや課題レポートの内容(90%)  
 2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢(10%)  
 全14回(予定)の授業のうち2/3以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノートPCやスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

## 【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は80名程度とし、第1回の授業において80名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第2回授業までに教員より連絡する。

また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and tsunamis and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

## 【Learning Objective】

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).  
 2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 地球科学概論Ⅱ

糸倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考(履修条件等)：この授業は原則として春学期授業/Springの「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地殻変動や火山活動とそれが生み出す資源、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

### 【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー(講義やグループワークの感想や質問)を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習(日帰りの現地見学等)も予定している。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地殻の様々な動き 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は観測でわかる緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第2回	地殻の様々な動き 2	地形や生物に記録された過去の地殻変動を紹介する。
第3回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第4回	火山 2	破滅的巨噴火や火山災害に関する説明を行う。
第5回	資源とその活用	我々が地球から受ける恩恵である様々な資源について、その起源と活用について説明する。
第6回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第7回	気候変動 1	10万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第8回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第9回	グループワーク(気候変動)	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第10回	侵食と堆積 1(山・斜面)	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第11回	侵食と堆積 2(河川)	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第12回	侵食と堆積 3(海岸・海底)	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第13回	グループワーク(気象災害)	気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第14回 地球科学と教育

地球科学の教育上の意義と社会的貢献について説明。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害、資源などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

### 【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

糸倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

### 【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容(90%)。2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢(10%)。全14回(予定)の授業のうち2/3以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノートPCやスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週水曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Crustal deformation, volcanic activity and related resources, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

#### 【Learning Objective】

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to volcanic eruptions, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).  
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

## 世界地誌 (4)

浦部 浩之

授業コード：A3446 | 曜日・時限：木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ラテンアメリカ地域の自然と社会に関わるさまざまな事象(環境や生態系、歴史や文化、政治・経済・国際関係、それらの複合的課題である自然災害や感染症の問題など)を幅広く学び、地域の基本的特徴について総合的(学際的)に理解を深める。単なる個別の事象の羅列としてではなく、それぞれが相互に関連していることに、とくに注意を払う。

### 【到達目標】

ラテンアメリカ地域の基本的な特徴について多角的かつ総合的に知ること、またそれを通じ、地域理解(ラテンアメリカに限らず、世界のさまざまな地域の理解)のために必要とされる基本的な視座と応用力(主体的な分析・判断力)を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心に行う。

毎回の授業の前に(遅くとも前日までに)、学習支援システム(Hoppi)の授業案内を確認しておくこと(詳細は下記の【授業時間外の学習】欄を参照)。

教室での毎回の授業で、学習支援システム(Hoppi)を通じて小レポートを提出してもらう(下記の【成績評価の方法と基準】欄も参照のこと)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ラテンアメリカとは？	その地域概念
第2回	自然環境と生活①	アンデス高山地帯の自然・生業・食
第3回	自然環境と生活②	アマゾン熱帯雨林地帯の自然・生業・食
第4回	歴史と社会①	植民地社会の形成とラテンアメリカ諸国の独立
第5回	歴史と社会②	近代化とポピュリズム・軍事政権
第6回	現代の政治・経済①	民主化・民主主義とネオリベリズム経済
第7回	現代の政治・経済②	貧困問題と都市問題
第8回	人と文化①	人種と民族、先住民問題
第9回	人と文化②	宗教、家族、価値規範
第10回	環境と社会をめぐる諸問題①	生態系の破壊と感染症の拡大
第11回	環境と社会をめぐる諸問題②	自然災害と災害対応への社会的脆弱性
第12回	世界とラテンアメリカ①	ラテンアメリカと日本・アジアの関係
第13回	世界とラテンアメリカ②	グローバルサウスとラテンアメリカ
第14回	授業の総括と期末試験	ラテンアメリカをいかに理解すべきか (50分) 期末試験 (50分)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備学習】

授業の3日前(月曜日)までに、学習支援システム(Hoppi)に授業の概要を掲示するとともに、授業で映写するスライドをPDFファイルの様式でアップロードしておく。必ず毎回、それを確認しておくこと。

【復習・宿題等】

授業内容を発展的に理解するための自主学修課題(毎回の授業で案内する)に積極的に取り組むこと。また期末試験前には学期全体の学習を総括する一通りの復習をすること。

※本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しない。

### 【参考書】

石井久生・浦部浩之編 『中部アメリカ(世界地誌シリーズ10)』(朝倉書店、2018)

畑恵子・浦部浩之編 『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』(新評論、2021)

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出してもらう計14回の小レポート(70%)、期末試験(30%)。

レポートの出題内容は、授業のポイントを簡潔にまとめてもらうものなので、これを作成することがよい復習(学んだこと、考えたこと)の定着にもなるはずである。なお、レポートの一部に小テストが含まれる。

レポートの性質が上述のとおりのため、毎回の授業を欠かさずきちんと受講していればおそらくそれだけで単位認定に必要な最低得点に達するが、期末試験の受験は、単位認定上の必須条件とする(未受験の場合、単位を認定しない)。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度に初めて法政大学での授業を担当するため、本科目固有のフィードバックはない。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなどの電子端末を持参のこと。授業時間中に学習支援システム(Hoppi)を通じてレポート(小テストを含む)を提出してもらうためである。なお、何らかの事情で端末が手元に用意できない場合は、授業開始前に申し出ること(代わりのレポート用紙を配布する)。

授業で映写するスライドのPDF版は、あらかじめ印刷して持参することを推奨する(とくに端末としてスマホしか持参しない場合)。

### 【その他の重要事項】

【フィールドワーク】

フィールドワークとそれに基づく探索課題の発信(アクティブラーニングの一環)のために、上記の授業予定を微修正し、1回分の授業を教室外の学習に充てることを検討している(ただし、その実施の可否や実施する場合の方式については、全体の履修者数や履修状況を見極めてから判断する)。

これを実施する場合、授業内容に密接に関連するJICA海外移住資料館(横浜市)、目黒寄生虫館(目黒区)、ラテンアメリカへの道フェスティバル(港区)のいずれか一つ(選択式)を訪問してもらう。何らかの事情でそのいずれにも参加できない者に対しては、代わりの課題を提示する。

【担当教員の実務経験】

在チリ日本国大使館勤務(3年間)、国連平和維持活動(PKO)エルサルバドル監視団などでの8ヵ国計12回の選挙監視活動への従事経験があるので、その知見の一部を講義内容に反映させたい。

【担当教員連絡先】

urabe@dokkyo.ac.jp

### 【Outline (in English)】

Students will study a wide range of phenomena related to nature and society in Latin America (environment and ecosystems, history and culture, politics, economics, international relations, and their composite issues such as natural disasters and infectious diseases) to deepen their comprehensive (interdisciplinary) understanding of the basic characteristics of the region. Special attention should be paid to the interconnectedness of each of these, rather than simply listing individual issues.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 測量学及び測量実習 I

菅 富美男

授業コード：A3461 | 曜日・時限：金3/Fri.3  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年  
 備考(履修条件等)：「測量学及び測量実習 I」を履修する場合は、  
 「測量学及び測量実習 II」も同  
 時に履修すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

## 【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜、講評・解説を行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第2回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格、法律に定められた作業規程について講義する
第3回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第4回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第5回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第6回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第7回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第8回	水準測量の機器の使用 方法	レベルの使用方法を習得する
第9回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第10回	水準測量の往路観測	構内において水準測量の往路の観測実習を行う
第11回	水準測量の復路観測と 観測値の点検方法	構内において水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第12回	水準測量の観測データ の整理法	観測データの整理方法について講義する
第13回	水準測量実習データを用いた データ整理	実習で行った観測データの整理する
第14回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。  
 授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

## 【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。  
 中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版  
 斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果(最終課題)(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習 I を履修する場合は、測量学及び測量実習 II も同時に履修すること。測量学及び測量実習 I だけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

また、使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。

授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoom を使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

## 【Outline (in English)】

This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spatial information regarding position, especially focusing on levelling survey.

In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF (地理学 / Geography 300)

## 測量学及び測量実習Ⅱ

菅 富美男

授業コード：A3462 | 曜日・時限：金4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

備考(履修条件等)：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGNSS測量を中心に講義・実習する。

## 【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第3回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画(選点)の講義する
第4回	基準点測量の観測1	基準点測量の観測方法及び観測結果の許容範囲の見方について講義する
第5回	基準点測量の観測2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第6回	基準点測量の実習1	構内においてトータルステーションを用いた観測点1の観測を実習する
第7回	基準点測量の実習2	構内においてトータルステーションを用いた観測点2の観測を実習する
第8回	基準点測量の実習3	構内においてトータルステーションを用いた観測点3の観測を実習する
第9回	基準点測量データの処理1	観測データ整理を行う
第10回	基準点測量データの処理2	距離補正計算を行う
第11回	基準点測量データの処理3	標高計算を行う
第12回	基準点測量データの処理4	座標計算を行う
第13回	GNSS測量1	GNSS測量の原理及び測量について講義する
第14回	GNSS測量2	GNSS受信機を用いてネットワーク型RTK測量を体験する

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第3版 基礎測量学』電気書院

## 【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。

斉藤博ほか著「新版 教程 基準点測量」山海堂  
飯村友三郎ほか著「公共測量教程 TS-GPSによる基準点測量 三訂版」東洋書店

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果(最終課題)(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

また、使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓(度分秒単位の60進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意)および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

## 【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoomを使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

## 【Outline (in English)】

In succession of [surveying and survey training I], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

## 地学実験(1) (コンピュータ活用含む)

吉岡 美紀

授業コード：A3510 | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 春学期授業/Spring・1単位 | 配当年次：2022年度以前入学生  
 1～4年2023年度以降入学生2～4年年  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地学のうち、主に地形学に関わる内容を、野外での簡易測量、実際の地形の観察、簡易地形模型の作製、3D判読などにより、総合的に学習する。これらの実習を通して各人が地形学の基礎を修得することを目標とする。

### 【到達目標】

地学、特に地形学に関わる内容を、この実習を通してより深く理解し、自分のものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・この授業では、屋外にでかける回と、室内作業を行なう回があります。
- ・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 / 野外地形観察の準備
第2回	PCの地図	ネット地図の活用
第3回	野外地形観察 1	キャンパス周辺の地形観察、市ヶ谷周辺
第4回	防災と地図 / 地盤液状化実験	地図で防災情報を入手 / 地盤液状化実験ボトル作製
第5回	野外地形観察 2	キャンパス周辺の地形観察、番町周辺
第6回	地形実体視	アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視
第7回	地球の大きさを測る / 簡易測量 / 野外地形観察 3	GPS計測 / 簡易測量 / キャンパス周辺の地形観察、九段坂付近
第8回	計測データ整理、作図	前回、計測したデータから計算、作図する
第9回	天体望遠鏡	天体望遠鏡の使用方法和天体観察
第10回	地質図入門	地層境界線を書き入れる
第11回	地形模型	簡易地形模型の作製
第12回	鉱物観察 1	鉱物洗い出し
第13回	鉱物観察 2	実体顕微鏡による鉱物観察
第14回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業実習で修得した方法を、日常の場面でも活用してみることに。本授業の準備学習・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、必要な資料を配付します。

### 【参考書】

- ・フィールドに入る (100万人のフィールドワーカーシリーズ 1)、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策 (100万人のフィールドワーカーシリーズ 9)、澤柿教伸ほか編、古今書院

その他、必要に応じ提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

実習授業なので、毎回の作業を重視します。評価割合は、毎回の提出課題が70%、授業への積極的な関与が30%

### 【学生の意見等からの気づき】

フィールドに出る回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明しておく。

### 【学生が準備すべき機器他】

野帳を1人1冊、持参してください(例えば「コクヨ、セ-Y3」等)。すでに他の授業で使用しているものがあればそれで可。

### 【その他の重要事項】

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

### 【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. The goals of this course for each student are to acquire a basic understanding of geomorphology and make them their own. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on tasks, reports (70%) and class contribution (30%).

EDU200BF (教育学 / Education 200)

## 理科教育法 (1)

狩野 真規

授業コード：A3527 | 曜日・時限：水5/Wed.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

### 【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらい、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第2回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第3回	学習指導要領について・その1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第4回	学習指導要領について・その2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第5回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第6回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第7回	中学理科の科目研究・その1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第8回	中学理科の科目研究・その2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第9回	中学理科の科目研究・その3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第10回	中学理科の科目研究・その4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第11回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第12回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第1回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第13回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第2回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。

第14回 授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践(第3回)

学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探る必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

### 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

### 【成績評価の方法と基準】

基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で50%、期末に実施してもらう模擬授業で50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で25%ずつの割合で評価する予定である(ただし、受講者の人数によってはその限りとはならないこともある)。

### 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppiiについては必ず利用できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

### 【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF (教育学 / Education 200)

## 理科教育法 (2)

狩野 真規

授業コード：A3528 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけでなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

### 【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていって行く予定である。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第2回	地学分野の発展的学習内容について (1)	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第3回	地学分野の発展的学習内容について (2)	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第4回	地学分野の発展的学習内容について (3)	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR図を中心に天文の話題をみていく。
第5回	地学分野の発展的学習内容について (4)	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの3法則について扱っていく。
第6回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第1回)	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第2回)	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第3回)	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第4回)	ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領 (文部科学省 最新版)

### 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編 (文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

### 【成績評価の方法と基準】

授業出席に伴う要素 (議論への参加姿勢などで20%)、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%) と模擬授業の内容 (25%)、模擬授業についての他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

### 【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiは必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

### 【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを旨とする。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

### 【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).  
Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF (教育学 / Education 200)

理科教育法 (3)

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も出来るものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習(紙ベース)への取り組みとそのフィードバック(添削した上で次回返却)、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第2回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第3回	学習指導要領について・その1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第4回	学習指導要領について・その2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第5回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。クラブ等の課外活動を通じて課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第6回	課題研究への取り組みとその指導法	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第7回	中学理科の発展的学習・その1	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第8回	中学理科の発展的学習・その2	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第9回	中学理科の発展的学習・その3	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第10回	中学理科の発展的学習・その4	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第11回	授業実践・中学理科の模擬授業(第1回)	生徒の実態(認識力・思考力・学力など)に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第12回	授業実践・中学理科の模擬授業(第2回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第13回	授業実践・中学理科の模擬授業(第3回)	

第14回 授業実践・中学理科の模 知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探る必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法(1)及び同(2)の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同(1)~(4)の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).  
 Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF (教育学 / Education 200)

## 理科教育法 (4)

狩野 真規

授業コード：A3531 | 曜日・時限：月4/Mon.4  
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

## 【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習(紙ベース)への取り組みとそのフィードバック(添削した上で次回返却)、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第2回	視聴覚及びICT教材の活用	視聴覚・ICT教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第3回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第4回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第5回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第6回	SSHについて	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール(SSH)について、その取り組みから実態を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業(第1回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業(第2回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業(第3回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対応法を考える。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業(第4回)	ICT機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探さなければならない。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領(文部科学省 最新版)

## 【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編(文部科学省 最新版) 其他については講義内に適宜紹介する予定である。

## 【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。

また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

## 【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

## 【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。

また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法(1)及び同(2)の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同(1)～(4)の履修の順についてはよく考えるように。

## 【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Making it more developed content than (1) or (2).  
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG (心理学 / Psychology 100)

## 脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

## 【到達目標】

健康や障害との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するのかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、前回の知識のミニテスト、新規の内容とようになるべく無理のない授業進行を進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内でできる限り紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第2回	大脳皮質1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第3回	大脳皮質2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第4回	脳幹部1	間脳、橋の部位や機能
第5回	脳幹部2	中脳、延髄の部位や機能
第6回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第7回	大脳辺縁系1	本能・感情の生まれる場所
第8回	大脳辺縁系2	記憶のメカニズム
第9回	神経ニューロン1	ニューロン細胞の機能、構成
第10回	神経伝達物質1	神経伝達物質の種類
第11回	神経伝達物質2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第12回	脳科学のトピックス1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第13回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第14回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回～12回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著） 養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第3版）  
みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

毎回授業に関係する10分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テストの実施提出・レポート課題・出席を含む平常点（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

84人の受講者のうち40名から回答者を頂きました。授業の工夫では4-5の段階が、87.5%の評価でした。自由記述では、「授業動画が後から見れるため、聞き逃したところを確認できてよかった。」「普段勉強する分野ではなかったため、新しい知識を学ぶことができ、楽しかった。」「自分の認知機能について詳しくなることが出来、自分の視野が変わりました。」「先生が実際に生徒を指定して実験などを簡単に実践してくれるので面白かった。」などのコメントの一方で、「もう少しレジュメ・プリントを見やすくしてほしいです。」「複雑で内容が深いので、もう少しゆっくりでも良かったと思います。」などのコメントも寄せられました。この点については、できる限り見やすい図表に入れ替えようと思います。脳については高校の生物学を学んでいても、専門用語が多く、知識内容も多く難かったかもしれません。少しでも復習などに役立つように達成度テスト、Hoppiiへの録画の掲載などを行っています。その点についても、「授業動画が後から見れるため、聞き逃したところを確認できてよかった。」「毎回の課題に助けられた。」といった感想を寄せてくれました。皆さんからの貴重な意見を踏まえ、少しでも改善しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】授業のルールや注意点などを説明するため、初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として、30年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と心理との関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】

(Course outline) From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

(Learning Objectives) To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation of each class to health and clinical practice.

(Learning activities outside of classroom) It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

(Grading Criteria / Policy) Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法 I (1)

高橋 敏治

授業コード：A3643 | 曜日・時限：水2/Wed.2  
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒論を含めた心理学研究の方法 (問題提起, 目的・仮説設定, 方法, 統計分析, 結果の表示, 考察の仕方など) について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

### 【到達目標】

教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し、できるだけ早い時期に研究テーマを設定し、実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙や実験方法の作成、実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第2回	研究計画発表 [1-1]	順番を決めた上で各自の計画の検討1
第3回	研究計画発表 [1-2]	順番を決めた上で各自の計画の検討2
第4回	研究計画発表 [1-3]	順番を決めた上で各自の計画の検討3
第5回	研究計画発表 [1-4]	順番を決めた上で各自の計画の検討4
第6回	研究計画吟味1	予備研究の実施1
第7回	研究計画吟味2	予備研究の実施2
第8回	研究計画吟味3	予備研究の実施3
第9回	研究計画発表 [2-1]	順番を決めた上で計画の吟味検討1
第10回	研究計画発表 [2-2]	順番を決めた上で計画の吟味検討2
第11回	研究計画発表 [2-3]	順番を決めた上で計画の吟味検討3
第12回	研究計画発表 [2-4]	順番を決めた上で計画の吟味検討4
第13回	研究計画実施1	手順や方法の確立
第14回	研究計画実施2	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア
	総括・まとめ	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回	1回目研究計画発表の原稿作成1
第2回	1回目研究計画発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成
第3回	1回目研究計画発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成
第4回	1回目研究計画発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成
第5回	予備研究の実施要領作成
第6回	予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
第7回	予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
第8回	予備研究実施による問題点のレポート作成
第9回	2回目研究計画発表の原稿作成1と発表後の修正版レポート作成
第10回	2回目研究計画発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成
第11回	2回目研究計画発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成
第12回	2回目研究計画発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成
第13回	研究計画の手順や方法のレポート作成
第14回	研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成 卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

### 【テキスト (教科書)】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、発表 (40%)、レポート課題 (20%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。それを次回の発表時に反映して下さい。

### 【学生の意見等からの気づき】

13名の受講者中1名の回答を頂きました。新型コロナの流行の問題がありますが、もっと交流する機会や時間を設けることを検討していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイントを使用しますので、ノートPC準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

### 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。  
 【オフィスアワー】火曜日の昼休みに開設します。メール [toshiha@hosei.ac.jp](mailto:toshiha@hosei.ac.jp) で事前に予約してください。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

#### 【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

#### 【Grading Criteria / Policy】

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG (心理学 / Psychology 300)

## 研究法Ⅱ (1)

高橋 敏治

授業コード：A3651 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに、卒業研究を実施する上で必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を、演習形式で検討します。

### 【到達目標】

実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か、議論し、修正し、卒論を準備します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第2回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討1
第3回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討2
第4回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討3
第5回	データ整理	Excelの使い方、データの扱い方など
第6回	研究相談1	問題点や疑問点の整理
第7回	データ処理	データ処理、統計分析など
第8回	研究相談2	問題点や疑問点の整理
第9回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第10回	研究相談3	論文の記載上の問題
第11回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討1
第12回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討2、卒論仮提出
第13回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討3
第14回	よく見かける論文記載上の間違い(実例) 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回	3回目研究発表の原稿作成1
第2回	3回目研究発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成
第3回	3回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成
第4回	3回目研究発表の原稿作成4と発表後の修正版レポート作成
第5回	卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成1
第6回	卒論データの統計上の問題点レポート作成
第7回	卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
第8回	卒論図表作成上の問題点レポート作成
第9回	卒論作成上の問題点レポート作成1
第10回	4回目研究発表の原稿作成1と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第11回	4回目研究発表の原稿作成2と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第12回	4回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第13回	4回目研究発表の原稿作成3と発表後の修正版レポート作成
第14回	卒論仮提出用原稿修正版の作成 要旨原稿の作成

### 【テキスト(教科書)】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)、発表(40%)、レポート課題(20%)によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして、それを提出して下さい。必要に応じて、次の授業で議論します。

### 【学生の意見等からの気づき】

13名の受講者中3名から回答を頂きました。4-5の段階は授業の工夫ではほとんどがここに回答してくれていました。授業外学習は週1~3時間の人がほとんどでした。今年も3年は卒論の準備、4年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を別々に進行了ました。自由記述では、「大誰か1人の発表内容から、検討すべき点について先生が全体に呼びかけてくれた。自分の研究に置き換えて考えることはもちろん、他人の研究への理解を深める一助となった。」のコメントがありました。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、パワーポイントを使用しますので、ノートPC準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

### 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

【Learning Objectives】

Lively discussions will be held on problems and corrections based on actual survey and experimental data.

【Learning Objectives】

Discuss and modify it many times to complete your bachelor thesis.

【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

**精神生理学特講**

高橋 敏治

授業コード：A3659 | 曜日・時限：木5/Thu.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし、睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

**【到達目標】**

健康や睡眠障害との関わりの中で、睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学の領域の研究を再現し、論文作成に活用できるようにすることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら、精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら、睡眠の基礎から、睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠、過眠、リズム障害をキーワードにして、24時間社会の問題点を最新の論文、トピックスなどから取り上げます。試験や課題については、模範解答を授業内で紹介し、解説も行う予定です。コメントシートでの疑問や質問は、次回以降の授業で取り上げ解説します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第2回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM睡眠・NREM睡眠の違い
第3回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第4回	睡眠測定法1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第5回	睡眠測定法2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第6回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第7回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第8回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第9回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第10回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第11回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当にREM睡眠に関係するのか？
第12回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第13回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群、REM睡眠行動障害など
第14回	睡眠とメンタルヘルス 総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？ うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回 睡眠に関する精神生理学の基礎知識確認レポート作成

第2回～第11回 授業内容で扱う睡眠全般に関連したレポート作成

第12-13回 期末レポートに関する質問や参考事項

第14回 期末試験（時期は授業内で指示）

**【テキスト（教科書）】**

教科書は用いませんが、事前に文献・プリントを配布します。

**【参考書】**

堀忠雄（2008）. 睡眠心理学 北大路書房

福田一彦, 他 (2022). 心理学と睡眠 金子書房

**【成績評価の方法と基準】**

授業内の課題提出を含む平常点（50%）、期末試験（50%）で評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

5名から回答を頂きました。自由記述では、「Zoomの設定に時間がかかっている印象だったので、Zoom開設希望のメールが無い限りは開かず、原則対面という形でもいいかと思いました。」「睡眠の性質を詳しく知れて良かった。」自分の生活習慣を見直すきっかけとして学んでくれた意見が多くありました。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンや学習支援システム（資料配布、課題提出、お知らせのため）を使用します。学習支援システムには、必ず普段よく使用するメールを登録してください。

**【その他の重要事項】**

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

**【オフィスアワー】** 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

**【Outline (in English)】****(Course outline)**

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

**(Learning Objectives)**

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing an article.

**(Learning activities outside of classroom)**

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

**(Grading Criteria / Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で求められるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

### 【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方のできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppiiからのお知らせに注意して下さい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語心理学の研究の目的とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因2：既有知識	スク립ト、視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第13回	状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

\*次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 モーラ概念の使えるようにする。
- 第2回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第3回 類似語を選定する。
- 第4回 規則語と例外語の例を書く。
- 第5回 ガーデンパス文を修正する。
- 第6回 Sacksの実験材料を読み、質問に答える。
- 第7回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第8回 行間を読むとは具体的にどのようなことを指すかを書く。
- 第9回 Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
- 第10回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第11回 小説を読んだときの体験を書く。

第12回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。

第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

\*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

### 【参考書】

適宜、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度は国内研究で授業を担当しませんでした。そのため、2022年度の気づきを以下に再掲します。

「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約9割の方が回答してくれました。ありがとうございます！！また、科目基礎科目ですが、福田の研究分野の専門科目の性格が色濃く、かつ、他学科の受講生が約半数であるにもかかわらず、「理解できた」が9割弱。すごい数字です。皆さんが一生懸命取り組んだおかげですね。自由記述については、上記の「心理学概論」を参考にしてください。また、レポート対テストの論争もWeb上で最後の授業時にやりましたね。そのようなプラスαも楽しかったです。

みなさんが言語心理学に興味をもち、もっと学習したい！と思ってもらったら、教師冥利につきますね。

### 【その他の重要事項】

文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

### 【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology of language
- B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜどのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」(授業コード A3670)の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。

### 【到達目標】

以下の3つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC分析やAB分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症やADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックはGoogleクラスで行います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppie.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第2回	発達臨床I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第3回	発達臨床II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。
第4回	“理解”の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。
第5回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第6回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。
第7回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。
第8回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。
第9回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。
第10回	“記憶”の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。
第11回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。
第12回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。

- 第13回 “動機づけ”の行動分析学 ・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。  
・学期を振り返り、質疑応答をします。
- 第14回 まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業中に取り組み課題を出します。授業時間では終わらなかった課題を、講義や参考書を参考にして、授業後に宿題として取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均3時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定するテキストはありません。

### 【参考書】

- 『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019年 新曜社

### 【成績評価の方法と基準】

○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60%）から成績を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生は少なかったですが、そのぶん色々な演習を時間をかけて実施でき、楽しかったという感想をいただきました。教科書を読んで学ぶ課題は負担が大きそうなので、来年度は減らし、授業中の演習にかける時間を増やします。

### 【その他の重要事項】

- 本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
- 本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) interpret "cognition" as behaviors, and 4) read literature in behavior analysis.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木3/Thu.3  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

### 【到達目標】

- 基本的な行動原理 (強化、弱化、消去、弁別など)、課題分析、ABC分析、AB分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
- 標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
- 日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックはGoogleクラスで行います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：https://hoppii.hosei.ac.jp/portal

Google Classroom (Google クラス)：https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容与方法、約束事を説明します。 ・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。
第2回	「問題」とは？ 心と行動の区別	・個人攻撃の罠について学びます。 ・じぶん実験の標的行動を決定します。
第3回	好子と嫌子	・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第4回	強化と弱化	・基本的な行動随伴性について学びます。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第5回	課題分析	・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第6回	シェイピング	・新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第7回	ABC分析#1	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数をABC分析で見つけることを学びます。
第8回	ABC分析#2	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第9回	AB分析#1	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。

第10回	AB分析#2	・情動の条件づけや知覚学習について学びます。 ・じぶん実験で介入の効果を目視化し、検証します。
第11回	ABC分析#3	・ABC分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第12回	観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第13回	行動分析学の実験計画	・じぶん実験の結果を発表します。
第14回	まとめ	・授業で学んだ行動分析学の考え方を使得って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、webクイズに取り組んで予習してきます。

最終回までに、行動分析学を用いた「じぶん実験」の演習に取り組み、レポートを提出します。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

○『パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学— 第2版』

島宗 理 (著) 2022年 米田出版

\*教科書は第2版を使います。ご注意ください。

### 【参考書】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理 (著) 2014年 ちくま書房

○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理 (著) 2010年 光文社新書

○『行動分析学入門 (第2版)』杉山ら 2023年 産業図書

○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一 (著) 2016年 (改訂版) 培風館

### 【成績評価の方法と基準】

○課題の遂行度 (60%) およびテストの得点 (40%) から成績を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

「じぶん実験」の演習を復活させました。それぞれ色々なテーマに楽しみながら取り組めたようで嬉しかったです。ABC分析をもっと学びたかったという声もいただきましたので、来年度は演習を少し増やします。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやGoogleクラスへのアクセスや課題の作成、提出などにPCやスマホ/タブレットを多用します。

### 【その他の重要事項】

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室 (富士見坂校舍6F9号室) です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 精神保健学 I

高橋 敏治

授業コード: A3685 | 曜日・時限: 木2/Thu.2  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次: 2~4年

その他属性: 〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として30年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

## 【到達目標】

メンタルヘルスの基礎、重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律、実例を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また、どのような種類の異常な状態があるのかを、なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。できるかぎり映画やTVから講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などはコメントシートを用いて、それを後日の授業でまとめてフィードバックします。試験については、模範解答などを授業内で紹介し、解説も行う予定です。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第2回	精神保健の基礎知識	ICD-10とDSM-IVなど診断基準、心理の正常異常
第3回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題(幼児、青年期、成人、老人)
第4回	精神保健主要症候学1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第5回	精神保健主要症候学2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第6回	精神保健主要症候学3	意識のレベルの問題の種類(せん妄など)
第7回	精神保健主要症候学4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第8回	自殺	自殺の種類、日本の現状や問題点、予防法
第9回	ターミナルケア	がん患者の心理、そのケアの方法
第10回	法律と精神保健	精神保健福祉法、触法精神障害の歴史や問題点
第11回	精神保健治療学総論1	薬物療法の概観(種類、副作用など)
第12回	精神保健治療学総論2	非薬物療法の概観(心理療法、リハビリテーション技法など)
第13回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第14回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

第1回	精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第2回	ICDとDSMによる診断課題
第3回	達成度の確認(診断基準)
第4回	達成度の確認(ライフサイクル精神保健)
第5回	達成度の確認(幻覚妄想)
第6回	達成度の確認(気分)
第7回	達成度の確認(せん妄など)
第8回	達成度の確認(自殺)
第9回	達成度の確認(ターミナルケア)
第10回	達成度の確認(精神保健福祉法)
第11回	達成度の確認(薬物療法の種類、副作用)
第12回	達成度の確認(心理療法など)
第13回	達成度の確認(リハビリテーション技法)
第14回	達成度の確認(春学期全般)

## 【テキスト(教科書)】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

## 【参考書】

尾崎 紀夫(2021). 標準精神医学(第7版) 医学書院

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点と数回の課題レポート(50%), 期末試験(50%)で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年も開講時間は6限でした。22名の方が受講してくれました。遅い時間まで残ってくれてご苦労様でした。そのうち3名から回答を頂きました。自由記述では、「社会情勢に合わせた授業をして下さり、自分事として聞くことが出来ました。」「精神疾患や自殺の問題など、興味深い内容のテーマについて学ぶことができてよかったです。動画を見ることで、より内容を理解することができました。ただ、テーマそのものがかなり難しい問題なので、重要であったり押さえておくべきポイントを明瞭にさせていただくとさらにわかりやすかったと思います。」などの意見を頂きました。今後も、考えたことを議論できる場を増やし、ポイントを絞るようにします。次回の授業の予習になるような課題や多種類のメディアの活用などの工夫を継続して行きたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

## 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メールtoshiha@hosei.ac.jpで事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

## 【Learning Objectives】

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing an article.

## 【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

## 【Grading Criteria / Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 精神保健学Ⅱ

高橋 敏治

授業コード：A3686 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いろいろな種類の精神障害を、他の障害と比べながら、症状の特徴、治療法を学びます。精神科医として30年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

## 【到達目標】

メンタルヘルスの各論を通して、人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が、どのような特徴を持ち、どのように診断を受けるのかを理解しながら、精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

どのような種類の異常な状態があるのかを、WHOの診断統計分類を用いて、なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。できるかぎり映画やTVから講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などはコメントシートを用いて、それを後日の授業でまとめてフィードバックします。試験については、模範解答などを授業内で紹介し、解説も行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第2回	症状性を含む器質性精神障害 (F0-1)	脳の感染症、外傷、身体障害時の精神症状
第3回	老人性器質性障害 (F0-2)	アルツハイマー型、脳血管性の痴呆
第4回	薬物使用による精神および行動の障害 (F1-1)	大麻、覚せい剤、麻薬、コーヒー、ニコチンなど
第5回	アルコールによる精神および行動の障害 (F1-2)	アルコール依存やその周辺の障害、家族問題
第6回	統合失調症とその関連障害 (F2-1)	統合失調症の歴史、原因や診断の基準
第7回	統合失調症とその関連障害 (F2-2)	統合失調症の症状や主な病型、予後、問題点
第8回	統合失調症とその関連障害 (F2-3)	統合失調症の治療法（薬物療法、リハビリテーション）
第9回	気分障害とその関連障害 (F3-1)	気分障害の症状（そうとうつ）、病型、原因
第10回	気分障害とその関連障害 (F3-2)	気分障害の治療（薬物療法、認知行動療法）
第11回	神経症障害、ストレス関連障害 (F4)	ストレスに関連した病態の種類、原因、治療法
第12回	摂食障害と睡眠障害 (F5)	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類、原因
第13回	人格の障害 (F6)	人格障害の歴史、種類、問題点
第14回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を設定しています。

- 第1回 精神保健学に関する基礎知識レポート作成
- 第2回 達成度の確認(摂食障害)
- 第3回 達成度の確認(器質性精神障害)
- 第4回 達成度の確認(老人性痴呆)
- 第5回 達成度の確認(物質常用障害)
- 第6回 達成度の確認(アルコール精神障害)
- 第7回 達成度の確認(統合失調症1)
- 第8回 達成度の確認(統合失調症2)
- 第9回 達成度試験の勉強(統合失調症3)
- 第10回 達成度の確認(気分障害1)
- 第11回 達成度の確認(気分障害2)
- 第12回 達成度の確認(ストレス関連障害)
- 第13回 達成度の確認(摂食障害と睡眠障害)
- 第14回 達成度の確認(人格障害および全体のまとめ)

## 【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

## 【参考書】

尾崎 紀夫(2021). 標準精神医学(第7版) 医学書院

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点(30%)と数回の課題レポート(20%)、期末試験(50%)で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

12名の受講者のうち7名から回答を頂きました。授業の工夫では4-5の段階が、85.8%の評価でした。この授業を履修してよかったかについては、ほとんどの人が大変良かったと回答してくれていました。自由コメントでは、「実際の症例をお話して下さり、はっきりイメージすることが出来ました。」「すごく分かりやすく詳しく説明してくれるので、テストもしっかり取り組めた。」「この授業を受講することで、自分の精神状態についても理解することができるのではないかと期待していたのでとても有意義な時間を過ごせました。」などの意見も寄せられました。時限については、検討してみます。今まで精神保健学は、過去に何度も「もう少し早い時間に開講してほしい」との要望を受けていましたが、時間割の中の科目配当の関係で6限目に開講していました。2024年度は学科の皆様のご協力得て、木曜日2限目の早い時間帯へ移行して開講します。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

## 【その他の重要事項】

授業の分担や要望を話し合いますので初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援を用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】 火曜日の昼休みにBT1109研究室で開催します。メール toshiha@hosei.ac.jp で事前に予約してください。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として30年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the importance of mental health and to be able to explain examples related to mental disorders.

## 【Learning activities outside of classroom】

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点はGoogleクラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

新型コロナウイルス感染拡大状況にもよりますが、2023年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には、Google Classroomを使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページでGoogle Classroomの登録コードなどを案内しますので確認し、登録してからこの授業を受講してください。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。 ビジネス心理学の概要について講義します。
第2回	小売業その1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組を通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場(マーケット)、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率(粗利)
第3回	小売業その2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組を通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB(プライベートブランド)、NB(ナショナルブランド)、OEM、ブランディング
第4回	テーマパークその1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組を通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、インバージョン、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト(感情的コミットメント、計算的コミットメント)、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第5回	テーマパークその2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組を通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業(日本の自動車会社は?)、市場調査(マーケティングリサーチ)、顧客満足度(CS: Customer Satisfaction)、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント(金のなる木、花形製品、負け犬、問題児)、従業員満足度(ES: Employee Satisfaction)、ロイヤルティ
第6回	業績評価指標(KPI)とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標(KPI)を紹介し、これに関連して、経営目標(売上、利益、粗利、利益率など)、目標管理制度(MBO)、バランス・スコアカード(BSC)、PDCAサイクル(Plan-Do-Check-Actionサイクル)などについて学びます。
第7回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病(糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患)、努力報酬不均衡モデル、日本の雇用慣行(新卒者の一斉採用、専門性の軽視(入社後の研修や訓練を重視)、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整)、退職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例(残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨)、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合(連合)と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム(EAP)、一次的、二次的、三次的予防(ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防)
第8回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。退職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価(人事考課)、給与体系(賃金体系)、目標管理制度、ジョブローテーション、(復習)固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化(ダイバーシティ)、女性活躍推進
第9回	特別講義(内容は未定です)	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第10回	広告とブランドづくりその1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、パブリックプロポジション、顧客価値の三本柱: QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サバイスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション(C、T、F、Mなど)、AIDMA、ローランド・ホール
第11回	広告とブランドづくりその2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ(レスポナント条件づけ)、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス(実験者効果)、内観報告(質問紙法)の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMAからAISAS/AISCEASへ、商品価値、有形価値(プロダクト)、無形価値(ブランド)、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第12回	産業組織心理学は役に立つのか?	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

- 第13回 グローバリゼーションとローカリゼーション 日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISASモデル、BOPビジネス、CSR
- 第14回 まとめと振り返り 今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- 毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
- 授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。
- 本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

- 研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
- 山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書アспект
  - リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
  - 森岡 毅 (2016). USJのジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
  - 鳥宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

**【成績評価の方法と基準】**

○毎回行われるクイズ (50%) と授業内演習の得点 (50%) で成績を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年度は「起業」を念頭においた演習を増やしました。楽しんでいただけたようなので来年度もこの方向で演習を行います。

**【その他の重要事項】**

- 本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにGoogleクラスの第00回 > 個人的な質問や相談 から連絡してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学特殊講義 I

島宗 理

授業コード：A3722 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる、刺激提示や行動測定、データの視覚的分析の方法を学びます。言語としてはPython（パイソン）を用い、プログラミングの基本を学びます。

### 【到達目標】

Pythonを使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。

- ①画像や文字、音声などの刺激をディスプレイに提示する。
- ②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
- ③その他の外部入力装置を用い、より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画、音声データを測定して数量化するなど）。
- ④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。

さらに、プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や、困ったときに他の人に相談したり、困っている人に助言したりするスキルなど、研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要な知識や技術を練習する機会も提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業はオンラインで実施します。毎週プログラミングの課題を用意しますので、各自で自主的に取り組んでください。課題に関する質問や相談、課題へのフィードバックはSlackを使って行います。随時、質問や相談を書き込んでください。

プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週6時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから、ゆっくり、じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人、どうしても時間がかかってしまう人は、あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。

課題#10以降はプログラムを自作するか、それまでと同様に課題に取り組んでプログラミングをさらに学ぶかを選択してもらいます。以下の授業計画には自作する場合のスケジュールを記載しています。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Pythonの基本と開発環境	○課題と課題の進め方、提出方法、評価について説明します。 ○PythonとPyCharmをインストールし、開発環境をセットアップします。
第2回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第3回	刺激制御	○Kivyをインストールし、ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第4回	刺激制御	○Kivyを使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第5回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第6回	刺激制御	○音源データを提示し、キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第7回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第8回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第9回	データの視覚化	○Matplotlibをインストールし、データからグラフを作成するプログラムを作成します。

第10回	プログラム開発(1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し、開発計画を立案します。
第11回	プログラム開発(2)	○自作プログラムを開発します。
第12回	プログラム開発(3)	○自作プログラムを開発します。
第13回	プログラム開発(4)	○自作プログラムを開発します。
第14回	プログラム開発(5)	○自作プログラムを発表します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○全14回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。

○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。ただし、プログラミングには、予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまうと時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

### 【参考書】

- 何冊か例示しますが、図書館や書店に足を運んで、自分でページをめくり、読みやすそうなもの、必要な情報の例が多い本を選びましょう。
- プログラミング演習 Python 2019 喜多一 (2020) <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698> からダウンロードできます(無料)。
- 東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Pythonで手を動かして学ぶデータ分析~ 塚本ら マイナビ出版 (2019)
- エキスパートPythonプログラミング改訂2版 Jaworski ら ドワンゴ (2018)
- 入門 Python 3 (日本語) Lubanovic オライリー・ジャパン (2015)
- 独学プログラマー ~Python言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経BP (2018)
- Python実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~ 陶山 技術評論社 (2020)

### 【成績評価の方法と基準】

○全14課題の課題得点中の獲得割合(%)で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度は完全オンライン制になりました。そのせいか履修生のうち最後まで課題を提出できた学生の割合が減りました。セルフマネジメントのスキルが成績に影響するのは本来なら避けたいのですが、これは致し方ないところかもしれません。来年度は学期の初めにこのことを説明しようと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

○大学のノートPCには管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、自分のPCを使うことをお勧めします。マイPCを持っていないかつたり、用意できなければ事前に相談してください。

### 【その他の重要事項】

- 本授業では民間のソフトウェア開発会社でプログラマー・SEとして勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.”

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) write and debug codes in python, 2) read/write data files, 3) use python libraries, and 4) visualize data.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%).

PSY200BG (心理学 / Psychology 200)

## 心理学特殊講義 II

門本 泉

授業コード：A3727 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品を通して、社会からの逸脱が起こる理由、背景、そして逸脱による様々な影響について調べ、生きる人間の適応について知見を深める。

### 【到達目標】

- 1 非行や犯罪の原因と影響について客観的、科学的に理解するとともに、社会と法との関係を踏まえて、時事問題を分析する視点を持つ。
- 2 これまで非行や犯罪が、社会でどのように位置づけられ、扱われてきたのかについて説明できる。
- 3 非行や犯罪に関与した人の更生、及びその周辺の人々への心理支援の実践と課題について討論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の序盤は、講義と中盤以降の個別・グループ発表に備え、学習課題の整理を行います。中盤以降は、毎回、非行・犯罪を扱った文学作品を取り上げ、主題描写から読み取れることを学生が発表し、併せてその上で生まれた「問い」について討論します。ディスカッションを踏まえて、教員が臨床犯罪心理学の視点から解説を行います。発表機会があります。また、毎回リアクションペーパーの課題が出されますので、これを期限内に回答してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の狙い、授業の進め方、評価の方法
第2回	逸脱とは、犯罪とは	【講義】非行・犯罪の定義と概要、非行・犯罪を扱った小説収集、グループ決め
第3回	犯罪理論、心理支援の実際	【講義】各種の犯罪理論、臨床犯罪心理学の紹介
第4回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題①	【発表・討論・教員による解説】テーマ：怒り（シーラッハ「フェーナー氏 Fährner」）
第5回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題②	【発表・討論・教員による解説】テーマ：裁判（シーラッハ「ハリネズミ Der Igel」）
第6回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題③	【発表・討論・教員による解説】テーマ：有責性（シーラッハ「正当防衛 Notwehr」）
第7回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題④	【発表・討論・教員による解説】テーマ：精神障害と医療観察（シーラッハ「緑 Grün」）
第8回	小括（オンラインの可能性あり）	【講義】第4回から第7回までの授業で扱った問題について補足的な解説を行い、後半に扱うテーマについて概観する。
第9回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑤	【発表・討論・教員による解説】テーマ：鑑定（シーラッハ「棘 Der Dorn」）
第10回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑥	【発表・討論・教員による解説】テーマ：絶望と更生（シーラッハ「エチオピアの男 Der Äthiopier」）
第11回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑦	【発表・討論・教員による解説】テーマ：安全基地（貴志祐介「青の炎」）
第12回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑧	【発表・討論・教員による解説】テーマ：加害者家族（東野圭吾「手紙」）
第13回	文学作品にあらわれる犯罪心理学的主題⑨	【発表・討論・教員による解説】テーマ：自由（学生・教員による選出書）
第14回	授業の総括、全体討論	【討論】授業で扱った作品の振り返りと、臨床犯罪心理学的な学びをどのように社会での活躍に生かせるか。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：取り上げる作品、テーマ、関連する事象について予め調べて授業に臨むことが期待されます（100分、自身が発表者となる回（1人につき1回）では、全編を読んでまとめることとなりますので、学習時間はさらに増えます）。

事後学習：リアクションペーパーに取り組み、併せて授業で扱った内容をさらに理解するため、発展的に資料収集を行ってください。（100分）

### 【テキスト（教科書）】

テキスト指定はしませんが、第10回授業までは、フォン・シーラッハ「犯罪」（創元推理文庫）の短編を取り上げます（法政大学図書館に所蔵あり）。その他の小説も、基本的に法政大学図書館にあるものを選びます。

### 【参考書】

授業で取り上げる文学作品、書籍については、授業内で紹介していきますが、以下のものは必要に応じて参照すると授業の理解度が深まるはずですが、川畑直人、大島剛（監修）2020 司法・犯罪心理学 ミネルヴァ書房・野島一彦（監修）2023 第19巻 司法・犯罪心理学第2版（公認心理師の基礎と実践） 遠見書房

### 【成績評価の方法と基準】

授業の理解度（40%）、授業への関与度（30%）、各自の発表（30%、1人につき1回）。毎회가小テストと同等の課題となるので、期末試験は行いません。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度から、本講座を担当します。回を重ねる中で、学生からの有益なフィードバックについては適宜取り入れながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業では、原則としてパワーポイントを用いた説明・発表を行います。資料はオンラインで配信します。

### 【その他の重要事項】

- (1) 犯罪（凶悪犯罪を含む）に関する具体的な内容、資料などを使用する可能性があります。各自の進路や適性（加害・被害に触れる耐性を含む）を十分考慮して、受講するか否かを決定してください。
- (2) 学生が能動的、積極的に関与することが必要な授業構成です。各自の学習達成度に加え、授業への参画度も勘案して評価します。
- (3) 文学を題材にしますが、教員からのインプットは、実務経験を踏まえた現代日本の実際の犯罪心理学に関する内容となります。ファンタジーよりも現実に関心のある学生は是非履修してください。
- (4) 発表単位となるグループ構成は、履修者の数に合わせて決定します。

### 【Outline (in English)】

This course aims to have opportunities to think about the reasons, the backgrounds and the impacts of crime and delinquency. In every session will pick up a piece of literature which dealt with deviation, students will individually/in team present the content and their consideration. Group discussion and lecture are followed. Students are expected to read specific work of literature in advance, and to proceed further research individually after the class. Through this course students will explore how we can see human adaptation to life. The grade will be decided by depth of understanding(40%), how was your involvement in the classes(30%), presentation styles and contents(30%), No exam will be executed.

CAR200BA (キャリア教育 / Career education 200)

## 文学部生のキャリア形成

小寺 浩二、利根川 真紀、渡辺 弥生

授業コード：A3813 | 曜日・時限：金5/Fri.5  
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界で活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中で「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

\*この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

## 【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連  
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連  
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連  
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連  
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連  
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行ないます。そのための時間を十分に確保します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/12)
第2回	ゲスト講師の講演 (1)	ホテル業務 (4/19)
第3回	ゲスト講師の講演 (2)	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/26)
第4回	ゲスト講師の講演 (3)	人事関係 (5/10)
第5回	Workshop (1)	キャリアセンター職員によるワークショップ (5/17)
第6回	ゲスト講師の講演 (4)	私立中高校教師 (5/24)
第7回	ゲスト講師の講演 (5)	教育（大学職員） (5/31)
第8回	ゲスト講師の講演 (6)	公立中学教師 (6/7)
第9回	ゲスト講師の講演 (7)	鉄道会社（経営企画） (6/14)
第10回	Workshop (2)	サービス業 (6/21)
第11回	ゲスト講師の講演 (8)	IT関係・外資系 (6/28)
第12回	ゲスト講師の講演 (9)	民間放送業（総合職） (7/5)
第13回	ゲスト講師の講演 (10)	法人向け地図商材の企画 (7/12)
第14回	まとめ	総括レポート作成 (7/19)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。

この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

## 【参考書】

適宜お知らせします。

## 【成績評価の方法と基準】

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）

②学期末レポート

※①②は成績評価のために必須とします。

・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されません。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしない小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合にはF評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

・第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

「様々な職業の方のお話が聞いて有意義な時間を過ごすことができました」、「様々な職種、経験をしてきた先輩方の話を聞くことで就活とその先の社会人になったときのイメージが鮮明になってよかった」、「文学部は就活で苦労する、という言葉や度々耳にしていたため不安に思った時もあったが、講師の方々が様々な業界で活躍しているのを見て安心できた」といったポジティブな意見が多く寄せられました。担当教員一同、この授業の意義を再確認しました。

その一方で、授業の形態については批判的な意見が散見されました。具体的には、「授業開始10分前からズームに参加していたが、授業開始時間ギリギリに入室許可されることが度々あったため改善して欲しい」、「毎回の課題の時間がギリギリになって焦るのももう少し時間が欲しい」、「ZoomのURLは毎授業変えないで行なっていたらと入室しやすいですし、混乱しなくて済むと思います」といった意見です。これらの意見は、2024年度の担当教員に引き継いで、改善できないか検討いたします。

オンライン授業で、ゲスト講師の先生方に無事お話しいただけるよう支援しながら、約200名の欠席を管理するのは、なかなか大変です。皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

## 【その他の重要事項】

☆2024年度もオンラインで実施します。

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。

③担当教員が全授業に同席し、担当します。

④本学学部を卒業し、公務員、教員、教育、放送、交通、サービス業など様々な業種での勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。

⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

## 【Outline (in English)】

This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.

This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.

Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: If the content of each short report and the end-of-term report are judged to meet specific criteria, the student will receive a "P" grade (pass), and credit will be awarded. If it is determined that the requirements are not met, the student will receive an "F" grade (Fail), and no credits will be awarded.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 組織論入門

小川 憲彦

専門入門科目100番台 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]  
 営1年F～K

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を習得することを目的とします。This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including technical terms, major themes, and an overview of the field.

### 【到達目標】

大まかに言えば、組織論がどういった学問であるのかを理解します。そのためには経営学という学問体系の中において、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどのような領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学を学ぶ上でイロハになりますので、半期を通じて慣れていって下さい。

具体的には以下を目標とします。

- ①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域かを説明できること
- ②組織論の基本的な言葉・概念を知っておりその意味が説明できること
- ③主要な理論について概要を知っていること

Students who complete this course will be expected to:

- (1) understand where the organization theories could be placed in the business administration academic field,
- (2) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field and be able to explain the meaning of those terms.
- (3) have an overview of major organization theories.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

- ・初回の授業を除き、基本的に対面講義を実施します。それが難しい状況の場合はZoomを用いたりアルタイムのオンライン授業を行います。
- ・リアクションペーパー等を適宜課します。
- ・グループでの話し合いなども適宜行う予定です。
- ・The format for conducting the class is basically in person except the first lecture by online. However, the format (in person, online, or hybrid of them) depends on situations (such as COVID-19).
- ・Students will be required to submit reaction paper and/or some assignments as necessary.
- ・Group discussions might be held in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要や参加要件について
第2回	経営学と組織論	経営学はどのような学問か、組織論はどのような領域か
第3回	組織とは何か	組織の定義について
第4回	組織形態①	職能別組織、事業部制組織、マトリクス型組織など
第5回	組織形態②	その他の組織形態と、組織形態の発展
第6回	組織構造	官僚制と構造次元
第7回	組織の外部環境	組織のオープンシステム観、組織と戦略
第8回	組織構造のコンティンジェンシー理論	有機的組織、機械的組織
第9回	組織の変化①	組織のライフサイクル、組織変革
第10回	組織の変化②	組織学習
第11回	組織文化	価値体系としての組織
第12回	近代組織論①	バーナードの組織論 (組織均衡論)
第13回	近代組織論②	マーチ&サイモンの組織論
第14回	近年の組織論	ポストモダンの組織論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題を課すことがありますが、入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。新聞、ニュース、アルバイトやインターンなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まります。これを機会に、組織の中で働く経験を開始するのもよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion. Work experiences such as part-time jobs and/or internship will help you to understand this field.

### 【テキスト (教科書)】

坂下昭宣 (2014) 『経営学への招待 新装版』白桃書房。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

授業の説明で分かりにくい場合、信頼性の低いネット情報に頼るのではなく、まず教科書や参考書にあたってください。

### 【参考書】

金井壽宏 (1999) 『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

授業の説明で分かりにくい場合、信頼性の低いネット情報に頼るのではなく、まず教科書や参考書にあたってください。

### 【成績評価の方法と基準】

提出物やディスカッション、発言等を含む平常点50%、期末試験50%で評価します。ただしコロナの蔓延状況等により期末試験の実施の可否などが不明ですので、流動的です。

地震などの諸事情により試験が実施できなくなった場合は、各回のリアクションペーパーが評価の対象になると思います。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%). However, if the examination could not be conducted due to various circumstances, the reaction paper for each session will be the main target for evaluation.

### 【学生の意見等からの気づき】

可能な範囲で時々復習しながら進めたいと思います。

If possible, I would like to review what you learned previously from time to time.

### 【その他の重要事項】

- ・配られた資料を見るだけでなく、ノートを取る癖をつけて下さい。
- ・写真撮影、動画撮影、録音等の一切を禁じます。
- ・具体例を新聞等で探しながら復習をすると理解が深まります。
- ・出席状況は評価に加味しませんが、出席をせずにリアクションペーパーのみを提出することは不正とみなします。
- ・Take notes, not just looking at the handouts.
- ・Photography, video recording, or any other form of recording is strictly prohibited.
- ・Please review the material by looking for examples in newspapers, etc., for your understanding.
- ・Although attendance will not be taken into account in the evaluation, submission of reaction papers without attendance will be regard as a cheating.

### 【関連科目】

経営管理論、経営組織論、組織行動論等

### 【Outline (in English)】

Learning objectives

Students who complete this course will be expected to:

- (1) have an overview of major themes in organization theories,
- (2) understand where the organization theories could be placed in the academic field of business administration,
- (3) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field.

Learning activities outside of the classroom

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.

Grading criteria/policy

Grading will be based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

## 組織論入門

## 橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]  
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織論入門は、3つの特徴があります。

1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する  
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する  
内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的  
に学びます

2) 経営学のモノの見方を学ぶ

現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉え  
るのかについて、事例を元に学びます

3) 今後の学習へのガイド

多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドと  
なるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明  
することができる

2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から  
説明することができる

3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することがで  
きる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目  
的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力  
を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習  
成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

## 【授業の進め方と方法】

・対面授業として実施します(授業内容に沿って事前に告知した上でオンライ  
ンで実施することもあります)。

・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。

・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。

・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、  
また点数を個別にフィードバックします。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻く ステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどうい うことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義(ゲスト講義1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点は何か
第11回	事例講義(ゲスト講義2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に  
該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとし  
た学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2  
時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDF  
ファイルにて配布します。

## 【参考書】

1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018)『人事管理』有斐閣。

2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010)『組織論 補訂版』有斐閣。

その他、授業と合わせて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの  
振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、  
時事ネタを取り入れながら進めていく

## 【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型(zoomを利用)のオンライン授業形  
式を取り入れることがある。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC環境、カメラ  
オンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【関連科目】

なし

## 【Outline (in English)】

## Course outline

This is an introductory course designed to help you develop an under-  
standing and awareness of organizations. This course includes three  
topics; Basics of business management, organizational management,  
human resource management. It aims to become a course leading to  
future advanced learning.

## Learning Objectives

(1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the  
basic

content of organization theory.

(2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of  
business administration.

(3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced  
content.

## Learning activities outside of classroom

## Review of each class

## Grading Criteria /Policy

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA (経営学/Management 100)

## 組織論入門

### 橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]  
 営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

- 1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する  
 経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
- 2) 経営学のモノの見方を学ぶ  
 現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
- 3) 今後の学習へのガイド  
 多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

- 1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
  - 2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
  - 3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
- また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

#### 【授業の進め方と方法】

- ・対面授業として実施します(授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインでも実施することもあります)。
- ・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。
- ・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
- ・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か：株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方：採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは：組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題：現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義(ゲスト講義1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化：組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発：組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要：人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題：人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義(ゲスト講義2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング：就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成：人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

#### 【参考書】

- 1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018) 『人事管理』有斐閣。
  - 2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010) 『組織論 補訂版』有斐閣。
- その他、授業と合わせて適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に提出し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

#### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型 (zoom を利用) のオンライン授業形式を取り入れることがある。オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

#### 【その他の重要事項】

特になし

#### 【関連科目】

なし

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics; Basics of business management, organizational management, human resource management. It aims to become a course leading to future advanced learning.

##### Learning Objectives

- (1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the basic content of organization theory.
- (2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of business administration.
- (3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced content.

##### Learning activities outside of classroom

##### Review of each class

##### Grading Criteria /Policy

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA (経営学/Management 100)

## マーケティング入門

竹内 淑恵

専門入門科目100番台 1～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]  
営1年A～E

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

## 【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

## 【授業の進め方と方法】

この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。  
 ・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。  
 ・授業の進め方と方法については初回授業で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。  
 ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。  
 ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 第1章 マーケティング 発想法	講義の進め方について説明します。ニューコークとタイドを事例に、マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第2回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STPマーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学びます。
第3回	第3章 製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第4回	第4章 価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第5回	第5章 チャネルによる顧客創造	ネスカフェ アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第6回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第7回	第7章 顧客理解	Ban 汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学びます。
第8回	第8章 関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第9回	第9章 デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第10回	第10章 デイモンド チェーン	カルビー ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法を学びます。
第11回	第11章 ブランド構築	マンダム ギャツビーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第12回	第12章 営業活動	カゴメ 瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。

第13回 第13章 マーケティングの戦略展開 花王 ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。

第14回 第14章 社会共生 トヨタ プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、メーカーの視点を持つ必要があります。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解するように努め、マーケティングの基礎を習得します。

## 【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

## 【参考書】

・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（2019）。  
 ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ（2022）。  
 ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版（2007）。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計100点満点とし、60点以上が合格となります。

## ①中間レポート

・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。

・40点満点で採点します。

<レポート提出の注意事項>

・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。webなどから文章や図表、画像を引用する場合はURL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。

・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。

・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。

・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。

・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。

## ②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。

・3択形式と穴埋め形式、60点満点です。設問数等の詳細は未定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役立てたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いいたします。

## 【その他の重要事項】

・本科目は、マーケティング系の専門科目の基礎となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

## 【関連科目】

・マーケティング・マネジメント論I/II

・マーケティング・リサーチ論I/II

・消費者行動論I/II

・流通論I/II

・サービス・マネジメント論I/II

**【Outline (in English)】**

Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

## マーケティング入門

竹内 淑恵

専門入門科目100番台 1～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]  
営1年F～K

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

## 【到達目標】

・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。  
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。  
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

## 【授業の進め方と方法】

この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。  
・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。  
・授業の進め方と方法については初回授業で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。  
・中間レポート課題のテーマはGoogle Classroomに掲載します。提出先もGoogle Classroomです。  
・Google Classroomへの登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 第1章 マーケティング 発想法	講義の進め方について説明します。 ニューコークとタイドを事例に、 マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第2回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STPマーケティングとマーケティング・ミックス(製品、価格、チャネル、コミュニケーション)の基礎を学びます。
第3回	第3章 製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第4回	第4章 価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第5回	第5章 チャネルによる顧客創造	ネスカフェ アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第6回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第7回	第7章 顧客理解	Ban汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ(市場調査)を学びます。
第8回	第8章 関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第9回	第9章 デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第10回	第10章 デイモンドチェーン	カルビー ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法を学びます。
第11回	第11章 ブランド構築	マンダム ギャツビーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第12回	第12章 営業活動	カゴメ 瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。

第13回 第13章 マーケティングの戦略展開 花王 ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。

第14回 第14章 社会共生 トヨタ プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
私たちが消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、メーカーの視点を持つ必要があります。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解するように努め、マーケティングの基礎を習得します。

## 【テキスト(教科書)】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016)

## 【参考書】

・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング第4版』碩学舎(2019)。  
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ(2022)。  
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007)。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計100点満点とし、60点以上が合格となります。

## ①中間レポート

・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。

・40点満点で採点します。

<レポート提出の注意事項>

・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。webなどから文章や図表、画像を引用する場合はURL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。

・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。

・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。

・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。

・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。

## ②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。

・3択形式と穴埋め形式、60点満点です。設問数等の詳細は未定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役にたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いいたします。

## 【その他の重要事項】

・本科目は、マーケティング系の専門科目の基礎となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

## 【関連科目】

・マーケティング・マネジメント論I/II  
・マーケティング・リサーチ論I/II  
・消費者行動論I/II  
・流通論I/II  
・サービス・マネジメント論I/II

**【Outline (in English)】**

Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN100FA (経済学 / Economics 100)

## ファイナンス入門

山崎 輝

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]  
営 1 年 A～F

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、資産形成や老後資金確保のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、主に (1) 金融取引や証券市場の仕組み、(2) 将来価値と現在価値の概念、(3) 債券と株式の初歩的な分析手法、について学びます。これらの内容は2年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

## 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- (3) 債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- (4) 株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式の対面授業です。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業中に計算することがありますので、電卓 (関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい) を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の概観 (1)	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観 (2)	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利子率、将来価値、現在価値 (1)	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利子率、将来価値、現在価値 (2)	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利子率、将来価値、現在価値 (3)	様々な複利期間と利子率の計算
第7回	債券入門 (1)	債券の基本的なしくみと用語
第8回	債券入門 (2)	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第10回	株式入門 (1)	株式の基本的なしくみと用語
第11回	株式入門 (2)	配当割引モデルと株式評価のための指標
第12回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第13回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第14回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト (教科書) の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) 講義資料 (配付方法は初回授業で説明します)

## 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験 (80%) と授業期間中の小テスト (20%) で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ファイナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓 (関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい) を用意してください。

## 【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II、Excelで学ぶファイナンス理論 I/II

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN100FA (経済学 / Economics 100)

## ファイナンス入門

岸本 直樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]  
 営 1 年 O～U

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし、ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は、社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば、ひとつには、金融機関ではもちろん、さらに、金融機関以外の企業であっても財務に関する部門であればファイナンスの知識が必須だからです。また、個人としても、債券、株式、投資信託等への投資のほか、年金のタイプによってはその運用のための投資の知識が欠かせないからです。この科目で皆さんは、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念と計算方法、債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに、先物やオプション等のデリバティブのほか、リスクとリターンとのトレードオフや、効率的市場仮説についても初歩的な内容を学習します。

### 【到達目標】

受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。

- ①金融・証券の基礎知識を得ることで、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率、将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標を使った初歩的な分析ができる。
- ⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引、さらにオプションの基本的な仕組みと入門的な利用方法を理解する。
- ⑥リスクとリターンとのトレードオフという考え方を理解し、実務で広く使われている CAPM の概略を知る。
- ⑦情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説と呼ばれる仮説に沿って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。また、授業中にパソコン上で Excel を使った計算を説明します。したがって、Excel がインストールされたパソコンを持参するか、大学から借りてください。もちろん、Excel はタブレットやスマートフォンでも利用できるのですが、パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参してもよいです。ただし、タブレットやスマートフォン上における Excel の操作は、パソコンのそれと、若干異なります。時間の制約があるため、授業では、それらの点について説明しません。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに、金融市場を概観する。
第2回	利子率、将来価値、現在価値 (1)	将来価値、現在価値の計算ほか、複利と単利の違いを学習する。
第3回	利子率、将来価値、現在価値 (2)	将来価値、現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
第4回	債券入門 (1)	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。
第5回	債券入門 (2)	様々なタイプの債券を外観する。
第6回	債券入門 (3)	最終利回りの定義式を学習する。
第7回	債券入門 (4)	最終利回りの性質を学習する。
第8回	債券入門 (5)	債券投資のリスクを学習する。
第9回	株式市場の概観および株式入門 (1)	株式市場を概観した後、株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
第10回	株式入門 (2)	配当割引モデルを学習する。
第11回	株式入門 (3)	株式評価のための指標を学習する。
第12回	デリバティブ入門 (1)	先渡取引と先物取引の仕組みのほか、これらの取引の利用方法を学習する。
第13回	デリバティブ入門 (2)	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
第14回	リスクとリターンとのトレードオフおよび効率的市場仮説	Capital Asset Pricing Model を学習する。さらに、効率的市場仮説を学習する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト (教科書) の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣 (製本されたもののほか、e-book もある)

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、クイズの回数によって異なるが、期末テストのウェイトが 70～85%、クイズと授業参加のウェイトが 30～15% である。

### 【学生の意見等からの気づき】

さらに分かりやすい授業になるように努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

担当教員が事前に連絡した日には、Excel がインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンを用意してください。

### 【その他の重要事項】

授業中は私語等を控え、講義に集中してください。なお、担当教員は、博士課程に入学する前に、東京およびニューヨークにおいて日経証券会社の調査部門で日本の証券市場の調査に従事した。

### 【関連科目】

簿記入門 I/II、コーポレート・ファイナンス入門 I/II、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II。

### 【Outline (in English)】

Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for both financial institutions and finance departments of nonfinancial corporations. In addition, the knowledge on finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives, risk and return tradeoff, and efficient market hypothesis.

Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.

- (1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
- (2) Concepts of interest rates and the basic calculations of future values and present values.
- (3) Institutional knowledge of bonds and elementary analysis of bonds.
- (4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
- (5) Basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options.
- (6) Risk and return tradeoff.
- (7) Relationship of information and asset prices in terms of what is called the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria: The final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

**簿記入門 I**

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 A~E

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

**【到達目標】**

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身につけることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

**【授業の進め方と方法】**

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	簿記の必要性	貸借対照表・損益計算書
第 3 回	記帳のルール	仕訳と勘定記入
第 4 回	商品売買 I	掛け取引
第 5 回	商品売買 II	手付金・内金
第 6 回	商品売買 III	商品券・返品
第 7 回	商品売買 IV	諸掛り・有高帳
第 8 回	商品売買 V	有高帳・現金
	現金・預金 I	
第 9 回	現金・預金 II	当座預金
第 10 回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第 11 回	現金・預金 III	当座借越
第 12 回	現金・預金 IV	小口現金
第 13 回	売掛金 I	クレジット売掛金・手形
	手形取引 I	
第 14 回	手形取引 II	手形

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

**【参考書】**

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

**【成績評価の方法と基準】**

授業内に行われる小テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の合計で最終的な評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし。本年度からの担当。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。

**【その他の重要事項】**

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

**【Outline (in English)】**

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination (30%), and term-end examination (70%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

## 簿記入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]  
 営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

### 【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	様々な取引Ⅰ	電子記録債権・債務、貸付金・借入金
第 2 回	様々な取引Ⅱ	利息、役員貸付金・借入金、手形貸付金・借入金
第 3 回	様々な取引Ⅲ	有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金・仮受金
第 4 回	様々な取引Ⅳ	給与、さまざまな帳簿
第 5 回	試算表	残高試算表
第 6 回	決算整理Ⅰ	現金過不足、売上原価
第 7 回	決算整理Ⅱ	貸倒①
第 8 回	決算整理Ⅲ	貸倒②
第 9 回	決算整理Ⅳ	減価償却
第 10 回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第 11 回	決算整理Ⅴ	貯蔵品、当座借越
第 12 回	決算整理Ⅵ	経過勘定項目①
第 13 回	決算整理Ⅶ	経過勘定項目②
第 14 回	精算表	精算表

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

### 【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

### 【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の合計で最終的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度からの担当。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

### 【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (表計算) (2019年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (表計算) (2019年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進捗に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (表計算) (2019年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppii)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (表計算) (2019年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小きな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

児玉 靖司

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

児玉 靖司

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング(VBA)に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすいVisual Basic Applicationsによるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し(1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し(2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化(1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化(2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計(1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計(2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム(1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム(2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング(1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング(2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い(25%)、出席や課題提出も考慮し(75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング(VBA)に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすいVisual Basic Applicationsによるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し(1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し(2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化(1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化(2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計(1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計(2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム(1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム(2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング(1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング(2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い(25%)、出席や課題提出も考慮し(75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一朗

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

#### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も (75%) 考慮し評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報学入門Ⅱ (データ演習) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング(VBA)に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすいVisual Basic Applicationsによるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し(1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し(2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化(1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化(2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計(1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計(2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム(1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム(2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング(1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング(2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い(25%)、出席や課題提出も考慮し(75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまずPCを用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特にExcelを基礎としたデータ処理法とAccessデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上とPCのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データベースコース]では標準的なソフトウェアであるExcelと連携しながらAccessやWebによるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のためにPCを活用できるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【課題等に対するフィードバック方法】

各回の課題はネット(Classroomなど)を利用するので、その中で全体の回答例を示したり学生個別に回答の問題点などをフィードバックする。また必要に応じて授業の中でデモ回答を示すものとする。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブラインドタッチについて学ぶ。
第3回	Microsoft Wordの基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	Microsoft PowerPointの基本操作	PowerPointの基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第5回	Google Workspaceの利用法	電子メールの書き方、クラウドサービスの活用について学ぶ。
第6回	Microsoft Excelの基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	Excelによる基本集計	表計算による基本集計、関数の利用について学ぶ。
第8回	Excelによるデータ処理	表計算の応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第9回	Excelによるクロス集計	表計算の応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第10回	Excelによるデータ分析(1)	2種類のデータについての分析方法について学ぶ。 またExcelマクロについて学ぶ。
第11回	Excelによるデータ分析(2)	2種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。またExcelマクロの応用について学ぶ。
第12回	Excelによるデータベース的処理	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第13回	ExcelとAccessの連携	データベースとの連携を含む処理方法について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

PCの基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

### 【参考書】

各回テーマごとに必要に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期に1回のテスト(または総合レポートの提出)40%と各回授業の課題提出60%により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomを利用し効率的な授業を行う。自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces Informatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database such as Access and other softwares, especially using Excel's operations.

The goals of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまずPCを用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特にExcelを基礎としたデータ処理法とAccessデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上とPCのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データベースコース]では標準的なソフトウェアであるExcelと連携しながらAccessやWebによるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のためにPCを活用できるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

## 【課題等に対するフィードバック方法】

各回の課題はネット(Classroomなど)を利用するので、その中で全体の回答例を示したり学生個別に回答の問題点などをフィードバックする。また必要に応じて授業の中でデモ回答を示すものとする。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第2回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用方法について学ぶ。
第3回	Excelとデータベースの関係	Officeの中のExcelとAccessなどの役割の違いについて復習する。
第4回	Excelデータのエクスポート	Excelを中心としてCSVファイルなどのデータ交換について学ぶ。
第5回	SQLite データベースの基本(1)	データベースの例としてSQLiteの基本操作について学ぶ。
第6回	SQLite データベースの基本(2)	SQLiteによる基本的検索方法について学ぶ。
第7回	クエリとSQLの利用(1)	データベースにおけるSQLの役割について学ぶ。
第8回	クエリとSQLの利用(2)	データベースにおけるSQLの種類と利用について学ぶ。
第9回	SQLite データベースの設計	ネットワーク上のデータベースの構築のための設計を学ぶ。
第10回	SQLite データベースの構築	ネットワーク上のデータベースの構築の実践について学ぶ。
第11回	Google Colabの基本	Google Colabからのデータベースの利用について学ぶ。
第12回	Google Colabの活用	Google Colabからのデータベースの活用について学ぶ。
第13回	独自データベースの構築	自ら収集したデータからデータベースの構築を行う。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

PCの基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。  
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

## 【参考書】

各回テーマごとに必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつのテスト(または総合レポートの提出)40%と各回授業の課題提出60%により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomを利用し効率的な授業を行う。  
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。  
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、データベースに関連した業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

This course introduces Infomatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database such as Access and other softwares, especially using Excel's operations.

The goals of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門 I (空間情報処理) (2019年度以降入学者)

森本 洋一

専門入門科目 100 番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門<空間情報処理>コース情報科学実習<fコース>

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図(WEBで閲覧できる地図など)や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GISソフトはフリーで誰もが利用できるMANDARAを使用することを想定している。

※ 履修者の希望や理解度に応じて別のソフト(QGIS)を使った実習を行う可能性もある。

### 【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得及び、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

前半は、電子メール、ワープロ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、インターネットの利用方法やこれらを活用した表現方法について学ぶ。

後半は、前半で培った知識を生かして、WEB地図や簡易GISの使い方や表現方法について学ぶ。

授業形式は、実習形式(講義⇒実習⇒まとめ)で行う。

実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーション、簡易GISなどのツールの利用方法を習得できるように工夫する。

講義の進度は、学生の習熟度を考慮しながら決める。

授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて学び、調べ、まとめる
第2回	コンピュータの構成(ハードウェア、ソフトウェア)	コンピュータの構成(ハードウェア、ソフトウェア)について、学び、調べ、まとめる
第3回	電子メール	電子メールの基礎(使い方、メールでの文章表現)
第4回	クラウド環境	クラウドの基礎(クラウドストレージの種類、クラウドを用いたデータの保存方法や共有方法)
第5回	ワープロ入門	Wordの基礎(文章入力の基本、伝わりやすい表現方法)
第6回	ワープロ応用	Wordの応用(フォーマットによる文章作成)
第7回	表計算ソフト入門	Excelの基礎(機能と使い方)
第8回	表計算ソフト活用	Excelの基礎(表・図の作成)
第9回	表計算ソフト活用	Excelの応用(統計解析)

第10回	プレゼンテーション入門	PowerPointの基礎(機能と使い方)
第11回	プレゼンテーション応用	PowerPointの応用(わかりやすい表現や図表の作成)
第12回	WEB地図①	インターネットで見られる様々なWEB地図
第13回	空間情報解析入門	GIS(MANDARA)の基本(都道府県別の主題図の作成)
第14回	総合実習	個別テーマによる総合実習

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

前半：第1回授業時に指示。

後半：後藤真太郎ほか(2013)：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座(第3版)』,古今書院

### 【参考書】

・中村和郎ほか(2002)：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院  
 ・佐土原 聡ほか(2005)：『図解! ArcGIS身近な事例で学ぼう』, 古今書院  
 ・川崎昭如ほか(2008)：『図解! ArcGIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』,古今書院  
 その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

実習形式の授業のため、平常点(出席点)と各授業ごとの小課題を重視します。

①平常点(30%)

②課題(30%)

③試験 または レポート(40%)

授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

### 【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。

・初回講義時までには、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること

・秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

### 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

### 【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

### 【担当教員の専門分野等】

<研究領域>

水文学、河川環境、河川工学

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of information literacy and GIS.

(Learning Objectives)

Learn the basics and applied skills of information literacy, and develop basic skills of spatial information analysis.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

① Normal point (30%)

② Assignment (30%)

③ Exam or report (40%)

The points allocated may change depending on the progress of the class.

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019年度以降入学者)

森本 洋一

専門入門科目 100 番台 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門<空間情報処理>コース情報科学実習<fコース>

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

秋学期はIで習得した基本的なリテラシーを活かし、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった位置情報を持った統計情報や空間情報などの扱い方、それらの情報とGISを用いた分布図の作成法を習得する。

簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GISソフトはフリーで誰もが利用できるMANDARAを使用することを想定している。

※ 履修者の希望や理解度に応じて別のソフト (QGIS) を使った実習を行う可能性もある。

### 【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。

GISを用いた位置情報の扱い方や作図方法などの基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

秋学期はIで培った知識を生かして、簡易GISの使い方や表現方法について学ぶ。

授業形式は、実習形式 (講義⇒実習⇒まとめ) で行う。

実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーション、簡易GISなどのツールの利用方法を習得できるように工夫する。

講義の進度は、学生の習熟度を考慮しながら決める。

授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム (GIS) とは	GISの基礎知識を学び、まとめる
第2回	地理空間情報の収集・管理・活用方法	インターネットで公開されている地理情報や各種統計情報を収集し、GISで表示する
第3回	主題図の作成① (全国データの利用)	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第4回	主題図の作成② (都道府県データの利用)	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	主題図の作成③ (市区町村データの利用)	市区町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地図の編集①	属性の作成と編集
第7回	地図の編集②	図形データの作成と編集
第8回	メッシュデータ解析の基礎	土地利用データの解析の基礎について
第9回	メッシュデータ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について
第10回	メッシュデータ解析の応用	複数年の土地利用変化について解析する方法
第11回	総合実習①	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第12回	総合実習②	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第13回	総合実習③	作成した主題図の編集や解析を行う
第14回	まとめ	これまで培ったリテラシーやGIS実習の成果をもとにまとめを行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学会で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、主題図を作成し、時空間解析を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

第1回授業時に指示。

### 【参考書】

・後藤貞太郎ほか (2013) : 『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 (第3版)』, 古今書院

・中村和郎ほか (2002) : 『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院

・佐土原 聡ほか (2005) : 『図解! ArcGIS身近な事例で学ぼう』, 古今書院

・川崎昭如ほか (2008) : 『図解! ArcGIS Part2 GIS実践に向けてのステップアップ』, 古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

実習形式の授業のため、平常点 (出席点) と各授業ごとの小課題を重視します。①平常点 (30%) ②課題 (30%) ③試験 または レポート (40%) 授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

### 【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。初回講義時までに、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること。秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

### 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
SIS GIS

### 【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

### 【担当教員の専門分野等】

<研究領域>水文学、河川環境、河川工学

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn how to handle statistical information and spatial information with location information, which are increasingly used in various academic fields and industries, and how to create distribution maps using that information and GIS.

(Learning Objectives)

Learn the basics and applied skills of information literacy.

Learn basic skills such as how to handle location information using GIS and how to draw diagrams.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria/Policy)

① Normal point(30%)

② Assignment(30%)

③ Examreport(40%)

The points allocated may change depending on the progress of the class.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (aコース) (2018年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (aコース) (2018年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小きな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進捗に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (αコース) (2018年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (aコース) (2018年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進捗に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (bコース) (2018年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング(VBA)に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすいVisual Basic Applicationsによるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し(1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し(2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化(1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化(2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計(1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計(2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム(1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム(2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング(1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング(2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い(25%)、出席や課題提出も考慮し(75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (2016～2017年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppii)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (2016～2017年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

## 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画の一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windowsの基本操作を学習する。
第2回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第3回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第4回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第5回	文書の入力	日本語ワープロソフト(Microsoft Word)での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第6回	文書編集の基本操作	Wordによる基本的な文書編集操作を学習する。
第7回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第8回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第9回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第10回	表計算の基礎知識	表計算ソフト(Microsoft Excel)を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第11回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第12回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第13回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第14回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

## 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。この科目は同一内容が複数の担当教員により複数の授業時間で同時開講されます。

### 【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PCを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室のPCを用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム(Hoppi)で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第3回	ワークシート編集の基礎	Excelでの複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理を学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分(軸や凡例等)の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ(複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど)の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

### 【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習(60%)を行い、平常点・授業に対する積極度(20%)、定期的な課題提出(20%)を考慮して評価します(テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室のPCを使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習 I (2016~2017年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

## 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

## 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

## 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い (25%)、出席や課題提出も考慮し (75%) 評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

## 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

## 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報科学実習Ⅱ (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目A群 1・2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング(VBA)に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

### 【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすいVisual Basic Applicationsによるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

#### 【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

#### 【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し(1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し(2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化(1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化(2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計(1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計(2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方(文字列処理)(2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム(1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム(2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング(1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング(2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

教材については開講時に指示する。

### 【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い(25%)、出席や課題提出も考慮し(75%)評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

### 【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

#### 【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 会計学入門 I

近藤 大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

営2年Q~U

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計学入門 I では、主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表、さらに売上原価、有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析、原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

## 【到達目標】

会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて講義を行う予定である。わかりにくい事例については具体例を用いて説明を行う。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックする。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会計情報の役割	財務会計と管理会計の性格と機能
第2回	会計制度と社会	株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	会計の仕組み	貸借対照表、損益計算書の構造
第4回	貸借対照表	貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	在庫品の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法
第6回	生産設備の会計	有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	金融資産の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価
第8回	負債と資本の会計	自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	損益計算書	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴
第10回	営業活動の会計	企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	儲かる仕組みの分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析
第12回	利益構造の分析	損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	経営管理と会計	原価管理の手法等
第14回	会計学の諸領域と会計を活用する仕事	会計分野の各専門科目の内容と、会計を本格的に学習した後に就ける仕事

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

## 【テキスト (教科書)】

谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計 (第2版)』中央経済社、2021年

## 【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年  
 小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年  
 谷武幸『エッセンシャル管理会計 (第4版)』中央経済社、2022年

## 【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらう事を予定している。定期試験 (70%)、レポート (30%) の合計によって最終的な評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓を使うことがある

## 【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門 I」を並履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『企業評価論』といった会計科目があげられる。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly. we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process :Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 会計学入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]  
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計学入門Ⅱでは、会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

### 【到達目標】

管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定、利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて講義を行う予定である。わかりにくい事例については具体例を用いて説明を行う。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基礎	管理会計の意義、経営管理
第2回	管理会計の基礎概念	原価概念、原価分解
第3回	意思決定	マネジメントコントロールと意思決定、差額原価
第4回	業績管理	責任センター、管理可能性基準の適用
第5回	原価管理	PDCAサイクル、直接費、間接費
第6回	長期経営計画	長期経営計画のプロセスと部門の関与
第7回	設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	利益計画	利益管理とCVP分析
第9回	予算管理	予算編成、予算差異分析
第10回	事業部の業績管理	相互依存性、事業部利益、インベストメントセンター、振替価格
第11回	ABC (活動基準原価計算)	ABCとABM
第12回	BSC (バランスト・スコアカード)	戦略目標・成果指標・パフォーマンスドライバー。4つの視点
第13回	原価企画	日本の管理会計、源流管理、PDCA、組織、VE
第14回	アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター、インタラクション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

### 【テキスト (教科書)】

谷武幸『エッセンシャル管理会計 (第4版)』中央経済社、2022年

### 【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年  
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計 (第2版)』中央経済社、2021年  
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年

### 【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらう事を予定している。定期試験 (70%)、レポート (30%) の合計によって最終的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を使うことがある

### 【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『企業評価論』といった会計科目があげられる。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process :Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 会計学入門 I

近藤 大輔

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 2 年 H~O

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計学入門 I では、主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表、さらに売上原価、有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析、原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

## 【到達目標】

会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて講義を行う予定である。わかりにくい事例については具体例を用いて説明を行う。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックする。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会計情報の役割	財務会計と管理会計の性格と機能
第2回	会計制度と社会	株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	会計の仕組み	貸借対照表、損益計算書の構造
第4回	貸借対照表	貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	在庫品の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法
第6回	生産設備の会計	有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	金融資産の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価
第8回	負債と資本の会計	自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	損益計算書	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴
第10回	営業活動の会計	企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	儲かる仕組みの分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析
第12回	利益構造の分析	損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	経営管理と会計	原価管理の手法等
第14回	会計学の諸領域と会計を活用する仕事	会計分野の各専門科目の内容と、会計を本格的に学習した後に就ける仕事

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

## 【テキスト (教科書)】

谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計 (第2版)』中央経済社、2021年

## 【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年  
 小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年  
 谷武幸『エッセンシャル管理会計 (第4版)』中央経済社、2022年

## 【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらう事を予定している。定期試験 (70%)、レポート (30%) の合計によって最終的な評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓を使うことがある

## 【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門 I」を並履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『企業評価論』といった会計科目があげられる。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly. we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process :Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 会計学入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]  
営2年H～O

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計学入門Ⅱでは、会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

### 【到達目標】

管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定、利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて講義を行う予定である。わかりにくい事例については具体例を用いて説明を行う。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックする。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基礎	管理会計の意義、経営管理
第2回	管理会計の基礎概念	原価概念、原価分解
第3回	意思決定	マネジメントコントロールと意思決定、差額原価
第4回	業績管理	責任センター、管理可能性基準の適用
第5回	原価管理	PDCAサイクル、直接費、間接費
第6回	長期経営計画	長期経営計画のプロセスと部門の関与
第7回	設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	利益計画	利益管理とCVP分析
第9回	予算管理	予算編成、予算差異分析
第10回	事業部の業績管理	相互依存性、事業部利益、インベントメントセンター、振替価格
第11回	ABC(活動基準原価計算)	ABCとABM
第12回	BSC(バランス・スコアカード)	戦略目標・成果指標・パフォーマンスドライバー。4つの視点
第13回	原価企画	日本の管理会計、源流管理、PDCA、組織、VE
第14回	アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター、インタラクション

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で2時間程度は必要である。

### 【テキスト(教科書)】

谷武幸『エッセンシャル管理会計(第4版)』中央経済社、2022年

### 【参考書】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年  
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計(第2版)』中央経済社、2021年  
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber 会計士がゆる〜く教える会計「超」入門』飛鳥新社、2021年

### 【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらう事を予定している。定期試験(70%)、レポート(30%)の合計によって最終的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を使うことがある

### 【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『企業評価論』といった会計科目があげられる。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process :Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## マーケティング論 I

竹内 淑恵

専門基礎科目B群 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの4P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は5つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ1～3を取り上げ、テーマ3～5はマーケティング・マネジメント論IIで学びます。

### 【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
- 毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
- 授業の進め方と方法については初回授業(オンラインで実施)で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
- 中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
- Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
- ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討しています。現時点では講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第1章 マーケティングの本質①	授業ガイダンスを行います。あわせてマーケティングの定義について学びます。
第2回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第1章 マーケティングの本質②	マーケティングの5つのステップについて学びます。
第3回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第2章 企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第4回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第2章 企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第5回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第3章 競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第6回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第3章 競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。

第7回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第4章 マーケティングの基本枠組み①	STPのS(市場細分化)とT(ターゲティング)について学びます。
第8回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第4章 マーケティングの基本枠組み②	STPのP(ポジショニング)と差別化について学びます。
第9回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第5章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第10回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第5章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第11回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第6章 消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第12回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第6章 消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第13回	テーマ3：第3部：顧客価値の創造と提供 第7章 製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第14回	テーマ3：第3部：顧客価値の創造と提供 第7章 製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

### 【テキスト (教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

### 【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ(2022年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

### 【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は、①+②の合計 100点満点とし、60点以上が合格となります。
- ①中間レポート
  - ・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。
  - ・40点満点で採点します。
  - <レポート提出の注意事項>
  - ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
  - ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
  - ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
  - ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
  - ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト
  - ・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
  - ・3択形式と穴埋め形式、60点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いします。

**【その他の重要事項】**

・マーケティング・マネジメント論 I/II は、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II、製品開発論 I/II などマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## マーケティング論 II

竹内 淑恵

専門基礎科目B群 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの4P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は5つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論 I に続いて開講します。II からの履修も可能ですが、扱うテーマは3以降になります。

### 【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
- 毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
- 授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
- 中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
- Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
- ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討しています。現時点では講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第8章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第2回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第8章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第3回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第9章 マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャンネル・コンフリクトについて学びます。
第4回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第9章 マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャンネル設計に関する意思決定について学びます。
第5回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第10章 価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第6回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第10章 価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。

第7回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第11章 コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第8回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第11章 コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第9回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第12章 広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第10回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第12章 広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第11回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第13章 人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第12回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第13章 人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第13回	テーマ5：マーケティングの革新 第14章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第14回	テーマ5：マーケティングの革新 第14章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

### 【テキスト (教科書)】

・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

### 【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ(2022年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

- ①中間レポート
- ・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。
- ・40点満点で採点します。
- <レポート提出の注意事項>
- ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
- ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
- ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
- ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
- ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト
- ・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。

詳細は決まり次第お知らせします。

・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いします。

**【その他の重要事項】**

・マーケティング・マネジメント論 I/II は、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II、製品開発論 I/II などマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。  
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN200FA (経済学 / Economics 200)

## 金融論 I (2018年度以前入学者)

片桐 満

専門基礎科目B群 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます(秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます)。

## 【到達目標】

このコースでは、金融理論が、個人々の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。オンデマンド授業については、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融論 I の概要	金融論 I で学ぶ内容を概観します。
第2回	金利と債券	金利の役割を学んだのち、債券について解説します。
第3回	株式	株式市場について、証券会社の役割も含めて解説します。
第4回	資産価格の決定理論	CAPM やファクターモデルなど、資産価格 (= 株価) の決定理論を学びます。
第5回	デリバティブ (先物とオプション)	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第6回	投資信託と保険	身近な金融商品である投資信託と保険について学びます。
第7回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第8回	金融仲介機関 (銀行)	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第9回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産など、金融のデジタル化について解説します。
第10回	為替レートと海外投資	金融のグローバル化に伴う海外投資と為替レートについて学びます。
第11回	為替レートの決定	為替レートを決定する理論として、購買力平価と金利平価について学びます。
第12回	企業の資本調達	株式や借入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第13回	ESG 投資	ESG 投資の概要と、その重要性について解説します。
第14回	起業とベンチャーキャピタル	ベンチャーキャピタルとは何かを解説し、起業における役割を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト(教科書)】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

・内田浩史「金融」(有斐閣)

・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第10版(上)」(日経BP)

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験(80%)と授業内ディスカッション(20%)に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しくひどかったりした場合のみ、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・ 期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。  
・ グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、試験的に授業内でのディスカッションを取り入れていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

・ 春学期・秋学期の金融論 I/II を連続して履修することを推奨します。  
・ 日本銀行や国際通貨基金(IMF)において、金融の実務に15年程度かかまりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです(必須ではありません)。そのほか、コーポレートファイナンス I/II、デリバティブ入門 I/II、国際金融論 I/II と関連しています。

【Outline (in English)】

Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (80%) and discussion in class (20%).

ECN200FA (経済学 / Economics 200)

**金融論Ⅱ (2018年度以前入学者)**

片桐 満

専門基礎科目B群 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み(年金、社会保険、税金など)について学びます。

**【到達目標】**

このコースでは、金融理論が個人や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

**【授業の進め方と方法】**

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直ししながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それに基づき授業内容などを微修正する可能性があります。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論Ⅱを概観します。
第2回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか(されるべきか)を学びます。
第5回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第6回	財政1：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第7回	財政2：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険(介護、医療など)を学びます。
第8回	財政3：財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第9回	非伝統的金融政策	資産買入政策やゼロ金利政策等、新たな金融政策の枠組みを学びます。
第10回	日本の財政・金融政策	授業内容を踏まえ、日本の財政・金融政策について発表・議論します。
第11回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第12回	事後のブルデンス政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第13回	事前のブルデンス政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。
第14回	デジタル通貨	デジタル通貨と金融・ブルデンス政策との関係について学びます。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

**【テキスト(教科書)】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

参考文献として、以下の教科書を参照します。

- ・内田浩史「金融」(有斐閣)
- ・小林照義「金融政策(ベーシック+)」(中央経済社)

- ・白川方明「中央銀行—セントラルバンカーの経験した39年」(東洋経済新報社)
- ・土居丈朗「入門 財政学[第2版]」(日本評論社)

**【成績評価の方法と基準】**

評価は、中間レポート(30%)と期末試験(70%)に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・期末試験だけでなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。
- ・グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、昨年からは、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れています。

**【学生が準備すべき機器他】**

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

**【その他の重要事項】**

- ・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
- ・日本銀行や国際通貨基金(IMF)において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

**【関連科目】**

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

**【Outline (in English)】**

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (70%), and (2) the mid-term report (30%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

**検定会計 I (2019年度以降入学者)**

近藤 大輔

経営学科専門科目 200 番台 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

**【到達目標】**

検定会計 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

**【授業の進め方と方法】**

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	簿記一巡、財務諸表	貸借対照表・損益計算書
第3回	現金・預金	銀行勘定調整表など
第4回	債権・債務	クレジット売掛金など
第5回	有価証券	有価証券の範囲、分類など
第6回	有形固定資産 I	有形固定資産の購入、売却など
第7回	有形固定資産 II	割賦購入など
第8回	リース取引	リース取引の分類と処理
第9回	無形固定資産と研究開発費、引当金	無形固定資産と研究開発費、引当金
第10回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第11回	外貨換算会計と税金	為替換算など
第12回	課税所得の算定と税効果会計	税効果会計の会計処理など
第13回	株式の発行と剰余金の配当と処分	株式申込証拠金など
第14回	決算手続きと収益認識基準	契約資産と債券など

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級 (商業簿記) - ver17.0』2024年

**【参考書】**

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級 (商業簿記) - ver17.0』2024年

**【成績評価の方法と基準】**

授業内に行われる小テスト (30点) と定期試験 (70点) の合計で最終的な評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。本年度からの担当。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。

**【その他の重要事項】**

この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

**【Outline (in English)】**

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination (30%), and term-end examination (70%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 検定会計Ⅱ (2019年度以降入学者)

近藤 大輔

経営学科専門科目200番台 2～4 (経営学科) 3～4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

### 【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算Ⅰ	原価計算表の作成
第2回	個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入①
第3回	個別原価計算Ⅲ	仕訳と勘定記入②
第4回	部門別個別原価計算Ⅰ	部門費の集計
第5回	部門別個別原価計算Ⅱ	補助部門費の配賦
第6回	部門別個別原価計算Ⅲ	製造部門から製品への配賦
第7回	総合原価計算Ⅰ	月初がない場合
第8回	総合原価計算Ⅱ	月初がある場合・先入先出法
第9回	総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・平均法
第10回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第11回	標準原価計算Ⅰ	直接費の分析
第12回	標準原価計算Ⅱ	間接費の分析
第13回	CVP分析Ⅰ	基本公式
第14回	CVP分析Ⅱ	感度分析

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年

### 【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級 (工業簿記) - ver10.0』2024年  
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義-2級工業簿記2024年度版』中央経済社  
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック-2級工業簿記2024年度版』中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト (30点) と定期試験 (70点) の合計で最終的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度からの担当。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

### 【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination (30%), and term-end examination (70%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## キャリア・マネジメント I (2019年度以降入学者)

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話ししたいと思います。自分の考えと照らし合わせながら参加できるように、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

### 【到達目標】

①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること  
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

- ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
  - ②授業に関係のないことをしないこと
  - ③その他については、教員の指示に従うこと
- ・Zoomの場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

- ①音声は指示がない場合は原則としてオフ
- ②動画カメラは原則オン  
(ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくてオフを許可します)
- ③表示する氏名は漢字  
(仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベット可)

・適宜リアクションペーパーを課します。  
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動 (1)	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動 (2)	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動 (3)	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介 (1)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第8回	企業の採用活動事例の紹介 (2)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第9回	職場適応の理論 (1)	入社した後の会社への適応について (概要)
第10回	職場適応の理論 (2)	入社した後の会社への適応について (人間関係)

第11回	キャリア発達の理論 (1)	長期にわたるキャリアの見直しについて
第12回	キャリア発達の理論 (2)	長期にわたるキャリアの見直しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポート等) を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

### 【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。  
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

### 【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート (50%)、平常点 (50% : 参加態度、リアクションペーパー、課題等含む)

### 【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメント II のようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

### 【その他の重要事項】

I は理論編、II は事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。II は現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2、3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはIIのシラバスを見てください (23年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。)

### 【Outline (in English)】

#### Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

#### Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

#### Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

#### Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## キャリア・マネジメントⅡ (2019年度以降入学者)

小川 憲彦

経営学科専門科目200番台 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

### 【到達目標】

- ①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
- ②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGS and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメントⅠの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト (キャリアセンター職員)	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト (菓子メーカー)	40代人事部長 (1社内でのタテ型のキャリア)
第6回	ゲスト (リクルート)	リクルート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト (鉄道会社)	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト (サービス・販売)	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト (三菱電機)	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト (アクセンチュア)	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト (中国でのキャリア)	外国籍の女性による中国でのキャリア (日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員)
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア (転職等の効果について)
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポートや課題図書) を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

### 【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

### 【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。

エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

### 【成績評価の方法と基準】

・期末試験か期末レポート (50%)、平常点 (50% : リアクションペーパーや小レポート等含む)

・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。

・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありません。

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

### 【その他の重要事項】

①各回の内容は前年度のもので、ゲストは毎年変更しています。

②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

③初回講義で具体的な注意など指示し、その場で1度は注意をしますがそれ以降は②のような対応をします。なお、スマホ (携帯電話) で写真や動画を撮ったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

### Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGS and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

### Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

ECN300FB (経済学 / Economics 300)

**組織経済学**

奥西 好夫

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

**【到達目標】**

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

**【授業の進め方と方法】**

・授業内容の概要を記した教材(ハンドアウト)は、学習支援システム(Hoppi)にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等はHoppiiを通じて指示する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし/No**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理(1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理(2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理(3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理(4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準(1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準(2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理(1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理(2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン(1)	・組織構造
第10回	組織デザイン(2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン(3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題(1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題(2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

・学生は、授業前にHoppiiにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等はHoppiiを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

**【参考書】**

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものの。

**【成績評価の方法と基準】**

・学期中に1、2回の課題提出を行い、それらと期末試験の合計で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際の課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いがなかったという学生もいた。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限ということもあり、出席状況は良くない。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

・Hoppiiへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

**【その他の重要事項】**

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となる。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」(Iは秋学期、IIは春学期)でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非こちらも受講してほしい(ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

**【関連科目】**

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

**【Outline (in English)】**

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam.

ECN300FB (経済学 / Economics 300)

## 組織経済学 I (2018年度以前入学者)

奥西 好夫

経営学科専門科目 3～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

## 【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材 (ハンドアウト) は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は Hoppii を通じて指示する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

## 【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバート『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバート『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバート著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものの。

## 【成績評価の方法と基準】

・学期中に1、2回の課題提出を行い、それらと期末試験の合計で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際の課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いがなかったという学生もいた。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限ということもあり、出席状況は良くない。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

・Hoppiiへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

## 【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となる。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」(Iは秋学期、IIは春学期)でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非こちらも受講してほしい(ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

## 【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam.

MAN200FC (経営学/Management 200)

## 国際経営論 I

洞口 治夫

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空 (ANA)、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

## 【到達目標】

この授業では国際経営論の入門を解説します。国際経営論は「国際」的に行われる「経営」を「論」ずる、という意味ですから、経営学の学習を行うとともに、国境を越えた企業経営の基礎を学びます。つまり、経営とは何か、とともに、国家とは何か、を論ずる必要もあります。そうした講義によって、学生諸君が、将来、国際的なビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習します。

多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ることを目標とします。国家による経済政策を理解することで、さらに長期的な視点を獲得します。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

<何回かの授業では、Zoom を利用したオンライン授業または学習支援システムを利用したオンデマンドの授業を行います。Zoom の接続 URL は「学習支援システム」(Hoppii) の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。>

授業ではグループを分け、教科書や配布資料の音読を軸としたグループワークを行うので教科書の予習をして参加して下さい。ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。英文資料を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の概要説明	講義目的と概要、経営学の理論と実務との関連。教科書第1章、国際経営とは。国際経営と資本主義、グローバルイゼーション。
第2回	企業の組織	教科書第1章、第2章、多国籍企業の参入形態。組織論の基礎。科学的管理法とリーダーシップ。組織としての国家。資本主義の発展と進化。
第3回	企業の戦略	教科書第2章、多国籍企業の組織と戦略。チャンドラー、ベンローズ、ポーター。参考書第3章、組織構造の構築。職能別、事業部制、マトリックス組織。
第4回	競争戦略論と資源戦略論	教科書第3章、多国籍企業の経営学説。戦略と資源をめぐる論争。ハイマー、キンドルバーガー、マクレイス、ティース。
第5回	戦略と組織の認知	教科書第3章、多国籍企業の経営学説。戦略と資源をめぐる論争。コース、ウィリアムソン、ダニング、ラグマン、バックリー、カッソン。
第6回	戦略策定と会計情報	参考書第7章、財務と情報。投資決定の基準。利子率、割引率、インカムゲイン、キャピタルゲイン、損益計算書と貸借対照表。NPV、IRR とその投資への利用。

第7回	企業成長と組織	教科書第4章、多国籍企業とリスク。リスクと不確実性。確率分布。正規分布と一様分布。
第8回	国際経営と日本の経営	教科書第4章、多国籍企業とリスク。テロリズム、フォーカルポイント、ゲーム理論、囚人のジレンマ、両性の闘い、ナッシュ均衡、イテレイテッド・ストリクト・ドミナンス。
第9回	多国籍企業と文化	教科書第5章、多国籍企業と文化。ホフステッドの研究。不確実性の回避、権力格差、個人主義・集団主義、男性性と女性性。
第10回	多国籍企業の知識管理 とイナクトメント	教科書第6章、多国籍企業の知識と技術。知識創造の理論。暗黙知、形式知、集合知。科学哲学。
第11回	創造性のマネジメント	教科書第6章、多国籍企業の知識と技術。芸術と契約。コアとコピー。プロデューサーとディレクター。クリエイティブ・インダストリーの国際化、創造性のマネジメント。
第12回	国際経営とイノベーション	教科書第7章、技術移転のサブシステム。参考書第6章、経営戦略とイノベーション。研究開発競争と多国籍企業。産業集積、クラスター、ローカル・ミリュー。
第13回	国際経営研究の最前線	教科書第1章から第7章までの復習。参考書、第3章、第6章、第7章の復習。多国籍企業の管理。
第14回	企業倫理とCSR。授業内試験ないしレポート試験。	地域貢献と働き方。戦略的CSR。法人税の動向。授業内試験ないしレポート提出。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に参加する前にテキスト (教科書)、原田順子・洞口治夫編著『改訂新版 国際経営』2019年、放送大学教育振興会、を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。春学期は第1章から第7章までを学習します。また、参考書、洞口治夫・行本勢基著『入門 経営学(第2版)』2012年、同友館、の該当章を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。期末試験問題は、この教科書と参考書から出題されます。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

(1)原田順子・洞口治夫編著(2019)『改訂新版 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会。

<まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著(2013)『新訂 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会と間違えないでください。『改訂新版』と『新版』の両方が、まだ販売されていますが、『改訂新版』と『新版』は内容が異なります。授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。>

(2)そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

## 【参考書】

(1)洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。<期末試験問題は教科書(1)および参考書(1)から出題されます。試験で高得点を目指す学生諸君には購入を薦めます。>

(2)洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文真堂。<大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。この参考書からは期末試験問題は出題しません。>

(3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). <海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書は授業内容に関連しています。分厚い本なので図書館などで参照すると良いでしょう。>

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。

(1)授業参加 (授業支援システムの出席確認テスト回答ないし課題レポート) (56%)

(2)期末試験(授業内筆記試験) (44%)

良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「数学もやさしく教えてもらえた」、「授業内容が就職活動に役立つ」といった感謝の言葉が並びました。学生とおして議論するグループワークについても「満足している」という意見が寄せられました。意外なことに「雑談が面白い」という意見も多く、この授業からの「気づき」といえます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業内のテストに回答するためのスマホ、Wi-Fiの利用できるパソコン、ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードできるパソコンないしスマホ。

**【その他の重要事項】**

2023年度は新型コロナウイルス対策に関する法政大学からの指針にもとづき第1回目の授業はリモートで行いました。2024年度については4月時点での法政大学からの指針に従う予定です。授業開講方式については、学習支援システムの「お知らせ」に告知しますので、その指示に注意してください。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始5分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

International management theory is a general term to study how to lead to solutions to various problems associated with the internationalization of corporate management. Students learn about the challenges of corporate management by studying a wealth of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The purpose of international management theory is to learn about the realities of corporate management that are promoting globalization and to show how to avoid management failures from a social science perspective. What kind of companies are developing products overseas or conducting international marketing? How should Japanese multinational corporations, which face challenges such as currency depreciation competition among nations and cross-border human resource management, act? We will learn the basic concepts for thinking about these issues.

**【Learning Objectives】**

This class will provide an introduction to international management theory. We will study business administration and the basics of cross-border corporate management. In other words, it is necessary to discuss not only what management is, but also what a nation is. Through such lectures, students will learn the basic knowledge they will need to be active in international business in the future.

The goal of this course is for students to learn how multinational corporations are affecting modern society, to learn theories about multinational corporations, to gain a perspective on these trends, and to learn the fun of theoretical thinking. By understanding the economic policies of nations, students will gain a more long-term perspective. The goal is to be able to apply theories and insights of international business to reality by reading newspaper articles on international management in Japanese and English.

**【Learning Activities Outside of Classroom】**

Before participating in the class, you need to read the textbook "Nyuumon Keieigaku (Introduction to Business Administration), 2nd Edition" and look up any terms you do not understand. It is necessary to understand the contents of newspaper articles in Japanese and English when they are distributed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2019), Kokusai Keiei (International Business) (Kaitei shinban, 2nd Edition), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.

(2) In addition, lecture materials will be distributed as needed. (2) In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English.

References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.

**【Grading Criteria/Policy】**

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

(1) Class participation (learning support system responses to the quiz in classes and/or assignment reports) (56%)

(2) Final exam (Written exam through the learning support system) (44%)

The students should attend every class in order to get higher grades.

MAN200FC (経営学 / Management 200)

## 国際経営論Ⅱ

洞口 治夫

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性: 〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導くための研究をする学問の総称です。三菱商事、三菱UFJ銀行、日産自動車、楽天、ユニクロなど豊富な事例を学びながら企業経営の課題を学びます。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

## 【到達目標】

この授業では学生諸君が、将来、国際ビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習し、経営理論と関係づけて理解することを目標とします。マーケティングや人事労務管理という専門領域の理解を目標とします。多国籍企業が現代社会にどのような影響を与えているのかを知り、さらに、世界各国の政治、経済、文化、歴史が多国籍企業にどのような影響を与えてきたかを学習します。多国籍企業に関する理論を学習し、その動向への見通しを立てることの面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」として経営理論の内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。国際経営に関する標準的な教科書を読破することで、独自に国際経営の専門書を読めるようになるための学習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

＜何回かの授業では、Zoom を利用したオンライン授業または学習支援システムを利用したオンデマンドの授業を行います。Zoom の接続 URL は「学習支援システム」(Hoppii) の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。＞

この授業では輸出・直接投資・ライセンスに代表される多国籍企業の経営活動について説明します。パワーポイントや動画などの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実にを行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスでは営業先での会話や交渉、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成など、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。様々な資料からの英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしています。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の概要説明	教科書第8章。講義目的と概要、経営理論と実務との関連。歴史・地理・政治と国際経営。M&A、株式投資、コーポレート・ガバナンス。
第2回	多国籍企業とM&A	教科書第8章。多国籍企業の参入形態。輸出・輸入、海外直接投資、ライセンス。デューデリジェンス、減損。
第3回	グローバル競争と企業の進化論	教科書第9章。経営資源、取引費用。参考書第4章、マルチナショナルとトランスナショナル、進化論の適用。
第4回	多国籍企業の事例研究	教科書第9章。企業経営の進化。参考書第5章、組織論の発展。
第5回	韓国・台湾・中国と世界情勢	教科書第10章、新興国企業の成長。参考書第4章、国際経営。TSMCの重要度。
第6回	学習と組織能力	教科書第10章、第11章、第6章。JIT生産、小集団活動、トヨタ生産システム。経営進化理論の展開。
第7回	日本企業の衰退	教科書第12章。参考書第2章。イノベーションのジレンマと統合型企業のジレンマ。
第8回	多国籍企業の組織とコーポレート・ガバナンス	教科書第12章、日本企業の現状。組織ルーティンの進化。
第9回	外国為替レートの基礎理論	教科書第13章、購買力平価、金利平価、オーバーシュート、ランダムウォーク。

第10回	外国為替レートと投資	教科書第13章、直物、先物、オプション。オーバーシュート、ランダムウォークと確率分布。
第11回	人事部の仕事	教科書第14章、日本の人事慣行とワークライフバランス。職務と人事評価。
第12回	組織管理の国際潮流	教科書第15章、ダイバーシティ・マネジメントと女性活躍推進。
第13回	投資と投機	株式投資の成果。配当と利回り。第8章から第15章の復習。
第14回	組織理念	授業内試験(筆記試験またはレポート提出)。21世紀の経営課題。地球環境問題とSDGs。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に参加するために教科書『改定新版 国際経営』の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。

## 【テキスト(教科書)】

- (1)原田順子・洞口治夫編著(2019)『改定新版 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会。＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。この教科書から試験問題を出題します。まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著(2013)『新訂 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会が、まだ販売されていますので、間違えないようにして下さい。『改定新版 国際経営』は、古い版(『新訂 国際経営』)とは内容が異なります。＞
- (2)授業内に、適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

## 【参考書】

- (1)洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。＜秋学期の参考書ですが、試験問題はこの教科書からも出題されます。＞
- (2)洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文真堂。＜大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
- (3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition).＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。＞

## 【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
- (1)授業参加(授業支援システム応答ないし課題レポート) (56%)
  - (2)期末試験(授業内筆記試験) (44%)
- 良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった言葉が並んでいます。授業内容が就職活動に役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。20年近くにわたって一時限に授業時間が設定されてきましたが「国際経営論を一時限以外の時間に開講して欲しい」という声も、長年、学生諸君から寄せられてきました。学生諸君の声に応じて木曜日の二時限開講になりました。遅刻しないように授業に参加して下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業内試験および期末試験に回答するためのスマホないしパソコン。ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書、グーグル検索用のスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードおよびアップロードできるパソコン。

## 【その他の重要事項】

洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始5分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。春学期と同様にグループワークを行うので「心の準備」をして参加して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

The purpose of learning international management is to understand the reality of corporate management that is promoting globalization and to show how to avoid management failure from a social scientific perspective. International management theory is a general term for the study of problems associated with the internationalization of corporate management and how they can be solved. Students learn about the challenges of corporate management by studying a wealth of case studies, including Mitsubishi Corporation, Mitsubishi UFJ Bank, Nissan Motor, Rakuten, and Uniqlo. What kind of companies are developing products overseas or conducting international marketing? How should Japanese multinational corporations act in the face of challenges such as currency depreciation competition among nations and cross-border human resource management? We will learn the basic concepts for thinking about these issues.

**[Learning Objectives]**

This course aims to provide students with the basic knowledge needed to be active in international business in the future and to understand it in relation to management theory. This course aims to provide students with an understanding of the specialized areas of marketing and human resource management. Students will learn how multinational corporations have influenced modern society, and how the politics, economics, culture, and history of countries around the world have influenced multinational corporations. The goal of this course is to have fun learning theories about multinational corporations. The goal is to be able to read newspaper articles in Japanese and English on international management, examine the content of management theory as a "way of looking at things," and apply the theory and insights of international business to reality. In this class, the management activities of multinational corporations as represented by exports, direct investment, and licensing will be explained. We will use supplementary materials such as PowerPoint and videos while making sure that students are taking notes. In business, it is necessary to take notes and organize themselves for conversations and negotiations in sales offices, instructions from superiors in the company, and making memos of meetings. Participating students will also do group work and read aloud to confirm their understanding of technical terms. Students will learn business terms and check their English skills by reading English texts from various sources.

**[Learning Activities Outside of Classroom]**

The standard preparation time for this class is 2 hours. The standard review time for this class is 2 hours. You need 4 hours in total. Before participating in the class, students should read the relevant sections of the textbook "Kokusai Keiei, Kaitei shinban (International Management, Revised Edition)" and look up technical terms you do not understand. It is necessary to understand the contents of newspaper articles in Japanese and English whenever they are distributed.

**[Grading Criteria /Policy]**

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

(1) Responses to quizzes/assignments/homework (submitted through the class support system or reports) (56%)

(2) Final exam (assigned report or in-class written exam) (44%)

It is recommended that you attend every class in order to get a good grade.

ECN200FC (経済学 / Economics 200)

## 日本経済論 I

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4 (経営戦略学科) 3～4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には(日本経済について)かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば…この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で)ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で)ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は? ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は? そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見直しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

## 【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的視点から経済の何をみる(べき)のか、どう見る(べき)のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています(過去の登壇者の例:国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など)。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 マクロ的視点からの経済の捉え方1	授業計画の紹介 1-3章について講義します。
第2回	マクロ的視点からの経済の捉え方2	1-3章の続きを講義します。
第3回	マクロ的視点からの経済の捉え方GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	日本の企業とその特徴1	4章について講義します。
第5回	日本の企業とその特徴2	4章の続きを講義します。
第6回	日本の企業とその特徴GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第7回	日本の労働とその特徴1	5章について講義します。
第8回	日本の労働とその特徴2	5章の続きを講義します。
第9回	日本の労働とその特徴GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。

第10回	わが国の財政の特徴1	7章について講義します。
第11回	わが国の財政の特徴2	7章の続きを講義します。
第12回	わが国の財政の特徴GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第13回	講演	ゲストスピーカーをお呼びする予定です。
第14回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定ですが、予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

浅子・飯塚・篠塚「入門・日本経済」(有斐閣、2020)を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第6版を購入してください。

## 【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介(授業支援システムに掲載)。

## 【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験(とGS)によって評価を行います。なお、+aとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の1の通りです。

1. 単位の評価はaまたはbの方法で行います(期末試験時に学生が学生が【1】【2】【3】より選択)。詳細は授業にて説明します。

a. S~Dの評価(【1】or【2】)

【1】(期末試験70%+GS30%)+a

【2】期末試験100%+aで成績評価を行います。

b. C~Dの評価(【3】)

【3】問題数を絞った期末試験

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

3. 単位取得率は例年95%程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等を行うことがきちんと成績を取るために必要です。

## 【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

## 【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

## 【関連科目】

I、IIを連続履修することを薦めます。マクロ経済学I/II、ミクロ経済学入門I/II等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

## 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC (経済学 / Economics 200)

## 日本経済論Ⅱ

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4 (経営戦略学科) 3～4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には(日本経済について)かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば…この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で)ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で)ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は? ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は? そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる(べきな)のか、どう見る(べきな)のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるといえます。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています(過去の登壇者の例:国會議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など)。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 日本の社会保障とその特徴1	授業計画の紹介 6章について講義します。
第2回	日本の社会保障とその特徴2	6章の続きを講義します。
第3回	日本の社会保障とその特徴GS	日本の社会保障に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	データ経済1	経済を理解する上でのデータの重要性について解説します。
第5回	データ経済2	データの経済分析における使われ方を紹介します。
第6回	日本の金融とその特徴1	8章について講義します。
第7回	データ経済GS	データ経済に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第8回	日本の金融とその特徴2	8章の続きを講義します。
第9回	日本の金融とその特徴GS	日本の金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。

第10回	国際貿易と国際金融の特徴1	9章とそれに関する国際金融の基本について講義します。
第11回	国際貿易と国際金融の特徴2	9章の続きとそれに関する国際金融の基本を講義します。
第12回	国際貿易と国際金融の特徴GS	国際貿易と国際金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。または、ゲストスピーカーをお呼びします。
第13回	景気の国際的運動	景気変動が世界的に波及するメカニズムとその背景にあるグローバル化の動向を考えます。
第14回	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

浅子・飯塚・塚塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020)を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第6版を購入してください。

### 【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介(授業支援システムに掲載)。

### 【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験(とGS)によって評価を行います。なお、+aとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の1の通りです。

1. 単位の評価はaまたはbの方法で行います(期末試験時に学生が学生が)

【1】【2】【3】より選択)。詳細は授業にて説明します。

a. S～Dの評価(【1】or【2】)

【1】(期末試験70%+GS30%)+a

【2】期末試験100%+aで成績評価を行います。

b. C～Dの評価(【3】)

【3】問題数を絞った期末試験

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

3. 単位取得率は例年95%程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等を行うことがきちんと成績を取るために必要です。

### 【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

### 【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

### 【関連科目】

I、IIを連続履修することを薦めます。マクロ経済学I/II、ミクロ経済学入門I/II等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

### 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

MAN200FC (経営学 / Management 200)

## オペレーションズ・マネジメント

吉村 喜予子

2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースでは、オペレーションズマネジメントの概念、原則、問題、および実践を紹介します。

コースのメインテーマは、製品を生産する組織およびサービスを提供する組織において、効果的なオペレーションのための管理プロセス (オペレーションプロセス) にあります。

各回のテーマには、オペレーション戦略、プロセス設計、生産能力の計画、施設の位置と設計、予測、生産スケジューリング、在庫管理、品質保証、およびプロジェクトマネジメントが含まれます。

これらのテーマは、実際の組織のオペレーションのシステムを想定して構築されています。

### 【到達目標】

このコースの目的は、企業組織の「オペレーションズマネジメントとは【なにか】、そして【どのように運営されるのか】」について理解を深めることです。

このコース修了時に学生に期待するのは以下の点です。

-組織の製造およびオペレーションズマネジメント機能に対する理解が深まる。

-組織や国における生産性と競争力の重要性を理解する。

-組織における効果的な生産およびオペレーションズマネジメントの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面授業 (#1セッションを除く)

このコースは、講義およびケースディスカッションによって、学生がオペレーションズマネジメントの基本的な知識を掴むことができます。

また、実際の企業管理を理解してもらう為に簡単なシミュレーションを実施します。

ケースが議論される際、そしてシミュレーション自習の際には、学生の積極的な参加を期待しています。教室内の発言や意見は「正しい」または「間違っている」ということはありません。したがって、学生に対しては、ディスカッションのスキル向上のために、質問や意見を述べることを期待します。課題のフィードバックはクラス内で行われます。

Face-to-face classes (except for session #1)

This course is designed to help students grasp basic knowledge of operations management through lectures and case discussions.

In addition, a simple simulation will be conducted to give students an understanding of actual corporate management.

Active student participation is expected when cases are discussed and during the simulation self-study. There is no "right" or "wrong" statement or opinion in the classroom. Therefore, we expect students to ask questions and express their opinions in order to improve their discussion skills. Feedback on assignments will be given in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要 オペレーションズ・マネジメントとは何か?

第2回	競争力と生産性	生産計画 競争上の優先事項
第3回	フォーキャストイング (Forecasting: 予測)	予測とは 需要の特性 予測と運用管理
第4回	製品・サービス設計	製品設計とはなにか サービス設計とはなにか
第5回	キャパシティプランニング	キャパシティとは? リソースの予測と配置 製品とサービスのキャパシティ プランニング 意思決定理論
第6回	プロセス・設備・レイアウトをデザイン (設計) する	プロセスとは プロセス, 設備, レイアウトの 必要性
第7回	業務の設計と測定	業務設計 業務の質と測定方法
第8回	品質管理	品質とはなにか 品質は競争力である
第9回	サプライチェーン	サプライチェーン・マネジメント グローバルサプライ
第10回	シミュレーション (小規模生産シミュレーションの事例と考察)	シミュレーションを通じて、生産の課題・改善を学ぶ
第11回	MPS(MASTER PRODUCTION SCHEDULING)	MPS (基準日程生産計画)、 MRP(資材所要量計画)、 ERP(基幹システム)
第12回	プロジェクトのスケジュール設定と管理	プロジェクトとは何か? スケジュール管理方法
第13回	JITとリーンオペレーション	JIT (Just-in-Time) および リーン (LEAN) オペレーション
第14回	最終クイズ・コースまとめ	最終クイズ・コースまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に提示される講義資料について予習 (2時間)

授業後に講義でディスカッションされた内容について復習 (2時間)

Prepare for the lecture material presented before class (2 hours)

Review of the content discussed in the lecture after class (2 hours)

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲示する。

No textbook. Course materials will be uploaded on Hoppi.

### 【参考書】

講義中に指示する。

Instructions will be given during the lecture.

### 【成績評価の方法と基準】

各回小テスト (QUIZという) の累計：50%

中間クイズ：10%

ケースレポート (シミュレーション)：20%

最終クイズ (#14クラス内)：20%

合計：100%

The cumulative total of each quiz (called QUIZ): 50%.

Mid-term quiz: 10%.

Case report (simulation): 20%.

Final quiz (#14 in-class): 20%.

Total: 100%.

**【学生の意見等からの気づき】**

QUIZの際に、「わからなかったこと(もう少し説明してほしいこと)」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

In the free-text field of each QUIZ, the instructor will ask the students to write "what they did not understand (what they wanted to be explained more)" and "Feedback to the lecture" and reflect them at the beginning of the next week's lecture.

**【学生が準備すべき機器他】**

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

PCs and other equipment to read lecture materials and answer questions.

**【その他の重要事項】**

教員は、実務経験のある教員である

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the concepts, principles, issues, and practices of operations management. The main theme of the course is centered around the management processes (operation processes) for effective operations in organizations involved in the production of goods and the provision of services.

Each session's theme includes operation strategy, process design, production capacity planning, facility location and design, forecasting, production scheduling, inventory management, quality assurance, and project management.

These themes are constructed with the assumption of real organizational operation systems in mind.

MAN200FC (経営学/Management 200)

## オペレーションズ・マネジメント

吉村 喜予子

2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースでは、オペレーションズマネジメントの概念、原則、問題、および実践を紹介します。

コースのメインテーマは、製品を生産する組織およびサービスを提供する組織において、効果的なオペレーションのための管理プロセス (オペレーションプロセス) にあります。

各回のテーマには、オペレーション戦略、プロセス設計、生産能力の計画、施設の位置と設計、予測、生産スケジューリング、在庫管理、品質保証、およびプロジェクトマネジメントが含まれます。

これらのテーマは、実際の組織のオペレーションのシステムを想定して構築されています。

### 【到達目標】

このコースの目的は、企業組織の「オペレーションズマネジメントとは【なにか】、そして【どのように運営されるのか】について理解を深めることです。このコース修了時に学生に期待するのは以下の点です。

- 組織の製造およびオペレーションズマネジメント機能に対する理解が深まる。
- 組織や国における生産性と競争力の重要性を理解する。
- 組織における効果的な生産およびオペレーションズマネジメントの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面授業 (#1セッションを除く)

このコースは、講義およびケースディスカッションによって、学生がオペレーションズマネジメントの基本的な知識を掴むことができます。

また、実際の企業管理を理解してもらう為に簡単なシミュレーションを実施します。

ケースが議論される際、そしてシミュレーション自習の際には、学生の積極的な参加を期待しています。教室内の発言や意見は「正しい」または「間違っている」ということはありません。したがって、学生に対しては、ディスカッションのスキル向上のために、質問や意見を述べることを期待します。課題のフィードバックはクラス内で行われます。

Face-to-face classes (except for session #1)

This course is designed to help students grasp basic knowledge of operations management through lectures and case discussions.

In addition, a simple simulation will be conducted to give students an understanding of actual corporate management.

Active student participation is expected when cases are discussed and during the simulation self-study. There is no "right" or "wrong" statement or opinion in the classroom. Therefore, we expect students to ask questions and express their opinions in order to improve their discussion skills. Feedback on assignments will be given in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要 オペレーションズ・マネジメントとは何か？
第2回	競争力と生産性	生産計画 競争上の優先事項
第3回	フォークキャストिंग (Forecasting: 予測)	予測とは 需要の特性 予測と運用管理
第4回	製品・サービス設計	製品設計とはなにか サービス設計とはなにか
第5回	キャパシティプランニング	キャパシティとは？ リソースの予測と配置 製品とサービスのキャパシティプランニング 意思決定理論
第6回	プロセス・設備・レイアウトをデザイン (設計) する	プロセスとは プロセス, 設備, レイアウトの必要性
第7回	業務の設計と測定	業務設計 業務の質と測定方法
第8回	品質管理	品質とはなにか 品質は競争力である
第9回	サプライチェーン	サプライチェーン・マネジメント グローバルサプライ

第10回	シミュレーション (小規模生産シミュレーションの事例と考察)	シミュレーションを通じて、生産の課題・改善を学ぶ
第11回	MPS(MASTER PRODUCTION SCHEDULING)	MPS (基準日程生産計画)、MRP(資材所要量計画)、ERP(基幹システム)
第12回	プロジェクトのスケジュール設定と管理	プロジェクトとは何か？ スケジュール管理方法
第13回	JITとリーンオペレーション	JIT (Just-in-Time) およびリーン (LEAN) オペレーション
第14回	最終クイズ・コースまとめ	最終クイズ・コースまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に提示される講義資料について予習 (2時間)

授業後に講義でディスカッションされた内容について復習 (2時間)

Prepare for the lecture material presented before class (2 hours)

Review of the content discussed in the lecture after class (2 hours)

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲載する。

No textbook. Course materials will be uploaded on Hoppi.

### 【参考書】

講義中に指示する。

Instructions will be given during the lecture.

### 【成績評価の方法と基準】

各回小テスト (QUIZという) の累計：50%

中間クイズ：10%

ケースレポート (シミュレーション)：20%

最終クイズ (#14クラス内)：20%

合計：100%

The cumulative total of each quiz (called QUIZ): 50%.

Mid-term quiz: 10%.

Case report (simulation): 20%.

Final quiz (#14 in-class): 20%.

Total: 100%.

### 【学生の意見等からの気づき】

QUIZの際に、「わからなかったこと (もう少し説明してほしいこと)」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

In the free-text field of each QUIZ, the instructor will ask the students to write "what they did not understand (what they wanted to be explained more)" and "Feedback to the lecture" and reflect them at the beginning of the next week's lecture.

### 【学生が準備すべき機器他】

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

PCs and other equipment to read lecture materials and answer questions.

### 【その他の重要事項】

教員は、実務経験のある教員である

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

### 【Outline (in English)】

This course focuses on the concepts, principles, issues, and practices of operations management. The main theme of the course is centered around the management processes (operation processes) for effective operations in organizations involved in the production of goods and the provision of services.

Each session's theme includes operation strategy, process design, production capacity planning, facility location and design, forecasting, production scheduling, inventory management, quality assurance, and project management.

These themes are constructed with the assumption of real organizational operation systems in mind.

INF300FC (その他の情報学 / Information science 300)

## システム管理論 I

児玉 靖司

経営戦略学科専門科目300 番台経営戦略学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期 (I) は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

## 【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

【授業の概要】 経営情報学として必要な様々な概念について学習する。  
【授業の方法】 授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在2年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

本年度は、原則として「オンデマンド授業」である。各回の講義動画を受講し、アンケート、チェックテストに回答することで出席となる。各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータのはじめ等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第2回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第3回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第4回	要求分析 (1)	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第5回	要求分析 (2)	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第6回	外部設計 (1)	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第7回	外部設計 (2)	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第8回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第9回	テスト手法について (1)	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第10回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第11回	IOTと社会 (1)	IOTを用いた情報社会の基礎について学ぶ。
第12回	IOTと社会 (2)	IOTを用いた情報社会の応用について学ぶ。
第13回	人工知能	人工知能について学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント (PDF) による資料を Classroom より配布する。

## 【参考書】

「情報学基礎」(培風館) ISBN978-4-563-01605-0  
[http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu\\_new\\_search.pl?ISBN=4-563-01605-5](http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu_new_search.pl?ISBN=4-563-01605-5)  
 (後半の講義で使用)

## 【成績評価の方法と基準】

(課題) 定期試験 (80%)、確認テストおよび取り組み姿勢 (20%)  
 【補足】

本年度は、オンデマンド授業であるので、具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

## 【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

## 【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

INF300FC (その他の情報学 / Information science 300)

## システム管理論Ⅱ

児玉 靖司

経営戦略学科専門科目300 番台経営戦略学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期(Ⅱ)は、ICTに関する問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

## 【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。  
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。  
【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の定義について学ぶ。
第2回	情報セキュリティ	コンピュータウイルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第3回	新聞売り子の問題(1)	新聞売り子の問題について学ぶ。
第4回	新聞売り子の問題(2)	新聞売り子の問題について応用事情について学ぶ。
第5回	プロジェクト管理(1)	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第6回	プロジェクト管理(2)	作業工程分析について応用事例について学ぶ。
第7回	ゲーム理論(1) 戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第8回	ゲーム理論(2) ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第9回	ゲーム理論(3) 確率用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第10回	データ理論(4) 基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第11回	データ理論(5) 囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第12回	線形計画法(1)	線形計画法について戦略を学ぶ。
第13回	線形計画法(2)	線形計画法の応用を学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

## 【参考書】

開講後、指定する。

## 【成績評価の方法と基準】

(課題) 確認テストおよび取り組み姿勢(20%)、定期試験(80%)

【補足】

具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫(進度をやや遅く)する。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

## 【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカー研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

MAN200FD (経営学/Management 200)

## マーケティング・マネジメント論 I

竹内 淑恵

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]  
 営2年Q~U

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの4P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は5つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ1~3を取り上げ、テーマ3~5はマーケティング・マネジメント論IIで学びます。

### 【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
- ・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
- ・授業の進め方と方法については初回授業(オンラインで実施)で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
- ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
- ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
- ・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討しています。現時点では講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンスを行います。あわせてテーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第1章 マーケティングの本質①
第2回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第1章 マーケティングの本質②	マーケティングの5つのステップについて学びます。
第3回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第2章 企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第4回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第2章 企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第5回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第3章 競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第6回	テーマ1：マーケティングの本質と市場競争 第3章 競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。

第7回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第4章 マーケティングの基本枠組み①	STPのS(市場細分化)とT(ターゲティング)について学びます。
第8回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第4章 マーケティングの基本枠組み②	STPのP(ポジショニング)と差別化について学びます。
第9回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第5章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第10回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第5章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第11回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第6章 消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第12回	テーマ2：顧客価値の発見と理解 第6章 消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第13回	テーマ3：第3部：顧客価値の創造と提供 第7章 製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第14回	テーマ3：第3部：顧客価値の創造と提供 第7章 製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起きていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

### 【テキスト(教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

### 【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ(2022年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計100点満点とし、60点以上が合格となります。

- ①中間レポート
  - ・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。
  - ・40点満点で採点します。
- ＜レポート提出の注意事項＞
  - ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。webなどから文章や図表、画像を引用する場合はURL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
  - ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
  - ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
  - ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
  - ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト
  - ・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
  - ・3択形式と穴埋め形式、60点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いします。

**【その他の重要事項】**

・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FD (経営学/Management 200)

## マーケティング・マネジメント論Ⅱ

竹内 淑恵

市場経営学科専門科目200番台 2~4(市場経営学科)3~4(経営学科・経営戦略学科)年次/2単位 [秋学期授業/Fall]  
 営2年Q~U

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの4P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は5つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論Ⅰに続いて開講します。Ⅱからの履修も可能ですが、扱うテーマは3以降になります。

### 【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
- ・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
- ・授業の進め方と方法については初回授業(オンラインで実施)で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
- ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
- ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
- ・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討しています。現時点では講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第8章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第2回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第8章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第3回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第9章 マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトについて学びます。
第4回	テーマ3：顧客価値の創造と提供 第9章 マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定について学びます。
第5回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第10章 価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第6回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第10章 価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。

第7回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第11章 コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第8回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第11章 コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第9回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第12章 広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第10回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第12章 広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第11回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第13章 人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第12回	テーマ4：顧客価値の説得と伝達 第13章 人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第13回	テーマ5：マーケティングの革新 第14章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第14回	テーマ5：マーケティングの革新 第14章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起きていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

### 【テキスト(教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

### 【参考書】

- ・西尾チズル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第6版』有斐閣アルマ(2022年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計100点満点とし、60点以上が合格となります。

- ①中間レポート
- ・提出締め切り日の1ヵ月前にはテーマを発表します。
- ・40点満点で採点します。
- <レポート提出の注意事項>
- ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
- ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
- ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
- ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
- ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。  
 ・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォンでは画面が小さいので、事前に資料を印刷して持参したり、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いいたします。

**【その他の重要事項】**

・マーケティング・マネジメント論 I/II は、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II、製品開発論 I/II などマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。  
 ・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

## 金融論 I (2019年度以降入学者)

片桐 満

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます (秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます)。

### 【到達目標】

このコースでは、金融理論が、個人々の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。オンデマンド授業については、リアクションペーパーの提出を求めます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融論 I の概要	金融論 I で学ぶ内容を概観します。
第2回	金利と債券	金利の役割を学んだのち、債券について解説します。
第3回	株式	株式市場について、証券会社の役割も含めて解説します。
第4回	資産価格の決定理論	CAPM やファクターモデルなど、資産価格 (= 株価) の決定理論を学びます。
第5回	デリバティブ (先物とオプション)	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第6回	投資信託と保険	身近な金融商品である投資信託と保険について学びます。
第7回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第8回	金融仲介機関 (銀行)	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第9回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産など、金融のデジタル化について解説します。
第10回	為替レートと海外投資	金融のグローバル化に伴う海外投資と為替レートについて学びます。
第11回	為替レートの決定	為替レートを決定する理論として、購買力平価と金利平価について学びます。
第12回	企業の資本調達	株式や借入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第13回	ESG 投資	ESG 投資の概要と、その重要性について解説します。
第14回	起業とベンチャーキャピタル	ベンチャーキャピタルとは何かを解説し、起業における役割を学びます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。

### 【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

・内田浩史「金融」(有斐閣)

・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第10版 (上)」(日経BP)

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験 (80%) と授業内ディスカッション (20%) に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しくひどかったりした場合のみ、テストの点から減点していきます。

### 【学生の意見等からの気づき】

・ 期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。  
・ グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、試験的に授業内でのディスカッションを取り入れていく予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

### 【その他の重要事項】

・ 春学期・秋学期の金融論 I/II を連続で履修することを推奨します。  
・ 日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

### 【関連科目】

「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです (必須ではありません)。そのほか、コーポレートファイナンス I/II、デリバティブ入門 I/II、国際金融論 I/II と関連しています。

### 【Outline (in English)】

Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (80%) and discussion in class (20%).

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

**金融論 II (2019年度以降入学者)**

片桐 満

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論 I で学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み (年金、社会保険、税金など) について学びます。

**【到達目標】**

このコースでは、金融理論が個人や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

**【授業の進め方と方法】**

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直ししながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それに基づき授業内容などを微修正する可能性があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	金融論IIの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論IIを概観します。
第2回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか (されるべきか) を学びます。
第5回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第6回	財政1：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第7回	財政2：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険 (介護、医療など) を学びます。
第8回	財政3：財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第9回	非伝統的金融政策	資産買入政策やゼロ金利政策等、新たな金融政策の枠組みを学びます。
第10回	日本の財政・金融政策	授業内容を踏まえ、日本の財政・金融政策について発表・議論します。
第11回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第12回	事後のブルデンス政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第13回	事前のブルデンス政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。
第14回	デジタル通貨	デジタル通貨と金融・ブルデンス政策との関係について学びます。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定しません。

**【参考書】**

参考文献として、以下の教科書を参照します。

- ・内田浩史「金融」(有斐閣)
- ・小林照義「金融政策 (ベーシック+)」(中央経済社)

- ・白川方明「中央銀行—セントラルバンカーの経験した39年」(東洋経済新報社)
- ・土居丈朗「入門 財政学 [第2版]」(日本評論社)

**【成績評価の方法と基準】**

評価は、中間レポート (30%) と期末試験 (70%) に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。
- ・グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、昨年から、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れています。

**【学生が準備すべき機器他】**

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

**【その他の重要事項】**

- ・春学期・秋学期の金融論 I / II を連続で履修することを推奨します。
- ・日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

**【関連科目】**

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

**【Outline (in English)】**

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (70%), and (2) the mid-term report (30%).

MAN200FD (経営学/Management 200)

## マーケティング・リサーチ論 I (2019年度以降入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。リサーチの最前線として、日清食品の執行役員と、花王の事業部長による講演がある。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。

なお、マーケティング・リサーチ論 I (春学期) はインタビュー法などの定性的調査、II (秋学期) はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

### 【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ① ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
- ② 簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート (企画書) を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

#### <授業の進め方>

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

#### <教科書による事前学習>

事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する (採点対象：3点x9回分=27点満点)。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する (1点)。

さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。

そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

#### <授業中の課題>

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する (採点対象：2点x14回=28点満点)。

#### <事後の課題> (任意)

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する (1点)。

#### <レポート>

定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いた企画書を作成して、PDF形式で提出する (採点対象：45点満点)。詳細は授業の中で説明する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第1章：ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス+教科書について
第2回	リサーチの最前線 (ゲスト講師①)	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤 勝義氏 (日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 兼 欧州総代) 講演
第3回	インタビュー法	テキスト第2章：資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法
第4回	観察法	テキスト第3章：アザイン企業 IDEOによるATM開発の観察法
第5回	リード・ユーザー法	テキスト第4章：フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法

第6回	アイデア発想	テキスト第5章：TOTO「クラッソ」のアイデア創出 +最終レポートの詳細説明
第7回	コンセプト開発	テキスト第6章：エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第8回	リサーチの最前線 (ゲスト講師②)	「花王のマーケティングとリサーチ」池辺 順子氏 (花王株式会社 パーソナルヘルス事業部長) 講演
第9回	プロトタイプング (試作品)	テキスト第7章：IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイプング
第10回	コンセプトテスト (定量調査)	テキスト第10章：ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認
第11回	企画書作成	テキスト第14章：フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成
第12回	プレゼンテーション	テキスト第15章：グリコ「メンズボッキー」のプレゼンテーション
第13回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習として、電子テキストの次の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書として、『1からの商品企画』(西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012年)の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト (税別生協定価2,000円) を購入のこと。なお、紙版 (税別定価2,400円) もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。

[https://www.univcoop.jp/hosei/order/order\\_66.html](https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html)

電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子テキスト (EDX UniText) を利用する。

<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

なお、組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できる。

#### 【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・事前学習 (教科書を読んだコメント)：27% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
- ・授業中の課題 (授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答)：28%
- ・レポート (いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア)：45%
- ・授業中の発言：加点 (1点) あり。
- ・授業後の課題 (学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出)：授業で紹介時に、発言された場合には加点 (1点) する。
- ・早期レポートの提出者・報告者：全体のレポートの質向上のために、早期提出者には全員加点 (10点) ありだが、その目的のため、当日参加 (授業中課題の提出) が条件。教員の指名した優秀レポートの報告者には2点加点。
- ・最終レポートの報告者：教員の指名した優秀レポートの報告者には2点加点。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。

① レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

② 全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

#### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

**【実務経験のある教員による授業】**

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

**【Outline (in English)】**

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (27%), in-class exercises (28%), and a final report (45%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN200FD (経営学/Management 200)

## マーケティング・リサーチ論Ⅱ (2019年度以降入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方の講義と簡単な演習を行う。リサーチの最前線として、P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を实践されてきたゲストによる講演がある。

なお、Ⅰ(春学期)はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ(秋学期)はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

### 【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

#### <授業の進め方>

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

演習は、無料統計ソフトRを用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

#### <授業中の課題>

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する(採点対象56%)。

#### <事後課題>

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名(ニックネーム)にして、授業で紹介する。紹介時に、発言された場合には加点する。

#### <レポート>

主に定量調査を用いた商品(サービス)の調査書を、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF形式で提出する。詳細は授業の中で説明する(採点対象44%)。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	定量調査の楽しさ	<b>定量調査の概要</b> ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第2回	課題の定義とリサーチデザイン	<b>リサーチプロセスを知ろう!</b> ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、Rの使い方
第3回	データの特徴	<b>お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう!</b> ・「平均」 ・「標準偏差」
第4回	データの関係①	<b>気温とアイスの売上の関係を知ろう!</b> ・相関分析 ・無相関検定
第5回	データの関係②	<b>パンナー広告とクリック有無の関係を調べよう!</b> ・独立性の検定 ・適合度の検定
第6回	データの差	<b>クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう!</b> ・t検定

第7回	因果関係	<b>ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか!</b> ・回帰分析
第8回	データの集約	<b>ノートパソコンの価値を要約しよう!</b> ・因子分析
第9回	報告書	<b>SNSでの実名と匿名ユーザーの行動の報告書など</b> ・レポートの説明
第10回	アンケート	<b>アンケートのつくり方</b> ・尺度、グーグルアンケート
第11回	サンプリング	<b>大学生対象時のサンプルの選び方</b> ・サンプリング
第12回	リサーチの最前線(ゲスト講演)	<b>東浦和宏氏(関西学院大学経営戦略研究科 教授。P&amp;G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を实践)講演</b> ・講演と質疑
第13回	早期優秀レポートの報告	<b>早期レポートの報告とフィードバック</b> ・成果の共有
第14回	優秀レポートの報告	<b>優秀レポートの報告とフィードバック</b> ・成果の共有

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

#### 【参考書】

恩蔵直人・富田健司「1からのマーケティング分析(第2版)」碩学舎、2022年  
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎「Rによるやさしい統計学」オーム社、2008年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業中の課題(授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答)：56%
- ・レポート(いずれかの定量調査と分析結果)：44%
- ・授業中の発言：加点あり
- ・授業後の課題(学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出)：教員が紹介したコメントには加点あり。
- ・早期レポートの提出・報告者：全員10点加点あり(早期レポート制度)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 受講生が難しかったプロセスを考慮して、3点を改善した。
- ①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
- ②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
- ③基本編と解説編を分けて説明する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

第2回以降は、統計ソフトRを利用するため、パソコンをご用意ください。

#### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。  
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

#### 【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.

(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

MAN200FD (経営学/Management 200)

## 製品開発論 I

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

### 【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

- ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
- サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
- ハイテク製品の構造
- 統合される多様な技術知識
- コスト構造
- 製品開発のプロセス
- 研究、開発、製造、販売までのプロセス
- コンセプト・デザインの重要性
- マニュファクチャリング (製造)
- イノベーション
- 市場と技術の関係
- イノベーションの定義
- ドミナント・デザインの決定
- 製品開発戦略
- 競争戦略論と資源蓄積論
- ライセンス、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
- 製品開発組織
- 研究所と事業部
- プロジェクト・マネージャーの仕事
- グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。

春学期はラディカルイノベーション、コモディティ化、技術蓄積のテーマを扱う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	時計(セイコーのクォーツ1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
2	時計(セイコーのクォーツ2)	コモディティ化と統合型企業のジレンマ
3	時計(セイコーのクォーツ3)	コモディティ化の考察解説とその後
4	時計(カシオのG-Shock1)	製品開発と事業化
5	時計(カシオのG-Shock2)	グローバルブランドの構築
6	スイッチ(NKK1)	技術蓄積
7	スイッチ(NKK2)	海外展開と新市場創出
8	アライアンスとオープン・イノベーション	戦略的提携と外部資源の活用
9	医療機器(テルモ1)	組織改革
10	医療機器(テルモ2)	技術蓄積
11	医療機器(テルモ3)	事業ドメインの構築

12	炭素繊維(東レ1)	素材の製品開発と市場開拓
13	炭素繊維(東レ2)	川上から川下に広がる事業ドメイン
14	液晶テレビ(シャープ)	電子半導体産業におけるコモディティ化

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の予習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

- ①『イノベーション・マネジメント』近能善範・高井文子 新世社 2010年
- ②『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010年
- ③『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006年

### 【成績評価の方法と基準】

全部で4回程度の課題の提出及び最終課題 (またはテスト) によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題 (50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

### 【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回数もあるが、映像や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

### 【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、国際経営論 I/II 等

### 【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」  
「グローバル戦略」  
「ハイテク・スタートアップの成長」

### 【主要研究業績】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
- ②『アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から』榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号, pp172-184, 2017年.
- ③『ITビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー』田路則子・新谷優『研究技術計画』30巻, pp.312-325, 2016年
- ④『Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,』Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア』田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太郎著 白桃書房, pp.133~159, 2013年.
- ⑥『WEBビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス』田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774, 2011年
- ⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年
- ⑧『半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム』田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻, 5号, pp211-231, 2009年
- ⑨『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

### 【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: About four small reports and a final report/test

MAN200FD (経営学/Management 200)

## 製品開発論Ⅱ

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発が行われているのかを学ぶ。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えると、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

## 【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

- ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
- サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
- ハイテク製品の構造
- 統合される多様な技術知識
- コスト構造
- 製品開発のプロセス
- 研究、開発、製造、販売までのプロセス
- コンセプト・デザイン的重要性
- マニュファクチャリング (製造) イノベーション
- 市場と技術の関係
- イノベーションの定義
- ドミナント・デザインの決定
- 製品開発戦略
- 競争戦略論と資源蓄積論
- ライセンス、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
- 製品開発組織
- 研究所と事業部
- プロジェクト・マネージャーの仕事
- グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。

秋学期はビジネスプラットフォーム、グローバル化、日米のスタートアップの事例を扱う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	カメラ(コダック)	イノベーションとドミナント・デザイン
第2回	カメラ(コダック)と富士フィルム	イノベーターのジレンマ
第3回	イメージセンサー (ソニー)	イノベーターズ・ジレンマと統合型企業のジレンマ
第4回	PC(Apple)	PCの誕生と進化
第5回	PC&スマートフォン (Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
第6回	ビジネスプラットフォーム	ビジネス・プラットフォーム
第7回	空調機(ダイキン工業1)	欧州におけるローカリゼーション
第8回	空調機(ダイキン工業2)	ダイキンのグローバル展開と人材育成・中国展開
第9回	スタートアップとは	スタートアップとは
第10回	シリコンバレーのスタートアップ1	シリコンバレーの起業エコシステム

第11回	シリコンバレーのスタートアップ2	シリコンバレーのITビジネス
第12回	日本のスタートアップ1	ITビジネスの起業プロセス—グラフィック
第13回	日本のスタートアップ2	半導体ビジネスの起業プロセス—RAYTEX
第14回	シリコンバレーのスタートアップ3	半導体ビジネスの連続起業

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の予習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

## 【テキスト (教科書)】

特になし

## 【参考書】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
- ②『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010年

## 【成績評価の方法と基準】

全部で4回程度の課題の提出及び最終課題 (またはテスト) によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題 (50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

## 【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、VTRや写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

## 【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

## 【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」  
「グローバル戦略」  
「ハイテク・スタートアップの成長」

## 【主要研究業績】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
- ②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント—半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号, pp.172-184, 2017年.
- ③「ITビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30巻, pp.312-325, 2016年
- ④「Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies」Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133~159, 2013年.
- ⑥「WEBビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774, 2011年
- ⑦「ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年
- ⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻5号, pp.211-231, 2009年
- ⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子, 白桃書房, 2005年

## 【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: About four small reports and a final report/test

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

## デリバティブ入門 I (2019年度以降入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか?」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることがわかるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」や「中央銀行の金融政策を占うには?」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

### 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識(1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識(2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値(1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値(2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引(1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引(2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引(1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引(2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係(1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係(1)	スポットレート、パーレート、短期金利
第13回	先渡取引(3)	FRとその活用方法
第14回	先渡取引(4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

### 【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる! 証券外務員一種必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

(3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

(4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

### 【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

### 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。

### 【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門II、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門I/II、Excelで学ぶファイナンス理論I/II

### 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

## デリバティブ入門Ⅱ (2019年度以降入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け(企業買収)の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

## 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第3回	スワップ取引(1)	IRSとその活用方法
第4回	スワップ取引(2)	通貨スワップとその活用方法
第5回	スワップ取引(3)	スワップレートの決定理論
第6回	オプション取引(1)	コールとプット、プット・コール・パリテイ
第7回	オプション取引(2)	オプションの活用方法
第8回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第9回	オプション価格理論(1)	1期間2項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論(2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論(3)	Yahoo! JAPANによるZOZOの株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論(4)	2期間2項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論(5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論(6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

## 【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種必修テキスト2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

## 【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

## 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。

## 【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

## 投資入門 (2019年度以降入学者)

岸本 直樹

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、債券および株式について、「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば、債券については、仮に利子率がほんの少し変化したとき、分析対象の債券の価格がどの程度変化するかを表す指標(デュレーションと呼ばれます)を学習します。また、株式については、実務家に多用される様々な指標を、実際に存在する企業を例にとって学びます。

ちなみに、債券や株式の価格は、それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか、経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって、ファイナンスでは、それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば、効率的市場仮説と呼ばれる仮説は、それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では、効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

### 【到達目標】

次の5つを到達目標に掲げます。

- ①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し、それを的確に適用することができる。
- ②デュレーション、イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
- ③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し、それを複雑な問題に対して適用することができる。
- ④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
- ⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義によって授業を進めます。ただし、授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに、学生がExcelを利用できる環境が整っていれば、授業中に学生がExcelを使って計算問題を解く時間を設けます。なお、授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために、学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第2回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第3回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第4回	債券の基礎知識(1)	債券に関する基本用語、債券の種類、債券市場の概説。
第5回	債券の基礎知識(2)	債券の利回り計算、利回りと債券価格の関係。
第6回	債券の基礎知識(3)	債券投資のリスクと債券属性(1)。
第7回	債券の基礎知識(4)	債券投資のリスクと債券属性(2)。
第8回	債券の基礎知識(5)	債券投資のリスクと債券属性(3)。
第9回	利子率に対する債券価格の感応度(1)	デュレーションの導出、計算方法、性質。
第10回	利子率に対する債券価格の感応度(2)および金利の期間構造(1)	デュレーションの性質の続き。さらに、イールドカーブの概説。
第11回	金利の期間構造(2)	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第12回	株式評価	配当割引モデルの計算、性質、拡張。
第13回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法、株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第14回	効率的市場仮説	効率的市場仮説に沿って情報と証券価格を検討する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト(教科書)の予習・復習をしっかりと行ってください。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』, 2019年, 有斐閣

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが70%、授業で実施する小テストと授業参加が30%のウェイトを占める。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生とのQ&Aをさらに活性化する。

### 【学生が準備すべき機器他】

教員が事前に連絡した授業日には、Excelがインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに、iPhone用のExcelは無料です(他のスマートフォンについては知りません)。

### 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁です。

### 【関連科目】

ファイナンス入門(必須)、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門I/II、デリバティブ入門I/II、Excelで学ぶファイナンス理論I/II、金融論I/II

### 【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners.

In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.

Learning objectives: The following five objectives are set for this course.

- (1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
- (2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
- (3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
- (4) To learn major investment strategies for stocks.
- (5) To learn the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN200FD (経済学 / Economics 200)

## ポートフォリオ理論入門 (2019年度以降入学者)

岸本 直樹

市場経営学科専門科目200番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざるを得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では、投資に当たって、投資対象である資産のどの点に注目し、どのような方法でどの資産にいくら投資すればよいのかについて、学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に、「ポートフォリオ理論入門」の後半では、CAPMと呼ばれるモデルを使って、様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンを学習します。

## 【到達目標】

「ポートフォリオ理論入門」の前半では、保有資金をその資産にいくら投資するかという問題についてよく知られているアプローチ (ポートフォリオ理論) を学習します。また、後半では、CAPMと呼ばれる、資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。

- ①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
- ②ポートフォリオ理論の概要を理解し、第三者に説明できる。
- ③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト (クイズ) を実施する予定です。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	収益率の期待値、分散、標準偏差 (1)	収益率、確率変数を説明した後、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第2回	収益率の期待値、分散、標準偏差 (2)	引き続き、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第3回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し、計算方法を学びます。
第4回	相関係数	相関係数について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論 (1)	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第6回	ポートフォリオ理論 (2)	ポートフォリオの収益率の期待値、分散、標準偏差を計算する公式を学習します。
第7回	ポートフォリオ理論 (3)	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第8回	ポートフォリオ理論 (4)	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第9回	ポートフォリオ理論 (5)	引き続き、安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第10回	ポートフォリオ理論 (6)	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第11回	ポートフォリオ理論 (7)	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第12回	ポートフォリオ理論 (8)	ポートフォリオの最適化とポートフォリオ理論の応用について学習します。
第13回	資本資産評価モデル (1)	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。

第14回 資本資産評価モデル (2)

市場ポートフォリオとベータについて学習したあと、資本資産評価モデルの導出について学習します。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業ごとに4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、有斐閣

## 【参考書】

特にない。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、クイズを1回実施する場合は、期末テストが85%、クイズと授業参加が15%のウェイトを占める。クイズを2回する場合は、期末テストが70%、クイズと授業参加が30%のウェイトを占める。

## 【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にない。

## 【その他の重要事項】

〔予備知識〕

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

〔注意事項〕

「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお、「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

## 【Outline (in English)】

Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets do to look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.

Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.

(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.

(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## 経営のための経済学

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる(応用する)、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

### 【到達目標】

以下の3点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえ、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業の経営に関して、より深く考える必要があることについて考えます。
2	個人と企業の意思決定 (1) 便益と費用	様々な意思決定の場面における便益と費用を確認し、望ましい意思決定のあり方について学びます。
3	個人と企業の意思決定 (2) 時間とリスク	現在の結果と将来の結果の関係について学びます。また、将来の結果が不確定である場合の考え方について学びます。
4	個人と企業の意思決定 (3) ゲーム理論	ほかの人たちの動きを考慮したときに望ましい意思決定のあり方と、そのときにどのような結果が実現することになるのかについて学びます。
5	取引と交渉	どのようなときに取引をするのか、取引は何をもたらすのかについて学びます。
6	取引と情報	相手が知っていることを自分が知らなかったり、自分が知っていることを相手が知らなかったりすることが取引にどのような影響をおよぼすのかについて学びます。
7	取引と組織	どのような取引をどのような相手とするとどのようなことが起こるのかを検討することを通じて、組織のあり方について学びます。
8	採用 (1) シグナリング	学歴評価を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
9	採用 (2) スクリーニング	コース別採用を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
10	人材 (1) インセンティブ契約	成果給の仕組みを例に、労働者の努力に関する情報の問題と待遇上の工夫について学びます。
11	人材 (2) 人的資本投資	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	資金調達 (1) 負債	企業が必要な資金を調達する手段として負債を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。

13	資金調達 (2) 株式	企業が必要な資金を調達する手段として株式を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。
14	倒産と企業再建	企業が財務危機についてどのように考え、対応したらよいのかについて学びます。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣(2012年)  
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス(第2版)』日本経済新聞出版(2021年)  
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社(2004年)  
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社(2000年)などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート(2回)100%で評価します。ただし、出席を前提として授業を進めますので、リアクションペーパーの提出がなかったり、実質的に授業へ参加していなかったりした場合には、成績評価の対象から外すことがあります。

### 【学生の意見等からの気づき】

過去の授業中に回収したリアクションペーパー等への記載内容を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

### 【その他の重要事項】

- 1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ」(旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群)を履修していることが望ましいですが、履修していなくても理解できるように配慮します。
- 2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」(旧「企業財務論」)、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
- 3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達(銀行借入を含む)に関する授業を行います。

### 【Outline (in English)】

In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.

You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.

B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.

Final grade will be decided based on mid-term report (50%) and term-end report (50%).

MAN300FD (経営学/Management 300)

## マーケティング・リサーチ I (2018年度以前入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。リサーチの最前線として、日清食品の執行役員と、花王の事業部長による講演がある。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。

なお、マーケティング・リサーチ論 I (春学期) はインタビュー法などの定性的調査、II (秋学期) はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

## 【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート (企画書) を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

## 【授業の進め方と方法】

## &lt;授業の進め方&gt;

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

## &lt;教科書による事前学習&gt;

事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する (採点対象：3点x9回分=27点満点)。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する (1点)。

さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。

そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

## &lt;授業中の課題&gt;

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する (採点対象：2点x14回=28点満点)。

## &lt;事後の課題&gt; (任意)

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する (1点)。

## &lt;レポート&gt;

定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いた企画書を作成して、PDF形式で提出する (採点対象：45点満点)。詳細は授業の中で説明する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第1章：ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス+教科書について
第2回	リサーチの最前線 (ゲスト講師①)	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤 勝義氏 (日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 兼 欧州総代) 講演
第3回	インタビュー法	テキスト第2章：資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法
第4回	観察法	テキスト第3章：アザイン企業 IDEOによるATM開発の観察法
第5回	リード・ユーザー法	テキスト第4章：フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法

第6回	アイデア発想	テキスト第5章：TOTO「クラッソ」のアイデア創出 +最終レポートの詳細説明
第7回	コンセプト開発	テキスト第6章：エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第8回	リサーチの最前線 (ゲスト講師②)	「花王のマーケティングとリサーチ」池辺 順子氏 (花王株式会社 パーソナルヘルス事業部長) 講演
第9回	プロトタイプینگ (試作品)	テキスト第7章：IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイプینگ
第10回	コンセプトテスト (定量調査)	テキスト第10章：ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認
第11回	企画書作成	テキスト第14章：フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成
第12回	プレゼンテーション	テキスト第15章：グリコ「メンズボッキー」のプレゼンテーション
第13回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習として、電子テキストの次の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

## 【テキスト (教科書)】

教科書として、『1からの商品企画』(西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012年)の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト (税別生協定価2,000円) を購入のこと。なお、紙版 (税別定価2,400円) もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。

[https://www.univcoop.jp/hosei/order/order\\_66.html](https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html)

電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子テキスト (EDX UniText) を利用する。

<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

なお、組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できる。

## 【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年

## 【成績評価の方法と基準】

- ・事前学習 (教科書を読んだコメント)：27% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
- ・授業中の課題 (授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答)：28%
- ・レポート (いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア)：45%
- ・授業中の発言：加点 (1点) あり。
- ・授業後の課題 (学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出)：授業で紹介時に、発言された場合には加点 (1点) する。
- ・早期レポートの提出者・報告者：全体のレポートの質向上のために、早期提出者には全員加点 (10点) ありだが、その目的のため、当日参加 (授業中課題の提出) が条件。教員の指名した優秀レポートの報告者には2点加点。
- ・最終レポートの報告者：教員の指名した優秀レポートの報告者には2点加点。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

## 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

**【実務経験のある教員による授業】**

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

**【Outline (in English)】**

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (27%), in-class exercises (28%), and a final report (45%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD (経営学/Management 300)

## マーケティング・リサーチⅡ (2018年度以前入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方の講義と簡単な演習を行う。リサーチの最前線として、P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践されてきたゲストによる講演がある。

なお、Ⅰ(春学期)はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ(秋学期)はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

### 【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

#### <授業の進め方>

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

演習は、無料統計ソフトRを用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

#### <授業中の課題>

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する(採点対象56%)。

#### <事後課題>

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名(ニックネーム)にして、授業で紹介する。紹介時に、発言された場合には加点する。

#### <レポート>

主に定量調査を用いた商品(サービス)の調査書を、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF形式で提出する。詳細は授業の中で説明する(採点対象44%)。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	定量調査の楽しさ	<b>定量調査の概要</b> ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第2回	課題の定義とリサーチデザイン	<b>リサーチプロセスを知ろう!</b> ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、Rの使い方
第3回	データの特徴	<b>お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう!</b> ・「平均」 ・「標準偏差」
第4回	データの関係①	<b>気温とアイスの売上の関係を知ろう!</b> ・相関分析 ・無相関検定
第5回	データの関係②	<b>パンナー広告とクリック有無の関係を調べよう!</b> ・独立性の検定 ・適合度の検定
第6回	データの差	<b>クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう!</b> ・t検定

第7回	因果関係	<b>ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか!</b> ・回帰分析
第8回	データの集約	<b>ノートパソコンの価値を要約しよう!</b> ・因子分析
第9回	報告書	<b>SNSでの実名と匿名ユーザーの行動の報告書など</b> ・レポートの説明
第10回	アンケート	<b>アンケートのつくり方</b> ・尺度、Googleアンケート
第11回	サンプリング	<b>大学生対象時のサンプルの選び方</b> ・サンプリング
第12回	リサーチの最前線(ゲスト講演)	<b>東浦和宏氏(関西学院大学経営戦略研究科 教授。P&amp;G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践)講演</b> ・講演と質疑
第13回	早期優秀レポートの報告	<b>早期レポートの報告とフィードバック</b> ・成果の共有
第14回	優秀レポートの報告	<b>優秀レポートの報告とフィードバック</b> ・成果の共有

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

#### 【参考書】

恩蔵直人・富田健司「1からのマーケティング分析(第2版)」碩学舎、2022年  
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎「Rによるやさしい統計学」オーム社、2008年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業中の課題(授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答)：56%
- ・レポート(いずれかの定量調査と分析結果)：44%
- ・授業中の発言：加点あり
- ・授業後の課題(学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出)：教員が紹介したコメントには加点あり。
- ・早期レポートの提出・報告者：全員10点加点あり(早期レポート制度)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 受講生が難しかったプロセスを考慮して、3点を改善した。
- ①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
- ②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
- ③基本編と解説編を分けて説明する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

第2回以降は、統計ソフトRを利用するため、パソコンをご用意ください。

#### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。  
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

#### 【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.

(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## ファイナンス論 I (2018年度以前入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか?」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることがわかるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」や「中央銀行の金融政策を占うには?」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

## 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識(1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識(2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値(1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値(2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引(1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引(2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引(1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引(2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係(1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係(1)	スポットレート、パーレート、短期金利
第13回	先渡取引(3)	FRAとその活用方法
第14回	先渡取引(4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

## 【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる! 証券外務員一種必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

(3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

(4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

## 【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

## 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。

## 【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## ファイナンス論Ⅱ (2018年度以前入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け(企業買収)の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

### 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第3回	スワップ取引(1)	IRSとその活用方法
第4回	スワップ取引(2)	通貨スワップとその活用方法
第5回	スワップ取引(3)	スワップレートの決定理論
第6回	オプション取引(1)	コールとプット、プット・コール・パリテイ
第7回	オプション取引(2)	オプションの活用方法
第8回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第9回	オプション価格理論(1)	1期間2項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論(2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論(3)	Yahoo! JAPANによるZOZOの株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論(4)	2期間2項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論(5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論(6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

### 【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種必修テキスト2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

### 【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

### 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい)を用意してください。

### 【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

### 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## 証券経済論 I (2018年度以前入学者)

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 3~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、債券および株式について、「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば、債券については、仮に利子率がほんの少し変化したとき、分析対象の債券の価格がどの程度変化するかを表す指標(デュレーションと呼ばれます)を学習します。また、株式については、実務家に多用される様々な指標を、実際に存在する企業を例にとって学びます。

ちなみに、債券や株式の価格は、それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか、経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって、ファイナンスでは、それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば、効率的市場仮説と呼ばれる仮説は、それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では、効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

## 【到達目標】

次の5つを到達目標に掲げます。

- ①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し、それを的確に適用することができる。
- ②デュレーション、イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
- ③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し、それを複雑な問題に対して適用することができる。
- ④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
- ⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義によって授業を進めます。ただし、授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに、学生がExcelを利用できる環境が整っていれば、授業中に学生がExcelを使って計算問題を解く時間を設けます。なお、授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために、学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第2回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第3回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第4回	債券の基礎知識(1)	債券に関する基本用語、債券の種類、債券市場の概説。
第5回	債券の基礎知識(2)	債券の利回り計算、利回りと債券価格の関係。
第6回	債券の基礎知識(3)	債券投資のリスクと債券属性(1)。
第7回	債券の基礎知識(4)	債券投資のリスクと債券属性(2)。
第8回	債券の基礎知識(5)	債券投資のリスクと債券属性(3)。
第9回	利子率に対する債券価格の感応度(1)	デュレーションの導出、計算方法、性質。
第10回	利子率に対する債券価格の感応度(2)および金利の期間構造(1)	デュレーションの性質の続き。さらに、イールドカーブの概説。
第11回	金利の期間構造(2)	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第12回	株式評価	配当割引モデルの計算、性質、拡張。
第13回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法、株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第14回	効率的市場仮説	効率的市場仮説に沿って情報と証券価格を検討する。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト(教科書)の予習・復習をしっかりと行ってください。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』, 2019年, 有斐閣

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが70%、授業で実施する小テストと授業参加が30%のウェイトを占める。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とのQ&Aをさらに活性化する。

## 【学生が準備すべき機器他】

教員が事前に連絡した授業日には、Excelがインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに、iPhone用のExcelは無料です(他のスマートフォンについては知りません)。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁です。

## 【関連科目】

ファイナンス入門(必須)、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門I/II、デリバティブ入門I/II、Excelで学ぶファイナンス理論I/II、金融論I/II

## 【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners.

In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.

Learning objectives: The following five objectives are set for this course.

- (1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
- (2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
- (3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
- (4) To learn major investment strategies for stocks.
- (5) To learn the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## 証券経済論Ⅱ (2018年度以前入学者)

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざるを得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では、投資に当たって、投資対象である資産のどの点に注目し、どのような方法でどの資産にいくら投資すればよいのかについて、学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に、「ポートフォリオ理論入門」の後半では、CAPMと呼ばれるモデルを使って、様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

### 【到達目標】

「ポートフォリオ理論入門」の前半では、保有資金をその資産にいくら投資するかという問題についてよく知られているアプローチ (ポートフォリオ理論) を学習します。また、後半では、CAPMと呼ばれる、資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。

- ①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
- ②ポートフォリオ理論の概要を理解し、第三者に説明できる。
- ③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト (クイズ) を実施する予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	収益率の期待値、分散、標準偏差 (1)	収益率、確率変数を説明した後、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第2回	収益率の期待値、分散、標準偏差 (2)	引き続き、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第3回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し、計算方法を学びます。
第4回	相関係数	相関係数について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論 (1)	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第6回	ポートフォリオ理論 (2)	ポートフォリオの収益率の期待値、分散、標準偏差を計算する公式を学習します。
第7回	ポートフォリオ理論 (3)	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第8回	ポートフォリオ理論 (4)	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第9回	ポートフォリオ理論 (5)	引き続き、安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習を続けます。
第10回	ポートフォリオ理論 (6)	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第11回	ポートフォリオ理論 (7)	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第12回	ポートフォリオ理論 (8)	ポートフォリオの最適化とポートフォリオ理論の応用について学習します。
第13回	資本資産評価モデル (1)	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。

第14回 資本資産評価モデル (2)

市場ポートフォリオとベータについて学習したあと、資本資産評価モデルの導出について学習します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業ごとに4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、有斐閣

### 【参考書】

特にない。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、クイズを1回実施する場合は、期末テストが85%、クイズと授業参加が15%のウェイトを占める。クイズを2回する場合は、期末テストが70%、クイズと授業参加が30%のウェイトを占める。

### 【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にない。

### 【その他の重要事項】

〔予備知識〕

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

〔注意事項〕

「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお、「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅱ/Ⅲ

### 【Outline (in English)】

Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets do to look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.

Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.

(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.

(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD (経済学 / Economics 300)

## Excelで学ぶファイナンス理論Ⅱ

山崎 輝

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、Microsoft社のExcelを使いながら、実践的なファイナンス理論を学びます。実際の金融取引や証券投資では、知識や理論を知っているだけでは不十分であり、様々な計算が必要になります。Excelを使うことで、ファイナンスに関連する計算が簡単に実行できるだけでなく、高度な理論でも直感的に理解できるという利点があります。本授業の目的は、実際のデータに基づいて、ファイナンスに関する諸々の計量分析ができるようになることです。今回は、平均・分散アプローチ、CAPM (Capital Asset Pricing Mode; 資本資産価格モデル)、ジェンセンのアルファ、シミュレーションによるリスク管理といった投資理論を中心にスキルを身に付けます。金融業界を志す学生はもちろんのこと、個人の資産形成や株式投資に興味のある学生にも履修をお薦めします。初歩から始まりますが、授業後半には本格的な分析に取り組む予定です。

## 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ① ファイナンス理論を正確かつ直感的に説明できる。
- ② 金融データの特徴を理解し、分析に必要なデータを取得することができる。
- ③ Excelを使って証券投資の意思決定に関する分析ができる。
- ④ Excelを使って金融リスクの計測ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この授業は情報実習室での対面授業です。講義とExcel演習を交互に行うことで授業を進めます。授業資料を配付しますが、黒板(ホワイトボード)にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。Excel演習では、担当教員およびTA (teaching assistant) が積極的にサポートします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	現代の投資理論の概要(講義)	現代ポートフォリオ理論の紹介、ノーベル経済学賞を受賞した投資理論とは?
第3回	確率論の基礎(講義)	確率、確率変数、期待値、分散、標準偏差、共分散、相関係数などの概念と性質の解説
第4回	株価データの扱い方(Excel演習)	データベースの使い方、各種データの意味、株価データの加工および精査、基礎統計量の計算
第5回	期待収益率とボラティリティ(講義)	個別株と株式ポートフォリオの期待収益率とボラティリティについての解説
第6回	期待収益率とボラティリティ(Excel演習)	Excelによる個別株と株式ポートフォリオの期待収益率とボラティリティの計算
第7回	平均・分散アプローチ(講義)	期待効用、効用無差別曲線、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、二基金分離定理などの解説
第8回	平均・分散アプローチ(Excel演習)	Excelによる効率的フロンティアや接点ポートフォリオなどの計算、投資の意思決定
第9回	CAPMとジェンセンのアルファ(講義)	CAPM、証券市場線、マーケット・モデル、ジェンセンのアルファなどの解説
第10回	CAPMとジェンセンのアルファ(Excel演習)	ExcelによるCAPMのベータやジェンセンのアルファなどの計算
第11回	VaRによる金融リスク管理(講義)	VaR(Value at Risk)による金融リスクの計測手法の解説
第12回	VaRによる金融リスク管理(Excel演習)	Excelを用いたモンテカルロ・シミュレーションによるVaRの実装、金融リスク計測
第13回	総合演習(1)(Excel演習)	学生自身が選んだ企業群の株式投資分析、投資判断、リスクの計測
第14回	総合演習(2)(Excel演習)	学生による総合演習の結果発表(プレゼンテーション)

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Excel演習の課題をしっかりと完成させてください。指定した参考書を併用すると授業の理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は特に指定しません。授業中に資料を配付します。

## 【参考書】

- ① 藤林宏他、『エクセルで学ぶファイナンス 証券投資分析 第3版』、2009年、金融財政事情研究会
- ② 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ③ 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- ④ 伊藤敬介他、『新・証券投資論II 実務編』、2009年、日本経済新聞出版社

## 【成績評価の方法と基準】

総合演習の発表(40%)、Excel演習の課題(40%)、平常点(20%)で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中にExcel演習の作業時間を十分に確保するように努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の学習のために、Excelの使えるPCを用意してください。PCを所有していない学生は大学の施設や機器を利用してください。

## 【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門I/II、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門I/II、Excelで学ぶファイナンス理論I

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a practical theory of finance with Microsoft Excel as an analytical tool. [Learning objective] The objective of the course is to analyze financial markets based on real market data by using Excel. The three major subjects are: (1) quantitative analysis of financial markets; (2) rational decision making on investments; and (3) financial risk management. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Final presentation: 40%, exercises with Excel: 40%, in class contribution: 20%.

MAN300FD (経営学 / Management 300)

## 広告論

宮井 弘之

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

### 【到達目標】

広告とはどのような活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがある。その場合ZOOMとなる可能性が高い。

数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。

また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店 営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社 プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店 クリエイティブ・ディレクター (録画を利用)
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ テレビ担当 (録画を利用)
第10回	インターネット広告(1)	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー (録画を利用)
第11回	インターネット広告(2)	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の種類 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務

第14回 これまでの総まとめ これまでの総まとめ(授業内試験を予定)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらって準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり1-2時間を想定する。

### 【テキスト(教科書)】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

### 【参考書】

適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容 (60%)

2) 最終回におけるレポート課題 (40%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

### 【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

### 【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家になるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

### 【関連科目】

マーケティング論

### 【Outline (in English)】

[Outline] In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

### 【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

### 【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (60%)

2. final report assignment (40%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

MAN100FA (経営学/Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

吉村 喜予子

グローバル・ビジネス/GBP科目 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「外国語経営管理入門」では、ビジネス環境におけるさまざまなトピックを14週間にわたって学びます。

この講義では、テーマに関する講義と英語資料(記事、ニュース、文献)を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。学生は毎週、課題として英語の資料を事前に読むことが必須になります。

講義を通じて、学生がビジネスで使用される英語に慣れることで、将来、グローバル環境で、自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎となることを期待します。

【到達目標】

この講義では、テーマに関する講義と英語資料(記事、ニュース、文献)を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。講義の到達目標としては以下のとおり。

- 経営学の各テーマに関連する情報や用語を理解する。
- ビジネスで使われる英語単語に慣れること。
- グローバル環境の中で、言語を超えて参加意識を持つ準備が整うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面 (#1セッションを除く)

本講義は、英語を活用する企業を想定して、少しずつビジネスで使われる英語に慣れてもらうことを想定しています。

講義は日本語で行いますが、「入門外国語経営学」の講義として、提示するスライド等の多くは英語で作成されていることは、前提として理解してください。

各週(各回)のテーマについて講義と課題として出された英語の資料(記事、ニュース、論文等)を読んだことを前提としたディスカッション(日本語)を行います。

ビジネスアイデアの実現を想定したシミュレーションを予定しています。学生にシミュレーションを体験してもらい、ビジネス上の課題発見や学びを想定しています。

特に、講義のなかでは、ディスカッションで交わされた内容が「正しい」か「間違っている」かは重要ではなく、将来企業で働く際に、「自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎作りを念頭に置いています。

したがって、学生はディスカッションスキルの構築に参加することが期待されます。課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要
	Introduction	ビジネス環境を理解する
第2回	ビジネス環境を理解する。	ビジネスの外部環境と内部環境
	Understanding the business environment	

第3回	企業の倫理と社会的責任 Corporate ethics and social responsibility	企業倫理 業務における倫理 社会的責任
第4回	起業家精神とビジネスオーナーシップ I Entrepreneurship, and Business Ownership I	起業とは 起業の環境
第5回	起業家精神とビジネスオーナーシップ II Entrepreneurship, and Business Ownership II	起業を考える(シュミレーション)
第6回	経営管理 Managing the business enterprise	マネージャーの役割 組織管理
第7回	組織管理 Organizing the business enterprise	組織とは何か 組織における判断要件
第8回	オペレーションズ・マネジメントと品質管理 Operations management and Quality	オペレーション・マネジメントとは何か? 品質管理の重要性
第9回	組織とモチベーション Motivating and leading employee	組織を作る 従業員の役割
第10回	リーダーシップと意思決定 Leadership and decision making	リーダーシップの重要性 毎のリーダーシップの必要性
第11回	人財資源管理 Human Resource Management	人財とは 人財管理とはなにか
第12回	マーケティングプロセスと消費者行動 Marketing process and Consumer behavior	マーケティングとは 消費者行動とは
第13回	企業におけるITの役割 Information Technology	ITとはなにか ITの役割
第14回	企業リスク管理 Corporate Risk management	企業リスクとはなにか 対応策とは

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各週(各回)のテーマについて講義と課題として出された英語の資料(記事、ニュース、論文等)を読むこと。(2時間)

各週(各回)のテーマについて授業資料を復習すること。(2時間)  
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト(教科書)】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲示する。

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.

Reading should be completed before class.

**【参考書】**

特に定めない。各回、講義にて指示する。

Will notice in the class.

Reading should be completed before class.

**【成績評価の方法と基準】**

各回小テスト (QUIZという) の累計：50%

中間Quiz: 10%

期末レポート：20%

最終クイズ：20% (14週の授業中に行います)

Total:100%

全体のトータルスコアに対して、%形式でグレーディングします。

In-class-Quiz: 50%

Mid-term Quiz: 10%

Final report: 20%

Final Quiz (in-class): 20%

Total: 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

QUIZの際に、「わからなかったこと(もう少し説明してほしいこと)」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

**【学生が準備すべき機器他】**

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

PC or any other digital device(s) for reading the course materials.

**【その他の重要事項】**

教員は、実務経験のある教員である。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

**【Outline (in English)】**

In "Introductory Foreign Language Business Administration Management," you will learn about various topics in the business environment over 14 weeks.

In this lecture, students will deepen their understanding of global business by reading lectures and English materials (articles, news, literature) regarding the theme.

Students must prepare for each week's assignment by reading English materials in advance. Through the course, the expectation is that students will become accustomed to the English used in business, enabling them to think independently and effectively communicate information within a global context in the future."

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

依田 光広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車 (モビリティ=移動) 産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、最近の潮流となっているCASE戦略 (つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric) の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やもの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、平常点、宿題、講義での発表・質問により総合的に行います。

## 【到達目標】

理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。  
読む力：日本語のビジネス文書・図表 (教師作成のテキスト) を読む。宿題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。  
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

授業時間は100分で、間に休憩を5~10分とります。前半は教師が日本語でのCASE戦略に関する講義 (技術戦略も含む) を実施します。後半はビジネス英文の事例の説明を行い、宿題が与えられた時は (講義前までに「課題」フォルダーに提出)、指名された数名が英語で発表をします。

講義資料や動画はAutomotive News、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞・日経XTEch、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTEch, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明 (Outline and objectives)、グローバル自動車市場 (Global Automotive Market) ← 任意
第2回	Electric (1)	電動車 (BEV等) のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, 日Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.

第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車会社の施設 (Facility of Car Company)
第11回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) のTrend & Background
第12回	Shared & Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared & Service (3)	対象企業：日Toyota
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義(Lecture)、グループ討議 (Group Discussion)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

## 【テキスト (教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

## 【参考書】

木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』(2022) 日経BP社 ← 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』(2018) 日本経済新聞出版社 ← 購入は任意

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (40%)、講義での発表と質疑 (10%) などにより総合的に評価します。期末試験はしません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

Comprehensive evaluation will be made based on contributions in class(50%), homework(40%) and presentation/Q&As(10%), etc.

## 【学生の意見等からの気づき】

最先端のCASE戦略の動向を解説し、フィールドワークも実施します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. You should not talk privately or do any side work during the lecture. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring them to a class.

## 【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp. (海外営業部門) ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies) での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業分析、IoT戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI (Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体) の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

## 【関連科目】

None.

## 【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution, homework and presentation.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

依田 光広

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車 (モビリティ=移動) 産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、最近の潮流となっているCASE戦略 (つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric) の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やもの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、平常点、宿題、講義での発表・質問により総合的に行います。

## 【到達目標】

理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。  
読む力：日本語のビジネス文書・図表 (教師作成のテキスト) を読む。宿題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。  
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

授業時間は100分で、間に休憩を5~10分とります。前半は教師が日本語でのCASE戦略に関する講義 (技術戦略も含む) を実施します。後半はビジネス英文の事例の説明を行い、宿題が与えられた時は (講義前までに「課題」フォルダーに提出)、指名された数名が英語で発表をします。

講義資料や動画はAutomotive News、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞・日経XTEch、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTEch, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明 (Outline and objectives)、グローバル自動車市場 (Global Automotive Market) ← 任意
第2回	Electric (1)	電動車 (BEV等) のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, 日Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.

第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車会社の施設 (Facility of Car Company)
第11回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) のTrend & Background
第12回	Shared & Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared & Service (3)	対象企業：日Toyota
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義(Lecture)、グループ討議 (Group Discussion)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

## 【テキスト (教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

## 【参考書】

木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』(2022) 日経BP社 ← 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』(2018) 日本経済新聞出版社 ← 購入は任意

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (40%)、講義での発表と質疑 (10%) などにより総合的に評価します。期末試験はしません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

Comprehensive evaluation will be made based on contributions in class(50%), homework(40%) and presentation/Q&As(10%), etc.

## 【学生の意見等からの気づき】

最先端のCASE戦略の動向を解説し、フィールドワークも実施します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. You should not talk privately or do any side work during the lecture. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring them to a class.

## 【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp. (海外営業部門) ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies) での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業分析、IoT戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI (Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体) の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

## 【関連科目】

None.

## 【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution, homework and presentation.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる:

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例: 経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続: チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

#### 【その他の重要事項】

1. 23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、4時限目をAdvanced Classとし、既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級～準1級≒ TOEFLiBT 69～70≒ IELTS 6.0≒ CEFR B1～B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

2. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。

3. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にWeb抽選を行う。

4. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

#### 【関連科目】

無し。

#### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる:

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例: 経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続: チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion, * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%— 遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。

3. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60%）に 42 年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

岡本 慶子

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えを繰り返し実践する。

### 【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますが、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面・オンライン 選抜(定員オーバーの場合)	Course overview Self Introduction
第2回	Solving Ethical Controversy	Banning Sugary Drinks 自分の意見を理由をつけて述べる
第3回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets 戦略の違いを見つける。設営する
第5回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2014
第6回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2023
第7回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Discussion
第8回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Walmart Growth Strategy (video recording)
第9回	Video-watching Mid-term	Walmart, Kellogg, 中間小レポート(日本語) 中間小テスト
第10回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Target Consumers in 2016
第11回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第12回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project Strategic Planning for Kellogg
第13回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project (video recording) 期末小レポート(日本語)
第14回	Final exam	wrap up Final exam

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出  
宿題1. 課題の予習、復習、グループワークの準備  
宿題2. 単語帳、質問

宿題3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。(合計2時間)

### 【テキスト(教科書)】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

### 【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.  
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.  
2冊とも図書館蔵書

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%  
グループワークと個人ワーク(プレゼン、宿題含む)及び中間小テスト(または中間レポート) 40%  
期末テスト、小レポート 20%  
評価については初回授業で詳細に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

AI翻訳のレベルが向上しているため活用を許可していますが、頼りすぎる学生がいてグループワークに支障が出るという意見がありました。→今年度については履修生と相談して決定します。  
\*宿題の量が多いという感想がありました→予習復習を含めて毎週2時間を想定しています。予習をしている前提で授業を進めますので、授業ではわからないところを質問してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。  
授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。  
Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。  
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。  
Googleの辞書機能はお勧めしません。

### 【その他の重要事項】

定員がありますので選抜になる場合があります。履修希望者は秋学期開始日までにHoppiに登録して、初回のZOOM授業に参加してください。(ZOOMアドレスはHoppiでお知らせします)  
(重要) 選抜後の欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。  
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

### 【関連科目】

なし

### 【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。  
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。  
この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。が、単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

### 【Grading Criteria/Policy】

Class participation & homework - 40%

Group project & Individual works (including homework/preparation) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

片桐 満

1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

### 【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能(AI)が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説(オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書(Principle 1)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書(Principle 2)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書(Principle 3)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書(Principle 4)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書(Principle 5)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説(中間レポートの提出)	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書(Principle 6)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書(Case study)、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書(Principle 7)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。
第11回	教科書(Principle 8)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書(Principle 9)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書(Principle 10)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書(Chapter 2-1)、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

### 【テキスト(教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics"の1章と2章を用います(図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

### 【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

### 【成績評価の方法と基準】

複数回(3回～4回)記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します(ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。テストは行いません。

### 【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらうほか、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

### 【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金(IMF)において、金融の実務に15年程度かかりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

### 【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

### 【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる:

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレーズの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例: 経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続: チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion, * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に他の時間への割り振りを行なう。

23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、上級者は可能な限り4時限目のAdvanced Classを履修のこと。Advanced Classは既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級≒準1級≒ TOEFLiBT 69～70≒ IELTS 6.0≒ CEFR B1～B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

## 【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT (他を含む)) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

## 【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

## 【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%—遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

#### 【その他の重要事項】

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に他の時間への割り振りを行なう。

23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、上級者は可能な限り4時限目のAdvanced Classを履修のこと。Advanced Classは既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級≒準1級≒ TOEFLiBT 69~70≒ IELTS 6.0≒ CEFR B1~B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

#### 【関連科目】

無し。

#### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN105FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

岡本 慶子

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えを繰り返し実践する。

### 【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行います。が、英語の構文で考えます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面・オンライン 選抜 (定員オーバーの場合)	Course overview Self Introduction
第2回	Solving Ethical Controversy	Banning Sugary Drinks 自分の意見を理由をつけて述べる
第3回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets 戦略の違いを見つける。設営する
第5回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2014
第6回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2023
第7回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Discussion
第8回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Walmart Growth Strategy (video recording)
第9回	Video-watching Mid-term	Walmart, Kellogg, 中間小レポート (日本語) 中間小テスト
第10回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Target Consumers in 2016
第11回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第12回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project Strategic Planning for Kellogg
第13回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project (video recording) 期末小レポート (日本語)
第14回	Final exam	wrap up Final exam

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出  
宿題1. 課題の予習、復習、グループワークの準備  
宿題2. 単語帳、質問

### 宿題3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。(合計2時間)

### 【テキスト (教科書)】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

### 【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.

Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.

2冊とも図書館蔵書

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%

グループワークと個人ワーク (プレゼン、宿題含む) 及び中間小テスト (または中間レポート) 40%

期末テスト、小レポート 20%

評価については初回授業で詳細に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

AI翻訳のレベルが向上しているため活用を許可していますが、頼りすぎる学生がいてグループワークに支障が出るという意見がありました。→今年度については履修生と相談して決定します。

\*宿題の量が多いという感想がありました→予習復習を含めて毎週2時間を想定しています。予習をしている前提で授業を進めますので、授業ではわからないところを質問してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。

授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。

Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

Googleの辞書機能はお勧めしません。

### 【その他の重要事項】

定員がありますので選抜になる場合があります。履修希望者は秋学期開始日までにHoppiに登録して、初回のZOOM授業に参加してください。(ZOOMアドレスはHoppiでお知らせします)

(重要) 選抜後の欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

### 【関連科目】

なし

### 【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。が、単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

### 【Grading Criteria/Policy】

Class participation & homework - 40%

Group project & Individual works (including homework/preparation) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN100FA (経営学/Management 100)

## 入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

片桐 満

1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

### 【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能(AI)が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説 (オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書 (Principle 1)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書 (Principle 2)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書 (Principle 3)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書 (Principle 4)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書 (Principle 5)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説 (中間レポートの提出)	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書 (Principle 6)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書 (Case study)、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書 (Principle 7)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。

第11回	教科書 (Principle 8)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書 (Principle 9)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書 (Principle 10)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書 (Chapter 2-1)、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

### 【テキスト (教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics"の1章と2章を用います (図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

### 【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

### 【成績評価の方法と基準】

複数回 (3回~4回) 記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します (ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。テストは行いません。

### 【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらい、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

### 【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に15年程度かかりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

### 【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

**【Outline (in English)】**

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

吉村 喜予子

選択\_外国語経営学科目 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「外国語経営管理入門」では、ビジネス環境におけるさまざまなトピックを14週間にわたって学びます。

この講義では、テーマに関する講義と英語資料(記事、ニュース、文献)を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。学生は毎週、課題として英語の資料を事前に読むことが必須になります。講義を通じて、学生がビジネスで使用される英語に慣れることで、将来、グローバル環境で、自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎となることを期待します。

### 【到達目標】

この講義では、テーマに関する講義と英語資料(記事、ニュース、文献)を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。

講義の到達目標としては以下のとおり。

- 経営学の各テーマに関連する情報や用語を理解する。
- ビジネスで使われる英語単語に慣れること。
- グローバル環境の中で、言語を超えて参加意識を持つ準備が整うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

対面 (#1セッションを除く)

本講義は、英語を活用する企業を想定して、少しずつビジネスで使われる英語に慣れてもらうことを想定しています。

講義は日本語で行いますが、「入門外国語経営学」の講義として、提示するスライド等の多くは英語で作成されていることは、前提として理解してください。各週(各回)のテーマについて講義と課題として出された英語の資料(記事、ニュース、論文等)を読んだことを前提としたディスカッション(日本語)を行います。

ビジネスアイデアの実現を想定したシミュレーションを予定しています。学生にシミュレーションを体験してもらい、ビジネス上の課題発見や学びを想定しています。

特に、講義のなかでは、ディスカッションで交わされた内容が「正しい」か「間違っている」かは重要ではなく、将来企業で働く際に、「自分で考えて、情報を組織に発信する」という基礎作りを念頭に置いています。したがって、学生はディスカッションスキルの構築に参加することが期待されます。課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コース概要
第2回	Introduction ビジネス環境を理解する。	ビジネス環境を理解する ビジネスの外部環境と内部環境
第3回	Understanding the business environment 企業の倫理と社会的責任	企業倫理 業務における倫理
第4回	Corporate ethics and social responsibility 起業家精神とビジネスオーナーシップ I	社会的責任 起業とは 起業の環境
第5回	Entrepreneurship, and Business Ownership I 起業家精神とビジネスオーナーシップ II	起業を考える(シミュレーション)
第6回	Entrepreneurship, and Business Ownership II 経営管理	マネージャーの役割 組織管理
第7回	Managing the business enterprise 組織管理	組織とは何か 組織における判断要件
第8回	Organizing the business enterprise	

第8回	オペレーションズ・マネジメントと品質管理 Operations management and Quality	オペレーション・マネジメントとは何か? 品質管理の重要性
第9回	組織とモチベーション Motivating and leading employee	組織を作る 従業員の役割
第10回	リーダーシップと意思決定 Leadership and decision making	リーダーシップの重要性 ケース毎のリーダーシップの必要性
第11回	人財資源管理 Human Resource Management	人財とは 人財管理とはなにか
第12回	マーケティングプロセスと消費者行動 Marketing process and Consumer behavior	マーケティングとは 消費者行動とは
第13回	企業におけるITの役割 Information Technology	ITとはなにか ITの役割
第14回	企業のリスク管理 Corporate Risk management	企業リスクとはなにか 対応策とは

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各週(各回)のテーマについて講義と課題として出された英語の資料(記事、ニュース、論文等)を読むこと。(2時間)

各週(各回)のテーマについて授業資料を復習すること。(2時間)

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【テキスト(教科書)】

特に定めない。講義資料はHoppiに掲載する。

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately. Reading should be completed before class.

### 【参考書】

特に定めない。各回、講義にて指示する。

Will notice in the class.

Reading should be completed before class.

### 【成績評価の方法と基準】

各回小テスト(QUIZという)の累計：50%

中間Quiz: 10%

期末レポート: 20%

最終クイズ: 20% (14週の授業中に行います)

Total: 100%

全体のトータルスコアに対して、%形式でグレーディングします。

In-class-Quiz: 50%

Mid-term Quiz: 10%

Final report: 20%

Final Quiz (in-class): 20%

Total: 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

QUIZの際に、「わからなかったこと(もう少し説明してほしいこと)」「講義へのFeedback」を記載してもらい、次週の講義の冒頭に反映させる。

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

### 【学生が準備すべき機器他】

PC等、講義の資料を読み、質問に回答できる機器。

PC or any other digital device(s) for reading the course materials.

### 【その他の重要事項】

教員は、実務経験のある教員である。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

[None]

None

[Outline (in English)]

In "Introductory Foreign Language Business Administration Management," you will learn about various topics in the business environment over 14 weeks.

In this lecture, students will deepen their understanding of global business by reading lectures and English materials (articles, news, literature) regarding the theme.

Students must prepare for each week's assignment by reading English materials in advance. Through the course, the expectation is that students will become accustomed to the English used in business, enabling them to think independently and effectively communicate information within a global context in the future."

MAN100FA (経営学/Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

依田 光広

1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車 (モビリティ=移動) 産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、最近の潮流となっているCASE戦略 (つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric) の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やもの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、平常点、宿題、講義での発表・質問により総合的に行います。

### 【到達目標】

理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。  
読む力：日本語のビジネス文書・図表 (教師作成のテキスト) を読む。宿題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。  
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業時間は100分で、間に休憩を5~10分とります。前半は教師が日本語でのCASE戦略に関する講義 (技術戦略も含む) を実施します。後半はビジネス英文の事例の説明を行い、宿題が与えられた時は (講義前までに「課題」フォルダーに提出)、指名された数名が英語で発表をします。

講義資料や動画はAutomotive News、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞・日経XTEch、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTEch, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明 (Outline and objectives)、グローバル自動車市場 (Global Automotive Market) ← 任意
第2回	Electric (1)	電動車 (BEV等) のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, 日Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.

第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車会社の施設 (Facility of Car Company)
第11回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) のTrend & Background
第12回	Shared & Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared & Service (3)	対象企業：日Toyota
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義(Lecture)、グループ討議 (Group Discussion)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

### 【テキスト (教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

### 【参考書】

木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』(2022) 日経BP社 ← 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』(2018) 日本経済新聞出版社 ← 購入は任意

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (40%)、講義での発表と質疑 (10%) などにより総合的に評価します。期末試験はしません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

Comprehensive evaluation will be made based on contributions in class(50%), homework(40%) and presentation/Q&As(10%), etc.

### 【学生の意見等からの気づき】

最先端のCASE戦略の動向を解説し、フィールドワークも実施します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. You should not talk privately or do any side work during the lecture. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring them to a class.

### 【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp. (海外営業部門) ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies) での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業分析、IoT戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI (Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体) の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

### 【関連科目】

None.

### 【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution, homework and presentation.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

依田 光広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車 (モビリティ=移動) 産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、最近の潮流となっているCASE戦略 (つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric) の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やもの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、平常点、宿題、講義での発表・質問により総合的に行います。

### 【到達目標】

理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。  
読む力：日本語のビジネス文書・図表 (教師作成のテキスト) を読む。宿題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。  
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業時間は100分で、間に休憩を5~10分とります。前半は教師が日本語でのCASE戦略に関する講義 (技術戦略も含む) を実施します。後半はビジネス英文の事例の説明を行い、宿題が与えられた時は (講義前までに「課題」フォルダーに提出)、指名された数名が英語で発表をします。

講義資料や動画はAutomotive News、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞・日経XTech、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明 (Outline and objectives)、グローバル自動車市場 (Global Automotive Market) ← 任意
第2回	Electric (1)	電動車 (BEV等) のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, 日Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.

第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier IV
第10回	Field Work	訪問先：自動車会社の施設 (Facility of Car Company)
第11回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) のTrend & Background
第12回	Shared & Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared & Service (3)	対象企業：日Toyota
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義(Lecture)、グループ討議 (Group Discussion)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳 (要旨) です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

### 【テキスト (教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

### 【参考書】

木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』(2022) 日経BP社 ← 購入は任意

中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』(2018) 日本経済新聞出版社 ← 購入は任意

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (40%)、講義での発表と質疑 (10%) などにより総合的に評価します。期末試験はしません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

Comprehensive evaluation will be made based on contributions in class(50%), homework(40%) and presentation/Q&As(10%), etc.

### 【学生の意見等からの気づき】

最先端のCASE戦略の動向を解説し、フィールドワークも実施します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. You should not talk privately or do any side work during the lecture. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring them to a class.

### 【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp. (海外営業部門) ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies) での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業分析、IoT戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI (Robot Revolution & Industrial IoT Initiative、産官学団体) の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

### 【関連科目】

None.

### 【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution, homework and presentation.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

### 【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

### 【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

### 【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、4時限目を **Advanced Class** とし、既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級～準1級≒ TOEFLiBT 69～70≒ IELTS 6.0≒ CEFRL B1～B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

2. 履修希望者は必ず事前に **Hoppii** に掲載されている **Student Biodata Memo** へ必要事項を記入すること。

3. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に **Web** 抽選を行う。

4. 早い段階で **TOEIC** を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

### 【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT (他を含む)) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

### 【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

### 【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%—遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。

3. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60%）に 42 年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

岡本 慶子

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えを繰り返し実践する。

### 【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人々たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますか、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面・オンライン 選抜(定員オーバーの場合)	Course overview Self Introduction
第2回	Solving Ethical Controversy	Banning Sugary Drinks 自分の意見を理由をつけて述べる
第3回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets 戦略の違いを見つける。設営する
第5回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2014
第6回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2023
第7回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Discussion
第8回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Walmart Growth Strategy (video recording)
第9回	Video-watching Mid-term	Walmart, Kellogg, 中間小レポート(日本語) 中間小テスト
第10回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Target Consumers in 2016
第11回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第12回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project Strategic Planning for Kellogg
第13回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project (video recording) 期末小レポート(日本語)
第14回	Final exam	wrap up Final exam

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出  
宿題1. 課題の予習、復習、グループワークの準備  
宿題2. 単語帳、質問

宿題3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。(合計2時間)

### 【テキスト(教科書)】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

### 【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.

Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.

2冊とも図書館蔵書

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%

グループワークと個人ワーク(プレゼン、宿題含む)及び中間小テスト(または中間レポート) 40%

期末テスト、小レポート 20%

評価については初回授業で詳細に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

AI翻訳のレベルが向上しているため活用を許可していますが、頼りすぎる学生がいてグループワークに支障が出るという意見がありました。→今年度については履修生と相談して決定します。

\*宿題の量が多いという感想がありました→予習復習を含めて毎週2時間を想定しています。予習をしている前提で授業を進めますので、授業ではわからないところを質問してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。

授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。

Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

Googleの辞書機能はお勧めしません。

### 【その他の重要事項】

定員がありますので選抜になる場合があります。履修希望者は秋学期開始日までにHoppiに登録して、初回のZOOM授業に参加してください。(ZOOMアドレスはHoppiでお知らせします)

(重要) 選抜後の欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

### 【関連科目】

なし

### 【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

### 【Grading Criteria/Policy】

Class participation & homework - 40%

Group project & Individual works (including homework/preparation) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

片桐 満

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

## 【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能(AI)が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説(オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書(Principle 1)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書(Principle 2)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書(Principle 3)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書(Principle 4)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書(Principle 5)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説(中間レポートの提出)	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書(Principle 6)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書(Case study)、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書(Principle 7)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。
第11回	教科書(Principle 8)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書(Principle 9)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書(Principle 10)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書(Chapter 2-1)、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

## 【テキスト(教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics" の1章と2章を用います(図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

## 【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

## 【成績評価の方法と基準】

複数回(3回~4回)記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します(ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。テストは行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらうほか、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

## 【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金(IMF)において、金融の実務に15年程度かかりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

## 【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

## 【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

### 【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

### 【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

### 【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%－遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に他の時間への割り振りを行なう。

23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、上級者は可能な限り4時限目のAdvanced Classを履修のこと。Advanced Classは既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級≒準1級≒ TOEFLiBT 69～70≒ IELTS 6.0≒ CEFR B1～B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

秋友 一広

1~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

### 【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、バラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business” (教科書第17章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、Appendixの説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテーターとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は1時間 * コース全体の振り返りと Q & A

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

### 【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

### 【参考書】

Principles of Management, OpenStax, Rice University.  
Entrepreneurship, ibid.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%—遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師まで連絡のこと。

2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと

カメラ・マイク付きPCと高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

**【その他の重要事項】**

1. 履修希望者は必ず事前に Hoppii に掲載されている Student Biodata Memo へ必要事項を記入すること。

2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に他の時間への割り振りを行なう。

23年度春学期は、同じ科目で金曜日1時限、2時限目、4時限目を担当するので、上級者は可能な限り4時限目のAdvanced Classを履修のこと。Advanced Classは既にTOEIC等を受験して650以上の得点を獲得している者、英語圏からの帰国子女、英語圏または英語にて授業を行なう高校または大学留学経験者のクラスとする。

TOEIC 650≒英検2級≒準1級≒ TOEFLiBT 69~70≒ IELTS 6.0≒ CEFR B1~B2

出典 <https://www.nichibeieigo.jp/kotsukotsu/exam/6986/>

3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60%）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

**【関連科目】**

無し。

**【Outline (in English)】**

This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.

Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.

In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.

Grading and Attendance policy:

Regular Coursework (including group work and presentations): 20%

Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.

Mid-term Exam: 40%

Final Exam: 40%

MAN105FA (経営学 / Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

岡本 慶子

1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えを繰り返して実践する。

### 【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人々たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますか、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面・オンライン 選抜 (定員オーバーの場合)	Course overview Self Introduction
第2回	Solving Ethical Controversy	Banning Sugary Drinks 自分の意見を理由をつけて述べる
第3回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets 戦略の違いを見つける。設営する
第5回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2014
第6回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach Walmart's Strategy in 2023
第7回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Discussion
第8回	Group Project 1 Walmart	Walmart Extends Its Global Reach Walmart Growth Strategy (video recording)
第9回	Video-watching Mid-term	Walmart, Kellogg, 中間小レポート (日本語) 中間小テスト
第10回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Target Consumers in 2016
第11回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第12回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project Strategic Planning for Kellogg
第13回	Group Project 2 Kellogg	Kellogg Group Project (video recording) 期末小レポート (日本語)
第14回	Final exam	wrap up Final exam

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出  
宿題1. 課題の予習、復習、グループワークの準備  
宿題2. 単語帳、質問

宿題3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。(合計2時間)

### 【テキスト (教科書)】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

### 【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.

Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.

2冊とも図書館蔵書

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%

グループワークと個人ワーク (プレゼン、宿題含む) 及び中間小テスト (または中間レポート) 40%

期末テスト、小レポート 20%

評価については初回授業で詳細に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

AI翻訳のレベルが向上しているため活用を許可していますが、頼りすぎる学生がいてグループワークに支障が出るという意見がありました。→今年度については履修生と相談して決定します。

\*宿題の量が多いという感想がありました→予習復習を含めて毎週2時間を想定しています。予習をしている前提で授業を進めますので、授業ではわからないところを質問してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。

授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。

Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

Googleの辞書機能はお勧めしません。

### 【その他の重要事項】

定員がありますので選抜になる場合があります。履修希望者は秋学期開始日までにHoppiに登録して、初回のZOOM授業に参加してください。(ZOOMアドレスはHoppiでお知らせします)

(重要) 選抜後の欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

### 【関連科目】

なし

### 【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation & homework - 40%

Group project & Individual works (including homework/preparation) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN105FA (経営学/Management 100)

## 入門外国語経営学 I (2018年度以前入学者)

片桐 満

1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

## 【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能(AI)が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説 (オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書 (Principle 1)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書 (Principle 2)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書 (Principle 3)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書 (Principle 4)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書 (Principle 5)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説 (中間レポートの提出)	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書 (Principle 6)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書 (Case study)、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書 (Principle 7)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。

第11回	教科書 (Principle 8)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書 (Principle 9)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書 (Principle 10)、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書 (Chapter 2-1)、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

## 【テキスト (教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics"の1章と2章を用います (図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

## 【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

## 【成績評価の方法と基準】

複数回 (3回~4回) 記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します (ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。テストは行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらい、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

## 【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に15年程度かかりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

## 【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

**【Outline (in English)】**

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

**検定会計 I (2018年度以前入学者)**

近藤 大輔

選択\_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

**【到達目標】**

検定会計 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

**【授業の進め方と方法】**

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	簿記一巡、財務諸表	貸借対照表・損益計算書
第3回	現金・預金	銀行勘定調整表など
第4回	債権・債務	クレジット売掛金など
第5回	有価証券	有価証券の範囲、分類など
第6回	有形固定資産 I	有形固定資産の購入、売却など
第7回	有形固定資産 II	割賦購入など
第8回	リース取引	リース取引の分類と処理
第9回	無形固定資産と研究開発費、引当金	無形固定資産と研究開発費、引当金
第10回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第11回	外貨換算会計と税金	為替換算など
第12回	課税所得の算定と税効果会計	税効果会計の会計処理など
第13回	株式の発行と剰余金の配当と処分	株式申込証拠金など
第14回	決算手続きと収益認識基準	契約資産と債券など

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級 (商業簿記) - ver17.0』2024年

**【参考書】**

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級 (商業簿記) - ver17.0』2024年

**【成績評価の方法と基準】**

授業内に行われる小テスト (30点) と定期試験 (70点) の合計で最終的な評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。本年度からの担当。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。

**【その他の重要事項】**

この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

**【Outline (in English)】**

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 検定会計Ⅱ (2018年度以前入学者)

近藤 大輔

選択\_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

### 【到達目標】

検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算Ⅰ	原価計算表の作成
第2回	個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入①
第3回	個別原価計算Ⅲ	仕訳と勘定記入②
第4回	部門別個別原価計算Ⅰ	部門費の集計
第5回	部門別個別原価計算Ⅱ	補助部門費の配賦
第6回	部門別個別原価計算Ⅲ	製造部門から製品への配賦
第7回	総合原価計算Ⅰ	月初がない場合
第8回	総合原価計算Ⅱ	月初がある場合・先入先出法
第9回	総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・平均法
第10回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第11回	標準原価計算Ⅰ	直接費の分析
第12回	標準原価計算Ⅱ	間接費の分析
第13回	CVP分析Ⅰ	基本公式
第14回	CVP分析Ⅱ	感度分析

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社、2020年

### 【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級(工業簿記) - ver10.0』2024年  
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義-2級工業簿記2024年度版』中央経済社  
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック-2級工業簿記2024年度版』中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト(30点)と定期試験(70点)の合計で最終的な評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度からの担当。

### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。

### 【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

### 【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## キャリア・マネジメント I (2018年度以前入学者)

小川 憲彦

選択\_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話ししたいと思います。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

## 【到達目標】

①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること  
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,  
(2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

①他人の迷惑になる行為を行わないこと  
②授業に関係のないことをしないこと  
③その他については、教員の指示に従うこと  
・Zoomの場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

①音声は指示がない場合は原則としてオフ  
②動画カメラは原則オン  
(ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくてオフを許可します)

③表示する氏名は漢字  
(仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベット可)  
・適宜リアクションペーパーを課します。  
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動(1)	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動(2)	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動(3)	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介(1)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました(業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第8回	企業の採用活動事例の紹介(2)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました(業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第9回	職場適応の理論(1)	入社した後の会社への適応について(概要)
第10回	職場適応の理論(2)	入社した後の会社への適応について(人間関係)

第11回	キャリア発達の理論(1)	長期にわたるキャリアの見直しについて
第12回	キャリア発達の理論(2)	長期にわたるキャリアの見直しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題(レポート等)を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

## 【参考書】

大久保幸夫(2006)『キャリアデザイン入門(1)基礎力編』・『キャリアデザイン入門(2)専門力編』日経文庫。  
エドガー・H・シャイン(著)・金井壽宏(訳)(2003)『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

## 【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート(50%)、平常点(50%：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む)

## 【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントIIのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

## 【その他の重要事項】

Iは理論編、IIは事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。IIは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2、3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはIIのシラバスを見てください(23年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。)

## 【Outline (in English)】

## Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

## Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

(1) understand the basic terms and concepts of career development theories,  
(2) begin preparations for job-hunting according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development/management.

## Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

## Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA (経営学/Management 200)

## キャリア・マネジメントⅡ (2018年度以前入学者)

小川 憲彦

選択\_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

### 【到達目標】

- ①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
- ②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGS and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメントⅠの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト (キャリアセンター職員)	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト (菓子メーカー)	40代人事部長 (1社内でのタテ型のキャリア)
第6回	ゲスト (リクルート)	リクルート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト (鉄道会社)	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト (サービス・販売)	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト (三菱電機)	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト (アクセンチュア)	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト (中国でのキャリア)	外国籍の女性による中国でのキャリア (日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員)
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア (転職等の効果について)
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポートや課題図書) を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

### 【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

### 【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。

エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー — 自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

### 【成績評価の方法と基準】

・期末試験か期末レポート (50%)、平常点 (50% : リアクションペーパーや小レポート等含む)

・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。

・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありません。

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

### 【その他の重要事項】

①各回の内容は前年度のもので、ゲストは毎年変更しています。

②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

③初回講義で具体的な注意など指示し、その場で1度は注意をしますがそれ以降は②のような対応をします。なお、スマホ (携帯電話) で写真や動画を撮ったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

### Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGS and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

### Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA (経営学 / Management 200)

演習1

小川 憲彦

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論(マイクロ組織論あるいは組織心理学)のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more proactively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方(量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方(質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト(教科書)】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割(社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等)とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト(7割)を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります(その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指します。4年生に自律性を期待しすぎているようなので、もう少し管理を行う必要があると感じています。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください(北海道、九州、関西など年度により異なります)。当然自費です。

【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

②私が担当するキャリア・マネジメントI/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。

③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。

④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of the class**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習2

小川 憲彦

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論 (マイクロ組織論あるいは組織心理学) のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う (= 演習の) 場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。(したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。)

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

## 【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらいます。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定

第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方 (量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方 (質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

## 【テキスト (教科書)】

必要に応じて指示します。

## 【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

## 【成績評価の方法と基準】

- ・初年度は、平常点5割 (社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等) とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
- ・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
- ・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります (その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

## 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
- ・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと (当然自費です)。

## 【その他の重要事項】

- ①2年間の登録を基本単位と考えてください。
- ②私が担当するキャリア・マネジメントI/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of classroom**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

小川 憲彦

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論(マイクロ組織論あるいは組織心理学)のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

### 【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってみたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more proactively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方(量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方(質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて指示します。

### 【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

### 【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割(社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等)とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト(7割)を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります(その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%). The details of grading will be given in class.

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指します。4年生に自律性を期待しすぎているようなので、もう少し管理を行う必要があると感じています。

### 【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください(北海道、九州、関西など年度により異なります)。当然自費です。

### 【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

②私が担当するキャリア・マネジメントI/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。

③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。

④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of the class**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

小川 憲彦

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論(マイクロ組織論あるいは組織心理学)のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う(=演習の)場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。(したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。)

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

## 【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらいます。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定

第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方(量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方(質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

## 【テキスト(教科書)】

必要に応じて指示します。

## 【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

## 【成績評価の方法と基準】

- ・初年度は、平常点5割(社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等)とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
- ・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
- ・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります(その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

## 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
- ・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと(当然自費です)。

## 【その他の重要事項】

- ①2年間の登録を基本単位と考えてください。
- ②私が担当するキャリア・マネジメントI/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of classroom**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

小川 憲彦

演習選択\_演習 4年次 / 3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論 (マイクロ組織論あるいは組織心理学) のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

### 【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more proactively and independently.

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/ seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方 (量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方 (質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備をする必要があります。

・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて指示します。

### 【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

### 【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点5割 (社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等) とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト (7割) を占めます。

・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります (その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指します。4年生に自律性を期待しすぎているようなので、もう少し管理を行う必要があると感じています。

### 【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング

・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください (北海道、九州、関西など年度により異なります)。当然自費です。

### 【その他の重要事項】

①2年間の登録を基本単位と考えてください。

②私が担当するキャリア・マネジメント I/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。

③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。

④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursuing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,

(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of the class**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習6

小川 憲彦

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織行動論(ミクロ組織論あるいは組織心理学)のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う(=演習の)場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。(したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。)

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

## 【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらいます。

4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション(シラバスの配布、各種委員の紹介など)	グループ等の決定

第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方(量的実証研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方(質的経験的研究)	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

## 【テキスト(教科書)】

必要に応じて指示します。

## 【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

## 【成績評価の方法と基準】

- ・初年度は、平常点5割(社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等)とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
- ・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
- ・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります(その他参照)。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

## 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
- ・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと(当然自費です)。

## 【その他の重要事項】

- ①2年間の登録を基本単位と考えてください。
- ②私が担当するキャリア・マネジメントI/IIの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
- ③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

#### **[Outline (in English)]**

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

#### **Learning objectives**

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

#### **Learning activities outside of classroom**

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

#### **Grading criteria/policy**

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 演習1

奥西 好夫

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

## 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ(ケース素材)について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成(原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更)と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論(またはレポート)を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論(1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 1 ・同Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論(2)	・同Case 8 ・同Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論(3)	・同Case 12 ・同Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論(4)	・同Case 14 ・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論(5)	・同Case 25 ・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論(6)	・同Case 27 ・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論(7)	・同Case 35 ・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論(8)	・同Case 37 ・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論(9)	・同Case 39 ・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論(10)	・同Case 52 ・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論(11)	・同Case 54 ・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論(12)	・同Case 60 ・同Case 65

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする(ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上)。

## 【テキスト(教科書)】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

## 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門(第3版)』(日本経済新聞出版、2020)がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』(日本経済新聞社、2008)とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010)を薦める。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤続性」(無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む)と「積極性」(ゼミでの発言、合宿の企画など)を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」(自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる)は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する(ウェイトは100%)。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論(レポート)の内容、質も重視する(平常点が70%、卒論が30%)。ゼミ卒論(レポート)が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC(ないしタブレット)を使う場合があることからその準備が必要。

## 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力(「健全な懐疑精神」)も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「内容」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

- ・(報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で)関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

## 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 演習2

奥西 好夫

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

## 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011)の Case 66 ・同 Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 76 ・同 Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 78 ・同 Case 85
第5回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 88 ・同 Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 90 ・同 Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 99 ・同 Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 104 ・同 Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ1)
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ2)
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

## 【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

## 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

## 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

## 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA (経営学/Management 300)

## 演習3

奥西 好夫

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

## 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論(1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 1 ・同Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論(2)	・同Case 8
第5回	英文ケースの報告と議論(3)	・同Case 11 ・同Case 12
第6回	英文ケースの報告と議論(4)	・同Case 13 ・同Case 14 ・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論(5)	・同Case 25 ・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論(6)	・同Case 27 ・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論(7)	・同Case 35 ・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論(8)	・同Case 37 ・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論(9)	・同Case 39 ・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論(10)	・同Case 52 ・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論(11)	・同Case 54 ・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論(12)	・同Case 60 ・同Case 65

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

## 【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

## 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第3版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

## 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

## 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA (経営学/Management 300)

## 演習4

奥西 好夫

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

### 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論(1)	・Nkomo et al.(2011)の Case 66 ・同 Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論(2)	・同 Case 76 ・同 Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論(3)	・同 Case 78 ・同 Case 85
第5回	入ゼミ関係(1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係(2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論(4)	・同 Case 88 ・同 Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論(5)	・同 Case 90 ・同 Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論(6)	・同 Case 99 ・同 Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論(7)	・同 Case 104 ・同 Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論(8)	・同 Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告(1)	・研究経過報告(グループ1)
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告(2)	・研究経過報告(グループ2)
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

### 【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

### 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

### 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

### 【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

### 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA (経営学/Management 400)

## 演習5

奥西 好夫

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

## 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論(1)	・Nkomo et al.(2011)のCase 1 ・同Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論(2)	・同Case 8 ・同Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論(3)	・同Case 12 ・同Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論(4)	・同Case 14 ・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論(5)	・同Case 25 ・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論(6)	・同Case 27 ・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論(7)	・同Case 35 ・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論(8)	・同Case 37 ・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論(9)	・同Case 39 ・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論(10)	・同Case 52 ・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論(11)	・同Case 54 ・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論(12)	・同Case 60 ・同Case 65

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

## 【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

## 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第3版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤続性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

## 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「内容」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

## 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA (経営学/Management 400)

## 演習6

奥西 好夫

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

## 【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
  - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
  - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011)の Case 66 ・同 Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 76 ・同 Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 78 ・同 Case 85
第5回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 88 ・同 Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 90 ・同 Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 99 ・同 Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 104 ・同 Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ1)
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ2)
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

## 【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

## 【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

## 【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

## 【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

## 【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習1

岸本 直樹

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第2に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員がLINEでゼミ生に連絡します。そして、各回で議論する章を担当するゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメをLINE等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析に有用な輪読	ゼミ生のうち第1回の授業で議論する章を担当する学生1名が担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第7回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を10と読み替え)
第11回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を14と読み替え)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

## 【参考書】

授業中に適宜指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

【岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生は、次年度のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度でのゼミ継続を自動的に認めていません。

【岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法】

これらの学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

【岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWord等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

## 【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基本知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

【Evaluation of junior students】

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習2

岸本 直樹

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることがを学習します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第2に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学生による企業分析 (1)	ゼミ生のうち第1回の授業で発表することが割り当てられた学生1名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	学生による企業分析 (2)	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	学生による企業分析 (3)	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	学生による企業分析 (4)	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	学生による企業分析 (5)	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	学生による企業分析 (6)	第1回と同様(1を6と読み替え)
第7回	学生による企業分析 (7)	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	学生による企業分析 (8)	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	学生による企業分析 (9)	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	学生による企業分析 (10)	第1回と同様(10を10と読み替え)
第11回	学生による企業分析 (11)	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	学生による企業分析 (12)	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	学生による企業分析 (13)	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	学生による企業分析 (14)	第1回と同様(1を14と読み替え)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当企業の分析、レジュメの作成、他のゼミ生が作成したレジュメのコメント作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特にありません。

## 【参考書】

授業中に適宜指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

〔岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法〕

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生については、2年目のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法〕

これら学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

〔岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項〕

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWORD等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

## 【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

岸本 直樹

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第2に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員がLINEでゼミ生に連絡します。そして、各回で議論する章を担当するゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメをLINE等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析に有用な輪読	ゼミ生のうち第1回の授業で議論する章を担当する学生1名が担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第7回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を10と読み替え)
第11回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を14と読み替え)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生は、次年度のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度でのゼミ継続を自動的に認めていません。

【岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法】

これらの学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

【岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWord等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基本知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

【Evaluation of junior students】

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

岸本 直樹

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることがを習得します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第2に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学生による企業分析 (1)	ゼミ生のうち第1回の授業で発表することが割り当てられた学生1名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	学生による企業分析 (2)	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	学生による企業分析 (3)	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	学生による企業分析 (4)	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	学生による企業分析 (5)	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	学生による企業分析 (6)	第1回と同様(1を6と読み替え)
第7回	学生による企業分析 (7)	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	学生による企業分析 (8)	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	学生による企業分析 (9)	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	学生による企業分析 (10)	第1回と同様(10を10と読み替え)
第11回	学生による企業分析 (11)	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	学生による企業分析 (12)	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	学生による企業分析 (13)	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	学生による企業分析 (14)	第1回と同様(1を14と読み替え)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当企業の分析、レジュメの作成、他のゼミ生が作成したレジュメのコメント作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特にありません。

## 【参考書】

授業中に適宜指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

〔岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法〕

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生については、2年目のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法〕

これら学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

〔岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項〕

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWORD等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

## 【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

岸本 直樹

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第2に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員がLINEでゼミ生に連絡します。そして、各回で議論する章を担当するゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメをLINE等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析に有用な輪読	ゼミ生のうち第1回の授業で議論する章を担当する学生1名が担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を5と読み替え)
第7回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を10と読み替え)
第11回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	企業分析に有用な輪読	第1回と同様(1を14と読み替え)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生は、次年度のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度でのゼミ継続を自動的に認めていません。

【岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法】

これらの学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

【岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWord等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基本知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

【Evaluation of junior students】

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習6

岸本 直樹

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることがを習得します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

## 【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の3点です。まず第1に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第2に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第3に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学生による企業分析 (1)	ゼミ生のうち第1回の授業で発表することが割り当てられた学生1名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第2回	学生による企業分析 (2)	第1回と同様(1を2と読み替え)
第3回	学生による企業分析 (3)	第1回と同様(1を3と読み替え)
第4回	学生による企業分析 (4)	第1回と同様(1を4と読み替え)
第5回	学生による企業分析 (5)	第1回と同様(1を5と読み替え)
第6回	学生による企業分析 (6)	第1回と同様(1を6と読み替え)
第7回	学生による企業分析 (7)	第1回と同様(1を7と読み替え)
第8回	学生による企業分析 (8)	第1回と同様(1を8と読み替え)
第9回	学生による企業分析 (9)	第1回と同様(1を9と読み替え)
第10回	学生による企業分析 (10)	第1回と同様(10を10と読み替え)
第11回	学生による企業分析 (11)	第1回と同様(1を11と読み替え)
第12回	学生による企業分析 (12)	第1回と同様(1を12と読み替え)
第13回	学生による企業分析 (13)	第1回と同様(1を13と読み替え)
第14回	学生による企業分析 (14)	第1回と同様(1を14と読み替え)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当企業の分析、レジュメの作成、他のゼミ生が作成したレジュメのコメント作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき4時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特にありません。

## 【参考書】

授業中に適宜指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

〔岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価方法〕

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおそくりやした学生にS評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A+以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生については、2年目のゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、次年度のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔岸本ゼミへの参加が2年目の学生に対する評価方法〕

これら学生に対する評価は、岸本ゼミへの参加が1年目の学生に対する評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、2年目の学生に対しては、1年目の学生より高いパフォーマンスを要求します。

〔岸本ゼミに参加する学生全員に対する注意事項〕

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、次年度でのゼミ参加を遠慮してもらったことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告することもあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表にPowerPointやWORD等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

## 【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門I/II、会計学入門I/II、財務会計論I/II、経営分析論I/II、企業評価論I/IIがあります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門I/II、コーポレートファイナンス入門I/IIがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習1

西川 英彦

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

## 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要
	販促コンペ①、カンファレンス発表①、プロジェクト開始	カンファレンス研究のリサーチプロポーザル報告 販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

## 【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学会、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル・バルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート・V・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学会、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学会、2019年。

## 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

## 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

## 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

## 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

## 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 演習2

西川 英彦

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

### 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJIプロジェクト」の実施。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJIプロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJIプロジェクト②	MUJIプロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJIプロジェクト③	MUJIプロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJIプロジェクト④	MUJIプロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJIプロジェクト⑤	MUJIプロジェクトの最終報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

### 【参考書】

- ①トムケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファームIDEOに学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセルバルク・アイリーン・フィッシャー・ロバートVコジネツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

### 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論I/II、消費者行動論I/II、流通論I/II、サービス・マネジメント論I/II、製品開発論I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

### 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

### 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ①To be able to explain the basic theories of marketing.
- ②To be able to apply practical marketing research methods.
- ③To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

西川 英彦

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

## 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要
	販促コンペ①、カンファレンス発表①、プロジェクト開始	カンファレンス研究のリサーチレポート、ポスター報告
		販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

## 【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学会、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル・バルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート・V・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学会、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学会、2019年。

## 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

## 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

## 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

## 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

## 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

西川 英彦

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

### 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJIプロジェクト」の実施。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJIプロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJIプロジェクト②	MUJIプロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJIプロジェクト③	MUJIプロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJIプロジェクト④	MUJIプロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJIプロジェクト⑤	MUJIプロジェクトの最終報告

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

指定する場合は、連絡する。

### 【参考書】

- ①トムケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファームIDEOに学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動(第2版)』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセルバルク・アイリーン・フィッシャー・ロバートVコジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

### 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論I/II、消費者行動論I/II、流通論I/II、サービス・マネジメント論I/II、製品開発論I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

### 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

### 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

西川 英彦

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

## 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

演習1では、主には3つのプロジェクトを実施する。

- ①2-3年生による、宣伝会議主催の「販促コンペ」に応募。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要
	販促コンペ①、カンファレンス発表①、プロジェクト開始	カンファレンス研究のリサーチプロポーザル報告 販促コンペのチーム分け
第2回	販促コンペ②	販促コンペの中間報告
第3回	カンファレンス②	カンファレンス研究の第1回中間報告
第4回	販促コンペ③	販促コンペの最終報告
第5回	カンファレンス③	カンファレンス研究の第2回中間報告
第6回	Sカレ①	Sカレの第1回中間報告
第7回	カンファレンス④	カンファレンス研究の第3回中間報告
第8回	Sカレ②	Sカレの第2回中間報告
第9回	カンファレンス⑤	カンファレンス研究の第4回中間報告
第10回	Sカレ③	Sカレの第3回中間報告
第11回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第12回	Sカレ	Sカレの中間報告
第13回	カンファレンス	カンファレンス研究の中間報告
第14回	Sカレ	Sカレの中間報告

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

## 【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学会、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセル・バルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート・V・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学会、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学会、2019年。

## 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

## 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

## 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

## 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

## 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA (経営学/Management 400)

## 演習6

西川 英彦

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

### 【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

演習2では、主には4つのプロジェクトを実施する。

- ①2年生による、無印良品に企画提案する「MUJIプロジェクト」の実施。
- ②3年生による、Sカレでの企画提案。「Sカレ」(Student Innovation College)は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次のURLを参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ③4年生と2年生による、日本マーケティング学会の「カンファレンス」に向けての研究。
- ④4年生によるカンファレンス研究をもとにした「卒業論文」の執筆。

なお、全てのプロジェクトにおいて、学年に関係なく、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生を期待する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	カンファレンス⑥	カンファレンス研究の最終報告
第2回	Sカレ④	Sカレの第4回中間報告
第3回	MUJIプロジェクト①	キックオフ
第4回	Sカレ⑤	Sカレの第5回中間報告
第5回	卒業論文①	卒業論文の第1回中間報告
第6回	MUJIプロジェクト②	MUJIプロジェクトの第1回中間報告
第7回	Sカレ⑥	Sカレの第6回中間報告
第8回	卒業論文②	卒業論文の第2回中間報告
第9回	MUJIプロジェクト③	MUJIプロジェクトの第2回中間報告
第10回	Sカレ⑦	Sカレの第7回最終報告
第11回	卒業論文③	卒業論文の第3回中間報告
第12回	MUJIプロジェクト④	MUJIプロジェクトの第3回中間報告
第13回	卒業論文④	卒業論文の第4回中間報告
第14回	MUJIプロジェクト⑤	MUJIプロジェクトの最終報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定する場合は、連絡する。

### 【参考書】

- ①トムケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファームIDEOに学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002年。
- ②松井剛・西川英彦『1からの消費者行動（第2版）』碩学舎、2020年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ④ラッセルバルク・アイリーン フィッシャー・ロバートV コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015年。
- ⑥西川英彦・澁谷寛編著『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019年。

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告50%  
演習活動への貢献50%

### 【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

### 【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論I/II、消費者行動論I/II、流通論I/II、サービス・マネジメント論I/II、製品開発論I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

### 【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

### 【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習1

平田 英明

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ(把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

## 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面/オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章+補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定+準備作業

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- 伊藤萬里・田中祐夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
- 江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』(ソシム)

- 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』(中央経済社)

## 【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
- 蓑谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告(75%)、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(カメラ、マイク等のインフラも含む)

## 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とあると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習2

平田 英明

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ(把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

### 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面/オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

1. 未定(春学期からの輪読状況を踏まえて決める)

### 【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)

2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)

3. 糞谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告(75%)、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(カメラ、マイク等のインフラも含む)

### 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

平田 英明

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ(把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

## 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってまいります。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面/オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章+補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定+準備作業

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- 伊藤萬里・田中祐夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
- 江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』(ソシム)

- 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』(中央経済社)

## 【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
- 蓑谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告(75%)、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(カメラ、マイク等のインフラも含む)

## 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とあると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

平田 英明

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ(把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

### 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面/オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

1. 未定(春学期からの輪読状況を踏まえて決める)

### 【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)

2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)

3. 糞谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告(75%)、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(カメラ、マイク等のインフラも含む)

### 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

平田 英明

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ(把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

## 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面/オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章+補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
第4回	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
第5回	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
第6回	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
第7回	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
第8回	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定+準備作業

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- 伊藤萬里・田中祐夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
- 江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』(ソシム)

- 山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』(中央経済社)

## 【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
- 蓑谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告(75%)、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(カメラ、マイク等のインフラも含む)

## 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とあると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習6

平田 英明

演習選択\_演習 4年次 / 3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的 / 非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ (把握する)」能力を身につけることです。

経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

### 【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。

そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

3 - 4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面 / オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文1	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト2	
第6回	コンピュータ演習1	コンピュータ演習
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト2	
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト2	
第9回	インゼミ1	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ2	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ3	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習2	コンピュータ演習
第13回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト2	
第14回	テキスト1	7章の輪読
	テキスト2	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

1. 未定 (春学期からの輪読状況を踏まえて決める)

### 【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)

2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)

3. 糺谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告 (75%)、日頃の学習態度 (25%) で評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン (カメラ、マイク等のインフラも含む)

### 【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2 - 3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習1

洞口 治夫

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てています。

## 【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもて毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽(楽器演奏)などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は上智大学とのインターゼミナールでの発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	3年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	3年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。4年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。4年生の研究中間報告。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。3年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いいずな書店、初版、第7刷。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメントゼミナール編』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文眞堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度(欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問)(28%)

慶応とのインターゼミへの参加(12%)

合宿やフィールドワークなどの企画と参加(12%)

ゼミ活動への積極的参加(ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画)(8%)

期末試験(40%)(2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

**[Learning Objectives]**

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

**[Grading Criteria/Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 演習2

洞口 治夫

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

## 【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、上智大学などとのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	上智大学インターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	上智大学インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。上智大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントーゼミナール編ー』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど)(28%)  
他大学とのインターゼミへの参加(12%)  
合宿などへの参加(12%)  
ゼミ活動への貢献的参加(8%)  
期末試験(40%) (進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次))

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞ロゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

## 【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

**[Learning activities outside of classroom]**

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

**[Grading Criteria /Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Sophia University (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

洞口 治夫

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てています。

## 【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもて毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽(楽器演奏)などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は上智大学とのインターゼミナールでの発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	3年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	3年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。4年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。4年生の研究中間報告。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。3年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いづな書店、初版、第7刷。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメントゼミナール編-』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度(欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問)(28%)

慶応とのインターゼミへの参加(12%)

合宿やフィールドワークなどの企画と参加(12%)

ゼミ活動への積極的参加(ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画)(8%)

期末試験(40%)(2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

**[Learning Objectives]**

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

**[Grading Criteria/Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN300FA (経営学/Management 300)

## 演習4

洞口 治夫

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

## 【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、上智大学などとのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	上智大学インターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	上智大学インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。上智大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編-』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文眞堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど)(28%)  
他大学とのインターゼミへの参加(12%)  
合宿などへの参加(12%)  
ゼミ活動への貢献的参加(8%)  
期末試験(40%) (進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次))

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。Eメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

## 【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

**[Learning activities outside of classroom]**

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

**[Grading Criteria /Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Sophia University (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

洞口 治夫

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てています。

## 【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもて毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽(楽器演奏)などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は上智大学とのインターゼミナールでの発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。OB・OG会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	3年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	3年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。4年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。4年生の研究中間報告。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。3年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いづな書店、初版、第7刷。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメントゼミナール編』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参加態度(欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問)(28%)

慶応とのインターゼミへの参加(12%)

合宿やフィールドワークなどの企画と参加(12%)

ゼミ活動への積極的参加(ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画)(8%)

期末試験(40%)(2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のOB・OGも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

**[Learning Objectives]**

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

**[Grading Criteria/Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN400FA (経営学/Management 400)

## 演習6

洞口 治夫

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

## 【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、上智大学などとのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	上智大学インターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。OB会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	上智大学インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。上智大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2024年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

## 【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第7版。  
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編-』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。＞
- ③洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメント-集合知創造の現場としての社会人大学院-』文眞堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど)(28%)  
他大学とのインターゼミへの参加(12%)  
合宿などへの参加(12%)  
ゼミ活動への貢献的参加(8%)  
期末試験(40%) (進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次))

## 【学生の意見等からの気づき】

「洞ロゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。Eメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

## 【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
- ③SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

## 【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

**[Learning activities outside of classroom]**

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

**[Grading Criteria /Policy]**

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Sophia University (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN200FA (経営学/Management 200)

## 演習1

山崎 輝

演習選択\_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft社のExcelを使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

## 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明(プレゼンテーション、レポート作成)ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC(Excel)を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第2回	テキストの輪読(債券投資分析)	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読(債券投資分析)	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読(債券投資分析)	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読(債券投資分析)	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読(債券投資分析)	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読(債券投資分析)	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第8回	テキストの輪読(債券投資分析)	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券(MBS)
第9回	テキストの輪読(債券投資分析)	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読(株式投資分析)	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読(株式投資分析)	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

## 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

## 【成績評価の方法と基準】

発表(50%)、問題演習・宿題(30%)、平常点(20%)に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加算されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分に与えられるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しみましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

## 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習2

山崎 輝

演習選択\_演習 2年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年1~2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三菱UFJ信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター (R&I)、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

### 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明 (プレゼンテーション、レポート作成) ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読 (株式投資分析)	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読 (株式投資分析)	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読 (株式投資分析)	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法 (DCF)、企業価値の残余利益モデル (EVA)
第4回	テキストの輪読 (株式投資分析)	資本コスト
第5回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株式評価尺度、株式収益率 (PER)、配当利回り
第6回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株価純資産倍率 (PBR) EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率 (PCFR)、株価売上高倍率 (PSR)、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読 (株式投資分析)	インデックス運用
第8回	テキストの輪読 (株式投資分析)	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読 (国際証券投資)	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009年、日本経済新聞出版社

### 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

### 【成績評価の方法と基準】

発表 (50%)、問題演習・宿題 (30%)、平常点 (20%) に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

### 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA (経営学/Management 300)

## 演習3

山崎 輝

演習選択\_演習 3年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft社のExcelを使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

## 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明(プレゼンテーション、レポート作成)ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC(Excel)を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第2回	テキストの輪読(債券投資分析)	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読(債券投資分析)	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読(債券投資分析)	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読(債券投資分析)	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読(債券投資分析)	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読(債券投資分析)	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第8回	テキストの輪読(債券投資分析)	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券(MBS)
第9回	テキストの輪読(債券投資分析)	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、バッシュ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読(株式投資分析)	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読(株式投資分析)	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009年、日本経済新聞出版社

## 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

## 【成績評価の方法と基準】

発表(50%)、問題演習・宿題(30%)、平常点(20%)に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しみましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

## 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

山崎 輝

演習選択\_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年1~2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三菱UFJ信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター (R&I)、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

### 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明 (プレゼンテーション、レポート作成) ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読 (株式投資分析)	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読 (株式投資分析)	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読 (株式投資分析)	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法 (DCF)、企業価値の残余利益モデル (EVA)
第4回	テキストの輪読 (株式投資分析)	資本コスト
第5回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株式評価尺度、株式収益率 (PER)、配当利回り
第6回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株価純資産倍率 (PBR) EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率 (PCFR)、株価売上高倍率 (PSR)、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読 (株式投資分析)	インデックス運用
第8回	テキストの輪読 (株式投資分析)	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読 (国際証券投資)	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009年、日本経済新聞出版社

### 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

### 【成績評価の方法と基準】

発表 (50%)、問題演習・宿題 (30%)、平常点 (20%) に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加算されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

### 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA (経営学/Management 400)

## 演習5

山崎 輝

演習選択\_演習 4年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft社のExcelを使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

## 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明(プレゼンテーション、レポート作成)ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験(シミュレーション)ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC(Excel)を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第2回	テキストの輪読(債券投資分析)	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読(債券投資分析)	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読(債券投資分析)	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読(債券投資分析)	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読(債券投資分析)	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読(債券投資分析)	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第8回	テキストの輪読(債券投資分析)	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券(MBS)
第9回	テキストの輪読(債券投資分析)	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、バッシュ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読(株式投資分析)	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読(株式投資分析)	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場(株式・外国為替・金利)の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

## 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

## 【成績評価の方法と基準】

発表(50%)、問題演習・宿題(30%)、平常点(20%)に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しみましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

## 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

## 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習6

山崎 輝

演習選択\_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学・経営学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年1~2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三菱UFJ信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター (R&I)、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

### 【到達目標】

以下の3つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明 (プレゼンテーション、レポート作成) ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読 (株式投資分析)	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読 (株式投資分析)	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読 (株式投資分析)	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法 (DCF)、企業価値の残余利益モデル (EVA)
第4回	テキストの輪読 (株式投資分析)	資本コスト
第5回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株式評価尺度、株式収益率 (PER)、配当利回り
第6回	テキストの輪読 (株式投資分析)	株価純資産倍率 (PBR) EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率 (PCFR)、株価売上高倍率 (PSR)、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読 (株式投資分析)	インデックス運用
第8回	テキストの輪読 (株式投資分析)	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読 (国際証券投資)	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読 (国際証券投資)	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の金融・証券市場 (株式・外国為替・金利) の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009年、日本経済新聞出版社

### 【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第9版』、2016年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

### 【成績評価の方法と基準】

発表 (50%)、問題演習・宿題 (30%)、平常点 (20%) に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題ではExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成して下さい。

### 【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

### 【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習1

吉田 康伸

演習選択\_演習 2年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

## 【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事(栄養)、休息(睡眠)、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像(3年生)および健康の維持(4年生)に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義(健康指標の測定等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義(流行の健康法等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表(健康、飲酒の害等)・ディスカッション	4年生の健康(飲酒の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表(健康、喫煙の害等)・ディスカッション	4年生の健康(喫煙の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表(健康、肥満の成因等)・ディスカッション	4年生の健康(肥満の成因等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表(健康、睡眠等)・ディスカッション	4年生の健康(睡眠等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表(スポーツ団体、野球等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(野球等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表(スポーツ団体、バドミントン等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バドミントン等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表(スポーツ団体、アメフト等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(アメフト等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第12回	発表(スポーツ団体、サッカー等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(サッカー等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表(スポーツ団体、バレーボール等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バレーボール等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べることで、きょうな体制づくりに努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

## 【関連科目】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

## 【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

## 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN200FA (経営学 / Management 200)

## 演習2

吉田 康伸

演習選択\_演習 2年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トップアスリート及びスポーツリーダー (監督等) に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

### 【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像 (3年生) および健康の維持 (4年生) に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義 (団体競技)	教員によるスポーツリーダー (団体競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義 (個人競技)	教員によるスポーツリーダー (個人競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表 (トップアスリート、野球選手等)・ディスカッション	4年生のトップアスリート (野球選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表 (トップアスリート、バドミントン選手等)・ディスカッション	4年生のトップアスリート (バドミントン選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表 (トップアスリート、サッカー選手等)・ディスカッション	4年生のトップアスリート (サッカー選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表 (トップアスリート、アメフト選手等)・ディスカッション	4年生のトップアスリート (アメフト選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表 (スポーツリーダー、団体競技の監督等)・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表 (スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等)・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表 (スポーツリーダー、個人競技の監督等)・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表 (スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等)・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表 (スポーツリーダー、武道競技の監督等)・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (武道競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

### 【関連科目】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

#### 【Learning Objectives】

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習3

吉田 康伸

演習選択\_演習 3年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

### 【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事(栄養)、休息(睡眠)、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像(3年生)および健康の維持(4年生)に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義(健康指標の測定等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義(流行の健康法等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表(健康、飲酒の害等)・ディスカッション	4年生の健康(飲酒の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表(健康、喫煙の害等)・ディスカッション	4年生の健康(喫煙の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表(健康、肥満の成因等)・ディスカッション	4年生の健康(肥満の成因等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表(健康、睡眠等)・ディスカッション	4年生の健康(睡眠等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表(スポーツ団体、野球等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(野球等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表(スポーツ団体、バドミントン等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バドミントン等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表(スポーツ団体、アメフト等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(アメフト等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第12回	発表(スポーツ団体、サッカー等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(サッカー等の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表(スポーツ団体、バレーボール等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バレーボール等の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べることで、できるような体制づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

### 【関連科目】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

#### 【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN300FA (経営学 / Management 300)

## 演習4

吉田 康伸

演習選択\_演習 3年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トップアスリート及びスポーツリーダー (監督等) に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

### 【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像 (3年生) および健康の維持 (4年生) に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義 (団体競技)	教員によるスポーツリーダー (団体競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義 (個人競技)	教員によるスポーツリーダー (個人競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表 (トップアスリート、野球選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (野球選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表 (トップアスリート、バドミントン選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (バドミントン選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表 (トップアスリート、サッカー選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (サッカー選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表 (トップアスリート、アメフト選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (アメフト選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表 (スポーツリーダー、団体競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表 (スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表 (スポーツリーダー、個人競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表 (スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表 (スポーツリーダー、武道競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (武道競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

### 【関連科目】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

#### 【Learning Objectives】

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習5

吉田 康伸

演習選択\_演習 4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

健康のマネジメントについて、日常生活改善に役立てられるよう、各自の発表内容を理解する。またスポーツ全般について、各種目のルールやスポーツ団体の特徴等を学ぶ。

### 【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事(栄養)、休息(睡眠)、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像(3年生)および健康の維持(4年生)に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義(健康指標の測定等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康指標の測定等の講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義(流行の健康法等)	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による流行の健康法等の講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第5回	発表(健康、飲酒の害等)・ディスカッション	4年生の健康(飲酒の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表(健康、喫煙の害等)・ディスカッション	4年生の健康(喫煙の害等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表(健康、肥満の成因等)・ディスカッション	4年生の健康(肥満の成因等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表(健康、睡眠等)・ディスカッション	4年生の健康(睡眠等)に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表(スポーツ団体、野球等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(野球等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表(スポーツ団体、バドミントン等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バドミントン等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表(スポーツ団体、アメフト等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(アメフト等)の個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第12回	発表(スポーツ団体、サッカー等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(サッカー等の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表(スポーツ団体、バレーボール等)・ディスカッション	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体(バレーボール等の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べることで、きょうな体制づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

### 【関連科目】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will understand the content of their presentations regarding health management so that they can be used to improve their daily lives. And students will also learn about in general, including the rules of each sport and the characteristics of sports organizations.

#### 【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN400FA (経営学 / Management 400)

## 演習6

吉田 康伸

演習選択\_演習 4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

トップアスリート及びスポーツリーダー (監督等) に注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴や理想のスポーツリーダー像について考察する。

### 【到達目標】

スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

トップアスリート及びスポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像 (3年生) および健康の維持 (4年生) に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第2回	トップアスリート講義	教員によるトップアスリートの講義を行った後、全体でディスカッションを行う。
第3回	スポーツリーダー講義 (団体競技)	教員によるスポーツリーダー (団体競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第4回	スポーツリーダー講義 (個人競技)	教員によるスポーツリーダー (個人競技) の講義を行った後、全体でディスカッションをする。
第5回	発表 (トップアスリート、野球選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (野球選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表 (トップアスリート、バドミントン選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (バドミントン選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表 (トップアスリート、サッカー選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (サッカー選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表 (トップアスリート、アメフト選手等) ・ディスカッション	4年生のトップアスリート (アメフト選手等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表 (スポーツリーダー、団体競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表 (スポーツリーダー、団体競技のキャプテン等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (団体競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表 (スポーツリーダー、個人競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表 (スポーツリーダー、個人競技のキャプテン等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (個人競技のキャプテン等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表 (スポーツリーダー、武道競技の監督等) ・ディスカッション	3年生のスポーツリーダー (武道競技の監督等) に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況50%、個人発表20%、レポート30%の配分として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

### 【関連科目】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on top athletes and sports leaders, we will examine their backgrounds, ways of thinking, and training methods, and through discussion we will examine the characteristics of top athletes and the image of an ideal sports leader.

#### 【Learning Objectives】

Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (JAVA) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができますようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定Javaプログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用できるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppi** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機(プレイヤー)を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理(当たり判定)の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC**の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格： **OCJP:Oracle Certified Java Programmer** (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (JAVA) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができます。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講義の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定Javaプログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができます。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppi** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機(プレイヤー)を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理(当たり判定)の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC**の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格： **OCJP:Oracle Certified Java Programmer** (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができますようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かさないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用できるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機(プレイヤー)を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理(当たり判定)の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC**の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格： **OCJP:Oracle Certified Java Programmer** (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができますようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かさないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用できるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppi** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機 (プレイヤー) を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理 (当たり判定) の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC** の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格： **OCJP:Oracle Certified Java Programmer** (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (2016~2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用できるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定Javaプログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PR1100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができます。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppi** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機 (プレイヤー) を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理 (当たり判定) の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC** の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格： **OCJP:Oracle Certified Java Programmer** (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語 I (2016~2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt; 授業概要 &gt;

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用してプログラミングを可視化しながら **Java** の基本文法を学んでいきます。

&lt; 授業の目的・意義 &gt;

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができますようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的的施工を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明ができるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプログラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し (while)	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し (for)	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション (基本)	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション (応用)	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト (図形描画)	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト (クラス化)	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java —やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しましたが、難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定Javaプログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論 I (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 1～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業では主要なオブジェクト指向言語である **Java** を学びます。秋学期では春学期に学んだ **Java** の基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程で **Java** によるプログラミングの理解を深めていきます。

< 授業の目的・意義 >

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業では **Java** を利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は **Java** で基礎的なプログラミングを行うことができるようになる
- ・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる
- ・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム **Hoppii** で行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に **PC** を使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によって **Java** の基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的な **PC** のスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語 <b>Java</b> とはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	<b>Java</b> を実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機(プレイヤー)を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理(当たり判定)の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。

13 進行管理

「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。

14 秋期復習

秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 **Java** —やさしい **Java**, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、**PC** の初心者受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 **Java** プログラマー)

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 **Java** システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

In this class, students will learn **Java**, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic **Java** syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of **Java** programming in the process.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using **Java**.

【Objectives】

Students will be able to perform basic programming in **Java**.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用 I (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。  
 (1) 現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方や技術を学ぶ。  
 (2) 実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。  
 (3) 併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

### 【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteなどの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
  2. データを分析する方法
  3. データを設計する方法
  4. データを検索する方法
- 授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。  
 課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種Webサービスについて
第3回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Googleサービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用	Excelの基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みとExcelとの関係について
第8回	Excelによるデータベース的処理(1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excelによるデータベース的処理(2)	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excelによるデータベース的処理(3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excelによるデータ分析	Excelの分析ツールの活用とマクロとの連携によるデータ分析への応用
第12回	データベースソフトとは	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelファイルのエクスポート
第13回	Accessの基本操作	データの検索方法と検索条件の指定
第14回	春学期のまとめ	各種ソフトウェア活用法のまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
  2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
  3. 検索エンジン、Webサービス活用の練習 (予習と復習)
  - 4.~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
  - 15.~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。  
 各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

### 【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート60%、各回授業での演習課題40%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。  
 実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。  
 自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

### 【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。  
 また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

### 【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

### 【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course. As an introduction to Applied Infomatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。  
(1) 現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方や技術を学ぶ。  
(2) 実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。  
(3) 併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

### 【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合とSQLについて
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計とSQLiteのテーブル作成と編集
第4回	SQLiteによるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	SQLiteテーブルの操作(1)	SQLによる既存テーブルのデータ検索について
第6回	SQLiteテーブルの操作(2)	SQLによる新規テーブル作成と変更操作について
第7回	データベースの設計(1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計(2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	ネットワークとデータベース(1)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの利用
第10回	ネットワークとデータベース(2)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの様々な活用
第11回	外部クラウドとデータベース	ネットワーク環境におけるデータベースの活用
第12回	NoSQLデータベース	新しいタイプのネットワーク上のデータベースの紹介と活用
第13回	総合演習(1) データベースの設計	基礎的なデータベースの独自の構築
第14回	総合演習(2) データベースの応用	実用的なデータベースの独自の構築

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習  
予習と復習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

### 【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート60%、各回授業での演習課題40%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。  
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システム Classroomも利用し効率的な授業を行う。  
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

### 【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

### 【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society.

This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用 I (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。  
 (1) 現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方や技術を学ぶ。  
 (2) 実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。  
 (3) 併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

## 【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteなどの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種Webサービスについて
第3回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Googleサービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用	Excelの基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みとExcelとの関係について
第8回	Excelによるデータベース的処理(1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excelによるデータベース的処理(2)	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excelによるデータベース的処理(3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excelによるデータ分析	Excelの分析ツールの活用とマクロとの連携によるデータ分析への応用
第12回	データベースソフトとは	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelファイルのエクスポート
第13回	Accessの基本操作	データの検索方法と検索条件の指定
第14回	春学期のまとめ	各種ソフトウェア活用法のまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
  2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
  3. 検索エンジン、Webサービス活用の練習 (予習と復習)
  - 4.~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
  - 15.~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

## 【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート60%、各回授業での演習課題40%として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

## 【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

## 【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

## 【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course. As an introduction to Applied Infomatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (データベース) (2019年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。  
(1) 現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方や技術を学ぶ。  
(2) 実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。  
(3) 併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

### 【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合とSQLについて
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計とSQLiteのテーブル作成と編集
第4回	SQLiteによるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	SQLiteテーブルの操作(1)	SQLによる既存テーブルのデータ検索について
第6回	SQLiteテーブルの操作(2)	SQLによる新規テーブル作成と変更操作について
第7回	データベースの設計(1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計(2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	ネットワークとデータベース(1)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの利用
第10回	ネットワークとデータベース(2)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの様々な活用
第11回	外部クラウドとデータベース	ネットワーク環境におけるデータベースの活用
第12回	NoSQLデータベース	新しいタイプのネットワーク上のデータベースの紹介と活用
第13回	総合演習(1) データベースの設計	基礎的なデータベースの独自の構築
第14回	総合演習(2) データベースの応用	実用的なデータベースの独自の構築

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習  
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート60%、各回授業での演習課題40%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。  
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。  
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

### 【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

### 【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society.

This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学応用 I (データ可視化) (2019年度以降入学者)

田中 元一朗

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。  
 - ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。  
 - データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

**【到達目標】**

- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる  
 - 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。  
 - Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

**【授業の進め方と方法】**

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム Hoppii に掲載します。  
 - 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。  
 - 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。  
 - 後半は processing を用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。  
 - 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第2回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法(ロジックツリー、KJ法、マインドマップなど)について学ぶ
第3回	プレゼンソフトを使った図表の作成(1)	- 代表的な図表(フローチャート、ピラミッド図、概念図など)の作成方法、使い方について学ぶ
第4回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第5回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第6回	プレゼンソフトを使った図表の作成(2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第7回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(1)	- Processingの概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第8回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようになる - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第9回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングでできるようになる - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ
第10回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(4)	- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う - 配列やその他の必要な文法について学ぶ

第11回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(5)	- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ
第12回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(6)	- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ - インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ
第13回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(7)	- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作
第14回	春学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

授業時に随時紹介

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内・期末課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

**【学生が準備すべき機器他】**

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。また学生が所有するノートPCでも構いません。

**【その他の重要事項】**

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。  
 - 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

**【関連科目】**

情報学に関連する科目

**【オフィス・アワー】**

授業後に質問を受け付ける

**【Outline (in English)】**

In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

**Learning Objectives:**

- How to visualize and organize complex information using office software.
  - Basic visual programming with Processing(p5.js).
- Learning activities outside of classroom:**
- Students will need to understanding PC operation.
  - Coursework and self practice.

**Grading Criteria /Policy:**

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (データ可視化) (2019年度以降入学者)

田中 元一郎

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。

- 秋学期は、より高度な表計算ソフトの使いこなしを通して、データ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半はpythonを用いて数式の可視化、機械学習、AIのモデル作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

### 【到達目標】

- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。  
- Pythonとライブラリを用いて、機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム Hoppiiに掲載します。

- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppiiにて公開します。

- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。

- 後半はpythonを用いて数式の可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。

- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ
第2回	表計算ソフトを使った高度な分析	- ビボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第3回	ビジネスデータ分析の方法(1)	- PPM分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ
第4回	ビジネスデータ分析の方法(2)	- 重点分析について理解できるようになる - 構成比やパレート図を作成できるようになる
第5回	Pythonの文法(1)	- Pythonの概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第6回	Pythonの文法(2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第7回	Matplotlibを利用してグラフを作成する(1)	- PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第8回	Matplotlibを利用してグラフを作成する(2)	- PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第9回	Pythonと人工知能	- 機械学習やAIに使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する - Generative AIの可能性と限界について理解する
第10回	機械学習(1)	- scikit-learnを利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

### 第11回 機械学習(2)

- scikit-learnを利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。  
- インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ

### 第12回 ディープラーニング(1)

- Kerasを利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

### 第13回 ディープラーニング(2)

- Kerasを利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

### 第14回 秋学期のまとめ

- 半年間のまとめを行う

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 本講義はPCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、OSやアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

- データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

なし

### 【参考書】

授業時に随時紹介

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内・期末課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

### 【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。また自分が所有するノートPCでも構いません。

### 【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。  
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

### 【関連科目】

情報学に関連する科目

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

### Learning Objectives:

- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using spreadsheet software in the first part of this course.

- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.

### Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

### Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用 I (データ可視化) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;本授概要&gt;

本授業は可視化をテーマにした授業です。春学期はC言語を利用しプログラミングの可視化に挑戦します。具体的にはオンラインプログラミング環境であるBitArrowを利用し、C言語の基本的な文法を学んだ後に、図形描画やアニメーションを行いプログラミングを可視化していきます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

プログラムは実行の流れが見えにくいので、初めてプログラミングを行う人にとってはハードルの高いものになっています。可視化を行いながらプログラムを学ぶことで理解が進むものと考えています。このような可視化の手法はあらゆる場面で役に立つもので大きな意義があるものと考えています。C言語の可視化を通じて可視化の手法や考え方、問題解決の考え方であるプログラミングの思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生はC言語を利用しプログラムを可視化できるようになる  
・学生は可視化を通じてプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用し簡単な基本的なプログラミングを行うことができるようになる
2. C言語を利用して簡単なアニメーションを作成することができるようになる
3. C言語を利用して簡易なシューティングゲームを作成できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	プログラミングと可視化	C言語を中心にプログラム言語とはどのようなものかを学びます。
(2)	C言語の基本的な記述方法	C言語の基本的な記述方法や実行方法について学びます。
(3)	さまざまな計算や出力	C言語を利用してさまざまな計算をする方法やキーボードからの入力方法など学びます。
(4)	図形描画	四角形などの図形を描画する方法を学びます。
(5)	たくさんの図形の描画	繰り返し文を利用してたくさんの図形を描画する方法を学びます。
(6)	一部だけ違う図形	条件分岐を利用して一部だけ違う図形を描画する方法を学びます。
(7)	独自の図形描画	関数を利用して独自の図形を描画する方法について学びます。
(8)	ランダムな表示	ランダムな関数を利用してたくさんの図形をランダムな位置に描画する方法について学びます。
(9)	アニメーション	図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(10)	効率よく動かす	図形を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
(11)	たくさんの図形を動かす	配列を利用してたくさんの図形を動かす方法について学びます。
(12)	シューティングゲーム (自機を動かす)	自機を作成しキーボードから動かす方法について学びます。
(13)	シューティングゲーム (弾と敵を出す)	敵と弾を出現させる方法について学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期テキスト：楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードに春学期はプログラムの可視化を試みます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Outline of this class &gt;

This class focuses on visualization. In the spring semester, students will try their hand at programming visualization using the C programming language. Specifically, we will use BitArrow, an online programming environment, to learn basic C syntax, and then visualize programming by drawing and animating figures.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

Programming is a hurdle for first-time programmers because it is difficult to see the flow of execution. We believe that learning programs while visualizing them will help students to understand them better. We believe that such visualization techniques are useful in all situations and have great significance, and we aim to help students acquire programming thinking, which is a way of thinking about visualization and problem solving, through visualization in the C programming language.

【Objectives】

Students will be able to visualize programs using C language.

Students will be able to acquire a programming mindset through visualization and apply it to problem solving.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (データ可視化) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業は可視化をテーマにした授業です。秋学期は表計算ソフトを利用してデータの可視化に挑戦します。またAIなどに利用される機械学習がどのようなものか理解し、AIなどのアルゴリズムがどのように判断を行っているか可視化していきます。

< 授業の目的・意義 >

数値などのデータだけを見てはわからないことも、データ分析やグラフ化などの可視化を行って初めて分かることもあります。客観的な可視化の手法を使うことで他の人との議論もしやすくなります。データの可視化の手法は研究発表やプレゼンテーションなどさまざまなところで役に立つスキルで、身につける意義があると考えます。また近年特に発展してきているAI (人工知能) がどのようにデータを判断するかを可視化し知ること、今後、人工知能を使う側として大事なスキルであると考えます。本授業では可視化を通じてデジタルな時代に生き抜く必須スキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は表計算ソフトを利用したデータ可視化・分析を行うことができるようになる
- ・学生はAI (人工知能) の一種である機械学習・深層学習の仕組みを理解しどのように判断しているか理解し説明できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
2. Pythonを利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

エクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データを可視化する手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学びます。
第2回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学びます。
第3回	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学びます。
第4回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学びます。
第5回	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学びます。
第6回	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学びます。
第7回	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学びます。
第8回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (1)	PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学びます。
第9回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (2)	Matplotlibを利用しデータを可視化する方法について学びます。
第10回	機械学習 (概要)	機械学習の概要について学びます。
第11回	機械学習 (K近傍法)	K近傍法を利用した分類手法について学びます。
第12回	深層学習 (ライブラリの利用)	画像認識ライブラリの利用方法について学びます。

第13回 深層学習 (ライブラリの応用) 画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学びます。

第14回 秋学期復習 秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ / Ⅱ [Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< class outline >

This class is about visualization. In the fall semester, students will try to visualize data using spreadsheet software. Students will also understand what machine learning used in AI and other applications is and visualize how algorithms such as AI make decisions.

< Purpose and Significance of the Class >

There are things that cannot be understood by looking at data such as numerical values alone, but can only be understood through visualization such as data analysis and graphing. By using objective visualization techniques, it will be easier to discuss with others. Data visualization is a skill that is useful in a variety of areas, including research presentations and presentations, and we believe that it is significant to acquire this skill. Also, we believe that visualizing and understanding how AI (Artificial Intelligence), which has been especially developed in recent years, judges data is an important skill for those who will be using AI in the future. The purpose of this class is to acquire essential skills to survive in the digital age through visualization.

【Objectives】

Students will be able to visualize and analyze data using spreadsheet software.

Students will be able to understand the mechanism of machine learning and deep learning, a type of AI (Artificial Intelligence), and be able to understand and explain how they make decisions.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
 ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
 ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
 ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
 ・実践的なプレゼンテーションを行える  
 ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説
第2回	コミュニケーションの科学	ガイダンスレポートの提出 コミュニケーション能力を高めるスキルの学習
第3回	伝える技術	レポート提出 説得力を高める 効果的な伝え方の学習
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	レポート提出 デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成
第5回	フライヤー自由作成	図形のコピー、グループ化、整列など各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図
第10回	プレゼンテーション作成(1)	相関行列の作成とデータマイニング 企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説
第2回	コミュニケーションの科学	ガイダンスレポートの提出 コミュニケーション能力を高めるスキルの学習
第3回	伝える技術	レポート提出 説得力を高める 効果的な伝え方の学習
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	レポート提出 デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成
第5回	フライヤー自由作成	図形のコピー、グループ化、整列など各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

## 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

## ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

## 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

## 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

## 【関連科目】

特になし。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

## Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

## Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

## Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (プレゼンテーション) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説
第2回	コミュニケーションの科学	ガイダンスレポートの提出 コミュニケーション能力を高めるスキルの学習
第3回	伝える技術	レポート提出 説得力を高める 効果的な伝え方の学習
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	レポート提出 デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成
第5回	フライヤー自由作成	図形のコピー、グループ化、整列など各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図
第10回	プレゼンテーション作成(1)	相関行列の作成とデータマイニング 企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用 I (空間情報) (2019年度以降入学者)

沼尻 治樹

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

## 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説で進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第2回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第3回	空間情報(デジタルデータ)について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第4回	空間情報のマッピングの基礎	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第5回	空間情報のマッピングの編集	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第6回	空間情報と統計データの表示	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第7回	空間情報と統計データによる主題図の作成	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第8回	空間情報の統計演算【属性情報の追加】	統計データの新規追加を学ぶ
第9回	空間情報の統計演算【属性情報のフィールド演算】	統計データの変換を学ぶ
第10回	空間情報の統計演算【フィールド演算の応用】	統計データの演算を学ぶ
第11回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影(座標系)変換
第12回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法(バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定)を学ぶ
第13回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報選択】	課題に対して空間情報を選択する
第14回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報処理】	空間情報の処理を行う

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)  
 「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)  
 その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。  
 成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。  
 課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

## 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。  
 なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

## 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

## 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
 情報学応用II(空間情報)

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

## [Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

## [Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

## [Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学応用Ⅱ (空間情報) (2019年度以降入学者)

沼尻 治樹

情報関係科目 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

本科目では、公開されているデータを使うだけでなく、「データがなければ自分で作る」ための基礎的な方法を学ぶ。空間情報を自作することとおして、空間情報についてさらに理解を深め、空間情報の処理についてアルゴリズムを意識できるようになることを目指す。

## 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS(GPS)を用いた位置情報の取得と表示	GNSSで取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(線)の作成	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(面)の作成	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成およびデータ変換	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス(幾何補正)の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【基礎】	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【応用】	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践【空間内挿とデータの抽出】	空間補間(空間内挿)を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践【リモートセンシング】	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3(PyQGIS)を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察【適切な自作データ作成】	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ処理】	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ分析】	データ処理の結果を分析する

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)

その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

## 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

## 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

## 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
情報学応用Ⅰ(空間情報)

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

## 【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

## 【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (CG) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;本授概要&gt;

本授業は可視化をテーマにした授業です。春学期はC言語を利用してプログラミングの可視化に挑戦します。具体的にはオンラインプログラミング環境であるBitArrowを利用し、C言語の基本的な文法を学んだ後に、図形描画やアニメーションを行いプログラミングを可視化していきます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

プログラムは実行の流れが見えにくいので、初めてプログラミングを行う人にとってはハードルの高いものになっています。可視化を行いながらプログラムを学ぶことで理解が進むものと考えています。このような可視化の手法はあらゆる場面で役に立つもので大きな意義があるものと考えています。C言語の可視化を通じて可視化の手法や考え方、問題解決の考え方であるプログラミングの思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生はC言語を利用してプログラムを可視化できるようになる  
・学生は可視化を通じてプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用して簡単な基本的なプログラミングを行うことができるようになる
2. C言語を利用して簡単なアニメーションを作成することができるようになる
3. C言語を利用して簡易なシューティングゲームを作成することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	プログラミングと可視化	C言語を中心にプログラム言語とはどのようなものかを学びます。
(2)	C言語の基本的な記述方法	C言語の基本的な記述方法や実行方法について学びます。
(3)	さまざまな計算や出力	C言語を利用してさまざまな計算をする方法やキーボードからの入力方法など学びます。
(4)	図形描画	四角形などの図形を描画する方法を学びます。
(5)	たくさんの図形の描画	繰り返し文を利用してたくさんの図形を描画する方法を学びます。
(6)	一部だけ違う図形	条件分岐を利用して一部だけ違う図形を描画する方法を学びます。
(7)	独自の図形描画	関数を利用して独自の図形を描画する方法について学びます。
(8)	ランダムな表示	ランダムな関数を利用したくさんの図形をランダムな位置に描画する方法について学びます。
(9)	アニメーション	図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(10)	効率よく動かす	図形を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
(11)	たくさんの図形を動かす	配列を利用したくさんの図形を動かす方法について学びます。
(12)	シューティングゲーム (自機を動かす)	自機を作成しキーボードから動かす方法について学びます。
(13)	シューティングゲーム (弾と敵を出す)	敵と弾を出現させる方法について学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期テキスト：楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードに春学期はプログラムの可視化を試みます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Outline of this class &gt;

This class focuses on visualization. In the spring semester, students will try their hand at programming visualization using the C programming language. Specifically, we will use BitArrow, an online programming environment, to learn basic C syntax, and then visualize programming by drawing and animating figures.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

Programming is a hurdle for first-time programmers because it is difficult to see the flow of execution. We believe that learning programs while visualizing them will help students to understand them better. We believe that such visualization techniques are useful in all situations and have great significance, and we aim to help students acquire programming thinking, which is a way of thinking about visualization and problem solving, through visualization in the C programming language.

【Objectives】

Students will be able to visualize programs using C language.

Students will be able to acquire a programming mindset through visualization and apply it to problem solving.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (CG) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業は可視化をテーマにした授業です。秋学期は表計算ソフトを利用してデータの可視化に挑戦します。またAIなどに利用される機械学習がどのようなものか理解し、AIなどのアルゴリズムがどのように判断を行っているか可視化していきます。

< 授業の目的・意義 >

数値などのデータだけを見てはわからないことも、データ分析やグラフ化などの可視化を行って初めて分かることもあります。客観的な可視化の手法を使うことで他の人との議論もしやすくなります。データの可視化の手法は研究発表やプレゼンテーションなどさまざまなところで役に立つスキルで、身につける意義があると考えます。また近年特に発展してきているAI (人工知能) がどのようにデータを判断するかを可視化し知ること、今後、人工知能を使う側として大事なスキルであると考えます。本授業では可視化を通じてデジタルな時代に生き抜く必須スキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は表計算ソフトを利用したデータ可視化・分析を行うことができるようになる
- ・学生はAI (人工知能) の一種である機械学習・深層学習の仕組みを理解しどのように判断しているか理解し説明できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
2. Pythonを利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

エクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データを可視化する手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学びます。
第2回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学びます。
第3回	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学びます。
第4回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学びます。
第5回	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学びます。
第6回	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学びます。
第7回	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学びます。
第8回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (1)	PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学びます。
第9回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (2)	Matplotlibを利用しデータを可視化する方法について学びます。
第10回	機械学習 (概要)	機械学習の概要について学びます。
第11回	機械学習 (K近傍法)	K近傍法を利用した分類手法について学びます。
第12回	深層学習 (ライブラリの利用)	画像認識ライブラリの利用方法について学びます。

第13回 深層学習 (ライブラリの応用) 画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学びます。

第14回 秋学期復習 秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< class outline >

This class is about visualization. In the fall semester, students will try to visualize data using spreadsheet software. Students will also understand what machine learning used in AI and other applications is and visualize how algorithms such as AI make decisions.

< Purpose and Significance of the Class >

There are things that cannot be understood by looking at data such as numerical values alone, but can only be understood through visualization such as data analysis and graphing. By using objective visualization techniques, it will be easier to discuss with others. Data visualization is a skill that is useful in a variety of areas, including research presentations and presentations, and we believe that it is significant to acquire this skill. Also, we believe that visualizing and understanding how AI (Artificial Intelligence), which has been especially developed in recent years, judges data is an important skill for those who will be using AI in the future. The purpose of this class is to acquire essential skills to survive in the digital age through visualization.

【Objectives】

Students will be able to visualize and analyze data using spreadsheet software.

Students will be able to understand the mechanism of machine learning and deep learning, a type of AI (Artificial Intelligence), and be able to understand and explain how they make decisions.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

## 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## ■春学期

- 1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- 2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- 3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- 4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- 5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

## ■秋学期

- 1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- 2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- 3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- 4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- 5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

## 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

## 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

## 【関連科目】

特になし。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

## Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

## Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

## Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
 ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
 ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
 ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
 ・実践的なプレゼンテーションを行える  
 ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

## 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

## ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

## 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

## 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

## 【関連科目】

特になし。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

## Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

## Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

## Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

## 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

## ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

## 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

## 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

## 【関連科目】

特になし。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

## Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

## Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

## Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (プレゼンテーション・コース) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
 ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
 ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
 ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
 ・実践的なプレゼンテーションを行える  
 ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説
第2回	コミュニケーションの科学	ガイダンスレポートの提出 コミュニケーション能力を高めるスキルの学習
第3回	伝える技術	レポート提出 説得力を高める 効果的な伝え方の学習
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	レポート提出 デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成
第5回	フライヤー自由作成	図形のコピー、グループ化、整列など各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
 「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (空間情報システム・コース) (2018年度入学者)

沼尻 治樹

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

## 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説で進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第2回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第3回	空間情報(デジタルデータ)について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第4回	空間情報のマッピングの基礎	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第5回	空間情報のマッピングの編集	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第6回	空間情報と統計データの表示	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第7回	空間情報と統計データによる主題図の作成	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第8回	空間情報の統計演算【属性情報の追加】	統計データの新規追加を学ぶ
第9回	空間情報の統計演算【属性情報のフィールド演算】	統計データの変換を学ぶ
第10回	空間情報の統計演算【フィールド演算の応用】	統計データの演算を学ぶ
第11回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影(座標系)変換
第12回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法(バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定)を学ぶ
第13回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報選択】	課題に対して空間情報を選択する
第14回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報処理】	空間情報の処理を行う

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)  
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)  
その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。  
成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。  
課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

## 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。  
なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

## 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

## 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
情報学応用II(空間情報)

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

## [Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

## [Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

## [Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (空間情報システム・コース) (2018年度入学者)

沼尻 治樹

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

本科目では、公開されているデータを使うだけでなく、「データがなければ自分で作る」ための基礎的な方法を学ぶ。空間情報を自作することとおして、空間情報についてさらに理解を深め、空間情報の処理についてアルゴリズムを意識できるようになることを目指す。

## 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS(GPS)を用いた位置情報の取得と表示	GNSSで取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(線)の作成	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(面)の作成	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成およびデータ変換	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス(幾何補正)の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【基礎】	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【応用】	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践【空間内挿とデータの抽出】	空間補間(空間内挿)を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践【リモートセンシング】	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3(PyQGIS)を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察【適切な自作データ作成】	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ処理】	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ分析】	データ処理の結果を分析する

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)

その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

## 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

## 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

## 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
情報学応用Ⅰ(空間情報)

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

## 【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

## 【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;本授概要&gt;

本授業は可視化をテーマにした授業です。春学期はC言語を利用しプログラミングの可視化に挑戦します。具体的にはオンラインプログラミング環境であるBitArrowを利用し、C言語の基本的な文法を学んだ後に、図形描画やアニメーションを行いプログラミングを可視化していきます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

プログラムは実行の流れが見えにくいので、初めてプログラミングを行う人にとってはハードルの高いものになっています。可視化を行いながらプログラムを学ぶことで理解が進むものと考えています。このような可視化の手法はあらゆる場面で役に立つもので大きな意義があるものと考えています。C言語の可視化を通じて可視化の手法や考え方、問題解決の考え方であるプログラミングの思考を身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生はC言語を利用しプログラムを可視化できるようになる  
・学生は可視化を通じてプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用し簡単な基本的なプログラミングを行うことができるようになる
2. C言語を利用して簡単なアニメーションを作成することができるようになる
3. C言語を利用して簡易なシューティングゲームを作成できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	プログラミングと可視化	C言語を中心にプログラム言語とはどのようなものかを学びます。
(2)	C言語の基本的な記述方法	C言語の基本的な記述方法や実行方法について学びます。
(3)	さまざまな計算や出力	C言語を利用してさまざまな計算をする方法やキーボードからの入力方法など学びます。
(4)	図形描画	四角形などの図形を描画する方法を学びます。
(5)	たくさんの図形の描画	繰り返し文を利用してたくさんの図形を描画する方法を学びます。
(6)	一部だけ違う図形	条件分岐を利用して一部だけ違う図形を描画する方法を学びます。
(7)	独自の図形描画	関数を利用して独自の図形を描画する方法について学びます。
(8)	ランダムな表示	ランダムな関数を利用したくさんの図形をランダムな位置に描画する方法について学びます。
(9)	アニメーション	図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(10)	効率よく動かす	図形を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
(11)	たくさんの図形を動かす	配列を利用したくさんの図形を動かす方法について学びます。
(12)	シューティングゲーム (自機を動かす)	自機を作成しキーボードから動かす方法について学びます。
(13)	シューティングゲーム (弾と敵を出す)	敵と弾を出現させる方法について学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期テキスト：楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードに春学期はプログラムの可視化を試みます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Outline of this class &gt;

This class focuses on visualization. In the spring semester, students will try their hand at programming visualization using the C programming language. Specifically, we will use BitArrow, an online programming environment, to learn basic C syntax, and then visualize programming by drawing and animating figures.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

Programming is a hurdle for first-time programmers because it is difficult to see the flow of execution. We believe that learning programs while visualizing them will help students to understand them better. We believe that such visualization techniques are useful in all situations and have great significance, and we aim to help students acquire programming thinking, which is a way of thinking about visualization and problem solving, through visualization in the C programming language.

【Objectives】

Students will be able to visualize programs using C language.

Students will be able to acquire a programming mindset through visualization and apply it to problem solving.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

< 授業概要 >

本授業は可視化をテーマにした授業です。秋学期は表計算ソフトを利用してデータの可視化に挑戦します。またAIなどに利用される機械学習がどのようなものか理解し、AIなどのアルゴリズムがどのように判断を行っているか可視化していきます。

< 授業の目的・意義 >

数値などのデータだけを見てはわからないことも、データ分析やグラフ化などの可視化を行って初めて分かることもあります。客観的な可視化の手法を使うことで他の人との議論もしやすくなります。データの可視化の手法は研究発表やプレゼンテーションなどさまざまなところで役に立つスキルで、身につける意義があると考えます。また近年特に発展してきているAI(人工知能)がどのようにデータを判断するかを可視化し知ること、今後、人工知能を使う側として大事なスキルであると考えます。本授業では可視化を通じてデジタルな時代に生き抜く必須スキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は表計算ソフトを利用したデータ可視化・分析を行うことができるようになる
- ・学生はAI(人工知能)の一種である機械学習・深層学習の仕組みを理解しどのように判断しているか理解し説明できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
2. Pythonを利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システム Hoppii で行います。

エクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データを可視化する手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学びます。
第2回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学びます。
第3回	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学びます。
第4回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学びます。
第5回	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学びます。
第6回	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学びます。
第7回	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学びます。
第8回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (1)	PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学びます。
第9回	Matplotlibを利用したグラフの作成 (2)	Matplotlibを利用しデータを可視化する方法について学びます。
第10回	機械学習(概要)	機械学習の概要について学びます。
第11回	機械学習(K近傍法)	K近傍法を利用した分類手法について学びます。
第12回	深層学習(ライブラリの利用)	画像認識ライブラリの利用方法について学びます。

第13回 深層学習(ライブラリの応用) 画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学びます。

第14回 秋学期復習 秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogle クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< class outline >

This class is about visualization. In the fall semester, students will try to visualize data using spreadsheet software. Students will also understand what machine learning used in AI and other applications is and visualize how algorithms such as AI make decisions.

< Purpose and Significance of the Class >

There are things that cannot be understood by looking at data such as numerical values alone, but can only be understood through visualization such as data analysis and graphing. By using objective visualization techniques, it will be easier to discuss with others. Data visualization is a skill that is useful in a variety of areas, including research presentations and presentations, and we believe that it is significant to acquire this skill. Also, we believe that visualizing and understanding how AI (Artificial Intelligence), which has been especially developed in recent years, judges data is an important skill for those who will be using AI in the future. The purpose of this class is to acquire essential skills to survive in the digital age through visualization.

【Objectives】

Students will be able to visualize and analyze data using spreadsheet software.

Students will be able to understand the mechanism of machine learning and deep learning, a type of AI (Artificial Intelligence), and be able to understand and explain how they make decisions.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (2016~2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

#### ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
 ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
 ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
 ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
 ・実践的なプレゼンテーションを行える  
 ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。  
 資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
 「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

## 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

## ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

## ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

## 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

## 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

## 【関連科目】

特になし。

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

## Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

## Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

## Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
 ・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
 ・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
 ・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
 ・実践的なプレゼンテーションを行える  
 ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。  
 資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
 「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (2016~2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■春学期

- (1) 表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
- (2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
- (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (4) A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
- (5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

#### ■秋学期

- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
- (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
- (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
- (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
- (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成

第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、 基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You Can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You can Create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

- ・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
- ・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パソコンを活用したプレゼンテーション能力 (表現力) を向上させる科目である。

スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。スライドをベースに、実際に発表する (話す) 内容を作成する。聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

### 【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、  
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる  
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える  
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する  
・実践的なプレゼンテーションを行える  
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

#### ■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか? 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excelを使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excelを使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計
第9回	データ分析(2)	バレット分析 相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ (1/2の受講生) の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ (1/2の受講生) の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する

第14回 評価表提出とレポート 自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office系のアプリケーションソフト (Word, Excel, PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。  
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

### 【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)  
「伝え方が9割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)  
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

### 【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

### 【関連科目】

特になし。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

### Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

### Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

### Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論 I (2016~2017年度入学者)

沼尻 治樹

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

## 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説で進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第2回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第3回	空間情報(デジタルデータ)について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第4回	空間情報のマッピングの基礎	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第5回	空間情報のマッピングの編集	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第6回	空間情報と統計データの表示	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第7回	空間情報と統計データによる主題図の作成	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第8回	空間情報の統計演算【属性情報の追加】	統計データの新規追加を学ぶ
第9回	空間情報の統計演算【属性情報のフィールド演算】	統計データの変換を学ぶ
第10回	空間情報の統計演算【フィールド演算の応用】	統計データの演算を学ぶ
第11回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影(座標系)変換
第12回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法(バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定)を学ぶ
第13回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報選択】	課題に対して空間情報を選択する
第14回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報処理】	空間情報の処理を行う

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)  
 「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)  
 その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。  
 成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。  
 課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

## 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。  
 なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

## 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

## 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
 情報学応用II(空間情報)

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

## 【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

## 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

沼尻 治樹

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

本科目では、公開されているデータを使うだけでなく、「データがなければ自分で作る」ための基礎的な方法を学ぶ。空間情報を自作することとおして、空間情報についてさらに理解を深め、空間情報の処理についてアルゴリズムを意識できるようになることを目指す。

### 【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報(デジタルデータ)の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS(GPS)を用いた位置情報の取得と表示	GNSSで取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(線)の作成	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータ(面)の作成	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成およびデータ変換	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス(幾何補正)の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【基礎】	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル(DEM)による地形解析【応用】	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践【空間内挿とデータの抽出】	空間補間(空間内挿)を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践【リモートセンシング】	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3(PyQGIS)を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察【適切な自作データ作成】	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ処理】	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ分析】	データ処理の結果を分析する

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

自作テキストを利用する。

### 【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年)

その他、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

### 【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

### 【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

### 【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

### 【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目  
情報学応用Ⅰ(空間情報)

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

#### 【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学発展 I (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## &lt;授業概要&gt;

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みとその周辺技術を学びます。春学期はインターネットが繋がる仕組みTCP/IPの技術を中心に学び、その上で動くホームページを作成する技術であるHTMLとCSSを学びます。

## &lt;授業の目的・意義&gt;

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。本授業ではインターネットがなぜ繋がるのかといった基本的なところから学んでいきます。普段何気なく使っているインターネットの仕組みを知ることによってセキュリティ面や活用度を上げることができ、意義があるものと考えます。また普段よく接するホームページがどのように作られているか知り、自分で構築してみることで、どのくらいの手間がかかるものか知ることには意義のあることだと考えます。インターネットの仕組みやホームページの仕組みを知ることによってデジタル時代に生き抜くスキルを身につけることを目的としています。

## 【到達目標】

・学生はインターネットがなぜ繋がりが通信を行うことができるのか理解し説明できるようになる  
・学生はHTMLとCSSを利用して簡単なホームページを作成し公開できるようになる

## 【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

## 【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第2回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第3回	IPネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第4回	LANの仕組みと構成	LANの仕組みと構成を理解します。
第5回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第6回	TCPとパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するためのTCPとパケットについて理解します。
第7回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第8回	情報セキュリティ(基礎)	インターネットを利用した情報セキュリティの基礎について学びます。
第9回	情報セキュリティ(応用)	インターネットを利用した情報セキュリティの応用について学びます。

第10回	HTMLの基礎知識	Webページを作成するためのHTMLの歴史や現在の基礎知識について理解します。
第11回	HTMLの基本文法	HTMLの基本的な文法について理解します。
第12回	ホームページ作成の基礎(入門)	見出し作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第13回	ホームページ作成の基礎(応用)	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かされません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

## 【参考書】

授業中に適時お知らせします。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思えます。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

## 【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

## 【関連科目】

情報科学実習I / II (fコース)

## 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【Outline (in English)】

## &lt; Class Outline &gt;

Students learn the structure of computer networks centered on the Internet and its peripheral technologies. In the spring semester, students will focus on TCP/IP technology, which is the mechanism for connecting to the Internet, and HTML and CSS, which are the technologies for creating websites that run on top of TCP/IP.

## &lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT, which is realized mainly through the Internet, has become an indispensable part of our daily lives. In this class, students will learn the basics of why the Internet is connected. We believe that knowing how the Internet works, which we usually use without thinking about it, is significant for improving security and utilization of the Internet. It is also meaningful to know how homepages are made and how much time and effort it takes to build them. The purpose of this course is to acquire the skills to survive in the digital age by learning how the Internet works and how homepages are made.

## 【Goals】

Students will be able to understand and explain why the Internet is able to connect and communicate.

Students will be able to create and publish a simple website using HTML and CSS.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学発展Ⅱ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;授業概要&gt;

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。秋学期は春学期のインターネットの繋がる仕組みやホームページの作製技術であるHTML、CSSの応用としてサーバーサイドプログラム (PHP) に挑戦し、メール送信や画像アップロードの機能を作成していきます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

HTMLやCSSは比較的シンプルな技術ですが、これらを組み合わせて実現するサーバーサイドのプログラムは障害が起きたときの切り分けが難しいものです。本授業を通じてどこで問題が発生しているか障害を切り分けるスキルを身につけていきます。このスキルは実社会で発生する問題の解決にも役に立つものであり意義があると考えます。単純な技術の習得ではなく、自分で考え、問題を切り分けるスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生は簡単なサーバーサイドプログラムを利用し動的なページを作成することができる  
・インターネットの仕組みを理解し、障害が発生したときにどこに問題があるか特定できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSSとデザイン	CSSを利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術であるPHPを利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHPの基本文法 (変数、関数)	PHPの基本文法について学びます。
第5回	PHPの基本文法 (条件分岐、繰り返し)	PHPの基本文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成しPOSTやGETデータを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成しSessionでデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成 (アップロード)	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成 (表示)	画像をサーバーにアップロードした画像を表示します。
第11回	画像アップローダーの作成 (一覧表示)	アップロードした画像を一覧表示します。
第12回	スマートフォンアプリの作成 (入門)	Monacaを利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。

第13回	スマートフォンアプリの作成 (アプリ作成)	Monacaを利用して簡単なアプリケーションを作成します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogle Classroomを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ / Ⅱ (fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

ICT, realized mainly through the Internet, has become an integral part of our daily lives. In the fall semester, students will try their hand at server-side programming (PHP) as an application of HTML and CSS, the Internet connection mechanism and website creation techniques of the spring semester, and create functions for sending e-mail and uploading images.

&lt; Purpose and Significance &gt;

HTML and CSS are relatively simple technologies, but server-side programs that combine these technologies are difficult to isolate when a problem occurs. Through this class, students will acquire the skills to isolate where problems occur. We believe that this skill is useful and meaningful for solving problems that occur in the real world. The objective of this course is not to simply learn techniques, but to acquire the skills to think for oneself and isolate problems.

【Objectives】

Students will be able to create dynamic pages using simple server-side programs.

Students will be able to understand how the Internet works and be able to identify problems when they occur.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学発展 I (ホームページ) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集 (段落と改行) 文字の修飾 (太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い (別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする (別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする (ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学発展Ⅱ (ホームページ) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するための ファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを 様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを 様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいちにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報学発展 I (ホームページ) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集(段落と改行) 文字の修飾(太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い(別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする(別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする(ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## 情報学発展Ⅱ (ホームページ) (2019年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するための ファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを 様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを 様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (通信ネットワーク) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;授業概要&gt;

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みとその周辺技術を学びます。春学期はインターネットが繋がる仕組みTCP/IPの技術を中心に学び、その上で動くホームページを作成する技術であるHTMLとCSSを学びます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。本授業ではインターネットがなぜ繋がるのかといった基本的なところから学んでいきます。普段何気なく使っているインターネットの仕組みを知ることによってセキュリティ面や活用度を上げることができ、意義があるものと考えます。また普段よく接するホームページがどのように作られているか知り、自分で構築してみることで、どのくらいの手間がかかるものか知ることには意義のあることだと考えます。インターネットの仕組みやホームページの仕組みを知ることによってデジタル時代に生き抜くスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生はインターネットがなぜ繋がりが通信を行うことができるのか理解し説明できるようになる  
 ・学生はHTMLとCSSを利用して簡単なホームページを作成し公開できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第2回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第3回	IPネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第4回	LANの仕組みと構成	LANの仕組みと構成を理解します。
第5回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第6回	TCPとパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するためのTCPとパケットについて理解します。
第7回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第8回	情報セキュリティ(基礎)	インターネットを利用した情報セキュリティの基礎について学びます。
第9回	情報セキュリティ(応用)	インターネットを利用した情報セキュリティの応用について学びます。

第10回	HTMLの基礎知識	Webページを作成するためのHTMLの歴史や現在の基礎知識について理解します。
第11回	HTMLの基本文法	HTMLの基本的な文法について理解します。
第12回	ホームページ作成の基礎(入門)	見出し作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第13回	ホームページ作成の基礎(応用)	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かされません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思えます。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習I/II(fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

Students learn the structure of computer networks centered on the Internet and its peripheral technologies. In the spring semester, students will focus on TCP/IP technology, which is the mechanism for connecting to the Internet, and HTML and CSS, which are the technologies for creating websites that run on top of TCP/IP.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT, which is realized mainly through the Internet, has become an indispensable part of our daily lives. In this class, students will learn the basics of why the Internet is connected. We believe that knowing how the Internet works, which we usually use without thinking about it, is significant for improving security and utilization of the Internet. It is also meaningful to know how homepages are made and how much time and effort it takes to build them. The purpose of this course is to acquire the skills to survive in the digital age by learning how the Internet works and how homepages are made.

【Goals】

Students will be able to understand and explain why the Internet is able to connect and communicate.

Students will be able to create and publish a simple website using HTML and CSS.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (通信ネットワーク) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;授業概要&gt;

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。秋学期は春学期のインターネットの繋がる仕組みやホームページの製作技術であるHTML、CSSの応用としてサーバーサイドプログラム (PHP) に挑戦し、メール送信や画像アップロードの機能を作成していきます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

HTMLやCSSは比較的シンプルな技術ですが、これらを組み合わせて実現するサーバーサイドのプログラムは障害が起きたときの切り分けが難しいものです。本授業を通じてどこで問題が発生しているか障害を切り分けるスキルを身につけていきます。このスキルは実社会で発生する問題の解決にも役に立つものであり意義があると考えます。単純な技術の習得ではなく、自分で考え、問題を切り分けるスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は簡単なサーバーサイドプログラムを利用し動的なページを作成することができる
- ・インターネットの仕組みを理解し、障害が発生したときにどこに問題があるか特定できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSSとデザイン	CSSを利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術であるPHPを利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHPの基本文法 (変数、関数)	PHPの基本文法について学びます。
第5回	PHPの基本文法 (条件分岐、繰り返し)	PHPの基本文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成しPOSTやGETデータを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成しSessionでデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成 (アップロード)	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成 (表示)	画像をサーバーにアップロードした画像を表示します。
第11回	画像アップローダーの作成 (一覧表示)	アップロードした画像を一覧表示します。
第12回	スマートフォンアプリの作成 (入門)	Monacaを利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。

第13回	スマートフォンアプリの作成 (アプリ作成)	Monacaを利用して簡単なアプリケーションを作成します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogle Classroomを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ/Ⅱ (fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

ICT, realized mainly through the Internet, has become an integral part of our daily lives. In the fall semester, students will try their hand at server-side programming (PHP) as an application of HTML and CSS, the Internet connection mechanism and website creation techniques of the spring semester, and create functions for sending e-mail and uploading images.

&lt; Purpose and Significance &gt;

HTML and CSS are relatively simple technologies, but server-side programs that combine these technologies are difficult to isolate when a problem occurs. Through this class, students will acquire the skills to isolate where problems occur. We believe that this skill is useful and meaningful for solving problems that occur in the real world. The objective of this course is not to simply learn techniques, but to acquire the skills to think for oneself and isolate problems.

【Objectives】

Students will be able to create dynamic pages using simple server-side programs.

Students will be able to understand how the Internet works and be able to identify problems when they occur.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (ホームページ) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集(段落と改行) 文字の修飾(太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い(別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする(別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする(ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (ホームページ) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (ホームページ) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集(段落と改行) 文字の修飾(太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い(別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする(別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする(ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (ホームページ) (2018年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

#### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

#### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

#### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (2016~2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

&lt;授業概要&gt;

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みとその周辺技術を学びます。春学期はインターネットが繋がる仕組みTCP/IPの技術を中心に学び、その上で動くホームページを作成する技術であるHTMLとCSSを学びます。

&lt;授業の目的・意義&gt;

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。本授業ではインターネットがなぜ繋がるのかといった基本的なところから学んでいきます。普段何気なく使っているインターネットの仕組みを知ることによってセキュリティ面や活用度を上げることができ、意義があるものと考えます。また普段よく接するホームページがどのように作られているか知り、自分で構築してみることで、どのくらいの手間がかかるものか知ることには意義のあることだと考えます。インターネットの仕組みやホームページの仕組みを知ることによってデジタル時代に生き抜くスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

・学生はインターネットがなぜ繋がりがり通信を行うことができるのか理解し説明できるようになる  
・学生はHTMLとCSSを利用して簡単なホームページを作成し公開できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第2回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第3回	IPネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第4回	LANの仕組みと構成	LANの仕組みと構成を理解します。
第5回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第6回	TCPとパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するためのTCPとパケットについて理解します。
第7回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第8回	情報セキュリティ(基礎)	インターネットを利用した情報セキュリティの基礎について学びます。
第9回	情報セキュリティ(応用)	インターネットを利用した情報セキュリティの応用について学びます。

第10回	HTMLの基礎知識	Webページを作成するためのHTMLの歴史や現在の基礎知識について理解します。
第11回	HTMLの基本文法	HTMLの基本的な文法について理解します。
第12回	ホームページ作成の基礎(入門)	見出し作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第13回	ホームページ作成の基礎(応用)	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かされません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思えます。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習I/II(fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

&lt; Class Outline &gt;

Students learn the structure of computer networks centered on the Internet and its peripheral technologies. In the spring semester, students will focus on TCP/IP technology, which is the mechanism for connecting to the Internet, and HTML and CSS, which are the technologies for creating websites that run on top of TCP/IP.

&lt; Purpose and Significance of the Class &gt;

ICT, which is realized mainly through the Internet, has become an indispensable part of our daily lives. In this class, students will learn the basics of why the Internet is connected. We believe that knowing how the Internet works, which we usually use without thinking about it, is significant for improving security and utilization of the Internet. It is also meaningful to know how homepages are made and how much time and effort it takes to build them. The purpose of this course is to acquire the skills to survive in the digital age by learning how the Internet works and how homepages are made.

【Goals】

Students will be able to understand and explain why the Internet is able to connect and communicate.

Students will be able to create and publish a simple website using HTML and CSS.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

飯塚 康至

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

<授業概要>

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。秋学期は春学期のインターネットの繋がる仕組みやホームページの製作技術であるHTML、CSSの応用としてサーバーサイドプログラム (PHP) に挑戦し、メール送信や画像アップロードの機能を作成していきます。

<授業の目的・意義>

HTMLやCSSは比較的シンプルな技術ですが、これらを組み合わせて実現するサーバーサイドのプログラムは障害が起きたときの切り分けが難しいものです。本授業を通じてどこで問題が発生しているか障害を切り分けるスキルを身につけていきます。このスキルは実社会で発生する問題の解決にも役に立つものであり意義があると考えます。単純な技術の習得ではなく、自分で考え、問題を切り分けるスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標】

- ・学生は簡単なサーバーサイドプログラムを利用し動的なページを作成することができる
- ・インターネットの仕組みを理解し、障害が発生したときにどこに問題があるか特定できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSSとデザイン	CSSを利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術であるPHPを利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHPの基本文法 (変数、関数)	PHPの基本文法について学びます。
第5回	PHPの基本文法 (条件分岐、繰り返し)	PHPの基本文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成しPOSTやGETデータを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成しSessionでデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成 (アップロード)	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成 (表示)	画像をサーバーにアップロードした画像を表示します。
第11回	画像アップローダーの作成 (一覧表示)	アップロードした画像を一覧表示します。
第12回	スマートフォンアプリの作成 (入門)	Monacaを利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。

- 第13回 スマートフォンアプリの作成 (アプリ作成) Monacaを利用して簡単なアプリケーションを作成します。
- 第14回 春学期復習 春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogle Classroomを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ/Ⅱ (fコース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

ICT, realized mainly through the Internet, has become an integral part of our daily lives. In the fall semester, students will try their hand at server-side programming (PHP) as an application of HTML and CSS, the Internet connection mechanism and website creation techniques of the spring semester, and create functions for sending e-mail and uploading images.

< Purpose and Significance >

HTML and CSS are relatively simple technologies, but server-side programs that combine these technologies are difficult to isolate when a problem occurs. Through this class, students will acquire the skills to isolate where problems occur. We believe that this skill is useful and meaningful for solving problems that occur in the real world. The objective of this course is not to simply learn techniques, but to acquire the skills to think for oneself and isolate problems.

【Objectives】

Students will be able to create dynamic pages using simple server-side programs.

Students will be able to understand how the Internet works and be able to identify problems when they occur.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (2016~2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集(段落と改行) 文字の修飾(太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い(別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする(別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする(ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論 I (2016~2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。

HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。

テキストデータの編集方法を理解する

画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。

ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。

地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集(段落と改行) 文字の修飾(太字、下線、ルビ) 画像ファイルの取り扱い(別フォルダの作成と画像の挿入)
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする(別のページに移動する)
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする(ハイパーリンク)
第6回	5章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する GoogleマップやYouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する

第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門I/II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

### Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)

上野 京子

選択\_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。

Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。

美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

### 【到達目標】

Webページ上に箇条書きやリストを作成することができる。

Webページ上にテーブルを作成することができる。

フルスクリーンのWebページが作成できる。

2カラムのWebページを作成することができる。

タイル型のWebページを作成することができる。

自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル (表) を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から9章までの到達度確認試験
第6回	10章 Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章 Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章 Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章 Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容のWebページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認する作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集する すべてのリンクができていないこと確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、授業中の課題の結果を60%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

### 【その他の重要事項】

Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

### 【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

### 【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

#### Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

#### Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

#### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

LAW200FA (法学 / law 200)

民法

松田 佳久

連環科目連環科目\_法律関係 2~4年次/4単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

具体的には、私たちの生活に直接に関係してくる事項(売買契約などの契約関係や所有権などの物権関係)について勉強をする。

【到達目標】

取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。

具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」、「法律」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

2024年度はオンデマンドでの開講となります。

学習支援システムの「教材」に各回の参考図、判例等をUPしておきます。それを印刷して、学習支援システムの「オンデマンド」から該当の録画を見付、視聴してください。各自で計28回の視聴時間を確保し視聴してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民法典とその構成	講義を始めるに際しての諸注意 民法典 民法典の構成 物権と債権
第2回	売買契約の有効な成立1	契約の成立要件
第3回	売買契約の有効な成立2	契約の有効要件
第4回	売買契約の有効な成立3	無効原因 取消しと無効
第5回	売買契約の有効な成立4	代理
第6回	売買契約の有効な成立5	無権代理 条件と期限
第7回	売主の義務と買主の義務1	物の引渡し
第8回	売主の義務と買主の義務2	代金の支払い
第9回	売主の義務と買主の義務3	購入資金の借入れ
第10回	売主の義務と買主の義務4	債権関係の終了
第11回	売主の義務と買主の義務5	現実的履行の強制
第12回	売主の義務と買主の義務6	損害賠償請求 契約の解除
第13回	売買契約による所有権の移転1	物権変動の基本原則
第14回	売買契約による所有権の移転2	動産取引における公示の原則と公信の原則
第15回	所有権と占有権1	物権の客体 物権の本質 物権の効力 所有権の性質と効力
第16回	所有権と占有権2	相隣関係 所有権の特別な取得原因 所有権の成立と態様 占有権の効力
第17回	債権の回収と債権の担保1	債権回収の基本原則、責任財産の保全(債権者代位権)
第18回	債権の回収と債権の担保2	詐害行為取消権
第19回	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務 保証債務
第20回	優先弁済権による債権の担保1	担保物権の基本原則 抵当権

第21回	優先弁済権による債権の担保2 物の貸借契約1	非典型担保 総説 賃貸借契約(基本的な法律関係)
第22回	物の貸借契約2	賃貸借関係(賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了)
第23回	物の貸借契約3	借地借家法(借地関係、借家関係)
第24回	他人の労務を目的とする契約1	総説、 雇用契約 請負契約
第25回	他人の労務を目的とする契約2 法律の規定に基づいて生ずる債権1	委任契約 総説 事務管理
第26回	法律の規定に基づいて生ずる債権2	不当利得
第27回	法律の規定に基づいて生ずる債権3	一般的不法行為
第28回	法律の規定に基づいて生ずる債権4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
  - 視聴後に各自で内容を復習すること
  - 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみることを。
  - 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- わからないところがあったら担当教員の大学メールアドレス(yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)に質問などをして、疑問を残さないようにしてください。

【テキスト(教科書)】

宮本健蔵編著「ワンステップ民法」2023年9月、第2版、嵯峨野書院

【参考書】

1. 潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』(有斐閣、第9版、2023年)
2. 窪田充見=森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』(有斐閣、第9版、2023年)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、中間試験(50点満点)と期末試験(50点満点)の合計により行います。  
中間試験を受験しない人がいますが、受験しないとこの講座の単位取得はできません。

2024年度は、中間試験・期末試験は教室では実施しません。  
学習支援システムの「レポート」に試験の問題を掲載しますので、試験の所定の期間内に添付の解答用紙に解答し、授業支援システムの「レポート」に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には、計28回の講義をしっかりと視聴することが必要になります。  
わからないところがありましたら、いつでもメールで質問をしてください(担当教員のメールアドレス:yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておりますので、教材を印刷し、学習支援システムの「オンデマンド」に合録画を視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

常時、メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

Civil law is the most fundamental and important law in civil life. Civil law is broadly divided into property law, which centers on transactions, and family law, which centers on family life. Since this lecture is aimed at students in the business administration department, I will focus on the former property law.

Specifically, we will study matters that are directly related to our lives (contractual relationships such as sales contracts and property rights such as ownership).

【Goal】

It is necessary to fully understand the basic legal system related to living relations centered on transactions, and to build a background in which the specialized knowledge of the Faculty of Business Administration is even more effective.

Specifically, it is necessary to acquire sufficient legal knowledge about the following. (1) Requirements for effective conclusion of contract, (2) Contents of claims established by contract, (3) Effectiveness of claims, (4) Changes in property rights and perfection requirements, (5) Means of collateral for claims, especially mortgages and guarantee obligations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.  
[Grading criteria]

Grades will be evaluated based on the total of the mid-term exam (out of 50 points) and the final exam (out of 50 points).

Some people do not take the mid-term exam. If you do not take the exam, you will not be able to earn credits for this course.

In 2022, mid-term and final exams will not be held in the classroom.

The exam questions will be posted in the "Report" of the learning support system. Please answer the attached answer sheet within the specified period of the exam and submit it to the "Report" of the employment support system.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with this, the textbook was also revised and updated (Kenzo Miyamoto, "New Conduct Civil Code", May 2020, Sagano Shoin).

Even if you use an old version of the textbook, you will not be able to understand the content of the lecture, and you will not be able to handle the mid-term and final exams, so please prepare the above textbook.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 広告論

宮井 弘之

特殊講義選択\_特殊講義 3~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

### 【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

### 【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがある。その場合ZOOMとなる可能性が高い。

数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。

また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店 営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社 プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店 クリエイティブ・ディレクター (録画を利用)
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ テレビ担当 (録画を利用)
第10回	インターネット広告(1)	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー (録画を利用)
第11回	インターネット広告(2)	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の種類と手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務

第14回 これまでの総まとめ これまでの総まとめ(授業内試験を予定)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらって準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり1-2時間を想定する。

### 【テキスト(教科書)】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

### 【参考書】

適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容(60%)

2) 最終回におけるレポート課題(40%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

### 【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

### 【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家になるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

### 【関連科目】

マーケティング論

### 【Outline (in English)】

[Outline] In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

### 【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.

2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.

3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising

4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

### 【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (60%)

2. final report assignment (40%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

## 寄附講座・日本の物流と企業経営

李 瑞雪

特殊講義選択\_特殊講義 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業経営にとって、大きな関心事となっている「物流・ロジスティクス」を基礎から学習します。物流サービスや技術に関して先進的な取り組みを行っている企業から講師を招き、その企業の実例を紹介しながら講義を行うことにより、普段は見ることがない「物流・ロジスティクス」の世界を理解する力を育てます。また本授業は日本マテリアル・ハンドリング (MH) 協会との連携講座です。

### 【到達目標】

物流・ロジスティクスに関する基礎知識を身に付けることにより、注目を集めつつあり、企業も力を入れている「物流・ロジスティクス」についての理解を深め、視野を広げることが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

### 【授業の進め方と方法】

「物流・ロジスティクス」に関して先進的な取り組みをしている企業より専門家を派遣してもらい、オムニバス講義形式で行います。講義中でのインタラクティブな質疑応答と終了時にはリアクションペーパーで各講義の理解度を確認し、最終回には参加企業の最新事例などを紹介してもらいます。併せて定期試験の期間にテストを予定しています。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・物流業・MH業の産業概論	本講座の意義・目的を紹介後、物流産業の歴史的な意義及び現在までの進化について紹介します。
第2回	物流の概念と物流管理	物流・ロジスティクスの概念とより具体的な物流管理全般に関する知識を紹介する。3回以降に繋がる内容。
第3回	電子電器業界の物流管理	最も身近な存在である、電器産業に関して物流面での様々な取り組みを紹介しします。
第4回	住設業界の物流管理	住宅設備は近年物流に関しての様々な課題がある、それらを歴史的な背景から現在の取り組みを紹介し、今後将来に向けた展望も考えます。
第5回	建材業界の物流管理	建設材料はその大きさ故、非常に困難になりがちです。現場の人手不足への対応も含めた取り組みを紹介しします。
第6回	自動車業界の物流管理	最も物量の多い自動車産業の例を用い、効率的な生産管理・物流管理について解説し、併せて今後の方向性についても紹介します。
第7回	物流オペレーション管理	物流の実際の運用を支える現場管理に関して、IE (Industrial Engineering) の視点から紹介します。
第8回	物流業界を支えるMH機器	ネット通販の物流を支える仕組み (フルフィルメントセンター) を中心に、アマゾンの実例で講義します。
第9回	ECビジネスの物流管理	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第10回	小売業界の物流管理	小売業界の物流の中心となる、物流センターの企画・設計を題材にして現在の課題と取り組む内容を紹介します。
第11回	輸送・配送システム	日本の輸送・配送システムに関する内容と今後の課題などについて専門家から紹介します。
第12回	物流のグローバル化と国際輸送	グローバル化している物流産業の実態と国際物流を企画・実行するうえで、必要となる基礎知識を解説します。
第13回	企業の最新の共同物流事例	現時点で共同物流に関連する企業の最新の事例などを紹介し、2024問題と称される課題の解決方法について考えます。

### 第14回 物流イノベーション

日本物流における技術開発とビジネスモデル開発について、専門家の講演とパネルディスカッションを通して学習します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の該当内容および授業システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。

物流・ロジスティクスに関連する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。

### 【テキスト (教科書)】

『業界別 物流管理とSCMの実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房、2022年

### 【参考書】

『ロジスティクス管理3級』中央職業能力開発協会編、社会保険研究所、2017年  
『ロジスティクス・オペレーション3級』中央職業能力開発協会編、社会保険研究所、2007年

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加 (Q&A など) (10%)、期末試験 (30%)、リアクションペーパー (60%) を総合して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでの配布資料は必ず各自印刷して授業に持参すること。

### 【関連科目】

『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

### 【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on the logistics industry and logistics management sponsored by Japan Material Handling Society. The main objectives include understanding the importance, structure, functions, and basic activities of the logistics management and supply chain management. Senior managers coming from more than ten big companies will serve as lecturers, delivering basic and practical knowledge related to logistics management and supply chain management. Students will be expected to have completed the required assignments and feedback after each class meeting. Questions and active participation in the class will be welcomed. Your overall grade in the class will be determined based on the following: Term-end examination (30%), reaction papers (60%), Class contribution (10%).

ECN100FB-A5504 (経済学 / Economics 100)

## Introduction to Finance

Naoki KISHIMOTO

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 月3/Mon.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4

Notes :

その他属性 : 〈実〉

## [Outline and objectives]

Students are given an introduction to interest rate computation and investment analysis of bonds and stocks.

## [Goal]

- (1) Students can compute present values and future values.
- (2) Students can use basic terms of bonds and bond investments.
- (3) Students can compute yields to maturity based on bond prices. Conversely, students can compute bond prices based on yields to maturity.
- (4) Students understand major sources of risk in bond investments.
- (5) Students can use basic terms of stocks and stock investments.
- (6) Students can compute fair values of stocks using the dividend discount model.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-3" policy.

## [Method(s)]

This class consists of a series of lectures. Yet, the instructor intends to make them as interactive as possible by throwing questions to students and earmarking class time for students to apply formulae to exercise problems.

Also, I will try to speak slowly, so that well-motivated Japanese students can understand my lectures.

Furthermore, I will provide students with feedback on additional exercise problems that students are supposed to solve at home.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

なし / No

## [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview of this course, corporations and stock market	I will give an overview of this course. In addition, I will explain basic organizational structures of corporations.
2	Interest rates, future values, and present values	I will explain how to compute future values and present values.
3	Interest rates, future values, and present values	I will explain the FV and PV computation of a perpetuity.
4	Interest rates, future values, and present values	I will explain the FV and PV computation of an annuity.
5	Interest rates, future values, and present values	I will explain how to compute the FV of a growing perpetuity. In addition, I will explain how to solve loan payments and the internal rate of return.
6	Interest rate quotes and discount rates	I will explain interest rate quotes.
7	Interest rate quotes and discount rates	I will explain interest rate quotes more. In addition, I will discuss discount rates and loans.
8	Introduction to bonds	I will explain basic terms of bonds and bond investment.
9	Yield to maturity	I will explain how to compute the yield to maturity.
10	Financial market	We discuss why bond prices change.
11	Stock valuation	I will explain basic terms of stocks and stock investments. In addition, I will explain basic valuation methods for stocks, i.e. the dividend discount model.
12	Stock valuation	I will explain limitations of dividend discount model. In addition, I will discuss share repurchases.
13	Financial statements	I will discuss major items on balance sheets and income statements.

14 Final examination I will give a final examination in class.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete reading assignments before class. In addition, students are given exercise problems to solve at home, which will prepare them for in-class quizzes. Correct answers to the exercise problems will be distributed later in class and some of the problems are explained in class. Students are expected to spend about four hours on preparatory study and review of each class.

## [Textbooks]

Jonathan Berk, Peter DeMarzo, and Jarrad Harford, Fundamentals of Corporate Finance, latest edition (Global Edition), Pearson Education.

## [References]

Richard Brealey and Stewart Myers, Principals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).

Richard Brealey, Stewart Myers and Alan Marcus, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).

Stephon Ross, Randolph Westerfield and Jeffrey Jaffee, Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).

Stephon Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).

Stephen Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Essentials of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).

Thomas Copeland, Fred Weston, and Kuldeep Shastri, Financial Theory and Corporate Policy, Addison Wesley (any recent edition).

## [Grading criteria]

80% on quizzes and final examination and 20% on class participation.

## [Changes following student comments]

I will cover less topics this year than last year to spend more time to each topic to be covered.

## [Others]

To gain better understanding of finance courses, including this course, you are strongly encouraged to take Introduction to Accounting and Introduction to Statistics in your first year at Global Business Program. In addition, you need to have basic knowledge in arithmetics to comprehend the contents of this class.

Please note that this course is held face to face and in a small classroom which accommodates only twenty plus students.

Therefore, the number of students to be admitted to this class is limited to twenty plus.

Note, however, that because this class is offered for GBP, GBP students are guaranteed a seat in this class, if they choose to register for it.

## [Prerequisites]

None

## [Upon threat level change]

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5506 (経営学 / Management 100)

## Introduction to Operations Management

Kiyoko YOSHIMURA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 金3/Fri.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4  
Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### 【Outline and objectives】

This course introduces the concepts, principles, problems, and practices of Operations Management.

Emphasis is on managerial processes for effective operations in goods-producing and service-rendering organizations.

Topics include operations strategy, process design, capacity planning, facilities location and design, forecasting, production scheduling, inventory control, quality assurance, and project management. The topics integrate using a systems model of the operations of an organization.

### 【Goal】

This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:

- Develop an understanding of and appreciation for any organization's production and operations management function.
- To understand the importance of productivity and competitiveness to organizations and nations.
- To understand the importance of an effective production and operations strategy to an organization.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP4" and "DP5" diploma policies.

### 【Method(s)】

Face to Face (except #1 session)

Since this course is Introduction to Operations Management, it will be delivered mainly through lectures so the students can grab the basic knowledge of Operations Management. However, we have several case discussions. When the case is discussed, we are less concerned with "right" or "wrong" answers. Therefore, students are expected to participate in building their discussion skills. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

### 【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	INTRODUCTION - Getting started	Course Introduction What is operation management?
2	COMPETITIVENESS and PRODUCTIVITY	Production Planning Competitive Priorities
3	FORECASTING	Demand Characteristics Forecasting and Operations Management
4	PRODUCT / SERVICE DESIGN	Product or Service Design Considerations Reliability
5	CAPACITY PLANNING	Capacity Planning for goods and services Decision Theory
6	PROCESS / FACILITY / LAYOUT DESIGN	Type of Processing Need for Layout Planning Facilities Layout
7	WORK DESIGN AND MEASUREMENT	Job design Quality of Work life Measurement

8	QUALITY MANAGEMENT	What is quality? Quality as a competitive advantage
9	MASTER PRODUCTION SCHEDULING	Master Production Scheduling MRP/ERP
10	SUPPLY CHAIN	Supply chain management Global Supply
11	PROJECT SCHEDULING AND CONTROL	Managing Project Network modeling with PERT/CPM
12	JIT AND LEAN OPERATIONS	JIT LEAN
13	SIMULATION	Conduct simulations in class Group discussion
14	OPERATION AS A COMPETITIVE WEAPON	Wrap up (Review the entire course)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【Textbooks】

There is no textbook required for this course.

Will supply course material (PowerPoint) in the class.

### 【References】

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.

Reading should be completed before class.

### 【Grading criteria】

In-class-Quiz: 50%

Mid-term Quiz: 10%

Case report(simulation): 20%

Final Quiz (in-class): 20%

Total:100%

### 【Changes following student comments】

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

### 【Equipment student needs to prepare】

None. The instruction will be given at the course if any.

### 【Others】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

ECN100FB-A5507 (経済学 / Economics 100)

## Introduction to Japanese Economy

Hideaki HIRATA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火3/Tue.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4  
Notes :

その他属性 : 〈ゲ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

This course provides an introduction to (1) the Japan's macroeconomic characteristics, (2) the Japan's current economic issues, and (3) the basic economic principles and methods.

After learning a brief history of the Japanese economy and the basic analytical tools of economics, we focus on Japan's labor markets, financial markets, corporate finance and capital investments, international transactions, and economic policies from the 1980s onward. Comparison with the other economies is frequently done.

By the end of the semester, you are expected to be able to utilize the theoretical and empirical tools practiced in this class to generate practical policy recommendations for Japan's major economic problems.

### [Goal]

This course is designed to provide students with opportunities to gain a basic understanding of the Japanese economy. The particular goals can be summarized as follows:

1. To learn the brief history of the Japanese economy after WWII
2. To learn the basic features of Japanese households, firms, and the government and to apply conventional economic theory to understand their behaviors
3. To strengthen analytical skills by discussing the strengths and limitations of Japan's corporate system, labor markets, economic policy, and so forth

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-3", "DP2-1", "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP1-2", "DP1-4" and "DP5" policies.

### [Method(s)]

This course mainly comprises lectures, slideshows, in-class activities, and discussions. All class materials are distributed through the LMS. Note that the order of the lectures might be changed from the below suggested schedule but what we will cover would not change very much. Regarding lecture style (in-person and/or online), I am flexible so that the suggested in-person and/or online style is just tentative and is subject to change.

I will give feedback on class assignments during the lecture and/or through Hoppii (i.e., LMS).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Syllabus guidelines; an overview of the Japanese economy's postwar macroeconomic performance.
2	Japanese economy and the World economy	The Japanese economy's postwar macroeconomic performance; basic economic statistics, such as GDP and its components.
3	Principles of Markets 1	Understanding what demand and supply are. Use various cases to theoretically see what happens in the market.
4	Principles of Markets 2	Understanding what would shift (=make changes in) demand and supply. Studying cases of what happened in the actual markets.
5	Principles of Markets 3	Understanding the concept of equilibrium and the drivers that change the equilibrium.
6	Money and Finance 1	The role of money & banking in the Japanese economy. The role of money circulating in the economy.
7	Money and Finance 2	Fundraising of firms and investors in the financial markets.

Week8	Money and Finance 3 Labor 1	Financial conditions of economic agents and their roles in the Japanese economy. Understanding the basic characteristics of Japanese labor markets.
Week9	Labor 2	Understanding the structural problems of Japanese labor markets.
10	International Trade 1	Basic characteristics of exports and import between Japan and the rest of the world. Understanding the changing nature of global production network.
11	International Trade 2 International Finance	Understanding the determinants of Japan's exports and imports. Understanding the role of cross-border financial transactions with the rest of the world.
12	Firms 1	The characteristics of Japanese firms and their corporate governance.
13	Firms 2	Agency problem and its importance in Japan.
14	Review	Q & A sessions and extra issues to strengthen students' understandings of lectures 1-13.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned materials and contribute to class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

Daron Acemoglu, David Laibson, John List (2021) Macroeconomics, Global Edition, Pearson.

This book is called "ALL" based on the authors' names. You SHOULD NOT buy this textbook before the first class meeting since a special instruction will be provided for the students of this class.

### [References]

1. Papers and newspaper articles will be assigned throughout the semester.
2. Greg Mankiw (2020) Principles of Economics, Cengage.
3. Ito and Hoshi (2020) The Japanese Economy, MIT Press.

### [Grading criteria]

Final exam: 100%. (1) Solving and submitting non-mandatory problem sets and (2) class participation (including non-mandatory problem sets) will give you extra points.

Final exam will be offered in-person. You might need PC (no smartphone or tablet) to take the exam properly.

The fail rate was less than 5% for the last 5 years.

### [Changes following student comments]

I tried to design this course to motivate students to be interested in learning economic ideas and to understand why those ideas are powerful.

### [Equipment student needs to prepare]

You need a computer/tablet. Most of the materials would be distributed electrically.

### [Others]

This course has no prerequisites. I strongly encourage students to take Principles of Macroeconomics, Principles of Microeconomics, Business Management in Japan, Japanese Innovation Management, Human Resource Management I / II, and Corporate Finance AFTER taking this course.

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

### [Prerequisites]

None

**[Upon threat level change]**

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

PRI100FB-A5509 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## Introduction to Informatics

Yasushi KODAMA

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 木2/Thu.2 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4

Notes :

その他属性 : 〈実〉

### 【Outline and objectives】

This course is aimed at students with little or no prior knowledge for operating computers but a desire computational approaches to problem solving. You can learn any basic computational operations using Microsoft Office software but also any theoretical meanings of informatics.

### 【Goal】

One of the goals of this course is to become familiar with basic operations for personal computers. Also you should learn how to solve the problems related to social sciences.

### 【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP2-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP1-4", "DP4" and "DP5" policies.

### 【Method(s)】

Mostly you can use the computers in the class room and you can learn any operations of computer software especially for Office software. At first you should learn how to login Windows operating system on the university's computers. After this course has started, the contents of the lesson will be provided on the Web site.

Use Google Classroom to answer questions, explain the assignment in detail, and give feedback to students on Google Classroom.

### 【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

### 【Fieldwork in class】

なし / No

### 【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Introduction	Introduction to this course. The goal of this course is specified. You can learn how to operate university's computers.
2nd	Word processing practice	Using Word Processing software, you can learn the basic operation of this software.
3rd	Electrical mail practice and networking theory	You can learn the network system and how to write e-mail scripts.
4th	Methodologies for presentation using software	Using the presentation software, you can learn the technical operations of it.
5th	Spreadsheet practice (1)	You can learn the basic operations of spreadsheets.
6th	Spreadsheet practice (2)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
7th	Spreadsheet practice (3)	It will test your ability of creating spreadsheets using business graphs.
8th	VBA practice(1)	You can learn about VBA(Visual Basic for Applications) as spreadsheet macro programs.
9th	VBA practice(2)	You can learn about VBA programming using the variables.
10th	How to build your home pages (1)	You can learn how to start to build a page as your home pages.
11th	How to build your home pages (2)	You can learn how to build your home pages using some tags.
12th	How to build your home pages (3)	You can learn how to build your home pages using the CSS (Cascading Style Sheets).
13th	How to build your home pages (4)	You can learn how to build your home pages using new style files and new pages.
14th	Workshop for solving problem	At the workshop of classroom, you should make a plan to present how to solve the problems.

### 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should autonomously learn the basic operations of personal computers. If you can not understand the contents of the lecture, you should ask us it in the classroom or investigate it by yourself. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【Textbooks】

Specified in the lecture.

### 【References】

Specified in the lecture.

### 【Grading criteria】

Participation rate (80%) and reports to present in the lecture (20%).

### 【Changes following student comments】

We devise lectures so that students can solve problems autonomously.

### 【Equipment student needs to prepare】

N/A

### 【Others】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

### 【Prerequisites】

We will adopt practical use cases that are useful in the business field and devise to develop problem solving skills.

### 【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5512 (経営学 / Management 300)

## Organizational Management II

Akira KAMOSHIDA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火3/Tue.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4  
Notes :

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This lecture focuses on the theory of organizational management, which forms the core of business administration, and covers the process of changes in management organization and the basic concept of the creation and operation of management organization in the modern age where information and communication technology has advanced and spread.

This lecture is offered as Organizational ManagementII, but by taking it in conjunction with Organizational ManagementI, you will be able to comprehensively learn about the basics and applications of management organization theory, as well as new research results and frameworks related to recent management organization theory.

Management organization theory has been developed in close relation with business administration theory and management strategy theory. In addition, with the socio-economic changes surrounding management, the rapid development and spread of information and communication technology, and the remarkable progress of service economy, it is necessary to constantly update the latest theories and cases with interest.

Therefore, in this lecture, we will introduce the latest topics and theories while updating the latest management trends at any time.

Especially in the second half of the lecture, a case discussion will be provided. I strongly hope that you will deepen your understanding of this and cultivate new knowledge and perspectives.

### [Goal]

- Understand the main basic theory of organizational management.
- To foster awareness of issues regarding organizational management.
- To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of organizational management.

### [Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4", "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policies.

### [Method(s)]

The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.

I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Organizational Management II, what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc.Organizational Management in the Age of Knowledge Society/Common Points of Innovative Companies/Management of Creativity and Emergence
2	Knowledge creation company / tacit knowledge management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Cross-cultural management and innovation / Silicon Valley and Venture Spirit	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Innovation management (1) / An organization that enhances innovation	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Innovation management (2) / Open Innovation and Ambidextrous Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up

6	Learning organization (1) / its definition and concept	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Learning organization ② / Research on organizational failure	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
Week8	Organizational Theory in the Age of Uncertainty / Agile Management / BCP Theory	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
Week9	Organizational theory of knowledge enterprises	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Organizational theory of entrepreneurship	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Organizational theory in the digital age	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Organizational theory of Japanese management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Case discussion	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

### [Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

### [Textbooks]

· Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

### [References]

We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand-outs and/or put on reserve at the university library.

### [Grading criteria]

Students will be graded based on the following criterions.  
50% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)  
50% Homework Assignment and Final Report  
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

### [Changes following student comments]

N/A

### [Equipment student needs to prepare]

PowerPoint may be used for the class presentation.

### [Others]

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

### [Upon threat level change]

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5515 (経営学 / Management 300)

## Human Resource Management I

Yoshio OKUNISHI

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火2/Tue.2 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4  
Notes :

その他属性 : 〈実〉

## [Outline and objectives]

This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.

Unlike many other fields in business and economics, practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure. So, I will spend most time in explaining practices among Japanese firms. But some common theories and international comparative perspectives are introduced as well.

More specifically, HRM I covers such topics as overview and methodology of HRM, environments of Japanese HRM, recruitment, training, promotion, performance evaluation, pay and benefits.

## [Goal]

Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

## [Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1" and "DP1-3" policies.

## [Method(s)]

This is a small-size lecture, and face-to-face. I use Hoppii for distributing course materials and making announcements. For each lecture time, I explain the basic knowledge of a theme, including legal framework, statistical facts, theory and arguments. Then I encourage students to express their own ideas and discuss them.

The feedback of the assignments will be given in class and in person.

## [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

## [Fieldwork in class]

なし / No

## [Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to HRM	Scope and methodology of HRM
2	Basic Principles of Human Behavior	Economic rationality and irrationality
3	Criteria to Evaluate Transactional or Organizational Performance	Efficiency and justice
4	Outline of Japanese Workforce	Demographic and workforce trends
5	Outline of Japanese Economy	Economic growth, prices and wages, and employment types
6	Staffing and Recruitment	Theory and practices, job market of new graduates in Japan
7	Human Capital Theory and Training	General and specific training, OJT and Off-JT
8	Promotion and Career Concerns	Patterns of career development and roles of promotion
9	Performance Evaluation (1)	Theory of performance evaluation
10	Performance Evaluation (2)	Practices of performance evaluation
11	Wages (1)	Typology and theory of wages
12	Wages (2)	Practices in Japan and historical changes
13	Fringe Benefits and Social Security	Theory and practices
14	HRM as a System	Complementarity among various parts of HRM

## [Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

I urge students to attend every class and to understand the contents well enough within class. To that end, it is essential to review the lecture at home, and to ask questions at the beginning of the next class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

## [Textbooks]

I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

## [References]

· Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources. John Wiley & Sons, Inc. This is an MBA level excellent textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.

· Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition). Wiley. This is a readable textbook of "personnel economics" by its pioneers.

· Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:

<http://www.jil.go.jp/index.html>

· Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:

<http://www.japaneselawtranslation.go.jp/>

## [Grading criteria]

I will not conduct any formal exams separately. Instead, I ask you to submit 2 or 3 assignments during the semester. The final grade is mainly based on the sum of those assignments (80%). The extent of class participation is also counted (20%).

## [Changes following student comments]

I want students to ask any questions they may have. Please do not hesitate. I also want to keep more time for discussions, say using case materials.

## [Equipment student needs to prepare]

Since I use Hoppii regularly and may use Zoom in case of the pandemic, a PC and internet accessibility will be required.

## [Others]

HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

## [Prerequisites]

Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

## [Upon threat level change]

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5533 (経営学/Management 300)

## Operations Management I

Kiyoko YOSHIMURA

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 金2/Fri.2 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

Operations Management I reviews the Operations Management in terms of the decisions corporates face in aligning operations with their competitive strategy. Topics include examining the activities and responsibilities of positioning and design decisions.

### [Goal]

This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:

- Develop an understanding of how corporate strategy defines a company's missions.
- To understand the trade-offs companies face in choosing between critical aspects of process design and operating decisions.
- To understand how product planning encompasses all the activities leading up to introducing, revising, or dropping the products.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

### [Method(s)]

Face to Face (except #1 session)

The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics.

There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, Students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Getting started Course Introduction Overall Operations Management
2	Product Planning and competitive priorities	Product planning Competitive priority
3	Service Operations Management	What are service operations? Key challenges
4	Customer relationship	Understanding your customer in service industry
5	Designing Customer Experience	What is customer experience? Why is service process design important?
6	Quality Management	Quality as a competitive advantage
7	Process Design	What is process design? Facets of process design Process analysis

8	Operations management topics	Outside speaker talking about one of topics of Operations Management
9	Capacity and Maintenance	Capacity Planning Maintenance
10	Location	Trends Factors affecting location decisions
11	Layout	Layout planning Strategic Issues Process layout
12	Simulation	How to organize your team Team building
13	Case discussion	Factors affecting Operations Management
14	Wrap-up Final Quiz	Wrap-up Final Quiz

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no textbook required for this course.  
Will supply course material (PowerPoint) in the class.

[References]

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.  
Reading should be completed before class.

[Grading criteria]

In-class-Quiz: 50%  
Mid-term Quiz: 10%  
Case report(simulation): 20%  
Final Quiz (in-class): 20%  
Total : 100 %

[Changes following student comments]

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

[Equipment student needs to prepare]

None. The instruction will be given at the course if any.

[Others]

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

MAN300FB-A5534 (経営学 / Management 300)

## Operations Management II

Kiyoko YOSHIMURA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 金2/Fri.2 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4  
Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

Operations Management II reviews the management of operations in terms of operating decisions. Topics include a review of the activities and responsibilities of operations management, the tools and techniques available to assist in running the operation, and the factors considered in the system's design.

### [Goal]

This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:

- Develop an understanding of forecasting and materials management, functions tied to most operation decisions.
- Look at approaches to production/staffing plans and master production schedules.
- Necessary inputs to the workforce, operations, and project schedules.
- To understand the importance of project management.
- To understand what is happening in the organizations and the importance of an effective "way of working."

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

### [Method(s)]

Face to Face (except #1 session)

This course follows Operations Management I. However, students can take this course separately. The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics. There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	INTRODUCTION - Getting started	Course Introduction Overall Operations Management
2	Materials Management	Importance of Materials Management Function of Materials Management Purchasing and Distributions
3	Inventory Management	Importance of inventory Economic Order Quantity Periodic Review system
4	Production and Staffing Plans	Production and Staffing Plans Managerial Importance
5	Master Production Scheduling	MPS MRP ERP
6	Supply chain Management	Supply Chain Management Global Supply
7	Queue Management	Waiting Lines Management
8	Driving Continuous Improvement	Main approaches to continuous improvement Sustain continuous improvement
9	Learning from Problems	Why problem occur? Dealing with issues Organizational culture
10	Project Management I	Project management and organization What is project management?
11	Project Management II	AJAIL/SCRUM Lean operation
12	SIMULATION I	Conduct simulations in class with various settings Group discussion / Results
13	SIMULATION II	Conduct some simulations in class with various settings Group discussion / Results

14 Course Review Wrap up  
(Review the entire course)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no textbook required for this course.

Will supply course material (PowerPoint) in the class.

[References]

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately. Reading should be completed before class.

[Grading criteria]

In-class-Quiz: 50%

Mid-term Quiz: 10%

Case report(simulation): 20%

Final Quiz (in-class): 20%

Total: 100 %

[Changes following student comments]

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

[Equipment student needs to prepare]

None. The instruction will be given at the course if any.

[Others]

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

ECN300FB-A5535 (経済学 / Economics 300)

## Principles of Macroeconomics

Mitsuru Katagiri

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：水1/Wed.1 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：2～4

Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

This course gives students an overview of macroeconomic issues: economic growth, inflation, interest rates, and exchange rates. Topics include policy issues such as government expenditures, taxation, and monetary policy. Given that all industries in the world are influenced by macroeconomic situations, those issues are necessary for not only policymakers but also people in most industries.

### [Goal]

Macroeconomics is a necessary tool for understanding economic issues and policies. The goal of this course is to acquire basic knowledge of macroeconomics and to understand how to use the knowledge of macroeconomics to resolve challenges in business.

### [Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-3", "DP2-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3", "DP4" and "DP5" policies.

### [Method(s)]

The lectures are based on slides and "MyLab," an e-learning platform by Pearson. Also, in the class, recent economic issues in newspapers, magazines, etc., are introduced to learn how to use macroeconomics to deal with real economic and business problems. Feedback on class assignments will be given in the class.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Class 1	Introduction	This lecture provides several key points for using economics to resolve real economic issues and explains the purpose of studying macroeconomics.
Class 2	A Brief Introduction to Microeconomics	This lecture covers the knowledge of microeconomics for studying macroeconomics, particularly the price mechanism to balance supply and demand.
Class 3	The Wealth of Nations	This lecture provides the concept of GDP and inflation and explains why it is an important measure to assess economic activity.
Class 4	Aggregate Incomes	This lecture focuses on very large differences across countries in income and explains that technology and the efficiency of production are key to accounting for the cross-country differences.
Class 5	Economic growth	This lecture explains why economic growth is important for everyone's economic activity and what encourages long-term economic growth (education, population growth, etc.).
Class 6	Why Isn't the Whole World Developed?	This lecture asks: What has prevented poor countries from catching up to the level of prosperity of developed countries? We examine various factors for economic development.
Class 7	Employment and Unemployment	This lecture covers labor market issues including unemployment rates and wages and explains the effects of government labor market policies.
Class 8	Credit Markets	This lecture explains the role of financial markets and banks in encouraging long-term investment for economic growth.

Class 9	The Monetary System	This lecture explains the role of central banks (i.e., the Bank of Japan in Japan and FRB in the U.S.) such as issuing currencies and conducting monetary policy.
Class 10	Short-Run Fluctuations	This lecture explains what we observe in economic booms and recessions, including the global financial crisis in 2008-2009, and what causes those short-term fluctuations.
Class 11	Countercyclical Macroeconomic Policy	This lecture covers fiscal and monetary policies by the government and the central bank and describes their effects on economic activity and inflation.
Class 12	Macroeconomics and International Trade	This lecture covers recent trends in international trade across countries and explains what a key driving force for the trade pattern under globalization is.
Class 13	Open Economy Macroeconomics	This lecture covers exchange rates and their determinants and explains their relationship with trade and international capital flows.
Class 14	Final Exam	We have an in-class examination.

### [Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to briefly read the corresponding chapter of the textbook before each class. Also, after the class, students are expected to review what they learned in the class and read articles in newspapers and magazines assigned in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

Macroeconomics (Global Edition, 3rd edition), by Daron Acemoglu, David Laibson, and John List. You can access the textbook via MyLab, provided by Pearson.

### [References]

Other teaching materials, including articles in newspapers and magazines, will be provided in the class.

### [Grading criteria]

The grades are based on (1) the final exam (30%), (2) the assignments (40%), and (3) class attitude (30%). Depending on the number of participants, the final exam is canceled, and the grade is based only on the assignments and class attitude. The students can discuss with other classmates and refer to textbooks when working on the homework, but all students should individually submit the assignments.

### [Changes following student comments]

I will try to have more transactions with students in class by asking questions etc.

### [Equipment student needs to prepare]

All students must purchase MyLab, a computer-based e-learning platform by Pearson, to access the assignments and the textbook (around 30 USD). However, students who bought MyLab for "Principles of Microeconomics" do not need to buy it again.

### [Prerequisites]

None

### [Related Subjects]

Principles of Microeconomics

### [Related Subject]

Introduction to Japanese Economy

MAN300FB-A5537 (経営学 / Management 300)

## Japanese Innovation Management

Noriko TAJI

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 水4/Wed.4 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes :

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

The objective is to understand recent Japanese companies management. This lecture focuses on how to find a business opportunity and commercialize it by utilizing internal and external management resources.

This lecture covers the following:

1. Understanding innovation projects using the case study method.
2. Strategies and operations in the process of new business development.
3. How to found and grow a startup business.

### [Goal]

Students can understand notions of innovation management and strategy.

Students can explain and discuss about issues of strategy and marketing.

Students can judge current companies' decisions that are shown on news papers.

Students can choose a good company or startup when searching a job.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP2-1" and "DP4" policies.

### [Method(s)]

In case of CORVID 19 matter, half classes will be conducted by delivering documents and video files. A short video is uploaded on Hosei system. A long video is uploaded on a private URL of YouTube. Videos will disappear in two weeks. Please upload your assignment on Hosei system till the deadline. And the left classes will be on-line lectures. Regarding feedbacks, your assignment will be introduced in the next class, then you will get comments from the teacher and classmates. Regarding the first week, it will be conducted by ZOOM system.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction/ Radical & incremental innovation	Analog camera: Kodak
2	Disruptive and sustaining technology	Digital camera: Fuji Film
3	Radical innovation in the watch industry in Japan	Quartz watch: Seiko
4	Commoditization	Quartz watch: Seiko LCD TV: Sharp
5	Radical innovation in the watch industry in Europe	A fashion gear watch: Swatch
6	Defining concept design in the consumer market	An unbreakable watch "GSHOCK": Casio Computer①
7	Building a global brand in the consumer market	An unbreakable watch "GSHOCK": Casio Computer②
8	Product development in a middle-size manufacturing company	A new switch equipped with LCD display: NKK Switches①
9	Global strategy in a middle-size manufacturing company	A new switch equipped with LCD display: NKK Switches②
10	Approaching Globalization	How to sell Swedish furniture in Japan: Ikea
11	Finding a business opportunity by startup	Semiconductor inspection equipment: RAYTEX①
12	Growing process of a startup	Semiconductor inspection equipment: RAYTEX②
13	Academic Startup in the Life Science Field	Regenerative Medicine: CellSeed ①

14 Pursuing Commercialization ① Regenerative Medicine: CellSeed ①

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)] Beforehand, case descriptions are delivered. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

No specified textbooks

Case descriptions can be downloaded on the web.

### [References]

No specified references

### [Grading criteria]

Each assignments (70%), final report (30%)

[Changes following student comments]

The similar lecture was provided as ESOP Program in 2015 and 2016. Discussion time and video was appreciated by students.

The first lecture for GBP was done in 2017. Students were divided into groups of three and discussed about assignments.

[Equipment student needs to prepare]

PC

[Research Theme]

Innovation Management

High-tech startups

Entrepreneurship

[Representative English paper]

"Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, *Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy*, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014

"Guess Country Report, Japan" Noriko Taj, et.al., *Global University Entrepreneurial Spirit Students' Survey*, University of St.Gallen, 2012, 2014, 2016.

"Psychological Predictors of Entrepreneurial Interest in Japan" Noriko Taji & Yu Niiya, *Innovation management*, Hosei University, No.9, pp.61-72, 2012

[Representative Japanese book]

*Strategy of High Tech Startups*, Noriko Taji and Emiko Tsuyuki, Toyo Keizai Shinposha, 2010, printed in Japanese.

*Architectural Innovation*, Noriko Taji, Hakuto-shobo, 2005, printed in Japanese.

*Career Design*, Noriko Taji, First Press, 2008, printed in Japanese.

[Recommended lecture]

Introduction to Strategic Management, Introduction to Marketing, Strategic Management, International Business, Principles of Marketing

MAN300FB-A5540 (経営学 / Management 300)

## Special Topics in Management B

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：木3/Thu.3 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：2～4  
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

### 【Outline and objectives】

This course is aimed to learning Strategic Marketing, Consumer Behavior theory and its framework that is mainly focused both domestic and global business, and understanding strategic marketing and consumer behavior principles and way of thinking through case study and discussions.

This course focuses on lectures and case discussions on strategic marketing and consumer behavior.

The course will be conducted with lectures and discussions from various perspectives on marketing and consumer behavior theory. Students are expected to actively participate in the class.

### 【Goal】

・ Understand the main basic theories of strategic marketing, consumer behavior.

・ To foster awareness of issues regarding strategic marketing, consumer behavior.

・ To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

### 【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

### 【Method(s)】

The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay. I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

### 【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

### 【Fieldwork in class】

なし / No

### 【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Marketing and consumer behavior theory, what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is Marketing?
2	Successful Selling ① /Marketing Management	Marketing models/Focused marketing Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Successful Selling ② /Marketing Management	Customer service/Strategic planning Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Successful Selling ③ /Marketing Management	Brand creation/Customer loyalty Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Marketing Case study/Group work	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Marketing Case study/Group work	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Customer Strategy/Customer satisfaction theory, Customer Loyalty	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Customer Strategy/ Customer Value analysis	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Customer Strategy/ premium price theory, WTP, CLTV analysis	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Luxury strategy/ luxury brand management theory	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Luxury strategy/ Group work Whatis Luxury?/premium is not luxury	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up

12 Luxury strategy/  
Group work/case  
study Student presentation, class  
discussion, lecture & Wrap up

13 Anti-law of marketing  
Luxury strategy/  
Group work/case  
study Student presentation, class  
discussion, lecture & Wrap up

14 Group Presentation /  
Wrap Up Group Presentation  
Class Discussion  
Wrap Up

### 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

### 【Textbooks】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

### 【References】

We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand - outs and/or put on reserve at the university library.

### 【Grading criteria】

Students will be graded based on the following criterions.

50% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)

50% Homework Assignment and Final Report

Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

### 【Changes following student comments】

N/A

### 【Equipment student needs to prepare】

PowerPoint may be used for the class presentation.

### 【Others】

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

### 【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5542 (経営学 / Management 100)

## Workshop I

Akira KAMOSHIDA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
 曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya  
 毎年・隔年： | 科目主催学部：経営 Business Administration  
 備考（履修条件等）：  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim is to focus on social innovation to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs), which have received a lot of attention in recent years, and to learn about social business for this purpose. What is Social Business? Based on a systematic understanding of management theory, participants will learn about social innovation to achieve the goals of the SDGs and the social business that makes it possible. During the workshop, guest speakers from fields related to the 17 SDGs goals will be invited to give lectures and lead discussions, followed by group exercises and presentation discussions by the students to deepen their understanding in a more practical way.

### 【到達目標】

- ・ Understand the purpose and content of the SDGs
- ・ Understand the definition and characteristics of social enterprise.
- ・ Understand the purpose and different methods of social innovation, and understand social enterprises to achieve SDGs from different angles.
- ・ Develop a background for understanding and discussing topics related to the SDGs in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

This course is strongly related to the "DP2-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP4" and "DP5" policies.

### 【授業の進め方と方法】

The entire course is delivered in an interactive manner, allowing you to actively participate in the class. You will be required to participate in discussions and assignments with your team members. You will have to submit a commentary report for some classes and several team presentations during the course. At the end of the course you will have to submit an essay.

I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation / Guidance of Workshop	Explain the purpose and method of the workshop, how to proceed / Explain group exercises, grade evaluation, etc./Overview the SDGs and social business
2	SDGs and Social Business ① /Sustainable Development Goals What are SDGs?	What are the SDGs adopted at the United Nations Summit in September 2015? Explain the social issues facing the world and Japan and their efforts.
3	SDGs and Social Business ② / Role of Social Business in SDGs	An overview of the efforts of the Japanese government and local governments in the SDGs. Discuss the role how social business can play.
4	SDGs and social business ③/ Case study of global collaboration in SDGs	Group exercises: Case study of global collaboration (industry-government-academia-civil)and social business in the SDGs
5	Guest talk and discussion ①	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
6	Guest talk and discussion ②	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
7	Guest talk and discussion ③	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report

8	Guest talk and discussion ④	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
9	Guest talk and discussion ⑤	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
10	Guest talk and discussion ⑥	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
11	Group Work ① /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ① Group discussion / Class discussion
12	Group Work ② /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ② Group discussion / Class discussion
13	Group Work ③ /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ③ Group discussion / Class discussion
14	Wrap Up / Group Presentation	Group Presentation/Class Discussion/Wrap Up/

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the text in advance, do the assignments given in class, and submit via Hoppii by the specified deadline  
 The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

### 【テキスト（教科書）】

No specific textbook is used.

### 【参考書】

Introduce as appropriate during class.

### 【成績評価の方法と基準】

Students will be graded based on the following criterions.  
 60% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)  
 40% Comment report, Presentation and Final Report (individual essay)  
 Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

### 【学生の意見等からの気づき】

After explaining the theory, set aside time for questions and answers to deepen students' understanding.

### 【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint may be used for the class presentation.

### 【Others】

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

### 【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5542 (経営学 / Management 100)

## Workshop I

Akira KAMOSHIDA

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火3/Tue.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

The aim is to focus on social innovation to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs), which have received a lot of attention in recent years, and to learn about social business for this purpose. What is Social Business? Based on a systematic understanding of management theory, participants will learn about social innovation to achieve the goals of the SDGs and the social business that makes it possible.

During the workshop, guest speakers from fields related to the 17 SDGs goals will be invited to give lectures and lead discussions, followed by group exercises and presentation discussions by the students to deepen their understanding in a more practical way.

### [Goal]

- Understand the purpose and content of the SDGs
- Understand the definition and characteristics of social enterprise.
- Understand the purpose and different methods of social innovation, and understand social enterprises to achieve SDGs from different angles.
- Develop a background for understanding and discussing topics related to the SDGs in English.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]  
This course is strongly related to the "DP2-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP4" and "DP5" policies.

### [Method(s)]

The entire course is delivered in an interactive manner, allowing you to actively participate in the class. You will be required to participate in discussions and assignments with your team members. You will have to submit a commentary report for some classes and several team presentations during the course. At the end of the course you will have to submit an essay.

I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Guidance of Workshop	Explain the purpose and method of the workshop, how to proceed / Explain group exercises, grade evaluation, etc./Overview the SDGs and social business
2	SDGs and Social Business ① /Sustainable Development Goals	What are the SDGs adopted at the United Nations Summit in September 2015? Explain the social issues facing the world and Japan and their efforts.
3	SDGs and Social Business ② / Role of Social Business in SDGs	An overview of the efforts of the Japanese government and local governments in the SDGs. Discuss the role how social business can play.
4	SDGs and social business ③/ Case study of global collaboration in SDGs	Group exercises: Case study of global collaboration (industry-government-academia-civil)and social business in the SDGs
5	Guest talk and discussion ①	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
6	Guest talk and discussion ②	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
7	Guest talk and discussion ③	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
8	Guest talk and discussion ④	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report

9	Guest talk and discussion ⑤	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
10	Guest talk and discussion ⑥	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
11	Group Work ① /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ① Group discussion / Class discussion
12	Group Work ② /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ② Group discussion / Class discussion
13	Group Work ③ /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ③ Group discussion / Class discussion
14	Wrap Up / Group Presentation	Group Presentation/Class Discussion/Wrap Up/

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Read the text in advance, do the assignments given in class, and submit via Hoppii by the specified deadline

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

[Textbooks]

No specific textbook is used.

[References]

Introduce as appropriate during class.

[Grading criteria]

Students will be graded based on the following criterions.  
60% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)

40% Comment report, Presentation and Final Report (individual essay)  
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

[Changes following student comments]

After explaining the theory, set aside time for questions and answers to deepen students' understanding.

[Equipment student needs to prepare]

PowerPoint may be used for the class presentation.

[Others]

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

[Upon threat level change]

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5543 (経営学 / Management 100)

## Workshop II

Azusa Ebisuya

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 月2/Mon.2 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

## 【Outline and objectives】

Many international workers in Japan are tackling issues related to adapting to the corporate culture, building interpersonal relationships at work, and maintaining their work-life balance. This course will provide students with opportunities to learn how to maintain the joy of working and succeed as international workers in Japanese companies through hearing real-life scenarios from practitioners.

## 【Goal】

The students are expected to obtain understanding on critical issues faced by international employees in Japanese companies, and how these issues are being tackled. The students will be able to effectively blend in with the Japanese community and/or work environments based on the knowledge obtained through this course.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-4" and "DP3" policies.

## 【Method(s)】

This course will comprise meaningful talks by practitioners, question and answer sessions, and discussions. The guest speakers will be invited from Japanese companies located in Tokyo and surrounding area, which include both big and small-to-medium-sized enterprises (SMEs). The students will be assigned to give a presentation as well as to write a term-paper at the ending of the course. Feedback on class assignments will be given through the Hosei University Course Management Support System (Hoppii).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

## 【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	<ul style="list-style-type: none"> <li>Introduction to the international collaboration project</li> <li>How to prepare for each class</li> <li>Communication initiation</li> <li>Team building</li> </ul>
Week 2	International Collaboration Project (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Working in an international team</li> <li>Coping with conflicts</li> <li>Working in an international team</li> </ul>
Week 3	International Collaboration Project (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Poster designing</li> <li>Working in an international team</li> </ul>
Week 4	International Collaboration Project (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Group assignment</li> <li>Presentation by assigned teams</li> <li>Class discussion</li> </ul>
Week 5	International Collaboration Project (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation by assigned teams</li> <li>Class discussion</li> </ul>
Week 6	Project Presentation (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 7	Project Presentation (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 8	Guest Talk and discussion (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 9	Guest Talk and discussion (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 10	Guest Talk and discussion (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 11	Guest Talk and discussion (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 12	Guest Talk and discussion (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 13	Guest Talk and discussion (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Guest lecture</li> <li>Class discussion including Q&amp;A</li> <li>Comment sheet</li> </ul>
Week 14	Course Review	<ul style="list-style-type: none"> <li>Review and discussion based on the topics brought by guest speakers</li> </ul>

## 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials and prepare a few questions for the guest speaker. The materials for each week will be shared through the web-system. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

## 【Textbooks】

None

## 【References】

Supplementary reading materials and/or websites will be shared through the web-system.

## 【Grading criteria】

Poster: 15%

Group Report: 15%

Individual Paper: 20%

Project Presentation: 20%

Sheet Submission: 30%

## 【Changes following student comments】

Not applicable.

## 【Equipment student needs to prepare】

We'll use the Hosei University Course Management Support System for sharing reading materials and handouts, and submitting papers.

## 【Others】

This course will invite practitioners as guest lecturers from Japanese big and small-to-medium-sized enterprises. Guests will include CEOs of international companies, team managers having international colleagues, and non-Japanese team-managers who are training international workforces.

## 【Prerequisites】

None

MAN100FB-A5546 (経営学 / Management 100)

## Special Topics in Global Business C

Kazuhiro AKITOMO

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 金5/Fri.5 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4

Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### [Outline and objectives]

The course is built around basic Global Business Expansion Strategies and is designed to enable students to familiarize themselves with all the critical variables which business leaders must consider in making global business management decisions.

The emphasis is on practical approaches so that after entering the corporate world, students will be ready to be global business specialists in corporate enterprises or consulting firms.

### [Goal]

Students will be prepared to create business case proposals centered on entering new geographical markets, with compelling reasons for a firm to expand its businesses.

1. Understanding critical variables to be considered for a firm to go global
2. Acquiring knowledge of entry strategies and methodologies for location choice
3. Learning tasks and challenges which modern global companies are facing

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3" and "DP4" policies.

### [Method(s)]

For the first half of the semester, 50% lectures and 50% active learning. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. This will particularly be the case in the second half of the semester. Some examples of active learning are group work, case studies with discussions and debates, team presentations, etc. This course provides students with a series of live presentations including Q&A sessions on specific topics related to global business expansion from experienced, globally active business leaders. The presentations by guest speakers are online. Before each presentation, the instructor will give necessary frameworks to facilitate understanding of the subject. Students are expected to prepare questions in advance so that the Q & A sessions will be fruitful for the students. After the presentation, any remaining time will be devoted to discussions among students and the instructor.

The plan is to conduct this course in a classroom. However, depending on the pandemic situation, the course may be held remotely via Zoom or equivalent software.

Instructor will give students his oral and written feedback on their assignments in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	*Ice-breaking session *Students feedback of the instructor's previous course and changes following the feedback
Week 2	Understanding Economic Systems and Business	*What is management study? *GDP vs GNP/ Per capita GDP *International vs Global *Development of Emerging Economies *Japan's challenge
Week 3	Why do firms go abroad?	*Reasons for going abroad *Pros and Cons for Business Globalization *Risks associated with Global Businesses *Refutation to Cons for Business Globalization

Week 4	Entry Modes and Stages of Globalization	*Seven Approaches to Foreign Markets *Frameworks vs Theory *The PEST/The CAGE/The AAA *Stages of Transnational Development of a Firm *Born-Global & BAG firms *Cross-border investment & Transaction Types
Week 5	Modes of Entry-1	*Indirect Exporting/Importing *Types of Channels *Consignment production/OEM/ODM *Licensing/Franchising *FDI (Foreign Direct Investment) *Risks & Rewards
Week 6	Modes of Entry-2	*Green Field Operations *M&A, and JV *Risks and Rewards *Why do firms choose FDI? *OLI-Paradigm
Week 7	Modes of Entry-3 Cultural aspects and MNCs	*OLI Paradigm vs Dynamic OLI-Paradigm *What is a Strategic Alliance? *What is an International JV? *Fabless, OEM revisited *Geert HOFSTEDE, Erin MEYER
Week 8	Globalization and CSR/Challenges for Japan's Multinational Corporations	*SDGs *ESG *CSV *HR management in MNCs
Week 9	Mid-term examination: 60 minutes	The exam.: closed books written test.
Week 10	Explanation of the Team Presentations Review of the Mid-term exam. Preparation for online guest speaker	*Instructor explanation on the correct answers for the mid-term exam. *Students preparation for Q&As for the upcoming guest speaker session.
Week 11	Online guest speaker Q & A	Challenges for Japan's Multinational Corporations (Tentative)
Week 12	Team presentations-1	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q&A session will be conducted.
Week 13	Team presentations-2	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q&A session will be conducted
Week 14	Course wrap-up	Instructor will give either new topics for class discussions or revisit topics that the course covered.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Students are requested to complete reading assignments prior to class.
- Students are required to spend 4 hours of study time each week to prepare for class activities.
- Students are expected to allot time outside of class to meet with their team members for discussion and preparation of team presentations.

[Textbooks]

- Slides and additional reading materials will be provided via Hoppii (Hosei portal site).

[References]

- Cornelis A. de Kluyver and John A. Pearce II Global Business Strategy. New York Business Expert Press, LLC 2021
- Howard Thomas, Richard R. Smooth, Fermin Diez Human Capital and Global Business Strategy. Cambridge UK, Cambridge University Press, 2013
- Lawrence J. Gitman, Carl McDaniel, Amit Shah and et.al Introduction to Business. Houston, Texas OpenStax Rice University,

**[Grading criteria]**

Student grades will be based on the following:

50% Mid-term test score

30% In-class Participation

20% Contribution to Team Presentation

**[Changes following student comments]**

Students feedback of the instructor's previous course and changes following the feedback will be presented at the first class.

**[Equipment student needs to prepare]**

A personal computer with MS PPT, Excel, and Word software

High speed internet connection

**[Others]**

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, the number of students allowed to register for the course may be limited for the instructor to manage the class effectively.

Attendance is checked every class. If you cannot attend class due to illness or other unavoidable reasons, please notify the instructor via email about your absence and its legitimate reason before the start of the class. Students with more than two unexcused absences or absences without a valid reason will not be eligible to earn credits for this course.

The instructor had worked for a Japanese manufacturing company for 42 years. He worked in the U.S. to develop markets for the company's products and customers for nearly 11 years. He worked in Germany for six years as President of the European Regional Headquarters of the company.

**[Prerequisite]**

Students should at least be knowledgeable of basic business terminologies; therefore, being sophomores or juniors with a business major or equivalent is advisable.

CAR300FB-A5548 (キャリア教育 / Career education 300)

## Internship

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：集中・その他 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：1～4

Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course offers intensive well-mentored educational internships complementary to classroom education at companies who understand that students registered are capable of making a real contribution to their companies. It allows students to experience a real-world industry project while simultaneously working towards the completion of 2 academic credits.

### [Goal]

Students will learn through hands-on activities how a manager starts and carries out a new business project. In the fall semester after the internship, students will make a presentation to introduce the company and explain how the organization worked effectively based on their experiences and observations.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

### [Method(s)]

The class registration will open in the 2024 spring semester (in May). Those who are interested in this program will have to participate in the introduction and preparation meetings which will be held during the 2024 Spring semester. The cooperating managers might need to select the interns from the applicants if they have more number of applicants than they can accept.

The (selected) interns will commute to the company on fixed dates during the summer 2024 and learn through hands-on activities. In the 2024 Fall semester, the interns will make a presentation on what they learned from their internship experience.

Feedback on class assignments will be given through the Hosei University Course Management Support System (Hoppii).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction meeting	<ul style="list-style-type: none"> <li>What is the purpose of internship?</li> <li>What will you do as an intern?</li> <li>Introduction of Internship Company</li> </ul>
2	Preparation meeting	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tips to succeed as an intern</li> <li>How to keep a meaningful journal</li> </ul>
3	Internship 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
4	Internship 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
5	Internship 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
6	Internship 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
7	Internship 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
8	Internship 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
9	Internship 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
10	Internship 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
11	Internship 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>

12	Internship 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>Work with your mentor</li> <li>Observe and learn how to carry out a business project</li> </ul>
13	Review and presentation preparation	<ul style="list-style-type: none"> <li>Read your own journal</li> <li>Reflect the lessons you obtained through the internship</li> <li>Prepare for your presentation</li> </ul>
14	Program-ending Presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>Individual presentation</li> <li>Program Review</li> </ul>

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Interns will write a journal during the internship (and submit it to the instructor after the internship experience). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Not applicable.

[References]

Not applicable.

[Grading criteria]

Participation in Introduction/Preparation meetings: 20%

Mentor's Evaluation: 30%

Internship Journal: 20%

Program-ending Presentation: 30%

[Changes following student comments]

During the students' internship, the instructor will communicate with the students as appropriate and address any concerns together.

[Equipment student needs to prepare]

Please follow the mentor's direction.

[Prerequisite]

None

[Upon threat level change]

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5552 (経営学 / Management 300)

## Seminar

Kiyoko YOSHIMURA

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 水4/Wed.4 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

In this course, students learn the product/service design and operation management processes through 14 sessions.

Also, this course focuses on Operations Management efficiency/productivity, especially improvement in day-to-day activities. The course introduces the tools and techniques available to assist the operation and the factors considered in the job process design.

## 【Goal】

This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices by learning tools and cases in the real world.

After completing this course, students should be able to understand what is happening in society by learning how to develop an operation plan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

## 【Method(s)】

Face to Face (except #1 session)

Each seminar session consists of discussions following the lectures with the case, process, and/or tool introduction of real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of how Operations Management works or contributes to the real world. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction of Seminar Objective and course
2	Design thinking and Critical Thinking	Designing thinking Critical Thinking Designing own plan1
3	Designing Operation plan	Designing own plan2
4	Operation plan (1)	Project Charter
5	Operation plan (2)	Development of operation plan
6	Feasibility (1)	Feasibility of operation
7	Feasibility (2)	Risk management plan Scope management plan
8	Case assessment of own case1	Quality management
9	Case assessment of own case2	Success factor and pitfalls
10	Project Ethics / Compliance	Consideration factors of Ethics and Compliance for the project planning
11	Corporate critical decisions I	Case discussion on Firms' Operations
12	Corporate critical decisions II	Case discussion on Service Operations
13	Discussion on the case study	Pick up the real case study and discuss
14	Wrap up	Presentation Review the entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no textbook required for this course.

Course material (PowerPoint) will be supplied in the class.

【References】

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.

Reading should be completed before class.

【Grading criteria】

In-class-Quiz: 50 points (60%)

Mid-term report:20 points (20%)

Case presentation: 30 points (30%)

Total: 100 points (100%)

In each of the courses, students may be required the group work. The group work results should be presented in class.

【Changes following student comments】

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】

None. The instruction will be given at the course if any.

MAN300FB-A5554 (経営学 / Management 300)

## Seminar

Kiyoko YOSHIMURA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 水4/Wed.4 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4  
Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈実〉

### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to explore business concepts in a seminar format through the examination of real-world business cases and tools. Students are encouraged to actively participate in discussions, incorporating aspects of their home-country background into their ideas. This approach allows other students to gain insights into how various countries operate and what topics interest them on a global scale.

### 【Goal】

The objective of this course is to learn about business in a seminar format by studying real-world business cases and tools. Many topics will be discussed from the perspective of "Operations Management," which is crucial for running actual businesses. Through discussions, the course aims to enhance students' understanding of the concepts, principles, problems, and practices related to the operations of business.

Upon completing this course, students should have a better understanding of societal events, especially from the standpoint of operating businesses, and be able to discern what is happening in the business world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

### 【Method(s)】

Face to Face (except #1 session)

Each seminar session consists of discussions following the lectures with the case, process, and/or tool introduction of real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of how Operations Management works or contributes to the real world. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction of Seminar Objective and course
2	Understanding the Environments of Business	Understanding the Environments of Business
3	Understanding the Business Enterprise	Understanding the business enterprise
4	Employee Behavior and Motivation	Forms of employee behavior
5	Operation Management in corporation 1	Understanding the product management
6	Operation Management in corporation 2	Understanding the service management
7	Customer experience	Understanding the customer experience

8	Efficiency and Productivity 1	Automation success factors and considerations What does DX mean?
9	Efficiency and Productivity 2 by Agile	What are the Agile / SCRUM?
10	Agile experience with simulation (1)	1 Experiencing in Agile project
11	Agile experience with simulation (2)	2 Experiencing in Agile project
12	Global Environment and Talent Management	How to Retain and Develop Talent
13	Business Ethics and Social Responsibility	Ethics in the workplace Social responsibility
14	Wrap-up / Presentations	Presentations Review the entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no textbook required for this course.  
Course material (PowerPoint) will be supplied in the class.

【References】

Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.  
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】

In-class Quiz: 50%  
Report 1: 20%  
Report2 + Presentation:30%  
Total: 100 %

In each course, students may be required to engage in group work. The outcomes of the group work should be presented in class.

【Changes following student comments】

Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】

None. The instruction will be given at the course if any.

MAN300FB-A5553 (経営学 / Management 300)

## Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：火2/Tue.2 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：2～4

Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc. with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

## 【Goal】

- ・ Understand the main basic theories of management science.
- ・ To foster awareness of issues regarding management science.
- ・ To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

## 【Method(s)】

The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay. I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up

14 Group Presentation / Group Presentation  
Wrap Up Class Discussion  
Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

## 【Textbooks】

- ・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

## 【References】

- ・ Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021

- ・ James Teboul, Service is Front Stage, INSEAD Business Press, 2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)

- ・ Joe Tidd and Frank M Hull, Service Innovation, Imperial College Press, 2003 (ISBN-13 978-1-86094-367-6).

We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand-outs and/or put on reserve at the university library.

## 【Grading criteria】

Students will be graded based on the following criterions.

60% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)

40% Comment report, Presentation and Final Report (individual essay)

Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

## 【Changes following student comments】

Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

## 【Equipment student needs to prepare】

PowerPoint may be used for the class presentation.

## 【Others】

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

## 【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5551 (経営学 / Management 300)

## Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火4/Tue.4 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4  
Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈実〉

### 【Outline and objectives】

This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc. with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

### 【Goal】

- Understand the main basic theories of management science.
- To foster awareness of issues regarding management science.
- To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

### 【Method(s)】

The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay. I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up

14 Group Presentation / Group Presentation  
Wrap Up Class Discussion  
Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】

· Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】

· Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021

· James Teboul, Service is Front Stage, INSEAD Business Press, 2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)

· Joe Tidd and Frank M Hull, Service Innovation, Imperial College Press, 2003 (ISBN-13 978-1-86094-367-6).

We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand-outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】

Students will be graded based on the following criterions.

60% Class Contribution ( Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)

40% Comment report, Presentation and Final Report (individual essay)

Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】

Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

【Equipment student needs to prepare】

PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】

The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100ZA (経営学 / Management 100)

## Leadership and Career Development

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 5/Mon.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

## [Outline and objectives]

The primary objective of this course is to provide students with a deep understanding of entrepreneurship, and careers in both Japanese global companies and foreign affiliated companies. The knowledge and insights based on the real-life experiences of GGLI Fellows will assist students in learning the necessary skills, strategies, and thought processes for success in today's business environment. This course covers everything from the fundamentals of starting a business to actual business case studies, with the aim of integrating theory with practice. Furthermore, the global perspectives offered by GGLI Fellows, who come from diverse cultural backgrounds, will deepen students' understanding of how to thrive in international markets. Through this course, students will learn about adapting business models in different markets, the importance of intercultural communication, and ways to demonstrate leadership in various business environments. Additionally, for students aspiring to pursue entrepreneurship or careers in the global arena, this course will also provide opportunities for contemplation on career paths through these experiences.

## [Goal]

The key learning objectives to be achieved through this course are as follows:

1. Understanding Entrepreneurship: Students will understand the skills, strategies, and mindset required to be a successful entrepreneur and learn how to actualize their own ideas.
2. Adaptability in a Global Business Environment: Students will grasp the complexities of conducting business across cultures and acquire the knowledge and skills necessary for adapting business models in international markets.
3. Leadership and Problem-Solving Skills: Students will learn how to exhibit leadership and propose innovative solutions to complex problems in real business scenarios.
4. Discovering and Planning One's Career Path: Based on their strengths and interests, students will learn how to plan their career path as entrepreneurs or in Japanese global corporations and multinational companies, and take the first steps toward it.
5. Adapting to Real Business Environments: Students will learn how to respond to challenges in real business environments through actual business case studies.

Upon completing this course, students will have established a foundation for thriving in the modern business environment and will be able to take practical steps toward shaping their future careers.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

## [Method(s)]

The teaching method of this course emphasizes a practical and interactive approach. GGLI Fellows will bridge the gap between theory and practice by sharing their own experiences and expertise. Through lectures and interactive discussions, students will have opportunities to analyze real business scenarios and develop problem-solving skills.

This course encourages active participation and self-expression from students, and has the aim of deepening their thinking and enhance their skills. Each week, following the lecture by a Fellow, the instructor will facilitate interaction between the Fellow and the students. By the end of the course, students will have acquired practical knowledge and confidence for success in a global business environment.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

## [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	Entrepreneurship and Foreign Affiliated Company	Exploring entrepreneurship through the lens of working with and managing foreign-affiliated companies globally
3	Entrepreneurship and How to Successfully Establish a Company	Learning the fundamentals of entrepreneurship and practical steps to successfully start and grow a company.

4	Entrepreneurship and Blockchain Technology	Exploring the integration of blockchain technology in entrepreneurship for innovation and secure business models
5	Entrepreneurship and Sustainability	Analyzing how entrepreneurship can drive sustainable business practices for environmental and social impact.
6	Entrepreneurship and Social Contribution	Examining the role of entrepreneurship in addressing social issues.
7	Market Dynamism in Silicon Valley	Exploring the rapid market changes and innovation culture that define Silicon Valley's tech landscape
8	The Impact of Market Changes on Human Resources Management	Analyzing how shifts in the market influence human resources strategies, recruitment, and workforce planning
9	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 1	Strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international offices
10	Business and Compliance: Perspectives from an Audit Firm	Exploring the critical roles of compliance in business operations from the viewpoint of audit professionals
11	Cloud Services and Business	Examining how cloud services transform business models, enhance efficiency, and drive digital innovation globally
12	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 2	Strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international offices
13	Transforming Business with AI and the Latest Technological Innovations	Exploring how AI and new technologies revolutionize business operations, strategies, and competitive landscapes
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week, students are required to review the lecture materials and prepare for the upcoming week's lecture. Preparatory study and review time for this class are expected to be 2 hours for each.

## [Textbooks]

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

## [References]

References will be provided by the instructor.

## [Grading criteria]

Evaluation will be based on a reaction paper submitted after the lectures (70%) and an essay in the final exam (30%). Grades will not be assigned from A to E, but will be determined as pass or fail. The passing criteria is set at a score of 70% or above.

## [Changes following student comments]

Not applicable

## [Equipment student needs to prepare]

None

## [Others]

This course is available to GIS sophomores, juniors, seniors, and others (GIS freshmen and students from other faculty /departments) and accepts more students than the standard number of students at GIS. However, the priority for enrollment will be in the following order: GIS juniors, seniors, sophomores, freshmen, and then students from other departments if the number exceeds the limit. We may impose enrollment restrictions by grade level.

## [Prerequisite]

None.

TRS100ZA (観光学 / Tourism Studies 100)

## Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism is recovering from the coronavirus pandemic in 2024 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

### [Goal]

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss consumer behavior trends and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism

7	Issues in Destination Management I	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Issues in Destination Management II	Considering a case study on the challenge of overtourism
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

### [References]

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education  
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow  
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

### [Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, *the group project is assessed on an individual basis through peer assessment*.

[Changes following student comments]

Following reflection, the final lecture will now focus on overtourism, given its growing prevalence in popular destinations around the world.

### [Others]

I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and as an event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

### [Prerequisite]

None.

TRS100ZA (観光学 / Tourism Studies 100)

## Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火 3/Tue.3

その他属性 : 〈実〉

### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism is recovering from the coronavirus pandemic in 2024 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

### 【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss consumer behavior trends and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

### 【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management I	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy

8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Issues in Destination Management II	Considering a case study on the challenge of overtourism
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

### 【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education  
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow

The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

### 【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, *the group project is assessed on an individual basis through peer assessment.*

### 【Changes following student comments】

Following reflection, the final lecture will now focus on overtourism, given its growing prevalence in popular destinations around the world.

### 【Others】

I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and as an event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

### 【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

## Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉〈実〉

### 【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

### 【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】  
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

### 【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.

Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Class participation (20%)

Assignment (20%)

Final exam (60%) (Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

**Business Negotiation**

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4  
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉〈実〉

**[Grading criteria]**

Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%)(Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

**[Changes following student comments]**

The lecturer will provide more business negotiation tips.

**[Prerequisite]**

None.

**[Outline and objectives]**

Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

**[Goal]**

The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

**[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]**

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

**[Method(s)]**

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

**[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]**

あり / Yes

**[Fieldwork in class]**

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

**[Textbooks]**

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

**[References]**

Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.

Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schster, 2013.

Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

TRS200ZA (観光学 / Tourism Studies 200)

## Event Management

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4  
Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

For millennia, humans have found ways to mark important events in their lives: the changing of the seasons, the phases of the moon and the renewal of life each spring. Today, events are playing an increasing role in people's lives and culture. More leisure time and better standards of living have led to a proliferation of public and private events. More recently, governments and businesses have recognised the incredible power of events to help with economic development and destination marketing. The wide array of events, from community to international level, makes event management a hugely exciting field of study.

### [Goal]

The purpose of this course is to acquire an in-depth knowledge about the field of event management. Students will learn both important theoretical considerations as well as applied knowledge relating to the successful planning, promotion, implementation and evaluation of events within different contexts.

Upon completion of this course, you should be able to:

- 1) Understand the range of factors behind the successful conceptualization and design of events
- 2) Understand the range of socio-cultural, economical & environmental impacts events can have on host destinations & inhabitants
- 3) Understand different sources of event funding and support and apply appropriate risk management practices
- 4) Understand the role and management of event volunteers
- 5) Appreciate the varied aims and objectives of different events and consider strategies to achieve a positive longer-term legacy

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

The course is lecture-based, though you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of international case studies can help you consolidate your learning by illustrating the lecture content with real examples.

Also, in groups, students will design a unique event, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of event management
2	Event Conceptualization	Analyzing the event impacts & legacy. Also, the various influences on developing an event concept and the issues to be included in the planning process.
3	The Event Environment	Examining the unique context and stakeholder networks that events must negotiate and how this influences the event design and management process
4	Designing the Event Experience	Designing and developing the attendee experience (theme, program, venue, etc.) to best achieve an event's particular objectives
5	Event Funding & Support	Analyzing how events can utilize various forms of support (e.g. grants and sponsorship) to more effectively realize aims and objectives
6	Event Marketing and Promotion	Analyzing the 10Ps and contemporary approaches to event marketing as well as the challenges of marketing an intangible experience

7	Human Resource/Volunteer Management	Managing human resources for the event including volunteer recruitment, motivation and retention
8	In-depth Event Case Study I	Case studies analyzing the impacts of local-level festivals and events
9	Risk Management, Licensing and Health and Safety	Planning and preparing for negative incidents to ensure the safe and smooth delivery of the event
10	Financial Management and Budgeting	Financial management processes including sourcing funding, managing cashflow, monitoring and evaluation
11	Social Legacies	Analyzing the impact of large-scale events and the potential for meaningful change to socio-cultural attitudes: a focus on the Paralympics
12	In-depth Event Case Study II	Case studies analyzing the impacts of large-scale events such as the Olympics
13	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
14	Post Event Evaluation and the Event Legacy & Wrap-up	Considering the importance of planning for an event's legacy and strategies to achieve this

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class.

Groups will be assigned selected case studies and tasked with developing discussion questions and leading group & class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

There is no set text for this course. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

### [References]

The reference books are available in the university library.  
Allen, J, O'Toole, W, McDonnell, I. and Harris, R. (2011) *Festival and Special Event Management*. (5th edition) Brisbane: Wiley  
Bowdin, G., McDonnell, I., Allen, J. and O'Toole, W. (2001) *Events Management*. Oxford: Butterworth-Heinemann  
Brittain, I., Bocarro, J., Byers, T. and Swart, K. (eds) (2017) *Legacies and Mega Events: Fact or Fairy Tales?* London: Routledge

### [Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Term paper (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

*To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

### [Changes following student comments]

To enhance students' group working and analytical skills, groups will be given more responsibility for leading discussions on assigned case studies.

### [Equipment student needs to prepare]

N/A

### [Others]

There are no prerequisites, though students are recommended to have taken, or concurrently take, the 100-level Introduction to Tourism Studies course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

### [Prerequisite]

None.

TRS200ZA (観光学 / Tourism Studies 200)

## Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

The post-coronavirus recovery of inbound tourism to Japan has surpassed expectations and 2024 is set to be a record-breaking year for visitor numbers and spending.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2024 and beyond.

### [Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Understand some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at prefectural level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns
- 5) Critically analyze sustainable tourism development in different prefectures

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

### [Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format and a consideration of contemporary tourism in Japan
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management theory, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of tourism for local and regional development 'off the beaten track' to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing	Consider different approaches to tourism marketing and analyzing examples of prefectural marketing

6	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.
7	Tourism Resources: Events	Analysing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites. We will consider Mt Fuji from a sustainable tourism management perspective.
9	Case Study: Destination Management	In-depth focus on destination management
10	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the rapid recovery from the coronavirus pandemic.
11	Case Study: Overtourism in Japan	In-depth focus on sustainable destination management through a case study on overtourism
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and cultural tourism related to anime, manga, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:  
 Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York  
 Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility)*. Routledge: London

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. *To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

[Changes following student comments]

In light of greater interest and awareness, the course will have a greater focus on sustainable tourism management and overtourism.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

## Services Marketing

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80% of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by technological developments.

Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

### [Goal]

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

Classes will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation in addition to lectures. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

Assignments will be submitted and returned via Hoppui; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of services marketing
2	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
3	The Experience Economy	Analyzing the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
4	Managing the Consumer Experience	Exploring different influences on the service experience, and the various stages of service delivery
5	Service Systems and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction
6	Buyer Decision Making	Examining the influences on decision-making and how organizations can manage these
7	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services

8	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation from a tourist destination perspective
9	Case Study I	An in-depth analysis of service marketing & management through an international case study
10	Service Quality and Service Delivery	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy. Also examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity.
11	Case Study II	An in-depth analysis of service marketing & management through an international case study
12	Group Presentations Marketing, Sustainability & Corporate Social Responsibility (CSR)	Student group presentations
13		Analyze organizational approaches towards sustainability and how organizations are adopting more responsible business approaches
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### [Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

### [References]

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge  
 Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill  
 Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

### [Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

*To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

### [Changes following student comments]

Some of the case studies have been updated to reflect the growing interest in sustainability and also the customer experience its importance on services marketing.

### [Equipment student needs to prepare]

N/A

### [Others]

Students are strongly encouraged to have taken/concurrently take **at least one** other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

### [Prerequisite]

None.

TRS300ZA (観光学 / Tourism Studies 300)

## Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4  
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

Cultural tourism is defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros & McKercher, 2015: p.6).

Regarded as one of the oldest forms of tourism, it exists in many forms. This course will cover the 4 elements within the definition: (i) Cultural tourism within the broader field of tourism, (ii) Utilization of destinations’ Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

### [Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

### [Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted and returned via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism and the Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of cultural tourism (CT)
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries’ destination brands and tourism ‘portfolios’

6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails and from what perspective(s) it is presented?
7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Cultural Tourism Case Study	Focus on international case studies relating to CT marketing & stakeholder management
12	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
13	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
14	Film- and TV-inspired Tourism & Course Wrap Up	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources; also the importance of mindful representations of local culture

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. *Please note, as a 300-level class the reading load is heavy.*

### [Textbooks]

Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher’s website (more details to be provided in class). Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

### [References]

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge

Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

### [Grading criteria]

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

*To improve students’ group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

### [Others]

Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken/concurrently take one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses.

I can draw from my experience in organizing events and as the marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

## Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the seminar.

### [Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Case study 3: tourism impacts
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Case study 4: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Case study 5: destination management

8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Case study 7: niche tourism and differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.  
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

### [References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

### [Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

### [Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

To enhance the quality of student-led presentations and discussions, students who are not presenting will be responsible for developing discussion questions and leading discussions.

### [Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

### [Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

### [Prerequisite]

Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

## Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the seminar.

### [Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

### [Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

あり / Yes

### [Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Case study 3: tourism impacts
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Case study 4: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Case study 5: destination management

8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Case study 7: niche tourism and differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

### [Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.  
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

### [References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

### [Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

### [Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

To enhance the quality of student-led presentations and discussions, students who are not presenting will be responsible for developing discussion questions and leading discussions.

### [Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

### [Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

### [Prerequisite]

Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

## Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

### [Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Case study 2: tourism management
10	Seminar Reading 3	Case study 3: tourism management
11	Seminar Reading 4	Case study 4: tourism management

12	Seminar Reading 5	Case study 5: tourism management
13	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.  
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

### [References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

### [Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

### [Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

To enhance the quality of student-led presentations and discussions, students who are not presenting will be responsible for developing discussion questions and leading discussions.

### [Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

### [Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

### [Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

## Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

### [Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Case study 2: tourism management
10	Seminar Reading 3	Case study 3: tourism management
11	Seminar Reading 4	Case study 4: tourism management

12	Seminar Reading 5	Case study 5: tourism management
13	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.  
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

### [References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

### [Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

### [Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

To enhance the quality of student-led presentations and discussions, students who are not presenting will be responsible for developing discussion questions and leading discussions.

### [Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

### [Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

### [Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

## Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

### [Outline and objectives]

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on "Global Marketing Strategy", including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

### [Goal]

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

### [Method(s)]

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on "facts and data" and "experience", (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to make good preparations for individual / group study.
- Students are encouraged to join the summer training camp.

· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

### [References]

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

### [Grading criteria]

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

### [Others]

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

[Prerequisite]

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

## Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

## 【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

## 【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

## 【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to make good preparations for individual / group study.
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp.

・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

## 【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

## 【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

## 【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

## 【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

## 【Prerequisite】

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

## Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

### [Outline and objectives]

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

### [Goal]

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

### [Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

### [Method(s)]

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

あり / Yes

### [Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)—Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)—Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)—Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint

11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

### [Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

### [Textbooks]

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

### [References]

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

### [Grading criteria]

Participation (presentation / discussion etc.)—40%

Assignment—20%

Interim Report (3rd year students)—40%

Final Report (4th year students)—40%

### [Changes following student comments]

N/A

### [Equipment student needs to prepare]

N/A

### [Prerequisite]

Global Strategic Management I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

## Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

## 【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

## 【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

## 【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

## 【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

## 【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

## 【Fieldwork in class】

あり / Yes

## 【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)—Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)—Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)—Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint

11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

## 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

## 【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

## 【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

## 【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.)—40%

Assignment—20%

Interim Report (3rd year students)—40%

Final Report (4th year students)—40%

## 【Changes following student comments】

N/A

## 【Equipment student needs to prepare】

N/A

## 【Prerequisite】

Global Strategic Management I

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

**[Fieldwork in class]**

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

**[References]**

● Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &amp; Discussion: Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

## 【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

## 【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

## 【Textbooks】

● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

## 【References】

● Supplementary in-class handouts (free)

## 【Grading criteria】

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

## 【Others】

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

## 【Prerequisites】

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

**[References]**

- Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

**[References]**

● Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &amp; Discussion: Higher-Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

## 【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

## 【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on "Lifestyle"
	Unit 1: Lifestyle; parts a-b	
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e	Unit 1 review
	Discussion	Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e	Unit 2 review
	Discussion	
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e	Unit 3 review
	Discussion 1 - 10%	Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e	Unit 4 review
	Discussion 2 - 10%	

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e	Unit 5 review
	Discussion 3 - 10%	Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Unit 6: Stages of Life; parts a-b	
	Presentation 3 continued - 10%	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
	Unit 6: Stages of Life; parts c-e	
	CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	
14	Course review / Study - planning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

## 【Textbooks】

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

## 【References】

- Supplementary in-class handouts (free)

## 【Grading criteria】

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

## 【Others】

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

## 【Prerequisites】

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Rapsey

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金5/Fri.5

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 - 10% Presentation 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Unit 6: Stages of Life; parts a-b Presentation 3 continued - 10%	Review / Prepare Presentation 3
13	Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Tom Rapsey is from England and majored in Physical Geography. He has been teaching English to university and Japanese companies for over 16 years. He has extensive experience in Presentation, Discussion and Writing courses. Tom creates a relaxed, friendly atmosphere in group lessons, an atmosphere in which students grow in confidence by working together and supporting each other. As a result, students often remark that they have really enjoyed the course, are much more confident and feel highly motivated to continue studying and improving their skills.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

**[References]**

● Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

[Outline (in English)]

し / No

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火5/Tue.5

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class] なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月5/Mon.5

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]  
あり / Yes

[Fieldwork in class]  
なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Joe Trujillo

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木5/Thu.5

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class] なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Joe Trujillo

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木5/Thu.5

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"

11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"

11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left...behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

Lectures, Discussions, Paper Writings

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5

7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

**[Outline (in English)]**

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left...behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left...behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5

7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review

10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火5/Tue.5

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review

10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]  
あり / Yes

[Fieldwork in class]  
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531 )

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

### [Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Andrew Finegan

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月5/Mon.5

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

Check the schedule

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

### [References]

● Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

### [Changes following student comments]

M/A

### [Others]

Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

### [Outline (in English)]

See the Outline and objectives

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

**[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]**

**[Method(s)]**

Check the schedule

**[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]**

あり / Yes

**[Fieldwork in class]**

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

**[References]**

● Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

**[Changes following student comments]**

N/A

**[Others]**

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

**[Outline (in English)]**

See the Outline and objectives

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays	
	Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Thomas Rapsey

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金 5/Fri.5

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays	
	Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Tom Rapsey is from England and majored in Physical Geography. He has been teaching English to university and Japanese companies for over 16 years. He has extensive experience in Presentation, Discussion and Writing courses. Tom creates a relaxed, friendly atmosphere in group lessons, an atmosphere in which students grow in confidence by working together and supporting each other. As a result, students often remark that they have really enjoyed the course, are much more confident and feel highly motivated to continue studying and improving their skills.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or  
EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

### [References]

● Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

### [Changes following student comments]

N/A

### [Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

### [Outline (in English)]

See the Outline and objectives

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

### ERP 担当教員

Credit(s) : 1 | Semester : スプリングセッション/Spring Session | Year : 1~4

Day/Period : 集中・その他/intensive・other courses

その他属性 : 〈実〉

#### [Outline and objectives]

This course aims to support and strengthen students' existing English skills by focusing on integrating the four skills of Reading, Writing, Speaking and Listening and building a solid foundation of skill strategies and language structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for collaboration in brainstorming and planning of ideas, writing short essays, discussions, presentations and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

#### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (Approx. 250 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, listening, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- develop listening skills (gist, detail and note-taking) using authentic speakers discussing level-appropriate subjects.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

#### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

#### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation CEFR self-evaluation (Initial) Pre-Course Task Presentations, Pre-Course Task Presentations cont. Reading Skills: Skimming/Scanning, Read and discuss Article 1: The Dream of Flight, Writing Skills: The 5Cs of Good Writing, Paragraphs	Write 250 words about Article 1
2	Share Writing and Discuss, Listening Skills: Note Taking, Listen and Discuss Article 2: The Story of Chilli, Presentation Skills: Structure	Prepare a 3-minute Speech on Article 2
3	Short Speeches and Discussion, Reading Skills: Summarizing, Reading Skills: Read and Discuss Article 3: Mission to Mars, Debate Skills: ORE	Prepare for a Debate on Article 3

4	Debate and Feedback, Listening Skills: Listening for Details, Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals, Writing Skills: Linking Ideas	Write 250 Words About Article 4
5	Share Writing and Discuss, Reading Skills: Building Vocabulary, Read and Discuss Article 5: Mood Music, Presentation Skills: Language	Prepare a 3-minute Speech on Article 5
6	Short Speeches and Discussion, Listening Skills: Listening for Facts and Opinions, Listen and Discuss Article 6: Edge of Extinction, Debate Skills: Strong Reasons	Prepare a Debate on Article 6
7	Evaluated Debate and Feedback, Reading & Listening Test, Presentation Skill: Delivery, Final Presentation Preparation	Practice Final Presentation
8	Final Presentation Preparation/Practice, Final Presentation and Feedback, CEFR Self Evaluation (Final) Review and Wrap-up	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing for short speeches, discussions and writing tasks). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

#### [Textbooks]

- Four Skills English Intermediate/Academic Edition/ALC Press Inc./2018.

#### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

#### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade (exceptions in the case of proven reason); 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20% (Message, Structure, Delivery, Visuals), Reading Comprehension 10%, Listening Test 10%.

[Changes following student comments]

#### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

ERP 担当教員

Credit(s) : 1 | Semester : スプリングセッション/Spring Ses-  
sion | Year : 1~4

Day/Period : 集中・その他/intensive・other courses

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course aims to support and strengthen students' existing English skills by focusing on integrating the four skills of Reading, Writing, Speaking and Listening and building a solid foundation of skill strategies and language structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for collaboration in brainstorming and planning of ideas, writing short essays, discussions, presentations and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (Approx. 250 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, listening, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- develop listening skills (gist, detail and note-taking) using authentic speakers discussing level-appropriate subjects.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation CEFR self-evaluation (Initial) Pre-Course Task Presentations, Pre-Course Task Presentations cont. Reading Skills: Skimming/Scanning, Read and discuss Article 1: The Dream of Flight, Writing Skills: The 5Cs of Good Writing, Paragraphs	Write 250 words about Article 1
2	Share Writing and Discuss, Listening Skills: Note Taking, Listen and Discuss Article 2: The Story of Chilli, Presentation Skills: Structure	Prepare a 3-minute Speech on Article 2
3	Short Speeches and Discussion, Reading Skills: Summarizing, Reading Skills: Read and Discuss Article 3: Mission to Mars, Debate Skills: ORE	Prepare for a Debate on Article 3

4	Debate and Feedback, Listening Skills: Listening for Details, Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals, Writing Skills: Linking Ideas	Write 250 Words About Article 4
5	Share Writing and Discuss, Reading Skills: Building Vocabulary, Read and Discuss Article 5: Mood Music, Presentation Skills: Language	Prepare a 3-minute Speech on Article 5
6	Short Speeches and Discussion, Listening Skills: Listening for Facts and Opinions, Listen and Discuss Article 6: Edge of Extinction, Debate Skills: Strong Reasons	Prepare a Debate on Article 6
7	Evaluated Debate and Feedback, Reading & Listening Test, Presentation Skill: Delivery, Final Presentation Preparation	Practice Final Presentation
8	Final Presentation Preparation/Practice, Final Presentation and Feedback, CEFR Self Evaluation (Final) Review and Wrap-up	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing for short speeches, discussions and writing tasks). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Four Skills English Intermediate/Academic Edition/ALC Press Inc./2018.

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade (exceptions in the case of proven reason); 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20% (Message, Structure, Delivery, Visuals), Reading Comprehension 10%, Listening Test 10%.

[Changes following student comments]

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

CE2: TOEFL® iBT 52+, TOEFL® ITP 470+, TOEIC® 550+, IELTS 5.5+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &amp; Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

## 【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

## 【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

## 【Textbooks】

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

## 【References】

- Supplementary in-class handouts (free)

## 【Grading criteria】

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

## 【Others】

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

## 【Prerequisites】

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Matt Fuller

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

### [Others]

Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Jason Burnett

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Jason Burnett was originally from England but has been teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College establishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on being professional at all times in the workplace. His lesson plans are always well prepared, and he is able to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as building students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Andrew Finegan

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

**[References]**

- Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Discussion 1 - 10% Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Discussion 3 - 10% Presentation 3 - 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Matt Fuller

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Jason Burnett

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Jason Burnett was originally from England but has been teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College establishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on being professional at all times in the workplace. His lessons plans are always well prepared, and he is able to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as building students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or IKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class] なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 1: Paragraph Structure	
	Discussion	
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft	
	pair review	
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Review Chapter 1
	Writing Practice Final	
	group review	
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10%	Review Chapter 2
	Chapter 2: Unit and Coherence	
	Discussion 1 - 10%	
8	Writing 1 Final feedback	Writing 2 Draft
	Chapter 3: Using Outside Sources	
	Discussion	
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Writing 2 Final
	Writing 2 Draft pair review	
10	Writing 2 Final DUE - 10%	Review Chapter 3
	Chapter 3: Using Outside Sources	
	Discussion 2 - 10%	
11	Writing 2 Final feedback	Writing 3 Draft
	Chapter 4: From Paragraph to Essay	
	Discussion	
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	Writing 3 Final
	Writing 3 Draft pair review	
13	Writing 3 Final DUE - 10%	Review Chapter 4
	Chapter 4: From Paragraph to Essay	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
	Discussion 3 - 10%	
	CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	
14	Writing 3 Final feedback	-
	Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced

Takao Kasumi

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class] なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 1: Paragraph Structure	
	Discussion	
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Review Chapter 1
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10%	Review Chapter 2
	Chapter 2: Unit and Coherence	
	Discussion 1 - 10%	
8	Writing 1 Final feedback	Writing 2 Draft
	Chapter 3: Using Outside Sources	
	Discussion	
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Writing 2 Final
	Writing 2 Draft pair review	
10	Writing 2 Final DUE - 10%	Review Chapter 3
	Chapter 3: Using Outside Sources	
	Discussion 2 - 10%	
11	Writing 2 Final feedback	Writing 3 Draft
	Chapter 4: From Paragraph to Essay	
	Discussion	
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	Writing 3 Final
	Writing 3 Draft pair review	
13	Writing 3 Final DUE - 10%	Review Chapter 4
	Chapter 4: From Paragraph to Essay	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
	Discussion 3 - 10%	
	CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	
14	Writing 3 Final feedback	-
	Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or  
EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]  
あり / Yes

[Fieldwork in class]  
なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Matt Fuller

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

Lectures, Discussions, Presentations

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"

11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

● Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

### [Changes following student comments]

N/A

### [Others]

Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

### [Outline (in English)]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Jason Burnett

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"

11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Jason Burnett was originally from England but has been teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College establishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on being professional at all times in the workplace. His lesson plans are always well prepared, and he is able to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as building students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left...behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5

7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

### [Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review

10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review

10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Matt Fuller

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

Lectures, Discussions, Paper Writings

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

**[Outline (in English)]**

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Andrew Finegan

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]  
あり / Yes

[Fieldwork in class]  
なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Matt McCabe

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

Lectures, Discussions, Presentations

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

[Outline (in English)]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Jason Burnett

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Jason Burnett was originally from England but has been teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College establishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on being professional at all times in the workplace. His lesson plans are always well prepared, and he is able to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as building students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays	
	Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Sandor Dome

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays	
	Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Takao Kasumi

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or  
EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation &amp; Discussion: Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

## 【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

## 【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"

11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

## 【Textbooks】

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

## 【References】

- Supplementary in-class handouts (free)

## 【Grading criteria】

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

## 【Others】

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

## 【Prerequisites】

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2

7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

- Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

**[References]**

- Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation &amp; Discussion: Higher-Intermediate I

Ron Reid

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

## 【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

## 【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Discussion 1 - 10% Presentation 2 - 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 - 10% Presentation 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Unit 6: Stages of Life; parts a-b Presentation 3 continued - 10%	Review / Prepare Presentation 3
13	Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

## 【Textbooks】

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

## 【References】

- Supplementary in-class handouts (free)

## 【Grading criteria】

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

## 【Others】

Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this method he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

## 【Prerequisites】

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Ron Reid

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review

10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this method he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or IKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft (Initial)
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630 )

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"

11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

### [Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left...behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5

7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

[References]

● Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test a 640-689

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Ron Reid

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 10 review

10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

[Others]

Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this method he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

## ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Stephen O' Leary

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈実〉

### [Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

### [Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

### [Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]  
あり / Yes

[Fieldwork in class]  
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

### [Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources, 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531 )

### [References]

- Supplementary in-class handouts (free)

### [Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

### [Changes following student comments]

### [Others]

Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

### [Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Ron Reid

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈実〉

**[Outline and objectives]**

This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

**[Goal]**

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

**[Method(s)]**

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

**[Schedule]** 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"

11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study - planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

**[Textbooks]**

- Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

**[References]**

- Supplementary in-class handouts (free)

**[Grading criteria]**

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence

Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

[Changes following student comments]

**[Others]**

Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this method he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

**[Prerequisites]**

English proficiency requirement:

TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LANe100LD (英語 / English language education 100)

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II

Steven Braunbach

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4  
Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : 〈実〉

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Write down three SMART learning goals for this course
	Course preview	
	Study planning	
2	CEFR Self-Evaluation (Initial)	Writing Practice Draft
	Chapter 5: Process Essays	
	Discussion	
3	Chapter 5: Process Essays	Writing Practice Final
	Writing Practice Draft pair review	
4	Chapter 5: Process Essays	Review Chapter 5
	Writing Practice Final group review	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Draft
	Discussion	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Writing 1 Final
	Writing 1 Draft pair review	

7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources, 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

[References]

- Supplementary in-class handouts (free)

[Grading criteria]

Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence  
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

[Changes following student comments]

[Others]

Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

[Prerequisites]

English proficiency requirement:  
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test a 730+

LAW100NA (法学 / law 100)

## 知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

## 【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

## 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の進め方と方法】

- ・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
- ・毎回レジュメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

## 【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。

著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和5年度）（文化庁著作権課、2023年）  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401_01.pdf)

はじめての著作権講座—著作権って何？（著作権情報センター、2023年）

<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>

2023年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2023年）

[https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023\\_nyumon/all.pdf](https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023_nyumon/all.pdf)

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40%）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

## 【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

## 【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

LAW100NA (法学 / law 100)

## 知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

### 【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

#### 【授業の進め方と方法】

・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。  
・毎回レジュメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念的「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

### 【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。

著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和5年度）（文化庁著作権課、2023年）  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401_01.pdf)

はじめての著作権講座—著作権って何？（著作権情報センター、2023年）  
<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>

2023年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2023年）

[https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023\\_nyumon/all.pdf](https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023_nyumon/all.pdf)

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40%）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

### 【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

LAW100NA (法学 / law 100)

## 知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

## 【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の進め方と方法】

- ・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
- ・毎回レジュメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

## 【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。  
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和5年度）（文化庁著作権課、2023年）  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401_01.pdf)  
はじめての著作権講座—著作権って何？（著作権情報センター、2023年）  
<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>  
2023年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2023年）  
[https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023\\_nyumon/all.pdf](https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2023_nyumon/all.pdf)  
特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)  
<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40%）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

## 【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

## 【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

POL100NA (政治学 / Politics 100)

## 開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力 (ODA) を中心として解説する。また、グループで国際協力機構 (JICA) が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

### 【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助 (ODA) の実施機関である国際協力機構 (JICA) の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6~8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力 (前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力) を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 45% |
| (B) 技術者倫理          | 30% |
| (C) 工学基礎学力         |     |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       | 25% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
 デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
 デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留學生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力 (1)	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明 (1)	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明 (2)	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明 (3)	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標 (SDGs) について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明 (4)	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明 (5)	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンパティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協分野への参加や就職についても考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

### 【参考書】

授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題 50%、課題レポート：30%。  
 欠席4回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に關する指導を強化する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

### 【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標 (SDGs) についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

### 【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA (政治学 / Politics 100)

## 開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力 (ODA) を中心として解説する。また、グループで国際協力機構 (JICA) が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

### 【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助 (ODA) の実施機関である国際協力機構 (JICA) の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6~8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力 (前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力) を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力 (1)	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明 (1)	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明 (2)	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明 (3)	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標 (SDGs) について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明 (4)	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明 (5)	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。

第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

### 【参考書】

授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題50%、課題レポート：30%。  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

### 【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標 (SDGs) についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。

### 【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.

2. Understand the reality of studying abroad.

3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

SES100NA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

## 環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

## 【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

## 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。  
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定  
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

## 【参考書】

特になし。授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

## 【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

## 環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

## 【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。  
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定  
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

## 【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

## 【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

## (Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

## 環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

## 【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

## 【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

## 【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

## (Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

## (Learning activities outside of classroom)

None.

## (Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでもどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

### 【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力 25%

(G) コミュニケーション能力 25%

(H) 継続的学習能力 25%

(I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

\*オンライン授業の場合はzoomのURL・ID・パスワード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

\*授業に関する質問などは学習支援システムで行ってください。学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

\*なお、質問などの際には ①シラバス ②学習支援システムの【お知らせ】【授業内掲示板】【教材】 ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

\*本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

\*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。また、授業計画の内容は受講生の習得状況などにより変更する場合があります。その場合は、いずれも学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\*休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

**【参考書】**

石井淳彦 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社  
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション

P.F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社  
そのほか、随時、授業で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項
  - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
  - (2) 学習支援システム【課題】【レポート提出】で閲覧できないレポートは評価対象外となります。
  - (3) 本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、講師のメールアドレスにレポートをメールしてもレポート提出とはみなしません。
  - (4) 学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
  - (5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
  - (6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
  - (7) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
  - (8) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
  - (9) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

**【学生の意見等からの気づき】**

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表しているような意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomを使用できる機器を用意してください。

**【その他の重要事項】**

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<禁止事項：講師へのメール送信>

本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

<留意事項：レポート提出>

本授業でのレポート提出については、シラバスの【成績評価の方法と基準】<レポート提出>を確認し、特に6. 留意事項を守って提出してください。講師のメールアドレスを用いてのレポート提出、学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出などはレポート提出とはみなしません。

<休講や自習の連絡>

休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

<本授業の履修について>

本授業の履修については、禁止事項や留意事項も含めてシラバスの内容をよく確認し履修届を出してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria/policy】**

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

### 【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力の養成を目指します。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」

「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

\* オンライン授業の場合はzoomのURL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\* 授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

\* 授業に関する質問などは学習支援システムで行ってください。学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

\* なお、質問などの際には ①シラバス ②学習支援システムの【お知らせ】【授業内掲示板】【教材】 ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

\* 本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

\* 授業計画の回、日程は変更になる場合があります。また、授業計画の内容は受講生の習得状況などにより変更する場合があります。その場合は、いずれも学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\* 休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P (製品、価格、流通、販売促進) を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発表	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。

7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。(プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます)
11	市場の細分化	STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

### 【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社  
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション  
P.F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社  
そのほか、随時、授業で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出 (配点90%)、平常点 (配点10%) とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) 学習支援システム【課題】【レポート提出】で閲覧できないレポートは評価対象外となります。

(3) 本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、講師のメールアドレスにレポートをメールしてもレポート提出とはみなしません。

(4) 学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。

(5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(7) テキストボックスでの提出 (投稿) は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(8) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

(9) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

**【学生の意見等からの気づき】**

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表しているんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomを使用できる機器を用意してください。

**【その他の重要事項】**

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<禁止事項：講師へのメール送信>

本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

<留意事項：レポート提出>

本授業でのレポート提出については、シラバスの【成績評価の方法と基準】<レポート提出>を確認し、特に6. 留意事項を守って提出してください。講師のメールアドレスを用いてのレポート提出、学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出などはレポート提出とはみなしません。

<休講や自習の連絡>

休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

<本授業の履修について>

本授業の履修については、禁止事項や留意事項も含めてシラバスの内容をよく確認し履修届を出してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria/policy】**

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

### 【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

\*オンライン授業の場合はzoomのURL・ID・パスワード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

\*授業に関する質問などは学習支援システムで行ってください。学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。  
\*なお、質問などの際には ①シラバス ②学習支援システムの【お知らせ】【授業内掲示板】【教材】 ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

\*本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

\*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。また、授業計画の内容は受講生の習得状況などにより変更する場合があります。その場合は、いずれも学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

\*休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P (製品、価格、流通、販売促進)を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発表	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。

9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。(プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます)
11	市場の細分化	STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

### 【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社  
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション  
P.F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出 (配点90%)、平常点 (配点10%) とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) 学習支援システム【課題】【レポート提出】で閲覧できないレポートは評価対象外となります。

(3) 本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、講師のメールアドレスにレポートをメールしてもレポート提出とはみなしません。

(4) 学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。

(5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(7) テキストボックスでの提出 (投稿) は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(8) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

(9) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

**【学生の意見等からの気づき】**

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表しているんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomを使用できる機器を用意してください。

**【その他の重要事項】**

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<禁止事項：講師へのメール送信>

本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。質問などは学習支援システム【授業内掲示板】の受講生の質問などを掲示できるトピックを使用してください。

<留意事項：レポート提出>

本授業でのレポート提出については、シラバスの【成績評価の方法と基準】<レポート提出>を確認し、特に6. 留意事項を守って提出してください。講師のメールアドレスを用いてのレポート提出、学習支援システムの【99.感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出などはレポート提出とはみなしません。

<休講や自習の連絡>

休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

<本授業の履修について>

本授業の履修については、禁止事項や留意事項も含めてシラバスの内容をよく確認し履修届を出してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria/policy】**

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

## 日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

### 【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
  - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
  - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
  - ②を学生が担当することもあります。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する

⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える
⑫	マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む）	マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

### 【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社  
 安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店  
 荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房  
 飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院  
 川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣  
 竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社  
 立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社  
 西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣  
 松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社  
 宮下洋一（2017）『安楽死を逃げるまで』小学館  
 その他、雑誌や新聞の記事

### 【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までほんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

**【その他の重要事項】**

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

**【Outline (in English)】**

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

## 日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

### 【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
  - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
  - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
- ②を学生が担当することもあります。  
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える

- ⑤ 「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）
  - ⑥ 「尊厳死法案」とその批判
  - ⑦ 社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）
  - ⑧ ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える
  - ⑨ 障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル
  - ⑩ 障害者差別解消法と合理的配慮
  - ⑪ みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）
  - ⑫ マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む）
  - ⑬ 「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）
  - ⑭ 自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）
- 「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する  
「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える  
社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える  
障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える  
「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える  
障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める  
「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える  
マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える  
「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する  
安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

### 【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬 斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社  
安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店  
荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房  
飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院  
川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣  
竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社  
立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社  
西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣  
松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社  
宮下洋一（2017）『安楽死を遂げるまで』小学館  
その他、雑誌や新聞の記事

**【成績評価の方法と基準】**

各回の課題：30%  
発表（文献紹介）：20%  
期末レポート：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

**【その他の重要事項】**

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

**【Outline (in English)】**

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours  
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

## 日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

### 【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
  - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
  - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
  - ②を学生が担当することもあります。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する

⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える
⑫	マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む）	マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

### 【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社  
 安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店  
 荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房  
 飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院  
 川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣  
 竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社  
 立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社  
 西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣  
 松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社  
 宮下洋一（2017）『安楽死を逃げるまで』小学館  
 その他、雑誌や新聞の記事

### 【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までほんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

**【その他の重要事項】**

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

**【Outline (in English)】**

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

MAT100NB (数学 / Mathematics 100)

## 数学 1

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

工学の様々な問題を考える上で登場する微分法および積分法について学び、技術者としてそれらを活用できるだけの教養を身につけることを目的とする。

### 【到達目標】

初等関数の導関数や不定積分を理解した上で、関数の展開法、微分方程式の意味と解法、2変数関数についての微分と積分の概念について把握することを目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では微積分に関する非常に幅広い内容を扱っており、高校数学の微積分の知識は必須である。そのため、まずは高校数学の内容を簡単に復習しながら、次第に大学で扱うより高度な微積分につなげていく。積み上げ式の授業であり、常に授業内容を復習してもらうため、毎回演習課題が課される。基本的な1回の授業は、前回演習課題の解説→講義→小テスト→演習課題発表→自宅での演習→次回授業での演習課題提出という流れである。小テストの解答では、数名をその場で指名し解答を板書してもらう。授業進度はかなり速いが、予習復習をして、しっかりついてきてもらいたい。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関数 高等学校の関数の復習	基本的な関数 三角関数、指数関数、対数関数、逆関数
2	微分法 高等学校の微分の復習	基本的な微分
3	微分法 微分係数と導関数 導関数の性質 関数の導関数	微分係数と導関数、積と商の導関数、三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の導関数、高次導関数
4	微分法 平均値の定理 微分法の応用	平均値の定理、ロピタルの定理、極大・極小
5	積分法 高等学校の積分の復習	不定積分、不定積分の公式、定積分と不定積分の関係
6	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
7	積分法 いろいろな不定積分 積分法の応用	有利関数、無理関数、三角関数の不定積分、面積・体積・曲線の長さ・面積分
8	関数の展開	1次近似式、高次の近似式、テイラー展開、マクローリン展開、テイラーの定理
9	微分方程式-1階微分方程式	微分方程式と解、変数分離形、同次形、1階線形
10	微分方程式-2階微分方程式	2階線形、斉次2階線形、非斉次2階線形
11	偏微分	2変数関数と偏導関数、全微分と合成関数の微分、高次導関数
12	偏微分 偏微分の応用	極大・極小、条件付き極値問題
13	重積分	2重積分の定義、2重積分の計算、2重積分と累次積分
14	重積分 2重積分の応用	極座標と2重積分、積分変数の変換、2重積分の広義積分と応用

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業内容に応じて作成された演習問題に解答し提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

理科系の基礎 微分積分 (高遠節夫・石村隆一他共著、培風館)

### 【参考書】

やさしく学べる微分積分 (石村園子著、共立出版)

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分 (評価基準等)

演習課題：50% (各100点満点)

定期試験：50% (試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する)

ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

また、連続3回欠席、通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内で扱えない定理やその証明等はあとで確認できるように、プリントを配布する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に必要としない

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

Learn about differential and integral calculus, which appear in the consideration of various engineering problems, and acquire the education necessary to apply them as engineers.

Learning Objectives:

The goal of this course is to grasp the derivatives and indefinite integrals of elementary functions, the expansion method of functions, the meaning and solution method of differential equations, and the concepts of differentiation and integration for two-variable functions.

Learning activities outside of classroom:

Students will answer and submit the exercises prepared for each class content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

## 工業力学及演習 X

網谷 岳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面2次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

### 【到達目標】

力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 50%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力 20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では2年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する。第1回～第5回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける。第6回以降の授業は教科書、配布資料、PPTを用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作 (1)	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	模型の製作 (2)	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量 (1) 断面1次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2次元物体の重心、断面と線分の図心、断面1次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量 (2) 断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径	断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量 (3) 断面2次モーメント、断面係数	平行軸の定理を用いた合成断面の断面2次モーメントの求め方と断面係数に関する講義と演習
9	弾性体の変形 (1) 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形 (2) 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習

11	弾性体の変形 (3) 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形 (4) 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形 (5) 材料力学の基礎	せん断応力、ねじり、継手についての講義と演習
14	弾性体の変形 (6) 材料力学の基礎	傾いた面に作用する応力、一般的な応力とひずみの関係についての講義と演習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～5回：設計製作についての予習とその復習  
6～14回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

### 【参考書】

プリントを配布する

### 【成績評価の方法と基準】

模型製作（20%）、毎回の演習問題（10%）、期末試験（70%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。  
レポート作成時には貸与PCを使用してもよい。

### 【その他の重要事項】

橋梁メーカーに勤務した経験を有する教員が、力学の基礎を講義する。

### 【Outline (in English)】

This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.

#### ・ Learning Objectives

To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.

#### ・ Learning activities outside of classroom

1st to 5th classes : Preparation and review of model design and production

6th to 14th classes : Prepare with a textbook and review lessons.

Standard study time is two hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Model making practice : 20%, Each class exercises :10%

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

## 工業力学及演習 Y

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面2次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

### 【到達目標】

力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 50%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力 20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では2年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する。第1回～第5回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける。第6回以降の授業は教科書、配布資料、PPTを用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行く。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作 (1)	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	模型の製作 (2)	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量 (1) 断面1次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2次元物体の重心、断面と線分の図心、断面1次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量 (2) 断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径	断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量 (3) 断面2次モーメント、断面係数	平行軸の定理を用いた合成断面の断面2次モーメントの求め方と断面係数に関する講義と演習
9	弾性体の変形 (1) 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形 (2) 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習

11	弾性体の変形 (3) 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形 (4) 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形 (5) 材料力学の基礎	せん断応力、ねじり、継手についての講義と演習
14	弾性体の変形 (6) 材料力学の基礎	傾いた面に作用する応力、一般的な応力とひずみの関係についての講義と演習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～5回：設計製作についての予習とその復習  
6～14回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

### 【参考書】

プリントを配布する

### 【成績評価の方法と基準】

模型製作（20%）、毎回の演習問題（10%）、期末試験（70%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。  
レポート作成時には貸与PCを使用してもよい。

### 【その他の重要事項】

橋梁メーカーに勤務した経験を有する教員が、力学の基礎を講義する。

### 【Outline (in English)】

This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.

#### ・ Learning Objectives

To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.

#### ・ Learning activities outside of classroom

1st to 5th classes : Preparation and review of model design and production

6th to 14th classes : Prepare with a textbook and review lessons.

Standard study time is two hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Model making practice : 20%, Each class exercises :10%

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

**図学及演習**

山田 裕貴、福井 恒明、金城 正紀、今井 裕久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

前半は、物体や空間を表現する手段としての図学の基礎的知識を都市環境デザインにおける具体的な活用法を踏まえて学習する。また、図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。後半は、コンピュータを用いたCADやドローイングソフトによるさまざまな図面の作成について学ぶ。

**【到達目標】**

[前半]図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。

[後半]CADソフトの習得。ドローイングソフトの習得。

**【修得できる能力】**

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
 (B) 技術者倫理  
 (C) 工学基礎学力 60%  
 (D) 専門基礎学力 40%  
 (E) 専門知識の活用・応用能力  
 (F) 総合デザイン能力  
 (G) コミュニケーション能力  
 (H) 継続的学習能力  
 (I) 業務遂行能力

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

前半は手書きによる作図を基本として、図法の説明とその作図課題により授業を進める。後半は、パソコンを活用した作図システムについて操作の基本を習得するとともに、情報の共有化、送受信など、電子化された図面の新たな機能・効果についても学ぶ。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	技術者の言語としての図面 都市環境デザイン分野の図面 作図用具とその使用法
2	作図法の基礎	図面表現の基本
3	正投影法 読図の基礎	平面図・立面図の表現と作図 図面情報の読み取り
4	透視図法(1) 透視図法(2)	投影図・透視図の体系 透視図作図の原理
5	透視図法(3)	1点透視図の表現と作図 2点透視図の表現と作図 点景の表現
6	前半まとめ(1)	1点透視図による空間イメージの表現
7	前半まとめ(2)	1点透視図作品の相互講評と評価
8	描画ソフト利用ガイダンス	システムの起動・操作・入力・出力・データ保管・終了
9	CADソフト(1)	基本機能/支援機能の活用
10	CADソフト(2)	作図/出力の基礎
11	CADソフト(3)	作図/出力の習得
12	ドローイングソフト(1)	基本機能/支援機能の活用 土地利用現況図のトレース
13	ドローイングソフト(2)	地区開発イメージ図の制作
14	ドローイングソフト(3)	地域の略図の制作

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必要に応じて指示する

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

各回の作図課題により評価する（100%）。なお、4回以上の欠席、または1つ以上の未提出課題ある者は単位取得を認めない(D判定)。

**【学生の意見等からの気づき】**

指示事項を一度で理解しにくい学生のために、動画による説明を作成し、必要に応じて複数回視聴できるようにした。

**【学生が準備すべき機器他】**

[前半] 作図のための製図用具が必要となる。最小限必要な用具セットは年度始めに案内する。

[後半] ドローイングソフトの演習には貸与パソコンを使用する。CADソフトの演習には情報教室を使用する。

**【その他の重要事項】**

都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして、設計における作図技術につながる内容を指導する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

The aim of this course is to learn the fundamental knowledge and skills of drawing for expressing objects and spaces in the field of civil and environmental engineering design. Students will learn basic methods of graphical representation and plotting skills through several exercises in handwriting and CAD.

**【Learning Objectives】**

[First half] Learn the basic techniques of graphic expression. Learn drawing techniques with drawing challenges.

[Second half] Learn how to use CAD software and drafting software.

**【Learning activities outside the classroom】**

Instruct if necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policies】**

Final grade will be each submission and task as grade (100%). If you are absent 4 or more times or do not submit your assignments, you will not be granted credit (D grade).

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

## ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

### 【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
 (B) 技術者倫理  
 (C) 工学基礎学力 60%  
 (D) 専門基礎学力 40%  
 (E) 専門知識の活用・応用能力  
 (F) 総合デザイン能力  
 (G) コミュニケーション能力  
 (H) 継続的学習能力  
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかわり方を考える。  
 地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。  
 特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。  
 地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。  
 ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。  
 のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。  
 地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。  
 最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。  
 授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
 なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義(1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
	「地球の動き／地震」の解釈の歴史の変遷、現状を理解する。	

4	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。
5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。
6	ダムと地質情報(1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。 ダムの設計と施工方法を理解する。
7	ダムと地質情報(2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。 ダムの設計と施工方法を理解する。
8	特別講義(2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。
9	トンネルと地質情報(1)	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。 トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
10	トンネルと地質情報(2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。 トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
11	構造物基礎と地質情報	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。 橋梁の歴史の変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。
12	掘削のり面と地質情報(1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性と掘削のり面の安定性との関係。 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。
13	掘削のり面と地質情報(2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりのり面の安定対策方法と設計方法を習得する。
14	地すべりと地質情報	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりのり面の安定計算。講義全般のキーワードの確認。 地すべり地形の特徴と見方と安定計算方法を習得する。 講義全般をまとめる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
  2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
  3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
  4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
  5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
  6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
  7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
  8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
  9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
  10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
  11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
  12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
  13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
  14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院を使用する。

### 【参考書】

必要に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題(記述・作図・計算など)の提出により習得度を評価し、その合計から評価点(100点満点)を算出する。  
 合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59-0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。  
 期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習については、十分な時間を確保する。

### 【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

**【その他の重要事項】**

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

**【Outline (in English)】**

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

SEE100ND (科学教育・(教育工学) / Science education/ Educational technology 100)

## 技術者倫理

北原 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザイン工学技術者は、個人としての倫理こそ身につけているはずであるが、専門家としての倫理も身につけることが求められる。本講義は、科学技術に関わる倫理問題にはどんなものがあるか、また、技術者がもつべき倫理についてケーススタディを交えながら体系的に学ぶことを目的とする。特に、自分のデザインや技術が将来、社会や環境に及ぼす影響を推察することの重要性を認識する。

### 【到達目標】

- (1) デザイン工学の技術者がもつべき倫理の概念と重要事項を体系的に理解する
- (2) 過去に起こった実事例から、内在する倫理問題を抽出する能力を身につける
- (3) 技術者倫理に基づき情報デザイン、システムデザイン、環境デザイン、安全建築設計等各分野の研究開発を推進できる技術を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

デザイン工学系技術者がもつべき倫理事項を、文化や歴史、政治や経済、科学技術、自然環境など多角的な観点から、様々なケーススタディを織り込みながら、学習していく。倫理に関する意識づけのみならず、安全に関する具体的なスキルも併せて習得する。教科書を軸に、質問を投げかけながら答えてもらう問答法的なアプローチで講義を進める。また、各回事前課題を課し、授業の初めに、課題に対する解答例を示しフィードバックを行う。また、良い回答やコメントは授業内で紹介する。本年度については、対面講義を基本とするが、大学の通達に従う。対面講義の場合は感染防止対策を施した教室で、オンライン講義の場合はZoomにより行う。詳細は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究者・技術者の社会的責任と倫理	研究者・技術者にとっての倫理とは何かについて、どのような歴史的経緯があるのか、技術者の行動規範などについて学ぶ。さらに、倫理と法の関係についても考える。
2	リスクマネジメント	リスクとは何か、その大きさはどうやって測るのか、スクママネジメントはどう進めたらいいのかなどについて学ぶ。
3	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーを知覚、認知、社会行動等、ユーザ側要因の観点から学び、精神論ではなく、工学的・科学的観点に基づくヒューマンエラーの予防的・対処的対策について考える。

4	説明責任・製造物責任	社会に対して技術者の果たすべき説明責任について考える。また、製品を開発する側に生じる製造物責任の特徴や使う側との関係などについて考える。
5	技術情報と知的財産の保護	まず、技術情報とは何かを知る。創出したアイデアや技術、デザインを守る知財権保護制度について学ぶ。さらに、特許の対象についても学習する。
6	化学倫理	化学物質、化学技術、ナノテクノロジーへの期待とリスク、およびその倫理について考える。さらに、放射性物質のリスクと取り扱いについても学ぶ。
7	生命倫理	ゲノム解析・遺伝子操作、クローン技術等における倫理を通し、生命や生死に対しどう関わるべきかについて考える。
8	ユニバーサルデザイン	バリアフリーからユニバーサルデザインへの流れについて知る。さらに、ユーザエクスペリエンス設計について学ぶ。
9	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報漏えい、ネットワーク犯罪、ソーシャルメディアでのトラブル等、情報化社会における様々な倫理問題について学ぶ。
10	ロボット・人工知能等新技術と倫理	ロボット、人工知能、ビッグデータ、個人認証、AR等、情報新技術に関わる倫理について考える。
11	環境保全と倫理	環境・資源問題、エネルギー問題、さらに、環境保全に対する技術者取り組みについて考える。
12	デザイン工学における倫理	デザイン工学専攻学生が就き得る職業とその倫理について考える。
13	多様性社会と技術者倫理	科学技術の進展によりクローズアップされてきた人権問題、社会のグローバル化、科学的と見せかけて実は科学論理的根拠がないいわゆる疑似科学等について、倫理の側面から考える。
14	技術者倫理の諸課題	ユニバーサルデザインにおいて生じるコンフリクトなど倫理に関して残されている諸課題について考える。また、各人の理解度測定も行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容を事前に確認し、教科書掲載ケーススタディを読んでおくこと。毎回の講義についての予習・復習時間は4時間ずつを標準とする。

Review the syllabus contents and read the case studies published by the subject in advance. The standard preparation and review time for each lecture is 4 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

北原義典「はじめての技術者倫理」講談社 を使用。その章立てにしたがって進めるので、毎回持参のこと。その他、学習支援システムにアップされた資料を書き込み用に持参してもらってもしくはpdf参照してもら場合もある。

**【参考書】**

中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」 オーム社  
林真理、宮澤健二、小野幸子「技術者の倫理」 コロナ社 など

**【成績評価の方法と基準】**

技術者倫理の習得度に関する期末試験点数（80点）と平常の講義取り組み姿勢（20点）の合計をもって評価点とする。授業の取り組み姿勢とは、主に授業中の発言の活発さを指す。合計評価点60点以上を合格とする。ただし、出席率が70%以上であることを評価前提条件とする。

The evaluation points will be the sum of the final exam score (80 points) on the mastery level of ethics for engineers and the usual attitude toward the lecture (20 points). Attitude toward the class mainly refers to the degree to which students are active in speaking up during class. A total of 60 points or more is required to pass the course. Attendance rate of 70% or more is a prerequisite for evaluation.

**【学生の意見等からの気づき】**

ケーススタディについては、「具体的な事例を知ることができてよい」「非常に考えさせられる」など好評であり、今後も、引き続き、各回ケーススタディを採り上げつつ講義を進める。

**【学生が準備すべき機器他】**

本年度、基本は対面授業ですが、全学的にオンライン講義実施との通達があった場合には、Zoomを利用するため、PCもしくはスマートフォンを準備し、開講日時にアクセス、入室してください。また、連絡事項や資料は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

**【その他の重要事項】**

討論を重視するため、必ず出席し、積極的発言をすることが大切。なお、本講義の担当教員は、33年にわたる企業での実務経験をもち、その経験からの倫理問題も紹介する。

**【Outline (in English)】**

Every design engineer must acquire ethics that reflects not only their position as an individual but also as an expert in the field. In this course, we study ethical issues concerning technology with case studies, understanding ethical attitudes that engineers should come to systematically incorporate in their workflow.

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## 色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色もたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

### 【到達目標】

講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。  
 ・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。  
 ・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。  
 ・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。  
 ・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。  
 ・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。  
 ・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちとHVC表現	光と色の三原色色の三属性HVC（色相・明度・彩度）色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動色覚説モデル様々な順応・対比補色・残像
6	色の見え・2	明るさ・色の対比光源による色の見え色覚特性安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史

8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンポジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンポジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察  
 ・各回ごとの授業の復習  
 ・手作業による課題制作  
 ・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成  
 本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。  
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

### 【参考書】

特になし。  
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40%）、および各課題の完成度（60%）を考慮し総合的に評価する。  
 課題の内容、数に応じて配分を割り振る。  
 ※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

### 【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。  
 課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

### 【学生が準備すべき機器他】

・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。  
 ・提出物は学習支援システムを利用する。  
 ・提出物の内容によりスキャンすることがある。

### 【その他の重要事項】

・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。  
 ・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。  
 ・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 1 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

assignment :60%、 in class contribution: 40%

PHL100NA (哲学 / Philosophy 100)

## 哲学

大西 悟、横山 奈那

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学を学ぶ上で、環境をどのようにとらえ、どのように向き合うかを哲学的に思索することは、とても重要である。本授業では、そのための素養を習得することを目指す。また、後半7回では、デザイン、環境、戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として、1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる。

## 【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係および工学の影響について、自分の言葉で思索し、言語化できること。
- 2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること。
- 3) 環境芸術と呼ばれる作品群について、自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと。
- 4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること。

## 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 45% |
| (B) 技術者倫理          | 30% |
| (C) 工学基礎学力         |     |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用力    |     |
| (F) 総合デザイン能力       | 25% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前半7回は、授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて、講義し、それを受けて授業中に小レポートを作成してもらい、加えて、最後に、レポートを課す。後半7回は、講義形式ではあるが、毎回小課題を通じて、意見を募る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして、バリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら、環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は、環境から便宜を得るための学問である。人間は、工学を活用することで豊かさを享受できるが、同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動、生物多様性の喪失などの事例から、工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し、先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもつたないといった東洋の知恵を対比的に提示し、環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略(1)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方を解説し、自身が大学生活で身に付けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略(2)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方を解説し、自身が大学生活で身に付けておきたいスキルを問いかける。

第06回	地域が主体	気候変動、生物多様性喪失などグローバルな課題に対して、地域が主体となり、環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ、生活者の視点で暮らしから見直すことから、より複層的なものの見方を学習する。そのうえで、最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが、果たしてそうなのかを、自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで、考察する。
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか、具体例に即しながら、その射程を学ぶ。
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ、重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える。
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ、芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える。
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが、それらを踏まえたうえで、日本における環境と芸術の関連について、具体例を参照しつつ考える。
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている。そこで、大阪万博を取り上げ、「技術」、「開発」、「環境」、「かわり」について考える。試験および総括
第14回	試験及び総括	試験および総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う。復習として毎回の授業を見直し、参考文献を読むこと。レポートを課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50%）と毎回の小課題と試験（50%）により評価する。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

## 【学生の意見等からの気づき】

（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し、より言語化しやすくするように工夫しようと思います。  
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ、論理的に思考する方法を提示していきます。

## 【その他の重要事項】

NPO、国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし、多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます。

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various "environments". This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider "environments" deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.

The latter seven lectures (No.8~14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.

## [Learning Objectives]

The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies]

(No.1~7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)

(No.8~14) Final grade will be calculated according to following process  
Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class contribution.

PHL100NA (哲学 / Philosophy 100)

## 哲学

大西 悟、横山 奈那

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学を学ぶ上で、環境をどのようにとらえ、どのように向き合うかを哲学的に思索することは、とても重要である。本授業では、そのための素養を習得することを目指す。また、後半7回では、デザイン、環境、戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として、1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる。

## 【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係および工学の影響について、自分の言葉で思索し、言語化できること。
- 2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること。
- 3) 環境芸術と呼ばれる作品群について、自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと。
- 4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること。

## 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連  
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前半7回は、授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて、講義し、それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう。加えて、最後に、レポートを課す。後半7回は、講義形式ではあるが、毎回小課題を通じて、意見を募る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして、パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら、環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は、環境から便宜を得るための学問である。人間は、工学を活用することで豊かさを享受できるが、同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動、生物多様性の喪失などの事例から、工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し、先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもつたないといった東洋の知恵を対比的に提示し、環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略(1)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方、取り組みを解説し、自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略(2)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方、取り組みを解説し、自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第06回	地域が主体	気候変動、生物多様性喪失などグローバルな課題に対して、地域が主体となり、環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。

第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ、生活者の視点で暮らしから見直すことから、より複層的なものの見方を学習する。そのうえで、最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが、果たしてそうなのかを、自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで、考察する。
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか、具体例に即しながら、その射程を学ぶ。
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ、重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える。
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ、芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える。
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが、それらを踏まえたいうえで、日本における環境と芸術の関連について、具体例を参照しつつ考える。
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている。そこで、大阪万博を取り上げ、「技術」、「開発」、「環境」、「芸術」のかかわりについて考える。
第14回	試験及び総括	試験および総括を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う。復習として毎回の授業を見直し、参考文献を読むこと。レポートを課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50%）と毎回の小課題と試験（50%）により評価する。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

## 【学生の意見等からの気づき】

(環境哲学) 小レポートの出し方を工夫し、より言語化しやすくするように工夫しようと思います。  
(環境芸術) 伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ、論理的に思考する方法を提示していきます。

## 【その他の重要事項】

NPO、国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし、多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various "environments". This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider "environments" deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.

The latter seven lectures (No.8~14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.

## 【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policies】

(No.1~7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50%)

(No.8~14) Final grade will be calculated according to following process  
Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class  
contribution.

PHL100NA (哲学 / Philosophy 100)

## 哲学

大西 悟、横山 奈那

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学を学ぶ上で、環境をどのようにとらえ、どのように向き合うかを哲学的に思索することは、とても重要である。本授業では、そのための素養を習得することを目指す。また、後半7回では、デザイン、環境、戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として、1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる。

### 【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係および工学の影響について、自分の言葉で思索し、言語化できること。
- 2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること。
- 3) 環境芸術と呼ばれる作品群について、自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと。
- 4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連  
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半7回は、授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて、講義し、それを受けて授業中に小レポートを作成してもらい、加えて、最後に、レポートを課す。後半7回は、講義形式ではあるが、毎回小課題を通じて、意見を募る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして、パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら、環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は、環境から便宜を得るための学問である。人間は、工学を活用することで豊かさを享受できるが、同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動、生物多様性の喪失などの事例から、工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し、先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し、環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略(1)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方、取り組みを解説し、自身が大学生活で身に付けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略(2)	工学を基盤とした都市と産業は、環境への悪影響を最小限にしながら、人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方、取り組みを解説し、自身が大学生活で身に付けておきたいスキルを問いかける。
第06回	地域が主体	気候変動、生物多様性喪失などグローバルな課題に対して、地域が主体となり、環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何が出来るかを問いかける。
第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ、生活者の視点で暮らしから見直すことから、より複層的なものの見方を学習する。そのうえで、最終的な問い（レポート）を課題として提示する。

第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが、果たしてそうなのかを、自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで、考察する。
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか。具体例に即しながら、その射程を学ぶ。
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ、重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える。
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ、芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える。
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが、それらを踏まえつつ、日本における環境と芸術の関連について、具体例を参照しつつ考える。
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている。そこで、大阪万博を取り上げ、「技術」、「開発」、「環境」、「芸術」のかかわりについて考える。試験および総括を行う。
第14回	試験及び総括	

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う。復習として毎回の授業を見直し、参考文献を読むこと。レポートを課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
なし。

【参考書】  
適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50%）と毎回の小課題と試験（50%）により評価する。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

### 【学生の意見等からの気づき】

（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し、より言語化しやすくするように工夫しようと思います。  
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ、論理的に思考する方法を提示していきます。

### 【その他の重要事項】

NPO、国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし、多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.

The latter seven lectures (No.8~14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policies】

(No.1~7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50%)

(No.8~14) Final grade will be calculated according to following process  
Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class contribution.

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実に求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

### 【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。  
都市デザインの歴史の概略を知る。  
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきが講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著  
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

### 【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

#### [learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

#### [Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### [Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

### 【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。  
都市デザインの歴史の概略を知る。  
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。

9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著  
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

### 【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

#### [learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

#### [Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### [Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実に求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

### 【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。  
都市デザインの歴史の概略を知る。  
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
イン力

○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に定める都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。

11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。
12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著  
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

### 【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

[learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

[Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

CST200NA (土木工学 / Civil engineering 200)

## 都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

### 【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）	中心市街地活性化にかかわる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けて	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習 10%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

### 【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

### 【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

### 【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

### 【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

### 【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA (土木工学 / Civil engineering 200)

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴

14 演習課題（3）持続可能 持続可能な都市づくりにおける政策  
な都市づくりに向けて 提言レポートの発表  
の課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習 10%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA (土木工学 / Civil engineering 200)

## 都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

### 【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことと都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
  - ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
  - ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
  - ④授業内演習 10%
- 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

### 【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

### 【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

### 【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

### 【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

### 【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
- report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
- report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA (土木工学 / Civil engineering 300)

## 公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

### 【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大きさから小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

### 【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著  
日本の都市環境デザイン85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

### 【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NA (土木工学 / Civil engineering 300)

## 公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

### 【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著 日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NA (土木工学 / Civil engineering 300)

## 公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

### 【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当該授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

### 【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著 日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

### 【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

ADE100NB (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## デザインスタジオ2 (建築) W

小堀 哲夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

### 【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける
- AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。(事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする)

【ウォッチャー】普段目にしていない風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である「光」をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間が作りだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返すことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評

5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間(自室)を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
8	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
9	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
10	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
11	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
12	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション(人に意図を伝える)方法について学ぶ。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織(建築文化シナジー)

### 【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編(彰国社)

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著(彰国社)

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著(丸善)

### 【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。  
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

(評価配分：建築研究15%、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

**【学生の意見等からの気づき】**

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

**【学生が準備すべき機器他】**

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

**【その他の重要事項】**

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

**【Outline (in English)】**

**[Outline]**

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

**[Learning Objectives]**

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

**[Learning activities outside of classroom]**

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher) Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet) (However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 導入ゼミナール (都市)

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

### 【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**導入ゼミナール (都市)**

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

**【到達目標】**

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

**【修得できる能力】**

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

**【成績評価の方法と基準】**

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

**【その他の重要事項】**

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 導入ゼミナール (都市)

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

### 【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュタリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュタリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**導入ゼミナール (都市)**

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

**【到達目標】**

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

**【修得できる能力】**

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュタリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュタリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

**【成績評価の方法と基準】**

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

**【その他の重要事項】**

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 導入ゼミナール (都市)

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

### 【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**導入ゼミナール (都市)**

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

**【到達目標】**

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

**【修得できる能力】**

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

**【成績評価の方法と基準】**

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

**【その他の重要事項】**

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 導入ゼミナール (都市)

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

### 【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**導入ゼミナール (都市)**

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

**【到達目標】**

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

**【修得できる能力】**

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュタリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュタリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

**【成績評価の方法と基準】**

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

**【その他の重要事項】**

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 導入ゼミナール (都市)

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

### 【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。

授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュタリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム Hoppii の適正な使用方法
3	コンピュタリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュタリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会 (3～4時限連続)	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない (D評価)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

国土・地域概論

高見 公雄、堀川 洋子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学科の学生が学ぶべき国土・地域・都市に係わる事項は多い。当科目は1年生の必修科目として、国土から都市に係わる基本的な事柄、技術の入口を学ぶ。

【到達目標】

わが国の国土が形成されてきた経緯とその概要を理解する。  
国土・地域・都市に係わる常識、並びに関連する基礎知識を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 20%
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・应用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国土・地域・都市に係わる基礎を学ぶ前半部(1~7回)と、国土形成の歴史を学ぶ後半部(8~14回)から構成される。  
新型コロナウイルスの状況を踏まえつつ対面方式を基本に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、国土と都市・地域の概々論	国土・地域・都市にまつわる多様な視点と話題の提示。ディスカッション。
2	国土計画・地域計画総論	わが国の現行の国土計画から都市計画、身近な環境づくりに関わる諸制度のアウトライン。
3	計画立案のための統計情報と演習	様々な計画作業の基本となる指定統計を中心とした統計データの所在、背景と、代表的指標を使った演習。
4	現下の課題	震災復興など現在問題となっている国土形成、都市整備に関わる諸課題整理とこれに対する所見。
5	道路構造基準と演習	市街地の根幹をなす都市施設である道路の構造基準解説と構造基準に準拠した道路の設計演習。
6	地域計画の視点、地域資源	国土から地域レベルの計画を行う上で知っておくべき関連する基礎知識の学習。
7	国土・地域概論の確認	前半に学んだことの確認。
8	ガイダンス	社会的共有財（公共性）としての社会基盤工学と開発・整備の意義。国土整備・都市建設の特徴。国土・地域・都市の地理・気候・風土的特性に対する理解。
9	古代～中世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて古代～中世～戦国時代までの国土整備の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
10	近世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて近世の国土、藩領と城下町の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
11	近代西欧の社会基盤	明治期の社会基盤工学
12	大正・昭和期～第二次世界大戦後の社会基盤形成と国土形成	日本の近代化の中で自立する社会基盤の構築技術と国土整備事業を学ぶ。戦後復興期の国土整備事業、エネルギーと水資源の確保。
13	高度経済成長期の国土開発から持続可能な発展／開発と保全の並立	高度経済成長期以降の全国総合開発計画と交通網・都市基盤の整備を学ぶ。リオの環境宣言（1992）～京都議定書（1997）～IPCC（2021）気候変動に関する政府間パネル）に至る経緯と持続的な発展。

14 まとめ

レポートの提出、発表と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認  
配布資料の復習  
レポートの作成  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

共著、「都市および地方計画」、海山堂、高橋裕著、「現代日本土木史」、彰国社、松浦茂樹、「明治の国土開発史」、鹿島出版会ほか多数

【成績評価の方法と基準】

1~7回は演習課題(10%)、期末試験または期末レポート(40%)で評価。8~14回は各回のレポート課題で評価(50%)。また4回以上の欠席、演習課題の未提出者はD判定とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

統計の演習時にはノートパソコンが必須となる。道路構造令の演習では製図器具が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、国土・地域に関する実務の現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of three sections. The first includes lectures about engineering practices in Japan's modern history. The second is an introduction of land planning policy. The last includes lectures about fundamental issues which are essential for students of the Department of Civil and Environmental Engineering.

Term end examination: 50%, Short reports: 50%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 都市計画法と政策

福井 恒明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市のありようや都市計画・設計の系譜を踏まえ、現代都市の諸課題とその要因を理解し、対処の考え方や手段としての都市計画政策について学習する。

### 【到達目標】

都市計画における主要課題とその構造について理解する。都市計画制度の系譜や考え方、具体的な手法について理解する。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	60%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

アクティブラーニング手法により授業を進める。授業時間（100分）ごとにテーマを定め、内容について実務上の実践内容を含めながら概論を解説する（プロジェクター使用）。基本的に写したものは全て配布する。従って原則としてノートは不要。解説後、ワークを出題する。ワークは教科書を参照しながら、学生間の協力（3-4名程度のグループ）で解く。授業の最後には、リアクションペーパーを記入して提出する。リアクションペーパーに記載の質問については次の週の冒頭に補足説明・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・都市論	都市計画の対象である都市や都市的地域の特性について説明し、日本における都市や市街地の定義と実態について確認する。
2	都市計画論	日本の明治以降に近代化の一環として取り組まれてきた都市計画の歴史の概要について説明する。
3	都市基本計画／土地利用計画	都市計画の基本となる総合的な計画である都市基本計画（マスタープラン）について、その内容と方法を説明する。土地利用計画の内容や計画策定の方法とともに、その実現手段である地域地区制度について説明する。
4	公園・緑地・オープンスペースの計画	公園・緑地・オープンスペースの機能、制度、計画の考え方について説明する。
5	住宅・住環境の計画／都市基盤施設の計画	都市内で最も多い土地利用を占める住宅に関し、住宅問題、住宅需給計画、住宅地計画、住環境計画について説明する。都市を支える上下水道、電気、情報通信施設、廃棄物処理施設などについて説明する。
6	都市計画プロジェクト（1）	具体的な都市計画・アーバンデザインプロジェクトに携わる実務者を招き、その内容について紹介する。
7	都市計画プロジェクト（2）	実務者によるプロジェクト紹介を踏まえ、内容に関する質疑やグループディスカッションを行う。
8	都市環境の計画	都市における環境問題や環境基準について概説し、都市計画的な対応のあり方について説明する。
9	都市の防災計画	都市地域における災害の防止、軽減及び災害復興推進のための都市防災計画について、主に地震防災を中心に説明する。

10	都市の景観設計	都市の景観設計のための基本的考え方、歴史的変遷、手法などについて説明する。
11	欧米諸国の計画制度	日本の都市計画制度導入の際に参考としてきた欧米諸国の都市計画制度について概観する。
12	日本の都市計画制度（1）	日本の法定都市計画制度について仕組み、実態、実績などを説明する。
13	日本の都市計画制度（2）	日本の法定都市計画制度について仕組み、実態、実績などを説明する。
14	まとめ	授業全体の振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1-5回、8-12回：授業後、配布資料にもとづく復習  
6,7回、13回：レポートの作成  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

初回授業にて指示します。

### 【参考書】

前田英寿、遠藤新、野原卓、阿部大輔、黒瀬武史「アーバンデザイン講座」彰国社（アーバンデザインの歴史的経緯、理念、技法、実践を整理）  
東京大学 eSUR-SSD 研究会「世界の SSD100—都市持続再生のツボ」（世界の都市の持続再生の試みを 100 事例紹介）

### 【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（40%）および2回のレポートの内容（60%）において評価する。1回でもレポートの提出を行わない者及び欠席4回以上の者は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（アクティブラーニング）については、あらかじめ時間配分を明示することで作業時間を計画的に使えるように留意する。

### 【その他の重要事項】

具体的な都市プランニングに携わった実務経験を持つ教員が、その経験を活かして都市プロジェクトや法制度の考え方について講義する。

### 【Outline (in English)】

#### Course Outline:

The aim of this course is to understand the problems and factors of modern cities and to learn how urban planning policies deal with them.  
Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to learn concepts and approaches to grasp the actual conditions of cities, understand the history of urban planning and design, and learn about various urban planning policies.

#### Learning activities outside the classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments.  
Your study time will be more than two hours for a class.

#### Grading Criteria / Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Short reports for every class: 40%, Two assignments: 60%

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 地盤力学及演習Ⅹ

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

### 【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に活用できる基礎力を身に付ける。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 20%
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、建設に関する諸問題
2	土の基本物理量とSI単位 土の3相構成の理解と単位的重要性	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義、Darcy則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数、フローネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係、土被り圧の理解	有効応力と全応力、間隙水圧の関係、土被り圧の計算法、例題解説と演習
7	中間試験 1～6回までの理解度確認と総復習	1～6回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下、圧密沈下による社会問題、一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulombの破壊規準、例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験とMohr-Coulombの破壊規準、一軸圧縮試験の応力状態、3軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習

- 12 地盤内応力  
地中部の応力状態と簡易的算定法
- 13 土圧論  
壁体に作用する土の圧力と計算法を理解
- 14 総復習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同 上
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

### 【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験70% + レポート30% = 100%  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはPC

### 【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

### 【Outline (in English)】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 地盤力学及演習Ⅳ

澤田 俊一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

### 【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に活用できる基礎力を身に付ける。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 20%
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、建設に関する諸問題
2	土の基本物理量とSI単位 土の3相構成の理解と単位的重要性	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義、Darcy則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数、フロネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係、土被り圧の理解	有効応力と全応力、間隙水圧の関係、土被り圧の計算法、例題解説と演習
7	中間試験 1～6回までの理解度確認と総復習	1～6回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下、圧密沈下による社会問題、一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulombの破壊規準、例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験とMohr-Coulombの破壊規準、一軸圧縮試験の応力状態、3軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習

- 12 地盤内応力  
地中部の応力状態と簡易的算定法
- 13 土圧論  
壁体に作用する土の圧力と計算法を理解
- 14 総復習

地盤内応力の簡易計算法、**Boussinesq**の式、長方形分割法、影響円法、**Osterberg**法、圧力球根、例題解説と演習  
土圧と土圧係数の定義、主働状態と受働状態、**Coulomb**と**Rankine**の土圧論、地下水面の存在と土圧、例題解説と演習  
8回～13回の範囲の演習、解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同 上
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

### 【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験70%＋レポート30%＝100%  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはPC

### 【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

### 【Outline (in English)】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

LANe200NC (英語 / English language education 200)

## 工業英語Ⅹ

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語による取扱説明書、実験・生産工程の指示文・注意文等の、技術に関する基本的な英文を読むことができ、かつ、英語で簡単な説明文・操作指示文等が書ける能力を修得する。本科目の修得を基に、技術英検2級試験合格を目指す。

### 【到達目標】

- ①技術系の専門用語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②技術英語に適する英文構文を理解できる。
- ③技術に関する長文を読解できる。
- ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         | 10% |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       |     |
| (G) コミュニケーション能力    | 90% |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・技術英検2級検定試験用のテキスト「工業英検3級対策」に沿って解説する。
- ・テキスト解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・課題文および演習問題について学生を指名し、音読・翻訳および回答を求める。
- ・テキストに記載されていない事項については、随時補足する。
- ・毎回の授業では、技術英語に関する理解度の定着を図るための小テスト（技術用語、英文構文、和訳・英訳等）を課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 ・技術英検の過去問題における技術英文の専門用語や構文の実際を理解する。 ・実例演習（小テスト）
2	Chapter-1 技術英語の実践文法（その1）～動詞と文型、現在分詞	・技術英語構文としてよく用いられる動詞と文型、現在分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
3	Chapter-1 技術英語の実践文法（その2）～現在分詞、過去分詞	・技術英語構文としてよく用いられる現在分詞と過去分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
4	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～専門用語の理解と運用	・技術英語に特有の専門用語・品詞の転換形、接頭辞、接尾辞、類似語について学習する。 ・実例演習（小テスト）
5	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～無生物主語の英文	・技術英語に特有の無生物主語を用いた構文、その一般的表現方法の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
6	Chapter-3 試験問題の検討	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、英文和訳、和文英訳の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
7	中間試験	・技術英検過去問の出題形式に沿った中間試験により、第6回授業までに学習した内容の理解度を確認する。
8	中間試験の解答解説	・中間試験問題の解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直して理解度を確実にする。

9	Chapter-4 問題演習（その1）～英文和訳、選択肢問題	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における英文和訳、選択肢問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
10	Chapter-4 問題演習（その2）～完成問題、和文英訳	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における完成問題、和文英訳問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
11	Chapter-6 技術分野の語彙（その1）～数式、図形等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、数式、図形等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
12	Chapter-6 技術分野の語彙（その2）～建設、エネルギー、コンピュータ等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、建設、エネルギー、コンピュータ等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
13	技術英検過去問題による模擬試験と解答解説	・技術英検の過去問題について制限時間内で回答し、解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直して理解度を確実にする。
14	まとめ	・期末試験により、技術英語に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
- ・各回授業に対応する教科書の説明を読んで各回で学ぶ技術英語のポイントを把握しておきましょう。
  - ・教科書で取り上げている例文に使われている単語の意味を確認しましょう。（復習）
  - ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回で使われている技術分野の単語についてテキストの巻末リスト等を参考に暗記しましょう。
  - ・教科書で取り上げている例文について、教科書を見ないで自分で和文英訳、英文和訳してみましょう。（学習時間）
  - ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・公益社団法人日本工業英語協会（著）：「工業英検3級対策」、1994年1月1日初版、日本能率協会マネジメントセンター、定価1,760円＋税

### 【参考書】

随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
- ①技術系の専門用語を理解できる。（和→英、英→和）できる。→平常点10点＋期末試験16点＝小計26点
- ②技術英語に適する英文構文を理解できる。→平常点14点＋期末試験20点＝小計34点
- ③技術に関する長文を読解できる。→平常点6点＋期末試験10点＝小計16点
- ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。→平常点10点＋期末試験14点＝小計24点
- ・平常点には、小テスト、中間試験、技術英検の模擬試験、質疑応答・発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・小テストや質疑応答など、学生の興味を引く内容を工夫し、授業時にできるだけ飽きさせず、学習効果を高める工夫をしていきたい。
- ・小テスト等の解答解説を提出直後に実施する等して履修学生の学習に役立てたい。そのためには、学習支援システムによるテスト機能を使う予定なので協力してもらいたい。
- ・授業改善アンケート調査結果より、授業理解度や感想については、大半から肯定的な回答が得られた。また、その自由回答記述からは、理系専門用語を知ることができた、英語学習の機会が持てた、などの意見が出された。これらを踏まえ、2024年度授業では、引き続き、学生がより一層技術英語について興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に充分慣れておくこと。

- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

- ・Xクラス (B2240) を担当する教員 (大友) は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。
- ・英文法の基礎事項 (少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化) について復習しておくことが望ましい。
- ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This course aims to improve technical communication skills in English for basic technical documents: manuals, instructions and notices for experiments or industrial productions. Students will also be required to develop simple technical compositions. Students to achieve this class are encouraged to apply the Second Grade Technical English Proficiency, thereby making them to pass the examination.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should read specified area in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should examine unknown words used in example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should practice English composition and Japanese translation for example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 10%+final examination 16%= total 26%
- 2) Analysis of sentence structure for technical English: class participation 14%+final examination 20%=total 34%
- 3) Evaluation of English sentences with technical expression: class participation 6%+final examination 10%=total 16%
- 4) Organization of a short English sentence with technical terms and / or sentence structure for technical English: class participation 10%+final examination 14%=total 24%

# A mark in class participation includes small tests, simulated full size tests and others.

# Final examination will be conducted without any references and/or notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ADE100NB (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## デザインスタジオ2 (建築) X

小池 ひろの

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

### 【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
  - ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
  - ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
  - ・ 各種構造の特性を理解する
  - ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
  - ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける
- AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。(事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする)

【ウォッチャー】普段目にしていない風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である「光」をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味を持ったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間が作りだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたりにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返すことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評

5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間(自室)を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
8	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
9	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
10	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
11	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
12	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション(人に意図を伝える)方法について学ぶ。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織(建築文化シナジー)

### 【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編(彰国社)

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著(彰国社)

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著(丸善)

### 【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。  
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

(評価配分：建築研究 15%、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m立法の空間 50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

**【学生の意見等からの気づき】**

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

**【学生が準備すべき機器他】**

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

**【その他の重要事項】**

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

**【Outline (in English)】**

**[Outline]**

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

**[Learning Objectives]**

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

**[Learning activities outside of classroom]**

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher) Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.

(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

OTR100ND (その他/Others 100)

## デザインスタジオ2 (SD)

相川 真実、山田 泰之、飯村 武志、西岡 靖之、安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「デザインスタジオ2」は、【マネジメント系】【クリエーション系：対面】【テクノロジー系】の三つの系を各4回づつ、3クラスに分けて授業を受ける事ができる。自分のクラスを間違わないように授業を受けること。クラス分けは、A,B,Cクラスに最初のガイダンスで行う。デザイン工学では、製品を製作するときのあらゆる場面で自分の制作しようとしている不可視な状態(想像されている状態)の人工物を第三者に的確かつスピーディーに可視化しその情報を視覚伝達技術の基礎が学べる。マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を学び理解する基礎が学べる。クリエーション系では、手書きによるスケッチ技術の習得を基本としながら、発案から実作まで活用可能な絵の描き方を学ぶ。またアイデアスケッチから実制作を行い、手書きスケッチと立体造形の関係を実践的に学ぶ。テクノロジー系講義では3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現方法、「かたち」や「しくみ」に取り入れられている力学的な関係と、工学的見地からデザインをとらえる基礎知識を身につけることが出来る。

### 【到達目標】

#### 【マネジメント系】

身の回りにあるさまざまな“問題”の解決のための基本構造を学ぶ。意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できるようにします。問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法の基礎を習得する事を目標とする。

#### 【クリエーション系】対面演習授業です。

手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学ぶ。また後半ではアイデアスケッチを基に実作を行い、絵と立体の差異を理解する。

#### 【テクノロジー系】

3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現、物体の変形、流体の流れの関係、あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の基本的な関係を習得する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

#### 【マネジメント系】

マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を理解できる。これまではおそらく意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できる。そして、さらに、問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法を学ぶ事が出来る。演習は、4～5名からなるグループワークで実施できる。

#### 【クリエーション系】対面演習授業です。

この授業は、AB期でのデザインスタジオ1の継続に位置すると考えてください。

手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学びます。

前半ではアイデアスケッチの基礎的なトレーニングを行い、発案を素早く他者と共有するための絵の描き方を学びます。

後半ではテーマに沿い、実寸スケッチによる発案から、3面レンダリングを経て、実物の制作を行います。また実物と絵を比較しその差異を理解します。ここで得られる技術は各自の固有の技術となりますので予習、復習をしっかり行ってください。また専門技術の基礎となりますので真剣に取り組む必要があります。

#### 【テクノロジー系】

2次元、3次元のモノの構造とそれらのつくり方を学ぶ。図学、構造力学、材料力学、材料工学等の基礎を実習課題を通して学ぶ。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デザインスタジオ2総	「デザインスタジオ2」授業概要の説明
	ガイダンス及びクリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系、各系の対面、またはオンライン授業の説明、対面の場合のコロナ対策等の説明を含む。	この授業で得られる知識について。 クラス別の説明、クラス別日程説明。 対面、またはオンライン授業の説明。 対面使用教室説明及びコロナ対策説明。

2	クラス別①マネジメント系ガイダンス 問題解決の基本形 発散的な思考法	授業概要、目標の説明 ブレンストーミングを行う KJ法により問題を深化させる
3	クラス別②問題解決の基本形	ブレンストーミングを行う 連関図法、系統図法による問題の整理
4	クラス別③ 問題分析と構造化 問題解決の手段と実施	連関図法、系統図法による問題の整理
5	クラス別④ マネジメント系まとめ	グループ別プレゼンテーション
6	クラス別①クリエーション系 ガイダンス アイデアスケッチの作成	授業概要、目標の説明 アイデアスケッチの基礎的手法を学ぶ。 発案したアイデアを絵と文字で説明する。
7	クラス別②クリエーション系 アイデアスケッチから三面レンダリングへの展開	アイデアスケッチを経て、原寸で3面レンダリングを描く。製品制作のためのアイデアを実寸で検討する。
8	クラス別③クリエーション系 原寸で検討したアイデアスケッチを基に、実素材で製品を制作する。	原寸三面レンダリングをもとに木材を切削して、プロダクトを制作する。
9	クラス別④クリエーション系 具現化した形状と、事前に制作した原寸図を比較し、差異を理解する。	木切削によるプロダクトを完成させる。 完成品をもとに3面レンダリングを修正する。
10	クラス別①テクノロジー系 ガイダンス 図学 ものづくり実習	授業概要、目標の説明。ものづくりに欠かせない図学の基礎を学ぶ。簡単な立体構造の立体図面と展開図面を作成する。 これらの図面をもとに、1つだけ作る場合と、同じモノを複数個つくる場合を対比したものづくり実習を実施する。設計から大量生産を模擬的に体験することで理解を深める。
11	クラス別②テクノロジー系 材料力学入門	材料力学の基礎を学ぶ。応力ひずみ曲線、断面二次モーメント等、材料力学の基礎知識を学ぶ。 切り欠き効果や、両端支持梁の比較実験を実施する。これらの実習を通して材料力学への理解を深める。
12	クラス別③テクノロジー系 構造力学入門	構造力学の基礎を学ぶ。部の拘束条件、自由体図、ラーメン構造、トラス構造等、構造力学の基礎知識を学ぶ。 トラス構造を用いた大小の橋を制作する実習を実施する。これらの実習を通して構造力学への理解を深める。
13	クラス別④テクノロジー系 材料工学入門	金属材料について鉄系材料、非鉄系材料を学ぶ。非金属材料では例えば熱可塑性樹脂や熱硬化性樹脂などテクノロジーにかかわる様々な材料を実物を見ながら学ぶ。 これらの体験を通して材料工学への理解を深める
14	デザインスタジオ2 総合評価	各系からの総合評価

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

クリエーション系は毎回宿題を課します。最終課題は完成に向けてかなりの制作時間が必要となりますので、計画的に進めてください。

### 【テキスト(教科書)】

使用しない。

### 【参考書】

【マネジメント、クリエーション、テクノロジー系】

学習支援システム「教材」にアップロード。

必要に応じてプリントを配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

■成績は、マネジメント系100点、クリエーション系100点、テクノロジー系100点とし、合計平均で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

各系の基礎となる授業です。毎回必ず授業に出席する事。  
うるさく制作に没頭できないという苦情が出ています。  
クリエーション系制作実習中の私語は慎んでください。  
教室が汚いという苦情が出ています。  
授業終了時は必ず自席のテーブル、椅子、床周辺を掃除をしたのち退席してください。  
この演習授業終了後、他の演習が始まります。お互いに整理整頓された教室で演習できるように努めましょう。

**【学生が準備すべき機器他】**

**【クリエーション系】**

デザINSTAジオ1で使用したスケッチ道具セットを一式持参してください。  
PMパッドやインクなどを使い果たした人は、各自で補充し準備してください。

**【テクノロジー系】**

ノートPCを持参すること。

**【その他の重要事項】**

**【クリエーション系】**

日本で第一線で活躍するプロダクトデザイナー、実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザインの基礎知識・デザイン手法の基礎を演習を通して指導が受けられる。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This course comprises three different subjects in management, creation, and technology, each held 4 times and divided into three classes.

**【Learning Objectives】**

The goals of each subject are the following:

- Management

Learn the basic structures for solving various "problems" that exist in the world around us.

- Creation:

Learn the basics of hand-drawn idea sketching and the way to create actual works based on the sketches.

- Technology:

Master the basic relationship between power, form, and structure.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Homework will be assigned for each Creation Class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Grades will be assessed based on a total average of 100 points in Management, 100 points in Creation, and 100 points in Technology.

Also, the attitudes of the participants in the classes are subject to evaluation.

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は「デザインの現在地を知る基礎講座」です。デザインが対象とする領域と事象の幅、デザインに対する解釈の幅、それぞれが広がっている現在における2つのデザインの理論を理解します。一つは「デザインという営為の基礎を成す普遍としての考え方＝理論」であり、もう一つは「様々なデザインのそれぞれを成り立たせている個別解としての考え方＝理論」です。今日のデザインはそれら双方の理論の上に、私たちの日常のあらゆる場面で機能していると考えられます。

人間が誰でもより良く、希望をもって生きられる社会であるためにデザインが必要とされるいま、この授業では、「ものごとをデザインする」という姿勢で、受講者の皆さんがデザインと主体的に関わる姿勢を涵養することを目的としています。

### 【到達目標】

今日の社会におけるデザインの位置づけ、デザインが社会の中でどのように機能しているかを理解します。

具体的なデザインの実践内容とその担い手の想いに触れ、デザインの意図や目指すところを理解します。

これからの自らの活動にデザインの方法論を反映させていくための視野を養い、実践の素地をつくります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

デザインがどのような目的意識のもとで、どのような「社会システム」として構築され機能しているのか。社会において何が課題とされ、それに対してデザインとしてどういった提案ができるのか。デザインには何が期待されているのか。これらの考察を促すために、多様なデザインの事例紹介を軸とした講義を実施します。

授業期間の前半では社会とデザインの関係を理解するための基礎的な講義を実施、中盤での途中まとめを挟んで、後半に具体事例の紹介・解説を実施して、最後の総括へと至る予定です。

事例は様々な分野のグッドデザイン賞の受賞事例を題材とします。そこから読み取れる目的性、意義、特色、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々の社会の状況に則したものを選択していきます。なお、事例の紹介においては、デザインの当事者を外部講師としてお招きして講義を行う回も設ける想定です。

成績評定は期間中に1回課すレポートの成果を主体に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」に関する説明 (歴史および概念など)
2	社会の変化とデザインの変化	社会の変化と、デザインの対象及び目的の拡張との関係に関する考察
3	最新グッドデザイン賞から見るデザインの諸相	最新グッドデザイン賞受賞対象から見えてくること

4	デザインの対象	製造中心から情報化・サービス化への移行に伴うデザインの展開
5	デザインの本質	デザインに期待されることの本質
6	デザインの本質	デザインに期待されることの本質
7	中間まとめ	最新のグッドデザイン大賞候補などを題材に、今日におけるデザインの意義を確認
8	事例：社会課題とデザイン	福祉のためのデザイン事例
9	事例：社会課題とデザイン	地域社会活性のためのデザイン事例
10	事例：社会課題とデザイン	環境保全のためのデザイン事例
11	事例：社会課題とデザイン	地方自治のためのデザイン事例
12	事例：社会課題とデザイン	自律的社会づくりのためのデザイン事例
13	デザインへの批判的省察	「人間中心」という今日のデザインにおける基礎的な考え方に対する批判的考察
14	最終まとめ	総括およびレポート提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

つねに社会の動向、人々の関心、情報の流れを意識して、デザインがそれらとどのように関わっているかに目を向けるようにしてください。「デザインは社会の変化と相関する」「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインが関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／そこにデザインがどのように関わるか探してみる」という視点を持ち続けてください。そうした関心へ応えられる授業内容を目指したいと思います。

授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。

2024年11月に東京都内で開催する予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。様々な領域と分野に広がっているデザインの最新の実践例に触れることができます。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし (授業時間内で指示することがあります)

### 【参考書】

特になし (授業時間内で指示することがあります)

### 【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通じて1回課すレポートの成果を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して評定を実施します。レポートとして課す内容は、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しいテーマを想定しています。なお、テストは行わない予定です。出席度数が高くてもレポートの提出が行われなかったり、授業内容の理解度・解読度が希薄なレポート内容であるとみなした場合 (一度も授業に出席しなくても書けるような観念的な内容に終始している場合など) は合格評価をしません。

評価の内訳：

レポート提出 (100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

### 【その他の重要事項】

担当講師がグッドデザイン賞の事業運営に携わっているため、本授業で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞を通じたことがベースになる点を、前提として予め承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方や価値を定める絶対的な正解や正論ではありませんから、この授業で受講者の皆さんへ「正しいデザインを教える」といった意図はありません。あくまでも皆さんのデザインの見方や考え方のサポートとなるべく、グッドデザイン賞というフィルターを通じたケーススタディを提示していると理解して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。その上で、自分自身はデザインのあり方に対してどのように考えるか、この授業を受講者自らの思考を巡らせるきっかけとしてもらいたいと考えます。グッドデザイン賞という制度に対する疑問や不信感を持っているような人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦めません。

なお、この授業では実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習・ワークショップの類は実施しません。

レポートを課す際は、原則的に提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。

当シラバスで記した「授業計画」に関して、取り上げる事例の順番やテーマはその時々々の社会情勢などを反映して、当初想定から変更することがあります。

### 【Outline (in English)】

This course provides a basic course in contemporary design. Participants will learn about the concepts that form the basis of design in this day and age, along with the individual principle components of design—that is, the “theory of design,” through various subjects of design, case studies, and more. In doing so, the goal is not master design-technic, but to foster within each participant the perspectives necessary to uncover social challenges and link them to solutions, as well as an awareness of design as a way to proactively build a more livable and hopeful society for all.

#### < Learning activities outside of classroom >

Always be aware of social trends, people’s interests, and information flows, and pay attention to how design is related to them. Based on the recognition that "design correlates with social changes" and "design is involved with everyone and everything," please keep in mind the viewpoint that "design is an object of study" and "design is an object of study" for the events you are interested in. We aim to provide class content that responds to such interests.

Please be sure to actively seek additional information about the design examples introduced in class and make them your own interests.

Students are encouraged to visit the event introducing the latest Good Design Award winners, which is scheduled to be held in Tokyo in November 2024. You will be exposed to the latest examples of design practice spread across a variety of domains and disciplines.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

#### < Grading Criteria /Policy >

Grading will be based mainly on the results of one report assigned throughout the class period, as well as overall judgment based on class participation. The content of the report is intended to cover topics that would be difficult to deal with if the level of participation in class is significantly low. No tests will be given.

If a student does not submit a report even though his/her attendance is high, or if the content of the report is deemed to be of a low level of understanding and interpretation of the class content (e.g., if the content is so conceptual that it could be written without ever attending class), the student will not receive a passing grade.

Breakdown of evaluation : Report submission (100%)

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## 図形科学基礎演習Ⅹ

梶本 博司、石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

### 【到達目標】

立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎1	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎2	図形を通して立体を第三者に伝達する
4	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	平面から立体、立体から平面の往来手描きによる幾何形体-演習1
5	三角法の基礎-2：三角法の作図法	三角法の作図法、基礎概念の理解。手描きによる幾何形体-演習2：線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	手描きによる幾何形体-演習3
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	寸法記入法、断面図 CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図。図形描画ツールの理解2。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解3、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題3：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(基本レイアウトの作成)
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ)整合性の検証)
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を必ずすること。

CADの基本操作を自主的に学習しておく事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

### 【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

### 【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

### 【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

### 【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.

(Learning activities outside of classroom)

Be sure to review your lessons.

Self-directed learning of basic CAD operations.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Attendance (deduction method)

Active class participation and class attitude will be evaluated.

Assignment submission (100%)

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## 図形科学基礎演習Ⅳ

梶本 博司、石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

### 【到達目標】

立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することと、CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎1	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎2	図形を通して立体を第三者に伝達する
4	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	平面から立体、立体から平面の往来手描きによる幾何形体-演習1
5	三角法の基礎-2：三角法の作図法	三角法の作図法、基礎概念の理解。手描きによる幾何形体-演習2：線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	手描きによる幾何形体-演習3
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	寸法記入法、断面図
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解2。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解3、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題3：三角法による幾何形体の作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(基本レイアウトの作成)
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ)整合性の検証)
		身近な立体物を計測し、三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を必ずすること。

CADの基本操作を自主的に学習しておく事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

### 【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

### 【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

### 【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

### 【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## クリエイション基礎論

土屋 雅人、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

クリエイション基礎論は、講義形式の授業となります。

前半、後半各7回ずつで教員が変わります。

本授業では、海外の文化を柔軟に取り入れながら発展してきた日本の美の要素に関する知識と、現代のものやサービスのデザインに必要な普遍的な美の表現形式に関する知識を習得します

## 【到達目標】

ものやサービスのデザインに必要な美的表現に関する基礎知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は二部構成となり、第一部は1回目より7回目までを大西教授、第二部は8回目から14回目までを土屋教授の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第1部は、日本美術史にみる古典表現と現代美術・デザインの関りについて

第2部は、視覚情報伝達と情報価値、認知工学について

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、および日本美術のクリエイション1	本講義の概要、注意点、および縄文・弥生・古墳／飛鳥・奈良時代の美について解説します。
2	日本美術のクリエイション2	平安時代の美について解説します。
3	日本美術のクリエイション3	鎌倉・南北朝／室町時代の美について解説します。
4	日本美術のクリエイション4	桃山・江戸時代①の美について解説します。
5	日本美術のクリエイション5	江戸②／明治時代の美について解説します。
6	日本美術のクリエイション6	大正・戦前戦後の美について解説します。
7	日本美術のクリエイション7、授業内試験	現代の美について解説します。授業内試験を行います。
8	ビジュアルシンキング	思考のための視覚表現を学びます。
9	グラフィックデザイン	印刷媒体とグラフィックデザインの働きを学びます。
10	情報伝達と認知	情報の分類と理解の仕組みを学びます。
11	ピクトグラムデザイン	情報の記号化とピクトグラムの役割を学びます。
12	サイン計画	情報伝達とサイン計画を学びます。
13	ダイアグラムデザイン	メディアの変遷とダイアグラムの機能を学びます。

14 情報価値の創造 情報の構造化とメディア、情報価値の創造を学びます。授業内試験を行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の美や美の表現形式に関する多くの知識を学ぶので、講義ノートをしっかり取るのが重要です。

予習復習を行い、授業内容の理解を促すための課題は指示通りに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて・授業内で配布

学習支援システムの教材にテキストを掲示

## 【参考書】

「増補新装 カラー版日本美術史」、辻 惟雄(監修)、美術出版社

「日本美術史 JAPANESE ART HISTORY」、山下裕二(監修)、美術出版

「グラフィックデザイン基礎講座」、大里浩二(監修)、美術出版

「情報デザインのワークショップ」、山崎 和彦他(著)、丸善出版

## 【成績評価の方法と基準】

課題、試験の他、学習態度を平常点として評価します。

各課題合計(30%)、試験(40%)、平常点(30%)

2名の教員の成績の平均より評価判定します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートの結果を反映する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline (in English)】

In this class, we will study about the elements of Japanese beauty which have been evolved while incorporating foreign cultures, and knowledge about the beauty of expression necessary for the design.

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Quality of objects:30%, Term-end examination:40%, In class contribution:30%.

OTR200ND (その他 / Others 200)

## プレゼンテーション技術X

豊島 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイデアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルやテクニックを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は、「Audience First」を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され、共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358は同一内容）からなり、対面とオンラインで行います。Face to Faceの対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションを効果的に行うためのテクニックやスキルを学び、練習します。オンライン授業時のURLは学習支援システムの「お知らせ」を通じて9月半ば以降に周知します。受講者は忘れずにチェックしてください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージを学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。

オンライン・プレゼンテーション実習ではZoomとGoogle Formsで相互評価を行い、発表者は教員、TAとほかの受講者のfeedback（FB）を受けます。発表者はFBを読み、プレゼン録画を自己点検し、自らのプレゼンテーションの改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは研究発表へつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本であるTell Them Three Times Approachを使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者はPCやスマホを使って発表者にFBします。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のビデオ録画を自己点検し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからのFBを参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次のプレゼンテーションに反映させ改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積み重ねます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えたと飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自らのプレゼンテーションを向上させるだけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回授業で説明します。授業の進捗具合、受講者数によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効なTell Them Three Times Approachを学びます。
3	プレゼンテーションの三要素（Visual & Physical Messages）についての講義	PPTスライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	第一回日本語プレゼンテーション実習（3）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・第二回日本語プレゼンテーションの説明 ・英語プレゼンテーションの準備(1)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。次に第二回日本語プレゼンテーション（問題解決型プレゼンテーション）の趣旨と取り組み方を学習します。後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備(2)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。後半は各自作成してきた英語原稿をpeer reviewしあい、その後英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行って英語プレゼンテーションに備えます。
9	英語プレゼンテーション実習(1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習(2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。

11	第二回日本語プレゼンテーション実習(1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習(2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	第二回日本語プレゼンテーション実習(3)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート(Final Reflection)を授業内で書きます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を練習します。受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備を行い、実演します。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を点検し、自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

#### 【参考書】

・Garr Reynolds 「プレゼンテーションZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション  
 ・Harrington,D,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse  
 ・Jonathan Schwabish 著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

#### 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 50%、課題 40%、授業への取り組み（出席含む）10%  
 ・3種類のプレゼンテーションすべてを実演することが単位取得の要件です。  
 ・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告してください。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。  
 ・3分の1を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。  
 ・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。  
 ・プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題はメ切を守って期限内に提出するようにしてください。  
 ・発表者に対して的確な相互評価とフィードバックができていないかを重視します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「大変有意義な授業だと思います。SD学科は発表が多いですが、フィードバックを得る機会がありません。自分の長所と課題が明確になり、上達できた。」「Tell Them Three Times Approachを実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった。」「FBを読んでビデオで自己点検するのは効果があると思った。」「プレゼンにおける声の抑揚やアイコンタクトの重要性がよくわかった。」「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。また、発表回数を増やす提案や発表順に関する要望なども頂きましたので検討します。

受講者の皆さんがしっかりと自分と向き合っており、プレゼンだけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

#### 【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（UB）で理工系学生（STEAM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学習を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。

#### 【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

OTR200ND (その他/Others 200)

## プレゼンテーション技術Y

豊島 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイデアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルやテクニックを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は、「Audience First」を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され、共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358は同一内容）からなり、対面とオンラインで行います。Face to Faceの対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションを効果的に行うためのテクニックやスキルを学び、練習します。オンライン授業時のURLは学習支援システムの「お知らせ」を通じて9月半ば以降に周知します。受講者は忘れずにチェックしてください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージを学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。

オンライン・プレゼンテーション実習ではZoomとGoogle Formsで相互評価を行い、発表者は教員、TAとほかの受講者のfeedback（FB）を受けます。発表者はFBを読み、プレゼン録画を自己点検し、自らのプレゼンテーションの改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは研究発表へつなげる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本であるTell Them Three Times Approachを使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者はPCやスマホを使って発表者にFBします。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のビデオ録画を自己点検し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからのFBを参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次のプレゼンテーションに反映させ改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みみます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えたと飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自らのプレゼンテーションを向上させるだけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回授業で説明します。授業の進捗具合、受講者数によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効なTell Them Three Times Approachを学びます。
3	プレゼンテーションの三要素（Visual & Physical Messages）についての講義	PPTスライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	第一回日本語プレゼンテーション実習（3）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・第二回日本語プレゼンテーションの説明 ・英語プレゼンテーションの準備(1)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。次に第二回日本語プレゼンテーション（問題解決型プレゼンテーション）の趣旨と取り組み方を学習します。後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備(2)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。後半は各自作成してきた英語原稿をpeer reviewしあい、その後英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行って英語プレゼンテーションに備えます。
9	英語プレゼンテーション実習(1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習(2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。

- |    |                      |  |
|----|----------------------|--|
| 11 | 第二回日本語プレゼンテーション実習(1) | 第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます                |
| 12 | 第二回日本語プレゼンテーション実習(2) | 第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。  |
| 13 | 第二回日本語プレゼンテーション実習(3) | 第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。  |
| 14 | まとめ                  | よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート(Final Reflection)を授業内で書きます。 |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を練習します。受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備を行い、実演します。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を点検し、自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

#### 【参考書】

・Garr Reynolds 「プレゼンテーションZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション  
 ・Harrington,D,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse  
 ・Jonathan Schwabish 著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

#### 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 50%、課題 40%、授業への取り組み（出席含む）10%  
 ・3種類のプレゼンテーションすべてを実演することが単位取得の要件です。  
 ・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告してください。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。  
 ・3分の1を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。  
 ・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけでなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。  
 ・プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題はメ切を守って期限内に提出するようにしてください。  
 ・発表者に対して的確な相互評価とフィードバックができていないかを重視します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「大変有意義な授業だと思います。SD学科は発表が多いですが、フィードバックを得る機会がありません。自分の長所と課題が明確になり、上達できた。」「Tell Them Three Times Approach を実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった。」「FBを読んでビデオで自己点検するのは効果があると思った。」「プレゼンにおける声の抑揚やアイコンタクトの重要性がよくわかった。」「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。また、発表回数を増やす提案や発表順に関する要望なども頂きましたので検討します。

受講者の皆さんがしっかりと自分と向き合っており、プレゼンだけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

#### 【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（UB）で理工系学生（STEAM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学習を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。

#### 【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 材料の力学

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築材料の物理的性質と建築の基本部材である梁の力学的基礎

### 【到達目標】

材料の基礎的な力学理論からいかにして簡潔で美しい線材理論が導かれるかを学ぶ。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人類は、生活圏内で手に入れることのできる材料を用いて、雨風を凌ぐための建築空間を作ってきた。遺構を含め今日までの建築空間はそれぞれ用いた材料の性質に制約を受けながらも、その可能性を最大限に引き出したものと言える。そこには材料に対するあまたの経験と理解に基づく人類の創意工夫がある。これを物理学の視点から整理統合し、予測可能な技術として発展させた設計のための経験科学が材料の力学である。本講では建築空間を構成する基本的な構造部材である梁や柱などの1次元部材を対象に材料の力学を論じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業ガイダンス スケジュール 成績評価方法
2	応力度とひずみ度 (1)	力のつり合いと応力 応力度と強度 ひずみ度
3	応力度とひずみ度 (2)	構成方程式 構成方程式 ポアソン比
4	はりの応力度 (1)	せん断ひずみ度 せん断弾性係数 曲げを受けるはり はりの曲げ応力 中立軸 断面係数
5	はりの応力度 (2)	曲げモーメントとせん断力の関係 せん断応力度の分布 せん断流理論 せん断中心とねじり
6	軸力と曲げモーメントの組み合わせ	軸力と曲げの連成 重ね合わせの原理 偏心軸力 断面の核
7	総合演習 (1)：応力度とひずみ度	授業内演習
8	はりの基本式	はりの基本式の導出 はりの基本式の応用
9	断面の性質	断面1次モーメントと図心 断面2次モーメントと断面係数 断面相乗モーメントと断面の主軸
10	はりの変形	はりの変形の求め方
11	モールの定理	モールの定理
11	総合演習 (2)：はり理論	授業内演習
12	座屈 (1)	オイラー座屈 座屈応力度、許容圧縮応力度 初期たわみ
13	座屈 (2)	有効座屈長さ ラーメンの座屈
14	総合演習 (3)：座屈	授業内演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義板書内容を復習、実施された演習プリントの反復。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

### 【参考書】

Stephen P. Timoshenko: History of Strength of Materials, Dover, 1983, Paperback.

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：50%（各100点満点）

定期試験：50%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

また、連続3回欠席、通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

### 【その他の重要事項】

この授業と、春学期に同時開講される「部材の力学」で学んだ知識をもとに、秋学期必修科目として開講される「骨組の力学」は展開されるため、非常に重要である。構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

Learn about the physical properties of building materials and the basic mechanical theory of beams, which are the basic members of architecture.

Learning Objectives:

Learn how a concise and beautiful wire theory can be derived from the fundamental mechanical theory of materials.

Learning activities outside of classroom:

Review of previous lecture board content and repetition of exercises printed in the conducted exercises. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 骨組の力学

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法について学ぶ。

## 【到達目標】

様々な静定構造物の変形および不静定構造物の応力を求める解法の修得と基本的な構造形式の力学性状の把握を目標とする。

## 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「部材の力学」では、力のつりあいについて学習し、静定構造物の応力を求めた。また、「材料の力学」では、構造部材に働く応力度とひずみ度の関係、断面の性質について学習した。

この授業では、物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法を主に学習する。

理論や解析手法を修得するだけではなく、基本的な構造形式を持つ力学的特性についても把握するため、数多くの演習問題に挑戦してもらう。

基本的な1回の授業は、前回演習課題の解説→講義→演習課題発表→自宅での演習→次回授業での演習課題提出という流れである。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業概要 構造物の安定・不安定
2	静定構造物の応力（復習）	片持梁 単純梁 静定ラーメン 静定トラス
3	直線部材の変形（復習）	はりの基本式（弾性曲線方程式） モールの定理
4	総合演習（1）	授業内試験
5	エネルギー原理	仕事とエネルギー 熱力学の基本法則 ひずみエネルギー 仕事の原理
6	仮想仕事の原理	仮想仕事の原理 重ね合わせの原理 相反定理 単位仮想荷重法
7	静定トラスの変位 静定はりの変位	軸力部材の変位 静定トラスの変位 強制変形による変位 はり部材の変位 片持梁の変位 単純梁の変位 変断面梁の変位
8	静定ラーメンの変位	ラーメン構造の変位 片持梁型ラーメンの変位 単純梁型ラーメンの変位 3ヒンジラーメンの変位
9	Castiglianoの定理	Castiglianoの定理の導出 Castiglianoの第2定理の応用 最小仕事の定理の応用
10	総合演習（2）	授業内試験
11	不静定構造物の応力	不静定構造物の解法 不静定構造物の例題1 不静定構造物の例題2
12	たわみ角法（1）	たわみ角法とは たわみ角法の基本式 不静定ラーメンの解法
13	たわみ角法（2）	剛度と剛比 層方程式
14	総合演習（3）	授業内試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

## 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：50%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

期末試験：50%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

なお、演習課題の提出率が80%未満のものは成績評価しない

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて、授業進度を調整することに心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

「材料の力学」および「部材の力学」で学んだ知識を用いるため、これらの授業の復習は必ず行っておくこと。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

## 【Outline (in English)】

Course outline:

Learn how to determine the stress and deformation states of various structures using the energy principle, a fundamental principle of physics.

Learning Objectives:

The goal is to master solution methods for determining deformation of various static structures and stresses in non-stationary structures, and to understand the mechanical properties of basic structural forms.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## Design Basics in English

### ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金5/Fri.5 | キャンパス：市ヶ谷

毎年・隔年： | 科目主催学部：デザイン工 Engineering and Design

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

#### 【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.

<p>Class 14 Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation</p>	<p>Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.</p>
---	---

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

**【テキスト（教科書）】**

No specific textbook is necessary.

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

**【学生の意見等からの気づき】**

During the 2023 semester, students expressed that discussions in small groups were more comfortable and less intimidating than formal presentations in front of the class. Consequently, this year, the emphasis has shifted away from formal presentations, with more focus placed on extended discussions on various topics. The class format with group discussions proved to be successful, fostering better collaborative learning and increased student involvement.

2023年度の学期中、学生たちから、少人数のグループでの議論の方が、クラス全体の前での形式的なプレゼンテーションより圧迫感が少なく話しやすかったとの意見がありました。その意見を考慮し、今年は形式的なプレゼンテーションよりもグループディスカッションに重点を置くことにしました。

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## Design Basics in English

### ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

#### 【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

#### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.

Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.

Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

**【テキスト（教科書）】**

No specific textbook is necessary.

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

**【学生の意見等からの気づき】**

During the 2023 semester, students expressed that discussions in small groups were more comfortable and less intimidating than formal presentations in front of the class. Consequently, this year, the emphasis has shifted away from formal presentations, with more focus placed on extended discussions on various topics. The class format with group discussions proved to be successful, fostering better collaborative learning and increased student involvement.

2023年度の学期中、学生たちから、少人数のグループでの議論の方が、クラス全体の前での形式的なプレゼンテーションより圧迫感が少なく話しやすかったとの意見がありました。その意見を考慮し、今年は形式的なプレゼンテーションよりもグループディスカッションに重点を置くことにしました。

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## Design Basics in English

### ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

#### 【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

**【テキスト（教科書）】**

No specific textbook is necessary.

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

**【学生の意見等からの気づき】**

During the 2023 semester, students expressed that discussions in small groups were more comfortable and less intimidating than formal presentations in front of the class. Consequently, this year, the emphasis has shifted away from formal presentations, with more focus placed on extended discussions on various topics. The class format with group discussions proved to be successful, fostering better collaborative learning and increased student involvement.

2023年度の学期中、学生たちから、少人数のグループでの議論の方が、クラス全体の前での形式的なプレゼンテーションより圧迫感が少なく話しやすかったとの意見がありました。その意見を考慮し、今年では形式的なプレゼンテーションよりもグループディスカッションに重点を置くことにしました。

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## Design Basics in English

### ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

#### 【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

**【テキスト（教科書）】**

No specific textbook is necessary.

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

**【学生の意見等からの気づき】**

During the 2023 semester, students expressed that discussions in small groups were more comfortable and less intimidating than formal presentations in front of the class. Consequently, this year, the emphasis has shifted away from formal presentations, with more focus placed on extended discussions on various topics. The class format with group discussions proved to be successful, fostering better collaborative learning and increased student involvement.

2023年度の学期中、学生たちから、少人数のグループでの議論の方が、クラス全体の前での形式的なプレゼンテーションより圧迫感が少なく話しやすかったとの意見がありました。その意見を考慮し、今年は形式的なプレゼンテーションよりもグループディスカッションに重点を置くことにしました。

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE100NB (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## デザインスタジオ2 (建築) Y

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

### 【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。(事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする)

【ウォッチャー】普段目にしていない風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である「光」をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間が作りだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたりにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返すことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評

5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間(自室)を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
8	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
9	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
10	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
11	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
12	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション(人に意図を伝える)方法について学ぶ。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織(建築文化シナジー)

### 【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編(彰国社)

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著(彰国社)

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著(丸善)

### 【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。  
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

(評価配分：建築研究15%、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

**【学生の意見等からの気づき】**

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物に向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

**【学生が準備すべき機器他】**

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

**【その他の重要事項】**

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

**【Outline (in English)】**

**[Outline]**

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

**[Learning Objectives]**

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

**[Learning activities outside of classroom]**

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher) Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet) (However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 交通計画

今井 龍一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

交通計画の役割とその領域、関連分野を認識しつつ、人・物の動きとその特性および各種交通手段の特性を把握する。また、それらの特性把握のためパーソントリップ調査等による交通需要予測を通じ、各種交通手段と交通施設の相互関係を把握（土地利用形態、密度と交通ネットワーク、交通結節施設）するとともに、交通施設の構造基準、交通流特性、交通容量等について解説し、交通網計画および交通管理計画の策定手法習得を目標とする。

### 【到達目標】

- ・交通の意義、交通の発展の歴史を理解する
- ・交通政策の変遷を理解する
- ・交通の性質、運用技術の基礎を理解する
- ・都市交通問題解決のための考え方を身につける
- ・交通量調査、交通実態調査および交通需要推計（段階推計法）を理解する

### 【習得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的な交通計画の概念を把握するとともに、ネットワーク計画や解析、簡単な交通需要予測計算が算定できるような能力を身につける。また、モビリティマネージメントなどの新たな交通計画の概念を理解する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	交通計画の概論	交通の定義、日本の道路交通政策の推移
2	交通調査（車両）	全般、交通・輸送調査
3	交通調査（PT）	パーソントリップ調査
4	自動車交通流（QKV）	交通量、速度、密度
5	自動車交通流（容量等）	交通容量、サービス水準
6	自動車交通流（渋滞）	渋滞
7	理解度の確認	第1回～第6回の総括
8	都市交通計画（政策）	計画策定方法、都市経営方法
9	都市交通計画（需要）	交通需要予測の役割と手法の種類
10	都市交通計画（推計法）	四段階推計手法
11	都市交通計画の評価	ITSの役割、サービス内容
12	高度道路交通システム	分布交通量・機関分担交通量の算定
13	将来の都市交通計画	最新の都市交通分野の動向
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

随時プリントをwebにより配付する。

### 【参考書】

- ・交通工学研究会：交通工学ハンドブック、丸善出版、2014年
- ・交通工学研究会：道路交通技術必携2013、丸善出版、2018年
- ・久保田尚、大口敬、高橋勝美：読んで学ぶ交通工学・交通計画、理工図書、2010年

### 【成績評価の方法と基準】

欠席4回以上の物には単位の取得を認めない（評価D）。期末試験の成績60%、レポート・授業時の課題発表40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎的な統計解析は習得しておくこと。  
交通インフラは社会の要望および時機の政策に大きく影響される「社会工学」である。「工学」としての普遍的な基本を習得するとともに、発展する社会の発するサインに敏感になることにも意識すること。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

This course allows students to learn the aims, roles, and formulation methods of transportation plans. For this purpose, students will understand motion characteristics of persons and objects, characteristics of different means of transportation, transportation demand forecasting using person trip surveys, structure standards of transportation facilities, characteristics of traffic flow, and traffic capacity.

Understand the significance of transportation and the history of transportation development

To understand the transition of transportation policy.

Understand the nature of transportation and the basics of operational technology

To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology · To learn how to solve urban transportation problems

To understand the traffic volume survey, actual traffic condition survey and traffic demand estimation (stepwise estimation method)

Understand the significance of transportation and the history of transportation development

To understand the transition of transportation policy.

Understand the nature of transportation and the basics of operational technology

To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology · To learn how to solve urban transportation problems

Term end examination : 60% , Short reports : 40%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

ADE300NC (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 建築設計基礎

瀬戸 健似、今井 裕久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができるようにするため、建築物等の形態、建築材料及び構造等を決め、それを図面に表示する技術を講義及び演習を通して、修得することを目標とする。建築士を目指す学生は必ず受講すること。

## 【到達目標】

二級建築士試験に出題される木造建物の製図技術の獲得を目標に、最新の建築物等の動向や特徴を紹介しながら、建築物がどのように計画され、どのように図面化されていくのかを、実際の演習を通して学習する。

## 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
 (B) 技術者倫理  
 (C) 工学基礎学力  
 (D) 専門基礎学力 20%  
 (E) 専門知識の活用・応用能力 60%  
 (F) 総合デザイン能力 20%  
 (G) コミュニケーション能力  
 (H) 継続的学習能力  
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実際の建築士試験と同様に与えられた敷地条件や建築条件を満足する建築構造物の設計・製図を行い、中間発表、最終評価を通じて他の受講生の評価・講評を実施する。

毎回の講義を通じて設計・製図を実施することから、進捗に応じて時間外での作業が発生する可能性があるため、継続的・積極的に出席すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション 建築物等の現在 製図の準備・基礎	設計製図の目的、講義スケジュール、建築士の概要、建築士試験の概要 今日の建築物等の動向、特徴的・代表的な建築物の分類 用具の確認、用具の使い方、線の練習・その他ユニットの練習
2回	建築物等の形態 建築材料・構造・設備 木造建築物の製図基礎 (1)	建築物の形態、条件の把握、行為の分類、空間イメージ、スケール感 敷地条件・方位と建築、調査・法規・計画の事例紹介 建築材料及び構造種別（木造、S造、SRC造、RC造）、建築設備と役割 図面の表現（配置兼1階平面図と2階平面図）その1
3回	木造建築物の製図基礎 (2)	図面の表現（配置兼1階平面図と2階平面図）その2
4回	建築構造物の設計 (1) 木造建築物の製図基礎 (3)	図面作成上のポイント（図面の構成と関係性） 課題設計スケジュールの作成、条件整理とエスキス 図面の表現（立面図、伏図、矩計図）
5回	建築構造物の設計 (2)	設計コンセプト、エスキス（平面図）
6回	建築構造物の設計 (3)	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図）
7回	建築構造物の設計 (4)	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図・立面図）
8回	中間発表	エスキスの確認
9回	建築構造物の製図 (1)	製図（配置図兼1階平面図、2階平面図）
10回	建築構造物の製図 (2)	製図（断面図・立面図）
11回	建築構造物の製図 (3)	製図（その他）
12回	CAD製図 (1)	配置図兼1階平面図及びプレゼンテーションその1
13回	CAD製図 (2)	配置図兼1階平面図及びプレゼンテーションその2
14回	最終講評	優秀作品の選出と講評

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義において実施される演習は期限内に必ず仕上げて提出すること。特に、講義後半に実施する課題分による作図演習については、講義時間内でのエスキス作成ができない場合は、時間を確保し中間審査を経てから作図作業に入る必要がある。

またCAD製図についても同様に、手書きによる平面図作成が終了している必要がある。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

建築デザインの製図法から簡単な設計まで—建築設計演習基礎編, 武者 英二他(著), 彰国社

## 【参考書】

必要に応じて紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出60%、授業への参加40%、欠席4回以上はD評価  
 演習が主体の授業であり、授業参加が単位取得の前提となります。授業時間内での課題提出は必須となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

同時期に演習が重なることもあるため、課題の提出期限などは柔軟に対応し、総合的に評価を行うこととする。

## 【学生が準備すべき機器他】

A2製図板以外の基本的な製図用具は各自で準備する必要がある。基本的には1年生の図学及演習で購入した製図用具セットで対応が可能である。初回講義で必要なものを提示するので各自で準備すること。

## 【その他の重要事項】

一級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて木造住宅から公共施設等、様々な建築設計の経験を持つ教員が、実際の資格試験の概要、設計実務を踏まえた製図知識、実際の設計作業を通じたプレゼンテーション、CADを用いた図面によるプレゼンテーションなどを指導する。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will learn skills for the drawing of building construction plans through lectures and exercises. Students will determine the type, structure and material of buildings, and learn how to indicate them in drawings. 【Learning Objectives】 Students aspiring to become architects should attend this class. 【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after every lecture. Your study time will be more than two hours for a lecture. 【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports or Exercise drawings: 60%, in class contribution: 40%(Grade D for 4 or more absences)

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 鋼構造デザイン実習

鈴木 泰之、山下 修平

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鋼構造デザイン実習では、鋼構造の設計方法について、「鋼構造学及び演習X」で習得した知識を具体的な橋の設計に応用する。鋼構造デザイン実習では、まず、鋼構造設計法の基礎を講義ならびに演習を通して習得した後、これらの知識を活用して鋼構造のデザインを行う。デザイン実習は、鋼橋（歩道橋）を対象として個別に与えられた設計条件に基づき、設計計算、作図および数量算出を行う。講義は、実務で行われている実際の橋梁設計の手順に沿って実習形式で進められる。これにより学生は、構造力学の基礎と鋼構造設計との関連について習得することができ、かつ、実務で行われている「橋梁設計」という行為の手順やポイントを身に付けることができる。

### 【到達目標】

はじめに、鋼構造の主材料である鋼の性質や鋼構造の設計方法について演習問題を通して習得する。次に、これらの知識を活用して鋼橋（歩道橋）の設計計算を行い、その結果に基づき施工性を考慮した図面を作成することにより、鋼橋の設計計算法や図面の読み方を取得する。この講義の受講後、学生が「設計という行為がどのようなものであるか」について、および、「1、2年次で学んだ構造力学が、実務の鋼構造設計において、どのように使われているのか」について、理解することを目標とする。さらに、鋼橋の設計について、一通り手順を追って学習していることから、「学生が実社会においても抵抗なく鋼橋の設計を理解する能力を身に付けること」を到達目標とする。各講義で出題される演習問題の提出、設計計算書、設計図面、数量計算書の成果を提出することにより、単位が与えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

与えられた課題に対して各々が問題に対する解答の作成、与えられた設計条件に対する設計計算書の作成、製図、数量の算出を行う。製図は手書き・CADいずれでもよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼構造の特徴について、鋼橋を例に取り説明する。 鋼橋の構成要素と要素の役割および鋼橋設計に必要な基本事項について説明する。
2	鋼構造演習（構造力学の設計への応用 荷重）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
3	鋼構造演習（構造力学の設計への応用 荷重強度）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
4	鋼構造演習（作用・断面力の算出）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。作用（断面力）の算出に関する演習課題を行う。
5	鋼構造演習（断面諸元・抵抗）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。断面諸元および抵抗の算出に関する演習を行う。
6	鋼構造演習（添接・補剛設計）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。添接の考え方、部材の補剛方法、補剛材の設計方法について演習を行う。
7	鋼橋設計計算書の作成（設計条件・荷重・荷重強度）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、荷重・荷重強度を取り纏める
8	鋼橋設計計算書の作成（断面力・断面決定・添接）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、断面力算出・断面計算・添接計算を扱う

9	鋼橋設計計算書の作成（補剛設計・横桁・支点上補剛材）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、補剛設計・横桁・支点上補剛材を扱う。
10	鋼橋の製図（構造一般図）	設計計算書を基にした製作図面の作成方法の説明を行う。設計計算書が完成した学生は教員による確認を受けた後、製図作業に着手する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、構造一般図の作図を行う。
11	鋼橋の製図（主桁）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、主桁の作図を行う。
12	鋼橋の製図（構造詳細図）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、構造詳細図の作図を行う。
13	材料の算出	作成された製作図面を基に、鋼橋製作に必要な材料を算出する。算出結果は、数量計算書として取りまとめる。
14	成果品の提出、講評	設計計算書、製作図面、数量計算書を教員に提出し、講評を受ける。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～6 構造力学の復習  
7～13 進捗が遅い学生は、授業時間外で成果の作成進捗を補うこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布

### 【参考書】

道路橋示方書・同解説 (公) 日本道路協会 平成29年11月  
合成桁の設計例と解説 (一) 日本橋梁建設協会 平成30年2月  
大倉一郎：鋼構造設計学の基礎、(株) 東洋書籍  
中井・北田・山口・事口・平城：例題で学ぶ橋梁工学、共立出版 (株)  
田島富男、徳山昭：絵とき鋼構造の設計、(株) オーム社  
中井博、北田俊行：新編 橋梁工学、共立出版 (株)

### 【成績評価の方法と基準】

演習問題の提出および採点結果	40点
鋼歩道橋他の設計計算	40点
鋼歩道橋他の製図	15点
鋼歩道橋他の数量計算	5点
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。	

### 【学生の意見等からの気づき】

教える側が「当然理解しているであろう、あるいは、理解したであろう」と考えている事項を質問にくる学生が多い。教える側にとって「当然」であることも、実は、「学生にとって、理解されていなかったこと」が多いことに、改めて気づく。懇切丁寧に分かり易い説明に心がける。また、学生の理解を深めるために、基礎演習に力を入れるとともに、個別指導に力を入れる。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、電卓、定規

### 【その他の重要事項】

同分野での実務経験を有する教員が担当する。  
橋梁設計の流れが理解され、歩道橋の設計ができるようになることを目指す。  
設計計算に必要な表計算ソフト (EXCEL)、設計図面作成に必要なソフト (AUTO CAD) の習得も同時に行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

Learn how to design steel structures through practical training. In this training, the basis of steel structure design will be studied through lectures and exercises, after which students will perform designs of practical steel structures utilizing this knowledge. In the design training, design calculation, drawing and quantity calculation for steel pedestrian bridges are carried out based on individually assigned design conditions.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

Students can learn how to design steel structures

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Preparation and review each design step 1 hour

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Report in class 40points  
Design Calculation 40points  
Design Drawing 15points  
Material Calculation Sheet 5points

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 工学実験2

鈴木 善晴、酒井 久和、鈴木 弘明、池田 勇司、道奥 康治、北條 幸雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境システム系の実験（水圏環境実験および土質環境実験）を実施して計測技術を習得する。実験データを的確に図表化・分析し、実験値と理論値との整合性や違いの原因を考察する。以上の実験結果を反映したレポートをわかりやすく作成することにより、これまでの学習内容を実証的に理解するとともに実験で得た新たな発見を通して水圏・土質環境に発現する実現象への理解を深めることを目的とする。

### 【到達目標】

実験の目的と方法を正しく理解した上で、グループのメンバーと協力しながら自ら実験作業に従事して業務遂行能力の向上を図る（G, I）、実験結果をレポートとしてわかりやすく明快にまとめる力を養うとともに、これまでに習得した専門知識と関連づけながら実験結果を適切に考察できるように応用力や科学的思考力を身につける（E, H）、などが本授業の主な学習到達目標である。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	40%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、水圏環境実験および土質環境実験の2つからなる。いずれにおいても自ら実験に参加して、実験データを取得して分析・整理し、実験結果に対する深い考察を反映したレポートを作成・提出することが不可欠である。

水圏環境実験では、水理現象の観察・測定、実験と理論との比較・検証を通して、水理特性を理解することを目的とする。また、土質環境実験では、ふるい分けなどの実験を通して土と接することにより、その物理的・力学的性質を体感し土質特性を理解すること、および水質に関する浄化・分析の手法を理解することを目的とする。

各実験はいずれもグループに分かれて実施するが、水圏環境実験は、グループによって実験AとBの実施日が異なる。また、土質環境実験は、午前と午後で実験AとBのグループを入れ替えて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	実験概要・実験方法およびレポートの作成・提出方法の説明
(2)	水圏環境実験A-1	変水位透水試験に関する講義および演習：ダルシーの法則、変水位透水試験と定水位透水試験の理論
(3)	水圏環境実験B-1	浮体の安定実験に関する講義および演習：静水圧解析の復習、アルキメデスの原理、浮体の重心・浮心、浮体の安定条件の基礎理論
(4)	水圏環境実験A-2	変水位透水試験の実施：土壌試料三種を鉛直カラムに充填して水位低下量を計測、変水位透水試験の理論式より飽和透水係数を算出
(5)	水圏環境実験A-3	変水位透水試験に関するデータ整理とレポート作成
(6)	水圏環境実験B-2	浮体の安定実験の実施：浮体模型の重量・重心・断面2次モーメントを変化させながら浮体の安定性を観察・考察、アルキメデスの原理の確認
(7)	水圏環境実験B-3	浮体の安定実験に関するデータ整理とレポート作成
(8)	土質環境実験A-1	土の含水比試験と粒度分析の実施：湿潤状態と乾燥状態の土の質量から含水比を算出し、ふるい分け試験により土の粒度分布を把握

(9)	土質環境実験A-2	一軸圧縮試験の実施：土の円柱供試体に対して鉛直力のみを載荷し、ひずみと荷重との関係から土の一軸圧縮強度、変形係数、鋭敏比等を算出
(10)	土質環境実験B-1	排水の浄化実験の実施：簡易廃液処理装置を用いた、六価クロムを含む原水の水処理
(11)	土質環境実験A-3	土の最大密度・最小密度試験の実施：乾燥砂に対して最も密な状態としての最大密度と最も疎な状態の最小密度を測定し、土の相対密度を算出
(12)	土質環境実験B-2	原水・浄化水や環境水等の水質分析の実施：簡易水質分析キットや分光光度計を用いた水素イオン濃度指数、電気伝導率、化学的酸素要求量、六価クロム等の測定
(13)	土質環境実験A-5	地盤環境実験Aに関する質疑応答、レポート作成
(14)	土質環境実験B-3	水質分析に関するデータ解析、解析結果の口頭発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験データの取りまとめやレポートの作成に取り組み、指定された期限までにレポートを提出する。原則として期限後のレポート提出は認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する。

### 【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

水圏環境実験および土質環境実験をそれぞれ50点満点、合計100点満点とし、各実験に対する取り組み状況、提出されたレポートの内容等により評価を行う。60点以上を合格とする。ただし、提出すべきレポートのいずれか1件でも未提出の場合（あるいは0点の場合）には不合格とする。また、全28コマの講義のうち欠席回数が6コマを超えた場合にも不合格（評価D）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

実験結果の取りまとめやレポートの作成を行う際に「ノートパソコン」を使用することがあるので、教員からの指示があった場合は忘れずに持参すること。

### 【その他の重要事項】

実験データの整理等を行う際に「関数電卓」が必要となる場合があるので、各自で忘れずに持参すること（持参し忘れた場合には貸与しない）。建設コンサルタントおよび土質試験所において、水質、土質試験を行った経験を有する教員が試験の指導を行う。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of this course is to learn measurement techniques that are necessary in hydrospheric- and geo-environmental engineering. By graphically displaying and analyzing experimental data based on theoretical background, students will understand theories and mechanisms involved in the phenomena. The results should be briefly and properly reported in a paper so that students enrich their understanding of environmental systems in the hydrosphere and geosphere.

(Learning Objectives)

Having a correct understanding of the purpose and methods of experiments, students extend and develop their ability to work on experiments in cooperation with group members (Goals G and I). Students also develop the ability to apply scientific thinking and knowledge in properly summarizing the experimental results in reports by appropriately relating the results to specialized knowledge that they have acquired so far (Goals E and H).

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the students' performance of experiments and the quality of students' reports in hydrospheric field (50%) and geo-environmental field (50%).

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## メンテナンス工学

溝淵 利明、臼井 則生

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

重要な社会資本である構造物（鋼構造、コンクリート構造）を適切に維持管理して長期間安全に使用するための方策・技術についての基礎知識を身につける。

### 【到達目標】

橋梁の維持管理方法に関する基礎知識を身につけることを本授業の到達目標とする。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力 80%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

21世紀の建設業界は、新設の時代から維持管理の時代へと移行していくこととなる。特に高度成長期に整備された社会資本は建設後50年近く経過しており、その多くが老朽化してきており、早急に調査・点検を行っていく必要がある。本講義では、社会資本の一つである橋梁を中心に維持管理の基本的な考え方、手法などについて概説していく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メンテナンスとは何か 維持管理の原則とメンテナンスの重要性について理解する	維持管理の原則とメンテナンスの重要性について概説
2	ライフサイクルを考える ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト、ライフサイクルマネジメントについて概説	ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト、ライフサイクルマネジメントについて概説
3	コンクリートの劣化 コンクリートの劣化の代表的な塩害、中性化、凍害、アルカリ骨材反応についての劣化メカニズムを理解する	コンクリートの劣化の代表的な塩害、中性化、凍害、アルカリ骨材反応について概説
4	コンクリートの劣化予測手法 コンクリートの劣化予測手法の現状技術について理解する	コンクリートの劣化予測手法の現状技術について概説
5	維持管理の方法 維持管理計画と診断方法について理解する	維持管理計画と診断方法について概説
6	点検について 点検の種類と点検方法の概説、点検における調査について理解する	点検の種類と点検方法の概説、点検における調査について概説
7	評価・判定、対策 診断結果に基づく評価・判定、対策の種類と選定、補修・補強について理解する	診断結果に基づく評価・判定、対策の種類と選定、補修・補強について概説
8	鋼構造物の特徴とメンテナンス メンテナンスを行う上での鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本的な考え方を理解する。	鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本

9	鋼構造物の疲労損傷と対策技術 鋼道路橋に発生する疲労のメカニズムと対策技術を理解する。	疲労の要因とメカニズム 疲労損傷の事例と対策 疲労部材の評価
10	鋼構造物の腐食損傷と対策技術 鋼構造物に発生する腐食のメカニズムと対策技術を理解する。	腐食の要因とメカニズム 腐食損傷の事例と対策 腐食部材の評価
11	鋼構造物の点検と診断技術 鋼構造物の点検・調査方法と診断技術を理解する。	点検と診断の目的と実際 健全度評価、劣化予測手法
12	鋼構造物の補修・補強技術 鋼構造物の補修・補強の考え方および補修・補強技術を理解する。	補修・補強方法の基本的な考え方 補修・補強技術 補修・補強の実例
13	鋼構造物のメンテナンスマネジメント 鋼構造物メンテナンスマネジメント手法を理解する。	マネジメント導入の背景・効果・課題 メンテナンスの事例、予防保全・事後保全とライフサイクルコストの関係
14	過去から学ぶメンテナンス技術 鋼構造物に関する過去の重大事故からメンテナンスの重要性とメンテナンスエンジニアのあり方について学ぶ。	過去の重大事故におけるメンテナンス上の問題 これからのメンテナンスエンジニア

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

### 【参考書】

社会基盤メンテナンス工学；東京大学出版会  
コンクリート標準示方書(維持管理編)；土木学会  
必要に応じて講義中に配付する。  
コンクリート崩壊：PHP新書  
よくわかるコンクリート構造物のメンテナンス：日刊工業新聞社  
朽ちるインフラ：日本経済新聞出版社

### 【成績評価の方法と基準】

レポートによる。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。  
レポート課題100%

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

高速道路会社で長くメンテナンス部門に勤務した教員が、鋼構造物のメンテナンスについて指導する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire basic knowledge on measures and techniques for long-term safe use of structures (steel, concrete structures) and their appropriate maintenance and management vital for social capital.

### Learning Objectives

The goal of this class is to acquire basic knowledge about bridge maintenance methods.

Learning activities outside of classroom

Review of lecture content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Report assignment 100%

ADE100NB (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## デザインスタジオ2 (建築) Z

塩田 能也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

### 【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
- ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・ 各種構造の特性を理解する
- ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。(事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする)

【ウォッチャー】普段目にしていない風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である「光」をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味を持ったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間が作りだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたりにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返すことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評

5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに関心のある空間(自室)を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
8	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
9	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
10	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
11	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
12	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション(人に意図を伝える)方法について学ぶ。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織(建築文化シナジー)

### 【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編(彰国社)

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著(彰国社)

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著(丸善)

### 【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。  
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

(評価配分：建築研究 15%、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m立法の空間 50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物に向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

#### 【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

#### 【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

#### 【Outline (in English)】

##### [Outline]

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

##### [Learning Objectives]

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

##### [Learning activities outside of classroom]

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

##### [Grading Criteria /Policy]

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher) Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.

(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

## プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。

人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

### 【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

AB期14回（金曜日5限）

講義ノートを必ずとる事。

プロダクトデザインと基礎技術：

PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。

プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈：

現代のプロダクトデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈を学ぶことが出来ます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プロダクトデザインとは何か
2	デザイン・建築・現代美術史 概論	デザインの黎明から現在までを俯瞰する
3	家具のデザイン ①	家具デザインの歴史
4	家具のデザイン ②	家具デザインを支える技術
5	生活機器のデザイン ①	生活のためのデザイン
6	生活機器のデザイン ②	地場産業・伝統技術とデザイン
7	工業製品のデザイン ①	工業デザインの歴史
8	工業製品のデザイン ②	工業生産の素材と技術
9	歴史文化の文脈とデザイン ①	地域のためのデザイン
10	歴史文化の文脈とデザイン ②	日本人のためのデザイン
11	人間とデザイン ①	人間のためのデザイン
12	人間とデザイン ②	デザインの価値・デザインの意味
13	プロダクトデザインの隣接領域 ①	工芸とデザイン
14	プロダクトデザインの隣接領域 ②	現代美術とデザイン

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

2週に1回、課題レポートの提出を求める

課題に要する時間は2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせて適宜授業参考資料を配布する。

### 【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン

心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版

プロダクトデザイン101のアイデア、スン・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社

世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社

他

### 【成績評価の方法と基準】

講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につき4点、遅刻2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価：出席（40%）レポート課題（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

### 【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.

#### 【Learning Objectives】

The aims of this course are the following:

- Understanding the cultural context of industrial design from modern times to today.

- Understanding the overview of the product design development process.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## プロダクトデザイン1 (2019~2022年度入学生用)

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。  
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

## 【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。

社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。

造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。

観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。

様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業は対面形式の実習です。

「プロダクトデザイン1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。

「プロダクトデザイン1、2」の授業では、3~4人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく5つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。

また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握 課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。  
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。  
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜指示。

## 【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン(著) 新曜社  
「考えなしの行動？」ジェーン・フルトン・スーリ(著) 太田出版  
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫(著) 実務教育出版  
「プロダクトデザイン 101のアイデア」 スン・ジャン 他(著) フィルムアート社

## 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3 (5コマ)欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア (プレゼンテーション・CAD・グラフィック等)を習熟しておいてください。

## 【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

## 【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

## 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## プロダクトデザイン2 (2019~2022年度入学生用)

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。  
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

### 【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。

社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。

造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。

観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。

様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は対面形式の実習です。

「プロダクトデザイン1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。

「プロダクトデザイン1、2」の授業では、3~4人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく5つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。

また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握 課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。  
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。  
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜指示。

### 【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン(著) 新曜社  
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ(著) 太田出版  
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫(著) 実務教育出版  
「プロダクトデザイン 101のアイデア」 スン・ジャン 他(著) フィルムアート社

### 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3 (5コマ)欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)

総合点が90点以上をSとし、  
89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-  
79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-  
69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-  
60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア (プレゼンテーション・CAD・グラフィック等)を習熟しておいてください。

### 【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

#### 【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## プロダクトデザイン3 (2019~2022年度入学生用)

梶本 博司、宮沢 哲、谷口 武司、安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。

課題となる開発対象物がどのように製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。

プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

### 【到達目標】

インダストリアルデザインの実践的な手法と知識を学びます。

コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。

また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。

開発対象物がどのように製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどのようなユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。

またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。

最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

回	テーマ	内容
1	1 演習教室、教室分け、座席確認、担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行います。
2	ガイダンス PD3 第1課題 課題1「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題1説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスケッチで表現できるようにする。
4	モックアップ(模型)制作材料スチレンボードについて モックアップ(模型)制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイデアスケッチについてわかるようになる。 必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作(スチレンボード)	機構モデルの制作
6	機構モデル制作各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題1提出、プレゼン、評価	課題1提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題1プレゼン、評価 課題2：制作材料2、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題2の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用法、基本制作造形の説明
9	課題2用材料の準備(スタイロの切り出：各自で行う)	ヒートカッターの使用法がわかるようになる。

10	モデル制作治具について フィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題2提出	プロトタイプ2の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題3：テープカッターデザイン2	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作 アイデアスケッチから始める。
13	課題3デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題3 プレゼンテーション、講評	プレゼンテーション、講評からプロトタイプ(モックアップ)の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。  
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業支援システム「教材」にアップロードします。

### 【参考書】

「ものはどのようにつくられているのか?」

Chris Lefteri(著) オライリージャパン

「プロダクトデザインのスタイリング入門」

ピーター・ダブズ(著) ビー・エヌ・エス

### 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3 (5コマ)欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果(70%)提出書類(15%)出席(15%)

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。

洞察、観察レベルの指導強化。

### 【その他の重要事項】

欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.

Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.

#### 【Learning Objectives】

Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:

- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.

- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.

- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## プロダクトデザイン4 (2019~2022年度入学生用)

梶本 博司、安積 伸、宮沢 哲、谷口 武司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。

課題となる開発対象物がどのように製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。

プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

### 【到達目標】

インダストリアルデザインの実践的な手法と知識を学びます。

コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。

また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。

開発対象物がどのように製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどのようなユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。

またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。

最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 演習教室、教室分け、 座席確認、担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行います。
2	ガイダンス PD3 第1課題 課題1「テーブカッター デザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題1説明 この授業での制作プロセスの説明。 テーブカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テーブカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスケッチで表現できるようにする。
4	モックアップ(模型)制作 材料スチレンボード について モックアップ(模型)制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイデアスケッチについてわかるようになる。 必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作(スチレンボード)	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテーブカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題1提出、プレゼン、 評価	課題1提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題1プレゼン、評価 課題2：制作材料2、 スタイロモックアップ説明	評価の後の課題2の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用法、基本制作造形の説明
9	課題2用材料の準備 (スタイロの切り出：各自で行う)	ヒートカッターの使用法がわかるようになる。

10	モデル制作治具について フィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題2提出	プロトタイプ2の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題3：テーブカッターデザイン2	スチレンボードとスタイロとで「テーブカッター」プロトタイプの制作 アイデアスケッチから始める。
13	課題3デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題3 プレゼンテーション、 講評	プレゼンテーション、講評からプロトタイプ(モックアップ)の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。  
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業支援システム「教材」にアップロードします。

### 【参考書】

「ものはどのようにつくられているのか？」

Chris Lefteri(著) オライリー・ジャパン

「プロダクトデザインのスタイリング入門」

ピーター・ダブズ(著) ビー・エヌ・エス

### 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3 (5コマ)欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果(70%)提出書類(15%)出席(15%)

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。

洞察、観察レベルの指導強化。

### 【その他の重要事項】

欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.

Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.

#### 【Learning Objectives】

Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:

- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.

- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.

- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of the class time.

The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## 3 DCADデザインX

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア（本、WEBページ、映像）のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

## 【到達目標】

エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探索する。ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。

授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-1	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-2	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-5 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
7	モーション-1	モーショングラフィックスについて解説する モーション系ソフトのスキルを学ぶ
8	モーション-2	モーション系ソフトのスキルを学ぶ
9	Web-1	Web表現について解説する
10	Web-2	Web課題の制作を行う
11	Web-3	Web課題の制作を行う
12	Web-4	Web課題の制作を行う
13	Web-5	Web課題の制作を行う
14	Web-6 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

特に指定しない。授業中に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出作品評価（80 %）

制作プロセス評価（20 %）

課題未提出はD

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

PC

USB メモリ

配布資料用クリアファイル

## 【その他の重要事項】

エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

## 【Outline (in English)】

Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

### 3 DCADデザインY

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア（本、WEBページ、映像）のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

#### 【到達目標】

エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探求する。ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。

授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-1	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-2	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-5 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
7	モーション-1	モーショングラフィックスについて解説する モーション系ソフトのスキルを学ぶ
8	モーション-2	モーション系ソフトのスキルを学ぶ
9	Web-1	Web表現について解説する
10	Web-2	Web課題の制作を行う
11	Web-3	Web課題の制作を行う
12	Web-4	Web課題の制作を行う
13	Web-5	Web課題の制作を行う
14	Web-6 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考書】

特に指定しない。授業中に適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

課題提出作品評価（80 %）

制作プロセス評価（20 %）

課題未提出はD

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC

USB メモリ

配布資料用クリアファイル

#### 【その他の重要事項】

エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

#### 【Outline (in English)】

Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## デザインシンキング

吉見 奈々、金田 遼平

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランディングのデザインに必要な様々な要素をグループワークの演習によって実践的に学びます。提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

### 【到達目標】

ブランド・プロデュースのための一連のデザインプロセスを通じ、今日デザイナーやアートディレクターに求められるブランディングデザインの能力獲得を目指します。また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、デザイン思考の方法論も同時に学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 第1テーマ 情報収集・情報整理・ 発案に関するスキル習 得ワークショップ	全体概要説明 情報収集・情報整理・ 発案に関する有用なスキルをワーク ショップ形式で習得する。
2	第2テーマ グループ分け ワークショップ	課題説明 課題概要説明 アイズブレイク 分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
3	第2テーマ ワークショップ	企画テーマ設定 アイデア展開 プロトタイプ・プレゼンテーショ ン制作
4	第2テーマ 最終プレゼンテーショ ン	第2テーマ 最終案発表会 まとめ
5	第3テーマ グループ分け 定性調査予備調査 ワークショップ	課題概要説明 顧客の検討・選択 視察調査（個人） 観察まとめ 企画の検討
6	第3テーマ フィールドワーク 現地調査 インタビュー	定性調査セッション（グループ） 情報共有・準備 インタビュー 定性調査結果・考察 プロトタイプ・最終プレゼンテー ション準備
7	第3テーマ 最終プレゼンテー ション 総評	第3テーマ 最終案発表会 まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にまともな作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。

各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

博報堂デザインのブランディング（永井 一史：誠文堂新光社）  
事例で学ぶブランディング（ランドーアソシエイツ：ピー・エヌ・エヌ  
新社）  
デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕（ティム ブラウン：早  
川書房）

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を40点、最終プレゼンテーション内容を50点、提出レポートを10点、とする。

総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をDとする。

1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

### 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業に必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

### 【その他の重要事項】

ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

### 【Outline (in English)】

Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.

The course cultivates the ability to accurately target and deeply understand the value of the products and services, to understand the intended users and customers, to scrutinize the content to be conveyed from the information obtained, to build new appeal and present it in the most effective way, and to create designs that move people's hearts in a comprehensive manner.

#### ・ Grading criteria

The normal score for class participation is 40 points, the content of the final presentation is 50 points, and the report is 10 points.

If the total score is 90 points or more, it will be graded S.

A+ for 89-87 points, A for 86-83 points, A- for 82-80 points.

B+ for 79-77 points, B for 76-73 points, B- for 72-70 points

C+ for 69-67 points, C for 66-63 points, C- for 62-60 points.

A score of less than 60 points is considered D.

10 points for being absent for 1 period, 5 points for being late. However, those who are absent for 5 or more periods will be graded D.

Sick leave, bereavement, SSI tournaments, official practice, etc. are excluded from absence, but proof of the same must be submitted.

#### ・ Learning activities outside of classroom

If the work cannot be completed during class hours, students will be asked to do it independently outside of class hours.

After completing each assignment, students will be asked to compile a project proposal and submit it as a report.

Your study time for preparation and review will be more than 2hours for a class.

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

## インクルーシブデザイン (2019~2022年度入学生)

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。

世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。

これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。

インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

## 【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。

また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、3~4人のグループワークで行う。

各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー (リードユーザー) として招待し、そのパートナーの抱える日常的問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。

また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考案 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。

授業時間外に調査・試作・検証等を行い、週週その様子を映像で発表してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム (著)、平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

## 【参考書】

授業内で適宜指示。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出作品60点、制作プロセスの評価を20点、出席を20点とします。

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

最終作品が未提出な者は評価外とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフト

を各自のPCに入れ、習熟しておくこと。

また、ビデオ映像を撮りためておく大容量の外付HDDを準備する事が望ましい。

## 【その他の重要事項】

この授業は主に対面形式で行う。

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方にに関する指導を行う。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, students will learn about the concepts and methods of inclusive design through practical exercises, and aim to make people's lives more comfortable through design.

## 【Learning Objectives】

In this class, we invite people who have some type of difficulty in their daily lives as partners, and through the inclusive design process, we develop devices that support daily life that are optimized for that person.

In addition, we will create a documentary video of the development process of the work.

## 【Learning activities outside of classroom】

We expect students to actively create work outside of working hours.

We will conduct research, prototype production, verification, etc. outside of class hours, and have you present your findings on video the following week.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the final work (60%), process of development (20%), and attendance (20%).

The students who have not submitted their final work will not be evaluated.

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

## デザイン・バックカasting

松山 祥樹

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

問題解決や価値創造といった社会に対するデザインの役割は近年さらなる拡大を見せ、取り扱われるテーマや求められるアプローチも、その複雑性を増しています。

本授業では、日常生活での課題や環境問題などに加え、ジェンダーや人種に関する人権問題や、貧困や教育における社会格差など様々な事例を取り扱いながら、より良い未来に向けた問題解決のためのデザインの在り方を学びます。

一律に何が正しいと定義できない複雑なテーマに対し、あらゆる人々や物事に与える影響を考慮・検討しながら価値創出を模索する過程を通し、多角的な視点から物事の本質を見極め、解決に導く力を養います。

### 【到達目標】

本授業では、グループワークを通し、リサーチ、問題定義、解決提案とその具体化までを行う。

それぞれの提案は、プロセスからアプトプットまでを1冊の本の形式に美しくまとめることで、自身の考えや提案を正しく魅力的に伝え、共感を導くツールにまで仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

第一課題では、共通のテーマに対しグループワークでの提案を行います。第二課題ではそれぞれのグループごとに課題選定を行い、その解決提案を行います。

各課題のプレゼンテーションの後、講義時間内にて講評によるフィードバックを行います。またディスカッションの時間を設けることで、設定したテーマや提案に対しての考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 講義 グループ分け 第1課題説明（グループワーク）	全体概要の説明 講義(SDGsとは、関連するデザイン事例) アイスブレイク 第1課題 概要説明 提案検討
2	第1課題 プレゼンテーション ディスカッション 講義 第2課題 概要説明（グループワーク）	第1課題 チームごとによる提案発表 第1課題に関するディスカッション 講義(ジェンダー、人権に関連するデザイン事例) 第2課題 概要説明 テーマ決定 リサーチ計画検討
3	第2課題 中間共有 リサーチまとめ、提案内容検討 講義	テーマ及びリサーチ状況の共有 講義(貧困、衛生に関連するデザイン事例) 第2課題 リサーチ内容まとめ

4	第2課題 リサーチ内容の中間プレゼンテーション ディスカッション 講義	第2課題 チームごとによる中間発表 ディスカッション 講義(環境、資源に関連するデザイン事例)
5	第2課題 進捗共有とディスカッション 試作やプロトの確認 講義	進捗共有とディスカッション 調査計画の立案（視察、インタビュー、デスクリサーチ） 試作及び実験計画の確認 講義(メッセージの訴求や発信に関連するデザイン事例)
6	第2課題 進捗共有とディスカッション 試作やプロトの確認 講義	進捗共有（調査及び試作、実験状況） 提案ブラッシュアップ作業 アウトプット計画の立案
7	第2課題 最終プレゼンテーション 総評	第2課題 最終提案発表 まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にまとまりきれない作業は、時間外で自主的に行っても構いません。

日常生活を注意深く観察し、暮らしの不便や困りごとを見出すことに加え、自身とは違う環境や価値観の人々、世界で起きている出来事やニュースについても積極的に情報収集し、見識や考察を深めて下さい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「Design as an Attitude -姿勢としてのデザイン-」 アリス・ローソン（著）、石原薫（翻訳）フィルムアート社

### 【参考書】

授業内で必要に応じて適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を30点、課題プレゼンテーション内容を40点、最終成果物を30点とした計100点満点で評価する。

総合点が90点以上をA+、90点未満80点以上をA、80点未満70点以上をB、70点未満60点以上をC、60点未満をDとする。

ただし、1点でも提出レポートが欠けている者はDとする。1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

（なお、病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。）

### 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

### 【Outline (in English)】

### 【Course outline and Learning Objectives】

The role of design in society has been expanding further in recent years, and the problems and approaches which designers deal with have become complex. This course teaches how design can be used to solve problems for a better future. Various themes are used in this course that cannot be defined as being right : daily-life problems, discrimination and human rights related to gender and race, and social disparities in poverty and education.

In Design Backcasting, you develop your ability of identifying complex problems by design considering the impact on people and societies from multiple perspectives.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within the class time.

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

The evaluation is based on a total of 100 points, consisting of 30 points for the normal assessment of class participation, 40 points for the content of the assignment presentation and 30 points for the final product.

A+ for a total score of 90 or more points, A for 80 or more points below 90, B for 70 or more points below 80, C for 60 or more points below 70 and D for 60 or more points below 60.

Absence from one class - 10 points, tardiness - 5 points. However, a D is given to students who are absent for more than five sessions.

(Sickness, bereavement, SSI competitions, official practices, etc. are excluded from absences, but the relevant certificate must be submitted.)

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

## サービスUXデザイン

平田 昌大

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人々の価値観の多様化、技術の発展などを背景に、製品・サービスに求められる価値はより複雑多様化している。「サービスデザイン」とは、そういった製品・サービス(または取り組み)を開発するために、テクノロジー・クリエイティブ・ビジネスを包含した総合的な視点でアプローチするデザイン領域である。本授業では、顧客体験(UX)を重点とした新規サービスの企画を行い、調査からアイデア発想、プロトタイプ、プレゼンテーションまでの一連の過程のなかで、サービスデザインの基本的な視座を獲得する。

今年度は「Intrinsic Motivation(内発的動機)」をテーマに、自身の興味関心のある領域を基軸としたサービスを企画し、投資家へのプレゼンテーションを想定した演習課題を行う。

### 【到達目標】

- テーマ課題を通して、基本的なサービスデザインプロセスを学び、考案したサービスを第三者へ魅力的に伝えることを目標とする。
- 成果物として、考案したサービスのプレゼンテーション及びプロトタイプの制作を行う。なお、UI(アプリケーションやウェブサイトなど)は必須ではないが、授業内でUIデザインの基礎について触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則としてチーム制作（受講人数により1チーム3～5名程度）とする。課題制作とその指導を行う演習を中心とし、必要に応じて関連する知識や方法を伝えるための講義を行う。課題制作の進捗に合わせて、プレゼンテーションや内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体説明	・ 全体概要の説明(本授業の目的・意義・スコープ) ・ 講義(「サービスデザイン・UXデザイン」とは) ・ アイスブレイク(既存サービスのリバースエンジニアリング) ・ 好き語りによるチームビルディング
2	テーマ探索 リサーチ計画・実施	・ 講義(リサーチの目的・手法・プロセスについて) ・ 個人/グループワーク(テーマの探索・仮説立案) ・ グループワーク(リサーチ計画・リサーチ)
3	リサーチ結果の共有・分析	・ 講義(リサーチ分析・インサイト発掘・アイディエーション) ・ 個人/グループワーク(リサーチ結果共有・分析・インサイト発掘)
4	アイディエーション)	・ 個人/グループワーク(アイディエーション) 解説：ペルソナ、ジャーニーマップづくりの紹介と実践

5	アイデア中間発表	・ アイデア全体発表(リサーチ結果にもとづくアイデアの発表) ・ 講義(UX検討・ビジネスモデリング・フィジビリティ検証)
6	UX検討 ビジネスモデリング フィジビリティ検証	・ 個人/グループワーク(アイデアブラッシュアップ・コンセプトアップ)
7	プロトタイピング ユーザーテスト(UX 課題点の抽出)	・ 講義(プロトタイピング・ユーザーテスト) ・ 個人/グループワーク(プロトタイプ インピグ・ユーザーテスト)
8	サービスアイデアの ブラッシュアップ	・ グループワーク(アイデアブラッシュアップ・ユーザーテスト)
9	UIデザイン ユーザーテスト(UI 課題点の抽出)	・ 講義(UIデザイン・ユーザーテスト) ・ 個人/グループワーク(UIデザイン・ユーザーテスト)
10	サービス詳細化	・ グループワーク(UIデザイン・サービス詳細化)
11	プレゼンテーション 作成	・ 講義(サービス提案のプレゼンテーション) ・ 個人/グループワーク(最終提案 骨子制作)
12	提案のブラッシュ アップ	・ グループワーク(最終提案資料 作成)
13	最終プレゼンテ ーション	・ 最終プレゼンテーション
14	最終プレゼンテ ーション 総評	・ 最終プレゼンテーション ・ 総評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき各2時間を標準とする。日常生活で感じる課題や不満を内省的に観察すると共に、身近な製品・サービスの意図や構造を考察すること。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。適宜、授業内で参考資料、文献、サイト等を紹介する。

### 【参考書】

- 1.「This is Service Design Thinking 日本語版」マーク・ステイックドーンほか編著/ビー・エヌ・エヌ新社
- 2.「This is Service Design Doing サービスデザインの実践」マーク・ステイックドーンほか編、ビー・エヌ・エヌ新社
- 3.「デザインリサーチの教科書」木浦幹雄 著、ビー・エヌ・エヌ新社
- 4.「リーン・スタートアップ」伊藤穰一ほか著、日経BP
- 5.「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所雅之著、日経BP
- 6.「ビジネスモデル図鑑2.0」近藤哲郎著、KADOKAWA

### 【成績評価の方法と基準】

出席・授業態度（40点）  
提出物（20点）  
プレゼンテーション内容（40点）  
総合点が90点以上をSとし、  
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-  
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-  
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-  
60点未満をDとする。  
5コマ欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外とする。なお15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

**【学生が準備すべき機器他】**

PC（プレゼン資料作成）、必要に応じてプロトタイピングツール（AdobeXDなど）や、オンラインホワイトボードツール（Miroなど）、授業内で紹介する無料のアプリなど。必要に応じてプロトタイプ制作用の素材（紙や画材など）や加工道具が必要となる。

**【その他の重要事項】**

サービスデザイナー/UIUXデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

Service design is a design field that approaches the development of complex products and services from a holistic perspective that encompasses technology, creativity, and business. In this class, we will plan a new service with an emphasis on user experience, and acquire a basic perspective on service design through a series of processes from research to idea generation, prototyping, and presentation.

This year's theme is "Intrinsic motivation," and the students will plan a service based on their own area of interest, and conduct an exercise in preparation for a presentation to investors.

**【Learning Objectives】**

The goal is to learn the basic service design process through thematic assignments and to communicate the devised service in an attractive manner.

Students will be required to make a presentation and a prototype of their service. In addition, UI (applications, websites, etc.) is not required, but the basics of UI design will be covered in class.

**【Learning activities outside of classroom】**

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Students should observe the frustrations they feel in their daily lives and consider the intentions and structures of the products and services around them.

**【Grading Criteria /Policy】**

Attendance and class attitude (40 points)

Submission of work (20 points)

Presentation content (40 points)

A total score of 90 or higher is considered an S.

A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80

A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80, B+ for 79-77, B for 76-73, B- for 72-70, C+ for 69-67, and C- for 69-67.

A score of 69 to 67 is C+, 66 to 63 is C, 62 to 60 is C-.

A score of less than 60 is considered a D.

Students who are absent for 5 classes or 3 consecutive days will not be graded. Students who are tardy for more than 15 minutes will be counted as one absence. (However, if there is a valid reason, both absences and tardies will not be counted as one absence.)

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

## 映像制作演習

北村 拓司

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、プロモーション映像の制作を通し、プロダクトの“魅力の伝え方”を学びます。

消費者が製品を知るきっかけは「映像（ビジュアル）」です。そのためビジネス/産業界では映像の重要性が高まり、質の高い映像による情報提供が喫緊の課題のひとつとなっています。

本演習では、製品のプロモーション映像を制作します。ストーリー構築・撮影・編集を各自で行い、1本の映像作品を完成させます。映像のクオリティを高め、人に伝わる映像の完成を目指します。

最も大切なコアコンセプトを抽出し、言語化し、ストーリーに組み立てます。ストーリーが完成した後は、それを元に映像化を行います。また、撮影のクオリティを高めるための方法についても演習を行います。映像クオリティの大切さを理解し、視覚のデザインに対する意識を高めます。

※題材となるのは、各自が授業で創作した「目覚まし時計」のプロモーション映像となります。

## 【到達目標】

質の高いプロモーション映像を制作するために必要な、以下の力を身につける事を目標とする。

- ①製品を魅力的に伝える映像制作技術を習得する。
- ②製品に込めた“想い”や“機能”を伝えるストーリーテリングの能力を身につける。
- ③映像に関する知見を深め、映像のクオリティに対する意識を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各自がこれまで制作した「目覚まし時計」を題材に、プロモーション映像を制作します。

ムービーは各自で制作を行い、授業ではアイデアを開発し発表し、そのレビューを行います。

授業はワークショップ形式で進行していきます。

「コンセプト開発」「ストーリー開発」「撮影」「編集」と、本講義は4つのステージに区分されます。

最終制作物として1本のプロモーション映像作品を完成させ、講評会を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロモーション映像とは	プロモーション映像の役割について学び、キャッチコピーの作り方
2	ステートメント開発	自身のプロダクトのコアコンセプトをストーリー化する
3	企画コンテ（ストーリー）について	発表→講評→修正を行う。ストーリーの構造解説（課題～解決）。
	ストーリーを可視化する	プロモーション映像事例を見ながら学ぶ。

4	企画コンテ開発	プロダクトのストーリーを、4コマの絵コンテに描く。それを8コマに増やし、発表、講評、修正の工程で構築する。
5	演出コンテとは	演出コンテに関する解説。表現に関して学ぶ。ストーリーを最適な“表現”に落とし込んだ絵コンテ（16コマ）を作成する。
6	演出コンテ実習	演出コンテを発表。講評、修正を行いながら構築する。
7	撮影に関して	撮影がどの様に行われるかを解説。
8	プロダクトの撮影について	現役カメラマンによる実践講義。撮影の方法論（静物描写）プロダクトの表現方法、撮影技術を学ぶ。
9	編集実習 1	現役カメラマンによる実践講義 ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
10	編集実習 2	現役ディレクターによる、Adobeプレミア講義 ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
11	中間発表	現役ディレクターによる、Adobeプレミア講義 自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
12	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
13	作品発表	最終作品の発表を行い、講評を行う。
14	最終講評	最終作品に関する講評を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3（5回）欠席および連続3回欠席の受講生は成績対象外となります。10分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。授業参加・態度（35%）企画開発段階での評価（30%）映像作品の評価（35%）

## 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ（自前のモノを使用/一眼でも携帯でも可）/PC（学校 or 自身のPCを使用）。

自身のPCで編集を行う場合、事前に編集ソフト（各自が使いやすい動画編集ソフトを使用して下さい。インストールしていない人は、無料動画編集ソフト『iMovie』などをPCに入れて使用できる状態にしておいて下さい）。

授業では、Adobeプレミアを使用して編集を行います。

## 【その他の重要事項】

CMディレクターとして豊かな経験を持つ教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行います。

**【Outline (in English)】**

In this course, students will learn how to communicate and appeal the character of product and the design through the practical exercise of the making promotional video.

“Visual Image” is always the catalyst for consumers to know about products.

Today, it is extremely important to communicate with high quality visual message in business / industry, and it is a big issue to improve it.

The story of the promotional video of each students' will be based on the concept of their own products. We extract the core of the concept, and translate it into language and build it into a story. The students will make their own video works based on the story.

In this course, every student will produce their own promotional video for their product. They will be responsible for the planning, shooting and editing their storyline. Improving the quality of the video works, student will produce a film that can communicate with wide range of audience.

The course is also including the exercise of shooting photograph / cinematograph. The exercise will cultivate the mindset to create high standard visual image and to improve the awareness of the quality standard of visual design.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

## ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

### 【習得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連7回、演習関連7回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。

- |      |                              |  |
|------|------------------------------|--|
| (3)  | 日本と世界の造園空間・庭園様式              | 日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。   |
| (4)  | ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類） | ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。   |
| (5)  | ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割） | ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。   |
| (6)  | ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）    | ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。   |
| (7)  | ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）   | ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。   |
| (8)  | ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）   | ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。   |
| (9)  | ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から） | ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める  |
| (10) | 造園樹木の形状と特性                   | 造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、特定の樹木を通じ特性を学ぶ。   |
| (11) | 屋上・壁面・室内緑化の技術の本質             | 屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。 |
| (12) | 樹木の重要性と価値                    | ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。  |
| (13) | ドイツ集合住宅世界遺産                  | ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。  |
| (14) | ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）    | ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。   |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のヤ戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し

**【参考書】**

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

**【成績評価の方法と基準】**

講義に関するレポート（30％）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50％）、平常点（20％）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

**【その他の重要事項】**

独立行政法人都市再生機構及びURリンクエージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Cities regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space.

・ (Learning activities outside of classroom)

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want, in addition, want. I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30%), landscape design garden plan (50%), normal points (20%). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA (デザイン学/Design science 200)

## ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的実業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通じ、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な実業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連7回、演習関連7回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。

(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し

### 【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

### 【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（30%）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50%）、平常点（20%）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

**【その他の重要事項】**

独立行政法人都市再生機構及びURリネージュの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ (RLA) の資格を取得している。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Cities regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space.

・ (Learning activities outside of classroom)

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want, in addition, want. I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

## ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

### 【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連7回、演習関連7回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。

(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中の樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し

### 【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

**【成績評価の方法と基準】**

講義に関するレポート（30％）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50％）、平常点（20％）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

**【その他の重要事項】**

独立行政法人都市再生機構及びURリネージュの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Cities regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space.

・ (Learning activities outside of classroom)

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want, in addition, want. I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30%), landscape design garden plan (50%), normal points (20%). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているのか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

## 【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

## 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、

学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)

8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

## 【参考書】

講師から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

6-7回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者に対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

## 【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

## 【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

## 【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

## 【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         | 10% |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       |     |
| (G) コミュニケーション能力    | 90% |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。
第3回	SVとSVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。

第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- （学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。
- （到達目標と評価の対応）
- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

**【学生が準備すべき機器他】**

・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。  
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。  
・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。  
・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。  
・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明瞭な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）ができる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てることができる。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。 ・実例演習（小テスト）
第2回	SVO	・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第3回	SVとSVC	・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的他動詞、便利な他動詞	・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイント把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
  - （復習）
  - ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。（学習時間）
  - ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

**【学生が準備すべき機器他】**

・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。  
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。  
・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。  
・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。  
・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術(テクニカルライティング)修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明瞭な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解(和→英、英→和)ができる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てることができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1 (基本的な英文の組み立て) ⇒ Stage 2 (英文表現の幅の広げ方) ⇒ Stage 3 (長文・複数文の組み立て)の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C (Correct: 正確に書く, Clear: 明確に書く, Concise: 簡潔に書く)を理解する。 ・実例演習(小テスト)
第2回	SVO	・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第3回	SVとSVC	・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身(受動態)の効果的な使い方を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)

第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第12回	複数構造と文の接続	・接続詞(等位接続詞、従属接続詞)を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習(小テスト)
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習(小テスト)
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の(準備学習)、(復習)が必要となります。
- (準備学習)
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- (復習)
- ・各回の授業の実例演習(小テスト)で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ(<http://www.kenkyusha.co.jp/>)の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- (学習時間)
- ・毎回の授業に関する(準備学習)と(復習)に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円+税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ(<http://www.kenkyusha.co.jp/>)の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定(点数化)し、100点満点として総合的に成績評価する(60点以上が合格)。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。(到達目標と評価の対応)
- ①技術英語に必須な単語を理解(和→英、英→和)ができる。 → 平常点5点+期末試験10点=小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。 → 平常点15点+期末試験20点=小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点+期末試験20点=小計35点
- ④複数文を適切に組み立てることができる。 → 平常点5点+期末試験10点=小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価：D)とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。
- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携帯することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス (B3014) を担当する教員 (大友) は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

・英文法の基礎事項 (少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化) について復習しておくことが望ましい。

・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto.td@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティングⅡ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         | 10% |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       |     |
| (G) コミュニケーション能力    | 90% |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。
第3回	SVとSVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。

第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- （学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。
- （到達目標と評価の対応）
- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

**【学生が準備すべき機器他】**

・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。  
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。  
・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。  
・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。  
・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。  
担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティングⅡ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）ができる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てることができる。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使用予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。
第3回	SVとSVC	・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的他動詞、便利な他動詞	・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。

第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。
第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
  - （復習）
  - ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。（学習時間）
  - ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

**【学生が準備すべき機器他】**

・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。  
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。  
・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。  
・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。  
・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA (英語 / English language education 200)

## テクニカルライティングⅡ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明確な英文を書く基礎力を身につける。

### 【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）ができる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てることができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。 ・実例演習（小テスト）
第2回	SVO	・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第3回	SVとSVC	・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的他動詞、便利な他動詞	・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第10回	to不定詞と副詞	・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複数構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでの学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
- （準備学習）
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
  - ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
  - ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
  - ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
  - ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
  - ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- （学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

### 【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）ができる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てることができる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。
- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携帯することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

・Xクラス (B3014)を担当する教員 (大友) は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

・英文法の基礎事項 (少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化) について復習しておくことが望ましい。

・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto.td@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

**【Learning activities outside of classroom】**

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

**【Grading Criteria /Policy】**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

# A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

# Final examination will be conducted without any references notes.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

PRI200NA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

### 【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法(点推定、区間推定、仮説検定)を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- 講義と学習支援システムの併用で行う。
- ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
- ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
- ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材掲示、課題提出等を行う。
- ※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
- 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析(1)	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析(2)	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布(1)	離散確率変数の代表的な確率分布(離散一様分布、二項分布、ポアソン分布)について理解する。
5	確率変数と確率分布(2)	連続確率変数の代表的な確率分布(離散一様分布、指数分布、正規分布)について理解する。
6	確率変数と確率分布(3)	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布(カイ2乗分布、t分布、F分布)について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。

14 テスト2、まとめと解説 第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

### 【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門(東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年)
- ★統計学演習(村上正康、安田正貴 共著 培風館 2010年)
- ★統計学基礎(統計検定3級・2級対応) 日本統計学会
- ★統計学の基礎(栗栖 忠 他 裳華房 2017年)

### 【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント  
テスト2：40パーセント。  
課題・レポート課題：20パーセント。

### 【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析(基本統計量)が使用できる状態にしておくのが望ましい。  
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

### 【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

### 【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

### 【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法(点推定、区間推定、仮説検定)を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。  
 ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。  
 ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。  
 ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。  
 ※授業中およびメールやノートの提出によって質問等を行う。  
 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析(1)	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析(2)	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布(1)	離散確率変数の代表的な確率分布(離散一様分布、二項分布、ポアソン分布)について理解する。
5	確率変数と確率分布(2)	連続確率変数の代表的な確率分布(離散一様分布、指数分布、正規分布)について理解する。
6	確率変数と確率分布(3)	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布(カイ2乗分布、t分布、F分布)について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。

12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはノートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

### 【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門(東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年)
- ★統計学演習(村上正康, 安田正資 共著 培風館 2010年)
- ★統計学基礎(統計検定3級・2級対応) 日本統計学会
- ★統計学の基礎(栗栖 忠 他 裳華房 2017年)

### 【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント  
 テスト2：40パーセント。  
 課題・レポート課題：20パーセント。

### 【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析(基本統計量)が使用できる状態にしておくのが望ましい。  
 講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

### 【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

### 【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA (デザイン学 / Design science 300)

## タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

### 【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 30% |
| (B) 技術者倫理          | 30% |
| (C) 工学基礎学力         | 20% |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       | 20% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
  2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
  3. HPなどで事例検索
  4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

### 【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）  
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）  
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版社）  
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」(官民連携による地域経営の教科書)学芸出版社

### 【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

### 【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

### 【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

### 【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA (デザイン学 / Design science 300)

## タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

### 【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウン マネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

### 【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

### 【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）  
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

### 【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

### 【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

### 【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA (デザイン学 / Design science 300)

## タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

### 【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウン マネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

### 【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

### 【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

### 【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

### 【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

### 【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## デザインスタジオ 4

下吹越 武人、榮家 志保、岩佐 明彦、福留 愛、池田 賢、青木 弘司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。また、グループ課題を通して、チームワークにおけるコミュニケーション能力を培う。

### 【到達目標】

- ・抽象的な概念を空間化する能力を養う
- ・想定される行動場面に對して適正な空間を作り出す技術を身につける
- ・空間的アイデアを構法計画に還元して検討する
- ・環境負荷低減の観点から建築を検討する
- ・空間の特徴を定性的・定量的に評価する技術を身につける
- ・敷地周辺地域の特徴を抽出しレイヤ的に理解する
- ・グループワークを効果的・効率的に行う方法を身につける
- ・空間を表現・伝達する技術を身につける

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

デザインスタジオ3に引続き、2つの設計課題を通じて、図面と模型による建築設計を学ぶ。第1課題はグループリサーチを行い、第2課題は個人課題とする。毎週のエスキスから得られるフィードバックを積み重ねながら案を進展させる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第1課題出題	・全体ガイダンス
	「現代建築ビジュアラー」	・課題説明、グループディスカッション
2	リサーチ中間報告 (クラス毎)	・各グループの進捗状況を発表 ・グループ間でリサーチ内容の共有化を図る
3	リサーチ発表 (全体)	・リサーチ結果の報告および空間デザインの構想を発表
4	エスキス1	・模型、図面によるスタディチェック ・空間構想、イメージをスケッチや模型にまとめる コンセプトスタディ 配置・平面、断面検討
5	エスキス2	・デザインデベロップメント ・エスキスを図面にまとめる ・プレゼンテーション検討
6	・合同講評会 ・第2課題出題 「都市の文化拠点」	・選拔者が自案の発表を行い、これを題材に共通の問題点などの講評を行う ・第2課題出題と説明
7	企画のプレゼンテーション	・現地視察報告と提案及び企画シート作成
8	エスキス1	・構想案をつくる ・模型、スケッチによるスタディチェック
9	エスキス2	・エスキスを図面にまとめる ・平面、断面、スタディ模型
10	第2課題中間提出	・クラス発表および講評
11	エスキス3	・中間発表の講評をフィードバックし、案の更なる発展を試みる ・プレゼンテーションの検討
12	クラス内レビュー	・図面チェック ・クラス内発表
13	ファイナルレビュー	・第2課題の選拔作品の発表、講評 ・各スタジオの代表作品を持寄り、講評会を公開で行う

14 卒業設計演習（1月後半）・4年生の卒業設計に参加することで卒業設計の意味や大きなプロジェクトの制作進行に伴う問題点などを実体験の中で理解する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

敷地に立ち、調査し考えを深める。  
自らのスケッチブックの上でエスキスを重ねる—建築をまとめ上げる試行錯誤の繰り返し。  
適切な視覚的表現方法を探る。  
チーム内や友人とのディスカッションを重ね、提案の強度を高める。  
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

### 【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築製図（朝倉書店）、各種建築専門雑誌。

### 【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキスによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。  
配分：第1課題30%、第2課題70%。  
4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course students will experience the process of design while developing their field of study, through the creation of diagrams and models. In addition, during group classes students will gain communication skills through teamwork.

### 【Learning Objectives】

- By the end of the course, students should be able to do the followings:
- ・Cultivate the ability to spatialize abstract concepts
  - ・Acquire techniques to create appropriate spaces for expected behavioral situations
  - ・Think about space ideas by going back to architectural plans
  - ・Consider architecture from the perspective of reducing environmental impact
  - ・Learn how to qualitatively and quantitatively evaluate the characteristics of space
  - ・Extract the characteristics of the area around the site and understand it hierarchically
  - ・Learn how to do group work effectively and efficiently
  - ・Acquiring the ability to express and convey space

### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.

### 【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. The degree of development of the design by Esquisse are important evaluation targets.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
First assignment: 30%、Second assignment : 70%

Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## デザインスタジオ 5

下吹越 武人、山道 拓人、山田 紗子、御手洗 龍

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年AB期のデザインスタジオではA期とB期に分けて2つの課題に取り組む。A期は集住について、B期は次世代型図書館に関連したテーマを元に4ユニットからそれぞれ課題が出題され、スタジオワークにより少人数教育を行う（原則として各ユニット15人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

## 【到達目標】

- ・コンセプトualに考える方法を身につける
- ・都市の成り立ちからコンテキストを読み取る技術を身につける
- ・都市の一部として建築を構想する
- ・社会的問題群を認識し、建築的解答を構想する
- ・デジタルツールの基本操作を身につける
- ・空間の特性をエンジニアリング的着想から創造する

## 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎	◎	◎	◎
---	---	---	---

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の概要<1> デザインスタジオ5+6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ5+6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいいことができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生には卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないというまでもないことである。

2) これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。毎週のエスキスの積み重ねが案を飛躍させる最良の策であることは言うまでもない。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。

3) それぞれのユニット・インストラクターによって敷地や課題の詳細は異なるから、自分が興味あるインストラクターについて自分の興味のある課題にチャレンジする機会が与えられる（ユニット選択は抽選となる）。各インストラクターがそれぞれの課題の趣旨を説明するガイダンスには必ず出席すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、前半課題課題説明、ユニット分け	・第1課題は「居住」をテーマとした複数課題から選択して取り組む。 ・事前調査のポイントやコンセプトの作り方などについて指導する。
2	前半課題クラス別指導（エスキス1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。設計イメージはビジュアルな表現で製作する。
3	前半課題クラス別指導（エスキス2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画の検討。

4	中間講評会	・平面図、断面図、立面図という基本図面を描いてみることで、コンセプトやイメージを具体化する。 ・中間講評会の指摘を踏まえたデザインの展開とその確認。
5	前半課題クラス別指導（エスキス3）	・設計図面の正確な描き方を学ぶ ・最終のエスキスチェックを行う。
6	前半課題クラス別指導（エスキス4）	・プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。
7	全体講評会	・優秀作品の発表を通じてこれを題材に共通の問題点などの講評を受ける。
8	後半課題課題説明、ユニット分け、関連特別講義	・第1課題と同様に、複数の設計課題の中から、それぞれの学生の希望でひとつのユニットを選択する。・関連特別講義によって課題主旨の理解を深める。
9	後半課題クラス別指導（エスキス1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。
10	後半課題クラス別指導（エスキス2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画、構造計画の検討。
11	中間講評会 Pinboard Review	・図面と模型を用いて設計中の建物を説明することで、自分の設計アイデアに客観性をあたえる。 ・Pinboardを用いて、学生主体の第1課題講評会を行う。
12	後半課題クラス別指導（エスキス3）	・中間講評時の講評を踏まえたデザインの展開とその確認。
13	後半課題クラス別指導（エスキス4）	・詳細図と基本図の違いなどを学ぶ。 ・最終のエスキスチェックを行う。
14	最終講評会	・プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。 ・優秀作品の発表を通じて、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

## 【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）。

## 【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかが評価の対象となる。

配分：第1課題50%、第2課題50%。

4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

## 【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

## 【Outline (in English)】

The 3rd year A/B semester Design Studio course is separated into A and B semesters. The theme of the A semester is "Collective housing + a", while B is a centered around the theme "libraries of the future", following the subjects introduced in Unit 4. Studio work classes will have a limited number of participants (as a rule no more than 15 per unit). Students who wish to attend seminars for project-based subjects must enroll in this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learning how to think conceptually
- Acquire the skill to read the context from the origin of the city
- Conceive architecture as part of the city
- Recognize social problems and conceive architectural solutions
- Acquire basic operation of digital tools
- Creating spatial characteristics from engineering ideas

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. Each week, students will be evaluated on how they worked on their work under the discussion with each studio instructor.

Final grade will be calculated according to the following process First assignment (50%), Second assignment (50%).

Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## デザインスタジオ6

赤松 佳珠子、渡邊 健介、仲 俊治、平井 政俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年CD期のデザインスタジオはデザインスタジオの最終段階と位置づけられる。そのため建築だけでなく建築と既存の都市、建築とランドスケープなどのように建築と他分野との接点をもつような課題設定も含まれている。大きく前半と後半に分けているが、1学期間を通じてひとつの設計テーマを継続的に追求する。今年度は学校が周囲の地域の核となることを意図して、地域の拠点としての学校をテーマとする。ただしこの課題では自己の母校をテーマにするので個人ごとの問題解決が求められる。この学期ではスタディ模型やスケッチ作成によりザイン・コンセプトを短時間で作り出す能力を育成するだけでなく、正確な図面を描く方法や詳細図についても学ぶ。学生は自分の興味や関心に合ったクラスを希望選択することができる。クラス分けのあとではスタジオワークにより少人数教育を行う（各クラス15人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

### 【到達目標】

- ・社会的問題群を認識し、建築的回答を構想する
- ・地域の物理的・社会的資源を理解する。
- ・既存建築の機能を変更しプログラムを再編する技術を身につける
- ・環境の質を定量化し形態にフィードバックする
- ・配置やファサードデザインで環境負荷を低減する技術を身につける
- ・設計意図を的確に表現する技術を身につける
- ・短期間でアイデアを形にまとめる技術を身につける

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
イン力

◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

●デザインスタジオ5+6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ5+6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生では卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないというまでもないことである。

●これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここで一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいだけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、課題説明、ミニレクチャー	・ガイダンス ・ミニレクチャー ・前半クラス分け
2	エスキス1	・学校事例研究1 ・敷地リサーチ及び分析
3	エスキス2	・学校事例研究2 ・敷地リサーチ及び分析
4	エスキス3	地域施設機能と学校の規模について
5	エスキス4	・全体の配置計画 ・新しい学校空間の可能性について
6	中間講評	・中間講評 ・後半スタジオクラス分け

7	エスキス5	・中間講評からの気づき、フィードバック ・設計スタディ1 = 設計内容を俯瞰する
8	エスキス6	・設計スタディ2 = 設計内容をより詳細に検証
9	エスキス7	・設計スタディ3 = 設計内容をより詳細に検証
10	エスキス8	・設計スタディ4 ・設計内容の確定
11	・プレゼンテーションについてのレクチャー ・エスキス9	プレゼンテーションにあたってのコンセプトの表現法の研究。
12	スタジオ講評会	スタジオ内課題提出、発表、討論を行なう。全員発表し講評を受ける。
13	最終講評会	クラスの代表者が自案の発表を行ない、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。なお、1月後半には4年生の卒業設計に関する卒業設計演習を行なう。
14	ポストレビュー	再提出者及びビハインド提出者の検収・指導を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

### 【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）など。

### 【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかは重要な評価対象となる。

4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

課題の前半と後半でスタジオ・インストラクターがチェンジすることで2名の教員の異なる視点と異なる教員から共通の評価があることを体験的に学んでほしい。主観的評価と客観的評価が同居するのが建築デザインの特徴なのである。

### 【学生が準備すべき機器他】

3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

### 【その他の重要事項】

DS6の作品は自分のポートフォリオにぜひ入れておきたい。卒業設計の前哨戦として重要なステップである。

実務経験との関係：担当教員は現役の建築家であり、一級建築士でもあるので、デザイン力の鍛錬だけでなく、建築士としての視点からも指導を受けることができる。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] The design studio in the 3-year CD term is positioned as the final stage of the design studio. Therefore, it includes not only architecture, but also tasks that bring architecture into contact with other fields, such as architecture and existing cities, architecture and landscape, and so on. The course is divided into two parts, the first half and the second half, and students continuously pursue a single design theme throughout the semester.

This year's theme is the school as a hub of the community, with the intention of the school becoming the nucleus of the surrounding community. However, since the theme of this project is our own alma mater, we are required to solve problems on an individual basis. In this semester, students will not only develop the ability to quickly create a design concept by making study models and sketches, but will also learn how to draw accurate plans and details. Students can choose the class that best suits their interests. After class placement, students are taught in small groups through studio work (no more than 15 students per class). Students who wish to take a seminar in the planning field must take this course.

### 【Learning Objectives】

- ・Recognize social problems and envision architectural answers.

- Understand the physical and social resources of the community.
- To understand the physical and social resources of the community.
- Quantify the quality of the environment and provide feedback on form.
- To acquire skills to reduce environmental impact through layout and façade design.
- To acquire skills to accurately express the design intent.
- Acquire skills to put ideas into shape in a short period of time

**[Learning activities outside of classroom]**

The University uses a "studio" system where students work in the drafting room during class, rather than in a "studio" style with individual desks, except for the graduate studio, so students are required to make drawings and models at home.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

The final presentation of the work will be evaluated comprehensively, based on the esquisse and midterm presentations. How students work with their studio instructor each week is an important part of the evaluation.

More than 4 unexcused absences will not be graded.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

**建築材料**

網野 禎昭

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。また、この授業では、構法スタジオ1の演習課題を進める上で理解すべきコンクリート基礎や木造軸組構造、仕上工法についても講義する。

**【到達目標】**

建築材料に技術者として接するだけでなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。実際の建物において建築材料がどのように使われているのか具体的に理解する。

Understanding the application of materials to buildings. Discussing the historical natural resource depletions to understand the importance of symbiosis between our civilization and natural resource application.

**【修得できる能力】**

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
イン力

○ ○ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	コンクリート1	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
2	コンクリート2	鉄筋コンクリートの施工と管理、基礎工法
3	木材1	森林と林産業、木材の基本特性
4	木材2	木造軸組、木質材料、接合具
5	鋼・非鉄金属	製鉄のしくみ、鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食、鋼の生産、非鉄金属
6	断熱	断熱の原理、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、ガラスの断熱性
7	防水	防水材料、防水・防湿工法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observe real buildings to review the application of building materials presented in the lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスマレッジ）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の結果（100%）

Evaluate the final exam result.

**【学生の意見等からの気づき】**

実際の材料サンプルの活用。

**【学生が準備すべき機器他】**

特に使用しない。

**【その他の重要事項】**

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

**【Outline (in English)】**

Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

施工管理

三上 孝明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

施工管理とは、「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの行為（四大任務）の総称である。将来どのポジションでキャリアを積むかに関わらず、建築業界に身を置く者にとって知っておくべき各種工事とその流れに沿って、材料、構造等にも触れながら「施工管理」と「建築施工」のポイントを解説する。

施工管理業務従事者（主に現場監督）が建築生産の中でどのように位置付けられ、その役割はどのようなものであるか概観することが出来る。また協業による「ものづくり」の視点を持つための知識の習得を目的とする。また、一級建築士試験に対応できる知識習得の目的も有する。

【到達目標】

大きく二つの目標を持つ。

- ① 施工管理の四大任務を理解し、管理におけるPDCAサイクルが概観出来る。
  - ② 施工の流れを知り、各種工事の管理に必要な材料および構造知識を持った施工管理知識を得ることが出来る。
- なお、建築物をつくるという目的は一つだが、「建築生産」における上流工程である「設計」と、下流工程となる「施工」では役割が異なる。この異なる役割から手戻り等、非効率的な現場運営となることが問題視されることがしばしばある。こうしたことの回避の為に、施工図の重要性に触れて建築生産システムにおいて何が必要であるか考察するきっかけを得ることが出来るようにする。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は対面授業に置くが、オンライン授業を第6講と第12講の2回行う。

進め方の詳細は初回授業開始までにHoppiiの施工管理「お知らせ」「授業内掲示板」でも説明する。

授業資料は事前、事後に配布する。テキストと授業シートに必ず目を通して受講すること。

①事前配布資料

- ・テキスト : その日の講義テーマごとに公開（配布）する
- ・サブテキスト：基本的には講義毎に必要な場合の配布とするが固定的なものではない。テーマを超えてコマに関係なく配布する場合もある

\* 授業シート : その日の講義のアジェンダ/レジュメ

②授業時間内、もしくは授業日配布資料

\* カルテ（確認テスト）講義終了後に提出

③授業終了後配布資料

\* 回答解説 講義終了後公開する・復習に利用する

1回の講義の流れは以下となる。

授業前<テキスト、授業シートの受理、予習>→授業[PPTによる授業]→授業後<カルテへの回答と提出><回答解説の受理、復習>

■Hoppiiへの公開資料、課題は公開期限を定めているため、締め切り後は開けなくなるので注意すること。なお、カルテ（小テスト）（「教材」にも置くが、「課題」にて示し、そこで解答して提出となる）はその講義の終了10分前に公開してその日の23時50分に非公開とするため注意をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	施工計画・管理概説	日本の建設産業の概要と現状と今後について解説する。また、施工管理の四大任務である「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」のアウトラインを知り、「請負」、「現場代理人」など施工管理に関わる基本用語の意味を理解する。なお「建築生産」における生産設計（施工図）についても触れる。 確認テスト1
2	品質管理（Q）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである品質管理とは何かを解説する。また、QC活動、ISO9000に触れながら、施工の品質管理の考え方とそのプロセス管理を理解する。 確認テスト2
3	原価管理（C）	施工管理に必要な経営の知識、原価管理の考えか方と手順並びに施工とVE（Value Engineering）の基礎知識を解説する。また、施工管理にける見積り、発注、請求、稟議、決裁などの用語を知り、原価管理のPDCAサイクルの大枠の流れと実行予算を中心とした管理の概要を理解する。 確認テスト3
4	安全管理（S）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである安全管理と、労務管理の概要を解説する。また、管理における新しい課題である環境問題についても解説する。 確認テスト4
5	工程管理（D）	工程管理とは何か、ネットワーク工程表等の工程表種類と基本的な用語を解説し、実務における工程管理の考え方を理解し、特に工事遅延が他の管理項目に及ぼす影響について実例を挙げて解説する。 確認テスト5
6	ネットワーク工程表と施工管理の四大任務のまとめ 中間試験	第5講で行ったネットワーク工程表作成演習の解説を行う。また、全5回の講義内容の理解度を確認するため、オンラインで中間試験を行う。

7	施工管理と施工計画 建築現場調査課題提示	着工前に必要な確認事項、準備工事の内容について解説し、工事期間、予算、安全等施工管理全般に大きく影響する「施工計画」の実例をもとに解説する。 確認テスト6 建築現場調査課題提示（今回～次回にて）
8	仮設工事	施工効率、建物品質、安全などに影響する仮設工事について、たわみや座屈などの構造力学知識の必要性に触れ、仮設工事の概要を解説する。 確認テスト7
9	基礎・地下工事	杭、地盤改良などの地業工事、地下躯体工事のための土工事、山留工事など基礎工事および地下工事について解説する。 確認テスト8
10	鉄筋工事・型枠工事	鉄筋コンクリート構造の躯体工事における鉄筋工事について、鉄筋種類、発注方法、製品検査等、および組み方を実際の工事の模様を動画で示し、解説する。 鉄筋コンクリート構造の躯体工事における型枠工事について、一般的な型枠材料である型枠合板の組み方とその手順、および組み立てに必要な補助材料の種類と取り扱いと施工上の注意点を動画を交えて解説する。 確認テスト9
11	コンクリート工事の概要、材料と品質および品質管理	鉄筋コンクリート工事におけるコンクリート工事について概要とコンクリート材料の特徴と品質について、またその品質管理の方法を解説する。 確認テスト10
12	コンクリート工事打設	鉄筋が組まれ、型枠が組み上げられたのち、品質管理されたコンクリートを打ち込むが、打設の仕方の不備による不具合が生じる場合がある。不具合を起こさない打設方法について解説する。 確認テスト11
13	鉄骨工事 鉄骨造の生産システムの特徴と鋼材種類とその特徴及び部材の接合	鉄骨造の施工の特徴は部材を組み上げる前の段階において建設現場以外で各部材を制作して現場に搬入される点にある。 ファブリケーターと呼ぶ生産業者への発注方法と制作における原寸チェック等その特徴を解説する。また、ファブリケーターによって制作された各部材の代表的接合方法を解説する。 確認テスト12
14	その他の工事の紹介 施工管理について考える	施工管理における他の工事についてその種別を示す。 後半授業の重要ポイントについて見直しを行う。 確認テスト13（受講確認シート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習は、授業開始前に配布する資料、特に授業シートにて講義を概観すること。
- ・授業は事前配布資料を投影して解説していくので予習を活かすこと。

・カルテの問題は授業の重要ポイントを示してあり、各自が授業時間外の復習に活用してもらうことを目的としている。各自の理解不足を発見して、配布された資料を再度見直すことで復習になる。授業毎に配布するので、その日のうちに再読して学習すること。  
なお、カルテ（確認テスト）の提出は成績における平常点として扱う。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。以下の4点を配布する。

- ① その日の授業シート
- ② オリジナルテキスト（A4版WordテキストもしくはPPTプリントテキスト）
- ③ 確認テスト（指定時間内提出）
- ④ 確認テストの解答解説

【参考書】

以下資料を各自が適宜参考にすること。

- ① 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」WEB公開資料

[https://www.mlit.go.jp/gobuild/kenchiku\\_hyoushi.html](https://www.mlit.go.jp/gobuild/kenchiku_hyoushi.html)

- ② 構造用教材（日本建築学会）

【成績評価の方法と基準】

大きく二つの到達目標があるが、それぞれ独立したものではない。煩雑さを避けるため目標を区分している。それぞれの理解度を試験にて判断する。なお、履修判定には確認テストの点数は直接はカウントしない。しかし、平常点として配点する。

- ① 中間試験 施工管理の四大任務の理解
- ② 期末試験 各種工事と施工プロセスの理解
- ③ 平常点 授業参加度と理解度

試験成績 70%（中間試験+期末試験）/2

平常点 30%（出席率、課題提出率他）

<成績評価>

不合格

未受験・採点不可 = E 0～59点 = D

合格

60点～62点 = C- 63点～66点 = C 67点～69点 = C+

70点～72点 = B- 73点～76点 = B 77点～79点 = B+

80点～82点 = A- 83点～86点 = A 87点～89点 = A+

90点～100点 = S

【学生の意見等からの気づき】

・履修判定基準に対する平常点の重要性の解説並びに中間・期末試験との関連を授業毎に注意喚起して目標達成の一助とする。

・講義中の学生への質問（指名想定として）は（事前整理）精査して行い、100分を有効に使うように過度の時間配分とならない様に注意する。（効果的な質問の精査と整理を行う）

【学生が準備すべき機器他】

・PC等端末機器

講義資料は授業支援システム（Hoppii）にて公開する。各自情報端末にて確認すること。

【その他の重要事項】

設計事務所経営経験を有する一級建築士が、設計監理の経験から建設業者との施工管理実務を通じて得た施工管理に必要な基本姿勢と、現在所属する「生産設計企業」での社員教育、また施工会社における安全大会等での講義経験を活かして「管理」のポイントを講義する。また、建築士受験関連参考図書の執筆経験から建築士試験受験要件を満たす最低限必要な知識を概説する。

本科目は建築士試験受験認定に必要な「指定科目（建築生産カテゴリ）」の一つである。カテゴリ内での選択が可能な科目ではあるが受講可能な全学生が科目登録して全員が履修し単位を取得することが望ましい。十分な復習を行って中間テスト、期末テストに臨んでいただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Construction management is a general term for actions (four major tasks) such as "process control," "safety control," "quality control," and "cost control." Regardless of the position in which you will pursue your career in the future, those working in the construction industry will need to know about "construction management" and "architectural construction" by covering the various types of construction work and its flow, touching on materials, structures, etc. Explain the main points.

It is possible to get an overview of how construction management workers (mainly site supervisors) are positioned in construction production and what their roles are. The aim is also to acquire knowledge to gain a perspective on "manufacturing" through collaboration. It also has the purpose of acquiring knowledge to prepare for the Class 1 Architect Examination.

**[Learning activities outside of classroom]**

Have two major goals.

- ① To understand the four major duties of implementation management and to have an overview of the PDCA cycle in management.
- ② Be able to know the construction flow and acquire construction management knowledge with materials and structural knowledge necessary for the management of various construction works.

**[Learning outside class hours]**

The standard time for preparation and review is one hour each.

· For preparatory study, review the materials distributed before the start of class, especially class sheets.

· For review, find your lack of understanding in the confirmation test and review the distributed materials again.

**[Grading Criteria /Policy]**

There are two major goals, but they are not independent of each other. The goals are segmented to avoid clutter. Each level of understanding will be judged by examination. Please note that confirmation test scores are not directly counted in course registration. However, points will be allocated as normal points.

- ① Intermediate exam Understand the four major duties of construction management
- ② Final exam Understanding of various construction and construction processes
- ③ Normal score Class participation and understanding

Examination score : 70% (mid-term exam + final exam) / 2

Normal score : 30%

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

## 【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

## 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

○ ○ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面 構造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築など の最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁-1グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observing "Kabe-1 grand prix" is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しない

## 【参考書】

Timber Construction Manual

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100%）による

Evaluate the final exam result.

## 【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実  
教員による実作の詳細解説

## 【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

## 【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

## 【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史の変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

### 【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらに応用した構造デザイン例を紹介する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱 (1)	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱 (2)	梁と柱の構造、マガサ構造、ラーメン構造
3	トラス (1) 概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス (2) メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス (3) 諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ (1) 概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ (2) メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム (1) 概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム (2) メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B. フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第2版（建築の絵本）、彰国社

### 【参考書】

授業内で適宜指示をする。

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 鉄筋コンクリートのデザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート構造に関して、その特性および基本理論、構造設計手法、最新の技術動向について学ぶ。

### 【到達目標】

基本的な専門用語、コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で、鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること、鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること、鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること、この3点を目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

○ ○ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

鉄筋コンクリートは、現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり、圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを、引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。

この授業では、まず、鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後、複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。

理解の定着を図るために、演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。また、鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し、最新の技術動向について触れる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類、 応力-ひずみ曲線、 強度、その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの 付着	鉄筋の種類、強度、 応力-ひずみ曲線 鉄筋とコンクリートの付着のしくみ
4	鉄筋コンクリートの力 学的基本概念	曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計1 (ひび割れモーメント、 許容曲げモーメント)	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計2 (終局曲げモーメント、 曲げ変形能力)	単筋梁、複筋梁の終局曲げモーメント モーメント-曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計1 (ひび割れモーメント、 許容曲げモーメント)	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式
8	柱部材の曲げ設計2 (終局曲げモーメント、 曲げ変形能力)	N-M 相関曲線 終局曲げモーメント Nu-Mu 相関曲線
9	演習および復習	柱の変形能力に関わる要因 梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材 のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計

13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構 造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴 と原理 最新の技術動向

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、下記参考書のうち、自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

### 【参考書】

谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造 理論と設計、森北出版  
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造、共立出版  
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造、森北出版  
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門、鹿島出版会  
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010、丸善

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）  
演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）  
定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）  
なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに、学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

### 【その他の重要事項】

この授業とともに「材料のデザイン」「構造計算プログラミング」「エンジニアリングスタジオ」を履修することでさらに理解が深まるので、その履修を強く勧める。  
また、建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。  
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:  
In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.

### Learning Objectives:

The objectives of this course are threefold: to understand the principles of various concrete structures including reinforced concrete structures, to grasp the flexural and shear behavior of reinforced concrete members, and to master the basic concepts of structural design of reinforced concrete members, after organizing basic terminology and the properties of concrete and steel bars.

### Learning activities outside of classroom:

Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 構造計算プログラミング

浜田 英明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い、構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

### 【到達目標】

表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して、1)鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること、2)基本的なプログラミング技術を修得すること、3)表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ、論文作成等での応用力をつけること、これら3点を目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ

○ ○ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを、今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて、構造計算させる方法について学ぶ。

コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが、正確にプログラムを記述しなければ、正解を導いてはくれない。

「コンピュータに学習させる」ことを通して、鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。

また、表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ、論文作成等に活用できるようになることも目指す。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Excel マクロ (VBA) の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム、プログラミング Sub プロシージャ、Function プロシージャ For Next 文、If 文
2	演習課題1	Sub プロシージャ、Function プロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用と鋼材断面性能の算出	ユーザーフォーム 鋼材断面性能
4	演習課題2	ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC 梁の断面検定方法の復習 (曲げに対する断面検定)	鉄筋、コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excel によるグラフの作図	グラフ作図演習 RC 長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成
7	RC 梁の断面検定方法の復習 (せん断に対する断面検定)	せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題4	RC 長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC 柱の断面検定方法の復習 (軸力と曲げ、せん断に対する断面検定)	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題5	RC 長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC 長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成
11	人工知能による構造設計	長方形柱の断面検定シートの作成 最適化アルゴリズムによる構造設計
12	演習課題6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計

13 コンピュータの発展と人類 建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害  
今後に向けて

14 小レポート まとめ、総括  
総括レポートを各自作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、Excel VBA に関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

### 【参考書】

日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010、日本建築学会（丸善）

日本建築学会：鋼構造設計規準-許容応力度設計法-、日本建築学会（丸善）その他、「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で使用したテキストやノート

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）

なお、5回以上欠席したものは評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報教室の機器

### 【その他の重要事項】

この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため、先にその履修をしておくことを勧める。

また、「鋼のデザイン」とも関係が深いため、同時に履修することを勧める。構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.

Learning Objectives:

Through programming exercises using spreadsheet application software, the objectives of this course are: 1) to understand the cross-sectional verification method of reinforced concrete (RC) column and beam members, 2) to master basic programming techniques, and 3) to become familiar with the use of spreadsheet application software and to develop application skills for writing papers, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to prepare for and review the course using reference books and notebooks, and to actively engage in the homework exercises and assignments.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 設備入門

石川 裕司

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境を加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもある。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、建築設備の学習テーマとし授業を進める。

### 【到達目標】

<授業の到達目標>

建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、適切な室内環境を創る「①空調・換気」と生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「本授業は、対面授業を基本として、実施を予定しています。」  
変更等があった場合には、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より、Web 掲示板でお知らせいたします。Web 掲示板を随時ご確認ください

<授業の概要>

授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。

<授業の方法>

授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT又はDVD等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス	(建物に絶対必要) ・身近な物から考える建築設備 ・水・排水 ・電気 ・空調・換気
2	建築設備	(設備で何) ・設備の歴史(必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人知恵) (安全な水・湯) ・水・湯の基礎的知識 ・生活と水・湯 ・給水・給湯計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等 (どこに流れる)
3	給水設備・給湯設備	・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水 (きれいな排水) ・汚水処理
4	排水設備・衛生器具設備	(ビルの電気) ・電気的基础知識
5	電気設備	

6	照明設備	(いろんな灯り) ・照明の基礎 ・照明計画法 ・LED、Hf 蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井照明 ・照度計算 (火事だ) ・自動火災報知と避難(火の消し方) ・消火の原理 ・消火方式 (室温一定) ・制御機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・BEMSについて
7	防災設備・消火設備	(快適・不快) ・室内環境維持 ・空気の性質 ・空気の状態変化 (室温と外気温) ・室内外条件 ・負荷の種類 ・熱負荷計算 (室を冷やす、暖める) ・空調機器 (冷水・温水を作る) ・ビル用一般冷熱源 (空気は快適) ・ダクト設備 (冷水・温水で快適) ・配管設備 (空気は汚れる) ・空気清浄度保持のための換気計算法 (火災と避難) ・排煙方式と目的 (省エネ) ・省エネルギーと設備 ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 ・省エネルギー計算法
8	監視・制御	
9	空気調和設備	
10	熱負荷の種類	
11	空調方式・熱源方式	
12	空気搬送設備・水搬送設備	
13	換気・機械排煙と防煙	
14	エネルギー消費	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

1. 既存の建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
2. 家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。  
例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。
3. 学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
4. 上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモしておく。

【テキスト（教科書）】

最新 建築設備工学 改訂2版（井上書院） 監修：田中俊六・著者：宇田川光弘他4名。3520円  
必要に応じプリントを配布。

【参考書】

『図説 やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800円  
『最新 建築環境工学』（井上書院） 監修：田中俊六・著者：田尻他5名。3000円

【成績評価の方法と基準】

成績評価に関して、定期試験成績を最重点基準事項とする。評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、以下の各項についてポイントの加減を行う。  
①期末試験（60%）小テスト・レポート（30%）平常点（10%）により評価する。  
②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。  
③時間内テストなどで不正行為があると認められた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。  
④学生諸氏が、TAを含む教員との間に万一行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf蛍光灯、LED燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

**【学生が準備すべき機器他】**

テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓等を持参すること。

**【その他の重要事項】**

建築技術者としての基礎知識を身につけるため履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。

現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

**【Outline (in English)】**

**Course outline**

In this course, students will be introduced to "water, air, and electricity," which are essential to life.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge as a building facility engineer.

It begins with a careful observation of the environment and facilities of the existing building.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 建築デザイン論 1

下吹越 武人、今村 創平

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代建築のデザイン潮流を建築家の思想や作品、近代都市計画や現代都市理論を通して学びます。代表的な建築家や作品、論考を学ぶことに加えて、その社会的背景、それらを支える都市理論について考察します。

### 【到達目標】

近代および現代はどのような時代であり、そこにいる私たちはどのような存在であるのか。建築家は何を生み出し、私たちはどのようにして都市に住むのか。

近現代の建築の多様な表現と思想を学び、現代都市の状況と課題を理解し、それを自らの創作や思考の糧とすることを目標とします。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は建築デザインとその理論について、後半は都市理論が主題となります。レポート課題について授業内で適宜指示があり、授業内でフィードバックも行います。また、授業のなかで参考図書を紹介するので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 法政建築について	授業内容の説明 大江宏の作品と「アーキテクト・マインドとは何か？」の読解を試みる
第2回	抽象と日常	篠原一男と坂本一成の作品と著作を中心に住宅から建築を思考することの意義と可能性を探る
第3回	建築の公共性	山本理顕、伊東豊雄、横文彦の作品と著作から建築と社会の関係性について思考する
第4回	建築の自律性 [研究発表1]	磯崎新による実践を通して建築による自律的、批評的な試みを横断する
第5回	風土の継承、場所性の回復 [研究発表2]	批判的地域主義を学び、アルヴァ・アアルトとアルヴァロ・シザの作品を読み解く
第6回	[研究発表3]	レポート発表をベースに現代建築の展望をディスカッションする。
第7回	[研究発表4]	レポート発表をベースに現代建築の今日的課題をディスカッションする。
第8回	近代都市への変貌、近代都市計画	近代初頭の都市改造： ロンドン、交通の拡張、都市の膨張、田園都市 パリ（オスマン）、バルセロナ（セルダ） など
第9回	近代都市計画とその限界	ゾードルング（ドイツ） ル・コルビュジエ：輝く都市 CIAM 近代都市計画 TEAM Xの批判、ポストモダニズムによる批判
第10回	丹下健三とメタボリズム	東京の変遷 廃墟と瓦礫 明治の東京計画、関東大震災復興計画、同調会 丹下健三 広島、東京計画1960 メタボリズム
第11回	前衛的都市ヴィジョン、都市の理論	アーキグラム、アーキズーム、シチュアシオノニスト アレクザンダー「都市はツリーではない」 コーリン・ロウ「コラージュシティ」

第12回	都市と文脈	アルド・ロッシ「都市の建築」 陣内秀信「東京の空間人類学」、イタリア都市研究 ヴェンチュリ&スコットブラウン「ラスベガス」
第13回	レム・コールハースと現代都市	「デリリアス・ニューヨーク」/ニューヨークの歴史 レム・コールハウスの現代都市批判 グローバルシティ
第14回	今日の都市空間の課題	都市空間におけるパブリック/コモン 商業空間と現代都市 情報都市

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで参考図書の紹介を行うので、あなたが関心を持った本を熟読することを勧めます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『現代都市理論講義』今村創平 オーム社

### 【参考書】

『住宅の空間原論』遠藤政樹+小泉雅生+佐藤光彦+下吹越武人 彰国社  
『住宅論』篠原一男 SD選書  
『住宅に内在する言葉』坂本一成  
『権力の空間/空間の権力』山本理顕 講談社  
『風の変様体』伊藤豊雄 青土社  
『漂うモダニズム』横文彦 左右社  
『建築の解体』磯崎新 鹿島出版会  
『現代建築史』ケネス・フランプトン TOTO出版  
『錯乱のニューヨーク』レム・コールハース 筑摩書房  
『都市のエージェントはだれなのか』北山恒 TOTO出版  
『東京の空間人類学』陣内秀信 ちくま学芸文庫

### 【成績評価の方法と基準】

前半部（1-7回）は2回のレポート(20%)と研究発表(30%)により評価、後半部（8-14回）は毎回のミニレポートにより評価(50%)を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

一級建築士として豊富な実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

### 【Outline (in English)】

This course will deal with subjects on representative modern and contemporary architectures and architects, and modern urban planning and contemporary urban theories.

### 【Learning Objectives】

What kind of era is the modern and the present age, and what kind of existence are we in it? What do architects create and how do we live in cities?

The goal is to learn the diverse expressions and ideas of modern architecture, understand the situation and issues of modern cities, and use them for your own creation and thinking.

### 【Learning activities outside of classroom】

Reference books will be introduced in class, so we recommend that you carefully read the books that interest you.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following, the first half (1-7 times); two reports(20%) and reserch puresentation (30%)

the second half (8-14 times); short reports by each times (50%)

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## 建築デザイン論2

赤松 佳珠子、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築デザイン論1で修得した近現代建築や近代都市計画、現代都市理論をベースに、より具体的な事例を通して知識を深めます。授業を担当する教員が実務を通して得た知見から、より実践的なアプローチ・思考能力を養う方法論を学びます。

### 【到達目標】

少子高齢化、情報化社会に加えて新たな感染症が一瞬にして世界的流行となるなど、現代社会はめまぐるしい速度で変化しています。都市や地方に於けるコミュニティの在り方や日常生活、働き方、学校に於ける学びなど多くの価値観の変容が迫られている中、実践的な取り組みを学ぶことで、自らの設計手法の幅を広げると共に、デザインに対する思考を深めることを目標とします。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は都市、地域と公共建築の実践について、後半は市民活動や民間の実践が主題となります。レポート課題や簡単な復習小試験など授業内で適宜指示があります。また、授業の中で参考図書を紹介を行いますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／設計とは	授業の紹介／社会に於いて設計者が果たすべき役割と建築の構想・企画から竣工するまでの流れに於ける設計者の位置づけ
2	地域と学校1	地域における学校の役割、地域に開かれた学校について
3	地域と学校2	地域施設と複合化された、地域の拠点となる学校建築について
4	コミュニティと公共空間	地域のコミュニティと公共空間を考える
5	建築設計のプロセス	建築設計のプロセス
6	行政と公共建築	自治体に於ける公共建築の議論について
7	都市と建築	都市のコンテクストと建築の関係性を考える
8	セルフビルド	「セルフビルド」を介した社会構築や公共性について
9	パブリック	「公共的空間」を支える建築と福祉に繋がる実践について
10	ケア	「福祉」の承継と、地域に開く福祉の実践について
11	シェア	建築を地域に開く「シェアスペース」と活動について
12	マネジメント	活動が持続するための「マネジメント」について
13	ハウスメーカー	「商品化住宅」の歴史と建築家とのコラボレーションについて
14	コラボレーション	設計者との「コラボレーション」や、ソーシャル・テクニクス・デザインについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書の指定は特になし

### 【参考書】

『PUBLIC PRODUCE 「公共的空間」をつくる7つの事例』  
西田司、山道拓人他 ユウブックス  
『シェア空間の設計手法』猪熊純、成瀬友梨、山道拓人他 学芸出版

『クロノデザイン-空間価値から時間価値へ-』内藤廣編／彰国社

『学校建築ルネサンス』上野淳 鹿島出版会

『SHIBUYA』ハーバード大学院生が10年後の渋谷を考える

ハーバード大学デザイン大学院／太田佳代子 CCCメディアハウス

『楽しい公共空間を作るレシピ』プロジェクトを成功に導く66の手法

平賀達也・山崎亮・泉山墨威・樋口トモユキ・西田司 編著 ユウブックス

『都市理解のワークショップ-商店街から都市を読む-』

九州大学大学院アーバンデザイン学コース編 九州大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

レポート60%、授業の取り組み40%として採点する。

なお、はなはだしく類似した内容のレポート、授業に欠席したのに提出されたレポート（授業欠席に関しては、病気などやむを得ない事情によるものと教員が認めた場合のみ、別テーマのレポート提出で代替する場合もある。その場合は診断書の提出などを求める場合がある）は単位取得不可となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

### 【その他の重要事項】

一級建築士として実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

### 【IAEサーバー／Hoppiiの活用】

課題の提出はIAEサーバーもしくはHoppiiのいずれか（教員からの指示）により行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will deepen the perspective thorough the examples and case studies based on the knowledge of modern architecture, city planning and modern city theory in Architecture Design Theory- I. From the professor's view which got various experiences, students can learn how to develop the more practical approach and thinking ability.

#### 【Learning Objectives】

Modern society is changing at a dizzying pace, with a declining birthrate, an aging population, an information-oriented society, and new infectious diseases becoming global pandemics in an instant. As we are forced to change many values, such as the nature of communities in urban and rural areas, daily life, work styles, and learning in schools, our goal is to broaden our own design methods and deepen our thinking about design by learning about practical approaches.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Reference books will be introduced in class. Interested students are encouraged to purchase and study the books.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be 60% for the report and 40% for class work.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

**構法スタジオ 1**

永野 尚吾、溝部 公寛、飯塚 豊、鍋野 友哉、鈴木 理考、河野 泰治

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

構法スタジオ1、構法スタジオ2では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

**【到達目標】**

木造軸組構造による小型の建築物を設計課題として、構法スタジオ1では、空間計画と架構計画について習得する。エスキスでは描画力を養うために図面は手描きとし、図面の内容を立体的に理解するために軸組模型の作成も行う。

By designing a small sized wooden building, the students learn the living space planning and the structural planning in parallel. To acquire the drawing skills, all plans and sketches must be drawn by hand. Model construction is also required for the three-dimensional understanding of construction.

**【修得できる能力】**

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎				◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいは模型化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	課題説明 基本構想1	設計課題の解説 基本的な空間構想に着手する
2	基本構想2	基本的な空間構想を固める
3	架構設計1	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計2	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計3	耐震壁・プレースの検討
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や自主的な実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じ資料を配布。

**【参考書】**

「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

**【成績評価の方法と基準】**

最終提出物の評価（100%）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。

Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

**【学生の意見等からの気づき】**

木材や接合部の実物サンプルを提示する。

**【その他の重要事項】**

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

**【Outline (in English)】**

This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

## 構法スタジオ 2

永野 尚吾、溝部 公寛、飯塚 豊、鍋野 友哉、鈴木 理考、河野 泰治

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構法スタジオ 1、構法スタジオ 2 では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

### 【到達目標】

構法スタジオ 1 で設計した軸組構造に対して、構法スタジオ 2 では、断熱や防水、通気、仕上げを設計し、建築物として完成させる。構法スタジオ 1 と同様に、描画力を養うために手描き図面によりエスキスを進めるが、提出図面に関しては CAD ソフトを利用し、実務に即した作図方法を習得する。

Following Building Construction Studio 1, Building Construction Studio 2 requires the students to design the heat isolation, water proof, ventilation and finishing to complete the building design. As with BCS1, hand drawings are recommended.

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎				◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、各種詳細図の提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	屋根・壁・床の断面設計 1	屋根・壁の一般断面の検討 / 内・外装の検討
2	屋根・壁・床の断面設計 2	床の一般断面の検討 / 床・天井仕上の検討
3	開口部の断面設計	開口部と外壁の取り合い
4	屋根・壁・床の取り合い設計 1	基礎・床・外壁の取り合い
5	屋根・壁・床の取り合い設計 2	屋根・外壁・庇の取り合い
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じ資料を配布。

### 【参考書】

「ぜんぶ絵でわかる 1 木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

### 【成績評価の方法と基準】

最終提出物の評価（100%）による。正当な理由なく授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。

Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、実際の施工現場の見学や、縮尺の大きな部分模型製作を取り入れる。

### 【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

### 【Outline (in English)】

This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## ビルディングワークショップ

浜田 英明

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者（Professional Engineer）としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

### 【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

### 【習得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎		○		○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5~6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験, 議論)	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験)	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
- 2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

### 14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

### 【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません

### 【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

### 【その他の重要事項】

この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## ビルディングワークショップ

宮田 雄二郎

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者 (Professional Engineer) としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

### 【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○		○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5~6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験, 議論)	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験)	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
- 2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

### 14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

### 【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません

### 【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

### 【その他の重要事項】

この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB (建築学 / Architecture and building engineering 300)

## ビルディングワークショップ

中山 翔太

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者（Professional Engineer）としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

### 【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

### 【習得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○		○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5~6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験, 議論)	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 載荷実験)	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
- 2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理
- 9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

### 14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

### 【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

### 【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません

### 【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

### 【その他の重要事項】

この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

#### Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

#### Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## エンジニアリングスタジオX

浜田 英明、富岡 庸平

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

要求される構造性能を満足する建築物を構想し、その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

## 【到達目標】

構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに、卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また、その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

はじめに、設計事例を調査し、その拠り所となっている工学原理を整理・研究し、簡単なモデル化によって性能検証する方法を学ぶ。その後、実際に自らが演習を通して要求性能を満足する建築物を構想、検証し、プレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	構造デザイン
	現代の設計環境	有限要素法
第2回	構造解析の方法（1）	構造解析モデリング 境界条件および荷重条件の設定
第3回	構造解析の方法（2）	構造解析と構造設計
第4回	構造解析の方法（3）	時刻歴応答解析
第5回	見学会	実建築物の見学
第6回	事例研究（1）	著名建築物の構造システムの把握
第7回	事例研究（2）	著名建築物の構造システムの検証
第8回	事例研究（3）	発表会
第9回	構造計画演習（1）	基本構想立案 エスキス
第10回	構造計画演習（2）	構造計画立案 仮定断面
第11回	構造計画演習（3）	性能検証 改善策の検討
第12回	構造計画演習（4）	さらなる改善策の検討
第13回	構造計画演習（5）	プレゼンテーションの準備
第14回	最終講評会	プレゼンテーション 講評

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査やモデル作成、発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では、これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

## 【参考書】

授業内で適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内発表（30%）、期末レポート（設計図書）（40%）、最終プレゼンテーション（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新規開講授業のため、現在のところなし。

## 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

## 【Outline (in English)】

**Learning Objectives:** Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.

**Learning Objectives:** The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.

**Learning activities outside of classroom:** Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## エンジニアリングスタジオY

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築環境工学の基礎的知識を既に身に付けていることを前提としつつ、その知識を活かしながらサステナブル建築の構築方法に関する方法論を実践形式で学ぶ。

## 【到達目標】

室内環境シミュレーション、屋外環境シミュレーション、エネルギーシミュレーション、ライフサイクルアセスメントなどを実行できるような応用力を身に着ける。最終的に、シミュレーションの結果を踏まえて初期設計案を改良しつつ、よりサステナブルな建物を提案できるような技能を身に着ける。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習（各種シミュレーションの実行）を通じた、実践形式の講義を展開する。一人一人異なる課題に取り組むことになるため、環境工学の基礎知識を十分に身に着けた状態で履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明
第2回	環境工学の復習	温熱環境、空気環境、光環境、音環境など
第3回	中間課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第4回	室内環境シミュレーションの基礎	室内の数値流体解析（CFD）
第5回	室外環境シミュレーションの基礎	室外の数値流体解析（CFD）
第6回	エネルギーシミュレーション	ES ツール、エネルギー消費量、省エネ、創エネ
第7回	ライフサイクルアセスメント	ライフサイクル思考、建築物のLCA指針
第8回	最終課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第9回	フィールドワーク	現地調査、ローカル環境の測定
第10回	環境シミュレーション	モデル作成
第11回	環境シミュレーション	条件設定
第12回	環境シミュレーション	解析実行、ポスト処理
第13回	総合性能評価	建築環境総合性能評価システム（CASBEE）
第14回	ファイナルレビュー	プレゼンテーション、講評

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義内にシミュレーションが終わらない場合は、授業時間外に解析を回して最終発表に間に合わせることに。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

## 【参考書】

特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）によって評価する。なお、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

シミュレーションを回すための時間が足りない様子だったので、今年度は課題提示を早期化する予定。

## 【Outline (in English)】

Course outline: Students will learn methodologies on how to design sustainable buildings in a practical format, while assuming that they already have a basic knowledge of architectural environmental engineering.

Learning Objectives: Students will acquire the applied skills to perform indoor environmental simulations, outdoor environmental simulations, energy simulations, and life cycle assessments. Finally, the students will acquire the skills to propose a more sustainable building while improving the initial design proposal based on the simulation results.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If the simulation cannot be completed during the lecture, the analysis should be conducted outside of class time to make it in time for the final presentation.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on the report (100%). No grade will be given to students who have not submitted their assignments.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## エンジニアリングスタジオZ

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

要求される構造性能を満足する建築物を構想し、その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

### 【到達目標】

構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに、卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また、その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

・構造設計および研究に取り組むためには、構造物に生じる応力と変形を計算する能力が必要である。そこで、マトリクス解析法の基礎を学び、解析プログラムを作成してフレームの応力変形解析を行う。  
・構造設計する際、解析能力に加えて建築と構造の関係をよく理解して、最適な構造システムを提案する能力が重要である。そこで構造設計事例調査してプレゼンテーションすることでその理解を深める  
・自ら建築物を構想し、そのデザインを実現するための構造計画を行う。架構計画を行って、適切な構造モデルを作成して応力変形解析を行う。設計条件を満足する断面を選定し、その過程と結果をプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 変位法によるマトリクス解析 (1)	要素剛性マトリクスの作成
第2回	変位法によるマトリクス解析 (2)	構成方程式, 釣合条件, 適合条件
第3回	変位法によるマトリクス解析 (3)	座標変換, 全体剛性マトリクスの作成
第4回	変位法によるマトリクス解析 (4)	連立一次方程式の解法
第5回	変位法によるマトリクス解析 (5)	プログラミング演習
第6回	変位法によるマトリクス解析 (6)	フレーム解析演習
第7回	事例研究 (1)	構造材料と構造デザイン
第8回	事例研究 (2)	耐震設計と構造デザイン
第9回	建物見学	構造デザインを現地で確認する
第10回	構造設計演習 (1)	構造計画
第11回	構造設計演習 (2)	仮定断面, 荷重条件
第12回	構造設計演習 (3)	応力変形解析
第13回	構造設計演習 (4)	断面計算
第14回	構造設計演習 (5)	プレゼンテーション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査やモデル作成、発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では、これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

### 【参考書】

授業内で適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内発表 (30%), 期末レポート (設計図書) (40%), 最終プレゼンテーション (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Learning Objectives: Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.

Learning Objectives: The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.

Learning activities outside of classroom: Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

## 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

### 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

## 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

下吹越 武人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

### 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

網野 禎昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

## 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
-------------	-----	-----	-------	-----	-----	-----

◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
---	---	---	---	---	---	---

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

赤松 佳珠子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

### 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

## 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

### 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

## 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

## 【修得できる能力】

総合デザ イン力 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記 (B)、(C) の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

## 卒業制作2

小堀 哲夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

### 【到達目標】

テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などにに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(1)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(2)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(3)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて(1)	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて(2)	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて(3)	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導(1)	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導(2)	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導(3)	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。

1. 提出までのスケジュールを検討する
  2. ディスカッションの準備
  3. プレゼンテーションの資料づくり
  4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
  5. 図面・模型等の準備
  6. 図面・模型等の準備
  7. 図面・模型等の準備
  8. 図面・模型等の準備
  9. プレゼンテーションの準備
  10. 図面や模型の作成
  11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
  15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【参考書】

各ゼミの担当教員から指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
  - (B) 定められた図書形式に従っていること。(用紙サイズ：A1)
  - (C) 建築設計の場合は、設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も、設計図に準じた形式を有すること。
  - (D) 卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
  - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。

以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

- (1) 独創性、問題意識、計画能力
- (2) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (3) 構造、環境面の把握
- (4) 努力の集積度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.

Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## デザイン思考基礎演習 (2023年度以降入学生)

安積 伸、三浦 秀彦、相川 真実、石橋 忠人

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デザインというキーワードをここでは広義に「問題解決・新たな価値の創造」と捉えます。

デザインとは、外観を設計する事だけではなく、社会や人間の問題を解決し、魅力的な価値を創造するということであり、「デザイン思考 (デザインシンキング)」とは問題解決・価値創造のための基礎的な思考法・手法といえます。

デザイン思考のプロセスをワークショップ形式で追いながら、問題解決や価値創造の手法を実践的に学ぶことを目的とします。

## 【到達目標】

「デザイン思考 (デザインシンキング)」は、製品やサービスの開発手法として今日では多くの企業・開発者に影響を与えています。デザイン思考に含まれる多くの重要なプロセスを理解し、説得力があり新鮮かつ魅力的な提案をする力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

デザイン思考のプロセスを追いながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。

参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容	
1	課題説明	全体概要説明	
	グループ分け	アイスブレイク	
	分析・情報整理ワークショップ	分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有	
2	テーマ考案ワークショップ	アイデア・テーマ考案 グループ再編 アイデア展開	
	フィールドワーク予備調査ワークショップ	観察対象の抽出・選択 場所と企画の設定	
4	フィールドワーク 現地調査 インタビュー	現地調査観察 (情報共有・考察 インタビュー フィールドワークの調査結果・考察プレゼンテーション準備	
	5	フィールドワーク調査発表 アイデア考案・プロトタイプ・ワークショップ	フィールドワーク調査結果考察 プレゼンテーション タッチポイント整理 提案における重点事項の明確化とアイデア発散
		プロトタイプ・レビュー プレゼンテーション準備	プロトタイプの設計と制作 プロトタイプ進捗確認 プレゼンテーションの概要と準備内容の確認
7	最終プレゼンテーション 総評	最終案発表会 まとめ	

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間内にまともな作業は、時間外で自主的に行っても構いません。

各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。

自らの生活を注意深く観察すること。

日常の中で感じる不便な要素を常に記憶し、改善方法を考察する事。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

デザイン思考が世界を変える [アップデート版] (ティム ブラウン : 早川書房)

## 【参考書】

心を動かすデザインの秘密 (荷方邦夫 : 実務教育出版)  
サービスデザインの教科書 (武山政直 : NTT出版)

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を40点、最終プレゼンテーション内容を50点、提出レポートを10点、とする。

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

## 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ラップトップPCを持参。

授業に必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

## 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course provides a practical introduction to the fundamentals of problem-solving and creation methods, following the process of Design Thinking in the workshop.

## 【Learning Objectives】

The aim is to understand the many important processes involved in Design Thinking and to acquire the ability to make persuasive, fresh, and attractive proposals.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within class time.

After completing each assignment, you will be asked to submit a beautifully written proposal as a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

Evaluation of class participation (40%), final presentation (40%), submitted report (10%).

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## 図学設計基礎演習X (2023年度以降入学生)

梶本 博司、石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

### 【到達目標】

立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン(総合計画設計)しますが、3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学(Descriptive Geometry)を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はCAD(Computer Aided Design)と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎1	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎2	図形を通して立体を第三者に伝達する
4	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	平面から立体、立体から平面の往来手描きによる幾何形体-演習1
5	三角法の基礎-2：三角法の作図法	三角法の作図法、基礎概念の理解。手描きによる幾何形体-演習2：線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	手描きによる幾何形体-演習3
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	寸法記入法、断面図 CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図。図形描画ツールの理解2。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解3、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題3：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(基本レイアウトの作成)
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ)整合性の検証)
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を必ずすること。  
CADの基本操作を自主的に学習しておく事。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

### 【参考書】

「図面ってどない描くねん」  
発行：日刊工業新聞、著者 山田 学  
「JISにもとづく標準製図法」  
発行：オーム社

### 【成績評価の方法と基準】

出席(減点法)  
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。  
課題の提出(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。  
基礎の習得を徹底します。

### 【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

### 【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.

(Learning activities outside of classroom)

Be sure to review your lessons.

Self-directed learning of basic CAD operations.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Attendance (deduction method)

Active class participation and class attitude will be evaluated.

Assignment submission (100%)

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

## 図学設計基礎演習Y (2023年度以降入学生)

梶本 博司、石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

## 【到達目標】

立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン(総合計画設計)しますが、3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学(Descriptive Geometry)を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はCAD(Computer Aided Design)と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎1	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎2	図形を通して立体を第三者に伝達する
4	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	平面から立体、立体から平面の往来手描きによる幾何形体-演習1
5	三角法の基礎-2：三角法の作図法	三角法の作図法、基礎概念の理解。手描きによる幾何形体-演習2：線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	手描きによる幾何形体-演習3
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	寸法記入法、断面図 CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図。図形描画ツールの理解2。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解3、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題3：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(基本レイアウトの作成)
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ)整合性の検証)
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を必ずすること。

CADの基本操作を自主的に学習しておく事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

## 【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

## 【成績評価の方法と基準】

出席(減点法)

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出(100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

## 【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

## 【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

## 【Outline (in English)】

In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## プロダクトデザイン演習 (2023年度以降入学生)

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

### 【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。

社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。

造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。

観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。

様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は対面形式の実習です。

「プロダクトデザイン1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。

「プロダクトデザイン1、2」の授業では、3～4人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく5つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。

また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握 課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明
8週	無意識の行動② 社会実装実験①	調査考察課題の発表 プレゼンテーションを行う 課題説明
9週	社会実装実験②	人間は無意識の行動に着目し、様々な日常の問題を解決する。 経過発表 チュートリアル 試作用いて発案の有効性を検証する。
10週	社会実装実験③ 空間のデザインと人間工学①	課題発表会 課題説明 家具を用いて新たな学習環境・教育環境の提案を行う。
11週	空間のデザインと人間工学②	見学会 学習環境・教育環境を形作る家具の最新事例の見学を行う

12週	空間のデザインと人間工学③	課題制作 チュートリアル 発案を具現化し、試作を用いた検証を行う。
13週	空間のデザインと人間工学④	経過発表 チュートリアル 課題制作 制作物の中間報告会を行う。検証と結果、今後の課題を精査する。
14週	空間のデザインと人間工学⑤	最終発表会 最終制作物の発表と講評を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜指示。

### 【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン (著) 新曜社  
「考えなしの行動？」ジェーン・フルトン・スーリ (著) 太田出版  
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著) 実務教育出版  
「プロダクトデザイン 101のアイデア」 スン・ジャン 他(著) フィルムアート社

### 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3 (5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)

総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア (プレゼンテーション・CAD・グラフィック等) を習熟しておいてください。

### 【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

#### 【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## インダストリアルデザイン実習 (2023年度以降入学生)

梶本 博司、宮沢 哲、谷口 武司、安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。

課題となる開発対象物がどのように製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。

プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

### 【到達目標】

インダストリアルデザインの実践的な手法と知識を学びます。

コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。

また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。

開発対象物がどのように製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどのようなユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。

またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。

最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 演習教室、教室分け、 座席確認、担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行います。
2	ガイダンス PD3 第1課題 課題1「テーブカッター デザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題1説明 この授業での制作プロセスの説明。 テーブカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テーブカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスケッチで表現できるようにする。
4	モックアップ(模型)制作材料スチレンボードについて モックアップ(模型)制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイデアスケッチについてわかるようになる。 必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作(スチレンボード)	機構モデルの制作
6	機構モデル制作各自制作物評価	スチレンボードで制作したテーブカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題1提出、プレゼン、評価	課題1提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題1プレゼン、評価 課題2：制作材料2、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題2の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用法、基本制作造形の説明
9	課題2用材料の準備(スタイロの切り出：各自で行う)	ヒートカッターの使用法がわかるようになる。

10	モデル制作治具について フィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題2提出	プロトタイプ2の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題3：テーブカッターデザイン2	スチレンボードとスタイロとで「テーブカッター」プロトタイプの制作 アイデアスケッチから始める。
13	課題3デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題3 プレゼンテーション、講評	プレゼンテーション、講評からプロトタイプ(モックアップ)の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。  
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

授業支援システム「教材」にアップロードします。

### 【参考書】

「ものはどのようにつくられているのか？」

Chris Lefteri(著) オライリー・ジャパン

「プロダクトデザインのスタイリング入門」

ピーター・ダブス(著) ビー・エヌ・エス

### 【成績評価の方法と基準】

授業回数の1/3(5コマ)欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

制作成果(70%)提出書類(15%)出席(15%)

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。

洞察、観察レベルの指導強化。

### 【その他の重要事項】

欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.

Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.

#### 【Learning Objectives】

Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:

- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.

- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.

- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## メディアデザイン演習 (2023年度以降入学生)

大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア (本、WEBページ、映像) のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

## 【到達目標】

エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探索する。ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。

授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-1	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-2	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-5 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
7	モーション-1	モーショングラフィックスについて解説する モーション系ソフトのスキルを学ぶ
8	モーション-2	モーション系ソフトのスキルを学ぶ
9	Web-1	Web表現について解説する
10	Web-2	Web課題の制作を行う
11	Web-3	Web課題の制作を行う
12	Web-4	Web課題の制作を行う
13	Web-5	Web課題の制作を行う
14	Web-6 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

特に指定しない。授業中に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出作品評価 (80%)

制作プロセス評価 (20%)

課題未提出はD

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

PC

USBメモリ

配布資料用クリアファイル

## 【その他の重要事項】

エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

## 【Outline (in English)】

Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 測量実習Ⅹ

今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

### 【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身につける

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 30%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別で計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器械等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器械の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器械の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器械の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数器械による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

### 【参考書】

講義の中で紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。  
取組姿勢・平常点（60%）、個人実習（20%）、班別成果（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

### 【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓かPCを持参すること。  
野外実習に適した服装をすること。

### 【その他の重要事項】

授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。  
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.

The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.

Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.

Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 測量実習Ⅳ

大山 容一、渡辺 一博

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

### 【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身につける

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 30%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別にて計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器械等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラスの内の角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラスの内の角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器械の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器械の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器械の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

### 【参考書】

講義の中で紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。  
取組姿勢・平常点（60%）、個人実習（20%）、班別成果（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

### 【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓かPCを持参すること。  
野外実習に適した服装をすること。

### 【その他の重要事項】

授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。  
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.

The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.

Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.

Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 都市調査解析

今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化の先進諸国における都市空間の計画・設計・開発・経営に対するニーズはますます多様化、複雑化している。一方、都市空間そのものに加えて、ヒト・モノ・コトの活動の実態を網羅的に常時観測できる技術も日進月歩である。

本講義では、都市空間の計画・設計・開発・経営に必要な地図や統計データの特性および分析手法を習得する。

### 【到達目標】

土木計画学に必要な各種統計データを分析する能力を習得する

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 50%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市空間や都市活動（ヒトモノコトの交通・流通）の統計データや分析に利用する地図の特徴を理解し、それらを使った分析手法を習得する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市調査解析の概論	講義計画、概論
2	解析に利用する地図（基本）	ICTを活用した国土管理、地図の基礎
3	解析に利用する地図（種類）	地図の種類
4	解析に利用する地図（ジオメトリ）	ジオメトリ
5	解析に利用する地図（ネットワーク）	ネットワーク
6	解析に利用する地図（トポロジ）	トポロジ
7	統計（基本）	統計データの種類と所在
8	統計（応用）	統計データの活用
9	ビッグデータ（基本）	ビッグデータの種類と所在
10	ビッグデータ（応用）	ビッグデータの活用
11	解析手法（モデリング基礎）	モデリングの基礎
12	解析手法（モデリング応用）	モデリングの応用
13	解析手法（応用）	統計処理、人工知能等
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

### 【参考書】

新田保次監修「図説わかる土木計画学」学芸出版、吉川和広編著「土木計画学演習」森北出版、日本建築学会編「建築・都市計画のための調査・分析方法」

### 【成績評価の方法と基準】

演習課題・レポート・発表により評価する。ただし、授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎的な統計解析は習得しておくこと。
- ・GISやMicrosoft Excelの基礎は学んでおくこと。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

This course allows students to learn theories for research, analysis, planning, and evaluation related to urban and transportation planning, as well as methods for implementing plans. Students will also learn about existing maps and statistics, as well as analysis methods using diverse urban data.

The goal is to acquire the ability to analyze various statistical data necessary for civil engineering planning studies.

Assessments will be based on each report and the final report.

Students who are absent four or more times will not be allowed to receive credit (grade D).

Term end examination :70%, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 構造力学2

小笠原 照夫

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、構造力学1及演習を引き継ぐ科目である。構造計算に必要な基本的項目を理解し、実際の問題を解ける能力を身に付けることを目的とする。

### 【到達目標】

不静定構造の断面力図が思い浮かぶようになる。剛性マトリクス法による構造解析の基本的な考え方が理解できる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主な学習内容は、「連行荷重による断面力、応力とひずみの関係、仮想仕事の原理とエネルギー法による弾性体の解析手法、マトリクス構造解析の考え方」の4項目である。授業はプロジェクトを使用して行うことを基本とし、資料配布も行う。また、理解を高めるために、授業のはじめに前回演習問題の解説を、授業の途中では例題の解説を、授業のおわりに演習を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	連行荷重 連行荷重による断面力が求められること。	構造力学 (1) の復習、はりの影響線の応用、連行荷重による断面力の求め方・利用法
2	仮想仕事の原理 (1) 仮想仕事の基本的な考え方を理解すること。	剛体の仮想仕事の原理
3	仮想仕事の原理 (2) 仮想仕事の原理を用い、弾性体の変形量を算出できること。	弾性体の仮想仕事の原理
4	仮想仕事の原理 (3) 仮想仕事の原理を用い、弾性体の変形量を算出できること。	仮想仕事の原理を用いたはりトラスの変形の算出
5	相反定理 (1) 仮想仕事の原理を用い、はりの影響線を描画できること。	相反作用の定理、Betti の法則、Maxwell の法則
6	相反定理 (2) 仮想仕事の原理を用い、はりの影響線を描画できること。	Müller-Breslau の原理
7	エネルギー法 (1) ひずみエネルギーの考え方を理解すること。	ひずみエネルギーを用いた解法、Castigliano の第2定理
8	エネルギー法 (2) ひずみエネルギーを用いた弾性体の解法を理解すること。	最小仕事の定理、Castigliano の第1定理
9	余力法 (1) 不静定はりの断面力図を描画できること。	不静定構造、連続はり、静定分解法
10	余力法 (2) 不静定はりの断面力図を描画できること。	不静定構造、連続はり、余力法

11	剛性マトリクス (1) 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること。	剛性マトリクス、行列、軸方向力部材の剛性マトリクス
12	剛性マトリクス (2) 剛性マトリクス法によるラーメンの解法を理解すること。	有限要素法、軸方向力と曲げを受ける棒要素の剛性マトリクス
13	応力とひずみ 構造物材料の力学的性質と2次元応力状態の主応力について理解すること。 主応力とMohrの応力円	構造力学 (1) の復習、弾性・塑性、等方性・異方性、応力とひずみの関係、Mohrの応力円と最大・最小主応力
14	構造力学2まとめ 講義の振り返り	影響線の応用、主応力、不静定構造の各種解析手法のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学 (1) の復習、テキスト[上]14,9章の復習、連行荷重の予習
  2. テキスト[下]1章の予習
  3. テキスト[下]2.1-2の予習
  4. テキスト[下]2.3-4の予習
  5. テキスト[下]3.1-3の予習
  6. テキスト[下]3.4-5の予習
  7. テキスト[下]4.1-3の予習
  8. テキスト[下]4.4-6の予習
  9. テキスト[下]5.1-3の予習
  10. テキスト[下]5.4-5の予習
  11. テキスト[下]6章の予習
  12. テキスト[下]7章の予習
  13. テキスト[上]7.7と付録（もっと立ち入った応力の話）の予習
  14. 講義の振り返り
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

崎元達郎：構造力学 第2版 (上) 静定編  
構造力学 第2版 (下) 不静定編 (第2刷以降)  
(森北出版)

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（配点30点）と期末試験（配点70点）による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容を整理して、例題・演習の時間を増やす。  
講義の順番、時間配分を見直す。

### 【その他の重要事項】

橋梁構造等に関する設計・施工の実務経験から、「理論と計算」を考慮した構造力学を講義する。

### 【Outline (in English)】

The content of this course takes over from Structural Mechanics 1 and Practice.

It aims to understand the basic aspects necessary for structural calculation and to acquire the ability to solve actual problems.

### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– You will be able to imagine the sectional force diagram of the statically indeterminate structure.

– Understand the basic concept of structural analysis by the stiffness matrix method.

### Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

### Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

### 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない(D評価)。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム(全5回分)の提出を本授業における単位認定の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設(施工)、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない(D評価)。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム(全5回分)の提出を本授業における単位認定の条件とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設(施工)、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

### 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

### 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない(D評価)。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム(全5回分)の提出を本授業における単位認定の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設(施工)、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

### 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない(D評価)。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム(全5回分)の提出を本授業における単位認定の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設(施工)、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ゼミナール

溝淵 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

### 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない(D評価)。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム(全5回分)の提出を本授業における単位認定の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

### 【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設(施工)、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR300NC (キャリア教育 / Career education 300)

## インターンシップ (都市)

山本 佳士、内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学科カリキュラムと密接に関連する研究開発、調査・分析、計画・設計、施工管理等に関連する実務を体験することにより、環境システムのデザイン、施設のデザイン、都市プランニングの実務者に必要な基礎能力を身につける。

## 【到達目標】

役所や企業の活動内容を理解し、これまで修得してきた専門知識を踏まえ、実習先の指導担当者と十分な意思疎通を図って業務を体験する。これらを通じて業務遂行能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習する事業所、業務形態と内容により異なるが、① 研究開発業務の手順・手法・検証評価および報告書のとりまとめ、② 現地調査と調査データの解析・評価および報告書のとりまとめ、③ 計画の立案と事業主体や住民への説明、④ 設計計算書・図面の作成と積算、⑤ 施工・安全・出来高管理等の実務業務を官・民の事業所で体験学習する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	実習先の希望聴取・実習先の説明・実習先の決定・実習における注意
2	実習先でのインターンシップ(1)	実習先でのインターンシップ
3	実習先でのインターンシップ(2)	実習先でのインターンシップ
4	実習先でのインターンシップ(3)	実習先でのインターンシップ
5	実習先でのインターンシップ(4)	実習先でのインターンシップ
6	実習先でのインターンシップ(5)	実習先でのインターンシップ
7	実習先でのインターンシップ(6)	実習先でのインターンシップ
8	実習先でのインターンシップ(7)	実習先でのインターンシップ
9	実習先でのインターンシップ(8)	実習先でのインターンシップ
10	実習先でのインターンシップ(9)	実習先でのインターンシップ
11	実習先でのインターンシップ(10)	実習先でのインターンシップ
12	実習先でのインターンシップ(11)	実習先でのインターンシップ
13	実習先でのインターンシップ(12)	実習先でのインターンシップ
14	結果の報告とレポートの提出	作成したレポートをもとに担当教員に報告する

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

学科ガイダンス(年度当初)およびインターンシップガイダンス(5月中旬)を実施する。

学科が斡旋する企業等の割り当てについては5月下旬に調整を行うので必ず上記ガイダンスに参加すること。併せて実習希望先の調査・履歴書などの準備も行うこと。

実習期間中は業務日誌を作成すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

なし

## 【参考書】

必要に応じて配布

## 【成績評価の方法と基準】

インターンシップの実施期間は原則として2週(実働10日間)以上とする。レポートおよび実習先指導担当者による報告書により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

インターンシップの目的は職業体験であり、社会人としての仕事への取り組み方について実感を得るとともに、都市環境デザイン工学が担う幅広い職種に対する理解を深めることが狙いである。将来の就職活動の際に幅広い視野を得るため、特定の企業のみを考えることなく参加することが重要である。

## 【その他の重要事項】

都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして派遣先のコーディネイトを行う。

実習にあたり、Word・Excel等の基本的な操作ができることが前提である。またCAD等についても基本的な操作ができることが望ましい。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will experience business, research and development, survey/analysis, planning and design, and construction management in civil and environmental engineering fields at companies and government offices in order to acquire basic skills as practical engineers.

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each internship meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Grading is based on the internship report(100%).

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 上下水道システム

島田 裕康

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の循環は、自然系の水循環と社会活動に必要な不可欠な上下水道システムによる人工系の水循環が混在している。

本講義では、都市の上下水道による水循環に焦点を当て、社会基盤を支えるインフラの一つとして、上下水道システムにおける発展の歴史や求められる役割、システムの構成と機能、設計や施工方法及びシステムの運営・管理等日本の実社会での取り組み事例等をベースに学ぶ。

また、持続可能な社会構築にむけてインフラの共通課題である、施設の老朽化や耐震化問題を始めた上下水道分野における課題と対応策についても学ぶ。

上下水道システムの全体像や構成技術、現在の課題及び対応策について理解を深めることにより、卒業後上下水道分野の職場を希望する学生のみならず、街づくりに携わる分野を希望する学生にとっても必要な基本能力の向上を目的とする。

### 【到達目標】

上下水道システムの

- ・役割（社会生活の維持、水環境の保全、持続的社會にむけて）
- ・仕組み（上水道システム、下水道システム、運営・維持管理）
- ・課題（地球温暖化による影響、施設の老朽化、大規模災害リスクの増大、人口減少の影響等）
- ・対応策（雨水流出制御（貯留、浸透）、官民連携、新技術の開発、街づくりとの一体整備等）

について学ぶ。特に上下水道技術分野における課題、今後の方向性を十分理解するとともに、厳しい社会経済状況のなかで、市民としての「自助」活動のあり方を理解するとともに、工学エンジニアとしての社会における技術者貢献をめざして、上下水道技術分野の基本的な知識習得を目標とする。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         |     |
| (D) 専門基礎学力         | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   | 60% |
| (F) 総合デザイン能力       | 20% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントによる講義とし、毎回テキストを配布し進める。各授業毎に授業内容の理解度を確認するためのミニテスト（確認テスト）を実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体概要の紹介と世界・日本の水事情	この授業で何を学ぶのか・水が持つ機能とは・人体と水・世界と日本での水を取り巻く環境・都市の水循環とは
2	上水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例・水道普及の要因と現状・水道の役割と法律
3	水道水ができるまで	水道の水源から蛇口まで・日本の浄水処理・美味しい水とは
4	日本で水道水を直接飲むことができるのは	水道の水質基準とは・水質検査と安全管理の実態
5	将来も今のように水道を利用することはできるのか？	水道事業とは・全国の水料金とは同じなのか・水道事業の現状と課題・水道事業民営化とは
6	地球温暖化による水道への影響と離島での水道事情	温暖化による今後の予測、節水対策、雨水利用の現状と動向。離島における水道の現状
7	下水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例・下水道の役割とその変遷
8	下水道の水質基準と普及状況を示す指標	BODとCODとは・基準の使い方・下水道の普及状況は・下水道類似施設とは

9	下水道施設の計画から施工まで	下水道の収集方法（分流・合流）様々な下水管まよの種類・マンホールの役割・下水道の施工方法
10	下水道の課題とは	河川や海の水質保全・下水道の老朽化問題・下水道の地震対策
11	都市型水害とは	急増する集中豪雨の現状と対策・都市化と都市の地理的特性・河川、下水道でのハード対策とソフト対策
12	雨水の流出をコントロールする「貯留と浸透」とは	貯留・浸透工法の仕組みと効果及び街づくりと一体となった取組み
13	下水はどのように浄化されるのか	浄化技術の変遷・重要な微生物の働き・標準活性汚泥法・高度処理とは
14	試験・まとめ	第1回から第13回授業での重要なポイントの理解度を確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

市民生活を支える「上水道」「下水道」について自分の身近な水を学習することから始める。

例えば、「水道料金はいくら払っているのか？」「自宅の水道水は、どこの浄水場から給水されているのか？」そもそも、その水源はどこなのか？」「使用した水は、どのように処理されているのか？」また下水処理場は？「処理水の放流先は？」「自宅の屋根や敷地に降った雨水はどのように処理されているのか？」など各自の生活の周りにおける「水」を理解しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定するテキストはない。毎回テキスト及び関連資料を配布する。

### 【参考書】

指定する参考書はない。上下水道の基礎知識を備えておくことが望ましいことから、インターネット等の情報を十分活用し、各授業での内容や社会での事例等を自ら確認すること。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するため、授業毎に実施する小テスト（確認テスト）と期末試験を実施する。

- ・両試験での評価は、小テスト40%期末テスト60%合計100%とする。
- ・小テストは授業に関連した内容（重要なポイント等）を確認するため実施し、教員が授業毎に回収する。提出状況と記入内容により評価する。
- ・期末試験は、授業全体の理解度を記入内容から評価する。

授業は連続授業（1日2時限で7日間全14回授業）となるが、全14回授業のうち欠席4回以上は原則単位の取得を認めない（この場合評価はD）

### 【学生の意見等からの気づき】

幅広いテーマの授業となることから、各テーマへの関心と理解を深めるため、具体的な事例を取り入れ、本授業のテーマが机上での知識だけでなく、学生自らの日常生活に密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す。

### 【その他の重要事項】

都市再生機構職員として、団地建替事業や市街地再開発事業に携った経験を持つ教員が、街づくりとの関係を含め上下水道全般について講義する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, you will learn the history and role of the development of water supplies and sewer systems, in addition to their composition, function, design, construction, operation and management.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to get an overview of the water and sewer system, current issues and countermeasures.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to understand the things related to the water and sewer system that is close to you. your required study time is at least four hour each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the short report in each meeting (40%) and term-end examination (60%).

ADE300NC (建築学 / Architecture and building engineering 300)

建築法規 (都市)

飯田 直彦

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考 (履修条件等)：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では建築物の単体規定及び集団規定さらにこれらのファミリーともいえる耐震防火改修、バリアフリー、省エネ、リサイクル、景観・みどり・屋外広告物、宅地防災などの基準や手続きからなる多様多様な建築関連法令の概要や目的をその社会的背景や計画的あるいは工学的な意味や意図とあわせて学ぶ。君の都市デザインや建築設計をより合理的かつ実行可能なものにする上で必要な基本的な姿勢や考え方を培っていく。

【到達目標】

1. 建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる
2. 建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる
3. 法令の本旨を織り込んだプランニングやデザインをする力を習得できる
4. 建築士試験受験の基礎を習得できる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一般に長文で複雑な建築法規の理解には、これを節や句に分解して条文の構造を把握した上で、その条文の時代における、社会経済的な背景を知り、かつ各種工学や都市計画や行政法学などの理論で補うことが欠かせない。

そこで、講義の第1回から第8回にかけては建築基準法に定める単体規定及び集団規定ほかをそれらの要点、背景そして目的を、テキスト(教科書)や授業資料を用いて、その実例を示し、例題を解きながら、学ぶ。次に第9回から第14回にかけてはこれらを応用あるいは展開する職業専門家に着目して、これからの建築関係法令を展望する。なお、これら学んだ法規を、他者に図解などして平易に説明でき、かつ、君らしいデザインの姿勢や方針をスケッチやイメージや文章を通じて表明できるよう、君は後述する計2回の課題レポートを作成・改良する。以上の進め方と方法の具体詳細については講義やHoppiiにおいて紹介する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	まちやいえてみかける建築法規	・建築物の特徴からみた建築法規の存在意義。 ・まちやいえてみかける建築法規の一例。 ・この講義全体の編成とねらい。 ・最低の水準を示す基準 vs 推奨する水準を示す基準 (index と criteria)。
2	室内環境に関する建築法規 (建築基準法単体規定1)	室内環境(採光、換気、熱、音など)や屋内移動安全に関する建築関連法規。 ・法令条文の構成や語法。 ・ビル衛生法との関連性。
3	構造安全に関する建築法規 (建築基準法単体規定2)	・質量 vs 力。 ・構造躯体に加わる外力と生じる反力そして部材断面や骨組みを流れる応力度。 ・建築物を構成する部材の特性。 ・骨組みや地盤に生じるおける力のエネルギーの伝達 ・構造方法規定と構造計算規定の工学的意味。

4	防火避難に関する建築法規 (建築基準法単体規定3)	・火災時の火熱煙ガス等拡大と在館者の行動特性に応じた防火避難規定 (特殊建築物, 建築物の構造や階数など)。 ・消防活動を支える防火避難規定 (消防法を含む)。 ・性能設計された建築物での行為制限 ・建築火災と市街地火災(集団規定との相補)。
5	建築物と各種インフラ・公共サービスとを関係づける建築法規 (都市計画関連法規との連携)	道路, 上下水道, 河川, 公園, 電気ガス, 廃棄物処理などと建築物との関わり。 ・敷地分割を制限する理由 ・開発許可制度と建築確認制度との関係
6	建築物と敷地と接する道路に関する建築法規 (建築基準法集団規定1)	敷地の定義と接道義務規定。 ・多様な道路 (位置指定道路, 2項道路, 3項道路, 都市計画道路, 私道, 敷地内通路など)。 ・道路幅員に応じた沿線建築物の用途や規模などの制限
7	建築物の用途や高さ等に関する建築法規 (建築基準法集団規定2)	・用途地域ほかにおける用途や高さに制限する理由 (相性悪い用途と補いあう用途, 影響力ある用途と影響受けやすい用途, その建築用途が必要とする公共サービス種類, 高さや壁面後退等による相隣調整)。 ・相隣調整する他の法規 (営業開設許可制や他の環境公害法令) との相補。 ・用途純化志向 vs 異種用途共生志向
8	建築物群の密度に関する建築法規 (建築基準法集団規定3)	・容積率制限・建蔽率制限・最低敷地面積制限などの趣旨 ・一敷地一建築物原則と一団地認定。
9	住まいをめぐる市民と専門家に関する建築法規 (住宅・宅地関係法ほか)	・地域特性に応じた地区計画制度。 ・すまいとライフステージ(含む住宅金融や税制)。 ・区分所有という仕組みと意思決定(専用部分と共用部分)。 ・性能表示制度, 瑕疵担保責任, 宅地建物取引制度。
10	着工前, 工事中及び使用中の手続きに関する建築法規 (建築基準法総則手続き規定ほか)	・建築確認・検査という仕組み。 ・指定材料や型式適合判定という仕組み。 ・工程や品質の管理と工事監理。 ・維持保全や定期報告制度。 ・不服申し立てと裁決。
11	設計や施工や維持保全や改修などを担う職業専門家に関する建築法規 (建築士法ほか)	・資格登録制と業務請負契約。 ・違反建築物対策 ・監督処分や罰則 ・継続的職能開発制度 (CPD 制度) ・基準の原則と特例。 ・つくる責任とつかう責任。
12	人口減少・少子高齢社会における良質な建築ストックづくり (その1: 再生)	・既存不適格建築物とは何か? ・バリアフリー法・耐震改修促進法・建築物省エネ法・建設物リサイクル法ほか ・義務付ける基準と推奨する基準 ・仕様書風の記述をする基準 vs 性能を規定する記述をする基準。
13	人口減少・少子高齢社会における良質な空間づくり (その2: アメニティ)	・景観法, 緑・屋外広告物関連法ほか ・パブリックスペースを活用しようとする法規 ・空き家の再生と空き地の活用など ・すまう・働く・学ぶ・憩う・癒す・育む・動く・集う空間づくり。
14	人口減少・少子高齢社会における良質な地域社会づくり (その3: 各種災害)	・浸水被害や土砂災害などへの宅地防災, (各種災害のおそれある区域における重要な建築物とは?)

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習ではテキスト（教科書）の該当する文章や図表を一読する。復習では該当する条文をインターネットや法令集で再確認するほか、建築法規の実際をまちやいえてみつける。関係する建築法規の条文を法令集などから見つけ出し、図表化しながら理解する。このうち、面白い、気になる、将来の自分に役立つ等と感じた建築法規を後述するノートにメモすることで、課題レポートの題材の一候補とする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

五條渉 有田智一 石崎和志 萩原一郎 監修：First Stageシリーズ 建築法規概論四訂版、実教出版、2023年10月、2,500円+税。このほか関連する法令や、過去や最近、改訂された歴史や法令、諸外国での法令などを適宜、紹介する。

#### 【参考書】

建築基準法、建築基準法施行令などは、法令集のほか、法令データ提供システム 電子政府の総合窓口-eGovをたどると、また、都道府県や市区町村の定める建築基準条例、建築基準条例施行規則などはその都道府県や市区町村のホームページの例規集やGIS都市計画情報システムやハザードマップをたどって閲覧する。このほか、都市計画やまちづくりのネット上の記事は豊富で、まちでみかける道路、建築物、屋外広告物、地形、水、緑などのほか、事故や災害を伝える新聞記事、郷土資料館や博物館などに展示された写真や模型などから関係する建築法規に気づき、その理解を深める。

#### 【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポート（100%）。

課題レポートでは、自分が今後の都市デザインあるいは建築設計に特に役立つと考えた建築法規についてその読み手を後輩または将来の自分を想定して作成し、上記の到達目標への自分の到達点を確認する。第1回分はその企画書、第2回分は完成版とし、その建築法規は第1回と第2回とで変更してもいいし、第2回分では、関連させるべきではないかとあらたに気付いた建築法規を増補してもいい。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

建築物が他の講義で学ぶ道路・上下水道・公園・河川などインフラと結びついていることに気付く、との声をきいた。建築法規（都市）を君が学ぶ都市プランニング・施設デザインあるいは環境システムにも役立てて欲しいことから、他の講義、演習、実験などをしっかりと学んで欲しい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせや教材を”学習支援システム”（法政ポータルサイト:Hoppii）を通じて入手し、テキスト（教科書）とともに身近において欲しい。また、ノートを一冊、用意して、テキスト（教科書）や教材にある建築法規の要点や図表（ないしは教科書該当頁）を添えたメモ風には書き込み、受講やレポート作成に備えて欲しい。

#### 【その他の重要事項】

国・県・市の都市・建築指導行政に携わり、そして建築構造技術者からなる団体での役員としての勤務経験を有する教員が建築法規の立法、執行及び遵守における考え方や姿勢を講義する。

#### 【Outline (in English)】

##### 1) General

In this course, we will learn about various legal rules and procedures for the regulation of buildings such as building, zoning, aesthetic, sign and green codes and so on. This course aims to provide you with key concepts to make your plan or design works reasonable and practical.

##### 2) Objectives

The goal of this course are to A, B, C and D for your career development;

-A: to find related development/building codes to interpret correctly;

-B: to illustrate your design works to get consent for your clients or stakeholders;

-C: to skill up your design in harmony with the code;

-D: to lay the basis for your Kenchikushi-Exams.

##### 3) Activities besides class room

Before/after each class meeting, you will be expected to do more than two hours activities such as;

-A: to find out your worthy-deserving code in the textbook or other reference materials on the "Hoppii and in the Hosei Library;

-B: to refer to such-deserving code through the Internet or on related references;

-C: to take notes actual cases for such worthy-code in your house or neighborhood;

-D: to prepare for your Interim/Final Report.

##### 4) Grading Criteria

Grading will be done with both Interim(draft) Report (50%) and Final Report (50%) on your worthy explaining code.

See you again in "Hoppii" in detail.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

海洋環境工学

東 博紀、越川 海

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

海洋に関する基礎的な知識から最新の科学的知見まで幅広く学習するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論と数値モデルを習得する。

【到達目標】

- ①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
- ②津波・高潮、富栄養化、気候変動など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
- ③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
- ④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数値モデルを習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配付資料を用いた講義・問題演習を行う。第1～10回および第13・14回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目で前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第11・12回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。リアクションペーパーの配布・提出を毎回行い、次の授業のはじめに寄せられたコメント・質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論2(演習)	微小振幅波理論(第2回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析1(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝(アサリ)の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析2(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析3(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響

- 13 地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響 水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、気候変動・地球温暖化の影響
- 14 海洋循環の基礎理論(演習) コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で使用了スライド資料、配布資料、問題演習(全てエチュードにアップする)を復習する。第2・4・14回の問題演習では水理学が、第6・8・10回ではExcelの表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第6・8・10回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取組む。本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業の際に資料や演習ファイルを配布する。

【参考書】

海洋学(Paul R. Pinet 著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学(木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学(宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

波(第1～4回)と海洋循環(第13・14回)の基礎理論に関する単元課題30%、授業(第5～10回)で作成する赤潮・貧酸素水塊のExcelモデルを用いたレポート70%を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、4回を超える欠席は単位取得を認めない(評価DまたはE)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業では、毎回出席票(リアクションペーパー)を配付・回収し、授業で分からなかったところや授業の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。引き続き、今年度も可能な限り学生からの質問や要望を集め、分かりやすい授業に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 毎回ノートパソコンを持参すること (特に、第6・8・10回は演習でExcelを使用するため必須)。忘れても貸し出しはしない。
- レポート課題の提出には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基礎理論から最新の科学的知見まで幅広く紹介・解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測する数値シミュレーションモデルについて指導する。

【Outline (in English)】

This course deals with the oceanography for civil and environmental engineering. The goals of this course are to understand basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and short reports (30%).

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

溝渕 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどのようなものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。  
卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%  
ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

### Learning Objectives

The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.

### Learning activities outside of classroom

It is to proceed with graduation research in the laboratory.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

### Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.

Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

今井 龍一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

## 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

## ・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

## ・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

## ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどのようなものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。  
卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%  
ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

#### ・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

## 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

時間調整上必要な場合にリモート方式を採用する可能性がある。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

## ・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

## ・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

## ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

福島 秀哉、荻原 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究室での作業やフィールドにおける調査等によって、卒業研究を進める。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

Outline: The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Objectives: To acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the execution of graduation research.

To understand the issues, clarify the background, corroborate with indicators, and predict the future of the issues through logical explanations using objective materials.

Learning activities outside of classroom: Research will be conducted through work in the laboratory and surveys in the field.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

Grading Criteria /Policy: The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and graduation research report.

Graduation Research Record: 80%, Graduation Research Report: 20%.

However, students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

## 卒業研究 1（都市）

山本 佳士

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

## 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。  
卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%  
ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

## Learning Objectives

The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand. Learning activities outside of classroom It is to proceed with graduation research in the laboratory.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

## Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report. Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。  
卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%  
ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their senior thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and the Graduation Research 1 Report as follows;  
Graduate Research 1 Implementation Record: 80%, Graduate Research 1 Report: 20%, provided that students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 1 (都市)

道奥 康治

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

対面形式を基本として、状況に応じてオンラインを含めながら授業を実施する。授業計画の変更がある場合にはその都度、関係学生に周知する。各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

下記の評価基準を基本としながら成績評価の方法と基準を随時調整する。具体的には研究室ゼミなどを通して別途示す。

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%、卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【その他の重要事項】

豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

#### (Course outline)

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

#### (Learning Objectives)

Acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the performance of graduation research. Understand engineering issues and background, predict the problems and issues in future, etc.

#### (Learning activities outside of classroom)

Carry out graduation research in the laboratory and at home. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### (Grading Criteria /Policy)

Based on the following evaluation criteria, the method and criteria for grade evaluation will be adjusted as needed. Specifics will be shown separately through laboratory seminars. Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and graduation research 1 report. Graduation Research 1 implementation record: 80%, Graduation Research 1 report: 20%. However, applicants who have engaged in research for less than 90 hours will be disqualified.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

溝淵 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査(卒業研究論文、研究概要、研究発表)により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

### Learning activities outside of classroom

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

### Grading Criteria /Policy

Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%).

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.

Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

#### ・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Graduation thesis and Attitude to study on a daily basis:50%, Summary of research:25%, research presentation:25%

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究 2 (都市)

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、4年前期までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

### 【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	研究テーマの理解と多面的検証	AB期までに確定した研究テーマについて、中間まとめを踏まえ一層多角的観点からの確認を行う
②	論文の構成展望	様々に収集した研究テーマに即した情報を整理し、論文構成にどのように活用していくかの展望を整理する
③	研究の実施、深度化(1)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
④	研究の実施、深度化(2)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑤	研究の実施、深度化(3)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑥	研究の実施、深度化(4)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑦	研究の実施、深度化(5)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑧	研究の実施、深度化(6)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑨	論文構成の再点検(1)	これまでの情報収集、分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し、必要な修正を行う

⑩	論文構成の再点検(2)	これまでの情報収集、分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し、必要な修正を行う
⑪	取りまとめへの取り組み(1)	取りまとめへの取り組み着手、指導教員とのディスカッション
⑫	取りまとめへの取り組み(2)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション
⑬	取りまとめへの取り組み(3)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション
⑭	取りまとめへの取り組み(4)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション。プレゼンテーションの観点からの点検と修正

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

最低限の学習時間は規定されているものの、効率的により深く意義ある成果を得ることを目標に、授業時間という概念よりも、研究に向かう時間管理が重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査(卒業研究論文、研究概要、研究発表)により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the previous term. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.

Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

福井 恒明、荻原 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

Outline:

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

Objectives:

To acquire basic knowledge of related fields by reading books, academic papers, and other reference materials related to their own research themes. In addition, students will acquire basic skills related to computers and programming by working on exercises. Furthermore, the learning goal of this class is to deepen students' understanding of specific problems and issues in their research themes and to improve their problem-solving skills so that they can formulate and implement their own research plans for writing their graduation theses.

Learning activities outside of classroom:

A wide range of continuous learning outside of class time is required, including acquisition of basic knowledge of each student's research theme, acquisition of basic skills related to computers and programming, etc., and work on specific research problems.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

Grading Criteria /Policy:

Students who have passed the interim review of their interim presentation and interim graduation research report will be evaluated based on their research efforts and the final review (graduation research paper, research outline, and research presentation). The evaluation will be based on the weighting of the student's research efforts, graduation research thesis (50%), research outline (25%), and research presentation (25%). However, students who have spent less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

山本 佳士

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

### Learning activities outside of classroom

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

### Grading Criteria /Policy

Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

The students will be evaluated comprehensively as follows;

Presentation: 25%, Abstract: 25%, Thesis: 50%, provided that students who have spent less than 180 hours on research will fail.

CST400NC (土木工学 / Civil engineering 400)

## 卒業研究2 (都市)

道奥 康治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

### 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における学習目標となる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査 (卒業研究論文、研究概要、研究発表) により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

土木分野に関する豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

### 【Outline (in English)】

#### (Course outline)

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

#### (Learning Objectives)

Acquire basic knowledge in the assigned theme by reading literatures related to individual research themes. Students develop basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students deepen their understanding of specific issues in their research themes, and improve their problem-solving ability so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

#### (Learning activities outside of classroom)

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### (Grading Criteria / Policy)

Interim Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the interim review of the interim report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation). The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%). However, applicants who have engaged in research for less than 180 hours will be disqualified.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝瀨 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝瀨 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝瀨 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝瀨 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 40% |
| (B) 技術者倫理          | 20% |
| (C) 工学基礎学力         | 10% |
| (D) 専門基礎学力         | 10% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       |     |
| (G) コミュニケーション能力    | 20% |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

- | 回   | テーマ                       | 内容   |
|-----|---------------------------|--|
| (1) | ガイダンス<br>研究室紹介（都市プランニング系） | 教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明<br>都市プランニング系の研究室の取り組み説明 |
| (2) | 研究室紹介（施設デザイン系）            | 施設デザイン系の研究室の取り組み説明   |
| (3) | 研究室紹介（環境システム系）            | 環境システム系の研究室の取り組み説明   |
| (4) | キャリアデザインセミナー（国家公務員）       | 国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。                                     |
| (5) | キャリアデザインセミナー（地方公務員）       | 地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。                                    |
| (6) | キャリアデザインセミナー（技術士）         | 技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。                                       |
| (7) | キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）   | 建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。                           |
| (8) | キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー） | 日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。                   |

- |      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| (9)  | キャリアデザインセミナー（測量調査）   | 日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。    |
| (10) | キャリアデザインセミナー（土木デザイン） | エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。 |
| (11) | キャリアデザインセミナー（大学院）    | 大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。               |
| (12) | 教員別ゼミナール（都市プランニング系）  | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |
| (13) | 教員別ゼミナール（施設デザイン系）    | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |
| (14) | 教員別ゼミナール（環境システム系）    | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝渕 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 40% |
| (B) 技術者倫理          | 20% |
| (C) 工学基礎学力         | 10% |
| (D) 専門基礎学力         | 10% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   |     |
| (F) 総合デザイン能力       |     |
| (G) コミュニケーション能力    | 20% |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

- |      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| (9)  | キャリアデザインセミナー（測量調査）   | 日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。    |
| (10) | キャリアデザインセミナー（土木デザイン） | エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。 |
| (11) | キャリアデザインセミナー（大学院）    | 大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。               |
| (12) | 教員別ゼミナール（都市プランニング系）  | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |
| (13) | 教員別ゼミナール（施設デザイン系）    | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |
| (14) | 教員別ゼミナール（環境システム系）    | 卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

## 基礎ゼミナール

溝瀨 利明、高見 公雄、鈴木 善晴、酒井 久和、道奥 康治、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する。

## 【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

## 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。

(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プランニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール（施設デザイン系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール（環境システム系）	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、配布資料の復習、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

## 【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。  
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student's communication ability. The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills. Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 鋼構造学及演習 X

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

### 【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法、冶金的性質、機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊、脆性破壊、疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁、合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学 (1)	引張部材の設計、応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重、元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学 (2)	非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学 (1)	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学 (2)	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計、せん断遅れ
7	鋼橋の製作	橋ができるまで(鋼橋製作工場の見学)
8	溶接継手とその設計 (1)	溶接の種類、溶接継手の種類、溶接入熱、溶接変形、溶接残留応力、溶接きず
9	溶接継手とその設計 (2)	溶接継手の強度、溶接記号
10	溶接継手とその設計 (3)	疲労とは、疲労強度に影響を与える因子、鋼橋の疲労設計
11	高力ボルト接合とその設計 (1)	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
12	高力ボルト接合とその設計 (2)	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手、引張接合継手
13	鋼橋の点検と維持管理	実橋の点検、非破壊検査
14	総合実力確認	総合実力確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14回：講義の復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

館石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

### 【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

配点は各回の演習問題を30点、総合実力確認を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

橋梁製作会社の工場見学が好評だったので継続する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

### 【その他の重要事項】

鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。教材、演習問題と試験の解答はHoppiiに掲載する。

### 【Outline (in English)】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

#### ・ Learning Objectives

Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Review lessons. Standard study time is two hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Each class exercises :30%

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## 鋼構造学及演習 Y

平山 繁幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

### 【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法、冶金的性質、機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊、脆性破壊、疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁、合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学 (1)	引張部材の設計、応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重、元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学 (2)	非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学 (1)	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学 (2)	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計、せん断遅れ
7	鋼橋の製作	橋ができるまで(鋼橋製作工場の見学)
8	溶接継手とその設計 (1)	溶接の種類、溶接継手の種類、溶接入熱、溶接変形、溶接残留応力、溶接きず
9	溶接継手とその設計 (2)	溶接継手の強度、溶接記号
10	溶接継手とその設計 (3)	疲労とは、疲労強度に影響を与える因子、鋼橋の疲労設計
11	高力ボルト接合とその設計 (1)	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
12	高力ボルト接合とその設計 (2)	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手、引張接合継手
13	鋼橋の点検と維持管理	実橋の点検、非破壊検査
14	総合実力確認	総合実力確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14回：講義の復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

館石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

### 【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

配点は各回の演習問題を30点、総合実力確認を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

橋梁製作会社の工場見学が好評だったので継続する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

### 【その他の重要事項】

鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。教材、演習問題と試験の解答はHoppiiに掲載する。

### 【Outline (in English)】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

#### ・ Learning Objectives

Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Review lessons. Standard study time is two hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Each class exercises :30%

DES100NC (デザイン学 / Design science 100)

## デザインスタジオ

高見 公雄、袴田 喜夫、金城 正紀、佐多 祐一、福井 恒明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインスタジオは都市環境デザイン工学科における実技系の基礎的授業として重要な位置を占める。当授業は複数の課題から構成され、基礎造形に係る演習、図面制作技術の習得、そして模型製作の技法、これらを統合した造形表現など。これらにより、都市環境デザイン工学に係る計画づくりの初歩を学ぶ。

## 【到達目標】

基礎造形に関しては、紙、布などの加工を通じて、重力が働く世界における材料の特性を学ぶ。図面を用いた作業により作図検討の基礎を学ぶ。後半では都市、建築模型製作の基礎的な技術、観点を学ぶ。

## 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
 (B) 技術者倫理  
 (C) 工学基礎学力  
 (D) 専門基礎学力 70%  
 (E) 専門知識の活用・応用能力 30%  
 (F) 総合デザイン能力  
 (G) コミュニケーション能力  
 (H) 継続的学習能力  
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

第一課題は紙の造形であり、個人課題として重力に耐えうる紙の構築物を制作する。第二課題は土木構築物が備えるべき美しさを念頭に素材特性と重力それぞれに向かい合い、造形物を制作する。第三・第四課題は個人課題として、手書き図面による図面作成技術、小空間設計を学ぶ。第五課題、第六課題は模型製作の基礎を学ぶ。

新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業を実施予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎造形課題	全体の進め方や狙いを説明する。造形物の美しさ、合理性、工夫などを狙いとして、紙を使った構築物を制作する。 課題説明、グループ分け。
2	立体造形(基礎検討)	グループごとに設定したテーマの立体造形物への展開について検討し、エスキスを受ける。
3	立体造形(試作)	立体造形物の制作。試行錯誤をへて、意図した造形物の姿を捉えていく。
4	立体造形発表、講評	立体造形物を完成させ、発表し、講評を受ける。
5	住宅のトレース	高名な住宅の平面、立面、断面図を手書きによりトレースする。
6	人の入る空間	人の入る小空間を設計する。その基本的な構想をたてスタディする。
7	人の入る空間、講評	スタディした内容に則した成果図面を制作し、講評を受ける。
8	模型製作の基礎	模型製作の材料や用具の使い方について学ぶ
9	広場空間の模型製作 (1)	実在の広場空間模型を作成する。図面や写真で空間の把握を行う。
10	広場空間の模型製作 (2)	実在の広場空間模型を作成する。空間を表現し添景の作成を行う。
11	広場空間の模型製作 (3)	作成した模型について講評をうける。模型の写真を撮影し、提出シートを作成する。
12	街路空間の観察と模型製作 (1)	現地調査に基づき、ベースとなる地形部分を作成する。
13	街路空間の観察と模型製作 (2)	現地調査に基づき、街路沿いの建物を作成する。
14	街路空間の観察と模型製作 (3)	模型の写真を撮影し、提出シートを作成する。模型の講評を受ける。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認

配布資料の復習

レポートの作成

演習課題の制作

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

## 【参考書】

講義において適宜指示するとともに補充資料を配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

各演習課題により評価する。4回以上の欠席または演習課題の未提出はD評価となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【学生が準備すべき機器他】

前半は直定規、三角定規、三角スケール、製図用筆記具、色鉛筆など製図器具、カッターなどが必要となる。学科で紹介する製図用品セットを購入すれば、秋学期の図学及演習を含め対応可能である。後半は模型制作のための工作器具が必要であるが、これも製図用品セットで概ね対応可能である。その他、模型制作のための材料が必要になる場合がある。

## 【その他の重要事項】

計画・設計演習の基礎演習は順を追って構成されているため、授業を休むとそれを取り返すのが難しい。極力出席すること。

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実務家として最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

## 【Outline (in English)】

This is the first practical subject in the Department of Civil and Environmental Engineering program to study skills.

Each exercise will be evaluated. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

## プロジェクトスタジオ (都市)

高見 公雄、袴田 喜夫、椿 真吾、福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修  
備考 (履修条件等)：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市プランニング系の演習科目で唯一の必修科目である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応じていくことで都市プランニングの考え方と技法を学ぶ。

### 【到達目標】

与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史の経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         |     |
| (D) 専門基礎学力         | 30% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   | 50% |
| (F) 総合デザイン能力       | 20% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は図面上での作業、図面・模型の制作、それらのプレゼンテーションからなる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要説明、第1課題出題、模型と設計の基礎知識	第1課題の趣旨と条件を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を説明する。
2	第1課題エスキス (1)	現地調査に基づく設計の基本方針を検討する。
3	第1課題エスキス (2)	設計方針を具体化する。
4	第1課題エスキス (3)	発表に向けて図面や模型の製作方針を検討する。
5	第1課題講評、第2課題出題	第1課題について図面と模型で発表する。第2課題の趣旨と条件を説明する。
6	第2課題現地分析発表	第2課題の対象地について文献調査や現地調査の結果を発表する。
7	第2課題参考事例発表	第2課題の検討にあたり参考となる国内外の事例を調査し、発表する。
8	都市開発事業と建築設計に関する知識、第2課題エスキス (1)	都市開発事業や建築設計の実例を理解し、自らの設計に活かす。設計対象とする敷地と設計テーマを選定する。
9	第2課題エスキス (2)	選定した敷地の設計方針を検討する。
10	第2課題エスキス (3)	設計方針に基づいて具体的な計画を検討する。
11	第2課題エスキス (4)	設計方針に基づき、計画内容の改善について指導を受ける。
12	第2課題エスキス (5)	発表に向けて図面や模型の製作方針について指導を受ける。
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める。
14	講評会・その2	講評をつづけ、総評を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要な資料を配布する。

### 【参考書】

アーバンデザインの現代的展望 (渡辺定夫、鹿島出版会)  
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しいまちなみ事例 (都市づくりパブリックデザインセンター)  
コンパクト建築設計資料集【都市再生】 (日本建築学会編、丸善)  
世界のSSD100-都市持続再生のツボ (東京大学cSUR-SSD研究会、彰国社) など

### 【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応 (30%)、最終成果物 (70%)  
欠席4回以上は単位取得を認めない (評価D)

### 【学生の意見等からの気づき】

最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

### 【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。  
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる (1年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。) 模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.

Each exercise will be evaluated. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 景観とデザイン

福井 恒明

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代のシビルエンジニアには、どのような専門分野であっても、技術によって創出される構造物や空間、風景の質に対する知識と責任が求められる。本授業では、これに対応できる素養を修得するために景観工学の基礎知識、景観デザインに関する事例や考え方を学ぶ。

### 【到達目標】

1) 景観に関する基礎知識を修得し、計画・設計の前提となる基本的考察ができるようになる。  
2) 1) をもとに景観に関する調査を行い、その結果について他者と共有できる論理構成と表現ができるようになる。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
(B) 技術者倫理  
(C) 工学基礎学力  
(D) 専門基礎学力 20%  
(E) 専門知識の活用・応用能力 60%  
(F) 総合デザイン能力 20%  
(G) コミュニケーション能力  
(H) 継続的学習能力  
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に授業を進める。一部にグループワークによる実習的作業を含む。

グループワークに基づく授業内発表を行う (13,14 回目)。その結果についてレポート提出を求める。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・景観の捉え方	景観工学の誕生/ルーツと展開/景観とは/景観把握モデル/3つのアプローチ
2	景観の捉え方	(グループワーク) 景観に関する言葉を使った例文作成と用法の確認
3	視覚的アプローチ (1) 人間の視知覚特性	視知覚特性と「よい眺め」/景観ディスプレイ論/図と地
4	視覚的アプローチ (2)	(グループワーク) 視距離の見え方について、顔の認識限界を調べてみる
5	視覚的アプローチ (3) 身体感覚的アプローチ (1)	色彩/ヒューマンスケール
6	身体感覚的アプローチ (2)	(グループワーク) ヒューマンスケールの実測、歩幅の確認と歩測
7	身体感覚的アプローチ (3)	仮想行動/「閉じる・開く」と「見る・見られる」/シークエンス/イメージと景観/イメージの構造
8	意味的アプローチ (1) 意味的アプローチ (2)	(グループワーク) アフォーダンスの理解、ポジティブスペース・ネガティブスペースの採集
9	意味的アプローチ (3)	名付けと描写/伝統的景観/原風景と生活景
10	意味的アプローチ (4)	(グループワーク) 身の回りのデザインポキャブラリーを考える、歴史的景観とテーマパークの違い
11	現地見学 (11-12 回連続)	まちなみの成り立ちを理解する
12	現地見学 (11-12 回連続)	まちなみの成り立ちを理解する
13	グループディスカッション	景観に関する課題についてグループディスカッションを行う
14	グループディスカッションの発表と講評	グループディスカッションの結果についての発表とそれに対する講評を行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基本的にテキスト (教科書) に沿って授業を進めるため、該当箇所について予習・復習を行う。授業後半にグループディスカッションを行うため、これに関する事前準備や事後のレポート作成 (個人) がある。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

「景観とデザイン」内山久雄監修・佐々木葉著、オーム社、2015、2500円+税

### 【参考書】

「景観用語事典 増補改訂第二版」篠原修編、彰国社、2021、3600円+税  
その他必要に応じて紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

各回のグループワーク評価40%、グループディスカッションの評価20%、個人レポート40%とする。  
欠席4回以上は単位取得を認めない (評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等によりインターネットに接続して作業できる環境が必要である。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

This lecture introduces a framework of knowledge about the quality of landscapes created by civil engineering technologies and presents specific examples.

#### Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of landscape engineering and examples and ideas on landscape.

#### Learning activities outside classroom:

Students will be expected to read the relevant chapter from the text to prepare for a group discussion. Your study time will be more than two hours for a class.

#### Grading criteria / policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following Results of each group work 40%, Result of group discussion: 20%, Term-end report: 40%

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## ジオテクニカルデザイン

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地盤調査、地盤災害、基礎、地盤改良、地盤掘削について学習するとともに、様々な構造物の設計演習を通じて総合的デザイン能力を高め、設計の考え方を習得する。

### 【到達目標】

- ①インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について理解する。
- ②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し、ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する。
- ③浅い基礎、深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する。
- ④地盤改良や掘削の方法について理解する。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 |     |
| (B) 技術者倫理          |     |
| (C) 工学基礎学力         |     |
| (D) 専門基礎学力         | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力   | 60% |
| (F) 総合デザイン能力       | 20% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「地盤環境工学」の発展として、インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について講義を行う。前半では、建設時の地盤災害、浅い基礎の設計方法、液化のメカニズムについて学び、後半は、深い基礎の設計方法、地盤改良や掘削の方法について学習する。構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する。

授業は学年暦通り実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、地盤調査法	サウンディング、サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボーリングの現象、検討方法、対策法
3	建設時の地盤災害	ヒーピング、盤膨れの現象、検討方法、対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム、液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構、基礎に要求される性能、杭の工法、材質、形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法、鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力、負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良・掘削方法	地盤改良工法の概説、適用例、各種掘削工法の概説、特徴。
13	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点、ボーリング柱状図の読み方
14	期末まとめ	第1回～13回の理解の確認と質疑応答

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 今回授業内容の復習

2. 同 上
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし。  
プリントを適宜配布する

### 【参考書】

地盤工学会：地盤調査法  
日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成18年度）  
吉見吉昭、福武毅芳：地盤液化の物理と評価・対策技術、技報堂出版  
日本道路協会：道路土工構造物技術基準・同解説

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験70%、レポート30%  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

初回講義の際にこれまでの成績評価状況を説明し、受講意欲のない学生に対しては、早めに履修を諦めさせることができたところ、学生の授業評価が低いものがなくなり、興味のある学生の受講環境を高めることができた。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓、PC

### 【その他の重要事項】

建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

### 【Outline (in English)】

The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:

1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation, ground improvement and excavation methods.

2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

## 環境マネジメント

弘末 文紀

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀以降の科学技術の飛躍的な発展は、地球環境の破壊と人口爆発を生じさせ、もはや人類はもろく様々な生物の生存にとって危機的状態をもたらしている。地球環境の改善と保全は、今世紀に人類が解決しなければならない緊急で最優先の課題である。我が国においても特定の産業活動が環境汚染を引き起こした過去の公害問題とは異なり、通常の事業および生活活動に起因する環境への負荷が増大しているため、自主的な環境への負荷の低減が求められている。

本授業では、上記課題を解決するための一手段として「環境マネジメント」に着目し、企業および市民が遵守すべき環境法規、さらに社会的な責任を意識して自主的、能動的に環境保全のための行動を計画・実行・評価する手順（環境マネジメントシステム）およびその行動に必要な技術を学ぶ。本授業の内容は、社会人（民間企業、公務員ほか）の基礎知識として是非とも覚えておくべきこと、そしてシビルエンジニアの基盤技術として知っておくべきことであり、将来の業務の様々な局面で役立つものである。

## 【到達目標】

環境マネジメントの活動は、環境基本法の基本理念のもとに成り立つものであることから、我が国における環境にかかわる近代から現代の出来事と関連する法規制の歴史を概観することで環境基本法の成立に至る過程とその理念を理解する。そして、環境マネジメントの活動手順である「環境マネジメントシステム」の構成を理解するとともに、個別の環境（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、廃棄物処理等）関連法の概要および規制基準等について学ぶとともに、建設産業において規制基準を満足するための対処技術を事例に基づき習得する。さらに、企業活動を行うために必須の倫理観と企業責任（コンプライアンス、インテグリティ、CSR、SDG s、ESG）など、今、世の中で求められている環境経営の考え方についても概説するのでこれらを理解する。

## 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重  
 (B) 技術者倫理  
 (C) 工学基礎学力  
 (D) 専門基礎学力 20%  
 (E) 専門知識の活用・応用能力 60%  
 (F) 総合デザイン能力 20%  
 (G) コミュニケーション能力  
 (H) 継続的学習能力  
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業はオリジナルのパワーポイントを用いて講義形式で実施する。資料は講義当日までに授業支援システムにアップロードされるので、ここから各自ダウンロード出来る。

講義（1回～12回）の終了前に小課題を出すので、基本的に講義終了までに提出する（受け付けは当日いっぱいまで。解答は次回講義開始時に確認する）。13回目目は小課題なし。14回目は把握度確認となるため解答合わせは行わない。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境マネジメントと環境基本法	環境マネジメントの対象である環境問題の歴史と環境政策の推移及び基本理念の誕生 小課題①
2	環境マネジメントシステム	システムの概要とその効果 小課題②
3	水質環境の保全（その1）	水質汚濁と公害、有害化学物質による生物への影響、発生源と環境基準 小課題③
4	水質環境の保全（その2）	水質汚濁の事例と対策および効果 小課題④
5	大気環境の保全（その1）	大気汚染物質の法的規制と技術的対応 小課題⑤
6	大気環境の保全（その2）	今日的な大気汚染問題（ヒートアイランド、温室効果ガスなど） 小課題⑥
7	土壌環境の保全（その1）	土壌汚染物質と土壌汚染対策法 小課題⑦

8	土壌環境の保全（その2）	汚染土壌の浄化技術とその実例 小課題⑧
9	廃棄物とリサイクル（その1）	廃棄物処理法とリサイクル法 小課題⑨
10	廃棄物とリサイクル（その2）	一般廃棄物と産業廃棄物の現況と処理・処分および不法投棄問題 小課題⑩
11	環境経営 SDG s および ESG 投資と建設業界	CSR と持続的成長および環境活動 小課題⑪
12	騒音と振動および悪臭とその対策	騒音と振動および悪臭の規制と防止対策 小課題⑫
13	最新の環境関連政策の動向と豊洲新市場土壌汚染問題とその対策から考えること	第六次環境基本計画（2024～2030年）の注目分野および豊洲市場土壌汚染問題とその対策
14	2023年度講義の把握度確認	1～13回の講義内容における重要事項の把握度を記述式にて確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配信するテキスト（パワーポイント）等と参考書による予習および講義の復習をし、特に重要な事項については講義時に指摘するので、これらについて把握する。

小課題は当日の講義内容から出題するので講義資料および関連情報を検索することで基本的に時間内に回答することが可能と考える。さらに、最終講義の把握度確認の課題は、各講義にて特に重要と指摘した項目から出題するので復習していれば十分対応可能。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

独自のパワーポイント資料を使用（同pdfファイルを授業支援システムにて配信する）。

## 【参考書】

事前予習のための参考書は特に必要としないが、より深い理解を得たい場合、環境マネジメントシステムに関する資料は、  
 「図解即戦力 ISO 14001の規格と審査がこれ1冊でしっかりわかる教科書」福西義晴，技術評論社，2019.11.20

「一番やさしい・一番わかりやすい 最新版 図解でわかる ISO14001のすべて」大浜庄司，日本実業出版社，2017.8.31  
 などがある。

環境法および建設関連法規に関する資料は、  
 「図解 環境 ISO 対応 まるごとわかる環境法」見目善弘，産業環境管理協会，2017.12.1

「建設工事の環境法令集」（社）日本建設業団体連合会監修，（株）富士グローバルネットワーク発行（なお、最新版は2024年6月頃発行予定）などがある。

## 【成績評価の方法と基準】

評価点は100点満点で評価し、90点以上S、87点以上A+、83点以上A、80点以上A-、77点以上B+、73点以上B、70点以上B-、67点以上C+、63点以上C、60点以上C-、59点以下または欠席4回以上Dとする。

評価点＝把握度確認の成績64%＋小課題12回分の成績36%

各小課題は、期限内提出して正解であれば3点、不正解は2点。期限遅れで提出した場合は正解で2点、不正解は1点。よって、全小課題を期限内提出して全問正解であれば36点の持ち点となる。把握度確認は100点満点で採点し、その成績の0.64掛けが持ち点となり、上記の小課題持ち点と合わせて評価点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度も全講義を対面にて実施した。小課題および課題確認の結果で判断すると学生諸君の理解は十分なされていたと思う。

ちなみに、2年前の講義からレポート課題を無くしているが、小課題において様々な考え方を提示した回答を得ているので今年度もユニークな回答を期待する。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義は教室のプロジェクターを使用するため情報機器を持参する必要はありません。ただし、講義内容をより具体的に把握するため、特にシステム・法規・基準などをPCでリアルタイムに検索することは有効であるのでPCの持込を推奨します。

## 【その他の重要事項】

ゼネコンの技術研究開発部門で、技術者として地下水解析からはじまり土壌汚染、水質汚濁、廃棄物処理、災害瓦礫、除染などを対象とした環境関連技術の開発と実施に30年以上携わるとともに、管理者として品質管理および環境管理を推進した者が、その経験を活かして環境関連の法規と技術、さらには環境を考慮した企業経営の在り方を総括した環境マネジメントについて講義する。

**[Outline (in English)]**

The rapid development of science and technology since the 20th century has resulted in the destruction of the global environment and a population explosion, and has brought about a state of crisis for the survival of various living organisms, not to mention the human race. The improvement and conservation of the global environment is an urgent and top-priority issue that mankind must resolve in this century. In Japan, unlike past pollution problems in which specific industrial activities caused environmental pollution, the burden on the environment caused by ordinary business and daily life activities is increasing, and voluntary reduction of the burden on the environment is required.

In this course, we focus on "environmental management" as a means to solve the above issues, and learn about environmental laws and regulations that companies and citizens should comply with, as well as procedures (environmental management systems) and technologies necessary for voluntary and active planning, execution, and evaluation of actions for environmental conservation with an awareness of social responsibility. The contents of this course are things that working people (private companies, civil servants, etc.) should learn as basic knowledge, and things that civil engineers should know as fundamental technologies, which will be useful in various aspects of their work in the future.

Since environmental management activities are based on the basic principles of the Basic Environmental Law, this course provides an overview of the history of modern and contemporary environmental events and related laws and regulations in Japan in order to understand the process leading to the enactment of the Basic Environmental Law and its principles. The course will also provide an overview of the individual environmental laws (air pollution, water pollution, soil contamination, noise, vibration, waste disposal, etc.), their regulatory standards, and techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will learn techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will also learn about the concept of environmental management, such as ethics and corporate responsibility (compliance, integrity, CSR, SDGs, and ESG), which are essential for conducting corporate activities and are now in demand in the world.

Students are expected to prepare for and review the lecture using the textbook (PowerPoint presentation) and reference books provided in advance, and to grasp particularly important issues as they will be pointed out during the lecture.

The quiz will be based on the content of the day's lecture, so students should be able to answer the quiz in time by searching for lecture materials and related information. In addition, the final assignment to check the level of understanding is based on the items pointed out as particularly important in each lecture, so it can be answered if the student has reviewed the material.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading is based on a 100-point scale: 90 or higher S, 87 or higher A+, 83 or higher A, 80 or higher A-, 77 or higher B+, 73 or higher B, 70 or higher B-, 67 or higher C+, 63 or higher C, 60 or higher C-, 59 or lower or 4-times or more absences D.

Evaluation points = 64% of the grade for checking the grasp level + 36% of the grade for the 12 quizzes

Each quiz is worth 3 points if it is submitted on time and correct, and 2 points for incorrect. If submitted late, 2 points will be given for a correct answer and 1 point for an incorrect answer. Therefore, if all the quizzes are submitted on time and all the questions are answered correctly, 36 points will be carried.

ADE100NA (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## 風土と建築 (都市)

高見 公雄、金城 正紀、桂 有生

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考 (履修条件等)：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市は人が集まって暮らす器であり、様々な理由によって現在の市街地が形成されてきている。この授業では都市・建築が現状の様相を呈するに至った背景としての風土に着目し、それを理解する。この場合風土とは、気候・地味・地勢などいわゆる気候風土を軸とした条件と、一方で人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境といった側面の二面性がある。現実にはこの二面は複雑に複層化して作用しているものであるが、ここでは分かりやすくするために、主として前者からのアプローチを取る都市・建築の見方と、同様に後者からのアプローチをとる都市形成・建築活動といった観点からこの課題を説いていき、今後の都市のあり方を学ぶ学生が知っておくべき風土の理解を進める。

### 【到達目標】

和辻が言う風土の考え方の基本を理解する。山本が言う素材と造形の関係性を理解する。そして、都市・建築と風土の関係性についての基本や枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、①都市と風土に関する古典的な基礎知識を習得と、②わが国が持つ気候風土を背景とする都市・建築形成の特徴並びに、③わが国の社会変化による都市形成・建築活動の変容などをそれぞれ専門の教員の講義、課題に基づく自主研究により進める。基本的には講義と課題レポートの形式を取る。講師の勤務地との関係から、一部リモート方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・建築を学ぶ際の風土、素材、造形への視点	和辻哲郎による「風土」、山本学治による「素材と造形の歴史」の内容を紹介しつつ、都市・建築を学ぶ際の風土、素材、造形に関する基本概念を知る
2	気候、地勢等と都市・建築の形成・1	集落の形成、建築様式の生成などと気候、地味、地勢などとの関係性に関わる基本論を学ぶ
3	気候、地勢等と都市・建築の形成・2	わが国の特徴的な地域を捉え、気候風土と建築、集落形成の過程等に関わる事例を学習する (その1)
4	気候、地勢等と都市・建築の形成・3	わが国の特徴的な地域を捉え、気候風土と建築、集落形成の過程等に関わる事例を学習する (その2)
5	気候、地勢等と都市・建築の形成・4	わが国と海外との気候風土の違いに着目した建築・集落等を学ぶ際の視点を整理する
6	気候、地勢等と都市・建築の形成・5	前回までの視点に基づき、自らの研究材料、視点を整理し、調査・研究を行う
7	気候、地勢等と都市・建築の形成・まとめ	気候、地勢等と都市・建築の形成に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
8	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・1	都市形成、建築活動を社会変化・地域文化などとの関係性を踏まえ、わが国の都市形成の過程の基本論を学ぶ
9	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・2	わが国の特徴的な地域を捉え、社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する (その1)
10	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・3	わが国の特徴的な地域を捉え、社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する (その2)
11	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・4	わが国と海外と社会変化・地域文化などの違いに着目した都市形成・建築活動を学ぶ際の視点を整理する
12	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・5	前回までの視点に基づき、自らの研究材料、視点を整理し、調査・研究を行う
13	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・6	社会変化・地域文化と都市形成・建築活動に関わる学習を踏まえた成果をまとめる

14 都市・建築を学ぶ際の風土に関する理解 以上の学習を取りまとめ、都市・建築を学ぶ際に理解しておくべき風土に関する事項を理解する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

提起された課題に対する調査、フィールドワークなどが授業外に必要なことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて教員より配布する。

### 【参考書】

【復刻版】和辻哲郎の「風土—人間学的観察」(響林社文庫) Kindle版  
素材と造形の歴史(1966年)(SD選書〈9〉)山本学治(著)

### 【成績評価の方法と基準】

授業内のレポートにより評価(100%)する。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)

### 【学生の意見等からの気づき】

予想を超え、深い意識で風土を捉えており、さらに深度化できる可能性がある。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実社会の最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The climate has two aspects: a condition based on a so-called climate, and a mental environment that affects the formation of human culture. Here you will learn city and architecture from both approaches.

Evaluate by each report. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE100NA (建築学 / Architecture and building engineering 100)

## 風土と建築 (都市)

高見 公雄、金城 正紀、桂 有生

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考 (履修条件等)：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市は人が集まって暮らす器であり、様々な理由によって現在の市街地が形成されてきている。この授業では都市・建築が現状の様相を呈するに至った背景としての風土に着目し、それを理解する。この場合風土とは、気候・地味・地勢などいわゆる気候風土を軸とした条件と、一方で人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境といった側面の二面性がある。現実にはこの二面は複雑に複層化して作用しているものであるが、ここでは分かりやすくするために、主として前者からのアプローチを取る都市・建築の見方と、同様に後者からのアプローチをとる都市形成・建築活動といった観点からこの課題を説いていき、今後の都市のあり方を学ぶ学生が知っておくべき風土の理解を進める。

### 【到達目標】

和辻が言う風土の考え方の基本を理解する。山本が言う素材と造形の関係性を理解する。そして、都市・建築と風土の関係性についての基本や枠組みを理解する。

### 【修得できる能力】

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 30% |
| (B) 技術者倫理          | 30% |
| (C) 工学基礎学力         | 20% |
| (D) 専門基礎学力         |     |
| (E) 専門知識の活用・応用力    |     |
| (F) 総合デザイン能力       | 20% |
| (G) コミュニケーション能力    |     |
| (H) 継続的学習能力        |     |
| (I) 業務遂行能力         |     |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、①都市と風土に関する古典的な基礎知識を習得と、②わが国が持つ気候風土を背景とする都市・建築形成の特徴並びに、③わが国の社会変化による都市形成・建築活動の変容などをそれぞれ専門の教員の講義、課題に基づく自主研究により進める。基本的には講義と課題レポートの形式を取る。講師の勤務地との関係から、一部リモート方式で授業をする可能性がある。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回数	テーマ	内容
1	都市・建築を学ぶ際の風土、素材、造形への視点	和辻哲郎による「風土」、山本学治による「素材と造形の歴史」の内容を紹介しつつ、都市・建築を学ぶ際の風土、素材、造形に関する基本概念を知る
2	気候、地勢等と都市・建築の形成・1	集落の形成、建築様式の生成などと気候、地味、地勢などとの関係性に関わる基本論を学ぶ
3	気候、地勢等と都市・建築の形成・2	わが国の特徴的な地域を捉え、気候風土と建築、集落形成の過程等に関わる事例を学習する (その1)
4	気候、地勢等と都市・建築の形成・3	わが国の特徴的な地域を捉え、気候風土と建築、集落形成の過程等に関わる事例を学習する (その2)
5	気候、地勢等と都市・建築の形成・4	わが国と海外との気候風土の違いに着目した建築・集落等を学ぶ際の視点を整理する
6	気候、地勢等と都市・建築の形成・5	前回までの視点に基づき、自らの研究材料、視点を整理し、調査・研究を行う
7	気候、地勢等と都市・建築の形成・まとめ	気候、地勢等と都市・建築の形成に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
8	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・1	都市形成、建築活動を社会変化・地域文化などとの関係性を踏まえ、わが国の都市形成の過程の基本論を学ぶ
9	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・2	わが国の特徴的な地域を捉え、社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する (その1)

10	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・3	わが国の特徴的な地域を捉え、社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する (その2)
11	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・4	わが国と海外と社会変化・地域文化などの違いに着目した都市形成・建築活動を学ぶ際の視点を整理する
12	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・5	前回までの視点に基づき、自らの研究材料、視点を整理し、調査・研究を行う
13	社会変化、地域文化と都市・建築の形成・6	社会変化・地域文化と都市形成・建築活動に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
14	都市・建築を学ぶ際の風土に関する理解	以上の学習を取りまとめ、都市・建築を学ぶ際に理解しておくべき風土に関する事項を理解する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

提起された課題に対する調査、フィールドワークなどが授業外に必要なことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて教員より配布する。

### 【参考書】

【復刻版】和辻哲郎の「風土—人間学的観察」(響林社文庫) Kindle版  
素材と造形の歴史(1966年)(SD選書〈9〉)山本学治(著)

### 【成績評価の方法と基準】

授業内のレポートにより評価(100%)する。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)

### 【学生の意見等からの気づき】

予想を超え、深い意識で風土を捉えており、さらに深度化できる可能性がある。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実社会の最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

The climate has two aspects: a condition based on a so-called climate, and a mental environment that affects the formation of human culture. Here you will learn city and architecture from both approaches.

Evaluate by each report. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MEC200ND (機械工学 / Mechanical engineering 200)

## メカトロニクス

伊藤 文臣

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学(メカニクス)と電気電子工学(エレクトロニクス)の合成語であり、これらの学問の融合により、高い柔軟性と信頼性を有する機器を作る技術やその技術により作製された機器を指す。メカトロニクスを修学するにあたり、機械工学、電気電子工学に加え、ソフトウェアによる制御やシステム全体の設計、運用などの幅広い知識が要求される。そこで、本授業では、メカトロニクスの各位要素技術に関する概念を理解し、学問分野全体の基礎的な知識を身に付けることを目的とする。

## 【到達目標】

授業終了時点において、以下に列挙する事項に関する理解を目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成と各要素。
- 2) アクチュエータとセンサの原理、種類、用途。
- 3) 機械要素の原理、種類、用途。
- 4) 電気電子回路部品の原理、種類、用途。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション、板書および口述によって進められる。授業の内容が理解できているかを確認するため、各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある。

【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション(スライド)によって進められる。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題が出される。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を、実例を交えながら解説し、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について解説する。
第2回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスにおける各要素の理解に必要な数学や物理(力学・電磁気学)について解説する。
第3回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムにおけるアクチュエータの概要と分類を解説する。
第4回	アクチュエータの原理	電磁アクチュエータ、空気圧アクチュエータを代表として、これらアクチュエータの基本的な動作原理について解説する。
第5回	センサの概要	メカトロニクスシステムにおけるセンサの概要と分類を解説する。
第6回	センサの原理	複数の代表的なセンサについて、基本的な計測原理を解説する。
第7回	アナログ電子回路—受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第8回	アナログ電子回路—能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する。

第9回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第10回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて解説する。
第11回	機構の基礎	機構を構成する機械部品について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第12回	機械の設計	機械部品の組み合わせにより、機械的なシステムを構築する手法について解説する。
第13回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴を説明する。
第14回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学(特に、力学、電磁気学分野)を復習して初回授業に臨むとより深い理解が可能となる。

本授業では、予習・復習にそれぞれ2時間が必要である。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・初澤毅「メカトロニクス入門」培風館
- ・見崎正行/小峯龍男「よくわかるメカトロニクス」東京電機大学出版局
- ・百目鬼英雄, 坪井和男「小形モータ入門」オーム社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を40%、期末試験もしくは最終課題の評価を60%として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を100点満点とし、60点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の進行(板書等)が早いために理解が追いつけなくなることが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

## 【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート  
パソコン

## 【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Mechatronics, a term synthesized from mechanics and electronics, signifies the technology employed in the creation of devices distinguished by their exceptional flexibility and reliability, realized through the integration of these fields. It requires expertise in both the techniques for producing such devices and the resulting products. Proficiency in mechatronics demands a comprehensive knowledge spectrum, encompassing mechanics, electronics, and an in-depth understanding of software-oriented control, comprehensive system design, and functional principles. As a result, this course is structured to enhance understanding of the basic concepts that underpin each component technology within mechatronics and to nurture an elementary comprehension of the wider academic discipline.

## 【Learning Objectives】

By the end of the class, students should understand the following topics:

- A) The components and elements of mechatronic systems.
- B) Principles, types, and applications of actuators and sensors.
- C) Principles, types, and applications of mechanical elements.
- D) Principles, types, and applications of electrical and electronic circuit components.
- E) Signal processing and computation on computers.
- F) Fundamentals of control engineering.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students are encouraged to review high school level physics, particularly in mechanics and electromagnetism, before the first class to facilitate a deeper understanding. It is necessary to dedicate 2 hours for both preparation and review per class.

**[Grading Criteria /Policy]**

The overall evaluation will be calculated as follows: 40% for regular assessment points and short exams or assignments during the class, and 60% for the final exam or the last assignment. The total evaluation score will be out of 100 points, with a passing grade set at 60 points or above.

ELC300ND (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300)

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムマッチに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本のSociety5.0, ドイツのIndustrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical SystemsなどのSystem of Systemsを、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

- A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
- B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
- C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
- D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。

2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習 (1) >
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習 (2) >
5	システムの安定性	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
6	システム制御のモデリング	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。 < 課題演習 (3) >
7	システムの安全性	システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	システムの最適化	システム設計・構築において、プロジェクトリーダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。 < 課題演習 (4) >
9	確率システム	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	統計的データ解析	Internet of Thingsによるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習 (5) >

- |    |                  |  |
|----|------------------|--|
| 11 | <b>システムの信頼性</b>  | 信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。  |
| 12 | <b>信頼性解析</b>     | システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。<br>< 課題演習(6)>                              |
| 13 | <b>ネットワークの性質</b> | ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。                          |
| 14 | <b>ネットワークの構造</b> | ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。<br>< 課題演習(7)> |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。(次週の授業開始時に提出。期日厳守。)

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

**【参考書】**

木村英紀著「現代システム科学概論」(2021年) 東京大学出版会  
橋本、石井、小林、大山共著「Scilab で学ぶシステム制御の基礎」(2007年) オーム社  
室津、大場、米澤、藤井、小木曾共著「システム工学 第2版」(2006年) 森北出版  
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」(2016年) 丸善出版

**【成績評価の方法と基準】**

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取組み姿勢や質問票の提出を反映する。
2. どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。(期末試験は無し)
3. 決められた提出日までに課題を提出すること。
4. 成績評価は100点満点とし、平常点と課題演習の得点は各50%の配点とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

1. パソコンでExcelやシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。
3. 課題演習は、授業支援システムからダウンロードすること。

**【その他の重要事項】**

メーカーの研究開発・商品開発部門に、38年を超える勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

**【Outline (in English)】**

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

The goals of this course are to A,B,C and D:

- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.

Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports ( 50% ) and in class contribution ( 50% ).

MTL300ND (材料工学 / Material engineering 300)

## 素材と機能

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。

本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

### 【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深めていただきたいと考えています。

基本的にオンラインではなく、現地での講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について説明します。
2	高分子の物性	熱的、力学的な性質について説明します。
3	汎用プラスチック	ガス管、水道管、ポリタンクなど身の回りで頻繁に用いられている汎用プラスチックについて紹介し、それぞれの特徴について説明します。
4	エンジニアリングプラスチック	自動車や家電など、より高い耐久性、耐熱性が求められる用途に用いられる高分子について紹介し、それぞれの特徴について説明します。
5	電気を流す高分子（その1）	導電性高分子とは何か？ そのメカニズムについて実用例を踏まえて説明します。
6	電気を流す高分子（その2）	導電性高分子の先端技術・研究について紹介します。
7	光学技術に貢献する高分子（その1）	液晶ディスプレイや光学レンズなどに用いられる高分子について紹介します。
8	光学技術に貢献する高分子（その2）	感光性高分子の種類や用途、研究例について紹介します。

9	高分子ゲル（その1）	高分子ゲルの特徴と、その実用例について説明します。
10	高分子ゲル（その2）	高分子ゲルの先端技術・研究例について紹介します。
11	生化学・医療へ貢献する高分子（その1）	生体適合性を有する高分子材料について、実用例と共に説明します。
12	生化学・医療へ貢献する高分子（その2）	生体適合性を有する高分子材料について、研究例について説明します。
13	環境にやさしい高分子・関連技術（その1）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について、2週に分けて説明します。
14	環境にやさしい高分子・関連技術（その2）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について、2週目について説明します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課題を出すので、翌週の授業開始時間前までにPDFで提出していただく予定です。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。

### 【参考書】

松浦和夫, 尾崎邦弘, 「高分子材料が一番わかる」, 技術評論社, 2011.

井上和人, 清水秀信, 岡部勝, 「基礎からわかる高分子材料」, 森北出版株式会社, 2015.

東信行, 松本章一, 西野孝, 「高分子科学 合成から物性まで」, 講談社, 2016.

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加への貢献度 80%

2. 各講義での課題 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

より、身の回りにある製品を例にとり、有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように心がけたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

### 【その他の重要事項】

担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉（ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発）、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

### 【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.  
Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MEC300NA (機械工学 / Mechanical engineering 300)

## 品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

## 【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

## 【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：40%、演習レポート：60%）

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

## 【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

## 【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

## 【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA (機械工学 / Mechanical engineering 300)

## 品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

## 【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

## 【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：40%、演習レポート：60%）

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

## 【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

## 【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

## 【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA (機械工学 / Mechanical engineering 300)

## 品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する手法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

## 【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

## 【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：40%、演習レポート：60%）

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

## 【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

## 【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

## 【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

SSS300ND (社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300)

## プロジェクトマネジメント (SD)

村上 季史、永田 義昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰り返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

### 【到達目標】

プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに Activity List・WBS・CPM・EVM などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てリードしていける能力を身につけます。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

この授業は全部で14回で構成します。

第1回-第2回 プロジェクト・マネジメントの概要について解説します  
 第3回-第6回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます  
 第7回-第13回 プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します  
 第14回 グループ課題の発表と相互評価を行います  
 なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を7週間かけて進める宿題の形とします。授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション(プロジェクトとは何か)	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクトCHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習 プロジェクトCHARTERをつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます。 ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは? ・コミュニケーション力の高い人とは? ・コミュニケーション上手になるためには? ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習

6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか
7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープとWBS作成について学びます。 ・スコープとは何か ・WBSの作成手順 ・演習 Activity ListとWBSをつくる
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の種類 ・チームと役割
9	スケジュールプランニング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習 納期短縮アイデアを考えよう
10	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
11	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習 入札ゲーム
12	品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・品質目標を実現するための3つのポイント
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各グループによる相互評価

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に重点を置いてください。個人課題は1時間程度要する内容を基準とします。また、グループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験をなるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

### 【テキスト (教科書)】

指定の教科書はありませんが、講義資料はPDFで授業支援システムに事前にアップします。

### 【参考書】

- (1)「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著(技術評論社)  
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
- (2)「改訂3版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」日本プロジェクトマネジメント協会・著(日本能率協会マネジメントセンター)  
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
- (3)「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第6版」Project Management Institute 著(PMI東京支部)

現在最も世界的に影響のある標準体系の解説書です。PMP (Project Management Professional) 資格受験のための必須の教科書です。

**【成績評価の方法と基準】****(1) 授業課題と演習 (60%)**

授業の課題提出や教室内・オンラインでのグループ演習を行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんど不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。

また、講義に関する質問やコメントを記したリアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。

**(2) グループ課題の発表 (40%)**

この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。

「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計40点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。

授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたりアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料はPDFの形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

**【その他の重要事項】**

種々のプラント建設プロジェクトを経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

**【Outline (in English)】**

In this systems design course, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by tackling common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute, and control such projects as well as how they differ from real-world duties through classes and exercises.

Students are expected to review the class afterward and to spend approximately one hour to complete the assignments of each class. Additionally, students are required to work as a group on the "Project Planning Assignment" outside of classroom.

The final grade will be determined as follows:

(1) Assignments for each class: 60%,

(2) The content of the "Project Planning Assignment": 40% (assessed by peers).

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

## ブランディングデザイン (2023年度以降入学生)

金田 遼平、吉見 奈々

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ブランディングのデザインに必要な様々な要素をグループワークの演習によって実践的に学びます。

提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

### 【到達目標】

ブランド・プロデュースのための一連のデザインプロセスを通じ、今日デザイナーやアートディレクターに求められるブランディングデザインの能力獲得を目指します。

また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、デザイン思考の方法論も同時に学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。

参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	全体概要説明
	第1テーマ	情報収集・情報整理・発案プロセスに関する有用なスキルをワークショップ形式で習得する。
2	第2テーマ	課題説明
	グループ分け	アイズブレイク
	ワークショップ	分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
3	第2テーマ	企画テーマ設定
	ワークショップ	アイデア展開 プロトタイプ・プレゼンテーション制作
4	第2テーマ	第2テーマ 最終案発表会
	最終プレゼンテーション	まとめ
5	第3テーマ	課題説明
	グループ分け	顧客の検討・選択
	定性調査予備調査	視察調査 (個人)
	ワークショップ	観察まとめ 企画の検討
6	第3テーマ	定性調査セッション (グループ)
	フィールドワーク	情報共有・準備
	現地調査	インタビュー
	インタビュー	定性調査結果・考察 プロトタイプ・最終プレゼンテーション準備
7	第3テーマ	第3テーマ 最終案発表会
	最終プレゼンテーション	まとめ
	総評	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間内にまともな作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。

各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

博報堂デザインのブランディング (永井 一史：誠文堂新光社)  
事例で学ぶブランディング (ランドーアソシエイツ：ピー・エヌ・エヌ新社)

デザイン思考が世界を変える [アップデート版] (ティム ブラウン：早川書房)

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を40点、最終プレゼンテーション内容を50点、提出レポートを10点、とする。

総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-

79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-

69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-

60点未満をDとする。

1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

### 【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業に必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

### 【その他の重要事項】

ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

### 【Outline (in English)】

Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.

The course cultivates the ability to accurately target and deeply understand the value of the products and services, to understand the intended users and customers, to scrutinize the content to be conveyed from the information obtained, to build new appeal and present it in the most effective way, and to create designs that move people's hearts in a comprehensive manner.

#### ・ Grading criteria

The normal score for class participation is 40 points, the content of the final presentation is 50 points, and the report is 10 points.

If the total score is 90 points or more, it will be graded S.

A+ for 89-87 points, A for 86-83 points, A- for 82-80 points.

B+ for 79-77 points, B for 76-73 points, B- for 72-70 points

C+ for 69-67 points, C for 66-63 points, C- for 62-60 points.

A score of less than 60 points is considered D.

10 points for being absent for 1 period, 5 points for being late. However, those who are absent for 5 or more periods will be graded D.

Sick leave, bereavement, SSI tournaments, official practice, etc. are excluded from absence, but proof of the same must be submitted.

#### ・ Learning activities outside of classroom

If the work cannot be completed during class hours, students will be asked to do it independently outside of class hours.

After completing each assignment, students will be asked to compile a project proposal and submit it as a report.

Your study time for preparation and review will be more than 2hours for a class.

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

## 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

## 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

## 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

## 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。

## 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes. Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) 都市

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

### 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所 (right Material for the right place.) の材料選定、設計 (強度・デザイン) が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

### 【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	25%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料とその物性、特徴や加工方法、生産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料 (汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック)	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料 (ゴム)	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法

13	グループワーク発表会 (前半)	1グループあたり6~7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表 (前半)
14	グループワーク発表会 (後半)	後半のグループ発表 最終レポート提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌 (金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など) の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

### 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

### 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション (発表)  
13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%
2. レポート 50%  
グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。

### 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%  
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

### 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

### 【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態遷と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

### 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

### 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13、14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を開く。

### 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) SD

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

## 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所 (right Material for the right place.) の材料選定、設計 (強度・デザイン) が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料 (汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック)	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料 (ゴム)	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会 (前半)	1グループあたり6~7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表 (前半)
14	グループワーク発表会 (後半)	後半のグループ発表 最終レポート提出

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌 (金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など) の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

## 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

## 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション (発表)  
13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%
2. レポート 50%  
グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

## 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。

## 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy)

1. Presentation 50%  
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes. Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

## 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

## 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

## 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

## 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。

## 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes. Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA (材料工学 / Material engineering 200)

## マテリアルサイエンス概論 (2023年度以降入学生) 建築

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

## 【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。  
適材適所 (right Material for the right place.) の材料選定、設計 (強度・デザイン) が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

## 【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
9	高分子材料 (汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック)	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料 (ゴム)	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会 (前半)	1グループあたり6~7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表 (前半)
14	グループワーク発表会 (後半)	後半のグループ発表 最終レポート提出

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌 (金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など) の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

## 【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

## 【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション (発表)

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

## 【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を開く。

## 【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

PRI200NA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 数理統計学 (2023年度以降入学生)

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

### 【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法 (点推定、区間推定、仮説検定) を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。  
 ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。  
 ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。  
 ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。  
 ※授業中およびメールやノートの提出によって質問等を行う。  
 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析 (1)	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析 (2)	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布 (1)	離散確率変数の代表的な確率分布 (離散一様分布、二項分布、ポアソン分布) について理解する。
5	確率変数と確率分布 (2)	連続確率変数の代表的な確率分布 (離散一様分布、指数分布、正規分布) について理解する。
6	確率変数と確率分布 (3)	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。

10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布 (カイ2乗分布、t分布、F分布) について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはノートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

### 【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門 (東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年)
- ★統計学演習 (村上正康, 安田正實 共著 培風館 2010年)
- ★統計学基礎 (統計検定3級・2級対応) 日本統計学会
- ★統計学の基礎 (栗栖 忠 他 裳華房 2017年)

### 【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント  
 テスト2：40パーセント。  
 課題・レポート課題：20パーセント。  
 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析 (基本統計量) が使用できる状態にしておくのが望ましい。  
 講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

### 【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to A and B.

Learning activities outside of classroom:

Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Mid-term examination:40%, Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution: 20%.

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## 公共経営戦略 (2023年度以降入学生)

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

### 【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 (新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します)	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 (講義&グループディスカッション)
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 (どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです)	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 (講義&グループディスカッション)
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 (これからはインフラの運営・維持管理の時代です)	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 (講義&グループディスカッション)
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 (インフラによる海外への貢献について解説します)	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 (講義&グループディスカッション)
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第8回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装

第9回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第10回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例 (遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等) ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出 (簡易な方法)
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習①)
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習②)
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 (講義&事例紹介) ・国際規格への対応

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

### 【テキスト (教科書)】

無し

### 【参考書】

無し

### 【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%  
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

### 【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

### 【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.  
Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.  
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## 公共経営戦略 (2023年度以降入学生)

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

### 【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

### 【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 10%
- (B) 技術者倫理 10%
- (C) 工学基礎学力 10%
- (D) 専門基礎学力 10%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 10%
- (F) 総合デザイン能力 10%
- (G) コミュニケーション能力 20%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力 10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 (新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します)	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 (講義&グループディスカッション)
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 (どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです)	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 (講義&グループディスカッション)
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 (これからはインフラの運営・維持管理の時代です)	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 (講義&グループディスカッション)

第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 (インフラによる海外への貢献について解説します)	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 (講義&グループディスカッション)
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第8回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第9回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第10回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例 (遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等) ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出 (簡易な方法)
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習①)
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習②)
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 (講義&事例紹介) ・国際規格への対応

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

### 【テキスト (教科書)】

無し

### 【参考書】

無し

### 【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%  
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。  
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

### 【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

**【Outline (in English)】**

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA (経営学 / Management 100)

## 公共経営戦略 (2023年度以降入学生)

平石 和昭、由利 昌平、竹末 直樹、白戸 智、松永 久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

### 【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

### 【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力  
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・ 公共政策とは？ ・ 講師陣の自己紹介・経験談 ・ 生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 (新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します)	・ インフラストラクチャー計画のアウトライン ・ 社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・ 需要予測・経済評価・財務評価 ・ 事業スキーム・財源の調達 (講義&グループディスカッション)
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 (どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところですか)	・ インフラストラクチャー構想の動機 ・ 構想実現の推進 ・ 構想の挫折 (講義&グループディスカッション)
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 (これからはインフラの運営・維持管理の時代です)	・ インフラストラクチャー施設の維持管理 ・ 維持更新投資 ・ インフラストラクチャー事業の運営 ・ 更新と除却 (講義&グループディスカッション)
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 (インフラによる海外への貢献について解説します)	・ 途上国への開発援助 ・ 海外インフラストラクチャービジネス ・ 課題解決先進国・日本としての貢献 (講義&グループディスカッション)
第6回	公共事業評価	・ 公共事業評価の現状 ・ 費用便益分析の基礎
第7回	国土計画の形成	・ 国土計画とは？ ・ 国土計画の歴史と変遷 ・ 現代の国土計画

第8回	スマートシティ	・ スマートシティの考え方 ・ スマートシティの事例 ・ スマートシティの実装
第9回	海外プロジェクト	・ 海外プロジェクトの種類 ・ 事例紹介
第10回	集客事業	・ 集客事業における行政の関わり方 ・ 具体的な事例 (遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等) ・ 集客事業の来場者予測、経済波及効果算出 (簡易な方法)
第11回	公共施設マネジメント	・ 公共施設のマネジメント計画 ・ 公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習①)
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法 (グループ学習②)
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・ 建設分野へのICT、DX導入政策 ・ インフラ老朽化対策、国際規格 (講義&事例紹介) ・ 国際規格への対応

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

### 【テキスト (教科書)】

無し

### 【参考書】

無し

### 【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%

※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

### 【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

### 【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

BSP200GA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## 国際文化情報学の展開

林志津江

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、1年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである(ただし必修ではない)。本学部の4つの科目群「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「デジタル化する社会・人間とコミュニケーション」。今年度のコーディネーターは国際文化学部教員の林志津江が担当する。

### 【到達目標】

1. 本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2. SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3. 諸問題により異文化交流が困難な状況であっても、国際文化情報学 (intercultural communication) を多角的に捉えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員(本学部教員とゲスト講師)が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

■本科目の授業形態は基本的には「対面」であるが、一部リアルタイムオンライン (Zoom) やオンデマンドで実施する。また各回担当者の都合や感染症の流行状況などの理由で、リアルタイムオンライン (Zoom) やオンデマンドによる授業に切りかえることがある。

■フィードバック：質問に対しては、Google フォームないし学習支援システムの掲示板を通じて可能な限り回答する。あわせて、次回授業のなかでもフィードバックを行なう予定。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にフィードバックすることはしない。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4/10 林志津江 (国際文化学部教員・本科目コーディネータ) この授業で何を学ぶか	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明する。
2	4/17 伊藤伸 (デジタル庁参与・政策シンクタンク「構想日本」総括ディレクター・本学大学院兼任講師)：行政のデジタル化の現状と課題～直接コミュニケーションの重要性	日本が「デジタル敗戦国」と言われるほどデジタル化が遅れた要因や、日本のデジタル化の現状と課題を整理したうえで、今後の目指す姿を現実にするにあたって、国と地方、行政と市民など、様々なコミュニケーションがどのような影響を与えているのかを学ぶ。
3	4/24 和泉順子 (国際文化学部教員)：情報通信技術の社会展開	インターネットやデータサイエンス・機械学習などの情報通信や関連技術は、今や社会インフラとして社会環境に必要不可欠になってきている。しかし、技術的には可能なサービスであっても法整備、運用条件、環境等によっては展開に至らないこともある。エストニアの電子政府や東京工業大学の「未来社会像2020」などから技術の社会展開と考える。これまでのAIの歴史を踏まえながら、生成AIなどの簡単な仕組みについて説明し、生成AIとの付き合い方や、今後のAIについて議論する。
4	5/8 重定如彦 (国際文化学部教員)：AIの歴史と生成AIについて	

5	5/15 大嶋良明 (国際文化学部教員)：計算機による自然言語処理	今日、広く利用が進む生成AI、音声認識、自動翻訳などについてコンピュータによる言語処理を実現する基盤技術とその背景にある機械学習の技術を概観する。特にソーシャルメディアなど大量のオンライン言語データからどのようにして文脈や話題性に関する知識が抽出されるのかを中心に解説する。
6	5/22 副島健作 (国際文化学部教員)：デジタル化した社会における日本語の多様性: 話しことばと書きことば	スマートフォンの普及とともに、SNSに代表されるソーシャルメディアを利用したコミュニケーションが当たり前となった昨今、そこで用いられる日本語は、話しことばとも書きことばともどちらともつかないような形式を生み出し、多様性に富んでいます。その境界線上にある日本語の現象について、話しことばと書きことば、あるいは、音声言語と文字言語の対比を中心に考察します。日本が高度成長期にあった1970年代は、アナログメディアの主導期であった。21世紀に入り、急速なテクノロジーの進化によりメディアはデジタルへと移行した。さらにコロナ禍を経て、AIが組み込まれた新しいメディアが日常に定着しつつある。この変遷の中で、私たちは「デジタル」でどのような表現をしてきたのか、そして「デジタル」が示すイメージがどのように変化してきたのかを考える。
7	5/29 稲垣立男 (国際文化学部教員)：DEGITAL 1970 — 人々はデジタルで (を) どのように表現してきたのか —	パンデミック以後、ドイツにおいても学校教育のデジタル化は急速に進んでいる。その意味と課題について、デジタル化は何をもたらすか—ドイツの事例から—
8	6/5 中國有希 (琉球大学准教授・本学通信教育部兼任講師)：学校教育のデジタル化は何をもたらすか—ドイツの事例から—	6/12 宮川創 (筑波大学准教授)：古代地中海世界にデジタル技術でアクセスする
9	6/19 森川卓夫 (昭和音楽大学客員教授)：音楽のデジタル化が、聴く側の楽しみ方をどのように変えたのか	6/26 宮川祥子 (慶應義塾大学准教授)：災害時の支援活動における情報と連携
10	7/3 山本兼由 (本学生命科学部教授)・松本悟 (国際文化学部教員)：国際協力学者と分子生物学者との対談：デジタル化によって見えるもの (前編)	7/10 山本兼由 (本学生命科学部教授)・松本悟 (国際文化学部教員)：国際協力学者と分子生物学者との対談：デジタル化によって見えるもの (後編)
11	7/17 林志津江 (国際文化学部教員・本科目コーディネータ) 国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・担当講師によっては事前課題を事前に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
- ・授業後課題を毎回課す。授業日当日を締め切りとし、短い文章で提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

#### ●理念・目的

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/>

●ディプロマポリシー

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/>

【参考書】

・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業後課題の提出60%、最終レポート40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14回の講義について論じるものである。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを用いるので初回授業の3日前には登録すること。  
・講義内容の入替や変更等の可能性があるため、毎回授業前に「お知らせ」などを確認すること。  
・オンライン授業回の際にはデジタルガジェット（特にPC）およびインターネット環境を準備すること。学内のインターネット環境を利用し受講する際にはWiFiが利用可能なデジタルガジェットが必要。

【その他の重要事項】

本授業の一部は、外部講師がその専門分野に応じて講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

【Outline (in English)】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures. The theme of this course is for this year 'Interculturality' and its boundaries - Reconsideration the boundaries that divide cultures -.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Short reports : 60 %、term-end reports 40%

PRI200GA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。

また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在チームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。

### 【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。

また、中間試験・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うために、中間試験に関しては授業中に詳しい解説の時間を確保します。期末試験に関しては、学習支援システム上に解説資料を掲載します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験・確率3	第1回から第6回までの授業内容に関する試験・条件付き確率
第8回	確率4	中間試験の解説・条件付き確率・ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験・まとめ	期末試験・全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めます。

### 【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

### 【参考書】

以下の参考書をお勧めします。

"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広直著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

### 【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。これらの技術分野では確率統計の知識が必須です。本授業で学ぶ内容がどのように役立てられるのか、授業内で紹介したいと思います。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

#### 【Learning Objectives】

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

#### 【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUM200GA (その他の人文学 / humanities 200)

## 国際文化協力

### 松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

#### 【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1回程度課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触(アカルチュレーション)から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助(ODA)と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力和想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関連している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著(2021)『国際協力和想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

#### 【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合減点となる(例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない)
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- ・教科書は春学期の前半(5月末頃)までには入手しておくこと

#### 【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

##### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

##### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

## 平和学

### 松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

#### 【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1度程度課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとする事について考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構(ユニセフ)	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構(世界銀行)	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和(暴力)のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ(権力と暴力)	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

特になし

#### 【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業内討論への参加度、授業後課題)50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人々へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
- ・授業後課題は最初は大変だが、続けているうちに、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたとの声が多くなった。そのような授業だと思って取り組んで欲しい。
- ・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

##### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

##### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

大嶋 良明

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtil and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

大嶋 良明

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

### 甲 洋介

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

#### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

#### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

#### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

#### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

#### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

米倉 明男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

菊池 司

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## メディア情報基礎

菊池 司

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

### 【到達目標】

PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。  
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。  
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像(静止画像)の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習A：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習A：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたデジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画	デジタル動画の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習B：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。

11	制作実習B：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習C：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

講義初回に提示する。

### 【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

### 【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

学生へのメッセージ：マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなっていく。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

### 【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

### 【Outline (in English)】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク基礎

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：抽選

備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

### 【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に付ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にもわたっての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室にて講義および実習を行う。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。  
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）  
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。  
●ePortfolioによる学習成果の公開  
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データの packets 化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールアドレスの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネットワーク管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身に付ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるように十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房 (2014)、ISBN:978-4-7628-2830-0

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む, 30%)を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジ系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

**【前提科目】**

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

**【Outline (in English)】**

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク基礎

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

### 【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身につける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指す、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室にて講義および実習を行う。

履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

#### ●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

インターネットをいつでもどこでも(学外やSAなどで)安全確実に使いこなしのために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

#### ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのペケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み(1)：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み(2)：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。ペケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール(1)：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール(2)：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス(1)：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス(2)：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有(FTP、SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネットワーク管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身につける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるように十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房(2014)、ISBN:978-4-7628-2830-0

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。

オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境(コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境)を前提としている。

授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジ系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

**【前提科目】**

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

**【Outline (in English)】**

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

### 【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身につける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指す、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室にて講義および実習を行う。

履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppi)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

#### ●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

インターネットをいつでもどこでも(学外やSAなどで)安全確実に使いこなしのために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

#### ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのペケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み(1)：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み(2)：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。ペケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール(1)：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール(2)：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス(1)：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス(2)：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有(FTP、SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネットワーク、パスワード管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身につける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるように十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房 (2014)、ISBN:978-4-7628-2830-0

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境(コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境)を前提としている。授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジ系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

**【前提科目】**

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

**【Outline (in English)】**

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク基礎

金 勇

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこにいても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

### 【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身につける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指す、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室にて講義および実習を行う。

履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

#### ●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

インターネットをいつでもどこでも(学外やSAなどで)安全確実に使いこなしのために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

#### ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのペケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookup など)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み(1)：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み(2)：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。ペケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール(1)：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール(2)：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス(1)：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス(2)：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有(FTP、SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネットワーク、パスワード管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身につける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるように十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房 (2014)、ISBN:978-4-7628-2830-0

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。

オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境(コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境)を前提としている。

授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジ系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

**【前提科目】**

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

**【Outline (in English)】**

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワーク基礎

金 勇

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：抽選

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

### 【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身につける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指す、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室にて講義および実習を行う。

履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

#### ●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

インターネットをいつでもどこでも(学外やSAなどで)安全確実に使いこなしのために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

#### ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのペケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookup など)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み(1)：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み(2)：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。ペケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール(1)：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール(2)：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス(1)：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス(2)：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有(FTP、SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネットワーク、パスワード管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身につける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるように十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房 (2014)、ISBN:978-4-7628-2830-0

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む、30%)、授業内の課題や小テスト(実技を含む、30%)を総合的に評価する。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

### 【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境(コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境)を前提としている。授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

### 【その他の重要事項】

本科目は、例年抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。

本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジ系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

**【前提科目】**

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

**【Outline (in English)】**

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final exam: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## Photoshopの応用テクニックをいろいろ学ぼう

PCを使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上のメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshopを基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Webやパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるのかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

## 【到達目標】

Photoshopの応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

## ●作品制作の理論と技法(講義と実習)

・デザインの基礎とPhotoshopの応用技法

- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

- レイヤー、マスク、フィルタの技法

- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realisticな作品制作に必要な写真理論

- DTPに向けてのスクリーン、プリンタの利用法

## ●クリティーク(合評)と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

## ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

## ●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

・写真表現の作品化 (アルバム・Web)

・自由なテーマによる最終課題 (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

## ●大事にしたいこと

・誰もが自分だけのsomethingを持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持つとう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性(音声、音響、文書・画像・映像)、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAPの原理(近接、反復、整列、コントラスト)を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存のPhotoshopの基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク(合評)をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際-画像レタッチソフト (Adobe Photoshop CC)	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Webのためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Webアルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング(前編)	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング(後編)	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYKなどカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoToneなどの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディアPCを活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

制作テキスト(必要部分の和訳プリント配布)：Adobe Photoshop 5.5 and Illustrator 8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X  
制作テキスト(必要部分のみをプリント配布)：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

制作テキスト(CMYK変換、色域外警告について参照)：Adobe Photoshop Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101

デザイン論テキスト(初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布)：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ(1998)、ISBN 4895630072

## 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ(著)東京写真学園(監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3が理解に役立つ。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,30%)、クリティーク(課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作(35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いとCMYKへの変換について説明内容を増補充実させた。また2022年度より継続的にPC実習機の問題解消に努めている。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。

制作のためのフォトリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。  
提出作品はePortfolioにて保存公開する。

**【その他の重要事項】**

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

**【資格を目指す人のために】** 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

**【前提科目】**

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

**【Outline (in English)】**

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム(スケッチ)基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProcessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

### 【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processingの制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習(マルチメディア対応の情報実習室)

Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎(1)：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎(2)：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎(3)：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース 【制作課題1】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題1】 習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出 【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】 学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】 学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適応などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】 制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProcessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

Casey Reas(著)、Ben Fry(著)、船田 巧(翻訳)、「Processingをはじめよう 第2版(Make: PROJECTS)」, オライリー・ジャパン(2016)、ISBN-13: 978-4873117737

### 【参考書】

#### 【Processing】

Daniel Shiffman(著)、尼岡 利崇(翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリー・ジャパン(2018)、ISBN-13: 978-4873118611

#### 【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross(著)、Hartmut Bohnacker(著)、Julia Laub(著)、深津貴之(監修)「Generative Design with p5.js—ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社(2018)、ISBN-13: 978-4802510974

#### 【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker(著)、Benedikt Gross(著)、Julia Laub(著)他、「Generative Design — Processingで切り拓く、デザインの新地平」、ビー・エヌ・エヌ新社(2016)、ISBN:978-4802510134

#### 【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン(著)、Matt Pearson(著)、久保田 晃弘(監修)、沖 啓介(翻訳)、「[普及版]ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社(2014)、ISBN-13: 978-4861009631

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。

ePortfolio(HOPS)に学習成果を蓄積する。

### 【その他の重要事項】

自分できざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いなそう。情報系教員によるクラス授業であり、Webを基盤とするICTの活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

### 【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。  
関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

### 【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Critique: 10%

実務経験のある教員による授業科目 発行日：2024/5/1

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

## 道具のデザイン学

### 甲 洋介

サブタイトル: 魅力的な体験をデザインする、という考え方

配当年次/単位: 2~4年/2単位

旧科目名: ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修: ×

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選: 初回の授業に出席すること

備考 (履修条件等): 情報関連科目を履修済みであることが望ましい

旧: ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

● デザイナーだけではなく、利用者の視点がデザインに役立つ!

日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やミュージアムメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

● デザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザの体験 (エクスペリエンス) をデザインする、という考え方

ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

#### 【到達目標】

UXデザインの基礎が身につく

・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。

・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。

・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

● 各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する  
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する

5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えられない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① User Experience (UX) Design	ユーザの特性を理解し、体験 (experience) をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	UX Design の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習① 商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために商品の企画
11	道具のデザイン実習② ユーザー分析	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③ デザインプロセス	ユーザの快適な体験 (experience) をデザインする
13	道具のデザイン実習④ 評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

他については適宜指示する。

#### 【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017

・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社)2014

・「UX デザインの教科書」(安藤昌也著、丸善出版) 2016

・NPO 人間中心設計推進機構: <http://www.hcdnet.org/>

#### 【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い (50%)

・発表とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

#### 【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

#### 【履修条件】

・国際文化学部生は「情報リテラシー I・II」を単位取得済みであること。  
・他学部生 (国際文化学部生以外) は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

#### 【関連科目】

・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合っって面白くなる仕組みになっている。

・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

#### 【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

#### 【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA (計算基盤 / Computing technologies 300)

## コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

### 【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につき、オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPure Data(Pd)の概要	【講義と実習】 PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン(プッシュホン)や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】 パッチ (Pdのプログラム)を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。

7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を發展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 人間の歌声のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット(スターウォーズ R2D2)の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI信号による制御を付加する。 【講義と実習】 デイレイ音と直接音からなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	【講義と実習】 デイレイ音と直接音からなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSCプロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】 Arduino, Raspberry Pi, Kinect, Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。 学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。
14	まとめ	

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。PdはオープンソースのソフトウェアでありWindowsでもMacでもフリーで配布されており、情報カフェテリアのPCにもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

実習内容を記したプリントを配布する。

### 【参考書】

参考書・参考資料等

### 【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション(2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社(2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社(2015) ISBN: 978-4777518821

### 【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、最終課題の評点(40%)で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的应用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なビジュアル音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

**【その他の重要事項】**

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理（特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

**【Outline (in English)】**

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

## マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15名)。希望者多数の場合  
は選抜します。初回授業に出席すること。

備考 (履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

### 【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

#### ●作品制作の理論と技法(講義と実習)

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り (Photoshop・Web)
- ・多様な出力形態 (大判プリンタ、レーザーカッター)
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム

#### ●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

#### ●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

#### ●課題

- ・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)
- ・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・Jingle (短い15秒程度のCM的映像)
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

#### ●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。 【写真課題：line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：line、pattern、texture 各自の写真作品を合評する。 【写真課題：モノクロ、ライティング】

3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。 【写真課題 (承前)：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア (CD、DVDなど)の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ 【課題：Premiere オンライン教材の学習】 【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション 【課題：Web写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Webアルバム 【課題：ポスターのデザイン】 【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態 (1): DTP	印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編シングル仮提出】
11	多様な出力形態 (2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

### 【参考書】

#### 【マルチメディア全般】

参考書 (1) CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8  
参考書 (2) CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

### 【デザイン技法】

Robin Williams (著)、吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078

### 【写真技法】

キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3

### 【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】

松田 哲夫 (著)、内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN:978-4794965011

【オンライン・プレゼンテーション】

吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経 BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

2011年度までは3~4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性への追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけでなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室 (BT#0704) にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。

長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

#### 【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品制作を通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

#### 【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目(「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」)

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

#### 【教員の实務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

#### 【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

POL200GA (政治学 / Politics 200)

## 国際関係研究 I

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

### 【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム (アプローチ) であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans) のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ (プライベートレゾーム)	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編 (2013) 『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

### 【参考書】

毛利聡子 (2011) 『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業内討論への参加度、授業後課題) 50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

・学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

### 【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARFS200GA (地域研究 (東南アジア) / Area studies(Southeast Asia) 200)

## 国際関係研究Ⅱ

### 松本 悟

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ (メコン流域国の開発と環境 (社会と自然))

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域/メコン河流域国/大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

#### 【到達目標】

- 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- 反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面を実施する。

■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は必ず1回発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。

■発表担当者：履修人数にもよるが1人もしくは複数の履修者で毎回担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か (メコン全体)	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題 (中国、ラオス、タイ)	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジュメ論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの (ラオス、タイ)	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」 (メコン全体)	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学 (タイ、ラオス)	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題 (ミャンマー)	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源 (カンボジア)	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害 (カンボジア、ベトナム)	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引 (タイ、ミャンマー)	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界 (メコン全体)	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。
12	重複の機能 (メコン全体)	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。

13	歴史から考えるメコン開発 (メコン全体)	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任 (メコン全体)	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってこよう。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

特になし

#### 【参考書】

授業の中で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム (Hoppii) に自己登録すること。

#### 【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること (smatsumoto[at]attマーク[hosei.ac.jp])。

■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の演習 (ゼミ) とは異なる学びがある。

■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

##### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

##### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

## 実践国際協力

### 松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えている。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心に上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

#### 【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース(事例)をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

全員、授業前にケース(事例)文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

山口しのぶ・毛利勝彦編(2011)『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

#### 【参考書】

W.エレット(2010)『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、1つのケースに授業2回分を充てることを検討する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム(Hoppi)を使う。

#### 【その他の重要事項】

■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること(smatsumoto[at]hosei.ac.jp)。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

##### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

##### 【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

##### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

ECN300GA (経済学 / Economics 300)

## 途上国経済論

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

### 【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppiiを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：開発途上国とは。 途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。

第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）  
正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

**【Outline (in English)】**

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

OTR200GA (その他/Others 200)

## インターンシップ事前学習

岩下 弘史

配当年次/単位：2～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師が登場する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が大きいものであることを理解するでしょう。

またそうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

### 【到達目標】

1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。

2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。

3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。

・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。

・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は本授業担当教員までメールで連絡ください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	シムカート・ピョロン氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンペーン担当）	社会を変える力を見つける
第3回	山崎はずむ氏（株式会社Poetics、代表取締役）	スタートアップとPoetics：科学と人文知で「共感」に基づくテクノロジーを創造する
第4回	三木陽介氏（毎日新聞社、人事本部）	報道の仕事

第5回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、所長代理）	総合商社とは何か
第6回	田中義樹氏（株式会社テレビ朝日、広報局お客様フロント部、部長）	テレビを取り巻く環境の変化、そこに生まれるビジネスチャンス
第7回	水野義弘氏（ANA総合研究所、主席研究員）	エアラインビジネス
第8回	松山匡延氏（M-wing 国際協力事業における教育分野合同会社、代表）	での活動について
第9回	藤下超氏（NHK、メディア総局、特別主幹）	公共メディアの未来
第10回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG部門ESG戦略部、ESG戦略スペシャリスト）	Kirei Lifestyle Plan：花王のESG戦略と具体的取組
第11回	代鳥裕生氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYAのSDGsビジネス
第12回	大城勝浩氏（株式会社朝日広告社、DXメディア本部長）	広告会社のホンシツ
第13回	神野育氏（株式会社明石書店、編集部、部長）	出版の今——縮む世界と広がる世界
第14回	片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、ITサービスインテグレーション本部 兼 広報部、リードエンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

- ・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

### 【参考書】

- ・随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席&コメントシート）60%」と「期末レポート40%」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

- ・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については授業時に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

### 【学生が準備すべき機器他】

- 資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用することがあります。

### 【その他の重要事項】

- ・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。

・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団  
体で勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分  
析・企業研究などを行います。

**【Outline (in English)】**

This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位  
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2  
 備考（履修条件等）：環コ7：経  
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生

第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥日清食品	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：カップめん開発
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑦ミツカン	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	製品開発戦略 ケーススタディ⑨ジブリ	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：アサヒが業界トップになった要因
第13回	SDGsとESG投資	SDGsの概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方
第14回	シェアリングエコノミー時代の企業経営とは 日経ストックリーグへの挑戦	リーフドリブン消費者の台頭 と共感を呼ぶ経営とは何か 学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年  
 長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年  
 Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan  
 長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年  
 長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年  
 長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年  
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年  
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15%  
 期末レポート：85%  
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

**【関連資格】**

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

**【最近の主要業績】**

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

**【Outline (in English)】**

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

## ビジネスストーリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係やSDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、就職活動などが必要とされる企業研究のポイントについて説明します。

### 【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、①企業のパーパス（存在意義）、②事業活動を通じて長年培ってきた「知の蓄積」の実像、③SDGsを先取りしたビジネスを理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義や企業価値を的確に評価する知識を身につけます。併せて、就職活動で必須となる企業研究の方法論を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。現代企業に求められているE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）が、実際の企業活動の中でどのように実践されているのかを説明します。対面授業を基本としつつ、状況に応じてオンデマンド授業を交えながら講義を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 伊庭貞剛 [住友財閥]	ビジネスストーリーを学ぶ意義 「自利利他公私一如」の事業精神
第2回	鈴木馬左也 [住友財閥]	「以德招利」の経営
第3回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	経済と道徳の両立を目指した社会企業家
第4回	金原明善 [金原治山治水財団]	日本版ソーシャルビジネスの先駆者
第5回	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ [近江兄弟社]	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第6回	高峰譲吉 [三共商店・現第一三共]	研究とビジネスを両立させたバイオベンチャーの先駆者
第7回	豊田佐吉 [豊田式織機・現トヨタグループ]	ニンベンのついた自動化を目指したイノベーション
第8回	鈴木道雄 [鈴木式織機・現スズキ]	社会の変化からオポチュニティを掴む経営構想力
第9回	大原孫三郎 [倉敷紡績・クラレ]	「労働理想主義」の実践
第10回	波多野鶴吉 [郡是製糸・現グンゼ]	「人財マネジメント」を通じた価値創造

第11回	矢野恒太 [第一生命]	相互主義による生命保険事業の確立
第12回	各務謙吉 [東京海上]	リスクマネジメント通じた社会課題の解決
第13回	島津源蔵 [島津製作所]	科学技術は社会の未来を創る所]
第14回	伊藤忠兵衛 [伊藤忠商事]	「三方よし」の経営

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と教科書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などを参照して、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長谷川直哉『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文真堂,2021年  
毎回、レジュメを配布します。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年  
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan  
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年  
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ』文真堂, 2016年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂, 2013年  
長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会, 2005年

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート：50%

期末レポート：50%

中間および期末レポートは教科書に掲載した企業家について課題を設定します。講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

#### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

#### 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

### 【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

**【Outline (in English)】**

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this class, I will explain how corporate management in the 21st century should be based on changes in the external environment, such as the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the transition to a sustainable society.

This class aims to equip students with the knowledge to accurately evaluate the social significance of corporate activities and corporate value, which are being questioned in today's society.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on mid-term report (50%) and final report (50%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

## CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コ7：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

## 【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するのか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	脱炭素革命（パリ協定）の意義	パリ協定の本質とは何か 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則とESG投資	責任投資原則が機関投資家の投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向①	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	サステナブルマネーの動向②	経営構造の変革を迫るアクティビストの狙い

第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	コーポレートガバナンスコードの改訂と東証市場再編の意義
第13回	企業経営とサステナビリティの相克	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	サステナブルストーリーの構築	ブリードグリーン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30%（2社分）

期末試験： 70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

## 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

## 【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

## 【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

実務経験のある教員による授業科目 発行日：2024/5/1

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

## CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

### 【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会における企業倫理の形成 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会における企業倫理の形成 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	コーポレートガバナンスコード&東証市場再編とガバナンス構造の変革

第10回	ESG経営の最新動向「環境編」	脱炭素時代の企業評価のあり方（炭素利益率）
第11回	ESG経営の最新動向「社会編」	ダイバーシティ、人権、働き方改革の実態
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	シェアリング・エコノミーの台頭と企業経営	大量消費時代の終焉とサブスクリプションビジネスの台頭
第14回	SDGs時代に求められるパーパス経営	パーパス（存在意義）を起点にした経営構造改革の方向性

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

### 【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年  
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年  
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan  
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年  
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

### 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2社分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

### 【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

### 【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位  
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5  
 備考（履修条件等）：環コ：経、グ  
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

### 【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppiiを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：開発途上国とは。 途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。

第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
 渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）  
 大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

**【Outline (in English)】**

**[Course Outline]**

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

**[Learning Objectives]**

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

**[Learning Activities outside of classroom]**

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria/Policy]**

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## 途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位  
 開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5  
 備考（履修条件等）：環コア：経、ゲ  
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

## 【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppiiを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：途上国経済を見る 目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
 渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）  
 大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コA：経、G

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

### 【到達目標】

本講義を通じて学生は、1）国際協力に関する基礎的な知識を獲得することができる。それら基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。2）これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、各自が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。3）加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。

第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをとに理解する。
第10回	開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
第12回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	開発協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が開発協力を行う理由	日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）  
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）  
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

**【Outline (in English)】**

**[Course Outline]**

This is the first part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

**[Learning Objectives]**

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

**[Learning Activities outside of classroom]**

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria/Policy]**

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考(履修条件等)：環コア：経、ゲ

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標 (SDGs) の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

### 【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標 (SDGs)」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標 (SDGs)」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力 (1) NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力 (2) 企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。

第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行 (バングラデシュ) を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ (1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ (2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード (1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か?	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード (2)：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動 (地球温暖化) を中心に	気候変動 (地球温暖化) を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標 (SDGs) と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

松本勝男著 (2023年)『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』(ちくま新書)  
 牧田東一編著 (2013年)『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』(学陽書房)  
 勝間靖編著 (2012年)『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)  
 斎藤文彦 (2005年)『国際開発論』(日本評論社)  
 外務省 (毎年発行)『日本の開発協力』(ODA白書)

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート (20%) と期末試験 (80%) による。

### 【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

**【Outline (in English)】**

**[Course Outline]**

This is the second part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

**[Learning Objectives]**

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

**[Learning Activities outside of classroom]**

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria/Policy]**

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1~4年/2単位  
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3  
 備考(履修条件等)：定員制RSP履修不可  
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回~第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回~第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。
- \*第1回~第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
- \*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散~集約	アイデアの発散~集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・第2回~第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)
- ・第5回~第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)
- ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

- ◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。
- ◎RSP生は、本科目は履修不可です。火曜2限のファシリテーション論(C2240)を受講してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SOS300HA (その他の社会科学 / Social science 300)

## ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つづつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。海洋漂着ゴミ、プラスチック、マイクロプラスチック、干潟や海藻の役目、農業問題、日常生活に潜む環境汚染等。そして人体への影響等を解析。

## 【到達目標】

海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果、現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農業等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう慮るかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

主にPPTを使用しDVD視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。また動画配信にリアルタイムのディスカッションなどを組み合わせる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。『概要』
4	海洋ゴミ問題②	講義3に続き、海洋ゴミ問題に関しますが、深く掘り下げデータ共有いたします。
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を探ります。
7	マイクロプラスチック	5mm以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海草 アマモ	海草の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の1年の活動を振り返ります。
12	海藻 ワカメ	海藻 その役目と海洋環境改善策を探ります。

13	農業	農業がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	1～13までの総括を行います

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『授業前・授業後に各2時間ずつ』復習に関しては、講義内で使用したPPT等を参考の上、改めて見直しする必要があり、最後のレポート提出には、各講義における見直しは不可欠と判断いたします。ただし講義毎に講義テーマが変わり、多岐にわたる内容から講義一つ一つをすべて完全理解することはかなり難しいと判断しております。

## 【テキスト（教科書）】

ありません。

## 【参考書】

ありません。

## 【成績評価の方法と基準】

13回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第14回）にレポートを回収し評価といたします。成績評価はこのレポートのみ。レポートで100%評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

## 【その他の重要事項】

ありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、海洋環境改善活動を40年以上行ってきた経験があり、他校においても講師の経験を保有している。

平成24年（2012年）長年にわたり社会に奉仕する活動に授与される緑綬褒章を受章している。

平成20年（2008年）～平成23年（2011年） 横浜国立大学教育学部付属横浜小学校「海洋環境教育」臨時講師

平成25年（2014年）～平成26年（2015年）&平成28年（2017年）横浜国立大学教育人間科学部「理科教育講座」兼任講師

## 【Outline (in English)】

Deteriorating marine environment, global environment. I would like to analyze the causes one by one, identify the current problems, and draw out ideas for leaving a clean and affluent earth and ocean for the future. Analyzes marine debris, plastics, microplastics, the role of tidal flats and seaweed, pesticide problems, environmental pollution hidden in daily life, and the effects on the human body. (Learning Objectives) Countless micro plastics floating in the ocean.

How the plastic affects living things

How will it affect us?

And as a result, we will find out what is happening now. Explore the problems of marine debris, garbage, plastics, plasticizers (additives), pesticides, etc., and learn how to think about your future environment in the future. (Learning activities outside of classroom) Regarding the review of "2 hours each before and after class", it is necessary to review it again with reference to the PPT etc. used in the lecture, and it was judged that the review in each lecture is indispensable for the final report submission. increase. However, the theme of the lecture changes from lecture to lecture, and we judge that it is quite difficult to fully understand each lecture from a wide variety of contents. (Grading Criteria/Policy) In the 13th lecture, the report assignment will be announced, and the report will be collected and evaluated in the final lecture (14th). Grade evaluation is only for this report. 100% rated in the report

SSS300HA (社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300)

## 災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コ7：口

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

### 【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるためにZoomも利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第3回	身近な景観と災害＝理科2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういった備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

第7回	東日本大震災後の災害政策の今=これからの備え=「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家はどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。	第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持続するのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでOK。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号（東日本台風）、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。			<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。			<b>【テキスト（教科書）】</b> 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。 <b>【参考書】</b> 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。 <b>【成績評価の方法と基準】</b> 平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリাবে授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験（試験レポート）評価40%。 <b>【学生の意見等からの気づき】</b> 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間をもちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。 <b>【学生が準備すべき機器他】</b> 学習支援システムの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でリアクションペーパーの提出を求める。試験課題なども学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。

**【実務経験のある教員による授業】**

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
- 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

**【Learning Objectives】**

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.  
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

**【Grading Criteria /Policy】**

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

## ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考(履修条件等)：定員制RSP優先

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

### 【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。
- \*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
- \*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)
  - ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)
  - ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

### 【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

### 【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

### 【その他の重要事項】

- ◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。
- ◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生(含むRSP生)を優先的に受け入れます。

**【実務経験のある教員による授業】**

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

## ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

### 【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。
- \*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
- \*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)
  - ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)
  - ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

### 【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

### 【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

### 【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心とした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

**【実務経験のある教員による授業】**

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

BAB200HA (基礎生物学 / Basic biology 200)

## サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

## 【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態
第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁

第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで見にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

## 【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA (デザイン学/Design science 300)

## 自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コ7：口、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

### 【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント

第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明理解を促していきます。

### 【その他の重要事項】

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしてしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA (デザイン学/Design science 300)

## 自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

## 【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのピオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ3	欧州の農業環境政策、環境支払い

第9回	国際的な取り組み1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み2	ワシントン条約と生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み
第13回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第14回	生物多様性と政策	生物多様性オフセット、ピオトープ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとして行っていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

## 【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

## 環境科学 I

藤倉 良

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考 (履修条件等)：環ア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

### 【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染 (ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト)
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁 (富栄養化のメカニズム、工場排水の処理)
- ・土壌汚染 (原因、対策技術)
- ・廃棄物 (法律上の定義と現状)
- ・リサイクル (意義と現状)
- ・基準の決め方 (リスク論と基準の決定方法)
- ・環境アセスメント (法制度、具体例)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキスト (下記参照) とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (序章)	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1 (第1章)	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2 (第1章)	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道 (第2章)	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽 (第2章)	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁 (第3章)	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染 (第3章)	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭 (第4章)	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音 (第4章)	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1 (第5章)	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2 (第5章)	産業廃棄物

第12回	リサイクル・(第5章)	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方 (第6章)	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント (第12章)	法制度、手続き、事例

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

### 【参考書】

藤倉良 (2015) 環境学は総合格闘技? 人間環境論集, 第16巻, 第1号, pp.71-85

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

### 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

### 【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁 (現環境省) で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

### 【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

## 環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第8回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第9回	気候変動・6（第8章）	適応策
第10回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第11回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と期末試験(70%)で行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

## 【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

## 環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

### 【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特にありません。

### 【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

### 【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

### 【Outline (in English)】

This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア ①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア ②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア ③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法 ①	精神障害に対する栄養療法の実践について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法 ②	精神障害に対する栄養療法の実践について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年  
参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

適宜紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

## 【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

## 【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

## 自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環Ⅲ：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探索するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

### 【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

## 研究会A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2024年度は、「環境（と開発）」がテーマです。持続可能な社会の構想には、「環境保全」という要素が欠かせません。一方で開発途上国では経済成長や生活水準向上のために、環境に後戻りできない影響を与える開発が引き続き求められています。それらを単純に環境破壊だと批判することは適切でしょうか。環境保全と経済開発や貧困削減の両立をどのように考えるべきか、先進国と途上国でそれらに違いはあるのか、そもそもなぜ環境を守る必要があるのか、といった問いについて考えていきます。

本セミナーは持続可能な開発目標（SDGs）全体に関わりますが、とりわけゴール13,14,15と深い関係にあります。

## 【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき、随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	基礎文献の輪読（1）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読（2）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読（3）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読（4）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読（5）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読（6）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	グループディスカッション 課題1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	グループディスカッション 課題2-2	グループ発表および全体ディスカッション

第12回	グループディスカッション 課題3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	グループディスカッション 課題3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第15回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	グループディスカッション 課題4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第17回	グループディスカッション 課題4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第18回	グループディスカッション 課題5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第19回	グループディスカッション 課題5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第20回	グループディスカッション 課題6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第21回	グループディスカッション 課題6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション 課題7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	グループディスカッション 課題7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第24回	グループディスカッション 課題8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第25回	グループディスカッション 課題8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第26回	グループディスカッション 課題9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第27回	グループディスカッション 課題9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

## 【参考書】

研究会において紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

## 【Outline (in English)】

【Course Outline】

The theme for FY2024 is "Environment (and Development)". Environmental conservation is an essential element in the conception of a sustainable society. On the other hand, developing countries continue to require development that has an irreversible impact on the environment in order to achieve economic growth and improve living standards. Is it appropriate to criticize them as simply destroying the environment? We will consider questions such as how to balance environmental conservation with economic development and poverty reduction, whether there are differences between developed and developing countries, and why it is necessary to protect the environment in the first place.

This seminar is concerned with the Sustainable Development Goals (SDGs) as a whole, but especially with Goals 13, 14, and 15.

[Learning Objectives]

The goal of this seminar is to enable students to (a) view the debate on development and environmental conservation from a broad perspective, (b) formulate their own opinions and communicate them to others, and (c) imagine and envision a sustainable society for the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会 A

長谷川 直哉

配当年次/単位：2~4年 / 4単位  
 開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4  
 備考(履修条件等)：定員制  
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代企業論、ビジネスストーリー、CSR論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs (持続可能な開発目標)、パリ協定 (脱炭素)、CSR (企業の社会的責任)、Business Ethics (企業倫理) 等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】

SDGsやESG投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経STOCKリーグのレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGsおよびESG投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得を図りディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグではSDGsへの取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルのESG投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes  
 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方
	日経STOCKリーグ	日経STOCKリーグの説明
	研究会修了論文	卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	日経STOCKリーグ第1回テーマ報告	テーマの方向性についての報告と討議
第7回	ESG投資に関する文献購読①	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第8回	ESG投資に関する文献購読②	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議

第9回	コーポレートガバナンスに関する文献購読①	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第10回	コーポレートガバナンスに関する文献購読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第11回	日経STOCKリーグ第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と討議
第12回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第13回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第14回	日経STOCKリーグ第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第15回	日経STOCKリーググループ中間報告①	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第16回	日経STOCKリーググループ中間報告②	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第17回	研究会修了論文中間報告①	論文テーマ・論文構成の報告と討議
第18回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第19回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第20回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第21回	日経STOCKリーググループ中間報告③	ポートフォリオ企業の選定状況報告
第22回	日経STOCK(企業訪問①)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第23回	日経STOCK(企業訪問②)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第24回	日経STOCK(企業訪問③)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第25回	日経STOCKリーググループ中間報告④	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第26回	研究会修了論文中間報告②	論文構成および内容の報告と討議
第27回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート執筆状況の報告
第28回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業のSDGs活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年  
 長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
 長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
 Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan  
 長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
 長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年  
 日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (30%) ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容  
日経ストックリーグレポート (70%)

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてパソコンを使用します。

**【関連の深いコース】**

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

**【実務経験】**

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

**【関連資格】**

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

**【最近の主要業績】**

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

**【Outline (in English)】**

Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.

Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

## 研究会A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／4単位  
 開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3  
 備考（履修条件等）：定員制  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりを視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

### 【到達目標】

- 以下の4点を身に付けます。
- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
  - ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
  - ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
  - ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ宿泊とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義

第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

### 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

**【Outline (in English)】**

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

研究会B

武貞 稔彦、竹本 研史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2024年度は、「多様性」と「寛容」について考えます。現代社会では、多様な他者との共生が必要です。特に日本では、少子高齢化を背景として、労働力確保のために外国人労働者の増加が期待されています。しかし一方で、移民には消極的な政策を実施しています。そのような背景の中、実際にどうすれば多様性に富む寛容な持続可能な社会が可能になるのか、外国とつながりのある人々との共生を中心に考えていきます。持続可能な開発目標 (SDGs) の Goal 17 パートナーシップに直接関わる内容となります。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見をもちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像・構想できるようになることを目標とします。

特に今年度のテーマに関しては、①「多様性」、「寛容」、「多文化共生」といった概念とその来歴について理解する、②現実の生活における「共生」と個々人の関わり (関わる出来事) を抽出し再考する、③よりよい未来のために必要な「多様な社会の実現」と個人の関係のあり方について何らかの考えや価値観を持つ、ということに重点を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方 (予定) について概説する。
第2回	何が「問題」か?	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第3回	誰にとって「問題」か?	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第4回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(1)

第5回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (3)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2 (日本における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2 (日本における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題3 (先進国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題3 (先進国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (3)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(3)
第14回	「多様性/寛容/多文化共生」とは?	春学期の学びの総括を行う。
第15回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	「問題」を「解決する」とは? (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第17回	「問題」を「解決する」とは? (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第18回	「問題」の捉え方を学ぶ	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方フレーミングについて学ぶ。

第19回	グループディスカッション課題5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第20回	グループディスカッション課題5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第21回	グループディスカッション課題6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第22回	グループディスカッション課題6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第23回	グループディスカッション課題7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第24回	グループディスカッション課題7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第25回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第26回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第27回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第28回	年間の学びの総括	「多様性／寛容／多文化共生」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当者のうち1名は、途上国への経済協力の実務に携わり、多様性に富む社会（たとえばインド、インドネシア、トルコ、アメリカ、ドイツ）での居住／勤務経験がある。本研究会においては、それらの経験で得られた知見が活用されている。

**【Outline (in English)】**

**[Seminar Outline]**

In 2024, we will consider "diversity" and "tolerance. In modern society, we need to coexist with diverse others. Particularly in Japan, against the backdrop of a declining birthrate and an aging population, policies are being implemented to increase the number of foreign workers in order to secure a workforce, but with a reluctance toward immigration. Against this backdrop, we will consider how we can actually create a diverse, tolerant and sustainable society, focusing on coexistence with people who have ties to foreign countries. The content will be directly related to the Goal 17 partnership of the Sustainable Development Goals (SDGs).

**[Learning Objectives]**

Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept "diversity", "tolerance", and "multiculturalism" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to construct a sustainable society.

**[Learning Activities outside of classroom]**

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria/Policy]**

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定のテキストはありません。

**【参考書】**

研究会において紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

研究会での議論への貢献（70%）、期末レポート（30%）にて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを確保することと、個々人の成長の確認方法について工夫を加えたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会B

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このゼミでは、SDGs (持続可能な開発目標)、CSR (企業の社会的責任)、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG投資 (サステナブル投資) など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値の構成要素について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、ESG投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSRおよびBusiness Ethics (企業倫理) に関する文献の輪読を行いストックリーグに必要な知識を習得し、学外の懸賞論文に応募します。秋学期はCSR構想インターゼミナール、日経ストックリーグに参加します。ESG情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルデータに基づく論文執筆やファンドの組成を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ゼミスケジュール	ゼミの進め方 日経STOCKリーガの取組方針と学外の懸賞論文への応募方針の確認
第2回	サステナビリティ経営に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	サステナビリティ経営に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	サステナビリティ経営に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	サステナビリティ経営に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	懸賞論文の中間報告①	論文テーマの方向性と問題意識についての報告と討議
第7回	コーポレートガバナンスに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第8回	デジタルトランスフォーメーションに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議

第9回	経営戦略論に関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第10回	懸賞論文の中間報告②	論文の進捗状況報告と討議
第11回	証券投資論に関する基本文献の講読①	担当者による報告と討議
第12回	証券投資論に関する基本文献の講読②	担当者による報告と討議
第13回	財務分析に関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第14回	懸賞論文の中間報告③	論文の進捗状況報告と討議
第15回	懸賞論文の最終報告	完成論文の発表と討議
第16回	日経ストックリーグ中間報告①	レポートテーマの方向性と問題意識についての報告と討議
第17回	日経ストックリーグ中間報告②	レポートテーマの確定とスクリーニングプロセスの検討
第18回	企業ヒアリング準備	ヒアリング調査項目の内容検討
第19回	日経ストックリーグ中間報告③	スクリーニング結果の報告と討議
第20回	企業ヒアリング報告①	ヒアリング結果の報告と討議
第21回	日経ストックリーグ中間報告④	ヒアリング結果を踏まえた企業評価の検討
第22回	企業ヒアリング報告②	ヒアリング結果の報告と討議
第23回	日経ストックリーグ中間報告⑤	スクリーニングプロセスと企業評価の検討
第24回	企業ヒアリング報告③	ヒアリング結果の報告と討議
第25回	日経ストックリーグ中間報告⑥	ポートフォリオ企業の決定と組入比率の検討
第26回	他大学とのインターゼミの発表準備①	発表内容の報告と討議
第27回	他大学とのインターゼミの発表準備②	発表内容の報告と討議
第28回	懸賞論文 / CSRインゼミ / 日経ストックリーグの結果報告	1年間のゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業のSDGs活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年  
 長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年  
 長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年  
 Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan  
 長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年  
 長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年  
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年  
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年  
 日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

レポート（70%）

学外の懸賞論文および日経ストックリテラシーレポートの内容

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてパソコンを使用します。

**【実務経験のある教員による授業】**

**【実務経験】**

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

**【関連資格】**

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

**【最近の主要業績】**

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

**【Outline (in English)】**

This seminar focuses on the importance of non-financial information on corporate activities, such as SDGs (Sustainable Development Goals), CSR (Corporate Social Responsibility), stewardship code, corporate governance code, and ESG investment (sustainable investment), to learn about the corporate image required in a sustainable society and the components of corporate value.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

## 研究会A

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

### 【到達目標】

以下の4点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義

第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

### 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ(春期)及びⅡ(秋期)」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ(生態学)」(春期)と「自然環境論Ⅳ」(秋期)の履修を推奨します。

### 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、環境サイエンスコース

### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員(国家・地方)、独立行政法人(研究機関)、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

**【Outline (in English)】**

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

## 研究会B

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考 (履修条件等)：定員制CESゼミ

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

## 【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力 (コンサルtant力・デザイン力) を高めます。

併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムであるCES (千代田エコシステム) への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

①グループ研究…半期に2～3テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定→情報収集→分析評価→伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。

②個人研究1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。

③個人研究2…個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。

④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。

⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせで持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通じて、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	基礎学習1 (テーマ1)	テーマ1に関する基礎知識の習得
第3回	基礎学習2 (テーマ1)	テーマ1に関する基礎知識の習得
第4回	基礎学習3 (テーマ2)	テーマ2に関する基礎知識の習得

第5回	基礎学習4 (テーマ2)	テーマ2に関する基礎知識の習得
第6回	フィールド学習1	現地調査1
第7回	グループ研究1	緑地に関するグループ討議
第8回	グループ研究2	緑地に関するグループ討議・発表
第9回	グループ研究3	水辺に関するグループ討議
第10回	グループ研究4	水辺に関するグループ討議・発表
第11回	フィールド学習2	現地調査2
第12回	グループ研究5	生物に関するグループ討議
第13回	グループ研究6	生物に関するグループ討議・発表
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	グループ研究7	認証と評価に関するグループ討議
第17回	グループ研究8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第18回	グループ研究9	計画とデザインに関するグループ討議
第19回	グループ研究10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第20回	フィールド学習3	現地調査3
第21回	個人研究1	テーマ検討と意見交換
第22回	個人研究2	研究構成の検討と意見交換
第23回	個人研究3	研究のブラッシュアップ
第24回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第25回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第26回	個人研究成果の発表1	研究結果の発表と討論1
第27回	個人研究成果の発表2	研究結果の発表と討論2
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

## 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員 (国家・地方)、独立行政法人 (研究機関)、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.

- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

The goals of this class are to acquire wide/ deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society

武貞 稔彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya  
 毎年・隔年： | 科目主催学部：人間環境 Sustainability Studies  
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a course on "International Development" and "Development Assistance". Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as an efficient tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. This class focuses on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting special emphasis on Japan's role in the international society.

### 【到達目標】

Completing the course, students are expected;  
 1) to better understand poverty and inequality in the current globalized world,  
 2) to acquire basic knowledge on international development efforts,  
 3) to understand each actor's role and responsibility in development efforts, and 4) to have an idea for more equal world structure.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3" is related

### 【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Classes consist of lectures and discussion. Students presentation based on assigned reading will be included. As the class will be held in seminar style, active contribution from students are expected.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at regarding the COVID-19. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course introduction - What is poverty? What is inequality? Why do poverty and inequality matter?
Week 2	History and Background of International Development 1	Industrial Revolution, Great Diversion and Modernization
Week 3	History and Background of International Development 2	International development efforts after the World War II

Week 4	History and Background of International Development 3	International development efforts in the 21st century and the Sustainable Development Goals (SDGs)
Week 5	Development Assistance	What is development assistance? Who is responsible for it?
Week 6	Japan's Development Assistance	Very short history of Japanese economic development and Japan's contribution to international development efforts
Week 7	New actors in development efforts	NGOs and business community in development
Week 8	Global trend in international development 1	Economic development and human development
Week 9	Global trend in international development 2	Environment, Sustainability and Development
Week 10	Thematic issue 1	Gender, Micro-finance and Grameen Bank
Week 11	Thematic issue 2	Fair Trade
Week 12	Thematic issue 3	COVID-19 and development
Week 13	The effect and impact of development efforts	Does international development assistance really work?
Week 14	Summary of the Course	Why do we aid?

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are required to complete reading assignments before the class and to submit short writing assignments provided in the worksheet. Occasional reflection sheets should be also submitted in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

Particular textbook is not assigned. Materials prepared by the lecturer will be distributed in the class.

### 【参考書】

David Alexander Clark (ed.) "The Elgar Companion to Development Studies" (2007) Edward Elgar Publishing,  
 Michael P. Todaro and Stephen C. Smith "Economic Development"(12th Edition) (The Pearson Series in Economics)(2014) Pearson

Websites of following organizations

- The World Bank
- The United Nations Development Programme
- The Ministry of Foreign Affairs, Japan

### 【成績評価の方法と基準】

In class contribution 20%  
 Reading and Writing assignments 30%  
 Term paper 50%

(In case if the class will be delivered on-line basis, the grading criteria may be adjusted. Details will be notified in the Hoppii, at the beginning of the spring semester if necessary.)

### 【学生の意見等からの気づき】

The lecturer will make further efforts to accommodate discussion and make necessary feedback to students.

### 【Career background of the lecturer】

The lecturer has working experience in the field of economic cooperation for developing countries. The contents of this course have direct relationship with lecturer's experience and knowledge.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

## Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society

武貞 稔彦

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：金3/Fri.3 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：2～4  
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

### 【Outline and objectives】

This is a course on "International Development" and "Development Assistance". Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as an efficient tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. This class focuses on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting special emphasis on Japan's role in the international society.

### 【Goal】

Completing the course, students are expected;

- 1) to better understand poverty and inequality in the current globalized world,
- 2) to acquire basic knowledge on international development efforts,
- 3) to understand each actor's role and responsibility in development efforts, and 4) to have an idea for more equal world structure.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Among diploma policies, "DP3" is related

### 【Method(s)】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Classes consist of lectures and discussion. Students presentation based on assigned reading will be included. As the class will be held in seminar style, active contribution from students are expected.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at regarding the COVID-19. The details will be announced through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Course introduction - What is poverty? What is inequality? Why do poverty and inequality matter?
Week 2	History and Background of International Development 1	Industrial Revolution, Great Diversion and Modernization
Week 3	History and Background of International Development 2	International development efforts after the World War II
Week 4	History and Background of International Development 3	International development efforts in the 21st century and the Sustainable Development Goals (SDGs)

Week 5	Development Assistance	What is development assistance? Who is responsible for it?
Week 6	Japan's Development Assistance	Very short history of Japanese economic development and Japan's contribution to international development efforts
Week 7	New actors in development efforts	NGOs and business community in development
Week 8	Global trend in international development 1	Economic development and human development
Week 9	Global trend in international development 2	Environment, Sustainability and Development
Week 10	Thematic issue 1	Gender, Micro-finance and Grameen Bank
Week 11	Thematic issue 2	Fair Trade
Week 12	Thematic issue 3	COVID-19 and development
Week 13	The effect and impact of development efforts	Does international development assistance really work?
Week 14	Summary of the Course	Why do we aid?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to complete reading assignments before the class and to submit short writing assignments provided in the worksheet. Occasional reflection sheets should be also submitted in the class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【Textbooks】

Particular textbook is not assigned. Materials prepared by the lecturer will be distributed in the class.

### 【References】

David Alexander Clark (ed.) "The Elgar Companion to Development Studies" (2007) Edward Elgar Publishing,  
Michael P. Todaro and Stephen C. Smith "Economic Development"(12th Edition) (The Pearson Series in Economics)(2014) Pearson

Websites of following organizations

- The World Bank
- The United Nations Development Programme
- The Ministry of Foreign Affairs, Japan

### 【Grading criteria】

In class contribution 20%

Reading and Writing assignments 30%

Term paper 50%

(In case if the class will be delivered on-line basis, the grading criteria may be adjusted. Details will be notified in the Hoppii, at the beginning of the spring semester if necessary.)

### 【Changes following student comments】

The lecturer will make further efforts to accommodate discussion and make necessary feedback to students.

**【Career background of the lecturer】**

The lecturer has working experience in the field of economic cooperation for developing countries. The contents of this course have direct relationship with lecturer's experience and knowledge.

ENV200HA (環境保全学 / Environmental conservation 200)

## Environmental Science

藤倉 良

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
 曜日・時限：木5/Thu.5 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya  
 毎年・隔年： | 科目主催学部：人間環境 Sustainability Studies  
 備考（履修条件等）：  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Environmental problems are the physical, chemical, and/or biological effects of human activities on nature. Scientific knowledge is critical to understanding what is happening and thinking about what we can do about it. I will introduce the basic science of global environmental and resource issues in this course.

### 【到達目標】

Students will acquire the basic knowledge of the environment and resource problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3" is related

### 【授業の進め方と方法】

The class will be conducted using PPT. A copy of the PPT will be uploaded to Hoppii in PDF format before the class. A short quiz will be given at the end of each class. Feedback on the quiz will be given in the next class. Details will be announced in Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Contents of the course.
Week 2	Climate science (1)	The Earth has been warmed. Greenhouse gases lead the warming. Humans are increasing atmospheric greenhouse gases.
Week 3	Climate science (2)	Global warming since the late 20th century is not natural but due to anthropogenic. Impact of climate change.
Week 4	Climate policy	International policy and Japanese policy.
Week 5	Mitigation	Economic instrument, alternative energy, energy saving, and other measures.
Week 6	Adaptation	Various measures.
Week 7	International Agreements.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 8	Energy resources	Fossil fuels, hydro, nuclear, and alternative energy.
Week 9	Climate Security	The impact of climate change on international security.
Week 10	Water resource	Availability and demand of water in the world.
Week 11	Water resource	International waters.
Week 12	Plastic waste	Definition, Use and Waste Management

Week 13 International environmental cooperation Contribution of international organizations and the Japanese government to developing countries.

Week 14 Wrap up How should we address environmental and resource issues?

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using material provided through the Hoppii.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

No specific textbooks are assigned.

### 【参考書】

A copy of assigned paper will be distributed in class.

### 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on the result of the weekly quiz and (30%) and final exams (70%).

### 【学生の意見等からの気づき】

Be aware that the lecturer is not a native English speaker. If you do not understand what the teacher says well, simply make a question.

### 【学生が準備すべき機器他】

None

### 【Prerequisite】

None

### 【Selected lecturer's publications (books and special issues)】

1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development - Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

### 【Career background of the lecturer】

The lecturer has working experience at Japanese Environment Agency (currently Minister of the Environment) as a national officer. He also participated in Japanese official development assistance and formulation of Convention on Biodiversity Conservation. He will give lectures with the experience.

ENV200HA (環境保全学 / Environmental conservation 200)

## Environmental Science

藤倉 良

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 木5/Thu.5 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4

Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈実〉

### 【Outline and objectives】

Environmental problems are the physical, chemical, and/or biological effects of human activities on nature. Scientific knowledge is critical to understanding what is happening and thinking about what we can do about it. I will introduce the basic science of global environmental and resource issues in this course.

### 【Goal】

Students will acquire the basic knowledge of the environment and resource problems.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Among diploma policies, "DP3" is related

### 【Method(s)】

The class will be conducted using PPT. A copy of the PPT will be uploaded to Hoppii in PDF format before the class. A short quiz will be given at the end of each class. Feedback on the quiz will be given in the next class. Details will be announced in Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Contents of the course.
Week 2	Climate science (1)	The Earth has been warmed. Greenhouse gases lead the warming. Humans are increasing atmospheric greenhouse gases.
Week 3	Climate science (2)	Global warming since the late 20th century is not natural but due to anthropogenic. Impact of climate change.
Week 4	Climate policy	International policy and Japanese policy.
Week 5	Mitigation	Economic instrument, alternative energy, energy saving, and other measures.
Week 6	Adaptation	Various measures.
Week 7	International Agreements.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 8	Energy resources	Fossil fuels, hydro, nuclear, and alternative energy.
Week 9	Climate Security	The impact of climate change on international security.
Week 10	Water resource	Availability and demand of water in the world.
Week 11	Water resource	International waters.
Week 12	Plastic waste	Definition, Use and Waste Management
Week 13	International environmental cooperation	Contribution of international organizations and the Japanese government to developing countries.

Week 14 Wrap up

How should we address environmental and resource issues?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to prepare for and review each session by using material provided through the Hoppii.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No specific textbooks are assigned.

【References】

A copy of assigned paper will be distributed in class.

【Grading criteria】

Grades will be based on the result of the weekly quiz and (30%) and final exams (70%).

【Changes following student comments】

Be aware that the lecturer is not a native English speaker. If you do not understand what the teacher says well, simply make a question.

【Equipment student needs to prepare】

None

【Prerequisite】

None

【Selected lecturer's publications (books and special issues)】

1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development - Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Career background of the lecturer】

The lecturer has working experience at Japanese Environment Agency (currently Minister of the Environment) as a national officer. He also participated in Japanese official development assistance and formulation of Convention on Biodiversity Conservation. He will give lectures with the experience.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)		2	(1-1) キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。	
<b>ビジネスキャリア入門D</b>					
基幹科目					
<b>酒井 理</b>					
単位数：2単位   開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3   配当年次：1～4年		3	(1-2) ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。 課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。	
その他属性：〈実〉					
<b>【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】</b> 企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。 本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。		4	(1-3) ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。	
<b>【到達目標】</b> 本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。 ①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと ②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること ③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3点を到達目標とします。		5	(1-4) ビジネスアイデアに関するアドバイスを	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。	
<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】</b>		6	(2-1)アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。 起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。	
<b>【授業の進め方と方法】</b> 14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく3つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1～1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1～2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1～3-4)、です。 受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムーズに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。 課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。 楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思えます。		7	(2-2) ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート1で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。 競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。	
<b>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】</b> あり / Yes		8	(2-3) ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。	
<b>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】</b> なし / No		9	(2-4) ビジネスモデルと戦略に関するアドバイスを	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 相談された課題の改善点などの解説を行います。	
<b>【授業計画】</b> 授業形態：対面/face to face		10	(3-1) ビジネスプランの考え方を	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。 ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。	
回	テーマ	内容	11	(3-2) ビジネスプランを作る	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのかについて話します。 学びに先行して、まず体験から始める意義について説明します。	12	(3-3) ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。

- 13 (3-4) ビジネスプランの講評  
 パート1のアイデア創出、パート2のビジネスモデルと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。  
 提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
- 14 web 試験・まとめと解説  
 ここまでの総括として web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指示はしません。

**【参考書】**

特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらいたいと思います。  
 フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。（『Principles of Marketing 14th edition』）  
 和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。  
 石井淳蔵他『1からのマーケティング（第4版）』2019、碩学舎。  
 スタンフォード大学ハッソ・ブラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリニマネジメントスクール。  
 デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済、沼上幹『新版わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣、2000年。  
 伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社、2003年。  
 エーベル『事業の定義』千倉書房、1992年。  
 H. ミンツバーグ『戦略計画 創造的破壊の時代』産業能率大学出版部、1997年。  
 梶井厚志『戦略的思考の技術 ゲーム理論を実践する』中公新書、2002年。  
 森岡毅、今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか  
 ②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか  
 ③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか  
 以上3点について、Web 試験とビジネスプラン課題によって評価します。

web 定期試験40%、ビジネスプラン課題60%の割合で評価します。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム(Hoppi)、googleclassroomなどを使用します。  
 クリッカー、webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

**【その他の重要事項】**

実務経験のある教員による授業です。  
 実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]**

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

**[Learning Objectives]**

The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued

(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company

(2) Understanding business systems

(3) To be able to apply original ideas to business

Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.

(1) Idea generation part

(2) Strategy building part

(3) Business plan preparation part

**[Learning activities outside of classroom]**

Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.

(1) Understanding of frameworks related to business strategy

(2) Understanding of business systems

(3) To turn your idea into a business.

The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

**生活設計論Ⅱ (生活設計)** 基幹科目

林 奈生子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

人生100年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の理想とする未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大切です。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあり、人生での「幸福感」につながります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのように ①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのか ②どのようにしたら人生の「幸福感」を高められるのか-を考えます。

**【到達目標】**

本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために ①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④自身と仕事・自身と他人のマッチング ⑤未来社会の予測-などについて考え学びます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。

\*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

\*授業での資料の閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。

\*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲載します。教材は各自で授業に持参してください。

\*授業に関する質問は学習支援システムで行ってください。学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設けます。

\*なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システムの【お知らせ】【授業内掲示板】【教材】 ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

\*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報とzoomのURL・ID・パスコードを学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

\*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。また、授業計画の内容は受講生の習得状況などにより変更する場合があります。その場合は、いずれも学習支援システム【お知らせ】に掲載します。  
\*休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～未来の自身を想像してみる～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、将来のなりたい自身の姿を考えてみる。

2	生活設計の考え方と必要性 ～自分らしく、納得できる人生を歩む～	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。 人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係 ～人生にも計画が必要な理由～	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
4	ライフイベントとお金 ～人生設計図を作る～	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方に反映されるのかを知る。
5	お金の使い方と価値観の関係性 ～今の自分を映す家計簿～	予算を立てることの重要性について学ぶ。同時にモノの価格はどのように決まるのかを知る。
6	予算の立て方とモノの価格 ～何もしなければお金は奔放(ほんぼう)に動く～	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターン基礎知識を学ぶ。
7	お金の基本知識と貯蓄型金融商品 ～お金管理のスタートライン～	金融商品の組み合わせ方や借入金金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
8	リスクとリターン ～損得の分かれ道～	賢い消費とは何か。企業目的とわたしたちの消費の関係を消費者行動の観点から学ぶ。
9	自身を守る金融知識 ～後悔しないためのポイント～	仕事と幸福感の関係性やどのように会社を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。また、自身のコミュニケーションスタイルの特徴から他人との関わり方を知る。
10	企業活動から見た消費者 ～わたしたちはなぜ衝動買いをするのか～	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。
11	会社選びと幸福感 ～自身と会社、自身と他人のマッチングはどこで見えるのか～	第12回の研究結果を発表し意見交換をする。
12	研究課題「未来予測2040」	「未来予測2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。
13	研究課題のプレゼンテーション	
14	「未来予測2040」と自身のライフプラン、まとめとレポート提出の説明	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上』とのことですので、準備学習・復習各2時間とします。

**【テキスト(教科書)】**

特になし。必要な場合は授業で紹介いたします。

**【参考書】**

必要な場合は授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価はレポート提出：70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）：30%とします。

レポート提出の詳細は次の通りです。

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の14時50分から翌週水曜日の14時50分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲載します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲載される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出。
6. 留意事項
  - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
  - (2) 学習支援システム【課題】【レポート提出】で閲覧できないレポートは評価対象外となります。
  - (3) 学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
  - (4) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
  - (5) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
  - (6) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
  - (7) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
  - (8) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。

<講義や演習について>

- \*「ザ・キャリアデザイン学部の講義」という感じだった。
- \*本当に必要なものが何かを考えるようになった。
- \*お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。
- \*自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。
- \*就職活動で自分の5年後、10年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題がとても身近に感じた。

<授業運営について>

- \*ストレスのない授業だった。
- \*オンライン授業でも前のめりで受講できた。
- \*他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。

本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそのような授業内容、運営にしたいと考えています。加えて引き続き受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomの共有画面を使用できる機器を用意してください。

**【その他の重要事項】**

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.

**【Learning Objectives】**

In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."

**【Learning activities outside of classroom】**

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria/policy】**

70% for report submission, 30% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (イン 展開科目  
ターン)**

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験 (インターンシップ) に向けた受講生の皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

**【到達目標】**

(インターンシップ準備期間)

- ①インターンシップの意義や目的の理解
- ②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
- ③インターンシップのための事前準備

(インターンシップ中)

- ①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
- ②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること (働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等)
- ③経験を振り返り、教訓にすること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓します。インターンシップは5日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。

開拓に向けた支援 (ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等) は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。

受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の目的と概要、インターンシップとは ②自己紹介
第2回	インターンシップ先開拓経路に関する情報共有とグループワーク	①インターンサイト等に関する情報の共有と交換 ②インターンシップサイトのグループワーク発表
第3回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第4回	自己分析ワーク	①自己分析の実践 ②インターンシップ先開拓に向けたESの書き方

第5回	開拓に向けたグループワーク①意見交換と資料作成	①インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換 ②自身の方針の決定 ③プレゼン資料の作成
第6回	開拓に向けたグループワーク②発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第7回	新卒求人広告に関するグループワーク①説明とグループ分け	①グループワークの目的の共有とグループ分け ②開拓の進捗確認
第8回	新卒求人広告に関するグループワーク②東京都の中小企業の現状と課題	①新卒求人広告に関するグループワークの導入として、東京都の中小企業の現状と課題に関する情報を共有 ②東京都中小企業振興公社との意見交換
第9回	新卒求人広告に関するグループワーク③招聘企業1社目のリサーチ	①招聘企業1社目の求人広告に関するリサーチ ②気付きに関する資料の作成
第10回	新卒求人広告に関するグループワーク④招聘企業1社目とのディスカッション	①学生からの気付きの表明 ②招聘企業1社目の課題説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第11回	新卒求人広告に関するグループワーク⑤招聘企業2社目のリサーチ	①招聘企業2社目の求人広告に関するリサーチ ②気付きに関する資料の作成
第12回	新卒求人広告に関するグループワーク⑥招聘企業2社目とのディスカッション	①学生からの気付きの表明 ②招聘企業2社目の課題説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第13回	新卒求人広告に関するグループワークの振り返りとインターンシップに向けた留意点の共有	①グループワークの振り返り ②インターンシップに向けた留意点
第14回	インターンシップに向けた進捗確認と所信表明	①開拓の進捗確認 ②インターンシップに向けた所信表明

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に向いて面接等を受けることになります。加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特に新卒求人広告に関するグループワークは、招聘企業に関するリサーチや資料作成など、授業時間外でも準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定しません。授業の資料は当日投影しますが、基本的には紙での配布は行いません (手元でご覧になりたい方はノートパソコンなどで見られるようにご準備をお願いいたします)。資料ファイルは必要に応じて、学習支援システムにアップします。

**【参考書】**

授業のなかで必要に応じて紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等)、グループワークの発表 (発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度や内容を含む) により評価します。平常点が50%、グループワークの発表が50%です。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。

発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

#### 【その他の重要事項】

この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したことになります。

この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓することを前提に指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。

相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。

企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

#### 【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

#### 【Outline (in English)】

##### < Course outline >

This course will support students' active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.

##### < Learning Objectives >

1. Learn the significance and purpose of internship
2. Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
3. Preparation for internship

##### < Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

##### < Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contribution(50%), and the group work presentation(50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (プロジェクト)** 展開科目

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習 (プロジェクト)」の両方を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

**【到達目標】**

本授業の目標は次のとおり。

- ①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
  - ②グループワークの進め方を身につける。
  - ③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
  - ④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
- なお、「キャリア体験学習 (プロジェクト)」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
  - ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
  - ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
  - ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本科目および「キャリア体験学習 (プロジェクト)」を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第2回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法を説明する。
第3回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第4回	演習① (課題抽出、整理)	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第5回	演習② (課題解決提案、発表)	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第6回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第7回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第8回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。

第9回	活動計画の作成①	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第10回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第11回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状 (商品ラインナップや技術、販路等) を調査する。
第12回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第13回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第14回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

14回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢 (50点)、中間発表 (50点) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

「1年を通して企業との取り組みから仲間との関係まで幅広く構築できた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。「初めてのことはばかりで失敗もつきものだと学びました」とのコメントより、失敗経験を次に活かせるよう、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

**【その他の重要事項】**

「キャリア体験学習 (プロジェクト)」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。

企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。

協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

**【Outline (in English)】**

**(Course outline)**

In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

**(Learning Objectives)**

The goals of this class are as follows:

- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.
- Learn how to proceed with group work.
- Set project goals and create an implementation plan.
- Start the project and get it on track.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%

Presentation in the 14th class : 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

## キャリア体験学習 (プロジェクト 展開科目)

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」と本科目の両方を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

### 【到達目標】

本科目の目標は次のとおり。

- ①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
  - ②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
  - ③これまでの活動を取りまとめ発表する。
  - ④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
- なお、「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
  - ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
  - ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
  - ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」および本科目を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第2回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第3回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第4回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第5回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第6回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第7回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。

第8回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第9回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションの作り方について説明する。
第10回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第11回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第12回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第13回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第14回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

### 【参考書】

必要に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢 (50点)、成果報告書および成果発表 (50点) により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

「1年を通して企業との取り組みから仲間との関係まで幅広く構築できた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。「初めてのことはばかりで失敗もつきものだと学びました」とのコメントより、失敗経験を次に活かせるよう、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

### 【学生が準備すべき機器他】

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

### 【その他の重要事項】

この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」を履修していることが条件になります。企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。

### 【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will conduct the project and present the results.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.

- End the project so that results can be obtained within the period.
- Summarize the activities and give a presentation.
- Look back on the project and confirm what you have learned.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude toward projects : 50%

Achievement report and final presentation : 50%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**臨床教育相談論 I**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識、児童生徒理解の手法を学ぶ。また、教育現場における問題、課題について理解を深め、現場での教育相談のあり方について考える。

**【到達目標】**

- (1) 教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
- (2) 教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
- (3) 教育現場における問題・課題について理解し、主体的に考える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	人間の発達と課題① ：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
3	人間の発達と課題② ：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
4	教育相談とは何か	教育相談の対象、位置づけ、目的について学ぶ。
5	教育相談における児童生徒理解の手法① ：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
6	教育相談における児童生徒理解の手法② ：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
7	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
8	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に着ける。
9	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
10	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
11	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。

12	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
13	教育相談における連携の重要性：児童虐待、家庭の諸問題、保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。
14	まとめ・振り返り：教育相談のあり方について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前学習 (2時間) として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習 (2時間) として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

**【テキスト (教科書)】**

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

**【参考書】**

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>  
厚生労働省HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>  
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト (40%)、期末レポート (50%)、平常点 (10%) とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の皆さんからの質問について、対面授業の際に出席票に記入していただき、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておください。

**【その他の重要事項】**

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.

The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to the followings:

-A, To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.

-B, To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.

-C, Understand and think independently about problems and issues in the educational field.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

**【Grading Criteria /Policies】** Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して、実践的な内容を学ぶ。児童生徒、保護者との教育相談において留意すべきことを習得し、教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】

- (1) 児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (2) 保護者との教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (3) ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント、プライバシーの保護、守秘義務について学ぶ。
3	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」(観察)	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
4	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
5	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
6	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
7	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
8	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
9	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
10	教育相談のケーススタディ①：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。

11	教育相談のケーススタディ②：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
12	教育相談のケーススタディ③：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
13	教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談	いじめに関する教育相談の実践について事例から学ぶ。
14	まとめ・振り返り：教育相談の実践について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習 (2時間) として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習 (2時間) として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト (教科書)】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

【参考書】

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>  
厚生労働省HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>  
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト (40%)、期末レポート (50%)、平常点 (10%) とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからの質問について、対面授業の際に出席票に記入していただき、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field.

The aim of this course is to learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A, To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.

-B, To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.

-C, Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

実務経験のある教員による授業科目 発行日：2024/5/1

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution:  
10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**キャリアカウンセリングⅢ** 展開科目  
(ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリアカウンセリングの様々な事例(ケース)を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。  
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項ーその独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

**【到達目標】**

- ・キャリアカウンセリングの基礎的事項(その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由)について理解できている。
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
- ①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・前半(第1回～第5回)のキャリアカウンセリングの基礎的事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ(事例検討)は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおこなう。
- ・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
- ・第10回の講義内容(心理アセスメント)に関連して、アセスメントツール(キャリア・インサイト)をキャリア情報ルームにて体験していただく(希望者)。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性(特徴)について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリング誕生の背景、発展の経緯、産業組織における発達史を学ぶ。
第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。

第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方(プロセス)を学ぶ。ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ。若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース(管理職編)を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

「働く人へのキャリア支援ー働く人の悩みに応える27のヒント」  
宮脇優子編著 金剛出版 2015

**【参考書】**

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルスー基礎知識と実践」  
宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業へ参加度及び取り組み姿勢)50%  
期末レポート課題 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業の利点を活かし、グループワークでの意見交換等も取り入れながら、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

**【学生が準備すべき機器他】**

第1回の授業のみオンデマンド授業となります。オリエンテーション・講義資料(パワーポイントPDF)は学習支援システムへの掲載となるため、学習支援システムからの読み取りに情報機器(パソコン、スマートフォン等)が必要になります。

**【その他の重要事項】**

担当教員は、人材採用広告・人事コンサルティング関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての22年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。

上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.

By the end of the course, students should be able to do followings:

– Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.

– Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識 (カウンセリングに関する基礎的事柄等)
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要 (授業の進め方、目標、授業時間内の学習など)、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・第1回「ガイダンス」  
事前学習 (2時間) シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。  
事後学習 (2時間) 授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
- ・第2回「幼児期、児童期の発達」  
事前学習 (2時間) 児童期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第3回「青年期の発達」  
事前学習 (2時間) 青年期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第4回「成人期の発達」  
事前学習 (2時間) 成人期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第5回「カウンセリングの基礎」  
事前学習 (2時間) カウンセリングについて、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
- ・第6回「カウンセリングの技法」  
事前学習 (2時間) カウンセリングの技法について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
- ・第7回「教育相談の進め方」  
事前学習 (2時間) 教育相談の進め方について、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
- ・第8回「非行に関する相談」  
事前学習 (2時間) 非行の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」(Web閲覧可)で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第9回「いじめに関する相談」  
事前学習 (2時間) いじめの現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第10回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、教科書、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第13回「虐待に関する相談」

事前学習（2時間）虐待の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第14回「外部機関との連携」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

#### 【テキスト（教科書）】

『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）

#### 【参考書】

『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省HP「発達障害の理解のために」 <https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」 <https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。  
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でこなう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識 (カウンセリングに関する基礎的事柄等)
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要 (授業の進め方、目標、授業時間内の学習など)、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・第1回「ガイダンス」  
事前学習 (2時間) シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。  
事後学習 (2時間) 授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
- ・第2回「幼児期、児童期の発達」  
事前学習 (2時間) 児童期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第3回「青年期の発達」  
事前学習 (2時間) 青年期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第4回「成人期の発達」  
事前学習 (2時間) 成人期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第5回「カウンセリングの基礎」  
事前学習 (2時間) カウンセリングについて、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
- ・第6回「カウンセリングの技法」  
事前学習 (2時間) カウンセリングの技法について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
- ・第7回「教育相談の進め方」  
事前学習 (2時間) 教育相談の進め方について、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
- ・第8回「非行に関する相談」  
事前学習 (2時間) 非行の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」(Web閲覧可)で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第9回「いじめに関する相談」  
事前学習 (2時間) いじめの現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第10回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、教科書、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第13回「虐待に関する相談」

事前学習（2時間）虐待の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第14回「外部機関との連携」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

#### 【テキスト（教科書）】

『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）

#### 【参考書】

『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省HP「発達障害の理解のために」 <https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」 <https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。  
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でこなう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

教育心理学

展開科目

軽部 雄輝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、適宜グループディスカッションを取り入れる。

対面授業回では、点呼による出席確認を行うとともに、授業の最後に簡単な課題を提示する。当該課題は google form 等を用いて、授業内に教場で回答することを求める。

オンライン授業回では、オンデマンド形式を採用する。出席は、期日までに動画の視聴と提示された課題への回答 (google form 等を採用する予定) をもってカウントする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育心理学の研究法	教育心理学の分野で頻繁に用いられる研究の手法について、理解する。
第3回	発達の過程	乳幼児期から青年期における様々な発達について理解する。
第4回	学習のメカニズム	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第5回	記憶の種類と方略	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第6回	問題解決の理論と方法	問題解決についての様々な理論や方法を理解する。
第7回	知能の発達ととらえ方	知的活動を支える知能の発達ととらえ方について理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第9回	自己と対人関係	自己の発達とそれに伴う対人関係の展開について、理解する。
第10回	学級集団の特徴と機能	学級集団の特徴と教師が与える影響について、理解する。

第11回	学校不適応の理解	ストレスのメカニズムと学校不適応の状態像について、理解する。
第12回	発達障害の理解	発達障害の定義や種類を理解し、特性を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。
第13回	学習指導と教育評価	学習指導のあり方と教育評価の方法について、理解する。
第14回	まとめ・到達度の確認	これまでの内容のまとめと到達度を確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ内容に関するレポートまたは演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教員が適宜指定する。

【参考書】

櫻井茂男 (監修) 黒田祐二 (編著) 2012 『実践につながる教育心理学』 北樹出版

櫻井茂男 (編) 2017 『改訂版たのしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化

吉川成司・関田和彦・鈎治雄 (編著) 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』 ミネルヴァ書房

子安増生ら 2015 『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』 有斐閣

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%)、授業への積極的参加 (40%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業回では、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業回では、プロジェクターを利用し、教員はパワーポイントを用いて説明する。授業の最後に提示する課題については、web媒体を通じての回答を求めるため、PC等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人インターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

### 【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか

第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

授業内で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題70% (1回5点×14回)、学期末レポート30%

評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

### 【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

#### 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

#### 【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1) Weekly short reports: 70%
- 2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

- 3) Evaluation criteria

- ・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
- ・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.
- ・ Ability to operate information devices in order to create reports.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人インターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

### 【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか

第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。  
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

授業内で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題70% (1回5点×14回)、学期末レポート30%  
評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

### 【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

#### 【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

#### 【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1) Weekly short reports: 70%
- 2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

- 3) Evaluation criteria

- ・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
- ・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.
- ・ Ability to operate information devices in order to create reports.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**キャリア研究調査実習D (仕事とビジネスの質的研究)** 展開科目

岸田 泰則

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、仕事とビジネスの現場を調査することを通して、質的調査のプロセスを体感してもらいます。事前の十分な準備や適切な調査の実施、そして結果の丁寧な分析を行うことで、産業や労働におけるリアリティに迫ることができます。

**【到達目標】**

- ①インタビュー調査を実際に行うことで、質的調査の一連のプロセスを学びます
- ②産業・労働研究における質的調査の活かし方を学びます
- ③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための実践的な能力を身に付けます

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

実習を中心に、講義を交えながら授業を行います。講義で質的調査の基礎を学んだうえで、インタビュー調査の実習に活かしていきます。調査の事前準備に始まり、調査の実施、調査結果の取りまとめといった一連のプロセスを実行していきます。調査テーマは、受講者の問題関心を参考のうえ設定します。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標などの説明、インタビュー法の概説 (講義)
第2回	質的調査の概説 (1)	調査テーマについての概説 (講義と若干の実習)
第3回	質的調査の概説 (2)	インタビューの準備の概説 (講義と若干の実習)
第4回	質的調査の概説 (3)	インタビューの実施手法の概説 (講義)
第5回	質的調査の概説 (4)	インタビュー・データの分析にあたっての概説 (講義と若干の実習)
第6回	質的調査の概説 (5)	論文の執筆についての概説 (講義)
第7回	質的調査の活かし方	質的調査を用いた産業・労働研究の紹介 (講義)
第8回	質的調査の実践 (1)	調査対象の産業・企業の実状を把握するための予備調査 (実習)
第9回	質的調査の実践 (2)	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査 (実習)
第10回	質的調査の実践 (3)	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査 (実習)
第11回	質的調査の実践 (4)	調査から得た情報をもとに、記録文書の作成 (実習)
第12回	質的調査の実践 (5)	作成した記録文書の報告、共有 (実習)
第13回	質的調査のまとめ (1)	インタビュー調査の結果報告 (発表)
第14回	質的調査のまとめ (2)	インタビュー調査の結果報告 (発表)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

調査の準備 (調査対象の産業や企業に関する下調べ) と調査の記録文書の作成、調査の取りまとめを行います。準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間が標準となります。

**【テキスト (教科書)】**

各回の授業において、事前に授業資料を配布します。

**【参考書】**

山口富子編、2023、『インタビュー調査法入門—質的調査実習の工夫と実践』 ミネルヴァ書房。  
梅崎修・池田心豪・藤本真編、2020、『労働・職場調査ガイドブック』 中央経済社。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (授業中の発言など) 50%、提出課題 (「授業時間外の学習」の成果) 50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度から授業担当者が変更となりましたので、フィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業資料 (パワーポイントのスライド) のアップロードなどで、授業支援システム Hoppii を使用します。

**【その他の重要事項】**

製造業で30年以上にわたる実務経験のある教員による授業です。実社会を随所に感じられるような授業にします。

**【Outline (in English)】**

In this class, students will experience the qualitative research process through interviews with working individuals and companies.

Through adequate preparation, proper implementation of the survey, and careful analysis of the results, students will gain insight into the realities of industry and labor.

The grading method and criteria will be 50% for the normal score (e.g., class remarks) and 50% for the submitted assignments (results of "learning outside of class time").

Students will be required to prepare for the survey (preliminary research on the industries and companies to be surveyed), prepare a written record of the survey, and summarize the survey as learning outside of class time.

The standard amount of study outside of class time for preparation, review, homework, etc. is 2 hours for each session.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

外書講読 B (ビジネス)

展開科目

杉原 弘恭

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスに必要な知識の基礎を広範に学びつつ、世界標準化している英米のビジネス様式の背景を探ります。

なぜ同じ事柄に関して英文契約書は厚く、日本の契約書は薄いのでしょうか？ また英文契約書において似た意味の動詞を2つ並べて使う意味は？ Steve Jobs が「アップルはTechnology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの人が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。それらは英語の原文を見て理解することで意味がわかります。

また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供する Benefit Corporation という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような企業の役割を社員の内発的動機づけと同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進めて行きます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念をその背景と共に原文でマスターするとともに、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション3.0などの考え方を理解することを目標とします。これらがcapable communication, ひいてはいのちの経営(生涯学習とキャリア形成)の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

出典や詳細な解説を行った資料を毎回支援システムの「教材」で配布します。講義ではそれを用いてポイントを説明していきます。

毎回、講義後に資料の英文をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper (下記参照、以下 RP という)を提出してください(学習支援システムの「テスト/アンケート」を使用)。なぜ音読しながら目で読むことが大事かは第1回目と2回目の講義でわかります。

講義に出席できない回は、オンデマンドで資料を読んでRPを提出してください。それらに対するfeedbackは主に次の回の冒頭で行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のパースペクティブとネットワーク等を理解する。
第2回	国際ビジネスの背景にある違いは何か	法律(Common lawと大陸法)の違いと意思決定システムの違いを知る。
第3回	英語と日本語のcommunication構造	3層構造を意識する。英文契約書の世界観を知る。
第4回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal ArtsとServile Artsの反映を知る。
第5回	日米雇用システム比較	雇用慣行の違いと変化、経済情勢、国際法との関係。アメリカの大学制度。為替と金利の基礎を知る。
第6回	AIと雇用	情報、AIの基礎知識と雇用との関係を知る。

第7回	21世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る。
第8回	組織のアーキテクチャ	組織とは何か？ ネットワークとの関係などを知る。
第9回	組織と4つの失敗	市場・政府・ボランタリーの失敗、相関と因果、統計の歴史を知る。
第10回	21世紀の会社と協同組合	アメリカと日本の会社の基礎知識とBenefit Corporation, 協同組合を知る。
第11回	責任を表す言葉とその源流	ビジネス、アダム・スミスと聖書にみるAccountability. アカウンタブルであるためには？
第12回	DrukerのManagement	MBO-S, SWOT, PDCAなどを理解する。
第13回	Management by commitment	commitmentの重要性、経営の語源, Innovation, Value chain, Co-creationなどを理解する。
第14回	Work Motivation 3.0とTransformation	外発的・内発的動機づけと脳の仕組みを知る。外発的・内発的発展もあわせて知る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義後に資料の英文をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paperを提出してください。

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがままあります。日頃から他に意味はないのか？ Why? What if? (もし~としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。

授業の準備学習・復習時間は4時間が標準です。

【テキスト(教科書)】

支援システムの「教材」で、毎回詳細な講義資料を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「ITパスポート」には、(本講義を含めて)辞書代わりに使える『よくわかるマスターITパスポート試験対策テキスト』(FOM出版)がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

Reaction Paper 80%, 最終回のTest 20%を予定。

ただし、Testは講義内容の確認の意味がありますので、Reaction PaperとTestの片方の場合は、E(未受験・採点不能)となります。Reaction Paperは白紙提出は未提出扱いで、下記片方に記載がないものは1/2評価。積極的な考察や情報提供には加点があります。最終回のTestは2~4肢択一式と論述を予定。

Reaction Paperの項目:

- 1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？(箇条書き)
- 2) 1)に関する考察・質問・感想・要望など(引用して意見を述べたり質問されるときは、出典を示してください。)

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布の講義資料は、出典や詳細な解説を行っていますので講義に出られない回も読むことでReaction Paperの提出は可能です。なお、就活にも有用な知識を得られるテーマは早い時期に持ってきています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格：ITパスポート(一番取得しやすい国家試験で、毎月PC受験可能)IT化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かれます！

「実務経験のある教員による授業」です。

元政府系銀行員で外債発行業務やアメリカで米銀行勤務経験などの国際業務経験、また実際に中小企業だった某半導体メーカーの上場に至る育成業務等は本講義の裏付けとして大いに生かされています。大蔵省に勤務していたときは、NBER Summer Instituteにも参加しました。また、社会人として博士号(工学)を取得していますがそのあたりのアドバイスもできるとと思います。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn widely the basics of business knowledge and explore the background of English business styles, which are becoming the international standard.

Why are English contract documents thicker and Japanese contracts thinner on the same subject? What is the significance of juxtaposing two verbs with similar meanings in an English contract?

How many people understood when Steve Jobs said, "Apple tries to be at the intersection of technology and the liberal arts"? The Japanese translation has been mistranslated. They make sense by looking at and understanding the original English text.

In the U.S., there is a new corporate system called Benefit Corporation, which is a private company that creates public benefit in the environmental and social fields. These companies tend to try to synchronize such external roles with employees' intrinsic motivations.

This course is designed to provide a multi-dimensional understanding of the international macroeconomic situation surrounding corporations as well as the human condition, with reference to the original English sources.

(Learning Objectives)

Students are expected to master the concepts and background necessary for business with English, and to understand concepts such as Motivation 3.0, which is the basis of career design. We hope that this will be helpful for you to understand the concept of "Capable Communication" and "Management of Lifelong Learning and Career Development".

(Method and Learning activities outside of classroom)

The materials with sources and detailed explanations will be distributed in the "Resources" section of the Learning Support System each time.

The lecture will use these materials to explain the main points of the course.

After the classroom lecture, please read through the materials again while reading aloud the English text of the material and submit a Reaction Paper (hereinafter referred to as "RP") (using the "Test/Questionnaire" in the Learning Support System).

You will see in the first and second lectures why it is important to read aloud while reading with your eyes.

If you cannot attend the lecture, please read the materials on demand and submit the RP. Feedback will be given mainly at the beginning of the next class.

Translated words that seem to be technical terms in Japanese often turn out to be everyday terms in the original language. You should always ask yourself, "Is there any other meaning? Why? What if? "

The standard preparation and review time for the class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process:

Reaction Papers on each lecture (80%), term-end examination (20%), on condition of submitting both.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

●授業概要

IT/ICTからデジタルの時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF Aなどの巨大IT企業が世界を支配し始め、政治は保護主義や専制主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行います。ただし、新型コロナウイルスの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。
- ・なお第1回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっておりますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。
- ・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業でPC (またはタブレット端末やスマホ) を使うことになりますのでご注意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもら (授業終了後30分まで) かたちを考えています。
- ・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第2回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの

第3回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方 (価値の相克)
第4回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第5回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第6回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第7回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしてのIT、技術革新 (IT) の可能性と課題
第8回	地域を変革する有効なITモデルとエクイティ文化	3つの成功事例と2つの失敗事例から探るITによる活性化の条件、地域経済活性化5段階モデルとエクイティ文化の関係
第9回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例 (第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野)、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第10回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第11回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第12回	新しい動き：地域課題を発見するツール (RESAS)	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法
第13回	新しい動き：シビッククテック	技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第14回	新しい動き：AI/IoTやDX、スマートシティ、web3・メタバースなど	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
		AI/IoTやDXなど技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回4時間を標準とします。
- ・なお、第3回から第6回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第8回から第10回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト (教科書)】

- ※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。
- ・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン, K. ウォレッシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005年1月
- ・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014年8月

【参考書】

- ・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995年
- ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996年
- ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007年

- ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006年
  - ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002年
  - ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008年
  - ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBSブリタニカ 1986年
- そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍やURLを紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40%、最終レポート60%を目的に評価します。100点満点で、60点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC等の準備をお願いします。

※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が60点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

#### 【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」）のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめWord等で文書を作成したうえで、それをコピー&ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内でPC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等でPCを使用します。

#### 【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、地方活性化レストランの実現やマイナンバー制度の実現といった講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話します。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

生成AIについては特に禁止事項を設けません。自分の考えを深めるために使うなど、良識的な使い方を求めます。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 In the era of digitalization from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFAs begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.

- ・ To understand the citizenship
- ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 4-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40% learning attitude and 60% term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

生産システム論

展開科目

北原 成憲

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

かつて日本はものづくり大国と呼ばれ、世界が驚くイノベティブな製品を数多く生んできました。しかし、現在の日本は主要先進国と比べて労働生産性が低く、かつての面影は失われつつあります。そこで本講義では、さまざまな企業と共に多くの斬新な新製品・新サービスの誕生に携わってきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーが講師となり、一般的な商品開発のプロセスやそこに潜む課題を解説した上で、ヒット商品の共通項やヒット商品を企画する際のコツ、また前例のない商品案であってもその必要性を証明しビジネス化への足掛かりを作る手法を体験形式で学びます。

【到達目標】

本講義は、「イノベティブな商品をいかにスピーディーに生み出しビジネスに育てるか」そのプロセスやポイントについて理解することを目的とします。①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解すること、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解すること、③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てることができ、の3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講義は、大きく3つのパートに分かれます。①商品が生まれるプロセスとイノベーションを阻む課題を理解する「課題理解パート」、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出手法を学ぶ「課題解決手法パート」、③自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てる「アイデア発想・テスト販売パート」です。講義には、実際にメーカーで新商品開発に携わるゲストもお呼びし、ものづくりの現場で生まれている課題や課題を乗り越えたエピソード、ヒット商品事例の裏側についてお話いただくことで、より深い学びが得られる機会も用意します。受講者には商品開発の知識がないことを前提としていますので、商品が生まれる生産プロセスの基礎から学び、イノベティブな商品を創出するためのポイントや方法が理解できるように進めます。

また、講義は体験形式とし、楽しみながらより実践につなげやすい学びが得られるように工夫していきたいと思ひます。わからないことなどを相談する機会を設けて、皆さんと伴走しながら進めていくことを心がけ、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、日本で生まれたイノベティブな商品事例を元に、日本のものづくりが辿ってきた変遷や現在の状況について解説します。
第2回	イノベーションを阻む商品開発プロセス	日本における一般的な商品開発プロセスを解説します。また、その商品開発プロセスに潜む「イノベーションを阻む課題」について触れ、どうやったらその課題が解決できるかを考えます。

第3回	イノベーションを促す商品開発プロセス	イノベーションを阻む課題やその課題を解決する突破口をおさらいした上で、具体的な課題解決手法について解説します。また、その手法によって生まれたイノベティブな商品事例について、その商品を実際に企画したゲストをお呼びし対談形式で解説します。
第4回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説した上で、自分の好きなことから学生の皆さんにも商品アイデアを企画してもらいます。また、自分の好きなことからヒット商品を生んだゲストをお呼びし、その開発背景やヒットを生むポイントを事例から学びます。
第5回	商品アイデアのブラッシュアップ①	課題の途中経過を見ながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第6回	商品アイデアのブラッシュアップ②	いくつかのアイデアについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら再度自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第7回	N1インタビューについて理解する	考えたアイデアを「売れる」アイデアにブラッシュアップするために、「買いたい」と言ってくれる人を見つけるためのN1インタビュー手法を解説します。
第8回	N1インタビューを行う①	N1インタビューのやり方についておさらいした後、学生同士でペアを組んでもらってお互いにN1インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第9回	N1インタビューを行う②	ブラッシュアップしたアイデアを発表してもらいます。また、再度学生同士でペアを組んでもらってお互いにN1インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第10回	テストマーケティングについて理解する	考えたアイデアが世の中に受け入れられるものなのか検証するためのテストマーケティング手法について解説します。また、自分のアイデアをテストマーケティングするためのMakuakeページの作成方法について解説します。
第11回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ①	自分のアイデアをテストマーケティングするために、Makuakeページを作成し学生がお互いに協力しながら自分のMakuakeページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。

- 第12回 テストマーケティング グランのブラッシュアップ② 作成してもらったいくつかのMakuakeページについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分のMakuakeページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
- 第13回 商品アイデア・テストマーケティングプランの講評 ここまでブラッシュアップしてきた商品アイデアとそのアイデアをテストマーケティングするために作成したMakuakeページに対して講評を行います。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
- 第14回 Web試験・まとめと解説 ここまでの総括としてWeb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通して、どんな商品がどんな人に人気なのか？ その商品はどの企業がどのような意図やプロセスで生んだものなのか？ なぜその商品はヒットしているのか？ など、商品が生まれるプロセスやヒットの裏側について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

#### 【参考書】

中山亮太郎「日本最大級 Makuake が仕掛ける！ クラウドファンディング革命 面白いアイデアに1億円集まる時代」  
坊垣佳奈「Makuake式『売れる』の新法則」  
小霜和也「ここで広告コピーの本当の話をします。」  
クレイトン・クリステンセン「イノベーションのジレンマ」  
エリック・リース「リーンスタートアップ」  
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解できたか
  - ②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解できたか
  - ③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売（テストマーケティング）のイメージを立てることができたか
- 以上3点をWeb試験、商品アイデア課題、商品テスト販売課題によって評価します。

Web定期試験60%、商品アイデア課題20%、商品テスト販売課題20%の割合で評価します。

成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppiiを使用します。

Webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

#### 【その他の重要事項】

実務経験として、これまで35,000件（2023年9月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーによる授業です。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lecture, the executive officer and research and development producer of Makuake, who has been involved in the birth of many innovative new products and services together with various companies, will be the lecturer. He will explain the general product development process and challenges that may arise. The course will mainly cover the common elements of successful products, tips for marketing such products, and methods showing the demand for unprecedented product ideas and how to gain a foothold in the business world through hands-on experience.

#### 【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to understand the process and key points of how to produce innovative products and efficiently develop them into a business.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to read newspapers, magazines, and use the Internet on a regular basis. This will help make connections about the process of creating successful products, and understanding what happens behind-the-scenes. Also, please spend two hours before every lecture preparing and reviewing ahead.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on the following percentage: Web-based periodic exam (60%), Product idea assignment (20%), Product test sales assignment (20%).

The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

ECN200MA (経済学 / Economics 200)

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく2つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の5点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる。
- ②我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる。
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる。
- ④世界的な産業分析ツールである『産業連関表』について理解できる。
- ⑤イノベーションの意味と意義が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済(一国や地域全体の経済動向)とミクロ経済(企業や消費者の経済行動)の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全14回の講義内容は大きく4つに分けて行う。最初の3回(第1回~第3回)では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の3回(第4回~第6回)では、世界的な産業分析ツールである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の4回(第7回~第10回)では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の3回(第11回~第13回)は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の14回は全体のまとめとする。

なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設けQ&Aに充てる(対面型の場合)、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形(オンラインの場合)とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	本講義の全体像をまず説明する。次に、我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。なお、第1回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造(少子高齢化)を取り上げる。少子化、高齢化の意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。

3	グローバル化・情報化	我が国の産業に影響を与える他の大きな要因のうち、グローバル化と情報化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業に関する世界的な分析ツールである産業連関表(Input-Output Tables)について、その見方を学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成27年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の『比較優位』産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向(農業)	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向(農業の6次産業化、等)について学ぶ。
8	主要産業の動向(自動車産業)	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向(電気機械産業)	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向(商業)	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	健康・環境・観光分野を対象に我々の身の回りにあるイノベーションの代表的な事例を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第1回から13回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

毎回レジュメ(PPT)を前日までに配布致します。

【参考書】

以下、順不同(五十音順)

- ①岩尾俊兵『日本企業はなぜ「強み」を捨てるのか』 光文社新書(2023年)
- ②入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社(2019年)
- ③岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社(2015年)
- ④桂幹『日本の電機産業はなぜ凋落したのか』集英社新書(2023年)
- ⑤経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑥経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑦経済産業省編『通商白書』各年版

- ⑧清水洋『イノベーションの考え方』日経文庫（2023年）
- ⑨H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004年）
- ⑩富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP新書（2014年）
- ⑪中村良平『まちづくり構造改革Ⅰ、Ⅱ』日本加除出版（2014年、2019年）
- ⑫中室・津川『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社（2017年）
- ⑬西山圭太『DXの思考法』文芸春秋（2021年）
- ⑭日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年8月発刊）
- ⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017年）
- ⑯藤波匠『なぜ少子化は止められないのか』日経プレミアシリーズ（2023年）
- ⑰前野隆司・前野マドカ『ウェルビーイング』日経文庫（2022年）
- ⑱牧野百恵『ジェンダー格差』中央公論新社（2023年）
- ⑲宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018年）
- ⑳宮沢健一、編『産業連関分析入門』日本経済新聞社（1979年）
- ㉑山口栄一『イノベーションはなぜ途絶えたか』ちくま新書（2016年）
- ㉒吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009年）

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、産業レポート30%、定期試験 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は13年目である。昨年度の授業改善アンケート（有効回答13人）において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価（5段階）の平均は4.62であり、学部の全科目の平均（4.33）を上回っている。授業内容の理解（4.23）も学部平均（4.13）を若干上回る。

しかし一方、授業の工夫についての評価は4.31と学部平均（4.30）と変わらず、自由意見においても「パワポ資料が少しだけ見づらく感じました」や「たまにうるさくする学生がいて、それを注意してくれたらいいなと思った」等の意見を頂いており、このような点を中心に改善を図っていきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

私は1985年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約40年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っております。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやすく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要(demand)」と「供給(supply)」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやすく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

#### 【Outline (in English)】

< Course outline >

I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor force creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

- ① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
- ② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
- ③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
- ④ Understand the "input-output table" which is a worldwide industrial analysis tool.
- ⑤ Understand the meaning and significance of innovation

< Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 30%, Industry report 30%, Term-end examination 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**流通・サービスビジネス論** 展開科目

村田 茂

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト (DX化) の影響で、新しく生まれた産業もあれば、減りゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けた産業の中で、メディア産業と流通産業を取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

**【到達目標】**

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア (ビジネスモデル) の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

- ①流通・サービスビジネスに関する一般知識、基本的用語を説明できるか
- ②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
- ③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

インターネットの普及について、その発展とそれともなう社会 (ビジネス) への影響を学びます。なぜ、GAFAMが巨大企業に成長し得たのか? あらゆるビジネスに影響を与えている構造的な変化を理解し、メディアと流通の2つの産業の事例をもとに学んでいきます。出版業界、新聞業界、放送業界、eコマース業界、インターネット広告業界を解説します。具体的なビジネスモデルや重要な用語解説などを理解し、ビジネスマインド、リテラシーの向上を目指します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通・サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第2回	流通・サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界 (雑誌、コミック、電子書籍)
第3回	流通・サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	流通・サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界 (テレビ、ラジオ)。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	流通・サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからNFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー=個人発信 (SNS)	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。

第7回	流通・サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	流通・サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明 (ゲストスピーカー)	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は? ゲストスピーカーとともに、流通・サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、AIなどのトレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論 (古典から現代まで) の基礎と、重要なビジネス用語 (定番からトレンドまで) から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日頃から情報メディア (ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌) に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。流通・サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分は何で、このアプリを活用しているのか? このビジネスはどのように成り立っているのか? を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。  
毎回、参考資料を用意します。

**【参考書】**

毎回、参考資料を用意します。  
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、以下の3点を評価します。

- ①流通・サービスビジネスに関する一般知識、基本的用語を説明できるか
  - ②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
  - ③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか
- 授業でおこなう小課題 30%  
授業でおこなう中課題 20%  
課題 (レポート) 50%
- 成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。  
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

**【その他の重要事項】**

<実務経験のある教員による授業>

出版・放送メディアや各種コンテンツ制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

**【Learning Objectives】**

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

**【Learning activities outside of classroom】**

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

**【Grading Criteria /Policy】**

Grading will be based on the following three points.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

Small assignments in class 10%

Test 40%

Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**就業機会発見実務**

展開科目

今井 道子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作れる人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

**【到達目標】**

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくためのさまざまなスキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験(オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可)を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、第2回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第2回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第3回	自己理解1 (特性因子理論より)	演習を通じてRIASECの理論(ホランド)を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第4回	自己理解2 (発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第5回	自己理解3 (トランジションへの対応として)	4S理論(シュロスバーグ)を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解と自己肯定感を高める啓発的体験を得ます。

第6回	職業理解1 (採用)	採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通してインターン先企業を決める手法について考えます。
第7回	職業理解2 (職務)	ジョブ(職務)の概念を会得し、ジョブ(職務)を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、企業で導入が進むジョブ型人事制度での働き方について考えます。
第8回	職業理解3 (職場コミュニケーション)	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、多様なジョブについて学び、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第9回	職業理解4 (起業)	起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通して、興味がある起業分野のビジネスモデルについて考えます。
第10回	成長できる仕事選び1 (やりたいジョブ)	自分のやりたいジョブについて思索し、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第11回	第11回: 成長できる仕事選び2 (業界理解、グループ討議)	業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。演習を通して、興味がある業界について理解を深めます。
第12回	成長できる仕事選び3 (就活のプロセス)	就活のプロセスについて理解し、相手に伝わるES(エントリーシート)の文章の書き方、直前対策について学びます。
第13回	成長できる仕事選び4 (試験。面接の意義、グループ討議)	自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。
第14回	振り返り	13回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、興味をもつ業界、ジョブについて振り返ります。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
ときどき簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計4時間程度を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**  
『キャリア開発論 (改訂版)』(武石恵美子著:中央経済社)

**【参考書】**  
適宜提示します。

**【成績評価の方法と基準】**  
試験(25)、レポート(25)、リアクションペーパーのコメント(50)を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を最重視します。期末試験はオープンブック方式(電子機器以外は持ち込み可)で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

**【学生の意見等からの気づき】**  
「就活で、グループディスカッションの経験が少ないことが不安です」というフィードバックをいただきましたので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。

**【学生が準備すべき機器他】**  
学習支援システムを通じて資料等を配布します。

**【その他の重要事項】**

ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つけてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくります。その上で、いま起きている変化に対応し、今後実社会で生きていくためのさまざまな力を身に付けます。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
2. Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
3. Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.

Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book (students may bring in all but electronic equipment) and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**NPO論**

展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション(使命)の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

**【到達目標】**

NPO/非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。授業ごとのリアクションペーパーの提出等を含め、今期も授業支援システムを使用します。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり/Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第4回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第5回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第6回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第7回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第8回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例を紹介する。

第9回	NPOと雇用	NPOの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第10回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第11回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第12回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第13回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第14回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの/ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考文献は、授業で随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

最終試験(50%)と、小レポート(10%)、授業への積極的貢献(20%)、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度(20%)によって成績を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学期の後半の授業ではグループワークを行いながら、NPOへの理解を深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

2009年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。今年は法人化15周年となりました。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思ひます。

**【Outline (in English)】**

・ Course outline : In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. ・ Learning Objectives : The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. ・ Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 10%、in-class contribution: 20%、Group work and presentations contribution : 20%

CUM200MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200)

ミュージアム経営論

展開科目

杉長 敬治

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と博物館経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

博物館の根拠法である博物館法が制定された1951年から60年代、博物館が急増した1970年代から80年代、バブル経済の崩壊以降の経済的低迷の時代、そしてグローバル化と情報化が急激に進み、社会構造が大きく変化した現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営(ミュージアム・マネジメント)の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業では、博物館経営に関する基本知識を講義します。講義内容を踏まえて、受講生には、①授業内容に関連した課題への回答と②各自が選択した博物館について、実地調査その他のリサーチに基づいて経営分析(当該博物館の課題を解決するための取組)をしてもらいます。授業時のリアクションペーパーでのコメントは、講義を活性化するためのツールとして活用しますので、受講者は積極的にコメントしてください。最終授業では、受講生の学習成果を相互に確認するために、博物館の現状認識を交換する場を設ける予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営(マネジメント)の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命(ミッション)・事業計画、評価・改善の取組	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなるPDCAサイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源(ヒト・モノ・カネ・経営力)に着目して、我が国の博物館の現状(経営資源が乏しい館が多いこととその背景、資金調達を巡る問題)について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の概要や歴史について学習する。

5	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、日本の国立博物館の現状について理解を深める。
6	公立博物館の経営ー現状と課題	指定管理者制度や地方独立行政法人制度によって運営している館と直営館の違いに着目しながら、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館経営とマーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの視点から博物館経営の在り方を考える。
9	博物館のプロモーション・会員制度・ブランド戦略	博物館のマーケティング活動のうち、プロモーション活動、会員制度、ブランド戦略を中心に学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館運営を支援する組織(友の会・後援会)とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題	ミュージアムショップ、レストランその他の利用者サービス施設と博物館の施設設備に係わる諸問題(老朽化やバリアフリーへの対応)について学習する。
12	博物館経営におけるイノベーション	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
13	博物館の倫理規程・行動規範	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方(危機管理)について学習する。最後に、授業のまとめとして、講義と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や参考書に目を通して講義を受講してください。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書は使用しません。レポートを作成する場合に参照が望まれる参考書を、授業時に適宜紹介します。

【参考書】

①転換期の博物館経営、金山喜昭、同成社、②ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、③マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、④ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、⑤博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑥ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホブキンズ、河出書房新社、⑦国(文科省)の博物館統計である社会教育調査([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa02/shakai/](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/))、⑧その他(授業内で適宜紹介します。)

**【成績評価の方法と基準】**

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出する「課題レポート」（授業をより深く理解するために、受講生が課題を5つ選択して作成するもの）が50%、②最終（第14回）授業時に提出する「博物館経営分析レポート」が50%です。②のレポートは、受講生が博物館を実地調査その他の方法でリサーチし、その成果を基に経営分析（経営状況の把握、経営上の課題の抽出、課題の解決策の提案）を行うものです。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容に関する質問には、授業時又は学習支援システムを使って回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業に関する諸連絡・教材配付は、学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

**【その他の重要事項】**

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある受講者も念頭に置いて、授業を進行していきます。①質問やご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館の現状と国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきます。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums. The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.

(Learning Objectives) The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on term-end report (50%), short reports(50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキル I** 展開科目  
【2021年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考(履修条件等)：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目(体験型)

2021年度以前入学者→展開科目(総合)

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくことよ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。

基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション(話す、聴く、文章で伝える、メールの基本)、②ビジネスマナー(挨拶、敬語、礼儀)、③人間関係の築き方(報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス)、④プレゼンテーション等(個人の発表及びチーム発表)をとりあげます。

学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

**【到達目標】**

本授業の目標です。

- ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
- ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
- ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は、講義と実習(各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー)形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。

初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。

フィードバック方法は、授業単位にリアクシオンペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。

全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。(状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要(ビジネスコミュニケーションとマナー)と目標、授業の進め方、注意事項の説明、受講動機の確認。
第2回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。

第3回	意思を伝える話し方	話す目的は?相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第4回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築きききかたを学ぶ。
第5回	スピーチ実習	第2回～第4回の成果として1分間スピーチの実施。
第6回	情報伝達	報・連・相とは?指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第7回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ(よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方)。
第8回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とTPOに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第9回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第10回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第12回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第11回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第13回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第12回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

必要な資料をその都度配布します。

**【参考書】**

授業中に随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30%

②受講態度(積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等)50%、最終回に実施する理解度テスト20%

授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください(授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止)。

注)資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで実施する時には、情報機器(パソコン・ネットワーク環境)を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所を受講し、発言できる環境にしてください。

**【その他の重要事項】**

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

**【Outline (in English)】**

Basic career skills I

**【Course outline】**

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキル I** 展開科目  
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考(履修条件等)：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目(体験型)

2021年度以前入学者→展開科目(総合)

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくことよ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。

基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション(話す、聴く、文章で伝える、メールの基本)、②ビジネスマナー(挨拶、敬語、礼儀)、③人間関係の築き方(報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス)、④プレゼンテーション等(個人の発表及びチーム発表)をとりあげます。

学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

**【到達目標】**

本授業の目標です。

- ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
- ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
- ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は、講義と実習(各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー)形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。

初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。

フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。

全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。(状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要(ビジネスコミュニケーションとマナー)と目標、授業の進め方、注意事項の説明、受講動機の確認。
第2回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。

第3回	意思を伝える話し方	話す目的は?相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第4回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築きききかたを学ぶ。
第5回	スピーチ実習	第2回～第4回の成果として1分間スピーチの実施。
第6回	情報伝達	報・連・相とは?指示の受け方とメモの取り方。情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第7回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ(よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方)。
第8回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とTPOに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第9回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第10回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第12回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第11回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第13回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第12回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

必要な資料をその都度配布します。

**【参考書】**

授業中に随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30%

②受講態度(積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等)50%、最終回に実施する理解度テスト20%

授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください(授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止)。

注)資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで実施する時には、情報機器(パソコン・ネットワーク環境)を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所を受講し、発言できる環境にしてください。

**【その他の重要事項】**

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

**【Outline (in English)】**

Basic career skills I

**【Course outline】**

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキルⅡ** 展開科目  
【2021年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目（体験型）

2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。

2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

**【到達目標】**

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用して調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、各業界の内容と求められる職業能力について
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」 研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プラン シートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プラン シートの完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

#### 【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

#### 【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

#### 【Outline (in English)】

Basic career skills II

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

#### 【Learning Objectives】

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキルⅡ** 展開科目  
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目（体験型）

2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。

2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ること、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

**【到達目標】**

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用して調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、各業界の内容と求められる職業能力について
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」 研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プラン シートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プラン シートの完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

#### 【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

#### 【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

#### 【Outline (in English)】

Basic career skills II

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

#### 【Learning Objectives】

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3・4年次の演習に向けて、2年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

- ①働き方に関する基礎的な知識を身につける
- ②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
- ③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。

まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます (アクティブブックダイアログ：Active Book Dialogueを参考に)。

3年生の共同研究、4年生の卒論発表会などについては2年生にもご参加いただけます。5限のみならず6限も使って3年生や4年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜5・6限は他の予定を入れないようにしてください。学期全体のスケジュール (予定) は最初の授業で配布します。

ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。

また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する

可能性がありますので、予めご了承ください。

なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション <2・3・4年生合同>	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
第2回	課題図書とアクティブブックダイアログの説明とグループ分け	①課題図書とアクティブブックダイアログの説明 ②グループ分け
第3回	校外学習 (予定)	校外学習 (予定)
第4回	校外学習の振り返り	校外学習の振り返りと議論
第5回	課題図書 (1)	課題図書 (1) に関するアクティブブックダイアログ
第6回	課題図書 (2)	課題図書 (2) に関するアクティブブックダイアログ
第7回	課題図書 (3)	課題図書 (3) に関するアクティブブックダイアログ
第8回	3年共同研究<中間>発表 <2・3・4年生合同>	①3共同研究<中間>発表 ②発表に関する質疑・意見交換

第9回	問いの設定に関する概説	①問いの設定に関する概説とグループワーク ②3年共同研究<最終>発表の進め方相談
第10回	調査方法に関する概説	①調査方法に関する概説 ②3年共同研究<最終>発表の当日運営の確認
第11回	3年共同研究<最終>発表 <2・3年生・社会人合同>	①3年共同研究<最終>発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第12回	発表の振り返りと今後の進め方	①共同研究発表の振り返り (ロジと内容) ②共同研究の準備に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第13回	4年生卒論発表 (1) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (前半) ②質疑と社会人・教員コメント
第14回	4年生卒論発表 (2) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (後半) ②質疑と社会人・教員コメント

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題図書のアクティブブックダイアログの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

課題図書については授業で候補を提示します。

### 【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容 (70%)、ゼミの運営・活動への貢献 (30%) により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

アクティブ・ブック・ダイアログと校外学習を継続したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

### 【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお祈りします。

不定期で3・4年生との合同ゼミがあり、その場合原則として5・6限またがって実施することになりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.

< Learning Objectives >

1. Obtain basic knowledge on work styles
2. Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3. Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

CAR300MA (キャリア教育 / Career education 300)

## 就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学後期は社会へのトランジション (移行) 期であり、大学で修得すべき必須の知見 (アカデミックスキル) を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

\*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮) ともいえます。

### 【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス  
⇒組織を効率よく運営参画するスキル  
⇒社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング  
⇒データの収集 (質問票調査) を行い定量調査スキル  
⇒フィールドワークによる定性調査スキル  
⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力  
⇒共感・質問・提言する個別対人スキル  
⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力  
⇒社会人 (企業) に対して説得的な提言 (プレゼンテーション力)  
⇒チームビルディングとイノベーション (ファシリテーション力)
5. 組織を活性化するリーダーシップ  
⇒モチベーション・マネジメント  
⇒4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ  
⇒キャリアモデルの発見 (文献調査、フィールドワーク等)  
⇒自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知  
⇒暗黙知 (体験) を形式知 (言語) 化するメタ認知能力  
⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL (プロジェクトベースラーニング) 型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言 (プレゼンテーション&レポート) を行います。

公開授業 (全学部対象) の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

\*受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業の mismatch 研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業者精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー-1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング (PBL) -1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発 (マーケティング) ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー-2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング (PBL) -2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベース ラーニング（PB L）- 3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。  
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

\* 事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

**【参考書】**

授業のなかで紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・授業期間中レポート ⇒ 20点
- ・期末レポート ⇒ 20点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

授業期間中レポートは、1000～2000字程度でレポート作成・提出の基本を確認し、社会のビジネス常識で評価&フィードバックします。総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

\* 遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

**【学生の意見等からの気づき】**

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことでした。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

**【その他の重要事項】**

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

\* 全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

**▼実務経験のある教員による授業**

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

**【Outline (in English)】**

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

\* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**Grade score**

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks)

⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

\* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA (キャリア教育 / Career education 300)

## 就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

\*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

### 【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力 (事実と意見を峻別する)
2. 3つの分析手法力 (時間・空間・実験分析)
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力 (データから情報へ)
4. 問題解決の視点力 (What? Why? How?)
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力 (定量と定性調査力)
7. 一次情報に触れる取材力 (但、百聞一見を盲信しない)
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL (プロジェクトベースラーニング) 型の運営です。履修人数によりりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言 (プレゼンテーション&レポート) を行います。

公開授業 (全学部対象) の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

\*受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具 体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデ ミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度 なコミュニケーション スキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング

3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとは どういう意味か? 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル 研究-1 就社・就職・就場の 時代 企業特殊能力から起 業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア 形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル 研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜 くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループ ワーク マスコミ情報の分析 理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされない ために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレ ゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイ デンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル 研究-3 社会課題解決のキャ リアモデル 夢を形にして社会課 題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキ ルによる構造分析 グローバルビジネス 企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベース ラーニング (PBL) -1 広告代理店の事例 大学をプロデュース するには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベース ラーニング (PBL) -2 学生目線が採用担当 者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の3つのカーブ 文献・統計・フィー ルドワーク	世代別の課題 ・J字カーブ (20代) ・M字カーブ (30代) ・U字カーブ (40代)
13	課題レポート&プレ ゼンテーション-2 法政大学の実践知と は	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテ ーション力 ・課題確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査 (質問票調査)、定性調査 (企業訪問調査) では相当量の作業を求めます。  
・統計学や社会調査の素養があると有効です。  
\*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、

事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 20点
- ・期末レポート ⇒ 20点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

\*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことでした。

\*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

#### 【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

\*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

#### ▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

#### 【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

\* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

\* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館サービス概論

栗原 智久

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館サービスとは？ みなさんの思うかべるものは？ この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。実例をもとに、また図書館の種別・属性によるところからもみてみます。みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

### 【到達目標】

- ①図書館サービスを理解する。
- ②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。（提出・発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第2回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第3回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第4回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第5回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間貸借についてもふれます。
第6回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第7回	児童・生徒・学生サービス	調べ学習、総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、実例をもとに、具体的にみていきます。
第8回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。

第9回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人（ところ）へのサービスについて考えます。
第10回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第11回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第12回	図書館（情報）利用教育	図書館を、図書館の情報・サービスを、利用させる情報リテラシーについて学習し、考えます。
第13回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて考えます。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で行く図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことと照らし合わせて知識としての定着をはかってください。

実際に、宿題（課題レポート）で、図書館サービスを調査します。（提出）

毎回、準備学習に2時間、復習に2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

毎回テキストプリントを配布します。

### 【参考書】

授業時に複数紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(25%) 提出物(25%) 期末試験(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたいような学習内容を目指します。

### 【その他の重要事項】

図書館司書課程必修科目です。博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

### 【Outline (in English)】

**Course outline** : The aim of this course is to help students understand Library Service.

**Learning Objectives** : By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.

**Learning activities outside of classroom** : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria / Policies** : In-class performance(20%) Report(30%) Term-end examination(50%)

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業 と「職場における学び」の関係性について本授業では学ぶ。

授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

その後、日本各地の地域企業の具体的な事例を毎回の授業にて紹介し、学ぶ。授業では学生同士の討論の時間を設ける。

福島県会津若松市に工場を構える株式会社羅羅屋とランドセル業界の変遷については特に詳しく紹介し、学ぶ。会津若松市における事例は講師が所属する組織の実践である。

学期には学生各位が興味を持った地域企業の事例についてそれぞれ調べ、発表を行ってもらう。

希望者にはランドセル工場見学等のフィールドワーク実習を行う。

### 【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・例えばほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。フィールドワーク実習は別途、希望者を募りおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。

毎週提出してもらうアクションペーパーに対して毎回フィードバックし、また授業内でも積極的に取り上げる。

学期末の発表については授業内で議論し、また個々へもフィードバックもする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを授業スケジュールとともに紹介する。
第2回	地域の資源と企業と社会教育	業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第3回	地域と企業と社会教育1	地域企業の事例研究1（地域企業の事例について学び、議論する）

第4回	地域と企業と社会教育2	地域企業の事例研究2（地域企業の事例について学び、議論する）
第5回	地域と企業と社会教育3	地域企業の事例研究3（地域企業の事例について学び、議論する）
第6回	期末発表・レポートに向けての指導1	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第7回	地域と企業と社会教育4	地域企業の事例研究4（地域企業の事例について学び、議論する）
第8回	地域と企業と社会教育5	地域企業の事例研究5（地域企業の事例について学び、議論する）
第9回	地域と企業と社会教育6	地域企業の事例研究6（地域企業の事例について学び、議論する）
第10回	期末発表・レポートに向けての指導2	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第11回	地域と企業と社会教育7	地域企業の事例研究7（地域企業の事例について学び、議論する）
第12回	地域と企業と社会教育8	地域企業の事例研究8（地域企業の事例について学び、議論する）
第13回	地域と企業と社会教育9	地域企業の事例研究9（福島県会津若松市にある地域企業であるランドセル製造・販売会社である羅羅屋について学び、議論する）
第14回	期末発表会	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間は各2時間である。予習とは、学期末のプレゼンテーションの準備のための時間である。復習とは、リアクションペーパーの作成のための時間である。

評価は、授業中のプレゼンテーション、コメントペーパー等（70%）、発表用レポート（30%）で行う。

フィールドワーク実習は別途、希望者を募りおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やリアクションペーパー等（70%）、発表用レポート（30%）によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎授業座学をおこない、そのあとにグループワークをおこなう。講師の一方的な授業進行は行わない。

授業内で学部、学年の境を超えた交流の機会を多く設ける。

リアクションペーパーには毎回講師から各自へ何らかの返信をおこなう。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。そのために必要な機器は各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

講師は外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEBコンサルティング会社、WEB開発会社、EC会社、ランドセル会社を現在経営。上記の経験から実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について授業を進める。

授業を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。

授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

提出してもらったリアクションペーパーには毎授業講師から返信する。

### 【Outline (in English)】

This class will study the relationship between regions, companies, and "learning at work".

The class will first explain the relationship between the community, local resources, and corporate activities. Then, the role of "learning in the workplace" for the sustainable activities of companies will be studied.

Specific examples of regional companies from around Japan will then be introduced and studied in each class. Time for discussion among students will be provided in class.

Raraya Corporation, which has a factory in Aizuwakamatsu City, Fukushima Prefecture, and the evolution of the school bag industry will be introduced and studied in particular detail. The case study in Aizuwakamatsu is the practice of the organization to which the lecturer belongs.

In the second semester, each student will be asked to research and present a case study of a local company of interest to them.

Those who wish to do so will be given fieldwork, such as a visit to a school bag factory. Last year, fieldwork was conducted at the Daishi Line and Kawasaki Daishi in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. The fieldwork was free, and students chose their own fieldwork subjects.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Preparation time is for the presentation at the end of the semester. Review time is for the preparation of a reaction paper.

Evaluation will be based on class presentations, comment papers, etc. (70%) and presentation reports (30%).

MEC200XB (機械工学 / Mechanical engineering 200)

## 機械製図

五嶋 裕之

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、必修科目であり、実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。また、製造業に就職した場合は、他の科目を超える重要・必須の知識となります。

1. 与えられた機械要素の構成・機能や JIS 規格を理解し、設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図、組立図の目的を理解し、関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS 機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか、生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか、なども学ぶ。
5. 機械製図では、手描きによって製図を行う。『今時、手描きなんて』と思うかも知れないが、手描きによる製図は、以下のような非常に重要な要素を含んでいる。

- ①手描きによる機械製図は、機械要素や部品の理解に役立つ。
- ②手描きによる製図はアイデアスケッチの能力を向上させ、新しいアイデアの創発に役立つ。(創造力が鍛えられる、脳トレ)
- ③2D CADや3D CADは非常に便利であるが、あくまでも道具・ツールである。
- ④2D CAD, 3D CAD ソフトウェアは、定期的に使用方法が変更されたり、CAD ソフト自体が消滅することがあるが、手描きによる機械製図の技能は身に付ければ一生のものであり磨れない。
- ⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合、手描きによるスケッチは、開発アイデアや設計アイデアの創発に役立つ。
- ⑥企業に就職後、技術営業や営業に配属された場合、顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書き・手描きがメインとなり、CAD ソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり、手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
- ⑦企業に就職後、技術営業や営業に配属された場合、⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に、手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。(CAD よりも手描きの方がスピーディ、かつ、意図も伝わりやすい)
- ⑧出張などで新幹線や飛行機、自動車に乗車中にアイデアを思いついた時、手描きスケッチの方が素早く、アイデアを忘れないうちに記録できる。(「PC 開いて → CAD ソフトを立ち上げ → マウスで描画」の流れではアイデアを忘れてしまう)
- ⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも、機械製図による演習で格段に上達する。(他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ)
- ⑩人によっては字も上手くなる。(就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで、丁寧な字で書けるようになる)
- ⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され、手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では、4年間で6コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては、4年間で12コマの手描きの機械製図を行っている。このことから手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
- ⑫設計、開発、研究、アイデアは、イメージ力である。
- ⑬イメージ力を鍛える最善の方法は、脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感是一体であり、連動している。
- ⑭マウスをクリックしながらCADモデリングする時代は終わりにかけている。タッチパネルやタブレットPCの画面を、タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒もはや手描き。
- ⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では、頭でイメージしたものがCADデータ化される時代が近づいている。⇒CADの操作スキルは不要になり、イメージ力が求められる。⇒手描きによるイメージ力の強化が重要。

## 【到達目標】

機械設計・製図に必要な JIS の製図規則を中心に、機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得する。さらに、複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し、機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し、機械設計に必要な基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各授業の前半では機械設計・製図に必要な JIS の製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては、複数の部品から構成された機械を題材として、各部品の規格を調べ、またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い、機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。

中間・期末テストは、授業内容の理解の状況や進捗に合わせ、適時実施する。新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布、製図入門
2	図形の表し方 1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表し方 2	断面図の表し方の講義およびVブロックと部分投影図の作図
4	図形の表し方 3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法 1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法 2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト、ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図
9	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 2	サイズ公差（旧・寸法公差）とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手 1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手 2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
13	フランジ形固定軸継ぎ手 3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

## 【テキスト（教科書）】

教科書については、初回のガイダンスで説明する。

1. JISにもとづく標準製図法(第15全訂版)、大西清、オーム社、2019年初版、2,200円(税込)。
2. これだけは知っておきたい!機械設計製図の基本、米田完、太田祐介、青木岳史、講談社、2016年初版、2,420円(税込)。
3. 初心者のための機械製図(第5版)、藤本元、御牧拓郎、植松育三、高谷芳明、松村恵理子、森北出版、2020年初版、2,750円(税込)。
4. 配布資料。

## 【参考書】

1. JISの各種規格とそれらの表。
2. 新・演習機械製図—グローバル化に対処する製図リテラシー、塚田忠夫、金田徹、数理工学社、2015年初版、2,200円(税込)。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の課題：80%、定期試験：20%の配分とする(ただし、中間・期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。中間・期末試験を実施しない場合は、実施の2週間前までにアナウンスする)。

1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価、および、中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では、中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の60%未満は不合格となる。
6. 文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から、欠席数4回以上は対象外：E評価となる。

本授業は、必修科目であり、実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。  
また、製造業に就職した場合は、他の科目を超える重要・必須の知識となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では、機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い、学生自らの主体的な学びを奨励する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

1. 機械製図用品セット 購入必須（法政大学理工学部機械工学科専用 製図セット：法政大学生協で販売）
2. ケント紙（授業の製図において必須であるため、必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売）

#### 【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は、精密機器メーカーで約8年間、実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また、大学においては1990年代後半から手描き製図・設計とCAD/CAM/CAEに触れ、研究開発業務においても実際に使用してきた。

これらの経験を評価され、前職の精密機器メーカーにおいて、設計・製図・CAD/CAM/CAEに関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては、CADSuperFX, AutoCAD, ANSYS, ANSYS DesignSpace, SolidEdge, NX, Unigraphics, Jw Cad, Pro/ENGINEER, ME10, SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は、これらの設計・製図・CAD/CAM/CAEの経験と考察に基づいたものである。

1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また、課題図面の製図も必ず必要である。

2. 各課題の図面については、全ての課題提出を基本とする。

3. 大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

1. The students understand the composition / function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," however the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements for all students.

##### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

##### 【Grading Criteria /Policy】

1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB (機械工学 / Mechanical engineering 200)

## 機械製図

吉田 一郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、必修科目であり、実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また、製造業に就職した場合は、他の科目を超える重要・必須の知識となります。

1. 与えられた機械要素の構成・機能や JIS 規格を理解し、設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図、組立図の目的を理解し、関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS 機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか、生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか、なども学ぶ。
5. 機械製図では、手描きによって製図を行う。『今時、手描きなんて』と思うかも知れないが、手描きによる製図は、以下のような非常に重要な要素を含んでいる。
  - ①手描きによる機械製図は、機械要素や部品の理解に役立つ。
  - ②手描きによる製図はアイデアスケッチの能力を向上させ、新しいアイデアの創発に役立つ。(創造力が鍛えられる、脳トレ)
  - ③2D CADや3D CADは非常に便利であるが、あくまでも道具・ツールである。
  - ④2D CAD, 3D CADソフトウェアは、定期的に使用方法が変更されたり、CADソフト自体が消滅することがあるが、手描きによる機械製図の技能は身に付けば一生ものであり廃れない。
  - ⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合、手描きによるスケッチは、開発アイデアや設計アイデアの創発に役立つ。
  - ⑥企業に就職後、技術営業や営業に配属された場合、顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書き・手描きがメインとなり、CADソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり、手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
  - ⑦企業に就職後、技術営業や営業に配属された場合、⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に、手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。(CADよりも手描きの方がスピーディ、かつ、意図も伝わりやすい)
  - ⑧出張などで新幹線や飛行機、自動車に乗車中にアイデアを思いついた時、手描きスケッチの方が素早く、アイデアを忘れないように記録できる。(PC開いて→CADソフトを立ち上げ→マウスで描画)の流れではアイデアを忘れてしまう)
  - ⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも、機械製図による演習で格段に上達する。(他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ)
  - ⑩人によっては字も上手くなる。(就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで、丁寧な字で書けるようになる)
  - ⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され、手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では、4年間で6コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては、4年間で12コマもの手描きの機械製図を行っている。このことから手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
  - ⑫設計、開発、研究、アイデアは、イメージ力である。
  - ⑬イメージ力を鍛える最善の方法は、脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感は一体であり、連動している。
  - ⑭マウスをクリックしながらCADモデリングする時代は終わりにかけている。タッチパネルやタブレットPCの画面を、タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒もはや手描き。
  - ⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では、頭でイメージしたものがCADデータ化される時代が近づいている。⇒CADの操作スキルは不要になり、イメージ力が求められる。⇒手描きによるイメージ力の強化が重要。

## 【到達目標】

履修学生は、機械設計・製図に必要な JIS の製図規則を中心に、機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得することが到達目標である。さらに、複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し、機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し、機械設計に必要な基礎知識を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各授業の前半では機械設計・製図に必要な JIS の製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては、複数の部品から構成された機械を題材として、各部品の規格を調べ、またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い、機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。

中間・期末テストは、授業内容の理解の状況や進捗に合わせて、適時実施する。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布、製図入門
2	図形の表わし方1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表わし方2	断面図の表わし方の講義およびVブロックと部分投影図の作図
4	図形の表わし方3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト、ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図

9	サイズ公差 (旧・寸法公差) およびはめあい2	サイズ公差 (旧・寸法公差) とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
13	フランジ形固定軸継ぎ手3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書については、初回のガイダンスで説明する。

1. JISにもとづく標準製図法(第15全訂版), 大西 清, オーム社, 2019年初版, 2,200円 (税込).
2. これだけは知っておきたい!機械設計製図の基本, 米田完, 太田祐介, 青木岳史, 講談社, 2016年初版, 2,420円 (税込).
3. 初心者のための機械製図(第5版), 藤本元, 御牧拓郎, 植松育三, 高谷芳明, 松村恵理子, 森北出版, 2020年初版, 2,750円 (税込).
4. 配布資料.

#### 【参考書】

1. JISの各種規格とそれらの表.
2. 新・演習機械製図—グローバル化に対処する製図リテラシー, 塚田忠夫, 金田徹, 数理工学社, 2015年初版, 2,200円 (税込).

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の課題：80%、定期試験：20%の配分とする(ただし、中間・期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。中間・期末試験を実施しない場合は、実施の2週間前までにアナウンスする)。

1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価、および、中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では、中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の60%未満は不合格となる。
6. 文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から、欠席数4回以上は対象外：E評価となる。

本授業は、必修科目であり、実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また、製造業に就職した場合は、他の科目を超える重要・必須の知識となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では、機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い、学生自らの主体的な学びを奨励する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

1. 機械製図用品セット 購入必須(法政大学理工学部機械工学科専用製図セット：法政大学生協で販売)

2. ケント紙(授業の製図において必須であるため、必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売)

#### 【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の五嶋は、電機・機械メーカーで計約8年間、ソフトウェアおよびハードウェアの開発・設計の実務経験がある。また、研究機関(機械振興協会技術研究所)において、27年間、国内・海外企業との共同研究、技術指導、産学連携支援業務等を行ってきた。学生時代に手描き製図・設計と2D-CAD、その後3D-CAD/CAM/CAEに触れ、研究開発業務においても実際に使用してきた。

現在企業のグローバル化が急速に進展しており、日本語を母国語としないスタッフとの業務では、不慣れな外国語による認識の相違を防ぐため、機械製図による世界共通語である機械図面をベースとしたコミュニケーションが必須である。機械工学を学ぶ学生は、外国語(特に英語)とともに、機械製図のスキルをぜひとも身につけなければならない。

その他、授業にあたっての注意事項は下記である。

1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また、課題図面の製図も必ず必要である。
2. 各課題の図面については、全ての課題提出を基本とする。
3. 大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間(学習期間)である。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生のものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

1. The students understand the composition / function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," but the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements.

##### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

##### 【Grading Criteria /Policy】

1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB (機械工学 / Mechanical engineering 200)

## 設計工学

吉田 一朗

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機械設計は、機械工学の知識を活用して新しい機械製品を創り出す重要な活動であり、設計業務だけでなく研究部門や開発部門でも必須の内容である。また、設計工学の知識や考え方は、さらに進んだ高度な機械工学の知識を学ぶための方向付けやモチベーションとしても重要である。

設計工学は、機械系出身の技術者として社会に出る際に重要な内容であり、早稲田大学においてはデザインエンジニアリングとして2コマ、明治大学は設計工学系として3コマ、芝浦工業大学に至っては設計工学系として6.5コマもの時間を割いている。このように重要な設計工学を1コマの時間で十分に学べるよう、多くの課題と効率的な学習効果を意図した授業方法で講義を実施する。

本科目では、履修学生は、基礎的な工学的知識を統合・総合して新しい製品を創造する設計活動の概要を理解する。加えて、様々な事例に基づいて機械設計の基本的な考え方と設計方法を理解することを目指す。

上記のような素養が身につけられれば、機械工学の王道系企業に限らず、電機メーカーや食品メーカー、医薬品メーカー、建設業界などの企業への就職を目指すことも魅力的な人材として高い評価を受けるだろう。

## 【到達目標】

履修学生は、設計/デザイン一般や機械設計/メカニカルデザインについての基礎的な知識を身につける。機械設計において考慮すべき各種事項（安全率、はめあい、表面粗さなど）の考え方も理解し、各種機械要素の設計計算法などについての実践力も身につけることを目指す。現代の製品の設計に関する複雑な課題を理解するとともに、機械工学科で学ぶ様々な科目の重要性と必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

機械要素、力学をはじめとする機械工学科の各科目の知識は、設計工学を理解する上で非常に重要であり、また、設計を具体的に行う上で不可欠である。まず、基本的な機械の構造とその構成要素について学び、標準的な機械設計の手順を理解する。また、機械設計のプロセスや設計プロセスに対する工学的アプローチなどを学ぶことで、概念設計、詳細設計、生産設計、設計評価などの設計の各段階における基本的な概念を理解する。加えて、基本事例により設計の手順を具体的に学び、設計工学の必要性を理解する。

理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時、課題の解説や質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。また、授業の順序は指定した教科書のページ構成と異なるが、これは効率的な理解を図るため意図されたものである。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、秋学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	設計とは：機械設計のプロセス	機械設計のプロセスと設計の考え方について学ぶ。 また、他の科目も含めた授業の内容が、機械工学科卒業の機械系技術者として社会に出る際に、如何に重要で必要になるかも学ぶ。
2	材料：その種類と選択法	材料について、その種類と選択の考え方について学ぶ。
3	強度と剛性	強度と剛性について、および、その計算法について学ぶ。
4	軸の設計：機構と機能設計	軸の機構と機能設計について学ぶ。
5	軸の設計：機械要素	軸の機械要素について学ぶ。
6	軸受：種類、寿命設計	軸受の種類と寿命設計、寿命計算について学ぶ。
7	軸受：選定と活用方法	軸受の選定方法と活用方法について学ぶ。

8	歯車：機構、機能設計	歯車の機構設計と機能設計について学ぶ。
9	歯車：強度設計	歯車の強度設計について学ぶ。
10	歯車：精度設計	歯車の精度設計について学ぶ。
11	復習および中間テスト	ここまでの復習および中間テスト。
12	慣性設計：駆動系	駆動系の慣性設計について学ぶ。
13	ねじ：種類、強度設計、および、幾何特性仕様：公差、はめあい	1. ねじの種類と強度設計について学ぶ。2. 幾何特性仕様の一つである、公差とはめあいについて学ぶ。
14	幾何特性仕様：公差、はめあい、および、まとめと評価	1. 幾何特性仕様の一つである、公差とはめあいについて学ぶ。2. まとめと評価、試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】機械要素、力学基礎、材料、機械製図、CAD入門などの機械工学に関する基礎科目を十分に復習し、身につけておくことが重要である。4年間で1コマという少ないコマ数でも確実に身につけるために、レポート課題を確実にこなすことと、予習復習、受け身ではない自発的な学習意欲が必要である。

また、身近にある機械を観察し、その本質的な機能は何か、なぜそのような構造になっているのか、もっと良い構造は考えられないか、などを考え、問題意識を持って授業に臨むことが期待される。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

## 【テキスト（教科書）】

機械工学入門シリーズ「機械設計入門（第4版）」、大西清、オーム社、2015年、2,530円（税込）。

この教科書は、研究活動や企業へ就職後に配属されるであろう設計・開発部署の業務においても有効に使える書籍である。

また、授業の理解を支援する資料を、授業支援システムにアップロードして配布する。ただし、本資料は授業の理解を支援するだけの資料であって、教科書は必ず購入し予習・復習すること。試験では、この教科書に記載された内容を活用する問題も出題される。

## 【参考書】

機械設計に関する書籍はかなり多くあるが、下記は良書である。

1. 機械設計工学、村上存、柳澤秀吉、コロナ社（2020）、2,420円（税込）。
2. 機械設計：機械の要素とシステムの設計（第2版）、吉本成香、下田博一、野口昭治、岩附信行、清水茂夫、オーム社（2017）、3,740円（税込）。
3. 機械設計法、塚田忠夫、吉村靖夫、黒崎茂、柳下福蔵、森北出版（2015年）、2,860円（税込）。
4. 機械設計・製図の基礎【第2版】、塚田忠夫、数理工学社（2010年）、2,156円（税込）。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の課題：50%、定期試験：50%の配分とする（ただし、中間テスト・期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。中間テスト・期末試験を実施しない場合は、実施の2週間前までにアナウンスする）。

1. 講義中に設定された課題の提出、中間テストおよび期末試験などを総合して成績をつける。  
評価基準は、60%以上が合格。

2. 課題の提出は必須である。また、課題の提出期限は厳守のこと。

3. 中間テストおよび期末試験の受験は必須であり、未受験者は評価対象外：Eとなる。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 設計の手法について説明を聞くだけでは、身につけて実践できる力は養えない。授業中の課題などを参考にして、身近な機械を設計する練習を行うことが有効である。
2. 学生からの意見の反映：『設計工学』は、社会に出てからも必ず使用し、また、難易度の高い授業科目である。このような科目であるが、ほぼ毎回のレポート課題を設定することで、非常に少ないコマ数でも効率的に学ぶことを可能にした。
3. 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで、いつでもどこでも設計工学を学ぶことを可能とした。

**【学生が準備すべき機器他】**

1. 必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要になる。
2. レポート・課題の提出用紙は、A4もしくはA3のみを受け付ける。提出用紙サイズは、授業中に指示するので厳守のこと。

**【その他の重要事項】**

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は、精密機器メーカーで約8年間、実際に販売する製品の設計・見積り、および、研究開発における超精密機器の設計の実務経験がある。また、大学においては1990年代後半から設計とCAD/CAM/CAEを用いた力学解析に触れ、研究開発業務において実際に使用してきた。

これらの経験を評価され、前職の精密機器メーカーにおいて、設計・CAD/CAM/CAEに関する社内教育の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては、CADSuperFX, AutoCAD, ANSYS, ANSYS DesignSpace, SolidEdge, NX, Unigraphics, Jw Cad, Pro/ENGINEER, ME10, SolidWorksなど横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は、これらの設計・CAD/CAM/CAE解析の経験と考察に基づいたものである。

1. 授業支援システムにアップロードした資料は、授業開始前までに必ず予習すること。この資料は、授業前までに印刷しておくことを強く推奨する。
2. レポート課題は、授業開始前までに必ず終わらせていること。
3. 上記の2点は厳守のこと。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

In this lecture, the professor will make students understand the outline and activity of design engineering that integrate basic design engineering knowledge to create new products. In addition, the lecturer aim to let understand students basic concept and methodology of mechanical design by exercises based on various case examples.

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the basic concept and methodology of mechanical design.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

The total score of the two instructors is calculated, and a score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC300XB (機械工学 / Mechanical engineering 300)

宇宙工学

矢野 創

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国境を越えて地球環境と直接繋がった現代社会は、宇宙技術の恩恵なしに一日も営むことができません。今世紀の成長産業の一つとして、いまや世界各地でスタートアップを含む多彩な企業・団体が、宇宙に新規参入しています。また宇宙そのものや生命の起源や原理など、今世紀最大の謎を探求する舞台も、宇宙空間に広がっています。本科目ではこうした世界的潮流を背景に、宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割について理解します。
- (2) 宇宙工学全般に関する基礎知識を習得します。
- (3) 宇宙輸送系、人工衛星、宇宙探査機の基本原理およびシステム構成を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本科目では、「新時代の教養」として宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、学術と実学の両面から宇宙を目指す学生諸君には入門編となる「宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識」と、他業務にも応用可能な実践知としての「宇宙プロジェクトの立案・運用に必要な基本的技能」について習得します。

【授業の進め方】

対面授業を前提にしているものの、新型コロナウイルス再流行等の非常事態時にも対応するために、全14回の授業をオンラインのみでも受講可能なようにシラバスを設計しています。そのため、対面授業、オンラインのみのいずれの場合でも、授業支援システムを毎回活用できることを前提とします。

【授業方法】

> 講義： 基本的に対面授業を想定します。ただし感染症対策等で自宅待機が必要な学生が大学当局経由で事前に申告された場合は、Zoomによる同時双方向通信を行えるように準備します。なお諸般の事情により受講方式が対面からオンラインに変更される場合や、補講日が追加で設定される場合は、授業支援システムの「お知らせ」欄にて告知しますので、各自で必ずご確認ください。

> 初回アンケート： 初回には受講者全体の宇宙工学の基礎知識に関する理解度を確認する「アンケート」を、必ずお答えください。これは今後の授業レベルを適切に計ることを目的とし、各人の成績には反映しません。

> クイズ： 第二回以降の講義では毎回授業支援システムを使って「クイズ」を一問、「テスト/アンケート」ページにて実施しますので、必ず答えてください。クイズとは、主に前回授業の内容の振り返りを目的とした、選択肢形式の短い質問のことです。

> 課題や考課等については、「授業時間外の学習」と「その他の重要事項」にてご確認ください。また上記の授業の進め方は、今後変更される可能性がありますので、授業時や「お知らせ」欄の告知にご注意ください。

> なお提出された課題、学習等の実施内容、質疑応答によって出された受講生の疑問については、適宜フィードバックを行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 (2024/09/26)	(1) 本授業の構成・オンライン授業の進め方・成績考課、 (2) 基礎知識調査、 (3) 宇宙とは何か、 (4) 宇宙開発史、 (5) 宇宙業界における世界のステークホルダー 【参考図書： 宇宙工学概論】
2	宇宙工学と現代社会 (2024/10/03)	(1) 現代の宇宙産業、 (2) 日常生活を支える宇宙技術、 (3) 社会の問題解決に貢献する宇宙技術 【参考図書： 宇宙工学概論、エンジニアリングの神髄、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門II】
3	宇宙工学と宇宙科学・探査 (2024/10/10)	(1) 宇宙探査の世界潮流、 (2) 現代宇宙科学の最先端、 (3) 宇宙科学・探査を実現するための宇宙工学の挑戦 【参考図書： 星のかけらを採りにいく、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門II】
4	システム工学 (2024/10/17)	(1) システムの概念と特性、 (2) システム工学の目的とアプローチ、 (3) モデリングと解析、 (4) 部分最適と全体最適、 (5) システム思考の応用 【参考図書： 基礎システム工学】
5	軌道力学 (2024/10/24)	(1) 三次元空間での軌道要素とケプラー方程式、 (2) 二体問題・制限三体問題・摂動・軌道遷移、 (3) 人工衛星の運動、 (4) 惑星間航行の軌道計画、 (5) 軌道決定 【参考図書： 天体と軌道の力学、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門II】
6	宇宙輸送システム (2024/11/07)	(1) ロケット推進原理、 (2) ロケットエンジンの種類・機構・特性、 (3) 航法系、 (4) 誘導制御系、 (5) 世界のロケット 【参考図書： 宇宙工学概論、宇宙工学入門】
7	人工衛星システム (2024/11/14)	(1) 衛星システム構成・コンフィギュレーション・運用、 (2) 重力安定化衛星、 (3) スピン衛星、 (4) 姿勢決定・姿勢制御、 (5) 超小型衛星とコンステレーション 【参考図書： 衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門】

- 8 宇宙探査機システム (2024/11/21) (1) 探査天体と探査手法、(2) 探査機システム構成・コンフィギュレーション・運用、(3) 着陸機・ローバ・カプセル、(4) 惑星間航行の軌道計画・決定  
【参考図書： 人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門II、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、はやぶさ2最強ミッションの真実】
- 9 衛星・探査機サブシステム (A) (2024/11/28) (1) 構造系、(2) 熱制御系、(3) 電源系  
【参考図書： 宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ】
- 10 衛星・探査機サブシステム (B) (2024/12/05) (4) 通信系・地上系、(5) データ処理系、(6) 姿勢・軌道制御系  
【参考図書： 宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ】
- 11 衛星・探査機サブシステム (C) (2024/12/12) (7) 推進系(化学・非化学)、(8) ミッション系(地球周回・片道探査・往復探査)  
【参考図書： 宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術】
- 12 プロジェクトマネジメント (2024/12/19) (1) プロジェクトの特徴、(2) PMBOKの基礎、(3) WBS・スケジュール、(4) QCDトライアングル、(5) S&MA管理、(6) プログラムマネジメント  
【参考図書： よりよくわかるプロジェクトマネジメント、エンジニアリングの神髄】
- 13 宇宙プロジェクト実践(2025/01/09) (1) ミッション目標と成功基準、(2) 全体スケジュール、(3) 選抜～基本設計～詳細設計、(4) 開発・検証、(5) 打上げ・運用・成果創出、(6) 解散・延長  
【参考図書： 宇宙プロジェクト実践、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、星のかけらを採りにいく】
- 14 仮想宇宙探査プロジェクト報告 (2025/01/16) (1) 仮想宇宙探査プロジェクト最終報告

本科目では、各学生が主体的に調査・分析を行う課題レポートを、10月、11月それぞれ一本ずつ提出していただきます。各回のテーマは各月最初の授業で発表し、締切りは各月末日までとします。提出方法は授業支援システムによるアップロードを標準としますが、情報インフラ等の事情により難しい場合は、講師まで事前に個別相談してください。

【アクティブラーニング(掲示板ディスカッション)】

本科目では9月~1月までの4カ月の参加期間を設けて、授業時間内外のアクティブラーニングとして、クラスを2つ程度のチームに分けた「仮想宇宙探査プロジェクトの構築」を行います。具体的には、全学生がプロジェクト検討の一部を分担しつつ、「掲示板」と授業内両方でのグループディスカッションを行って、プロジェクト案をまとめます。そして授業の最終回には、各チームのプロジェクト検討に関する最終報告をプレゼンテーションして頂きます。

【テキスト(教科書)】

必須テキストは設けませんが、参考書リストを参照のうえ、各講義に関連する項目の予習を推奨します。

【参考書】

- 矢野創著：星のかけらを採りにいく-宇宙塵と小惑星探査-、岩波書店  
川口淳一郎監修：小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、講談社  
浅居喜代治著：基礎システム工学、オーム社  
木田隆、小松敬治、川口淳一郎著：人工衛星と宇宙探査機、コロナ社  
木下宙著：天体と軌道の力学、東京大学出版会  
栗木恭一著：宇宙プロジェクト実践、日本ロケット協会  
小林繁夫著：宇宙工学概論 丸善株式会社  
茂原正道著：宇宙工学入門、培風館  
茂原正道、木田隆著：宇宙工学入門II、培風館  
津田雄一著：はやぶさ2最強ミッションの真実 NHK出版  
日本プロジェクトマネジメント協会編：よりよくわかるプロジェクトマネジメント、オーム社  
ヘンリー・ベトロスキー著、安原和見訳：エンジニアリングの真髄、筑摩書房  
室津義定編著：航空宇宙工学入門、森北出版  
山川宏著：宇宙探査機はるかなる旅路へ、化学同人

【成績評価の方法と基準】

全14回の授業について、以下の配分と評価基準に即して成績考課を行う予定です。ただしコロナ再流行等の理由により、当初の受講方法が変更される場合は、授業方法とともに考課についても見直す場合がございますので、ご注意ください。

- > 初回アンケート(1回) 0% (提出必須・開始時点の理解度の把握)
  - > クイズ(12回) 18% (各授業のポイントの理解)
  - > 課題レポート(2本) 22% (宇宙工学の役割の理解、宇宙輸送系・人工衛星・宇宙機の基本の習得)
  - > 仮想プロジェクト計画貢献(1回) 10% (宇宙プロジェクト基本技能の習得)
  - > 期末試験(1回) 50% (宇宙の概念、宇宙工学の役割、宇宙工学全般の基礎知識、宇宙プロジェクト基本技能の習得)
- 上記の合計を100%としたとき、本科目が設定した到達目標を60%以上達成している履修登録学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業シラバスは現講師によって2020年度より全面的に刷新されて以来、5年度目になります。特に2023年度の受講生を対象に行ったアンケート結果によると、本講義は「受講開始前に期待していた学習内容を教授できていた」とする評価が9割以上を超え、約8割が「宇宙工学への関心がさらに高まった」と答えています。また毎授業のクイズ、レポート提出、仮想宇宙探査プロジェクト検討、期末考査はすべて、授業支援システムの各種機能を最大限活用することで、パンデミックや自然災害などの非常事態の影響を最小化しつつ、より深い学びを持続可能なものとしてきました。なお、授業レベルについては、必ずしも宇宙工学を専門としない理工学系学部生の受講に配慮しつつも、宇宙理工学の研究を志す学部生や一部大学院生に必須となる学識もカバーします。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習】

仮想宇宙探査プロジェクト検討のグループワークも含めて、一回の講義につき4時間を標準とします。

【復習教材】

毎回、講義で使用したパワーポイント等の資料を用いて復習することを推奨します。資料は、授業後に授業支援システムの「宇宙工学教材」フォルダからダウンロード可能にします。

【課題】

**【学生が準備すべき機器他】**

資料閲覧、課題提出、ディスカッション参加等のため、授業支援システムを積極的に活用します。

**【その他の重要事項】****【この科目を要件とする履修科目】**

ありません。ただし高校卒業程度の物理及び数学を学習していることを想定します。

**【期末試験】**

授業期間内に対面方式で、授業支援システムを活用して実施する予定です。万一オンラインにて実施する場合は、後日周知します。

**【オフィスアワー】**

原則として、授業終了直後に最大30分間、講師室にてオフィスアワーを設けます。また、学習支援システムを経由したテキストによる質問も受け付けます。

**【参考文献、生成AI等の利用】**

課題レポート執筆や仮想プロジェクト検討において利用した参考文献は、必ず明記してください。また生成AI等の文書作成補助ツールを活用することは禁止しませんが、利用したツールと使用目的を、毎回必ず明記してください。なおクイズ・期末考査では、いずれの利用もできません。

**【実務経験のある教員による授業】**

講師は過去四半世紀以上にわたって、日欧米で1ダース以上の宇宙実験および宇宙探査プロジェクトを実践してきた経験を有しており、現在も太陽系探査科学の学術研究および大学院教育に従事しています。本科目では、そうしたバックグラウンドを生かして、学術的な基礎知識と、宇宙プロジェクトの実践知の初歩の両方を、意欲ある学生諸君にお伝えしたいと思います。なお法政大学大学院理工学研究科では、JAXAとの連携協定に基づく連携准教授として、大学院生の研究指導にも当たっています。

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】** The modern society is directly connected with the global environment beyond national borders and thus our every-day life heavily depends upon benefits from space technology. The most challenging quests in science of this century such as origins and principals of life and the Universe itself also require deep exploration of space. This class aims students to learn fundamental concepts of space and role of space engineering in our modern society, to understand introductory knowledges in the whole disciplines of space engineering, and to acquire basic skills for planning and executing actual space projects, which will be applicable to many other disciplines.

**【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to achieve the following three objectives:

1. To understand the fundamental concept of the Universe and the role of space engineering in the modern society
2. To master the basic knowledge of major disciplines within space engineering
3. To understand principals and system structure of space transportation, artificial satellites, and spacecraft in order to master basic skill sets necessary for mission planning and execution of an actual space project

**【Learning Activities outside of Classroom】** Before/after each class meeting, students are expected to generally spend 4 hours outside the class to master the course content.

**【Grading Criteria /Policy】** Students will pass this course when he/she achieves the learning objectives defined the above more than 60 % out of 100 % in total, based on the following criteria.

- > Initial questionnaire (x1) 0 % (Required)
- > Quiz (x12) 18 %
- > Study Reports (x2) 22 %
- > Virtual Project Planning Contribution (x1) 10 %
- > Final Exam (x1) 50 %

MEC300XB (機械工学 / Mechanical engineering 300)

製品開発工学

吉田 一朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

製品開発は、多様な組織が密接に協調しながら、製品を企画し指定された期間内に要求される品質の製品を生産するまでの複雑で組織的な活動です。機械工学科の各科目の知識を基礎に、製品開発プロセスの全体を理解します。また、社会での実践経験(実戦経験)の豊富な方々を招き、開発事例や経験を講義して頂きます。これらを通し、製品企画や仕様決定、製品アーキテクチャ、製品プロトタイプング、製品開発管理などの基礎手法を学んでください。また、産業界の事例により製品開発や研究活動の流れを具体的に把握していきます。

以上の内容を通し、自発的に学ぶ意識や問題を発見できる意識を自ら養い、製品開発、研究活動や問題設定を具体的に進められる基本的な能力をつけて下さい。(この能力や意識は、3年後期のPBLや4年の卒業研究、博士前期課程(修士)での研究活動に役立ちます)

上記のような素養が身につけられれば、機械工学の王道系企業に限らず、電機メーカーや食品メーカー、医薬品メーカー、建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けることに繋がります。

授業担当者は、本講義を通して企業人の視点を学び・感じ取ってもらい、履修学生のみなが今後の進路や就職活動に役立ててもらいたいと思っています。

【到達目標】

履修学生は、複雑な実務活動である製品開発の基本的考え方を学び、事例を通じて現代の製品開発の様相を理解する。機械工学の他の関連科目の役割や重要性を理解し、製品開発や研究の流れを理解することが到達目標です。以上の理解によって、自ら進んで自発的に学ぶ意識や自ら問題を発見できる意識を養い、製品開発や研究活動、課題設定を具体的に進められる基本的な能力を養うことも履修学生の到達目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

製品開発工学に関連する機械工学の科目は多い。また、必要な基礎知識を復習しながら、製品開発工学に必要な手法を学んでもらいたい。授業計画では大きく分けて、製品開発工学の概要、企業の製品開発で必ず必要となる特許、最新の製品開発事例、研究や製品開発での実験、検証において重要な計測学の基礎、研究、製品開発において多用される手法などについて学ぶ。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。また、ほぼ毎回レポート課題を課す。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

本授業では、海老裕介氏(伊藤・海老国際特許事務所、代表弁理士)、梶原優介氏(東京大学、教授)、後藤智徳氏(㈱ミットヨ、執行役員、Ph.D.)、田中秀岳氏(上智大学、准教授)、圓谷寛夫氏(現 精密工学会・事務局長、元 ㈱ニコン・ゼネラルマネージャ)、中谷尊一氏(シチズンマシナリー㈱、現 シニアアドバイザー/元 開発企画部 部長)、西村公男氏(日産自動車(株)パワートレイン生産技術本部パワートレイン技術企画部、エキスパートリーダー)、橋本信幸氏(元 シチズン時計(株)・研究開発センター・上席研究員、Ph.D.)、藤井章弘氏(現 ㈱エビダント(旧 オリンパス(株)・イノベーション推進部・フェロー)、Ph.D.)、藤嶋 誠氏(DMG森精機株式会社・取締役副社長、博士(工学))、宗像令夫氏(㈱PQM総合研究所、代表取締役社長、元 リコー)、山本和久氏(マツダ株式会社、元 人事室、現 商品戦略本部)、湯島 彰(株式会社東芝、元 東芝デザインセンター長)(五十音順)ら、研究・開発経験の豊かな方々をお招きし、企業・大学での開発現場における実践的な事例を学ぶ。

以上の方々と授業担当者の講義を通し、研究開発に加え人々の役に立つことや社会貢献の精神・考えを学び、将来の就職活動や自己実現にも役立ててもらいたいと考える。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナウイルス禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	製品開発プロセス、研究、開発について	製品開発とそのプロセスの全貌、研究・開発について講義する。

2	特許入門(1)	弁理士の方を招いて特許の基礎から出願の仕方、特許につながるアイデアの出し方まで講義いただく。
3	特許入門(2)	担当教員の2016年3月迄の企業経験や企業での特許実績を踏まえた特許の基礎や事例、コツについて講義する。
4	企業における製品開発事例(1)	大手自動車メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における大事なポイントや求められる人材について講義いただく。
5	企業における製品開発事例(2)	大学における学び方や姿勢は、高校までとは全く異なること、また、就職活動を有利にするためにも、学生時代に意識改革をしておくことが良いことなどを講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。 大手光学機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。
6	企業における製品開発事例(3)	また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。 大手光学機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例について講義いただく。また、企業における製品開発や設計業務において、大学の講義内容がいかに重要であるかを講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
7	企業における製品開発事例(4)	大手計測機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。
8	企業における製品開発事例(5)	また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。 担当教員の2016年3月迄の約8年間の企業における研究・製品開発経験を交えた製品開発の考え方や製品開発事例、大学との共同研究などについて講義する。
9	大学における研究・開発の事例(1)	東京大学 生産技術研究所の教員の方を招いて、大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
10	大学における研究・開発の事例(2)	他大学の教員の方を招いて、大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
11	計測学の基礎	製品開発には計測が必要不可欠である。その絶対不可欠な計測について講義する。 計測における考え方や必要性、事例、測定機の種類などを講義する。 計測分野は、機械工学系出身の者にとって、もっともノーベル賞に近い分野の一つであるほど重要である。
12	統計学の基礎(1)	製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば、間違った分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。 統計学の基礎中の基礎から、表、グラフによるデータ処理、度数分布表やヒストグラムの作成方法、企業の現場で使用する統計学などについて講義する。 3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。

- 13 統計学の基礎（2） 製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば、間違っただ分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。  
統計学の基礎として、ヒストグラムの分析の仕方、累積度数分布の作成方法、数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。  
3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
- 14 統計学の基礎（3） 製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば、間違っただ分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。  
統計学の基礎として、数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。  
3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

1. 身近にある機械を観察し、その本質的機能は何か、なぜそのような構造になっているのか、もっと良い構造は考えられないか、などを考え、問題意識を持って授業に臨むことが期待されます。

2. 大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）です。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減します。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考えます。この能力は一生のものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立ちます。

3. 機械工学に関する基礎的な科目および設計工学について、よく復習し身につけておくことが重要です。製品開発のための実用的な設計手法は多いが、授業で学んだだけでは真の理解には至りません。自ら課題を設定し、自発的に学ぶ学習態度が望まれます。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書については、初回のガイダンスで説明します。

1. 必要に応じて授業資料を配布する。

2. トリーズ (TRIZ) の発明原理 40 あらゆる問題解決に使える [科学的] 思考支援ツール、高木芳徳、デイスカヴァー・トゥエンティワン社 (2014年)、2,640円 (税込)。

#### 【参考書】

1. 『101 デザインメソッド—革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」』、ヴィジェイ・クマー、Vijay Kumar, 渡部典子 (翻訳)、英治出版 (2015年)、2,750円 (税込)。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の課題：80%、期末試験：20%の配分とします（ただし、期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。期末試験を実施しない場合は、実施の2週間前までにアナウンスする）。

講義中に設定される課題についてのレポート提出状況、レポートの内容および期末試験の結果を総合して成績評価します。

評価基準は、60%以上が合格になります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

① 授業を聞くだけでなく、自ら具体的な製品開発課題を想定し、授業で学ぶ考え方や手法を積極的に実践し深く理解していくことが望まれます。

② 大学の授業は高校までの授業と異なり、授業の内容を勉強するだけでなく、教師がいなくても自分で学ぶことのできる能力：勉強の仕方を身につける場です。この能力を身に付けて、養えている学生は、卒業研究を含む3・4年生科目で能力を発揮し、更に、企業に勤めてからも活躍しています。

③ 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで学びの自由度を向上させ、授業内容の理解を深めることを可能としています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

1. 必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要。

2. レポート・課題の提出用紙は、A4もしくはA3のみを受け付ける。提出用紙サイズは、授業中に指示するので厳守。

#### 【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は、精密機器メーカーで約8年間、実際に販売する製品の開発および最先端の超精密機器の研究開発の実務経験がある。また、特許・知財管理業務の実務経験、および、研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて、企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験、および、逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

フィールドワークについては、課題を課す。具体的には、学生本人が興味のある製品や商品、サービスについて市場で流通しているものと比較して考察・発案する課題を課す。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

The product development is a complex and organizational activity, and various organizations should cooperate closely to plan products and produce products of required quality within a specified period. In order to understand such product development, in this lecture, students understand the whole product development process based on the knowledges of each lecture of Mechanical Engineering Department.

##### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the processes and concepts of product development.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

##### 【Grading Criteria /Policy】

The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC300XB (機械工学 / Mechanical engineering 300)

## CAD / CAM / CAE

吉田 一郎、加藤 友規

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CAD(Computer Aided Design)/CAM(Computer Aided Manufacturing)/CAE(Computer Aided Engineering)の概要を理解し、製品のモデリングやエンジニアリングシミュレーションなどの基礎的手法を学ぶ。

### 【到達目標】

汎用のCAD/CAM/CAE 統合ソフトウェアを使用して、基礎的な課題を実習により解決し、まとまった設計解析事例を経験することにより、実務的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業では、CAD ソフト「Solid Works」およびCAM ソフトウェアを利用した実習をおとして以下の技術を学ぶ。

- (1) CAD：3Dモデリング、3D-CAD設計
  - (2) CAM：加工機の制御プログラムコードの自動生成、機械加工シミュレーション
  - (3) CAE：計算機シミュレーション、シミュレーション解析
- (1)(2)は吉田が担当し、(3)は加藤が担当する。実習は2クラスに分けて行う。学生は、下記の計画に従って、吉田の実習を7回、加藤の実習を7回受講する。前半に吉田の授業を受けたクラスの学生は、後半、加藤の授業を受ける。前半、加藤の授業を受けたクラスの学生は、その逆となる。適時、課題の解説などや質疑応答やアクティブラーニングなどを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、秋学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(合同)	CAD/CAM/CAE概論	「ものづくり」とCAD/CAM/CAE, 事例紹介
1(吉田)	2次元スケッチ	①SolidWorksの基本機能の理解と実習 ②2次元スケッチ機能の理解と実習 課題1：2次元スケッチにおける拘束条件の活用
2(吉田)	3次元モデリング	①3次元モデリング基本機能の理解と実習 ②ToolBox等を利用した複雑形状のモデリング実習 ③3次元複雑形状のモデリング
3(吉田)	アセンブリモデリング	①アセンブリモデリング基本機能の理解と実習 ②複雑なアセンブリモデリングの実習 ③リンク機構のモデリング
4(吉田)	モーションシミュレーション	①モーションシミュレーション基本機能の理解と実習 ②様々な拘束条件や運動条件の与え方の実習 ③リンク機構の様々な運動状態の解析
5(吉田)	CAMの基礎 (1)	①機械加工・工作機械・CAMの基本知識の学習 ②CAMソフトウェアのインストールと基本機能の理解 ③3D CAD自由課題プレゼンテーション

6(吉田)	CAMの基礎 (2)	①CAMソフトウェアによる加工情報生成実習 ②CAMソフトウェアによる工作機械の加工パスシミュレーション ③3D CAD自由課題プレゼンテーション
1(加藤)	1.SolidWorks基本操作	(1)SolidWorks Simulation解析手順 (2)SolidWorks Simulationの操作 (3)解析結果の評価 (球の運動) (4)課題1 ベルト伝達装置
2(加藤)	2.弾性接触と摩擦の解析	(1)単プレーキの理論 (2)SolidWorks Simulationによる解析と評価 (3)課題2 秒時計 (1)ボティと車輪のモデル (2)周回走路と走行条件 (3)SolidWorks Simulationによる解析と評価 (4)課題3 スロットレーシング
3(加藤)	3.スロットレーシングのシミュレーション	(1)スライダークランク機構の理論 (2)連成解析 (機構の動作と応力分布) (3)SolidWorks Simulationによる解析と評価 (4)課題4 スライダークランク機構
4(加藤)	4.機構解析	(1)SolidWorks Simulationによる流体解析の手順 (2)基礎方程式とモデル (3)課題5 ベンチュリ管の内部流れ解析
5(加藤)	5.流体解析 (内部流れ)	(1)抗力係数とレイノルズ数・ストローハル数 (2)ストローハル数とカルマン渦・固有振動数 (3)シミュレーション結果の評価 (4)課題6 円柱まわりの流れ
6(加藤)	6.流体解析 (外部流れ)	(1)非圧縮性流体と圧縮整流 (2)非圧縮性流体の流れを表す基礎式 (3)課題7 楔のまわりの高速流れの理論
7(加藤)	7. 流体解析 (圧縮性流体)	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

1. 配付資料を、授業支援システムにアップするので、各自、事前にダウンロードし持参すること。事前に実習内容を確認し、教科書や配付資料に記載されている操作方法に目としておくこと。
  2. 各授業テーマに関する資料の予習・復習。
  3. あらゆる科目で共通であるが、授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。
- 文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。
- つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

### 【テキスト (教科書)】

【吉田担当分：CAD/CAMについての教科書】

教科書については、初回のガイダンスで説明する。

1. 門脇 重道, 藤本 浩, 高瀬 善康, 黒田 浩哉: SolidWorksによる3次元CAD, 実教出版 (2012), 2,310円 (税込).

2. アドライズ: よくわかる3次元CADシステム SOLIDWORKS入門—2017/2018/2019対応, 日刊工業新聞社 (2019), 3,520円 (税込).

【加藤担当分：CAD/CAEについての教科書】

- 篠原主典: SOLIDWORKSによるCAE教室-機構解析/流体解析-, コロナ社 (2020), 4,070円 (税込)

### 【参考書】

【CAEについての参考書】

1. 竹内・櫻山・寺田: 計算力学, 森北出版

【CAD/CAMについての参考書】

2. 水越紀弥: やさしく学ぶ SOLIDWORKS (特別付録DVD-ROM 手順動画+練習用ファイル), エクスナレッジ (2017), 3,520円 (税込).
3. 浅川直紀, 他: 3次元CAD・CAE・CAMを活用した創造的な機械設計, 日刊工業新聞社 (2009), 3,300円 (税込).
4. コンピュータ教育振興協会: 2023年度版CAD利用技術者試験3次元公式ガイドブック, 日経BP社 (2023), 4,073円 (税込).

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、加藤 50 点、吉田 50 点の合計 100 点で評価する。配点は以下のとおり。  
 課題提出状況 (30%)、モデリングやシミュレーションの実行に必要な基礎的な知識を評価する課題 (70%) 与えられた課題に対するモデリングやシミュレーション能力を評価する

ただし、加藤・吉田とも 60% 以上取得しなければならない。どちらかが 60% 未満の場合、不合格となる。

出席状況については、文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から、原則として出席日数が全体の 2/3 以上の学生について成績評価の対象とします。つまり、2/3 未満は評価の対象外：E 評価となる（「CAD/CAM」と「CAE」のそれぞれの単元において、2 回を超える欠席は対象外：E 評価）。また、1 時限目に 30 分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、2 時限目を含めてその日は欠席扱いとなる。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業支援システムを活用して実習が進められるので、SolidWorks の操作に習熟しておくこと。

**【学生が準備すべき機器他】**

大学の情報処理教室に設置された PC とインストールされたソフトウェア (SolidWorks) を使用する。CAM ソフトウェアについては、各自の貸与ノート PC にインストールする。

**【その他の重要事項】**

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者は、精密機器メーカーで約 8 年間、実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また、大学においては 1990 年代後半から手書き製図・設計と CAD/CAM/CAE に触れ、研究開発業務においても実際に使用してきた。

これらの経験を評価され、前職の精密機器メーカーにおいて、設計・製図・CAD/CAM/CAE に関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては、CADSuperFX, AutoCAD, ANSYS, ANSYS DesignSpace, SolidEdge, NX, Unigraphics, Jw Cad, Pro/ENGINEER, ME10, SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は、これらの設計・製図・CAD/CAM/CAE の経験と考察に基づいたものである。

大学生活は、社会に出て就職する前の最後の準備期間(学習期間)である。社会人となると、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため、社会に出るまでに、独力で学習できる技術・能力・心構えを身に付けられると良い。この能力と技能は生涯に渡って必要なものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

The objectives of this class are to learn how to use the fundamental methods of CAD (Computer Aided Design), CAM (Computer Aided Manufacturing), and CAE (Computer Aided Engineering) application programs supplied by widely-used SolidWorks, and to acquire skills for developing product modeling and finite element methods through making use of the application functions.

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the product modelings and finite element methods using CAD, CAM, and CAE.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC400XB (機械工学 / Mechanical engineering 400)

## 環境工学

西井 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機械工学科の学生の多くは、メーカーに就職し、設計業務に携わる。製品設計には環境配慮が欠かせない時代になっている。技術者あるいは社会人として必要な環境関連の知識を得るとともに、その重要性を認識する。また、環境、エネルギー、福祉等は将来的にも重要分野で、社会人として環境に係る基礎知識を身につけることは、今後の人生にとって有意義である。

## 【到達目標】

1. 典型7公害についての基本事項、防止装置の機械的要素等について理解する。
2. 環境管理、環境影響評価、リサイクル・リユース、ゼロエミッションなどの循環型社会に於ける役割について理解する。
3. 地球温暖化、再生可能エネルギー等について学び、日本のエネルギー基本計画との係りを理解する。
4. 環境問題全般について広く学び、地球環境を維持するため、社会貢献の心を養う。
5. 企業における環境関連製品の研究開発、プロジェクトの受注から納入までの流れの事例により実業務の一端を知る。
6. 最先端の水質汚濁防止技術の動向に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

資料を配布し、パワーポイントを用いて、環境装置の写真なども見ながら、講義を行い、環境全般について理解してもらう。並行して、技術開発、先端技術など社会の実情をトピックスとして紹介する。提出された課題レポートから幾つか取り上げ講評や解説を行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	環境概論	環境工学の講義内容、進め方、トピックスについて説明する。環境基本法、気候変動枠組条約締結国会議の状況、SDGs等の概要について解説する。
2回	環境問題の歴史と発展	環境問題の変遷について学習し、過去の環境関連事故の事例に学ぶ。なお、トピックスは基本的に毎回、紹介する。
3回	大気汚染	大気汚染の原因、評価、低減装置（脱硫、脱硝、集じん装置）等について学ぶ。
4回	水質汚濁(1)	水質汚濁の変遷、防止対策及び技術の概要について学ぶ。
5回	水質汚濁(2)	水質汚濁の原因、評価、活性汚泥法など水処理技術等について学ぶ。
6回	土壌汚染、地盤沈下	土壌汚染、地盤沈下の原因、評価、防止技術等について学ぶ。
7回	悪臭	悪臭物質の基礎、発生原因と防止技術等について学ぶ。
8回	騒音	騒音の基礎、騒音苦情の実態、評価、防止技術（消音器、防音壁）等について最新技術を交えて学ぶ。
9回	振動	振動苦情の実態、振動の基礎、評価、防止技術（防振、制振、免震、動吸振器）等について学ぶ。
10回	廃棄物	焼却設備など廃棄物処理方法、処分場等について学ぶ。
11回	リサイクル、リユース	循環型社会の形成に必要な、家電・建築・自動車・容器包装などリサイクルの方法・実態、各種リユースについて学ぶ。
12回	地球温暖化、新エネルギー	地球温暖化の原因と防止策、新(再生可能)エネルギー等について学ぶ。
13回	放射能、ゼロエミッション	放射能の基礎、影響、復旧策、ゼロエミッションによる循環型社会の構築等について学ぶ。
14回	環境管理と環境監査、環境影響評価(環境アセスメント)	環境ISO (ISO14001) の考え方と仕組み、環境影響評価(アセスメント)等について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境問題は日々、新たな問題が発生している。最新情報を得るためには、新聞やインターネットなど、情報に敏感になることが大切である。また、身の周りで起こる事象、製品・装置の仕組み等に疑問を持ち、考える習慣をつけることで、技術的センスが養われ、このことが将来、技術者としての成長につながる。

## 【テキスト（教科書）】

講義毎に自作の資料を配布、または学習支援システムに資料を添付する。

## 【参考書】

新公害防止の技術と法規 産業環境管理協会  
 (大気編、水質編、騒音・振動編など)  
 環境省、国交省、総務省などの各省、機械学会など各種学会のWeb。  
 松信八十男 著 地球環境論入門 サイエンス社  
 福田基一 他著 環境工学概論 培風館  
 久保田宏 他著 廃棄物工学 培風館

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポート(50%)と春学期試験(50%)を合わせて評価する。100点満点とし、60点以上を合格とする。

課題レポートは環境に関する話題について、現状、問題点、解決方法、自分の考えなどをまとめ(1500字以上)、6月末頃(別途指示)に提出する。

春学期試験は、テーマ毎に出題した中から、春学期試験時に受講者が選択(別途指示)して回答する。

90～100点を S

87～89点を A+

83～86点を A

80～82点を A-

77～79点を B+

73～76点を B

70～72点を B-

67～69点を C+

63～66点を C

60～62点を C-

0～59点を D(不合格)

未受験、採点不能を E(不合格)

## 【学生の意見等からの気づき】

企業の新製品開発の実情、大型案件の受注活動から設計、製作、建設、納品に至る一連のプロジェクト業務の流れ、海外視察・学会などの体験談等々、トピックスとして紹介した事項が興味深く、有益だったとの意見が散見された。今年度も継続させることを考えている。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

大部分の学生は、卒業すると就職し、夫々の所属先で活躍することになる。人間として、技術者として成長するための心掛けなど、社会人として役立つ情報を紹介したいと考えている。

企業で長年、実業務(技術開発、ライン業務、プロジェクト業務)に携わり、また、豊富な学会活動などに基づいた経験談(事例)、最新技術などを紹介する。

## 【Outline (in English)】

## Outline

Many students of the machinist subject find a job in the maker and are engaged in design duties. It is the times when environmental consideration is indispensable to a product design. I get necessary environment-related knowledge as an engineer or a member of society and recognize the importance. In addition, it is significant for the future life that environment, energy, the welfare acquire basic knowledge to affect environment as a member of society in the future in an important field.

## Learning Objective

1.I understand a basic matter about the model 7 pollution, the mechanical element of the prevention device.

2.I understand a role in recycling society such as environmental management, an environmental assessment, recycling reuse, the zero-emission.

3. I learn about global warming, renewable energy and understand the Japanese basic energy plan.

4. I develop a heart of the contribution to society to learn about overall environmental problem widely, and to maintain a global environment.

5.I know one end of true duties by the example of flows from the research and development of the environmental product in the company concerned, the order of the large-scale project to the delivery.

6.I know the trend of the advanced technique of the field of sound.

Learning activities outside of classroom

A new problem produces the environmental problem every day. It is important to become sensitive to a newspaper and information including the Internet to get the latest information.

In addition, I have a question toward a phenomenon to be caused around the body, the mechanism of a product, the device, and a technical sense is fed, and this is connected for the growth as the engineer in the future by touching a custom to think about.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination : 50%, Short reports : 50%

MEC100XB (機械工学 / Mechanical engineering 100)

## 図形科学

吉田 一朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

本科目では、図形科学を通してイメージ能力を養うことができます。イメージ能力は、機械の開発・設計だけでなく、人工知能(AI)のプログラミングで重要なアルゴリズム開発力も養うことができます。

授業では、図面を作図し、図面を読み理解する図形科学の課題を着実に丁寧に解くことにより、研究技術者・教育者が備えるべき豊かな空間認識力・空間想像力を修得し、緻密な作業をやり遂げる実行力を身に付けることができます。

図形の作図の課題では、3次元物体を2次元図形に焼き直して描画する技法と、点・直線・平面などの図形要素について、たとえば、直線間の平行・垂直などの相互関係を作図によって解き明かす「図法幾何学」を学ぶ。授業では三角定規やコンパスなどの製図用具を実習で用いるので、製図用具を用意することが必須となります。

## 【到達目標】

図形を読み描きできる能力は、将来の研究技術者・教育者が備えるべき学力です。

履修学生は、本授業の図形科学の学びを通して、履修学生は、幾何学の原理にしたがって平面図形・立体図形を正確に平面上に表現し、表現された図形から物体の形状を正しく読み解く力を身につけることが到達目標です。

本授業を履修する学生は、次の3項目が到達目標となります。

- (1) 3次元物体を2次元の平面図形を用いて表現できること。
- (2) 平面図形から3次元物体の情報を読み解き空間認識力を養うこと。
- (3) 図形・図面の作図法を学び、第三角法による工業製図の作図技法の基礎を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

3次元の物体の2次元平面上への図形の描画方法と図形要素の相互関係を具体的に作図実習を行うことで理解する。毎回作図実習を行うが、実習時に、三角定規やコンパスを使用する。必要な道具について、講義中に説明するので必ず準備しておくこと。学生の理解度を確認するため、期末試験に加え理解度確認試験、模擬試験などの各種試験を実施する。理解度確認試験では、これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認する。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナウイルス禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図形科学の基礎	①製図用具の使い方、②図面の描き方
第2回	基礎作図(1)	①直線・正多角形の作図、②円錐曲線の作図
第3回	基礎作図(2)	①サイクロイド、②インボリュート曲線
第4回	立体の投影法(1)	①投影法の原理、②主投影図、③三面図
第5回	立体の投影法(2)	①副投影法の原理、②副立面図・副平面図、③2次副投影法
第6回	直線と平面(1)	①副投影法による実長線視図と点視図、②直線間の相互関係

第7回	直線と平面(2)	①直線と平面の交点、②直線と平面の交角
第8回	理解度確認試験、まとめ	①主投影図、②副立面図・副平面図、③2次副投影法、④直線間の相互関係、⑤直線と平面の交点・交角
第9回	直線と平面(3)	①平面と平面の交線、②平面と平面の交角
第10回	直線と平面(4)	①点から直線への垂線、②直線間の距離、③実形図
第11回	立体図形の相互関係(1)	①断面の作図、②相貫
第12回	立体図形の相互関係(2)	①三面図から、展開の技法により紙の立体模型を工作する。
第13回	立体図形の相互関係(2)	①貫通点、②多面体・曲面体の相貫
第14回	総合課題	①主投影法、②副投影法、③直線・平面間の相互関係、④実形図

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

- (1) 本授業は、テキストを基本として、作図演習を授業中に実施して行う。
- (2) 各授業テーマに関する資料の予習・復習および演習課題の図形の作図。
- (3) あらゆる科目で共通であるが、授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

## 【テキスト（教科書）】

1. 磯田 浩, 鈴木賢次郎：「工学基礎 図学と製図[第3版]」, サイエンス社, 2018年, 1,738円(税込)。
2. 平野元久, 吉田一朗：「わかる図形科学」, コロナ社, 2022年, 2,750円(税込)。
3. 適時、授業支援システムに資料をアップロードする。

## 【参考書】

磯田 浩, 鈴木賢次郎：「工学基礎 演習 図学と製図[第2版]」, サイエンス社, 2019年, 1,045円(税込)。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の配分は、課題・レポート：60%、期末試験：40%（ただし、期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。期末試験を実施しない場合は、第10回の講義までにアナウンスします）。

また、評価基準は、60%以上が合格（学業の成績は、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、Dの11段階で評価）。

文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から、原則として出席日数が全体の2/3以上の学生について成績評価の対象とします（2/3未満は、評価の対象外：E評価となる）。また、30分以上遅れて入室・出席した学生に関しては、特別な理由が無い限り欠席扱いとなってしまいます。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 作図は一見難しいようでも、全てが同じ手順の繰り返しであるため、前期授業期間中のどこかで理解できると、全てが分かります。このためには演習が必要であるが、授業時間内にできる演習の量は限定されているので、演習書を利用して類似の演習を自習すると良いです。

2. 本授業で身に付けた基礎力は、2年生前期の機械製図では必須であり、3年生後期のPBL授業や4年生の卒業研究でも役立ちます。また、企業への就職後、設計部署や研究開発部署での設計・研究・開発業務でも役に立つ重要な内容です。

3. 学生の理解度を確認するため、期末試験に加え理解度確認試験、模擬試験などの各種試験を実施する予定です。理解度確認試験では、これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認します。

4. 理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更します。

5. 本授業では、図形等の作図実習において学生同士の意見交換・教え合い、学生自らの主体的な学びを奨励します。

## 【学生が準備すべき機器他】

指定された製図用具を必ず毎回持参すること。指定された製図用具は、法政大学理工学部機械工学科専用製図セットとして、法政大学生協で販売される。

**【その他の重要事項】**

本授業は、「実務経験のある教員による授業」です。

授業担当者の吉田一郎は、精密機械メーカーで約8年間、実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験があります。また、大学においては、1990年代後半から手書き製図・設計とCAD/CAM/CAEに触れ、研究開発業務においても実際に使用してきました。

これらの経験を評価され、前職の精密機器メーカーにおいて、設計・製図・CAD/CAM/CAEに関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていました。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては、CADSuperFX, AutoCAD, ANSYS, ANSYS DesignSpace, SolidEdge, NX, Unigraphics, Jw Cad, Pro/ENGINEER, ME10, SolidWorksなど横断的に多くの経験を有します。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は、これらの設計・製図・CAD/CAM/CAEの経験と考察に基づいたものです。

大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

(本科目は、教職課程「数学」の教科に関する専門科目の幾何学の分野の科目である)

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Students will be able to acquire a superior spatial awareness and spatial imagination that mechanical researchers and engineers should have by drafting the drawings and reliably and carefully solving the tasks of graphic science to understand the drawings. This lesson uses drafting tools such as triangle rulers and compass for practical training, therefore students should prepare the HOSEI University's drafting tools.

**【Learning Objectives】**

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the descriptive geometry and the graphic science.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC200XB (機械工学 / Mechanical engineering 200)

## データサイエンス・計測工学

吉田 一朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、データサイエンティストにとって必要となるデータサイエンスの基本的知識・技術を学ぶことができる。

また、データサイエンスは、人工知能（AI）とも非常に深い関係があるため、AIを学ぶ上での基礎となる（場合によっては、必須）。

本授業では、学生が学びやすい授業にするため、少しゆっくりとした授業進捗としている。また、少ない授業回数でもデータサイエンスの真髄・核心を学ぶようにするため、理論の簡潔な説明、分かりやすい演習問題で構築している。

データサイエンスとは、計測で得られた膨大なデータをプログラミングのスキルおよび数学、統計学の知識を組み合わせで解析し、有意義な知見や最適解を得ようとする行為および研究分野のことである。

近年、機械製品やそのシステムはますます複雑になり、機能や経済性、あるいは環境負荷低減の観点から、計測で得られたデータを処理し、合理的に最適解を得ることが望まれている。

計測および最適化は、機械工学系、理工系の基礎として大変に重要である。そのため、計測における重要な考え方と数理的な基礎理論の手法を学ぶ。基礎的手法として、最小二乗法やニュートン・ラフソン法などの理論を学ぶ。

本講義では手計算によって数式を解く演習を併用する方法を行なうため、学生はMatlabやC言語などのプログラミング言語のコーディング技術を効率的に習得できる。また、本講義では、Excelのコマンドや規則演算の機能を併用することで、C言語やMatlabにおけるfor文などのプログラム言語コーディングで必要となる技法の理解を促進する。

## 【到達目標】

履修学生は、計測工学的観点から、データサイエンスと計測における考え方とキーポイントを学ぶ必要があります。また、教養課程程度の線形代数学と微分積分学の知識を基礎として、最適化の基本的な数学的手法を理論的に理解することも、履修学生の到達目標です。

テクニカルコンピューティング言語であるMatlabの利用法とC言語のプログラミングを学び、最適化およびデータサイエンスの基礎問題を数値的に解いてみることににより、実践的な問題解決能力を身に付けることが、学生の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

最初に、データサイエンス、最適化および計測の基礎概念を学び、その関係性と有用性を理解する。

次に、データサイエンスと最適化の基礎理論として、主に一次関数の最小二乗法、二次関数の最小二乗法、高次関数の最小二乗法、円の最小二乗法を偏微分と行列演算の方法で学び、また、ニュートン・ラフソン法などを学ぶ。演習課題を通じて具体的な計算手法を身につける。また、これらと同時に、計測工学における重要な考え方も学ぶ。

上記のデータサイエンス等の具体的な演習には、手計算およびMatlab, C言語, Excelを利用する。授業中にMatlab, C言語, Excelの基本的な使用方法も学ぶ。大まかな流れとしては、①『手計算によって数式を解く・流れを確認する』⇒②『Excelによって妥当性を確認する』⇒③『C言語, Matlabでコーディングし、最適化アルゴリズムを実装し理解する』などとなる。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データサイエンスおよび計測工学、最適化工学のキーポイント	ガイダンス、最適化・データサイエンスとは何か、計測における考え方。 機械設計問題への最適化の簡単な応用例。
2	Matlab入門、C言語の簡単な復習	Matlabの起動、基本的な操作、電卓としての使い方、簡単なグラフ、Matlabによる行列の入力と演算の仕方、C言語による行列の入力と演算の仕方。
3	MatlabとC言語による行列の計算方法、グラフ描画入門（1）	Matlabによる行列の入力と演算の仕方、C言語による行列の入力と演算の仕方、3Dグラフ描画入門、Matlabコマンド。
4	MatlabとC言語による行列の計算方法、グラフ描画入門（2）	Matlabによる行列の入力と演算の仕方、C言語による行列の入力と演算の仕方、3Dグラフ描画入門、Matlabコマンド。
5	様々なグラフの描画。 データサイエンスの入り口：最小二乗法とは	Matlabによる3D描画、Mobiusの輪、Klein管などの描画、最小二乗法の概要。
6	データサイエンスの基盤となる計算法：最小二乗法入門（1）	Excelによる最小二乗法では、最小二乗法における関数の最適な選択について。
7	最小二乗法入門（2）	Excelのコマンドによる一次関数の最小二乗法、手描き及び最小二乗法による当てはめの比較。
8	偏微分による最小二乗法（一次関数）	偏微分を用い最小二乗法を手計算で解く、偏微分の復習。
9	行列による最小二乗法入門	手計算で一次関数の最小二乗法を解く、手計算で得られた結果をExcelに入力し、計算する。
10	行列による最小二乗法：一次関数	手計算で一次関数の最小二乗法を解き、Matlabによるコーディングを行う。
11	行列による最小二乗法：二次関数、高次関数	手計算で二次関数の最小二乗法を解き、Matlabによるコーディングを行う。
12	行列による最小二乗法：円の最小二乗法	手計算で円の最小二乗法を解き、Matlabによるコーディングを行う。

- 13 ニュートン・ラフソン法 ニュートン・ラフソン法入門と手計算, Excelの規則演算を用いた解の導出, Excel, Matlabによる演習。
- 14 まとめ・評価 まとめと評価, 試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】  
履修学生は、教養基礎科目として学習する線形代数および微積分学、統計学を十分に復習し身につけておくことが必要である。授業期間中には、Matlab, C言語, Excelを使いこなせるように自主的に学習することが必要である。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は、1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり、学生は、1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書については、初回のガイダンスで説明する。

- 最適化手法入門：データサイエンス入門シリーズ，寒野善博，駒木文保，講談社，2019年，2,860円（税込）。
- 『表面粗さ—その3 教科書に書けないワークのセッティングの裏技と最新のJIS規格—』，吉田一郎，精密工学会，2014年，オープンアクセス，  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjspe/80/12/80\\_1071/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjspe/80/12/80_1071/_pdf/-char/ja)
- はじめてのMATLABプログラミング（IOボックス），大川善邦，工学社，2016年，2,052円（税込）。
- Bilingual edition 精密計測学 Precision Metrology，高偉，清水裕樹，水谷康弘，道畑正岐，河野大輔，吉田一郎，伊東聡，清水浩貴，朝倉書店，2024年，3,190円（税込）。

- 必要に応じて、講義の際に授業支援システムへの資料アップロード、もしくは、プリント配布をする。

#### 【参考書】

データサイエンスの数学的理論の詳細については、数値解析や最適化手法の数学に関する教科書を参照のこと。下記にデータサイエンスと計測工学の良書を示す。

- これなら分かる最適化数学，金谷健一，共立出版，2005年，3,132円（税込）。
- ニューメリカルレシピ・イン・シー日本語版—C言語による数値計算のレシピ，William H. Press他，技術評論社，1993年，5,138円（税込）。
- 計測システム工学の基礎 第4版，松田康広・西原主計，森北出版，2020年，2,750円（税込）。
- 工学のための最適化手法入門，天谷賢治，数理工学社，2008年，1,728円（税込）。
- MATLABではじめるプログラミング教室，奥野貴俊，中島弘史，コロナ社，2017年，2,860円（税込）。
- 表面性状用ローパスフィルタの数理，近藤雄基，沼田宗敏，吉田一郎，東京図書出版，2023年，2,200円（税込）。  
一般的な数学の基礎については、線形代数および微積分学、統計学の教科書を参照のこと。

#### 【成績評価の方法と基準】

講義中に設定される課題についてのレポート提出および期末の試験を総合して成績評価する。

成績評価の配分は、課題・レポート：60%、期末試験：40%（ただし、期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100%となる。期末試験を実施しない場合は、第10回の講義までにアナウンスする）。

また、評価基準は、60%以上が合格。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとした授業進捗と理論の簡潔な説明、分かりやすい演習問題で構築しているため、データサイエンスの真髄・核心を押えながら、比較的学びやすい授業としている。

- 理論的な説明だけでは分かりにくい点については、例題や計算例による説明をもとに、自ら問題を解いて理解していく姿勢が重要である。
- 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
- 本授業では、Matlabプログラミングの演習において学生同士の意見交換・教え合い、学生自らの主体的な学びを奨励する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- 貸与ノートPCを使用する。Matlab, Excelを用いて数値計算（アルゴリズムおよびプログラミング）の練習を行う。
- レポート・課題の提出用紙は、A4もしくはA3のみを受け付ける。提出用紙サイズは、授業中に指示する。

#### 【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は精密計測機器メーカーでの約8年間の業務経験の間に、データサイエンスと最適化アルゴリズムを応用したソフトウェアの研究開発と実装、製品化に携わった業務経験がある。博士後期課程において研究した最適化アルゴリズムを当該企業内で商品企画、提案し、その最適化アルゴリズムを応用したソフトウェアの製品化と販売促進に携わり、大手自動車メーカーなどへの販売実績もある。

また、授業担当者の吉田は、主担当の課長として表面粗さ計測機器及び真円度計測機器メーカーの中で日本で最初のJCSS取得に貢献した。（JCSSとは、計測機器メーカーの計測技術・能力を国家機関が審査する制度）

大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Course outline】

In this lecture, students study Metrology, Optimization engineering, and Data Science. In this lecture, by combining exercises to solve mathematical expressions by manual calculation, let students efficiently acquire coding techniques of the programming languages such as Matlab and C languages. In addition, in this lecture, by using Excel command and rule operation function together, the lecturer promote students' understanding of techniques required for program language coding techniques such as "for statement" in C language and Matlab.

##### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Metrology, Optimization engineering, and Data Science.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

##### 【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

ELC200XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

## 基礎電気電子材料工学

笠原 崇史

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

電子デバイスを構成する物質である、導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性および利用法を理解することを目的とする。また電気電子材料を理解するために必要な固体物性について学ぶ。

### 【到達目標】

導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性、利用法について説明できる。また、最先端電子デバイスで用いられる電気電子材料およびデバイスの駆動原理について自ら学ぶ意識をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論	授業計画の説明・総論、電気電子材料の分類
第2回	電気電子材料の基礎 (1)	物質の構成、原子・分子・イオン、化学式、物質の量
第3回	電気電子材料の基礎 (2)	水素原子、ボーアの理論、電子の二重性、原子内の電子配置、構成原理
第4回	電気電子材料の基礎 (3)	イオン化エネルギーと電子親和力、化学結合、結晶構造、7種類の結晶系
第5回	電気電子材料の基礎 (4)	ミラー指数、エネルギーバンド図の基礎
第6回	導電材料 (1)	金属の導電現象、オームの法則、電子の散乱と抵抗
第7回	導電材料 (2)	フェルミ・ディラックの統計、抵抗・配線材料
第8回	半導体材料 (1)	半導体の性質、シリコン原子と真性半導体、ダイヤモンド構造
第9回	半導体材料 (2)	不純物元素とP型・N型半導体、不純物準位、フェルミ準位
第10回	半導体材料 (3)	PN接合の基礎、半導体製造プロセス、MEMS
第11回	誘電体材料 (1)	誘電体の電氣的性質、誘電分極、誘電分散
第12回	誘電体材料 (2)	強誘電体のヒステリシス曲線・自発分極の温度変化、圧電体・焦電体を用いたデバイス
第13回	磁性材料	磁性、磁気モーメント、フントの法則、各種磁性材料、磁区と磁壁
第14回	有機半導体材料	有機化合物の性質、有機半導体材料を用いたデバイス

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 講義ノート、配布資料を復習する
2. 講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

松本智『基礎から学ぶ電子物性』(電気学会)、伊藤國雄『電気電子材料』(電気書院)、中澤達夫『電気・電子材料』(コロナ社)、湯本雅恵『基本からわかる電気電子材料』(オーム社)など。

### 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 試験(70%)、講義時に実施する演習(30%)による

【評価基準】 本科目において設定した目標を60%以上達成している学生を合格とする

### 【学生の意見等からの気づき】

理解を助けるために、資料を充実させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

### 【その他の重要事項】

民間企業の研究開発に携わってきた教員が、本講義に関連する最先端のマイクロデバイスや電気電子材料について講義する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basic properties of conductor, semiconductor, dielectric, magnetic, and organic semiconductor materials to understand the characteristics of electronic devices.

(Learning Objectives)

At the end of this course, you will be able to discuss the crystal structures, the energy band structures, the piezoelectric effect, and the basic operation of PN junction diode, MEMS devices, and OLEDs.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC300XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300)

## ロボット知能

伊藤 一之

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能の基礎について学習するとともに、進化計算のアルゴリズムを理解し、実装できるようにする

## 【到達目標】

進化計算のアルゴリズムを理解し、実装できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前半は、講義を中心として、人工知能の基礎について学習する。  
後半は、人工知能の一例として進化計算を取り上げ、実際に、EXCELを用いて進化計算のプログラムを作成する。  
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「人工知能の基礎」	人工知能とは何か、その歴史を振り返りながら概要を説明する
2	「知能とはなにか」	チューリングテストなどについて解説し、知能とは何かを考える
3	「チューリングマシン」	チューリングマシンについて解説し、古典的な人工知能の実現方法について学習する
4	「古典的人工知能の問題点」	フレーム問題をはじめとする古典的人工知能の問題点について解説する
5	「古典的人工知能から新しい人工知能へ」	古典的人工知能の問題点を解決するための試みについて学ぶ
6	「進化計算」1	進化計算のアルゴリズムの概要を学ぶ
7	「進化計算」2	進化計算のアルゴリズムを手計算で実行し、理解する
8	EXCEL Visual Basic 1 基本演算、分岐、繰り返し計算	進化計算を実装するための準備としてEXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
9	EXCEL Visual Basic 2 ファイル処理、グラフ処理	進化計算を実装するための準備としてEXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
10	「進化計算の実装」1 初期個体の生成	乱数を用いて初期個体を生成するコードを実装する
11	「進化計算の実装」2 交叉	交叉を行うコードを実装する
12	「進化計算の実装」3 突然変異	突然変異を行うコードを実装する
13	「進化計算の実装」4 適応度関数	適応度を求めるコードを実装する
14	「進化計算の実装」5 選択	選択を行うコードを実装する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の講義に用いたプログラムの内容を確認し、正常に動くようにしておくこと

## 【テキスト（教科書）】

伊藤一之著、ロボットインテリジェンス、オーム社、2007

## 【参考書】

R. Pfeifer, C. Scheier 著、石黒章夫他監訳、知の創成、共立出版、2001

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート（30%）、期末試験（50%）により総合的に評価する

## 【学生の意見等からの気づき】

プログラム全体の構成を説明する必要から、スライドの文字が小さくなる場合がある。見難い場合には、前方の席に座る、オペラグラスを用意するなど、各自適切に対処をされたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参すること(貸与パソコンが望ましいが、EXCELがインストールされていれば、どのようなPCでも可)

## 【その他の重要事項】

企業での開発経験ならびに、国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし、実際の課題解決への取り組みや、その際の問題点などについても講義する。

## 【Outline (in English)】

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about Artificial intelligence.
- (2) Understand optimization process in Genetic Algorithm.
- (3) Write a program of Genetic Algorithm using Visual Basic.

## Grading Criteria

Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%

## Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300)

## 知的制御

伊藤 一之

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

強化学習のアルゴリズムを理解し、仮想空間で自律的に振舞うロボットの制御を行う

### 【到達目標】

強化学習のアルゴリズムを理解し、ロボットの制御に適用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心として強化学習のアルゴリズムを理解し、後半はEXCELのVBAを用いて実際に強化学習を実装する

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「知的制御」	強化学習、サブサンブションアーキテクチャなど、さまざまな知的制御について概要を解説する
2	「強化学習 1」	強化学習のアルゴリズムを学ぶ
3	「強化学習 2」	強化学習のアルゴリズムを手計算で実行し、理解する。
4	「EXCEL Visual Basic1」 基本演算、分岐、繰り返し計算	EXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
5	「EXCEL Visual Basic2」 ファイル処理、グラフ処理	EXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
6	「強化学習の実装」 環境設定、初期設定	学習環境をコード化する
7	「強化学習の実装」 最大値の取得	最大値を取得するためのコードを実装する
8	「強化学習の実装」 状態認識	状態を認識するためのコードを実装する
9	「強化学習の実装」 行動選択	最適行動を選択するためのコードを実装する
10	「強化学習の実装」 $\epsilon$ -greedy法	Q値の更新を行う学習則のコードを実装する
11	「強化学習の実装」 Q値の更新	$\epsilon$ -greedy法のコードを実装する
12	「強化学習の実装」	全てのコードを結合して強化学習のコードを完成させる
13	「総合演習」 $\epsilon$ -greedy法	$\epsilon$ -greedy法の設定を変更して学習を行い、設定値の違いが学習結果に与える影響を考察する
14	「総合演習」 学習率	学習率の値を変更して学習を行い、学習率の値の違いが学習結果に与える影響を考察する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の講義内容を復習し、理解しておくこと

### 【テキスト（教科書）】

伊藤一之著、ロボットインテリジェンス、オーム社、2007

### 【参考書】

授業中に紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート（30%）、期末試験（50%）により総合的に評価する

### 【学生の意見等からの気づき】

プログラム全体の構成を説明する必要から、スライドの文字が小さくなる場合がある。見難い場合には、前方の席に座る、オペラグラスを用意するなど、各自適切に対処をされたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参すること

（貸与PCが望ましいが、EXCELがインストールされていれば、それ以外のPCでも可）

### 【その他の重要事項】

企業での開発経験ならびに、国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし、実際の課題解決への取り組みや、その際の問題点などについても講義する。

### 【Outline (in English)】

The goals of this course are to

(1)Obtain basic knowledge about intelligent robot.

(2)Understand learning process in Reinforcement Learning

(3)Write a program of Reinforcement Learning using Visual Basic.

Grading Criteria

Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300)

**電磁波情報工学**

柴山 純

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

マクスウェルの方程式をもとに電磁波情報を数学的に取り扱う。応用として、分散媒質の取扱いを理解する。レーダ方程式、衛星通信装置の基本を理解する。

**【到達目標】**

到達目標は、計算機による情報処理を視野に入れて、FDTD法の基礎を理解することである。マクスウェルの方程式の6成分を差分表示できるようにし、吸収境界条件を導出、組み込めるようにする。種々の分散媒質の定式化を理解し、FDTDに組み込めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

対面授業とする。

FDTD法の基礎を理解し、電磁波の取り扱い方を学ぶ。差分について学び、計算プログラム化するための吸収境界条件を学習する。分散媒質を計算する際の電磁波の取り扱いについても学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	歴史的背景	電磁波情報工学の発展過程と現状について
第2回	マクスウェルの方程式	電界と磁界についてのカル方程式について
第3回	FDTD法	FDTD法とは何か
第4回	差分法の基礎	微分と差分について。中心差分、前方差分、後方差分について
第5回	Yee格子と離散化	電界・磁界のYee格子への割当
第6回	1,2,3次元問題	1,2,3次元問題でのFDTD法
第7回	吸収境界条件(1)	Mur, Higdonの吸収条件
第8回	吸収境界条件(2)	Perfectly Matched Layer吸収境界条件
第9回	励振方法	総合界・反射界領域の分離
第10回	瞬時値の複素化	定常界での複素振幅の導出
第11回	分散媒質(1)	分散媒質のFDTD法への取り込み
第12回	分散媒質(2)	Drude, Debye, Lorentz分散
第13回	BOR・円筒座標系	BOR・円筒座標系を用いたFDTD法の定式化
第14回	レーダ、衛星通信装置の概要	散乱断面積、送信機と受信機の取り扱い

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- (1) 物理学「波動」を復習しておく。
- (2) これまでに学習した「電磁波工学」、「電磁気学」、「電磁気学演習」を復習しておく。

**【テキスト (教科書)】**

特に使用しない

**【参考書】**

- (1) 何一偉、有馬卓司著、"数値電磁界解析のためのFDTD法"コロナ社
- (2) 宇野 亨著、"FDTD法による電磁界及びアンテナ解析"、コロナ社

**【成績評価の方法と基準】**

【評価方法】 期末試験および課題・レポートによって評価する。

【評価基準】 期末試験 (90%)、課題・レポート (10%) の割合で評価。60%以上達成している学生を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

板書が多いとの指摘がありましたが、教授する内容が多いためやむを得ません。頑張ってください。

**【その他の重要事項】**

国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

**【Outline (in English)】**

Course outline: In this lecture, we study the fundamental of the finite-difference time-domain (FDTD) method. As an application, we also study the treatment of dispersive materials.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the basics of the FDTD method with a view to computer aided information processing. Students need to be able to formulate the six components of Maxwell's equation, and to derive and incorporate the absorbing boundary conditions into the FDTD method. Students are also required to understand the formulation of various dispersive media and to incorporate them into FDTD method.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC400XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 400)

## 認知ロボティクス

伊藤 一之

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

従来の人工知能の問題点を理解するとともに、新しい枠組みとして期待されている、アフォーダンス、ダイナミクスベース制御、身体性認知科学などの環境の性質を利用して知的な振る舞いを実現する試みについて学ぶ。

### 【到達目標】

アフォーダンス、ダイナミクスベース制御、身体性認知科学の概念を理解し、ロボットの制御に応用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半は講義形式、後半は輪読とする  
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人工知能の基礎	人工知能とはなにか概要を理解する
2	古典的人工知能 チューリングマシン	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する。(チューリングマシン、チューリングテスト、フレイム問題など)
3	古典的人工知能 フレイム問題	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する。(チューリングマシン、チューリングテスト、フレイム問題など)
4	古典的人工知能 チューリングテスト	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する。(チューリングマシン、チューリングテスト、フレイム問題など)
5	ダイナミクスベース制御	ダイナミクスベース制御の枠組みについて学び、従来のモデルベース制御との違いを理解する。
6	生態心理学	生態心理学の概念、アフォーダンスについて理解する。 (ダイナミカルタッチ、衝突までの残り時間 $\tau$ 、不変項など)
7	知覚と行為の関係性	従来の知覚と行為が切り離されている枠組みの問題点を理解し、知覚と行為の循環性の概念を理解する。
8	論文輪読 ダイナミクスベース制御	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
9	論文輪読 ダイナミクスベース制御	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
10	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
11	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
12	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
13	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し、内容を簡潔にまとめるとともに、与えられたテーマに沿って議論する
14	総合討論 それぞれの分野の関連について	与えられたテーマに沿って議論する

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の講義で配布した論文などの資料を良く読み、理解しておくこと

### 【テキスト(教科書)】

資料を配布する

### 【参考書】

佐々木 正人著 「アフォーダンス—新しい認知の理論」 岩波書店  
三嶋 博之著 「エコロジカル・マインド」 NHKブックス  
佐々木 正人、三嶋 博之 編訳 「アフォーダンスの構想」 東京大学出版

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、レポート(30%)、期末試験(50%)により総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

全体像を表示する必要から、スライドの文字が小さくなる場合がある。見難い場合には、前方の席に座る、オペラグラスを用意するなど、各自適切に対処をされたい。

### 【その他の重要事項】

企業での開発経験ならびに、国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし、実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する。

### 【Outline (in English)】

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about AI and Intelligent Robotics.
- (2) Understand framework of affordance.
- (3) Understand framework of dynamics based control.
- (4) Understand framework of Embodied cognitive science.

### Grading Criteria

Term-end examination : 50%, Report 30%, In class contributions 20%

### Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC400XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 400）

## 電気機器設計

近藤 稔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では様々な機械が電気機器で動いている。脱炭素を目指す社会の動きの中で、これまで内燃機関で駆動されていたものを電動機駆動に置き換える動きも盛んであり、電気機器に対するニーズは増している。電動機等の電気機器はアプリケーション毎に設計されるが、巻線・鉄心の設計や温度上昇の評価等の技術は普遍的な共通事項であり、この授業ではそれらの共通事項を中心に電気機器設計の考え方を学ぶ。

## 【到達目標】

電気機器の設計に共通な事項である、巻線や磁気回路の設計、温度上昇の評価を理解すること。また、それらの知識を応用して実際に電動機等の電気機器を設計できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

はじめに、電気機器やその設計の概要について学習する。その後、電気機器設計の基礎となる、巻線や鉄心等の設計、温度上昇等の性能評価等について学習し、実際に電気機器設計の実習を行う。主要な事項に関する講義が終了した後にレポート課題を出題する。レポート課題の出題と提出は学習支援システムにて行う。レポート課題に対するフィードバックは講義において実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電気機器の概要	電気機器の分類、適用事例、歴史について学習する。
2	電気機器の仕様	使用や定格等の電気機器の仕様の表現方法を、依頼者・設計者双方の立場から考える。
3	電気機器設計の概要	電気機器設計全体の流れについて学習する。
4	巻線の構造と設計	電気機器の主要な部品である巻線の構造について学習し、その設計法について学ぶ。
5	鉄心の構造と設計	電気機器の主要な部品である鉄心の構造と磁気回路の設計について学習する。
6	材料	電線、電磁鋼板、永久磁石等の電気機器特有の材料について学習する。
7	損失と効率	電気機器における損失の分類について学び、効率を向上する方法について考える。
8	温度上昇と冷却	電気機器設計における主要な制約である温度上昇の評価について学習し、冷却方式・保護方式について学ぶ。
9	電気機器の等価回路	電気機器の等価回路表現および設計値と回路定数の関係について学ぶ。
10	試験と特性算出	電気機器の性能試験方法と試験結果から特性を算出する方法について学習する。

11	機械設計の概要	機械的構造の設計や軸受部の設計等の機械設計の概要、電動機の設計とトルク特性の関係について学ぶ。
12	設計シート	講義で説明した設計計算の内容をまとめた設計シートをレポート課題として作成し、それに対するフィードバックを行う。
13	最適設計	電気機器の最適設計の基本的な考え方について学習する。また、様々な最適化手法について学習する。
14	電気機器設計実習	電気機器の例として電動機を取り上げ、実際に設計する。また、レポート課題のフィードバックを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】エクセルを使用した実習を行うため、貸与パソコンなどを準備しておく。

## 【テキスト（教科書）】

教科書名：電気学会大学講座 電機設計概論  
著者：炭谷英夫  
発行所：電気学会  
発売元：オーム社  
価格：2400円

## 【参考書】

大学課程 電気設計学、竹内寿太郎、オーム社、2016  
交流機設計、T.A.Lipo、電気書院、2007  
JIS C 4003 電気絶縁の耐熱クラス及び耐熱性評価  
JIS C 2552 無方向性電磁鋼帯  
JEC 2100 回転電気機械一般  
JEC 2110 誘導機

## 【成績評価の方法と基準】

テスト（電気機器設計に関する知識）40%  
レポート課題（電動機の設計）60%  
テストでは教科書に記載されている内容を中心に知識を問う問題を出題する。  
レポート課題では提示された仕様に対し、実際に電動機を設計してその結果をまとめたものを提出する。設計計算のプロセスを理解しているかを評価基準とする。  
レポート課題は学習支援システムにて行う

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を助けるため、早い段階から部分的な実習を取り入れ、理解度を確認しながら進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

## 【その他の重要事項】

鉄道車両駆動用電動機の開発設計実務経験を有する講師が、電動機設計を中心とした電気機器設計の講義を行う。

**【Outline (in English)】**

In modern society, various machines are driven by electric machines. Those that have been driven by an internal combustion engine are increasingly being replaced with electric motor drives, and the need for electric machines is increasing. Electric machines such as electric motors are designed for each application, but technologies such as winding / iron core design and temperature rise evaluation are common items, and in this class we focus on these common items of electric machine design.

ELC200XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

## 分布定数回路論

柴山 純

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

波動情報工学を学ぶための基礎としての、高周波における電磁気的および回路的取り扱いを学ぶ。

## 【到達目標】

波動現象を理解し、波動方程式の解法、波動の等価回路表現、散乱パラメータの使用法に習熟すること。スミス図を理解し、インピーダンス整合を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面授業とする。

電圧波、電流波の表現法を学ぶ。その後、反射係数、スミス図を学習する。マイクロ波回路における、電力、インピーダンス、位相などの取扱法についても学習する。学習項目の理解を深めるために、演習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史的背景	波動情報とは何か。
第2回	同軸伝送線路	同軸線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第3回	平行伝送線路	平行2線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第4回	電圧伝送線路	2階の微分方程式による電圧の決定。
第5回	伝送線路基礎	2階の微分方程式による電流の決定。
第6回	特性インピーダンス	特性インピーダンス、反射係数の導出と取り扱い方。
第7回	線路整合	定在波、線路整合の考え方。
第8回	スミスチャート	スミスチャートの基礎方程式の導出。
第9回	スミスチャートの理論	正規化インピーダンスの計算法。
第10回	正規化抵抗値	理論に基づく正規化抵抗値の作図法。
第11回	正規化リアクタンス	理論に基づく正規化リアクタンス値の作図法。
第12回	マイクロ波素子	導波管の数学的取り扱い。 基本モードの表現法
第13回	S11	S11 散乱定数の数学的取り扱い方と応用。
第14回	S21	S11 散乱定数の数学的取り扱い。 授業内容の演習、 発展的問題の提示。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- 1年次に学習した電気回路を復習しておく。
- 1年次に学習した微分方程式を復習しておく。
- 1年次に学習した物理 (波動の取り扱い) を復習しておく。

## 【テキスト (教科書)】

中司浩生著、"基礎伝送工学"、コロナ社

## 【参考書】

- 小柴正則著、"波動解析基礎"、コロナ社
- 内藤喜之著、"マイクロ波・ミリ波工学"、コロナ社
- 鈴木茂夫著、"高周波技術実務入門"、日刊工業新聞社

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 期末試験および課題・レポートによって評価する。

【評価基準】 期末試験 (90%)、課題・レポート (10%) の割合で評価。60%以上達成している学生を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

16年度は教科書を使用していなかったが、教科書があったほうがよいとの意見があり17年度から教科書を使用する。

なお、板書が早くももっとゆっく進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張ってください。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

## 【Outline (in English)】

Course outline: For wave information engineering, we here study electromagnetism and electric circuits in the high frequency range.

Learning Objectives: The goal is to understand wave phenomena and to become proficient in solving the wave equation, equivalent circuit representation of waves, and use of scattering parameters. Students are expected to understand Smith diagrams and be able to perform impedance matching.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

BSP100XD (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 自然科学の方法 (電気)

柴山 純

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【1年生は全員受講すること】自然科学を学ぶためには数学の知識が必須である。この授業では、電気電子工学、機械工学で使用する大学数学の基礎を講義する。多くの演習も行い、専門科目に取りかかるための基礎力を獲得する。

## 【到達目標】

授業計画で示すテーマについてその物理的意味を理解し、実問題を解くための基礎となる数学を使いこなせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面授業とする。

授業の8割程度を講義とし、残りの時間を演習に当てる。適宜小テストなども行い、理解度を確認する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ベクトル(1)	ベクトルの和、差、内積
第2回	ベクトル(2)	ベクトルの外積
第3回	ベクトル(3)	線積分、面積分
第4回	ベクトル(4)	勾配、発散、うず
第5回	複素数(1)	複素数の表現方法
第6回	複素数(2)	極形式 $\Leftrightarrow$ 直交形式変換
第7回	複素数(3)	正弦波交流の複素表示
第8回	複素数(4)	回路素子における微分と積分、それらの複素表示
第9回	複素数(5)	回路の正弦波応答の複素表示解
第10回	ラプラス変換(1)	定義と性質
第11回	ラプラス変換(2)	ラプラス変換対の表作成、微分方程式の解法
第12回	ラプラス変換(3)	回路素子とラプラス変換
第13回	ラプラス変換(4)	回路の過渡応答解析
第14回	フーリエ級数、フーリエ変換	数式表現と、離散スペクトル解析、連続スペクトル解析

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業の最後に次の回のテーマについて触れるので、各自図書館などで関連する教科書を見つけて予習しておくこと。また、演習のプリントにも次の授業の内容が含まれていることがあるので、予習しておくこと。言うまでもなく、毎回の授業の復習は必須。

## 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

## 【参考書】

「確率・統計解析の基礎」 久保木 朝倉書店 など  
「微分方程式、フーリエ解析」 近藤他 培風館 など

## 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 期末試験および課題・レポートによって評価する。

【評価基準】 期末試験 (90%)、課題、小テスト (10%) を総合して評価する。ただし、コロナの状況により期末試験ができない場合は、毎回の課題 (90%) と最終回に提示するレポート課題 (10%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

11年度までは内容の多くを統計に割いており、微分方程式などもっと多くの内容を講義してほしかった、との要望があった。そこで12年度からは内容を全面的に見直し、専門科目で必要になる数学を広く網羅する授業に変更した。なお、板書が早くももっとゆっく進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張っついてきてください。

## 【その他の重要事項】

国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

## 【Outline (in English)】

Course outline: We need the knowledge of mathematics for studying natural science. In this lecture, we study the fundamentals of mathematics in university level. The contents are helpful in studying electromagnetism and electric circuits.

Learning Objectives: The goal is to understand the physical meaning of the topics presented in the lesson plan and to be able to use mathematics as a basis for solving real problems.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC200XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

制御工学入門

伊藤 一之

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古典制御を中心にフィードバックシステムの基礎的事項を理解する

【到達目標】

フィードバックシステムの基礎的事項を理解し、簡単な制御系が設計できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】  
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業に加え、MATLABを用いた演習を行う  
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要	制御工学の分類、歴史、用途について概要を学ぶ。
2	動的システムと微分方程式	動的システムを微分法的式を用いて表現する方法を学ぶ
3	動的システムと伝達関数	動的システムを伝達関数を用いて表現する方法を学ぶ
4	伝達関数とブロック線図	伝達関数をブロック線図を用いて表現する方法を学ぶ
5	MATLAB基礎	四則演算、データ形式など、MATLABの基本的な使い方を学ぶ
6	MATLABによる数値データの可視化	グラフの書き方など、MATLABを用いて数値データを可視化する方法を学ぶ
7	MATLABによる動的システムのシミュレーション	Simulinkを用いて動的システムのシミュレーションを行う方法を学ぶ
8	基本伝達関数	基本伝達関数の応答をMATLABを用いて確認する
9	フィードバック制御系の定常特性解析1	フィードバック制御系の定常特性の計算法とその意味を理解する
10	フィードバック制御系の定常特性解析2	MATLABを用いて定常特性を確認する
11	演習1 (P制御, PD制御)	MATLAB Simulinkを用いてP制御, PD制御の応答を求め、安定性, 定常偏差, オーバershootなど, 制御系の特性を理解する
12	演習2 (PID制御)	MATLAB Simulinkを用いてPID制御の応答を求め、安定性, 定常偏差, オーバershootなど, 制御系の特性を理解する
13	演習3 PIDコントローラのチューニング (ステップ応答法)	ステップ応答法を用いてPIDコントローラのチューニングを行う

14 演習4 限界感度法を用いてPIDコントローラのチューニング (限界感度法)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】  
物理 (力学) および数学 (微分方程式) を復習しておくこと

【テキスト (教科書)】

「制御工学」(著) 渡辺嘉二郎、(出版社) サイエンスハウス

【参考書】

授業中に紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (70%), 授業内演習 (20%), 授業態度 (10%) などを総合的に評価して判断する

【学生の意見等からの気づき】

ブロック線図をプロジェクターで表示する関係上、文字が小さく見難いことがある。前列に座る、オペラグラスを用意するなど各自で対応されたい

【学生が準備すべき機器他】

大学より貸与されているPCを持参すること

【その他の重要事項】

企業での開発経験ならびに、国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし、実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する。  
本科目は、電気主任技術者資格の認定に必要とされる科目の一つである。詳しくは、履修の手引きを参照されたい。

【Outline (in English)】

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about control theory.
- (2) Understand mechanism of feedback controllers.
- (3) Conduct simulations of feedback systems using MATLAB Simulink.

Grading Criteria

Term-end examination : 70%, Report 20%, In class contributions 10%

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC200XD (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

## 半導体工学入門

笠原 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

半導体デバイスの動作原理を理解する上で必要となる、固体物性と半導体材料の電気伝導の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

半導体内の電気伝導をエネルギーバンド図を用いて、正孔、電子の振舞いで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。

社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論、半導体の歴史	授業計画の説明・概論
第2回	半導体材料の特徴	半導体材料の基本的性質、元素半導体と化合物半導体、結晶成長
第3回	半導体結晶と電子の振舞(1)	結晶の分類、結晶系とブラベ格子、ダイヤモンド構造、結晶の不完全性
第4回	半導体結晶と電子の振舞(2)	X線回折、電子の波動性、シュレディンガー方程式
第5回	自由電子モデル	井戸型ポテンシャル、周期的境界条件
第6回	エネルギーバンド図	原子軌道、電子配置、エネルギーバンドの形成、金属・半導体・絶縁体の性質
第7回	半導体のキャリア(1)	状態密度関数の導出、フェルミ・ディラック分布関数、真性キャリア密度の導出
第8回	半導体のキャリア(2)	不純物半導体、電荷中性の条件とフェルミ準位の温度特性、少数キャリア密度
第9回	半導体中の電気伝導(1)	ドリフト電流、平均緩和時間、移動度、キャリア散乱
第10回	半導体中の電気伝導(2)	拡散電流、アインシュタインの関係、キャリアの再結合、電流連続の式
第11回	PN接合(1)	PN接合のエネルギーバンド図、拡散電位
第12回	PN接合(2)	逆方向飽和電流の導出、電流-電圧特性、逆電圧降伏
第13回	金属と半導体の接触	ショットキー接合、真空準位、仕事関数、電子親和力
第14回	バイポーラトランジスタ	電流増幅率、ベース接地、エミッタ接地

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 講義ノート、配布資料を復習する。
2. 講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

平松和政『半導体工学』(オーム社)、高橋清『半導体工学』(森北出版)、菅博『増補改訂版 図説電子デバイス』(産業図書)など。

### 【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 試験(70%)、講義時に実施する演習(30%)による

【評価基準】 本科目において設定した目標を60%以上達成している学生を合格とする

### 【学生の意見等からの気づき】

理解を助けるために、資料を充実させる。

### 【その他の重要事項】

民間企業の研究開発に携わってきた教員が、半導体物性に加え、電子デバイス作製のための半導体微細加工についても紹介する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basic physics of the semiconductor materials to understand the characteristics of semiconductor devices.

### (Learning Objectives)

At the end of this course, you will be able to understand the energy band structures, the electrical conduction mechanism (drift and diffusion), and the basic operation of the semiconductor devices (PN junction diode, Schottky diode, and bipolar junction transistor).

### (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to spend an hour on preparing and reviewing each class.

### (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

HUI200XE (人間情報学 / Human informatics 200)

## セキュリティ概論

菊池 亮、野岡 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットが広く普及するにつれて、便利になった反面、セキュリティの問題が顕在化している。

そのため、ネットワーク技術やコンピュータ技術にとってセキュリティの視点からのアプローチが必須となっている。本科目では、インターネット技術を中心に、セキュリティとはなにかを理解し、セキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術との関係を学習し、ICT技術に基づくさらに高度なセキュリティ技術を学ぶ基礎とする。

## 【到達目標】

インターネットが広く普及するにつれて、セキュリティの問題が顕在化している。このため、ネットワーク技術やコンピュータ技術にとってセキュリティの視点からのアプローチが重要となってきている。本授業では、インターネット技術を中心に、セキュリティとはなにかを理解し、セキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術との関係を学習することによりセキュリティ技術を概観し、セキュリティ技術を学ぶ基礎とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる可能性があります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

セキュリティについて技術的側面を中心に学ぶ。セキュリティの意味するところを、実例を交え様々な側面から多角的に学習する。次に、セキュリティの基礎である暗号技術や必要なコンピュータ技術を学習する。続いて、攻撃技術および防御技術の仕組みを理解し、技術的な側面からマルウェア、DDOS攻撃などの攻撃手法とその防御法について学習する。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	セキュリティ概要	セキュリティの考え方、技術の歴史、講義の内容、進め方などについて説明する。
第2回	身近なセキュリティ	身近に起こるセキュリティの事例などを元に、セキュリティの重要性を学ぶ。
第3回	暗号の基礎	基礎的な暗号技術についてその構造を学ぶ。
第4回	電子署名、電子認証	電子署名、電子認証の方式について学ぶ。
第5回	安全な通信の構成	安全に通信を行うための基本的な考え方とSSL/TLSなどの方式を学ぶ。
第6回	高機能な暗号	従来の暗号に機能を加えた高機能な暗号について学ぶ。
第7回	実装攻撃	実装攻撃の方法とその対策について学ぶ。
第8回	脆弱性と攻撃技術	脆弱性とそれに対するバッファオーバーフロー、SQLインジェクションなどの攻撃について学ぶ。
第9回	マルウェア	コンピュータウイルスを含むマルウェアの手口と対策技術を学ぶ。
第10回	DoS攻撃	DoS攻撃手法および対策についての概要を学ぶ。

第11回	安全なネットワークの構築方法	ファイアーウォールやIPSなど、安全なネットワークを構成するための要素技術について学ぶ。
第12回	セキュリティ対応組織の構築	ゼロトラスト、クラウドなどセキュリティ対応組織の構築・運用に関する技術について学ぶ。
第13回	実習: CTF	Capture The Flagというゲームを通じて攻撃や調査手法一般について学ぶ。
第14回	総まとめ	学習内容のまとめと整理。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
課外小テスト対応

## 【テキスト（教科書）】

講義中のスライドと配布資料による

## 【参考書】

- ・情報処理技術者試験 情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書
- ・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク 講義ノート」オーム社
- ・金井他著、「攻めと守りのシステムセキュリティ、」電子情報通信学会発行、コロナ社
- ・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

オンラインでの授業の可能性があり、オンラインの場合は成績評価を以下とする。ただし、状況により、対面授業が可能になる場合はその状況に応じて適切に対応し、学習支援システムを通じ随時お知らせする。  
毎回の小テスト等 → 40%程度  
最終回に行うオンラインテスト → 60%程度  
以下、参考までに従来の基準を示す。  
”定期試験結果（80%程度）、授業姿勢、レポートおよび授業時に行われる演習を総合して評価する。”

## 【学生の意見等からの気づき】

練習問題をより多くし、理解を深めやすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

8回目以降の講義において、簡単なプログラミングが可能な情報機器（パソコン）

## 【その他の重要事項】

オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにする。

## 実務経験

- ・セキュリティシステムの研究開発
- ・システム運用におけるセキュリティマネジメント

## 授業の実施

- ・企業から講師を招き、実際の企業活動への理解を深める。
- ・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
- ・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

## 【Outline (in English)】

## Course outline:

The aim of this course is to help students acquire fundamental literacy of information and cyber security.

## Learning Objectives:

The problem of security is actualizing as the Internet spreads widely. Therefore, the approach from the viewpoint of security is indispensable for network and computer technologies.

## Learning activities outside of classroom:

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## Grading Criteria / Policies:

実務経験のある教員による授業科目 発行日：2024/5/1

Final grade will be calculated according to a short exam after each class (40%), and the term-end examination (60%).

ELC100XE (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 100)

**基礎電気回路 (情報)**

品川 満

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

マークワイザーによって提唱されたユビキタスコンピューティングがIoTとして我々の生活空間に浸透されつつある。IoTは、ソフトウェアとハードウェアが融合された組込システムが利用されている。電気回路はハードウェアの基礎となる科目である。電気回路の基礎知識を身につける、高度な組込システムを効率よく開発できるようになる。抵抗、コイル、コンデンサの受動素子の交流のふるまいを複素数を用いて解析する手法を講義する。

**【到達目標】**

到達目標は、電気回路の交流のふるまいを複素数を用いて解析できるようになることである。電気回路の交流動作解析に必要な不可欠な、虚数単位 $j$ と角速度 $\omega$ の役割を豊富な例題を使って説明する。交流電気回路の基礎を電磁気学との関連させて講義することにより、実際のシステムへの展開がイメージできるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は講義形式を主体とし、適宜小テストや回路シミュレータを用いた演習を行う。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	抵抗と電源	電気回路で学ぶべきことを俯瞰、抵抗からなる回路の基本、小テスト
第2回	各種回路素子とその性質	抵抗、コンデンサ、インダクタを含んだ回路、小テスト
第3回	正弦波	交流の基本となる正弦波の理解と表現方法、小テスト
第4回	正弦波の複素表示	フェーザの考え方、小テスト
第5回	交流応答	受動回路の交流応答、小テスト
第6回	インピーダンス	交流回路におけるインピーダンス、小テスト
第7回	回路シミュレータ実習	回路シミュレータ LT-SPICE を使った回路解析、共振現象の理解、レポート
第8回	電力	交流回路における各種電力の考え方、小テスト
第9回	直並列回路	直並列回路の性質、等価回路、アドミッタンス、小テスト
第10回	相互インダクタンス	トランスの性質と適用例、相互インダクタンス、小テスト
第11回	回路に関する諸定理	重ね合わせの理、テブナンの定理、供給電力最大の法則、小テスト
第12回	過渡現象	非正弦波交流と過渡現象、微分方程式、小テスト
第13回	重要事項整理	講義全体を通して重要な項目を整理、小テストの解法と適用領域を解説する
第14回	重要事項の理解度確認	小テストをベースとした応用問題を解くことで重要事項の理解度を確認する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。講義資料を参考に、小テストを解きなおす。

**【テキスト (教科書)】**

毎回の講義で使用する資料は、講義前に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

**【参考書】**

大学課程 電気回路 (1) オーム社  
絵ときでわかる電気回路 オーム社

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験、小テスト、回路シミュレータ演習を参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験70点、小テストと回路シミュレータ演習30点とし、60点以上を合格とする。なお、成績評価には70%以上の出席率が必要。

**【学生の意見等からの気づき】**

研究開発の現場で実際に用いられている回路シミュレータ演習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト実施中は教員やTAに対し質問しやすい雰囲気づくりに留意し、学生同士の相談を認め、多くの学生が答えに到達できるように配慮する。

**【学生が準備すべき機器他】**

フリーソフトのLT-SPICEを各自のノートPCにインストールしておくこと。インストールがうまくいかない場合はTAに聞くこと。

**【その他の重要事項】**

電気回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電気回路がどのようにIoTのシステム開発に活用されているのかを講義する。オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じて連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の3時間目。

**【Outline (in English)】**

This course introduces AC behavior of passive elements including resistor, coil, and capacitor to students taking this course. Various embedded systems are used for Internet of Things (IoT). These systems require not only software but also hardware technology. Electrical circuit is the basis of developing the hardware.

**【Goal】**

The goal of the lecture is to express the AC behavior of electric circuits in complex numbers.

**【Learning activities outside of classroom)】**

Based on the technical items of each time, learn related parts in advance with reference books. Resolve the tests with reference to the lecture materials.

**【Grading Criteria /Policy】**

Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

COT100XE (計算基盤 / Computing technologies 100)

## 組込システムの基礎

足立 正二

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組込システムとは専用のハードウェアにMPUと制御ソフトウェアを組込んだシステムであり、家電や自動車、産業や社会インフラなどにおいて広く使われている。本授業では、組込システムや組込システムに使われるセンサ、制御、通信ネットワークの基本的かつ体系的な知識を学び、社会や産業における組込システムの役割を理解する。

## 【到達目標】

組込システムで必要となる用語、基礎的事項（ハードウェア、ソフトウェア）、周辺技術（信号処理技術、センサなど）、応用に関する知識などを身につけ、日常目にする組込システム（民生品、産業機器）の機能がどのように実現されているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

①授業は板書およびプロジェクトを併用して講義および演習を行う。学習内容の定着のために演習を交える。テキストは「学習支援システム」を通じて配布する。

②小テストを「学習支援システム」を通じて課し、質問や回答状況を踏まえたフィードバック（解説など）を授業の中で行う。

③最終授業では、レポート課題に対するフィードバック（講評や解説）を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	組込システム入門	組込システムとは、組込システムの基本構成、マイクロプロセッサの役割
第2回	組込システムの事例	計測システム、スマートフォン、車載電子制御システム
第3回	ハードウェア技術（1）	マイクロプロセッサの役割、基本動作、CISCとRISC、システムLSI
第4回	ハードウェア技術（2）	割り込み、DMA、キャッシュメモリ、入出力機能
第5回	ソフトウェア技術（1）	リアルタイム処理、開発環境、開発言語
第6回	ソフトウェア技術（2）	リアルタイムカーネル、割り込みとイベント、マルチプログラミング、タスクスケジューリング、システムコールなど
第7回	前半のまとめと演習	前半の授業のまとめ、演習
第8回	基本I/O	入出力の仕組みと種類、信号の符号化(A/Dコンバータ)、D/Aコンバータ
第9回	外部周辺機器	基本I/O、センサ（温度、圧力、変位、ひずみなど）、アクチュエータ
第10回	センサ信号処理のための電子回路技術（1）	受動素子、ダイオード、トランジスタ、FET、演算増幅器
第11回	センサ信号処理のための電子回路技術（2）	差動増幅器、積分器、フィルター、A/D変換器、信号処理技術
第12回	制御技術入門、レポート課題の説明	制御技術の基礎、シーケンス制御、フィードバック制御、レポート課題の説明
第13回	後半のまとめと演習	後半のまとめ、演習
第14回	組込システム開発の流れ、レポート課題の回答例の説明	組込システムの開発環境、開発の特徴、ソフトウェア開発の流れ、レポート課題の回答例の説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各回4時間を必要とする（標準）。各回のテーマと内容に基づき、テキストや参考書で事前に学習しておくことが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定した教科書は使わない。テキストは「学習支援システム」にて配布する。

## 【参考書】

藤弘哲也「図解入門 よくわかる最新組込みシステムの基本と仕組み」秀和システム  
組込システム技術協会・エンベデッド技術者育成委員会「エンベデッド技術」電波新聞社  
香取巻男、立田純一「すぐわかる！ 組込み技術教科書」CQ出版社  
坂巻佳壽美「トコトンやさしい組込みシステムの本」日刊工業新聞社  
渡辺登、牧野進二「組込みエンジニアの教科書」C&R研究所

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(約30%)、レポート課題(約70%)の結果を総合して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容への興味を向上させるために、組込システム産業の時事ニュースや組込システム開発に関するビデオ等の教材を必要に応じて使用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

テキスト配布・課題掲示等のために「学習支援システム」を利用する。

## 【その他の重要事項】

本授業は「実務経験のある教員による授業」に該当する。実務における組込システム開発事例を紹介し、授業内容の理解の一助とする。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 Embedded systems are systems in which MPU and control software are embedded in dedicated hardware, and are widely used in home appliances, automobiles, industry, and social infrastructure. In this lecture, students will learn basic and systematic knowledge of embedded systems and sensors, controls, and communication networks used in embedded systems, and understand the role of embedded systems in society and industry.

【Learning Objectives】 The objective of this course is to acquire the terminology, basic items (hardware, software), peripheral technologies (signal processing technology, sensors, etc.), and knowledge of applications required for embedded systems, and to understand how the functions of embedded systems (consumer products, industrial equipment) that we see in our daily lives are realized.

【Learning activities outside of classroom】 Preparation and review time for this class requires 4 hours for each session (standard). It is recommended that students study in advance with textbooks and reference books based on the theme and content of each session.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on a combination of the results of participation and attitude (about 30%) and report (about 70%).

COT200XE (計算基盤 / Computing technologies 200)

## ネットワークプログラミング

下村 道夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ほぼすべてのアプリケーションはインターネットによる通信機能が漏れなく実装されている。サービスやアプリケーションに関する、研究・SE・開発といった職種で活躍することを目指す学生にとって、通信の仕組みと実装の基礎を理解しておくことは極めて重要である。本講義では、インターネットでの通信機能の基礎知識とそれに関するプログラミング実装方法を講義と実習を通じて学ぶ。利用する言語はC言語である。

## 【到達目標】

本講義では、コンピュータ通信の仕組みを理解して基礎的なネットワークプロトコルの理解とそのプログラミングができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義による知識の習得と、プログラミング実習による知識の定着を並行して進める授業形態とする。

TCP/IPを始めとした代表的な通信の仕組みを講義と基礎的な通信プログラミング（ソケットプログラミングと呼ばれる）にて体験し、知識として習ったことを実際にプログラミングして確認する。その上で、アプリケーション層の通信の仕組み（プロトコル）の代表例として、ホームページの閲覧（HTTPというプロトコルを利用）、チャット等が実装できるようになることを目指す。使用するプログラミング言語は「C言語」である。

講義中にプログラムを組んでもらうため、貸与PCの利用が前提となる。WindowsOS上にUNIX相当の環境を構築できる「cygwin」の利用を前提とする。

前半の何回かは、実習に必要な部分を中心にC言語の復習も行う予定であり、現時点でC言語に自信のない学生でも履修に挑戦することができる。また、UNIXについても実習に必要な事項は講義の中で説明するため、UNIXを利用したことがない学生でも大丈夫である。

どうしても自力で課題を解けない人のために、課題のサンプルプログラムを印刷したものを配布するため、それをもとにしてレポート課題を作成することが可能である。

C言語のプログラミングやデバッグのノウハウも教えていく。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要、実習環境整備
第2回	実習準備1	UNIXコマンド、C言語復習（文字列操作）
第3回	実習準備2	C言語復習（ビット操作、コマンド引数等）
第4回	実習準備3	C言語復習（ポインタ）、インターネット基礎とIPアドレス
第5回	IPアドレスの10進2進変換	IPアドレスの10進2進変換プログラム作成、サブネットマスクの理解
第6回	インターネット基礎、実習準備4	TCPとUDPの基礎、プロトコルモニタWiresharkの使い方、C言語の構造体
第7回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側）。ソケットのクライアント側の基礎を学び、実装する。通信相手となるサーバ側ソフト（先生が作成したものを配布）を用いて動作確認する。
第8回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側、サーバ側）。ソケットのサーバ側の基礎を学び、実装する。前週に自分で作ったクライアント側ソフトと通信して動作確認する。
第9回	HTTPクライアント	HTTPの基礎概要を学び、HTTPクライアントとして簡易版Webブラウザを実装する。インターネット上の一般のWebサイトにアクセスすることで動作確認する。
第10回	UDP通信の実装	UDPの実装方法を学び、UDPを使ってメッセージのやりとりをするプログラムを実装する。

第11回	チャット（クライアント側）	データ受信とキーボード入力受信の双方に対応する方法を学び、簡易版チャットプログラムを実装する。学生が作成したクライアントソフトと先生が用意するサーバソフトを接続し動作確認する。
第12回	チャット（サーバ側）	チャットのサーバ側ソフトを実装し、学生同士で実際にチャットをすることで動作確認する。
第13回	マルチプロセス	マルチプロセス(fork())の講義と実習。複数ユーザと同時に通信できるようにするための方法を学び、前回学んだサーバ側ソフトを改良することで実装する。
第14回	レポート課題実装	これまでの実習で獲得した知識をもとにレポート課題の実装を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。】

- ・UNIX、C言語の習得
- ・講義時間内の実習で終了しなかった課題

## 【テキスト（教科書）】

指定するテキストは特になし。毎回、授業プリントを配布する。

## 【参考書】

指定する参考書は特になし。

C言語やUNIXやソケットプログラミングに関する参考情報は、インターネットを検索することで十分に得られる。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（3件）により評価する（試験は行わない）。

評価の配分は下記の通りである。

1 件目レポート：20%

2 件目レポート：30%

3 件目レポート：50%

※ 評価配分から、3 件目レポートが未提出だと確実に不合格になってしまうことに注意のこと

## 【学生の意見等からの気づき】

ステップバイステップで説明するため、確実に理解・実装して頂くことで比較的簡単にネットワークプログラミングを書けるようになる。しかし、逆に（欠席したり、不明点を放っておいたり、自主宿題をやってこなかったりすることなどにより）一歩一歩確実に理解・実装を進めていかないと、次のステップのハードルが高く感じてしまう。講義資料のアップロード、掲示版やメールでの質疑応答等、可能な限りフォローするが、講義中も含めて質問は随時受け付けるので遠慮なく聞いてほしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

本講義は実習を含むことから貸与ノートPCおよび、貸与ノートPC上のプログラミング環境が必須となる。また、ネットワークプログラミングの動作を確認する必要上、ネットワーク接続も必要である。具体的には以下の通りである。

<必要機器>：貸与ノートPC

<プログラミング環境>：C言語開発環境（Windowsのcygwin上のgccを想定開発環境とする）

<ネットワーク接続>：無線にてネットワーク接続ができること

## 【その他の重要事項】

・授業時間中に、3名のTA（大学院生）がプログラミング実習のサポートを行う予定であり、先生には聞きづらい事項などはTAに質問/支援依頼することが可能である。

・通信の基礎知識と実装を学びたい学生の果敢なチャレンジを期待する。コツコツと苦勞して獲得した多数の知識を駆使して、自分で組み上げたプログラムが実際に通信を行って動いた時の喜びは格別であり、達成感を味わうことができる。

・担当教員は通信サービス系企業に約20年間勤務し、数々のネットワークサービスに関して、研究から実用化開発、保守運用業務の実務経験を有している。本授業では実用化開発経験に基づいた実装ノウハウなども紹介していく。

・C言語はコンピュータの仕組み（メモリの概念やポインタなど）をある程度把握する必要があるため、コンピュータの基礎を知る上でもマスターしておくことが望ましいプログラミング言語だと言える。

「1度は、C言語プログラマーを経験しておくべき」

<http://www.orenoh.com/knowledge/c-programmer.html>

オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

**[Outline (in English)]**

The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of communication functions on the Internet and how to implement programming related to it through lectures and practical training. The programming language used in this lecture is C.

The goal of this lecture is to understand the mechanism of computer communication, basic Internet protocols like TCP and UDP and their programming using programming language C.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following three times reports.

1st report: 20%、2nd report: 30% and 3rd report : 50%

COT300XE (計算基盤 / Computing technologies 300)

## 情報ネットワーク設計論

原田 薫明

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に、通信レイヤ2、3、4のプロトコルや仕組みを深く理解する。その上で、具体的にLANを設計、構築する基礎的な知識と方法を学ぶ。

## 【到達目標】

インターネット接続を意識した、レイヤ2～4およびネットワーク制御や利用に必要な一部のサーバを中心とした初歩的なローカルエリアネットワーク(LAN)を具体的に設計できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、情報ネットワークを構築する方法について、インターネットに接続することを前提としたローカルエリアネットワーク(LAN)の設計を教授する。まず、物理層(レイヤ1)からネットワーク層(レイヤ3)を対象として、Ethernetを中心として有線/無線LANなどのLANの仕組みと構成を理解する。続いて、レイヤ3を中心として、サブネット設計、ルーティング設計を習得する。ネットワーク利用に必要なアプリケーションプロトコルやサーバについて、利用に応じた上位層の各種サーバの構成を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報ネットワークの歴史と発展	情報ネットワーク（コンピュータネットワーク）におけるネットワーク構成の歴史と発展
第2回	通信方式概観	全体の通信方式を学ぶ。
第3回	ネットワークプロトコル構成	ネットワークプロトコルや通信レイヤの考え方、構成を学ぶ。
第4回	WANとLAN	WANとLANの仕組みを学ぶ。
第5回	レイヤ2プロトコル(CSMA/CD)	有線LAN (Ethernet)の基本的なプロトコルであるCSMA/CDとVLANを学ぶ
第6回	レイヤ2プロトコル(CSMA/CA)	無線LANの基本的なプロトコルであるCSMA/CAを学ぶ。
第7回	レイヤ3プロトコル(IP)	IPの仕組みを学ぶ。
第8回	レイヤ4プロトコル(TCP)	TCPの仕組みを学ぶ。
第9回	アドレス変換とサブネットワーク	アドレス変換、各種ネットワークサーバの種類や仕組みを学ぶ。
第10回	アプリケーションレイヤ	アプリケーションレイヤの構成法を学ぶ。
第11回	各種サーバ	ネットワーク構成に必要な各種サーバの構成法を学ぶ。
第12回	ネットワークの基本的構成	ネットワーク構築の条件とそれに基づいた構成と設計について基本的な接続を学ぶ。
第13回	ネットワークのサーバ設置法	ネットワーク構築の条件とそれに基づいた構成と設計についてサーバ類の機能や設置について学ぶ。
第14回	設計、構成例とまとめ	具体例を元に、設計法を学ぶとともに全体をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。

- ・課外レポートの作成。
- ・理解度チェックテストの実施。
- ・グループワークの準備（補助教材のダウンロードとインストール）。

## 【テキスト（教科書）】

授業中のスライドと配布資料による。

## 【参考書】

- ・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク 講義ノート」オーム社
  - ・情報処理技術者試験ネットワークスペシャリスト関連の参考書
  - ・「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」(オーム社)
- その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の宿題としての理解度チェックテストまたはレポート → 50%程度
- ・試験期間に行う試験および最終レポート → 50%程度

## 【学生の意見等からの気づき】

課題に対するフィードバックを迅速に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン、学習支援システム等を利用する。

## 【その他の重要事項】

オンラインでの開講となった場合の対応

- ・オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示します。
- ・担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

## 実務経験

- ・小規模情報システム・ネットワークの管理運用
- ・ネットワークトラフィックの計測と分析
- ・クラウドシステムの企画と運用

## 授業の実施

- ・企業から講師を招き、実際の企業活動への理解を深める。
- ・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
- ・学問的なことだけでなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

## 【Outline (in English)】

You mainly understand deeply the protocol and structure of the communication layers 2, 3, and 4. You study the foundational knowledge and method of designing local area network(LAN) to build concretely LAN.

COT300XE (計算基盤 / Computing technologies 300)

## パターン認識

森 稔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間が行っている「識別」や「理解」という高度知的情報処理は、視覚や聴覚といった各種の外部刺激を脳で解析し行われている。コンピュータによってこれらの情報を処理する場合、解析対象となる各種情報を情報列「パターン」として扱うことになる。本講義では、各種パターンをどのように解析、処理することで、さまざまな対象の「識別」や「認識」が可能となるのかについて、その概要（理論・方法）を学ぶ。

## 【到達目標】

様々な対象の「識別」や「認識」を目的として、パターンをどのように取得、解析し、処理していくかについての概要（理論、方法）を学び、実際に自分の興味のある識別・認識問題に対して、アプローチしていく基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

コンピュータによる「認識」や「理解」といった知的処理の実現には、大まかに、(1)対象の読み取り、(2)対象の特徴量抽出（記述）、(3)特徴量による分類（識別）、という段階に分けられる。本講義では、これらの(1)から(3)の過程について、理論および実際のシステムの実現例を紹介しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	ガイダンス、パターン認識とは、特徴の記述 (1)	・パターン認識の概要 ・エッジ検出
2回目	特徴の記述 (2)	・勾配ベースの特徴 ・大きさ・位置に不変な特徴 (SIFT)
3回目	パターン照合による識別	・クラス識別の概念 ・特徴ベクトルと特徴空間 ・最近傍決定測 ・単純類似度法 ・マハラノビス距離 ・部分空間法
4回目	ベイズ	・確率 ・ベイズの定理 ・ナイーブベイズ
5回目	決定木	・決定木の概要 ・分割規則 ・過学習の抑制
6回目	アンサンブル学習	・アンサンブル学習の概要 ・バギング ・ブースティング
7回目	Support Vector Machine	・線形SVM ・カーネルトリック ・非線形SVM
8回目	ニューラルネットワーク (1)	・形式ニューロン ・パーセプトロン
9回目	ニューラルネットワーク (2)	・誤差逆伝搬法 ・損失関数 ・普遍性定理
10回目	ニューラルネットワーク (3)	・接続層 ・ニューラルネットワークの課題
11回目	ニューラルネットワーク (4)	・活性化関数 ・正規化層 ・スキップ接続
12回目	ニューラルネットワーク (5)	・注意機構 (Attention)
13回目	ニューラルネットワーク (6)	・DNNの応用・展開 (1) 物体検出・敵対的画像他
14回目	ニューラルネットワーク (7) 及び課題	・DNNの応用・展開 (2) 画像生成 ・期末課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本格的に理解するには、自分でプログラミングできる方が望ましく、Python等の開発言語を身につけておき、自分で確かめられると良い。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

## 【参考書】

・石井健一郎他 「わかりやすいパターン認識」 オーム社  
・田村秀行 「コンピュータ画像処理」 オーム社  
・原田達也 「画像認識」 講談社  
・斎藤康毅 「ゼロから作る Deep Learning」 オライリージャパン  
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)

平常点 (30%)

特に理由がない限り、出席率が3分の2 (10回) 以上を前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

サンプルプログラムの説明・実行や、実サービスの応用例など、興味を持てる内容や課題を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参のこと (Pythonの実行環境がインストールされていると良い)。

## 【その他の重要事項】

企業にて研究・開発・企画等の各種勤務経験のある講師が、基本から最先端に至る理論・技術に関する講義を行うと共に、企業における利用状況や研究開発の在り方などについても紹介する。

## 【Outline (in English)】

(Course Outline)

Computers recognize images or signals by handling information to be understood as patterns. This course introduces theories and methods of pattern recognition such as image recognition to students taking this course.

(Learning Objectives)

The goals of this course is acquiring basic knowledge and skills for applying pattern recognition methods to practical tasks.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Term-end report: 70%, in class cotribution: 30%.

COT400XE (計算基盤 / Computing technologies 400)

## セキュリティシステム設計

齊藤 典明

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

セキュアな情報システムとするための原理や手法を、インターネットに接続されたLANとシステムで構成されるネットワークシステムを基本に学ぶ。また、企業の最先端の情報や実習を交えて、実践的な学習を行う。

## 【到達目標】

様々な攻撃や内部漏えいを防止するためのネットワークやコンピュータシステムを実現するために、攻撃手法と防御手法を理解し、ネットワークを含めた初歩的なセキュア・システム設計および対策ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

コンピュータシステム、ネットワークの仕組みの概要を学ぶ。次に、セキュアなシステムとはなにかを理解し、基礎となる暗号技術、認証技術を学び、それに基づいたセキュアプロトコルを理解した上で、ネットワークを通じた攻撃技術と防御技術を理解する。次に、具体的なセキュアネットワークシステムやコンピュータシステムの設計手法を学習する。グループディスカッションを交えて、課題分析力を養う。

・講義に対する連絡事項、課題の提出および課題に対するフォードバック、連絡事項は、学習支援システム経由で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびセキュリティの全体像と最新動向	簡単なオリエンテーションの後、セキュリティとはなにか、セキュアシステムとはなにかについて、世の中の動向も含めて学ぶ。
第2回	ネットワーク攻撃の種類と概要	ネットワーク攻撃の種類と概要、および関連する基礎知識を学ぶ。
第3回	法律とITシステム	セキュリティに関する法律と、ITシステムとの関係を学ぶ。
第4回	企業における情報セキュリティの取り組み事例の紹介	実際の企業で実施されている情報セキュリティへの取り組み事例を学習する。
第5回	レイヤ4以上での攻撃（サイバー攻撃対策）	サイバー攻撃とその対策手法について学ぶ。
第6回	レイヤ4以上での攻撃（Web）	Webに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第7回	レイヤ4以上での攻撃（電子メール）	電子メールに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第8回	レイヤ3での攻撃	TCP/IPのレイヤ3と4における不正アクセスの事例と、その防御のための設計・設定について学ぶ。
第9回	LAN上のセキュリティ（レイヤ1と2）	レイヤ1と2における脅威とセキュリティ対策について学ぶ。
第10回	セキュリティプロトコル	暗号、署名方式についての簡単な解説と、SSL、IPSecについて学ぶ。
第11回	防御システムの基本構成（セキュアネットワーク）	防御するためのネットワーク構成の基本を学ぶ。
第12回	防御システム構成と各種サーバ構成（クラウドセキュリティ）	セキュアなネットワークとするための構成方法と各種サーバの設置およびIDS（侵入検知システム）、IPS（侵入防止システム）について学ぶ。
第13回	その他、重要なセキュリティ対策技術（解析技術）	マルウェア解析やデジタルフォレンジックについて学ぶ。
第14回	その他、重要なセキュリティ対策技術（個人データの匿名化手法）	個人情報の安全な利用を想定して、個人データの匿名化手法について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
課外レポート作成。

## 【テキスト（教科書）】

授業中のスライドと配布資料による。

## 【参考書】

・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク 講義ノート」オーム社

・金井他著「攻めと守りのシステムセキュリティ」電子情報通信学会発行  
コロナ社

・情報処理技術者試験 情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書

・若林著「よくわかる最新暗号技術の基本と仕組み」秀和システム

・中島著「サイバー攻撃」ブルーバックス・講談社

・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・毎回の小レポートと（14個50点満点）と試験相当の最終課題（50点満点）で評価する。

・最終課題の提出を必須とし、毎回の小レポートと最終課題の合計が60点以上で合格とする。

・授業への取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

## 【学生の意見等からの気づき】

企業等の実際の最新情報をおこむ。

## 【その他の重要事項】

実務経験

・汎用コンピュータの開発環境の開発

・電話網インテリジェントネットワークの開発

・セキュリティシステムの研究開発およびマネジメント

授業の実施

・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。

・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

## 【Outline (in English)】

- Course outline

To become able to design a secure network system, several threats for a network and anti cyber attack technologies are lectured in this lesson. And, this lesson is composed of some lectures and group discussions.

- Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

It will be able to know the basic principles of cyber attacks and anti method for it.

It will be able to know how to develop information systems on secure.

- Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Final report: 50%、Short 14 reports by every times: 50%

COT400XE (計算基盤 / Computing technologies 400)

## ユビキタスネットワーク

若林 哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身の回りにはいたるところに小型コンピュータが存在し、それらがネットワークにより相互につながっている。このような環境をユビキタスネットワークと呼び、現在はIoTと名称を変え、あらゆる場所で簡単に情報が利用可能になる仕組みとして発展し続けている。ユビキタスネットワークを実際に構築するために必要な様々な技術について階層ごとに分けた技術テーマを学ぶ。

## 【到達目標】

ユビキタスネットワークは、光と電気、ハードウェアとソフトウェア、デバイスからネットワークまで、広範囲な技術が必要とする。これらの技術に関して基礎知識を習得し、実際にどのように利用されているかを理解することを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面講義と演習を行う。

ユビキタスネットワークを学ぶ上で、1. IoTとは、2. ネットワーク技術、3. ハードウェア開発、4. ソフトウェア開発、5. 人工知能など、直接関わる技術やその周辺技術として、これらの技術を最先端の研究開発状況と関連付けて講義する。講義形式を主体。適宜小テストおよび課題提出を行うことで理解を深める。課題のフィードバックは授業内で個々に実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	IoTの基礎	ユビキタスネットワークの発展型であるIoTについてを学ぶ
第2回	IoTの活用	IoTを応用したサービスなどの現状を学ぶ
第3回	組込システム	システム化技術と組込システムとの関連を知る
第4回	LSI技術	半導体の基本とLSI開発、設計、製造
第5回	IoT通信	IoTデバイスの通信方法などの技術について学ぶ
第6回	IoTを支える技術	通信ネットワークやシステムに関する技術などを学ぶ
第7回	IoTを考える	今まで学んだIoTに関する内容をグループ討議でまとめ、発表を行う。
第8回	IoTセキュリティ	大量の情報が流通するIoTにおけるセキュリティを学ぶ
第9回	IoTのビジネスモデル	IoTは技術だけでなく、どのように社会に展開していくかも大事なのでビジネスモデルについて学ぶ
第10回	人工知能概論	IoTに欠かせない人工知能について概要と関わりを学ぶ
第11回	D Xって何だ？	デジタルトランスフォーメーション(DX)の目的や企業経営との関わりについて学ぶ。
第12回	5Gでできること	5Gの技術のその成り立ちなどについて学ぶ。
第13回	IoT概論（1）	2週にわたりIoT概論を講義する
第14回	IoT概論（2）	2週にわたりIoT概論を講義する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回のテーマと内容から、インターネット、新聞、技術雑誌等で関連箇所を事前に調べておくこと。また、日ごろ利用している電子機器の仕組みについて興味を持つ。

## 【テキスト（教科書）】

毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、授業内でアナウンスする。

## 【参考書】

特に参考書を指定はないが、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験、課題提出、レポートを参考に総合的に判断する。期末試験50点、課題とレポートを50点とし、60点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

身近な情報通信機器と、最先端のハードウェア・ソフトウェア通信ネットワーク技術の関連をわかりやすく講義する。講義内容に直接関連した小テストに留意する。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンなどのテキスト購読用情報機器。資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用するので各自で登録が必須。

## 【その他の重要事項】

企業での経験から、IoTシステムに必要とされている基盤技術を丁寧に講義するとともに、日々進歩する最新技術動向を解説する。オンライン講座を前提のシラバスとなっているが、対面の場合にも同様な講座内容となる予定。

## 【Outline (in English)】

Many small computers exist in living space, and they are interconnected by a network. Such an environment is called a ubiquitous network. I will lecture on various technologies necessary for actually achieving a useful ubiquitous network. Attendance is mandatory. Reporting will take place outside of class hours. Final grade will be determined by reports (50%) and exams (50%).

COT100XE (計算基盤 / Computing technologies 100)

## インターネットプロトコル

原 潤一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報ネットワークの基本的なプロトコルを学ぶ。インターネットの代表的なプロトコルであるTCP/IPを取り上げ、情報ネットワークの仕組みを学ぶ。また、アプリケーションレイヤのプロトコルとして電子メールプロトコルを取り上げ、理解を深める。

## 【到達目標】

情報ネットワークの通信の仕組みを理解する上で不可欠なプロトコルについて、インターネットで使われている代表的なプロトコルであるTCP/IPを中心に学び、今後のネットワーク技術を学ぶ基礎を養うことを目的とする。

1. 通信一般に必要な通信プロトコルレイヤについて説明できる。
2. TCP/IPの考え方と、具体的な仕組みや機能を説明できる。
3. 電子メールプロトコルの仕組みを理解し、メールヘッダを解読できる。
4. インターネットデータ通信が行われる仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式の授業とする。講義では、可能な範囲で演習などを取り入れることで理解度を高めることを目指す。また、学習内容の確認を兼ねた小テストやレポート等の課題を学習支援システムを通じて適宜課し、授業中に解答例を示すことで、前回の講義内容の理解度を深める。受講生から受けた質問やコメントは、適宜授業内で取り上げ講義内容や議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターネットの歴史	インターネットの発祥からその発展の経緯を学ぶ。
第2回	パケット通信の仕組みと通信レイヤ	パケット通信の仕組み、通信レイヤ参照モデルを学ぶ。
第3回	プロトコルのための基礎知識	基礎となる二進法、コード体系などを学ぶ。
第4回	IPアドレス体系	IPアドレス、URLの体系を学ぶ。
第5回	IPルーティング	IPパケットのルーティング方法、経路選択、制御方式を学ぶ。
第6回	TCPプロトコルの機能	TCPプロトコルの機能を学ぶ。
第7回	TCPプロトコルにおけるウィンドウ制御、スルーブットの考え方	スルーブットの考え方とウィンドウ制御方式を学ぶ。
第8回	電子メールの動作に必要な機能	電子メールの仕組みおよびプロトコルを学ぶ。
第9回	電子メールのヘッダ	電子メールのヘッダやエンコード方式について学ぶ。
第10回	ウェブのプロトコル	ウェブの仕組みおよびHTTPやCSSなどを学ぶ。
第11回	その他のプロトコル	TELNETや他のアプリケーションなどのプロトコルを学ぶ。
第12回	セキュリティとプロトコル	セキュリティおよびセキュアプロトコルの基本について学ぶ。
第13回	全体のまとめ	第1回から12回迄の情報ネットワークの通信の仕組みを概観する。
第14回	インターネットプロトコルの理解度確認	講義全体に対する理解度を確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の際には次回の講義内容が予告されるため、前に予習をしようとして授業にのぞむことが望ましい。

授業後は、適宜課されるレポート等の復習課題に取り組む。課題がない場合でも内容を振り返り、十分な復習をしておくこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めない。授業で用いる資料等は学習支援システムにて配付する。

## 【参考書】

- ・井上直也, 他. マスタリングTCP/IP 入門編. 第6版, オーム社, 2019.
- ・アンドリュウ・S・タネンバウム, 他. コンピュータネットワーク 第5版. 日経BP, 2013.
- ・情報処理技術者 ネットワークスペシャリスト試験関連の参考書
- その他、必要に応じて講義中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・レポート等の課題（100%）

以上を基準とし、総合的に評価するが、学年末試験を実施する場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

意見等で共有すべき内容がある場合は、次回以降で学生に共有し、次年度に反映する。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

## 【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。授業計画通りに行う予定であるが、実施回や内容等が変更される可能性があります。

## 【Outline (in English)】

This class let you know to learn the basic protocols of information networks, by taking up TCP/IP which is a typical protocol of the Internet, and also the e-mail protocol as an application layer protocol to deepen the understanding.

Your grade will be evaluated based on the number of class attendance, reports, tests, and assignments.

The next lecture will be announced at the time of class, so you should prepare for the class before attending the class.

After class, we will review the reports that are imposed as needed. Even if there are no report, please review the contents and thoroughly review them.

The preparation and review of this class is 4 hours each.

COT300XE (計算基盤 / Computing technologies 300)

## クラウドコンピューティング

下村 道夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(本講義は「グリッドコンピューティング」と同一内容である。)  
インターネットの進展に伴い、分散コンピューティングが主流になりつつある。その端緒がグリッドコンピューティングであり、そのビジネス発展形がクラウドコンピューティングである。分散コンピューティング環境を「安全で使いやすいもの」にするためには新たな技術が必要となる。本授業では、グリッド/クラウドコンピューティングを「安全で使いやすいもの」にするための要素技術を解説する。また、これらの技術をベースとするビッグデータについても解説する。

## 【到達目標】

グリッドコンピューティングやクラウドコンピューティングとは何か、それらに使われている技術はどのようなものか、それらを利用したサービスにはどのようなものがあるのかなどを把握することで、将来、ICT（情報通信技術）に携わる職種（研究開発、SE、プログラマー等）に就く際に必要不可欠な広範囲な基礎知識習得を図ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業では、グリッド/クラウドコンピューティングの要素技術であるセキュリティ、ジョブ実行管理、データベース管理、プログラミングモデル等の基礎的な内容に触れるとともに最新の応用例なども取り入れていく。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要 (1)	グリッド/クラウドの概念や要素技術を体系的に学ぶ
2回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要 (2)	グリッド/クラウドに関連する幅広い基礎知識を学ぶ
3回	セキュリティ (1)	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証技術を中心に学ぶ。
4回	セキュリティ (2)	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、デジタル署名技術を中心に学ぶ。
5回	小テスト1	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確かなものとする。
6回	セキュリティ (3)	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証連携（シングルサインオン）技術を中心に学ぶ。
7回	情報サービス	分散されたコンピューティングリソースを効率的活用をもたらす情報サービス技術を学ぶ。
8回	ジョブ実行管理、スケジューリング	分散されたコンピューティングリソースを用いて効率的にジョブ実行を行うための管理方式やスケジューリング方式について学ぶ。
9回	データベース管理	分散された情報リソースの効率的利用を可能とする分散データベースシステムについて学ぶ。
10回	小テスト2	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確かなものとする。
11回	プログラミングモデル、クラウドコンピューティングサービスと要素技術1	プログラミングモデル（マスタ・ワーカ方式）、クラウドコンピューティングの定義や形態について学ぶ。

12回	クラウドコンピューティングサービスと要素技術2、ビッグデータ	クラウドコンピューティングの要素技術として、GoogleFileSystem、Bigtable、分散Key-Valueストア等の概要を学ぶ。さらに、クラウド技術が活用されているビッグデータの内容と社会課題を解決する具体的な応用例を学ぶ。
13回	小テスト3	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確かなものとする。
14回	特別講義	外部講師による特別講義を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・予習として、授業計画に示されたキーワードについてインターネット検索などにより調べ、不明点を抽出する。  
・復習として、授業内での不明点の調査、関連知識の調査、レポート課題、小テストに向けた復習などを実施する。

## 【テキスト（教科書）】

指定するテキストは特になし。毎回、授業プリントを配布する。

## 【参考書】

指定する参考書は特になし。毎回、授業プリントを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート1回(70%)、小テスト3回(30%)、平常点等によって決定する。オンライン授業になった場合も同様とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

グリッド/クラウドコンピューティングに限定せず、それをきっかけに、関連する情報通信技術に関する基礎知識、ビジネス現場での活用例、サービス事例等についても幅広く取り上げる。また、社会事象の捉え方、社会での振る舞い方といった高度情報社会を生きる社会人としての基本思考、基本言動、基本マインドにも言及する。

## 【その他の重要事項】

担当教員は通信サービス系企業に約20年間勤務し、数々のネットワークサービスに関して、研究から実用化開発、保守運用業務の実務経験を有している。本授業ではこれらの業務経験に基づいた情報通信サービスの技術、サービスに関する具体的な事例、仕事の進め方なども紹介する。オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire elemental technologies for making cloud computing safe and easy to use and basic knowledge of information communication related services using big data.

By the end of the course, students are expected to acquire extensive basic knowledge of ICT that is essential for future ICT careers as follows:

- What is cloud computing.
- What are the technologies used in cloud computing.
- What are the services by cloud computing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%、Three times mini-examinations : 30%

ELC200XE (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

## 電子回路

品川 満

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組込システムは、ソフトウェアとハードウェアの融合によって成り立つ。ハードウェアの要素技術である回路は、抵抗、コイル、コンデンサなどの受動素子と、トランジスタやダイオードなどの能動素子から成り立つ。本講義では、受動素子と能動素子を組み合わせた電子回路の動作を、回路シミュレータソフトで実験しながら理解する。特に電子回路の基本となるオペアンプの基本動作を理解し、オペアンプを用いて微弱信号が検出できるようになる。

## 【到達目標】

電子回路の動作を解析的に解くことは重要ではあるが、実際に使用することを想定したとき、回路シミュレータの活用が必須となる。回路シミュレータを用いたAC解析や過渡解析手法を理解し、オペアンプを様々なシステムに適用できる技術を習得することを授業の到達目標とする。

The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

オペアンプの基本動作、およびオペアンプの応用例について、LT-SPICE回路シミュレータを用いて解析しながら、電子回路の理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電子回路とは	講義で学ぶことを俯瞰、LT-SPICEインストール
第2回	受動素子と共振現象	抵抗、コンデンサ、コイルの受動素子の基本動作と、受動素子を用いた共振現象
第3回	トランジスタ回路	トランジスタの基本回路であるエミッタ接地、ベース接地、コレクタ接地
第4回	増幅器基礎	小信号特性、周波数特性
第5回	差動増幅器	周波数特性、電圧利得、同相成分抑圧比、小信号特性
第6回	オペアンプ基礎	ボルテージフォロワー、反転増幅器、非反転増幅器
第7回	中間実技試験	LTspice使用方法理解度確認
第8回	オペアンプ応用	加減算、微分、積分
第9回	オペアンプ発展	差動増幅器、バーチャルショート
第10回	フィルタ回路	ローパスフィルタ、ハイパスフィルタ、バンドパスフィルタ
第11回	電源+バイアス	回路を動作させるための電源の考え方、両電源、単電源の役割
第12回	人体通信	人体通信の等価回路と周波数特性
第13回	まとめ	講義全体を通して重要な項目を整理
第14回	重要事項理解度確認	講義で取り上げた電子回路および電子回路の応用問題の試験により、重要事項の理解度を確認

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。小テストを講義資料を参考に解きなおす。

The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours. From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.

## 【テキスト (教科書)】

毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

## 【参考書】

LTspiceで学ぶ電子回路 オーム社

定本 オペアンプ回路の設計 CQ出版社

定本 トランジスタ回路の設計 CQ出版社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験あるいは最終レポート、小テストを参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験あるいは最終レポート課題70点、小テスト30点とし、60点以上を合格とする。なお、成績評価には70%以上の出席率が必要。Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

## 【学生の意見等からの気づき】

研究開発の現場で用いられている回路シミュレータの実習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト中は、教員およびTAに対して質問可能とし、さらに学生同士の相談を認めることで、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

フリーソフトのLT-SPICEを各自のノートPCにインストールし持参する。インストールがうまくいかない場合はTAに聞くこと。

## 【その他の重要事項】

電子回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電子回路がどのようにIoTのシステム開発に活用されているのかを講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の3時限目。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the operation of electronic circuits combining passive and active elements using a circuit simulator. Embedded systems consist of software and hardware. Circuits are an important technology in the hardware. Active elements such as transistors and diodes play an important role in addition to passive elements such as resistors, coils and capacitors. The basic operation of the operational amplifier, which is the basis of the electronic circuit, will be explained, and various application examples of the operational amplifier will be introduced.

## 【Goal】

The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.

## 【Learning activities outside of classroom)】

The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours. From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

## IoTシステム工学

品川 満

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには小さなコンピュータがいたるところに存在する。このような環境をユビキタスコンピューティングと呼び、いつでも、どこでも、だれでも、様々な情報通信サービスが利用できる。現在、ユビキタスコンピューティングはIoTという名称に変わり発展し続けている。誰にもつかいやすいIoTシステムを実現するための様々な要素技術を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

到達目標は、IoTの概念を理解することである。通信技術、センサ技術、ネットワーク技術、ソフトウェア技術などのIoTシステム工学に関わる要素技術を習得し、それぞれの技術を実際のシステムに適用できるようになる。

The goal is to understand IoT system. Learn elemental technologies related to IoT system such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

半導体デバイス、集積化技術、コンピュータについて、成り立ちから最先端の研究開発まで、具体的な事例を題材に取り上げ、IoTシステムに関わる要素技術を講義する。講義形式を主体とし、適宜小テストや課題提出を行うことで理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計測技術	IoTシステム開発に必要な計測技術、解析技術、小テスト
第2回	バッテリー技術	エネルギーを蓄えるバッテリー技術とIoTシステムとの関係、小テスト
第3回	LSI技術	半導体の基礎とLSI開発・設計・製造、低消費電力、小テスト
第4回	マイコン	IoTシステムに必要とされるマイコンの歴史と構成、小テスト
第5回	電磁波	電磁波とは何か、電磁波の発生と性質、小テスト
第6回	無線通信（一次変調）	正弦波信号の乗算、変調方式、ミキサ、一次変調、小テスト
第7回	無線通信（二次変調）	二次変調方式、スペクトラム拡散の耐雑音性および秘匿性、小テスト
第8回	デジタル変調	デジタル変調の基礎、小テスト
第9回	無線LAN	無線LAN方式の種類とその特徴、小テスト
第10回	ソフトウェア無線演習	GNU radioを用いた変復調コーディング
第11回	伝送特性	無線通信伝送特性評価、小テスト
第12回	光ファイバ通信技術	大容量通信に適した光ファイバ通信技術、多重化方式、小テスト
第13回	重要事項整理	全小テストの解法と具体的な適用領域を示し、重要事項を整理する
第14回	重要事項理解度確認	講義全体の重要事項の理解度を確認するために、小テストをベースとした応用問題を解く

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。日頃から情報通信に関する最新情報をインターネット、新聞、テレビから入手する。小型コンピュータがどこで活用されているか常に意識する。スマートフォン、パソコン、ネットワークなど、日ごろ使っているシステムの仕組みに興味を持つ。The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours. Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.

### 【テキスト（教科書）】

毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか講義に関する変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

### 【参考書】

特に参考書を指定しないが、必要に応じて講義中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験70点、レポートおよび小テスト30点とし、60点以上を合格とする。なお、成績評価には70%以上の出席率が必要。

Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

### 【学生の意見等からの気づき】

身近なIoTサービスの具体例を増やすとともに、重要な項目を適宜整理することにより理解を深める。小テストについて、基礎と応用を織り交ぜて出題する。解法については講義内でいねいに解説する。小テスト中は教員およびTAに質問可能とするとともに、学生間での相談も認め、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

企業での研究開発経験を活かし、IoTに関連する通信技術やデバイス技術は最新技術動向を基に講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の3時限り。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire understand the background and concept of ubiquitous computing. Ubiquitous computing has been changed into IoT and continues to evolve. I will lecture on various hardware and software element technologies for achieving useful IoT services.

### 【Goal】

The goal is to understand Mark Weiser's advocacy of ubiquitous computing. Learn elemental technologies related to ubiquitous computing such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.

### 【Learning activities outside of classroom)】

The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours. Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.

### 【Grading Criteria /Policy】

Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

SSS200XF (社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 200)

## アクチュアリー数理

佐伯 利明

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険会社等で商品開発や決算などの業務に関わるアクチュアリーには確率や統計の考え方が不可欠となる。本授業を通じて、その基礎的な部分を演習により学んでいく。

### 【到達目標】

確率・統計の基礎的な部分を学び、資格試験受験に役立てる。また、簡易的なモデルの演習を通じて保険数理（保険料の計算の考え方）、金融工学（資産運用ポートフォリオの考え方）、経済学等を取り扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキストの解説だけでなく、授業内で確認テストや中間テストを行い、当日行った授業内容の確認を演習を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションおよび金利の考え方の説明	資格試験、業務事例についての説明。保険数理やファイナンスの基礎となる金利の考え方の説明
第2回	金利の考え方の説明	金利の考え方を住宅ローンを題材にして説明
第3回	離散型の確率①	確率変数・確率分野や期待値の考え方について。
第4回	離散型の確率②	代表的な離散型の確率分布について。
第5回	連続型の確率①	連続型の確率の考え方と離散型との違いについて。
第6回	連続型の確率②	代表的な連続型の確率分布について。
第7回	確率変数の和や中心極限定理	再生性や代表的な分布による確率変数の和の算出について。また中心極限定理の考え方について。
第8回	中間テスト（金利・確率）	第1-7回までの確認テスト。対面ができない場合にも実施します。
第9回	統計・点推定	点推定の考え方について。
第10回	統計・区間推定（母平均）	区間推定の考え方と正規母集団の母平均の区間推定について。
第11回	統計・区間推定（母分散）	正規母集団の母分散の区間推定について。
第12回	統計・仮説検定（1つの母集団）	仮説検定の考え方と母平均に関する仮説検定について。
第13回	統計・仮説検定（2つの母集団）	母分散や母平均の差に関する仮説検定について。
第14回	まとめ	全体のまとめ。対面で期末テストができない場合には、14回目を期末の課題となります。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】基本的には各授業において確認テストを行うことから、授業および確認テストで理解ができていればテスト前以外については特段行う必要なし。ただし、復習としてテキストについて確認しておくことより理解が深まる。

### 【テキスト（教科書）】

授業に使用するテキストはHoppi上の教材部分に保存しておくのでPCで見ると、印刷して持参すること。授業として他のテキストは不要。

### 【参考書】

- ※購入の必要はありません。この分野に興味のある方向けです。
- ・確率統計演習1および2 国沢清典
- ・生保年金数理I理論編 黒田耕嗣
- ・確率で考える生命保険数学入門 京都大学理学部アクチュアリーサイエンス部門編
- ・意味がわかる統計解析 涌井貞美
- ・基礎演習確率統計 和田秀三
- ・アクチュアリー数学入門 黒田耕嗣

### 【成績評価の方法と基準】

下記の①～③に基づき評価を行う。なお、期末テストを受けなかった場合には評価対象外。

- ①平常点（確認テスト含む）：30%程度
- ②中間テスト（授業内テスト）：20%程度
- ③期末テスト（授業外）：50%程度

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・テキストとして使用する資料
- ・電卓

※対面の場合、テストにおいてはPC等の使用は不可

### 【その他の重要事項】

生命保険会社で15年ほど業務（商品開発10年、収益管理5年）を行っており、課題を通じて生命保険の考え方を提供していく

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Probability and statistics are indispensable for actuaries involved in product development and settlement work at insurance companies. You will learn the fundamental part by exercises.

#### 【Learning Objectives】

Understanding basic probability and statistics.

#### 【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.

#### 【Grading criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
Term-end examination: about 50%, Mid-term examination: about 20%, in class contribution: about 30%

ECN300XF (経済学 / Economics 300)

## 計量経済学

劉 慶豊

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計量経済学の基礎知識を習得し、その上、データを利用して抽象的な経済理論の正当性について検証する計量経済学の方法と経済・経営活動を分析するための計量経済学の方法を身につける。講義の他にコンピュータ言語Pythonを入門から学び、それを利用したデータ分析の実習を行う。

### 【到達目標】

実証分析のためのモデルの特定化、現実データによるモデルの推定、妥当性の検証、諸統計量の検定など、計量経済学の基礎を学び、経営に必要な計量的技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実例を多用する講義とコンピュータを用いた実習。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	計量経済学とは何か
2	データの性質	統計学の基礎知識の復習
3	単回帰	線形回帰式の推定及び検定、最小2乗法の性質
4	実習	Python入門と単回帰の実装
5	偏相関係数と回帰	3変数データの回帰分析
6	重回帰分析	推定、検定、残差診断
7	不均一分散に関して	問題点と対処法
8	実習	Pythonによる分析例の実装
9	系列相関に関して	問題点と対処法
10	操作変数法	理論と応用
11	実習	Pythonによる分析例の実装
12	離散選択モデル	理論と応用
13	パネルデータ分析	理論と応用
14	実習	Pythonによる分析例の実装

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書による予習と授業で習った方法を利用してデータ分析の練習を行う。

### 【テキスト（教科書）】

森棟公夫, 基礎コース 計量経済学, 新世社, 2005.

### 【参考書】

山本勲, 実証分析のための計量経済学, 中央経済社, 2020.

中妻照雄, 実践 Python ライブラリー Python による計量経済学入門, 朝倉書店, 2020. (コードなど [https://github.com/nakatsuma/python\\_for\\_econometrics](https://github.com/nakatsuma/python_for_econometrics))

### 【成績評価の方法と基準】

実習課題30%, 期末試験 or レポート70%。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中で学生の学生の習得状況を確認し、それに合わせて講義内容を調整する。

### 【その他の重要事項】

この講義の理解を深めるには、「情報システム工学」や「計量経済学」、「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「公共経済学」、「金融政策論」、「金融システム論」、「社会システム概論」などの経済学関連講義を数多く履修すること、また、微積・線形代数も履修することが必要です。経済学には必ずと言っていいほど、行列・ベクトル・偏微分・全微分さらに多重積分、微分・差分方程式が必要で、それらをすべて網羅した計画を立てて履修してください。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces econometrics to students taking this course.

(Learning Objectives)

In this course, students can develop their practical ability to analyze economic issues based on econometrics methods.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students are expected to read the relevant chapter of the textbook, understand the content, and complete the required assignments.

(Grading Criteria /Policy)

The evaluation will be based on exercises (30%) and final examination (70%)

ECN300XF (経済学 / Economics 300)

## 保険数理論

三戸 亮平

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険業務に携わるアクチュアリーは保険料や責任準備金の計算を行っており、その業務には確率・統計の手法が用いられている。本講義では確率・統計の手法に基づき、保険数理の理論や計算手法を学ぶ。

### 【到達目標】

1. 保険数理の理論および計算手法を理解する。
2. 保険料および責任準備金の計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

・保険数理の理論や計算手法を講義形式で解説する。また、業務事例を通じて保険数理の理解を深める。  
 ・各回の講義資料を配布し、それに基づき授業を行う。また、確率・統計の知識に関する資料を補足資料として配布する。  
 ・課題については提出内容を踏まえて、問題の考え方を「学習支援システム」に掲載する。また、第7回講義でそれまで取り扱った課題から、いくつか取り上げて解説を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アクチュアリーの活躍フィールド、試験制度、業務事例
第2回	生命表・金利	保険の基礎知識、生命表、金利
第3回	純保険料（1）	計算基数、一時払純保険料の考え方と計算
第4回	純保険料（2）	平準払純保険料の考え方と計算
第5回	責任準備金	責任準備金の考え方と計算
第6回	営業保険料	営業保険料の考え方と計算
第7回	課題解説	第2回～第6回のまとめ、演習課題の解説
第8回	確率的アプローチ（1）	保険金年末支払
第9回	確率的アプローチ（2）	保険金即時支払
第10回	応用事例（1）	保険料・責任準備金に関する応用問題
第11回	応用事例（2）	様々な保険商品の保険料の計算事例
第12回	応用事例（3）	実務上の責任準備金、解約返戻金の考え方と計算
第13回	応用事例（4）	収益性検証、利源分析
第14回	総論	総まとめ、保険商品開発の実務の紹介

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

・復習のための演習問題を用意する。演習問題を実際に解くことで内容の理解を深めること。  
 ・第2回～第6回までに取り扱う保険数理における基本的な事項については、演習課題を課す。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない（講義レジュメに基づき授業を行う）。

### 【参考書】

・黒田耕嗣、「アクチュアリー数学シリーズ5 生命保険数理」、日本評論社  
 ・山内恒人、「生命保険数学の基礎 アクチュアリー数学入門」、東京大学出版会  
 ・京大大学院理学部アクチュアリーサイエンス部門編、「アクチュアリーのための生命保険数学入門」、岩波書店  
 ・東京大学教養学部統計学教室編、「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」、東京大学出版会  
 ・その他必要に応じて講義中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

下記に基づき評価を行う。

1. 平常点：15%
2. 演習課題：40%
3. レポート：45%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

・講義レジュメ  
 ・パソコンまたは電卓

### 【その他の重要事項】

・保険会社で保険数理業務を担っている教員が、保険数理の理論および計算手法の講義を行う。またアクチュアリーの活躍フィールド・魅力や業務事例を紹介する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Actuaries involved in insurance business are calculating insurance premiums and policy reserves. This course introduces actuarial science based on probability and statistical methods to students taking this course.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand actuarial theory, calculate insurance premiums and policy reserves.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
 Overall performance score: 15%, Short reports : 40%, Term-end reports: 45%

MAN300XF (経営学/Management 300)

## 国際経営分析

赤塚 正樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産と法に関する基礎的な知識・考え方について、具体的事例を交えながら考察することで、「知的財産マインド」を育む。

※注意：科目名は「国際経営分析」となっていますが、実際の授業内容は「知的財産と法」です。

### 【到達目標】

1. 知的財産と法に関する基礎的な知識・考え方を理解する。
2. 身近で起こった知的財産に関する問題に関し、簡単な解説ができる。
3. 知的財産権に関して起こり得る問題を事前に察知し、それを回避できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

配布資料及びパワーポイントを用いた授業を行った後、個別又はグループ演習により「考える」ことで、授業内容の理解を深める。なお、授業の最初に、前回の授業内容に関する小テストを実施し、その解説を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	知的財産と法の全体像
2	特許法(1)	特許を受けることができる発明
3	特許法(2)	特許要件及び手続き
4	特許法(3)	特許権の侵害への対応
5	アイデア発想法	アイデア商品を開発する
6	意匠法(1)	意匠法で保護されるデザイン
7	意匠法(2)	意匠法特有の制度
8	商標法(1)	商標が持つ4つの機能
9	商標法(2)	商標としての「使用」
10	知的財産権の調査	J-PlatPatを用いた調査
11	著作権法(1)	著作物とは
12	著作権法(2)	著作権と著作隣接権
13	著作権法(3)	著作権の制限規定
14	まとめ	その他の知的財産権

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。授業資料や参考書で予習・復習するとともに、授業内容に関連する記事やニュースを調べることで、授業内容についての理解を深めてください。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業で使用する資料は、事前にデータで配布します。

### 【参考書】

1. 2023年度知的財産権制度入門テキスト, 特許庁ウェブサイト, 2023年 [https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2023\\_nyumon.html](https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2023_nyumon.html)
2. 知的財産管理技能検定 3級テキスト(改訂14版), アップロード, 2023年, 3300円(税込)
3. ビジネス著作権検定 公式テキスト【初級・上級】第3版, インプレス, 2022年, 2420円(税込)

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テスト又は提出レポート【70%】と、授業・演習への参加姿勢(発言・質問など)【30%】で評価する。期末試験は行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を踏まえて授業内容や難易度などを調整する。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコン等の端末でインターネットに接続する必要があります。資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

### 【その他の重要事項】

本授業を受講するにあたり特別な前提知識は必要としませんが、知的財産と法に少しでも興味があり、受け身ではなく前向きに授業に参加する意志のある学生を対象とします。

### 【Outline (in English)】

#### (Course Outline)

This course introduces basic knowledge about intellectual properties and laws with specific examples to foster a proper mindset about intellectual properties.

#### (Learning Objectives)

The goals of this course are to:

1. understand basic knowledge and concepts regarding intellectual properties.
2. be able to provide simple explanations on intellectual property issues that have occurred nearby.
3. be able to early recognize and avoid possible problems regarding intellectual property rights in advance.

#### (Learning Activities outside of Classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen their understanding by reading the lecture materials and the reference books and by researching articles and news stories related to the lecture content.

#### (Grading Criteria / Policy)

The evaluation will be based on quizzes in lectures or reports submitted [70%] and participation attitudes in lectures and exercises (comments and questions) [30%]. Term-end examination will not be conducted.

ECN300XF (経済学 / Economics 300)

## 管理会計論

熊谷 均

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、企業経営において管理会計理論が必要とされる背景を理解し、講義と演習とディスカッションを通じて管理会計の基礎的な理論と実践方法を学ぶ。

### 【到達目標】

管理会計について、財務会計並びにファイナンス理論との関係を踏まえた基礎的な理論と具体的な実践手法を身につけ、経済的な意思決定の前提となる情報を自ら分析し意味づけを行い、他者に伝えることができるようになることで、経済社会において付加価値の高い人材になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

参加者全員がGoogleクラスルームに接続して講義をすすめる。毎回、講義・グループディスカッション・プレゼンテーション・演習課題を行う。出席者には発言を求め、検索すれば得られるような正答を追求することには重きを置かず、自らが深く考え、その考えを積極的に伝える努力を通じて必要な知識と思考法を身につける意欲と、他者の発言を尊重し講座に参加する全ての者の学びに貢献する姿勢を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 会計情報の意義 財務会計と管理会計	講座の進め方と評価上重点事項の説明 会計情報を作成し利用する目的と意義 財務会計と管理会計の違い
第2回	業務意思決定の理論と実践	業務意思決定の意義 原価計算の基礎
第3回	ビジネスゲーム①	ビジネスプロセスと経営意思決定に関連するビジネスゲームのルールの説明と実施
第4回	ビジネスゲーム②	ビジネスプロセスと経営意思決定に関するビジネスゲームの実施（第3回の続き）
第5回	業務意思決定の理論と実践①	固定費・変動費 限界利益 損益分岐点分析
第6回	業務意思決定の理論と実践②	意思決定の意味 増分分析（差額原価収益分析） 意思決定に用いられる原価概念
第7回	投資意思決定の理論と実践①	投資意思決定の意義 現在価値概念 投資の経済計算
第8回	投資意思決定の理論と実践②	企業価値と株式価値
第9回	財務分析①	財務分析の目的と意義 財務指標の類型と例示
第10回	財務分析②	具体的な事例を用いた財務分析手法と結果に関する意味づけに関する解説
第11回	財務分析③	上場企業の実例を用いた財務分析の実践

第12回	ビジネスゲーム③	価格決定や交渉を含むビジネスプロセスと経営意思決定に関するビジネスゲームの実施
第13回	レポート課題の解説・まとめ①	提出済みレポート課題の受講者によるプレゼンテーションと講師による解説
第14回	レポート課題の解説・まとめ②	提出済みレポート課題の受講者によるプレゼンテーションと講師による解説（第13回の続き）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】11月中旬にレポート課題の内容を発表し、提出期限は12月中旬（後日指定）とする。第13回及び第14回講義の際の自らのレポート課題を他の受講生を含む講座全員に対してプレゼンテーションする。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

管理会計基礎編 櫻井通晴 同文館出版  
会計の世界史 イタリア、イギリス、アメリカ 500年の物語 田中靖浩 日本経済新聞出版社  
世界標準の経営理論 入山 章栄 ダイヤモンド社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・講義中の発言・グループディスカッション・演習課題の取り組みなどを通じた講座への貢献、講義内容を意欲的に理解し自らの血肉にしようとする姿勢）70%  
レポート課題（課題発表のプレゼンを含む）30%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講に先立って財務会計論を履修済みであることを推奨するが必須ではない。

### 【学生が準備すべき機器他】

PCの持参は必須である。PCを持参しない者の受講を認めない。Googleクラスルームに全員が接続して講義を進める。板書もオンライン上でいい、また、表計算アプリ（エクセルあるいはGoogleスプレッドシート）を使用する前提での演習を行う。

### 【その他の重要事項】

上記【成績評価の方法と基準】に基づく単位取得条件に満たない受講者に対し、救済措置は一切とらない。

講師は、大手国際会計事務所（KPMG）にて財務諸表監査（日本及び米国）、M&A、企業再生などの実務に従事した後、独立開業。現在は、M&Aに関連するアドバイザー業務の他に、ベンチャー創業者や社会起業家に対する支援も行う。また、上場企業の社外役員を歴任。これらの経験に基づく実践的な視座から講義を行う。

### 【Outline (in English)】

#### (Course outline)

This course aims to understand the background behind the need for management accounting theory in corporate management and to learn the basic theories and practical methods of management accounting through lectures, exercises, and discussions.

#### (Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to explain in your own words the information desired by various stakeholders related to business activities.

#### (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.

#### (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports(including presentations in the classroom): 30 %, in class contribution: 70%

ECN200XF (経済学 / Economics 200)

産業組織論

高野 直樹

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代における我が国の主要な産業組織(主に企業)の経営課題、経営戦略、企業行動、経営成果等を、標準的な経済学の理論を応用して理解し、かつアクティブ・ラーニングを通じて簡潔に説明できる力を修得する。

【到達目標】

・原則として、出席すべき時間数以上の出席がある履修学生を対象に、①「グループ・ワークと研究発表」または「個人研究」(50%)、②発言・質問等の授業への参加姿勢や態度、課題やエクササイズの提出、出席などの平常点(50%)から、総合的に評価する。そのため、全ての授業に出席していても、単位の認定が行われないことがある。  
・課題やエクササイズ等がある場合は、原則、期限内に解答を教員に提出することをもち出席とする。  
・定められた時間数以上の出席がなければ単位の認定は受けられない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 企業の経営戦略や企業行動を理解するための標準的な経済学の理論を概観する。
  2. 日本の企業の変遷や経営戦略、企業行動、経営成果等について説明する。
  3. 現実の企業の経営戦略や企業行動等についてグループで整理・討論・研究し、その成果をプレゼンテーションする。
- 【注1】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。  
【注2】状況により、対面・オンラインの授業形態やその予定回を変更することがある。  
【注3】講義資料の共有や、課題・エクササイズの提出・解答等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】	講義の目的、主な内容、進め方、評価方法等を説明する。
第2回	【日本経済と産業構造】	戦後復興期までの日本経済、高度成長、石油ショック以降の日本経済と産業構造について講義する。
第3回	【ミクロ経済学①】 独占と市場の失敗	完全競争、独占企業の行動、自然独占、市場の失敗、外部性、公共財と最適均衡等について学ぶ。
第4回	【ミクロ経済学②】 市場と競争	競争理論、寡占市場、ゲーム理論(ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、技術の選択)、ネットワーク効果等について説明する。
第5回	【ミクロ経済学③】 モラル・ハザードと逆淘汰	危険分担、隠された行動とモラル・ハザード、隠された情報と逆淘汰、私的情報とシグナリング等について概観する。
第6回	【事例研究①】 情報通信(NTT、楽天、Google等)	日本の通信業の発展と独自性、5Gとスマートフォン、プラットフォームとビジネスモデル等について解説する。

第7回	【事例研究②】 鉄道(JR東日本、東急電鉄、阪急電鉄等)	日本の運輸における鉄道の地位、国有鉄道とJR、私鉄型ビジネスモデル等について解説する。
第8回	【事例研究③】 銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行等)	日本の銀行の現状と課題、規制下での規模拡大競争、金融自由化、新たなビジネスモデル等について解説する。
第9回	【事例研究④】 自動車(トヨタ自動車、本田技研工業、日産等)	自動車産業の技術力の伸長、石油危機による転換、バブル崩壊と国内自動車産業、CASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)等について解説する。
第10回	【事例研究⑤】 商社(三菱商事、伊藤忠商事、三井物産等)	商社の機能、総合商社、10大商社体制、商社の夏の時代・冬の時代、グループ経営等について解説する。
第11回	【グループ・ワークと研究発表①】 または【個人研究①】	①テーマの理解、②資料の分析と整理、③論理構成力、④プレゼンテーション、⑤ディスカッション、⑥コミュニケーション、⑦マネジメント等の多面的な問題解決能力の獲得を目指し、グループ・ワークと研究発表を行う。 【注】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。
第12回	【グループ・ワークと研究発表②】 または【個人研究②】	グループ・ワークと研究発表の場合は、事例の理解、検討、知識の整理等を行う。繰り返し討論し、課題解決を図る。
第13回	【グループ・ワークと研究発表③】 または【個人研究③】	グループ・ワークと研究発表の場合は、パワーポイントを使って説明資料を作成し、リハーサルを行うなど、発表の準備を行う。
第14回	【グループ・ワークと研究発表④】 または【個人研究④】	グループ・ワークと研究発表の場合は、成果発表と講評を行う。他の履修学生は発表内容に対する質問等を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。
- ・授業時間外に研究発表の準備等が必要になる可能性がある。

【テキスト (教科書)】

教科書なし。必要な資料等は学習支援システムで共有するか、講義のときに投影する。

【参考書】

1. 小田切宏之(2019)『産業組織論-理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣
2. 花崗誠(2018)『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣
3. ジャン・ティロー(2018)『良き社会のための経済学』日本経済新聞出版社
4. Li Way Lee (2019) "Industrial Organization: Minds, Bodies, and Epidemics" Palgrave Pivot
5. L. Pepall, D. J. Richards, G. Norman (2014) "Industrial Organization: Contemporary Theory and Empirical Applications" Wiley

### 【成績評価の方法と基準】

- ・原則として、出席すべき時間数以上の出席がある履修学生を対象に、①「グループ・ワークと研究発表」または「個人研究」(50%)、②発言・質問等の授業への参加姿勢や態度、課題やエクササイズの提出、出席などの平常点(50%)から、総合的に評価する。そのため、全ての授業に出席していても、単位の認定が行われないことがある。
- ・課題やエクササイズ等がある場合は、原則、期限内に解答を教員に提出することをもって出席とする。
- ・定められた時間数以上の出席がなければ単位の認定は受けられない。

### 【学生の意見等からの気づき】

経済学の理論の説明では、パワーポイントの資料や図表を使うなどして、なるべく平易に解説したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

1. 本科目の学習支援システムを利用すること。講義資料の共有や課題・エクササイズ等は学習支援システムで行う。
2. 対面講義の場合は貸与されたWindows PCを持参すること。

### 【その他の重要事項】

- ・履修学生には、受動的に授業に出席したり理論を暗記したりするような学習態度ではなく、自ら進んで学び、参加することを期待する。
- ・履修学生の理解度や興味、関心によってスケジュールや内容を変更することがある。

### 【教員の実務経験等】

- ・2019-現在 江戸川大学社会学部教授(「IT産業論」「戦略的経営論」「経営学概論」等担当)
- ・2014-2019年 (株)NTTドコモ(国際事業等)
- ・1999-2014年 NTTコミュニケーションズ(株)(事業計画、人事等)

【資格等】博士(経済学)横浜国立大学、修士(MBA)フランス HEC Paris 経営大学院、TOEIC 965点、フランス語検定2級

【履歴】リサーチマップ <https://researchmap.jp/takano.naoki/>

### 【履修学生からの連絡方法】

メールでご連絡ください。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course will focus on managerial issues, corporate strategy, business behavior, and economical performance of modern Japanese industries and/or companies by applying standard economic theory.

(Learning objectives)

1. To understand and acquire basic economics systematically through its theory and practices.
2. To be able to analyze and explain corporate strategy and behavior by applying economic theory.

(Learning activities outside of classroom)

Standard hours for preparation and review of this course are four (4). Possible overtime preparation is expected for groupwork and presentation.

(Grading Criteria /Policies)

As a rule, only for students attended more than required, (1) 50% by a mark given for "Groupwork and presentation" or "Personal study", (2) 50% by a mark given for proper attitudes such as comments and/or questions in a classroom, quiz and/or exercise submission, and class participation. Therefore, even full attends, no credit is possible. If a quiz or an exercise is given, student's attendance is recognized by its submission before deadline in general. Credit will not be given if attendance rate is below required.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

## 物質構造化学

## 緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

## 【到達目標】

授業の到達目標

- 1) 結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2) 結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、32結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3) X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallographyの見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。

13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密度等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用する資料(ppt)は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

## 【参考書】

- ・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴圃
- ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
- ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

## 【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布  
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

## ・ Achievement goal of class

1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.

2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.

3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.

## ・ Learning outside of class

Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.

## ・ Class evaluation methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

## 物質機能化学

### 緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するために、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

#### 【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。  
物質の電子状態について理解する。  
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。  
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

#### 【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁気的メカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

#### 【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房  
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版  
「分子結晶」：J.D.Wright著 化学同人  
「物性論入門」：石井晃著 共立出版  
「現代物性化学の基礎-化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社  
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房  
「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」  
「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人  
「基礎量子化学・Hartree-Fock編」中井浩巳著 丸善出版  
「格子振動と構造転移」石橋善弘著 森北出版

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

#### 【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

#### 【Outline (in English)】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

・ Attainment target

- 1) Understand various properties (physical properties) of materials.
- 2) Understand the electronic states of materials.
- 3) Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
- 4) Understand the basics of developing new functional substances.

・ Learning outside of class

Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.

・ Grading methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

**物質循環化学**

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球上においては様々な物質が変質を起こしながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

**【到達目標】**

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

DP2

**【授業の進め方と方法】**

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の構造(1)	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	鉱物の構造(2)	鉱物の結晶構造について学ぶ。
6	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
7	変成岩	変成岩とその生成機構について学ぶ。
8	堆積岩	堆積岩とその生成機構について学ぶ。
9	地球の変動	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
10	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
11	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
12	鉱物・エネルギー資源	地球上における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】**  
前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次回の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

「地球・環境・資源—地球と人類の共生をめざして— 第2版」

内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

**【参考書】**

現代地球科学入門シリーズ9巻「地球のテクトニクスⅠ 堆積学・変動地形学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ11巻「結晶学・鉱物学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ12巻「地球化学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ15巻「地球と生命—地球環境と生物圏進化—」共立出版

現代地球科学入門シリーズ16巻「岩石学」共立出版

**【成績評価の方法と基準】**

試験(80%)と演習問題(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

関数電卓

**【その他の重要事項】**

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fundamental of introduction of computational fluid dynamics. (Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

## 蛋白工学

### 常重 アントニオ

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to alter and produce them. Special emphasis will be given to theoretical basis for the design of protein structures from scratch (de novo). The course will also emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

#### 【到達目標】

The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, starting from those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications, using recent technologies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

#### 【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted in the form of presential lectures. Handouts will be available in electronic format through the Hoppii system. The use of a personal computer is greatly advised.

Direct assessment of understanding will be conducted continuously.

As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions.

Submission of reports will be requested and use as feedback.

Active participation of students is encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes. Basic concepts in protein structure.
3	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures. The hydrophobic collapse.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification. Basic techniques.	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins <i>de novo</i> (from scratch). Taming the destabilizing forces in protein constructs. Analyzing examples from nature.
7	<i>De novo</i> Design of Proteins (I).	The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	<i>De novo</i> Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	<i>De novo</i> Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis. Protein production without the use of organisms.
10	Protein Denaturation.	Thermodynamic aspects of protein denaturation.
11	Protein Refolding.	The still unsolved problem of protein refolding.
12	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.

13	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.
14	The Future of Protein Engineering	Beyond the helix bundle motif.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Prior classes, handouts and references will be distributed through the system Hoppii. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.

Quizzes and problems to be solved as homework will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

#### 【テキスト（教科書）】

The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.

改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社（2012）

#### 【参考書】

Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

#### 【成績評価の方法と基準】

Final exam (or equivalent): 60%; assignments and reports: 20%; active participation in class: 20%.

#### 【学生の意見等からの気づき】

The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

#### 【その他の重要事項】

None.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

## 生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展した1分子計測技術の基本を学ぶ。

### 【到達目標】

細胞内における分子の動きに注目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動(1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動(2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動(3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動(4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。

14 総括

講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

### 【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善  
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版  
など

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、試験を実施できない事情があった場合、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

### 【学生が準備すべき機器他】

演習で貸与PCを用いる。

### 【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

## 分子生物学 I

木口 悠也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

### 【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発見」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業はアクティブラーニングを用いた講義形式で行う。zoomまたは対面授業とする（講義の前日までに実施方法は連絡する）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（ノート資料とスライド資料）を用い、授業内で演習を行いながら、進行させる。各授業では宿題を設定する。提出された宿題については、必要に応じつぎの授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	メンデルの発見から
第2回	遺伝子の構造と機能 (1)	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能 (2)	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能 (3)	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持 (1)	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持 (2)	複製フォーク
第7回	まとめ (1)	「遺伝子の構造と機能」と「遺伝情報の維持」のまとめ
第8回	遺伝情報の発見 (1)	一遺伝子一酵素説
第9回	遺伝情報の発見 (2)	ウイルス合成の調節
第10回	遺伝情報の発見 (3)	オペロン説と転写反応
第11回	遺伝情報の発見 (4)	リボソームと mRNA
第12回	遺伝情報の発見 (5)	遺伝暗号とアダプター分子
第13回	遺伝情報の発見 (6)	コドン
第14回	まとめ (2)	「遺伝情報の発見」のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学 I」、「細胞生物学 I」、「生物物理学 I」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第4版」(著者：B.アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂)

「エッセンシャル 遺伝学」(著者：D.L.ハートル・E.W.ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館)

「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」(著者：J.W.ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局)

### 【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発見」のしくみを正しく捉えることができているかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」(30%)、「達成度」(30%)、「理解度」(40%)としてまとめ、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト/アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

### 【その他の重要事項】

最先端のゲノム解析技術を活用した細菌叢(マイクロバイオーーム)解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論にも言及する授業を行う。また、分子生物学を基盤として発展している様々な生命科学の研究分野も紹介し、受講生に幅広い興味を提供する。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes. This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.

[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

## 生物化学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝経路における役割について概説する。エネルギー代謝、物質代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

## 【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学Iでは特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答を学習支援システムを通して提出する。講義内容への質問があれば同時に提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第2回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構成
第3回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第4回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第5回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第6回	中間試験	中間試験
第7回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第8回	酵素（2）	反応速度論
第9回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第10回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第11回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第12回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第13回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第14回	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

## 【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

## 【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの生化学 第7版」（廣川書店）  
成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

## 【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。大いに利用してほしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

## 【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

## 【Outline (in English)】

Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10% of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50% for the final examination.

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

## 蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の担い手であるタンパク質について、その立体構造と基本的な構造構築原理、およびタンパク質の構造と機能との相関について概要を理解する。

### 【到達目標】

以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、タンパク質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状タンパク質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、タンパク質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクチオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答を学習支援システムを通して提出する。講義内容への質問があれば同時に提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	タンパク質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	タンパク質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局在と一次構造、系統解析
第5回	タンパク質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	$\alpha$ ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と $\alpha$ ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	$\beta$ シート、 $\beta$ バレル、 $\beta$ ターンの構造的特徴
第8回	繊維状タンパク質の三次構造	コイルドコイル、セラチン、コラーゲン、絹フィブロイン
第9回	球状タンパク質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	タンパク質の四次構造、天然変性タンパク質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクチオシン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクチオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

### 【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

### 【参考書】

「レーニンジャーの新生化学 第5版」（廣川書店）

### 【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。大いに利用してほしい。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

### 【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

### 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10% of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50% for the final examination.

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

## 蛋白質構造機能学 I I

曾和 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

### 【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに、構造予測についても触れる。
5	リガンド結合1	タンパク質のリガンド結合について概説する。
6	リガンド結合2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する。
7	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体エネルギー論	ギブズ自由エネルギーについて概説する。
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する。
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について、基本的な原理を概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

### 【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、テストを実施できない場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を丁寧におこなう。

### 【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与PCを用いる。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%) and term-end examination(50%).

PPE200YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200)

## 植物病学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

### 【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

<<授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします>> パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したりTEDなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中にオンラインのアンケート機能等を用いて、理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「テスト/アンケート」あるいは「課題提出」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病 (1)	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病 (2)	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病 (1)	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病 (2)	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病 (1)	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病 (2)	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理 (1)：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理 (2)：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理 (3)：バイオテクノロジー	従来の育種後術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害管理 (IPM)
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

### 【テキスト（教科書）】

植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

### 【参考書】

植物病理学（眞山滋志、難波成任編），文永堂出版，2010.

Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.

Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

### 【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

#### 【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

#### 【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

## 細胞工学

廣野 雅文

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞構成分子の機能を解明する手段として使われる様々な細胞工学的技術について、それらの基盤となる細胞膜と細胞骨格の構造と性質を学び、技術的な原理を理解する。

### 【到達目標】

細胞膜と細胞骨格の物質的基盤、基本的構造と機能を理解する。その上で、細胞の構成分子の生理的機能を解析する手段として使われてきた、様々な細胞改変技術の具体例とそれらの基本原理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。また、講義内容の資料は、PDFファイルとして学習支援システムにアップロードする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序論	工学と理学の違い、細胞質工学とは、細胞質工学に用いる技術
第2回	生体膜の重要な性質	選択的透過性、エネルギー変換、情報伝達、電気的興奮
第3回	生体膜の基本的な構造	リン脂質、脂質2分子層構造と解明の歴史、膜の流動性、流動モザイクモデル
第4回	膜の透過性	Fickの式、透過係数
第5回	膜の輸送-1	受動輸送と能動輸送、単純拡散、促進拡散、担体輸送、チャンネル輸送
第6回	膜の輸送-2	一次能動輸送、二次能動輸送、膜動輸送
第7回	膜電位	膜電位の発見、Nernst電位、静止膜電位、活動電位
第8回	微小管の構造と性質	チューブリンと微小管の構造、チューブリンの重合、微小管の動的不安定性
第9回	細胞内微小管	微小管結合タンパク質による微小管形成の調節、gamma-チューブリン環状複合体
第10回	微小管モータータンパク質	キネシンの分子構造と多様性、キネシンと微小管の相互作用、ダイニンの分子構造、ダイニン-微小管の相互作用
第11回	キネシン、ダイニンが担う細胞運動	色素細胞の色素胞輸送機構、軸索輸送機構、鞭毛内輸送機構
第12回	有糸分裂における微小管の機能	紡錘体、有糸分裂の過程、紡錘体の構造と形成機構、染色体の分離機構
第13回	中心体	中心体・中心子・PCM、中心子と繊毛、中心子の基本構造、中心子の複製と新規形成、複製回数制御
第14回	繊毛の構造と機能	運動性繊毛と非運動性繊毛、繊毛の機能、繊毛の構造、繊毛の運動機構

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習するには他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

### 【テキスト（教科書）】

講義資料（PDF）をHoppiiにアップロードする。

### 【参考書】

Bruce Alberts：「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス

Benjamin Lewin:「細胞生物学」東京化学同人

### 【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題としてだすクイズの正解は、資料をみれば簡単にわかるので、あえて知らせていなかったが、やはり知りたいという声が多かったので、今年度からは質問への回答とともに授業支援システムにアップロードすることにした。

### 【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先導的研究の成果を授業内で説明している。

### 【Outline (in English)】

This course provides an overview of cell technologies used in the field of cell biology, such as DNA introduction into cells, GFP-tagging of proteins, cell fusion, and cell manipulation. To understand the principles of these technologies, the course will cover topics of structures and functions of biomembrane and cytoskeleton. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10% of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50% for the final examination.

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

## 生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

### 【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学IIでは多種の酵素による反応過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝1	解糖系について
6	糖代謝2	糖新生について
7	糖代謝3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCAサイクル	TCAサイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝1	脂肪酸分解
11	脂質代謝2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成1	明反応
14	光合成2	暗反応

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価法：期末テスト（60%）、レポートや中間テスト：（40%）の結果をもとに総合的に評価する。

評価基準：細胞内で起こっている糖、脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

### 【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

### 【Outline (in English)】

This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes. Specifically, the goal of the course is to acquire chemical insights on reaction networks and their precise regulations on metabolic pathways. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

**生物物理学 I**

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半ではニューロンの生物物理学について解説し、活動電位発生の物理を理解する。

**【到達目標】**

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

DP2

**【授業の進め方と方法】**

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第2回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する。
第3回	力学1	単位系について解説する。
第4回	力学2	運動について解説する。
第5回	力学3	力と運動方程式について解説する。
第6回	力学4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第7回	力学5	過減衰系の運動について解説する。
第8回	まとめと演習1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第9回	ニューロンの生物物理1	細胞の電気的性質と電子回路の基礎について解説する。
第10回	ニューロンの生物物理2	ネルンストの式を導出する。
第11回	ニューロンの生物物理3	膜電位について解説する。
第12回	ニューロンの生物物理4	イオンチャネルの物理について解説する。
第13回	ニューロンの生物物理5	活動電位について解説する。
第14回	まとめと演習2	ニューロンの生物物理学についてのまとめと演習テストをおこなう。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

ゼロからの力学I, II, 岩波書店,  
Essential細胞生物学 原書第2版, 南江堂

**【成績評価の方法と基準】**

レポートや中間テスト(40%)と期末試験(60%)の結果を元に総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

**【その他の重要事項】**

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

**【Outline (in English)】**

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential. Specifically, the goal of the course is to acquire physical insights on molecular movement driven by chemical energies inside cell. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

## 生物物理学 I I

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。

### 【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	タンパク質の構造解析について概説する。
5	生体熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
6	生体熱力学の基礎 2	熱力学第一法則を概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう。
8	生体熱力学の基礎 3	熱力学第二法則を概説する。
9	生体熱力学の基礎 4	ギブズの自由エネルギーについて概説する。
10	生体熱力学の基礎 5	化学ポテンシャルについて概説する。
11	生体熱力学の基礎 6	反応ギブズエネルギーについて概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞のエネルギー通貨	ATPの構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する。
14	まとめと演習 2	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

### 【参考書】

Essential細胞生物学 第2版, 南江堂  
細胞の分子生物学 第5版, ニュートンプレス  
物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習問題について、計算を丁寧に解説する。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用することがある。

### 【Outline (in English)】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

**細胞生物学 I**

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

**【到達目標】**

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

DP2

**【授業の進め方と方法】**

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
2	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通じた核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】**

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社  
エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂  
他は授業中に適宜紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

＜評価方法＞期末試験50%・中間試験(1と2)20%・レポート課題15%・平常点15%の成績を総合して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

PowerPoint図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を充進させる為には望ましくないと判断しました。

**【学生が準備すべき機器他】**

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

**【その他の重要事項】**

授業内での質問を随時受け付ける。  
財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process  
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

## 細胞構造機能学 I

川岸 郁朗

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、タンパク質や脂質、糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって、細胞の構造と機能を学び、生命現象を理解することは生命科学に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造（真核生物、細菌、ウイルス）、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象や生命科学の手法について学ぶ。

### 【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。

- 1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役割
  - 2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
  - 3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み
  - 4) これらに関連した疾病とその機序
  - 5) 様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
- また、知識の詰込みのみにならないよう、授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次回の講義で解説する。

基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：細胞の化学	細胞の内部構造と生体物質の化学に関する基礎
2	生体膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
3	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
4	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
5	中間テスト-1	これまでの講義内容の理解度の確認
6	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
7	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入

8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	中間テスト-2	これまでの講義内容の理解度の確認
11	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
12	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

### 【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

### 【参考書】

- ・ THE CELL 細胞の分子生物学 第6版
- ・ 細胞の物理生物学 第3版
- ・ リッピンコット イラストレイテッド生化学 第7版
- ・ 数でとらえる細胞生物学

### 【成績評価の方法と基準】

<評価方法>

中間テスト(45%)、期末テスト(45%)、平常点(10%)を元に総合的に評価する。

<評価基準>

到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また、答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び、考察することができるか。

### 【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

### 【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。細胞構造機能学I、蛋白質構造機能学I、ゲノム構造機能学Iで学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.

**【Learning objectives】**

The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.

- (1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
- (2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
- (3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
- (4) Diseases related to the above and their mechanisms.
- (5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.

In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.

**【Learning activities outside of classroom】**

In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.

Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.

**【Grading criteria /Policies】**

< Evaluation method >

Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).

< Evaluation criteria >

Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.

In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

## バイオエナジェティクス

常重 アントニオ

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.

(本科目は、グローバル対応科目である)。

### 【到達目標】

The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.

This course is also offered to students who want to improve their English at academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussion. Inquiries and comments are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.

To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately, and their solutions will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

Although this course is offered in English, summary of the content of each session will be given in Japanese, and as often as necessary.

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about? A rather new branch of science with concepts not so easy to understand.
2	Basic Thermodynamics (1).	Basic concepts in chemistry. Reaction rates. Systems in equilibrium. Why chemical reactions proceed.
3	Basic Thermodynamics (2).	The concepts of free energy, enthalpy, and entropy. The misconception of entropy.
4	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
5	Redox reactions (3)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems. Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap. Thermodynamics and Spontaneity of Chemical Reactions.	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other "energetic" compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose?
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.

10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	How do we know the electron transport systems work? The use of inhibitors of the electron transport chain. P/O ratio.
13	Role of ATP. Recap of concepts of Lecture 7.	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions about ATP (revisited).
14	Recapitulation of previous lectures. About spontaneity in bioprocesses	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

### 【テキスト（教科書）】

The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.

"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.

「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」, 日本物理学会 集 (2000) の一部を利用する。

### 【参考書】

Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available electronically through the support system Hoppii.

### 【成績評価の方法と基準】

In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (20%). Final test or its equivalent (60%).

### 【学生の意見等からの気づき】

Quizzes and short test will be assigned and later discussed in class to consolidate learned concepts.

### 【学生が準備すべき機器他】

Laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection are required to access the system Hoppii. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

### 【その他の重要事項】

None.

BME300YB (人間医工学 / Biomedical engineering 300)

## 医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

### 【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメーjing技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30%・中間試験(1と2)20%・発表点30%・平常点20%の成績を総合して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

### 【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

### 【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process  
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100)

## 植物病防除学

池田 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその実例を学ぶ。

### 【到達目標】

植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできる基礎的な知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第2回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第3回	化学的防除法1（農薬一般）	農薬の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第4回	化学的防除法2（防除の実例）	化学農薬を使った植物病の防除事例
第5回	耕種的防除法1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第6回	耕種的防除法2	輪作による植物病の防除
第7回	物理的防除法1	熱や光質を活用した植物病の防除
第8回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第9回	防除のための情報の取得	防除技術を選択・導入する上で必要な情報の取得
第10回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第11回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm research と防除技術の評価に必要な解析
第12回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と重要性と実例の紹介
第13回	防除に関わる最新技術	防除に関わるゲノム編集、バイオスティミュラント、スマート農業について
第14回	防除技術開発の実例	実用化された防除技術開発の経緯と社会への貢献について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、websiteなど）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

### 【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

### 【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy [Hungry Planet: Stories of Plant Diseases] (APS PRESS)  
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題・レポート（30%）、平常点（20%）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

### 【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

### 【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

### 【Outline (in English)】

Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease. Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE200YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200)

## 植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

### 【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生病態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。

9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環境と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

### 【参考書】

開講時に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

### 【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

**【Outline (in English)】**

This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

PPE300YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300)

## 媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

### 【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。

10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

### 【参考書】

開講時に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

### 【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

**【Outline (in English)】**

The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occurring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD (境界農学 / Boundary agriculture 300)

## 植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術やICTを活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わるICT技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能(AI)などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

農業や植物医科学におけるICTの利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

<<授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします>>  
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説など ガイダンス
第2回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第3回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第4回	農業とICT（1）：農業ICTに必要な情報の取得と利用	フィールドサーバー、ドローン、人工衛星などからデータを取得方法とその利用・生産環境制御
第5回	農業とICT（2）：農業ICTで実際に現場作業する技術	無人トラクター、ドローン、自動収穫機など
第6回	農業とICT（3）：そのほか農業/植物医科学関連ICT利用	経営・生産管理、流通管理（トレーサビリティ）など
第7回	農業とICT（4）：農業ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農業登録情報、その他オープンデータ紹介
第8回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI育種など
第9回	植物医科学で有用なwebsite等の紹介と活用	今昔の関連website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第10回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎のこと、平均と標準偏差、共分散と相関、近似
第11回	データ解析の手法（2）	有意差検定、分散分析、多重比較
第12回	データ解析の手法（3）	画像変換、画像解析、用いるソフトウェア
第13回	データ解析の手法（4）	実際にデータ取得して解析を行う。
第14回	植物医科学に関連するネットワーク・総合討論	ICTと植物医科学の接点に位置する最新Topicsの解説と総合討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

## 【テキスト（教科書）】

資料配布を基本とする。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題：80%、平常点20%で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際にPCを利用した実習を活用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PCを持参する。

## 【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

## 【Learning Objectives】

To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.

## 【Learning activities outside of classroom】

Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300)

## 植物臨床医科学

池田 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要な不可欠な知識と技術を修得する。

### 【到達目標】

農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第2回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第3回	葉に発生する植物病（菌類）	うどんこ病、べと病などの診断、防除対策
第4回	葉に発生する植物病（菌類2）	トマト葉かび病やキュウリ褐斑病などの診断、防除対策
第5回	葉や茎などに発生する植物病（菌類）	子嚢殻、分生子殻を形成する植物病の診断、防除対策
第6回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第7回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第8回	導管閉塞を伴う植物病（菌類1）	Verticillium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第9回	導管閉塞を伴う植物病（菌類2）	Fusarium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第10回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第11回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第12回	根および地際部の植物病（菌類）	Rhizoctonia属菌などによる植物病の診断、防除対策
第13回	根および地際部の植物病（その他）	Pythium属菌やPhytophthora属菌による植物病の診断、防除対策
第14回	地上部に発生する植物病（生理障害・葉害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、葉害の診断・対策

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

### 【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

### 【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫 伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）

難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題・レポート（30%）、平常点（20%）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

### 【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

### 【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

### 【Outline (in English)】

Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers.

Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

BOA100YD (境界農学 / Boundary agriculture 100)

**基礎植物害虫学**

大井田 寛

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

**【到達目標】**

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

DP2

**【授業の進め方と方法】**

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】**  
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

**【テキスト（教科書）】**

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

**【参考書】**

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）  
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

**【学生の意見等からの気づき】**

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

**【その他の重要事項】**

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

**【Outline (in English)】**

This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.

The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

BOA200YD (境界農学 / Boundary agriculture 200)

## 応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場合で求められる。本授業では、IPMやIBMを構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

### 【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第2回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第3回	化学的防除1	薬剤の特性、作用機作など
第4回	化学的防除2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第5回	生物的防除1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第6回	生物的防除2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第7回	生物的防除3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第8回	物理的防除1	遮断法、光などの手段による防除
第9回	物理的防除2	熱、音などの手段による防除
第10回	耕種の防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第11回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBMの概念と方法
第12回	グループディスカッション	IPMの実践について
第13回	発生予察	発生予察の方法と利用
第14回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

### 【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）  
後藤哲雄・上野野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）  
仲井まどか・日本典秀編 バイオロジカル・コントロール 第2版（朝倉書店）

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

### 【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

### 【Outline (in English)】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.

The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

## 無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深く理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

## 【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第2回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第3回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第4回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第5回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第6回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第7回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第8回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第9回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第10回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第11回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第12回	電子配置	電子配置、構成原理
第13回	共有結合（1）	等核二原子分子
第14回	共有結合（2）	異核二原子分子

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

## 【参考書】

- ・無機化学－その現代的アプローチ－：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。
- ・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。
- ・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験(35%)、期末試験(60%)、演習問題(5%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

球面調和関数の理解を深めるための実験を継続する。共有結合の授業を2回に増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

## 【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

## 【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%), mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

## 物理化学 I

## 緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基づいているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

## 【到達目標】

量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。  
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論：原理1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式であるSchrodinger方程式の導出を行う。
第5回	量子論：原理2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論：原理3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論：手法と応用（1-3）	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動速度をSchrodinger方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

## 【テキスト（教科書）】

＜教科書＞P. W. Atkins著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」第10版、東京化学同人。

## 【参考書】

＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを課題、小テストおよび最終試験の結果によって総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

物理化学Iの内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

## 【その他の重要事項】

＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。

＜継続的改善＞質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。物理化学Iの授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

## 【Outline (in English)】

This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

## ・ Attainment target

1) Understand the key concepts underlying quantum theory.

2) Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the

vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.

## ・ Learning outside of class

Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.

## ・ Grading methods and standards

Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

## 無機化学 I

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀、特に量子力学の発見と成立は人類の物質観を一変し、物質の本質的な理解に基づく発明・発見が、現在に続く爆発的な物質文明の進展をもたらした。しかし、その利得と負債の双方が21世紀のわれわれの肩に重くのしかかっているのも事実である。21世紀の物質科学という観点から無機化学を洗い直し、清新な視点から、物質文明の来し方行く末を遠望し、かつ学生諸氏が今後社会人として活力ある未来を築くための基礎になるような授業にしたいと思っている。無素化学Iでは、特に基礎的な物質理解に重点を置き、はじめに周期律に現れる各元素の性質の美的な振る舞いを示し、結晶の周期構造と物性・無機化合物の一見複雑な構造を理解するための強力な考え方などを中心に講義する予定である。

## 【到達目標】

構成元素の周期表における位置を見て、その無機化合物の特性が推定できる化学的感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関する課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	無機化学工業、無機化学の学習範囲
第2回	結合と構造	結合の分類と物質構造の関係
第3回	原子のボーアモデル	ボーアモデルによる原子の電子構造、エネルギー量子化の理解
第4回	シュレディンガー方程式と水素原子	水素原子のシュレディンガー方程式を各量子数が導入される
第5回	多電子系原子の電子構造	多電子系元素電子における電子構造の構成原理
第6回	分子の電子構造	分子軌道法、等核分子の電子構造
第7回	分子の電子構造	異核分子の電子構造
第8回	周期律表と元素の性質1	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第9回	周期律表と元素の性質2	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第10回	周期律表と元素の性質3	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第11回	酸・塩基1	アクア酸・オキソ酸
第12回	酸・塩基2	プレステッド酸・塩基
第13回	酸・塩基3	ルイス酸・塩基、かたい酸・塩基、やわらかい酸・塩基
第14回	酸化・還元	酸化電位、電池

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
1年秋学期に履修する「無機化学概論」の内容を把握しておくこと。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

## 【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。  
オリジナルテキストを配付する。

## 【参考書】

&lt;参考書&gt;

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。  
「アトキンズ・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。  
「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験(85%)。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出(15%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

## 【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。  
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

## 【Outline (in English)】

This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics of elements in the periodic table, such as ideas on chemical bonding, acid-and base, and redox reactions. By the end of the course, students should be able to acquire a chemical sense that can estimate the characteristics of the inorganic compound, on looking at the positions of the constituent elements in the periodic table.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

## 無機化学 I I

石垣 隆正

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学 I で導入された物質科学的観点を発展させ、無機固体物質の材料科学的応用の基礎事項を原理から学んで行く一方、持続可能な社会の形成に重要な環境・エネルギー関連のトピックも取り上げて行きたい。

### 【到達目標】

持続可能な可能な社会形成に重要な環境とエネルギーは表裏一体の関係にある。環境にやさしいエネルギー材料、環境を保全する無機材料に関する基礎科学を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	溶液化学から固体化学へのいざない、無機材料への応用
第2回	固体の周期的構造	結晶の周期性がもたらす孤立原子との劇的な違いとは
第3回	固体物質の結晶構造 1	結晶構造の構成原理と代表的な結晶構造
第4回	固体物質の結晶構造 2	2成分固体物質の代表的な結晶構造
第5回	固体物質の結晶構造 3	複合固体物質の代表的な結晶構造
第6回	格子欠陥と非化学量論性 1	欠陥の分類と熱力学
第7回	格子欠陥と非化学量論性 2	格子欠陥と電子伝導特性
第8回	格子欠陥と非化学量論性 3	固体中の原子の拡散
第9回	固体電解質	イオン伝導性の基礎と固体電解質の構造
第10回	化学電池、燃料電池	電池の原理・材料
第11回	固体の電子物性 1	バンド構造と固体の物性
第12回	固体の電子物性 2	固体の電気伝導性、半導体の種類
第13回	半導体の特性	光伝導、熱電特性、ホール効果
第14回	半導体の接合	電子デバイスの基礎原理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
前期に履修する「無機化学 I」の内容を理解して受講することを望む。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

### 【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。

オリジナルテキストを配付する。

### 【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤、石垣、佐々木、野田著。  
「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。  
「固体化学 第2版」田中著、東京化学同人。

### 【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験(85%)。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出(15%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

### 【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。  
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Perspective of materials science acquired through learning “Inorganic Chemistry: I” is intended to improve. Basic principles of inorganic solid-state chemistry is learned to understand applications on energy-related and environmental materials, which are indispensable for establishing sustainable society.

The environment and energy that are important for the formation of a sustainable society are two sides of the same coin. By the end of the course, students should be able to acquire basic science on environment-friendly energy materials and inorganic materials that protect the environment.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

## 触媒化学

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠の物質であり、われわれの生活環境の中で、物質生産と環境対策に幅広く利用されている。本講では、工業的に使われている触媒、環境対策用触媒を中心に、触媒の特徴と機能、触媒反応、触媒調製法について基礎から説明する。

## 【到達目標】

①触媒とプロセスの関連を習得すること、②触媒機能・触媒反応を理解すること、③環境問題に対して触媒が果たしている役割を理解することを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って説明する。講義の理解度を確認するため、適宜小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。トピックに関して、適宜レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、触媒とはなにか	科目内容の説明、触媒の化学工業、環境対策における重要性、触媒の分類など
2	触媒の歴史と役割	触媒化学の科学と技術、その発展、日本における利用
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面科学（表面構造・電子状態）
4	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その1	固体表面での素過程、吸着とその速度論
5	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その2	脱離とその速度式、吸着脱離平衡
6	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その3	固体触媒反応の反応速度論：定常状態近似・律速過程
7	触媒反応機構	素反応の組立、反応機能決定法、メカニズムと速度式
8	固体反応場の構造と物性：その1	触媒機能を支配する因子、反応場の構造
9	固体反応場の構造と物性：その2	反応場の構造とそのキャラクターリゼーション：化学的方法、機器分析
10	中間テスト	前半部の復習と理解の確認
11	触媒の調整と機能評価：その1	触媒調製法とその原理
12	触媒の調整と機能評価：その2	触媒反応活性の評価法
13	環境・エネルギー関連触媒	環境触媒（自動車触媒、脱硫触媒、二酸化酸素固定触媒、光触媒）、エネルギー関連触媒（燃料電池、水素製造、光触媒、色素増感太陽電池）

14 光触媒反応 半導体光触媒の科学と応用

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・触媒化学を理解するには、2年次までに履修するさまざまな基礎科目の内容を身につけておく必要があります。「無機化学概論」、「化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解して受講することを望みます。

・各回に勉強する内容を、教科書で予習して講義に臨んで下さい。  
・重要な内容を小問で演習します。講義後にアップロードするので復習しておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

「触媒化学」(応用化学シリーズ6) 上松、中村、内藤、三浦、工藤共著、朝倉書店(2004)。

## 【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。

「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。

「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、小問（10%）、レポート（10%）により評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に関して講義中に学生間で討論する時間をとる。

## 【その他の重要事項】

独立行政法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

## 【Outline (in English)】

Catalysts are indispensable for accelerating chemical reactions, have been widely used and utilized in our life, both in materials production and environmental issues. This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics and functions of catalysts, surface catalytic reactions on solid-state catalysts, and fabrication methods, especially of solid-state catalysts, such as industrially utilized catalysts and environmentally-related catalysts.

At the end of the course, students are expected (1) to learn the relationship between catalysts and processes, (2) to understand catalytic functions and catalytic reactions, and (3) to understand the role that catalysts play in environmental problems.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (80%), and in-class contribution(20%).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

## 環境化学工学応用

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

## 【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	輸送現象論の中の流動および伝熱	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（1）：流れの種類、力と運動量	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（2）：平板上の流れ	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（3）：円管内流動	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第7回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokesの方程式について概説する。
第8回	流動（6）：運動量輸送方程式	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（2）：伝導伝熱	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（4）：対流伝熱	熱交換器の設計方程式を導出する。

第12回 伝熱（5）：熱交換器 熱交換器の設計方程式を導出する。

第13回 伝熱（6）：輻射伝熱 輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。

第14回 伝熱（7）：対流と輻射による伝熱 複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

## 【テキスト（教科書）】

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

## 【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

藤田重文著：化学工学I（第2版）、岩波全書（絶版）

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社（絶版）

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期試験 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目している系の数学的取り扱い避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

## 【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

## 【Outline (in English)】

## 1.Course outline

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

## 2.Learning Objectives

Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plat devices, including heat exchangers.

## 3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

## 4.Grading Criteria /Policy

It depends on the COVID-19 infection situation, i.e.,

a. when we have the final exam: Final exam 50% + Homework 50%

b. when we do not have the final exam: Homework 100%

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

## 環境化学工学演習

山下 明泰

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では化学工学の分離操作について、省エネルギーの観点を含めた議論を展開する。また、分離技術の精密化とスケールダウンの応用例として、医療における展開についても理解を深める。

## 【到達目標】

化学工学の分離技術の基本操作を理解し、これらの省エネルギー化について考える。また、分離技術の精密化を図り、これを生体系に応用する高精度な技術についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

## 【授業の進め方と方法】

分離技術およびそれらを統合した化学プロセス全体について、物質および熱収支の観点から最適化の検討方法について講義する。環境に配慮した化学プロセスをスケールダウンすることで、生体系における分離技術の利用についても考える。

本講義は、教室での対面式実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	単位操作	分離に関わる各種の単位操作を概観する。
第2回	攪拌槽（1）	攪拌槽と攪拌器の種類について分類する。
第3回	攪拌槽（2）	物質収支式とその解析解の導出法について解説する。
第4回	攪拌槽（3）	反応を伴う系、およびn槽連結された系について考える。
第5回	抽出	液液平衡線図の読み方、てこの原理の説明。
第6回	ミキサー・セトラ	最も基礎的な連続装置の原理を説明する。
第7回	抽出装置	並流連続装置を三角図上で説明する。
第8回	並流多段抽出の操作	向流連続装置の操作を三角図の上で説明する。
第9回	向流多段抽出の操作	向流装置の例題による計算を行う。
第10回	調湿	調湿と調湿の基礎となる水冷操作について解説する。
第11回	篩分け分級・沈降分離	篩分けと分級の違いを定義する。ストークス径、アレン径、ニュートン径の使い分けについて学ぶ。シックナーと回分沈降過程について学ぶ。
第12回	膜分離（1）	分子拡散による分離（透析）と対流による分離（限外濾過）について解説する。
第13回	膜分離（2）	分離膜の製法、材質、物理的・化学的構造について解説する。
第14回	膜分離（3）	医療への展開について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】演習問題を課し、これをレポートとして提出する。

## 【テキスト（教科書）】

1. 藤田重文著：化学工学演習 第二版（東京化学同人）

## 【参考書】

1. 相良 紘著：化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社（絶版）
2. マイヤーズ、サイダー著/大竹伝雄著、化学工学の基礎－化学プロセスとその計算－（培風館）
3. ヒンメルブラウ著/大竹伝雄訳、化学工学の基礎と計算（培風館）
4. 川瀬義矩著、環境問題を解く化学工学（化学工業社） "

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行うことを原則とし、その配分はレポート（50%）+期末試験の結果（50%）とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、小さな演習問題を多数出題し、学生の理解度をチェックしながら講義を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

板書だけでなく、パワーポイント（主として、図、表、問題文）を併用して講義を進める。

## 【その他の重要事項】

演習問題の解答のために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の大学および民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。"

## 【Outline (in English)】

## 1.Course outline

Various operations for separation in chemical engineering are chosen as teaching materials. Energy conservation technologies are also important parts of this course. Students will learn how to design medical equipment and devices as an example of precision or a scale-down of large chemical engineering processes.

## 2.Learning Objectives

Students learn basic operations of separation devices in chemical industry and discuss energy conservation technique. Students are able to apply basic separation technology to the bio-systems.

## 3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems given in class or through HOPPII system and hand in their papers before due.

## 4.Grading Criteria /Policy

It depends on the infection situation of COVID-19, i.e.,

- a. When we have the final exam: Final exam 50% + Homework 50%
- b. When we do not have the final exam: Homework 100%

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

## 無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

### 【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

### 【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbsの相律、Gibbsの相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第2回	擬一元系状態図(1)	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO <sub>2</sub> のp(圧力)-V(体積)図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第3回	擬一元系状態図(2)	CO <sub>2</sub> のp(圧力)-V(体積)図とCO <sub>2</sub> のT(温度)-p(圧力)図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第4回	二元系状態図(1)：	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第5回	二元系状態図(2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第6回	二元系状態図(3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第7回	中間テスト	前半の演習の理解度をチェックする。
第8回	二元系状態図(4)：てこの原理	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。また、状態図のでこの原理も理解する。
第9回	二元系状態図(5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。
第10回	二元系状態図(6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化に関する理解を深める。
第11回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解説する。

第12回 熱力学計算の実際(1) 蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、  
：レアメタルの分離・回収 気相を介したレアメタルの分離・回収を理解する。

第13回 熱力学計算の実際(2) 水素-水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し、酸素  
：酸素濃淡電池 濃淡電池の起電力を計算する。  
熱力学計算の実際(3) 固体微粒子の熱力学安定性を計算し、熱力学的安定性を考察する。  
：固体微粒子の熱力学安定性 固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。

第14回 熱力学計算の実際(4) 非酸化物/酸化物界面における蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、  
：非酸化物材料の高 高温酸化挙動を理解する。  
温酸化

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

・アトキンス 物理化学（上）第10版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人  
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社  
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に出題する演習問題(10%)、中間試験(40%)、期末試験(50%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

### 【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

### 【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.

(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%),mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

PHY200XG (物理学 / Physics 200)

## 解析力学

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

解析力学とは、ニュートンの運動の法則を最小作用の原理とよばれる方式で定式化した学問体系である。最小作用の原理は、力学のみならず広汎な物理法則を記述できる普遍的な定式化である。本講義では、解析力学を使って難しい問題がたくさん解けるようになることを主目的にはしない。解析力学とはどのような学問であるかを概念的に理解し、これまでに学んだニュートン力学の新しい定式化によって、自然の見方に新しい観点がでてくることを実感し、自然に対する興味がより深まるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

・自然現象の体系的な理解の中で、解析力学とはどのような学問であるかその概念を自分なりに理解する。  
・日常目にする基本的な運動をニュートン力学と解析力学のアプローチで記述でき、両者の違いはどこにあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義内容は事前にYouTubeでオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックと演習を中心とし、グループワークおよび小テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	古典力学の復習	常微分と偏微分、運動方程式、自由落下運動、放物線運動、バネの運動。
3	座標と速度および加速度(1)	デカルト座標、極座標、三次元極座標。
4	座標と速度および加速度(2)	一般化座標、一般化運動量、正準共役変数、一般化された力。
5	中テスト1	古典力学の復習、座標と速度および加速度に関する中テスト
6	ラグランジュ方程式と最小作用の原理(1)	一般化座標によるラグランジュ方程式。
7	ラグランジュ方程式と最小作用の原理(2)	変分原理とオイラー方程式。
8	ラグランジュ方程式と最小作用の原理(3)	変分原理の応用例。
9	中テスト2	ラグランジュ方程式と最小作用の原理に関する中テスト
10	ハミルトンの正準方程式(1)	ハミルトニアンとは。
11	ハミルトンの正準方程式(2)	ラグランジュ形式とハミルトン形式、ポアソン括弧。
12	ルジャンドル変換と正準変換	正準変換と母関数。
13	中テスト3	ハミルトンの正準方程式、ルジャンドル変換と正準変換に関する中テスト
14	まとめ	これまでの中テストの復習を通じて、授業内で扱った解析力学の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。授業内では演習問題の出席と解説の時間を設け、その前提となる理論についてはYouTubeで配信する。したがって、各自自主的にオンデマンドで予習を行ってから授業に参加することが必須である。

【テキスト（教科書）】

・久保謙一(著)、「解析力学」、裳華房、2001年

【参考書】

・ランダウ・リフシッツ(著)、「力学」、東京図書、1974年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(100%)

小・中テスト(救済措置)

【学生の意見等からの気づき】

学生が効果的にグループワークを進められるように、教員やTAからのグループへの介入を意識的に行う。

## 【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of analytical dynamics based on group works through the semester. The goal of this course is to understand difference between Newtonian mechanics and analytical mechanics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%).

COS300XG (計算科学 / Computational science 300)

## 数値計算

田村 祐介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代は、コンピュータを使って数値データを処理し、実験式や理論式を基に様々な指標やデータのトレンドを得ている。まず、コンピュータの内部表現に関わる数値誤差を理解する。指標を求めるのに標準的な手法（主に最小二乗法）を学び、適用範囲と指標の誤差を評価する方法を理解する。また、理想的な誤差のモデルとして正規分布の生成法を実験する。さらに、数値積分のプログラムを作成後、フーリエ変換に応用し、例えば時系列データでは不明瞭であった特徴を捉える手法を学ぶ。

## 【到達目標】

数値データの処理法と適用限界を知り、演習を通して身につけ、効果的な表現方法を学ぶことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

プログラムの作成には、特に言語は問わないが、便宜上 Fortran を使用する予定（支給PCに既にインストールされているはず。あるいは MSYS2 をインストール）。レポートのための図・表の作成には、Microsoft の Excel、Word を想定している。これらの使い方も習熟することを目的とする。提出されたレポート結果を見て、適宜解説する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プログラム作成環境	プログラム作成環境の確認、必要に応じてインストール作業。 プログラム作成の練習
第2回	コンピュータの内部表現	丸め誤差、情報落ち、桁落ちが起こる理由を確認。変数の型（整数、単精度、倍精度等）の違い
第3回	数値データの指標	平均値、分散などの指標の計算方法とそれらの意味
第4回	最小二乗法（1）方法論	式が線形の場合、2つのパラメータ、分散、共分散、相関係数
第5回	最小二乗法（2）プログラムの作成	プログラムの作成、動作確認。線形データの指標と信頼性の評価方法を追加
第6回	最小二乗法（3）	非線形形式を線形化できる場合の変更を追加 レポート作成の準備
第7回	正規分布（1）	一様乱数から正規分布を生成する方法
第8回	正規分布（2）	正規分布曲線の積分 $1\sigma$ 、 $2\sigma$ の計算 レポート作成の準備
第9回	数値積分（1）	既知関数の等間隔点における積分を評価
第10回	数値積分（2）	非等間隔点の場合
第11回	フーリエ級数展開	方法の原理 テーラー展開との関係 展開基底の線形性
第12回	フーリエ変換（1）	$\sin$ 変換と $\cos$ 変換、パワースペクトル
第13回	フーリエ変換（2）	高速フーリエ変換
第14回	まとめ	提出レポートの再検討

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
数値処理を行うためのプログラムを作るので、作成、デバッグはできるように練習しておくこと。支給PCにはFortranがインストールしてあるはずだが、プログラミング言語については特に限定しない。また、レポートを作成するためのツール類、例えば、表・グラフを作成するExcel、文章作成のWordなどの使い方に習熟しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

使用せず。

## 【参考書】

(1) 川上一郎著、「数値計算（理工系の数学入門コース [新装版]）」、岩波書店

## 【成績評価の方法と基準】

図・表のルールに従って数値データを正しく表現、強調できているか、レポートがIMRAD形式に則って書けているか、結論に至る議論が的を射ているかを鑑みて、レポートの評価とする。  
授業出席を前提とし、評価基準は、レポートを100%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容を精選する。

## 【学生が準備すべき機器他】

支給PC等のプログラミングができる環境、

## 【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。

## 【Outline (in English)】

(Outline and Objective)

Computers are used to process numerical data, and various indices and data trends are obtained based on empirical/theoretical formulas. First, you understand the numerical errors involved in the internal representation of computers. By learning standard methods for finding the trends (e.g. least-squares methods) and you understand how to address its limit and errors. In addition, you will experiment with a normal distribution generation method as an ideal error model. Furthermore, after making a numerical integration program, you will apply it to the Fourier transform to learn how to capture the features in time-series data, for example.

Programming language is not particularly limited, but Fortran will be used for convenience (should be ready on the supplied PC, or install MSYS2). Microsoft's Excel and Word are assumed for creating graphs and tables for reports. Another purpose is to master how to utilize them. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports.

COS300XG (計算科学 / Computational science 300)

## シミュレーション技法

田村 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

シミュレーションは、観測により得られた数値モデルを基に、実物を使わずに対象の状態を計算したり予測するのに利用されており、理論、実験と並び模擬実験と呼ばれている。  
本授業では、ミクロの世界に注目し、分子軌道法シミュレーション・パッケージの Gaussian とその GUI の GaussView を用いて分子軌道を可視化したり振動状態を計算することで化学結合論や分光学の理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

分子軌道計算を行い、結果を整理、検討することで計算の理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

分子シミュレーションの計算を行い、結果を可視化する。条件の異なる計算を比較して何が結論できるか議論し、レポートにまとめる。  
提出されたレポート結果を見て、適宜解説する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計算環境の確認	計算を実施するための環境や GUI の操作法の確認 簡単な計算を行い結果の確認 元素周期表の見方
第2回	入力データの作成方法	入力データ条件、電荷、スピン多重度の計算できる組み合わせを確認 軌道関数を可視化し、s 軌道、p 軌道などの形状 波動関数の位相について
第3回	水素類似原子の計算 (1)	第一周期、第二周期の元素について計算。 原子番号の違いが軌道エネルギーに与える変化を見て、ボーア理論との整合性を確認
第4回	水素類似原子の計算 (2)	残存の計算を進め、レポート作成
第5回	化学結合の成り立ち	少数の原子で小さな分子を GUI により作成 電荷、スピン多重度の組み合わせを確認 $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合の成り立ち
第6回	小さな分子の計算 (1)	電荷の偏りと官能基
第7回	小さな分子の計算 (2)	分子の表記方法と IUPAC 命名法 制限と非制限 Hartree-Fock 法による結合エネルギーの評価 基底状態と励起状態
第8回	振動計算 (1)	半経験的分子軌道法や分子力学法 入力のセットアップ 簡単な計算を実施
第9回	振動計算 (2)	振動モードの可視化 IR 分光と Raman 分光のスペクトルの比較
第10回	化学反応 (1)	反応エネルギーの見積もり方法 入力データの作り方
第11回	化学反応 (2)	反応式の表記 遷移状態を確認する方法 Diels-Alder 反応など
第12回	密度半関数法	金属を含む計算と密度半関数の欠点
第13回	Post Hartree-Fock 法	より高精度な計算法
第14回	まとめ	残存の計算を進める レポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】レポート提出。

## 【テキスト（教科書）】

使用せず。

## 【参考書】

(1) J. B. Foresman and AE Frish 著、“Exploring Chemistry with Electronic Structure Methods”Third Ed., Gaussian, Inc  
日本語翻訳版、川内 進 訳、“電子構造論による化学の探求”第3版、ガウシアン社

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (100%)

授業出席を前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容を精選する。

## 【学生が準備すべき機器他】

使用するソフトウェアは、PC教室の環境を利用する予定なので学生が用意する必要はありませんが、レポートの作成には各自のPCを使うこと。

## 【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。

## 【Outline (in English)】

## (Learning Objectives)

Now a days 'Simulation' is a common word for the method to calculate and predict the state of an real object based on a mathematical model obtained by observation without using the real materials.

The purpose of this class is as follows, we will focus on the microscopic world and deepen our understanding of the chemical bond theory and the spectroscopy by visualizing molecular orbitals and calculating vibrational states using the Molecular Orbital simulation package Gaussian and its GUI GaussView.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports.

COT300XG (計算基盤 / Computing technologies 300)

## メディアインタラクション

鈴木 郁

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機上に表現された知識・知能とユーザとのインタラクションについて学ぶ。具体的には、インターフェースに用いられる技術や、人間-計算機インタラクションの基本となる原理や原則を学ぶとともに、それが人間にどのように認知され、どのように人間が反応するのかについて学ぶ。

## 【到達目標】

ハードウェアとソフトウェア、そしてそれらを作る人と使う人。このような構図ではなく、常にユーザーの側に立ったインターフェースを作れるようになるための基礎を、修得できるであろう。講義中では認知などにも触れることから、それについて学ぶ機会にもなるであろう。これらを学び習得することが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って、授業計画に示したようにすすめる。講義形式ではあるが、質問には積極的に答えてほしい。（講義中では数多くの写真等を呈示し、それをもとに思考することを促すべく質問をしており、それはある種のアクティブラーニングとなっている。）なお、進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある。

各回の授業計画に変更があれば、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間-機械系としてのコンピュータ	多くのコンピュータは、人間-機械系の一つとして用いられており、インターフェースを介して人間とインタラクションしている、ということについて。
第2回	人間-機械系におけるインターフェース—基礎—	コンピュータに備えられた人間との間のインターフェースについて述べる前に、一般的な人間-機械系におけるインターフェースの基礎について。
第3回	人間-機械系におけるインターフェース—応用—	一般的な人間-機械系におけるインターフェースの、応用的な例について。
第4回	正しい操作を導くもの	コンピュータ関連であるか否かを問わず、正しい操作は何によって導かれるのかについて。
第5回	ステレオタイプ、類似と比喻	ステレオタイプ、類似や比喻の活用について。
第6回	人間-コンピュータインターフェースとメディア—視覚的に呈示する媒体を中心に—	人間とコンピュータの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる、映像・音声などのメディアのうち、主に視覚を介するものについて。
第7回	人間-コンピュータインターフェースとメディア—聴覚的に呈示する媒体を中心に—	人間とコンピュータの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる、映像・音声などのメディアのうち、聴覚など（視覚以外）を介するものについて。
第8回	人間との間の入出力機器—分類と用途—	人間とコンピュータの間のインターフェースにおいて用いられる、映像・音声などの入出力機器の分類と、望ましい用途について。

第9回	人間との間の入出力機器—構造概要—	人間とコンピュータの間のインターフェースにおいて用いられる、映像・音声などの入出力機器の構造概要について。
第10回	人間との間の入出力機器—音声入出力などを用いた例—	近年増してきた音声入出力についての、実装例など。
第11回	人間の特性—誤操作への配慮—	誤操作を生まないための配慮、誤操作が生じた場合への配慮について。
第12回	人間の特性—肉体的・精神的負担への配慮—	人間に過剰な負担を生じさせないための、配慮について。
第13回	操作の手続き—手続きをどう表現し整理するか—	手続きをどう表現し、それを整理してユーザーに理解可能とするのかについて。
第14回	自動化と役割分担	どこまでを自動化するのか、人間とコンピュータとの望ましい役割分担について。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 講義中に適宜、次回講義までに自ら調べるように指示することがある。講義の理解を深めるべく、予習あるいは復習のつもりで行ってほしい。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが、平常点も加える。全体を100%とした時のおよその内訳は、試験得点が95%、平常点が5%である。但し上記の平常点の他に、授業中の質疑応答により加点することがある。なお、重要な内容を扱う可能性があるため、履修予定者は初回から出席すること。

補足。万一、感染症万全対策などでオンラインでの授業の比重が大きくなった場合には、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。変更となった場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートにおいては、「理解しやすかった」等の声があったが、予習や復習に費やした時間は短い傾向が見られた。また、講義への積極的参加を促すための問いかけについての、提案もあった。これらを参考にすると同時に、今後も有効なフィードバックについては、適宜反映していきたい。

## 【その他の重要事項】

この科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当している。講義担当者はソフトウェア開発の職に就いていたことがあり、ユーザーインターフェースに該当する部分にも携わっていた。「間違いのない操作を促すインターフェース」など、ソフトウェア開発の経験を活かした講義を行う。

全て対面での実施を予定している。

## 【Outline (in English)】

The main content of this class is related to interactions between computers and human. It includes interface technique used for the interactions, basic principles to design the interactions, etc.

Students will be expected to do their own investigation according to instructions given in the class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.

Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

PLN300XG (地球惑星科学 / Earth and planetary science 300)

## 宇宙科学計測

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

観測の手段とその成果を概観し、銀河宇宙における様々な現象の規模、メカニズム等について説明する。それらの解釈に最も重要なのは、天体までの距離測定であり、これはまた天文観測そのものでもある。この理解を通して恒星や銀河の性質や宇宙の構造にせまる。

### 【到達目標】

宇宙からは、ガンマ線から電波まであらゆる波長の電磁波が地球に飛来する。それら電磁波が銀河や宇宙全体のどのような情報を運び、それをどう計測し、どう解釈するかを学ぶ。その成果を通して宇宙現象の理解につなげる。本講義の到達目標は、観測事実を通じて、恒星や銀河の性質および宇宙の構造について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業内学習 (内容の説明、グループディスカッション、質疑応答、演習、確認テストとそのフィードバック) と授業外学習 (予習・復習) を連動させて授業を進行する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	天体観測の基礎 1	天文観測の最前線。
3	天体観測の基礎 2	天体の座標、天体までの距離。
4	恒星 1	等級、色、温度、熱的放射曲線、2色図。
5	恒星 2	スペクトル型、吸収線と輝線。
6	恒星 3	散開星団と球状星団のHR図、位置天文衛星、視差角と距離。
7	恒星 4	恒星の進化、恒星系の進化。
8	銀河系 1	銀河系構造の概観、円盤部の構造、楕円体部の構造。
9	銀河系 2	銀河系のダークマター、X線による銀河系、電波で見た銀河系中心。
10	銀河系 3	矮小銀河と銀河形成の描像。
11	銀河系 4	化学進化の基礎、銀河の化学進化。
12	銀河 1	銀河とは何か、銀河の力学。
13	銀河 2	星生成活動と銀河進化モデル、AGN、X線による観測、電波でみた銀河。
14	銀河団	多波長で見る銀河団、銀河間ガス、銀河団の質量、重元素汚染、遠方銀河団。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。

各授業前：教科書や資料を使って該当回の内容について予習する (目安2時間)。  
各授業後：授業で学習した内容を復習し、確認テストで理解度をチェックする (目安2時間)。

### 【テキスト (教科書)】

・岡村定矩(編)、「天文学への招待」朝倉書店、2001年

### 【参考書】

・岡村定矩(著)、「銀河系と銀河宇宙」、東京大学出版会、1999年  
・千葉柁司(著)、「銀河考古学 (新天文学ライブラリー第2巻)」、日本評論社、2015年  
・家正則他(編)、「宇宙の観測I-光・赤外線天文学 (シリーズ現代の天文学15巻)」、日本評論社、2007年

### 【成績評価の方法と基準】

試験またはレポート (100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

・授業内容を焦点化し、最低限必要な知識が確実に身につくような仕組みにする。

### 【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

### 【Outline (in English)】

The means of observation and their results will be reviewed, and the scale, mechanisms, etc. of various phenomena in the galactic universe will be explained. The most important factor in their interpretation is the measurement of the distance to the objects, which is also the astronomical observation itself. Through this understanding, the goal of this course is to understand the nature of stars and galaxies and the structure of the universe. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

MAT300XG (数学 / Mathematics 300)

## データ発見と仮想天文台

田中 幹人

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

天文学は、データのオープン化が進んだ学問である。最先端の望遠鏡で観測された天文アーカイブデータはインターネット上で公開されているので、それらのデータをダウンロードすれば、誰でも最先端の天文学研究を始めることができる。本講義では、Pythonを用いた天文アーカイブデータの実践的なデータ分析を通じて、恒星や銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。

## 【到達目標】

- ・天文アーカイブデータの分析を通じて、恒星・銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。
- ・Pythonを使ってデータ分析の簡易的なコードを書くことができる。
- ・統計分析と誤差解析の手法を天文観測データに対して適用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義内容と課題は事前にYouTubeでオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックを中心とし、質疑応答と課題提出の時間を設け、時間外学習と講義を連動させて進める。ただし必要に応じて、オンライン授業も併用する。なお、貸与PCの使用を前提とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	Python1	Markdown、グラフの描画、数学関数、二次元ヒストグラムの練習。
3	Python2	初等統計量、相関係数、最小二乗法の復習。for文とif文の練習。
4	スカイサーベイ	アーカイブ天文学の歴史とSDSS、2MASS、HSCなどの各種スカイサーベイ。
5	三色合成	天体写真の色の付け方。
6	恒星の色	等級、色、温度、熱的放射曲線、2色図。
7	恒星のスペクトル1	スペクトル型、吸収線と輝線。
8	恒星のスペクトル2	化学組成と化学進化。
9	恒星のHR図1	散開星団のHR図、位置天文衛星、視差角と距離。
10	恒星のHR図2	球状星団のHR図。
11	ハッブル図1	簡単なハッブル図、銀河までの距離を見積もる。
12	ハッブル図2	赤方偏移、銀河の観測による宇宙膨張。
13	銀河1	銀河の形態分類、ハッブルの音叉図。
14	銀河2	楕円銀河と渦巻銀河の区別、銀河の進化。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。講義内容と課題は事前にYouTubeで配信し、授業内ではポイントの解説、課題に関する質疑応答、そして課題の提出を行うので、講義前の予習が必須である。

## 【テキスト（教科書）】

・SDSS スカイサーバー (<http://skyserver.sdss.org/edr/jp/>)

## 【参考書】

・市川隆・田中幹人(著)、「天体画像の誤差と統計解析(クロスセクショナル統計シリーズ)」、共立出版、2018年  
 ・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎週の課題(30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

・天文学の知識習得とPythonを用いたデータ分析の実習が効果的に連動するような授業構成を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与PC。

## 【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand fundamental properties of stars and galaxies by analyzing astronomical archival data. The goal of this course is to apply statistical analytics to astronomical archival data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (50%), assignments (40%) and in-class contribution (10%).

BSP100XG (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 科学実験リテラシー

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学実験の基礎となっている考え方（統計学）とデータ処理の技法（Excelの使い方）およびレポートの書き方を学ぶ。

### 【到達目標】

1年生秋学期から始まる創生科学基礎実験I、および2年生の創生科学基礎実験II、IIIで必要となる誤差、有効数字、正規分布などの基礎概念、Excelを使ったグラフの書き方：読み方、データ整約の技法、およびそれらの基礎となっている統計概念を理解する。またレポートの書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義内容は事前にYouTubeでオンデマンド配信される。授業時間中では、主に演習、質疑応答そしてフィードバックの時間を設け、確認テストで学習成果をチェックする。なお、貸与PCの使用を前提とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。貸与パソコンとExcelの初期設定。Hoppiiに登録。
2	初等統計学	Excelを使った基本統計量の計算。母集団と標本、平均と分散と標準偏差、中央値、最頻値、など。
3	散布図の描き方	Excelを使った1変量の散布図の描き方。グラフの体裁、線形目盛と対数目盛。
4	相関係数	Excelを使った2変量の散布図の描き方。様々な相関係数の算出。
5	回帰分析	最小二乗法の原理と計算法、Excelの回帰分析表の見方。
6	ヒストグラムと正規分布～前編～	ヒストグラムと分布、極限分布、正規分布（ガウス分布）。Excelを使って、ヒストグラムを描く。Excelを使って、ヒストグラムに正規分布を重ねる。
7	実験レポートにおける誤差評価の使い方	測定値の表現（最良推定値と誤差範囲）、有効数字、相対誤差、誤差伝播入門。
8	誤差の伝播	和と差、商と積、べき乗、任意の1変数関数、誤差の逐次伝播、誤差伝播の一般式。
9	ランダム誤差の統計的取扱い	ランダム誤差、系統誤差、標準誤差。
10	ヒストグラムと正規分布～後編～	68%信頼限界としての標準偏差、最良推定値として平均値を選んで良い理由、二乗和を使うことの根拠、平均値の標準偏差、測定値の受容可能性。
11	大数の法則と中心極限定理	Excelの乱数を使ったシミュレーションを通じて、大数の法則と中心極限定理を理解する。
12	レポートの書き方	Wordの使い方（基本操作と数式の書き方）とレポートの書き方。
13	模擬試験1	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方。
14	模擬試験2	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。講義内容は事前にYouTubeで配信されるので、各自自主的に予習を行ってから授業に参加することが必須である。また、理解できない箇所については授業内外で積極的に教員やTAに質問すること。

### 【テキスト（教科書）】

・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

### 【参考書】

・東京大学教養学部統計学教室(編)、「統計学入門(基礎統計学)」、東京大学出版会、1991年

・岡村・三浦・玉井・伊藤(編)、「理系ジェネラリストへの手引き」、日本評論社、2015年

・Excelの使い方については、インターネットで調べればたくさん出てくるので特に参考書を指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、授業内課題と小テスト（15%）、学習意欲態度（5%）

### 【学生の意見等からの気づき】

創生科学基礎実験I・II・IIIにつながるような授業構成を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

### 【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students practically learn the concepts underlying scientific experiments (statistics) and data processing techniques (how to use Excel) and how to write reports. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), assignments and mini tests (15%), and in-class contribution (5%).

ELC200XG (電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200)

## 電気電子回路の基礎

鈴木 郁

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

創生科学科で扱われる内容は幅広いが、物理学の素養が求められるケースも多く、そこには多くの学生にとって馴染みが少ない、電子回路も含まれている。大学入学以前から物理関連の科目を履修してきた学生にとってさえ、電気回路、特に電子回路は馴染みが薄い場合が多いが、当科目はそれらについての理解を促すことを目的としている。

### 【到達目標】

電気回路について復習しつつ、主にアナログの電子回路について、その基礎を理解することを目標とする。仮に講義で扱われる全てを理解したならば、例えばトランジスタを用いた簡単な回路であれば設計も可能であろうし、オペアンプを用いた複雑な回路についても、それを理解するための手掛かりを完全にではなくとも自ら見つけ出すことが可能であろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って、授業計画に示したようにすすめる。講義形式ではあるが、講義形式ではあるが、頻繁に質問を投げかけ、また質問を受け付ける形で学生の持つ疑問へのフィードバックを行っている。質問には積極的に答えてほしい。(ある種のアクティブラーニングでもある。) なお、進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある。各回の授業計画に変更があれば、学習支援システムで提示する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	線形素子と非線形素子	電圧と電流の関係が非線形な素子の例として、ダイオードとトランジスタを取り上げ、その非線形特性などについて説明する。
2回目	回路図	回路図の読み方や書き方、簡単な回路の配線法を紹介する。
3回目	ダイオードとトランジスタ	ダイオードやトランジスタを含む半導体の、原理や特性について解説する。
4回目	トランジスタを用いた増幅回路	トランジスタを用いて、わずかな電流でLEDをON/OFF(スイッチ)できる回路、ならびにマイクホンからの微小な音声信号を増幅して十分な音量でイヤホンを駆動するための回路について、解説する。
5回目	音声信号のための増幅回路	トランジスタを用いた音声信号増幅回路は、スイッチング回路よりも考慮すべき点が多く理解が難しい可能性がある。そこで音声増幅回路について説明する。
6回目	増幅回路の特性	増幅回路の、正しく出力可能な電圧の範囲、出力可能な周波数の範囲、といった特性について説明する。とりわけ、周波数特性(ゲイン特性)の考え方について詳説する。
7回目	ゲインと位相	増幅回路などの系の特性は、ボード線図であらわされることが多い。ボード線図はゲインと位相の特性を示したものであるが、難しいと思われる位相(位相差)の概念や測定方法などについて解説する。

8回目	RCフィルタとLRフィルタ	受動(パッシブ)な素子のみを用いたRCフィルタ(抵抗とコンデンサを用いたフィルタ)ならびにLRフィルタ(コイルと抵抗を用いたフィルタ)について、その動作原理や特性を紹介する。あわせて、コイルとコンデンサの組み合わせで構成される共振回路についても、説明する。
9回目	オペアンプ	オペアンプ(演算増幅器)と呼ばれる集積回路を用いると、広い周波数範囲で高い増幅率を持った増幅回路を比較的容易に作成できる。そこでオペアンプを使う上での基礎的な概念について、解説する。
10回目	非反転増幅回路	オペアンプの基本的な使い方の一つである非反転増幅回路(バッファを含む)について、説明する。
11回	反転増幅回路と反転加算回路	加算回路、微分回路などの基ともなる、反転増幅回路について説明する。あわせて、反転増幅の応用である反転加算回路についても解説する。
12回	微分回路と積分回路 —電気回路における微積分とは—	電気・電子回路における微分や積分とは何であるのか、またオペアンプを用いた反転増幅の応用である微分回路や積分回路について、説明する。
13回	微分回路と積分回路 —微分回路の実際—	微分回路について、理想のゲインや位相の特性、実現可能なゲインや位相の特性などを含め、解説する。
14回	微分回路と積分回路 —積分回路の実際—	積分回路について、理想のゲインや位相の特性、実現可能なゲインや位相の特性などを含め、解説する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 講義中に適宜、次回講義までに自ら調べるように指示することがある。講義の理解を深めるべく、予習あるいは復習のつもりで行ってほしい。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

秋田純一：ゼロから学ぶ電子回路、講談社。他には特に指定しないが、適切なものがあれば適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが、平常点も加える。全体を100%とした時のおよその内訳は、試験得点が95%、平常点が5%である。但し上記の平常点の他に、授業中の質疑応答により加点することがある。

補足。万一、感染症対策などでオンラインでの授業の比重が大きくなった場合には、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。変更となった場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いため内容が過多である可能性が以前、示唆された。そこで実験内容との対応は若干薄くなるが、その前年よりも3割程度、内容を削減することとした。そして今後も有効なフィードバックについては適宜取り入れていきたい。

### 【その他の重要事項】

この科目は、“創生科学基礎実験III”の事実上の前提科目(あらかじめ履修しておくべき科目)である。一方でこのことは、当該実験科目の履修者以外による履修を妨げるものではない。なお、履修予定であれば初回から出席すること。

この科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当している。講義担当者はマイクロプロセッサまわりなどの電子回路の設計を伴う仕事をしてきた経験があることから、その経験を活かした授業を行っている。全て対面での実施を予定している。

**[Outline (in English)]**

The title of this class is "Basics of Electrical and Electronic Circuits." And its objective is to get familiar with those circuits, which include ones made with transistors, operational amplifiers, etc.

Students will be expected to do their own research to resolve their unclear points. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.

Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

MAT300XG (数学 / Mathematics 300)

## 数理モデルと統計

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

天文学から心理学やマーケティングまであらゆる分野において、量的データから現象を解釈するためにしばしば統計モデルが導入される。1,2年次に学習してきた統計分析の手法は、暗黙の了解として正規分布を仮定した分析手法である。ところが、現実世界は正規分布のような綺麗なモデルで表現されないことが多い。本講義では、現実世界をより自由に表現できる統計モデリングについて学習し、Pythonを使った統計モデリングの実装について実践的な演習を行う。

### 【到達目標】

- ・一般化線形モデルについて理解する。
- ・ベイズモデルについて理解する。
- ・Pythonを使って実データに対して統計モデリングを実装できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Pythonを使って、実データに統計モデリングを実装する。できるだけ多くの例から現実の問題に対する対応能力を学ぶ。定期的に課題を出題し、授業内でフィードバックする。オンデマンド教材を用意し、時間外学習と講義を連動させて進める。必要に応じて、オンライン授業も併用する。なお、貸与PCの使用を前提とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構え。 データを理解するために統計モデルを作る。
2	Python1	matplotlibを使ったグラフの描画。 pandasを使ったデータフレームの取扱い。
3	Python2	numpyを使った統計分析の練習。 for文とif文の練習。
4	確率分布と統計モデルの最尤推定1	正規分布、ポアソン分布、二項分布などの確率分布。乱数。
5	確率分布と統計モデルの最尤推定2	最尤推定の原理と実践。
6	一般化線形モデル1	一般化線形モデル (GLM) -ポアソン回帰-
7	一般化線形モデル2	GLMのモデル選択-AICとモデルの予測の良さ-
8	一般化線形モデル3	GLMの尤度比検定と検定の非対称性
9	一般化線形モデル4	GLMの応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-
10	一般化線形モデル5	一般化線形混合モデル (GLMM) -個体差のモデリング-
11	ベイズモデル1	マルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法とベイズ統計モデル
12	ベイズモデル2	GLMのベイズモデル化と事後分布の推定
13	ベイズモデル3	階層ベイズモデル-GLMMのベイズモデル化-
14	ベイズモデル4	空間構造のある階層ベイズモデル

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。教科書・演習問題の学習・復習、授業内で示される課題対応など、各自が自主的に授業の準備・復習を行う必要がある。

### 【テキスト (教科書)】

・久保拓弥(著)、「データ解析のための統計モデリング入門 (確率と情報の科学)」、岩波書店、2012年

### 【参考書】

・市川隆・田中幹人(著)、「天体画像の誤差と統計解析 (クロスセクショナル統計シリーズ)」、共立出版、2018年

### 【成績評価の方法と基準】

毎週の課題 (20%)、学習意欲態度 (20%)、最終レポートもしくは期末試験 (60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

・対面での学習意欲態度の評価観点を導入し、対面授業の学習効果を上げる。

### 【学生が準備すべき機器他】

貸与PC。

### 【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students practically learn statistical modelings using Python. The goal of this course is to apply statistical modelings such as Generalized linear mixed models and Bayesian hierarchical models to students's own data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process reports and assignments (90%) and in-class contribution (10%).

CUA200XG (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

## フィールドワーク

福澤 レベッカ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フィールドワークとリサーチデザインは様々なパラダイムに基づいている。その様々なパラダイムは異なるモデル構成、調査方法、データ分析方法につながる。本授業は異なる分野のパラダイムを比較しながら、文化人類学的なフィールドワークと調査理論を紹介す以下の物が含まれている：フィールドワークのプロセスを実施しながら進めていく。そのプロセスには帰納・演繹法による理論構築、社会現象測定としての母集団の特定、データ抽出の決定、質的・量的データ収集法、データ処理としてのコーディングシステムの決定、データのマッピングと質的データ解析、モデルの検証である。

### 【到達目標】

社会学における様々なデータ収集方法とモデル構成を考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は講義も含まれているが、アクティブラーニングを基礎とする授業である。授業において主に、ディスカッション、グループワーク、授業内フィールドワーク体験、映像・メディアの分析などの活動を行う。提出された課題・アクティビティシート、クイズ、試験については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	本クラスの紹介・フィールドワークとは何か?	社会や文化について研究を行うフィールド調査法とは何か、そして他の研究方法との違いと特徴を学ぶ。フィールドでの倫理の特殊な問題を考える。
2回	研究のゴール、問題提起、概念的枠組み I	研究のゴールと問題提起が幾つあるのかを特定し、自分の世界観に基づいて暫定的、概念的枠組みを考える。
3回	質的なデータを帰納的に集めるインタビュー方法	構造化されたインタビュー、ある程度構造化されたインタビュー、そしてまったく構造化されていないインタビューの相違について考える。インタビューを実施する。
4回	質的データ分析と解釈の方法	インタビューの中のテーマを見つけることにより質的データの分析方法を学びながら、コーディングマトリックスを開発、使用することにより量的データへの変換を考える。
5回	テーマコードから符号のコードの作成	2符号コードに変えることによって質的なデータから量的なデータに近寄り、統計学的な分析が可能になる。
6回	質的なデータから量的なコーディングへ	ネイティブの観点から言葉の概念の関係を調べるために、分類データシートのデータをマトリック表に記入する。
7回	質的なモデル構成	テーマのカテゴリーを利用して、値のコードを作る。このデータを元に、コーディングを通してモデルを構成する。
8回	質的データを帰納的に集める観察方法	正式な観察——分厚い記述・連続記述方法との基本
9回	質的データを帰納的に集める観察方法	正式な観察——分厚い記述・連続記述方法、実際に練習する。
10回	質的データ分析と解釈の方法	観察データからの分析方法を学びながら、コーディングマトリックスを開発、使用することにより量的データへの変換を考える。
11回	サンプル収集の方法を通して妥当性を得る。	母集団の特徴の特定、サンプルを収集する手続き、そして、調査で使用する質問の変数への関連付けをする方法について学ぶ。
12回	他のフィールドデータ収集：人間の行動と思考を間接的に観察する	証拠となるような他のフィールド情報 (書類やビジュアルデータなど)、研究対象となる人たちの選定、サンプルを収集する方法について考える

13回	他のフィールドデータ分析：人間の行動と思考を間接的に観察する。	ビジュアルデータの分析を実施し、コーディングマトリックスを作成する。
14回	フィールドワークとは何かを振り返る。	フィールドワークの心構えを再び考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】フィールドワークインタビューと観察などの課題を行う。

### 【テキスト (教科書)】

学習支援システムにアップロードする。

### 【参考書】

佐藤郁也(2008)「フィールドワーク：書を持って街にでよう」新曜社。  
 京都大学東南アジア研究所(2006)「フィールドワーク入門」NTT出版。  
 クレスウェル, J.W. (2010)[大谷 順子訳]「人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房。  
 好井裕明 (2006)「当たり前」を疑う社会学:質的調査のセンス. 光文社。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点とクイズ(50%)、データ提出・課題(30%)、期末試験 (20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

分かりにくい日本語表現を改善する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。

### 【その他の重要事項】

以前に行っていた政府機関のPR部での仕事の経験は、現在の授業のフィールドワークがビジネスに以下に活用できるかという視点を提供している。

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to anthropological research models and fieldwork methods by comparing and contrasting ethnographic fieldwork to other disciplinary approaches. It is designed to lead students step by step through the process of designing and implementing qualitative research: choosing a theoretical approach, determining sampling procedures, designing collection methods interview, observation and visual data, and using coding systems for analysis and theory building.

### Learning Objectives:

The goal of this class is to learn and practice a variety of methods of ethnographic data collection. Based on this data, students will build models or theories to describe the data.

### Learning activities outside the classroom:

Students will be responsible for doing interview, observation and other projects outside of class.

### Grading Criteria:

In-class activities and online quizzes (50%), projects (30%), final exam (20%)

COT111KA-CS-200 (計算基盤 / Computing technologies 100)

## コンピュータシステム入門2

小池 崇文

必選区分： | 配当年次/単位：1～4年次/2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考 (履修条件等)：CDクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

OSやインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

まず、実際のOSの例を見ながら、OSの役割の概要を理解する。また、多くのOSが備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OSとは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OSの仮想化・抽象化	OSの主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OSによる機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS演習	OSの使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

## 【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験 (80%)、および、レポートや講義への貢献などの平常点 (20%) で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

## 【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

## 【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI110KA-CS-103 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 離散構造1

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次/単位：1~4年次/2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考 (履修条件等)：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

### 【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、バイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中で認定試験を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎(1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎(2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係(1)	組、順序対、直積、 $n$ 項関係、2項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係(2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ(1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの3角形、2項定理
9	数え上げ(2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率(1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度

12	離散型確率(2)	条件付き確率、バイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率(3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

### 【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監(訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%, 試験(中間, 期末)60%, 平常点20%で総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

### 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI210KA-CS-251 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 最適化

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次/単位：2～4年次/2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考 (履修条件等)：CD クラス

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

### 【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法

14 多目的最適化、まとめ 多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

### 【テキスト (教科書)】

配布資料 (学習支援システムに掲載)

### 【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005年

### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) + 演習課題 (20%) + 授業への参加度 (20%) で採点します。参加度は授業中の態度 (積極的に演習の解答例紹介を行うかなど) で計算します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

### 【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-151 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

## 形式言語とオートマトン

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：2~4年次/2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考 (履修条件等)：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

### 【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの時点表示・構成ができること
- 2) 正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1. 有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第6回 非決定性有限オートマトン(2)

1. 空動作を伴うオートマトン
2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図
3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現
4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性
5. 正規表現から非決定性オートマトンに
6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ

第7回 中間試験

第8回 プッシュダウンオートマトン

1. 決定性プッシュダウンオートマトン
2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作
4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
5. 非決定性プッシュダウンオートマトン
6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作
8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図

第9回 チューリングマシン(1)

第10回 チューリングマシン(2)

第11回 文法(1)

1. 決定性チューリングマシン
1. 非決定性チューリングマシン
1. 正規文法
2. 言語の生成装置としての形式文法
3. オートマトンと文法の対比・階層性
4. 文脈自由文法

第12回 文法(2)

第13回 文法(3)

第14回 オートマトンと形式言語の関係およびまとめ

1. 文法の種類
2. 文脈自由文法の例
3. 文脈自由文法と木構造
4. 2分木からチョムスキー標準形に
5. 文脈依存文法
1. 文法演習
- 正規文法と有限オートマトンの関係
1. 正規表現による正規言語の表現
2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理
3. 閉包性
4. チョムスキー標準形
5. グライバッハ標準形
- 1 - 14回の講義のまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

**【参考書】**

J.ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論(第2版・新装版)」森北出版

**【成績評価の方法と基準】**

授業内諸テスト、課題で40%。期末試験で60%。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習を豊富に実施する

**【その他の重要事項】**

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

**【Outline (in English)】**

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

## データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次/単位：2~4年次/2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

### 【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータとNoSQLおよびまとめ	ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習・復習。  
課題が指示された場合は、課題レポート提出。  
本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

データベース入門[第2版]  
増永良文著  
サイエンス社  
(2021)

### 【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)  
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)  
吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)  
その他、適宜、講義中に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

### 【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

### 【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

### 【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221 (人間情報学 / Human informatics 200)

## 人工知能

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：2～4年次/2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

## 【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。

第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理値や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

## 【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版  
谷口忠大  
講談社、2020年

## 【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版  
Stuart Russel, Peter Norvig  
共立出版、2008年

## 【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)  
ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

**【その他の重要事項】**

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]**

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

**[Learning objective]**

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

**[Learning activities outside of classroom]**

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

**[Grading criteria / policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

COT211KA-CS-342 (計算基盤 / Computing technologies 200)

## コンピュータネットワーク

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次/単位：2~4年次/2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を支える重要なインフラストラクチャの一つであるインターネットについて、その仕組みと構成を学ぶ。ネットワークは独立したシステムが相互に情報をやり取りすることから、ハードウェアからアプリケーションに至るまで様々なところで取り決め（プロトコル）がある。ここでは、その個々の機能を理解すると同時に、取り決めとなるプロトコルとの関係にも触れる。

### 【到達目標】

現在のインターネット社会を支えるTCP/IPを中心に、その仕組みとアプリケーションとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義ではInternetの仕組みについて、まず、アプリケーション側から理解をすすめて、socket APIなどのアプリケーションプログラミングの観点から見たネットワークを理解する。さらに、Ethernet, WiFi, 5Gといったネットワークを構成するハードウェアについても学び、特定のハードウェアに依存しない、インターネット層のIPやトランスポート層プロトコルの中心であるTCPへと学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークとは何か？	通信とその目的を考え、ネットワークの基本的な考え方を学ぶ
2	インターネットの概観	要素技術を理解する前提として、インターネット技術を概観する
3	アプリケーション層：WWW	アプリケーションの挙動の典型例としてWeb技術を学ぶ
4	アプリケーション層：DNS, Mail	DNSによる名前解消など通信の基本となるアプリケーションを知る。また他のアプリケーション通信についても触れる。
5	ネットワーク層プロトコル：IP	インターネットの通信の核をなすIPの基礎を学ぶ
6	ネットワーク層プロトコル：IPv6	現在移行が進みつつあるIPv6について学ぶ
7	トランスポート層プロトコル：TCP	端末間の通信環境を提供するトランスポートプロトコルの代表であるTCPについて学ぶ
8	トランスポート層プロトコル：UDP	様々な場面で活用されるUDPについて学ぶ
9	通信を支えるメディア	通信の基盤となるメタル線・ファイバ・電波などの通信メディアについて知る。
10	有線ネットワーク：Ethernet	広く使われている有線ネットワークであるEthernetについて学ぶ
11	無線ネットワーク：WiFi/5G	WiFiや5Gといった無線通信技術について学ぶ
12	Socket	プログラムからみたネットワークインタフェースであるSocketをの概念とそれを使ったプログラミングを学ぶ

13	Secure通信	インターネット上での安全な通信手法について学ぶ
14	まとめ	全体を概観してまとめの話をする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。  
課題を課した週についてはメ切までに終わらせて提出すること。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いず、講義資料を投影する。  
CIS Moodle から講義後に必要と考えられる部分は提供するが、基本的にノートを取って内容を把握すること。

### 【参考書】

講義中にも適宜紹介するが、必要と思う場合は以下のものを薦める。  
・J.Kurose,K.Ross, "Computer Networking –Top-Down Approach-", Addison Wesley

### 【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。  
期末試験を実施し、理解度を評価する。  
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

本講義の内容は担当教員の企業でのネットワーク技術に関する研究・開発の経験を元にしている。

### 【Outline (in English)】

#### [Course outline]

Students learn about the Internet, one of the key infrastructures in the current society, its structure and configuration. Computer networks exchanges information between independent systems, thus there are some specific protocols in various layers of the system from hardware to applications. This lecture is designed to understand their individual functions and the relationship with the protocols for each.

#### [Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts of Internet, its mechanism and relation ship between application and protocol layers.

#### [Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

#### [Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of exams and reports are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-343 (計算基盤 / Computing technologies 300)

## サービスコンピューティング

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：3～4年次/2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支えるWebシステムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、脆弱性対策、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元のPC上で簡単なWebサイトを動作させながら個々のWeb技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス事例を通じて、サービス改善やサービス創出の課題理解に役立つ、顧客体験の視点、社会的受容性、情報技術の考え方の基礎を身につける。

## 【到達目標】

Webシステムの基本技術について理解し、HTTP、HTML、CSSなどの役割を説明できる。

WebシステムにおけるブラウザとWebサーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Webセキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Webシステムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

様々なサービスの実情、課題、サービスモデルについて基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Webシステムの仕組みを、HTMLやプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易のWebシステムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景(課題等)と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向やIT(情報技術)との関係について紹介する。
第2回	Webの基本技術1	Webを支える基本技術として、WebサーバからWebブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第3回	Webの基本技術2	Webサーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースのWebサーバを立ち上げる。
第4回	Webの基本技術3	簡単なWebサイト構築と動作確認を行う。
第5回	Webセキュリティ1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Webを支える暗号通信について学ぶ。

第6回	Webの状態管理	Cookie、Sessionを用いて状態を保持したWebシステムの構築手法を学ぶ。
第7回	データベースとWebサーバ	データベースとWebサーバを使って、動的なWebページを作成する技術について学ぶ。
第8回	Webセキュリティ2	Web構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第9回	DOMとAJAX	Web文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いたWebページの更新方式としてAJAXを学ぶ。
第10回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XMLの基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第11回	サービスコンピューティング基盤技術	インタフェースの重要性、クラウドコンピューティングとNoSQL等の様々な最新技術について学ぶ。
第12回	サービスイノベーション1	サービス事例(決済、物流、店舗、交通等)を通じて、サービスイノベーション、今後の方向性と課題、技術との関わりについて知る。
第13回	サービスイノベーション2	サービス事例(続)、各種サービスモデル、サービスドミナントロジックに代表されるサービスサイエンスについて学ぶ。
第14回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる。特定の教科書は使用しない。

## 【参考書】

講義内で紹介する（書籍、Webリンク他）。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験の成績 (80%程度)
- ・ 講義内小テスト他 (20%程度)

## 【学生の意見等からの気づき】

実際のWebサイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。

講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。

講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用  
Webサイト使用には各自のノートPCを用いる

## 【Outline (in English)】

\* Course outline

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, vulnerability management, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, through recent service trends and case studies, students will learn about the fundamentals of the user experience perspectives, social acceptability, and the information technology, useful for understanding issues in service improvement and service creation.

\* Learning Objectives

Learn about the basic technologies of Web systems.

Acquire the knowledge to explain the roles of browsers and Web servers, server architecture, browser manipulation methods, Web security, and other major Web technologies.

Understand the basics of various service practices, issues, and service models.

\* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

\* Grading Criteria / Policy

Examination scores (about 50%)

Report scores (about 20%)

Attendance at class, including online sessions (about 30%, active involvement, in-class tests)

COT311KA-CS-301 (計算基盤 / Computing technologies 300)

## オブジェクト指向プログラミング

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：3~4年次/2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンをJava言語を通じて学ぶ。

## 【到達目標】

GOFのパターンのうち特に多く使われているパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉を設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、1つか2つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オブジェクト指向設計とは何か	サンプルプログラムを通して、オブジェクト指向設計の課題を理解する。
第2回	UML	設計用のツールとしてUMLを学ぶ。
第3回	デザインパターン入門/Facadeパターン	デザインパターンの考え方について基礎を学ぶ。その一例として、Facadeパターンについて理解する。
第4回	リファクタリング/Adapterパターン	プログラムを見やすく書き換えるためのリファクタリングの概念と方法を学ぶ。 Adapterパターンについて理解する。
第5回	Strategyパターン/Bridgeパターン	StrategyパターンとBridgeパターンについて、理解する。
第6回	Abstract Factoryパターン	Abstract Factoryパターンについて、理解する。
第7回	デザインパターンを利用したプログラム設計	前半で学んだデザインパターンを使って、プログラム設計の考え方を学ぶ。
第8回	DecoratorパターンとObserverパターン	DecoratorパターンとObserverパターンについて、理解する。
第9回	TemplateパターンとSingletonパターン	TemplateパターンとSingletonパターンについて、理解する。
第10回	ObjectPoolパターンとFactoryMethodパターン	ObjectPoolパターンとFactoryMethodパターンについて、理解する。
第11回	StateパターンとPrototypeパターン	StateパターンとPrototypeパターンについて、理解する。
第12回	CompositeパターンとProxyパターン	CompositeパターンとProxyパターンについて、理解する。
第13回	MementoパターンとVisitorパターン	MementoパターンとVisitorパターンについて、理解する。

第14回 デザインパターンの様々なデザインパターンの関係まとめを復習する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

オブジェクト指向のこころ

アラン・シャロウエイ, ジェームズ・R・トロット

丸善出版

## 【参考書】

増補改訂版 Java言語で学ぶデザインパターン入門,

結城浩,

SoftBank

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)

レポート課題(30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時間内で実例を交えて説明することを心掛ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

## 【Outline (in English)】

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on famous design patterns mostly in GOF book.

Students will be able to write OOP systems using the patterns. They will also be able to explain the effects of abstraction that are at the core of the patterns. All these abilities are checked by the term examination (70%) and the weekly assignments (30%),

in each of which an average student spends four hours.

FRI213KA-CS-153 (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## CGのための幾何学

小池 崇文

必選区分： | 配当年次/単位：2～4年次/2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックスを始めとするVRやAI等の様々な情報科学分野に必要な幾何学の基礎について講義する。ユークリッド幾何学に始まり、平面幾何学、空間幾何学、曲面、さらに入門的な射影幾何学について講義を行う。様々な幾何の表現や処理を学ぶことで、幾何学的に考える方法を学習し、それらをコンピュータプログラムとして表現・処理できるようになることが本授業の目的である。

## 【到達目標】

コンピュータグラフィックス分野で出てくる数学、特に幾何学を理解し、実際に使えるための学力を習得することを目標とする。例えば、空間上の平面等の図形を複数の表現で取り扱い処理できるようになる。また、様々な幾何学的な問題を解くための応用力を身に付ける。特に、与えられた課題を、幾何学の問題として解釈し、コンピュータプログラムで表現し、処理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義、解説と演習を行う。特にコンピュータでの図形の表現や幾何学的な処理を想定した知識や技術を身に付けることに重点を置く。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび導入、講義概要説明、幾何学の基礎の復習	ガイダンスを行った後に、幾何学の基礎について復習を中心に講義する。
2	ユークリッド幾何学	ユークリッド幾何学の復習を行う。
3	平面幾何学 (1) ベクトル、射影と回転	平面ベクトル、平面上の射影と回転
4	平面幾何学 (2) 直線、座標変換	平面上の直線、平面の座標変換
5	平面幾何学 (3) 直線、平面	平面上の曲線、曲線の曲率
6	空間幾何学 (1) ベクトル	空間ベクトル、空間の射影と回転、空間の直線、空間の平面
7	空間幾何学 (2) 空間の座標変換、移動、回転	空間の座標変換、空間の曲線、曲線の曲率
8	空間幾何学 (3) 立体角	極座標系、空間の立体角
9	平面幾何学、空間幾何学の復習	平面幾何学と空間幾何学についての理解度の確認
10	立体図形: 多面体、合同、相似	様々な立体図形とその諸性質について
11	曲面の幾何学: 曲面の表現、性質	曲面の表現、グラフ表現、局所表現
12	射影幾何学の基礎 (1) 投影の幾何学	投影の幾何学、アフィン変換、射影幾何
13	射影幾何学の基礎 (2) 四辺形の射影変換と応用	四辺形の射影変換、テクスチャマッピング、プロジェクションマッピング
14	まとめ	まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、課題への取り組みを行う必要がある。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に板書や配布を行う。

## 【参考書】

金谷健一, "形状CADと図形の数学", 共立出版, 1998. (ISBN: 978-4320016187)

大田春外, "高校と大学をむすぶ幾何学", 日本評論社, 2010. (ISBN: 978-4535786196)

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題やレポート (20%), 期末試験 (80%)

## 【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた演習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノートPCを必要とする。

## 【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な幾何学に関する講義を行う。

## 【Outline (in English)】

This is a course on the fundamentals of geometry necessary for computer sciences including computer graphics. I'll lecture about Euclidean geometry, planar geometry, space geometry, curved surface, and projective geometry. Students will learn how to think about problems geometrically by learning expressions and processing of various geometries.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (50%) and term-end examination (50%).

COT211KA-CS-205 (計算基盤 / Computing technologies 200)

## プログラミング(MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次/単位：2~4年次/4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

### 【到達目標】

3年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理(音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFTの使用方法和音声の周波数処理
5	フィルタ(音声の時間領域処理)	FIRフィルタ、IIRフィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFTを用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類

13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

### 【テキスト (教科書)】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門  
著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘  
出版社: コロナ社  
出版年: 2019

### 【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門  
著者名: 青木直史  
出版社: CQ出版社  
出版年: 2006  
書名: Digital Signal Processing First, Global Edition  
著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder  
出版社: Prentice Hall  
出版年: 2016  
書名: はじめての画像処理技術  
著者名: 岡崎  
出版社: 工業調査会  
出版年: 2000

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験(50%)および最終課題(50%)で評価する。ただし、最大20%程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノートPCを利用することを前提とする。演習は貸与PCを利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

### 【その他の重要事項】

FFTの知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2023b (もしくは R2024a) をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>  
[https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB\\_manual.pdf](https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf)

この授業に必要な Toolbox は、  
Image Processing Toolbox  
Signal Processing Toolbox  
Statistics and Machine Learning Toolbox  
である。

本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grade will be calculated according to the following process: final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

HUI312KA-CS-331 (人間情報学 / Human informatics 300)

## デジタル信号処理

高村 誠之

必選区分： | 配当年次/単位：3～4年次 / 2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原理が理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

### 【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 $z$ 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理をPythonで実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、PythonやMATLABを用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	$z$ 変換	$z$ 変換、逆 $z$ 変換、 $z$ 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタルIIRフィルタ	インパルス不変
13	FIRフィルタ	FIRフィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

萩原 将文, デジタル信号処理 第2版・新装版, 森北出版, 2020.

### 【参考書】

- 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.
  - 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
  - 原島 博, 信号解析教科書 -信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題(授業内演習含む)50%、試験(期末)50%

### 【学生の意見等からの気づき】

より理解を深められるような演習、講義内容の実応用事例が想像できるような授業を工夫する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノートPCを必要とする。

### 【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での画像処理応用や画像符号化技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング(MATLAB)、微積分法の応用:フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。また、積分法の基礎と応用、複素関数論1、2、交流回路と電磁波:周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

### 【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, short reports (including in-class drill): 50%

HUI312KA-CS-333 (人間情報学 / Human informatics 300)

**画像処理**

花泉 弘

必修区分： | 配当年次/単位：3～4年次 / 2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

**【到達目標】**

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせで各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。必要に応じて授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。不明な点や興味を持ったところについては、遠慮なく質問してほしい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション デジタル画像の取得1	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得2	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理	テクスチャと同時生起行列、および領域分割処理手法について
11	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
12	パターン認識	特徴に基づく分類やクラスタリング処理、主成分分析法などについて
13	動画像処理	背景差分法とフレーム間差分法
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

奥富編：デジタル画像処理(改訂新版)、(動)画像情報教育振興協会、2015  
ISBN 978-4-903474-50-2

**【参考書】**

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

**【成績評価の方法と基準】**

試験の成績(60%)とレポートの成績(40%)によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコン

**【その他の重要事項】**

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。

レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。

本講義では担当教員の2次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

**【Outline (in English)】**

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

PHY100CA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学 A</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
<b>【本授業コードは経済学科生用】</b>

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

**【到達目標】**

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。

さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature Video 教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。

・毎回（全14回）の確認問題を各100点（50%）

・4回分の小課題を各350点（50%）

とし、60%以上の得点率で合格とする。

**【確認問題の評価基準】**

授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。

**【小課題の評価基準】**

時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.

At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学 B</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
<b>【本授業コードは経済学科生用】</b>

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がこれまで明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

**【到達目標】**

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する

11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の方向性	福島第一原子力発電所の廃炉の現状についての専門家からの説明を通じて、科学技術の方向性について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature Video 教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。

・毎回（全14回）の確認問題を各100点（50%）

・4回分の小課題を各350点（50%）

とし、60%以上の得点率で合格とする。

**【確認問題の評価基準】**

授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。

**【小課題の評価基準】**

時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学 A</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
<b>【本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】</b>

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

**【到達目標】**

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。

さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature Video 教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。

・毎回（全14回）の確認問題を各100点（50%）

・4回分の小課題を各350点（50%）

とし、60%以上の得点率で合格とする。

**【確認問題の評価基準】**

授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。

**【小課題の評価基準】**

時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.

At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学 B</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
<b>【本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】</b>

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

**【到達目標】**

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する

11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の方向性	福島第一原子力発電所の廃炉の現状についての専門家からの説明を通じて、科学技術の方向性について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature Video 教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。

・毎回（全14回）の確認問題を各100点（50%）

・4回分の小課題を各350点（50%）

とし、60%以上の得点率で合格とする。

**【確認問題の評価基準】**

授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。

**【小課題の評価基準】**

時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

BSC100CA (基礎化学 / Basic chemistry 100)

## Basic Science for Global Environment A

山崎 友紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
 曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩 / Tama  
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics  
 備考（履修条件等）：  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

### 【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development

WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Human Population; Ch.8	Demography, Population and Society
WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate
WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Review of this semester	Discussion/Q&A

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

### 【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2017. Environment:The Science behind the Stories, Pearson; 6th ed.

<https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/environment-the-science-behind-the-stories/P200000007571/9780134873657>

"E-textbook" is strongly recommended for this course.

DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

### 【参考書】

1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2)『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

### 【成績評価の方法と基準】

Participation(25%), Contribution to Class Discussion/Class Quiz(25%), Assignments(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Questions". PLEASE USE the textbook for the Questions.

### 【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
  - Read the textbook before the class as much as you can
  - Finish weekly questions
  - Complete and submit the class project and assignments
- Instructor's Office Hours are by appointment.  
Write to [yuuki@hosei.ac.jp](mailto:yuuki@hosei.ac.jp) to schedule an appointment.

BSC100CA (基礎化学 / Basic chemistry 100)

## Basic Science for Global Environment B

山崎 友紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
 曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩 / Tama  
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics  
 備考（履修条件等）：  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

### 【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanizaiaon, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Adjustment, Review	Essay/Report, Q&A

WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel
WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Total Review	Presentation and Q&A

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is TWO HOURS each.

### 【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2017. Environment:The Science behind the Stories, Pearson; 6th ed.

<https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/environment-the-science-behind-the-stories/P200000007571/9780134873657>

"E-textbook" is strongly recommended for this course.

DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

### 【参考書】

- 1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons
- 2)『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）
- 3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press
- 4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

### 【成績評価の方法と基準】

Participation(25%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(25%), Assignments(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Questions". PLEASE USE the textbook for the Questions.

### 【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
  - Read the textbook and review it before the class
  - Finish weekly quizzes
  - Complete and submit the class project and assignments
- Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to douglas.hungwe.7k@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
<b>社会保障論 A</b>
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

**【到達目標】**

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【留意事項】**

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度2	年金制度の問題点
第6回	年金制度3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

**【参考書】**

厚生労働省『厚生労働白書』各年版  
 鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社  
 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社  
 西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社  
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社  
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

初回授業に必ず出席すること。  
 なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

**【Outline (in English)】**

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

**社会保障論 B**

小黒 一正

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

**【到達目標】**

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【留意事項】**

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第13回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社  
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社  
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

**【参考書】**

阿部彰・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社  
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社  
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社  
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣  
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社  
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

**【成績評価の方法と基準】**

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

**【Outline (in English)】**

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
<b>特別講義 (寄付講座 証券市場論)</b>
<b>大和証券 (株)</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
  - ②金融商品市場での主な商品 (株式・債券・投資信託) を学ぶ。
  - ③M&Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

**【到達目標】**

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

It is possible to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M&A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

**【テキスト (教科書)】**

各回講義用のレジユメを配布する。  
Distribute resumes for each lecture.

**【参考書】**

必要に応じて参考文献を指示する。  
Indicate references where necessary.

**【成績評価の方法と基準】**

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施 (50%)  
期末試験 (50%)

Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)  
Final exam (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート実施なし

**【その他の重要事項】**

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

**【Outline (in English)】**

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts)

(3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

PLN100EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 100)

**自然環境論 I**

吉岡 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人間社会の多様な姿が生まれた背景には、歴史や文化の地域的特色、自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり、それらは互いに密接に関連しています。本講義では自然本来の多様性に着目して、自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます。

**【到達目標】**

母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が、物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる。特に、高校までに地球科学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し、系統だった科学概念に置き換えることができるようになる。その上で、人間社会の歴史や、生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる。これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を、地球的思考を通して理解し、解決に向けて考察できる力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

- ・1年次～4年次の受講が可能です。
- ・主にPCプロジェクトを使用して講義を行ないます。
- ・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 / 地理院地図の使用方法
第2回	地球科学入門	素朴概念と科学概念
第3回	緯度経度	緯度経度とそれに関わる事象
第4回	地図	地形図、各種地図
第5回	基本単位	地球科学で使用する基本単位
第6回	地磁気とチバニアン	地磁気、地層の基礎
第7回	プレートテクトニクス	地球の内部
第8回	地震	地震の発生メカニズム
第9回	地震と防災	震災と備え / 地図で防災情報を入手
第10回	科学と人間社会	科学と社会とのかかわり
第11回	北極	北極についての基礎
第12回	北極の自然	北極の自然と変化
第13回	北極をめぐる話題	北極探検時代の話題から人間社会について考察する
第14回	まとめ	春学期授業のふりかえり

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習: 授業内容のテーマについて、これまでに習得している知識の整理をしておく。

復習: 授業の内容を確認する。疑問点はまずは自分で調べる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しません。授業資料を配付します。

**【参考書】**

- ・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院
- ・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス
- ・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
- ・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%、期末試験による評価が50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は授業支援システム「Hoppii」のこの授業のお知らせを確認のこと。

**【その他の重要事項】**

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

**【Outline (in English)】**

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PLN200EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

## 自然環境論Ⅱ

吉岡 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。

### 【到達目標】

- ・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
- ・自然の情報を入手して活用できる。
- ・人間社会と地球科学との関わりについて考察できる基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

- ・1年次～4年次の受講が可能です。
- ・主にPCプロジェクトを使用して講義を行ないます。
- ・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方の説明 / 春学期の復習
第2回	火山	火山と火山災害
第3回	河川	自然の河川、河川管理
第4回	河川地形	河川によって形成された地形
第5回	水害と防災	地図で防災情報を入手
第6回	海水準変動と段丘地形	海水準変動、段丘地形、テフラ
第7回	地形トピックス	多摩キャンパス周辺の地形
第8回	大気と気象	地球大気、気象、気候
第9回	気候等の区分	気候等の区分、観測衛星
第10回	地球の水と海洋	海洋、熱塩循環
第11回	雪と氷	雪や氷河、海氷
第12回	気候変動	古気候、氷期・間氷期
第13回	地球温暖化	IPCC 評価報告書
第14回	まとめ	秋学期授業のふりかえり

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容のテーマについて、これまでに習得している知識の整理をしておく。

復習：授業の内容を確認する。疑問点はまずは自分で調べる。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。授業資料を配付します。

### 【参考書】

・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院  
・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス  
・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会  
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院

・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%、期末試験による評価が50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は授業支援システム「Hoppii」のこの授業のお知らせを確認のこと。

### 【その他の重要事項】

- ・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講済であることが望ましい。
- ・教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PLN200EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

**自然科学特講 (地学)**

吉岡 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・試料採取・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、野外で各自が計測してデータ取得したり地図や採取試料から情報を取得し、それを解析、利用することを学びます。

**【到達目標】**

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

- ・この科目は「受講許可科目」なので、そちらの説明も確認すること。
- ・この授業では、多摩キャンパス内で屋外作業をしたあと室内作業をおこなう回と、室内作業のみの回があります。
- ・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
- ・前回課題について、授業の始めにフィードバックします。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス / 野帳の使い方	授業の概要と進め方の説明 / キャンパス内を歩いて野帳に記入
第2回	簡易測定の準備	歩測、ハンドレベルの使用方法
第3回	等値線の書き方	AR sand boxで見る等高線 / 等圧線で天気図作成
第4回	簡易測量 1	ハンドレベルで高低計測
第5回	PCの地図	ネット地図の活用
第6回	地球の大きさを測る / 野外地形観察	GPS計測 / 多摩キャンパス周辺の地形
第7回	防災と地図 / 地盤液状化実験	地図で防災情報入手 / 地盤液状化実験ボトル作製
第8回	地形実体視	アナグリフ(赤青メガネ)による地形の実体視
第9回	簡易測量 2-1	多摩キャンパスを測る
第10回	簡易測量 2-2	計測データから作図
第11回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第12回	鉱物の取り出しと観察	泥の中から鉱物を取り出す
第13回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手
第14回	まとめ	全体ふりかえり、補足

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使用しませんが、資料を配付します。また、必要に応じ個別の文献を授業中に提示します。

**【参考書】**

- ・ナショナルジオグラフィック (月刊雑誌)
- ・フィールドに入る (100万人のフィールドワーカーシリーズ1)、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策 (100万人のフィールドワーカーシリーズ9)、澤柿教伸ほか編、古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

評価配分は、毎回の提出課題やレポートが80%、授業への積極的な関与が20%

**【学生の意見等からの気づき】**

フィールド作業を行なう回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明しておく。

**【学生が準備すべき機器他】**

屋外作業ではキャンパス内の舗装されていない道を歩く場合もあるので、動きやすい靴で参加すること。

**【その他の重要事項】**

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis. The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study. Grading will be decided based on reports, tasks (80%), and class contribution (20%).

PLN200EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

## 自然科学特講 (地学)

吉岡 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・試料採取・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、野外で各自が計測してデータ取得したり地図や採取試料から情報を取得し、それを解析、利用することを学びます。

### 【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

- ・この科目は「受講許可科目」なので、そちらの説明も確認すること。
- ・この授業では、多摩キャンパス内で屋外作業をしたあと室内作業をおこなう回と、室内作業のみの回があります。
- ・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
- ・前回課題について、授業の始めにフィードバックします。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス / 野帳の使い方	授業の概要と進め方の説明 / キャンパス内を歩いて野帳に記入
第2回	簡易測量の準備	歩測、ハンドレベルの使用
第3回	等値線の書き方	AR sand boxで見る等高線 / 等圧線で天気図作成
第4回	簡易測量 1	ハンドレベルで高低計測
第5回	PCの地図	ネット地図の活用
第6回	地球の大きさを測る / 野外地形観察	GPS計測 / 多摩キャンパス周辺の地形
第7回	防災と地図 / 地盤液状化実験	地図で防災情報入手 / 地盤液状化実験ボトル作製
第8回	地形実体視	アナグリフ(赤青メガネ)による地形の実体視
第9回	簡易測量 2-1	多摩キャンパスを測る
第10回	簡易測量 2-2	計測データから作図
第11回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第12回	鉱物の取り出しと観察	泥の中から鉱物を取り出す
第13回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手
第14回	まとめ	全体ふりかえり、補足

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、資料を配付します。また、必要に応じて個別の文献を授業中に提示します。

### 【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック (月刊雑誌)
- ・フィールドに入る (100万人のフィールドワーカーシリーズ1)、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策 (100万人のフィールドワーカーシリーズ9)、澤柿教伸ほか編、古今書院

### 【成績評価の方法と基準】

評価配分は、毎回の提出課題やレポートが80%、授業への積極的な関与が20%

### 【学生の意見等からの気づき】

フィールド作業を行なう回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明しておく。

### 【学生が準備すべき機器他】

屋外作業ではキャンパス内の舗装されていない道を歩く場合もあるので、動きやすい靴で参加すること。

### 【その他の重要事項】

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

### 【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis. The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study. Grading will be decided based on reports, tasks (80%), and class contribution (20%).

CAR100EA (キャリア教育 / Career education 100)

## 職業社会論

依田 素味

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

### 【到達目標】

- ①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰することができる。
- ②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
- ③自分自身の職業社会に対する課題意識を明らかにし、客観的な視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

前もって、レジュメをWeb上の授業支援システム・資料のところにアップしますので、授業前に予習しておいてください。レポート課題やアクションペーパーについては、さらに理解が深まるように授業内で解説を加え、フィードバックします。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AIの普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	個人のキャリアデザイン (ゲスト講師)	個人のキャリアを形成するとは (先輩のキャリアを参考に)
10	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
11	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
12	職業社会の今日的な社会問題	「働き方改革」の背景と今後の課題
13	早期退職と転職について	グループディスカッションで周囲の意見を聞く
14	まとめ・試験	授業内確認テスト

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分を取り巻く職業社会に目を向け、それぞれのテーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

参考書は授業内でその都度紹介します。

レジュメは授業支援システムの教材のところに、事前にアップします。

### 【成績評価の方法と基準】

- ①期末試験 60% (最終的な全体理解の確認)
- ②中間レポート・課題 20% (課題に関する理解度の確認)
- ③授業内リアクションペーパー 20% (積極的な授業参加の状況評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

### 【その他の重要事項】

- ①1年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
- ②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

### 【Outline (in English)】

#### 1. Course outline

We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.

As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

#### 2. Learning Objectives

- ① To be able to look at working society as a whole from a bird's eye view as an entry point for thinking about occupational careers.
- ② To be able to outline various career paths.
- ③ Clarify one's awareness of one's own issues and form an objective viewpoint using the new basic skills for working adults as a keyword.

#### 3. Learning activities outside of classroom

Students will look at the professional society surrounding them, discover their own issues based on the theme, and submit them as a [report]. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 4. Grading Criteria/Policy

- ① In-class mini-report 20% (evaluation of active class participation)
- ② Mid-term report 20% (Confirmation of understanding of the assignment)
- ③ Final exam 60% (Final confirmation of overall understanding)

PLN100EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 100)

## 地球と自然 I

吉岡 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間社会の多様な姿が生まれた背景には、歴史や文化の地域的特色、自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり、それらは互いに密接に関連しています。本講義では自然本来の多様性に着目して、自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます。

### 【到達目標】

母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が、物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる。特に、高校までに地球科学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し、系統だった科学概念に置き換えることができるようになる。その上で、人間社会の歴史や、生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる。これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を、地球的思考を通して理解し、解決に向けて考察できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

- ・1年次～4年次の受講が可能です。
- ・主にPCプロジェクトを使用して講義を行ないます。
- ・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 / 地理院地図の使用方法
第2回	地球科学入門	素朴概念と科学概念
第3回	緯度経度	緯度経度とそれに関わる事象
第4回	地図	地形図、各種地図
第5回	基本単位	地球科学で使用する基本単位
第6回	地磁気とチバニアン	地磁気、地層の基礎
第7回	プレートテクトニクス	地球の内部
第8回	地震	地震の発生メカニズム
第9回	地震と防災	震災と備え / 地図で防災情報を入手
第10回	科学と人間社会	科学と社会とのかかわり
第11回	北極	北極についての基礎
第12回	北極の自然	北極の自然と変化
第13回	北極をめぐる話題	北極探検時代の話題から人間社会について考察する
第14回	まとめ	春学期授業のふりかえり

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習: 授業内容のテーマについて、これまでに習得している知識の整理をしておく。

復習: 授業の内容を確認する。疑問点はまずは自分で調べる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。授業資料を配付します。

### 【参考書】

- ・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院
- ・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス
- ・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
- ・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
- ・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%、期末試験による評価が50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は授業支援システム「Hoppii」のこの授業のお知らせを確認のこと。

### 【その他の重要事項】

教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PLN200EA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

**地球と自然Ⅱ**

吉岡 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。

**【到達目標】**

- ・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
- ・自然の情報を入手して活用できる。
- ・人間社会と地球科学との関わりについて考察できる基礎力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

- ・1年次～4年次の受講が可能です。
- ・主にPCプロジェクトを使用して講義を行ないます。
- ・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方の説明 / 春学期の復習
第2回	火山	火山と火山災害
第3回	河川	自然の河川、河川管理
第4回	河川地形	河川によって形成された地形
第5回	水害と防災	地図で防災情報を入手
第6回	海水準変動と段丘地形	海水準変動、段丘地形、テフラ
第7回	地形トピックス	多摩キャンパス周辺の地形
第8回	大気と気象	地球大気、気象、気候
第9回	気候等の区分	気候等の区分、観測衛星
第10回	地球の水と海洋	海洋、熱塩循環
第11回	雪と氷	雪や氷河、海氷
第12回	気候変動	古気候、氷期・間氷期
第13回	地球温暖化	IPCC 評価報告書
第14回	まとめ	秋学期授業のふりかえり

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習：授業内容のテーマについて、これまでに習得している知識の整理をしておく。

復習：授業の内容を確認する。疑問点はまずは自分で調べる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しません。授業資料を配付します。

**【参考書】**

- ・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院
- ・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス
- ・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
- ・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院

・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%、期末試験による評価が50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は授業支援システム「Hoppii」のこの授業のお知らせを確認のこと。

**【その他の重要事項】**

- ・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講済であることが望ましい。
- ・教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

**【Outline (in English)】**

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PRI100EA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## コンピュータ入門

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：Web抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実作業上役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。

### 【到達目標】

Windows パソコン、Word、Excel、PowerPoint の基本操作を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

実操作により基本操作を学習する。課題には指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Windows 基本1	Windows 基本操作
第2週	Windows 基本2	キーボード、ファイル
第3週	電子メール	送受/転送/返信/CC/BCC
第4週	Word：文書作成ソフト	基本操作
第5週	PowerPoint：発表資料作成ソフト	基本操作
第6週	Excel(1)：計算表ソフト	選択対象は何か
第7週	Excel(2)：詳細操作	書式指定および関数
第8週	Excel(3)：詳細操作	ちょっと複雑な関数
第9週	Webについての基本知識	超入門：HTML(Webページの記述)
第10週	各アプリを組み合わせる	複数のOfficeアプリの併用
第11週	覚えておくと便利なこと	コンピュータ上の共通操作
第12週	コンピュータの明と暗	学習棄却やりテラシー
第13週	課題の作成	構想を練る&草稿作成
第14週	課題の完成	最終版作成+提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で有用な知識を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験等で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Systematic learning of useful computer knowledge through actual work from scratch.

【Learning Objectives】

Understand the basic operation of a Windows PC, Word, Excel, and PowerPoint.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT100EA (計算基盤 / Computing technologies 100)

## プログラミング入門

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：Web抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。

**【到達目標】**

サンプルを見つけて簡単なプログラミングを作成できるレベルを達成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

ProcessingおよびJava言語のプログラミングの初歩を身につける。実習中に指摘事項をフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	導入部	・プログラミング言語の歴史と衰勢 ・サンプル・プログラムの説明
第2週	導入部の続き	・コメントは重要
第3週	描画（グラフィックス） 文書以外の処理および	・数値と文字について ・音を出してみる
第4週	Java言語	・Java言語とは？
第5週	演算	定数、変数、算術操作
第6週	数値の表現および文字 コードについて	・10進以外の数値表現 ・文字コードの概念
第7週	条件分岐(1)	・if文という概念 ・else という英語らしからぬ用語
第8週	条件分岐(2)	switch文という概念
第9週	繰り返し処理	for, while文という概念。
第10週	データの扱い	文字&数値データ
第11週	配列	配列って何？ - 具体例と操作方法
第12週	人間との「対話」	キーボード入力を処理に反映させる
第13週	JavaとEclipse	エンジニアの一步目！
第14週	提出課題の準備 課題提出	提出課題を検討 課題を仕上げて提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない

**【参考書】**

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である

**【学生の意見等からの気づき】**

途中で「ついていけない」と悲観しないでください。大づかみで楽観的に。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Gain a comprehensive understanding of the fundamentals of programming.

**【Learning Objectives】**

Enable create simple programs by referring to samples.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

HSS100EA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## スポーツ総合2-I (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：金1/Fri.1

備考(履修条件等)：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

### 【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第3回	基本技術3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク1	ドライブについて学ぶ
第7回	基本ストローク2	クリアについて学ぶ
第8回	基本ストローク3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第9回	基本ストローク	ブッシュ&レシーブについて学ぶ
第10回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第11回	基本ストローク6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

### 【参考書】

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(70%)、技術習得の実技試験(30%)により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

### 【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

【Learning Objectives】 This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%, in class contribution: 70%

HSS100EA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

**スポーツ総合2-II (バドミントン)**

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

**【到達目標】**

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術1	ラケットワークについて学ぶ
第2回	基本技術2	フットワークについて学ぶ
第3回	指導理論1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第4回	指導理論2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第5回	指導理論3	サイドアームストロークについて学ぶ
第6回	応用技術1	前後の打ち分けについて学ぶ
第7回	応用技術2	左右の打ち分けについて学ぶ
第8回	シングルス1	攻撃的な戦術を学ぶ
第9回	シングルス2	守備的な戦術について学ぶ
第10回	ダブルス1	コンビネーションについて学ぶ
第11回	ダブルス2	サービスの展開について学ぶ
第12回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第13回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

**【参考書】**

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

技術レベルに応じた指導を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

体育館シューズ

**【その他の重要事項】**

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミンントンの指導法に関する講義を行う。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

**【Learning Objectives】** This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】** Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%, in class contribution: 70%

HSS100EA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## スポーツ総合2-I (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：金2/Fri.2

備考(履修条件等)：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

### 【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第3回	基本技術3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク1	ドライブについて学ぶ
第7回	基本ストローク2	クリアについて学ぶ
第8回	基本ストローク3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第9回	基本ストローク	ブッシュ&レシーブについて学ぶ
第10回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第11回	基本ストローク6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

### 【参考書】

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(70%)、技術習得の実技試験(30%)により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

### 【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

【Learning Objectives】 This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%, in class contribution: 70%

HSS100EA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## スポーツ総合2-II (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

## 【到達目標】

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術1	ラケットワークについて学ぶ
第2回	基本技術2	フットワークについて学ぶ
第3回	指導理論1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第4回	指導理論2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第5回	指導理論3	サイドアームストロークについて学ぶ
第6回	応用技術1	前後の打ち分けについて学ぶ
第7回	応用技術2	左右の打ち分けについて学ぶ
第8回	シングルス1	攻撃的な戦術を学ぶ
第9回	シングルス2	守備的な戦術について学ぶ
第10回	ダブルス1	コンビネーションについて学ぶ
第11回	ダブルス2	サービスの展開について学ぶ
第12回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第13回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

## 【参考書】

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

## 【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミンントンの指導法に関する講義を行う。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

【Learning Objectives】 This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%, in class contribution: 70%

SES100EB (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

## 環境問題 B

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」にかかわる社会問題を取りあげて、サステナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。コースへの入門講義として、なるべく皆さんの関心に即したテーマを扱っていききたいと思います。

### 【到達目標】

いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）を取りあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について紹介・検討します。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で全体に対して答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題と政策、サステナビリティ
第2回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第3回	健康・医療の問題	生活習慣（病）、超高額医療、終末医療
第4回	介護・障害の問題	認知症・介護保険、障害への合理的配慮、出生前診断
第5回	家族の問題	婚姻・親子、同性婚、人工生殖
第6回	子育ての問題	保育所、児童虐待、母子世帯
第7回	補説	前半部分の補足、ライフサイクルとサステナビリティ
第8回	ジェンダーの問題	男女差別、性同一性障害、マイノリティ
第9回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援、相対的貧困
第10回	年金・老後保障の問題	公的年金、私的年金（iDeCo、NISA等）
第11回	労働市場の問題	賃金労働、就活・転職、失業保険
第12回	労働環境の問題	日本型雇用、賃金、労働法制
第13回	人口減少の問題	将来人口推計、出生率対策、児童手当
第14回	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社、2021年）（2500円+税）を教科書として指定します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

科目名（サブ）は旧課程の「環境問題B」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC100EB (社会学 / Sociology 100)

## コミュニティ・デザイン論A

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

### 【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部文について、次の4点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムの掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。

毎回の授業の前半部分では、少人数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少人数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。

- 14 ウクライナ、ガザ、…で 分科会と全体討論による、受講生との戦争とグローバル市民社会 教員を交えた議論。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業について「授業ノート」を書き、掲示板に書き込む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

### 【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

岡野内正研究室のサイト (<https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/>)にある諸論文。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提とする14回分の授業ノートの内容によって100%評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

LAW200EB (法学 / law 200)

## 社会保障法 I [CDC]

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ (逆に「知らない」と損をする) 事柄を扱いたいと思います。

### 【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』(弘文堂)。

### 【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』(有斐閣)。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照 (持ち込み) 可の試験により評価する予定です。期末試験 (100%) の予定です。  
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。  
担当教員の厚生省 (現厚生労働省) と金融機関 (生命保険会社) での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。  
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

**社会保障法Ⅱ〔CDC〕**

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

**【到達目標】**

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、	年金は何のためにあるのか 公的年金①
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

**【参考書】**

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

**【成績評価の方法と基準】**

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

**【その他の重要事項】**

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

**【Outline (in English)】**

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 広告・消費文化論 [MCC]

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

### 【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通じて、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業である。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響

第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

### 【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

### 【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

広告・P R論 [MCC]

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織 (1)	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織 (2)	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見 (1)	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見 (2)	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト (1)	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト (2)	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト (3)	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム (1)	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム (2)	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア (1)	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回	クロス・メディア (2)	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT出版、2008年)

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』(NHK出版、2014年) 他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点 (70%) と試験 (30%) で行なう。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 南北問題〔ISC〕

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

### 【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

### 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円+税。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

## 地域研究（イスラーム）〔ISC〕

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

### 【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論

8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン——紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラーム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

### 【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

### 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

LAW200EB (法学 / law 200)

## 社会保障法 I (PSP)

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ (逆に「知らない」と損をする) 事柄を扱いたいと思います。

### 【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』(弘文堂)。

### 【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』(有斐閣)。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照 (持ち込み) 可の試験により評価する予定です。期末試験 (100%) の予定です。  
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。  
担当教員の厚生省 (現厚生労働省) と金融機関 (生命保険会社) での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。  
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

**社会保障法Ⅱ〔PSP〕**

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

**【到達目標】**

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

**【参考書】**

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

**【成績評価の方法と基準】**

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

**【その他の重要事項】**

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

**【Outline (in English)】**

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

## 政策と制度 [PLP]

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要がありますが高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する(学問を実際に使う)ことを目指します。

### 【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

(初歩的ないし基礎的な法学の知識は前提として講義します。)

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学/経済学/法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法(1)「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルド・ア・ヒックス基準、多数決/少数意見
第3回	政策の決定方法(2)「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制/半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限(entitlement)の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱(国会)か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸(1)「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach/population approach

第8回	政策と時間軸(2)「事前(pre)の予防か、事後(post)の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価(output/outcome)
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミズム戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法(1)「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法(2)「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法(3)「一律強制的か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default/penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

長沼建一郎『法政策論への招待』(信山社、2022年)(2000円+税)をテキストとして指定します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照(持ち込み)可の試験により評価する予定です。期末試験(70%)、中間試験(30%)の予定です。

希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願います。

### 【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

政策と制度 [PSP]

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する(学問を実際に使う)ことを目指します。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

(初歩的ないし基礎的な法学の知識は前提として講義します。)

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学/経済学/法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法(1)「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルド・ア・ヒックス基準、多数決/少数意見
第3回	政策の決定方法(2)「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制/半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限(entitlement)の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱(国会)か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸(1)「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach/population approach

第8回	政策と時間軸(2)「事前(pre)の予防か、事後(post)の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価(output/outcome)
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミズム戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法(1)「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法(2)「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法(3)「一律強制的か、任意選択か」	強行規定と任意規定、majority default/penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

長沼建一郎『法政策論への招待』(信山社、2022年)(2000円+税)をテキストとして指定します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照(持ち込み)可の試験により評価する予定です。期末試験(70%)、中間試験(30%)の予定です。希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願います。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

COT200EA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## プログラミング初級 I [ICP]

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎学習。Java + Eclipse、Python の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

プログラミングの共通の基本部分や概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主にEclipse(開発用ソフト)を利用し、Java言語を基本から学ぶ。また、Python言語の基礎部分も学習する。提出物にはコメントを付けて返却する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	紹介 前編	Java中心のプログラミング用語の概説
第2回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか
第3回	変数	紛らわしい用語だが重要な要素
第4回	構成	プログラムの構成要素
第5回	既存のもの流用の仕方	「修行」は不要
第6回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある 「ファイル」という概念
第7回	読み書き	
第8回	画面プログラム 前編	画面作成の基礎
第9回	画面プログラム 中編	画面作成の続き
第10回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける
第11回	イベントの話	コンピュータの外部からアクションを起こす
第12回	Python その1	スクリプト言語の紹介
第13回	Python その2	計算等の機能
第14回	Python その3	繰り返し等の機能

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

特に指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見は、講義に反映する。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline (in English)】

Basical study for programming. Study basic part of Java + Eclipse and Python.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of programming.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**プログラミング初級Ⅱ [ICP]****湯本 正実**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。

**【到達目標】**

Webページの作成方法を中心に説明する。

(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTMLのリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPointで資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## プログラミング初級Ⅱ [ICP]

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

### 【到達目標】

Webページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	クラス/リンク	HTMLのクラス、リンクについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**表現プログラミング実習 [ICP]****湯本 正実**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【到達目標】**

Webページの作成方法の基本を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

初學者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## 特講 (プログラミング上級) [ICP]

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プログラミングのみならず、レポート、発表、面接時等での思考手段としても役に立つ論理的思考の説明を行う。

自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるために、有用な手法を習得してもらう。

### 【到達目標】

論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。

また、オブジェクト指向についての基礎部分も理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

準備した教材やWebページ、書籍等を参考にして、内容を理解し、論理的思考のヒントを見つけ、思考の習慣づけを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講座の狙いおよび進め方の説明 論理的思考とオブジェクト指向について
第2回	メモ書きから	考え事のメモを、フローチャートやプログラムの記述にしてみる。
第3回	否定疑問文の答え方	否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点をロジックで考察する。
第4回	事後確率：モンティホール問題の解析	ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった「モンティホール問題」の紹介。
第5回	モンティホール問題についての考察発表	上記モンティホール問題についての私見、感想等の発表。
第6回	店舗による運営システムの違い	各店舗のオペレーションを参照して、共通のシステム、特定の店独自のシステムを識別する。
第7回	飲食店舗のオペレーションをまとめた内容の発表	フローチャート形式で、オペレーションをまとめ、その発表および質疑を行う。
第8回	ブラックボックス付きフローチャート	自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
第9回	アルゴリズム問題の学習	アルゴリズムの典型的な問題の説明 (魔方陣等)。
第10回	アルゴリズム問題の学習(続き)	アルゴリズムの典型的な問題の説明 (続き)。
第11回	オブジェクト指向の学習	オブジェクト指向の典型的な問題の説明。
第12回	今までの説明内容の振り返り+課題作成検討	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第13回	課題作成検討(続き)	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第14回	課題発表	課題発表(日本語以外も可)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

随時題材にする教材やWebページ、書籍等を準備して共有する。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 質疑内容および提出課題課題：70%。

課題発表は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。Java言語を使うので、その基礎知識があることが望ましい (必須ではない)。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on programming, learn the basics of logical thinking techniques.

#### 【Learning Objectives】

Basic method of logical thinking.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

Presentation of the assignments are mandatory.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 取材文章実習 [MLP]

飯田 裕美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースというと、ネットの中を自然に流れてくるものと思いませんか？記事は、1人ひとりの記者が、人に会って話を聞き、ポイントを絞って伝わる文章にまとめ、多くの人の判断を経て配信されています。ファクトを平易に、具体的に、偏らない立場で書くことができれば、どんな職業に就くにせよ、社会に出てからもきつと役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

### 【到達目標】

人に伝わる文章が書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一步相手に踏み込んで具体的なディテールを聞き出す「質問力」が必要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出したから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業です。6回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、ニュースってなんだろう
第2回	記事を知る	「まわしよみ新聞」というアクティビティをやります
第3回	インタビュー1	面白いところを掘っていく
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー3	ネットニュースと紙媒体
第8回	講評と研究	メディアによる書き分けを学ぶ
第9回	インタビュー4	対立する意見を扱う
第10回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第11回	インタビュー5	知らない世界を伝える
第12回	講評と研究	どこまで具体的に書けたか
第13回	映画で学ぶジャーナリズム	記事が出るまでに記者はどんな確認をしているか
第14回	まとめ	自由課題発表会

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、5日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回1000字程度です。記事執筆にかかる時間は2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。読むべき記事などはそのつど紹介します。

### 【参考書】

「映画で学ぶジャーナリズム」（別府三奈子他、勁草書房、2023年、2530円）

### 【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（90%）と平常点（10%）で評価します。試験はありません。

### 【学生の意見等からの気づき】

より細かい添削を希望する学生には、個別に対応します。課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

### 【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

### 【Outline (in English)】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.

Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.

5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.

1 article is free. You can choose any theme you like.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

**特講 (映像制作実習) [MLP]**

小坂 一順

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

映像制作に興味がある方を対象に、チームで映像制作を行い、映像制作の方法を学びます。

前期の「映像制作技法」が個人的な技術力や知識を学ぶことが目的だったことに対し、映像制作実習ではチームごとに一つの作品を制作し、チームビルディングや社会性、協調性、マネージメントなど、映像の技術や創作はもちろん、社会に必要なスキルを実践を通して学ぶことが目的です。

**【到達目標】**

映像制作を通じて作り手側の意図や技法を理解し、映像リテラシーを学ぶ。

チームで映像制作をすることにより、社会性、協調性や自分の意見の通し方を学んだり、チームの中で自分がどのようなポジションに適切があるのかを自覚する。

とにかく映像制作をする上で授業外の時間が必要になります。もちろんある程度の調整は仲間内で可能ですが、「他の授業やゼミ」「アルバイト」「部活」「サークル」「就活」に並ぶイベントになります。苦勞もあると思いますが、それ以上に楽しく貴重な経験と仲間ができてと思います。

「楽しい思い出」「貴重な経験」「仲間」の獲得が一番の目標だと思います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

前半はチームワークを強化するためのグループワークと映像制作の基盤となる企画について学びます。

中盤はその企画をどう映像にするのか、撮影の準備の仕方や撮影方法について学び、実際に撮影を行っていただきます。

後半は編集、VFXを学び、映像をどう処理するか、処理の方法によって見え方伝わり方にどのような効果があるのかを学びます。

全般を通して映像制作の基本を技術的に学ぶと共に、将来の仕事に役立つチームワークと自分の立ち位置の取り方も学びます。

最後に「自己評価シート」を記入していただき、映像制作実習で自分が何を考え、どう行動し、どう成長したかを言葉にします。それによって自分の個性を知り、社会においてどう活躍できるのか、何を改善すると良いのかを知っていただきたいです。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 参加者自己紹介	授業内容の説明 スケジュールの説明
2	チームビルディング ① グループ分け 事例紹介 グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます
3	チームビルディング ② グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます

4	企画① 制作課題発表	事例紹介 企画会議
5	撮影① 企画②	事例紹介 基本的な撮影技法 企画会議
6	撮影②	事例紹介 撮影技法
7	編集①	事例紹介 編集技法
8	VFX①	事例紹介 VFX技法
9	VFX①	事例紹介 VFX技法
10	カラーグレーディング①	事例紹介 カラーグレーディング技法
11	映像制作総合技術	総合的な技法の復習 ルール、レギュレーションの確認 90%を100%にする方法
12	映像制作総合技術	自己評価シートの配布と書き方 プレゼンテーション 発表方法
13	映像制作総合技術	映像業界の就職と入社後の生き方について。
14	課題作品の発表会	課題作品の発表とプレゼン 課題作品の講評 アンケートと感想

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

課題制作は授業時間内では終わらない為、つづきを課外活動で行うことになります。

他の授業はもとより、部活、サークル、就活、アルバイトなどがある中で時間をチームの仲間と合わせて活動する必要があります。制作する映像に関してはテーマに則していれば自由なので、時間外の制作時間についても期日を守れば自由です。

**【テキスト (教科書)】**

特にありません。

**【参考書】**

授業内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

映像制作を行う授業なので、「作品」の良し悪しが点数になります。作品の良し悪しはグループの評価になるので、その作品においてどういう役割を担って、どのような活躍をしたか、また、問題点や問題の解決にどう行動をしたかなどの「自己評価シート」が個人の評価になります。

「作品」と「自己評価シート」を精査して評価します。出席については特にとりませんが、出席=制作活動に参加をしないと作品のクオリティや自己評価シートの内容に影響するので、必然的に出席=参加=評価となります。

「作品」70%  
「自己評価シート」30%  
但し、グループ制作の評価で1位を獲得した方にはA評価以上をつけています。

**【学生の意見等からの気づき】**

23年度の「自己評価シート」の授業の感想を参考にし、24年度の授業の参考にしています。授業内でアンケートを実施して、授業内容を変えるようなことは致しません。映像制作後に「自己評価シート」を記入していただきます。その中で授業の感想を書いていただきます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

**【学生が準備すべき機器他】**

前期の「映像制作技法」を受講している生徒が一定数いるので、必要なPCorMACおよびソフトウェアはあるという前提で授業を行います。なので、本授業のために新しくパソコンやソフトを購入する必要はございません。

**【その他の重要事項】**

上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。

現在も日本映画や配信、テレビドラマの**VFX**スーパーバイザーとして又、**VFX**会社の代表取締役として活動している教員が教えます。授業中に推薦する資料以外での予習は必要ありません。

全くの**CG**制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。

物理学や美術、プログラミング、**CG**検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。

**【Outline (in English)】**

This course who are interested in video production, we will create a video in a team and learn the method of video production.

In contrast to the video production techniques of the first semester, where the purpose was to learn individual technical skills and knowledge, in the video production practice, you will experience that you can create a larger work by forming a team. The purpose is to get students interested in the film industry, but we also have a view to be able to think of the film industry as a place of employment with confidence.

**Learning Objectives**

In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.

**Learning activities outside of classroom**

Maybe the theme production is not over in the school hour.

So students will perform a continuance by extracurricular activities.

**Grading Criteria /Policy**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

The learning situation by the class(80%)

The theme production(20%)

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 特講 (広告制作実習) [MLP]

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

### 【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜資料を配布する。

### 【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』(インプレスジャパン、2007年)

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』(インプレスジャパン、2008年)

適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (70%)、最終課題となる広告制作表現 (30%) の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

**特講 (広告制作実習) [MLP]**

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

**【到達目標】**

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で適宜資料を配布する。

**【参考書】**

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』(インプレスジャパン、2007年)

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』(インプレスジャパン、2008年)

適宜授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

評価は、平常点 (70%)、最終課題となる広告制作表現 (30%) の割合で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

**【Outline (in English)】**

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## 表現プログラミング実習 [MLP]

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

### 【到達目標】

Webページの作成方法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## エッセイ文章実習 [MLP]

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。  
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かし、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## エッセイ文章実習 (MLP)

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

### 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## エッセイ文章実習 [MLP]

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。  
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かし、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## エッセイ文章実習 (MLP)

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

### 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

演習 1

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、新聞、雑誌、インターネット等の広告を分析することを通じて、なぜ自分にとって広告効果があるのか、そのメカニズムを理解する。特に、どのようなメッセージ、表現方法、メディア選定が効果的なのかをブランド・コミュニケーションを中心として考察した結果、様々な対象をテーマとした広告プランニングの基礎を習得する。

【到達目標】

大学生としての研究・調査能力をより高度化し、分析課題に対して仮説を立案し、仮説に沿って資料収集、データ分析を行い、その仮説証明に関して説得的かつ効果的なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自己のテキスト読解に至る方法論も学んでいく。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告研究に関する基本知識	広告研究に関して必要な基礎知識
第3回	広告企画事例の設定	広告に関する企画事例を設定
第4回	事例分析方法の習得(1)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第5回	事例分析方法の習得(2)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第6回	事例分析方法の習得(3)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第7回	プレゼンテーション方法	分析結果のまとめとプレゼンテーション技法の習得
第8回	広告分析の発表とディスカッション(1)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第9回	広告分析の発表とディスカッション(2)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第10回	広告分析の発表とディスカッション(3)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第11回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(1)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第12回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(2)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施

第13回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(3)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第14回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション(4) および前半のまとめ	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第15回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定ウォッチング）の成果発表
第16回	効果的なブランド広告の構造	効果的なブランド広告の分析方法について学ぶ
第17回	研究対象の設定	効果的なブランド広告のケース選定
第18回	ケース発表(1)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第19回	ケース発表(2)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第20回	ケース発表(3)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第21回	ケース発表(4)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第22回	ケース発表(5)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第23回	ケース発表(6)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第24回	ケース発表(7)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第25回	グループ研究	グループ研究の広告企画設定
第26回	グループ・プレゼンテーションと評価(1)	企画プレゼンとディスカッション
第27回	グループ・プレゼンテーションと評価(2)	企画プレゼンとディスカッション
第28回	グループ・プレゼンテーションと評価(3) およびまとめ	企画プレゼンとディスカッション 全体への講評とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50％）と課題作成物（50％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの強化にいつそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別の面談は事前にメールで連絡し、調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

**【Outline (in English)】**

This class will look into the mechanism of advertising effect on us through analyzing advertisements such as TV, newspapers, magazines, the Internet, etc. In particular, we will examine what kind of message, expression method, or media selection is effective based on brand communication. The class provides the basics of advertisement planning on various subjects.

The goal of this course is the following: for students to improve their research and investigation skills as university students, to be able to formulate hypotheses for analytical issues, to collect materials and analyze data according to the hypothesis, and to make persuasive and effective presentations to prove hypotheses. Basic information on advertising and data on case studies will be covered in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

## 演習 2

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランド広告の分析および企画の理論と方法を事例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

### 【到達目標】

単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第2回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第3回	ブランド広告企画事例の設定	ブランド広告企画事例を設定する
第4回	ブランド広告事例分析方法の習得(1)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第5回	ブランド広告事例分析方法の習得(2)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第6回	ブランド広告事例分析方法の習得(3)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第7回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(1)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第8回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(2)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第9回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(3)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第10回	具体的な施策案、表現案立案についてのオリエンテーション	自己ブランディング広告企画の立案

第11回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(1)	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション
第12回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(2)	自己ブランディング広告の決定
第13回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(3)	グループ研究のテーマ設定
第14回	ブランド広告企画の選定	複数のアイデアからブランド広告企画を選定する
第15回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第16回	自己ブランディングとは何か	自己ブランディングについてのグループ討議
第17回	自己ブランディング広告企画の基礎知識	自己ブランディング広告企画の基礎知識の習得
第18回	自己ブランディング広告企画の立案(1)	自己ブランディング広告企画の立案
第19回	自己ブランディング広告企画の立案(2)	自己ブランディング広告企画の立案
第20回	自己ブランディング広告企画の立案(3)	自己ブランディング広告企画の立案
第21回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(1)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第22回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(2)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第23回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(3)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第24回	自己ブランディング広告の決定	自己ブランディング広告についての講評
第25回	グループ研究オリエンテーション	グループ研究のテーマ設定
第26回	グループ・プレゼンテーションと評価(1)	研究結果プレゼンとディスカッション
第27回	グループ・プレゼンテーションと評価(2)	研究結果プレゼンとディスカッション
第28回	グループ・プレゼンテーションと評価(3)	研究結果プレゼンとディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

### 【参考書】

適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50％）と課題作成物（50％）で行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークの強化にいつそう取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

**【受講者への要望】** 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

**【Outline (in English)】**

Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding.

The goal of this course is to go beyond the mere analysis of brand advertisements to the level of effectively implementing brand communication. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED (社会学 / Sociology 400, 社会学 / Sociology 400, 社会学 / Sociology 400)

### 演習3 (卒業論文)

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

#### 【到達目標】

設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

#### 【授業の進め方と方法】

広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者の間の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第2回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第3回	問題意識と論文テーマの発表(1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第4回	問題意識と論文テーマの発表(2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第5回	問題意識と論文テーマの発表(3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第6回	問題意識と論文テーマの発表(4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第7回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第8回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第9回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第10回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第11回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション

第12回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(1)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第13回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(2)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第14回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(3)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第15回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第16回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第17回	論文内容の中間発表(1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第18回	論文内容の中間発表(2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第19回	論文内容の中間発表(3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第20回	論文内容の中間発表(4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第21回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第22回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第23回	論文内容の最終発表(1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第24回	論文内容の最終発表(2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第25回	論文内容の最終発表(3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第26回	論文内容の最終発表(4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第27回	論文内容の最終発表(5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第28回	論文内容の最終発表(6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜資料を配布する。

#### 【参考書】

授業内で適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点 (30%) と論文内容 (70%) で行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

論文の全体骨子を早期に組み立てるよう、指導を強化する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

#### 【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して広告に関する卒論指導を行なう。

**【Outline (in English)】**

Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis. At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper. The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.

Students will conduct research based on the theme of the graduation thesis they have set and write an academic paper in which they argue a coherent hypothesis. By doing so they will acquire the ability to set a theme, think through the solution, and accurately communicate the contents of their hypothesis using various methods to prove its validity. Gathering and reading materials and writing papers are to be done outside of the exercise time. The standard preparation and review time for this class is two hours. The evaluation is based on ordinary points (30%) and the content of the paper (70%).

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習 1

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位  
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きたること、学問的にものごとを考へることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】

①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連 DP1についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期（4月初めから7月初めまでの3か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインあるいは対面で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加します。学期末に関西の私大との合同ゼミ、11月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自の自由テーマでゼミ論文を書きます。

ただし、学びの主体は受講生なので、受講生による自治組織をつくって、ゼミ運営を進めます。さしあたりの提案は、以下のとおりです。

担当教員のライフワークの第一弾である『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』を読みながら、著者に対して、徹底的に疑問をぶつけて議論していく。受講生は毎週の読了部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。毎回の授業時間では、ディベート形式の議論や少人数討論などで話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	ユートピアを語ることは無意味か？	テキストの「はじめに」に関する議論およびテーマに関するディベート形式の議論
3	人類は幸せになれるか？	第1章第1節①、テーマに関するディベート形式の議論。
4	一人の力は社会を変えられるか？	第1章第1節②、テーマに関するディベート形式の議論。
5	自分の幸せと人類全体の幸せを同時に追求できるか？	第1章第1節③に関するディベート形式の議論。
6	生活の安定が保障されると人は腐敗するか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
7	飢えと貧困に直面すると人は勤勉になるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
8	人類が全員に衣食住を保障できないほど、地球上の物資は欠乏しているか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
9	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
10	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。

11	日本国内での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
12	人類社会での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
13	大企業、多国籍企業はがん細胞と同じか？	第2章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
14	連帯経済による内発的発展は可能か？	第2章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
15	アメリカが変われば世界が変わるか？	第3章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
16	ヨーロッパが変われば世界は変わるか？	第4章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
17	福祉国家は再建できるか？	第5章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
18	人びとはベーシックインカムを求めて立ち上がるか？	第6章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
19	人びとは、国境を越える支配の仕組みを見破ることができるか？	第7章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
20	SDGsは大衆のアヘンか？	第8章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
21	COVID-19は人類社会の終わりの始まりか？	第9章、ディベート形式の議論。
22	SDGsを人類社会の仕組みを変えるチャンスにできるか？	第9章、ディベート形式の議論。
23	学術論文の書き方講座1	全員にゼミ論文のテーマを語ってもらいます。
24	学術論文の書き方講座2	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その1
25	先行研究、研究状況の整理について	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その2
26	学部研究発表会での共同発表の検討会	合同ゼミに向けて改善点を話し合います。
27	ゼミ論文報告会1	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会2	ゼミ論文のプレゼンと討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は十大学合同セミナーに参加して共同論文を書く。秋は、関西との合同ゼミ、学部研究発表会での報告に参加する。その間、授業のテキストを読み、ディベート形式の議論のための準備をし、毎回の授業の前に掲示板に書き込む。最終回の2回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。なお春学期については、十大学合同セミナーのためにさらに毎週4時間、そのための4時間程度の準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。  
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）  
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提として、掲示板に提出された毎回の書き込み40%、共同研究作業やゼミ討論への貢献について30%、ゼミ論文について30%、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の10大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ゼミでの共同作業やディベート形式の討論などの組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%.

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

## 演習2

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位  
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きたることと、学問的にものごとを考へることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

### 【到達目標】

①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DP1についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

春学期（4月初めから7月初めまでの3か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインあるいは対面で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加します。学期末に関西の私大との合同ゼミ、11月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自の自由テーマでゼミ論文を書きます。

ただし、学びの主体は受講生なので、受講生による自治組織をつくって、ゼミ運営を進めます。さしあたりの提案は、以下のとおりです。

担当教員のライフワークの第一弾である『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』を読みながら、著者に対して、徹底的に疑問をぶつけて議論していく。受講生は毎週の読了部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。毎回の授業時間では、ディベート形式の議論や少数討論などで話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	ユートピアを語ることは無意味か？	テキストの「はじめに」に関する議論およびテーマに関するディベート形式の議論
3	人類は幸せになれるか？	第1章第1節①、テーマに関するディベート形式の議論。
4	一人の力は社会を変えられるか？	第1章第1節②、テーマに関するディベート形式の議論。
5	自分の幸せと人類全体の幸せを同時に追求できるか？	第1章第1節③に関するディベート形式の議論。
6	生活の安定が保障されると人は腐敗するか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
7	飢えと貧困に直面すると人は勤勉になるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
8	人類が全員に衣食住を保障できないほど、地球上の物資は欠乏しているか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
9	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
10	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。

11	日本国内での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
12	人類社会での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
13	大企業、多国籍企業はがん細胞と同じか？	第2章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
14	連帯経済による内発的発展は可能か？	第2章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
15	アメリカが変われば世界が変わるか？	第3章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
16	ヨーロッパが変われば世界は変わるか？	第4章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
17	福祉国家は再建できるか？	第5章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
18	人びとはベーシックインカムを求めて立ち上がるか？	第6章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
19	人びとは、国境を越える支配の仕組みを見破ることができるか？	第7章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
20	SDGsは大衆のアヘンか？	第8章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
21	COVID-19は人類社会の終わりの始まりか？	第9章、ディベート形式の議論。
22	SDGsを人類社会の仕組みを変えるチャンスにできるか？	第9章、ディベート形式の議論。
23	学術論文の書き方講座1	全員にゼミ論文のテーマを語ってもらいます。
24	学術論文の書き方講座2	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その1
25	先行研究、研究状況の整理について	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その2
26	学部研究発表会での共同発表の検討会	合同ゼミに向けて改善点を話し合います。
27	ゼミ論文報告会1	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会2	ゼミ論文のプレゼンと討論。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は十大学合同セミナーに参加して共同論文を書く。秋は、関西との合同ゼミ、学部研究発表会での報告に参加する。その間、授業のテキストを読み、ディベート形式の議論のための準備をし、毎回の授業の前に掲示板に書き込む。最終回の2回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。なお春学期については、十大学合同セミナーのためにさらに毎週4時間、そのための4時間程度の準備が必要となります。

### 【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

### 【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。  
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）  
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提として、掲示板に提出された毎回の書き込み40%、共同研究作業やゼミ討論への貢献について30%、ゼミ論文について30%、合計100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

春学期の10大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ゼミでの共同作業やディベート形式の討論などの組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

## 演習3 (卒業論文)

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

## 【到達目標】

現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、2万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。

フィードバックは、授業中にプレゼンテーションの講評を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①	受講生からのテーマ報告と討論(1)
3	卒論構想の検討②	参照文献の報告と討論(2)
4	卒論構想の検討③	先行研究の整理についてと討論(3)
5	プレカリアートの時代①	テキストについての論点提起と討論(1)
6	プレカリアートの時代②	論点提起と討論(2)
7	プレカリアートの時代③	論点提起と討論(3)
8	プレカリアートの時代④	論点提起と討論(4)
9	グローバル・ベーシック・インカム(GBI)入門①	テキストについての論点提起と討論(1)
10	GBI入門②	論点提起と討論(2)

11	GBI入門③	ブラジル 論点提起と討論(3)の事例。
12	GBI入門④	インドの 論点提起と討論(4)の事例。
13	卒論構想の再検討①	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論(1)
14	卒論構想の再検討②	報告と討論(2)
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①	夏のあいだに進めた卒論作成のテーマと章立て。中間報告と討論(1)
17	卒論の中間報告②	論理的な一貫性。報告と討論(2)
18	卒論の中間報告③	実証性。報告と討論(3)
19	卒論の中間報告④	学術論文という形式。報告と討論(4)
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と討論(1)
21	GBI構想の射程②	ベーシック・インカム論 論点提起と討論(2)
22	GBI構想の射程③	開発戦略論。論点提起と討論(3)
23	GBI構想の射程④	開発援助論。論点提起と討論(4)
24	GBI構想の射程⑤	多国籍企業論。論点提起と討論(5)
25	卒論草稿の検討①	テーマと構成。卒論草稿の報告と討論(1)
26	卒論草稿の検討②	論理性と実証性。報告と討論(2)
27	卒論草稿の検討③	先行研究の整理。報告と討論(3)
28	卒論草稿の検討④	学術論文形式。報告と討論(4)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。  
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年。  
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年。

## 【参考書】

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』(集英社新書、2008年、定価777円)

## 【成績評価の方法と基準】

卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式(引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある)と内容(論理的に首尾一貫している)があれば、単位取得が可能な60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新鮮さ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

## 【学生の意見等からの気づき】

早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

## 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権NGOでの活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

**【Outline (in English)】**

A seminar class for academic writing. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis of their own. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for each class. Grading will be decided based on the quality of the Thesis (100%; proper form of academic writing 60%, originality 20%, priority 20%).

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED (法学 / law 200, 法学 / law 200, 法学 / law 200)

## 演習 1

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位  
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

### 【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

社会問題（おもに社会保障・福祉、雇用・労働、生命倫理など）のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。

担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。

現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

とりあえず春学期は、基本的なテキストを会読するとともに、いくつかの具体的な政策問題（基本文献・新聞記事・裁判例等）を中心に運営・討議したいと思っています。

秋学期以降は、参加者の興味・関心によって、各回で扱うテーマを決めていきたいと思っています。あわせて学部研究発表会も見据えて、共通テーマを検討する機会も探ります。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

なお定期的に、演習2との合同開催を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認、ゼミで学ぶことの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(1)	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(2)	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(3)	文献の収集・分析方法
5	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(4)	統計・資料の収集・分析方法
6	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(5)	報告資料の作成方法
7	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(6)	レポート・論文の執筆方法

8	社会問題への政策対応(1)	社会保障を中心とした問題群の検討
9	社会問題への政策対応(2)	社会福祉・福祉国家を中心とした問題群の検討
10	社会問題への政策対応(3)	雇用・労働を中心とした問題群の検討
11	社会問題への政策対応(4)	生命倫理を中心とした問題群の検討
12	社会問題への政策対応(5)	家族・企業を中心とした問題群の検討
13	社会問題への政策対応(6)	小括、各報告へのフィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆のテーマ報告と相互討議
15	学部研究発表会準備(1)	発表テーマの検討・選定
16	社会問題の個別問題(1)	第1グループの執筆論文の報告と討議
17	社会問題の個別問題(2)	第2グループの執筆論文の報告と討議
18	社会問題の個別問題(3)	第3グループの執筆論文の報告と討議
19	学部研究発表会準備(2)	発表内容の検討
20	社会問題への具体的政策対応(1)	第1グループの報告と討議
21	社会問題への具体的政策対応(2)	第1グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
22	社会問題への具体的政策対応(3)	第2グループの報告と討議
23	学部研究発表会準備(3)	発表内容の決定、リハーサル
24	学部研究発表会準備(4)	発表内容の精査、最終リハーサル
25	社会問題への具体的政策対応(4)	第2グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
26	社会問題への具体的政策対応(5)	第3グループの報告と討議
27	社会問題への具体的政策対応(6)	第3グループの最終へのフィードバックとフォローアップ
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

春学期は、基本的なテキストを選定するとともに（『変わる福祉社会の論点』が一応の候補）、具体的な裁判事例や政策問題に関する資料や文献を配布します。

秋学期は、個々の報告が中心となります。

### 【参考書】

演習内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【その他の重要事項】

担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声をお願いします。

### 【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

in class contribution: 80%、reports : 20%、

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED (法学 / law 300, 法学 / law 300, 法学 / law 300)

## 演習 2

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位  
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

### 【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心とした研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

演習2では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習2のガイダンス(1)	スケジュールの確認、演習2で学ぶことの確認
2	演習2のガイダンス(2)	演習1の提出論文へのフィードバック
3	演習2のガイダンス(3)	政策研究の基礎
4	共通文献の講読(1)	社会保障関係の文献検討
5	共通文献の講読(2)	社会福祉・福祉国家関係の文献検討
6	共通文献の講読(3)	雇用・労働関係の文献検討
7	共通文献の講読(4)	生命倫理・家族関係の文献検討
8	個人研究のガイダンス(1)	研究テーマの設定
9	個人研究のガイダンス(2)	研究方法の選定
10	個人研究のガイダンス(3)	報告資料作成の方法
11	個人研究構想報告(1)	第1グループの構想報告と討議
12	個人研究構想報告(2)	第2グループの構想報告と討議
13	個人研究構想報告(3)	第3グループの構想報告と討議
14	個人研究構想報告(4)	構想報告の総括、フィードバック
15	学部研究発表会準備(1)	発表テーマの検討・選定

16	個人研究中間報告(1)	第1グループの中間報告と討議
17	個人研究中間報告(2)	第1グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
18	個人研究中間報告(3)	第2グループの中間報告と討議
19	学部研究発表会準備(2)	発表内容の検討
20	個人研究中間報告(4)	第2グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
21	個人研究中間報告(5)	第3グループの中間報告と討議
22	個人研究中間報告(6)	第3グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
23	学部研究発表会準備(3)	発表内容の確定・リハーサル
24	学部研究発表会準備(4)	発表内容の精査・最終リハーサル
25	個人研究最終報告(1)	第1グループの最終報告と討議
26	個人研究最終報告(2)	第2グループの最終報告と討議
27	個人研究最終報告(3)	第3グループの最終報告と討議
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように、確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

### 【参考書】

演習内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【その他の重要事項】

担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）の実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies. At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following  
in class contribution: 80%, reports : 20%、

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED (法学 / law 400, 法学 / law 400, 法学 / law 400)

### 演習3 (卒業論文)

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位  
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一編の論文を完成させることで、演習1~3の、また大学生活の総決算として下さい。

#### 【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

#### 【授業の進め方と方法】

論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	演習3で学ぶことの確認、スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス (1)	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス (2)	研究方法の選定
4	卒論ガイダンス (3)	資料および統計の収集・分析の方法
5	卒論ガイダンス (4)	文献の収集・分析の方法
6	卒論ガイダンス (5)	論文執筆の進め方
7	卒論ガイダンス (6)	論文の細かい執筆技術
8	卒論構想報告 (1)	第1グループの執筆者ごとの構想報告
9	卒論構想報告 (2)	第1グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
10	卒論構想報告 (3)	第2グループの執筆者ごとの構想報告
11	卒論構想報告 (4)	第2グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
12	卒論構想報告 (5)	第3グループの執筆者ごとの構想報告
13	卒論構想報告 (6)	第3グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
14	卒論構想報告 (7)	構想報告の総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点、スケジュールの確認
16	卒論中間報告 (1)	第1グループの執筆者ごとの中間報告
17	卒論中間報告 (2)	第1グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ

18	卒論中間報告 (3)	第2グループの執筆者ごとの中間報告
19	卒論中間報告 (4)	第2グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
20	卒論中間報告 (5)	第3グループの執筆者ごとの中間報告
21	卒論中間報告 (6)	第3グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
22	卒論最終報告 (1)	第1グループの執筆者ごとの最終報告
23	卒論最終報告 (2)	第1グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
24	卒論最終報告 (3)	第2グループの執筆者ごとの最終報告
25	卒論最終報告 (4)	第2グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
26	卒論最終報告 (5)	第3グループの執筆者ごとの最終報告
27	卒論最終報告 (6)	第3グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて、各およびゼミ生相互で研鑽に努める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

#### 【参考書】

演習内で適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 (80%) とその他の参画 (他の卒論へのアドバイス等) (20%) により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。担当教員の厚生省 (現厚生労働省) と金融機関 (生命保険会社) での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

#### 【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies. At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 20%, in class contribution: 80%

FRI400ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 400)

**特講 (メディア社会学 (表現)) (MSC)**

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

メディア社会学科の表現コース4年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先する。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明する。

**【到達目標】**

映画、CMなどの映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の構造と意味を解題していく。映像コンテンツの分析を通じてメディア表現がどのような社会的な意識と連関し、時代の潮流を形成していくのかが把握できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

授業内で取り上げる作品について、毎回受講者全員で議論し、理解を深めていく。授業参加者は、常に授業の中で分析をし、分析内容を発表することを求められる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	映像表現の記号論的分析の基礎	映像分析に使用する理論のフレームと基礎概念の習得
3	ハリウッド映画の分析	ミニレポートと議論
4	日本映画の分析	ミニレポートと議論
5	ショートフィルムの分析	ミニレポートと議論
6	アニメ映画の分析	ミニレポートと議論
7	テレビCMの分析	ミニレポートと議論
8	ストーリーの基本構造	ミニレポートと議論
9	脚本の構造	ミニレポートと議論
10	映像のレトリック	ミニレポートと議論
11	コンテンツのビジネス的な基盤	ミニレポートと議論
12	プロデュースの役割	ミニレポートと議論
13	社会意識の変容と映像表現ヒットの関係	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習 (課題作品視聴) は2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業中に適宜指示する。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」(50%)と課題提出(50%)によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

事前に議論する映像作品をリスト化してわたし、予習を義務付けしている。この予習を確実に実行するよう促したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

映像課題については、できるかぎり鑑賞可能な作品にする。

**【その他の重要事項】**

4年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が基本となる。

**【Outline (in English)】**

Special Lecture of Contemporary Media Culture. We will discuss the expression method and message based on the representative movie works. Students will actively view films in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is two hours in total. The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

FRI400ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 400)

## 特講 (メディア社会学 (表現)) (MCC)

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディア社会学科の表現コース4年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先する。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明する。

### 【到達目標】

映画、CMなどの映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の構造と意味を解題していく。映像コンテンツの分析を通じてメディア表現がどのような社会的な意識と連関し、時代の潮流を形成していくのかが把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

授業内で取り上げる作品について、毎回受講者全員で議論し、理解を深めていく。授業参加者は、常に授業の中で分析をし、分析内容を発表することを求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	映像表現の記号論的分析の基礎	映像分析に使用する理論のフレームと基礎概念の習得
3	ハリウッド映画の分析	ミニレポートと議論
4	日本映画の分析	ミニレポートと議論
5	ショートフィルムの分析	ミニレポートと議論
6	アニメ映画の分析	ミニレポートと議論
7	テレビCMの分析	ミニレポートと議論
8	ストーリーの基本構造	ミニレポートと議論
9	脚本の構造	ミニレポートと議論
10	映像のレトリック	ミニレポートと議論
11	コンテンツのビジネス的な基盤	ミニレポートと議論
12	プロデュースの役割	ミニレポートと議論
13	社会意識の変容と映像表現ヒットの関係	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習 (課題作品視聴) は2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業中に適宜指示する。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」(50%)と課題提出(50%)によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

事前に議論する映像作品をリスト化してわたし、予習を義務付けしている。この予習を確実に実行するよう促したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

映像課題については、できるかぎり鑑賞可能な作品にする。

### 【その他の重要事項】

4年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が基本となる。

### 【Outline (in English)】

Special Lecture of Contemporary Media Culture. We will discuss the expression method and message based on the representative movie works. Students will actively view films in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is two hours in total. The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**表現プログラミング実習 [IDP]****湯本 正実**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【到達目標】**

Webページの作成方法の基本を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT200EA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## プログラミング初級 [IDP]

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎学習。Java + Eclipse、Python の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

プログラミングの共通の基本部分や概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主にEclipse(開発用ソフト)を利用し、Java言語を基本から学ぶ。また、Python言語の基礎部分も学習する。提出物にはコメントを付けて返却する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	紹介 前編	Java中心のプログラミング用語の概説
第2回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか
第3回	変数	紛らわしい用語だが重要な要素
第4回	構成	プログラムの構成要素
第5回	既存のもの流用の仕方	「修行」は不要
第6回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある 「ファイル」という概念
第7回	読み書き	
第8回	画面プログラム 前編	画面作成の基礎
第9回	画面プログラム 中編	画面作成の続き
第10回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける
第11回	イベントの話	コンピュータの外部からアクションを起こす
第12回	Python その1	スクリプト言語の紹介
第13回	Python その2	計算等の機能
第14回	Python その3	繰り返し等の機能

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

特に指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見は、講義に反映する。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline (in English)】

Basical study for programming. Study basic part of Java + Eclipse and Python.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of programming.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## プログラミング中級D [IDP]

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。

## 【到達目標】

Webページの作成方法を中心に説明する。

(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTMLのリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

PowerPointで資料を作成し、その内容に基づいて進める。

## 【参考書】

指定なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

## 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

## 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

## 【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

## 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## プログラミングと論理的思考 [IDP]

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングのみならず、レポート、発表、面接時等での思考手段としても役に立つ論理的思考の説明を行う。

自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるために、有用な手法を習得してもらう。

### 【到達目標】

論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。

また、オブジェクト指向についての基礎部分も理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

準備した教材やWebページ、書籍等を参考にして、内容を理解し、論理的思考のヒントを見つけ、思考の習慣づけを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講座の狙いおよび進め方の説明 論理的思考とオブジェクト指向について
第2回	メモ書きから	考え事のメモを、フローチャートやプログラムの記述にしてみる。
第3回	否定疑問文の答え方	否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点をロジックで考察する。
第4回	事後確率：モンティホール問題の解析	ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった「モンティホール問題」の紹介。
第5回	モンティホール問題についての考察発表	上記モンティホール問題についての私見、感想等の発表。
第6回	店舗による運営システムの違い	各店舗のオペレーションを参照して、共通のシステム、特定の店独自のシステムを識別する。
第7回	飲食店舗のオペレーションをまとめた内容の発表	フローチャート形式で、オペレーションをまとめ、その発表および質疑を行う。
第8回	ブラックボックス付きフローチャート	自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
第9回	アルゴリズム問題の学習	アルゴリズムの典型的な問題の説明（魔方陣等）。
第10回	アルゴリズム問題の学習(続き)	アルゴリズムの典型的な問題の説明(続き)。
第11回	オブジェクト指向の学習	オブジェクト指向の典型的な問題の説明。
第12回	今までの説明内容の振り返り+課題作成検討	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第13回	課題作成検討(続き)	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第14回	課題発表	課題発表(日本語以外も可)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

随時題材にする教材やWebページ、書籍等を準備して共有する。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 質疑内容および提出課題課題：70%。

課題発表は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。Java言語を使うので、その基礎知識があることが望ましい（必須ではない）。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on programming, learn the basics of logical thinking techniques.

#### 【Learning Objectives】

Basic method of logical thinking.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

Presentation of the assignments are mandatory.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## プログラミング中級D [IDP]

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

## 【到達目標】

Webページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	クラス/リンク	HTMLのクラス、リンクについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

## 【参考書】

指定なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

## 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

## 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

## 【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

## 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

## 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## ニュース・ライティング [MPP]

飯田 裕美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースというと、ネットの中を自然に流れてくるものと思いませんか？記事は、1人ひとりの記者が、人に会って話を聞き、ポイントを絞って伝わる文章にまとめ、多くの人の判断を経て配信されています。ファクトを平易に、具体的に、偏らない立場で書くことができれば、どんな職業に就くにせよ、社会に出てからもきっと役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

### 【到達目標】

人に伝わる文章が書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一步相手に踏み込んで具体的なディテールを聞き出す「質問力」が必要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出したから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業です。6回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、ニュースってなんだろう
第2回	記事を知る	「まわしよみ新聞」というアクティビティをやります
第3回	インタビュー1	面白いところを掘っていく
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー3	ネットニュースと紙媒体
第8回	講評と研究	メディアによる書き分けを学ぶ
第9回	インタビュー4	対立する意見を扱う
第10回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第11回	インタビュー5	知らない世界を伝える
第12回	講評と研究	どこまで具体的に書けたか
第13回	映画で学ぶジャーナリズム	記事が出るまでに記者はどんな確認をしているか
第14回	まとめ	自由課題発表会

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、5日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回1000字程度です。記事執筆にかかる時間は2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。読むべき記事などはそのつど紹介します。

### 【参考書】

「映画で学ぶジャーナリズム」（別府三奈子他、勁草書房、2023年、2530円）

### 【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（90%）と平常点（10%）で評価します。試験はありません。

### 【学生の意見等からの気づき】

より細かい添削を希望する学生には、個別に対応します。課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

### 【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

### 【Outline (in English)】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.

Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.

5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.

1 article is free. You can choose any theme you like.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング [MPP]

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。  
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング [MPP]

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

### 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング [MPP]

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。  
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング [MPP]

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**表現プログラミング実習 [MPP]**

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【到達目標】**

Webページの作成方法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTML の基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 特講 (映像制作実習) [MPP]

小坂 一順

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映像制作に興味がある方を対象に、チームで映像制作を行い、映像制作の方法を学びます。

前期の「映像制作技法」が個人的な技術力や知識を学ぶことが目的だったことに対し、映像制作実習ではチームごとに一つの作品を制作し、チームビルディングや社会性、協調性、マネージメントなど、映像の技術や創作はもちろん、社会に必要なスキルを実践を通して学ぶことが目的です。

### 【到達目標】

映像制作を通じて作り手側の意図や技法を理解し、映像リテラシーを学ぶ。

チームで映像制作をすることにより、社会性、協調性や自分の意見の通し方を学んだり、チームの中で自分がどのようなポジションに適切があるのかを自覚する。

とにかく映像制作をする上で授業外の時間が必要になります。もちろんある程度の調整は仲間内で可能ですが、「他の授業やゼミ」「アルバイト」「部活」「サークル」「就活」に並ぶイベントになります。苦勞もあると思いますが、それ以上に楽しく貴重な経験と仲間ができてと思います。

「楽しい思い出」「貴重な経験」「仲間」の獲得が一番の目標だと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

前半はチームワークを強化するためのグループワークと映像制作の基盤となる企画について学びます。

中盤はその企画をどう映像にするのか、撮影の準備の仕方や撮影方法について学び、実際に撮影を行っていただきます。

後半は編集、VFXを学び、映像をどう処理するか、処理の方法によって見え方伝わり方にどのような効果があるのかを学びます。

全般を通して映像制作の基本を技術的に学ぶと共に、将来の仕事に役立つチームワークと自分の立ち位置の取り方も学びます。

最後に「自己評価シート」を記入していただき、映像制作実習で自分が何を考え、どう行動し、どう成長したかを言葉にします。それによって自分の個性を知り、社会においてどう活躍できるのか、何を改善すると良いのかを知っていただきたいです。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 参加者自己紹介	授業内容の説明 スケジュールの説明
2	チームビルディング ① グループ分け 事例紹介 グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます
3	チームビルディング ② グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます

4	企画① 制作課題発表	事例紹介 企画会議
5	撮影① 企画②	事例紹介 基本的な撮影技法 企画会議
6	撮影②	事例紹介 撮影技法
7	編集①	事例紹介 編集技法
8	VFX①	事例紹介 VFX技法
9	VFX①	事例紹介 VFX技法
10	カラーグレーディング①	事例紹介 カラーグレーディング技法
11	映像制作総合技術	総合的な技法の復習 ルール、レギュレーションの確認 90%を100%にする方法
12	映像制作総合技術	自己評価シートの配布と書き方 プレゼンテーション 発表方法
13	映像制作総合技術	映像業界の就職と入社後の生き方について。
14	課題作品の発表会	課題作品の発表とプレゼン 課題作品の講評 アンケートと感想

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は授業時間内では終わらない為、つづきを課外活動で行うことになります。

他の授業はもとより、部活、サークル、就活、アルバイトなどがある中で時間をチームの仲間と合わせて活動する必要があります。制作する映像に関してはテーマに則していれば自由なので、時間外の制作時間についても期日を守れば自由です。

### 【テキスト (教科書)】

特にありません。

### 【参考書】

授業内に適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

映像制作を行う授業なので、「作品」の良し悪しが点数になります。作品の良し悪しはグループの評価になるので、その作品においてどういう役割を担って、どのような活躍をしたか、また、問題点や問題の解決にどう行動をしたかなどの「自己評価シート」が個人の評価になります。

「作品」と「自己評価シート」を精査して評価します。

出席については特にとりませんが、出席=制作活動に参加をしないと作品のクオリティや自己評価シートの内容に影響するので、必然的に出席=参加=評価となります。

「作品」70%

「自己評価シート」30%

但し、グループ制作の評価で1位を獲得した方にはA評価以上をつけています。

### 【学生の意見等からの気づき】

23年度の「自己評価シート」の授業の感想を参考にし、24年度の授業の参考にしています。授業内でアンケートを実施して、授業内容を変えるようなことは致しません。

映像制作後に「自己評価シート」を記入していただきます。その中で授業の感想を書いていただきます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

### 【学生が準備すべき機器他】

前期の「映像制作技法」を受講している生徒が一定数いるので、必要なPCorMACおよびソフトウェアはあるという前提で授業を行います。

なので、本授業のために新しくパソコンやソフトを購入する必要はございません。

**【その他の重要事項】**

上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。

現在も日本映画や配信、テレビドラマの**VFX**スーパーバイザーとして又、**VFX**会社の代表取締役として活動している教員が教えます。

授業中に推薦する資料以外での予習は必要ありません。

全くの**CG**制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。

物理学や美術、プログラミング、**CG**検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。

**【Outline (in English)】**

This course who are interested in video production, we will create a video in a team and learn the method of video production.

In contrast to the video production techniques of the first semester, where the purpose was to learn individual technical skills and knowledge, in the video production practice, you will experience that you can create a larger work by forming a team. The purpose is to get students interested in the film industry, but we also have a view to be able to think of the film industry as a place of employment with confidence.

**Learning Objectives**

In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.

**Learning activities outside of classroom**

Maybe the theme production is not over in the school hour.

So students will perform a continuance by extracurricular activities.

**Grading Criteria /Policy**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

The learning situation by the class(80%)

The theme production(20%)

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 特講 (広告制作実習) [MPP]

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

### 【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜資料を配布する。

### 【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』(インプレスジャパン、2007年)

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』(インプレスジャパン、2008年)

適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (70%)、最終課題となる広告制作表現 (30%) の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

**特講 (広告制作実習) [MPP]**

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

**【到達目標】**

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で適宜資料を配布する。

**【参考書】**

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』(インプレスジャパン、2007年)

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』(インプレスジャパン、2008年)

適宜授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

評価は、平常点 (70%)、最終課題となる広告制作表現 (30%) の割合で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

**【Outline (in English)】**

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

### 【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通じて、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業である。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響

第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

### 【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

### 【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70%）と試験（30%）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

LAW300EB (法学 / law 300)

## 政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

### 【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

（初歩的ないし基礎的な法学の知識は前提として講義します。）

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1）「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルド・ア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2）「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach

第8回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミズム戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法（1）「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法（2）「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法（3）「一律強制的か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022年）（2000円+税）をテキストとして指定します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。

希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願います。

### 【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

## 教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

### 【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、資料の配布等で実施する。基本的には対面で行うが、授業形態は感染症の流行状態により変化する場合がある。方向性は大学に準ずる。変更等は掲示やホッケー等で知らせる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」などの科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環、安齊順子他著 北樹出版

### 【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学6）』有斐閣  
 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）  
 「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著  
 「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安齊順子編著

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、やりとりのある授業を心掛けている。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの経験があるためそれについて語る場合がある。

### 【Outline (in English)】

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

### Learning Objectives

The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.

Learning activities outside of the classroom

To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.

They should do so by referring to textbooks and other course material.

### Grading Criteria /Policy

The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

## 教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用  
・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達  
・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論  
・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方  
・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

### 【到達目標】

・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。  
・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義や資料の配布を中心として対面で行う。基本的には対面授業を行うが、授業形態は感染症の流行状態により、変化する可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示、ホッケー等で知らせる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環、安齊順子他著 北樹出版

### 【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学6）』有斐閣  
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）  
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著  
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安齊順子編著

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業への積極的参加（30%）で評価

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

### 【Outline (in English)】

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

### Learning Objectives

The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.

Learning activities outside of the classroom

To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.

They should do so by referring to textbooks and other course material.

Grading Criteria /Policy

The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

生涯学習支援論

栗山 究

配当年次／単位：2～4年次／4単位

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実生活に即して相互に学びあう営みを続けています。

授業ではそうした生涯学習の基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくらうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】

①：私たち自身が地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。

②：①で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。

③で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせながら進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していくこととする姿勢や行動は積極的に応援していきます。レポート課題も授業内の相互学習を通してフィードバック（共有）していきます。

少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目（社会教育士の称号取得含む）であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	基本用語の確認 生涯学習・社会教育	本講義で使用する専門的な基本用語の内容を確認します
3	学習論の基礎① 成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	生涯学習という理念と 学習権思想	UNESCOでの議論から社会教育概念での学習内容をふりかえります
5	日本における生涯学習概念の 成立と社会教育実践	生涯学習・社会教育の概念を歴史的に概説します
6	学校教育・社会教育と 生涯学習社会	映像資料からその理念と課題を再検討します
7	国の目指す生涯学習 関連施策の展開と課題	今日の地域社会での実践と関連づけて考えます
8	学習論の基礎② 相互学習・共同学習	受講者相互の話し合いの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
9	生涯学習支援の事例に 学ぶ① 例：若者・青年の 学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
10	生涯学習支援の事例に 学ぶ② 例：子育て世 代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
11	生涯学習支援の事例に 学ぶ③ 例：高齢者の 学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
12	生涯学習支援の事例に 学ぶ④ 例：障害のある 人々とともにある 学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
13	生涯学習支援の事例に 学ぶ⑤ 例：在住外国 人々とともにある 学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
14	生涯学習支援の事例に 学ぶ⑥ 例：ジェン ダーに関する 学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
15	実際の学習講座の 参画体験① 事例の もちより	実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場の実践を報告しあいます

16	実際の学習講座の参画 体験② 内容の 検討	生涯学習支援の現場で行われていた実際の学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座の参画 体験③ レポート 課題抽出	生涯学習支援の現場から得られた学習支援上の課題を検討しあいます
18	社会教育職員の 役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を検討します
19	学習支援者の 力量形成	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	実際の社会教育 事業の実践事例 分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、学習講座づくりを展望します
21	実際の社会教育 事業の実践事例 分析②	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	実際の社会教育 事業の実践事例 分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	実際の社会教育 事業の実践事例 分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	実際の社会教育 事業の実践事例 分析⑤	実際の社会教育事業の学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	実際の社会教育 事業の実践事例 分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	実際の社会教育 事業の実践事例 分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	実際の社会教育 事業の実践事例 分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ レポート発表	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11以後の社会とエネルギー問題」を事前に配信する予定です。

それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。回によっては、受講者相互にレジメを作成して臨んでいただく場合もあります。

受講者各位の関心に即して、春学期の学習内容を継承し、通年を通じた学習として展開していく場合もあります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。資料の一部は、学習支援システムより配信します。

【参考書】

『月刊社会教育』編集委員会編『月刊社会教育』旬報社（各月発行中）。その他、必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業（相互学習、学外授業の場合は当該授業を含む）への積極的な参加（40％）と、(2) 夏休みと学年末のレポート課題（各30％）から総合的に評価します。

(2)の提出は単位修得の必要条件となります。到達目標①②の内容を具体的事例に即して自分なりにさらに一歩深められていることが、評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

初回の授業で通年授業の大きな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業初回の案内は4月に入りましたら、学習支援システム「HOPPII」を通じて通知しますので、必ず確認してください。授業では、授業時間内に各自で利用可能な個人用端末を持参ください。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で事業を担当していた教員の実務経験に基づき、そこでの教育活動（学習支援）の実践について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the basic characteristics of adult learning and understand that various types of learning are created in our lives in contemporary society, as they relate to themselves and to the educational practices of their respective communities.

Therefore, based on specific examples, we will discuss the following two perspectives. The first is the role and scope of "adult and community education" in confronting the various problems of contemporary society. The second is the role and significance of adult and community education staff and learning facilitators who support residents' interactive learning.

【Learning Objectives】

By the end of the course, you will be able to do the followings:

A. Capture and outline the meaning of what we are learning in our community.

B. Understand the role of those who support mutual learning among learners and be able to proactively consider conditions and methods to promote better learning among learners.

**[Learning activities outside of classroom]**

During the spring semester, you will read and review literature assigned by the teacher based on your own interests. In the fall semester, we will be analyzing practical records of adult and community education projects that deal with learning about contemporary issues for a sustainable society.

You are encouraged to read them and organize your thoughts before the day of class. In addition, depending on the session, you may be asked to prepare resumes for each other.

Your study time will be more than four hours for a class.

**[Grading Criteria /Policies]**

Overall evaluation will be based on active participation in class (40%) and reports from the summer vacation and the end of the school year (30% each).

## 特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4年次／2単位

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

### 【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第14回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

### 【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年  
その他、適宜授業で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70%+最終レポート30%

### 【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand (or acquire):

◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.

◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.

◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,

◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.

◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.

◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reacton paper):70%.

## 特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

### 【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第14回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

### 【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年  
その他、適宜授業で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70%+最終レポート30%

### 【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to understand (or acquire):

◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.

◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.

◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,

◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.

◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.

◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

## 総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4年次／2単位

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

### 【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGsと「総合的な学習の時間」
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第10回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第13回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第14回	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を30分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

### 【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
文部科学省「中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50％  
最終レポート50％

### 【学生の意見等からの気づき】

社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

### 【その他の重要事項】

質問事項などは、授業後お願いします。1999年より公立中学校で15年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

### 【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

### 【Outline (in English)】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students grades.

To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities about "the Period for Integrated Study."

In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.

Grading Criteria [ 14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

## 総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

### 【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGsと「総合的な学習の時間」
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実践
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心とした実践と評価
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第10回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第13回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第14回	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を30分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

### 【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
文部科学省『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』

### 【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。  
平常点・授業内レポート 50%  
最終レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

### 【その他の重要事項】

質問事項などは、授業支援システムで行います。1999年より公立中学校で15年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

### 【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

### 【Outline (in English)】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, and the way of evaluating students' grades.

To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."

In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.

Grading Criteria [ 14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

**基礎演習 I**

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

**【到達目標】**

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

読書会形式でテキストを精読します。受講生は、授業の前に毎回「授業日誌」を作成して、それをもとに少人数グループで共有しながら、全員が発表して議論を進めます。そのあとに、少人数グループの代表が議論の状況を報告し、講師を含む全員で討論していくとともに、わからないことを解決し、調べてきたこと、議論した論点を共有していきます。なお、対面授業の際は、テキストに関連するさまざまなテーマについて、ディベート形式の討論も行います。授業に関するさまざまな質問へのフィードバックは、授業時間に行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、自己紹介（この授業でやりたいこと、学生時代にやりたいこと、一生かけてやりたいことを語ってもらいます）、ゼミ運営の役割分担など。
2	日本語版序文および第1章プレカリアート	報告と討論。
3	現代社会のリスクと不安問題について	簡単なディベート。
4	第2章プレカリアートが増える理由	報告と討論。
5	現代社会のチャンス問題。	ディベート形式の議論。
6	第3章プレカリアートになるのは誰か？	報告と討論。
7	現代社会の差別問題	ディベート形式の議論。
8	第4章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	現代社会の戦争問題	ディベート形式の議論。
10	第5章 労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
11	現代社会のゆとり問題	ディベート形式の議論。

- 12 第6章地獄に至る政治、報告と討論。
- 13 現代世界の危険性 デイベート形式の議論。
- 14 第7章極楽に至る政治、報告と討論。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を授業支援システムの掲示板に書く。「授業日誌」は、以下の3項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみてみたいこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税（英語版原書 Guy Standing, "The Precariat: The New Dangerous Class", Bloomsbury, 2011は、出版社サイト < <https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/> > で全文無料公開されている）。**【参考書】**

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、定価2000円プラス税。

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008年、定価777円。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の出席を前提に、提出された授業日誌について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみてみたいこと、の各項目の内容をそれぞれ25%ずつ、合計100%にして、評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。また、緊張するけど発表したり議論することでクラスで仲良くなれるとして好評だったディベート形式の議論も入れてみました。

**【その他の重要事項】**

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

**【Outline (in English)】**

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%.

BSP100EA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考(履修条件等)：クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しよう。

### 【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それをもとに少人数グループと全体とで議論を進めます。最後の2回は、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文の報告会をします。授業に関するさまざまな質問などへのフィードバックは、授業時間に行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	日本でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
4	第2部1、3章ナミビア	報告と討論
5	日本でベーシックインカムを導入すべきか	ディベート形式の議論
6	第2部2章ブラジル、4章インド	報告と討論
7	貧困削減援助として、インフラ援助とベーシックインカム援助のどちらがいいか	ディベート形式の議論
8	第2部5章アラスカ、6章イラン	報告と討論
9	貧困削減援助でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
10	第1部神学的まえがき、1章社会実験	報告と討論
11	学術論文の書き方について	各自が考えてみたい問題やテーマに関する参考文献を3点みつけてきて、簡単に報告してもらいます。
12	第1部2章影響評価	報告と討論
13	基礎ゼミ論文の中間発表	自分のテーマについてのこれまでの研究状況について、参考文献に基づいて報告してもらいます。
14	第1部第3章全国の実施	報告と討論

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の4項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみようこと。さらに、最後の2回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成してくる必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』(明石書店、2016年、定価2000円プラス税)。

### 【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』(法律文化社、2021年)。ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』(法律文化社、2016年)。

### 【成績評価の方法と基準】

最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発NGOでの長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%.

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 基礎演習 I

中村 尚樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

モビリティに着目しながら、日本社会の将来を展望する文献をテキストに、レジюме作成と発表、コメントを通して、参加者のまなざしの違いを確認する。そのことにより、問題に対する深い理解を得たうえで、自分の考えをまとめるという主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

## 【到達目標】

- 1) 文献の意図を正確に理解することができる。
- 2) 問題意識をもって「問い」を發し、結論を導くことができる。
- 3) 以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
- 4) 比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

テキストからそれぞれ希望する項目（節）を選び、レジюмеを準備したうえで毎回数人ずつ報告する。全員による質疑応答を踏まえ、授業終了後に報告者は概要をまとめたレポートを、他の参加者はミニレポートを提出する。最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、授業で課したレポート等に対する講評や解説も行う。

授業計画は受講生の報告希望内容などにより、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	報告順と内容決定。
第2回	報告の仕方ガイダンス。図書館ガイダンスも。	レジюме作成と資料収集の方法。
第3回	MaaS & CASEとは	講師がレジюме作成、報告の模範例。
第4回	移動弱者対策（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第5回	観光型MaaS（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第6回	タクシーの進化（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第7回	自動運転（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第8回	電動キックボード（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第9回	駐車場シェアリング（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第10回	物流プラットフォーム（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第11回	空飛ぶクルマ（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。
第12回	医療型MaaS（仮）	担当者がレジюмеを作成し発表する。

第13回 スマートシティ（仮） 担当者がレジюмеを作成し発表する。

第14回 春学期のまとめ 全体を振り返る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキストを事前に精読し、報告者はレジюмеにまとめる。

## 【テキスト（教科書）】

中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS & CASE』（2020年、プレジデント社）

## 【参考書】

適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

【報告回】 報告担当者はレジюме作成・プレゼンテーション20点＋終了後のレポート15点＝35点で評価する。

【ミニレポート】 報告者以外は各回提出のミニレポートを5点満点で評価する。

【合計】 ミニレポート提出は13回×5点＝65点満点となる。報告回の評価とあわせ、100点満点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

レジюме作成のポイントを授業冒頭で解説する。

## 【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

## 【Outline (in English)】

Focusing on mobility, students create and present resumes. The aim is to acquire the ability to think independently and logically to organize one's own thoughts after gaining a deep understanding of the problem.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. Read the text carefully in advance, and the reporter summarizes it in a resume.

The person in charge of reporting will be evaluated on a scale of 20 points for writing resumes and presentations + 15 points for reports after completion = 35 points.

13 mini-report submissions x 5 points = 65 points. Together with the evaluation of the report times, it will be evaluated on a scale of 100 points.

BSP100EA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ

中村 尚樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考(履修条件等)：クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

参加者は自ら課題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。論文作成の作法を学ぶとともに、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力を習得する。

### 【到達目標】

- 1) 適切な論文テーマを設定できる。
- 2) 文献や資料を的確に検索し、利用できる。
- 3) 問題意識を持ち、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
- 4) 論理的で独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

春学期で学んだ内容を展開し、各自がそれぞれ独自にテーマを設定する。そのうえでレジюмеを作成して論文の構想を発表する。これを踏まえて、暫定的な論文を作成する。質疑応答や講師によるアドバイスを踏まえて、最終論文を作成する。春学期履修が前提となる。授業では論文作成の作法はもちろん、テーマの決め方や論考の進め方を学ぶ。レジюме、論文ともメールに添付して提出する。

なお、授業計画は授業の展開や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。

最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、各受講生に対し、提出してもらった論文に対する講評やアドバイスを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマ設定	テーマ設定、報告順、報告日程決定。
第2回	レジюме・論文作成の作法。	レジюме・論文作成の作法や執筆方法、図書館の有効活用について学ぶ。
第3回	論文作成の思考	内容面を中心に論文の書き方。
第4回	論文構想発表①シェアリング (仮)	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第5回	論文構想発表②サブスクリプション (仮)	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第6回	論文構想発表③自動運転 (仮)	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第7回	論文構想発表④MaaSアプリ (仮)	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第8回	論文構想発表⑤スマートシティ (仮)	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第9回	暫定論文発表①シェアリング (仮)	論文 (暫定版) を報告し、完成に向けて討論する。
第10回	暫定論文発表②サブスクリプション (仮)	論文 (暫定版) を報告し、完成に向けて討論する。
第11回	暫定論文発表③自動運転 (仮)	論文 (暫定版) を報告し、完成に向けて討論する。

第12回	暫定論文発表④MaaSアプリ (仮)	論文 (暫定版) を報告し、完成に向けて討論する。
第13回	暫定論文発表⑤スマートシティ (仮)	論文 (暫定版) を報告し、完成に向けて討論する。
第14回	確定論文講評全体まとめ	講評とまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間ともに各2時間を標準とする。夏季休業期間中に関連書籍を検索、読了しておくことが望ましい。発表の担当者は、前半ではレジюме、後半では暫定論文を準備する。そのうえで確定論文を提出する。

### 【テキスト (教科書)】

中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS & CASE』(2020年、プレジデント社)

### 【参考書】

適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文構想 (レジюме作成) 10点、暫定論文10点、確定論文52点、平常点28点

### 【学生の意見等からの気づき】

作文と論文の違いに戸惑う学生が多いため、論文執筆のスタイルを授業冒頭で明確に提示する。

### 【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

### 【Outline (in English)】

Participants set their own questions and compile a systematic treatise on one theme. While learning how to write a treatise, you will acquire creative thinking skills based on a wide range of knowledge. In addition to the presentation of the resume, the grades will be evaluated comprehensively in the dissertation.

The standard time for both preparation and review for this class is 2 hours each. It is desirable to search and read related books during the summer holidays.

The evaluation method is as follows.

10 points for drafting a thesis (resume creation), 10 points for provisional papers, 52 points for finalized papers, 28 points for attendance.

LAW200EB (法学 / law 200)

**社会保障法 I**

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

**【到達目標】**

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

**【参考書】**

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

**【成績評価の方法と基準】**

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。  
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

**【その他の重要事項】**

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。  
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。  
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

**【Outline (in English)】**

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

## 社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

### 【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

## 【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

## 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円+税。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

## 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

## 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

## イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

### 【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論

8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン——紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

### 【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。  
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

### 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。  
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。  
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。  
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

LAW300EB (法学 / law 300)

## 政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

### 【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

（初歩的ないし基礎的な法学の知識は前提として講義します。）

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1） 「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルド・ア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2） 「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場 「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸（1） 「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach

第8回	政策と時間軸（2） 「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミズム戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法（1） 「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法（2） 「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法（3） 「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手 「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022年）（2000円+税）をテキストとして指定します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。

希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

### 【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願います。

### 【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SES100EB (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

## サステナビリティ論B

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」にかかわる社会問題を取りあげて、サステナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。コースへの入門講義として、なるべく皆さんの関心に即したテーマを扱っていききたいと思います。

### 【到達目標】

いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）を取りあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について紹介・検討します。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で全体に対して答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題と政策、サステナビリティ
第2回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第3回	健康・医療の問題	生活習慣（病）、超高額医療、終末医療
第4回	介護・障害の問題	認知症・介護保険、障害への合理的配慮、出生前診断
第5回	家族の問題	婚姻・親子、同性婚、人工生殖
第6回	子育ての問題	保育所、児童虐待、母子世帯
第7回	補説	前半部分の補足、ライフサイクルとサステナビリティ
第8回	ジェンダーの問題	男女差別、性同一性障害、マイノリティ
第9回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援、相対的貧困
第10回	年金・老後保障の問題	公的年金、私的年金（iDeCo、NISA等）
第11回	労働市場の問題	賃金労働、就活・転職、失業保険
第12回	労働環境の問題	日本型雇用、賃金、労働法制
第13回	人口減少の問題	将来人口推計、出生率対策、児童手当
第14回	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社、2021年）（2500円+税）を教科書として指定します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

科目名（サブ）は旧課程の「環境問題B」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW200EB (法学 / law 200)

**社会保障法 I**

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

**【到達目標】**

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

**【参考書】**

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

**【成績評価の方法と基準】**

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。  
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

**【その他の重要事項】**

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。  
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。  
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

**【Outline (in English)】**

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB (法学 / law 300)

## 社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

### 【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

### 【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

### 【その他の重要事項】

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

### 【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC100EB (社会学 / Sociology 100)

## グローバル市民社会論 A

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

### 【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部文について、次の4点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムの掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみよう。

毎回の授業の前半部分では、少数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。

14 ウクライナ、ガザ、…で分科会と全体討論による、受講生との戦争とグローバル市民社会 教員を交えた議論。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業について「授業ノート」を書き、掲示板に書き込む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

### 【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

岡野内正研究室のサイト (<https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/>)にある諸論文。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提とする14回分の授業ノートの内容によって100%評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

### 【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

### 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円+税。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

## イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

### 【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論

8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン——紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

### 【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

### 【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

### 【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

### 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

### 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。締め切り後の提出は受け付けない。

受講許可については学習支援システムのお知らせ欄で授業前日までに告知する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

### 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

秋学期の初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。同じ年度の春学期にD評価となった学生の受講は認めない（翌年可）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力の確認
第3回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第4回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第5回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第6回	エッセイ作品1の制作	作品1提出と講義
第7回	作品1の指導	作品1の個別面談
第8回	自作を捉え直す	作品1の改稿と講義
第9回	作品1の合評	作品検討
第10回	振り返り	質疑応答など
第11回	エッセイ作品2の制作	作品2提出と講義
第12回	作品2指導	作品2の個別面談
第13回	自作を捉え直す	作品2の改稿と講義
第14回	作品2の合評	作品検討・質疑応答2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

『モンテニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社

## 【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物40%・平常点60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題の他、授業への参加の態度を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

## 【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。

エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

3年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## プログラミングと論理的思考

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングのみならず、レポート、発表、面接時等での思考手段としても役に立つ論理的思考の説明を行う。自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるために、有用な手法を習得してもらう。

### 【到達目標】

論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。また、オブジェクト指向についての基礎部分も理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

準備した教材やWebページ、書籍等を参考にして、内容を理解し、論理的思考のヒントを見つけ、思考の習慣づけを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講座の狙いおよび進め方の説明 論理的思考とオブジェクト指向について
第2回	メモ書きから	考え事のメモを、フローチャートやプログラムの記述にしてみる。
第3回	否定疑問文の答え方	否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点をロジックで考察する。
第4回	事後確率：モンティホール問題の解析	ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった「モンティホール問題」の紹介。
第5回	モンティホール問題についての考察発表	上記モンティホール問題についての私見、感想等の発表。
第6回	店舗による運営システムの違い	各店舗のオペレーションを参照して、共通のシステム、特定の店独自のシステムを識別する。
第7回	飲食店舗のオペレーションをまとめた内容の発表	フローチャート形式で、オペレーションをまとめ、その発表および質疑を行う。
第8回	ブラックボックス付きフローチャート	自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
第9回	アルゴリズム問題の学習	アルゴリズムの典型的な問題の説明（魔方陣等）。
第10回	アルゴリズム問題の学習(続き)	アルゴリズムの典型的な問題の説明(続き)。
第11回	オブジェクト指向の学習	オブジェクト指向の典型的な問題の説明。
第12回	今までの説明内容の振り返り+課題作成検討	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第13回	課題作成検討(続き)	各自で課題を決めて、フローチャート+プログラムで発表する準備を行う。
第14回	課題発表	課題発表(日本語以外も可)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

随時題材にする教材やWebページ、書籍等を準備して共有する。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 質疑内容および提出課題課題：70%。

課題発表は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。Java言語を使うので、その基礎知識があることが望ましい（必須ではない）。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Focusing on programming, learn the basics of logical thinking techniques.

#### 【Learning Objectives】

Basic method of logical thinking.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

Presentation of the assignments are mandatory.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**ウェブ・プログラミング A****湯本 正実**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【到達目標】**

Webページの作成方法の基本を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

初學者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

## メディアプログラミング実習

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。

### 【到達目標】

Webページの作成方法を中心に説明する。

(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTMLのリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPointで資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED (計算基盤 / Computing technologies 300)

**メディアプログラミング実習****湯本 正実**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。  
 (ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

**【到達目標】**

Webページの作成方法の基本部分を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

**【授業の進め方と方法】**

初學者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web ページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	クラス/リンク	HTMLのクラス、リンクについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル);続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

**【参考書】**

指定なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

最終課題提出は必須である。

**【学生の意見等からの気づき】**

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

**【その他の重要事項】**

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Learn basic knowledge of making Web page.

**【Learning Objectives】**

Understand the basics of making Web page.

**【Learning activities outside of classroom】**

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 映像制作技法

小坂 一順

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は、映像制作に興味がある受講者を対象に映像制作における技術を身に付ける授業です。

主にAfterEffectsを使用してVFXの技術を習得します。

対象は初心者から上級者まで幅広く対象とします。

撮影、編集、VFXの基本的な知識を身につけます。

実習のほか、講義の時間もあり、日常目にする映像コンテンツにどのようにVFXが使われているかを理解します。

VFXが映像に与える影響力を学びます。

実習では実際に映画制作で使われているVFXの作成方法と技術を学びます。

## 【到達目標】

AfterEffectsを使い、映像作品を自力で一本制作できるようになります。

普段目している映像にいかんVFXが使われているかを理解します。

VFXだけでなく、実際のプロの映像制作の過程を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

半期で後期の映像制作に必要な編集、VFX技術を取得することになります。授業時間中にスクリーンを使いながら技法を説明し、時間中に作業も行なっていただきます。ですが映像の作り込みは宿題という形で授業時間外に制作活動をする必要があります。

VFXが映画やCMなどでどのように使用されているのかを実際の映像を観ながら説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 映像制作のワークフロー VFXとは何か	授業スケジュールの確認と課題 オリエンテーション
2	撮影技法①	参加者自己紹介 ソフトウェアのインストール 映像用語とその意味
3	編集技法①	編集
4	編集技法②	テロップ アニメーション エフェクト
5	編集技法③	アニメーション エフェクト
6	合成技法①	グリーンバック合成
7	合成技法②	カラーグレーディング
8	合成技法③	総合
9	3DCG技法①	モデリング
10	3DCG技法②	モデリング
11	3DCG技法③	シェーディング
12	3DCG技法④	ライティング
13	3DCG技法⑤	カメラ レンダリング

14 VFX総合 まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。

## 【参考書】

特にありませんが、補助的な教材として参考書の購入やYoutubeなどでTipsを視聴することをおすすめします。

授業内でどの教材やサイト、チャンネルが良い悪いということは申し上げます。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、授業終わりに出る映像制作課題のクオリティを評価します。なので、コンスタントに課題を期限内に提出すると自然に点数に結びつきます。

例えば、平均的なクオリティを期間内に提出すると1.0の点数がつき、クオリティの良し悪し、提出日の遅れなどで、加点減点します。

12回の課題を予定しておりますので、毎回課題を提出すれば、12点になり、評価Aに相当します。

12点=Aを基準に、それより点数が高い方にはAプラスやSを与えそれより点数が低い方にはBやC与えられます。

ある基準点を満たせない方はDになる可能性があります。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

撮影機材については101教室のカメラ、もしくはスマートフォンで十分です。

ハードウェアですが、編集やVFX制作についてはラップトップのPCが必要です。

詳しいスペックについては以下を参考にしてください。

<https://helpx.adobe.com/jp/after-effects/system-requirements.html>

推奨以下でも構いませんが、最低以上は必要です。

ソフトウェアについてはAdobeCC学生版を1年間購入していただきます。春学期終了後途中解約も可能ですが、解約料が発生します。

解約料については私は負担できかねるので、ご了承ください。

授業内でインストールガイダンスを行いますので、受講前にインストールしていただく必要はございません。

後半3DCGの学習になりますと、高価なものではないですが、3つボタンのマウスが必要になります。こちらも授業内でアナウンスいたします。

## 【その他の重要事項】

映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いつくことが可能です。

努力が十分追いつき追い越せるだけのスキルが身に付きます。

秋学期の「映像制作実習」ではグループでの映像制作を行います。2つセットで受講することをおすすめしますが、必須ではありません。

毎週課題が出るので、授業時間外の学習時間が必要になります。

私は日本の映画業界、VFX業界にて現役で活動している人間なので、現在求められている人材、将来求められている人材をリアルに育てるため、今（将来）本当に必要とされる知識、スキルを身につけるための授業を行います。

授業の進行状況により、シラバスとは授業内容が変更になる場合がございます。

定員48名を超える場合はメールによる選抜を行います。初回授業の感想も含まれますので、第一回の授業は必ず出席していただくよう勧めます。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire a technique in the movie production who are interested in picture production.

## 【Learning Objectives】

You learn some technique. Shooting,Editing and VFX. Above all, around 90% of the class becomes the contents of the VFX production as my specialty is VFX.

The object intends from a beginner to a senior widely.

You acquire basic knowledge of shooting, editing, VFX.

You understand how VFX is used for picture contents to see every day.

You learn the influence that VFX gives a picture.

**【Learning activities outside of classroom】**

Most of the movie production activities are activities out of the school hour.

I assume one hour in total a standard at the preparations for this class learning, review time.

**【Grading Criteria /Policy】**

I evaluate it by normal point (40%) and production = submission (30+30%) of the problem work.

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 映像制作実習

小坂 一順

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作に興味がある方を対象に、チームで映像制作を行い、映像制作の方法を学びます。

前期の「映像制作技法」が個人的な技術力や知識を学ぶことが目的だったことに対し、映像制作実習ではチームごとに一つの作品を制作し、チームビルディングや社会性、協調性、マネージメントなど、映像の技術や創作はもちろん、社会に必要なスキルを実践を通して学ぶことが目的です。

### 【到達目標】

映像制作を通じて作り手側の意図や技法を理解し、映像リテラシーを学ぶ。

チームで映像制作をすることにより、社会性、協調性や自分の意見の通し方を学んだり、チームの中で自分がどのようなポジションに適応があるのかを自覚する。

とにかく映像制作をする上で授業外の時間が必要になります。もちろんある程度の調整は仲間内で可能ですが、「他の授業やゼミ」「アルバイト」「部活」「サークル」「就活」に並ぶイベントになります。苦勞もあると思いますが、それ以上に楽しく貴重な経験と仲間ができてと思います。

「楽しい思い出」「貴重な経験」「仲間」の獲得が一番の目標だと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

前半はチームワークを強化するためのグループワークと映像制作の基盤となる企画について学びます。

中盤はその企画をどう映像にするのか、撮影の準備の仕方や撮影方法について学び、実際に撮影を行っていただきます。

後半は編集、VFXを学び、映像をどう処理するか、処理の方法によって見え方伝わり方にどのような効果があるのかを学びます。

全般を通して映像制作の基本を技術的に学ぶと共に、将来の仕事に役立つチームワークと自分の立ち位置の取り方も学びます。

最後に「自己評価シート」を記入していただき、映像制作実習で自分が何を考え、どう行動し、どう成長したかを言葉にします。それによって自分の個性を知り、社会においてどう活躍できるのか、何を改善すると良いのかを知っていただきたいです。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 参加者自己紹介	授業内容の説明 スケジュールの説明
2	チームビルディング ① グループ分け 事例紹介 グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力 と提案力を高めます
3	チームビルディング ② グループワーク	事例紹介 グループワークをしてチーム力 と提案力を高めます

4	企画① 制作課題発表	事例紹介 企画会議
5	撮影① 企画②	事例紹介 基本的な撮影技法 企画会議
6	撮影②	事例紹介 撮影技法
7	編集①	事例紹介 編集技法
8	VFX①	事例紹介 VFX技法
9	VFX①	事例紹介 VFX技法
10	カラーグレーディング①	事例紹介 カラーグレーディング技法
11	映像制作総合技術	総合的な技法の復習 ルール、レギュレーションの確認 90%を100%にする方法
12	映像制作総合技術	自己評価シートの配布と書き方 プレゼンテーション 発表方法
13	映像制作総合技術	映像業界の就職と入社後の生き方について。
14	課題作品の発表会	課題作品の発表とプレゼン 課題作品の講評 アンケートと感想

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作は授業時間内では終わらない為、つづきを課外活動で行うことになります。

他の授業はもとより、部活、サークル、就活、アルバイトなどがある中で時間をチームの仲間と合わせて活動する必要があります。制作する映像に関してはテーマに則していれば自由なので、時間外の制作時間についても期日を守れば自由です。

### 【テキスト（教科書）】

特にありません。

### 【参考書】

授業内に適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

映像制作を行う授業なので、「作品」の良し悪しが点数になります。作品の良し悪しはグループの評価になるので、その作品においてどういう役割を担って、どのような活躍をしたか、また、問題点や問題の解決にどう行動をしたかなどの「自己評価シート」が個人の評価になります。

「作品」と「自己評価シート」を精査して評価します。

出席については特にとりませんが、出席＝制作活動に参加をしないと作品のクオリティや自己評価シートの内容に影響するので、必然的に出席＝参加＝評価となります。

「作品」70%

「自己評価シート」30%

但し、グループ制作の評価で1位を獲得した方にはA評価以上をつけています。

### 【学生の意見等からの気づき】

23年度の「自己評価シート」の授業の感想を参考にし、24年度の授業の参考にしています。授業内でアンケートを実施して、授業内容を変えるようなことは致しません。

映像制作後に「自己評価シート」を記入していただきます。その中で授業の感想を書いていただきます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

### 【学生が準備すべき機器他】

前期の「映像制作技法」を受講している生徒が一定数いるので、必要なPCorMACおよびソフトウェアはあるという前提で授業を行います。

なので、本授業のために新しくパソコンやソフトを購入する必要はございません。

**【その他の重要事項】**

上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。

現在も日本映画や配信、テレビドラマのVFXスーパーバイザーとして又、VFX会社の代表取締役として活動している教員が教えます。授業中に推薦する資料以外での予習は必要ありません。

全くのCG制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。

物理学や美術、プログラミング、CG検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。

**【Outline (in English)】**

This course who are interested in video production, we will create a video in a team and learn the method of video production.

In contrast to the video production techniques of the first semester, where the purpose was to learn individual technical skills and knowledge, in the video production practice, you will experience that you can create a larger work by forming a team. The purpose is to get students interested in the film industry, but we also have a view to be able to think of the film industry as a place of employment with confidence.

**Learning Objectives**

In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.

**Learning activities outside of classroom**

Maybe the theme production is not over in the school hour.

So students will perform a continuance by extracurricular activities.

**Grading Criteria /Policy**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

The learning situation by the class(80%)

The theme production(20%)

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

## 広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位  
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

### 【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通じて、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業である。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響

第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

### 【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

### 【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70%）と試験（30%）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 広告制作実習

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

### 【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

### 【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007年）

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008年）

適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70%）、最終課題となる広告制作表現（30%）の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## ニュース・ライティング

飯田 裕美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースというと、ネットの中を自然に流れてくるものと思いませんか？記事は、1人ひとりの記者が、人に会って話を聞き、ポイントを絞って伝わる文章にまとめ、多くの人の判断を経て配信されています。ファクトを平易に、具体的に、偏らない立場で書くことができれば、どんな職業に就くにせよ、社会に出てからもきつと役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

## 【到達目標】

人に伝わる文章が書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一歩相手に踏み込んで具体的なディテールを聞き出す「質問力」が必要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出したから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

## 【授業の進め方と方法】

対面授業です。6回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、ニュースってなんだろう
第2回	記事を知る	「まわしよみ新聞」というアクティビティをやりませう
第3回	インタビュー1	面白いところを掘っていく
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー3	ネットニュースと紙媒体
第8回	講評と研究	メディアによる書き分けを学ぶ
第9回	インタビュー4	対立する意見を扱う
第10回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第11回	インタビュー5	知らない世界を伝える
第12回	講評と研究	どこまで具体的に書けたか
第13回	映画で学ぶジャーナリズム	記事が出るまでに記者はどんな確認をしているか
第14回	まとめ	自由課題発表会

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、5日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回1000字程度です。記事執筆にかかる時間は2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。読むべき記事などはそのつど紹介します。

## 【参考書】

「映画で学ぶジャーナリズム」（別府三奈子他、勁草書房、2023年、2530円）

## 【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（90%）と平常点（10%）で評価します。試験はありません。

## 【学生の意見等からの気づき】

より細かい添削を希望する学生には、個別に対応します。課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

## 【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

## 【Outline (in English)】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.

Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.

5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.

1 article is free. You can choose any theme you like.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

FRI400ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 400)

## メディア社会学特講 (表現)

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

備考 (履修条件等)：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディア社会学科の表現コース4年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先する。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明する。

### 【到達目標】

映画、CMなどの映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の構造と意味を解題していく。映像コンテンツの分析を通じてメディア表現がどのような社会的な意識と連関し、時代の潮流を形成していくのかが把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

授業内で取り上げる作品について、毎回受講者全員で議論し、理解を深めていく。授業参加者は、常に授業の中で分析をし、分析内容を発表することを求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	映像表現の記号論的分析の基礎	映像分析に使用する理論のフレームと基礎概念の習得
3	ハリウッド映画の分析	ミニレポートと議論
4	日本映画の分析	ミニレポートと議論
5	ショートフィルムの分析	ミニレポートと議論
6	アニメ映画の分析	ミニレポートと議論
7	テレビCMの分析	ミニレポートと議論
8	ストーリーの基本構造	ミニレポートと議論
9	脚本の構造	ミニレポートと議論
10	映像のレトリック	ミニレポートと議論
11	コンテンツのビジネス的な基盤	ミニレポートと議論
12	プロデュースの役割	ミニレポートと議論
13	社会意識の変容と映像表現ヒットの関係	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習 (課題作品視聴) は2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業中に適宜指示する。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」(50%)と課題提出(50%)によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

事前に議論する映像作品をリスト化してわたし、予習を義務付けしている。この予習を確実に実行するよう促したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

映像課題については、できるかぎり鑑賞可能な作品にする。

### 【その他の重要事項】

4年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が基本となる。

### 【Outline (in English)】

Special Lecture of Contemporary Media Culture. We will discuss the expression method and message based on the representative movie works. Students will actively view films in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is two hours in total. The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

## 広告制作実習

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

### 【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成

第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

### 【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007年）

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008年）

適宜授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70%）、最終課題となる広告制作表現（30%）の割合で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.

Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

COT200EA (計算基盤 / Computing technologies 200)

## プログラミング初級

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎学習。Java + Eclipse、Python の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

プログラミングの共通の基本部分や概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

### 【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主にEclipse(開発用ソフト)を利用し、Java言語を基本から学ぶ。また、Python言語の基礎部分も学習する。提出物にはコメントを付けて返却する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	紹介 前編	Java中心のプログラミング用語の概説
第2回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか
第3回	変数	紛らわしい用語だが重要な要素
第4回	構成	プログラムの構成要素
第5回	既存のもの流用の仕方	「修行」は不要
第6回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある 「ファイル」という概念
第7回	読み書き	
第8回	画面プログラム 前編	画面作成の基礎
第9回	画面プログラム 中編	画面作成の続き
第10回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける
第11回	イベントの話	コンピュータの外部からアクションを起こす
第12回	Python その1	スクリプト言語の紹介
第13回	Python その2	計算等の機能
第14回	Python その3	繰り返し等の機能

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

### 【参考書】

特に指定なし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

有効な意見は、講義に反映する。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

### 【その他の重要事項】

現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline (in English)】

Basical study for programming. Study basic part of Java + Eclipse and Python.

#### 【Learning Objectives】

Understand the basics of programming.

#### 【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

MAN100IA (経営学 / Management 100)

**経営学**

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1～4年次/  
2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というのがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。

本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。

また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。

「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということも基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。

講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

**【到達目標】**

経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらうながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。

今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。

学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。

各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。

各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論(1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論(3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。

講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

**【参考書】**

講義外の自主学習のために以下の書籍をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。  
・加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第3版』硯学舎、2021年3月。

その他参考書については講義内および学習支援システムにおいて紹介していきます。

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の成績は次の5点に基づいて評価します。

1. 講義への参加 (10%)  
積極的な講義への参加が評価対象です。
2. リアクション・ペーパーの提出 (10%)  
講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
3. 基礎用語・時事用語回答の提出 (20%)  
講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。

#### 4. 課題レポートの提出 (30%)

講義の進行にあわせて3回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。

#### 5. 期末レポート (30%)

講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。

講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。

毎年講義中に提出してもらっているリアクション・ペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用して独自テキストや配布資料の確認、課題提出を行ってもらいます。

#### 【その他の重要事項】

・企業において株主総会を中心としたIR業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。

・現在、自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

#### 【Outline (in English)】

##### 1. Course outline

This business management class is designed for students who study for the first time to understand the basics knowledge of business administration. Students learn how business science theory is applied to the corporation activities, which is very familiar in their daily life. This class is focused on management strategy and organization theory with variety of case studies. Various cases studies are provided to support deep understanding of the corporate activities and their business operations.

##### 2. Learning Objectives

Business Administration can be regarded as the study of a specific area of corporate activity. However, it is very familiar in our private life, because we use goods or services as the products of suppliers' corporate activities. The goal of this lecture is to understand the basics of business administration as familiar matters.

##### 3. Learning activities outside of classroom

・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.

・ Students are given an assignment to look up basic terms related to business administration or current terms related to corporate management. Students present their research results and findings during the lecture.

・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

##### 4. Grading Criteria /Policy

Grades for this course will be based on the following five points.

###### 1) Lecture participation (10%)

Active participation in the lecture will be evaluated.

###### 2) Submission of reaction paper (10%)

Submission of a reaction paper summarizing thoughts and opinions on the lecture content after the lecture.

###### 3) Submission of answers to basic and current terminology (20%)

For each lecture, students are required to research basic terms related to business administration and current terms related to corporate management, and submit the results of their research.

###### 4) Submission of assignment reports (30%)

Students will be asked to prepare three reports as the lecture progresses. Must be submitted by the due date. Reports will be evaluated based on the content of the lecture.

#### 5) Final report (30%)

Prepare and submit a report applying what you have learned in the lecture.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

### 【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。

プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。

2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認 (添付ファイルや署名など)。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成 (1) ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成 (2) 定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成 (3) 画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成 (1) パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成 (2) プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成 (3) パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとに資料を用意し配布します。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第5版』技術評論社、2023年10月。  
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

#### 1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

#### 2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・ 講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
- ・ 学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
- ・ オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

### 【その他の重要事項】

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 1. Course outline

This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology. This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation. Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.

#### 2. Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.

Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.

Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.

This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.

#### 3. Learning activities outside of classroom

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

#### 4. Grading Criteria /Policy

Lecture grades will be based on the following two points.

##### 1) Participation in lectures (50%)

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

##### 2) Submission of assignments and its contents (50%)

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

### 【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。

プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。

2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認 (添付ファイルや署名など)。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成 (1) ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成 (2) 定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成 (3) 画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成 (1) パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成 (2) プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成 (3) パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとに資料を用意し配布します。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第5版』技術評論社、2023年10月。  
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

#### 1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

#### 2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
- ・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
- ・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

### 【その他の重要事項】

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 1.Course outline

This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology. This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation. Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.

#### 2.Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.

Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.

Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.

This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.

#### 3.Learning activities outside of classroom

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

#### 4.Grading Criteria /Policy

Lecture grades will be based on the following two points.

##### 1)Participation in lectures (50%)

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

##### 2)Submission of assignments and its contents (50%)

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

### 【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。

プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。

2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認 (添付ファイルや署名など)。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成 (1) ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成 (2) 定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成 (3) 画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成 (1) パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成 (2) プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成 (3) パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとに資料を用意し配布します。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第5版』技術評論社、2023年10月。  
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

#### 1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

#### 2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・ 講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
- ・ 学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
- ・ オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

### 【その他の重要事項】

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

### 【Outline (in English)】

#### 1. Course outline

This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology. This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation. Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.

#### 2. Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.

Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.

Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.

This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.

#### 3. Learning activities outside of classroom

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

#### 4. Grading Criteria /Policy

Lecture grades will be based on the following two points.

##### 1) Participation in lectures (50%)

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

##### 2) Submission of assignments and its contents (50%)

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行います。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

### 【到達目標】

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作 (ワークシートの編集など)	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作 (数式・関数の利用など)	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作 (グラフの作成)	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ①	表計算ソフトにおけるデータの操作の基本を確認。 テキストデータの利用。

6	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作 (条件別の処理とデータの整理回収)	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作 (全体像を把握するためのデータ分析)	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作 (比較判断するためのデータ分析)	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作 (マクロ作成)	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対する理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第 5 版』技術評論社、2023 年 10 月。

・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。

・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。

・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

**【その他の重要事項】**

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

**【Outline (in English)】**

**1. Course outline**

This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.

**2.Learning Objectives**

The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.

**3.Learning activities outside of classroom**

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

**4.Grading Criteria /Policy**

Lecture grades will be based on the following two points.

**1)Participation in lectures (50%)**

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

**2)Submission of assignments and its contents (50%)**

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行います。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

### 【到達目標】

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作 (ワークシートの編集など)	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作 (数式・関数の利用など)	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作 (グラフの作成)	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ①	表計算ソフトにおけるデータの操作の基本を確認。 テキストデータの利用。

6	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ②	表計算ソフトにおけるデータの操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作 (条件別の処理とデータの整理回収)	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作 (全体像を把握するためのデータ分析)	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作 (比較判断するためのデータ分析)	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作 (マクロ作成)	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対する理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第 5 版』技術評論社、2023 年 10 月。

・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れた学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。

・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。

・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

**【その他の重要事項】**

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

**【Outline (in English)】**

**1. Course outline**

This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.

**2.Learning Objectives**

The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.

**3.Learning activities outside of classroom**

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

**4.Grading Criteria /Policy**

Lecture grades will be based on the following two points.

**1)Participation in lectures (50%)**

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

**2)Submission of assignments and its contents (50%)**

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

## 情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1~4年次/2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行います。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

### 【到達目標】

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作 (ワークシートの編集など)	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作 (数式・関数の利用など)	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作 (グラフの作成)	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ①	表計算ソフトにおけるデータの操作の基本を確認。 テキストデータの利用。

6	表計算ソフトの基本操作 (データ操作) ②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作 (条件別の処理とデータの整理回収)	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作 (全体像を把握するためのデータ分析)	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作 (比較判断するためのデータ分析)	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作 (仮説を検証するためのデータ分析) ②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作 (マクロ作成)	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対する理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

### 【参考書】

・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー 改訂第 5 版』技術評論社、2023 年 10 月。

・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加 (50%)

積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容 (50%)

講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れた学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。

・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。

・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。(オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。)

**【その他の重要事項】**

自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

**【Outline (in English)】**

**1. Course outline**

This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.

**2.Learning Objectives**

The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.

**3.Learning activities outside of classroom**

- ・ Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
- ・ Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
- ・ The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

**4.Grading Criteria /Policy**

Lecture grades will be based on the following two points.

**1)Participation in lectures (50%)**

Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.

**2)Submission of assignments and its contents (50%)**

Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

SOC100IA (社会学 / Sociology 100)

## 障害者福祉論

山岸 倫子

カテゴリ：視野形成科目 (必修選択)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1～4年次/  
2単位

曜日・時限：土1/Sat.1

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての「一般的な」イメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

### 【到達目標】

- ・ 障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
- ・ 障害者の生活実態について知ることができる。
- ・ 障害者についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
- ・ 障害者についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
- ・ 障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	障害者・障害者の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1～3回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク他	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関係する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は、各回に提示する課題、テーマについて、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的現象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指定なし

### 【参考書】

講義中に随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義への参加 30%：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言(思考のアウトプット)を重視する。出席回数が3分の2以下のものは不可とする。

課題の提出 30%：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを3回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。期末試験 40%：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

### 【学生の意見等からの気づき】

2024年度においては、課題を増加し、全14回を通して連続性をもって知識を習得できるよう努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

コロナウイルスに関する社会情勢によっては、オンライン(オンデマンド方式)に変更予定。音声等ファイル等の使用や動画は検討していないため、基本的なインターネット環境があれば対応可能。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with definition of disability, legal system and history from the viewpoint of sociology.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to help acquire an understanding of the "disability" and "disability people".

【Learning activities outside of classroom】 You are expected to think and read about the topics covers in class.

【Grading Criteria /Policy】 Actively attend class:30% Submit assignment:30% Final exam:40%

PHL100IA (哲学 / Philosophy 100)

## スポーツ哲学

小田 佳子

カテゴリ：専門基礎科目 (講義科目)・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では「体育とは何か?」「スポーツとは何か?」を考える上で必要な原理・原則について知識を深める。スポーツそのものが持つ価値や社会で果たす役割等について、自らの言葉で語るができることを目標とする。スポーツに携わる者は、今後、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られるであろう。

「人はなぜスポーツに魅せられるのか?」「スポーツの魅力とはいったい何なのか。」

自分にとってのスポーツとはどのようなものであり、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについて、より深く考えることがスポーツ科学の専門家には求められる。

### 【到達目標】

スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。「プレイとは」、「指導者とコーチの違い」、「フェアプレイとは」、「ドーピングとは」、「部活動の課題は」、「オリンピックとオリンピックズム」などスポーツを取りまく諸課題に関し自分の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。

テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクリーン形式の一斉対面授業を行う。

本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。

スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育・スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何かを考える
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	オリンピックとオリンピックズム①	近代オリンピックの概要(なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
5	オリンピックとオリンピックズム②	近代オリンピックが目指したものは何か、TOKYO2020の現状と課題を踏まえて考える
6	運動部活動の意義と課題	運動部活動にはどのような意義や課題があるのか、「部活動改革」のあり方考える
7	スポーツと勝利至上主義	スポーツにおける「勝利至上主義」という問題性について自己の経験から考える
8	eスポーツ (ゲスト講師)	eスポーツはスポーツか、eスポーツの歴史と現状とその問題点を学ぶ
9	法政大学と箱根駅伝 (ゲスト講師)	法政大陸上部の箱根駅伝への取組、その歴史と学生スポーツとしての問題点を考える

10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことなのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史とアンチ・ドーピング活動の必要性、現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	スポーツ哲学から学び① (発表・評価)	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
13	スポーツ哲学から学び② (発表評価)	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
14	まとめ(半期を通しての振り返り)	まとめ(半期を通しての振り返り)及びテスト

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

スポーツに関するニュースや新聞記事等を教材として使用するため、各授業のテーマに関する情報収集を心がける。授業では毎回、課題を提示し、哲学的思考と共に記述し、次回の授業では自らの言葉で発表する。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間程度とします。

### 【テキスト (教科書)】

「教養としての体育原理 新版 -現代の体育・スポーツを考えるために-」友添秀則・岡出美則編 大修館書店 新版第1刷(2016年7月) また、必要に応じて資料を配付する予定。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

### 【成績評価の方法と基準】

授業内における学生自身の意志に基づく意見(発言)は、授業への積極的参画として評価する。授業内テストおよびレポート等(30%)に加え、定期試験の成績(発表30+試験40=70%)による総合評価を行う。授業出席回数(授業実施の2/3未満の学生については、成績評価の対象外とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

各授業内容の提示資料等をもう少し工夫し、講義内容の充実を図りたい。多人数の大講義であり、各学生がそれぞれの課題に真摯に取り組み思考が深められるような場の設定や授業環境を整えたい。

### 【その他の重要事項】

中・高の学校現場で保健体育・英語の教員として15年勤務し、その内4年間は文部科学省派遣で海外の在外教育施設の小中一貫校で勤務した。

※新型コロナウイルス感染拡大による授業形態等の変更には、柔軟に対応する。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we discuss Sport and Physical Education. This course is designed to deepen students' knowledge of the principles and basic necessary for considering "What is Physical Education?" and "What is Sport?"

The goal is for students to be able to speak in their own words about the value of sport itself and the role it plays in society.

Those involved in sports will need to talk about sports in their own words in the future.

Why are people attracted to sports? What exactly is the appeal of sports?"

Sport science specialists are expected to think more deeply about what sport means to them and the various ways in which they can be involved in sport, depending on their objectives.

(learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination(70%), Short reports(20%) and in class contribution(10%)

HSS200IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

## スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：備考参照年次/2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は1年次から履修可能。2023年度以前入学者は2年次から履修可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

### 【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 原則として毎回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」—突然死の機序とスポーツ現場における実態—	人が死ぬときに何が起きているのか？なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。
4	心肺蘇生（成人と小児のBLS）—スポーツ現場で Hands Only CPR—	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場における Hands Only CPRの役割について学ぶ。

5	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断—	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
9	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
10	環境とスポーツ—熱中症と落雷—	スポーツ現場における熱中症対策のビットポイントとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	スポーツイベントのリスクマネジメント—EAPとAED—	（mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) およびAED（自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補充し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

第1回：

『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵  
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可

『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第2回：  
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。（特に第1章～第6章）

『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵

第3回：  
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）  
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第4回：  
『BLSプロバイダーマニュアル AHA ガイドライン2020準拠』（2022年、シナジー）※資料室収蔵

第5回：  
『スポーツの法律相談』（望月浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵

第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック-心臓突然死を未然に防ぐために-。pp.570-573）  
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック-その有用性と限界-。pp.153-162.）  
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）  
第7回：  
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.  
(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)  
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵  
第8回：  
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）  
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）  
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。  
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵  
第9回：  
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵  
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵  
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）  
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）  
第10回：  
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）  
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスマレッジ）  
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）  
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）  
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）  
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）  
※以上、すべて資料室収蔵  
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）  
(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)  
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 [https://www.sayama-stm.ed.jp/h\\_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf](https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf))  
『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会 [https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/PDF/h20060413\\_17\\_01.pdf](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf))  
『落雷事故の防止について』（文部科学省 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/anzen/1375858.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm))  
第11回：  
木下訓光：スポーツ選手の減量-米国アマチュアレスリングにおける事例-。（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf>から参照）  
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.  
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）  
第12回：  
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）  
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm))  
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』（<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>）  
第13回：  
日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。  
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵  
『ランス・アームストロングツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなること予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）  
『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬: 服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020年）※多摩図書館収蔵  
『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023年）※多摩図書館収蔵  
第14回：  
『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで-安全に運営するために』（野口 宏（編）、山澤文裕（監修）、真興交貿易書出版部、2020年）※多摩図書館収蔵  
『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998年）。(特に第1章、第2章、第4章) ※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）  
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）  
その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。  
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵  
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵  
・入澤 充。『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵  
【成績評価の方法と基準】  
期末試験（原則100%、ただし下記参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。  
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題を課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。  
【禁止事項】  
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。  
【学生の意見等からの気づき】  
特に改善を求める意見を得ていない。  
【学生が準備すべき機器他】  
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。  
【その他の重要事項】  
授業の展開によって、若干の変更があり得る。  
【実務の経験】  
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。  
【どのように実務経験が授業に反映されるか】  
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を閲覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。  
【Outline (in English)】  
【Course outline】 The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.  
【Learning objectives】 The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.  
【Learning activities outside of classroom】 Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.  
【Grading criteria/policy】 The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

SOM2001A (社会医学 / Society medicine 200)

## 予防医学概論

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：※2012年度以前入学生はカテゴリーが異なる

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマを基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

### 【到達目標】

スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健康者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。また健康づくり施策や健康運動指導士についても学習する。
3	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康日本21」「健康づくりのための身体活動基準2013」などの内容を紹介する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器、心臓血管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。 またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。

9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	整形外科的障害	スポーツによる障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
12	整形外科的外傷	外傷の早期発見と予防、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。また介護予防についても学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。  
各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、2004年）

### 【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則100%）

理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。  
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

### 【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Learning Objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

1: study basic knowledge about preventive medicine and sports injuries

2: learn the influence that physical activity and exercise give to health

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

- definitions, epidemiology, and pathophysiology related to sports medicine.

- the significance and effect of physical activity and exercise

- basic sports injuries / disabilities and first aid

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 運動処方・負荷テスト

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4年次/2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症、各種負荷方法および装置の特性、運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論、目的・対象に応じた各種運動処方など運動負荷テストの原理・方法と、有症患者に対する運動処方の方法論を学ぶ。

### 【到達目標】

- ① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
- ② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
- ③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
- ④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回で完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかねばならない。
- ② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
- ③ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるように配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が重要であると理解してほしい。
- ④ 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆるVT <sub>1</sub> 。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METs、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論(1)：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。降圧剤服薬者における運動について。

10	運動処方・負荷テスト各論(2)：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。血糖降下剤服薬・インスリン使用者における運動について。
11	運動処方・負荷テスト各論(3)：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論(4)：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
13	運動処方・負荷テスト各論(5)：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。心疾患治療薬(βブロッカー、強心薬)服薬者における運動について。
14	運動処方症例検討	生活習慣病各疾患の実際の運動処方例について検討する。各疾患に特有のproblemをどのように評価して安全かつ効果的な運動処方・療法を行うか、また降圧剤、血糖降下剤、インスリン、脂質異常症治療薬(HMG-CoA還元酵素阻害剤)など、生活習慣病患者の多くが服薬・使用している薬が運動処方や運動療法の実践にどのように影響するか、実際の患者の症例を通して学習する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

- ・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』(南江堂) ※資料室収載
- ・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guide to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』(Oxford University Press) ※資料室収載
- 同書籍には旧版の翻訳書がある(『運動負荷試験とその解釈の原理』(Japan Heart Club) ※資料室収載)

### 【参考書】

- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSMガイドライン』(ナッパ) ※資料室収載
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』 ※資料室収載
- ・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』(エルゼビア・ジャパン) ※資料室収載
- ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』(丸善出版) ※資料室収載
- ・小澤壽司 他. 『標準生理学』(医学書院) ※資料室収載
- ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』(メディカルサイエンスインターナショナル) ※資料室収載
- ・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』(杏林書院) ※資料室収載
- ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』(中外医学社) ※資料室収載
- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSMガイドライン』(ナッパ) ※資料室収載
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』 ※資料室収載
- ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院 ※資料室収載
- ・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』(南江堂) ※資料室収載
- ・安達仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂3版』(中外医学社) ※資料室収載
- ・心電図に関連した電気生理学(静止膜電位など)について深く学びたい場合は以下の図書が参考になる。
- 酒井正樹『これでわかるニューロンの電気現象』(共立出版) ※資料室収載
- 宮川博義、井上雅司『ニューロンの生物物理』(丸善出版) ※資料室収載
- ・ハーマン・ボンツァー『運動しても痩せないのはなぜか』(草思社) ※資料室収載

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(原則100%、ただし下記参照)：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に改善を求める意見を得ていない。

**【学生が準備すべき機器他】**

可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

**【その他の重要事項】**

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。
- ③ 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有症患者に対する運動処方法の原理・方法について授業を行う。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]** The lecture intends to provide the basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.

**[Learning objectives]** The goal of the lecture is to master the principle of exercise test, to understand cardiovascular physiology for exercise prescription, and to obtain the basic skill of implementing the prescribed exercise program appropriately for patients.

**[Learning activities outside of classroom]** Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 生活習慣病と身体活動

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4年次/2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、生活習慣病とは何か、その概念・定義、生活習慣病の疫学、病態生理、生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序、身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンス、身体活動の意義・効果などの生活習慣病に関する知識(定義、病態、疫学など)と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防に関わるのか、その機序と疫学的エビデンスを学ぶ。

### 【到達目標】

- ① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
- ② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
- ③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
- ④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
- ⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
- ⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
- ② 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ③ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
- ④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか?	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOLと身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOLとの関連について学習する。高齢者医療における課題(介護、認知症、社会保障など)について、予防医学としての運動・身体活動の役割を学習する。キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動、一次予防
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。キーワード：『高血圧治療ガイドライン』(日本高血圧学会)、chronic kidney disease、白衣高血圧

6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。キーワード：II型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。キーワード：LDLコレステロール、HDLコレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』(日本動脈硬化学会)
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症、『運動しても痩せないのはなぜか』(ボンツァー、草思社)
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症、locomotive syndrome
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。キーワード：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』(厚労省)
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。身体活動と認知症(アルツハイマー型、血管性)との関連について学習する。キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	(1) こどもの体力低下と身体活動および(2) 身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	(1) こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。キーワード：『体力・運動能力調査』(文部科学省)、エビジェネティクス(2) 国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。キーワード：健康増進法、健康日本21(第2次)、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。キーワード：行動変容モデル(translational model、プロチャスカ、1979)、運動のアドヒアランス

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
- ② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補充し学習に役立てること。
- ③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に定めず

### 【参考書】

各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。【授業計画/Schedule】内容欄の各回キーワードにも、参考図書・文献を記載している。以下その他の参考文献・『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\_iryou/kenkou/undou/index.html)・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(原則100%、ただし下記参照)：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

**【禁止事項】** 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に改善を求める意見を得ていない。

**【学生が準備すべき機器他】**

可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

**【その他の重要事項】**

①授業の展開によって、若干の変更があり得る。

②『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

**【実務の経験】**

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

**【どのように実務経験が授業に反映されるか】**

上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]** The lecture intends to provide the basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.

**[Learning objectives]** The goal of the lecture is to master the definition, pathophysiology, epidemiology, and treatment of chronic diseases and to understand the role of physical activity and exercise to prevent chronic diseases and that of physical inactivity and sedentary lifestyle to develop chronic diseases on the basis of scientific evidences.

**[Learning activities outside of classroom]** Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 運動生理学

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4年次/  
2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

### 【到達目標】

運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的な特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部(運動単位)と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の末梢神経活動の実際	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御するarterial baroreflexについて学習する。
3	運動中の中枢神経活動の実際	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢(exercise pressor reflex)、中枢から末梢(central command)へと伝播される神経伝達について学習する。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	運動による骨格筋への影響について学習する。
5	運動と骨	各種トレーニングに対する骨の構造、生理機能の変化を学習する。
6	運動と臓器	運動時における臓器の変化について学習する。
7	運動と糖質代謝	運動時における糖質の代謝について学習する。
8	運動とアミノ酸代謝	運動時におけるアミノ酸の代謝について学習する。
9	運動と脂質代謝	運動時における脂質の代謝について学習する。
10	運動と乳酸・核酸代謝	運動時における乳酸や拡散の代謝について学習する。
11	運動と呼吸・循環	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	運動と体温	運動における体温の上昇の影響について学習する。
13	運動生理学の応用	運動生理学のスポーツへの応用について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特に定めず

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト(教科書)】

特に定めず

【参考書】

- ・宮村実春『ニュー運動生理学I、II』(真興貿易、2015)
- ・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
- ・Kenney WL, et al. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
- ・McArdle WD, et al. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(原則100%)

講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire the knowledge necessary to practice physical activity aimed at improving health and training for improving sports performance based on scientific evidence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ: ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期: 秋学期授業/Fall | 配当年次/単位: 3~4年次/1単位

曜日・時限: 木2/Thu.2

その他属性: 〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

### 【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者 (疾患) に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。
- ④ データを分析して論理的・科学的なレポートが作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する授業回がある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 感染症パンデミック下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 またCOVID-19のパンデミックを経て、フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライアント指導における感染対策を学ぶ。
2	バイタルサインの計測 (1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測 (2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準12誘導心電図	標準12誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト (1) サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト (2) サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト (3) : トレッドミルによる多段階負荷	12誘導心電図を装着し、Bruce法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

12	心肺運動負荷試験 (1) : サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式心肺運動負荷試験を行う。VTを求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験 (2) : トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ① レポートの作成・提出。
- ② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な学習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』(南江堂) ※資料室収蔵  
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。  
『A Practical guide to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』(Oxford University Press) ※資料室収蔵  
同書籍には旧版の翻訳書がある (『運動負荷試験とその解釈の原理』(Japan Heart Club) ※資料室収蔵)

### 【参考書】

【実習全体を通して利用できる参考書】

- ・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』(エルゼビア・ジャパン) ※資料室収蔵
- ・Gerard J. Tortora. 『トトラ人体の構造と機能』(丸善出版) ※資料室収蔵
- ・小澤壽司 他. 『標準生理学』(医学書院) ※資料室収蔵
- ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』(メディカルサイエンスインターナショナル) ※資料室収蔵
- ・山地啓司. 『ここからからだを知る心拍数』(杏林書院) ※資料室収蔵
- ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』(中外医学社) ※資料室収蔵
- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSMガイドライン』(ナッパ) ※資料室収蔵
- ・健康・体づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』 ※資料室収蔵
- ・川久保清『運動負荷心電図: その方法と読み方』医学書院 ※資料室収蔵
- ・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』(南江堂) ※資料室収蔵
- ・安達仁『CPX—運動療法ハンドブック: 心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂4版』(中外医学社) ※資料室収蔵

### 【第2・3回の実習に関する参考書】

- ・『PWVを知るPWVで診る』(中山書店) ※資料室収蔵
- ・『初学者のための生体機能の測り方』(日本出版サービス) ※資料室収蔵
- ・『血圧をいかに測るか』(Life Science Publishing) ※資料室収蔵

### 【第4・5回の実習に関する参考書】

- ・『やさしい自律神経生理学』(中外医学社) ※資料室収蔵
- ・『自律神経機能検査』(日本自律神経学会) ※資料室収蔵

### 【成績評価の方法と基準】

測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加 (10%) + プレゼンテーション (20%) + ディスカッション (20%) + レポート (50%) の総合評価とする (カッコ内の数字は目安)。

測定や結果に関する質疑応答の質、ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーションの質などに加えて、レポートを評価して総合評価とする。

【レポートに関して】今年度よりプレゼンテーションやディスカッション、およびその準備に割く時間を増やし、レポートの作成回数を例年と比べて減らす。レポートを課す場合は、測定結果を整理して提示し、これを解析して考察、参考文献を適切に記載して表紙をつけ、次回の講義に提出することを原則とする。レポートごとに評価を行い、得点化したうえで、レポートに関する最終的な評価を算出する。  
欠席した場合はその回のプレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどの得点は原則として0点とするので、欠席が多い場合は、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。  
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

### 【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況 (テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など)、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

### 【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

**【どのように実務経験が授業に反映されるか】**

上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時12誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]** The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

**[Learning objectives]** The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.

**[Learning activities outside of classroom]** Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：3~4年次/1単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

### 【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者 (疾患) に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する授業回がある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 感染症パンデミック下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 またCOVID-19のパンデミックを経て、フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライアント指導における感染対策を学ぶ。
2	バイタルサインの計測 (1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測 (2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準12誘導心電図	標準12誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト (1) サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト (2) サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト (3) : トレッドミルによる多段階負荷	12誘導心電図を装着し、Bruce法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

12	心肺運動負荷試験 (1) : サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式心肺運動負荷試験を行う。VTを求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験 (2) : トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ① レポートの作成・提出。
- ② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な学習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』(南江堂) ※資料室収蔵  
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guide to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』(Oxford University Press) ※資料室収蔵  
同書籍には旧版の翻訳書がある (『運動負荷試験とその解釈の原理』(Japan Heart Club) ※資料室収蔵)

### 【参考書】

- 【実習全体を通して利用できる参考書】
- ・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』(エルゼビア・ジャパン) ※資料室収蔵
  - ・Gerard J. Tortora. 『トトラ人体の構造と機能』(丸善出版) ※資料室収蔵
  - ・小澤壽司 他. 『標準生理学』(医学書院) ※資料室収蔵
  - ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』(メディカルサイエンスインターナショナル) ※資料室収蔵
  - ・山地啓司. 『ここからからだを知る心拍数』(杏林書院) ※資料室収蔵
  - ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』(中外医学社) ※資料室収蔵
  - ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSMガイドライン』(ナッパ) ※資料室収蔵
  - ・健康・体づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』 ※資料室収蔵
  - ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院 ※資料室収蔵
  - ・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』(南江堂) ※資料室収蔵
  - ・安達仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂4版』(中外医学社) ※資料室収蔵
- 【第2・3回の実習に関する参考書】
- ・『PWVを知るPWVで診る』(中山書店) ※資料室収蔵
  - ・『初学者のための生体機能の測り方』(日本出版サービス) ※資料室収蔵
  - ・『血圧をいかに測るか』(Life Science Publishing) ※資料室収蔵
- 【第4・5回の実習に関する参考書】
- ・『やさしい自律神経生理学』(中外医学社) ※資料室収蔵
  - ・『自律神経機能検査』(日本自律神経学会) ※資料室収蔵

### 【成績評価の方法と基準】

測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加 (10%) + プレゼンテーション (20%) + ディスカッション (20%) + レポート (50%) の総合評価とする (カッコ内の数字は目安)。  
測定や結果に関する質疑応答の質、ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーションの質などに加えて、レポートを評価して総合評価とする。  
【レポートに関して】今年度よりプレゼンテーションやディスカッション、およびその準備に割く時間を増やし、レポートの作成回数を例年と比べて減らす。レポートを課す場合は、測定結果を整理して提示し、これを解析して考察、参考文献を適切に記載して表紙をつけ、次回の講義に提出することを原則とする。レポートごとに評価を行い、得点化したうえで、レポートに関する最終的な評価を算出する。  
欠席した場合はその回のプレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどの得点は原則として0点とするので、欠席が多い場合は、合格点を得ることができなくなる可能性があるため注意すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。  
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

### 【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
  - ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
  - ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
  - ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況 (テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など)、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
  - ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。
- 【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

**【どのように実務経験が授業に反映されるか】**

上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時12誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]** The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

**[Learning objectives]** The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.

**[Learning activities outside of classroom]** Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM300IA (内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300)

## スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：3~4年次/1単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ医学に興味・関心があるものの専門家を目指しているわけではない学生が、スポーツ医学・科学の実際を体験しながら、科学的分析に触れ、論理的思考を鍛える場所とすることが第一の目的である。

その上で、特に専門家を指す学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場で発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援 (対処・治療・予防) の実践に必要な知識・技術を学ぶ。

### 【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ① 少人数制で行い、4~5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR などについて実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、ロコモティブシンドロームに対する測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する場合もある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション スポーツ現場における 一次救命処置【担当：木下】	①グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。 ②BLSとAEDの使用法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に、Hands-only CPRの技術を習得する。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling などについて実習する。
3	運動と血液 (1) メディカルチェックと 血液検査【担当：木下】	血液検査 (ヘモグロビン、血糖値、CK など) を行い、スポーツ選手のメディカルチェックに用いられる採血とその項目について学習する。
4	身体組成および骨密度 (1) DXA 法による測定【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。この授業回では、主として体組成について得られたデータについてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。アスリートにおける体脂肪率の解釈や高齢者のサルコペニアの評価について学習する。
5	運動と血液 (2) プレゼンテーションと ディスカッション【担当：木下】	「運動と血液 (1)」の授業で得られた血液データを用いて、プレゼンテーションとディスカッションを行い、スポーツ選手における貧血の診断、運動による各種血液指標の変化などについて学ぶ。
6	身体組成および骨密度 (2)【担当：木下】	「身体組成および骨密度 (1)」で得られたデータのうち、骨密度のデータを利用して、運動と骨の関係について、骨粗鬆症の評価や疲労骨折などについて学ぶ。

7	運動と呼吸・肺機能 【担当：木下】	運動負荷肺機能検査を行い、アスリートの評価に必要な肺機能 (Flow-Volume 曲線、最大努力換気量や運動誘発性喘息の評価などについて学習する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカル チェック (1)【担当： 瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカル チェック (2)【担当： 瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	超音波装置について【担 当：瀬戸】	超音波装置の基礎、臨床応用について学ぶ。
12	筋力測定【担当：瀬戸】	求心性、遠心性の筋力測定の実際を通してパフォーマンス向上やリハビリテーションへの理科を深める。
13	物理療法について【担 当：瀬戸】	物理療法について理論と実際の使用を通して理解を深める。
14	総括 プレゼンテーション【担当：瀬戸】	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めず

### 【参考書】

特に指定なし  
適時授業内で紹介をする。

### 全体を通しての参考書

Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) ※  
研究室収蔵

※訳書あり。『パワーズ運動生理学』(メディカル・サイエンス・インターナショナル) ※資料室収蔵

### 第1回:

『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン 2020』※資料室収蔵 (AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考すること)

国際的なハンズオンリー CPR よくある質問 (<https://international.heart.org/wp-content/uploads/2021/10/FAQ.pdf>)

### 第2回:

木下訓光. 熱中症 - 海外における最近のトピックス -. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)

『熱中症: 日本を襲う熱波の恐怖』(日本救急医学会、へるす出版)

『熱中症対策マニュアル』(稲葉裕 監修、エクスマレッジ)

『熱中症を防ごう: 熱中症予防対策の基本』(堀江正知、中央労働災害防止協会)

『熱中症 review: Q&A でわかる熱中症のすべて』(三宅康史、中外医学社)

『熱中症の現状と予防: さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』(澤田晋一、杏林書院)

『高温環境とスポーツ・運動: 熱中症の発生と予防対策』(中井誠一、篠原出版新社)

『体温の「なぜ?」がわかる生理学』(永島計、杏林書院)

### ※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』(日本スポーツ協会)

『夏のトレーニングガイドブック』(日本スポーツ協会)

(いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

### 第3・5回:

『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』※資料室収蔵

### 第4・6回:

Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵

『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』※資料室収蔵

### 【成績評価の方法と基準】

【前半】(担当・木下) 測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加 (20%) + プレゼンテーション (40%) + ディスカッション (40%) を基本とし、レポートを課した場合はそれを加味して総合評価とする (カッコ内の数字は目安)。  
【後半】(担当・瀬戸) レポート+プレゼンテーションの合算で 100% とする。  
前後半合計の点数を成績評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。

### 【その他の重要事項】

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。

③ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、『スポーツ医学A』の単位取得の有無を考慮し、加えて『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。

**【実務の経験】**

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

**【どのように実務経験が授業に反映されるか】**

上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

**【Learning objectives】** The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.

**【Learning activities outside of classroom】** Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**【Grading criteria/policy】** The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CLS300IA (外科系臨床医学 / Clinical surgery 300)

スポーツ医学 A

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義  
 開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4年次/  
 2単位  
 曜日・時限：水3/Wed.3  
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ障害のうち、外傷を除いた全領域の中から、**up-to-date**で**practical**な内容を選びすぐって講義する。

スポーツは身体的・精神的・環境的ストレスへの挑戦であり、ヒトは恒常性(ホメオスタシス)を維持するため運動と環境のストレスに巧みに適応する。その適応が破綻した状態がスポーツ障害である。スポーツ障害を理解するためには以下の点が重要である。

- ① ヒトはいかにして運動中に体内の恒常性を維持するか
- ② 運動によってどのような適応が起きるのか
- ③ いかにしてその適応や恒常性が破綻するのか
- ④ 適応や恒常性が破綻するといかなる事態に遭遇するか
- ⑤ その事態にいかに対処するか

本授業では、全身の臓器を系統的に扱いつつ、上記について、運動だけでなく環境ストレスへの適応とその破綻も含めて講義を行う。

【到達目標】

- 目標1 巷にはスポーツ医学に関連した誤情報が多い。エビデンスを正しく理解し、フェイクに立ち向かいスポーツをする人々にとってよき助言者になれる。
- 目標2 単なる知識ではなく、**real world**のアスリートの障害を適切に予防し、対処することができるようになる。
- 目標3 スポーツを通じて健康を維持・増進し豊かな人生を送るために必要な医学的基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は以下の3部構成で行う。

- ① 扱う疾病・障害に関連した臓器や機能の正常について：解剖、組織、生理学、運動生理学の基本的事項を復習
- ② 実際のスポーツ障害の症例提示とその検討・討論(グループディスカッションやプレゼンテーションなど)
- ③ 病的破綻(障害)の各論について解説

重要な留意事項

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ③ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ④ 各回の授業では**keyword, take-home message, summary**を適宜提示する。
- ⑤ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	COVID-19がスポーツにもたらしたもの—Long COVIDとアスリート—	COVID-19が単なる呼吸器感染症ではなく、全身疾患であること、また呼吸器系・神経系の異常が継続する(Long COVID)ことがわかっていくが、Long COVIDはアスリートにおいて見過ごされていることも多く、スポーツ医学における新たな課題となっている。 ① 新型コロナウイルス感染症 ② 症例提示・検討 ③ COVID-19の合併症およびLong COVIDとアスリートについて学習する。

2	スポーツ心臓病学(1) 突然死とメディカルチェック	スポーツ選手の突然死はスポーツドクター、トレーナー、指導者、学校関係者すべてにとっての最重要な課題である。スポーツに携わるものすべてが、絶対にアスリートを競技中に死なせないという使命感を持つべきである。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の突然死の機序・実態・予防法について医学的なエビデンスに基づき学習する。合わせてメディカルチェックについても学習する。 ※同一教員による「スポーツリスクマネジメント」の授業でも扱うテーマであるが、本授業では、豊富な症例を提示し、症例検討から多くを学ぶ形式で、より臨床的な内容を講義する予定である。 どのような時にスポーツ心臓という診断が下されるのか。スポーツ心臓と言われたらどうしたらよいか、その時学校やスポーツ指導現場では何が重要か。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ心臓の定義、発生機序、心疾患との鑑別、などについて学習する。 運動強度が上がるとなぜ「苦しくなる」のか? 病的呼吸困難との違いは? 人が運動する時に最も意識させられるのが「呼吸」である。スポーツにおける呼吸の病理について学習する。 ① 呼吸(換気・ガス交換)とその制御の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 喘息とスポーツ、運動誘発性喘息、運動誘発性喉頭閉塞症、運動(水泳)誘発性肺水腫(浸漬性肺水腫)、過換気症候群などについて学習する。大気汚染とスポーツ活動、呼吸器感染症としてのインフルエンザなどについても学習する予定である。発症の病態生理を理解すれば、酷暑のスポーツ活動でも熱中症は予防できる。 ① 体温・体液調節のホメオスタシス ② 症例提示・検討 ③ 熱中症の診断、治療、予防に加え、重篤な合併症である横紋筋融解症についても学習する。 ※同一教員による「スポーツリスクマネジメント」の授業でも扱うテーマであるが、本授業では、より臨床的な内容を講義する。 ヒトはなぜエベレストに無酸素で登頂できたのか? 高地トレーニングは本当に効果があるのか? 実はスポーツ現場でも多い低体温症のサバイバル法は? ① 寒冷環境、低圧環境(高地)における適応の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 登山の医学、高山病、ウィンタースポーツの医学、寒冷障害(低体温症、凍傷など)について学習する。また、いわゆる高地トレーニングについて、その理論的根拠、効果に関するエビデンスなどについても学習する予定である。
3	スポーツ心臓病学(2) スポーツ心臓	
4	呼吸器疾患・大気汚染とスポーツ	
5	熱中症と脱水	
6	高所・寒冷環境とスポーツ	
7	貧血のスポーツ医学	「スポーツ貧血」と言うなかれ。アスリートの貧血の原因はスポーツではない。 ① 造血のメカニズム ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の貧血をどのように考え、予防するかについて学習する。

8	内分泌疾患とスポーツ —ホルモンのスポーツ 医学—	<p>“Hit the wall”は低血糖？ でも健康な人が運動しても低血糖にはならないはずでは？ 不整脈や貧血の原因がホルモンの異常？ その疲労は下垂体機能異常が原因かも？ 内分泌疾患の治療薬の多くはアンチドーピングの禁止薬物だが、診断されたらどうする？</p> <p>① 内分泌機能（ホルモン分泌）の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 糖尿病（特にⅠ型）、甲状腺疾患、下垂体・副腎皮質系異常を有するアスリートについて学習する。また日本ではまだ馴染みのない「Male athlete triad（男性選手の三主徴）」についても触れる予定である。</p>	14	精神神経疾患とスポーツ	<p>オーバートレーニングは簡単に診断できる病態ではなく、“over diagnosis”（過剰診断）であることも多い。アスリートの摂食障害は一般の人の摂食障害と何が違うのか？ 怪我を繰り返すのには心理的原因がある？</p> <p>① アスリートのストレス反応と回復・適応について ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の摂食障害、いわゆる「オーバートレーニング」、injury prone athlete などについて学習する。</p>
9	感染症と免疫、アレルギーのスポーツ医学	<p>感染症は選手やチームのパフォーマンスを突如として落とす身近なリスクである。感染から体を守る仕組みが免疫だが、正常に機能しなければ疾患の原因にもなる。</p> <p>① 感染と免疫、アレルギー反応の医学・生理学 ② 症例提示 ③ 感染症については伝染性単核球症などの全身感染症や皮膚感染症について、免疫異常については筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群、アレルギーについては（食物依存性）運動誘発アナフィラキシー、運動誘発性蕁麻疹（コリン性蕁麻疹）などについて学習する。</p>	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</p> <p>① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。 ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。 ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。 ④ 下記【参考書】欄に掲載されたもの以外に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を適宜紹介するので、予習、復習などに積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。</p>		
10	水辺と海のスポーツ医学 —アブネア、潜水、溺水—	<p>息止めの世界最高記録は11分54秒であり、素潜りの潜水深度記録は214mである（2023年時点）。その時の体には何が起きているのか？</p> <p>① アブネア競技と潜水の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 低酸素血症、減圧症、圧外傷、溺水の機序と対処法について学習する。可能な範囲でマリンスポーツに関連した障害についても扱う予定である。</p>	<p>【テキスト（教科書）】 特に定めないので、下記参考書を参照のこと。</p> <p>【参考書】 【最も強く推奨する参考書】 ・“Medical Conditions in the Physically Active 4th Edition” by Katie Walsh Flanagan, Micki Cuppett. (Human Kinetics, 2024) ※2024年4月資料室収蔵予定、旧3版は図書館、資料室ともに収蔵なし。 【その他の参考書】 ・日本スポーツ協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2011）※図書館および資料室収蔵</p>		
11	女性のスポーツ医学	<p>2023年にREDs (Relative energy deficiency in sport) が再定義された。男性REDsのエビデンスも増えている。アスリートの無月経には本当にピルの処方が必要なのか？ Low energy availabilityは悪くない？ 講義を通じて古い知識や先入観を払拭する。</p> <p>① 女性の生殖・性腺機能、energy availability ② 症例提示・検討 ③ スポーツ障害としての Problematic low energy availability、女性選手の三徴、REDsについて学習する。運動に伴う一過性で正常な適応反応としての（むしろパフォーマンス促進に必要な過程としての）Adaptable low energy availabilityについても触れる。また経口避妊薬（ピル）、妊娠とスポーツについても学習する。</p> <p>運動してわき腹が痛くなる（side stitch）のはなぜか？ 試合が近くなると下痢をしてしまう、どうしたらよいか？</p> <p>① 消化器系の医学・解剖学・生理学 ② 症例提示・検討 ③ 肝炎、Exercise-related transient abdominal pain (ETAP)、過敏性腸症候群、運動誘発性腸症候群などについて学習する。</p> <p>若年アスリートのメディカルチェックで最も多く経験する異常が、血尿・蛋白尿である。</p> <p>① 酸塩基平衡と電解質バランス、腎機能の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 顕微鏡的血尿、運動後タンパク尿、トレーニングによる肉眼的血尿、IgA腎症、腎疾患（透析）とアスリート・スポーツなどについて学習する。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。</p> <p>※授業内で提示された症例について検討する時間を設けることがある。個人またはグループで症例を検討しディスカッションすることがある。授業に先立ちまたは授業内に小課題を課すことがある。症例検討への参加、発言の質や小課題の成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。</p> <p>【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 担当教員の交代に伴い、今年度の担当教員に関する前年度よりのフィードバックはない。</p> <p>【学生が準備すべき機器他】 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。</p>		
12	消化器系の異常とスポーツ	<p>運動してわき腹が痛くなる（side stitch）のはなぜか？ 試合が近くなると下痢をしてしまう、どうしたらよいか？</p> <p>① 消化器系の医学・解剖学・生理学 ② 症例提示・検討 ③ 肝炎、Exercise-related transient abdominal pain (ETAP)、過敏性腸症候群、運動誘発性腸症候群などについて学習する。</p>	<p>【その他の重要事項】 ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。 ② 『スポーツリスクマネジメント』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。</p> <p>【実務の経験】 臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）であり、日本スポーツ協会認定スポーツドクターの養成、各種チームドクター、日本臨床スポーツ医学会代議員としてガイドライン策定などにも携わる教員が授業を行う。</p> <p>【どのように実務経験が授業に反映されるか】 上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を閲覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。</p>		
13	腎臓とスポーツ	<p>① 酸塩基平衡と電解質バランス、腎機能の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 顕微鏡的血尿、運動後タンパク尿、トレーニングによる肉眼的血尿、IgA腎症、腎疾患（透析）とアスリート・スポーツなどについて学習する。</p>	<p>【Outline (in English)】 【Course outline】The lecture intends to provide the basic, practical, and up-to-date knowledge of medical conditions in relation to physical activity, exercise, and sports except for traumatic injuries according to the scientific evidences. The lecture consists of the following three parts; 1) physiology of adaptative responses to exercise and environmental stresses, 2) case presentation and discussion (individual or group based) of the medical conditions, and 3) pathophysiology, mechanisms, and treatment of the medical conditions.</p>		

**[Learning objectives]** The substantial goal of the lecture is as follows: 1) to understand physiology of homeostasis and acute and chronic adaptation to exercise and environmental stresses, 2) to obtain practical skills of logical assessment of the medical conditions and of developing individual strategy for health promotion through exercise, and 3) to be able to provide evidence-based advice to athletes and all other people in sports field.

**[Learning activities outside of classroom]** Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). Participation in case discussion will be evaluated on basis of quality of opinions and attitudes of students. A quiz (“mini test”) may be provided in the classroom. The score of the discussion and quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination.

**CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

CIM300IA (内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300)

## スポーツ医学B

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：3～4年次/2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

### 【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頸部の外傷・障害	主に頸部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	下腿の外傷・障害	下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、

受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

・第1回：特に定めず

第2～14回：前回授業への取り組みと復習、予習

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

### 【参考書】

1) アスレティックトレーナー専科テキスト1-9 日本スポーツ協会

2) スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第2版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎

3) スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケア理論と実践 西村書店

### 【成績評価の方法と基準】

単位認定試験 (原則100%)

その他理解度をチェックするため適時小テストを行う予定  
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

### 【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things

1: understanding of the structure of physical devises

2: understanding outbreak mechanism of injuries

3: how to make a prevention program of injuries

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma / disability and build a trauma / disability prevention program.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

ECN100IA (経済学 / Economics 100)

## スポーツ経済論

得田 進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義  
 開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位  
 曜日・時限：水2/Wed.2  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

### 【到達目標】

- ・スポーツマネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
- ・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
- ・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までにリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状 (市場規模や課題など) を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。
3	ガバナンス	組織におけるマネジメントを学ぶ。ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウントビリティ①	アカウントビリティとは何か、アカウントビリティの必要性を知る。スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウントビリティ② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。入出金の一般的な管理方法を理解する。組織にある資産 (現金、在庫など) の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析 (予実分析) する必要性を知る。予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。

- 13 これからのスポンサーシップ スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
- 14 講義まとめ 講義内容についての振り返り

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は1時間程度を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

なし

### 【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス  
 「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁  
 「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べるができるか、で評価します。  
 成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について事例を基に講義していきます。スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.

#### 【Learning Objectives】

- ・ To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
- ・ To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
- ・ To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.

#### 【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review for about one hour to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

ECN100IA (経済学 / Economics 100)

## スポーツと経済

得田 進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

### 【到達目標】

- ・スポーツマネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
- ・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
- ・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までにリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状 (市場規模や課題など) を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。
3	ガバナンス	組織におけるマネジメントを学ぶ。ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウントビリティー①	アカウントビリティーとは何か、アカウントビリティーの必要性を知る。スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウントビリティー② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。入出金の一般的な管理方法を理解する。組織にある資産 (現金、在庫など) の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析 (予実分析) する必要性を知る。予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。

13 これからのスポンサーシップ スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。

14 講義まとめ 講義内容についての振り返り

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は1時間程度を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

なし

### 【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス  
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁  
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べるができるか、で評価します。  
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について事例を基に講義していきます。スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.

#### 【Learning Objectives】

- ・ To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
- ・ To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
- ・ To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.

#### 【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review for about one hour to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HSS200IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

**バドミントン指導論演習**

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2～4年次/2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

**【到達目標】**

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論1	講義と実技 「基本ストローク」
3	バドミントン技術論2	講義と実技 「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論3	講義と実技 「フットワーク」
5	バドミントン競技指導1	講義と実技 「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導2	講義と実技 「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論1	講義と実技 「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論2	講義と実技 「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技 「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技 「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技 「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析1	講義と実技 「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析2	講義と実技 「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

**【参考書】**

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度 (70%)、技術習得および指導法の実技試験 (30%) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

体育館シューズ

**【その他の重要事項】**

春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

**【Learning Objectives】** This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】** Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS100IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## 剣道指導論演習

小田 佳子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。

そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道(剣道)の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通じた練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

### 【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道(剣道)の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるように展開する。

毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道(剣道)の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法(正座・座礼・立礼)、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② (基本技稽古法①)	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着(胴・垂れ・小手)
4	基本指導法③ (基本技稽古法②)	基本技稽古法①の反復 ・連続技(二・三段の技) 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ (基本技稽古法③)	基本技稽古法①-②の反復 ・払い技 剣道具の装着(手拭い・面)
6	基本指導法⑤ (基本技稽古法④)	基本指導法①-③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ (基本技稽古法⑤)	基本指導法①-④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ (模擬授業1)	基本技稽古法①-⑤の反復 模擬授業1 ・基本動作
9	基本指導法⑧ (模擬授業2)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業2 ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ (模擬授業3)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業3 ・連続技
11	基本指導法⑩ (模擬授業4)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業4 ・払い技
12	基本指導法⑪ (模擬授業5)	打ち込み、互角稽古 基本技稽古法(総合演習) 模擬授業5 ・引き技 打ち込み、互角稽古

13	基本指導法⑫ (模擬授業6)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業6 ・抜き技 試合・審判法① 3名で構成するグループにより「審判」を行う。 審判法について省察
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①-⑤ 試合・審判法② まとめ

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版  
・授業において適時、資料を配布する。

### 【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

### 【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度・貢献度 30%
- ②模擬授業評価 30%
- ③技能評価 40%
- ①から③を総合的に判断し評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

剣道具、竹刀については学校で準備します。  
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。  
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

### 【その他の重要事項】

公立学校教員・剣道(七段)

「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かしわかりやすく指導したい。  
剣道の理念を考慮しつつ、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

### 【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo) , 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

There is a report assignment after each class.

(Grading Criteria /Policy)

- (1) Attitude and contribution to class participation 30%.
- (2) Simulated class evaluation 30%
- (3) Skills evaluation 40

HSS100IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## 剣道指導論演習

小田 佳子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1～4年次/2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。

そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道(剣道)の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

### 【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道(剣道)の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるように展開する。

毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道(剣道)の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法(正座・座礼・立礼)、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② (基本技稽古法①)	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着(胴・垂れ・小手)
4	基本指導法③ (基本技稽古法②)	基本技稽古法①の反復 ・連続技(二・三段の技) 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ (基本技稽古法③)	基本技稽古法①-②の反復 ・払い技 剣道具の装着(手拭い・面)
6	基本指導法⑤ (基本技稽古法④)	基本指導法①-③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ (基本技稽古法⑤)	基本指導法①-④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ (模擬授業1)	基本技稽古法①-⑤の反復 模擬授業1 ・基本動作
9	基本指導法⑧ (模擬授業2)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業2 ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ (模擬授業3)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業3 ・連続技
11	基本指導法⑩ (模擬授業4)	基本技稽古法(総合演習) 模擬授業4 ・払い技
12	基本指導法⑪ (模擬授業5)	打ち込み、互角稽古 基本技稽古法(総合演習) 模擬授業5 ・引き技 打ち込み、互角稽古

13 基本指導法⑫  
(模擬授業6) 基本技稽古法(総合演習)  
模擬授業6

・抜き技  
試合・審判法①  
3名で構成するグループにより「審判」を行う。  
審判法について省察  
実技試験  
基本技稽古法①-⑤  
試合・審判法②  
まとめ

14 試験・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版  
・授業において適時、資料を配布する。

【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】

①授業への参加態度・貢献度 30%  
②模擬授業評価 30%  
③技能評価 40%  
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

剣道具、竹刀については学校で準備します。  
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。  
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】

公立学校教員・剣道(七段)

「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かし学生にわかりやすく指導する。  
剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo), 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

There is a report assignment after each class.

(Grading Criteria /Policy)

(1) Attitude and contribution to class participation 30%.  
(2) Simulated class evaluation 30%  
(3) Skills evaluation 40

HSS200IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

## バドミントン実習

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技  
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：2～4年次/  
1単位  
曜日・時限：木1/Thu.1  
その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

### 【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身につけなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術1	グリップと技術習得
2	基本技術2	ラケットテクニクの技術習得
3	基本ストローク1	ドライブ
4	基本ストローク2	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク3	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク4	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク5	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編1	オールロング
9	基本技術 応用編2	オールショート
10	シングルス1	フットワーク
11	シングルス2	ゲーム組立
12	ダブルス1	フォーメーション
13	ダブルス2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン 基本と練習法」

出版社：コスミック出版 出版年：2023年

### 【参考書】

DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (70%)、技術習得および指導法の実技試験 (30%) により評価する

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

### 【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。  
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.

【Learning Objectives】 This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Skill test: 30%, in class contribution: 70%

HSS200IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

専門演習 I

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/yearly | 配当年次/単位：2年次/4単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

科学的測定・調査を学ぶ

【到達目標】

科学的測定・調査を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な科学的測定・調査を実践して結果を分析する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	VO2maxの測定	VO2maxを測定する
2	VO2maxの分析	VO2maxを分析する
3	Mechanical efficiencyの測定	Mechanical efficiencyを測定する
4	Mechanical efficiencyの分析	Mechanical efficiencyを分析する
5	LTの測定	LTを測定する
6	LTの分析	LTを分析する
7	FFQによる栄養調査	FFQで栄養摂取を調査する
8	FFQによる栄養調査の分析	FFQによる栄養調査の結果を分析する
9	安静時代謝の測定	安静時代謝を測定する
10	安静時代謝の分析	安静時代謝の測定結果を分析する
11	DXAの測定	DXAで体組成を測定する
12	DXAの分析	DXAの測定結果を分析する
13	InBodyの測定	InBodyを測定する
14	InBodyの分析	InBodyの測定結果を分析する
15	自由行動下のエネルギー消費測定	自由行動下のエネルギー消費を測定する
16	自由行動下のエネルギー消費分析	自由行動下のエネルギー消費を分析する
17	MLSSの測定	MLSSを測定する
18	MLSSの分析	MLSSを分析する
19	HIITのVO2測定	HIITのVO2を測定する
20	HIITのVO2分析	HIITのVO2分析する
21	トレーニング中の心拍測定	トレーニング中の心拍を測定する
22	トレーニング中の心拍分析	トレーニング中の心拍を分析する
23	EatSmartによる栄養調査	EatSmartで栄養摂取を調査する
24	EatSmartによる栄養調査の分析	EatSmartによる栄養調査の結果を分析する
25	RESTQ-Sportによる調査	RESTQ-Sportで調査を行う
26	RESTQ-Sportの分析	RESTQ-Sportの調査結果を分析する
27	Critical powerの測定	Critical powerを測定する
28	Critical powerの分析	Critical powerを分析する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

④ 本授業の準備学習・復習時間は1時間程度

【テキスト (教科書)】

・近藤克則、『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院。(2018)

※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習I・IIを通して本書を読破することを強く勧める

・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかたー「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』筑摩書房。(2023)

※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習I・IIを通して本書を読破することを強く勧める

・本多勝一、『中学生からの作文技術』朝日新聞社。(2004) ※研究室収蔵

・福澤一吉、『議論のレッスン』。生活人新書。(2002) ※資料室収蔵

・小笠原 喜康、片岡 則夫、『中学生からの論文入門』。講談社現代新書。(2019)

※資料室収蔵

【参考書】

・ Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) ※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本 (『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』) は資料室にあり

・ Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) ※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり

・ McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) ※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり

・ Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※資料室収蔵

・ ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢 (20%) : 一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会 (20%) : 評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション (20%) : 発表のstructure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skillの水準。

④ 実習参加 (20%) : 実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成 (20%) : 科学的分析能力。

⑥ 夏期セミナー、研究会への参加 (optional) : 夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

測定の順番は適宜変更され、また繰り返し行う可能性がある。

したがってすべての測定を予定通り行えるとは限らない。

この授業は測定体験型授業ではない。「ただそこにある機器」で「とりあえず測定を行ってみる」だけでは学びとは言えない。背景にある生理学的基礎、医学的知識に基づく測定の実践、データの科学的分析、批判的解釈が行えるようにすることが必要であり、そのために実習を行うので、学びは高度で膨大である。

「たくさんの科学的測定を体験できるゼミ」といった勘違いをすることの無いように。したがって知識の習得やデータの分析に関連するスキルを取得するために、学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。

なお測定を積み重ねていく中で実習室の利用ルールや機器の扱い方を十分習熟すること。

測定以外にも課題図書を指定してモデレーターを決め、読解力を評価し、テーマを議論する回を適宜行う。

【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師 (日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医) が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The lecture intends to provide opportunities to conduct scientific measurements.

【Learning objectives】 The goal of the lecture is to master the skill of measurements and evaluations in sports medicine and science.

【Learning activities outside of classroom】 Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.

【Grading criteria/policy】 The grading will be determined on the basis of the following; in class contribution (20%), reviewing scientific and medical literature (20%), presentation of measurement data (20%), participation in experiments (20%), and submitting reports related the topics in the classroom (20%).

HSS200IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

専門演習 I

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/yearly | 配当年次/単位：2年次/4単位  
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
- ②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
- ③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】

- ①運動器疾患についての知識の獲得。
- ②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
- ③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
  - ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
  - ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
- 社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際1	2年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会 (上肢の前半)	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会 (上肢の後半)	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会 (体幹の前半)	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会 (体幹の後半)	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会 (下肢の前半)	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会 (下肢の後半)	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会 (頭部)	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会 (その他)	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。

13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
15	頭頸部について/抄読会	頭頸部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症 (前半) /抄読会1	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症 (後半) /抄読会2	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折 (前半) /抄読会1	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折 (後半) /抄読会2	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習 (評価方法)	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習 (機器操作)	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習 (実際の評価)	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と3年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 第1回 特になし
- 第2-14回：前回授業の復習
- 第15回：春学期の復習
- 第16-28回：前回授業の復習
- その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし  
適時資料を用意する

【参考書】

適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には  
①平常点70点  
②各内容や課題への取り組み30点  
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。  
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。  
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わっている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。  
※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Acquiring knowledge about locomotor disorders.
- Can evaluate locomotor disorders based on findings.
- Acquire the basic ability of scientific analysis and logical thinking ability.

**[Learning activities outside of classroom]**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**[Grading Criteria /Policy]**

Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 専門演習Ⅱ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/yearly | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

### 【到達目標】

春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿って調査活動を行う。

研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。

英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。

各学生の研究に必要な実験・測定を行う。

ヒューマンカロリーメーターを用いた測定を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル	[演習] 2年生の自己紹介（英語）。3年生による評価。
3	プレゼンテーションの方法論	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
6	研究報告会	[演習] 3年生による研究経過の発表会
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA法による実際に体組成評価を行う。DXA法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] ゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 引き続き前回は行っていないゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の分析	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を分析する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の比較検討	[演習] 分析データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を比較検討する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LTの測定①	[実習] ゼミ生の LT を測定する。
17	LTの測定②	[実習] 前回行えなかったゼミ生の LT を測定する。
18	LTの分析	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリーメーターによる測定 ①	運動や身体活動に伴うゼミ生のエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
21	ヒューマンカロリーメーターによる測定 ②	前回行えなかったゼミ生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定する。

22	ヒューマンカロリーメーターによる測定結果の分析	運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果を分析する。
23	ヒューマンカロリーメーターによる測定結果の比較検討	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習] 前回から進捗させた3年生の研究発表
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養の基礎	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

・近藤克則、「研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」」医学書院。(2018)

※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める

・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかた―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』筑摩書房。(2023)

※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める

・Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018)

※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵

### 【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020)

※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics; 7th ed. (2019)

※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019)

※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※資料室収蔵

・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) ※資料室収蔵

### 【成績評価の方法と基準】

① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。

② 専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅱの成績はD判定となる可能性があり、かつ専門演習Ⅲの履修を認めない。

③ 参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

④ 抄読会・Book Club（5%）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

⑤ プレゼンテーション（10%）：発表のstructure、論理性。スライドの質。

Non verbal communication skillの水準。

⑥ 実習参加（10%）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑦ 演習およびレポート作成（10%）：科学的分析能力。

⑧ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

### 【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

### 【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

### 【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

### 【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.

**[Learning objectives]** The goal of the lecture is to determine the theme of a graduation thesis by the end of the spring term and to start research in the summer vacation.

**[Learning activities outside of classroom]** Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hour beforehand and 2 hour afterward. Students must report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

**[Grading criteria/policy]** The grading will be determined on the basis of the following; whether or not the students can determine the theme of their graduation thesis and can start research by the deadline as mentioned above (60%), in class contribution (5%), reviewing scientific and medical literature (5%), presentation of measurement data (10%), participation in experiments (10%), and submitting reports related the topics in the classroom (10%). If a student can't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February, the grading of the student will be "D". Furthermore, the student is not permitted to take the seminar III in the next year.

HSS300IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## 専門演習Ⅱ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/yearly | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
- ②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

### 【到達目標】

- ①運動器疾患について所見と今まで獲得した知識に基づいて評価ができる。
- ②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
- ③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
- ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
- ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会、研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。

社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにもともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	Introductionについて/抄読会	リサーチクエスションの重要性について講義する。
12	Material and Methodについて/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	統計について/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodexなど）/抄読会	主にBiodexの操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMGなど）/抄読会	主にEMGの操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXAの原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）

21	研究計画の検討（リサーチクエスションに妥当性）/抄読会	リサーチクエスションの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の検討（対象と方法の妥当性）/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の検討（使用予定の統計方法の妥当性）/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験の設定	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験の報告	予備実験の結果と考察について報告する。
26	予備実験の総括	予備実験のlimitationの討議と総括
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1：3年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 特になし  
 第2-14回：前回授業の復習  
 第15回：春学期の復習  
 第16-28回：前回授業の復習  
 その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし  
 適時資料を用意する

### 【参考書】

適時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

基本的には  
 ①平常点70点  
 ②各内容や課題への取り組み30点  
 であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

### 【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。  
 プロジェクターの準備など。

### 【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。  
 教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。  
 ※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

### 【Outline (in English)】

#### 【Learning Objectives】

In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.

#### 【Learning Objectives】

- By the end of the course, students should be able to do the followings:
- can evaluate locomotor disorders based on your findings and the knowledge you have acquired.
  - Acquire the application of scientific analysis and logical thinking ability.
  - Searching for research themes and setting assignments for graduation thesis.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS400IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400)

専門演習Ⅲ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】

卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。

本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜5限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献検索	Clinical question に沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主としてPubmedとCiNiiを用いて先行研究を確認する。
2	研究の delimitation	研究の delimitation を明確にし、選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journal の実態などに習熟し、Scopus を活用する。
3	先行研究の methodology	先行研究の methodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。
4	先行研究の総括	各論文における仮説に対応した delimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesis の適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
5	Research question の設定	先行研究の総括を踏まえて clinical question を十分 distillate し、より高度で simple かつ具体的な Research question を設定するための議論を行う。
6	Research question の distillation	Research question の倫理的・科学的妥当性検証と最適化を行い、最終的に決定する。この時点で学生は「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。
7	仮説立論	Research question に対応した適切で強力な仮説を設定する。学生は十分なエビデンスをもってこれを過不足なく説明することを要求される。
8	研究目的の決定	仮説に沿って適切な研究目的を設定する。その倫理的・科学的妥当性について検証する。
9	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。方法の倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究倫理	本学部における研究の多くはヒトを対象にして行われる。卒業研究でも文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」にしたがって行う必要もあり、その場合、倫理審査を受けなくては許可される。倫理委員会に研究計画の審査を申請するために必要な、同指針の基本について学ぶ。

11	倫理委員会における卒業研究審査の対策	倫理審査申請書作成指導。実際にスポーツ健康学部倫理委員会に提出し審査を受けるための申請書の作成方法について学習する。
12	研究論文導入部の論述	研究論文導入部について議論、指導を受ける。学生は研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できることが求められる。
13	パラグラフライティング	適切な論理的表現をするために必要な日本語力、すなわち論理的文章の作成について学ぶ。導入部をパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。指導を踏まえて次週までに研究論文導入部の草稿を完成させる。
14	研究論文導入部の提出	研究論文導入部の完成稿を提出し指導を受ける。夏休み期間中に調査・測定を進めておくこと。
15	調査・実験機器のメカニズム	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。ただし本科目では、学生は夏休み期間中にも調査・測定を行い、定期的成果の報告を行わなければならない。したがってこの回のテーマに調査・実験機器（1）とあるが、実際には第1回目ではないことに注意すること。あらゆる調査・測定において、「ただそこにある機器を使って無批判に計測を行う」という姿勢では、得られたデータはすでに「研究成果」とは呼べない代物となってしまう。いかにして信頼性・妥当性のある調査・測定を行いえるか、その基本ともいえる機器類の工学的メカニズムについて学習する。
16	調査・実験機器の操作	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。準備、整備、検定・校正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、最低限習得しておかなければならない技能を習得する。
17	分析手法の検討	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べるができるようにする。なお実際の測定は夏休みを含め、授業時間以外に行うことがほとんどである。前回までの理解を踏まえて授業時間以外に速やかに調査・測定を進めること。
18	分析の実践	この時点までに得た測定データを総括し報告を行い議論する。
19	研究方法の執筆	この回までに研究方法のセクションを完成させて提出する。研究方法についてプレゼンテーションを行う。
20	研究結果の執筆	この回までに研究結果のセクションを完成させて提出する。研究結果についてプレゼンテーションを行う。
21	考察の発表	研究結果の考察を行う。研究結果を考察した内容をプレゼンテーションする。
22	考察の執筆	この回までに研究考察セクションを完成させて提出する。
23	結論の執筆	この回までに結論セクションを完成させて提出する。
24	卒業論文の推敲	論文初稿の推敲水準は低いものである。「書き上げた」だけでは論文として仕上がっていないことが多いと心得てほしい。特に参考文献の記載をルールに則り最初から正確に記載できる学生は少ないであろう。そこで、どのようなポイントに留意して推敲するか、また校閲・校正の作業も経験し、正式に論文と呼べる成果物に仕上げるために必要な手続きについて学習する。
25	卒業論文完成稿の提出	この回までに卒業論文を完成させて提出する。提出した論文の査読・指導を受ける。
26	卒業論文発表	ゼミ生を対象に卒論を発表する。
27	卒業研究発表会の準備	スライドを作成して提出、指導を受ける。なおスライドはすべて英語で作らなければならない。
28	卒業研究発表会予演会	ゼミ生を対象に卒業研究発表会の予演会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 研究データ解析
- ② 調査活動
- ③ 学会・研究会参加

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100％）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。推敲水準の低い論文には単位を与えない。

なお10月終わりまでに先行研究の総括から始まって測定・調査を終了し、緒言部分の執筆が終了していない場合は卒論の執筆中止を言い渡す可能性がある。その場合、専門演習Ⅲの単位取得は出来ない。

【学生の意見等からの気づき】

卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜5限に行く。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にEメールなどでアポイントメントをとり相談すること。

【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の2月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。

【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は12月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.

【Learning objectives】 The goal of the lecture is to complete writing the graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】 Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

【Grading criteria/policy】 The grading will be determined by the graduation thesis (100%). The student who couldn't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February in the former year of the seminar II is not permitted to take the seminar III.

HSS400IA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400)

## 専門演習Ⅲ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

## 【到達目標】

- 1：卒業論文完成までの作成過程の学習
- 2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- 1：実験より得られたデータの分析
  - 2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する
- 社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第2回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第3回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第4回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第5回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第6回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第7回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第8回	データの収集	データの収集をおこなう。
第9回	データの解析	データの解析をおこなう。
第10回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第11回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第12回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第13回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第14回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第15回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第16回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第17回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第18回	結果報告	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第19回	実験の継続	必要に応じて追加実験をおこなう。
第20回	追加実験	実験のlimitationについて検討する。
第21回	仮説の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第22回	対象と方法の作成	方法について精査する
第23回	結果の作成	結果について精査する
第24回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第25回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第26回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第27回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第28回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定論文の精読

データの解析

学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定なし

## 【参考書】

研究テーマにあわせて適時紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

卒業論文完成にいたる論理の構築 50%

卒業論文 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターなど

## 【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。

※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

## 【Outline (in English)】

## 【Learning Objectives】

The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.

## 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learning the process of writing a graduation thesis.
- Completion of graduation thesis.

## 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

## 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%),

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (E・Rクラス)

佐野 竜平

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング(Well-being)の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関する入門的な知識を身に付けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%(総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (F・Sクラス)

水野 雅男

配当年次／単位数：1年次／2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング (Well-being) の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関するの入門的な知識を身に着けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%(総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (G・Tクラス)

杉浦 ちなみ

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング (Well-being) の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関するの入門的な知識を身に付けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%(総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (H・Uクラス)

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：1年次／2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング (Well-being) の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関するの入門的な知識を身に着けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%(総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (J・Wクラス)

野田 岳仁

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング(Well-being)の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関するの入門的な知識を身に付けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%(総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習 I (L・Yクラス)

小林 由佳

配当年次／単位数：1年次／2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習 I・IIの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング (Well-being) の考え方を学ぶことを目標とします。

### 【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関するの専門的な知識を身に付けること。  
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

### 【参考書】

『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久著 (NHK出版) 2022年  
『レポート・論文の書き方入門 第4版』河野哲也著 (慶應義塾大学出版会)

2018年

『言語表現法講義』加藤典洋著 (岩波書店) 1996年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50% (総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (Discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (E・Rクラス)

佐野 竜平

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考(履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施する。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する協同作業を通じて答えを創り出す力を養う。

### 【到達目標】

- ・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につく。
- ・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養う。
- ・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につく。
- ・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養う。
- ・社会を見つめる視野が広がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

チーム単位での話し合いを重視する。同時に、疑問→仮説→リサーチ→検証→さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養う。チームでの協同作業と外部から評価を受けるプレゼンテーションを交互に織り交ぜながら進める。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習目標の確認
第2回	課題発表①	夏休みの課題発表①(個人)
第3回	課題発表②	夏休みの課題発表②(グループ)
第4回	グループ分け・テーマ決め	グループで具体的テーマや提案の方向を定める
第5回	リサーチ①	自分たちの提案の有効性を検討し、更に必要な調査を検討し実施する
第6回	リサーチ②	提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行う
第7回	中間報告①	中間報告に向けてプレゼン資料を作成する
第8回	中間報告②	プレゼンの完成度を高める作業を行う
第9回	修正①	中間報告で受けたフィードバックを元に修正を行う
第10回	修正②	引き続き修正を反映させる
第11回	基礎ゼミコンペ予選①	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを選出する
第12回	基礎ゼミコンペ予選②	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第13回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施
第14回	講義の振り返り	各講義のレビューを行う

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50%を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎ゼミコンペについては、他のクラスと連携して公平・公正に運営する。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器(パソコン、スマートフォン等含む)

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is designed to provide students with hands-on experience in constructing research projects and delivering effective presentations in Japanese. Building on the content covered in Freshman Seminar I during the spring semester, students will collaboratively develop challenging research topics for a presentation competition. This involves three presentation sessions: an in-class presentation limited to classmates, a joint presentation session featuring representative groups from various Freshman Seminar II classes, and the final presentation competition where all Freshman Seminar II classes come together, showcasing some of the best presentations.

【Learning Objectives】 The presentation topics are typically related to community development, social welfare, or clinical psychology, but not exclusively. Students are required to support their discussions and suggestions with facts and figures obtained through questionnaires, interviews, meta-analysis of previous studies, etc. These methods will be introduced in line with the course's progression.

【Learning Activities Outside the Classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each understanding the course content.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined by in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in discussions, presentations, and reports (50%).

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (F・Sクラス)

水野 雅男

配当年次／単位数：1年次／2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施します。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する共同作業を通じて答えを創り出す力を養います。

### 【到達目標】

- ・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につきます。
- ・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養います。
- ・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につきます。
- ・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養います。
- ・社会を見つめる視野が広がります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

チーム単位での話し合いを重視します。同時に、疑問→リサーチ→仮説→検証→さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養います。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンを交互に織り交ぜながら進めます。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	後期の進め方を共有します。夏休みの課題発表を行います。
第2回	課題発表1	夏休みの課題発表を行います。
第3回	課題発表2	引き続き夏休みの課題発表を行います。
第4回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定めます。
第5回	リサーチ1	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討します。更に必要な調査を検討し、その方法を定めます。
第6回	リサーチ2	自分たちの提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行います。
第7回	中間報告準備1	中間報告に向けてプレゼン資料を作成します。
第8回	中間報告準備2	プレゼンの完成度を高める作業を行います。
第9回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックを行います。
第10回	修正1	中間報告を受けた修正を行います。
第11回	修正2	中間報告を受けた修正を引き続き行います。
第12回	プランコンペ予選1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定します。
第13回	プランコンペ予選2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定します。
第14回	プランコンペ本選	参加するほかのゼミとともに、本選を実施します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50% (総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を聞き、進め方を適宜修正しながら進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを活用します。

### 【その他の重要事項】

受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire an ability to set themes and hypotheses by ourselves and create answers through collaborative work to verify them.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ You will acquire the ability to set problems and present solutions to problems.
- ・ Develop the ability to prepare and present attractive presentations.
- ・ By exchanging opinions with others, you will acquire the power of group work to create one plan.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (G・Tクラス)

杉浦 ちなみ

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンペに向けたグループワークと発表準備を行う。問いを立て、それに基づき文献を収集し読み、フィールドワークを含めた調査を行い、まとめて発表する、という一連の流れを、個人およびグループの双方で取り組んでいける力を養う。

### 【到達目標】

2年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、または対面等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の概要確認・夏休みの活動報告
第2回	テーマに関する課題をさぐる	コンペのテーマに対する関心と理解を深める。
第3回	グループ分けおよびテーマの決定	課題意識によってグループを作り、各グループでテーマを具体化する。
第4回	テーマに基づく下調べ(1)	各グループで決めたテーマに関わる情報を持ち寄る
第5回	テーマに基づく下調べ(2)	第4回に続き、グループとしての提案の方向性や調査手法を明確にしていく。
第6回	調査計画の検討	グループのテーマ、テーマに関して得られた情報の概要、今後の調査計画等について各グループが発表し、相互に検討を行う
第7回	調査の実施	グループごとに各種調査を行う。
第8回	調査のまとめ	調査結果をまとめ、分析する
第9回	ゼミコンペ準備(1)	発表資料の作成や追加調査などを行う。
第10回	ゼミコンペ準備(2)	発表原稿の作成、発表資料のブラッシュアップなどを行う。
第11回	ゼミコンペ準備(3)	発表の練習を行う。
第12回	ゼミコンペ(1)	クラス内予選プレゼンテーションと参加
第13回	ゼミコンペ(2)	時限予選プレゼンテーションと参加
第14回	ゼミコンペ(3)	本選プレゼンテーションと参加

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時まで求められた課題に取り組む。本授業の時間外の学習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発表・レポート等課題50% (総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

プレゼン資料作成のための機器 (パソコン、スマートフォン等)。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, there will be a presentation competition between other classes. Students will work in groups to decide on a presentation theme, conduct research and prepare for the presentation.

【Learning Objectives】 Students will be expected to develop the ability to correctly handle information, conduct research, and make presentations in order to point out issues related to a theme and propose its solutions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Group work and discussion : 50%, presentation of issues : 50% (comprehensive evaluation)

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (H・Uクラス)

岩田 千亜紀

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学部の理念であるウェルビーイングに照らして、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

### 【到達目標】

2年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。対面での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、または対面等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要・ポイントの紹介
第2回	夏休み課題報告①	夏休み課題レポートのピア・レビュー
第3回	夏休み課題報告②	夏休み課題レポートの概要の発表
第4回	グループワーク①	企画のポイント、グループづくり
第5回	グループワーク②	調査の企画・設計
第6回	グループワーク③	調査票の作成
第7回	グループワーク④	調査の準備
第8回	グループワーク⑤	発表用スライドの作成
第9回	グループワーク⑥	プレゼンのコツ
第10回	グループワーク⑦	プレゼンの準備
第11回	プレゼンテーション①	ゼミ内発表のリハーサル
第12回	プレゼンテーション②	グループ研究成果を発表・ゼミ内で発表チームを選出
第13回	プレゼンテーション③	基礎ゼミ・プレゼン準決勝
第14回	プレゼンテーション④	基礎ゼミ・プレゼン決勝戦

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発表・レポート等課題50% (総合的に評価)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

プレゼン資料作成のための機器 (パソコン、スマートフォン等)。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者福祉、性暴力被害者支援、国際開発、プログラム評価

### 【Outline (in English)】

Course outline: This seminar is designed to clarify which topics could be focused on in the field of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

Learning Objectives: Students acquire logical thinking skills, presentation and communication techniques in preparation for a special seminar from the second year onwards, practice and fieldwork, and for their future professional life.

Learning activities outside of the classroom: Students are required to review the handouts and other materials distributed in each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading Criteria /Policy: Overall assessment based on 50% normal marks, 50% presentations, reports, and other assignments.

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (J・Wクラス)

野田 岳仁

配当年次/単位数：1年次/2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is the second semester for a two-semester integrative Freshman Seminar. This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. 【Learning Objectives】 The goal of this class is for students to acquire the ability to research, analyze, and present on social issues through group work. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation) (50%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

興味のある課題についてグループで対応等を検討し、プレゼンテーションを行う。その中から代表となったグループが他のクラスも含めた全体のコンペで発表を行う。これらのプロセスから、大学生として必要なスキルを習得する。

### 【到達目標】

- ・ 課題に関する情報を収集・分析することができる。
- ・ グループで協働することができる。
- ・ 自分たちの考えを他者にプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

グループごとに課題を設定し、その多面的な把握および対応検討を行う。そして、それを他者に効果的に伝えることができるようプレゼンテーションのあり方を検討する。その後、クラス内で発表を行い、質を高め合う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第2回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第3回	フィールドワークとは？	社会調査の基礎知識とフィールドワークの技法
第4回	問題関心のつくり方	関心のある学問領域に応じてグループワーク
第5回	文献調査の方法	グループごとに先行研究と分析視角の検討
第6回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第7回	研究テーマ発表	グループごとに研究テーマを発表
第8回	データの収集 (1)	文献調査によってデータを収集する
第9回	データの収集 (2)	フィールドワークによってデータを収集する
第10回	データの解釈・分析 (1)	文献調査で得られたデータを解釈する
第11回	データの解釈・分析 (2)	フィールドワークで得られたデータを分析する
第12回	追加データの収集	調査の振り返りと不足しているデータ収集
第13回	結論の提示	調査データから導き出される結論を検討する
第14回	プレゼンテーション	グループごとに研究成果の発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、課題に関する情報収集等をグループで行う。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) & プレゼンテーション (50%) の総合評価

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルス感染症の防止に留意しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 基礎演習Ⅱ (L・Yクラス)

小林 由佳

配当年次／単位数：1年次／2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

次年度からの専門演習での活動を見据えて、文献収集・グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーションなどの基礎的な知識やスキルを身につけます。また、自らの興味関心を探っていきます。

### 【到達目標】

- 以下の項目を達成することを目指します。
- ・学部の理念である Well-being についての理解や関心を深める。
  - ・関心に沿って、適切に文献収集を行う。
  - ・他者と建設的に意見交換を行う。
  - ・グループのメンバーと協力し合い、計画立案・情報収集・プレゼンテーション等を行う。
  - ・自らの意見や考えを、学術的な作法に基づいて表明する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に、適宜資料を配布しながら学習を進めます。リアクションペーパーや課題に対するフィードバックは、主に授業内で行います。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期全体の内容を確認するとともに、夏休み中の成果等について報告する。
第2回	問題関心を深める①	教材を通して Well-being についての理解を深めて、自らの関心を探る。
第3回	問題関心を深める②	相互の関心を共有し対話することを通して、自らの関心を探る。
第4回	グループワーク①	グループを決定し、ディスカッションを通してテーマの決定などを行う。
第5回	グループワーク②	データ収集の方法を学び、アプローチの対象や方法を決定する。
第6回	グループワーク③	フィールドに出るためのマナーや方法を学び、準備を行う。
第7回	グループワーク④	フィールドワークや調査等を行い、データを収集する。
第8回	グループワーク⑤	得られたデータを集約し、分析を行う。
第9回	グループワーク⑥	プレゼンテーションの準備および練習を行う。
第10回	基礎ゼミコンペ クラス内予選	クラス内でプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第11回	基礎ゼミコンペ 時限予選	各クラスの選抜チームがプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第12回	基礎ゼミコンペ 本選	各時限の選抜チームがプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第13回	グループでの振り返り	一連のグループワークについて振り返り、学習の定着を図る。
第14回	1年間のまとめと振り返り	1年間の学習を振り返り、成果をまとめる。次年度に向けての課題を明確化する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業はグループワークが中心となるため、各自授業外で文献収集や文献精読などの学習を行うことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

『9割の社会問題はビジネスで解決できる』田口一成著 (PHP研究所) 2021年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等課題50% (総合的に評価します)

### 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge and skills such as literature collection, group work, field work, and presentation in preparation for activities in the next year Seminar. Exploring individual interests is also required.

#### 【Learning Objectives】

- By the end of the course, students should be able to do the followings:
- ・ To deepen understanding and interest in Well-being which is faculty's philosophy.
  - ・ To collect literature appropriately according to their interests.
  - ・ To constructively exchange opinions with others.
  - ・ To collaborate with group members in planning, literature/data collection, and presentation.
  - ・ To express one's own opinions and ideas in an academic manner.

#### 【Learning activities outside of classroom】

As the class is mainly based on group work, each student is expected to collect and read literature outside the class.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided comprehensively based on the following:

50% in-class contribution, and 50% reports and other assignments.

BSP100JA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

## フィールドスタディ入門

岩田 美香、望月 聡、水野 雅男

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

### 【到達目標】

現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。基本的に各回ともZoomによるリアルタイム・オンライン授業形式とする。授業の内容は期限つきの動画とPDF資料を掲載する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

ソーシャルワーク実習、心理実習、コミュニティマネジメント・リサーチ、コミュニティマネジメント・インターンシップの先行履修科目である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第2回	社会福祉分野①	ゲスト講師①による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩田）
第3回	社会福祉分野②	ゲスト講師②による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩田）
第4回	社会福祉分野③	ゲスト講師③による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩田）
第5回	社会福祉分野④	ゲスト講師④による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩田）
第6回	コミュニティマネジメント分野①	ゲスト講師⑤による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第7回	コミュニティマネジメント分野②	ゲスト講師⑥による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第8回	コミュニティマネジメント分野③	ゲスト講師⑦による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第9回	コミュニティマネジメント分野④	ゲスト講師⑧による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第10回	臨床心理分野①	ゲスト講師⑨による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（望月）
第11回	臨床心理分野②	ゲスト講師⑩による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（望月）
第12回	臨床心理分野③	ゲスト講師⑪による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（望月）
第13回	臨床心理分野④	ゲスト講師⑫による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（望月）
第14回	実習体験報告	各分野の実習体験内容の報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

講義の中で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。

\*学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。

\*欠席5回以上の場合には評価をしない。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

### 【その他の重要事項】

授業を担当する3名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the content and issues of practical areas related to social welfare, community management, and clinical psychology.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Develop qualities that broadly focus on social welfare, community management, and clinical psychology.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

CUA100JA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

松井 生子

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異なる社会・文化の研究を通じて展開してきた文化人類学は、他者理解・自己理解の学問です。本講義ではさまざまな社会の事例を比較検討しながら、人類の多様性と共通性を把握し、理解することをめざします。

【到達目標】

1. 具体的な事例をもとに、自分とは違う他者を理解することの重要性を考えることができる。
2. 異なる社会を鏡として、自らが生きる社会とその文化について相対的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない、適宜関連する音声教材、映像資料を用いる。講義全体の前半部で人類学の古典的ともいえるテーマを取り上げ、後半部で今日的な問題意識に基づいたテーマを取り上げる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文化人類学の特徴、社会・文化に関する視点について概観する。
第2回	文化相対主義	文化を相対的に捉えることの意味を考察する。
第3回	世界の中に自己を位置づける一儀礼・象徴	人が世界を認識する方法、社会での自己の位置づけ方を検討する。
第4回	社会におけるコミュニケーションー贈与交換	モノのやりとりを通じた人間関係の構築について考察する。
第5回	社会に埋め込まれた経済	経済の多様な側面、他領域との連関について検討する。
第6回	むすぶ行為としての結婚	結婚が人々をむすびつける働きや、さまざまな結婚形態について考察する。
第7回	「関係性」の中の親子・家族	「関係性」をキーワードに、親子・家族のあり方について考察する。
第8回	「民族」とは何か	「民族」を固定的・本源的なものとする見方を離れ、その生成および可変性について考察する。
第9回	マイノリティとマジョリティ	多数派と少数派の力関係、公平性の維持について考察する。
第10回	国境を越える労働者	外国人労働者との協働・共生について検討する。
第11回	性の多様性	人間における性の多様性について考察する。
第12回	争いと平和	戦争および災害後の社会の再生について考察する。
第13回	環境と人間	環境の文化的・社会的側面について考える。

第14回 総括・最終レポート これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で取り上げるテーマに関し、予習として、学習支援システムで配信する資料 (レジュメ) を確認し、講義の概要と構成について理解しておくこと。授業後は関心を持った事柄について、文献やウェブサイト等を用いて調べ、気付きや疑問を整理し、最終レポートの作成に活かしてください。準備・復習、および事後の発展学習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

1. 梅屋潔, シンジルト (共編) 『文化人類学のレッスン: フィールドからの出発』 2017年、学陽書房。
  2. 越智郁乃・関恒樹・長坂裕・松井生子 (共編) 『グローバリゼーションとつながりの人類学』 2021年、七月社。
- ※ 他に、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点 (40%) および最終レポート (60%) により、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方について随時受講生の意見を聞き、授業に反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いて事前に資料 (レジュメ) を配信します (教室では印刷したものを配布します)。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、各回の内容や順番に変更があります。

【Outline (in English)】

Using anthropological theories and methodology, this class seeks to explore diversity, differences and similarities among humans. Its overall aim is to offer students an analytical toolkit for thinking about ourselves and “the others”. We will examine a wide range of case-studies around the globe, in an effort to gain comparative understanding of human cultures. At the same time, we will examine our own society and culture from a relativistic standpoint. Topics include gift exchange, ritual, marriage, kinship, ethnicity, global processes, gender and human/non-human relationships. Before and after attending each class, students will be expected to spend four hours to acquire full understanding of the course content by reading related books and writing. Grading will be decided based on short reports and in-class contribution(40%), and term-end report(60%).

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

## 老年学

新名 正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

### 【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人の適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末期の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバル化、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

### 【参考書】

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）  
高齢社会白書（厚生労働省）

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40%）、期末レポート（60%）によって総合的に判定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

### 【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

### 【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

BAM100JA (基礎医学 / Basic medicine 100)

## 人体の構造と機能及び疾病

瀬戸 宏明

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ履修可。2017年度以前入学生は「N5151 医学概論」を履修すること

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

### 【到達目標】

心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。社会情勢などによってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第2回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第3回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第4回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第5回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第6回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第7回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第8回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第9回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第10回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第11回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第12回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第13回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第14回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし  
（参考書参照のこと）

### 【参考書】

最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座1 医学概論  
中央法規出版

### 【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認：必要に応じて、出席を確認する。
- ②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切不可。
- ③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100%）行う。評価に関しては出席等の平常点は考慮しない。ただし出席等の平常点の状況は適時勘案する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

### 【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure, function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Mental and physical function
- body structure and function
- illness

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

BME100JA (人間医工学 / Biomedical engineering 100)

## リハビリテーション概論

後藤 圭介、酒井 克也、細井 雄一郎

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。最終的には、現代のリハビリテーションサービスの現状に対して、自分なりの意見を考えアウトプットできることを目指す。

### 【到達目標】

各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感し出来ることを目指す。また同時に、得られた知識に基づく考えを発信できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また、適宜グループディスカッションを取り入れ、自分たちの意見交換をする中で、多様な考えを受け入れる能力を身に着ける。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(細井)
第2回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(細井)
第3回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションに関わる多様な障害像について、その概要。(細井)
第4回	ヒトの身体・認知機能の基本1	発達や加齢の身体・認知機能との関係性の理解。(酒井)
第5回	高齢者に対するリハビリテーション1	現代の高齢者が直面する身体、精神面での問題についての理解。(酒井)
第6回	高齢者に対するリハビリテーション2	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第7回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第8回	脳卒中のリハビリテーション1	脳卒中の病態から障害の理解。(細井)
第9回	脳卒中のリハビリテーション2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(細井)
第10回	難病のリハビリテーション	神経難病からリウマチまで、難病へのリハビリテーションの理解。(後藤)
第11回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーションの現実。(後藤)
第12回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)
第13回	地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたリハビリについて。(細井)
第14回	授業のまとめ(授業内試験)	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(酒井)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義資料を中心に進め、参考資料は適時紹介する。

### 【参考書】

特に参考書は指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

試験：期末試験を実施する。

採点基準：期末試験100%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。また、期末テスト時にも希望者には感想を書いてもらい、次年度の講義に反映させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the concept and details of rehabilitation by showing the specific cases of some disorders.

Learning activities outside of classroom: We recommend reviewing our materials and, if possible, looking for the related news by using the internet or any other media.

Learning Objectives: The aim of this class is to learn the characteristics of disabilities associated with some typical diseases, and the related examples of clinical rehabilitation to treat the disabilities.

Grading Criteria/ Policies: Final grade will be decided based on the following process; term-end examination 100%. We aim for having the students' own opinions and show them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

HSS100JA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

**スポーツ総合 I**

坪田 智夫

配当年次／単位数：1～4年次／1単位

備考（履修条件等）：体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

**【到達目標】**

- ・各種目のルールや基本動作の獲得。
- ・スポーツを通しての人間形成。
- ・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各種目を2週間続けて行う予定。基本は1週目を基礎的な運動、2週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第2回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第3回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第4回	サッカー②	・ゲーム
第5回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第6回	アルティメット②	・ゲーム
第7回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第8回	バスケットボール②	・ゲーム
第9回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第10回	テニス②	・ゲーム
第11回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第12回	ソフトボール②	・ゲーム
第13回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第14回	バトミントン②	・ゲーム

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

基本ルールを学習しておいてもらいたい。100分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。

準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（80%）

運動の習得率（20%）

**【学生の意見等からの気づき】**

各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

Learning Objectives:

- ・ Acquisition of rules and basic actions for each item
- ・ Human formation through sports
- ・ Maintaining and improving physical fitness

Learning activities outside of classroom :

I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.

Grading Criteria /Policy:

HSS100JA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)

## スポーツ総合Ⅱ

坪田 智夫

配当年次／単位数：1～4年次／1単位

備考（履修条件等）：体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

### 【到達目標】

- ・各種目のルールや基本動作の獲得。
- ・スポーツを通しての人間形成。
- ・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各種目を2週間続けて行う予定。基本は1週目を基礎的な運動、2週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゴルフ①	・ルール説明 ・基本練習
第2回	ゴルフ②	・ゲーム
第3回	フットサル①	・ルール説明 ・基本練習
第4回	フットサル②	・ゲーム
第5回	バレーボール①	・ルール説明 ・基本練習
第6回	バレーボール②	・ゲーム
第7回	テニス①	・ルール説明 ・基本練習
第8回	テニス②	・ゲーム
第9回	ソフトラクロス①	・ルール説明 ・基本練習
第10回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第11回	バトミントン①	・ルール説明 ・基本練習
第12回	バトミントン②	・ゲーム
第13回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基本練習
第14回	ソフトボール②	・ゲーム

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本ルールを学習しておいてもらいたい。100分間体を動かす授業となります。体調を整えて出席するようにして下さい。

準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）

運動の習得率（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

Learning Objectives:

- ・ Acquisition of rules and basic actions for each item
- ・ Human formation through sports
- ・ Maintaining and improving physical fitness

Learning activities outside of classroom :

I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.

Grading Criteria /Policy:

Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

LANc200JA (中国語 / Chinese language education 200)

**中国語 2 A**

劉 紅

配当年次／単位数：2～4年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国語の授業を1年以上受けた人を対象とします（初級からの学生でも構いません）。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

**【到達目標】**

中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。④時々単語テストをします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	第1回 学(1)	読解 会話
第2回	第1回 学(2)	読解 会話 練習
第3回	第2回 吃中餐(1)	読解 会話
第4回	第2回 吃中餐(2)	読解 会話 練習
第5回	第3回 爬(1)	読解 会話
第6回	第3回 爬(2)	読解 会話 練習
第7回	第4回 去中国留学(1)	読解 会話
第8回	第4回 去中国留学(2)	読解 会話 練習
第9回	第5回 中国的留学(1)	読解 会話
第10回	第5回 中国的留学(2)	読解 会話 練習
第11回	第6回 去(1)	読解 会話
第12回	第6回 去(2)	読解 会話 練習
第13回	看影	映画鑑賞
第14回	まとめ、期末試験	授業期間内試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①教科書の予習と復習をします。  
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

王学群監修『ステップアップ実践中国語』白帝社 2200円

**【参考書】**

中国語の辞書を各自用意すること。電子辞書でも構いません。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は期末試験は70%で、小テストは30%です。出席状況も参考になります。

**【学生の意見等からの気づき】**

以上の方針で授業を進め、学生に意見にしたがい、改善していくつもりである。

**【学生が準備すべき機器他】**

特に使用しない。

**【その他の重要事項】**

中国語だけではなく、中国文化や伝統についても授業を通じて学生に伝えようと思っている。この授業を通じて、中国語に興味を持ち、また中国文化に興味を持つきっかけになってもらえれば何よりだと思っています。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

LANc200JA (中国語 / Chinese language education 200)

## 中国語2 B

劉 紅

配当年次／単位数：2～4年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期しっかり勉強した内容を基礎として、さらなる日常会話を覚えることを目的とする。

### 【到達目標】

この授業では文法を徐々に基礎を築いていくうえで、単語を増やし、読解力を高めていきます。ある程度単語と文法を身に付けてから作文の練習を増やします。自分が言いたいことを中国語で表現することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

単語をしっかりと覚えるうえで、文法を理解してもらい、その応用として本文や練習問題をたくさん練習させます。練習問題の答え合わせは授業中に行います。単語や作文の小テストも行います。小テストのフィードバックは毎回その次の授業で各問題の答え合わせをするという形で行われます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7回 找对象 (1)	読解 会話
第2回	第7回 找对象 (2)	読解 会話 練習
第3回	第8回 不当老族 (1)	読解 会話
第4回	第8回 不当老族 (2)	読解 会話 練習
第5回	第9回 找工作 (1)	読解 会話
第6回	第9回 找工作 (2)	読解 会話 練習
第7回	第10回 西藏行 (1)	読解 会話
第8回	第10回 西藏行 (2)	読解 会話 練習
第9回	自習コーナー 健康 (1)	読解 会話
第10回	自習コーナー 健康 (2)	読解 会話 練習
第11回	自習コーナー 程教 (1)	読解 会話
第12回	自習コーナー 程教 (2)	読解 会話 練習
第13回	看电影	映画鑑賞
第14回	期末試験	授業期間内試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①教科書の予習と復習をします。  
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

王学群監修『ステップアップ実践中国語』白帝社、2200円＋税

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験は70%で、小テストは30%で評価します。出席状況も参考にします。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を参考しながら、授業を改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

### 【その他の重要事項】

この授業を通じて中国語と中国文化に興味を持ってもらえれば何よりだと思っています。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

ARSk100JB,ARSk200JC (地域研究(地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 100, 地域研究(地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 200)

## 地域問題入門

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

### 【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の“考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての“被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

### 【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

## 社会問題論

高良 麻子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

### 【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、少人数でのディスカッション等を行う。また、映像やゲストスピーカーからの講義によって理解を深める。授業ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第4回	社会問題①	少子高齢化・人口減少
第5回	社会問題②	ヤングケアラー
第6回	社会問題③	ワーキングプア
第7回	社会問題④	子どもの貧困
第8回	社会問題⑤	ひきこもり
第9回	社会問題⑥	性暴力とDV
第10回	社会問題⑦	特定妊婦
第11回	社会問題⑧	難民
第12回	社会問題⑨	孤独・孤立
第13回	社会問題⑩	自殺
第14回	総括	社会問題の全体像  まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

## ソーシャルワークの基盤と専門職 I

安西 美咲

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6005 ソーシャルワーク I」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義を理解し、ソーシャルワークの基盤となる考え方、概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習します。また、ソーシャルワークの形成過程、価値規範、倫理について理解し、ソーシャルワークの基礎を習得することを目指します。

### 【到達目標】

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。

※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、本講義のねらい、生活課題の多様化とソーシャルワークが必要となる社会的背景についての説明、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけの概要説明
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景
第3回	精神保健福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景
第4回	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	社会福祉士や精神保健福祉士の専門性を理解するための事例検討
第5回	ソーシャルワークの定義	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する講義
第6回	ソーシャルワークの原理	・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重についての説明
第7回	ソーシャルワークの理念	・当事者主権・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションについての説明
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの基盤となる考え方に関する確認・グループ討議・小テスト
第9回	ソーシャルワークの形成過程	・慈善組織協会 ・セツルメント運動 ・医学モデルから生活モデルへ ・ソーシャルワークの統合化
第10回	ソーシャルワークの形成過程に関する確認	講義と小グループでの討議
第11回	専門職倫理の概念	社会福祉士としての倫理とは何か、概念に関する説明
第12回	倫理綱領	・ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・社会福祉士の倫理綱領 ・精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理的ジレンマ	専門職倫理とジレンマに関する講義及びグループディスカッション

第14回	専門職としての倫理とジレンマの関係性についての事例検討 ◆定期試験範囲の発表	・討議 ・ソーシャルワークにおける最近の動向 ・授業内容の振り返りとまとめ ・定期試験の範囲についての説明
------	---	--

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていたくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。

- ①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規 2021年  
・副田あけみ『社会福祉援助技術論 ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房 2005年

### 【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
- ②試験方法：筆記試験
- ③成績評価：リアクションペーパー、授業内課題の提出が50%、筆記試験が50%の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として行政・社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】 : Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

## 地域福祉論

宮城 孝

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

### 【到達目標】

- ・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
- ・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
- ・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。課題やリアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第2回	今日の地域福祉とシステム	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第3回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と1960年代まで
第4回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970年代から1980年代まで
第5回	地域福祉の歴史的発展と展開③	1990年代から今日まで
第6回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第7回	地域福祉の構成要件①	在宅福祉サービスの内容と提供のあり方
第8回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第9回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動 (権利擁護、災害支援など)
第10回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第11回	地域福祉の推進主体②	NPO、ボランティア団体、各種相談支援機関等
第12回	地域福祉と包括的支援体制	包括的支援体制構築の意義と内容、実践事例
第13回	地域福祉の行財政	地域福祉の政策と財源 (公的財源、民間財源)
第14回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、2～3のテーマとする。準備・復習時間は、1回につき4時間以上。

### 【テキスト (教科書)】

平野隆之・宮城 孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008年

### 【参考書】

宮城 孝『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』明石書店、2022年  
 地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006年  
 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021年

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017年

宮城 孝他編著『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018年

### 【成績評価の方法と基準】

1. 平常点、2～3のテーマの課題についてのレポート (30%)
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)

### 【学生の意見等からの気づき】

学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

### 【その他の重要事項】

- ・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。
- ・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

This course learn about basic understanding and thinking skills about the Community welfare.

【到達目標 (Learning Objectives)】 The goals of this course A and B.  
 A Basic understanding and thinking skills about the Community welfare.

B To consider about Community welfare problem having to do with today.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

## 社会的包摂論

水野 雅男

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

バリアフリーあるいは社会的包摂 (ソーシャル・インクルージョン) を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター (行政・民間・市民) の役割分担と連携について注目する。

### 【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアートの
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

### 【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年  
 「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年  
 「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年  
 「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年  
 「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年  
 「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

### 【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業の教材 (パワーポイントデータ) は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

## 地域計画論

杉浦 ちなみ

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。これらの問いを地域の中で私たちが豊かに生きるためにはどうしたらよいか、という生活者の目線から、その歴史をたどりつつ深める。本講義は、地域計画の中でも地域の教育・文化に関わる計画にもとづいて展開する。

### 【到達目標】

地域・社会の抱える課題に対して地域計画に携わる主体がどのように向き合うことができるか、基本的な視点をもつ。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主に講義形式で進める。回によって、グループワークによるリアクションペーパーの作成を求めるほか、各自に小レポートを課すこともある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概略および進め方を確認する。
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	生活の中の「計画」	都市計画、教育振興基本計画、文化振興計画
第4回	一人ひとりの学びがなくなる地域	個人の学びと地域づくりの関わりについて考える
第5回	地域計画の歴史 (1) 1940年代後半 (1)	地域社会の教育計画
第6回	地域計画の歴史 (2) 1940年代後半 (2)	地域の拠点としての公民館
第7回	地域計画の歴史 (3) 1950年代	「村の古さ」をめぐって
第8回	地域計画の歴史 (4) 1960～1970年代	住民運動と地域課題の学習
第9回	地域計画の歴史 (5) 1980～1990年代	「豊かさとは何か」を問い直す
第10回	地域計画の歴史 (6) 2000年代	少子高齢化社会の中で
第11回	地域計画の歴史 (7) 2010年代	東日本大震災を経て
第12回	地域計画の歴史 (8) 2020年代～	コロナ禍を経た現在
第13回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第14回	まとめ	講義全体をふりかえる

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業や各回のテーマについて、日頃から関心をもって国・自治体の情報や新聞・雑誌等に積極的に触れる。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待する。また、課題が示された際にはそれに取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない。

### 【参考書】

佐藤一子編『地域学習の創造—地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015ほか授業時間中に適宜示す。

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50%、最終レポート50%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

ARSx200JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

## 【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教員4名（水野・関司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・関司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第5回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第9回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（関司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（関司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（関司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（関司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・関司・土肥・野田）	6事例からの学びと提言

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

## 【参考書】

講義内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2023年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

## 【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

## ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門) II

宮城 孝

配当年次/単位数：2~4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6056 コミュニティソーシャルワーク」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、社会福祉士、またソーシャルワークに関する専門職の役割と機能について、基本的な内容や方法について理解することを目的とする。また、ミクロ・メゾ・マクロの様々な課題に対応するソーシャルワーク実践の内容について基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

### 【到達目標】

社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。地域における総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのDVDなどを視聴する。演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回アクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、その社会的役割について
第2回	社会福祉士の職域と役割	社会福祉士の職域と役割について事例等を通しての基本的な理解
第3回	福祉行政等における専門職	福祉行政の今日的動向と専門職の役割についての理解
第4回	民間の施設・組織における専門職	民間の施設・組織における専門職の役割についての理解
第5回	地域における社会福祉士の役割	地域における社会福祉士の役割について、事例を通して理解を図る
第6回	諸外国における動向	欧米・その他の諸外国における社会問題とソーシャルワーク等の動向
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と方法についての基本的な理解
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実践について事例を通しての理解
第9回	事例を用いた地域におけるソーシャルワーク実践の展開	ニーズの把握方法、焦点化について事例を用いての理解
第10回	総合的・包括的な支援と多職種連携	複合的な事例における多職種連携の意義と方法について事例を用いての理解
第11回	当事者のエンパワメントと組織化支援	当事者のエンパワメントと組織化支援、ボランティアのコーディネートの実践について事例を用いての理解
第12回	チームアプローチの意義と内容	チームアプローチの意義と内容について事例を用いての理解
第13回	ソーシャルワークにおける地域支援	ソーシャルワークにおける地域支援の意義と方法について事例を用いての理解
第14回	まとめ	授業の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、2~3とする。

準備・復習時間は、4時間以上。

### 【テキスト (教科書)】

宮城 孝『住民力ー超高齢社会を生き抜くチカラー』明石書店,2022年,1,980円【税込】

平野隆之・宮城 孝・山口 稔『コミュニティとソーシャルワーク 地域福祉論』有斐閣、2008年

### 【参考書】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー』中央法規、2019年

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑むー』中央法規、2017年

日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006年

### 【成績評価の方法と基準】

① 平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容(30%)

② 試験期間内に行う理解度を問う試験(70%)

両方により総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD等による事例の視聴

### 【その他の重要事項】

・本授業は、ソーシャルワークの専門職の役割と機能に関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。

・講師は、社会福祉協議会での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がソーシャルワークの基本的な理解とスキルを習得することを図ることとする。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要(Course outline)】

This course learn about basic understanding the role and skills about the generic social work.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course A and B.

A To understanding about the basic contents and skills of generic social k.through the case analysis.

B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding the role and skills of generic social work.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワークの理論と方法 I

伊藤 正子

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2018～2020年度入学者は「N6057 ソーシャルワークⅢ」を受講すること。2017年度以前入学者は「N6060 ソーシャルワークⅢ（方法）」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について、特にその方法としてソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、スーパービジョン、および事例分析の意義と方法について説明をする。その目的は、履修者が援助専門職として、その基本的概念、実践過程を構成する様々な要素と留意点、およびアセスメントにおけるソーシャルワーカーの役割等を説明できるようにすることである。

### 【到達目標】

- ① 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
- ② ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
- ③ ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
- ④ 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

理論や事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グループワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。対面式での開講となる。学習支援システムを通じてリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、多様化・複雑化する課題に対応するための、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の概要
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
第3回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第4回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第5回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第6回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第7回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第8回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第9回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）

第10回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第11回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第12回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第14回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの理論と方法（共通・社会専門）』中央法規

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013年

その他、授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。

授業への能動的参加（40%）、試験（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、事前にプリントアウトするか情報機器（パソコン）を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、社会福祉領域において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PSY200JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 200 , 心理学 / Psychology 200)

## 心理学的支援法

末武 康弘

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N6058 カウンセリング」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第2回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第3回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第4回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第5回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第6回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第7回	主要理論（その1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第8回	主要理論（その2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第9回	主要理論（その3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第10回	主要理論（その4）	認知行動療法について学びます。
第11回	主要理論（その5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第12回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。

第13回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第14回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した課題を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

末武康弘（2018）『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎—』誠信書房

### 【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60％）と平常点（毎回の課題ほか：40％）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
  - understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
- Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

**アジア地域開発論 (2021年度以降入学者)**

佐野 竜平

配当年次／単位数：福コミ：1～4・臨心：2～4年次／2単位  
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

**【到達目標】**

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

Googleフォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%、課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】**

【Course Outline】 Good practices and important trends in community development in Asia, particularly Southeast Asia, will be the main focus for a better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge of Asian regional development in the context of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%), reports, and presentations (50%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

## アジア地域開発論 (2020年度以前入学者)

佐野 竜平

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

### 【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

Googleフォームによるリアクションペーパーの提出 (平常点)：50%、課題提出：50% (課題ファイル40%、発表10%)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 Good practices and important trends in community development in Asia, particularly Southeast Asia, will be the main focus for a better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge of Asian regional development in the context of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%), reports, and presentations (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**医療政策論**

小磯 明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、9月13日（金）・17日（火）・18日（水）。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業での意見交換を通じて、医療政策の重要性を認識する。

**【到達目標】**

医療政策とは何か、を理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は対面で実施する学生の。授業への積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

特に必要ないが、医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

**【参考書】**

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年。  
 小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年。  
 小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年。  
 小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年。  
 小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年。

**【成績評価の方法と基準】**

授業平常点60%、レポート提出40%。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

**【学生の意見等からの気づき】**

諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイントを使用する。

**【その他の重要事項】**

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

**【Outline (in English)】**

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.

At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least two hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

ENG300JB (その他の工学 / Engineering 300)

## 都市住宅政策論

水野 雅男

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

### 【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

### 【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年  
 「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年  
 「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年  
 「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年  
 「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年  
 「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年  
 「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

### 【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業の教材 (パワーポイントデータ) は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

### 【Outline (in English)】

#### < Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

#### < Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

#### < Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### < Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300)

**地域文化政策論**

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地域の文化をつくり、支える制度と人とはどのようなものか。その歴史と現状について、日本の歴史やいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

**【到達目標】**

地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わることの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	地域文化の継承と創造 (1)	鹿児島県奄美群島の島唄文化
第3回	地域文化の継承と創造 (2)	東日本大震災後の東北地方での継承活動
第4回	地域文化とはなにか	私達の身の回りにある文化に目を向ける
第5回	地域文化を支える政策 (1)	公教育の原理と理念
第6回	地域文化を支える政策 (2)	社会教育・生涯学習
第7回	地域文化を支える政策 (3)	文化行政(文化財保護を含む)
第8回	地域文化をつくる場所 (1)	地域の中の学校、文化の中の学校
第9回	地域文化をつくる場所 (2)	公民館・図書館・博物館・劇場
第10回	地域文化を支える人(1)	生活者としての私たち
第11回	地域文化を支える人(2)	社会教育職員、文化行政職員
第12回	地域文化を学ぶ(1)	生涯学習の実際
第13回	地域文化を学ぶ(2)	地域の再創造に向けて
第14回	まとめ	授業全体の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考文献や小さな課題をその都度提示するので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

佐藤一子『地域文化が若者を育てる—民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016

畑潤・草野滋之『表現・文化活動の社会教育学—生活の中で感性と知性を育む』学文社、2007

ほか適宜示す。

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50%、最終レポート50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は若干変更する場合がある。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]** This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.

**[Learning Objectives]** At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.

**[Learning activities outside of classroom]** Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.

**[Grading Criteria /Policy]** Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

POL300JB (政治学 / Politics 300)

## 政策評価論

倉根 明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、8月5日（月）・6日（火）・7日（水）。

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

### 【到達目標】

日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は3日間の集中講義となります。前半は政策評価と政策立案の理論、後半は事例紹介とワークシートを使った施策立案及び評価指標設定の演習（各自またはグループ）、最終日の午後には立案された施策をいくつかピックアップしてディスカッションを行います。また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の種類等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で施策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第11回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義の際に紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて講義の際に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、演習及びディスカッション50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

令和4年度の学生から「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいたため、令和5年度はディスカッションの時間を増やすように改善しました。結果、受講した全学生から肯定的な感想をもらうことができました。また、令和5年度の学生からは「自分に身近な政策（食や健康、まちづくり、利用したことのある公園整備など）が分かりやすく理解が深まった」という意見をいただいたことから、令和6年度については、学生に身近な政策を事を多く取り入れて進めたいと思います。

### 【その他の重要事項】

県庁で20年間の実務経験があり、特にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

### 【Outline (in English)】

This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.

Your overall grade in the course will be based on the following

Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 刑事司法と福祉

辰野 文理

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6114 司法福祉論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。

刑事司法は、犯罪問題に向けられた国家的諸活動の総称で、犯罪の防止、捜査、裁判、犯罪者の処遇に至る刑事手続の全過程を含むものである。具体的には、警察、検察、裁判、矯正、更生保護の諸活動を指す。

矯正は、刑務所等の矯正施設の保安警備、被収容者に対する処遇などを司っており、保護は、仮釈放に関する事務や仮釈放になった者等の保護観察、恩赦や犯罪予防活動に関する事などを担っている。

この中で、更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度であり、対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。

更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行っている。

近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきた。そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

### 【到達目標】

- ・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
- ・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
- ・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
- ・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。

11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所を目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。

また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。適宜資料を配付する。

### 【参考書】

- ・法務省保護局のサイト ([http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo\\_index.html](http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html))
- ・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂、2021年
- ・辰野文理『要説 更生保護[3版]』成文堂、2018年
- ・藤本・生島・辰野(編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房、2016年

### 【成績評価の方法と基準】

各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（30%）。

全範囲学習後に基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（70%）。成績の評価はこれらを総合して100点満点として行い、60点以上が合格となる。フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

多くの受講生にとって刑事司法や犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

### 【その他の重要事項】

法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".

"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.

The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menu of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".

Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.

#### 【Learning Objectives】

- ・ To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
- ・ To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
- ・ To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
- ・ To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.

#### 【Learning activities outside of classroom】

[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.

[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.

Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.

#### 【Grading Criteria /Policy】

A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).

The level of effort in the quiz for review (20%).

The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.

The answers to the quizzes will be presented as feedback. The final exam will be followed by a critique.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N6116 国際支援論」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogle フォーム等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第5回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第6回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第7回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第10回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第11回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第12回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%、課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 With a focus on inclusive development, basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development in the developing world are to be introduced.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

## 【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

## 【Outline (in English)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

## 【到達目標】

This course aims to provide practical and applicable knowledge and skills related to the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts

## 【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

## 【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

## 【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

## 【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

## 【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

### 【到達目標】

This course aims to provide practical and applicable knowledge and skills related to the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

### 【テキスト (教科書)】

Handouts

### 【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

### 【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

### 【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

### 【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

### 【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

### 【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

MAN300JB (経営学 / Management 300)

地域経営論

松本 昭

配当年次/単位数：2~4年次/2単位

備考 (履修条件等)：他学部 SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営 (マネジメント) のあり方について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。  
 ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性  
 ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係  
 ・地域経営に関する市民 (住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方  
 ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する  
 仕組みと課題  
 ・空き家・空き店舗等の既存の地域資源を活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということに常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	・講義ガイダンス、 ・「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	自治・分権と地域経営	・各回講義の要点解説 ・「地方自治」「地方分権」の今日的課題
第3回	住民参加と地域経営	・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権 ・参加、参画、協働、協創 (共創) と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創 (共創)型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成 ・具体的課題から合意形成を考える
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性 ・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化 (道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み)
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用 (PFI制度等の民間活用の施設整備)
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営 (長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に)
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営 ・ストック活用のまちづくり/リノベーションまちづくり

第13回	講義の総括①	レポート提出と個別指導
第14回	講義の総括②	・レポート評価とプレゼンテーション ・学生諸君からの感想と意見/講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦める。  
 「市民がまちを育むー現場に学ぶ住まいまちづくりー」 建築資料研究社  
 「社会的処方ー孤独という病を社会のつながりで治す方法」 西 智弘

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー 50%  
 ②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション 50% (レポート課題は6月前半に提示)

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介と考察が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to provide students with a basic understanding of the following issues and to raise their awareness of the issues and policies for dealing with each theme.

- ・ Basic legal systems related to regional management, and an overview and characteristics of representative systems
- ・ The relationship between national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ How to manage local communities by utilizing existing local resources

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction papers based on the lecture and subsequent plenary discussions and mini-workshops 50%.
- (2) Reports and presentations based on selected assignments 50% (Report assignments will be presented in the first half of June)

MAN300JB (経営学 / Management 300)

## ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

### 【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにとまなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論
9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正(不正開示不正会計)はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	<b>Final Presentation</b> 講義のまとめ、最終レポート提出について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義では、全5回の事前課題レポート(A4 1枚以内)の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

### 【参考書】

講義の中で随時紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する(最高10点)。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria / Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB (経営学 / Management 300)

## ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

## 【到達目標】

社会の課題解決に必要な資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

## 【参考書】

「改訂新版 非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社  
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、期末テスト (80%) ※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

## 【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

## 【Outline (in English)】

## 1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

## 2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

## 3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

## 4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB (経営学 / Management 300)

## NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：他学部SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

### 【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
- ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。

各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPOの社会的意義について考察する。
第4回	NPOの組織運営と他の主体との関係	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。
第5回	関心分野におけるNPO活動の調査／自由研究のテーマ検討	受講者自らの関心分野におけるNPO活動を調べるとともに、NPOに関連する自由研究のテーマを検討する。（必要に応じNPO論受講生OBOGの協力を得る）
第6回	NPOの活動事例紹介1「公園管理における多様な里山保全と市民の関わり」（予定）	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第7回	NPOの活動事例紹介2「アートを通じた居場所をつくる実践」（予定）	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第8回	NPOの活動事例紹介3「学校以外で育つ子が豊かに育つことのできる環境づくり」（予定）	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。

第9回	NPOに関する自由研究進捗フォローアップ	第5回授業で検討した自由研究の進捗を共有・フォローする。（必要に応じNPO論受講生OBOGの協力を得る）
第10回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイズングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究発表会1	第5回授業で検討したテーマ作成したテーマについて、個人又はグループ毎に自由研究の成果発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究発表会2	第5回授業で検討したテーマ作成したテーマについて、個人又はグループ毎に自由研究の成果発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（出席・リアクション）50点、(2) 中間レポート（NPO活動計画書）10点、(3) 期末試験（自由研究企画書及び発表）40点。

平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
  - ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
  - ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
- (注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介しします。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし  
(注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンとwifiが必要です。

### 【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

### 【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%、Short reports: 10%、in class contribution: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**福祉サービスの組織と経営**

千葉 正展

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多様化・複雑化した地域の福祉課題に対応するには、持続可能な福祉サービスの経営基盤づくりが必要である。受講生は非営利の福祉サービスの経営理論を学ぶ。

**【到達目標】**

本講義では、「1.福祉経営の特殊性と諸制度を確認」し、「2.福祉サービス経営に関する基礎理論の理解」、「3.福祉財務管理の理解」を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

経営や経済に関する関連科目が少ない学部であることも踏まえ、できるだけ具体的な事例や行政資料を用い、講義形式で進める。原則毎回学習支援システムを用いてミニテストを行う。ミニテストや授業内容への質問対応は、次回の授業で行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
【第1部】第1回	福祉サービス・福祉経営	経営の定義、福祉経営の特殊性
第2回	福祉サービスの担い手	社会福祉法人等、福祉サービスの担い手
第3回	福祉サービスの財源	施設整備や運営費財源
【第2部】第4回	経営管理の基礎理論①	科学的管理法・人間関係論
第5回	経営管理の基礎理論②	バーナードの組織論
第6回	経営管理の基礎理論③	ファヨールの管理過程論
第7回	経営管理の基礎理論④	チャンドラー・アンソフの経営戦略論
第8回	経営管理の基礎理論⑤	ポーターの経営戦略論
第9回	経営管理の基礎理論⑥	ミッション経営
第10回	経営管理の基礎理論⑦	マーケティング論
第11回	経営管理の基礎理論⑧	品質管理やリスク管理
第12回	経営管理の基礎理論⑨	BSC、ナレッジマネジメント、ヒューマンリソースマネジメント
第13回	経営管理の基礎理論⑩	モチベーション理論、リーダーシップ理論
【第3部】第14回	福祉財務諸表論入門	社会福祉法人の会計と経営分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

（予習）事前配布の授業は必ず一読すること。（授業中）配付資料に記載のない具体的な内容は必ずノートに要約記述すること。（復習）毎回の講義について根拠資料や法令などを確認し、ノートに補足すること。予習／復習時間は各2時間。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない

**【参考書】**

新MINERVA社会福祉士養成テキストブック「福祉サービスの組織と経営」（早瀬昇・千葉正展編／ミネルヴァ書房／2024年）

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、平常点及びミニテスト（50%）と期末試験（50%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業配付資料の分量が多いとの意見もあったが、しっかり読んだ学生からは授業後に振り返るとき理解しやすいとの意見も多かったことから、本年度も多くの授業資料を用いるので、受講生はしっかり読み込んで活用してほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配付や課題提出、授業内容や進行手順についての疑義照会は、学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

社会福祉士試験での履修要件科目「福祉サービスの組織と経営」に相当。厚生労働省が定める社会福祉士養成カリキュラムにおいて、教育に含むべき事項と本授業との授業計画との対応関係は次の通り。

「1. 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割」は、本授業の第1回から第3回の講義内容と対応

「2. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論」及び「3. 福祉サービス提供組織の経営と実際」は、本授業の第4回から第14回の講義内容と対応

「4. 福祉人材のマネジメント」は、本授業の第12回と第13回の講義内容と対応

**【Outline (in English)】**

< Course Outline & Learning Objectives > To practice the social work for diversified and complexed welfare issue at present, we must understand the managerial fundamentals that makes social welfare services effective and sustainable. Through this program, students will learn about the management theory of non-profits, including the social welfare corporations.

< Learning activities outside of classroom > Before each class meeting, students will be expected to have read the lesson material in advance. After class, refer the materials such as relevant act and regulations to the contents at the lecture. Your required study time is at least one hour for each class meeting (before/after).

< Grading Criteria/Policy > Term-end examination(50%), in-class contribution & mini-test(50%)

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

### 【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。

・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。

・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・ 授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・ 災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・ 震動体験（起震車） ・ 煙避難体験（煙体験ハウス） ・ 初期消火（訓練用消火器）	・ 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・ 人体に無害な煙を充滿させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・ 初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	気象災害と避難支援	・ 近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響、支援などについて理解する。
4	ロープワーク ・ 結びの基本と応用	・ 日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	災害の種類と災害心理	・ 地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。

6	クロスロード	・ 災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分などのように対応するかを考える。
7	心肺蘇生法 ・ 胸骨圧迫/AED操作 応急手当 ・ 止血法・災害時の手当	・ 救命の重要性を理解する。 ・ 心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・ 災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	防災講話 ・ 東日本大震災に学ぶ（大川小学校、釜石の奇跡）	・ 東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・ 災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
10	避難所 HUG	・ 避難所の開設、運営を模範的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・ 災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	防災講話 ・ 地域防災（自助、共助、公助）	・ 地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び防災時の行動について考える。
13	図上演習 DIG	・ 災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・ 各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・ 本授業を終えた後の理解度を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。  
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。  
授業時に参考となる資料を配布する。

### 【参考書】

授業内で随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験50%、平常点30%、レポート20%  
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

### 【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 30%, report 20%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 人権活動論

寺中 誠

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

#### 【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

#### 【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本 (ソーシャルキャピタル) としての人権と依存
第3回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権 II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義 (戦争責任) の狭間で
第10回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のプレについて。
第13回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任 (CSR) の流れ
第14回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」(法律文化社)を参照することが多いと思います。

#### 【参考書】

申惠ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」(影書房)、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊(朝陽会)ほか  
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。  
期末レポートないし試験の評価 (60%)  
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価 (40%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

#### 【Outline (in English)】

##### 【Outline】

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

##### 【Learning Objectives】

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

##### 【Learning activities outside of classroom】

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

##### 【Grading Criteria】

60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

## コミュニティアート

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：他学部SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

### 【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。

第9回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（大都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（5）	コミュニティアートの事例（大都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 期末レポート：70点  
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。

期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

– Analysis and evaluation of cases about community art

– Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

– Reviewing the class meeting

– Reading literature related to the class meeting

– Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%, Term-end report : 70%

TRS300JB (観光学 / Tourism Studies 300)

## 地域ツーリズム

野田 岳仁

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

備考 (履修条件等)：他学部 SSI 生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ (ウェルビーイング) の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

### 【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指す美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー (10%)、期末試験 (90%) の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

**精神保健福祉制度論 I**

三木 良子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6167 精神保健福祉論 I」を受講すること。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1. 精神保健医療福祉に関連する法制度の成立の背景を理解する
2. 精神保健医療福祉に関する法制度やサービスを理解する
3. 法制度や福祉サービスの理解を通して精神保健福祉士としての価値や実践を理解する
4. 精神保健福祉領域における人権について理解を深める

**【到達目標】**

1. 精神障害者に関する制度・施策を理解している
2. 精神障害者の医療に関する制度について理解している
3. 精神保健医療福祉領域の人権に関する課題について理解している
5. 精神障害者の医療の現場の精神保健福祉士の役割や実践を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

精神保健福祉に係る歴史や理念を理解し、現行の福祉施策の背景や動向について解説する。また、精神障害者をとりまく保健医療福祉に関する具体的な法律や制度及び現状について解説する。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、学習内容の確認
2	精神障害者と法制度	精神科医療における精神障害者の現状を理解する
3	精神保健福祉法の成立過程とこれまで	精神保健福祉法成立までの法律の変遷を理解する
4	精神保健福祉法①	精神保健福祉法の全体像を理解する
5	精神保健福祉法②	精神保健福祉法の詳細を理解する①
6	精神保健福祉法③	精神保健福祉法の詳細を理解する②
7	精神保健福祉法④	精神保健福祉法における精神保健福祉福祉士の役割
8	精神科救急の現状	精神科救急の現状や精神保健福祉士の役割を理解する
9	精神科医療がかかわりを持つ施策	自殺対策、認知症対策、依存症対策等
10	心神喪失者医療観察法①	心神喪失者医療観察法の全体像を理解する
11	心神喪失者医療観察法②	事例を通して当事者理解と精神保健福祉士の役割を理解する
12	障害者の権利条約と周辺法律	障害者の権利条約の成立過程について理解する
13	精神障害者の医療と関連する法律	障害者差別解消法、障害者虐待防止法、地域移行・地域定着と地域包括ケアシステム
14	試験	試験を実施する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時に説明する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業時に紹介する

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（課題提出、小テスト等を含む）50%、定期期末試験50%

※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

板書を丁寧に行う

**【Outline (in English)】**

Course outline

This lecture course is aimed understand lows, policies and any other systems for person with mental health issues and around them.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand below 1. 2. 3 and 4.

- 1. Policies about psychiatry and social service for person with mental health issues.
- 2. Support facilities for person with mental health issues.
- 3. Offenders' rehabilitation and act on medical care treatment for person who have caused serious cases under the condition of insanity.
- 4 Rights and with mental health issues.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

**Grading Criteria /Policy**Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 50%、Short reports and in class contribution: 50%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 精神保健福祉制度論Ⅱ

三木 良子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6168 精神保健福祉論Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

- 1. Actual life of person with mental health issues and importance of support system for them.
- 2. Social service of housing.
- 3. Social service of employment and working.
- 4. support system in community.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports and in class contribution: 50%

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 精神障害者の「本人らしい生活」について理解し、個々人に応じた居住支援や就労支援、余暇支援等について理解を深める
2. また、その際の精神福祉士の役割や実践課題などとともに、精神障害者の地域包括支援のための具体的な知識と方法を習得することを目的とする。

### 【到達目標】

1. 生活の実際と生活支援の意義と特徴を理解する
2. 居住支援に関する制度・施策について理解する
3. 就労支援に関する制度・施策について理解する
4. 地域生活支援システムについて理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

精神障害者の地域生活を支援するために必要な、概念の理解、法律や制度、支援方法について学ぶ。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパー提出なども求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、内容の確認
2	精神障害者の生活の実際	地域、医療における精神障害者の現状についての基礎知識を理解する
3	精神障害者の生活と権利	地域生活、医療における人権と権利擁護について理解する
4	居住支援①	居住支援制度の概要を理解する
5	居住支援②	居住支援にかかわる専門職とその役割を理解する
6	雇用支援①	雇用・就労の現状を理解する
7	雇用支援②	雇用・就労に関する法律、制度を理解する
8	精神障害者の経済的支援①	所得保障の全体像を理解する
9	精神障害者の経済的支援②	低所得に関する制度を理解する
10	精神障害者の経済的支援③	事例を通した所得保障や制度を理解する
11	地域生活支援①	精神障害者の地域移行・地域定着の事例理解
12	地域生活支援②	精神障害者の就労に関する事例理解
13	地域生活支援③	精神障害者の地域生活支援における精神保健福祉士の役割を理解する
14	試験	試験の実施

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業で取り扱う内容に関連する文献等を指示し、予習を行う。また、授業時にも復習用の文献を提示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業時に紹介する

### 【参考書】

授業時に紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出、小テスト等を含む）50%、定期期末試験50%

※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行う

### 【Outline (in English)】

Course outline

This lecture course is aimed understand lows for working, housing and other support to live well for person with mental health issues.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand below 1. 2. 3. 4. and 5

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## Disability and Development in Asia

佐野 竜平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

## 【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be acquired based on input from local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time allotted for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## Disability and Development in Asia

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

### 【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be acquired based on input from local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time allotted for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 子ども家庭福祉論

岩田 美香

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6204 児童福祉論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、子どもと家族をとりまく問題と、それに対応する制度や実践について体系的に学ぶことを目的とする。履修者は、本科目だけで完結することなく、他の社会福祉分野にも関心をもち、相互理解の中で考察を深めてもらいたい。

### 【到達目標】

- ・現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて理解する。
- ・児童福祉制度とサービスについて、現場における実践もふまえて理解する。
- ・特に、子どもの権利と虐待問題、そして社会的養護に関する理解と考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと彼らを取り巻く環境について、また②子ども家庭福祉の理念と概念を概観し、③子どもの権利も含めた子どものとらえ方を歴史的経緯の中で把握する。一方、④子ども家庭福祉に関わる法律や福祉援助サービスについても、現状と課題の検討を含めながら理解を深めていく。最後に、⑤今後の子ども家庭福祉の可能性についても考察する。

授業では、子ども家庭福祉にかかわるゲストスピーカーから現場の実践についても学ぶ。

リアクションペーパーは、次回以降の授業において名前等を伏せて紹介していく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、現代の子ども・家族の生活	授業の進め方、自分が子どもだったころ、子どもの定義、子どもと家族の生活と社会
第2回	子ども家庭福祉（児童福祉）の歴史	海外と日本における児童福祉の歴史、児童福祉から子ども家庭福祉へ
第3回	子どもの権利と福祉	子どもの人権・権利保障、保護としての子ども・権利主体としての子ども
第4回	子どもを守るしくみ	子ども家庭福祉にかかわる法制度、国・都道府県・市町村の役割
第5回	生命倫理と母子保健	母子保健法と諸サービス、子育て世代包括支援センター、出生前診断と母子保健
第6回	少子化対策と子育て支援、現代における保育とは	少子高齢社会の子育て、少子化対策と子育て支援策の検討、社会福祉における保育、待機児童問題、保育ソーシャルワーク
第7回	学齢期の子どもの教育と福祉	学齢期を考える、児童健全育成事業、教育と福祉の重なり、スクールソーシャルワーク
第8回	障害と子ども・家族	「障害」とは何か、障害のある子どもに関する制度と支援の仕組み、障害のある子どもの育ちと家族
第9回	子ども虐待—予防・発見から介入・支援	児童虐待の定義と現状、児童虐待対応制度の変遷、他機関連携、虐待予防と課題
第10回	社会的養護—子育ての自己責任と社会的養護	社会的養護とは、社会的養護に係わる施設や里親等、社会的養護の課題
第11回	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、貧困の代代的再生産、子どもの貧困に対する対策と課題
第12回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状、ひとり親家族に関する制度・サービス、DV問題、ひとり親家族と社会
第13回	非行少年の背景と支援	非行少年のイメージと実際、少年保護の理念と保護処分、少年法改正、非行少年支援を考える

第14回 子ども家庭福祉の担い手 子ども家庭福祉の担い手とは、専門職の専門性とは、多職種連携と今後の課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、授業のトピックに関して、事前に身の回りのニュースなどに目を通しておくこと。授業では必要に応じて、授業内課題や、授業の終わりにリアクションペーパーの提出を求める。授業を踏まえてテキストの該当箇所を復習すること。

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2022）『子ども家庭福祉—子ども・家族・社会をどうとらえるか』〈第2刷〉生活書院

### 【参考書】

『児童福祉六法』

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（20%）、講義内課題（30%）、定期試験（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide students with an introductory understanding of the social welfare of children and families. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution (20%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 権利擁護と成年後見

西田 ちゆき

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、権利擁護の立場から、成年後見制度を学びます。

具体的には、

- (1) 民法や行政法等、成年後見制度に関連する法律とその実際を解説します。
- (2) 成年後見制度を補完する社会福祉の事業やサービスに関する学習します。
- (3) 実践事例の解説と検討します。
- (4) ソーシャルワークにおける権利擁護の視点と価値・倫理の再検討します。

### 【到達目標】

- ・権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。
- ・成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題や課題、実践上の課題を理解し、事例を説明、考察できるようになる。
- ・事例検討において、権利擁護の視点を確認できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業とし、個別の事情には配慮します。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	権利擁護と意思決定支援	権利擁護と意思決定支援おん意義と実際の対応について学びます。
第2回	民法についての理解1	親族法・相続法について、基本的な考え方を学びます。
第3回	民法についての理解2	財産法について基本的な考え方を学びます。
第4回	行政法についての理解	行政法について基本的な知識を学びます。
第5回	成年後見制度の概要と法定後見制度	成年後見制度の全体像と法定後見制度について学びます。
第6回	任意後見制度	任意後見制度について学びます。
第7回	福祉サービス利用支援事業の概要と課題	社会福祉協議会が実施している権利擁護サービスについて学びます。
第8回	児童虐待と未成年後見制度	児童虐待防止法と未成年後見制度について、事例を通して学びます。
第9回	高齢者虐待防止法と虐待への対応	高齢者虐待防止法の要点と、高齢者虐待の事例を通し、権利擁護について学びます。
第10回	障害者虐待防止法と虐待への対応	障害者虐待防止法の要点と、障害者虐待の事例を通し、権利擁護について学びます。
第11回	消費者被害への対応	消費者被害とそれに対応する法律、実際の対応について学びます。

第12回	制度の間にある人々への権利擁護	ホームレス、刑余者等既存の制度では十分に対応できない人々への支援について学びます。
第13回	権利擁護を担う人材	権利擁護を担う人材とその育成について学びます。
第14回	総括	総括として、権利擁護の課題について学びます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指示されてきた箇所については事前に予習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『権利擁護を支える法制度』中央法規、2021年

### 【参考書】

公益社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士のための成年後見入門』民事法研究会 2019年  
 永田祐・堀善昭・生田一郎・松宮良典『よくわかる権利擁護と成年後見制度』初版 ミネルヴァ書房 2016年  
 成年後見センターリーガルサポート編『後見六法』民事法研究会 2022年  
 その他授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）と平常点（40％）の総合評価とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義だけでなく、事例検討などを通して皆さんが主体的に権利擁護について考えられるような内容にしていきます。また、国家試験で出題されている法律の要点についてできるだけわかりやすく解説できるよう準備します。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用し、事前課題や授業時使用の資料をアップしていきます。メールで事前通知は致しますが、授業前には必ず学習支援システムをご確認ください。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn the adult guardianship system from the standpoint of advocacy of human rights.

Specifically, we will

- (1) Explanation of civil and administrative laws related to adult guardianship system.
- (2) Learning about social welfare projects and services complementing the adult guardianship system.
- (3) Explanation and examination of practical cases.
- (4) Review the perspectives, values, and ethics of rights protection in social work.

Learning Objectives are follows.

・ Understand the concept of rights protection and the outline of related laws and systems.

・ Understand the relevant laws of the adult guardianship system, contents of the legal guardianship and voluntary guardianship systems, procedural methods, problems and issues in the systems, and issues in practice, and be able to explain and discuss case studies.

・ To be able to confirm the perspective of rights protection in case studies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria will be based on the final exam (60%) and the normal score (40%).

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## セルフヘルプグループ

横川 剛毅

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

### 【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。またSHGとは何か
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいや隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者のSHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する
第13回	学びの成果の共有①	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする
第14回	学びの成果の共有②	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

### 【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」（久保絃章 著）相川書房 2004他、授業内で適宜伝えます。

### 【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参画度合いなどの平常点（20%）、リアクション（30%）、レポート課題（50%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じた学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.

People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## スクールソーシャルワーク

岩田 美香

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

### 【到達目標】

- ・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
- ・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
- ・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
- ・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について考察する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の検討も含めながら考察を深めていく。
- ・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
- ・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
- ・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもと家族の理解1	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第2回	子どもと家族の理解2	現代の子育てと子育て、多様化する家族
第3回	学校・教育の現状1	教育費、学校現場と教育の現状
第4回	学校・教育の現状2	学校現場に福祉援助が入るということ
第5回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第6回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第7回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第8回	スクールソーシャルワーク実践1	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第9回	スクールソーシャルワーク実践2	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援
第10回	スクールソーシャルワーク実践3	発達課題と特別支援
第11回	スクールソーシャルワーク実践4	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第12回	ゲストスピーカー	スクールソーシャルワーカーによる講義
第13回	連携の実際とスクールソーシャルワーカー	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第14回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
- ・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

講義内で資料を配布する。

### 【参考書】

・山野則子・野田正人・半場利美佳編 (2016) 『よくわかるスクールソーシャルワーク (第2版)』 ミネルヴァ書房

・門田光司 (2010) 『学校ソーシャルワーク実践 国際動向とわが国での展開』 ミネルヴァ書房  
・大塚美和子・西野緑・峯本耕治 (2020) 『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』 明石書店  
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー (20%)、講義内課題 (30%)、定期試験 (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families, and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in school social work.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution (20%).

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II

高良 麻子

配当年次/単位数：3～4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2021年度以降入学者のみ受講可能。2018～2020年度入学者は「N6210 ソーシャルワークII」を受講すること。2017年度以前入学者は「N6212 ソーシャルワークIII (理論)」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

### 【到達目標】

・ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために必要な基本的な知識と技術について説明できる。  
 ・中でも、人と環境の交互作用について説明できる。  
 ・また、それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク
第3回	実践モデル アプローチ①	治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル
第4回	アプローチ②	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第5回	アプローチ③	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第6回	アプローチ④	危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ
第7回	アプローチ⑤	ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第8回	コミュニティワーク	コミュニティワークの意義と展開 地域アセスメント
第9回	ネットワーク	ネットワーク ネットワーキング コーディネーション
第10回	カンファレンス	会議の種類 プレゼンテーション ファシリテーション
第11回	社会資源	社会資源の理解 社会資源の活用・調整・開発
第12回	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義と目的 ネゴシエーション
第13回	ジェネラリストソーシャルワーク実践の実際	ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を実現する実践
第14回	試験	試験と解説

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (2021) 『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』 中央法規

### 【参考書】

- ①一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (2021) 『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)』 中央法規
- ②空閑浩人・白澤正和・和気純子編著 (2022) 『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法II』 ミネルヴァ書房
- ③高良麻子・佐々木千里編著 (2022) 『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために』 かもがわ出版
- ④川村隆彦 (2011) 『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』 中央法規
- ⑤久保絃章・副田あけみ編著 (2006) 『ソーシャルワークの実践モデル- 心理社会的アプローチからナラティブまで-』 川島書店

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点60%
- ・期末試験40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice. At the end of the course, students are expected to explain basic knowledge and skills concerning generalist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end exam (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

### 【到達目標】

グローバリゼーションの視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する差別と生活問題について理解する。  
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。  
多文化ソーシャルワークの実践について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、グローバル化した現代社会の特質を整理・検討し、個人の生活問題との関係性を検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例などの検討を行っていく。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	集団討議①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解 エスニシティとインターセクショナリティ
第3回	集団討議②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	集団討議③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	集団討議④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	集団討議⑤	前半の振り返りと多文化社会における課題の検討
第7回	現代社会の特質①	資本と労働の国際移動についての歴史的検討
第8回	現代社会の特質②	「周縁」における労働実態
第9回	在日外国人の置かれた状況①	入管法と外国人労働者政策および外国人労働者の社会保障
第10回	在日外国人の置かれた状況②	外国人労働者の医療・福祉問題
第11回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史の変遷とその特徴
第12回	多文化ソーシャルワークの実践	アメリカにおけるハルハウスおよび近年の実践状況
第13回	日本における多文化ソーシャルワーク	労災・医療・福祉問題と方法論としてのアドボカシーネットワーク
第14回	試験	学習した内容の試験

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加・発言 (60%)  
最終試験 (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

### 【その他の重要事項】

外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration.

【Learning Objectives】 At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class attendance and attitude in class: 60%、Term-end examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 死生観とソーシャルワーク

安西 美咲

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

### 【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニケーション学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ピリープメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第10回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。

社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規  
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容40%、ディスカッション・ディベートへの参加度20%、学期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会や東日本震災被災地の行政に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】 The goal is to understand the view of life and death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution(20%).

CIM300JB,CIM200JC (内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300, 内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 200)

## 精神疾患とその治療

関谷 秀子

配当年次／単位数：福コミ：2～4 心理：1～4 年次／2 単位  
備考（履修条件等）：福祉コミュニティ学科と臨床心理学科とで配当年次が異なるため、注意すること。2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N6216 精神医学」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

### 【到達目標】

精神科医療の歴史と現状を理解する。  
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。  
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。  
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連  
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／ 精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第2回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第3回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第4回	精神症状学①	「神経心理学」
第5回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第6回	精神障害①	「統合失調症」
第7回	精神障害②	「気分障害」
第8回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第9回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第10回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第11回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第12回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第13回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

「思春期に心が折れた時親がすべきことー不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子 中央公論新社 2020.10  
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

### 【その他の重要事項】

精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

### 【Outline (in English)】

The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution: 40%, Term-end examination: 60%.

PSY300JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200)

## 臨床心理学概論

小高 佐友里

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。福祉コミュニティ学科と、臨床心理学科とで配当年次が異なるため、注意すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学に関する基礎的な知識や理論を概説し、現代社会に生きる人々が抱える心身の健康問題について理解を深めることで、支援の方策を検討する力を養うことを目的とします。その際、臨床心理学の諸理論について、個人または集団に対して啓発・予防的に行う教育的支援である「心理教育（psycho-education）」の視点から、受講生自身のメンタルヘルスへの気づきを深めると共に、家族や友人といった周囲の人々への理解を広げることで、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための視点についてもお伝えします。

## 【到達目標】

- ①心理学における臨床心理学の位置づけ、その発展の歴史について理解することができる。
- ②臨床心理学的支援の方法に関する知識や理論について理解することができる。
- ③人々が抱える心身の健康問題について、臨床心理学の視点から具体的な支援の方策を検討することができる。
- ④グループで協働することの重要性について理解し、日常生活においても積極的に活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドや配布資料を用いた講義を基本としますが、臨床心理学の位置づけやその発展の歴史、代表的・基礎的な知識や理論についての理解や、受講生の授業への積極的な参加を促すために、主体的・対話的で深い学習（アクティブラーニング）の手法を取り入れていきます。具体的には、ペアやグループでのディスカッションへの取り組みを通して、互いの理解を正しく共有するための活動を行います。また、体験的なワークを取り入れることで、抽象的な理論や概念を、実感を通して学ぶ機会を積極的に取り入れます。さらに、授業中の小レポートやリアクションペーパーへの記入により、個人の理解度や疑問点を確認し、それに対するフィードバックや情報の補足を通して、本授業への理解を自己評価する機会を設けたいと思います。このような取り組みを通し、受講生が知識の獲得だけでなく、複雑化する現代社会における心身の健康問題や、日常生活で直面する可能性のある困りごとについて、臨床心理学の視点から、支援や改善の手立てを検討する手がかりを示していきたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、目的、目標、心構え、手続き等について説明を行います。その他、イントロダクションとして、臨床心理学の歴史と発展について概説を行います。
第2回	心理療法を知る①	精神力動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第3回	心理療法を知る②	ヒューマニスティックアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第4回	心理療法を知る③	認知行動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第5回	心理アセスメントと関わる技法①	最新の知能理論（CHC理論）を紹介し、アセスメントの実践への応用として感情知能理論に基づいたソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の理論について概説します。その上で、SELを体験します。
第6回	心理アセスメントと関わる技法②	アセスメントの基礎理論（面接法、検査法、観察法等）について概説し、理論に基づいた体験的なワークを行います。

第7回	心理療法を知る④	その他のアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的なワークを行います。
第8回	精神疾患とその対応①	統合失調症、摂食障害の特徴とその対応について概説します。
第9回	精神疾患とその対応②	気分障害、双極性障害の特徴とその対応について概説します。
第10回	精神疾患とその対応③	強迫性障害、不安障害、パーソナリティ障害の特徴とその対応について概説します。
第11回	精神疾患とその対応④	発達障害の特徴とその対応について概説します。
第12回	精神疾患とその対応⑤	依存症の特徴とその対応について概説します。
第13回	精神疾患とその対応⑥	PTSDの特徴とその対応について概説します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、「心理教育」の視点から、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための方策について検討します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習の効果を高めていくために、事前に指示したテキストの該当箇所や自身で調べた資料に、あらかじめ目を通した上で授業に臨んでください。また、授業中に理解が不十分であった内容については、授業の配布資料や授業中に紹介した参考文献に目を通し、知識を整理しておくようお願いいたします。わからないことや疑問点などは積極的に質問してください。また、授業で学んだ内容について理解を深めるために、指示された課題を毎回提出してください。本授業の準備学習および復習時間は各2時間を想定しています。

## 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。特定のテキストは使用しません。

## 【参考書】

武田明典(編著)(2022). 自己理解の心理学 北樹出版 (ISBN:9784779306990)

武田明典(編著)(2023). 心理教育としての臨床心理学 北樹出版 (ISBN : 9784779307027)

その他の参考書については、その都度ご紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点40%と期末試験60%により決定します。平常点は授業への参加の意欲（他者との協働や発表への積極的な関与；全ての学生が平等に機会を持つことを前提とします）、授業中に出席する小レポートやリアクションペーパーへの記入の内容（思考力や文章構成力を見ます）について、あらかじめ設定した評価基準に基づき得点化します。詳しくは第1回のオリエンテーションでお伝えしますので、必ず出席してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的なやり取りができるよう工夫したいと思います。

## 【その他の重要事項】

教育・福祉領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

## 異文化心理学

奥山 今日子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとく経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところかたどられている部分が多くあります。私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

### 【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない

### 【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％  
期末レポート60％

### 【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにごさ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみたいと思います。

### 【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

### 【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

### 【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

### 【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

### 【Grading criteria】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%  
Year-end Report 60%

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

## 教育心理学特講

大瀧 玲子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、8月5日（月）・6日（火）・7日（水）。

2018年度以降の入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N6225 教育心理学」を受講すること。

教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を交え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

### 【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方や、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ

12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ
14	総括	授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著  
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）

授業参加およびリアクションペーパー等（40％）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces educational psychology to students taking this course.

Learning Objectives:

The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology. Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

Your overall grade in the class will be decided based of the following

Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

## 芸術療法

蜂谷 和郎

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：抽選科目。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

### 【到達目標】

作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。  
作品制作を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。  
言葉による伝達スキルと能動的思考を獲得する。  
認知症への理解と実践的対応を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実技・オイルパステルを使用した作画・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり  
理論・臨床美術の概要  
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の簡単なプログラムを体験。受講生全員の自己紹介を行う。鉛筆(2B)持参
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。
3	臨床美術のアートプログラム 量感画	リングを描く。各自リング、オイルパステル持参グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
4	臨床美術のアートプログラム 抽象表現	アナログ画。音や味を描く。オイルパステル持参
5	アートコミュニケーション	二人一組となり作画する
6	美術の苦手意識を取り払う	様々な技法による描写と模写。鉛筆、消しゴム持参
7	臨床美術のアートプログラム 量感画	茄子を描く。各自茄子とオイルパステル持参持参
8	臨床美術のアートプログラム 立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	臨床美術士の役割	実践現場における臨床美術士の役割や考え方を学ぶ
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。以降各自サツマイモを毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成
12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング①	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング②	前週の反省をふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅課題は100%提出

自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、鉛筆（2B）、消しゴム、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

### 【参考書】

参考書は必要としない

### 【成績評価の方法と基準】

- 1 出席確認 出席カードにて確認
- 2 試験方法 なし
- 3 採点基準 提出物（30%）、平常点（30%）、ロールプレイング（40%）オンラインになった場合には 提出物（60%）平常点（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やすとともにコミュニケーションをとる人数も増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

持ち物の告知は学習支援システムにより行う。

### 【その他の重要事項】

21世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

### 【Outline (in English)】

Clinical art that stimulated the brain by expressing art Opened the way for prevention and improvement of dementia Since the start in 1996,clinical artist doctors and counselors have achieved results together It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children autistic people mental health of social workers. We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals and facilities.

GOal Learn the expressiveness and self-expression of art

Improve communication skills

improve your communication skills

Gain understanding and response to dementia

Home assignments 100% submit home assignments

Home assignments are for understanding the contents of the class so take enough time

Preparatory learning The standard review time is 2 hours

confirm attendance by call

No exams

Scoring criteria Submitted work 30% Normal point 30% Role-playing 40%

(If online Submitted work 60% Normal point 40%)

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

**芸術療法**

蜂谷 和郎

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：抽選科目。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

**【到達目標】**

作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。  
作品制作を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。  
言葉による伝達スキルと能動的思考を獲得する。  
認知症への理解と実践的対応を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

実技・オイルパステルを使用した作画・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり  
理論・臨床美術の概要  
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の簡単なプログラムを体験。受講生全員の自己紹介を行う。鉛筆(2B)持参
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。
3	臨床美術のアートプログラム 量感画	リングを描く。各自リング、オイルパステル持参グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
4	臨床美術のアートプログラム 抽象表現	アナログ画。音や味を描く。オイルパステル持参
5	アートコミュニケーション	二人一組となり作画する オイルパステル持参
6	美術の苦手意識を取り払う	様々な技法による描写と模写。鉛筆、消しゴム持参
7	臨床美術のアートプログラム 量感画	茄子を描く。各自茄子とオイルパステル持参持参
8	臨床美術のアートプログラム 立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	臨床美術士の役割	実践現場における臨床美術士の役割や考え方を学ぶ
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。以降各自サツマイモを毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成
12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング①	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング②	前週の反省をふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

自宅課題は100%提出

自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、鉛筆（2B）、消しゴム、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

**【参考書】**

参考書は必要としない

**【成績評価の方法と基準】**

- 1 出席確認 出席カードにて確認
- 2 試験方法 なし
- 3 採点基準 提出物（30%）、平常点（30%）、ロールプレイング（40%）  
オンラインになった場合には 提出物（60%）平常点（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やすとともにコミュニケーションをとる人数も増やす。

**【学生が準備すべき機器他】**

持ち物の告知は学習支援システムにより行う。

**【その他の重要事項】**

21世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

**【Outline (in English)】**

Clinical art that stimulated the brain by expressing art Opened the way for prevention and improvement of dementia Since the start in 1996,clinical artist doctors and counselors have achieved results together It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children autistic people mental health of social workers. We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals and facilities. GOal Learn the expressiveness and self-expression of art

Improve communication skills

improve your communication skills

Gain understanding and response to dementia

Home assignments 100% submit home assignments

Home assignments are for understanding the contents of the class so take enough time

Preparatory learning The standard review time is 2 hours

confirm attendance by call

No exams

Scoring criteria Submitted work 30% Normal point 30% Role-playing 40%

(If online Submitted work 60% Normal point 40%)

PSY200JC (心理学 / Psychology 200)

## 公認心理師の職責

津村 麻紀

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ履修可能。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公認心理師として必要な知識、法的義務、倫理、態度や行動について学びます。また、公認心理師として社会から求められる役割について具体的に把握し、そのために必要な知識や技能の習得について学びます。

### 【到達目標】

公認心理師に求められる役割、法的義務、倫理や責務、および臨床実践に不可欠な知識と技能を理解し、公認心理師としてのものの見方を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的事例の提示やグループワークを取り入れつつ、各自が具体的に考え、取り組み、理解を深めていけるように進めます。対面での授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインでの授業となる場合があります。授業計画の変更やレジュメ、資料は学習支援システムで適宜提示します。リアクションペーパーを実施した際は、次の回の講義でフィードバックを行い、全体で共有します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 公認心理師とは何か	授業の概要、進め方、評価方法について、公認心理師資格の概要の説明
第2回	公認心理師の役割	公認心理師に求められる役割について
第3回	公認心理師の法的義務	公認心理師法に基づく法的義務について
第4回	公認心理師の倫理	公認心理師の職業倫理的責任について
第5回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	要心理支援者の安全確保のために必要な視点について
第6回	情報の適切な取り扱い	守秘義務及び情報共有等、心理業務における情報の適切な取り扱いの必要性について
第7回	公認心理師の具体的業務①	保健医療領域における公認心理師の業務
第8回	公認心理師の具体的業務②	身体医療領域における公認心理師の業務
第9回	公認心理師の具体的業務③	福祉・教育領域における公認心理師の業務
第10回	公認心理師の具外的業務④	司法犯罪・産業領域における公認心理師の業務
第11回	支援者としての自己課題発見・解決能力	公認心理師としての自己知覚と課題解決のための能力について
第12回	多職種連携及び地域連携	多職種連携による支援の意義、チームにおける公認心理師の役割について
第13回	生涯学習と自己研鑽	生涯にわたる研究と研修について
第14回	試験、およびまとめ	これまでの授業の内容の理解の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。適宜資料を配布します。

### 【参考書】

野島一彦編『公認心理師の基礎と実践Ⅰ 公認心理師の職責』遠見書房

### 【成績評価の方法と基準】

平常点およびリアクションペーパー（40%）と期末試験（60%）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や意見について、授業改善に効果的と思われるものを適宜取り入れます。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等に学習支援システムを利用します。

### 【Outline (in English)】

This unit develops understanding of the imperative knowledge to become the Japanese Certified Public Psychologist. Theme includes ethical responsibilities, legal obligations, duty of care, managing information including confidentiality, collaboration with other professions, ability of problem solutions and self-development. Students examine roles in various practices and critical issues, and are expected to understand the awareness of high ethical sensitivity, professionalism, and the importance of continuing learning in individuals. After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content. Final grade will be decided based on the following: term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

**産業・組織心理学**

小林 由佳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、組織における人の行動について理解するとともに、職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援を学ぶ。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、次のとおりである。

- (1) 組織における人の行動について概説できること
- (2) 職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義を中心とするが、授業内での発表やディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れながら進めていく。対面授業を基本とする。状況により方法の変更が必要となるときは、学習支援システムで提示する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と成績評価、授業内容の概説
第2回	産業・組織心理学への導入	産業・組織心理学の対象範囲、働く人の現状
第3回	産業・組織心理学の歴史と発展	産業心理学および組織心理学の歴史と発展、課題
第4回	キャリア発達の理論	キャリアに関する各種理論の解説と議論
第5回	職場集団のダイナミクスとコミュニケーション	グループダイナミクス、コミュニケーションについての解説と議論
第6回	リーダーシップ	リーダーシップ理論の解説と議論
第7回	モチベーション	モチベーション理論の解説と議論
第8回	働く人のパフォーマンスとエンゲージメント	パフォーマンス、エンゲージメントについての解説と議論
第9回	購買行動と消費者心理	購買行動と消費者心理についての解説と議論
第10回	働く人のストレスと心理学的アセスメント	職業性ストレス理論、心理学的アセスメント
第11回	産業心理臨床	産業領域におけるケース対応や背景となる状況の解説と議論
第12回	メンタルヘルス対策の基本	メンタルヘルス対策（一次～三次予防）の解説と議論
第13回	職場のハラスメント問題	職場のハラスメント問題の現状と背景に関する解説と議論
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめ、試験の実施方法等の伝達

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内容に関連した発展課題を指示するので、毎回の授業の間にそれに取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

参考書は授業の中で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

発展課題（50%）＋期末試験（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

発展課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める。

**【Outline (in English)】**

Course outline : In this class, students will learn theories about organizational behavior and enhance their understanding of problems and support in occupational life. Classes consist of lectures and discussions. They will also learn about common problems in career formation.

Learning Objectives : The objectives of this class are as follows.

- (1) To be able to give an overview of human behavior in organizations

(2) To be able to explain the psychological support and methods needed to deal with problems in the workplace

Learning activities outside of the classroom : Developmental assignments related to the class content will be given, and students are expected to work on them between each class session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Developmental assignments (50%) + final exam (50%)

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 臨床心理学特講

末武 康弘

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ履修可能。2017年度以前入学者は「N6505 臨床心理学Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

### 【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第2回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第3回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第4回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第5回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第6回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第7回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第8回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第9回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルビヤベックの著作等から考察します。
第10回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第11回	主要な概念と理論（9）：芸術療法、サイコドラマ、読書療法	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。

第12回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第13回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多面的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第14回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000字前後）（60％）と平常点（毎回の発展課題ほか：40％）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

### 【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 精神分析学

中 康

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神的発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

### 【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

PCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業での質疑応答やディスカッションを行うほか、リアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	精神分析学の誕生①	メスメルの磁気術、催眠術
第2回	精神分析学の誕生②	プロイエルと症例アンナO、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第3回	無意識、フロイトの夢判	心の局所論モデル、夢分析、心の構
第4回	精神的発達論①	造論モデル、防衛機制 口唇期、肛門期、幼児性器期、エ
第5回	精神的発達論②	ディプス・コンプレックス、潜伏期、 性器期、退行と固着 思春期青年期、性器統裁、対象選択、 超自我の構造的変化、Blosによる思 春期の発達論
第6回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第7回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第8回	精神分析療法と精神分 析的精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、 精神分析的な心理療法、心理療法の進め 方。アセスメントと治療契約、適応
第9回	契約	治療契約について
第10回	退行	治療的退行について
第11回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第12回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈につ いて
第13回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(30%)にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

### 【その他の重要事項】

精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

### 【Outline (in English)】

### 【Course outline】

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

### 【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

### 【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

### 【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 児童精神医学

関谷 秀子

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は1950年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、国際的診断分類学の臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

### 【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。  
児童・思春期の心の発達について理解する。  
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。  
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主にP Cプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19世紀の子ども観について。
第2回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第3回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第4回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マラーの発達理論。
第5回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第6回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第7回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第8回	不登校①	小学生の不登校
第9回	不登校②	思春期の不登校
第10回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第11回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第12回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第13回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%),平常点(40%)にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

### 【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

### 【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

**認知行動療法**

藤島 雄磨

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけでなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナダント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（40%）と期末レポート課題（60%）によって総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

**【その他の重要事項】**

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

**【Outline (in English)】**

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 投映法特講

津村 麻紀

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：抽選科目。2017年度以前入学者は科目名称・授業コードが異なる（投映法特講／N6511）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

投映法を中心とした心理検査の種類と意義に着目し、各種心理検査の理論および解釈を学ぶと共に、被検者の心理的体験について理解する。

### 【到達目標】

代表的な質問紙法と投映法の種類と意義を把握し、各種心理検査の理論および解釈について説明することができる。被検者体験を通して被検者の心理を理解し、自分自身で検査結果の整理を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

代表的な質問紙法と投映法の心理検査について理論的学習と被検者体験を行う。講義内で体験した各種心理検査の採点・解釈の方法を解説し、学生自身に実施してもらう。リアクションペーパーやグループディスカッションで理解度を確認する。リアクションペーパー等の課題に対するフィードバックは講義内で適宜行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投映法を学ぶということ	オリエンテーション
第2回	質問紙法概論	質問紙法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第3回	矢田部ギルフォード性格検査（YG性格検査）	YG性格検査を体験し、理論と解釈を学ぶ
第4回	東大式エゴグラム（TEG）	TEGを体験し、理論と解釈を学ぶ
第5回	ミネソタ多面的人格目録（MMPI）	MMPIを体験し、理論と解釈を学ぶ
第6回	投映法概論	投映法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第7回	絵画欲求不満テスト（P-Fスタディー）	P-Fスタディーを体験し、理論と解釈を学ぶ
第8回	文章完成法（SCT）	SCTを体験し、理論と解釈を学ぶ
第9回	描画法	バウムテスト、HTP等の描画法を体験し、理論と解釈を学ぶ
第10回	絵画統覚検査（TAT）	TATを体験し、理論と解釈を学ぶ
第11回	ロールシャッハテスト①	集団ロールシャッハテストを体験する
第12回	ロールシャッハテスト②	ロールシャッハテストの理論と解釈を学ぶ
第13回	臨床場面における質問紙法と投映法	臨床場面での質問紙法と投映法の活かし方を学ぶ
第14回	学期末試験・まとめと解説	学期末試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で体験した心理検査を自分で採点・解釈し、講義内容の理解を深める。また、授業外で心理検査に関するレポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

適宜、講義内で参考文献を紹介し資料を配布する。

### 【参考書】

適宜、講義内で参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60％）および平常点（40％）の合計で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

体験学習の希望が多いため、被検者体験を中心に授業を実施する。

### 【その他の重要事項】

投映法は、クライアントが検査を受ける時にどのような気持ちになるか、クライアントが検査結果を聞いてどう捉えるかを理解することは重要で、それらの情報はアセスメントの重要な材料ともなります。したがって、理論的学習だけではなく体験的学習への積極的な取り組みを期待します。

### 【Outline (in English)】

This course offers an overview of the theory and history of various psychological tests including projective tests. At the end of this course, students are expected to master the theory and the way of calculation and interpretation of each test, to understand subject's psychological tendencies through test learning. Before each class meeting, students will be expected to complete required psychological test, and to review contents learned after each class. Your home study time will be more than two hours at a time. Grading will be decided based on in-class contribution(40%), and term-end examination(60%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

**グループアプローチ**

大竹 直子

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

**【到達目標】**

グループ・アプローチについての理論を理解するとともに、グループ体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、毎回の授業において前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半は毎回異なったメンバーとグループを組み、グループ・ワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があり得ます。）また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験（持込不可）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しません。（プリントを配布します。A4版のファイルをご準備ください。）

**【参考書】**

講義の中で提示します

**【成績評価の方法と基準】**

- ①最終試験 60%
- ②平常点 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねることに楽しみになってきた」「自己理解が深まった」「グループの意義を実感することができた」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 司法・犯罪心理学

西田 俊男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪、非行、あるいは被害者支援に対し、どのように理解していくのか理論を学び、さらに更生するための処遇、そこに関わる心理職の役割などについて考えられるようにします。また、非行などの背景には家庭内の問題が潜んでいることが多いことから、生育史を含めた非行や家族の理解を学び、犯罪について主眼的に考察します。

### 【到達目標】

犯罪、非行、被害者支援及び家事事件についての基本的な事項を説明することができる。司法、犯罪分野における問題に対して必要な心理支援を考え、他者に説明することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使って進め、学習支援システム(Hoppii)でテキスト、レジュメや参考資料を配付します。また、授業冒頭には社会で起きた犯罪や非行等を取り上げ、授業の内容に絡めた上で犯罪心理学の観点から、なぜ起きたのかを考察します。授業の出欠はHoppiiを使ったレポートの提出で出席とします。このレポートは講師とのコミュニケーションツールとして使い、次回授業では必要に応じてレポートに記載された疑問点などを取り上げます。授業のレポートとは別に、春期授業開始前のレポートと春期授業終了時のレポートの2回のレポート提出が単位取得のための条件です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、犯罪・非行の状況	犯罪・非行全体について概説し、統計からその実態をみていきます。
第2回	罪種別に非行の動機・心理を探る	各事件別の動機・心理について学びます。
第3回	犯罪心理学の系譜、原因論(1)	生物学的原因論、心理学的原因論について学びます。
第4回	犯罪心理学の系譜、原因論(2)	残りの心理学的原因論について学びます。
第5回	犯罪心理学の系譜、原因論(3)、新たな犯罪心理学	社会学的原因論について学びます。また、エビデンス、メタアナリシス、セントラルエイト、RNR原則等について学びます。
第6回	家庭裁判所の機能、具体的な非行理解、ビデオ視聴	BPSの視点と家庭裁判所の機能について学びます。授業内容に関係したビデオを視聴します。
第7回	保護観察と少年院について	家庭裁判所の処分である保護観察と少年院について学びます。
第8回	少年院の実際についてビデオ視聴	少年院のドキュメンタリービデオを視聴します。
第9回	成人事件の流れと刑務所について	成人の起訴、刑務所の在り方、死刑囚と無期囚の心理などについて学びます。
第10回	事例によるケース理解(演習形式) 1	事例について、班別でなぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などについて討議、発表します。
第11回	事例によるケース理解(演習形式) 2	前回の討議に続き、心理テスト(SCTとTAT)結果からの事例理解を行い、さらに更生について討議、発表します。
第12回	事例によるケース理解(演習形式) 3	前回の討議に続き、心理テスト結果の具体的な伝え方(フィードバック)について討議します。
第13回	被害者救済のための制度と各面接法	被害者保護に関する制度を学びます。また、動機付け面接と司法面接について学びます。
第14回	多様な家族	離婚に関する制度を学び、面会交流、ハーグ条約、子の引き渡しなどについて心理職としての見方、関わり等を考えていきます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で配布したパワーポイントの資料やテキストを元に復習を行います。また、次の授業への連続性から配付資料の予習も行います。家裁見学も行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

Hoppiiにて必要なテキストを配付します。

### 【参考書】

綿村英一郎他編「入門司法犯罪心理学 理論と現場を学ぶ」有斐閣  
河原俊也編「ケースから読み解く 少年事件-実務の技」青林書院

### 【成績評価の方法と基準】

授業態度・発表：52%

レポート課題の提出・評価：48%

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを踏まえ、改善します。また、配付資料などはダウンロードできるようにします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

We learn how to understand delinquency, support to victims, and how to deal with these problems and the role of the psychologists. In addition, we study the theory to grasp delinquency including background because it can cause crimes in many cases. After class, we are capable of comprehending these crimes for ourselves.

### (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to explain the basic matters of crime, delinquency, victim support and domestic affairs cases. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

### (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 48%, in class contribution : 52%

SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300)

関係行政論

小磯 明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位  
 備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2024年度の授業実施日は、8月2日（金）・5日（月）・6日（火）。  
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】  
 公認心理師としての業務を行うに当たり、適切な知識及び技能を身につけられるようにする。

【到達目標】  
 公認心理師として活動する分野を問わず、他の分野と連携すべき機会があることから、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等、公認心理師が活動すると想定される主な分野に係る関係法規や制度等が一定程度網羅される必要がある。特に、教育分野においては、学校等と密に連携した公認心理師の活動が想定されるため、単なる関係法規や制度等に加えて、学校教育に関する知識が一定程度必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】  
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】  
 授業は対面で実施する。講義形式で、配布資料及び関係資料の理解を通じて、現状・実態を学ぶ。必要に応じてグループディスカッションを行う。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法・制度の基本	法・制度の基本について理解する
第2回	医療全般の法律・制度	保健医療分野に係る法律・制度のうち、医療全般について理解する
第3回	精神科医療の法律・制度	精神科医療や精神保健に関わる法律の歴史を理解する
第4回	地域保健・医療の法律・制度	自殺対策、アルコール対策、母子保健の基本の理解、保健所、市町村、精神保健福祉センターの役割を理解する
第5回	児童福祉の法律・制度	児童虐待の種別、児童虐待防止法の特徴、児童相談所の相談援助活動の流れ、児童福祉施設ごとの特徴を理解する
第6回	障害者・障害児福祉の法律・制度	障害者基本法の概要、障害者権利条約の内容、障害者総合支援法の概要、自立支援医療、障害児の施策の流れ、障害者差別解消法の概要を理解する
第7回	高齢者福祉の法律・制度	日本の超高齢社会の概要、高齢者のための医療制度、介護保険の概要、地域包括ケアシステム等について理解する
第8回	教育分野に係る法律・制度	教育に関わる法律、児童福祉に関わる法律、スクールカウンセラーの守秘義務、子どもの権利について理解する
第9回	刑事に係る法律・制度	刑法第39条の内容、司法システムと医療システムの関連、ストーカー規制法の概要、心身喪失者等医療観察法の成立の意義と措置入院制度との相違等を理解する
第10回	家事に係る法律・制度	夫婦間紛争とDV問題、親権とそれをめぐる紛争、面会交流とそれをめぐる紛争、被虐待児童を守るための施設収容許可、成年後見制度について理解する
第11回	少年非行の法律・制度	非行少年の取り扱いの理念や流れ、家庭裁判所における審理、少年鑑別所の鑑別・観護処遇・地域援助、少年院の矯正教育について理解する
第12回	産業・労働分野に係る法律・制度	産業・労働分野において法令・制度が重要となった経緯、衛生管理体制の概略と関連法令、心の健康の保持増進に係る主な制度と関連法令を理解する
第13回	関係機関の連携	関係機関の連携について理解する

第14回 まとめ 心の支援に関する全体像を法律や制度の観点から把握し、国民からの期待や社会的使命を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
 配布資料の復習。関係資料の収集・まとめ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】  
 特定の教科書は使用しない。必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】  
 特定の参考書は指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】  
 授業平常点が60%、レポート提出を40%とする。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】  
 各分野の法や制度の変化に対応する。

【学生が準備すべき機器他】  
 特になし。

【その他の重要事項】  
 受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】  
 Make it possible to acquire appropriate knowledge and skills of Psychology.  
 At the end of the course, students are expected to gain the knowledge to become a psychologist.  
 Before each class meeting, students be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.  
 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習 I

安西 美咲

配当年次 / 単位数：2年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
- ・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	他者の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	記録の意義と技術 支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	プレゼンテーション技術の理解 支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1 ソーシャルワーク演習 (共通科目)』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

### 【その他の重要事項】

本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。

授業計画は担当教員により変更する場合がある。

各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習 I

小野田 由実子

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
- ・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	他者の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	記録の意義と技術 支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	プレゼンテーション技術の理解 支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

## 【その他の重要事項】

本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。

授業計画は担当教員により変更する場合がある。

各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習 I

中條 桂子

配当年次 / 単位数：2年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
- ・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	他者の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	記録の意義と技術 支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	プレゼンテーション技術の理解 支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1 ソーシャルワーク演習 (共通科目)』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

### 【その他の重要事項】

本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。

授業計画は担当教員により変更する場合がある。

各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習 I

西田 ちゆき

配当年次 / 単位数：2年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
- ・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	他者の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	記録の意義と技術 支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	プレゼンテーション技術の理解 支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1 ソーシャルワーク演習 (共通科目)』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

## 【その他の重要事項】

本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。

授業計画は担当教員により変更する場合がある。

各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7011）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7012）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7013）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N7015）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N7016）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7017）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7018）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

安西 美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7021）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

小野田 由実子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7022）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7023）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田 ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7024）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

安西 美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7031）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

小野田 由実子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7032）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7033）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田 ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7034）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7035）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7036）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7037）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、マイクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・マイクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7037）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導 I**

伊藤 正子

配当年次 / 単位数：2年次 / 1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

適宜指定する。

**【参考書】**

適宜指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導 I

岩田 美香

配当年次 / 単位数：2 年次 / 1 単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導 I

島谷 綾郁

配当年次 / 単位数：2 年次 / 1 単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

## 【参考書】

適宜指定する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導 I

金 慧英

配当年次 / 単位数：2 年次 / 1 単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導 I**

佐藤 蘭美

配当年次 / 単位数：2 年次 / 1 単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

適宜指定する。

**【参考書】**

適宜指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導 I

宮城 孝

配当年次 / 単位数：2 年次 / 1 単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導 I**

岩田 千亜紀

配当年次 / 単位数：2年次 / 1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

適宜指定する。

**【参考書】**

適宜指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導 I

山崎 禎広

配当年次 / 単位数：2年次 / 1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルワーク実習 I」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。  
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史の変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護 (個人情報保護法の理解を含む)、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定する。

### 【参考書】

適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導 I」は、「ソーシャルワーク実習 I」の履修予定者のみ履修できる (単独履修不可)。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導Ⅱ**

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先により具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者が必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先により具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導Ⅱ**

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先より具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先により具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習指導Ⅱ**

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

**【到達目標】**

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先より具体的な情報を提供することが可能である。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者が必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先により具体的な情報を提供することが可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者々と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先により具体的な情報を提供することが可能である。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者が必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者とは必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。  
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。  
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者とは必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。  
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。  
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

佐藤 繭美

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者とは必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。  
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。  
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者とは必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者とは必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。  
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。  
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

### 【到達目標】

- ・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
- ・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者が必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60%、課題提出 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

岩田 美香

配当年次 / 単位数：3年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の(欠席や遅刻などの)授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
- ②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている必要があります。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

佐藤 繭美

配当年次 / 単位数：3年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の(欠席や遅刻などの)授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

岩田 千亜紀

配当年次 / 単位数：3年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の(欠席や遅刻などの)授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習 I

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2～3 月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、実習のまとめ40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7091 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7092 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7093 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

金 慧英

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7094 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

佐藤 繭美

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7095 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7096 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7097 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習Ⅱ

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7098 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

## 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

## 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 精神保健ソーシャルワーク演習 I

岡田 栄作

配当年次 / 単位数：4年次 / 2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

精神保健ソーシャルワークの知識と技術に関係する他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

### 【到達目標】

- (1) 自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とします。
- (2) 利用者の人間理解や生活理解の方法を学び、実践できるようにしていきます。
- (3) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得していきます。
- (4) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術の基礎を習得していきます。
- (5) 援助専門職に求められるコミュニケーション、コミュニティワークの基礎を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本演習は、精神保健福祉分野の援助専門職に必要な対人援助の基礎を学びます。援助専門職は、自分という人格を通して他者を援助しますので、自分自身を知ること、他者を理解することが重要になります。具体的には、(1)援助専門職を目指すにあたって、自分自身の性格や対人援助・コミュニケーションの傾向を知ること、(2)面接における傾聴の姿勢(人の話を聴けること)を身につけること、を中心とした習得を目指します。授業では、個別指導や集団指導、ロールプレイ等を通して体験型・ディスカッション型で演習を行います。主体的態度で臨み、自らの体験や意見を積極的に述べる事が求められます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本演習のねらいと進め方を説明する
第2回	自己覚知	自己の特性の理解
第3回	自己理解と他者理解	自他の違いの理解
第4回	専門職の価値と倫理	専門職としての価値と倫理綱領の理解
第5回	援助関係形成の理論と面接技術 (援助者とは)	援助者としての基本姿勢、バイステイクの原則の理解
第6回	援助関係形成の理論と面接技術 (集団力動)	グループダイナミクスを活用するための理論と技術の理解
第7回	アセスメントの基礎 (ニーズとは何か)	課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ
第8回	記録の技術	情報の収集・整理・伝達の技術を学ぶ
第9回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術	地域の福祉ニーズ把握
第10回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術 (実践)	コミュニティアウトリーチ
第11回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術 (評価)	コミュニティ・アセスメント技法と計画策定技法とサービス評価
第12回	ネットワークング	ネットワーク連結技法
第13回	ソーシャルアクション	社会資源の活用・調整・開発
第14回	まとめ	事例検討を行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指定します。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度60%・課題40%

### 【学生の意見等からの気づき】

少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

### 【その他の重要事項】

この科目は、来年度精神保健ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できます。実習に行くための演習ですので、全出席が前提です。無断欠席は成績評価の対象外となります。来年度の実習は履修することができませんので注意してください。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ**

岡田 栄作

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。また、精神保健福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術について、具体的事例の検討やロールプレイなどを用いて実践的に習得します。

**【到達目標】**

- (1) 精神保健福祉課題を理解し、その解決に向け総合的かつ包括的な援助を習得する
- (2) 具体的な相談援助場面及び相談援助の過程で用いる技術を習得する
- (3) 精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(1) 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げます。(2) 個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論し合う形で事例研究およびロールプレイ等を行います。(3) 精神保健ソーシャルワーク実習における個別体験も視野にいれ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい、進め方について説明する
第2回	「精神保健福祉士とは」(グループディスカッションを含む)	精神保健福祉士の理解
第3回	「精神保健福祉士の職業倫理」(ロールプレイを含む)	精神保健福祉士の職業倫理の理解
第4回	援助過程に沿った援助展開(支援計画策定)	インターク(受理面接)・契約とアセスメント(課題分析)・プランニング(支援計画)・ケアマネジメント
第5回	援助過程に沿った援助展開(モニタリング)	支援の実施・振り返り(モニタリング)、効果測定と支援評価・終結とアフターケア
第6回	事例研究(社会的排除)	社会的排除(偏見・差別)
第7回	事例研究(ソーシャルアクション)	退院支援・地域移行・地域生活支援とアウトリーチ、ソーシャルアクション
第8回	事例研究(若者を中心とした地域精神保健福祉)	地域における精神保健福祉(自殺、ひきこもり、児童虐待等)
第9回	事例研究(自助グループ)	地域における精神保健福祉(薬物・アルコール依存等)とピアサポート
第10回	事例研究(働くことへの支援)	就労・雇用とネットワーク
第11回	事例研究(公的扶助と社会保障)	貧困、低所得、ホームレスの課題と生活保護法と障害年金の理解
第12回	事例研究(リハビリ)	精神科リハビリテーションとチームアプローチ
第13回	事例研究(援助計画の作成)	援助計画の理解、社会資源の活用・調整・開発
第14回	まとめ	外部講師による現場の取り組みについての理解

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しないが、事例資料を配布します。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への参加態度 60%・課題 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

**【学生が準備すべき機器他】**

レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用する。

**【その他の重要事項】**

本演習は、今年度精神保健ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習指導の履修登録者のみが履修できます。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work through role play and discussion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 精神保健ソーシャルワーク実習指導 I

岡田 栄作

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

### 【到達目標】

実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な知識を習得します。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関して理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	精神保健ソーシャルワーク実習の意義
第2回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解	実習先に関する理解
第3回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（見学）	見学
第4回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（個人ワーク）	見学レポート作成
第5回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（報告）	見学・体験・レポートに基づき議論
第6回	個別面談	実習の目的の確認
第7回	実習先の調整	個別指導による実習先の研究
第8回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関決定	個別指導による実習先について報告
第9回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（医療機関）	個別指導による実習先（医療機関）調整
第10回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（地域施設）	個別指導による実習先（地域施設）の研究
第11回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（行政機関）	個別指導による実習先（行政機関）の研究
第12回	実習施設・事業者・機関・団体の基本的な理解	実習報告会への参加への準備
第13回	実習施設・事業者・機関・団体の発展的な理解	実習報告会への参加
第14回	まとめ	実習報告会の振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習配属のための面接に必ず出席すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

授業中に紹介します。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加状況 60%・課題 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

### 【その他の重要事項】

精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ**

岡田 栄作

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

**【到達目標】**

精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得して、実習に備えることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習および実習指導のねらいと留意点の説明
第2回	課題確認	実習課題の確認と事前学習の進め方
第3回	専門的知識と技術	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
第4回	専門的知識と技術（個人ワーク）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関するレポート
第5回	専門的知識と技術（報告）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解と報告
第6回	倫理と責務	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
第7回	倫理と責務（議論）	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解と事例を通じての議論
第8回	プライバシー保護	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解）
第9回	記録の意義	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
第10回	記録（実践）	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解と実践
第11回	実習計画の作成	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成
第12回	実習計画の報告	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成と報告
第13回	実習計画の検討	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議 実習計画の修正
第14回	まとめ	実習に向けてまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義中に紹介します。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への参加状況60％・課題40％

**【学生の意見等からの気づき】**

授業アンケートは実施していません。

**【その他の重要事項】**

精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岡田 栄作

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習での学びを通じて以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

### 【到達目標】

精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて学んだ精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について振り返り、深化させ、理論化することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を習得し、実習に臨むとともに学びを深化させていきます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	事後学習のねらいと進め方を説明する
第2回	実習の振り返り（個人ワーク）	実習記録や体験の整理（個人ワーク）
第3回	実習の振り返りと学びの共有	実習記録や体験の整理（グループワーク）
第4回	実習の振り返り（報告）	実習記録や体験をふまえた課題の整理と議論
第5回	実習報告書作成の説明	実習報告書作成の目標と内容 実習報告書作成の目標と内容
第6回	個別面談	個別指導による実習報告書の作成指導
第7回	実習報告書の作成	グループワークによる実習報告書作成の相互学習
第8回	実習報告書に基づく報告	実習報告
第9回	実習報告書に基づく議論	実習報告と議論
第10回	実習報告会の企画	実習報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備	実習報告会の準備
第12回	実習報告会のリハーサル	実習報告会の準備、リハーサル
第13回	実習報告会	実習報告会における報告と運営（実習の評価全体総括会）
第14回	まとめ	実習報告会の振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義中に紹介します。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加状況60%・課題40%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートは実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

### 【その他の重要事項】

精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

### 【Outline (in English)】

This course reflects and theorizes an internship to work effectively as a psychiatric social worker. The goals of this course are to complete the report of internship, presentations on the internship. Before/after each class meeting, students are expected to spend an hour understanding the content of the course. Grades are based on reports (40%) and in-class contributions (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 精神保健ソーシャルワーク実習

岡田 栄作

配当年次／単位数：4年次／4単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

## 【到達目標】

精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。さらに、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得していきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	精神科病院等の実習オリエンテーション	実習のねらいと進め方 病棟見学、面談への同席
第2回	任意入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	任意入院、心理教室、退院支援委員会について振り返り実習記録や体験の整理
第3回	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第4回	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第5回	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取り	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第6回	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第7回	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第8回	巡回指導	巡回指導について振り返り実習記録や体験の整理
第9回	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第10回	外来面談への同席、面談の記録作成	外来面談への同席、面談の記録作成について振り返り実習記録や体験の整理
第11回	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取り	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第12回	面談への同席、外出同行（退院に向けた住居の確認等）	面談への同席、外出同行（退院に向けた住居の確認等）について振り返り実習記録や体験の整理
第13回	患者さんとの面談、外出同行（退院に向けた物件探し）	患者さんとの面談、外出同行（退院に向けた物件探し）について振り返り実習記録や体験の整理
第14回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。
第15回	障害福祉サービス事業所・行政機関等の実習ガイダンス	実習のねらいと進め方 専門職としての倫理、価値、組織役割の理解
第16回	啓発・広報活動への参加	啓発・広報活動への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第17回	作業訓練 ビジネスコミュニケーションプログラム	作業訓練 ビジネスコミュニケーションプログラムについて振り返り実習記録や体験の整理

第18回	関係性の構築とニーズの把握	関係性の構築とニーズの把握について振り返り実習記録や体験の整理
第19回	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成について振り返り実習記録や体験の整理
第20回	地域への啓発活動 権利擁護事業説明	地域への啓発活動 権利擁護事業説明について振り返り実習記録や体験の整理
第21回	事例検討会に同席	事例検討会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第22回	巡回指導	精神保健福祉士としての価値・倫理、法的義務についての確認、実習目的と達成課題の把握と調整
第23回	思春期・青年期家族講座に同席	思春期・青年期家族講座に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第24回	自治体保健師との情報交換連絡会に同席	自治体保健師との情報交換連絡会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第25回	就労支援事業所見学 ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）など	就労支援事業所見学 ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）などについて振り返り実習記録や体験の整理
第26回	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン	退院支援計画の振り返りとスーパービジョンなどについて振り返り実習記録や体験の整理
第27回	担当事例の振り返りと評価会議に同席	担当事例の振り返りと評価会議に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第28回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日の実習に向けて、記録のまとめ翌日の予定についての準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

## 【参考書】

適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

実習先の評価票60%巡回指導と帰校日指導40%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

## 【その他の重要事項】

本科目は、「精神保健ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できます（単独履修不可）。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students acquires the knowledge and skills required of psychiatric social workers through internships. Before/after each days internships, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%) within internships.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## スクールソーシャルワーク演習

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、SSW）における相談援助の知識と技能について実践的に習得するとともに、理論化し体系立てて習得していく能力を身につける。

### 【到達目標】

- ・現代における子どもと家族を取り巻く課題を理解し、SSWの視点からアセスメントできる知識と技術を習得する。
- ・SSWにかかわる法律と教育委員会等の組織やサービスを理解し、具体的な支援方法を考察する。
- ・SSWの意義を確認しつつ、教育行政や地域理解を進めるための方策について学びを深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・上記の目的を達成するため、①SSWの視点から、様々な事例を使って実際にアセスメントと援助計画を立て、個人やグループの発表によってクラス全体の学びを深める。②それらの演習を通して、SSWの活動に必要な法律やサービスについて再確認する。③ゲストスピーカーの講義も交えて、実践における具体的支援について考察する。④SSWの倫理・価値および、教育行政や地域の理解を得ながらSSWを展開していくことの必要性を検討する。
- ・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、SSWとは？	今後の進め方についての説明、SSWの現状と意義、課題
第2回	SSWを取り巻く制度	SSWに関する法律と教育にかかわる組織・社会福祉サービス
第3回	アセスメント技法	SSWのアセスメント・プランニングに関する知識と技術
第4回	記録とスーパービジョン	SSWとしての記録とスーパービジョンに関する知識と技術
第5回	アセスメントの実際1	学校と児童生徒の家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第6回	アセスメントの実際2	児童生徒と家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第7回	事例研究の発表と検討	相互の発表に基づく検討
第8回	ゲストスピーカー	現役のスクールソーシャルワーカーによる支援の実際
第9回	学校内連携	校内チーム体制、ケース会議の方法
第10回	学校外連携	市町村子ども支援体制と資源開発
第11回	アセスメントの実際3	事例を用いたマイクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメント
第12回	事例検討の発表と検討	相互の発表による検討
第13回	学校とSSW	学校とSSW、SC（スクールカウンセラー）も含めた現状と両者の関係
第14回	SSWの展開	SSWの理論・価値とソーシャルアクション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で出される課題について、期日までにを行うこと。  
本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義内で資料を配付する。

### 【参考書】

参考文献は、講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）、講義内課題およびレポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## スクールソーシャルワーク実習指導 I

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、SSW）の意義・価値と概要を理解すると同時に、SSWに関わる技法を習得する。

### 【到達目標】

- ・SSWの意義を理解し、学校現場におけるSSW実践を体験的に学ぶ。
- ・SSW実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
- ・SSWの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・上記の目的を達成するため、事前学習として①実習先の地域における子どもと家族の課題や社会資源の現状を把握する。②各自の実習先での実習目標と課題（実習計画書）を作成する。③見学やゲストスピーカーの講義も交え、学校現場の現状について理解するとともに、④実習において必要とされる知識と技術、また記録や守秘義務のあり方について学びを深める。
- ・実習中は、実習巡回により、事前に作成した実習計画の検討および進捗状況の確認と実習全般のスーパービジョンを行う。
- ・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習計画書作成の進め方（計画書の書き方と提出時期）
第2回	対象者理解	実習先での子どもと家族、地域の理解
第3回	地域資源の理解	実習先における社会資源の検討
第4回	実習先の理解	実習先および実習関係機関の見学
第5回	ゲストスピーカー	学校からみたSSW（生徒指導、特別支援、養護教諭）
第6回	学校現場の理解	学校理解と学校内でのチーム体制
第7回	SSWを知る	SSWの職務と社会的責任の検討
第8回	実習計画	実習計画書の提出・検討
第9回	連携の重要性	学校内外の連携のあり方と守秘義務の検討
第10回	実習記録	記録の意義と方法
第11回	実習のまとめ1	グループディスカッション
第12回	実習のまとめ2	自分とSSW（自己覚知）＋スーパービジョン
第13回	実習のまとめ3	課題と事例に関して＋スーパービジョン
第14回	実習のまとめ4	実習全体を通して＋スーパービジョン

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習での課題について、期日までに提出すること。
- ・実習中は、実習巡回とスーパービジョンを行う。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回1時間以上を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義内で資料を配付する。

### 【参考書】

講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）、講義内課題および実習計画書（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、SSW）の意義・価値と概要を理解すると同時に、SSWに関わる技法を習得する。

### 【到達目標】

- ・SSWの意義を理解し、学校現場におけるSSW実践を体験的に学ぶ。
- ・SSW実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
- ・SSWの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・上記の目的を達成するため、SSW実習の事後学習として、以下の振り返りとまとめを行う。①個別およびグループを通して自らの実習を個別的・相対的に振り返る、②実習前に各自が設定した課題に即した実習の検討を行う、③事例をもとにした実習の検討を行うと同時に、SSWの支援についてのスーパービジョンを受ける、④実習を通した自らの課題と向き合い、今後の支援に生かしていく。
- ・これらの結果を実習総括としての報告書を作成するとともに、実習報告会で発表する。
- ・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後の進め方について
第2回	実習の振り返り1	実習の報告
第3回	実習の振り返り2	個別指導
第4回	実習の振り返り3	グループワーク
第5回	実習の振り返り4	グループディスカッション
第6回	実習のまとめ1	自分とSSW（自己覚知）についてのまとめ
第7回	実習のまとめ2	自己覚知についてのスーパービジョン
第8回	実習のまとめ3	事例と課題に関するまとめ
第9回	実習のまとめ4	事例と課題に関するスーパービジョン
第10回	実習報告書の作成1	グループによる執筆
第11回	実習報告書の作成2	個人による執筆
第12回	報告会リハーサル	プレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会	各自の実習の成果を発表
第14回	まとめ	報告会の振り返りと全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事後学習での課題や実習報告書の原稿は、期日までに提出すること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回1時間以上を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義内で資料を配付する。

### 【参考書】

講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）、講義内課題および実習報告書（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**スクールソーシャルワーク実習**

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

将来、学校や教育行政、また地域の児童関連施設などで働くことを希望し、教育と福祉の連携を中心とした福祉の仕事に関心をもつ学生を対象に、学校や教育委員会などでの実践を通して、学校におけるソーシャルワークを習得する。

**【到達目標】**

- ・スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、SSW）の意義について理解するとともに、学校現場と教育にかかわる組織について体験的に学ぶ。
- ・SSW実習にかかる個別・集団援助技術、さらに間接援助について、これまで学んだ理論や実践技術の体系を、体験を通して修得する。
- ・SSWの意義と価値を考えると同時に、教育現場での展開における課題と方向性についても考察を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・実習先の実習指導者（スクールソーシャルワーカー）や教育委員会・学校等の指導のもと、次の内容について学びを深める。

- ①当該地域における、子どもと家庭のニーズ、地域と社会資源、学校および教育組織などの現状。
- ②学校現場における、子どもと家族、教職員とのコミュニケーションの持ち方や連携のあり方。
- ③子どもと家族の権利擁護を前提とした、実際のアセスメントと援助の進め方。
- ④学校内・学校外でのチームアプローチの実際、関係者会議への参加。
- ⑤社会資源の活用・調整・開発の理解。
- ⑥SSWのスーパービジョン。
- ⑦SSWのミッションと社会正義、学校・地域での今後の展開。

・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 6-	現場実習	各自、80時間以上、大学が指定する
10月		学校・機関・組織にて実習。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・スクールソーシャルワーク教育課程認定のためには、社会福祉士受験資格獲得予定学生であること、先行履修科目とスクールソーシャルワーク実習群に加えて、「精神保健学」と教育関連科目群から以下に示す科目の履修が必要である。

「精神保健学（2単位）」必修

「教育の制度・経営（2単位）」必修

+

「教育心理学（2単位）」「教育相談（2単位）」「生徒・進路指導論（2単位）」の中から1科目以上選択必修

\*注意：「教育心理学」は、本学部開講の科目ではなく、教職課程での科目を履修すること。

・社会福祉士養成におけるソーシャルワーク実習が児童福祉領域以外である場合、児童福祉施設での事前実習が要求される。また、先行履修科目の履修が必要である。

本授業の準備・復習時間は各回2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて資料を配布する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

実習先での態度や実習記録・提出物（60%）、実習先による評価（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【その他の重要事項】**

・本実習は、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟によるスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業に位置づく実習です。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.

Before/after each time, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on the quality of the students' performance and reports in the practicum (60%), evaluation of the training agency (40%).

ARSx200JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## コミュニティマネジメント・リサーチ

水野 雅男、土肥 将敦

配当年次/単位数：2~4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N7201 コミュニティストディ演習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域課題に取り組む団体や人を対象に、現状や課題に関する現地調査を実施し、その解決方法などを、グループワークや教員との個別指導を通じて具体的に探っていく演習科目です。

### 【到達目標】

コミュニティマネジメント (地域づくり) を学ぶために必要な基本的な視点、姿勢、技法等を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

関心のある地域課題、それに取り組む団体等を調査し、問いを立てるところから始まります。その後、インタビューシートを作成して調査を行い、調査終了後は分析と考察を進めてレポートにまとめます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と地域研究の心構えを学ぶ。
第2回	研究関心の共有と深化	各自の関心について発表し、そこからどんな調査が可能か検討する。
第3回	研究課題の設定	研究課題を設定し、具体的調査内容について話し合う。
第4回	調査計画書の作成	研究課題を深めるための具体的調査内容を計画書として作成し、指導を受ける。
第5回	調査計画書の完成	指導内容に沿って計画書を修正し、議論の上、完成させる。
第6回	インタビューシートの作成、調査日時の確定	調査先で明らかにしたいことを質問票にまとめ、指導を受ける。
第7回	フィールドワーク①	フィールドでの調査 (調査対象者へのインタビュー調査)
第8回	フィールドワーク②	フィールドでの調査 (インタビュー調査を補足するための参与観察など)
第9回	フィールドワーク報告 (速報)	フィールドでの調査概要の報告
第10回	フィールドワーク報告 (詳報)	フィールドでの調査内容を文書にまとめて報告する。
第11回	フォローアップ調査報告	レポート作成に向けて必要な情報を更に収集し、報告する。
第12回	レポート作成①	レポートの素案を提出し、指導を受ける。
第13回	レポート作成②	改良したレポート原稿を提出し、さらに指導を受ける。
第14回	報告会	レポートを提出するとともに、その内容について発表する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業及びその間に出される担当教員からの指導に沿って、調査及びその準備やまとめを進め、報告書を完成させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

講義時に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

i) 成績評価方法

平常点 70%

提出物 (発表及び提出資料、最終レポート) 30%

ii) 評価基準

平常点は、授業への出席のみならず、発表や質疑応答等、授業への積極的参加、課題に対する取り組み姿勢を評価します。課題に対する取り組み姿勢には、授業時間外での取り組みも含まれます。レポートは、期限までの提出とその内容によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者からの意見を活かし、履修者が、より主体的に参加できる工夫をしていきます。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire field surveys for groups and people working on regional issues, and seek solutions.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Acquire basic viewpoints, attitudes, techniques, etc. necessary for learning community management.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, in class contribution: 70%

ARSx200JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## コミュニティマネジメント・インターンシップ I

佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁

配当年次/単位数：2~4年次/2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

原則として夏休み期間中に実施するインターンシップに向けて、事前学習と準備を進める。

## 【到達目標】

コミュニティマネジメントに取り組むための基礎的な知識と能力を獲得し、またインターンシップに臨む姿勢を養う。また、インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

自分の関心のあるテーマについて、実習先の検討とそこでのプログラムづくりを進める。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体説明①	実習 (インターンシップ) のねらいについての共有
第2回	全体説明②	実習に関する基礎的な学習
第3回	グループینگ	実習 (インターンシップ) 候補の中から検討
第4回	講義「実習テーマを考える視点①」	実習に関する基礎的な学習 (前半)
第5回	講義「実習テーマを考える視点②」	実習に関する基礎的な学習 (後半)
第6回	実習テーマに関する近隣地域の取組分析①	テーマに関する事例収集
第7回	実習テーマに関する近隣地域の取組分析②	テーマに関する事例分析
第8回	実習テーマに関する近隣地域の取組分析③	テーマに関する事例考察
第9回	実習先の検討とマッチング①	実習生の意向の聞き取り
第10回	実習先の検討とマッチング②	実習先候補の検討
第11回	実習先の検討とマッチング③	実習先候補の調整
第12回	事前調査の発表・共有①	実習先別に事前に情報収集する
第13回	事前調査の発表・共有②	実習先別情報を整理・発表する
第14回	派遣前の諸準備	書類等の整理

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、実習先や個人テーマに関連する情報・文献・データ収集を積極的に進める。毎回の指導で得られた内容を復習し、実習に対する基礎的な知見を身につける。本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

## 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

## 【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢：60% インターンシップ実施計画：40%

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)。

## 【その他の重要事項】

講義を担当する3名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

## 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is designed to elaborate on ideas among students and develop an outline for the internship during the summer vacation period, in principle.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be ready for the implementation of at least one internship program.

ARSx200JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ

佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

原則として夏休み期間中に実施したインターンシップを受けて、事後学習を進め、報告書を作成する。

### 【到達目標】

インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習内容を整理し、補足、分析しながら個人研究を深め、その成果に基づいて報告会を実施し、報告書を作成する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせ実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現場実習の概要報告	実習の概要報告
第2回	実習報告①	実習先 (第1グループ) の発表と質疑
第3回	実習報告②	実習先 (第2グループ) の発表と質疑
第4回	実習報告③	実習先 (第3グループ) の発表と質疑
第5回	テーマ別グループ指導①	グループ討議の準備
第6回	テーマ別グループ指導②	グループ討議
第7回	テーマ別グループ指導③	グループ討議のまとめ
第8回	報告書作成作業①	報告書の内容作成
第9回	報告書作成作業②	報告書の内容構成の検討
第10回	プレゼンテーション指導	報告会の準備
第11回	実習報告会Ⅰ	報告会の実施 (前半)
第12回	実習報告会Ⅱ	報告会の実施 (後半)
第13回	報告書原稿校正作業	報告書原稿の校正作業
第14回	報告書最終原稿提出	報告書原稿提出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

個人研究に関する知見を広げ、実習時の活動内容の取りまとめ、分析作業を日々進めておく。本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢：60% インターンシップ最終報告書：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)

### 【その他の重要事項】

講義を担当する3名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】Based on the internship conducted during the summer vacation period, in principle, the course is arranged to focus on the review of their learnings and the development of a report on field studies.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to demonstrate their learnings publicly and externalize their experiences explicitly.

【Learning Activities Outside of Classroom】Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and internship final report (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

**心理演習 I**

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵

配当年次／単位数：3年次／1単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N7501 臨床心理実習指導 I」を受講すること。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

**【到達目標】**

心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第3回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第4回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第5回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第6回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第7回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第8回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第9回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第10回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第11回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第12回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第13回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第14回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

実習科目のためアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 心理演習Ⅱ

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田友理恵

配当年次／単位数：3年次／1単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N7502 臨床心理実習指導Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

### 【到達目標】

役割演技や事例検討を通して、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第3回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第4回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第5回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第6回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第7回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第8回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第9回	多職種連携及び地域連携(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第10回	多職種連携及び地域連携(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。

第11回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第12回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第13回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第14回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習科目のためアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on case reports (40%), and in-class contribution (60%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

心理実習

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵、久保田 幹子、関谷 秀子、服部 環

配当年次/単位数：3年次/2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- (イ) 多職種連携及び地域連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計80時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第2回	保健医療施設見学実習 第1回	入院施設等の見学実習
第3回	保健医療施設見学実習 第2回	デイケア等の見学実習
第4回	福祉施設見学実習 第1回	児童養護施設の見学実習
第5回	福祉施設見学実習 第2回	児童相談所等の見学実習
第6回	学校等教育施設等での実習 第1回	学校等教育施設等 (例、A小学校) の施設実習
第7回	学校等教育施設等での実習 第2回	学校等教育施設等 (例、B小学校) の施設実習
第8回	学校等教育施設等での実習 第3回	学校等教育施設等 (例、C小学校) の施設実習
第9回	学校等教育施設等での実習 第4回	学校等教育施設等 (例、D小学校) の施設実習
第10回	学校等教育施設等での実習 第5回	学校等教育施設等 (例、E小学校) の施設実習
第11回	学校等教育施設等での実習 第6回	学校等教育施設等 (例、F小学校) の施設実習
第12回	学校等教育施設等での実習 第7回	学校等教育施設等 (例、G小学校) の施設実習
第13回	学校等教育施設等での実習 第8回	学校等教育施設等 (例、A中学校) の施設実習
第14回	学校等教育施設等での実習 第9回	学校等教育施設等 (例、B中学校) の施設実習
第15回	学校等教育施設等での実習 第10回	学校等教育施設等 (例、C中学校) の施設実習
第16回	学校等教育施設等での実習 第11回	学校等教育施設等 (例、D中学校) の施設実習
第17回	学校等教育施設等での実習 第12回	学校等教育施設等 (例、E中学校) の施設実習

第18回	学校等教育施設等での実習 第13回	学校等教育施設等 (例、F中学校) の施設実習
第19回	学校等教育施設等での実習 第14回	学校等教育施設等 (例、G中学校) の施設実習
第20回	学校等教育施設等での実習 第15回	学校等教育施設等 (例、A教育センター) の施設実習
第21回	学校等教育施設等での実習 第16回	学校等教育施設等 (例、B教育センター) の施設実習
第22回	学校等教育施設等での実習 第17回	学校等教育施設等 (例、C教育センター) の施設実習
第23回	学校等教育施設等での実習 第18回	学校等教育施設等 (例、A保育園) の施設実習
第24回	学校等教育施設等での実習 第19回	学校等教育施設等 (例、B保育園) の施設実習
第25回	学校等教育施設等での実習 第20回	学校等教育施設等 (例、C保育園) の施設実習
第26回	学校等教育施設等での実習 第21回	学校等教育施設等 (例、D保育園) の施設実習
第27回	学校等教育施設等での実習 第22回	学校等教育施設等 (例、E保育園) の施設実習
第28回	学校等教育施設等での実習 第23回	学校等教育施設等 (例、F保育園) の施設実習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価80%、報告書20%。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

【Outline (in English)】

The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

伊藤 正子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除の理論的検討、およびそれに関連する多様な実態について学ぶ。

### 【到達目標】

「社会的排除」の主要概念を説明できる。  
日本における様々な排除の現実を理解し、その背景と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期は、社会的排除に関わる諸理論や現状についての学習。方法は、文献研究、実践（外部講師招聘、現地視察・調査）などを組み合わせて行う。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業内容の概要と目標
第2回	グループ面接	専門演習Ⅱ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの選定①	問題関心の意見交換
第4回	研究テーマの選定②	図書館等での文献検索
第5回	研究テーマの決定①	各自の研究テーマの概要を報告し、目的、研究方法について検討する。
第6回	研究テーマの決定②	研究計画を具体的に検討する。
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②文献研究の共有と検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③文献研究の課題について討議
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④文献研究のまとめ
第11回	研究報告①	貧困系テーマ研究結果の発表
第12回	研究報告②	障害系テーマ研究結果の発表
第13回	研究報告③	多文化・その他のマイノリティ系テーマ研究結果の発表
第14回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介、学生と相談して決定する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)
3. 演習への能動的参加(30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。

医療機関・外国人支援NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the theory on social exclusion and the realities of various form of discriminations. At the end of the course, students are expected to understand the main theory about social exclusion and the social issues in Japan. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

岩崎 晋也

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

**【到達目標】**

論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

このゼミは、社会福祉に関連する問題に対して、「なぜ」という疑問を持ち、それについて調べ、議論をし、論文を作成する力をつけることを目的としています。

具体的には、入られた皆さんと相談しながら決めたいと思いますが、教員の方で社会福祉に関連する様々なテーマを設定し、ビデオや新聞などの教材を使って、ゼミのみなさんと議論しながら考えられればよいと思っています。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミのルールや予定をガイダンスする
第2回	論文とはどのようなものか	論文とは何か、講義する
第3回	グループ別テーマ学習 1	文献収集、新聞記事D Bを使ってみる
第4回	グループ別テーマ学習 2	論文や記事の要旨をまとめる
第5回	グループ別テーマ学習 3	グループで議論して主張をまとめる
第6回	ディベート 1	ディベートの仕方、評価のポイントを学ぶ。ディベートのテーマの設定
第7回	ディベート 2	3チーム総当たり戦でディベートを行う。チーム A・B
第8回	ディベート 3	3チーム総当たり戦でディベートを行う。チーム B・C
第9回	ディベート 4	3チーム総当たり戦でディベートを行う。チーム A・C
第10回	論文テーマの選び方	テーマの選び方を学ぶ
第11回	先行研究の調べ方	先行研究の調べ方を学ぶ
第12回	論文テーマのプレゼンテーション	個々に研究したいテーマのプレゼンテーションを行う
第13回	グループ研究テーマの選定	プレゼンテーションで出されたテーマからグループテーマを選定する
第14回	グループ研究の進め方	グループ研究を行う方向性を指示する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

課題を出しますので、事前に準備してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、平常点(100%)により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

**【その他の重要事項】**

原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

**【Outline (in English)】**

Study social welfare themes and master basic research skills.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

岩田 美香

配当年次 / 単位数：2年次 / 2単位

備考 (履修条件等)：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

### 【到達目標】

- ・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
- ・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
- ・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
- ・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
- ・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
- ・子どもと家族の支援としての虐待防止活動に参加しつつ、実践からも考察していく。
- ・本年度は、身近なトピックから社会状況を考える文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、ゼミの進め方について
第2回	子どもの虐待防止に関する活動1	子どもの虐待防止の現状について学ぶ
第3回	テキスト：家族	・家族とは何か ・少子高齢化の原因 ・家族責任と家族間格差
第4回	テキスト：ジェンダー	・公的な立場から排除される「女性」 ・浸透する「へらしさ」の罫 ・なぜジェンダー平等が大事なのか
第5回	子どもの虐待防止に関する活動2	虐待問題を家庭内のパワーバランスから考える
第6回	子どもと家族の現場1	ゲストスピーカー (児童福祉施設での支援) からの学び
第7回	テキスト：学校	・学校の「あたりまえ」とは ・都道府県間の格差 ・教員の多忙さや校則 ・「学校」の意義とは
第8回	テキスト：友だち	・子どもや若者にとっての「友だち」 ・スクールカーストといじめ ・「友だち」問題は社会問題
第9回	子どもの虐待防止に関する活動3	子どもの虐待防止のためにできる実践を考える
第10回	テキスト：経済・仕事	・日本の経済と企業の現状 ・日本の働き方、働かせ方
第11回	テキスト：政治・社会運動	・民主主義とは ・他者との比較から見た日本の若者 ・政府の責任をどう考えるか
第12回	子どもと家族の現場2	ゲストスピーカー (不登校支援) からの学び
第13回	テキスト：「日本」と「自分」	・「自分がOKであること」と社会状況 ・鬱屈の社会的背景 ・「自分」にとっての「日本」
第14回	まとめ：文献と実践を通じたディスカッション	・社会問題と自分について ・自分がアクションを起こすこと

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

・本田由紀 (2021) 『「日本」ってどんな国? 国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房  
その他のテキストについては、授業内で指定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加 (50%)、演習における発表・レポート (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

高良 麻子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

**【到達目標】**

- ・社会問題に関して適切な情報収集・分析・発表ができる。
- ・社会問題を構造的に理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

社会問題の解決に向けた活動について理解したうえで、興味のある社会問題を理解するために必要な情報収集・分析・発表をグループで行い、全体でディスカッションしながら、社会問題の解決に向けた活動計画を検討する。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	活動のための関係構築	相互理解のうえの関係構築
第3回	社会問題の解決に向けた活動	社会問題の構造的理解 ソーシャルアクションの概要
第4回	社会問題の発表	各自が興味のある社会問題の発表
第5回	活動計画策定方針の検討	活動計画策定グループの決定
第6回	社会問題の理解① 当事者の事例から	権利侵害・権利の非実現当事者の ニーズ
第7回	社会問題の理解② 実態や社会の理解から	問題の実態 メディアの報道内容
第8回	社会問題の理解③ 構造的理解	社会的不正義の背景
第9回	社会問題の理解④ 構造的理解	社会的不正義の背景要因の連鎖
第10回	社会問題の理解⑤ 現在の対応	公的対応 非公的対応
第11回	社会問題の理解⑥ 具体的な理解	支援者による講義
第12回	社会問題のグループ発表①	社会問題に関する理解の共有
第13回	社会問題のグループ発表②	社会問題に関する理解の深化
第14回	総括	振り返りとまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

グループのメンバーと協働して、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規  
 空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房  
 高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル—「制度からの排除」への対処』中央法規

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点 60%
- ・発表資料 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

グループ活動を進めやすいように、より体系的に社会問題を理解できるようにしました。また、グループ同士の相互議論の機会を増やしました。

**【Outline (in English)】**

This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。当事者や家族のつ力が社会福祉のみならず、社会の中で大きな社会資源となっている現状を分析し、彼らと協働する力を育てていきます。

### 【到達目標】

さまざまな当事者やその家族、専門家とかわかるとにより、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人はあらゆる体験を通して、知識や生き抜く術を獲得しているといえます。こうした「体験的知識」は、ソーシャルワークにおいては見過ごすことのできない重要なものです。ゼミでは、性被害や犯罪被害、障害のある人やその家族、虐待を受けた人や精神障害当事者など、当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知ることからスタートし、社会福祉援助について考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行う中で、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。今年度はさらに、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。

フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第3回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第4回	図書館オリエンテーション	講義
第5回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第6回	先行研究の検討	先行研究の分析と整理
第7回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第8回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第9回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第10回	ゲストの専門分野についての学習結果と質疑応答	プレゼンテーションと全体討議
第11回	ゲストの専門分野をふまえた全体の学習	プレゼンテーションと講義
第12回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とディスカッション
第13回	振り返り	全体討議
第14回	まとめ	まとめと秋学期に向けての討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソーシャルワークにおける「当事者性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介いたします。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

受講態度（50%）、発表内容・提出物（50%）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちと議論を深め、フィールドワークなどを積極的に実施していく予定です。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 50%, in class contribution: 50%

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

佐野 竜平

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを身に付けることを目指す。

**【到達目標】**

アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

アジアに関する国際協力・開発に関する文献・資料集めを行いつつ、基礎スキル向上の取り組み、ゼミ合宿（海外または国内）の準備を進める。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラウドルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	専門ゼミでの学習①	学びの理解、活動の骨子づくり
第3回	専門ゼミでの学習②	年代を超えた意見交換から学ぶ
第4回	国際課題の学習①	アジアの基礎情報①
第5回	国際課題の学習②	アジアの基礎情報②
第6回	専門的な研究の前に①	質問力、プレゼンテーション手法
第7回	専門的な研究の前に②	ビジネススキル基礎
第8回	専門的な研究の前に③	動画撮影・編集
第9回	フィールドワーク①	フィールドワーク実施
第10回	フィールドワーク②	フィールドワークの成果発表
第11回	ゼミ合宿準備①	国際協力・開発課題の考察
第12回	ゼミ合宿準備②	フィールドワークの注意点等
第13回	ゼミ合宿準備③	夏休み課題の討議、諸準備
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野等】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】**

【Course Outline】 This course deals with basic academic performance, particularly in presentation. It also enhances the development of students' skills in public relations and international work.

【Learning Objectives】 The main goal of this seminar is to build a foundation for international work and develop students' knowledge and practical skills in international cooperation and development in Asia compared to Japan.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

野田 岳仁

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習 I では年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

### 【到達目標】

地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として「アクアツーリズム」と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第2回	生活環境主義とは？	現場の人びとの実践から学ぶ方法論
第3回	アクアツーリズムとは？	文献を精読し、討議
第4回	問題関心のつくり方	グループワークを通じて問題関心を明確化する
第5回	文献調査の方法	先行研究と分析視角の検討
第6回	フィールドワークの技法	フィールドワークの基礎知識と技法について
第7回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第8回	フィールドワークの準備	調査地の選定と下調べ
第9回	フィールドワーク	聞きとり調査
第10回	調査データの解釈・分析(1)	調査で得られたデータを解釈する
第11回	調査データの解釈・分析(2)	調査で得られたデータを先行研究とつぎあわせながら分析する
第12回	今後の調査の方向性(1)	これまでの調査の振り返り
第13回	今後の調査の方向性(2)	不足しているデータの収集
第14回	生活環境主義の実践性	役に立つ研究とはどのようなものか

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

### 【参考書】

参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果や受講生の声を適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

水野 雅男

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

**【到達目標】**

受講生が実践的な取り組みを調査するなかから、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

まちづくり（地域づくり）活動のフィールドワーク現場を選定するために、活動助成事業への企画書をグループ単位でとりまとめる。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第2回	まちづくり活動の事例研究①	活動先進事例の実態把握① リノベーション住宅
第3回	まちづくり活動の事例研究②	活動先進事例の実態把握② クリエイティブツーリズム
第4回	まちづくり活動の事例研究③	活動先進事例の実態把握③ メンタルヘルスツーリズム
第5回	まちづくり活動の事例研究④	活動先進事例の実態把握④ シェアリングエコノミー
第6回	まちづくり活動の事例研究⑤	活動先進事例の実態把握⑤ コミュニティの居場所
第7回	活動助成の企画書作成①	フィールドワークの目的確認
第8回	活動助成の企画書作成②	フィールドワークでの活動プログラムの検討①
第9回	活動助成の企画書作成③	フィールドワークでの活動プログラムの検討②
第10回	活動助成の企画書作成④	活動スケジュールの検討
第11回	活動助成の企画書作成⑤	企画書とりまとめ
第12回	フィールドワークの事前調査①	対象地域の社会条件の整理
第13回	フィールドワークの事前調査②	対象地域の環境条件の整理
第14回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献調査などの発表準備、フィールドワークの準備と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

**【その他の重要事項】**

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the factors necessary for community development while the students investigate practical efforts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

宮城 孝

配当年次 / 単位数：2 年次 / 2 単位

備考 (履修条件等)：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I B の両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習全体の目的である「福祉社会の未来をデザインする」ために、「若者の視点から探る」をテーマに、前期は、我が国の将来の社会保障や社会福祉に関する課題について、若者の視点から、その背景や課題について検討する。その際、具体的なフィールドを設定して、必要なデータを収集し、分析する。また、先進的な政策や実践について、国際的な視野を含めて検討し、基礎的な考察する力や視野を広げることを目的とする。

### 【到達目標】

- ・将来の福祉社会の在り方について、自分たちの問題として真摯にとらえることができる。
- ・社会保障や社会福祉に関して国際的な視点で考えることができる。
- ・専門的な文献や論文を読了するとともに、具体的なデータを収集・分析して自ら考察することができる。
- ・グループでテーマを設定し、協力して議論を深めることができる。
- ・人前で発表するプレゼンテーションの基礎的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献の探索レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、基本的には、演習方式によるゼミ生の共同研究による。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ全体の目的と方法、前期の進め方と日程等
第2回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて①	福祉社会の未来と自分隊たちの暮らしについての課題の検討
第3回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて②	上記について具体的なテーマの設定についての協議
第4回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて③	テーマの設定と内容についての協議
第5回	グループ研究①	研究内容と方法について協議① (社会課題の検討)
第6回	グループ研究②	研究内容と方法について協議② (先行研究の調べ方)
第7回	グループ研究③	研究内容と方法について協議③ (研究目的の明確化)
第8回	グループによる研究報告 I	中間報告① (研究の対象と目的)
第9回	グループによる研究報告 I	中間報告② (研究方法について)
第10回	グループ研究④	研究方法について協議① (研究の目的と対象の明確化)
第11回	グループ研究⑤	研究方法について協議② (研究方法について)
第12回	グループ研究⑥	研究方法について協議③ (具体的な調査方法について)
第13回	グループによる研究報告 II	中間報告③ (研究の目的と対象について)
第14回	グループによる研究報告 II	中間報告④ (調査方法について)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

海外の社会保障や社会福祉に関するテーマをグループで設定し、自ら関連する文献等を渉猟し読了する。準備・復習時間は、各4時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

テキストを使用する場合は授業で具体的に指示する。

### 【参考書】

適宜紹介するとともに、論文の書き方に関する文献等を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況 (60%) と研究の報告内容 (40%) によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を活かすとともに、学生相互に活発に論議できるようなゼミにしたいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

報告において、パワーポイントを使用する場合は、パソコンの貸与など自ら準備すること。

### 【その他の重要事項】

専門演習 II、III につながる基礎的な能力を高めるとともに、自ら問題意識を深め、調べ、まとめる主体的な学習態度の形成を図ります。

オフィスアワー 月曜日 3 時限

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、演習ではその経験を活かして適宜助言指導することとする。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

This Course is the setting theme to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth, and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose a research, it cultivates the skills to discuss and basic presentation through these.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data.

B. Students can make sentences as the research paper.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Student will be expected to have completed assignments after each supervision. Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided on research paper(40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(60%)

OTR200JC (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

小林 由佳

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

**【到達目標】**

働く人が直面する諸問題とその捉え方に関する基礎知識を習得することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

働くことに関わる各テーマについて、文献調査やDVD視聴、小グループでの発表、全体での議論を通して、理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、演習の目的と進め方、成績の評価法
第2回	産業・組織領域の基礎	産業・組織領域の構造やそこで働く人についての概説と議論
第3回	働く人のストレスとメンタルヘルス	働く人のストレスとメンタルヘルスについての概説と議論
第4回	働く人のウェルビーイング	働く人のウェルビーイングについての概説とグループワーク
第5回	キャリアモデルとキャリア観の変遷	キャリアについて、代表的なモデルと昨今のキャリア観の変遷についての概説と議論
第6回	働き方の変遷	外部環境の変化や働き方改革などの法整備の中での働き方の変遷についての概説と議論
第7回	ワークエンゲージメント	ワークエンゲージメントについてのグループ発表と議論
第8回	リーダーシップ①	リーダーシップの歴史と代表的なモデル（特性理論、行動理論、条件適合型理論）についてのグループ発表と議論
第9回	リーダーシップ②	リーダーシップの代表的なモデル（コンセプト理論）についてのグループ発表と議論
第10回	モチベーション	モチベーション理論についてのグループ発表と議論
第11回	職業性ストレスモデル	職業性ストレスモデルについてのグループ発表と議論
第12回	職場の関係性、心理的安全性	職場の関係性と心理的安全性についてのグループ発表と議論
第13回	企業理念とウェルビーイング	企業理念と企業のウェルビーイング施策についてのグループ発表と議論
第14回	まとめ	春学期ゼミの振り返りおよび秋学期の進め方

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

**【Outline (in English)】**

Course outline : In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.

Learning Objectives : The goal of the spring semester is to acquire basic knowledge of the various problems faced by workers and how to understand them.

Learning activities outside of the classroom : Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR200JC (その他 / Others 200)

## 専門演習 I A

末武 康弘

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や支援について報告や議論を行い、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有します。

### 【到達目標】

到達目標は、体験実習とディスカッションを通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各種のセラピーについてグループで歴史・理論・方法を調べて発表し、そのセラピーについての体験実習を行い、ディスカッションします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
第2回	オリエンテーション②	ゼミ長他、ゼミにおける役割を決めます
第3回	春学期の小グループ、学習内容の決定	春学期に行う実践体験グループのグループ分けと、各グループで実施する内容を決定します
第4回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション①	例：カウンセリングロールプレイ
第5回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション②	例：箱庭療法
第6回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション③	例：音楽療法
第7回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション④	例：造形療法
第8回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑤	例：夢分析とイメージセラピー
第9回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑥	例：プレイセラピーとボディワーク
第10回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑦	例：行動療法と認知行動療法
第11回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑧	例：サイコドラマ
第12回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑨	例：森田療法と内観療法
第13回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑩	例：マインドフルネスストレス低減法

第14回 授業のまとめ

授業のふりかえりとまとめを行います

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表と体験実習の内容を事前に検討してもらいます。また各グループで発表内容と体験実習、ディスカッションについてレポートを執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（発表の内容50%、授業への参加度50%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

体験実習やディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.

The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JC (その他 / Others 200)

**専門演習 I A**

関谷 秀子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

精神発達についての基本的な知識を習得する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

**【到達目標】**

精神発達についての基本的な内容について説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

論文やテキストの輪読を行う。それと並行して精神発達の正常と異常に関連するテーマについて調べ、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ生同士の自己紹介、ゼミの進め方、輪読の担当と発表順番決め
第2回	文献検索の方法について	多摩図書館においてガイダンス受講
第3回	テキストの輪読①／発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①
第4回	テキストの輪読②／発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②
第5回	テキストの輪読③／発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③
第6回	テキストの輪読④／発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④
第7回	テキストの輪読⑤／発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤
第8回	テキストの輪読⑥／発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥
第9回	テキストの輪読⑦／発表⑦	レジメを準備して発表、ディスカッションを行う⑦
第10回	テキストの輪読⑧／発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧
第11回	テキストの輪読⑨／発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨
第12回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解などについてディスカッションを行う
第13回	論文によるケース検討	ケースについてディスカッションを行う
第14回	まとめ②	春学期を振り返り、秋学期のゼミの内容と進行についてディスカッションを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを読み、自分の担当箇所の発表用レジメを作成する。自分の興味のあるテーマについて調べ、発表準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

**【Outline (in English)】**

We will learn basic knowledge of the developing mind. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

伊藤 正子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、「社会的排除」をキーワードに、人間関係や制度等何らかの理由で社会との「関係性」から離れて社会的孤立の状態にある人びとの現状について学ぶ。

### 【到達目標】

社会的排除の実態を様々な側面から理解し、批判的思考を養う。  
当事者のおかれた状況について様々な視点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

秋学期は、理論と実践を統合するためのフィールドワーク等を行い、春学期の研究テーマを実践的に深める。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの計画①	グループ毎にテーマの確認とフィールドワーク先の検討
第3回	フィールドワークの計画②	フィールドワークの内容・進行計画の作成①
第4回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（介入方法について）
第5回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援方法について）
第6回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。③（相談・連携について）
第7回	フィールドワークの実践④	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。④（記録について）
第8回	フィールドワーク結果の検討①	フィールドワーク実践の振り返りと検討①（研究テーマとの関連で）
第9回	フィールドワーク結果の検討②	フィールドワーク実践の振り返りと検討②（実践方法について）
第10回	フィールドワーク結果の検討③	フィールドワーク実践の振り返りと検討③（社会問題との関連について）
第11回	研究報告①	貧困系グループの発表
第12回	研究報告②	障害系グループの発表
第13回	研究報告③	多文化・その他のマイノリティ系グループの発表
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)
3. 演習への能動的参加(30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

### 【その他の重要事項】

基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the support people who have been in socially isolated situation. At the end of the course, students are expected to get knowledge about social supports with people who socially isolated. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I B**

岩崎 晋也

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

**【到達目標】**

論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

グループごとに研究の基本的な方法を学び、インタビュー調査を行い、その結果をまとめます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	先行研究の検討1	グループごとに先行研究を調べて報告する1
第2回	先行研究の検討2	グループごとに先行研究を調べて報告する2
第3回	先行研究の検討3	グループごとに先行研究を調べて報告する3
第4回	先行研究の検討4	グループごとに先行研究を調べて報告する4
第5回	先行研究の検討5	先行研究を整理し、研究課題を明らかにする
第6回	研究仮説の構築	先行研究をもとに研究仮説を構築する
第7回	インタビュー調査の設計1	インタビュー調査先を選定する
第8回	インタビュー調査の設計2	インタビュー調査先の事前調査を行う
第9回	インタビュー調査の設計3	インタビュー調査の項目を検討する
第10回	インタビュー調査結果の検討1	インタビュー調査の結果を文字化する
第11回	インタビュー調査結果の検討2	インタビュー内容をまとめる
第12回	インタビュー調査結果の検討3	先行研究の知見や研究仮説から、インタビュー結果を分析する
第13回	追加調査の検討	インタビュー調査で追加調査すべき点がないか検討する。
第14回	追加調査の実施	必要な追加調査を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ゼミにおいて指導を受けた内容を、グループで調査研究し、次回までに報告する。

必要に応じてサブゼミを開催し、議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、平常点(100%)により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

**【その他の重要事項】**

原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

**【Outline (in English)】**

Study social welfare themes and master basic research skills.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

岩田 美香

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

### 【到達目標】

- ・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
- ・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
- ・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
- ・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
- ・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
- ・子どもと家族の支援としての虐待防止活動に参加しつつ、実践からも考察していく。
- ・本年度は、若者の権利と政策に関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、秋学期のゼミの進め方について
第2回	テキスト：若者の生活保障と若者政策	・若者期とは何か ・若者政策とは何か
第3回	テキスト：早期離学と進路保障	・若者が権利の主体となるために ・フランスにおける若者のセーフティネット
第4回	テキスト：若者の就労支援と労働施策	・再チャレンジの機会保障と省庁連携 ・若者支援と就労支援の経緯 ・新たな若者支援施策と就労支援、労働施策
第5回	テキスト：若者と社会保障制度	・若者をめぐる社会保障制度の「手薄さ」 ・「相談支援」の可能性と「地域」
第6回	テキスト：若者の住まいと住宅政策	・若者を取りまく住宅システムの動向と課題 ・若者への住宅・居住支援のあり方
第7回	子どもの虐待防止に関する活動	「オレンジリボン活動」に向けた準備
第8回	テキスト：性とジェンダー	・若年女性支援の始まりと発展 ・性とジェンダーに関わる若者支援の多様な課題
第9回	テキスト：親に頼れない若者の自立保障	・施設退所後の子どもたち ・「意見表明等支援」から「意思決定支援」へ
第10回	テキスト：結婚・家族形成と結婚支援事業	・結婚支援事業の苦悩と成果探し ・若者と社会が求める「幸せな結婚」のズレ
第11回	子どもと家族の現場	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び
第12回	テキスト：民主主義を語る若者政策・ユースワークへ	・汎ヨーロッパの若者参画施策から ・日本の若者参画施策への示唆
第13回	テキスト：子ども政策と若者政策の連続性と固有性	・子どもと若者 ・子ども基本法 ・子ども・若者育成支援推進法

第14回 まとめ：文献を通して 若者とコミュニティについてのディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。テーマ別発表では、レジュメやパワポを作成して発表すること。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

宮本みち子 編（2023）『子ども若者の権利と政策4 若者の権利と若者支援』明石書店

その他のテキストについては、授業内で指定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（50%）、演習における発表・レポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I B**

高良 麻子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

**【到達目標】**

・社会問題の解決に向けた活動計画を策定することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

専門演習 I Aの学びをもとに、グループで社会問題の解決に向けた活動計画を策定する。授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題の理解	支援者からの講義
第3回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討①	社会問題の解決目標
第4回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討②	連鎖的変化の仮説
第5回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討③	連鎖的変化を生じさせる活動
第6回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討④	具体的な活動
第7回	社会問題への対応検討	全体でのディスカッション
第8回	社会問題の解決に向けた活動計画の策定	活動計画の完成
第9回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表①	活動計画の発表
第10回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表②	活動計画の議論
第11回	社会問題の解決に向けた活動計画の再検討	活動計画の再検討
第12回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表	活動計画の全体発表
第13回	個々の学びの総括	各自の学びの共有
第14回	総括	振り返りと課題認識 個別面談

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

担当者として責任をもって、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。

本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規

空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル—「制度からの排除」への対処』中央法規

**【成績評価の方法と基準】**

・平常点 60%

・社会問題の活動計画に関する発表 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

2年生の最後にそれまでの学びの総括を行い、次年度からの卒業研究につなげます。

**【Outline (in English)】**

This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end presentation (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I Bのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。学びの内容としては、グループごとのディスカッション、プレゼンテーション、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

### 【到達目標】

春学期での学びをさらに深め、当事者やその家族、専門家との関わりから得た情報や経験をもとに、彼らが必要としていることについて理解できるようにし、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミでは、春学期に当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知るという点を深めてきたことをふまえ、秋学期では当事者やその家族と積極的にかかわりを持ち、社会的な活動によって変革をもたらすということについて考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行います。一人一人の自主性を大切に、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。また、当事者団体との研究会などにも参加していただき、学習内容をより「リアル」なものとしてつかんでほしいと思います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第3回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第4回	フィールドワーク	学外での学習
第5回	フィールドワークの振り返り	見学先をふまえた全体討議
第6回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第7回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第8回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第9回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第10回	ゲストの専門分野に関する学習成果報告と質疑応答	プレゼンテーションと質疑応答
第11回	ゲストの専門分野と関連したDVDでの学習	DVD視聴と全体討議
第12回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とグループごとのディスカッション
第13回	振り返り	全体討議
第14回	まとめ	まとめと次年度に向けての討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソーシャルワークにおける「当事者性」「専門性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくこと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介いたします。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

受講態度（50%）、発表内容・提出物（50%）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちとともに議論をしたり、フィールドワークやゲストスピーカーとの橋渡しをしたいと思います。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I B**

佐野 竜平

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを引き続き身に付けることを目指す。

**【到達目標】**

アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ゼミ合宿（海外または国内）を土台に、ディスカッションやグループワーク等を実施しつつ、学生相互に学び合う機会を創出していく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等での都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返り、秋学期の見通し
第2回	ゼミ合宿報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	ゼミ合宿報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第5回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第6回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第7回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第8回	海外経験者に学ぶ	海外滞在経験者と質疑応答
第9回	1次自主企画準備①	今後深めたいテーマの選定
第10回	1次自主企画準備②	現地活動に必要な準備等を議論
第11回	学びの伝達	表現力向上のための企画実施
第12回	1次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第13回	1次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野等】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】** This course deals with advanced academic performance, in particular, with tools in public relations.

**【Learning Objectives】** The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and practical skills related to international cooperation and development, with a focus on comparisons between Asia and Japan.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

**【Grading Criteria /Policy】** Grading will be determined by a combination of in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in class, including presentations and reports (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

野田 岳仁

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習 I では年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

### 【到達目標】

地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として「アクアツーリズム」と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第2回	調査結果の報告（1）	プレゼンテーションの作法
第3回	調査結果の報告（2）	調査結果についての討議
第4回	先行研究の再検討（1）	調査結果を踏まえて先行研究を見直す
第5回	先行研究の再検討（2）	調査結果を踏まえて分析視角を見直す
第6回	フィールドワーク（1）	追加のデータを収集する①
第7回	フィールドワーク（2）	追加のデータを収集する②
第8回	データの解釈・分析（1）	追加調査で得られたデータを解釈する
第9回	データの解釈・分析（2）	追加調査で得られたデータを分析する
第10回	結論の検討（1）	調査によって導き出された結論について検討・討議する①
第11回	結論の検討（2）	調査によって導き出された結論について検討・討議する②
第12回	論文執筆の作法と構成	研究結果を論文にまとめる
第13回	プレゼンテーション	研究結果について発表する
第14回	2年次ゼミの総括	総括と3年次ゼミの計画

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

### 【参考書】

参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果や学生からの声は適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを積極的に活用する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR200JB (その他 / Others 200)

**専門演習 I B**

水野 雅男

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

**【到達目標】**

受講生が実践的なフィールドワークを通じて、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

グループワークにより、まちづくり（地域づくり）のフィールドワークの準備と実施、報告まで一貫して行う。

課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	第1回 活動報告	夏休みのフィールドワークの概要報告
第2回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第3回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②と発表
第4回	今後の活動課題①	秋のフィールドワークに向けての課題の検討①
第5回	今後の活動課題②	秋のフィールドワークに向けての課題の検討②
第6回	活動プログラム立案①	秋のフィールドワーク行動計画①
第7回	活動プログラム立案②	秋のフィールドワーク行動計画②
第8回	フィールドワーク実施①	現地での活動①第一次調査
第9回	フィールドワーク実施②	現地での活動②第二次調査
第10回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果のデータ整理
第11回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の図表作成
第12回	報告書作成①	活動報告書のとりまとめ
第13回	報告書作成②	活動報告書の校正
第14回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

フィールドワークの準備と実施、報告書作成など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習時間での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

**【その他の重要事項】**

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Acquire the ability to understand the factors necessary for community development (community development) through practical fieldwork.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JB (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

宮城 孝

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I Aでの「若者の視点から福祉社会の未来をデザインする」とのテーマのもと、国内外の社会保障や社会福祉に関する研究で得た知見をもとに、日本における地域の生活課題を対象にグループでテーマを設定し、関連する文献やデータの読了や分析、フィールドワーク等により、論議を深め、研究を行う。問題に対して、自ら考える課題認識や、実際の現場をとおして課題を明らかにし、議論する力、また人前で発表する基礎的な力を養う。

### 【到達目標】

具体的な地域の福祉問題に関して発見し、探求することができる。  
テーマについてグループで議論し、自ら活発に発言できる。  
専門的な文献やデータを収集し、読解することができる。  
人前で、研究の内容や結果を発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献の渉猟や研究方法、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、グループによる主体的な研究や報告が主となる。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	後期の進め方、スケジュール等
第2回	研究テーマの設定について	グループ討議①（研究の対象と目的の明確化）
第3回	研究テーマの設定の具体化	グループ討議②（具体的なデータ収集法）
第4回	研究テーマについての報告	研究テーマの背景や意義についての報告と討議①
第5回	グループ研究	グループ報告に向けての討議と準備
第6回	グループ報告 I ①	グループ研究の中間報告と討議（研究の目的と背景）
第7回	グループ報告 I ②	グループ研究の中間報告と討議②（研究方法）
第8回	グループ報告 I ③	グループ研究の中間報告と討議③（データの分析）
第9回	グループ研究	グループ報告に向けた討議と準備①
第10回	グループ報告 II ①	グループ研究の中間報告と討議①（研究の背景と目的）
第11回	グループ報告 II ②	グループ研究の中間報告と討議②（データの分析）
第12回	グループ報告 II ③	グループ研究の中間報告と討議③（考察）
第13回	グループ研究	最終のグループ報告に向けた討議と準備
第14回	合同研究報告会	最終のグループ研究の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各小グループによって研修テーマを設定し、文献やデータの分析やフィールドワーク

などを行い研究を進めるので、時間内だけで足りない場合は、時間外にサブゼミを行ない研究を進める。

準備・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（60%）と研究の報告内容（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に研究を進め、より活発に相互に論議できるような工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションの際のパソコン等の準備

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー月曜日3時限

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Subject explore the setting theme to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth, and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose the research, it cultivates the skills to discuss and basic presentation through these.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data.

B. Students can make sentences as the research paper.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Student will be expected to have completed assignments after each supervision. Your study time will be more than four hours for a class

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided on research paper (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

OTR200JC (その他 / Others 200)

**専門演習 I B**

藤島 雄磨

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

**【到達目標】**

認知行動療法の全体像を把握し、その中から、自らの関心があるテーマを調べ、理解を深められるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

認知行動療法に関連するテーマの中から、自らの関心があるテーマについて、個人発表をもらい、それを題材にして、ディスカッションを行っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について話し合います。
第2回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の目的について概説します。
第3回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の意義について概説します。
第4回	認知行動療法の理論と技法1	認知行動療法の理論と技法について解説し、ディスカッションを行います。
第5回	認知行動療法の理論と技法2	認知行動療法の理論と技法について、ディスカッションします。
第6回	認知行動療法の理論と技法3	認知行動療法の理論と技法の課題を、ディスカッションします。
第7回	認知行動療法の理論に関する個人発表1	認知行動療法の理論（主にレスポナント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第8回	認知行動療法の理論に関する個人発表2	認知行動療法の理論（主にオペラント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第9回	認知行動療法の理論に関する個人発表3	認知行動療法の理論（主に情報処理理論）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第10回	認知行動療法の理論に関する個人発表4	認知行動療法の理論（主にマインドフルネス）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらい、ディスカッションを行います。
第11回	認知行動療法の技法に関する個人発表1	認知行動療法の技法（主に行動療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第12回	認知行動療法の技法に関する個人発表2	認知行動療法の技法（主に認知療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第13回	認知行動療法の技法に関する個人発表3	第三世代の認知行動療法に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第14回	まとめ	秋学期のゼミを振り返ります。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分らない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

体験的学習の機会を取り入れていきたいと考えています。

**【Outline (in English)】**

This seminar focuses on issues affecting mental health from the viewpoint of cognitive behavior therapy. The seminar provides opportunities to acquire knowledge and methods for cognitive behavior therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR200JC (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

小林 由佳

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

### 【到達目標】

働く人のウェルビーイングのためのアプローチ方法を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

働く人のウェルビーイングを支えるためのアプローチについて、文献調査やDVD視聴、小グループでの発表、全体での議論を通して、理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と計画
第2回	働く人のウェルビーイングを支える関係者と仕組み	働く人のウェルビーイングを支える関係者と仕組み、法整備についての概説と議論
第3回	働く人のメンタルヘルス不調の予防	メンタルヘルス不調の予防の考え方と実際についての概説と議論
第4回	個人への支援	個人支援の基礎となる認知行動アプローチとその考え方についての概説と議論
第5回	組織への支援	職場環境を改善するためのアプローチについての概説と議論
第6回	個人と組織の活性化支援	個人と組織を活性化するためのアプローチについての概説と議論
第7回	個人へのアプローチ 1	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論 1
第8回	個人へのアプローチ 2	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論 2
第9回	個人へのアプローチ 3	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論 3
第10回	個人へのアプローチ 4	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論 4
第11回	組織へのアプローチ 1	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論 1
第12回	組織へのアプローチ 2	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論 2
第13回	組織へのアプローチ 3	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論 3
第14回	まとめ	一年間の学びのまとめ、翌年度の進め方について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマを選び、グループで協力し合いながら文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）および発表内容（40%）をもとに総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.

Learning Objectives : The goal of the autumn seminar is to understand how to approach the wellbeing of workers.

Learning activities outside of the classroom : Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR200JC (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

末武 康弘

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や支援について報告や議論を行い、ゼミ論にまとめます。

### 【到達目標】

このゼミの到達目標は、グループ学習を通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理学のトピックをグループでゼミ論にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
2	オリエンテーション②	グループ分けと、ゼミ長他の役割を決めます
3	小グループ、研究内容の決定	各グループで取り組む内容を決定します
4	小グループによる研究発表とディスカッション①	各グループによる研究テーマと進行予定の発表
5	小グループによる研究発表とディスカッション②	例：グループA、グループBの発表
6	小グループによる研究発表とディスカッション③	例：グループC、グループDの発表
7	小グループによる研究発表とディスカッション④	例：グループE、グループAの発表
8	小グループによる研究発表とディスカッション⑤	例：グループB、グループCの発表
9	小グループによる研究発表とディスカッション⑥	例：グループD、グループEの発表
10	小グループによる研究発表とディスカッション⑦	例：グループAの発表
11	小グループによる研究発表とディスカッション⑧	例：グループBの発表
12	小グループによる研究発表とディスカッション⑨	例：グループCの発表
13	小グループによる研究発表とディスカッション⑩	例：グループDの発表
14	小グループによる研究発表とディスカッション⑪、まとめ	例：グループEの発表、授業のまとめを行います

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで協力し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表内容を事前に検討してもらいます。また各グループでゼミ論文を執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、ゼミ論文（60%）をあわせて評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.

The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (60%), and in-class contribution (40%).

OTR200JC (その他 / Others 200)

## 専門演習 I B

関谷 秀子

配当年次／単位数：2年次／2単位

備考（履修条件等）：選考で合格したクラスを登録すること。専門演習 I A・I Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I A で学んだことを基礎として、乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常を学習する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

### 【到達目標】

乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常に関連した、関心のあるテーマについて調べ理解を深める。またそのテーマについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自が関心のあるテーマを設定し文献を収集し、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	進行についての提案ないし希望があれば、それについてゼミ全体で検討する。
第2回	文献検索①	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第3回	文献検索②	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第4回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①。
第5回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②。
第6回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③。
第7回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④。
第8回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤。
第9回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥。
第10回	発表⑦	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑦。
第11回	発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧。
第12回	発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨。
第13回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解についてディスカッションを行う。
第14回	まとめ②	来年度春学期のゼミの内容と進行について意見交換を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマについて調べ、レジメを作成し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

### 【Outline (in English)】

We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習ⅡA**

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的排除に関わる様々な現状と当事者のおかれた状況について具体的に学ぶ。

**【到達目標】**

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、それぞれの社会的排除の実態、その社会的背景と問題を批判的に検討し、当事者のおかれた状況を「社会問題としての生活問題を科学的に理解する」ことによって具体的に理解することをめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求しレポート報告を行う。対面式での開講となる。関係者への調査は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献および論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める① 文献研究のまとめ
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める② フィールドワーク先とテーマの検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③ フィールドワーク先の具体的検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④ フィールドワークの計画作成
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤ フィールドワーク実践状況についての意見交換
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥ フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦ フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期の報告とまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めませんが、必要に応じてテキストを使用する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)
3. 演習への能動的参加(30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the reality of social exclusion. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social exclusion in Japan and find critical thinking. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡA

岩崎 晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

### 【到達目標】

論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第2回	先行研究の検討1	先行研究を検討する1
第3回	先行研究の検討2	先行研究を検討する2
第4回	先行研究の検討3	先行研究を検討する3
第5回	先行事例の検討1	研究テーマに関連する先行事例を検討する1
第6回	先行事例の検討2	研究テーマに関連する先行事例を検討する2
第7回	先行事例の検討3	研究テーマに関連する先行事例を検討する3
第8回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第9回	予備調査の設計1	予備調査先を選定する
第10回	予備調査の設計2	予備調査の調査内容を設計する
第11回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第12回	予備調査結果の検討1	予備調査の結果を文字化する
第13回	予備調査結果の検討2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第14回	予備調査結果の検討3	研究仮説の再検討を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

### 【Outline (in English)】

Study social welfare themes and master basic research skills.  
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.  
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.  
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

### 【到達目標】

- ・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
- ・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
- ・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
- ・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
- ・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
- ・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
- ・子どもと家族の支援としての虐待防止活動に参加しつつ、実践からも考察していく。
- ・本年度は、差別問題から社会を考える文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキストの紹介、ゼミの進め方について
第2回	子どもの虐待防止に関する活動1	昨年の子どもの虐待防止活動の総括と課題について
第3回	テキスト：差別とはどんな行為か	・ヘイトスピーチ ・戦争は最大の差別 ・他者理解の過程で生じる差別
第4回	テキスト：差別を考える二つの基本	・差別が姿を現すとき ・誰にでもある差別の可能性 ・「普通」とは何か
第5回	テキスト：カテゴリー化という問題	・他者理解の「歪み」を考える ・思い込みや決めつけからの解放
第6回	子どもと家族の現場1	児童養護施設見学
第7回	テキスト：人間に序列はつけられるのだろうか	・「特別」な人間とは ・「不条理で」「理屈に合わない」営み
第8回	テキスト：ジェンダーと多様な性	・外から規制される性差 ・変わるジェンダーの「あたりまえ」 ・「あるカテゴリー」に生きる人を理解する
第9回	子どもの虐待防止に関する活動2	子どもの虐待に対する社会の認識を考える
第10回	テキスト：障害から日常を見直す	・障害者のイメージ ・障害は克服すべきものか ・能力主義の危うさ
第11回	テキスト：異なる人種・民族という存在	・少子高齢化が日本社会を変える ・「純粋な」日本人とは ・異なる人種・民族の人々と生きることは
第12回	テキスト：外見もつ「危うさ」	・外見から他者を理解するということ ・外見による「決めつけ」を崩す方法
第13回	子どもと家族の現場2	母子生活支援施設見学
第14回	まとめ：文献を通してのディスカッション	差別を考えることと私たちの生活

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

好井裕明（2020）『他者を感じる社会学 差別から考える』筑摩書房  
その他のテキストについては、授業内で指定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（50%）、演習における発表・レポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡA

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進めるために必要な研究方法を学び、研究テーマを決める。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの研究方法を理解できる。
- ・卒業研究のテーマを決めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワーク研究に関する講義にもとづき、各自が自分の研究テーマ等について検討する。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	活動のための関係構築	研究に向けた関係構築
第3回	ソーシャルワーク研究について	ソーシャルワーク研究の概要 論文の構成
第4回	研究テーマの設定	リサーチクエスションの検討方法
第5回	先行研究のレビュー	リサーチクエスションに関する先行研究のレビューの方法
第6回	研究の目的	研究目的の明確化
第7回	質的研究①	インタビュー調査方法
第8回	質的研究②	質的データ分析方法
第9回	量的研究	アンケート調査方法
第10回	研究テーマの検討	研究グループの決定
第11回	卒業研究の研究課題	リサーチクエスションの検討
第12回	卒業研究のテーマに関する先行研究	先行研究のレビュー
第13回	卒業研究の目的	研究目的の決定
第14回	卒業研究の中間報告	4年生の卒業研究の中間報告

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。  
本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン」有斐閣アルマ

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・研究計画 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

3年生と4年生の交流の機会を設定し、ともに学びを高め会えるようにしている。

### 【Outline (in English)】

This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to learn the research methods necessary to proceed with graduation research and decide on a research theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan(40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習Ⅱ A**

佐藤 繭美

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

専門演習Ⅱ Aのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。学内での学習にとどまらず、積極的に当事者やその家族とかかわり、当事者のもつ力と専門職の関係性について理解を深めていく。

**【到達目標】**

専門演習Ⅱ A/Bで学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。ゼミの活動では当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験し、それをもとに議論や課題学習を実施していただきます。その他に、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定に関する話し合い
3	グループ活動と全体討議	研究フィールドの内容に関する討議
4	文献検索の方法フィールドワークのための学習①	講義
5	フィールドワークのための学習②	全体討議と先行研究の整理
6	フィールドワークのための学習③	全体とグループ学習テーマごとのグループ発表
7	プレゼンテーション	学習テーマに基づいたグループ発表
8	プレゼンテーションと討議	学習テーマに基づいた発表を受けての討議
9	プレゼンテーションと全体討議	学習テーマに基づいた発表の総括
10	グループによる研究内容の整理	グループごとの話し合い
11	グループによる課題検討	グループごとの話し合いと全体討議
12	グループによる活動テーマの発表	グループごとの発表
13	ゼミ活動報告	活動内容の報告
14	まとめ	春学期の総括と秋学期に向けた話し合い

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。

①久保絳章・石川到寛編（1998）『セルフヘルプグループの理論と展開』中央法規

本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

**【参考書】**

講義内で適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

受講姿勢(50%)、発表内容・提出物(50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

**【その他の重要事項】**

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

**【到達目標 (Learning Objectives)】** In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】** Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

佐野 竜平

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

### 【到達目標】

アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を深めるアプローチを中心とする。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google Classroom、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	1次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	1次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	卒業論文を書く前に①	現場活動の方向性を検討
第5回	卒業論文を書く前に②	現場活動の文献・資料レビュー
第6回	卒業論文を書く前に③	骨子案を作成
第7回	2次自主企画準備①	現場活動の時期や準備を検討
第8回	2次自主企画準備②	現場活動の時期や準備を可視化
第9回	2次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第10回	2次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第11回	企画の学び合い	学年を超えて意見交換
第12回	2次自主企画骨子③	現場活動の時期や準備修正
第13回	4年生卒論中間発表	様々な研究課題の深め方
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course aims to associate with other experts and practitioners in society and gain practical and professional skills at the basic level from the international perspective.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to gain experience in working with international stakeholders, especially in Asia.

【Learning activities outside of the classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%). Additional details about assessment methods may be included for clarity.

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習Ⅱ A**

野田 岳仁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人び  
とにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目  
的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人び  
との価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワーク  
の技法をマスターすることを目指す。

**【到達目標】**

環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本  
質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につ  
けること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力  
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習  
成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本演習では、複数の研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワー  
ク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一  
連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若  
干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。  
リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システム  
を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第2回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第3回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第4回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第5回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第6回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第7回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第8回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第9回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第10回	調査データの分析と解 釈（1）	データを分析する
第11回	調査データの分析と解 釈（2）	仮説を検証する
第12回	調査レポートの作成 （1）	知見と意義を検討する
第13回	調査レポートの作成 （2）	限界と課題を検討する
第14回	調査レポートの発表	研究結果の発表と討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

課題文献の精読、調査レポートの作成、フィールドワーク、プレゼンテーショ  
ンの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各2時  
間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点（50%）と調査レポートなどの成果物（50%）を総  
合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映  
させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

水野 雅男

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

### 【到達目標】

受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。

課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第2回	政策提言のテーマ設定①	関心のあるテーマの共有
第3回	政策提言のテーマ設定②	テーマごとにグループ結成
第4回	フィールドワーク計画①	活動フィールドの選定
第5回	フィールドワーク計画②	活動フィールドの決定
第6回	フィールドワーク計画③	現地での調査計画①予備調査
第7回	フィールドワーク計画④	現地での調査計画②本調査
第8回	フィールドワークの実施①	現地調査の実施①予備調査
第9回	フィールドワークの実施②	現地調査の実施②本調査
第10回	政策提言とりまとめ①	調査結果データのとりまとめ
第11回	政策提言とりまとめ②	調査結果の図表とりまとめ
第12回	政策提言とりまとめ③	政策提言申請書類作成①
第13回	政策提言とりまとめ④	政策提言申請書類作成②
第14回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習Ⅱ A**

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2年次ゼミでの学習をもとに、さらに基礎的な研究能力を高めることを目標とする。報告におけるプレゼンテーション能力や積極的に実践にかかわり、分析する能力を高めることも目標とする。また、自らの卒業研究のテーマと研究方法を明確にし、関連する文献やデータを探索し、分析を行う。

**【到達目標】**

研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。  
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し論理的に説明できる。  
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

自ら文献を探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。卒業研究における論文の作成方法やフィールドワークにおけるインタビューの方法などについて講義を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマ設定の方法
第2回	研究の方法について	講義による理解
第3回	仮テーマの報告	報告と指導
第4回	先行研究のレビュー	講義による理解
第5回	研究報告①	報告と討議①（研究テーマ）
第6回	研究報告②	報告と討議②（研究の目的）
第7回	研究報告③	報告と討議③（先行研究のレビュー）
第8回	研究報告④	報告と討議④（研究の方法）
第9回	グループ研究のテーマ設定	テーマに関する討議①
第10回	研究報告⑤	報告と討議①（研究の目的）
第11回	研究報告⑥	報告と討議②（研究の対象）
第12回	研究報告⑦	報告と討議③（A先行研究のレビュー）
第13回	研究報告⑧	報告と討議④（研究方法について）
第14回	研究報告⑨、前期のまとめ	報告と討議⑤ 前期の振り返りと後期に向けて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

研究テーマに関する文献やデータの収集、研究段階ごとのレポートの作成準備・復習時間は4時間以上とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない

**【参考書】**

適宜指示する。また、研究テーマに応じて、自ら選択する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加状況（60%）と研究の報告内容（40%）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続きゼミ生の積極性を高めるための改善を図ることとする。

**【その他の重要事項】**

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

**【Outline (in English)】**

This seminar is the purpose of improving basic research capability and the skill of presentation, and it sets the theme the research paper, it searches the related paper and data.

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

藤島 雄磨

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

### 【到達目標】

専門演習Ⅱの到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

専門演習ⅡAでは、自らの関心があるテーマについて、認知行動療法に関する研究論文を探し、個人発表をしてもらいます。発表を元に、心理学の研究法や認知行動療法の理論について学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第2回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の位置づけについて概説します。
第3回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の特徴について概説し、ディスカッションを行います。
第4回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法(主に行動療法)に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第5回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法(主に認知療法)に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第6回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション3	各自が関心あるテーマについて認知行動療法(主にマインドフルネス)に関する研究の問題意識を個人発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第7回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション4	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第8回	認知行動療法の技法に関するグループ体験1	第一世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第9回	認知行動療法の技法に関するグループ体験2	第二世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第10回	認知行動療法の技法に関するグループ体験3	第三世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第11回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法(主に行動療法)に関する研究方法を個人発表してもらいます。
第12回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法(主に認知療法)に関する研究方法を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第13回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究方法を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第14回	まとめ	春学期のゼミを振り返ります

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（40%）と発表内容（60%）について総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The course guides students through specific psychological research examples and exercises for researching. Students are required to make topic presentations about research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

小林 由佳

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

### 【到達目標】

卒業論文に向けて、関心のあるテーマに関する研究論文を読み、学術的知見と研究方法に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自らの関心があるテーマについて、グループで協力して研究論文を読み、発表を行います。発表者と参加者は、議論を通して、テーマに関する理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	産業領域における研究1	産業領域におけるトピックスと研究についての解説と議論1
第3回	産業領域における研究2	産業領域におけるトピックスと研究についての解説と議論2
第4回	テーマの決定	関心あるテーマの話し合い、発表内容と担当の決定
第5回	グループ発表①	小グループによる発表と全体ディスカッション①
第6回	グループ発表②	小グループによる発表と全体ディスカッション②
第7回	グループ発表③	小グループによる発表と全体ディスカッション③
第8回	グループ発表④	小グループによる発表と全体ディスカッション④
第9回	中間まとめ	グループ発表の振り返り
第10回	グループ発表⑤	小グループによる発表と全体ディスカッション⑤
第11回	グループ発表⑥	小グループによる発表と全体ディスカッション⑥
第12回	グループ発表⑦	小グループによる発表と全体ディスカッション⑦
第13回	グループ発表⑧	小グループによる発表と全体ディスカッション⑧
第14回	まとめ	春学期ゼミの振り返りおよび秋学期の進め方

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.

Learning Objectives : The goal of this seminar is to deepen students' understanding of academic knowledge and research methods by reading research papers on topics of interest in preparation for their graduation thesis.

Learning activities outside of the classroom : Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習Ⅱ A

末武 康弘

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関連する問支援について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有し、ゼミ論文にまとめる準備をします。

### 【到達目標】

このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめる準備をします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方や成績評価の基準を示し、また、ゼミ長他、ゼミでの役割を決定します
2	個人テーマの選定①	各自の研究テーマを決めるためのプレーストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	各自の研究テーマを決めるためのディスカッションを行います
4	研究テーマと発表スケジュールの決定	各自の研究テーマを決定し、ゼミでの発表のスケジュールを決めます
5	個人報告とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生A～C発表。
6	個人報告とディスカッション②	例：ゼミ生D～Fの発表
7	個人報告とディスカッション③	例：ゼミ生G～Iの発表
8	個人報告とディスカッション④	例：ゼミ生J～Lの発表
9	個人報告とディスカッション⑤	例：ゼミ生M～Oの発表
10	個人報告とディスカッション⑥	例：ゼミ生A～C発表。
11	個人報告とディスカッション⑦	例：ゼミ生D～Fの発表
12	個人報告とディスカッション⑧	例：ゼミ生G～Iの発表
13	個人報告とディスカッション⑨	例：ゼミ生J～Lの発表
14	個人報告とディスカッション⑩、まとめ	例：ゼミ生M～Oの発表、授業のふりかえりとまとめを行います

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（個人報告の内容 50%、授業への参加度 50%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のを持参しなくても大丈夫です。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.

The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

**専門演習Ⅱ A**

関谷 秀子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅱ A・Ⅱ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【Outline (in English)】**

We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will then specify a particular theme and deepen our understanding of that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。自分の関心のあるテーマを明確にし、そのテーマについて理解を深める。

**【到達目標】**

自分の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関連する文献を探することができる。文献を読み込み、発表、ディスカッションができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

専門演習Ⅰで学んだことを振り返る。各自が関心のある幾つかのテーマについて、関心のある点、調べてみたいことなどを具体的に報告しあう。そして自分の関心のあるテーマを選定する。そのテーマについて文献を調べ発表、ディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	テーマの選定①	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第3回	テーマの選定②	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第4回	文献検索①	専門書や文献検索方法を図書館で学ぶ
第5回	文献検索②	テーマに関する文献を探す
第6回	文献抄読会①	各自が興味のある文献を読み紹介する①
第7回	文献抄読会②	各自が興味のある文献を読み紹介する②
第8回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第9回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第10回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第11回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第12回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第13回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッション⑥
第14回	まとめ	春学期の学習内容を振り返りディスカッションを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除に関わる諸問題に対する社会的対応および援助の  
実際について学ぶ。

### 【到達目標】

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきなが  
ら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景  
と現代の課題を明らかにし、支援現場のフィールドワークと省察を繰り返し、  
求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力  
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習  
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期の研究結果を基盤としながら、グループの研究関心に基づいてさらに深  
め、ゼミでの質疑応答を反映させながら4年次の研究へとつなげることをめ  
ざす。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じて  
オンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学  
習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業  
内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの計画	フィールドワーク先の確認・進行計 画の検討・作成
第3回	フィールドワークの実 践①	グループ毎にフィールドワーク実践 を行い、各々持ち帰った課題を整理・ 検討する①（現場の状況について）
第4回	フィールドワークの実 践②	グループ毎にフィールドワーク実践 を行い、各々持ち帰った課題を整理・ 検討する②（支援方法について）
第5回	フィールドワークの実 践③	グループ毎にフィールドワーク実践 を行い、各々持ち帰った課題を整理・ 検討する③（課題の達成状況につ いて）
第6回	グループ活動①	グループ毎にフィールドワーク結果 を分析・考察する①（研究テーマと の関係と方法について）
第7回	グループ活動②	グループ毎にフィールドワーク結果 を分析・考察する②（現場の現状と 課題について）
第8回	グループ活動③	グループ毎にフィールドワーク結果 を分析・考察する③（これからの課 題・活動の方向性について）
第9回	報告書の作成①	グループ毎に研究結果のまとめと報 告書を作成する①（構成・目次につ いて）
第10回	報告書の作成②	グループ毎に研究結果のまとめと報 告書を作成する②（理論的検討のま とめ）
第11回	報告書の作成③	グループ毎に研究結果のまとめと報 告書を作成する③（実践結果のま とめ）
第12回	報告書の作成④	グループ毎に研究結果のまとめと報 告書を作成する④（校正作業）
第13回	報告書の発表	グループ毎に報告書をもとに発表す る
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグル  
ープによる討議を十分に行い、協働で研究を進めていくことが望ましい。本授  
業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めない。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)
3. 演習への能動的参加(30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

研究指導については、合宿等も活用していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利  
用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

### 【その他の重要事項】

昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的  
に担うことを期待する。

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員  
経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【Outline (in English)】

This course deals with supporting people who have been in socially  
isolated situation. At the end of the course, students are expected to  
get knowledge about social supports with people who socially isolated.  
Students will be expected to have completed the required assignments  
after each class meeting. Your study time will be more than four hours  
for a class meeting. Final grade will be calculated according to the  
following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%),  
and in-class contribution(30%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習ⅡB**

岩崎 晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

**【到達目標】**

論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第2回	先行研究の検討1	先行研究を検討する1
第3回	先行研究の検討2	先行研究を検討する2
第4回	先行研究の検討3	先行研究を検討する3
第5回	先行事例の検討1	研究テーマに関連する先行事例を検討する1
第6回	先行事例の検討2	研究テーマに関連する先行事例を検討する2
第7回	先行事例の検討3	研究テーマに関連する先行事例を検討する3
第8回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第9回	予備調査の設計1	予備調査先を選定する
第10回	予備調査の設計2	予備調査の調査内容を設計する
第11回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第12回	予備調査結果の検討1	予備調査の結果を文字化する
第13回	予備調査結果の検討2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第14回	予備調査結果の検討3	研究仮説の再検討を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(100%)により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

**【Outline (in English)】**

Study social welfare themes and master basic research skills.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのかについて、また、その子どもと家族への援助や教育について考察を深める。これらの問題関心から、各自の問題関心を明らかにしていく。

### 【到達目標】

- ・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
- ・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと研究方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・各自の問題関心を明確にし、それぞれ課題を設定して発表し、互いに検討していく。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしていく。
- ・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、ゼミの進め方について
第2回	論文の書き方1	論文とは何か
第3回	論文の書き方2	各自の関心テーマを論文にするには
第4回	論文の書き方3	論文を書くための約束事
第5回	子どもと家族の現場1	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び
第6回	発表1-1	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最初の3～4名）
第7回	発表1-2	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で次の3～4名）
第8回	発表1-3	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最後の3～4名）
第9回	子どもと家族の現場2	裁判所見学
第10回	発表2-1	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最初の2～3名）
第11回	発表2-2	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の2～3名）
第12回	発表2-3	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の2～3名）
第13回	発表2-4	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最後の2～3名）
第14回	まとめ	全体の振り返り、来年度の卒業論文作成に向けての確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介された文献を読み進めること。テキストも参考にしながら来年度の卒業論文に向けて、論文テーマを検討し、必要な資料・参考文献を集めて読み進めること。

発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

- ・日本子どもを守る会編（2024）『子ども白書2024』かもがわ出版
- ・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房
- ・戸田山和久（2022）『新版 論文の書き方』NHKブックス
- ・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方 第4版』慶応義塾大学出版会

その他のテキストについては、授業内で指定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（50%）、演習における発表・レポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

### 【Outline (in English)】

This seminar focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習 II B**

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習 II A・II Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究の計画を立て、できるところから研究を進める。

**【到達目標】**

- ・卒業研究の計画を立てる。
- ・卒業研究を進める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各自またはグループで卒業研究を進めるための準備を全体のディスカッションを通して行いながら、研究を始める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	研究方法の検討①	研究の枠組みと調査方法の検討
第3回	研究方法の検討②	データ収集方法の検討
第4回	倫理的配慮の理解	研究における倫理的配慮
第5回	研究計画書の作成	研究計画書の作成完成
第6回	研究計画の発表	研究計画の発表と再検討
第7回	データ収集の準備①	アンケート調査項目の検討
第8回	データ収集の準備②	プレアンケート調査の実施
第9回	データ収集の準備③	インタビュー調査項目の検討
第10回	データ収集の準備④	インタビュー調査の練習
第11回	卒業研究の発表①	卒業研究の進捗の共有
第12回	卒業研究の発表②	研究計画の修正
第13回	卒論発表会	4年生の卒業論文の発表
第14回	総括	振り返りとまとめ 個別面談

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自が卒業研究を進めるために、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない

**【参考書】**

岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン」有斐閣  
 アルマ川村匡由（2018）「三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規  
 白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点 60%
- ・研究計画 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

4年生の卒業研究の報告から学べる機会を設けている。

**【Outline (in English)】**

This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan (40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習ⅡBのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。研究会や当事者活動とのかかわりを通して、グループごとのディスカッション、プレゼンテーションを実施し、当事者支援とは何かを考究するとともに、プレゼンテーションスキルの向上についても意識していきます。さらには、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

### 【到達目標】

専門演習ⅡAで学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。1年を通して、当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験してもらいます。今年度は、研究会への参画などを通して、グループ活動を活発化させていきます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定と討議
3	文献検索方法	講義
4	フィールドワークのための学習	全体討議と先行研究の整理
5	フィールドワークのための講義と話し合い	全体討議とグループ学習
6	プレゼンテーション	グループごとの発表
7	プレゼンテーションと質疑応答	グループごとの発表と全体討議
8	研究成果と全体討議	フィールドワークに向けた研究成果のまとめ
9	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と話し合い
10	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と討議
11	グループ活動報告	グループごとの話し合い
12	全体討議	全体討議と課題抽出
13	個人報告	個人による活動報告
14	まとめ	1年間の総括と次年度に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。

①久保絃章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と展開』中央法規

本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】

講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢(50%)、発表内容・提出物(50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習ⅡB**

佐野 竜平

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを応用していく。

**【到達目標】**

アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期のゼミ活動をさらに発展させ、個々の関心事項を卒業研究論文に関連づけていくプロセスとする。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Googleクラスルーム、Googleフォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	2次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	2次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第5回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第6回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第7回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第8回	フィールド調査①	個別フィールドワークの計画
第9回	フィールド調査②	個別フィールドワークの実施
第10回	フィールド調査③	個別フィールドワークのレビュー
第11回	3次自主企画準備①	卒業論文の検討①
第12回	3次自主企画準備②	卒業論文の検討②
第13回	3次自主企画準備③	卒業論文の検討③
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野等】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】****【Course Outline】** This course aims to further connect with other experts and practitioners in society, gaining practical and professional skills at the basic level from an international perspective.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to gain more experience in working with international stakeholders, especially in Asia.**【Learning Activities Outside of the Classroom】** Before/after each class, students are expected to spend 2 hours understanding the course content.**【Grading Criteria/Policy】** Grades will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in class (presentation, report) (50%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

野田 岳仁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

### 【到達目標】

環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。各自が卒業研究に向けた構想をまとめ、研究計画書を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本演習では、各自が卒業研究に向けた研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第2回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第3回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第4回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第5回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第6回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第7回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第8回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第9回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第10回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第11回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第12回	研究計画書の構想と作成（1）	知見と意義を検討する
第13回	研究計画書の構想と作成（2）	限界と課題を検討する
第14回	研究計画書の発表	研究結果の発表と討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、研究計画書の作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレポートや研究計画書などの成果物（50%）を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR300JB (その他 / Others 300)

**専門演習ⅡB**

水野 雅男

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

**【到達目標】**

受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自主的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	活動課題の検討	第1次予選で指摘された課題の整理
第2回	フィールドワーク計画①	補足調査の計画①
第3回	フィールドワーク計画②	補足調査の計画②
第4回	フィールドワークの実施①	補足調査の実施①
第5回	フィールドワークの実施②	補足調査の実施②
第6回	フィールドワーク成果①	現地調査結果データのとりまとめ
第7回	フィールドワーク成果②	現地調査結果の図表とりまとめ
第8回	政策提言の補足修正①	発表原稿作成①
第9回	政策提言の補足修正②	発表原稿作成②
第10回	発表練習	発表原稿の確認
第11回	活動とりまとめ①	報告書作成①目次構成
第12回	活動とりまとめ②	報告書作成②各章作成
第13回	活動とりまとめ③	報告書作成③考察作成
第14回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

**【その他の重要事項】**

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

**【Outline (in English)】**

## &lt; Course outline &gt;

The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.

## &lt; Learning Objectives &gt;

By the end of the course, students should be able to do the followings:  
While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.

## &lt; Learning activities outside of classroom &gt;

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## &lt; Grading Criteria /Policy &gt;

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria Policy)】  
Grading will be decided on research paper(40%),and the quality of the students experimental performance in the lab(60%).

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前期の学習をもとに、グループ研究をさらに進展させ、ゼミ報告会にて報告する。

卒業研究の準備を進め、研究テーマを明確化するとともに、先行研究のレビューや関連するデータを収集し、分析する。また、適切な研究方法について検討する。

### 【到達目標】

研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。

自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し、論理的に説明できる。

人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自ら文献や関連するデータを探索し、成果をレポートにより報告すること、ディスカッションが主となる。ゼミと合同で研究報告会を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋期授業の流れ
第2回	フィールドワークの方法、インタビューについて	講義による理解
第3回	事例分析について	事例による理解
第4回	研究報告①	報告と討議①
第5回	研究報告②	報告と討議②
第6回	研究報告③	報告と討議③
第7回	研究報告④	報告と討議④
第8回	グループ報告①	グループ報告と討議①
第9回	グループ報告②	グループ報告と討議②
第10回	合同ゼミ・卒論報告会	卒論報告会への参加
第11回	研究報告⑤	先行研究のレビュー
第12回	研究報告⑥	研究方法について
第13回	研究報告会に向けて	研究報告の準備
第14回	合同ゼミ・研究報告会	公開研究会における研究報告

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自らの研究テーマに関する先行研究、関連するデータの収集・分析を行う。

研究の段階ごとにレポートを課す。

準備・復習時間は、4時間以上とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に使用しない

### 【参考書】

適宜指示する、自らの天球テーマに関する文献等を探索すること。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況 (60%)と研究の報告内容 (40%)によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を参考に、より学生が積極性を高め、充実したゼミとなるよう図る。

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course Outline)】

It proceeds with the research by the group and it dose the presentation of the research.Also,it collects a data about the own research subject and it proceeds with the analysis.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data.

B. Students can makes sentences as the research paper.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities of classroom)】

Students will be expected to have completed assignments after each supervision

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

藤島 雄磨

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用するアプローチです。

### 【到達目標】

専門演習Ⅱの到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

専門演習ⅡBでは、卒業論文に向けて、自らの関心があるテーマについて、研究計画を発表してもらいます。受講生同士でディスカッションしながら、研究計画を練っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第2回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の重要性について概説します。
第3回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の注意点について概説します。
第4回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。
第5回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に行動療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第6回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第7回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション4	各自が関心あるテーマについて、マインドフルネスに関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションを行います。
第8回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション1	第一世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第9回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション2	第二世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第10回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション3	第三世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第11回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション1	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第一世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらいます。
第12回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション2	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第二世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第13回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション3	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第14回	まとめ	後期のゼミを振り返ります。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本演習の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The goal of this seminar is to provide students with academic knowledge relating to research methods. Students are required to complete a research proposal. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

小林 由佳

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

### 【到達目標】

卒業論文に向けて、関心のあるテーマに関する研究論文を読み、研究計画を立てることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

自らの関心があるテーマについて、研究計画をたて、個人発表を行います。発表者は、議論を通して、テーマに関する理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	研究の進め方	研究法の基礎についての講義
第3回	テーマ発表1	関心のあるテーマに関する発表と議論1
第4回	テーマ発表2	関心のあるテーマに関する発表と議論2
第5回	テーマ発表3	関心のあるテーマに関する発表と議論3
第6回	テーマ発表4	関心のあるテーマに関する発表と議論4
第7回	テーマ発表5	関心のあるテーマに関する発表と議論5
第8回	中間まとめ・研究計画について	研究計画の立て方についての講義
第9回	研究計画の発表1	研究計画の発表と議論1
第10回	研究計画の発表2	研究計画の発表と議論2
第11回	研究計画の発表3	研究計画の発表と議論3
第12回	研究計画の発表4	研究計画の発表と議論4
第13回	研究計画の発表5	研究計画の発表と議論5
第14回	まとめ	一年間の学びのまとめ、翌年度の進め方について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマを選び、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.

Learning Objectives : The goal of this seminar is to read research papers on topics of interest and develop a research plan for the graduation thesis.

Learning activities outside of the classroom : Students are required to select a topic of interest, research the literature, and compose a resume of their presentation. Students are also required to study the content of presentations other than their own in advance in order to engage in meaningful discussion. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

末武 康弘

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関連する問題や支援について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有します。研究成果をゼミ論文にまとめます。

## 【到達目標】

このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行います
2	ゼミ論途中経過発表とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過（特に先行研究の検討を中心に）を報告し、それに基づきディスカッションを行います。例：ゼミ生A～C発表。
3	ゼミ論途中経過発表とディスカッション②	例：ゼミ生D～Fの発表
4	ゼミ論途中経過発表とディスカッション③	例：ゼミ生G～Iの発表
5	ゼミ論途中経過発表とディスカッション④	例：ゼミ生J～Lの発表
6	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑤	例：ゼミ生M～Oの発表
7	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑥	例：ゼミ生A、Bの発表
8	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑦	例：ゼミ生C、Dの発表
9	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑧	例：ゼミ生E、Fの発表
10	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑨	例：ゼミ生G、Hの発表
11	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑩	例：ゼミ生I、Jの発表
12	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑪	例：ゼミ生K、Lの発表
13	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑫	例：ゼミ生M、N、Oの発表
14	卒論構想発表会	卒論の構想を全員が発表し、ディスカッションします

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、ゼミ論文（70%）をあわせて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のもので持参しなくても大丈夫です。

## 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And You should complete seminar report.

The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, and to complete seminar report.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (70%), and in-class contribution (30%).

OTR300JC (その他 / Others 300)

## 専門演習ⅡB

関谷 秀子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。卒業論文制作を視野に入れ、専門演習Ⅰ・ⅡAで学んだことを基礎として、自分の関心のあるテーマを確定し、さらに理解を深める。

### 【到達目標】

発表やディスカッションを通して、自分の関心のあるテーマの理解をさらに深めていく。新たに生じた疑問点について調べ直す。  
大学生活と自己を振り返り、卒業後の自分の目標を定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

卒業論文制作を視野に入れ、自分の関心のあるテーマを確定し文献を調べ発表、ディスカッションを行う。4年生との交流や、様々な分野で働いている卒業生の話を聞く機会を設け、職業選択や自分自身の将来像について検討する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	テーマの確定①	演習ⅡAの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第3回	テーマの確定②	演習ⅡAの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第4回	文献検索①	テーマに関する文献を探す①
第5回	文献検索②	テーマに関する文献を探す②
第6回	卒業生との交流	卒業生の話を聞き交流する
第7回	4年生との交流	4年生の話を聞き交流する
第8回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第9回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第10回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第11回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第12回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第13回	ディスカッション	職業選択や将来像について①
第14回	ディスカッション・クリニック見学	職業選択や将来像について②

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

### 【Outline (in English)】

We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will choose a theme with one's interest to write a graduation thesis, and deepen understanding about that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ A**

伊藤 正子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的排除の実態とそれらに対する地域的取り組みや現場実践について学ぶとともに実践力を涵養することを目的とする。

**【到達目標】**

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる地域的な取り組みや専門職による支援について理解を深めることを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期は、グループによりテーマを共有し、3年次の成果と文献研究を中心に課題を整理し、秋学期以降のフィールドワークの計画を作成し、レポート報告にまとめる。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ、Ⅱとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査研究報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める① 先行研究からの課題の整理
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める② これまでのフィールドワークの振り返り
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③ フィールドワークと研究テーマの再検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④ フィールドワーク計画の検討
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤ フィールドワーク実践状況の確認
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥ フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦ フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めませんが、必要に応じてテキストを使用する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜参考図書、論文、事例、外部講師を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)
3. 演習への能動的参加(30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

**【Outline (in English)】**

This course deal with tackling social exclusion and community based social work practices and social supports. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social support services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

岩崎 晋也

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

### 【到達目標】

論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。  
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第2回	テーマに関する報告1	卒論テーマを報告する1
第3回	テーマに関する報告2	卒論テーマを報告する2
第4回	テーマに関する報告3	卒論テーマを報告する3
第5回	先行研究に関する報告1	先行研究をまとめ報告する1
第6回	先行研究に関する報告2	先行研究をまとめ報告する2
第7回	先行研究に関する報告3	先行研究をまとめ報告する3
第8回	先行研究に関する報告 2回目1	先行研究をまとめ報告する4
第9回	先行研究に関する報告 2回目2	先行研究をまとめ報告する5
第10回	先行研究に関する報告 2回目3	先行研究をまとめ報告する6
第11回	調査フィールドに関する報告1	調査フィールドの概要と調査内容を報告する1
第12回	調査フィールドに関する報告2	調査フィールドの概要と調査内容を報告する2
第13回	調査フィールドに関する報告3	調査フィールドの概要と調査内容を報告する2
第14回	まとめ	研究内容を総括する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論指導のもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

### 【Outline (in English)】

Discuss the theme of the graduation thesis.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ A**

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

**【到達目標】**

卒業論文を完成し発表する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。

・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第2回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第3回	論文構想検討	前回の発表をもとに論文構想を検討
第4回	論文構想発表	検討した結果の論文構想の発表
第5回	文献検討：収集	論文作成に必要な関連文献を収集
第6回	文献検討：レビューの仕方	関連文献のレビューの仕方を学ぶ
第7回	文献検討：レビュー論文執筆	関連文献のレビューを書いてみる
第8回	文献検討：レビュー論文の発表	各自の文献レビューを発表する
第9回	文献検討：検討	文献レビューの再検討
第10回	資料収集の検討	論文テーマに沿った調査・フィールドの検討
第11回	資料収集の準備	調査やフィールドスタディの準備
第12回	資料の収集	調査やフィールドスタディの実施
第13回	資料の収集と再検討	論文のテーマに沿った、資料・データの収集と分析
第14回	進捗状況の発表	状況確認と夏休み課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。  
 ・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。  
 ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方【第2版】』ミネルヴァ書房  
 ・戸田山和久（2022）『新版 論文の書き方』NHKブックス  
 ・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶応義塾大学出版会  
 その他は適宜提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への積極的参加・発表内容（40%）、提出物（60%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使用することができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

**【Outline (in English)】**

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

高良 麻子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで立てた卒業研究の計画にもとづき、研究を進める。

### 【到達目標】

・卒業研究を推進できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自またはグループで卒業研究を進め、随時報告をして指導を受けながら研究を進めていく。本学期の最後に卒業研究に関する中間発表を行い、それに対して意見交換をすることで、卒業研究の質を高める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	研究計画書の修正	研究計画書の発表と修正
第3回	フィールドワークの理解	フィールドワークの目的と内容
第4回	フィールドワークの倫理的配慮	倫理的配慮の理解
第5回	卒業研究の報告と指導①	アンケート調査実施の指導
第6回	卒業研究の報告と指導②	アンケート調査結果の分析指導
第7回	卒業研究の報告と指導③	インタビュー調査実施の指導
第8回	卒業研究の報告と指導④	インタビュー調査結果の分析指導
第9回	卒業研究の報告と指導⑤	事例研究実施の指導
第10回	卒業研究の報告と指導⑥	事例分析の指導
第11回	卒業研究の報告と指導⑦	文献収集の指導
第12回	卒業研究の報告と指導⑧	文献分析の指導
第13回	卒業研究の中間報告	卒業研究の中間報告と指導
第14回	総括	まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主体的に卒業研究や活動を進めるとともに、指導や意見交換等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン」有斐閣  
アルマ川村匡由（2018）『三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規  
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 40%  
・卒業研究の報告 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

卒業研究に関して定期的に指導できる機会を設けている。

### 【Outline (in English)】

This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、他者を支えるということとはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。また、プレゼンテーションスキルの向上とグループディスカッションのスキルについても検討を重ねます。

### 【到達目標】

卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

卒業研究の内容を、各自、定期的にプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。また、研究会立ち上げなどの実践を通して研究活動を深めています。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。授業計画の変更などは学習支援システムを通して行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合い
第2回	スケジュール決め	今年度の全体のスケジュールを決定する
第3回	研究計画の検討	各自の今年度の研究内容と具体的な計画について検討を行う。
第4回	研究計画発表	各自の今年度の研究内容と具体的な計画についてゼミ内で発表する。
第5回	研究計画に関する討議	各自の今年度の研究内容と計画に関して、ゼミメンバーと意見交換する。
第6回	研究計画のまとめ	全体のまとめとフリーディスカッション
第7回	研究課題の修正	議論を通して、各自の研究課題を修正する。
第8回	研究課題の確定	これまでの議論を踏まえ、各自の研究課題を確定させる。
第9回	研究内容の報告	各自の研究内容の進捗状況を報告する
第10回	研究内容の報告と議論	各自の研究内容の進捗状況を踏まえ、似ている研究課題を設定しているメンバーでグループディスカッションを行う。
第11回	研究発表に向けての準備	各自の研究内容について発表準備を行う。
第12回	ゼミ全体での研究活動に関する発表	ゼミ全体での研究活動に関する発表を踏まえてのディスカッション
第13回	研究内容の確認	各自の研究の方向性についての確認と修正
第14回	総括	研究内容の総括と秋学期に向けての議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常に卒業論文に向き合い、必要に応じて調査を行うとともに、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付・指示します。

### 【参考書】

必要に応じて配付・指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 60%

卒業論文作成にむけたレジュメの提出 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者とコミュニケーションをとりながら、授業を改善していきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

### 【その他の重要事項】

ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.

【到達目標 (Learning Objectives)】 The goal is to master discussion and presentation skills.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Grades are based on writing a research paper, speaking activities, written assignments, and participation in class activities.

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

佐野 竜平

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

### 【到達目標】

アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

過去2年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラウドルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第2回	研究の企画化①	ブレインストーミング①
第3回	研究の企画化②	ブレインストーミング②
第4回	研究の企画化③	ブレインストーミング③
第5回	研究計画①	具体的な計画作成①
第6回	研究計画②	具体的な計画作成②
第7回	研究計画③	具体的な計画作成③
第8回	文献・資料のレビュー①	関連資料・データの分析①
第9回	文献・資料のレビュー②	関連資料・データの分析②
第10回	文献・資料のレビュー③	関連資料・データの分析③
第11回	発表前準備	中間発表の骨子作成
第12回	卒論中間発表①	卒論中間報告と質疑応答①
第13回	卒論中間発表②	卒論中間報告と質疑応答②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is designed to mobilize and utilize knowledge and practical skills for international cooperation within the context of disability-inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to develop ideas in the international context, collaborate with international partners, and professionally present their learnings.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class and after each class, students are expected to spend 2 hours understanding the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in presentations and reports (50%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ A**

野田 岳仁

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

**【到達目標】**

3年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第2回	論文の構想（1）	問題関心の設定
第3回	論文の構想（2）	問いの設定
第4回	論文の構想の発表（1）	問題関心の発表と討議
第5回	論文の構想の発表（2）	問いについての発表と討議
第6回	研究計画の検討	研究の計画、スケジュール、フィールドについて検討
第7回	研究計画の発表	研究の計画、スケジュール、フィールドについて討議
第8回	調査計画の検討	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について検討
第9回	調査計画の発表	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について討議
第10回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における議論をレビュー
第11回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における議論をレビュー
第12回	先行研究のレビュー（3）	民俗学や文化人類学などの隣接領域での議論をレビュー
第13回	先行研究のレビュー（4）	先行研究をまとめ、各自の論文の位置付けをクリアにする
第14回	まとめ	論文構想についての総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点(50%)と論文などの成果物(50%)を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

水野 雅男

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

関心のある社会的な課題をテーマとして、調査研究を行い、学内懸賞論文として書き上げる。

### 【到達目標】

論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。

課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方の確認
第2回	論文構想発表①	問題意識の提示
第3回	論文構想発表②	問題意識に関する情報収集
第4回	論文構想発表③	問題意識の絞り込み
第5回	文献レビュー報告①	関心領域に関する文献や資料の調査報告①グループ A
第6回	文献レビュー報告②	関心領域に関する文献や資料の調査報告②グループ B
第7回	文献レビュー報告③	関心領域に関する文献や資料の調査報告③グループ C
第8回	研究テーマ発表①	研究のキーワードの検討
第9回	研究テーマ発表②	研究のテーマの検討
第10回	論文構成発表①	論文の章立ての検討①目的と分析方法の対応確認
第11回	論文構成発表②	論文の章立ての検討②テーマとの整合性確認
第12回	調査計画の報告①	調査対象と方法の検討
第13回	調査計画の報告②	調査票の検討
第14回	調査計画の報告③	調査時期、依頼書類の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付・指示する。

### 【参考書】

必要に応じて配付・指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来る。学習支援システムやFacebookグループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire research on the theme of social issues of interest, and write it as an on-campus prize paper.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Proceed with the research according to the concept of the dissertation, and lead to the completion of the dissertation through presentations and discussions in specialized exercises.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JC (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ A**

小野 純平

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めていきます。

**【到達目標】**

演習Ⅲでは、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第2回	論文構想1	問題意識について
第3回	論文構想2	論文の構想について
第4回	論文構想3	問題意識や論文の構想について発表
第5回	論文構想4	問題意識や論文の構想について議論
第6回	論文計画1	調査テーマ、対象、方法
第7回	論文計画2	スケジュール等
第8回	論文計画3	研究の進捗状況
第9回	論文計画4	研究スケジュールの修正
第10回	文献等レビュー1	テーマに関する文献の報告
第11回	文献等レビュー2	文献の探索と追加
第12回	文献等レビュー3	周辺領域の文献探索
第13回	文献等レビュー4	文献レビューのまとめ
第14回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて配付・指示します。

**【参考書】**

必要に応じて配付・指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミ活動全般への積極的な参加（60%）  
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら、適宜改善していきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来ます。

**【その他の重要事項】**

ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

**【Outline (in English)】**

Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. The culmination of the seminar studies is the preparation of a graduation thesis. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40%), and in-class contribution(60%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

藤島 雄磨

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

### 【到達目標】

臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表してもらい、それをどのように卒業論文としてまとめているかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を話し合います。
第2回	論文構想発表1	各自の関心のあるテーマについて発表してもらいます。
第3回	論文構想発表2	各自の関心のあるテーマについて述べてもらいます。
第4回	論文構想発表3	各自の関心のあるテーマについて個人発表してもらいます。
第5回	論文構想発表4	各自の関心のあるテーマを発表してもらいます。
第6回	先行研究のレビュー1	研究テーマに関連する先行研究を発表してもらいます。
第7回	先行研究のレビュー2	研究テーマに関連する先行研究を個人発表してもらいます。
第8回	先行研究のレビュー3	研究テーマに関連する先行研究の課題点を述べてもらいます。
第9回	研究計画の発表1	卒業論文の調査計画について検討します。
第10回	研究計画の発表2	卒業論文の実験計画について検討します。
第11回	研究計画の発表3	卒業論文の調査・実験計画について検討します。
第12回	研究計画の発表4	卒業論文の調査・実験計画を検討します。
第13回	データの分析方法について1	卒業論文のデータの分析方法を学びます。
第14回	データの分析方法について2	卒業論文のデータの分析方法について、実例を交えて学びます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students will research and write their research paper. Through in-class discussions and presentations, they will develop their ability to research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ A**

末武 康弘

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

臨床心理学の諸問題と支援について議論します。

**【到達目標】**

臨床心理学に関連する諸問題と心理的支援、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成する準備をします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示し、ゼミ長他の役割を決定します
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてプレーストリーミングを行います
3	個人テーマの選定②	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてディスカッションを行います
4	個人テーマの決定と発表スケジュールの話し合い	各自の研究テーマを決定し、発表スケジュールを話し合います
5	個人報告①	論文作成の途中経過を各自報告し、ディスカッションを行います、例：ゼミ生A～Eの報告
6	研究報告②	例：ゼミ生F～Jの報告
7	研究報告③	例：ゼミ生K～Oの報告
8	研究報告④	例：ゼミ生A～Cの報告
9	研究報告⑤	例：ゼミ生D～Fの報告
10	研究報告⑥	例：ゼミ生G～Iの報告
11	研究報告⑦	例：ゼミ生J～Lの報告
12	研究報告⑧	例：ゼミ生M～Oの報告
13	研究報告⑨	例：希望者による発表
14	まとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表内容（50%）、ディスカッションへの参加（50%）をあわせて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のもので持参しなくても大丈夫です。

**【その他の重要事項】**

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

**【Outline (in English)】**

You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.

The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ A

関谷 秀子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文構想①	問題意識や論文の構想について①
第2回	論文構想②	問題意識や論文の構想について②
第3回	論文構想③	問題意識や論文の構想について③
第4回	論文構想④	問題意識や論文の構想について④
第5回	論文計画①	テーマ、対象、方法、スケジュール①
第6回	論文計画②	テーマ、対象、方法、スケジュール②
第7回	論文計画③	テーマ、対象、方法、スケジュール③
第8回	論文計画④	テーマ、対象、方法、スケジュール④
第9回	先行研究①	先行研究の収集
第10回	先行研究②	先行研究の読み込み
第11回	先行研究③	先行研究のまとめ
第12回	先行研究④	先行研究の発表
第13回	まとめ①	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正①
第14回	まとめ②	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正②

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の経過報告(70%)、ディスカッションへの参加(30%)に基づいて総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

### 【Outline (in English)】

We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70% in-class contribution:30%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

伊藤 正子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、社会的排除の実態について、その現状と課題、および求められる制度・政策および社会的支援について学ぶ。

**【到達目標】**

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、フィールドワークと省察を繰り返しながら、求められる社会福祉制度、政策および社会福祉援助について考察することを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

秋学期は、グループ学習をさらに深めてフィールドワーク実践、および実践の振り返り・考察を行い、最終報告としてのプレゼンテーションの準備を行う。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの振り返りと再検討	グループ毎にフィールドワーク実践の振り返りと今後に向けての計画を作成する。
第3回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（現場状況について）
第4回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援の実態について）
第5回	フィールドワーク結果の分析①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。①（介入方法について）
第6回	フィールドワーク結果の分析②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。②（支援の効果）
第7回	フィールドワーク結果の分析③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。③（関係団体との連携について）
第8回	フィールドワーク結果の考察①	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。①（研究テーマの観点から）
第9回	フィールドワーク結果の考察②	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。②（援助者の立場から）
第10回	フィールドワーク結果の考察③	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。③（社会問題の観点から）
第11回	研究報告①	貧困関連グループの発表
第12回	研究報告②	障害関連グループの発表
第13回	研究報告③	ダイバーシティ関連の発表
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めませんが、必要に応じてテキストを使用する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、外部講師を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

1. レポート(30%)
2. 研究発表(40%)

**3. 演習への能動的参加(30%)****【学生の意見等からの気づき】**

研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

**【その他の重要事項】**

医療機関・外国人支援NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実態について解説する。

**【Outline (in English)】**

This course deal with the social exclusion and social support network. At the end of the course, students are expected to get knowledge and skills about social exclusion, social support system and social services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習ⅢB

岩崎 晋也

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

### 【到達目標】

論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。  
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第2回	調査結果の報告1	調査結果を報告する1
第3回	調査結果の報告2	調査結果を報告する2
第4回	調査結果の報告3	調査結果を報告する3
第5回	調査結果の分析1	調査結果の分析を報告する1
第6回	調査結果の分析2	調査結果の分析を報告する2
第7回	調査結果の分析3	調査結果の分析を報告する3
第8回	考察1	調査結果を考察としてまとめ報告する4
第9回	考察2	調査結果を考察としてまとめ報告する5
第10回	考察3	調査結果を考察としてまとめ報告する6
第11回	卒論報告会の準備1	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する1
第12回	卒論報告会の準備2	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する2
第13回	卒論報告会の準備3	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する2
第14回	卒論報告会	卒論報告会を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Create a resume for reporting based on the graduation thesis guidance. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

### 【Outline (in English)】

Discuss the theme of the graduation thesis.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

**【到達目標】**

卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。

・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認、夏休み課題の発表
第2回	論文構想発表	論文の構想について発表
第3回	文献・データの再検討	論文作成に必要な文献やデータの再検討
第4回	資料・データ分析	資料やデータの分析
第5回	論文執筆1	論文を書き進める：先行研究のレビュー
第6回	論文執筆2	論文を書き進める：課題の設定と分析枠組み・研究方法
第7回	中間発表1	現段階における論文の発表
第8回	論文執筆3	論文を書き進める：データ分析結果
第9回	論文執筆4	論文を書き進める：データ分析結果
第10回	中間発表2	現段階における論文の発表
第11回	論文執筆	論文を書き進める：結論と残された課題
第12回	論文執筆	論文執筆の完成
第13回	論文発表の準備	論文発表のための準備
第14回	論文発表	完成論文を発表する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。  
 ・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。  
 ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 [第2版]』ミネルヴァ書房  
 ・戸田山和久（2022）『新版 論文の書き方』NHKブックス  
 ・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶応義塾大学出版会  
 その他は適宜提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への積極的参加・発表内容（40%）、提出物（60%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使用することができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

**【Outline (in English)】**

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ B

高良 麻子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ、そして専門演習Ⅲ Aで学んだことをもとに、これまでの集大成として、卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

- ・卒業論文を完成させる。
- ・卒業論文を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自またはグループで卒業研究を進め、適時個別指導を行う。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	論文構想の発表	論文構想の発表と検討
第3回	データ分析の検討①	データ分析結果に関する発表と議論
第4回	データ分析の検討②	データ分析結果に関する再検討
第5回	論文執筆①	問題の認識と先行研究のレビューの執筆
第6回	論文執筆②	研究目的・方法と調査結果の執筆
第7回	中間発表	論文執筆内容の発表と議論
第8回	論文執筆③	考察の執筆
第9回	論文執筆④	まとめと残された課題の執筆
第10回	論文執筆の完成	論文執筆内容の報告と修正
第11回	発表準備	卒論と活動報告の発表準備
第12回	卒論発表会	卒論の発表
第13回	卒論の振り返り	卒論の発表を踏まえた振り返り
第14回	総括	全体の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主体的に卒業研究を進めるとともに、個別指導や意見交換等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン」有斐閣  
アルマ川村匡由（2018）『三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規  
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 40%
- ・卒業研究発表資料 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

卒業研究を進めるにあたり、定期的に相談ができるようにしている。

### 【Outline (in English)】

This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

このゼミでは、他者を支えるということとはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。最終学年の集大成として、これまでゼミ内で学習してきたことを学外活動で成果発表したり、研究論文にまとめる準備などを行います。その他にも、当事者活動の研究会参画を通して学習したことを発信できるようにしていきたいと考えています。

**【到達目標】**

卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各自、定期的に皆の前でプレゼンテーションを行います。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合う。
第2回	春学期までの研究成果についての検討	研究内容について各自学習する。
第3回	研究計画の進捗状況の報告	各自の研究内容と具体的な計画について発表する。
第4回	研究計画の進捗状況の確認	各自の研究内容と計画について文献をふまえて確認作業を行う。
第5回	研究計画の再検討	これまでの指摘事項を踏まえて、研究計画の最終的な検討を行う。
第6回	研究の妥当性についての検証	各自の研究計画が妥当であるかを確認する。
第7回	研究発表に向けた資料作成	資料作成方法の説明
第8回	研究発表と議論	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第9回	研究発表とグループディスカッション	研究の進捗状況を発表し、それについて近しい研究課題のグループメンバーで議論する。
第10回	研究発表と全体討議	これまでの発表を受けて、フリーディスカッション
第11回	研究の完成に向けた発表	これまでの指摘などを踏まえた修正を行う。
第12回	研究内容の見直し	これまでの議論を踏まえた各自の研究内容の見直し
第13回	研究の方向性の報告と最終修正	各自の研究の方向性の報告と修正
総括	研究・ゼミ活動の総括	各自の研究成果の報告

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文の完成を目指し、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて配付・指示します。

**【参考書】**

必要に応じて配付・指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 60% 卒業論文に関するレジュメの提出 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者の困りごとや研究の行き詰まりについて話し合いながら、授業を改善していきたいと思えます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

**【その他の重要事項】**

ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.

**【到達目標 (Learning Objectives)】** The goal is to master discussion and presentation skills.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】** The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】** Grading will be decided based on reports (40%), and in-class contribution (60%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ B

佐野 竜平

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを具体的に応用する。

### 【到達目標】

アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

過去2年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラウドルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第2回	卒論の草稿①	内容の表出化①
第3回	卒論の草稿②	内容の表出化②
第4回	卒論の草稿③	内容の表出化③
第5回	卒論の草稿④	第1次原稿へのフィードバック
第6回	卒論の修正①	内容の修正・変更①
第7回	卒論の修正②	内容の修正・変更②
第8回	卒論の修正③	第2次原稿へのフィードバック
第9回	卒論仕上げ①	質疑応答と微修正①
第10回	卒論仕上げ②	質疑応答と微修正②
第11回	卒論仕上げ③	質疑応答と微修正③
第12回	卒論仕上げ④	質疑応答と微修正④
第13回	卒論最終調整・提出	最終確認・提出
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50%、レポート・プレゼン：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is designed to maximize knowledge and practical skills on international cooperation in the context of disability-inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to facilitate communication and collaboration internationally, particularly among those with different backgrounds in Asia.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be determined based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

野田 岳仁

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

**【到達目標】**

3年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第2回	研究の進捗状況の発表	夏休み中のフィールドワーク、論文執筆の状況を確認
第3回	論文作成の方法（1）	問題関心と問いの設定
第4回	論文作成の方法（2）	先行研究のレビュー
第5回	論文作成の方法（3）	論敏の設定
第6回	論文作成の方法（4）	章立ての検討
第7回	調査データの分析（1）	データの分析と解釈
第8回	調査データの分析（2）	データの分析結果
第9回	調査データの分析（3）	研究の独自性の検討
第10回	論文執筆（1）	研究課題と問いの再検討
第11回	論文執筆（2）	章立ての再検討
第12回	論文執筆（3）	結論の見通しの検討
第13回	論文執筆（4）	論理構成の確認と討議
第14回	論文執筆（5）	卒業論文の完成

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点(50%)と論文などの成果物(50%)を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 専門演習ⅢB

水野 雅男

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエ  
ラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

関心のある社会的な課題をテーマとして、学内懸賞論文を完成させ、さらにそれを補足修正して卒業論文を書き上げる。

### 【到達目標】

論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、学内懸賞論文と卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査結果報告	夏休み期間中の調査結果の概要報告
第2回	調査結果分析発表①	調査結果を整理分析
第3回	調査結果分析発表②	調査結果のとりまとめ
第4回	論文執筆①	学内懸賞論文の作成①
第5回	論文執筆②	学内懸賞論文の作成②
第6回	第1回 論文発表会	学内懸賞論文の申請と残された課題の確認
第7回	補足調査①	残された課題に対応する調査の実施
第8回	補足調査②	補足調査結果のとりまとめ
第9回	補足調査③	補足調査結果の報告
第10回	論文執筆①	卒業論文の作成①目次作成
第11回	論文執筆②	卒業論文の作成②各章執筆
第12回	論文執筆③	卒業論文の作成③考察検討
第13回	発表練習	発表資料・原稿の作成
第14回	第2回 論文発表会	卒業論文の発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付・指示する。

### 【参考書】

必要に応じて配付・指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70%）や議論など（30%）を総合的に判断して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来る。学習支援システムやFacebookグループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに27年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that complete the on-campus prize thesis on the theme of social issues of interest, and then supplement and revise it to write a graduation thesis.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Proceeding with the research according to the concept of the dissertation, and after presentations and discussions in specialized exercises, lead to the completion of the on-campus prize thesis and the graduation thesis.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JC (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

小野 純平

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めていきます。

**【到達目標】**

演習Ⅲ Bでは、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第2回	論文計画1	スケジュール等
第3回	論文計画2	研究の進捗状況1
第4回	論文計画3	研究の進捗状況2
第5回	論文執筆1	調査テーマ、対象、方法
第6回	論文執筆2	論文執筆指導1
第7回	論文執筆3	論文執筆指導2
第8回	論文執筆4	論文執筆指導3
第9回	論文執筆5	論文執筆指導4
第10回	文献等レビュー1	論文執筆指導5
第11回	文献等レビュー2	文献の探索と追加
第12回	文献等レビュー3	周辺領域の文献探索
第13回	文献等レビュー4	文献レビューのまとめ
第14回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて配付・指示します。

**【参考書】**

必要に応じて配付・指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミ活動全般への積極的な参加（60%）  
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら、適宜改善していきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。

**【その他の重要事項】**

ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

**【Outline (in English)】**

Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. The culmination of the seminar studies is the preparation of a graduation thesis. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40%), and in-class contribution(60%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 専門演習ⅢB

藤島 雄磨

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

### 【到達目標】

臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表してもらい、それをどのように卒業論文としてまとめているかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第2回	研究の進捗状況報告1	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。
第3回	研究の進捗状況報告2	各自の卒業論文の進捗状況と課題を報告してもらいます。
第4回	研究の進捗状況報告3	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらい、話し合います。
第5回	研究の進捗状況報告4	各自の卒業論文の進捗状況と今後の計画を報告してもらいます。
第6回	データの分析結果について1	卒業論文で収集したデータの分析結果について発表してもらいます。
第7回	データの分析結果について2	卒業論文で収集したデータの分析結果について検討します。
第8回	データの分析結果について3	卒業論文で収集したデータの分析結果を検討します。
第9回	データの分析結果について4	卒業論文で収集したデータの分析結果について、ディスカッションします。
第10回	データの分析結果について5	卒業論文で収集したデータの分析結果を見直します。
第11回	研究における考察について1	各自の卒業論文における考察を検討します。
第12回	研究における考察について2	各自の卒業論文における考察について、ディスカッションします。
第13回	研究における考察について3	各自の卒業論文における考察を見直します。
第14回	まとめ	これまで取り組んできた活動について振り返ります。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

### 【Outline (in English)】

This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students are encouraged to take responsibility for their own research. Students give presentations on their own research. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Grading will be decided based on the quality of the students' presentations (50%) and in-class contribution (50%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

**専門演習Ⅲ B**

末武 康弘

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

臨床心理学の諸問題と支援について議論します。臨床心理学の研究や実践に必要な考え方や態度、スキルを共有し、卒業論文の作成と発表を行います。

**【到達目標】**

臨床心理学に関連する諸問題と心理的支援、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成し発表します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

臨床心理学に関連する問題や支援について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示します
2	発表スケジュールの話	卒業論文に直結した各自の最終報告のスケジュールを話し合います
3	最終報告①	例：ゼミ生 A、B の報告
4	最終報告②	例：ゼミ生 C、D の報告
5	最終報告③	例：ゼミ生 E、F の報告
6	最終報告④	例：ゼミ生 G、H の報告
7	最終報告⑤	例：ゼミ生 I、J の報告
8	最終報告⑥	例：ゼミ生 K、L の報告
9	最終報告⑦	例：ゼミ生 M、N の報告
10	最終報告⑧	例：ゼミ生 O の報告
11	最終報告⑨	例：希望者の報告
12	最終報告⑩	例：各自の修正点の報告
13	卒論発表会の準備	卒論発表会の準備を行います
14	卒論発表会	提出された卒業論文について各自発表し、ディスカッションを行います

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表内容（50%）、ディスカッションへの参加（50%）をあわせて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のもので持参しなくても大丈夫です。

**【その他の重要事項】**

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

**【Outline (in English)】**

You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And you should complete and present graduation thesis.

The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 専門演習Ⅲ B

関谷 秀子

配当年次／単位数：4年次／2単位

備考（履修条件等）：専門演習Ⅲ A・Ⅲ Bの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査計画の報告①	調査計画の報告と検討・修正①
第2回	調査計画の報告②	調査計画の報告と検討・修正②
第3回	進捗状況報告①	進捗状況の報告と検討・修正①
第4回	進捗状況報告②	進捗状況の報告と検討・修正②
第5回	進捗状況報告③	進捗状況の報告と検討・修正③
第6回	卒業論文中間報告①	中間報告発表と議論・修正①
第7回	卒業論文中間報告②	中間報告発表と議論・修正②
第8回	卒業論文中間報告③	中間報告発表と議論・修正③
第9回	卒業論文中間報告④	中間報告発表と議論・修正④
第10回	卒業論文中間報告⑤	中間報告発表と議論・修正⑤
第11回	卒業論文中間報告⑥	中間報告発表と議論・修正⑥
第12回	卒業論文発表会①	卒業論文の発表と議論①
第13回	卒業論文発表会②	卒業論文の発表と議論②
第14回	卒業論文発表会③	卒業論文の発表と議論③

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の経過報告(70%)、ディスカッションへの参加(30%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

### 【Outline (in English)】

We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70% in-class contribution:30%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

伊藤 正子

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を大学4年間の集大成として位置づけ、これまで積み重ねてきた研究成果や実践的经验に基づいた問題意識を卒業論文としてまとめ、発表できるようにする。

### 【到達目標】

- ①先行研究のレビュー、文献研究、アンケート調査、フィールドワークなどによって必要なデータを収集し、その結果を分析、論文を完成させる。
- ②卒業論文の発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

年間を通じて個別指導を基本とするが、研究方法の確認、中間報告会、卒論発表会などは集団で行い、ディスカッションを重視する。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文についてのガイダンス
第2回	研究方法について①	文献研究について
第3回	研究方法について②	アンケート調査、フィールドワーク調査について
第4回	テーマの設定①	問題意識の明確化
第5回	テーマの設定②	先行研究の検討
第6回	テーマの確定	テーマ、目的、研究方法、目次の確定
第7回	論文作成のための準備作業①	文献研究概要の個別報告
第8回	論文作成のための準備作業②	調査研究概要の個別報告
第9回	論文作成のための準備作業③	フィールドワーク計画の個別報告
第10回	論文作成のための準備作業④	文献研究の中間報告
第11回	論文作成のための準備作業⑤	調査研究の中間報告
第12回	論文作成のための準備作業⑥	フィールドワーク状況の経過報告
第13回	論文作成のための準備作業⑦	これまでの研究結果についての報告
第14回	中間報告会	夏休み中の研究計画の整理
第15回	オリエンテーション	夏休みの課題の報告と研究計画の確認
第16回	研究結果の議論①	研究結果・データの分析・考察①（データの整理）
第17回	研究結果の議論②	研究結果・データの分析・考察②（データの集計）
第18回	研究結果の議論③	研究結果・データの分析・考察③（データの分析）
第19回	研究結果の議論④	研究結果・データの分析・考察④（データの考察）
第20回	研究結果の議論⑤	研究結果・データの分析・考察⑤（データのまとめ）
第21回	研究結果の議論⑥	研究結果全体の考察
第22回	論文執筆①	序論について
第23回	論文執筆②	本論について①（先行研究レビューと理論的検討）
第24回	論文執筆③	本論について②（研究結果の分析と考察）
第25回	論文執筆④	結論について
第26回	論文執筆⑤	全体を通しての論旨の確認
第27回	論文執筆⑥	引用・参考文献の確認
第28回	卒業論文提出	最終確認と提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導は、基本的に進捗状況の報告と研究内容についてのディスカッションの場である。文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査および結果の整理、分析は各自で積極的に進めて、自ら個別指導時間を確保するよう能動的に行動してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めない。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、現場を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 個別指導、集団による研究への能動的取り組み (20%)
2. 課題提出 (30%)
3. 卒業論文の内容 (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

論文指導については、可能な範囲で合宿等も活用していきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【Outline (in English)】

This course enhances the development of skills in preparing a graduation thesis. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis and make the presentation of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on reports (30%), and the quality of the students' graduation thesis (50%), and in-class contribution (20%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

岩崎 晋也

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

### 【到達目標】

○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。

○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化1	卒論の意義を学び、テーマを絞る。
第2回	問題意識の明確化2	個々の問題意識を明確化させる。
第3回	調査研究方法の学習1	調査方法、分析の視点を学ぶ1
第4回	調査研究方法の学習2	調査方法、分析の視点を学ぶ2
第5回	調査研究方法の学習3	調査方法、分析の視点を学ぶ3
第6回	論文計画の検討 1	論文作成にむけた計画を策定する1
第7回	論文計画の検討 2	論文作成にむけた計画を策定する2
第8回	論文計画の検討 3	論文作成にむけた計画を策定する3
第9回	文献や資料などの検討1	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる1
第10回	文献や資料などの検討2	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる2
第11回	文献や資料などの検討3	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる3
第12回	調査計画の検討1	調査方法を検討し、改善させる1
第13回	調査計画の検討2	調査方法を検討し、改善させる2
第14回	調査計画の検討3	調査方法を検討し、改善させる3
第15回	中間報告1	進捗報告書提出と議論1
第16回	中間報告2	進捗報告書提出と議論2
第17回	中間報告3	進捗報告書提出と議論3
第18回	論文執筆1	章ごとに第1次原稿の提出1
第19回	論文執筆2	章ごとに第1次原稿の提出2
第20回	論文執筆3	章ごとに第1次原稿の提出3
第21回	論文完成に向けての作業1	二次稿提出1
第22回	論文完成に向けての作業2	二次稿提出2
第23回	論文完成に向けての作業3	二次稿提出3
第24回	論文完成に向けての作業4	二次稿提出4
第25回	文章最終仕上げ1	発表と修正1
第26回	文章最終仕上げ2	発表と修正2
第27回	文章最終仕上げ3	発表と修正3
第28回	卒論報告会	卒論報告会を行う

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

### 【参考書】

適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%

研究への取り組み 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

### 【Outline (in English)】

Study the graduation thesis.

The goals of this course are to improve the ability to think logically and

discuss with others.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following the graduation thesis; 80%, in class contribution: 20%.

OTR400JB (その他 / Others 400)

**卒業論文**

岩田 美香

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査等の後、論文を完成させる。

**【到達目標】**

- ・個人や社会の生活問題を明確化させ、その支援を考察する。
- ・調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
- ・学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨きながら、卒業論文を書き上げる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則、個別指導による。専門演習と連動させ発表と検討の機会を設ける。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化1	卒論の意義について学ぶ
第2回	問題意識の明確化2	問題意識を明確化させる
第3回	調査研究方法の学習1	調査方法の学習
第4回	調査研究方法の学習2	分析の視点の学習
第5回	調査研究方法の学習3	調査方法、分析の視点の学習
第6回	論文計画の検討1	テーマに関する議論
第7回	論文計画の検討2	前回の議論をもとに研究計画の策定
第8回	論文計画の検討3	テーマに関する議論と研究計画の検討
第9回	論文計画の検討4	研究計画の完成
第10回	文献や資料の検討1	テーマに関する知識の蓄積1
第11回	文献や資料の検討2	テーマに関する知識の蓄積2
第12回	文献や資料の検討3	テーマに関する知識の蓄積3
第13回	調査計画の検討1	調査方法の確認
第14回	調査計画の検討2	調査方法の検討
第15回	調査計画の検討3	調査方法の再検討と改善
第16回	中間報告1	進捗状況報告書提出と議論（子ども・家族、子育てのテーマ）
第17回	中間報告2	進捗状況報告書提出と議論（貧困、教育のテーマ）
第18回	中間報告3	進捗状況報告書提出と議論（少年非行、その他のテーマ）
第19回	論文執筆1	章ごとに第一次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て、貧困）
第20回	論文執筆2	章ごとに第一次原稿の提出と検討（教育、少年非行、その他）
第21回	論文執筆3	第一次原稿の校正
第22回	完成に向けた作業1	二次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て）
第23回	完成に向けた作業2	二次原稿の提出と検討（貧困）
第24回	完成に向けた作業3	二次原稿の提出と検討（教育）
第25回	完成に向けた作業4	二次原稿の提出と検討（少年非行、その他）
第26回	文章最終仕上げ1	発表と修正
第27回	文章最終仕上げ2	発表と修正に対する検討
第28回	文章最終仕上げ3	卒業論文完成と全体のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・個別指導と専門演習と連動させる。調査研究にあたっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビュー調査やアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

適宜提示する。

**【参考書】**

- ・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒業論文の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房
  - ・戸田山和久（2022）『新版 論文の教室』NHKブックス
  - ・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方 第4版』慶応義塾大学出版会
- その他は適宜提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

卒業論文の内容（80%）、研究への取り組み（20%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. The goal of this course is to write the thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the thesis (80%), and working on the paper (20%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

高良 麻子

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「専門演習Ⅲ」と連動させて、卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

・卒業論文を完成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができ、かつそれを論文としてまとめることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行いながら授業を進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	卒業論文の作成プロセス	卒業論文の作成の流れの理解
第3回	先行研究のレビュー①	関連する先行研究の検証
第4回	先行研究のレビュー②	関連領域の先行研究の検証
第5回	調査計画の検討①	調査対象の検討
第6回	調査計画の検討②	調査方法の検討
第7回	調査計画の検討③	調査内容の検討
第8回	研究計画の修正	研究計画書の修正
第9回	研究計画の確定	研究計画の修正と確定
第10回	調査の実施	データの収集
第11回	データ分析①	データ全体の俯瞰の確認
第12回	データ分析②	データの質的分析・量的分析
第13回	データ分析③	データ分析結果の考察
第14回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究進捗報告
第16回	論文構成の検討①	論文の章立て
第17回	論文構成の検討②	各章の概要検討
第18回	論文執筆指導①	序論の検討
第19回	論文執筆指導②	準備の検討
第20回	論文執筆指導③	本論の検討
第21回	論文執筆指導④	考察の検討
第22回	論文執筆指導⑤	結論の検討
第23回	論文執筆指導⑥	課題の検討
第24回	論文執筆指導⑦	引用文献の確認
第25回	卒業論文の提出	卒業論文提出
第26回	卒論発表準備	発表の準備と修正
第27回	卒論発表会の振り返り	卒論発表を踏まえた振り返り
第28回	総括	全体の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

計画的に研究および論文執筆を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、個別指導等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン」有斐閣  
アルマ川村匡由（2018）「三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規

白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房

### 【成績評価の方法と基準】

- ・課題提出 20%
- ・卒業論文 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

卒業論文の作成を継続できるように、学生と調整しながら指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about completing the graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%) and graduation thesis (80%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させることを目的とする。

## 【到達目標】

- 大学での学びの集大成として、当事者・家族が直面している課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
- 調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
- 学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化 I	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第2回	問題意識の明確化 II	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第3回	調査研究方法の学習 I	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第4回	調査研究方法の学習 II	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第5回	調査研究方法の学習 III	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第6回	論文計画の検討 I	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第7回	論文計画の検討 II	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第8回	論文計画の検討 III	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第9回	論文計画の検討 IV	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第10回	文献や資料などの検討 I	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第11回	文献や資料などの検討 II	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第12回	文献や資料などの検討 III	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第13回	調査計画の検討 I	調査方法を検討し、改善させる。
第14回	調査計画の検討 II	調査方法を検討し、改善させる。
第15回	中間報告 I	進捗報告書提出と議論
第16回	中間報告 II	進捗報告書提出と議論
第17回	中間報告 III	進捗報告書提出と議論
第18回	論文執筆 I	章ごとに第1次原稿の提出
第19回	論文執筆 II	章ごとに第1次原稿の提出
第20回	論文執筆 III	章ごとに第1次原稿の提出
第21回	論文完成に向けての作業 I	二次稿提出
第22回	論文完成に向けての作業 II	二次稿提出
第23回	論文完成に向けての作業 III	二次稿提出
第24回	論文執筆に向けての作業 IV	二次稿提出
第25回	文章最終仕上げ I	発表と修正
第26回	文章最終仕上げ II	発表と修正
第27回	文章最終仕上げ III	発表と修正
第28回	全体報告会	全体に向けて卒業論文の発表を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備・復習時間は各回4時間程度とします。

## 【テキスト（教科書）】

個別指導により、適宜提示する。

## 【参考書】

個別指導により、適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%

研究への取り組み 20%

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していく。

## 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 The purpose of this course is for students to obtain the skills necessary for writing academic papers.

【到達目標 (Learning Objectives)】 Students will be able to write sentences based on academic sentence structure and write academic essays 20000 letters in length.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Before/after teaching the academic essays, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Grading will be decided based on academic essays(80%) , and the quality of the student's performance(20%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

佐野 竜平

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

関心のあるテーマについて必要なプロセスを経て卒論として完成させる。

### 【到達目標】

自ら取り組んできた研究内容を卒業論文として仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個別指導が原則。専門演習と運動し、意見交換・発表の機会を設定していく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題については、学習支援システムまたはGoogle Classroomでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論テーマの明確化	卒論に向けた全体づくり
第2回	研究内容・方法の検討①	調査・分析方法を深める①
第3回	研究内容・方法の検討②	調査・分析方法を深める②
第4回	研究内容・方法の検討③	調査・分析方法を深める③
第5回	卒論計画の作成①	研究計画を策定①
第6回	卒論計画の作成②	研究計画を策定②
第7回	卒論計画の作成③	研究計画を策定③
第8回	先行研究のレビュー①	引用する文献・資料の検討①
第9回	先行研究のレビュー②	引用する文献・資料の検討②
第10回	先行研究のレビュー③	引用する文献・資料の検討③
第11回	卒論中間発表準備	現段階の到達点の確認
第12回	卒論中間発表①	研究内容の中間発表①
第13回	卒論中間発表②	研究内容の中間発表②
第14回	卒論中間発表③	研究内容の中間発表③
第15回	卒論計画の見直し	研究計画の改善
第16回	卒論執筆①	第1次原稿提出準備①
第17回	卒論執筆②	第1次原稿提出準備②
第18回	卒論執筆③	第1次原稿提出準備③
第19回	卒論執筆④	第1次原稿提出・修正
第20回	卒論執筆⑤	第2次原稿提出準備①
第21回	卒論執筆⑥	第2次原稿提出準備②
第22回	卒論執筆⑦	第2次原稿提出準備③
第23回	卒論執筆⑧	第2次原稿提出
第24回	卒論発表回①	卒論の最終発表①
第25回	卒論発表回②	卒論の最終発表②
第26回	卒論発表回③	卒論の最終発表③
第27回	卒論の修正・仕上げ	必要に応じて最終調整
第28回	卒論完成	完成版の提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールド調査を進めつつ、ゼミと個別指導を連動させていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容：80%、研究への取り組み（期限遵守等）：20%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is designed to facilitate students' learning processes and the completion of their graduation theses.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to externalize their learning in a tangible manner.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on thesis development (80%) and research arrangements (deadlines, etc.) (20%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

**卒業論文**

野田 岳仁

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境社会学・地域社会学の方法論を用いてフィールドワークを行い、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策にかかわる卒業論文を執筆する。

**【到達目標】**

卒業論文は、3年間のゼミでの学びの集大成である。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構想（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構想（2）	方法論や調査技法の確認
第4回	論文の構想（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構想（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構想（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構想（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構想（7）	研究の意義と限界の検討
第9回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における研究史の検討
第10回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（3）	民俗学・文化人類学における研究史の検討
第12回	中間発表会（1）	研究方法の確認と討議
第13回	中間発表会（2）	研究の意義の確認と討議
第14回	中間発表会（3）	研究のオリジナリティの確認と討議
第15回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第16回	調査データの分析（2）	データの解釈
第17回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第18回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第19回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第20回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第21回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第22回	論文執筆（4）	目次と章立ての確定
第23回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第24回	論文執筆（6）	理論仮説と作業仮説の再検討
第25回	論文執筆（7）	分析結果の再検討
第26回	論文執筆（8）	結論の見通しの再検討
第27回	論文執筆（9）	論文全体の論理構成の再検討
第28回	卒業論文の完成	得られた知見をもとに学問の実践性について討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点を考慮しつつ、卒業論文（100%）の総合評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on the quality of the graduation thesis(100%).

OTR400JB (その他 / Others 400)

## 卒業論文

水野 雅男

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、集計分析を行い、論文を完成させる。

### 【到達目標】

- 地域づくりへの問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
- 調査研究や分析の方法を学び、自ら論文を組み立てる。
- 学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。研究室での個別面談とオンラインを組み合わせて指導を行う。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化①	卒論の意義と問題意識を明確化
第2回	問題意識の明確化②	問題意識の深化
第3回	調査研究方法の学習①	調査方法・分析の視点①予備調査
第4回	調査研究方法の学習②	調査方法・分析の視点②量的調査
第5回	調査研究方法の学習③	調査方法・分析の視点③質的調査
第6回	論文計画の検討①	調査対象の選定
第7回	論文計画の検討②	調査対象の絞り込み
第8回	論文計画の検討③	テーマのキーワード抽出
第9回	論文計画の検討④	テーマの絞り込み
第10回	文献や資料の検討①	先行研究のレビュー
第11回	文献や資料の検討②	参考文献のレビュー
第12回	文献や資料の検討③	先行研究・参考文献のとりまとめ
第13回	調査計画の検討①	調査対象組織の選定
第14回	調査計画の検討②	実施調査方法の検討
第15回	調査計画の検討③	調査スケジュールの検討
第16回	中間報告①	進捗状況の確認
第17回	中間報告②	分析結果の確認
第18回	中間報告③	残された作業課題の確認
第19回	論文執筆①	第一次原稿の提出（第1章）
第20回	論文執筆②	第一次原稿の提出（第2章）
第21回	論文執筆③	第一次原稿の提出（第3章）
第22回	論文のまとめ作業①	第二次原稿の提出（第1章）
第23回	論文のまとめ作業②	第二次原稿の提出（第2章）
第24回	論文のまとめ作業③	第二次原稿の提出（第3章）
第25回	論文のまとめ作業④	第二次原稿の提出（終章）
第26回	文章最終仕上げ①	中間発表
第27回	文章最終仕上げ②	原稿の第一次修正
第28回	文章最終仕上げ③	原稿の第二次修正、校了

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習とを連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

### 【参考書】

適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%  
研究への取り組み 20%  
上記を総合して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやFacebookグループにより、学生への連絡や情報共有を図る。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの調査手法について助言する。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that clarify the awareness of the problem for the graduation thesis, perform the aggregate analysis after the necessary research, and complete the thesis.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Clarify the awareness of problems in community development and propose solutions.

Learn the methods of research and analysis, and assemble your own dissertation.

Learn how to write academic sentences and improve your writing skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Content of graduation thesis 80%, Research efforts 20%

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 卒業論文

小野 純平

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯発達心理学の視点から捉えた様々な臨床心理学的援助を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成します。

### 【到達目標】

興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則、個別指導によります。専門演習と連動させ、発表の機会を設けます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化 I	卒論の意義
第2回	問題意識の明確化 II	問題意識を明確化
第3回	調査研究方法の学習 I	調査方法
第4回	調査研究方法の学習 II	分析の視点の明確化
第5回	調査研究方法の学習 III	調査方法、分析方法の決定
第6回	論文計画の検討 I	調査対象やテーマに基づく研究計画案の策定
第7回	論文計画の検討 II	調査対象やテーマに基づく研究計画案の検討
第8回	論文計画の検討 III	調査対象やテーマに基づく研究計画案の修正
第9回	論文計画の検討 IV	調査対象やテーマに基づく研究計画の決定
第10回	文献や資料などの検討 I	文献収集の注意
第11回	文献や資料などの検討 II	文献収集の経過報告
第12回	文献や資料などの検討 III	文献収集の方向の確認
第13回	調査計画の検討 I	調査方法案の策定
第14回	調査計画の検討 II	調査方法案の検討
第15回	調査計画の検討 III	調査方法の決定
第16回	中間報告 I	進捗報告（調査実施）
第17回	中間報告 II	進捗報告（調査実施の進捗）
第18回	中間報告 III	進捗報告（調査実施の終了）
第19回	論文執筆 I	調査結果の分析（基本統計）
第20回	論文執筆 II	調査結果の分析（多変量解析等の分析）
第21回	論文執筆 III	調査結果の文章化
第22回	論文完成に向けての作業 I	考察の骨子の検討
第23回	論文完成に向けての作業 II	考察の執筆の進捗
第24回	論文完成に向けての作業 III	考察の終了
第25回	論文完成に向けての作業 IV	序論を含めた各章の流れ
第26回	文章最終仕上げ I	全体の修正
第27回	文章最終仕上げ II	最終校正
第28回	卒業論文提出	卒業論文の提出

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習を連動させます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%  
研究への取り組み 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。個別にコミュニケーションを取りながら、適宜改善していきます。

### 【Outline (in English)】

This seminar is designed to support students write the graduation thesis about developmental and clinical psychology under the supervision. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on graduation thesis(80%), and research initiatives(20%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 卒業論文

藤島 雄磨

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法の観点から、臨床心理学の諸問題に関するテーマについての卒業論文を執筆することを指導します。

### 【到達目標】

卒業論文を執筆する上で、必要な研究スキルを学び、自らの関心あるテーマについて研究を行い、卒業論文を執筆します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個別指導を行いながら、先行研究の読み方、研究計画の立案、データ収集・分析、結果の考察等の研究スキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの流れを確認します。
第2回	研究テーマの設定 1	各自が関心ある研究テーマを設定します。
第3回	研究テーマの設定 2	各自が関心ある研究テーマを考えます。
第4回	研究テーマの設定 3	各自が関心ある研究テーマを検討します。
第5回	研究方法の学習 1	研究デザインについて学びます。
第6回	研究方法の学習 2	データの分析方法について学びます。
第7回	研究方法の学習 3	研究デザインやデータの分析方法について学びます。
第8回	研究計画の立案 1	各自の研究計画を立案します。
第9回	研究計画の立案 2	各自の研究計画を立案し、検討します。
第10回	研究計画の立案 3	各自の研究計画を確認します。
第11回	データの収集 1	研究データの収集方法を検討します。
第12回	データの収集 2	研究データの収集方法を検討し、質的データを収集します。
第13回	データの収集 3	研究データの収集方法を検討し、量的データを収集します。
第14回	春学期のまとめ	秋学期が始まるまでの課題を明確にします。
第15回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第16回	データの分析 1	卒業論文のために収集したデータを整理します。
第17回	データの分析 3	卒業論文のために収集した質的データを分析します。
第18回	データの分析 3	卒業論文のために収集した量的データを分析します。
第19回	データの分析 4	卒業論文のために収集した質的・量的データを分析します。
第20回	研究の進捗状況の発表 1	研究の進捗状況を発表してもらいます。
第21回	研究の進捗状況の発表 2	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に指導します。
第22回	研究の進捗状況の発表 3	研究の進捗状況を発表してもらい、それを踏まえて、個別に指導します。
第23回	研究の進捗状況の発表 4	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を検討します。
第24回	研究の進捗状況の発表 5	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を話し合います。
第25回	卒業論文の本文執筆 1	卒業論文の本文（問題）について、指導を行います。
第26回	卒業論文の本文執筆 2	卒業論文の本文（目的）について、指導を行います。
第27回	卒業論文の本文執筆 3	卒業論文の本文（方法）について、指導を行います。
第28回	まとめ	卒業論文の本文の総仕上げを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文を作成するために、先行研究の展望、研究目的の明確化、データの収集・分析、結果の考察及び本文執筆を計画的に進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の研究の質（100%）によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生同士で教え合いながら、卒業論文を執筆できるような仕組みを工夫を試みます。

### 【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to research about cognitive behavior therapy. Students will acquire research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. 3 : Grading will be decided based on the students'research (100%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 卒業論文

末武 康弘

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の諸問題や支援に関する卒業論文の執筆の指導を行います。

### 【到達目標】

臨床心理学に関連する研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個別の指導を行いながら、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の基準、成績評価の条件等を提示します。
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマが収められるように指導を行います。例：ゼミ生A～E
3	個人テーマの選定②	例：ゼミ生F～J
4	個人テーマの選定③	例：ゼミ生J～O
5	先行研究レビューの指導①	論文執筆のための先行研究をレビューを指導します。例：ゼミ生A～E
6	先行研究レビューの指導②	例：ゼミ生F～J
7	先行研究レビューの指導③	例：ゼミ生J～O
8	研究方法の指導①	各自の卒論テーマに沿った研究方法を指導します。例：ゼミ生A～C
9	研究方法の指導②	例：ゼミ生D～F
10	研究方法の指導③	例：ゼミ生G～I
11	研究方法の指導④	例：ゼミ生J～L
12	研究方法の指導⑤	例：ゼミ生M～O
13	研究方法の指導⑥	希望者への指導
14	データ収集のための準備の指導、まとめ	データ収集のための準備について指導し、春学期のふりかえりとまとめを行います
15	秋学期のガイダンス	秋学期のゼミの進め方についてガイダンスします
16	データの収集と分析の指導①	各自のデータの収集と分析の方法について指導します。例：ゼミ生A～C
17	データの収集と分析の指導②	例：ゼミ生D～F
18	データの収集と分析の指導③	例：ゼミ生G～I
19	データの収集と分析の指導④	例：ゼミ生J～L
20	データの収集と分析の指導⑤	例：ゼミ生M～O
21	卒論執筆指導①	卒論執筆のための最終的な指導を行います。例：ゼミ生A、B
22	卒論執筆指導②	例：ゼミ生C、D
23	卒論執筆指導③	例：ゼミ生E、F

24	卒論執筆指導④	例：ゼミ生G、H
25	卒論執筆指導⑤	例：ゼミ生I、J
26	卒論執筆指導⑥	例：ゼミ生K、L
27	卒論執筆指導⑦	例：ゼミ生M、N
28	卒論執筆指導⑧、まとめ	例：ゼミ生M、O、授業のふりかえりとまとめを行います

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容（100%）によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果に基づき、全員が有意義な卒業論文を完成できるようにしていけない指導をしたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的にわかりやすく指導します。

### 【Outline (in English)】

You will write graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.

The goal of this course is to complete graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on graduation thesis (100%).

OTR400JC (その他 / Others 400)

## 卒業論文

関谷 秀子

配当年次／単位数：4年次／4単位

備考（履修条件等）：履修登録をしないと単位が付かないので注意

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い研究テーマを選定する。必要な調査・分析、あるいは文献研究に基づいて卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

①自分の問題意識を明確化させ、臨床心理学と学問的に関連付けることができる。②調査研究や文献探索の方法が分かる。③学術的な文章の書き方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習Ⅲと連動させて発表の機会を設ける。授業計画は学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性がある。オフィス・アワーで、それぞれの課題に対してフィードバックを行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化Ⅰ	問題意識を明確化する。
第2回	問題意識の明確化Ⅱ	問題意識をまとめる。
第3回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の方法を学ぶ。
第4回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法をより具体的に学ぶ。
第5回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の方法を具体的に決定する。
第6回	論文計画の検討Ⅰ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の概要を策定する。
第7回	論文計画の検討Ⅱ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の内容を指導する。
第8回	論文計画の検討Ⅲ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の詳細を検討していく
第9回	論文計画の検討Ⅳ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画を最終的に決定する。
第10回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を収集し、整理していく。
第11回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、知識を蓄積する。
第12回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、知識をまとめていく。
第13回	調査計画の検討Ⅰ	調査計画の可能性を話し合う。
第14回	調査計画の検討Ⅱ	調査計画の詳細を検討する。
第15回	調査計画の検討Ⅲ	調査計画を最終的に決定する。
第16回	中間報告Ⅰ	進捗状況を報告する
第17回	中間報告Ⅱ	進捗状況を検討する
第18回	中間報告Ⅲ	卒論の調査・研究の最終的な結果を報告する
第19回	論文執筆の指導Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第1次原稿を指導する
第20回	論文執筆の指導Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第1次原稿を指導する
第21回	論文執筆の指導Ⅲ	「結果」「考察」について第1次原稿を提出させる
第22回	論文執筆の指導Ⅳ	「はじめに」「論文の目的」について、第2次稿を指導する
第23回	論文執筆の指導Ⅴ	「先行研究」「仮説」について第2次稿を提出させる
第24回	論文執筆の指導Ⅵ	「結果」について第2次稿を指導する
第25回	論文執筆の指導Ⅶ	「考察」について第2次稿を指導する
第26回	論文完成	論文の最終チェック
第27回	論文の発表会Ⅰ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第28回	論文の発表会Ⅱ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査研究を行う場合には心理的な統計処理に関する知識や技法は各自でマスターしておくこと。文献研究を行う場合には文献研究に関連する基礎的な専門知識を事前に学習しておくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文への取り組み（30%）とその内容（70%）にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケート結果集計後検討したい。

### 【Outline (in English)】

We will specify a theme of one's interest, and choose that theme in conjunction with clinical psychology. We will perform necessary investigation, analysis, document study in order to complete a graduation thesis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on graduation thesis (30%), and the quality of the students' experimental performance about the graduation thesis (70%).

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

## 老年学 (SSI)

新名 正弥

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

備考 (履修条件等)：他学部 SSI 生向けの科目につき、現代福祉学部 SSI 生および SSI 生以外は授業コード「N0117」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

### 【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックは LMS 等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達 (生涯発達理論と老年的超越)
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末期の課題
第14回	高齢社会の構造 (グローバルゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化)	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

### 【参考書】

国民の福祉と介護の動向 (厚生労働統計協会)  
高齢社会白書 (厚生労働省)

### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー (40%)、期末レポート (60%) によって総合的に判定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

### 【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

### 【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

BAM100JA (基礎医学 / Basic medicine 100)

## 医学概論

瀬戸 宏明

配当年次 / 単位数：1～4年次 / 2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N0151 人体の構造と機能及び疾病」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

### 【到達目標】

心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。社会情勢などによってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第2回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第3回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第4回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第5回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第6回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第7回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第8回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第9回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第10回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第11回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第12回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第13回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第14回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし  
(参考書参照のこと)

### 【参考書】

最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座1 医学概論  
中央法規出版

### 【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認：必要に応じて、出席を確認する。
- ②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切不可
- ③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100%）行う。評価に関しては出席等の平常点は考慮しない。ただし出席等の平常点の状況は適時勘案する。

### 【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

### 【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure, function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.

#### 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Mental and physical function
- body structure and function
- illness

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

ARSx100JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 100)

**まちづくりの思想**

水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1002 コミュニティマネジメント入門」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

**【到達目標】**

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（関司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（関司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（関司）	地域づくりに動き出した仲間の姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティ×企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第7回	コミュニティ×社会問題×企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第8回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第9回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	共生社会に生きる視点
第10回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第11回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第12回	アート&クラフトとまちづくり（水野）	アート&クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

**【参考書】**

授業中に随時示す。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（リアクションペーパーのコメント）100%で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

**【その他の重要事項】**

授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

**【Outline (in English)】**

## &lt; Course outline &gt;

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

## &lt; Learning Objectives &gt;

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

## &lt; Learning activities outside of classroom &gt;

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## &lt; Grading Criteria /Policy &gt;

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

## ソーシャルワーク I

安西 美咲

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1005 ソーシャルワークの基盤と専門職 I」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義を理解し、ソーシャルワークの基盤となる考え方、概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習します。また、ソーシャルワークの形成過程、価値規範、倫理について理解し、ソーシャルワークの基礎を習得することを目指します。

### 【到達目標】

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連  
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。

※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、本講義のねらい、生活課題の多様化とソーシャルワークが必要となる社会的背景についての説明、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけの概要説明
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第3回	精神保健福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第4回	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	社会福祉士や精神保健福祉士の専門性を理解するための事例検討
第5回	ソーシャルワークの定義	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する講義
第6回	ソーシャルワークの原理	・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重についての説明
第7回	ソーシャルワークの理念	・当事者主権・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションについての説明
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの基盤となる考え方に関する確認・グループ討議・小テスト
第9回	ソーシャルワークの形成過程	・慈善組織協会 ・セツルメント運動 ・医学モデルから生活モデルへ ・ソーシャルワークの統合化
第10回	ソーシャルワークの形成過程に関する確認	講義と小グループでの討議
第11回	専門職倫理の概念	社会福祉士としての倫理とは何か、概念に関する説明
第12回	倫理綱領	・ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・社会福祉士の倫理綱領 ・精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理的ジレンマ	専門職倫理とジレンマに関する講義及びグループディスカッション

第14回	専門職としての倫理とジレンマの関係性についての事例検討 ◆定期試験範囲の発表	・討議 ・ソーシャルワークにおける最近の動向 ・授業内容の振り返りとまとめ ・定期試験の範囲についての説明
------	---	--

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていたいただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。

- ①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規 2021年  
・副田あけみ『社会福祉援助技術論 ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房 2005年

### 【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
- ②試験方法：筆記試験
- ③成績評価：リアクションペーパー、授業内課題の提出が50%、筆記試験が50%の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として行政・社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】 : Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

## ソーシャルワーク I (相談援助の基盤と専門職)

安西 美咲

配当年次/単位数: 1~4年次/2単位

備考 (履修条件等): 2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降2020年度以前入学者は「N6005 ソーシャルワーク I」を受講すること。2021年度以降入学者は「N1005 ソーシャルワークの基盤と専門職 I」を受講すること。

その他属性: 〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義を理解し、ソーシャルワークの基盤となる考え方、概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習します。また、ソーシャルワークの形成過程、価値規範、倫理について理解し、ソーシャルワークの基礎を習得することを目指します。

### 【到達目標】

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
- ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連  
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。

※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション: 生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、本講義のねらい、生活課題の多様化とソーシャルワークが必要となる社会的背景についての説明、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけの概要説明
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第3回	精神保健福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第4回	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	社会福祉士や精神保健福祉士の専門性を理解するための事例検討
第5回	ソーシャルワークの定義	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する講義
第6回	ソーシャルワークの原理	・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重についての説明
第7回	ソーシャルワークの理念	・当事者主権・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションについての説明
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの基盤となる考え方に関する確認・グループ討議・小テスト
第9回	ソーシャルワークの形成過程	・慈善組織協会 ・セツルメント運動 ・医学モデルから生活モデルへ ・ソーシャルワークの統合化
第10回	ソーシャルワークの形成過程に関する確認	講義と小グループでの討議
第11回	専門職倫理の概念	社会福祉士としての倫理とは何か、概念に関する説明
第12回	倫理綱領	・ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・社会福祉士の倫理綱領 ・精神保健福祉士の倫理綱領

第13回	倫理的ジレンマ	専門職倫理とジレンマに関する講義及びグループディスカッション
第14回	専門職としての倫理とジレンマの関係性についての事例検討 ◆定期試験範囲の発表	・討議 ・ソーシャルワークにおける最近の動向 ・授業内容の振り返りとまとめ ・定期試験の範囲についての説明

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通して下さい。

①奥川幸子 (1997) 『未知との遭遇』 三輪書店  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』中央法規 2021年  
・副田あけみ『社会福祉援助技術論 ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房 2005年

### 【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認: リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
- ②試験方法: 筆記試験
- ③成績評価: リアクションペーパー、授業内課題の提出が50%、筆記試験が50%の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

### 【学生の意見等からの気づき】

実践現場の話や積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として行政・社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

### 【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.

【到達目標 (Learning Objectives)】 In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 : Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

ARSx200JB (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## 地域の歴史と文化

野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1055 ローカルイノベーション論」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

### 【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員4名(水野・関司・土肥・野田)が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/イントロダクション (水野・関司・土肥・野田)	ローカルイノベーションとは何か
第2回	半島先端におけるローカルイノベーション① (水野)	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	半島先端におけるローカルイノベーション② (水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第5回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション② (水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション① (野田)	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション② (土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション① (野田)	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第9回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション② (土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション① (関司)	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション② (関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション① (関司)	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション② (関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括 (水野・関司・土肥・野田)	6事例からの学びと提言

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

### 【参考書】

講義内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパーへのコメント) 100%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

## コミュニティソーシャルワーク

宮城 孝

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1056 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門Ⅱ）」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、社会福祉士、またソーシャルワークに関する専門職の役割と機能について、基本的な内容や方法について理解することを目的とする。また、ミクロ・メゾ・マクロの様々な課題に対応するソーシャルワーク実践の内容について基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

### 【到達目標】

社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。地域における総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのDVDなどを視聴する。演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回アクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、その社会的役割について
第2回	社会福祉士の職域と役割	社会福祉士の職域と役割について事例等を通しての基本的な理解
第3回	福祉行政等における専門職	福祉行政の今日的動向と専門職の役割についての理解
第4回	民間の施設・組織における専門職	民間の施設・組織における専門職の役割についての理解
第5回	地域における社会福祉士の役割	地域における社会福祉士の役割について、事例を通して理解を図る
第6回	諸外国における動向	欧米・その他の諸外国における社会問題とソーシャルワーク等の動向
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と方法についての基本的な理解
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実践について事例を通しての理解
第9回	事例を用いた地域におけるソーシャルワーク実践の展開	ニーズの把握方法、焦点化について事例を用いての理解
第10回	総合的・包括的な支援と多職種連携	複合的な事例における多職種連携の意義と方法について事例を用いての理解
第11回	当事者のエンパワメントと組織化支援	当事者のエンパワメントと組織化支援、ボランティアのコーディネートの実践について事例を用いての理解
第12回	チームアプローチの意義と内容	チームアプローチの意義と内容について事例を用いての理解
第13回	ソーシャルワークにおける地域支援	ソーシャルワークにおける地域支援の意義と方法について事例を用いての理解
第14回	まとめ	授業の振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、2～3とする。

準備・復習時間は、4時間以上。

### 【テキスト（教科書）】

宮城 孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店、2022年、1,980円【税込】

平野隆之・宮城 孝・山口 稔『コミュニティとソーシャルワーク 地域福祉論』有斐閣、2008年

### 【参考書】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』中央法規、2019年

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017年

日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006年

### 【成績評価の方法と基準】

① 平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容(30%)

② 試験期間内に行う理解度を問う試験(70%)

両方より総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD等による事例の視聴

### 【その他の重要事項】

・本授業は、ソーシャルワークの専門職の役割と機能に関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。

・講師は、社会福祉協議会での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がソーシャルワークの基本的な理解とスキルを習得することを図ることとする。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要(Course outline)】

This course learn about basic understanding the role and skills about the generic social work.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course A and B.

A To understanding about the basic contents and skills of generic social k.through the case analysis.

B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding the role and skills of generic social work.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワークⅢ

伊藤 正子

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1057 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、特にその方法としてソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、スーパービジョン、および事例分析の意義と方法について説明をする。その目的は、履修者が援助専門職として、その基本概念、実践過程を構成する様々な要素と留意点、およびアセスメントにおけるソーシャルワーカーの役割等を説明できるようになることである。

### 【到達目標】

- ①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
- ②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
- ③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
- ④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

理論や事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グループワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。対面式での開講となる。学習支援システムを通じてリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、多様化・複雑化する課題に対応するための、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の概要
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
第3回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第4回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第5回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第6回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第7回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第8回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第9回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）

第10回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第11回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第12回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第14回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの理論と方法（共通・社会専門）』中央法規  
 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013年  
 その他、授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。  
 授業への能動的参加（40%）、試験（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていくたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、事前にプリントアウトするか情報機器（パソコン）を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、社会福祉領域において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PSY200JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 200 , 心理学 / Psychology 200)

## カウンセリング

末武 康弘

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N1058 心理学的支援法」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第2回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第3回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第4回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第5回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第6回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第7回	主要理論（その1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第8回	主要理論（その2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第9回	主要理論（その3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第10回	主要理論（その4）	認知行動療法について学びます。
第11回	主要理論（その5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第12回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。

第13回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第14回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した課題を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

末武康弘（2018）『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎—』誠信書房

### 【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60％）と平常点（毎回の課題ほか：40％）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
  - understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
- Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

## 現代福祉特講 (国際地域開発)

佐野 竜平

配当年次/単位数：2~4年次/2単位

備考 (履修条件等)：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N1059 アジア地域開発論」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

### 【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Googleフォームによるリアクションペーパーの提出 (平常点)：50%、課題提出：50% (課題ファイル40%、発表10%)

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 Good practices and important trends in community development in Asia, particularly Southeast Asia, will be the main focus for a better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge of Asian regional development in the context of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%), reports, and presentations (50%).

SOW200JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワークⅢ (方法)

伊藤 正子

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

備考(履修条件等)：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降2020年度以前入学者は「N6057 ソーシャルワークⅢ」を受講すること。2021年度以降入学者は「N1057 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの過程について、特にその方法としてソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、スーパービジョン、および事例分析の意義と方法について説明をする。その目的は、履修者が援助専門職として、その基本的概念、実践過程を構成する様々な要素と留意点、およびアセスメントにおけるソーシャルワーカーの役割等を説明できるようにすることである。

### 【到達目標】

- ① 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
- ② ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
- ③ ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
- ④ 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

理論や事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グループワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。対面式での開講となる。学習支援システムを通じてリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、多様化・複雑化する課題に対応するための、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の概要
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
第3回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第4回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第5回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第6回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見(アウトリーチ、スクリーニング)、インテーク(インテークの意義、目的、方法、留意点、契約)
第7回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント(アセスメントの意義、目的、方法、留意点)、プランニング(プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意)
第8回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施(支援の意義、目的、方法、留意点)、モニタリング(モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定)、支援の終結と事後評価(支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点)、アフターケア(アフターケアの目的、方法、留意点)
第9回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的(ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ)、記録の方法と実際(記録の文体(叙述体、要約体、説明体等)、項目式(フェースシート等)、図表式(ジェノグラム、エコマップ等))

第10回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則(ケアマネジメントの歴史、適用と対象)、ケアマネジメントの意義と方法(ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル)
第11回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的(グループワークの意義と目的、グループワークの原則(個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則)、制限の原則、継続評価の原則)
第12回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程(準備期、開始期、作業期、終結期)、セルフヘルプグループ(共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割)
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法(スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法)、コンサルテーションの意義、目的、方法(コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法)
第14回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの理論と方法(共通・社会専門)』中央法規

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013年

その他、授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。

授業への能動的参加(40%)、試験(60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、事前にプリントアウトするか情報機器(パソコン)を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、社会福祉領域において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%・Short reports : 40%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## 司法福祉論

辰野 文理

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1114 刑事司法と福祉」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。

刑事司法は、犯罪問題に向けられた国家的諸活動の総称で、犯罪の防止、捜査、裁判、犯罪者の処遇に至る刑事手続の全過程を含むものである。具体的には、警察、検察、裁判、矯正、更生保護の諸活動を指す。

矯正は、刑務所等の矯正施設の保安警備、被収容者に対する処遇などを司っており、保護は、仮釈放に関する事務や仮釈放になった者等の保護観察、恩赦や犯罪予防活動に関する事などを担っている。

この中で、更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度であり、対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。

更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行っている。近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきた。そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

### 【到達目標】

- ・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
- ・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
- ・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
- ・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。

11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所を目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。適宜資料を配付する。

### 【参考書】

- ・法務省保護局のサイト ([http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo\\_index.html](http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html))
- ・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂、2021年
- ・辰野文理『要説 更生保護[3版]』成文堂、2018年
- ・藤本・生島・辰野(編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房、2016年

### 【成績評価の方法と基準】

各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（30%）。

全範囲学習後に基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（70%）。成績の評価はこれらを総合して100点満点として行い、60点以上が合格となる。フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

多くの受講生にとって刑事司法や犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

### 【その他の重要事項】

法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".

"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.

The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menu of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".

Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.

#### 【Learning Objectives】

- ・ To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
- ・ To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
- ・ To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
- ・ To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.

#### 【Learning activities outside of classroom】

[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.

[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.

Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.

#### 【Grading Criteria /Policy】

A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).

The level of effort in the quiz for review (20%).

The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.

The answers to the quizzes will be presented as feedback. The final exam will be followed by a critique.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**国際支援論**

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N1116 国際協力論」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

**【到達目標】**

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

(福祉コミュニケーション学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogle フォーム等でその都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第5回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第6回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第7回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第10回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第11回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第12回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%、課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】****【Course Outline】** With a focus on inclusive development, basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development in the developing world are to be introduced.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation in the context of social policy and administration.**【Learning activities outside of classroom】** Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.**【Grading Criteria /Policy】** Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

MAN300JB (経営学 / Management 300)

## 地域経営論 (SSI)

松本 昭

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

備考 (履修条件等)：他学部 SSI 生向けの科目につき、現代福祉学部 SSI 生および SSI 生以外は授業コード「N1151」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営 (マネジメント) のあり方について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

### 【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民 (住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する  
仕組みと課題
- ・空き家・空き店舗等の既存の地域資源を活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということに常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	・講義ガイダンス、 ・「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	自治・分権と地域経営	・各回講義の要点解説 ・「地方自治」「地方分権」の今日的課題
第3回	住民参加と地域経営	・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権 ・参加、参画、協働、協創 (共創) と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創 (共創) 型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成 ・具体的課題から合意形成を考える
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性 ・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化 (道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み)
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用 (PFI 制度等の民間活用の施設整備)
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営 (長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に)
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営 ・ストック活用のまちづくり/リノベーションまちづくり

第13回 講義の総括①  
第14回 講義の総括②

レポート提出と個別指導  
・レポート評価とプレゼンテーション  
・学生諸君からの感想と意見/講義の総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

### 【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦める。  
「市民がまちを育むー現場に学ぶ住まいまちづくりー」 建築資料研究社  
「社会的処方ー孤独という病を社会のつながりで治す方法」 西 智弘

### 【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー 50%  
②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション 50% (レポート課題は6月前半に提示)

### 【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介と考察が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

#### 【Learning Objectives】

The objective of this course is to provide students with a basic understanding of the following issues and to raise their awareness of the issues and policies for dealing with each theme.

- ・ Basic legal systems related to regional management, and an overview and characteristics of representative systems
- ・ The relationship between national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
- ・ How to manage local communities by utilizing existing local resources

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

#### 【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction papers based on the lecture and subsequent plenary discussions and mini-workshops 50%.
- (2) Reports and presentations based on selected assignments 50% (Report assignments will be presented in the first half of June)

MAN300JB (経営学 / Management 300)

## NPO論 (SSI)

渡真利 紘一

配当年次 / 単位数：2~4年次 / 2単位

備考 (履修条件等)：他学部SSI生向けの科目につき、現代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N1155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体 (ボランティア、行政、民間企業 (CSR)、助成財団など) との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

### 【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
- ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること / 他者に対して寛容であること / 仲間を持つこと / 社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容 (歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等) について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPOの社会的意義について考察する。
第4回	NPOの組織運営と他の主体との関係	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の主体 (ボランティア、行政、民間企業 (CSR)、助成財団など) との関係について把握する。
第5回	関心分野におけるNPO活動の調査 / 自由研究のテーマ検討	受講者自らの関心分野におけるNPO活動を調べるとともに、NPOに関連する自由研究のテーマを検討する。(必要に応じてNPO論受講生OBOGの協力を得る)
第6回	NPOの活動事例紹介1「公園管理における多様な里山保全と市民の関わり」(予定)	NPO活動に携わる者 (ゲスト) から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第7回	NPOの活動事例紹介2「アートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO活動に携わる者 (ゲスト) から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第8回	NPOの活動事例紹介3「学校以外で育つ子が豊かに育つことのできる環境づくり」(予定)	NPO活動に携わる者 (ゲスト) から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。

第9回	NPOに関する自由研究進捗フォローアップ	第5回授業で検討した自由研究の進捗を共有・フォローする。(必要に応じてNPO論受講生OBOGの協力を得る)
第10回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイズングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究発表会1	第5回授業で検討したテーマ作成したテーマについて、個人又はグループ毎に自由研究の成果発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究発表会2	第5回授業で検討したテーマ作成したテーマについて、個人又はグループ毎に自由研究の成果発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (出席・リアクション) 50点、(2) 中間レポート (NPO活動計画書) 10点、(3) 期末試験 (自由研究企画書及び発表) 40点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。  
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか  
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深められたか  
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか  
(注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし  
(注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンとwifiが必要です。

### 【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

### 【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to "To understand Social significance of Non Profit Organization".

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end examination: 40%、Short reports: 10%、in class contribution: 50%

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

## コミュニティアート (SSI)

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：他学部SSI生向けの科目につき、現代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N1162」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

### 【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。(授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同)
第3回	市民主体のまちづくりの事例(1)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(学生が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例(2)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(中高齢者が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味(意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど)の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート(パブリックアートやコミュニティアートなど)の変遷の説明。

第9回	コミュニティアートの事例(1)	コミュニティアートの事例(基本的な考え方を理解するための事例)の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例(2)	コミュニティアートの事例(大都市/拠点型)の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例(3)	コミュニティアートの事例(大都市/まちなか展開型)の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例(4)	コミュニティアートの事例(地方都市/地域密着型)の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例(5)	コミュニティアートの事例(地方都市/地域交流型)の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。(必要に応じて適宜配布する。)

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーなど)：30点 期末レポート：70点  
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。

期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
  - Planning of community art
- (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
  - Reading literature related to the class meeting
  - Participating in events related to community design and art
- (Grading Criteria / Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

TRS300JB (観光学 / Tourism Studies 300)

## 地域ツーリズム (SSI)

野田 岳仁

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

備考(履修条件等)：他学部SSI生向けの科目につき、現代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N1165」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ(ウェルビーイング)の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

### 【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは?	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか?	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは?	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか?	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー(10%)、期末試験(90%)の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワークⅡ

高良 麻子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1210 ソーシャルワークの理論と方法（専門Ⅱ）」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

### 【到達目標】

- ・ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために必要な基本的な知識と技術について説明できる。
- ・中でも、人と環境の交互作用について説明できる。
- ・また、それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク
第3回	実践モデル アプローチ①	治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル
第4回	アプローチ②	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第5回	アプローチ③	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第6回	アプローチ④	危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ
第7回	アプローチ⑤	ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第8回	コミュニティワーク	コミュニティワークの意義と展開 地域アセスメント
第9回	ネットワーク	ネットワークング コーディネーション
第10回	カンファレンス	会議の種類 プレゼンテーション ファシリテーション
第11回	社会資源	社会資源の理解 社会資源の活用・調整・開発
第12回	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義と目的 ネゴシエーション
第13回	ジェネラリストソーシャルワーク実践の実際	マイクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を実現する実践
第14回	試験	試験と解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規

### 【参考書】

①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規

- ②空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
- ③高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために』かもがわ出版
- ④川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
- ⑤久保絃章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル- 心理社会的アプローチからナラティブまで-』川島書店

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点60%
- ・期末試験40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice. At the end of the course, students are expected to explain basic knowledge and skills concerning generalist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end exam (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク II (理論)

高良 麻子

配当年次/単位数：2～4年次/2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降2020年度以前入学者は「N6210 ソーシャルワーク II」を受講すること。2021年度以降入学者は「N1210 ソーシャルワークの理論と方法（専門）II」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

### 【到達目標】

・ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために必要な基本的な知識と技術について説明できる。  
 ・中でも、人と環境の交互作用について説明できる。  
 ・また、それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク
第3回	実践モデル アプローチ①	治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル
第4回	アプローチ②	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ
第5回	アプローチ③	課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ
第6回	アプローチ④	危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ
第7回	アプローチ⑤	ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第8回	コミュニティワーク	コミュニティワークの意義と展開 地域アセスメント
第9回	ネットワーク	ネットワークング コーディネーション
第10回	カンファレンス	会議の種類 プレゼンテーション ファシリテーション
第11回	社会資源	社会資源の理解 社会資源の活用・調整・開発
第12回	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義と目的 ネゴシエーション
第13回	ジェネラリストソーシャルワーク実践の実際	ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を実現する実践
第14回	試験	試験と解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規

### 【参考書】

- ①一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規
- ②空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック6 ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房
- ③高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために』かもがわ出版
- ④川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
- ⑤久保絃章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデルー心理社会的アプローチからナラティブまでー』川島書店

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・期末試験 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice. At the end of the course, students are expected to explain basic knowledge and skills concerning generalist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end exam (40%) and in-class contribution (60%).

CIM300JB,CIM200JC (内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300, 内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 200)

## 精神医学

関谷 秀子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N1216 精神疾患とその治療」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

### 【到達目標】

精神科医療の歴史と現状を理解する。  
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。  
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。  
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／ 精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第2回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第3回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第4回	精神症状学①	「神経心理学」
第5回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第6回	精神障害①	「統合失調症」
第7回	精神障害②	「気分障害」
第8回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第9回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第10回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第11回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第12回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第13回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

「思春期に心が折れた時親がすべきことー不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子 中央公論新社 2020.10  
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%にて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

### 【その他の重要事項】

精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

### 【Outline (in English)】

The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution: 40%, Term-end examination: 60%.

PSY300JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200)

## 臨床心理学 I

小高 佐友里

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ受講可能。2018年度以降入学者は「N1217 臨床心理学概論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学に関する基礎的な知識や理論を概説し、現代社会に生きる人々が抱える心身の健康問題について理解を深めることで、支援の方策を検討する力を養うことを目的とします。その際、臨床心理学の諸理論について、個人または集団に対して啓発・予防的に行う教育的支援である「心理教育（psycho-education）」の視点から、受講生自身のメンタルヘルスへの気づきを深めると共に、家族や友人といった周囲の人々への理解を広げることで、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための視点についてもお伝えします。

## 【到達目標】

- ①心理学における臨床心理学の位置づけ、その発展の歴史について理解することができる。
- ②臨床心理学の支援の方法に関する知識や理論について理解することができる。
- ③人々が抱える心身の健康問題について、臨床心理学の視点から具体的な支援の方策を検討することができる。
- ④グループで協働することの重要性について理解し、日常生活においても積極的に活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドや配布資料を用いた講義を基本としますが、臨床心理学の位置づけやその発展の歴史、代表的・基礎的な知識や理論についての理解や、受講生の授業への積極的な参加を促すために、主体的・対話的で深い学習（アクティブラーニング）の手法を取り入れていきます。具体的には、ペアやグループでのディスカッションへの取り組みを通して、互いの理解を正しく共有するための活動を行います。また、体験的なワークを取り入れることで、抽象的な理論や概念を、実感を通して学ぶ機会を積極的に取り入れます。さらに、授業中の小レポートやリアクションペーパーへの記入により、個人の理解度や疑問点を確認し、それに対するフィードバックや情報の補足を通して、本授業への理解を自己評価する機会を設けたいと思います。このような取り組みを通し、受講生が知識の獲得だけでなく、複雑化する現代社会における心身の健康問題や、日常生活で直面する可能性のある困りごとについて、臨床心理学的視点から、支援や改善の手立てを検討する手がかりを示していきたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 臨床心理学の歴史と発展	講義内容、目的、目標、心構え、手続き等について説明を行います。その他、イントロダクションとして、臨床心理学の歴史と発展について概説を行います。
第2回	心理療法を知る①	精神力動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第3回	心理療法を知る②	ヒューマニスティックアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第4回	心理療法を知る③	認知行動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第5回	心理アセスメントと関わる技法①	最新の知能理論（CHC理論）を紹介し、アセスメントの実践への応用として感情知能理論に基づいたソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の理論について概説します。その上で、SELを体験します。
第6回	心理アセスメントと関わる技法②	アセスメントの基礎理論（面接法、検査法、観察法等）について概説し、理論に基づいた体験的なワークを行います。
第7回	心理療法を知る④	その他のアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的なワークを行います。

第8回	精神疾患とその対応①	統合失調症、摂食障害の特徴とその対応について概説します。
第9回	精神疾患とその対応②	気分障害、双極性障害の特徴とその対応について概説します。
第10回	精神疾患とその対応③	強迫性障害、不安障害、パーソナリティ障害の特徴とその対応について概説します。
第11回	精神疾患とその対応④	発達障害の特徴とその対応について概説します。
第12回	精神疾患とその対応⑤	依存症の特徴とその対応について概説します。
第13回	精神疾患とその対応⑥	PTSDの特徴とその対応について概説します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、「心理教育」の視点から、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための方策について検討します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習の効果を高めるために、事前に指示したテキストの該当箇所や自身で調べた資料に、あらかじめ目を通した上で授業に臨んでください。また、授業中に理解が不十分であった内容については、授業の配布資料や授業中に紹介した参考文献に目を通し、知識を整理しておくといでしょう。わからないことや疑問点などは積極的に質問してください。また、授業で学んだ内容について理解を深めるために、指示された課題を毎回提出してください。本授業の準備学習および復習時間は各2時間を想定しています。

## 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。特定のテキストは使用しません。

## 【参考書】

武田明典(編著)(2022). 自己理解の心理学 北樹出版 (ISBN:9784779306990)  
武田明典(編著)(2023). 心理教育としての臨床心理学 北樹出版 (ISBN : 9784779307027)

その他の参考書については、その都度ご紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点40%と期末試験60%により決定します。平常点は授業への参加の意欲（他者との協働や発表への積極的な関与；全ての学生が平等に機会を持つことを前提とします）、授業中に出席する小レポートやアクションペーパーへの記入の内容（思考力や文章構成力を見ます）について、あらかじめ設定した評価基準に基づき得点化します。詳しくは第1回のオリエンテーションでお伝えしますので、必ず出席してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的なやり取りができるよう工夫したいと思います。

## 【その他の重要事項】

教育・福祉領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

## 【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200)

## 臨床心理学

小高 佐友里

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ受講可能。2018年度以降入学者は「N1217 臨床心理学概論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学に関する基礎的な知識や理論を概説し、現代社会に生きる人々が抱える心身の健康問題について理解を深めることで、支援の方策を検討する力を養うことを目的とします。その際、臨床心理学の諸理論について、個人または集団に対して啓発・予防的に行う教育的支援である「心理教育（psycho-education）」の視点から、受講生自身のメンタルヘルスへの気づきを深めると共に、家族や友人といった周囲の人々への理解を広げることで、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための視点についてもお伝えします。

### 【到達目標】

- ①心理学における臨床心理学の位置づけ、その発展の歴史について理解することができる。
- ②臨床心理学的支援の方法に関する知識や理論について理解することができる。
- ③人々が抱える心身の健康問題について、臨床心理学の視点から具体的な支援の方策を検討することができる。
- ④グループで協働することの重要性について理解し、日常生活においても積極的に活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

スライドや配布資料を用いた講義を基本としますが、臨床心理学の位置づけやその発展の歴史、代表的・基礎的な知識や理論についての理解や、受講生の授業への積極的な参加を促すために、主体的・対話的で深い学習（アクティブラーニング）の手法を取り入れていきます。具体的には、ペアやグループでのディスカッションへの取り組みを通して、互いの理解を正しく共有するための活動を行います。また、体験的なワークを取り入れることで、抽象的な理論や概念を、実感を通して学ぶ機会を積極的に取り入れます。さらに、授業中の小レポートやリアクションペーパーへの記入により、個人の理解度や疑問点を確認し、それに対するフィードバックや情報の補足を通して、本授業への理解を自己評価する機会を設けたいと思います。このような取り組みを通して、受講生が知識の獲得だけでなく、複雑化する現代社会における心身の健康問題や、日常生活で直面する可能性のある困りごとについて、臨床心理学的視点から、支援や改善の手立てを検討する手がかりを示していきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 臨床心理学の歴史と発展	講義内容、目的、目標、心構え、手続き等について説明を行います。その他、イントロダクションとして、臨床心理学の歴史と発展について概説を行います。
第2回	心理療法を知る①	精神力動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第3回	心理療法を知る②	ヒューマニスティックアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第4回	心理療法を知る③	認知行動アプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第5回	心理アセスメントと関わる技法①	最新の知能理論（CHC理論）を紹介し、アセスメントの実践への応用として感情知能理論に基づいたソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の理論について概説します。その上で、SELを体験します。
第6回	心理アセスメントと関わる技法②	アセスメントの基礎理論（面接法、検査法、観察法等）について概説し、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第7回	心理療法を知る④	その他のアプローチ発展の歴史とその理論についての概説に加え、理論に基づいた体験的ワークを行います。
第8回	精神疾患とその対応①	統合失調症、摂食障害の特徴とその対応について概説します。

第9回	精神疾患とその対応②	気分障害、双極性障害の特徴とその対応について概説します。
第10回	精神疾患とその対応③	強迫性障害、不安障害、パーソナリティ障害の特徴とその対応について概説します。
第11回	精神疾患とその対応④	発達障害の特徴とその対応について概説します。
第12回	精神疾患とその対応⑤	依存症の特徴とその対応について概説します。
第13回	精神疾患とその対応⑥	PTSDの特徴とその対応について概説します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、「心理教育」の視点から、学んだ知識を日常生活に有効的に活用するための方策について検討します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習の効果を高めていくために、事前に指示したテキストの該当箇所や自身で調べた資料に、あらかじめ目を通した上で授業に臨んでください。また、授業中に理解が不十分であった内容については、授業の配布資料や授業中に紹介した参考文献に目を通し、知識を整理しておくといでしょう。わからないことや疑問点などは積極的に質問してください。また、授業で学んだ内容について理解を深めるために、指示された課題を毎回提出してください。本授業の準備学習および復習時間は各2時間を想定しています。

### 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。特定のテキストは使用しません。

### 【参考書】

武田明典(編著)(2022). 自己理解の心理学 北樹出版 (ISBN:9784779306990)  
 武田明典(編著)(2023). 心理教育としての臨床心理学 北樹出版 (ISBN:9784779307027)

その他の参考書については、その都度ご紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点40%と期末試験60%により決定します。平常点は授業への参加の意欲（他者との協働や発表への積極的な関与；全ての学生が平等に機会を持つことを前提とします）、授業中に出席する小レポートやリアクションペーパーへの記入の内容（思考力や文章構成力を見ます）について、あらかじめ設定した評価基準に基づき得点化します。詳しくは第1回のオリエンテーションでお伝えしますので、必ず出席してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的なやり取りができるよう工夫したいと思います。

### 【その他の重要事項】

教育・福祉領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

### 【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

**教育心理学**

大瀧 玲子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、8月5日（月）・6日（火）・7日（水）。

2017年度以前の入学者のみ受講可能。2018年度以降入学者は「N1225 教育心理学特講」を受講すること。

教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を交え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

**【到達目標】**

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方や、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ

12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ
14	総括	授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著  
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（60％）

授業参加およびリアクションペーパー等（40％）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【Outline (in English)】**

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces educational psychology to students taking this course.

Learning Objectives:

The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology.

Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

Your overall grade in the class will be decided based of the following

Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 臨床心理学Ⅱ

末武 康弘

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N1505 臨床心理学特講」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

### 【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第2回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第3回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第4回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第5回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第6回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第7回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第8回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第9回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルビヤベックの著作等から考察します。
第10回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第11回	主要な概念と理論（9）：芸術療法、サイコドラマ、読書療法	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。

第12回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第13回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多面的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第14回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000字前後）（60％）と平常点（毎回の発展課題ほか：40％）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

### 【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

**投映法特論**

津村 麻紀

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：抽選科目。2018年度以降入学者は科目名称・授業コードが異なる（投映法特論 / N1511）ため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

投映法を中心とした心理検査の種類と意義に着目し、各種心理検査の理論および解釈を学ぶと共に、被検者の心理的体験について理解する。

**【到達目標】**

代表的な質問紙法と投映法の種類と意義を把握し、各種心理検査の理論および解釈について説明することができる。被検者体験を通して被検者の心理を理解し、自分自身で検査結果の整理を行うことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

代表的な質問紙法と投映法の心理検査について理論的学習と被検者体験を行う。講義内で体験した各種心理検査の採点・解釈の方法を解説し、学生自身に実施してもらう。リアクションペーパーやグループディスカッションで理解度を確認する。リアクションペーパー等の課題に対するフィードバックは講義内で適宜行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	投映法を学ぶということ	オリエンテーション
第2回	質問紙法概論	質問紙法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第3回	矢田部ギルフォード性格検査（YG性格検査）	YG性格検査を体験し、理論と解釈を学ぶ
第4回	東大式エゴグラム（TEG）	TEGを体験し、理論と解釈を学ぶ
第5回	ミネソタ多面的人格目録（MMPI）	MMPIを体験し、理論と解釈を学ぶ
第6回	投映法概論	投映法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第7回	絵画欲求不満テスト（P-Fスタディー）	P-Fスタディーを体験し、理論と解釈を学ぶ
第8回	文章完成法（SCT）	SCTを体験し、理論と解釈を学ぶ
第9回	描画法	バウムテスト、HTP等の描画法を体験し、理論と解釈を学ぶ
第10回	絵画統覚検査（TAT）	TATを体験し、理論と解釈を学ぶ
第11回	ロールシャッハテスト①	集団ロールシャッハテストを体験する
第12回	ロールシャッハテスト②	ロールシャッハテストの理論と解釈を学ぶ
第13回	臨床場面における質問紙法と投映法	臨床場面での質問紙法と投映法の活かし方を学ぶ
第14回	学期末試験・まとめと解説	学期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義内で体験した心理検査を自分で採点・解釈し、講義内容の理解を深める。また、授業外で心理検査に関するレポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

適宜、講義内で参考文献を紹介し資料を配布する。

**【参考書】**

適宜、講義内で参考文献を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験（60％）および平常点（40％）の合計で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

体験学習の希望が多いため、被検者体験を中心に授業を実施する。

**【その他の重要事項】**

投映法は、クライアントが検査を受ける時にどのような気持ちになるか、クライアントが検査結果を聞いてどう捉えるかを理解することは重要で、それらの情報はアセスメントの重要な材料ともなります。したがって、理論的学習だけではなく体験的学習への積極的な取り組みを期待します。

**【Outline (in English)】**

This course offers an overview of the theory and history of various psychological tests including projective tests. At the end of this course, students are expected to master the theory and the way of calculation and interpretation of each test, to understand subject's psychological tendencies through test learning. Before each class meeting, students will be expected to complete required psychological test, and to review contents learned after each class. Your home study time will be more than two hours at a time. Grading will be decided based on in-class contribution(40%), and term-end examination(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2011）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2012）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2013）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2015）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2016）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2017）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅱ

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ / N2018）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

安西 美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2021）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

小野田 由実子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2022）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2023）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田 ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2024）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
- ・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
- ・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
- ②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。  
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

安西 美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2031）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

小野田 由実子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2032）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2033）ため注意。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

## 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

## 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

## 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田 ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2034）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

### 【到達目標】

- ・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
- ・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチと ニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度60%、課題提出40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

### 【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。  
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2035）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、マイクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・マイクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2036）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2037）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク演習Ⅴ

高良 麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2037）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

### 【到達目標】

- ・人と環境との関係からニーズを把握できる。
- ・ミクロ・メゾ・マクロシステムの相互作用の仮説が構築できる。
- ・クライアントがニーズを充足できる相互作用への連鎖的変化を構想できる。
- ・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
- ・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見 アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライアントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第14回	実習・演習の総括	ネゴシエーション まとめと振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

### 【その他の重要事項】

本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習**

伊藤 正子

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2091）ため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

**【到達目標】**

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2092）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習**

島谷 綾郁

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2093）ため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

**【到達目標】**

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習

佐藤 繭美

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2095）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習**

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2096）ため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

**【到達目標】**

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

## ソーシャルワーク実習

岩田 千亜紀

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2097）ため注意。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。  
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

### 【到達目標】

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

**ソーシャルワーク実習**

山崎 禎広

配当年次／単位数：3年次／4単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2098）ため注意。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

**【到達目標】**

- ①実習施設の機能・運営について理解する
- ②社会福祉士の業務や役割について理解する
- ③関係職種の役割や機能について理解する
- ④利用者のニーズを適切に理解する
- ⑤地域の特性とニーズについて理解する
- ⑥多職種連携のあり方を理解する
- ⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
- ⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
- ⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
- ⑩援助者として適切な観察・記録ができる
- ⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
- ⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
- ⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
- ⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
- ⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員により適宜指示する。

**【参考書】**

担当教員により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60%、報告書40%。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施

**【その他の重要事項】**

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

**【Outline (in English)】**

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 臨床心理実習指導 I

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田友理恵

配当年次 / 単位数：3年次 / 1単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N2501 心理演習 I」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

### 【到達目標】

心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場に必要な知識や技能を学びます。
第3回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場に必要な知識や技能を学びます。
第4回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場に必要な知識や技能を学びます。
第5回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場に必要な知識や技能を学びます。
第6回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第7回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第8回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第9回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第10回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第11回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第12回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第13回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第14回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

実習科目のためアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 臨床心理実習指導Ⅱ

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵

配当年次／単位数：3年次／1単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N2502 心理演習Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

### 【到達目標】

役割演技や事例検討を通して、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第3回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第4回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第5回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第6回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第7回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第8回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第9回	多職種連携及び地域連携(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第10回	多職種連携及び地域連携(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。

第11回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務(1)	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第12回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務(2)	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第13回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第14回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習科目のためアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【Outline (in English)】

The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on case reports (40%), and in-class contribution (60%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

## 臨床心理実習

小野 純平、末武 康弘、丹羽 郁夫、望月 聡、小田 友理恵、久保田 幹子、関谷 秀子、服部 環

配当年次／単位数：3年次／2単位

備考（履修条件等）：2017年度以前入学者のみ履修可能。2018年度以降入学者は「N2503 心理実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

### 【到達目標】

到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- (イ) 多職種連携及び地域連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計80時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第2回	保健医療施設見学実習 第1回	入院施設等の見学実習
第3回	保健医療施設見学実習 第2回	デイケア等の見学実習
第4回	福祉施設見学実習 第1回	児童養護施設の見学実習
第5回	福祉施設見学実習 第2回	児童相談所等の見学実習
第6回	学校等教育施設等での実習 第1回	学校等教育施設等（例、A小学校）の施設実習
第7回	学校等教育施設等での実習 第2回	学校等教育施設等（例、B小学校）の施設実習
第8回	学校等教育施設等での実習 第3回	学校等教育施設等（例、C小学校）の施設実習
第9回	学校等教育施設等での実習 第4回	学校等教育施設等（例、D小学校）の施設実習
第10回	学校等教育施設等での実習 第5回	学校等教育施設等（例、E小学校）の施設実習
第11回	学校等教育施設等での実習 第6回	学校等教育施設等（例、F小学校）の施設実習
第12回	学校等教育施設等での実習 第7回	学校等教育施設等（例、G小学校）の施設実習
第13回	学校等教育施設等での実習 第8回	学校等教育施設等（例、A中学校）の施設実習
第14回	学校等教育施設等での実習 第9回	学校等教育施設等（例、B中学校）の施設実習
第15回	学校等教育施設等での実習 第10回	学校等教育施設等（例、C中学校）の施設実習
第16回	学校等教育施設等での実習 第11回	学校等教育施設等（例、D中学校）の施設実習

第17回	学校等教育施設等での実習 第12回	学校等教育施設等（例、E中学校）の施設実習
第18回	学校等教育施設等での実習 第13回	学校等教育施設等（例、F中学校）の施設実習
第19回	学校等教育施設等での実習 第14回	学校等教育施設等（例、G中学校）の施設実習
第20回	学校等教育施設等での実習 第15回	学校等教育施設等（例、A教育センター）の施設実習
第21回	学校等教育施設等での実習 第16回	学校等教育施設等（例、B教育センター）の施設実習
第22回	学校等教育施設等での実習 第17回	学校等教育施設等（例、C教育センター）の施設実習
第23回	学校等教育施設等での実習 第18回	学校等教育施設等（例、A保育園）の施設実習
第24回	学校等教育施設等での実習 第19回	学校等教育施設等（例、B保育園）の施設実習
第25回	学校等教育施設等での実習 第20回	学校等教育施設等（例、C保育園）の施設実習
第26回	学校等教育施設等での実習 第21回	学校等教育施設等（例、D保育園）の施設実習
第27回	学校等教育施設等での実習 第22回	学校等教育施設等（例、E保育園）の施設実習
第28回	学校等教育施設等での実習 第23回	学校等教育施設等（例、F保育園）の施設実習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

担当教員により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価80%、報告書20%。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

### 【Outline (in English)】

The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉社会研究法 I

野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

### 【到達目標】

研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「DP9」「DP10」関連

### 【授業の進め方と方法】

福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第2回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第3回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第4回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第5回	量的研究の方法⑤（金）	量的研究論文の精読
第6回	量的研究の方法⑥（金）	量的研究論文の執筆ポイントの解説
第7回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第8回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第9回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第10回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第11回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第12回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第13回	質的調査の方法⑥（野田）	ライフヒストリー（生活史）の方法
第14回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

### 【テキスト（教科書）】

各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。  
 [第1-4回] 近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018年）  
 [第8-14回] 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016年）  
 その他の回については、講義内で適宜指示がある。

### 【参考書】

参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を積極的に取り入れていく。

### 【その他の重要事項】

授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

### 【担当教員の専門分野等】

【野田岳仁】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【土肥将敦】

〔専門領域〕

企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

〔研究テーマ〕

ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

〔主要業績〕

『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【岡田栄作】

〔専門領域〕

福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論

〔研究テーマ〕

介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康

〔主要業績〕

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）

『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【金慧英】

〔専門領域〕

高齢者福祉、介護専門職支援

〔主要業績〕

『介護職員のバーンアウト要因についての一考察：職場環境の管理体制に着目して』『Human Welfare』11(1)（共著、2019年）

『韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究』『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018年）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance (Reaction papers and reports) (20%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 地域共生社会特論

水野 雅男、佐野 竜平、関司 直也、布川 日佐史、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

### 【到達目標】

人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

### 【授業の進め方と方法】

教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または対面とオンラインを組み合わせる【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	障害インクルーシブな開発①（佐野）	国内外の開発課題
第2回	障害インクルーシブな開発②（佐野）	インクルーシブなコミュニティ実践
第3回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開①（宮城）	包括的支援システム構築への展望と課題
第4回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開②（宮城）	包括的支援システム構築とコミュニティソーシャルワークの展開
第5回	高齢者介護と介護専門職の支援①（金）	介護をめぐる課題
第6回	高齢者介護と介護専門職の支援②（金）	外国人を含む介護専門職の支援
第7回	生活困窮者の社会参加支援①（布川）	社会参加支援の基礎理論
第8回	生活困窮者の社会参加支援②（布川）	社会参加支援の実践
第9回	地域マネジメントと地域経済循環①（関司）	農村コミュニティの基礎的理解
第10回	地域マネジメントと地域経済循環②（関司）	内発的発展の考え方とその実践
第11回	地域における学習の組織化と展開①（杉浦）	地域社会教育の基本的課題
第12回	地域における学習の組織化と展開②（杉浦）	地域課題の解決と社会教育
第13回	ホームレスの社会的包摂を目指した市民事業①（水野）	社会的包摂を目指すローカルビジネスの展開
第14回	ホームレスの社会的包摂を目指した市民事業②（水野）	ホームレスの就業支援を目指す農園経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

主な研究領域

- 1) 佐野（アジアの障害インクルーシブな開発）
- 2) 宮城（コミュニティソーシャルワーク、包括的支援システム）
- 3) 金（介護施設の組織的管理体制の構築）
- 4) 布川（生活困窮者への社会参加の権利保障）
- 5) 関司（農山村における地域経営の仕組みづくりと地域経済循環）
- 6) 杉浦（地域文化の継承と創造）
- 7) 水野（社会的包摂の市民事業）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work and community management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%: including in-class reports) within class.

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## ソーシャルワーク特論 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門展開科目 (ソーシャルワーク系)

配当年次/単位数：1・2年次/2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められる。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第2回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第3回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第4回	死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第5回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第6回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第7回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第8回	死生観の援助観との関連性	文献検討とグループディスカッション
第9回	死別に関するDVD鑑賞	死別に関するDVDを鑑賞する
第10回	全体討議	死別に関するDVD鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第11回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	説明とディスカッション
第12回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第13回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえてのディスカッション
第14回	総括	生と死についてのディスカッション

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。

①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワークの基盤と専門職 I』、②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『ソーシャルワークの理論と方法』 なお、本講義の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

## 【参考書】

坂口幸弘 (2010)『悲嘆学入門』昭和堂

## 【成績評価の方法と基準】

レポート (50%)、知識・技術の習得 (50%) を総合的に評価する。

特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

## 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論 (特に自閉症者と家族)

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグループとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to be able to express one's views on life and death.

【Learning activities outside of classroom】 The preparation and review time for this lecture will be about 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワーク理論の変遷とそれぞれの時代における実践モデルを学ぶ。

### 【到達目標】

ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。

ソーシャルワークの各実践モデルの特徴と限界について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながらソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の7つの項目について整理していく。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第3回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第4回	実践モデル②	機能的アプローチ
第5回	実践モデル③	問題解決モデル
第6回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第7回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第8回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第9回	実践モデル⑦	生態学的(エコロジカル) アプローチ
第10回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第11回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第12回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第13回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第14回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

久保絳章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 2005年、一部の理論、近年の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 課題発表 (50%)
2. 授業への能動的参加 (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートは未実施

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実践について解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論  
<研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

### 【Outline (in English)】

This course introduce the different perspectives and skills of social work theory to students taking course. By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. Explain how aid perspectives, methods, and goals have changed over the course of social work development.

-B. Explain the characteristics of each practical model of social work.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Grading will be decided based on reports and presentation (50%), in-class contribution (50%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## ソーシャルワーク・スーパービジョン

佐藤 蘭美、岩田 美香、伊藤 正子、高良 麻子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）  
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、専門職として、ソーシャルワーク実践を言語化、文章化できるよう学習し、そのうえで、実践者としての支援のあり方を省察できるよう、スーパービジョンの実際を学習し、そのスキルを向上していくことを目的とします。

### 【到達目標】

専門職として、自らの実践を振り返り省察することにより、スーパービジョンを含む実践力の質を向上していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの実際について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。※授業の内容等によっては、オンラインにて実施します。※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スーパービジョンとは何か①	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第2回	スーパービジョンとは何か②	スーパービジョンの歴史と定義・種類
第3回	ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か①	ジェネラリスト視点に基づくソーシャルワークの概要説明
第4回	ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か②	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける倫理的ジレンマとスーパービジョン
第5回	医療領域におけるスーパービジョンの実際①	医療領域におけるスーパービジョンの方法
第6回	医療領域におけるスーパービジョンの実際②	医療領域におけるスーパービジョンについての討議
第7回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際①	ゲスト・スピーカーによる講義
第8回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際②	ゲスト・スピーカーとの討議
第9回	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンの実際①	子どもと家族の理解、スーパービジョンについての講義
第10回	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンの実際②	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンについての討議

第11回 事例を用いたスーパービジョン① 講義と事例検討

第12回 事例を用いたスーパービジョン② 事例検討と討議

第13回 事例を用いたスーパービジョン③ ライブスーパービジョンの実際

第14回 スーパービジョンのグループディスカッション 課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実践者向けの講義となる部分が多いので、スーパービジョンを実施したい事例についてまとめておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜紹介していきます。

### 【参考書】

・福山和女/渡辺律子/小原真知子他編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』ミネルヴァ書房  
・山崎美貴子監修（2018）『ソーシャルワーカーの成長を支えるグループスーパービジョン』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。

②成績評価：リアクションペーパー、授業内課題の提出が50%、最終課題50%の割合で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の現場経験を考慮した授業展開を工夫します。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

### 【その他の重要事項】

### 【担当教員の専門分野】

【高良麻子】

ソーシャルワーク、ソーシャルアクション

【岩田美香】

子ども・家族福祉論、教育福祉論、ソーシャルワーク

【伊藤正子】

多文化ソーシャルワーク、医療福祉論

【佐藤蘭美】

ソーシャルワーク、グリーフケア、セルフヘルプグループ

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will learn how to verbalize social work practice and will enhance their necessary skills including social work supervision by reflecting on their own practice.

#### 【到達目標（Learning Objectives）】

The goal is to improve the quality of practice skills, including supervision, by reflecting and reflecting on one's own practice as a professional.

#### 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on in-class assignments (50%) and term-end assignments(50%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 地域福祉特論

宮城 孝

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

### 【到達目標】

コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。  
地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。  
自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

### 【授業の進め方と方法】

講義、演習、事例分析などによる。課題に対して学生個人、また学生が協力して演習による作業を通して課題解決型学習を重視する。レポートへのコメントやリアクションペーパーなどを通して、疑問等へのフィードバックを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、CSWの概念等
第2回	CSWの理論と今日的意義	理論と今日的意義、先進事例分析
第3回	個別課題アセスメントの視点と方法	演習（個別課題アセスメントの視点と方法）
第4回	個別課題アセスメントの実際	演習（個別課題アセスメントの実際）
第5回	地域アセスメントの視点と方法	地域アセスメントの視点と方法
第6回	地域アセスメントの実際	演習（地域アセスメントの実際）
第7回	アセスメントの統合の視点と方法	演習（アセスメントの統合の実際）
第8回	ソーシャルサポートマップの作成	演習（ソーシャルサポートマップの作成）
第9回	プランニングの方法	コミュニティソーシャルワークのプランニングの方法
第10回	プランニングの実際	演習（プランニングの実際）
第11回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第12回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第13回	地域福祉計画と包括的支援システムについて	地域福祉計画と包括的支援システムについての視座
第14回	包括的支援システムの先進事例について	先進事例の分析、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』中央法規、2019年

【参考書】

宮城 孝『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』明石書店、2022年  
宮城 孝共編『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』明石書店、2021年、  
宮城 孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018年  
中島 修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2015年 他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、レポート等の提出とその内容30%により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

・『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』（共編著）中央法規、2021年  
・『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』（単著）明石書店、2022年  
・『地域福祉と包括的支援システム-基本的視座と先進的取り組み-』（共編著）明石書店、2021年  
・『仮設住宅 その10年-陸前高田における被災者の暮らし-』（共編著）御茶の水書房、2020年  
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（共編著）中央法規、2019年、  
・『地域福祉とファンドレイジング-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2018年  
・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規、2017年  
・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（編集担当・共著）中央法規、2015年  
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015年  
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年  
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年  
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年  
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年  
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年  
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course learn about practical understanding and thinking skills about the Community social work.

【Learning Objectives】

The goals of this course A and B.

A Practical understanding and thinking skills about the Community social work.

B To consider about Community welfare problem and system having to do with today.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Short report(30%), the quality of the students' experimental performance in the lab(70%)

SOW500J2 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

**児童福祉特論**

岩田 美香

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

子どもにとって家族は、安寧と権利が保障される場であると同時に、ストレスをもたらす虐待のような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

**【到達目標】**

- ・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
- ・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
- ・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
- ・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
- ・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・上記の到達目標を達成するため、本年度は子どもの虐待に関する基本的文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
- ・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
- ・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と進め方、各自の問題関心について
第2回	子ども虐待を考えるために知っておくべきこと	「虐待死」をどう考えるか
第3回	子ども虐待の現場を見つめ直す	「子ども虐待」への社会的まなざし
第4回	個人研究発表1	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第5回	米国における子ども虐待防止の法制度	米国ではなぜ子ども虐待が多発し続けるのか
第6回	リスク・アプローチからソーシャルハーム・アプローチへ	児童虐待問題と有責性
第7回	子育て・家族文化と子ども虐待	子ども虐待対応の変遷とその国際比較
第8回	虐待対応に活かし得る発達心理学の知見	アタッチメントと心身発達
第9回	「虐待」問題の諸相と子どもの命を守ること	改正児童虐待防止法等に関連して
第10回	個人研究発表2	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第11回	子どもの虐待とそのケアを考える	喪失をめぐる考察
第12回	支援の現場から①	・乳幼児の現場から見えること ・児童心理治療施設で考えたこと
第13回	支援の現場から②	・児童相談所ができることとできないこと ・児童養護施設で考えたこと
第14回	総括	全体を通してのディスカッション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

滝川一廣・内海新祐 編（2020）『子ども虐待を考えるために知っておくべきこと』日本評論社

**【参考書】**

履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

課題レポート（60%）、講義内発表と討論参加（40%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【担当教員の専門分野】**

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論

〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

**【Outline (in English)】**

This course will examine the major issues of children and their families in a social context. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 児童福祉特論

岩田 美香

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもにとって家族は、安寧と権利が保障される場であると同時に、ストレスをもたらす虐待のような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

### 【到達目標】

- ・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
- ・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
- ・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
- ・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
- ・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・上記の到達目標を達成するため、本年度は子どもの虐待に関する基本的文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
- ・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
- ・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と進め方、各自の問題関心について
第2回	子ども虐待を考えるために知っておくべきこと	「虐待死」をどう考えるか
第3回	子ども虐待の現場を見つめ直す	「子ども虐待」への社会的まなざし
第4回	個人研究発表1	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第5回	米国における子ども虐待防止の法制度	米国ではなぜ子ども虐待が多発し続けるのか
第6回	リスク・アプローチからソーシャルハーム・アプローチへ	児童虐待問題と有責性
第7回	子育て・家族文化と子ども虐待	子ども虐待対応の変遷とその国際比較
第8回	虐待対応に活かし得る発達心理学の知見	アタッチメントと心身発達
第9回	「虐待」問題の諸相と子どもの命を守ること	改正児童虐待防止法等に関連して
第10回	個人研究発表2	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第11回	子どもの虐待とそのケアを考える	喪失をめぐる考察
第12回	支援の現場から①	・乳幼児の現場から見えること ・児童心理治療施設で考えたこと
第13回	支援の現場から②	・児童相談所ができることとできないこと ・児童養護施設で考えたこと
第14回	総括	全体を通してのディスカッション

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

滝川一廣・内海新祐 編（2020）『子ども虐待を考えるために知っておくべきこと』日本評論社

### 【参考書】

履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題レポート（60%）、講義内発表と討論参加（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論

〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

### 【Outline (in English)】

This course will examine the major issues of children and their families in a social context. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

MAN500J1 (経営学/Management 500)

## ソーシャル・イノベーション特論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
 備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0033 地域経営特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

## 【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第4回	輪読とディスカッション①(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

## 【参考書】

講義中に、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

## 【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ENG500J1 (その他の工学 / Engineering 500)

## 住宅政策特論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0034 都市・住宅政策特論」を受講すること。  
その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、「仮住まい」の形態に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

### 【到達目標】

世帯構成をはじめとする社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか、人口減少に伴い政策をどう転換すべきかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、発表の後に意見交換する。  
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と「仮住まい」の概説と各自の住宅変遷の紹介
第2回	「仮住まい」と住宅政策	住宅ローン時代の果てに
第3回	①「仮住まい」と住宅政策	個人化／家族化する社会の住宅政策
第4回	②「仮住まい」と住宅政策	住宅資産所有の不等
第5回	③「仮住まい」と住宅政策	親元にとどまる若者たち
第6回	実家住まい①	ジェンダーと住宅政策
第7回	実家住まい②	「三世同居促進」の住宅政策
第8回	実家住まい③	賃貸世代の住まいの再商品化
第9回	賃貸住まい①	超高齢化社会の公共住宅団地の改善
第10回	賃貸住まい②	住宅セーフティネット政策
第11回	賃貸住まい③	被災した人たちが再び住む
第12回	仮設住まい①	火災の犠牲になった老人たちの住宅問題
第13回	仮設住まい②	避難所生活から仮設住宅へ
第14回	仮設住まい③	戦後日本の住宅政策の総括

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

### 【テキスト（教科書）】

「仮住まい」と戦後日本 実家住まい・賃貸住まい・仮設住まい」平山洋介、青土社、2020年

### 【参考書】

「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年  
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年  
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで課題の提示を行う。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

### 【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

### 【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年  
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年  
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年  
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

In an aging society with a declining birthrate, we will focus on the form of "temporary housing" and give an overview of the housing market and housing policy issues, with a focus on the form of "temporary housing" regarding what kind of housing should be, as it forms the basis of life and is closely related to welfare.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: understand how the rental housing market has responded to social changes such as household composition, how policies have supported it, and how policies should be changed as the population declines.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ENV500J1 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

## 環境社会学特論

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
 備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0037 地域環境特論」を受講すること。  
 その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学のモデルを使って、地域の環境問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の主要な理論の一つとして知られる生活環境主義の方法論をマスターすることを目指す。

### 【到達目標】

地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

### 【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

### 【担当教員の専門分野等】

【専門領域】

環境社会学・地域社会学・観光社会学

【主要業績】

『井戸端からはじまる地域再生－暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方－暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ－福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARSI500J1

## 障害と開発特論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0038 アジア地域開発特論」を受講すること。  
その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国連・障害者権利条約を軸に日本および他のアジア諸国における「障害と開発」に関する具体的な理論と実践を交えて考察しつつ、福祉社会の形成に関わる最先端を学ぶ。

### 【到達目標】

具体的な理論・実践力を身につけつつ、日本とその他アジア諸国の「障害と開発」に関する最新事情を俯瞰的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

### 【授業の進め方と方法】

日本とその他アジア諸国の「障害と開発」に関する最新事情について、具体的な現場事例や資料を参照していく。対面とオンラインを組み合わせて実施する（ハイフレックス）。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「障害と開発」に関する概要
第2回	国連・障害者権利条約	同条約のポイント、概要
第3回	「障害と開発」事情①	障害者の労働および雇用①
第4回	「障害と開発」事情②	障害者の労働および雇用②
第5回	「障害と開発」事情③	障害者の労働および雇用③
第6回	「障害と開発」事情④	障害者団体とエンパワメント①
第7回	「障害と開発」事情⑤	障害者団体とエンパワメント②
第8回	「障害と開発」事情⑥	障害者団体とエンパワメント③
第9回	「障害と開発」事情⑦	日本とアジアの国際協力①
第10回	「障害と開発」事情⑧	日本とアジアの国際協力②
第11回	「障害と開発」事情⑨	日本とアジアの国際協力③
第12回	「障害と開発」事情⑩	ディベートからアジアを学ぶ①
第13回	「障害と開発」事情⑪	ディベートからアジアを学ぶ②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

国連・障害者権利条約の条文。その他必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、課題・発表：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 Advanced theories, practices, and important findings on disability-inclusive development in Japan and other Asian countries are to be focused.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain advanced knowledge on disability-inclusive development in line with the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities.

【Learning activities outside of the classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), reports, and presentations (50%).

SOW500J1 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉社会研究法

野田 岳仁、土肥 将敦、岡田 栄作、金 慧英

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

### 【到達目標】

研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「DP9」「DP10」関連

### 【授業の進め方と方法】

福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第2回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第3回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第4回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第5回	量的研究の方法⑤（金）	量的研究論文の精読
第6回	量的研究の方法⑥（金）	量的研究論文の執筆ポイントの解説
第7回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第8回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第9回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第10回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第11回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第12回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第13回	質的調査の方法⑥（野田）	ライフヒストリー（生活史）の方法
第14回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

### 【テキスト（教科書）】

各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。  
 [第1-4回] 近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018年）  
 [第8-14回] 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016年）  
 その他の回については、講義内で適宜指示がある。

### 【参考書】

参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を積極的に取り入れていく。

### 【その他の重要事項】

授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

### 【担当教員の専門分野等】

【野田岳仁】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【土肥将敦】

〔専門領域〕

企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

〔研究テーマ〕

ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

〔主要業績〕

『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【岡田栄作】

〔専門領域〕

福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論

〔研究テーマ〕

介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康

〔主要業績〕

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）

『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【金慧英】

〔専門領域〕

高齢者福祉、介護専門職支援

〔主要業績〕

『介護職員のバーンアウト要因についての一考察：職場環境の管理体制に着目して』『Human Welfare』11(1)（共著、2019年）

『韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究』『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018年）

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance (Reaction papers and reports) (20%).

MAN500J1 (経営学/Management 500)

## 地域経営特論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
 備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0021 ソーシャル・イノベーション特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

### 【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第4回	輪読とディスカッション①(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④(CSRの基礎)	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

### 【参考書】

講義中に、適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にしている。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』(単著、千倉書房、2022年)

『ソーシャル・ビジネス・ケース』(共著、中央経済社、2015年)

『ソーシャル・エンタプライズ論』(共著、有斐閣、2014年)

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版、2013年)

### 【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ENG500J1 (その他の工学 / Engineering 500)

**都市・住宅政策特論**

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0022 住宅政策特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、「仮住まい」の形態に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

**【到達目標】**

世帯構成をはじめとする社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか、人口減少に伴い政策をどう転換すべきかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、発表の後に意見交換する。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と「仮住まい」の概説と各自の住宅変遷の紹介
第2回	「仮住まい」と住宅政策	住宅ローン時代の果てに
第3回	①「仮住まい」と住宅政策	個人化／家族化する社会の住宅政策
第4回	②「仮住まい」と住宅政策	住宅資産所有の不平等
第5回	③「仮住まい」と住宅政策	親元にとどまる若者たち
第6回	実家住まい①	ジェンダーと住宅政策
第7回	実家住まい②	「三世同居促進」の住宅政策
第8回	実家住まい③	賃貸世代の住まいの再商品化
第9回	賃貸住まい①	超高齢化社会の公共住宅団地の改善
第10回	賃貸住まい②	住宅セーフティネット政策
第11回	賃貸住まい③	被災した人たちが再び住む
第12回	仮設住まい①	火災の犠牲になった老人たちの住宅問題
第13回	仮設住まい②	避難所生活から仮設住宅へ
第14回	仮設住まい③	戦後日本の住宅政策の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

**【テキスト（教科書）】**

「仮住まい」と戦後日本 実家住まい・賃貸住まい・仮設住まい」平山洋介、青土社、2020年

**【参考書】**

「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年  
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年  
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムで課題の提示を行う。

**【その他の重要事項】**

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに27年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

**【担当教員の専門分野】**

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

**【主要研究業績】**

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年  
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年  
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年  
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

**【Outline (in English)】**

&lt; Course outline &gt;

In an aging society with a declining birthrate, we will focus on the form of "temporary housing" and give an overview of the housing market and housing policy issues, with a focus on the form of "temporary housing" regarding what kind of housing should be, as it forms the basis of life and is closely related to welfare.

&lt; Learning Objectives &gt;

By the end of the course, students should be able to do the followings: understand how the rental housing market has responded to social changes such as household composition, how policies have supported it, and how policies should be changed as the population declines.

&lt; Learning activities outside of classroom &gt;

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

&lt; Grading Criteria /Policy &gt;

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ENV500J1 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

## 地域環境特論

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系)

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考 (履修条件等)：2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0025 環境社会学特論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は環境社会学・地域社会学のモデルを使って、地域の環境問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の主要な理論の一つとして知られる生活環境主義の方法論をマスターすることを目指す。

### 【到達目標】

地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか?	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか?	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか?	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか?	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか?	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか?	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか?	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか?	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

講義内で適宜アナウンスする。

### 【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点 (50%) とレジュメやレポートなどの成果物 (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

### 【担当教員の専門分野等】

【専門領域】

環境社会学・地域社会学・観光社会学

【主要業績】

『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』(単著、筑波書房、2023年)

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』(共著書、Routledge、2023年)

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019年)

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018年)

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017年)

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARSI500J1

## アジア地域開発特論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）  
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位  
 備考（履修条件等）：2023年度以降入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0026 障害と開発特論」を受講すること。  
 その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国連・障害者権利条約を軸に日本および他のアジア諸国における「障害と開発」に関する具体的な理論と実践を交えて考察しつつ、福祉社会の形成に関わる最先端を学ぶ。

## 【到達目標】

具体的な理論・実践力を身につけつつ、日本とその他アジア諸国の「障害と開発」に関する最新事情を俯瞰的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

## 【授業の進め方と方法】

日本とその他アジア諸国の「障害と開発」に関する最新事情について、具体的な現場事例や資料を参照していく。対面とオンラインを組み合わせて実施する（ハイフレックス）。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「障害と開発」に関する概要
第2回	国連・障害者権利条約	同条約のポイント、概要
第3回	「障害と開発」事情①	障害者の労働および雇用①
第4回	「障害と開発」事情②	障害者の労働および雇用②
第5回	「障害と開発」事情③	障害者の労働および雇用③
第6回	「障害と開発」事情④	障害者団体とエンパワメント①
第7回	「障害と開発」事情⑤	障害者団体とエンパワメント②
第8回	「障害と開発」事情⑥	障害者団体とエンパワメント③
第9回	「障害と開発」事情⑦	日本とアジアの国際協力①
第10回	「障害と開発」事情⑧	日本とアジアの国際協力②
第11回	「障害と開発」事情⑨	日本とアジアの国際協力③
第12回	「障害と開発」事情⑩	ディベートからアジアを学ぶ①
第13回	「障害と開発」事情⑪	ディベートからアジアを学ぶ②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

## 【参考書】

国連・障害者権利条約の条文。その他必要に応じて資料等を適宜配布。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、課題・発表：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

## 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

## 【担当教員の専門分野等】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

## 【Outline (in English)】

【Course Outline】 Advanced theories, practices, and important findings on disability-inclusive development in Japan and other Asian countries are to be focused.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain advanced knowledge on disability-inclusive development in line with the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities.

【Learning activities outside of the classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), reports, and presentations (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた研究計画の作成。

### 【到達目標】

修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	研究データ収集方法の検討
第24回	研究構想の基盤作り④	研究データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	データ収集のスケジュール検討
第28回	まとめ	研究計画の確認とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 演習への積極的参加（20%）
2. 演習内課題（60%）
3. 論文構想発表会（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論  
<研究テーマ> エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

### 【Outline (in English)】

This course introduces academic writing to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to create a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and presentation (20%), in-class contribution (20%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**論文研究演習 I**

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

研究テーマを決定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定などの研究手法を学ぶ。

**【到達目標】**

論文作成の基礎力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

事前に課題を提示し、その報告と検討により授業を進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	論文作成の方法①	論文作成の方法の概略を学ぶ
第3回	論文作成の方法②	テーマを設定することの意義を学ぶ
第4回	論文作成の方法③	先行研究を検討することの意義を学ぶ
第5回	論文作成の方法④	研究テーマの絞り方を学ぶ
第6回	関心領域・テーマの検討①	自分が関心がある研究テーマを発表する
第7回	関心領域・テーマの検討②	そのテーマの歴史的意義を検討する
第8回	関心領域・テーマの検討③	そのテーマの現代的意義を検討する
第9回	関心領域・テーマの検討④	そのテーマの国際比較の意を検討する
第10回	先行研究のレビュー①	先行研究（歴史）を検討する
第11回	先行研究のレビュー②	先行研究（現代的意義）を検討する
第12回	先行研究のレビュー③	先行研究（国際比較）を検討する
第13回	先行研究のレビュー④	先行研究（研究方法）を検討する
第14回	中間総括	前期の研究を総括する
第15回	テーマの明確化①	先行研究との関係で研究テーマを絞る
第16回	テーマの明確化②	研究テーマのオリジナリティを明確化する
第17回	テーマの明確化③	予想される成果を整理する
第18回	発表会原稿の作成①	発表原稿のドラフトを作成する
第19回	発表会原稿の作成②	発表原稿のパワーポイントを作成する
第20回	発表会原稿の作成③	発表の読み上げ原稿を作成する
第21回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う
第22回	<b>【論文構想発表会】</b>	発表会で指導する
第23回	論文構想の明確化①	論文の起承転結の承の部分のアウトラインを構想する
第24回	論文構想の明確化②	論文の起承転結の転の部分のアウトラインを構想する
第25回	論文構想の明確化③	論文の起承転結の結の部分のアウトラインを構想する
第26回	論文構想の明確化④	論文の起承転結の起の部分のアウトラインを構想する
第27回	論文構想の明確化⑤	論文の起承転結のつながりを明確化する
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に指示された課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(100%)による。

**【学生の意見等からの気づき】**

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

**【担当教員の専門分野】**

社会福祉原理・思想

**【Outline (in English)】**

Learn research methods such as reviewing previous studies and setting hypotheses according to the research theme.

The goals of this course are to improve research methods ability.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

岩田 美香

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆に向けての研究手法を学ぶ。

### 【到達目標】

研究テーマを設定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定・検証、フィールドワークや調査によるデータ収集など、適切な研究方法の選定を行い、論文作成のための研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

・上記の到達目標を達成するために、①論文を作成するための基礎的なスキルの獲得、②先行研究のレビューと課題の設定、③仮説の構築と検証の手続きの検討、④研究資料（データ）の収集と分析の具体的方法の獲得、を通して次年度の修士論文作成が計画的に進められるように備える。また、これらの成果と今後の研究の進展を確認するために、修士論文構想発表会が位置づいている。・課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究指導の説明、これまでの学習成果の発表
第2回	論文とは何か	「論文」とは何かについての再確認
第3回	論文作成の基礎	論文作成の基礎的スキルについての確認
第4回	論文作成の実践基礎	論文作成の基礎的スキルの獲得
第5回	問題関心の問い直し：社会状況	自身の問題関心を社会的現状の中で検討する
第6回	問題関心の問い直し：文献	問題関心に関する文献から検討する
第7回	問題関心と研究領域	研究領域における自身の問題関心の位置づけを確認する
第8回	研究領域（フィールド）の検討	研究領域に関するフィールドの現状を探る
第9回	論文テーマの検討	論文のテーマを絞り込む
第10回	先行研究のレビュー：文献収集	論文テーマに関する先行研究を収集する
第11回	先行研究のレビュー：方法	先行研究の読み方と整理の仕方
第12回	レビュー論文	先行研究のレビューを書いてみる
第13回	レビュー論文の検討	レビュー論文を検討する
第14回	中間総括	春学期での総括を発表する
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	テーマの明確化：課題設定	先行研究のレビューをもとに、課題を設定する
第17回	テーマの明確化：研究方法	先行研究のレビューをもとに、研究方法を検討する
第18回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第19回	発表会原稿の検討	作成した発表原稿の検討
第20回	発表会原稿の完成	検討をもとに論文構想発表原稿を完成させる
第21回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第22回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第23回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答を振り返る
第24回	論文構想の明確化：課題の再設定	課題の再設定
第25回	論文構想の明確化：方法論の検討	論文における方法論の検討
第26回	論文構想の明確化：仮説の設定	仮説を設定する
第27回	論文構想の明確化：仮説の検証	仮説を検証する
第28回	総括	到達点と課題のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・履修者は、計画的に修士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。

・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（20%）、演習内課題（60%）、論文構想発表会（20%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論

〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

### 【Outline (in English)】

This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), presentation (20%), and in-class contribution (20%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**論文研究演習 I**

高良 麻子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文の執筆に向けて、ソーシャルワークの研究方法を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・論文を作成するために必要な研究方法について理解できる。
- ・自分の研究計画を策定できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるだけの基礎を習得できるように、個別やグループ指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行うなどで授業を進める。また、修士論文構想発表会に向けて準備を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	ソーシャルワーク研究とは	研究とは ソーシャルワーク研究の特徴
第3回	論文とは	論文の構成要素
第4回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報収集：定義
第5回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報収集：実態
第6回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報収集：文献
第7回	リサーチクエスト	リサーチクエストの構築
第8回	リサーチクエストに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第9回	リサーチクエストに関する先行研究②	リサーチクエストに関する先行研究のレビュー
第10回	リサーチクエストに関する先行研究③	関連領域の先行研究のレビュー
第11回	レビュー論文の検討	レビュー論文の批判的検討
第12回	研究の目的	研究の目的や仮説の設定
第13回	研究方法の決定	研究方法の検討
第14回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	研究計画の策定①	研究目的や方法の検討
第17回	研究計画の策定②	倫理的配慮の検討
第18回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第19回	発表会原稿の検討	発表会原稿の批判的検討
第20回	発表会原稿の完成	発表会原稿の修正
第21回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第22回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第23回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答の振り返り
第24回	研究計画の修正①	発表会のコメントを踏まえた検討
第25回	研究計画の修正②	研究計画の修正
第26回	研究計画の実施に向けた準備①	倫理的配慮等
第27回	研究計画の実施に向けた準備②	実施準備
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

計画的に修士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・課題提出 50%
- ・平常点 30%
- ・論文構想発表会 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の研究に関する知識によって指導の内容を変更する。

**【担当者の専門分野】**

ソーシャルワーク論

高良麻子 (2017) 『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル—「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子 (2013) 『日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践』『社会福祉学』53 (4) ,42-54, 日本社会福祉学会。

**【Outline (in English)】**

This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about research methods in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend five hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), in-class contribution (30%), and presentation in the thesis proposal presentation meeting (20%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成を目指し、論文執筆の方法を学習するとともに、研究課題の明確化、論文構想を明確化していくことを目的とする。

### 【到達目標】

修士論文が執筆可能となる文章力、表現力を体得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

はじめに、論文執筆の方法について学習したうえで、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。次に、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。さらに、研究課題を遂行するための研究アプローチ、調査・分析方法を検討し、修士論文の執筆に向けて論文構想を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	論文作成方法の説明	研究論文についての講義
第3回	論文作成方法の検討	研究手法の選択に関する講義
第4回	論文作成方法に関するディスカッション	論文執筆に関する講義
第5回	論文作成方法の検討	論文作成に関するフリーディスカッション
第6回	関心領域の検討①	関心領域設定についての講義
第7回	関心領域の検討②	関心領域の設定
第8回	研究テーマの検討①	研究テーマ設定についての講義
第9回	研究テーマの検討②	研究テーマの設定
第10回	先行研究のレビューの方法	先行研究の検索方法についての講義
第11回	先行研究のレビューの実際	先行研究の検索の実際
第12回	先行研究のまとめ方	先行研究のまとめ方の検討
第13回	先行研究の報告	先行研究の検討結果発表
第14回	中間総括	研究についてのフリーディスカッション
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明と夏休みの課題についての報告
第16回	論文の方向性について	論文の方向性に関するフリーディスカッション
第17回	研究テーマの明確化①	論文テーマ等についての発表
第18回	研究テーマの明確化②	論文テーマ等の修正
第19回	研究テーマの明確化③	論文のテーマ等の確定
第20回	構想発表会の原稿作成①	原稿作成要領の説明
第21回	構想発表会原稿の作成②	原稿作成と指導
第22回	構想発表会原稿の作成③	原稿の読み合わせと見直し
第23回	構想発表会リハーサル	原稿報告と修正
第24回	【論文構想発表会】	研究論文の具体的内容の発表
第25回	論文構想の明確化①	指摘事項の再検討
第26回	論文構想の明確化②	論文内容の再検討
第27回	論文構想の明確化③	論文の方向性についての報告
第28回	総括	論文作成にむけての総括発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究領域、関心領域についての先行研究を概観し、不明な点、気づいた点などをまとめ、講義内で発表・説明できるよう学習をすすめておいてください。本講義の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

### 【参考書】

とくに使用しない。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 - 60%

レポート（発表原稿等含む） - 40%

特に、受講生各自の研究報告・論文報告を適切に行えるよう学習を進めておくことが成績評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文についての疑問点を質問しやすいよう環境づくりに努めていく。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP

・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年

②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.

③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号. 2019

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

【Learning Objectives】 The purpose is to acquire the writing and expression skills required for a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%. To pass.

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**論文研究演習 I**

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

各自の関心テーマに沿いつつ、修士論文を構想する。

**【到達目標】**

先行研究のレビューや適切な研究方法の選定等、デザインを構築する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

論文の構想発表の前後で研究テーマ設定、仮説の構築と検証、データ収集と分析方法の習得等を行い、今後の研究の深まりにつなげていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等での都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション前半	春学期の進め方について確認する
第2回	論文作成の意見交換	必要な基礎スキルを列記
第3回	論文作成の文献	必要な基礎スキルに関する文献をリスト化
第4回	論文作成のイメージ化	論文作成の要点を表出
第5回	関心領域の検討（総論）	関心領域を幅広く検討
第6回	関心領域の検討（国内）	国内における関心領域を検討
第7回	関心領域の検討（海外）	海外における関心領域を検討
第8回	先行研究のレビュー（総論）	先行研究を分析、論点を整理（総論）
第9回	先行研究のレビュー（国内）	先行研究を分析、論点を整理（国内）
第10回	先行研究のレビュー（アジア）	先行研究を分析、論点を整理（アジア）
第11回	先行研究のレビュー（アジア以外）	先行研究を分析、論点を整理（アジア以外）
第12回	関心テーマの再設定の検討	関心領域・テーマを検討し、見直す
第13回	関心テーマの再設定	関心領域・テーマを再度確認
第14回	中間総括	これまでの振り返り
第15回	オリエンテーション後半	秋学期の進め方について確認
第16回	研究構想の検討	研究背景・仮説等を検討
第17回	研究構想の明確化	研究背景・仮説等の整理
第18回	研究構想に関する質疑	研究背景・仮説等を意見交換
第19回	構想発表の準備	構想発表の内容を検討
第20回	構想発表のプレゼン作成	構想発表のプレゼンを作成
第21回	構想発表の修正	構想発表の内容を確認し、適宜修正
第22回	構想発表のリハーサル	構想発表会のリハーサル
第23回	構想発表の実施	発表会を通じて構想を報告
第24回	構想発表の見直し	フィードバックを受けて構想の修正
第25回	構想発表後の計画	構想発表以降の計画づくり
第26回	論文のアウトライン骨子	論文骨組みの作成
第27回	論文のアウトライン修正	論文骨組みの修正
第28回	レビュー	1年間の振り返りと要点の再確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介。

**【成績評価の方法と基準】**

演習への参加・発表・報告：70%、論文アウトライン：30%

**【学生の意見等からの気づき】**

院生による様々なアイデアを応用。

**【学生が準備すべき機器他】**

研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】****【Course Outline】** A process to elaborate on the idea of their thesis will be facilitated.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to construct a research design based on their review of previous studies and the selection of appropriate research methods.**【Learning Activities Outside of Classroom】** Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (70%) and thesis outline (30%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

土肥 将敦

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

### 【到達目標】

研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、修士論文としてのリサーチ・クエスチョンを構築していく。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第2回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第3回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第4回	研究テーマの設定③	研究テーマを設定する③
第5回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第6回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第7回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第8回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第9回	先行研究のサーベイ⑤	国内外の先行研究のサーベイを行う⑤
第10回	先行研究のサーベイ⑥	国内外の先行研究のサーベイを行う⑥
第11回	研究テーマの再設定①	研究テーマの再設定①
第12回	研究テーマの再設定②	研究テーマの再設定②
第13回	調査研究報告①	既存研究踏まえた調査・研究報告①
第14回	調査研究報告②	既存研究踏まえた調査・研究報告②
第15回	中間報告	中間総括と夏期休暇中の課題設定
第16回	秋学期ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する。
第17回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況報告①
第18回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況報告②
第19回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出①	RQの再設定と仮説の導出を行う①
第20回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出②	RQの再設定と仮説の導出を行う②
第21回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出③	RQの再設定と仮説の導出を行う③
第22回	先行研究サーベイ①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第23回	先行研究サーベイ②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第24回	先行研究サーベイ③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第25回	先行研究サーベイ④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第26回	フィールド調査報告①	フィールド調査報告①
第27回	フィールド調査報告②	フィールド調査報告②
第28回	フィールド調査報告③	フィールド調査報告③

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100%）をもとに総合的に判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to gain the ability to understand and explain the appropriate method in your research paper/thesis.

The master's thesis is an original research study that is carried out using rigorous methods that are appropriate to the research questions, that generates new knowledge, concepts and methods from one or more branches of social science relevant to corporate social responsibility, social innovation and stakeholder theory.

The goals of this course are to write up the thesis according to the basic guidelines set by the Graduate School, and to generate new knowledge around this research field.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会を舞台としてフィールドワークを行い、地域ツーリズムや地域づくり、地域の環境政策にかかわる修士論文を執筆するための環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目的としている。

## 【到達目標】

修士論文の作成に向けて、調査の技法と論文執筆の作法を学び、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法やアカデミックな議論の作法を養うこと。これらの技能を修得することを通じて、修士論文のテーマや全体構想を明確化することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で進める。課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、研究発表、課題文献の選定および発表スケジュールの確認
第2回	フィールドワークの技法(1)	柳田国男や宮本常一の優れたフィールドワーカーの心構えや調査技法を理解する
第3回	フィールドワークの技法(2)	調査マナーや調査の作法について
第4回	フィールドワークの技法(3)	フィールドノート作成と調査データの整理
第5回	論文作成の方法(1)	ダメな問いとは何か
第6回	論文作成の方法(2)	よい問いのつくり方
第7回	論文作成の方法(3)	問題関心の設定
第8回	論文作成の方法(4)	論敵の設定
第9回	論文作成の方法(5)	章立ての検討
第10回	先行研究のレビュー(1)	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー(2)	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第12回	先行研究のレビュー(3)	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第13回	先行研究のレビュー(4)	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第14回	中間総括	研究テーマの構想と討議
第15回	研究方法の検討(1)	環境社会学の方法論の検討
第16回	研究方法の検討(2)	地域社会学の方法論の検討
第17回	研究方法の検討(3)	民俗学・文化人類学の方法論の検討
第18回	研究課題の設定(1)	研究課題と方法論の選定
第19回	研究課題の設定(2)	研究の独自性の検討
第20回	研究課題の設定(3)	結論の見直しについての検討
第21回	研究計画書の執筆(1)	修士論文の研究計画書の作成
第22回	研究計画書の執筆(2)	研究課題の再検討
第23回	研究計画書の執筆(3)	問いの見直し
第24回	研究計画書の執筆(4)	章立ての再検討
第25回	研究計画書の執筆(5)	結論の見直しの再検討
第26回	研究計画書の発表(1)	論理構成の確認と討議
第27回	研究計画書の発表(2)	研究の全体構想の確認と討議
第28回	学問の実践性と政策論	総括的議論とまとめ

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

## 【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点(50%)、レポートや発表などの成果物(50%)の総合評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等を通じて受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

## 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生一暮らしから考える防災と観光』(単著、筑波書房、2023年)

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』(共著書、Routledge、2023年)

『環境社会学の考え方一暮らしを見つめる12の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019年)

『生活環境主義のコミュニティ分析一環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018年)

『原発災害と地元コミュニティ一福島県内村番闘記』(共著書、東信堂、2018年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017年)

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けた研究方法を学ぶ。

### 【到達目標】

問題関心に沿った先行研究をレビューし、研究の論点を整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。各回の授業計画に変更がある場合には、「学習支援システム」でその都度提示します。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	関心分野と問題意識①	問題意識①に関する研究分野・領域の確認
第3回	関心分野と問題意識②	問題意識①に関する研究分野の総説確認
第4回	関心分野と問題意識③	問題意識②に関する研究分野・領域の確認
第5回	関心分野と問題意識④	問題意識②に関する研究分野の総説確認
第6回	先行研究のレビュー①	先行・関連研究の検索キーワード案作成
第7回	先行研究のレビュー②	先行・関連研究の検索キーワードの修正
第8回	先行研究のレビュー③	先行・関連研究の検索リスト作成
第9回	先行研究のレビュー④	重要な先行・関連研究の概要把握
第10回	先行研究のレビュー⑤	先行・関連研究の課題の整理
第11回	研究テーマと仮説設定①	テーマと仮説の検討
第12回	研究テーマと仮説設定②	テーマと仮説の修正
第13回	研究テーマと仮説設定③	テーマと課題の独自性の確認
第14回	夏休み中の作業課題	自主研究する作業内容の確認
第15回	調査対象の検討①	調査対象の絞り込み 仮説①に対する対象の選定
第16回	調査対象の検討②	調査対象の絞り込み 仮説②に対する対象の選定
第17回	調査対象の検討③	調査対象候補①の情報整理
第18回	調査対象の検討④	調査対象候補②の情報整理
第19回	調査対象の検討⑤	調査対象全体の情報とりまとめ
第20回	調査研究方法の検討①	調査全体計画立案
第21回	調査研究方法の検討②	量的調査の検討①アンケート調査項目の作成
第22回	調査研究方法の検討③	量的調査の検討②アンケート調査票の修正
第23回	調査研究方法の検討④	質的調査の検討①ヒアリング調査設計
第24回	調査研究方法の検討⑤	質的調査の検討②ヒアリング調査修正
第25回	調査結果分析方法検討①	アンケート調査収集データの整理方法
第26回	調査結果分析方法検討②	アンケート調査収集データの入力方法
第27回	調査結果分析方法検討③	ヒアリング調査データの整理方法
第28回	総括	研究テーマと調査研究方法の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70%）と課題への対応（30%）を総合的に判断し評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

### 【専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

### 【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire research methods for writing a master's thesis.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: review previous research in line with your interests and organize research issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, in class contribution: 70%

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次における修士論文の作成に向け、テーマの設定、先行研究のレビュー、関連データの分析、データの収集と分析方法など、研究の方法について十分な準備を行う。

### 【到達目標】

自らの研究テーマに関する先行研究を十分にレビューできる。また、研究テーマに関する背景、目的を明らかにし、説明することができる。さらに研究方法に関する知識を広げ、自らの研究テーマに関する適切な研究方法を選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

関心のあるテーマについて、関連するデータや先行研究をレビューし、いまだ明らかにされていない内容を明確にしていく作業を行なう。先行研究のレビュー等のレポートによる報告などによる個別の指導を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の分野と範囲	研究分野と範囲の明確化
第2回	研究の視点と実践の視点	研究の視点と実践の視点の相違
第3回	先行研究レビューの方法	先行研究のレビューの具体的な方法
第4回	先行研究のレビュー①	実際の先行研究のレビューの検討
第5回	先行研究のレビュー②	実際の先行研究のレビューの検討
第6回	先行研究のレビュー③	実際の先行研究のレビューの検討についての報告
第7回	先行研究のレビュー④	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第8回	レビュー論文のまとめ方	レビュー論文の執筆方法
第9回	先行研究のレビュー⑤	実際の先行研究のレビュー論文の検討
第10回	先行研究のレビュー⑥	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第11回	先行研究のレビュー⑦	実際の先行研究のレビューの追加の検討
第12回	先行研究のレビュー⑧	実際の先行研究のレビューの追加についての協議
第13回	先行研究のレビュー⑨	実際の先行研究のレビューの追加についての確認
第14回	先行研究のレビュー⑩	実際の先行研究のレビューの最終確認
第15回	レビュー論文の報告	レビュー論文の報告と検討
第16回	研究の設計方法案について	研究の設計方法案についての報告
第17回	研究の設計方法についての確認	研究の設計方法の検討
第18回	研究倫理について	研究における倫理的配慮
第19回	仮説の構築	仮説の構築方法の検討
第20回	仮説の内容について	仮説の内容について
第21回	データの範囲と収集方法	データの収集方法の検討
第22回	データの具体的な収集方法	データの具体報告方法についての報告検討
第23回	データの収集方法の最終確認	データの収集方法の最終確認
第24回	テーマの背景と意義についての研究指導	実際のテーマに基づく研究内容（背景と意義）
第25回	研究方法についての研究指導	研究方法について研究指導
第26回	結果の分析についての研究指導	結果の分析についての研究指導
第27回	考察についての研究指導	考察についての研究指導
第28回	論文の構成について	論文の構成方法の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究対象とテーマにより、次回の研究指導までにレポート等によりまとめて報告を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

岩田正美他編著『社会福祉研究法』有斐閣、2006年

### 【参考書】

研究テーマによって自ら選択する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、研究画書の作成、レポートの報告とその内容60%により、評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その実践経験を活かして助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力-超高齢社会を生き抜く地域のチカラ-』（単著）明石書店,2022年
- ・『地域福祉と包括的支援システム-基本的な視座と先進的取り組み-』（共編著）明石書店,2020年
- ・『仮設住宅 その10年-陸前高田における被災者の暮らし-』（共編著）御茶の水書房,2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（共編著）中央法規,2019年
- ・『地域福祉とファンでレイジング-財源確保の方法と先進事例-』（共編著）中央法規,2018年
- ・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む-』（編集代表・共著）中央法規,2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（共編著）中央法規,2015年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳、丸善出版、2012年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』（共著）中央法規、2014年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
- ・『新版コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善出版,2012年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

For its own research subject, it guide an advice in the setting subject, the research way and so on appropriately. Then it create the research paper of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data

B. Students can makes sentences as the research paper.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on research paper(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%)

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習Ⅱ

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に取りかかり、完成させることを目的とする。

### 【到達目標】

受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を身につけ、論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

確定した研究テーマについて、再度検証し、研究方法やデータ分析の技法が研究内容に適しているかを確認したうえで、論文の作成が可能となる指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	先行研究の検証①	論文内の先行研究の検討
第3回	先行研究の検証②	論文内の先行研究の妥当性
第4回	先行研究との比較検討①	隣接領域文献との比較
第5回	先行研究との比較検討②	比較検討の結果の検証
第6回	研究データの分析①	データ全体の俯瞰
第7回	研究データの分析②	データの簡略化作業
第8回	研究データの分析③	データの信頼性の検討
第9回	研究データの分析④	データの妥当性についての検討
第10回	研究データの分析⑤	データ分析結果の考察
第11回	研究データの分析⑥	分析結果と考察内容の関連性の検討
第12回	考察の検討①	分析に基づく考察の検討
第13回	考察の検討②	考察の最終確認
第14回	中間総括	春学期の研究の成果を発表
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	論文基礎資料の確認	基礎資料の正確性
第17回	論文執筆指導①	全体のアウトライン検討章立ての検討
第18回	論文執筆指導②	各章における節立ての検討
第19回	論文執筆指導③	目次の確定
第20回	論文執筆指導④	序論の検討
第21回	論文執筆指導⑤	本論の検討
第22回	論文執筆指導⑥	考察・結論の検討
第23回	論文執筆指導⑦	全体にわたっての確認
第24回	引用文献の確認①	序論・本論概説箇所について
第25回	引用文献の確認②	考察、結論について
第26回	引用文献の確認③	全体にわたっての確認
第27回	最終稿の検討①	推敲、校正
第28回	最終稿の検討②	論文要旨の作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、プレゼンテーションに備えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（50%）。
2. 修士論文（50%）。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の論文執筆に関する疑問や課題を受け止めて、解決できるよう共に考えることを行うよう努めていく。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉ソーシャルワーク論、死別ケア

### 〈研究テーマ〉

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

### 〈主要研究業績〉

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

【Learning Objectives】 Achievement goal is completion of master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 論文研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に伴う研究テーマ、対象の設定、研究方法等について、研究の過程において適宜研究報告をもとに研究指導を行い、修士論文の作成を行う。

### 【到達目標】

自らの研究テーマについて、適切な研究方法を用いて研究を進め、文章等により根拠を示し、結論と研究の成果等を表現できる。研究の目的と内容、結論等を説得力のある報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマについての報告と指導	テーマについての報告
第2回	テーマについての協議	テーマについて協議と確認
第3回	研究対象について	研究対象についての報告
第4回	研究対象についての協議	研究対象についての協議と確認
第5回	先行研究の調べ方	先行研究について調べ方
第6回	先行研究についての報告	先行研究についての協議と確認
第7回	先行研究のレビューのまとめ方について	先行研究のレビューのまとめ方の指導
第8回	データの収集方法	データの収集方法についての指導
第9回	データの収集方法についての報告	データの収集方法についての協議と確認
第10回	データの具体的な収集方法	データの具体的な収集方法についての報告
第11回	データの具体的な収集方法についての報告	データの具体的な収集方法についての協議
第12回	データの具体的な収集方法の確認	データの具体的な収集方法の確認と指導
第13回	データの分析方法について	データの分析方法についての指導
第14回	データの分析方法の報告	データの分析についての協議と確認
第15回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題に向けて
第16回	データの分析結果について	データの分析結果についての報告
第17回	データの分析結果の報告	データの分析結果についての協議、指導
第18回	データの分析結果の確認	データの分析結果についての確認
第19回	研究の結果について	結果についての報告、指導
第20回	結果についての確認	結果についての協議と確認
第21回	考察について	考察についての報告、指導
第22回	論文の構成と内容	論文の構成と内容についての報告
第23回	論文のまとめに向けて	論文の構成と内容についての協議
第24回	構成と内容の確認	論文の構成と内容についての検討と確認
第25回	構成と内容の最終確認	論文の構成と内容についての最終的な確認
第26回	完成に向けての確認	完成に向けての協議
第27回	論文の完成に向けて	完成に向けた確認と指導
第28回	論文の最終確認	完成に向けての最終確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、各自が与えられた課題について、十分に報告できるように準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、毎回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

特に使用しない。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、研究に関するレポート等60%により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業ではその経験を活かし助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2021年
- ・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2020年,
- ・『仮設住宅 その10年 陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進的事例－』（共編著）中央法規,2018
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表、共著）、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版,2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

For its own research subject, it guide an advice in the setting subject, the research way and so on appropriately. Then it create the research paper of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can search of the necessary article and data

B. Students can makes sentences as the research paper.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on research paper(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%)

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた調査計画の作成。

### 【到達目標】

修士論文の作成に必要なデータを収集するために、調査計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、各自の調査関心を明確化することから始め、次に、先行調査データのレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に調査課題を絞り込み、秋学期に入ってから、調査目的を明確化するとともに、調査実施の基盤を確定させ、調査計画書の作成に取りかかる。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	調査関心の明確化①	調査関心の列挙
第3回	調査関心の明確化②	調査関心のグループ化
第4回	調査関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	調査関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行データのレビュー①	隣接領域の文献
第7回	先行データのレビュー②	関連領域の文献
第8回	先行データのレビュー③	隣接領域の論文
第9回	先行データのレビュー④	関連領域の論文
第10回	調査課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	調査課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	調査課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	調査課題の絞り込み④	調査実施フィールドの検討
第14回	調査課題の絞り込み⑤	調査仮説の検討
第15回	中間総括	春学期を通じて明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	調査目的の明確化①	調査の具体的目的の列挙
第18回	調査目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	調査目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	調査目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	調査構想の基盤作り①	調査仮説の明確化
第22回	調査構想の基盤作り②	調査手法（量的、質的等）の検討
第23回	調査構想の基盤作り③	調査データ収集方法の検討
第24回	調査構想の基盤作り④	調査データ分析方法の検討
第25回	調査計画書の作成①	調査実施体制の検討
第26回	調査計画書の作成②	調査実施フィールドの確認
第27回	調査計画書の作成③	調査対象者の確認
第28回	まとめ	調査計画の確認とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 演習への積極的参加（50%）
2. 調査計画書（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論  
< 研究テーマ > エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

### 【Outline (in English)】

This course introduces fundamental of academic research to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**実践研究演習 I**

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

研究に必要なデータの収集に必要な研究手法を学ぶ。

**【到達目標】**

データ収集のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

研究テーマに即したデータ収集の方法の検討を行い、データの収集を行うための準備を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	データ収集の方法1	統計調査と事例調査について学ぶ
第3回	データ収集の方法2	標本調査の技法について学ぶ
第4回	データ収集の方法3	データ収集技法について学ぶ
第5回	データ収集の方法4	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第6回	研究テーマと手法の検討1	訪問面接、インタビュー調査の特質を学ぶ
第7回	研究テーマと手法の検討2	参与観察調査の特質を学ぶ
第8回	研究テーマと手法の検討3	フィールド調査の方法・技術を学ぶ
第9回	研究テーマと手法の検討4	データ解析の技法を学ぶ
第10回	関連研究方法のレビュー1	量的調査の代表的研究方法をレビューする
第11回	関連研究方法のレビュー2	研究テーマに沿った量的調査の研究方法をレビューする
第12回	関連研究方法のレビュー3	質的調査の代表的研究方法をレビューする
第13回	関連研究方法のレビュー4	研究テーマに沿った質的調査の研究方法をレビューする
第14回	中間総括	中間の総括を行う
第15回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第16回	研究仮説の検討1	研究仮説を考える
第17回	研究仮説の検討2	研究仮説を立証するために必要な方法を考える
第18回	研究仮説の検討3	研究仮説を立証するために必要なデータを考える
第19回	研究仮説の検討4	研究仮説を確定する
第20回	研究フィールドの検討1	データ収集のためのフィールドを検討する
第21回	研究フィールドの検討2	データ収集が可能な施設等を検討する
第22回	研究フィールドの検討3	データ収集が可能な施設の実践等を観察する
第23回	研究フィールドの検討4	データ収集のためのフィールドを確定する
第24回	研究方法の明確化1	研究方法を具体的に検討する
第25回	研究方法の明確化2	研究方法を具体的に検討し、調査票を設計する
第26回	研究方法の明確化3	調査票による予備的調査を行う
第27回	研究方法の明確化4	研究方法を確定する
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に指示された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(100%)により行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートは実施しませんでした。

**【担当教員の専門分野】**

社会福祉原理・思想

**【Outline (in English)】**

Learn the skills of data collection.

The goals of this course are to improve the skills of data collection.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

岩田 美香

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文作成に必要なデータの収集について、フィールドワークや調査の方法を学び、自らの研究にフィードバックしていく。

### 【到達目標】

①各自の調査関心を明確にする。②先行調査データのレビューを行い、テーマ、研究調査目的、仮説を明確にする。③実際に調査研究計画を作成し実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

・上記目標を達成するために、社会調査や社会福祉調査関係の文献講読と実際にフィールドワークを実施し、その研究成果を報告するとともに、フィールド調査研究の意義や役割を検証する。

・課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	フィールド調査研究の概要説明、各自の問題関心の発表
第2回	実践研究とは何か	調査研究の特徴と基本的枠組みの整理
第3回	データ収集の方法 1	統計調査と事例調査について学ぶ
第4回	データ収集の方法 2	標本調査の技法について学ぶ
第5回	データ収集の方法 3	データ収集技法について学ぶ
第6回	データ収集の方法 4	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第7回	質的調査研究 1	訪問面接、インタビュー調査の特徴を学ぶ
第8回	質的調査研究 2	参与観察調査の特徴を学ぶ
第9回	質的調査研究 3	データの解析の技法を学ぶ
第10回	フィールド調査研究 1	フィールド調査の方法・技術を代表的文献から学ぶ
第11回	フィールド調査研究 2	フィールド調査研究全体のプロセス：調査の企画や留意点等を中心に学ぶ
第12回	先行研究レビュー 1	関連領域の研究
第13回	先行研究レビュー 2	隣接領域の研究
第14回	中間総括	量的・質的フィールド調査研究論の中間的まとめ
第15回	オリエンテーション	夏期休暇の研究発表、秋学期におけるスケジュールの確認
第16回	調査研究目的の明確化 1	代表的な調査研究手法の検討
第17回	調査研究目的の明確化 2	調査研究目的と調査研究手法の検討
第18回	調査研究デザイン検討 1	研究テーマに基づくフィールドの選定
第19回	調査研究デザイン検討 2	研究フィールドの事前データ整理と報告、討論
第20回	調査研究デザイン検討 3	研究フィールド訪問
第21回	パイロット研究実践 1	研究フィールドでの参与観察実施のための準備
第22回	パイロット研究実践 2	研究フィールドでの第1回参与観察内容報告と討議
第23回	パイロット研究実践 2	研究フィールドでの第2回参与観察内容報告と討議
第24回	パイロット研究実践 3	研究フィールドでの第1回インタビュー調査内容報告と討議
第25回	パイロット研究実践 4	研究フィールドでの第2回インタビュー調査内容報告と討議
第26回	パイロット研究実践 5	研究フィールドでの第3回インタビュー調査内容報告と討議
第27回	調査研究実践のまとめ	修士論文研究目的、方法と研究フィールド決定のための討議
第28回	全体総括	年間のまとめの発表

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・履修者は、個人の研究デザインに沿ってデータの収集を進めると同時に、必ず検討のためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。

・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加 (50%)、演習内課題 (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論  
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

### 【Outline (in English)】

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in their fields.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**実践研究演習 I**

高良 麻子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文作成に必要なデータ収集の方法を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・研究を進めために必要なデータの収集方法を理解する。
- ・データ収集を行うことができるようになる。
- ・倫理的配慮について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

自分の研究テーマにもとづいたデータを収集できるように、個別やグループ指導を行う。計画したうえで、実際にデータ収集を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業にフィードバックしながら進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	実践研究の方法	実践研究の位置づけと方法
第3回	データ収集の方法	データ収集方法の概要
第4回	質問紙調査法	質問紙調査法の概要
第5回	文献・記録調査法	文献・記録調査法の概要
第6回	事例研究の方法	事例研究の概要
第7回	インタビュー調査法	インタビュー調査法の概要
第8回	観察調査法	観察調査法の概要
第9回	アクションリサーチ	アクションリサーチの概要
第10回	データ収集方法の位置づけ	論文のレビューによる研究目的と調査方法の関係の理解
第11回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査方法の検討
第12回	調査計画の策定②	調査対象の選定
第13回	調査計画の策定③	調査における倫理的配慮の検討
第14回	中間総括	振り返りと発表
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	調査計画の見直し①	調査計画の再検討
第17回	調査計画の見直し②	調査計画の修正
第18回	調査計画の策定	見直し等にもとづく調査計画の策定
第19回	倫理計画	倫理的配慮の検討
第20回	調査計画実施の準備①	実施書等
第21回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第22回	調査計画実施の準備③	調査実施のリハーサル
第23回	パイロット調査実施準備	パイロット調査のリハーサル
第24回	パイロット調査実施	フィールドでのパイロット調査の実施
第25回	パイロット調査の振り返り	調査実施概要の報告と振り返り
第26回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第27回	調査計画の見直し	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

計画的に研究を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・課題提出 50%
- ・平常点 30%
- ・パイロット調査 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の調査に関する理解度に応じて指導を変更する。

**【担当教員の専門分野】**

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル—「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）『日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践』『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会。

**【Outline (in English)】**

This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to collect data for research in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), in-class contribution (30%), and presurvey (20%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを旨とする。

### 【到達目標】

データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第3回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第4回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第5回	データ収集の実際	データ収集の実際についてDVDで学習する
第6回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第7回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第8回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第9回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性について報告
第10回	関連研究方法のレビュー①	講義
第11回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第12回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第13回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第14回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明
第16回	研究仮説の検討①	研究仮説に関する説明
第17回	研究仮説の検討②	研究仮説の立て方
第18回	研究仮説の検討③	受講生の研究内容の検討
第19回	研究仮説の検討④	受講生の研究内容についての議論
第20回	研究仮説の報告	各自の研究仮説についての報告
第21回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第22回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション
第23回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第24回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第25回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第26回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第27回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第28回	総括	研究の方向性についての確認と発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 - 60%

課題への取り組み・提出課題 - 40%

特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

【Learning Objectives】 The goal is to acquire research methods.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

**実践研究演習 I**

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

研究に必要なデータ収集・分析方法を学ぶ。

**【到達目標】**

研究を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

研究テーマに沿ったデータ収集・分析に必要なアレンジを進めていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション前半	春学期の進め方について確認
第2回	データ収集の準備	データ収集について準備
第3回	データ収集の方法検討	データ収集方法を検討
第4回	データ収集スキル	データ収集スキルについて意見交換
第5回	質的調査法（文献）	質的調査法に関する文献を整理
第6回	質的調査法（国内）	質的調査法を学ぶ（国内論文）
第7回	質的調査法（海外）	質的調査法を学ぶ（海外論文）
第8回	フィールド調査法の検討	フィールド調査法を検討
第9回	フィールド調査法の試行	フィールド調査法を実践
第10回	フィールド調査法の習得	フィールド調査法の経験から学ぶ
第11回	関連研究レビュー（総論）	関連研究から手法を学ぶ（総論）
第12回	関連研究レビュー（国内）	関連研究から手法を学ぶ（国内）
第13回	関連研究レビュー（海外）	関連研究から手法を学ぶ（海外）
第14回	中間総括	これまでの振り返り
第15回	オリエンテーション後半	秋学期の進め方について確認
第16回	研究仮説の草案	研究仮説を作成
第17回	研究仮説の検討	研究仮説について意見交換
第18回	研究仮説の見直し	研究仮説をレビュー
第19回	フィールド訪問の検討	現場訪問を検討
第20回	フィールド訪問準備	現場訪問を打診
第21回	フィールド訪問の計画	現場訪問のスケジューリング
第22回	フィールド調査実践（団体）	調査準備を進め、実施（団体）
第23回	フィールド調査実践（個人）	調査準備を進め、実施（個人）
第24回	フィールド調査実践（その他関係者）	調査準備を進め、実施（その他関係者）
第25回	フィールド調査実践（フォローアップ）	実施した内容についてフォローアップ
第26回	中間報告の準備	フィールド調査報告の準備
第27回	中間報告	フィールド調査報告の実施
第28回	レビュー	1年間の振り返りと要点の再確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介。

**【成績評価の方法と基準】**

講義への参加：60%、課題への取り組み・提出：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

院生による様々なアイデアを応用。

**【学生が準備すべき機器他】**

研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】****【Course Outline】** The course will focus on the necessary skills and methods related to students' research topics.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to have learned how to collect and analyze data to advance their research.**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours in total to understand the course contents.**【Grading Criteria /Policy】** Grading will be determined based on in-class contribution (60%) and the submission of tasks (40%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

土肥 将敦

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究演習 I と対応させながら、修士論文執筆に必要な定性的な情報を集める技法を学びつつ、データ分析を行っていく。

### 【到達目標】

研究テーマに即した調査対象を選定し、質的調査の手法を用いながら、データを分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

受講生の研究報告・議論に加えて、質的調査にかかわる文献の輪読や議論も行う。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。ミニレポートなどにおける優れた内容は講義内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認と調査対象の設定①	研究テーマに即した調査対象を選定する①
第2回	研究テーマの確認と調査対象の設定②	研究テーマに即した調査対象を選定する②
第3回	質的研究メソッド①	「分厚い記述」と「薄い記述」①
第4回	質的研究メソッド②	「分厚い記述」と「薄い記述」②
第5回	質的研究メソッド③	「分厚い記述」と「薄い記述」③
第6回	質的研究メソッド④	「分厚い記述」と「薄い記述」④
第7回	質的研究メソッド⑤	「分厚い記述」と「薄い記述」⑤
第8回	シートの作成①	インタビューシートを作成する①
第9回	シートの作成②	インタビューシートを作成する②
第10回	シートの作成③	インタビューシートを作成する③
第11回	フィールド調査からのデータ分析①	フィールド調査からの1次情報を分析する①
第12回	フィールド調査からのデータ分析②	フィールド調査からの1次情報を分析する②
第13回	フィールド調査からのデータ分析③	フィールド調査からの1次情報を分析する③
第14回	フィールド調査からのデータ分析④	フィールド調査からの1次情報を分析する④
第15回	フィールド調査からのデータ分析⑤	フィールド調査からの1次情報を分析する⑤
第16回	夏期休暇中の研究報告①	進捗状況についての中間報告①
第17回	夏期休暇中の研究報告②	進捗状況についての中間報告②
第18回	データ収集①	データ収集と報告①
第19回	データ収集②	データ収集と報告②
第20回	データ収集③	データ収集と報告③
第21回	データ収集④	データ収集と報告④
第22回	データ収集⑤	データ収集と報告⑤
第23回	データを分析する①	定性的コーディングと概念モデルの構築①
第24回	データを分析する②	定性的コーディングと概念モデルの構築②
第25回	データを分析する③	定性的コーディングと概念モデルの構築③
第26回	データを分析する④	定性的コーディングと概念モデルの構築④
第27回	データを分析する⑤	定性的コーディングと概念モデルの構築⑤
第28回	中間報告書の執筆	論文全体のストーリー化を目指す

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められます。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が大切です。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100%）により判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論  
<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方  
<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著,千倉書房,2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著,中央経済社,2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著,有斐閣,2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著,NTT出版,2013年）

### 【Outline (in English)】

This course aims to introduce graduate students to ethnographic methodology and its main tools; such as field work, participant observation, interview, and so on. The master's thesis is an original research study that is carried out using rigorous methods that are appropriate to the research questions, that generates new knowledge, concepts and methods from one or more branches of social science relevant to corporate social responsibility, social innovation and stakeholder theory.

The goals of this course are to write up the thesis according to the basic guidelines set by the Graduate School, and to generate new knowledge around this research field.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会をフィールドとした修士論文の作成に向けて、実践的なフィールド調査の技法および専門的な論文執筆の作法を習得することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目指す。

### 【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法および論文執筆の作法を身につけることができる。環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初にデータ収集の方法について学び、その上で、各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら仮説を組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法 (フィールドワークやヒアリング調査などでのデータ収集の方針) を検討し、研究計画を作る。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第2回	社会調査とは何か?	社会調査の基礎
第3回	フィールドワークとは何か?	フィールド調査における心構えと技法
第4回	文献調査 (1)	調査に必要となる文献の精読
第5回	文献調査 (2)	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第6回	統計資料の活用方法	統計資料の収集と整理
第7回	調査計画の立案 (1)	関連する先行研究および調査報告書の検討
第8回	調査計画の立案 (2)	調査手法の検討
第9回	調査の準備 (1)	問いの検討と仮説の設定
第10回	調査の準備 (2)	先行研究と研究の位置づけの検討
第11回	調査の準備 (3)	論敵の検討と設定
第12回	調査票の作成 (1)	質問項目の検討
第13回	調査票の作成 (2)	ワーディング
第14回	調査計画の完成と発表	調査計画および調査票の完成と発表
第15回	調査データの分析方法	環境社会学・地域社会学・民俗学の方法から
第16回	フィールドワークの準備	テーマおよび調査地の選定
第17回	フィールドワーク実習 (1)	資料収集と聞きとり調査
第18回	フィールドワーク実習 (2)	データの整理と集計
第19回	フィールドワーク実習 (3)	聞きとり調査
第20回	フィールドワーク実習 (4)	データの整理と質問項目の修正
第21回	フィールドワーク実習 (5)	補足的な聞きとり調査
第22回	調査データの分析 (1)	調査データの整理と加工
第23回	調査データの分析 (2)	調査のデータの加工 (図表の作成)
第24回	調査データの分析 (3)	データの分析についての検討と討議
第25回	論文の構成と執筆 (1)	研究の全体像と構成の検討
第26回	論文の構成と執筆 (2)	章立ての検討と討議
第27回	論文の構成と執筆 (3)	分析結果の検討と討議
第28回	研究結果の発表	論文の発表と討議

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表の準備などの事前学習は不可欠となる。フィールドワークを進めておくことも必要であろう。いずれにせよ入念な準備が求められる。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

### 【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点 (50%)、レポートや発表などの成果物 (50%) の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等による受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生一暮らしから考える防災と観光』(単著、筑波書房、2023年)

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』(共著書、Routledge、2023年)

『環境社会学の考え方一暮らしを見つめる12の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019年)

『生活環境主義のコミュニティ分析一環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018年)

『原発災害と地元コミュニティ一福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017年)

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

### 【到達目標】

フィールドワークを通じて修士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の関心分野に応じて、フィールドワークを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証的究明方法を検討する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	関心分野とフィールドワーク①	関連する活動事例①の概要把握
第3回	関心分野とフィールドワーク②	関連する活動事例①の史的変遷整理
第4回	関心分野とフィールドワーク③	関連する活動事例②の概要把握
第5回	関心分野とフィールドワーク④	関連する活動事例②の史的変遷整理
第6回	関心分野とフィールドワーク⑤	関連する活動事例①の利害関係者の把握
第7回	関心分野とフィールドワーク⑥	関連する活動事例②の利害関係者の把握
第8回	研究課題の検討①	フィールドワークを通じた課題の整理① 事業目的
第9回	研究課題の検討②	フィールドワークを通じた課題の整理② 事業内容
第10回	研究課題の検討③	フィールドワークを通じた課題の整理③ 事業推進体制
第11回	研究仮説の検討①	研究課題を解決するための仮説の考察① 素案の提示
第12回	研究仮説の検討②	研究課題を解決するための仮説の考察② 修正案の検討
第13回	研究仮説の検討③	研究課題を解決するための仮説の考察③ 仮説の確定
第14回	中間報告	春学期のフィールドワークの振り返り
第15回	研究対象の検討①	仮説検証のための研究対象選定① 対象とする分野の候補列挙
第16回	研究対象の検討②	仮説検証のための研究対象選定② 対象とする分野の抽出
第17回	研究対象の検討③	仮説検証のための研究対象選定③ 対象候補の目的分類
第18回	研究対象の検討④	仮説検証のための研究対象選定④ 対象候補の選別
第19回	研究方法の検討①	予備調査① 文献資料の整理
第20回	研究方法の検討②	予備調査② 対象に関する研究の整理
第21回	研究方法の検討③	予備調査③ 対象地域の概要把握
第22回	研究方法の検討④	量的調査方法① アンケート調査計画
第23回	研究方法の検討⑤	量的調査方法② アンケート調査質問票作成
第24回	研究方法の検討⑥	質的調査方法 インタビュー調査計画
第25回	データ分析方法の検討①	量的調査データの分析方法① 多変量解析
第26回	データ分析方法の検討②	量的調査データの分析方法② 成分分析
第27回	データ分析方法の検討③	質的調査データの分析方法 ナラティブ分析

第28回 総括

修士論文執筆に向けた作業課題の整理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70%）と課題への対応（30%）を総合的に判断し評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

### 【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

### 【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」

日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire practical learning about the ideas and methods necessary for writing a master's thesis according to the field of interest.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:the skills of master's thesis writing through fieldwork.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, in class contribution: 70%

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の現場における実習や修士論文作成のためのデータの収集方法について理解し、フィールドを設定する。そして、実際にフィールドに関与し実践能力を高めるとともに、修士論文に必要なデータの収集を行う。

### 【到達目標】

適切な方法で、一連のフィールドワークを行うことができる。フィールドワークで得たデータを分析し、適切に研究に活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

関心のある領域や修士論文のテーマに関するフィールドについて情報を収集し、実際の実習やデータ収集の方法を検討する。その上でフィールドに継続的に関わり、実践的な能力を高めるとともにデータ収集を行う。方法は、個別のスーパーバージョンにより行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークの目的と方法について	フィールドワークの目的と方法についての検討
第2回	フィールドの選択について	フィールドの選択の検討
第3回	フィールドの選択について確認	フィールドの選択の検確認確認
第4回	フィールドワークの内容について	実際の内容と方法の検討
第5回	フィールドワークの報告	実際の内容と方法についての報告と検討
第6回	初期スーパーバージョン①	初期フィールドワークの経過報告
第7回	初期スーパーバージョン②	初期フィールドワークの内容検討
第8回	初期スーパーバージョン③	初期フィールドワークの確認
第9回	初期スーパーバージョン④	初期フィールドワークの振り返り
第10回	中期スーパーバージョン①	中期フィールドワークの目標設定
第11回	中期スーパーバージョン②	中期フィールドワークの報告と検討
第12回	中期スーパーバージョン③	中期フィールドワークの検討
第13回	中期スーパーバージョン④	中期フィールドワークの報告
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと振り返り
第15回	中期スーパーバージョン⑤	中期フィールドワークの報告
第16回	中期スーパーバージョン⑥	中期フィールドワークの報告と検討
第17回	中期スーパーバージョン⑦	中期フィールドワークの再検討
第18回	中期スーパーバージョン⑧	中期フィールドワークのまとめに向けて
第19回	中期スーパーバージョン⑨	中期フィールドワークの振り返り
第20回	後期の目標設定と方法	後期のフィールドワークの目標の設定の検討
第21回	後期スーパーバージョン①	スーパーバージョンの実際
第22回	後期スーパーバージョン②	後期フィールドワークの報告
第23回	後期スーパーバージョン③	後期フィールドワークの報告と検討
第24回	後期スーパーバージョン④	後期フィールドワークの振り返り
第25回	後期スーパーバージョン⑤	後期フィールドワークのまとめ
第26回	後期スーパーバージョン⑥（まとめに向けて）	フィールドワークの全体報告と振り返り
第27回	後期スーパーバージョン⑦（まとめに向けて）	フィールドワークのまとめ方について
第28回	フィールドワークのまとめの報告	フィールドワークのまとめの報告と検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けた報告を、フィールドワークに関する記録やレポートとしてまとめ準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京書籍,2008年  
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社,2008年  
壹間真美『質的研究実践ノート』医学書院,2007年  
筒井真優美『アクションリサーチ入門』ライフサポート社,2010年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%とフィールドワークの内容とレポート60%により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『地域福祉のイノベーション—コミュニティの持続可能性の危機に挑む—』中央法規、2017年  
・『東日本大震災と地域福祉—次代への継承を探る—』（共編著）中央法規、2015年  
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、中央法規、2014年  
『ソーシャルワークと社会開発—開発的ソーシャルワークの理論とスキル—』丸善出版、2012年  
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年  
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年  
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年  
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年  
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

It sets a field to create research paper and to improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyze a case in the field.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyze a case in the field.

B. Students can makes sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on research paper(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習Ⅱ

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けて、調査データの多角的な分析を実施する。

### 【到達目標】

研究テーマに即したデータ分析手法を使用して、自らの研究に応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期は、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化していく。秋学期は、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	データ分析方法の検討①	逐語記録の整理
第3回	データ分析方法の検討②	逐語記録の確認
第4回	データ分析方法の検討③	逐語記録の読み込み
第5回	データの質的分析①	カテゴリーの生成について
第6回	データの質的分析②	カテゴリーの生成の実際
第7回	データの質的分析③	分析手順の確認
第8回	データの質的分析④	カテゴリカルコンテンツ分析
第9回	データの質的分析⑤	ホリスティックフォーム分析
第10回	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
第11回	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
第12回	先行データとの比較③	文献検討
第13回	先行データとの比較④	オリジナリティの明確化
第14回	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
第15回	オリエンテーション	執筆スケジュールの確認
第16回	データの確認	論文データの確認
第17回	分析結果の最終確認①	分析結果と結論について
第18回	分析結果の最終確認②	分析結果と考察について
第19回	分析結果の最終確認③	全体にわたっての確認
第20回	論文執筆指導①	質的データの逐語録について
第21回	論文執筆指導②	質的データの分析結果について
第22回	論文執筆指導③	分析結果の妥当性について
第23回	論文執筆指導④	分析結果の信頼性について
第24回	論文執筆指導⑤	質的データに基づく考察
第25回	論文執筆指導⑥	質的データの逐語録
第26回	論文執筆指導⑦	質的データのM-GTA分析結果
第27回	論文執筆指導⑧	質的データのCC・HF分析結果
第28回	総括	論文の仕上げと要旨の確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めらるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、予定を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業内でのテーマ報告（50%）。
2. 修士論文（50%）。

なお、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の論文課題について指導を行うとともに、論文内で使用しているデータの課題などをともに洗い出し、論文の完成までのサポートを行うよう努めていく。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・ セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年

②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.

③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号. 2019

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

【Learning Objectives】 The goal is to acquire research methods

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria / Policy】 The grades are the content of the presentation (50%) and the master's thesis (50%).

SOW600J1 (社会福祉学 / Social Welfare 600)

## 実践研究演習 II

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

### 【到達目標】

適切な方法でフィールドワークができる。  
フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。各報告の内容に対して、指導・助言を行い、フィールドワークが成果をあげるように支援する。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第2回	フィールドワークの目的	目的の明確化
第3回	フィールドワークの対象	対象の明確化
第4回	フィールドワークの対象と方法	対象と方法の明確化
第5回	フィールドワークの対象と方法の具体化	対象と方法の具体化
第6回	スーパービジョン(初期①)	実際のスーパービジョン①
第7回	スーパービジョン(初期②)	実際のスーパービジョン②
第8回	スーパービジョン(初期③)	実際のスーパービジョン③
第9階	スーパービジョン(初期④)	実施のスーパービジョン④初期のまとめと振り返り
第10回	スーパービジョン(前期①)	実際のスーパービジョン①前期の目標の設定
第11回	スーパービジョン(前期②)	実際のスーパービジョン②
第12回	スーパービジョン(前期③)	実際のスーパービジョン③
第13回	スーパービジョン(前期④)	実際のスーパービジョン④
第14回	前期の振り返りとまとめ	振前期の振り返りと今後に向けて
第15回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第16回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第17回	スーパービジョン(中期①)	実際のスーパービジョン①中期の目標の設定
第18回	スーパービジョン(中期②)	実際のスーパービジョン②
第19回	スーパービジョン(中期③)	実際のスーパービジョン③
第20回	スーパービジョン(中期④)	実際のスーパービジョン④中期の振り返り
第21回	スーパービジョン(後期①)	実際のスーパービジョン①後期の目標の設定
第22回	スーパービジョン(後期②)	実際のスーパービジョン②
第23回	スーパービジョン(後期③)	実際のスーパービジョン③(レポートの作成に向けて)
第24回	スーパービジョン(後期④)	実際のスーパービジョン④(レポートの骨子について)
第25回	振り返りとまとめ①	データ等の分析
第26回	振り返りとまとめ②	レポートの作成
第27回	振り返りとまとめ③	理論化の検討
第28回	振り返りとまとめ④	レポートの完成

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特になし

### 【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容60%により、評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』(単著) 明石書店,2022年
- ・『地域福祉と包括的支援システム-基本的な視座と先進的取り組み-』(共編著) 明石書店,2021年
- ・『仮設住宅 その10年-陸前高田における被災者の暮らし-』(共編著) 御茶の水書房,2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』(共編著) 中央法規,2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規,2018年
- ・『地域福祉のイノベーションとソーシャルワークの持続可能性の危機に挑む-』編集代表、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』(共編著) 中央法規,2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』(共著) 中央法規,2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』(監訳) 丸善,2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』(共著) ミネルヴァ書房,2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』(編著) 有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』(編著) 中央法規,2007年
- ・『新版 地域福祉事典』(編集幹事) 日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

It sets a field to create research paper and to improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyzes a case in the field.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

A. Students can improve practice skill, and collect the data in take field, also, analyzes a case in the field.

B. Students can makes sentences as the research paper.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours with each supervision,

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Short report(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業で学ぶ内容は次のことです。

1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1.~3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第2回	心理支援と心理学的支援法	全体の理論と方法を概説します
第3回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第4回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第5回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第6回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第7回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます (人間性の理論)
第8回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます (システム理論)
第9回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます (表現芸術療法)
第10回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます (民族文化療法)
第11回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます
第12回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第13回	適切な支援方法の選択・調整②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます

第14回 授業のまとめ

授業のふりかえりとまとめをおこないません

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

授業の中で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表 (60%)、ディスカッションへの参加 (40%) をあわせて評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験 (カウンセリングセンター等) を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』(共監訳、岩崎学術出版社、2012年)

③ 『心理臨床への多元的アプローチ』(共監訳、岩崎学術出版社、2015年)

### 【Outline (in English)】

The contents to be learned in this lesson are as follows.

1. Theories and methods of psychotherapy based on psychodynamic theory.
2. Theories and methods of psychotherapy based on behavioral/cognitive theory.
3. Theories and methods of other representative psychotherapies.
4. Application of the above items 1 to 3.
5. Selection and adjustment of appropriate support methods.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
- understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, limitation of psychological support, and significance of privacy protection.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentations (60%), and in-class contribution (40%)

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理面接特論 II

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

### 【到達目標】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第2回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第3回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第4回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第5回	試行カウンセリングについての概説	各自が試行カウンセリングを実施し（インタークおよび3回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。
第6回	インフォームドコンセントと契約および試行カウンセリングの実習と報告①	インフォームドコンセントと契約について指導します。あわせて院生A、Bの報告と検討を行います。
第7回	インタークのとり方および試行カウンセリングの実習と報告②	インタークのとり方とまとめ方を指導します。あわせて院生C、Dの報告と検討を行います。
第8回	アセスメントと見立ての検討および試行カウンセリングの実習と報告③	アセスメントと見立ての検討について指導します。あわせて院生E、Fの報告と検討を行います。
第9回	方針の立て方および試行カウンセリングの実習と報告④	方針の立て方について指導します。あわせて院生G、Hの報告と検討を行います。
第10回	継続面接の進め方および試行カウンセリングの実習と報告⑤	継続面接の進め方について指導します。あわせて院生I、Jの報告と検討を行います。
第11回	面接のプロセスの検討および試行カウンセリングの実習と報告⑥	面接のプロセスの検討方法について指導します。あわせて院生K、Lの報告と検討を行います。

第12回	終結の方法および試行カウンセリングの実習と報告⑦	終結の方法について指導します。あわせて院生M、N、Oの報告と検討を行います。
第13回	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第14回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表（40%）、試行カウンセリングの報告書（50%）、ディスカッションへの参加（10%）をあわせて評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『心理臨床への多面的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015年）

### 【Outline (in English)】

You learn practical methods and skill of psychological support, especially counseling/psychotherapy.

At the end of the course, students are expected to explain effect and process of counseling/psychotherapy, to do trial counseling and to write and present its case report.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on case report on trial counseling (50%), and presentation (40%), and in-class contribution (10%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理実習 I (心理実践実習)

関谷 秀子、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目  
配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の5分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

### 【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。  
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得  
(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等  
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  
(エ) 多職種連携及び地域連携  
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習第1回	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	臨床心理相談室での実習第2回	臨床心理相談室でのケース（例、子ども）を担当する。
実習中④	臨床心理相談室での実習第3回	臨床心理相談室でのケース（例、成人）を担当する。
実習中⑤	臨床心理相談室での実習第4回	臨床心理相談室でのケース（例、高齢者）を担当する。
実習中⑥	医療施設等での実習第1回	医療施設等（例、A病院）の施設実習回
実習中⑦	医療施設等での実習第2回	医療施設等（例、B病院）の施設実習回
実習中⑧	医療施設等での実習第3回	医療施設等（例、C病院）の施設実習回
実習中⑨	医療施設等での実習第4回	医療施設等（例、D病院）の施設実習回
実習中⑩	医療施設等での実習第5回	医療施設等（例、E病院）の施設実習回
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

### 【学生が準備すべき機器他】

ありません。

### 【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

### 【担当教員の専門分野】

関谷秀子：精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学  
丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

### 【Outline (in English)】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

**臨床心理実習Ⅱ**

関谷 秀子、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目  
配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

**【到達目標】**

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得  
 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等  
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  
 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  
 (エ) 多職種連携及び地域連携  
 (オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	医療施設等での実習第1回	医療施設等（例、A病院）の施設実習
実習中④	医療施設等での実習第2回	医療施設等（例、B病院）の施設実習
実習中⑤	医療施設等での実習第3回	医療施設等（例、C病院）の施設実習
実習中⑥	医療施設等での実習第4回	医療施設等（例、D病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第5回	医療施設等（例、E病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第6回	医療施設等（例、F病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第7回	医療施設等（例、G病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第8回	医療施設等（例、H病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート未実施。

**【学生が準備すべき機器他】**

ありません。

**【その他の重要事項】**

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

**【担当教員の専門分野】**

関谷秀子：精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学  
 丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

**【Outline (in English)】**

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理学研究法特論

小林 由佳

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学研究法の進め方を適切に理解し、研究計画を立てるための知識を習得することを目的とします。

### 【到達目標】

臨床心理学研究の計画を適切に行えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】  
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方に関するオリエンテーション
第2回	臨床心理学研究の考え方と研究方法	臨床心理学研究の諸分野と研究方法（面接法、観察法、質問紙調査法、事例研究法、実験法）
第3回	研究の進め方①研究デザイン	研究デザインの選択とリサーチエスションの構造化、良い研究デザインをするための視点
第4回	研究の進め方②文献研究	先行研究の整理、文献管理、システムティックレビュー
第5回	研究の進め方③量的研究	量的研究の進め方、データ収集上の留意点、標本抽出、研究におけるバイアス
第6回	研究の進め方④質的研究1	質的研究の進め方（主にグラウンデッド・セオリー・アプローチ）
第7回	研究の進め方⑤質的研究2	質的研究の進め方（主にSCAT、テキストマイニング、主題分析法）
第8回	研究の進め方⑥論文執筆と公表	学位論文と学術論文の違い、雑誌の投稿、査読、掲載
第9回	研究倫理と臨床倫理	倫理と法、研究倫理、臨床倫理
第10回	研究アウトカムの測定	主観的な指標の有用性を評価するためのガイドライン
第11回	尺度作成のガイドライン	尺度作成のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第12回	観察研究のガイドライン	観察研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第13回	介入研究のガイドライン	介入研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第14回	まとめ	臨床心理学研究計画の立案

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連した課題を提示するので、授業の間にそれに取り組むことが求められます。演習を実施するため、次回講義で扱う内容の疑問点は整理しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは適宜お知らせします。

### 【参考書】

「臨床心理学研究法特論（放送大学大学院教材）」（小川俊樹・望月聡、放送大学教育振興会：2018）

「心理学研究法 補訂版」（高野陽太郎・岡隆、有斐閣：2017）

「心理学の実践的研究法を学ぶ（臨床心理学研究法 第1巻）」（下山晴彦・能智正博、新曜社：2008）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、課題・レポート（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域> 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

<研究テーマ> 働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

<主要研究業績>

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定: デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

### 【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to provide students with an appropriate understanding of how to proceed with clinical psychology research methods and statistical analysis methods, and to acquire the knowledge to formulate a research plan.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to appropriately plan clinical psychology research.

Learning activities outside of the classroom : To conduct exercises, please organize your questions about the contents to be covered in the next lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Class participation (60%), Assignments and Reports (40%)

CIM500J2 (内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 500)

**精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）**

関谷 秀子

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【Outline (in English)】**

We learn about the practice of the field of medical health care required as a licensed psychologist. Specifically, we will learn the life cycle and mind development, representative psychiatric disorders and their treatments. We will learn about theory and support in the field of medical health care. We will learn the psychiatric viewpoint necessary for psychologists. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the contribution in class.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では公認心理師に求められる保健医療分野の実践について学ぶ。具体的にはライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療についての知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。心理専門職に必要な精神医学的見地を身につける。

**【到達目標】**

人間のライフサイクルと精神発達を理解する。  
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。  
代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。  
精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストに沿って発表者の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	ライフサイクル	乳児期、幼児期、児童期、思春期青年期、初期成人期、成人期、老年期について
第3回	精神的発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、潜伏期、思春期、性器統裁について
第4回	精神医学序論	精神医学の概念、精神障害の成因と分類
第5回	精神症状学	精神症状と状態像
第6回	精神障害①	統合失調症
第7回	精神障害②	気分障害
第8回	精神障害③	神経症性障害
第9回	精神障害④	パーソナリティ障害
第10回	精神障害⑤	器質性障害
第11回	精神障害⑥	物質関連精神障害
第12回	精神障害⑦	児童・思春期精神障害
第13回	精神医学的治療学①	薬物療法
第14回	精神医学的治療学②	心理療法（力動的な心理療法、認知行動療法、家族療法、集団療法） 精神医療における公認心理師の役割

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書の指定箇所を事前に予習し、授業で討論できるように準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は授業への積極的な参加(100%)に基づいて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【担当教員の専門分野等】**

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 産業・労働分野に関する理論と支援の展開

小林 由佳

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・労働分野で働く心理職には、個別の心理的支援のほか、職場組織の環境改善、関係者との調整など、本分野特有の知識と技能が求められます。本授業では、これらの知識を習得し、技能についての理解を深め、実践で求められる思考力、判断力や倫理観を養うことを目的とします。

### 【到達目標】

この授業では、産業・労働分野における問題に対して必要な心理的支援を学ぶとともに、実践で求められる力を養うことを目標とします。到達目標は次の通りです。

- 1) 職場における諸問題とそれらに求められる心理的支援の概要を説明できること
- 2) 労働者の健康を守るための法規、会社の基本的な取り組みについて説明できること
- 3) 労働者への心理的支援の計画を立てることができること
- 4) 組織的な心理的支援対策を提案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、産業・労働分野における課題と心理職に求められるコンピテンシー
第2回	職場のメンタルヘルス（産業精神保健）の歴史と法規	労働者の健康管理と産業精神保健に関する法律や指針、精神障害の労災申請や民事訴訟
第3回	職場のメンタルヘルス対策の実際	働く上でのストレス要因、および企業で行ううつ病対策、過重労働対策、自殺予防対策
第4回	職場のメンタルヘルス関連疾患と対応	労働者のメンタルヘルス不調のアセスメント、基本的な対応、およびケースマネジメント
第5回	産業心理臨床の基礎	産業心理臨床において求められるケース対応の基礎知識とスキル、メール相談対応
第6回	職場のハラスメント対策	職場のハラスメント問題の理解と予防、ハラスメント発生後の対応
第7回	キャリア関連問題とキャリアコンサルティング	働く人のキャリア関連問題とキャリアコンサルティング
第8回	職場復帰支援	労働者の休職の実態、職場復帰支援体制づくりと復職支援プログラム
第9回	産業・労働分野における関係者との連携	関係者との連携において心理職が果たすべき役割と身につけておくべきスキル、マネジメントコンサルティング
第10回	事業場内外からの支援、EAP	EAPや産業精神保健サービス提供者の活動と支援の実際
第11回	職業性ストレスとストレスチェック制度	職業性ストレス理論とストレスチェック制度の活用
第12回	職場のメンタルヘルスに関する教育研修	職場のメンタルヘルスに関する教育研修（対従業員、対管理職）、プレゼンテーションスキル
第13回	グループダイナミクスと職場環境改善	グループダイナミクスの基礎理論と職場環境改善の進め方
第14回	人と組織の活性化に向けて：心の健康づくり計画	産業・労働分野における心の健康づくりの方法

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献や新聞、近親者へのヒアリングなどから、働く人の健康問題、労働環境、働き方への理解を深め、心理職の役割と関係者との連携について考察を進めてください。本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。

### 【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」 植市康太郎・小林由佳・高原龍二・島津美由紀編著（川島書店、2023）

「産業・労働分野（公認心理師分野別テキスト5）」平木典子・松本桂樹編著（創元社、2019）

「基礎からはじめる 職場のメンタルヘルス 改訂版—事例で学ぶ考え方と実践ポイント」川上憲人著（大修館書店、2021）

「ポジティブメンタルヘルス—いきいき職場づくりへのアプローチ」川上憲人・小林由佳編著（培風館、2015）

「心理職のための産業保健入門」小山文彦著（金剛出版、2021）

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（60%）、試験（40%）

### 【学生の意見等からの気づき】

実技やディスカッション、質疑の時間を充実させる。

### 【Outline (in English)】

Course outline : Psychologists working in the industrial and labor fields are required to have knowledge and skills specific to this field, such as individual psychological support, improving the environment of workplace organizations, and coordinating with related parties. The purpose of this class is to acquire this knowledge, deepen understanding of skills, and cultivate the ability to think, make decisions, and develop a sense of ethics required in practice.

Learning Objectives : The goal of this class is to learn the psychological support needed for workers' mental health, and to develop the skills required in the occupational health field. The objectives are as follows

- (1) To be able to give an overview of various problems in the workplace and the psychological support required for them
- (2) To be able to explain the laws and regulations of mental health care.
- (3) To be able to formulate plans for psychological support for workers
- (4) To be able to formulate plans for psychological support for the organization.

Learning activities outside of the classroom : Students need to deepen their understanding of workers' mental health problems and workplace environment through reference literature, newspapers, and interviews with close relatives. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Class participation (60%), exam (40%)

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 教育分野に関する理論と支援の展開

谷 由紀子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、7月24日（水）・25日（木）・26日（金）。

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校という組織の中で心理専門職が担う役割について説明します。
- ・学校現場で求められる専門的な知識やスキルを習得することを目的とします。

### 【到達目標】

自分自身の個性や特徴を踏まえながら、チーム学校の一員である心理専門職としてどのように貢献するか、自分なりのイメージを描けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員と学生間で、学生同士でも質問や意見が飛び交うような活発な時間を一緒に作りましょう。事例をもとに小グループで話し合う、発表する、当事者等の話を聞く、感じたことを伝えあう、ロールプレイをするなどの機会を作っていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的、進め方を説明します。この授業に期待すること、これまで身に付けたことなどを中心に自己紹介します。
第2回	聴く力と自己理解度、アセスメント力、今の私の自己評価	相談者とカウンセラーのロールプレイを通してお互いをアセスメントし合います。自分は他者からどのような印象をもたれるのか、その根拠は何かを理解します。
第3回	子ども時代を振り返る	自分の子ども時代を振り返り、学校についてどのようなイメージや印象を持っているか明らかにします。
第4回	学校における心理専門職の役割	学校組織や風土を理解し、教師とは異なるスクールカウンセラーの役割を考えます。
第5回	学校組織のアセスメント	事例をもとに、スクールカウンセラーとして必要な情報を収集し、学校組織をアセスメントします。
第6回	スクールカウンセリングの活動計画	アセスメントから得られた情報を用いて学校の現状を把握し、その学校に必要な支援活動計画を作ります。
第7回	発達の特性と支援	事例をもとに、発達の特性をもった児童・生徒への支援を考えます。
第8回	愛着障害の支援	発達の問題との見極めが難しい、愛着の問題を抱えているケースの対応事例をもとに支援の方法を考えます。
第9回	不登校	不登校の実態や現状を説明します。その上で事例をもとに不登校の対応について考えます。
第10回	虐待・ヤングケアラー	虐待やヤングケアラーの支援について、他機関やスクールソーシャルワーカーとの連携も含めて考えます。
第11回	当事者等の話	不登校経験者や保護者、教員等の当事者の話をもとに、様々なニーズがある中で、心理職として「どうあるべきか」、「どうありたいか」を考えます。
第12回	コンサルテーション	教師役、スクールカウンセラー役に分かれてコンサルテーションのロールプレイを体験します。教師がわかりやすく、納得するコンサルテーションのあり方について考えます。
第13回	成長や変化への気付き	参加者同士で1日目との変化や違いがあれば伝えあいます。自己評価します。
第14回	まとめ	疑問、質問、感想を自由に発言しあいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクールカウンセリング、学校心理学の著書を1冊は読んでおいてください。できれば、学校で相談活動に従事しておられる方にインタビューして、学校のイメージづくりをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書としては使いません。

### 【参考書】

「近藤邦夫論考集 学校臨床心理学への歩み—子供たちとの出会い、教師たちとの出会い」 近藤邦夫著 福村出版  
 「スクールカウンセリングのこれから」 石隈利紀・家近早苗 創元社  
 「子どもの脳を傷つける親たち」 友田明美 N H K出版新書  
 「どうしても頑張れない人たち」 宮口幸治著 新潮新書

### 【成績評価の方法と基準】

自己分析レポート40%

第2回と第12回のロールプレイの自己分析の質。自己理解は深まったか。

授業全般についての意見の発表30%

第1回と第13回の全体への表現。わかり易いか、変化はみえるか。

平常点 30%

ファシリテートするセンスがあるか。積極的に興味をもってこの場やテーマにかかわれたか。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度も好評であった、ロールプレイや当事者の体験談など、体験や現場の感覚を捉える機会を豊富にもちながら、相互の議論を深めていきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【担当教員の専門分野等】

学校臨床

キャリアカウンセリング

### 【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

・This class focuses on defining roles of school counselor as a professional psychologist in a school organization.

・The purpose of this class is to get the specialized knowledge and skills required in a school field.

< Learning Objectives >

You will be able to get your own image of how to contribute as a professional psychologist as well as a member of TEAM "school", based on your personality and characteristics.

< Learning activities outside of classroom >

Please read one book on school counseling or school psychology. It is recommended to interview someone who is engaged in counseling activities at the school to understand a reality in school. It takes 2 hours each to prepare and review for the class generally.

< Grading Criteria /Policy >

\* Self-analysis report 40%

- ・ the quality of self-analysis of the 2nd and 12th role-plays.
- ・ the depth of self-understanding

\* Giving a good opinion in the class 30%

- ・ the quality of opinion of the 1st and 13th.
- ・ the level of comprehensibility/transformation

\* Mark given for class participation 30%

- ・ sence of facilitation
- ・ participation and assertiveness

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 心の健康教育に関する理論と実践

小高 佐友里

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：2024年度の授業実施日は、8月1日（木）、2日（金）、5日（月）

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理専門職の専門業務として、心の健康教育の実践の重要性が高まっています。本講義では、心の健康教育としての心理教育やグループアプローチを重視し、その理論（主に認知行動療法の理論）を学びます。その上で、体験を通じた学びや気づきを通して、心の健康教育の実践のためのスキルの獲得を目的とします。

### 【到達目標】

- ①心の健康教育の現代的意義を理解することができる。
- ②予防としての心の健康教育のあり方を理解し、具体的な支援の方策を検討することができる。
- ③心理教育の意義をふまえ、指導者として実践のためのスキルを獲得することができる。
- ④グループで協働することの重要性について理解し、実践場面においても積極的に活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心の健康教育に関する理論を学ぶだけでなく、体験を通じた実感を伴った理解を促します。その上で、受講者自身が実践を主導することができるよう、練習と振り返りを繰り返し行うことで、実践のためのスキルの獲得を目指します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 心の健康教育の現代的意義	講義内容、目的、目標、心構え、手続等について説明を行います。 心の健康教育の現代的意義、予防としての心の健康教育としての心理教育について解説します。
第2回	保健医療分野における心の健康教育	ストレスマネジメント等、保健医療分野における心の健康教育実践について学びます。
第3回	産業・労働分野、司法・犯罪分野における心の健康教育	リワークプログラム、再販防止プログラム等、産業・労働、司法・犯罪分野における心の健康教育実践について学びます。
第4回	福祉分野における心の健康教育	産後うつ予防プログラム（乳幼児発達相談）等、福祉分野における心の健康教育実践について学びます。
第5回	教育分野における心の健康教育	ソーシャルスキル・トレーニング、構成的グループエンカウンター等、教育分野における心の健康教育実践について学びます。
第6回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-体験編-①	スクールカウンセラーによる心理教育として、ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論について学びます。
第7回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-体験編-②	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの授業を生徒の立場で体験します。
第8回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-体験編-③	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの授業を生徒の立場で体験します。
第9回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-体験編-④	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの視点をういた研修を教師の立場で体験します。
第10回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-体験編-⑤	スクールカウンセラーによる心理教育のあり方について、体験を通じた学びや気づきを元に振り返りを行います。
第11回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-実践編-①	スクールカウンセラーの立場での心理教育実践つなげる指導案を作成し、模擬授業のための練習を行います。

第12回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-実践編-②	作成した指導案に基づき、模擬授業の実践と振り返りを行います。
第13回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-実践編-③	作成した指導案に基づき、模擬授業の実践と振り返りを行います。
第14回	ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの理論と実践-実践編-④	スクールカウンセラーによる心理教育のあり方について、模擬授業の実践を通じた学びや気づきを元に振り返りを行います。 最後に、心の健康教育の意義と課題についてまとめます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5分野における心の健康教育としての心理教育の現状と課題について、自身の関心のある分野を中心に、最新の実践や臨床現場の動向をふまえ、自分なりにまとめてみましょう。授業中に理解が不十分であった内容については、授業中に紹介した参考文献や配布資料に目を通し、知識を整理しておくといでしょう。わからないことや疑問点などは積極的に質問してください。本授業の準備学習および復習時間は各2時間を想定しています。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。適宜、資料を配布します。

### 【参考書】

小高佐友里(2022).スクールカウンセラーによる学校危機予防を目指したソーシャル・エモーショナル・ラーニングの導入と効果 風間書房

### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点60%と最終試験40%により決定します。平常点は授業への参加の意欲（他者との協働や発表への積極的な関与；全ての学生が平等に機会を持つことを前提とします）、授業中に出席する小レポートやアクションペーパーへの記入の内容（思考力や文章構成力を見ます）について、あらかじめ設定した評価基準に基づき得点化します。

### 【学生の意見等からの気づき】

体験的な学びを通じた理解の機会を積極的に持つようになりたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

はさみや色鉛筆、カラーペン等お持ちの方はご持参ください。改めて購入する必要はありません。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

主に教育・福祉領域において、認知行動療法の視点から実践と研究を行っています。

### 【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to mental health education. This course will provide training in psychological education, relaxation techniques, social skills training, and cognitive therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end report (40%), and in-class contribution (60%).

PSY500J2 (心理学 / Psychology 500)

## 力動的心理療法特論

### 中 康

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力動的心理療法の基本を学ぶ。

#### 【到達目標】

力動的心理療法の治療過程について学ぶ。  
治療者－患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、抵抗、防衛、転移と逆転移、解釈、治療の終結について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書または論文をあらかじめ指定し、発表の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。発表の内容やディスカッションでの発言について、毎回の授業の中でフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明し、題材とする文献と担当を決める。
第2回	フロイトによる治療理論／精神分析療法の開始のしかた	フロイトの精神分析の方法、精神分析療法の開始時の注意点
第3回	精神分析療法を行う際の留意点①	精神分析療法の基本規則
第4回	精神分析療法を行う際の留意点②	乱暴な分析について
第5回	転移とその取扱い①	精神分析療法の経過中に現れる転移の様相、転移への対応のしかた
第6回	転移とその取扱い②	恋愛性転移についての考え方、取り扱い方
第7回	メニンガーによる治療理論／解釈	解釈についての考え方と実際
第8回	グリーンソンによる治療理論／抵抗	抵抗の現れと、その解釈のしかた
第9回	転移	転移解釈のしかた
第10回	グリーンソンによる現 実的關係(real relationship)をめぐつ て	心理療法の中での現実的な問題の 取り扱い方
第11回	皆川による治療理論／ 精神分析的な心理療法の 面接法	精神分析的な面接の実際、エディプス・ コンプレックスについて
第12回	転移と現実的關係、超自 我の理解	転移概念と現実的關係、自我心理学 における超自我の理解
第13回	思春期青年期の心理療 法の原則	思春期青年期の心理療法の構造と考 え方
第14回	思春期患者の親に対す る親ガイダンス	親ガイダンス試行上の原則、親ガイ ダンスの適応について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業テーマについて事前に予習し、討論できるように準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

フロイト著作集(人文書院)またはフロイト全集(岩波書店)

カール・メニンガー：精神分析技法論(岩崎学術出版社)

R.Greenson : The Technique and Practice of Psychoanalysis.(International University Press)

#### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、授業内での話し合いや質疑への積極的な参加(70%)や、割り当てられた文献に関するレポート(30%)に基づいて評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで、学生のテーマについての理解を深めたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、パソコンを使用し zoom を用いて授業を行う。

#### 【担当教員の専門分野】

精神分析的精神療法、思春期青年期精神医学

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The aim of this course is to learn the basis of dynamic psychotherapy.

#### 【Learning objectives】

The goal of this course is to learn the therapeutic process of dynamic psychotherapy. By the end of the course, students should be able to understand therapeutic contract between client and therapist, regression, resistance, defenses, transference and countertransference, interpretation, and termination of psychotherapy.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have prepared about the theme of every class meeting, and to join the discussion.

#### 【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on the in class contribution (70%), and the report about the assigned article (30%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

## 論文研究指導

小林 由佳

科目分類・科目群：研究指導科目  
配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身のリサーチクエストionsを構造化し、適切な方法を用いて明らかにすること、さらに修士論文として表現する力を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

修士論文作成を通して、研究を進めるための技術の習得、および研究テーマに関する専門的知見を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文を作成するための個人指導を行います。研究の進捗や展開に応じて、授業計画を若干変更する可能性があります。課題等の提出・フィードバックは対面もしくはメールにて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文作成の進め方について
第2回	研究テーマの検討1	各自の問題意識について
第3回	研究テーマの検討2	各自のテーマについて
第4回	先行研究 I	テーマに関連した先行研究のまとめ
第5回	先行研究 2	課題に関わる先行研究のまとめ
第6回	研究デザイン 1	リサーチクエストionsと仮説
第7回	研究デザイン 2	研究方法の検討
第8回	研究デザイン 3	質問紙、対象者等の検討
第9回	研究デザイン 4	データ解析方法の検討
第10回	データ収集の方法 1	データ収集の手続きの確認
第11回	データ収集の方法 2	データ収集の準備状況の確認
第12回	データ収集の方法 3	データ収集の段取りの確認
第13回	データ処理の方法 1	収集したデータの取り扱いの確認
第14回	データ処理の方法 2	収集したデータの分析方法の確認
第15回	データの分析 1	基本的な集計実施
第16回	データの分析 2	データ解析の実施
第17回	データの分析 3	データ解析結果の解釈
第18回	考察の検討 1	考察の概要整理
第19回	考察の検討 2	考察の内容の組み立て
第20回	考察の検討 3	考察の詳細の検討
第21回	論文執筆の指導 1	論文執筆の開始
第22回	論文執筆の指導 2	先行研究の執筆
第23回	論文執筆の指導 3	目的と方法の執筆
第24回	論文執筆の指導 4	結果の執筆
第25回	論文執筆の指導 5	結果の修正
第26回	論文執筆の指導 6	考察の執筆
第27回	論文執筆の指導 7	考察の修正
第28回	まとめ	修士論文の最終確認

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースでは、修士論文作成に関わる過程（文献研究、研究デザインの決定、データの収集と分析、考察など）全てにおいて主体的な取り組みが必要となります。指導日には進捗状況について説明できるよう準備を整えてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文作成における研究姿勢（60%）と論文の内容（40%）から評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

丁寧に指導を進めます。

### 【その他の重要事項】

#### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法  
< 研究テーマ > 働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ  
< 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020. 2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定: デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020. 3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

#### 【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to help students develop the ability to structure their own research questions, clarify them using appropriate methods, and express them in a master's thesis.

Learning Objectives : Through the preparation of a master's thesis, the goal is to master the techniques for conducting research and to deepen one's expertise in the subject matter of the research.

Learning activities outside of the classroom : In this course, students are required to work independently in all processes related to the preparation of their master's thesis, including literature research, determination of the research design, collection and analysis of data, and discussion. Please be prepared to explain your progress on the day of instruction. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : Research attitude in writing master's thesis (60%) and quality of the thesis (40%)

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

論文研究指導

末武 康弘

科目分類・科目群：研究指導科目  
配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力身につけます。

【到達目標】

修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第2回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Aを中心に指導
第3回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Bを中心に指導
第4回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Cを中心に指導
第5回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第6回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Aを中心に指導
第7回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Bを中心に指導
第8回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Cを中心に指導
第9回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第10回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Aを中心に指導
第11回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Bを中心に指導
第12回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Cを中心に指導
第13回	リサーチクエストの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチクエストを作成し検討します。院生Aを中心に指導。
第14回	リサーチクエストの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチクエストを作成し検討します。院生B、Cを中心に指導
第15回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第16回	データ収集とその処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第17回	データ収集とその処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Aを中心に指導
第18回	データ収集とその処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Bを中心に指導
第19回	データ収集とその処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Cを中心に指導
第20回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Aを中心に指導
第21回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Bを中心に指導

第22回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Cを中心に指導
第23回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生Aを中心に指導
第24回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院生Bを中心に指導
第25回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院生Cを中心に指導
第26回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Aを中心に指導
第27回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Bを中心に指導
第28回	論文執筆の指導③、まとめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Cを中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

修士論文作成のための学習活動(文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等)が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の執筆過程(60%)と論文の内容(40%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験(カウンセリングセンター等)を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法  
<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究  
<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』(監訳、岩崎学術出版社、2012年)
- ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門(共編著、金子書房、2016年)

【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research methodology, skill to write a master's thesis on clinical psychology. And You should complete master thesis. The goals of this course are to acquire knowledge, research methodology and skill to write a master's thesis on clinical psychology and to complete your master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on master's thesis (40%), and academic attitudes in the writing process (60%).

PSY600J2 (心理学 / Psychology 600)

## 論文研究指導

関谷 秀子

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の分野に関連したテーマを選択し、専門書や論文を調べ、研究計画を立案し

修士論文としてふさわしい論文を書き上げる。

### 【到達目標】

適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする。基本的に個別的な指導を原則とする。授業計画は学生のテーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性がある。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画の要点を検討。
第2回	研究計画の概要の検討2	研究計画の要点を精査
第3回	研究計画の概要の検討3	構想発表会に向けての整理
第4回	研究計画の概要の検討4	構想発表会に向けての仕上げ
第5回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究の資料を収集
第6回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究を整理
第7回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考
第8回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第9回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第10回	調査研究の内容の検討1	調査方法を具体的に検討していく
第11回	調査研究の内容の検討2	調査対象の選定を議論する
第12回	調査研究の内容の検討3	調査対象を検討
第13回	調査研究の内容の検討4	統計処理方法を検討
第14回	完成した調査計画や調査表のチェック1	調査方法やスケジュール検討
第15回	完成した調査計画や調査表のチェック2	調査の具体方法や項目のチェックー夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理
第16回	調査したデータの処理1	収集したデータを実際に統計処理
第17回	調査したデータの処理2	統計処理された結果のまとめ
第18回	調査したデータの処理3	統計処理された結果を読み込む
第19回	調査したデータの処理4	統計処理データの結果を検証
第20回	調査結果のまとめと検討1	先行研究とデータから得られた結果を比較
第21回	調査結果のまとめと検討2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第22回	考察の検討1	考察の概要を整理。
第23回	考察の検討2	考察の詳細を検討していく
第24回	考察の検討3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第25回	考察の検討4	考察の内容を最終的に決定していく
第26回	論文の実際の仕上げ1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第27回	論文の実際の仕上げ2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第28回	論文の実際の仕上げ3	論文の「結果」を仕上げる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50%）と論文作成の知識・技術の習得（50%）によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

### 【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

### 【Outline (in English)】

We will read specialized books and articles, make study plans and finish writing an article that is suitable for a master's thesis concerning your thesis in the field of the clinical psychology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (50%), the knowledge and technique of the article making (50%).

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

**地域・政策系特殊講義 I**

佐野 竜平

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「アジアにおける障害インクルーシブな国際協力・開発」を具体化した事例について、循環型・双方向型の強みやチャレンジに関する分析を行いつつ、持続可能性の観点から検討する。

**【到達目標】**

曖昧な観点を指標化するなど、見えないものを見えるようにする観点から分析する仕組みづくりを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義内容およびスタイルは、受講生の関心に沿いつつ柔軟に対応する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの現代福祉と課題
第3回	カンボジア・ベトナムの最新事情	カンボジア・ベトナムの現代福祉と課題
第4回	ミャンマー・フィリピンの最新事情	ミャンマー・フィリピンの現代福祉と課題
第5回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの現代福祉と課題
第6回	その他アジアの最新事情	その他アジアの現代福祉と課題
第7回	持続可能なアプローチ (労働)	循環・双方向型の国際協力 (労働)
第8回	持続可能なアプローチ (教育)	循環・双方向型の国際協力 (教育)
第9回	持続可能なアプローチ (保健)	循環・双方向型の国際協力 (保健)
第10回	障害インクルーシブな事例 (農林水産業)	アジアの農林水産業の分析・考察
第11回	障害インクルーシブな事例 (人材産業)	アジアの人材産業の分析・考察
第12回	障害インクルーシブな事例 (サービス産業)	アジアのサービス産業の分析・考察
第13回	障害インクルーシブな事例 (その他産業)	アジアのその他産業の分析・考察
第14回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：50%、課題・発表：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容・計画に関する院生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

**【学生が準備すべき機器他】**

研究を進めるための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)。論文執筆にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

**【担当教員の専門分野等】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】** The course will examine cases that demonstrate the concept of disability-inclusive development in Asia from the perspective of sustainability. An analysis of their cyclical and interactive strengths and challenges is expected.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to acquire a set of analysis methods, such as converting ambiguous perspectives into indicators.

**【Learning activities outside of the classroom】** Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be determined based on in-class contribution (50%), reports, and presentations (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

小林 由佳

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

### 【到達目標】

産業・労働分野における心理臨床活動の根拠となる諸理論を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通じて、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	職業性ストレス理論 1	主要な職業性ストレス理論の変遷についての講義
第3回	職業性ストレス理論 2	最新の職業性ストレス理論についての講義
第4回	ポジティブ心理学 1	ポジティブ心理学の発展の歴史と主要理論についての講義
第5回	ポジティブ心理学 2	最新のポジティブ心理学の知見についての講義
第6回	キャリア理論 1	キャリア理論の発展の歴史と主要理論についての講義
第7回	キャリア理論 2	最新のキャリア理論についての講義
第8回	組織開発の理論と実践 1	組織開発の背景理論に在る講義
第9回	組織開発の理論と実践 2	組織開発の実践モデルについての講義
第10回	組織開発の理論と実践 3	組織開発の効果についての講義
第11回	労働法と心理学 1	労働法とその背景についての講義
第12回	労働法と心理学 2	労働法の発展と心理学に関する講義
第13回	職場のメンタルヘルス 1	働く人のメンタルヘルスを向上させるための介入効果に関する講義
第14回	まとめ	春学期の学びの振り返りと今後の課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることを求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・鳥津美由紀・高原龍二編著（川島書店、2023）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

### 【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがあります。

### 【担当教員の専門領域】

< 専門領域 >

職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

< 研究テーマ >

働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

< 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定:デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

### 【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

**福祉臨床系特殊講義Ⅱ**

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

**【到達目標】**

本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるといふことの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第2回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際	死別に関する研究
	①	
第3回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際	悲嘆に関する研究
	②	
第4回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際	グリーフケアに関する研究
	③	
第5回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第6回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第7回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第8回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第9回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第10回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第11回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第12回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第13回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第14回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論 しまとめとする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

**【参考書】**

清水哲郎・島蘭進（2010）『ケア従事者のための死生学』

**【成績評価の方法と基準】**

- ・授業内報告 50%
- ・課題提出 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

**【その他の重要事項】**

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

**【担当教員の専門分野】**

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要（Course outline）】** This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.

**【到達目標（Learning Objectives）】** The goal is to understand death in social work and acquire approach methods.

**【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】** The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

**【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】** The grades are the content of the presentation（50％） and the term-end examination（50%）, and in-class contribution.

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

高良 麻子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けて、研究デザインを構築する。

### 【到達目標】

- ・博士論文を執筆するために必要な研究方法を理解できる。
- ・自分の研究デザインを構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、フィードバックしながら次の授業を進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報収集：定義
第3回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報収集：実態
第4回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報収集：文献
第5回	リサーチエスチョン	リサーチエスチョンの構築
第6回	リサーチエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第7回	リサーチエスチョンに関する先行研究②	先行研究のレビュー：研究成果の確認
第8回	リサーチエスチョンに関する先行研究③	先行研究のレビュー：先行研究の課題
第9回	研究目的の明確化①	研究目的と仮説の検討
第10回	研究目的の明確化②	研究目的と仮説の決定
第11回	研究方法の決定①	研究デザインと研究方法の検討
第12回	研究方法の決定②	研究デザインと研究方法の決定
第13回	博士論文構想発表会準備	研究計画の策定
第14回	中間総括	構想発表会後の振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究成果の報告
第16回	研究計画の策定①	研究計画の見直し
第17回	研究計画の策定②	研究計画の決定
第18回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査検討
第19回	調査計画の策定②	調査計画の検討
第20回	調査計画実施の準備①	実施に必要な準備
第21回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第22回	パイロット調査の実施①	調査結果の報告と課題対応検討
第23回	パイロット調査の実施②	調査結果の報告と調査方法の見直し
第24回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第25回	研究計画書の見直し①	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第26回	研究計画書の見直し②	研究計画の再検討
第27回	研究計画書の見直し③	論文構成の検討
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

計画的に博士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各6時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・課題提出 30%
- ・博士論文構想発表会 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会。

### 【Outline (in English)】

This course is a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to build a research design for writing a doctoral dissertation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), in-class contribution (30%), and presentation in the doctoral dissertation proposal presentation meeting (40%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

佐野 竜平

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究のレビューを重ねつつ、研究テーマを絞り込む。また、研究仮説の構築と研究方法を明らかにする。

### 【到達目標】

観察、仮説、調査、考察等の研究プロセスに沿いながら研究テーマを掘り下げつつ、論文執筆に欠かせない知見を蓄積していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

履修生との間で研究スケジュールに沿ったタイムリーなやり取りの仕組みを確立する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。学習支援システムやその他オンラインツールを利用して課題等のフィードバックを行っていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション前	年間および春学期の計画・方針を半確認
第2回	テーマの検討	研究テーマを検討
第3回	テーマの設定	研究テーマを設定
第4回	調査手法の検討	テーマに基づく調査手法を検討
第5回	調査手法の確立	テーマに基づく調査手法を確認
第6回	先行研究のレビュー総論	先行研究の見直し（総論）
第7回	先行研究のレビュー国内	先行研究の見直し（国内関連）
第8回	先行研究のレビュー海外	先行研究の見直し（海外関連）
第9回	先行研究のレビュー方法	先行研究の見直し（研究方法）
第10回	研究課題の整理	研究課題を整理
第11回	フィールド調査準備	フィールド調査の準備
第12回	フィールド調査計画	フィールド調査の計画
第13回	フィールド調査実施	フィールド調査の実施
第14回	これまでの振り返り	達成度の確認と課題の明確化
第15回	オリエンテーション後半	秋学期の計画・方針を確認
第16回	進捗状況の報告準備	課題への対応の整理
第17回	進捗状況の報告	課題への対応に関する意見交換
第18回	章立て	章立て案の作成
第19回	仮説の検討	研究仮説を検討
第20回	仮説の整理	研究仮説を設定
第21回	研究方法の検討	課題解決の研究方法を検討
第22回	研究方法の具体化	課題解決の研究方法を設定
第23回	データ分析の検討	研究テーマに沿ったデータ分析の検討
第24回	データ分析の準備	研究テーマに沿ったデータ分析の準備
第25回	データ分析の実施	研究テーマに沿った調査の実践と検証
第26回	データ分析の再確認	研究テーマに沿ったデータ分析をレビュー
第27回	草案作成	表出した内容のアレンジ
第28回	草案の見直し	内容の確認と修正

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

研究成果の報告（ペーパー）50%、報告（プレゼン）50%

### 【学生の意見等からの気づき】

院生による様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 Based on literature review and preceding studies, the theme of the proposed research will be elaborated. In addition, the research hypotheses will be developed while research methods are clarified.

【Learning Objectives】 The goals of this course are expected to accumulate knowledge necessary for the research by following the research process of observation, hypothesis, investigation, and discussion.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each, reviewing and understanding the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), report and presentation (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理系(心理・地域)特殊講義 I

末武 康弘

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

### 【到達目標】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第2回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第3回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第4回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第5回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第6回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第7回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第8回	フォーカシングとFOT①	フォーカシングとについて考察します
第9回	フォーカシングとFOT②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第10回	フォーカシングとFOT③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第11回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第12回	プリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのプリセラピーについて考察します
第13回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第14回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する文献（英語文献を含む）を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を合わせて評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度はアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年）

③ 『プロセスモデル—暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

### 【Outline (in English)】

You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

The goals of this course are to understand theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

**地域・文化系特殊講義 I**

野田 岳仁

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

**【到達目標】**

地域づくり、地域ツーリズム、環境政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を構想する力を養い、学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスションを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	生活環境主義の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	生活環境主義の方法論	方法論的特徴とその有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における課題論文について議論
第7回	環境社会学における課題論文の輪読	環境社会学について論点整理
第8回	環境社会学における課題論文の討議	環境社会学における研究の位置史付けの確認
第9回	地域社会学における課題論文の輪読	地域社会学について論点整理
第10回	地域社会学における課題論文の討議	地域社会学における研究の位置史付けの確認
第11回	観光社会学における課題論文の輪読	観光社会学について論点整理
第12回	論文の方法論的立場と構成の検討	研究論文の知見および有効性について検討
第13回	分析視角の設定と論文執筆の技法	本講義の立場からの検討と討議
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

**【参考書】**

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点 (50%) とレジュメやレポートなどの成果物 (50%) を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【その他の重要事項】**

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

**【担当教員の専門分野等】**

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』(単著、筑波書房、2023年)

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』(共著書、Routledge、2023年)

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019年)

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018年)

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017年)

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

## 地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野 雅男

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」  
経済効率を追い求めた20世紀を経て、21世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどのようなものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

### 【到達目標】

21世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。  
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第3回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第4回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第5回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第6回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第7回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第8回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第9回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第10回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第11回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第12回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第13回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第14回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009年  
「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010年  
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009年

### 【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【成績評価の方法と基準】

討論への参加 (50%) とレポート (50%) によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

### 【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

### 【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that comparing domestic and overseas policies being undertaken, considering what a creative city is and its economic aspects.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understanding the role of a "creative city" as a new city in the 21st century from the perspective of "policy"

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

宮城 孝

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

### 【到達目標】

自らの研究テーマについて適切にデザインできる。  
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の目的	明確化の検討
第2回	研究の対象	明確化の検討
第3回	研究テーマの設定	主題の明確化の検討
第4回	研究テーマの設定の具体化	主題の具体化
第5回	研究方法の明確化	研究方法の検討
第6回	研究方法の具体化	研究方法の具体的検討
第7回	先行研究のレビュー	対象の明確化
第8回	先行研究のレビューの作業	対象の探索と検討
第9回	先行研究のレビューの振り返り	対象の探索と振り返り
第10回	先行研究のレビューのまとめ方	レまとめ方まとめ方
第11回	研究仮説の検討	視点と仮説の検討
第12回	研究仮説の設定	視点と具体化具体化
第13回	データの収集の対象	データの収集の対象の検討
第14回	データの収集方法	具体的な収集方法の検討
第15回	データの収集方法の具体化	具体的な収集方法の検討
第16回	データの収集内容	具体的な収集内容の検討
第17回	データの具体的な内容	具体的な内容の明確化
第18回	データの収集と分析	分析方法の検討
第19回	データの収集と分析	分析方法の検討
第20回	データの収集と分析	分析方法の検討
第21回	データの収集と分析	分析方法の検討
第22回	考察の視点と枠組み	視点と枠組みの検討
第23回	考察の骨子	視点と枠組みの明確化
第24回	考察の内容	内容の検討
第25回	論文の構成	論文の構成の検討
第26回	論文の中間報告の構成の具体化	内容の構成の具体化
第27回	論文の中間報告・指導	中間報告の内容の検討
第28回	論文の中間報告のまとめ	中間報告について完成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、レポートの提出と報告、その内容60%により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

〔主要研究業績〕

- ・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022年
- ・『仮設住宅 その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2021年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規,2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳）丸善出版,2012年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

To create research paper,it sets research design.It does the review of the past research paper systematically about the own research subject.Then,it makes to build the purpose,the object,the way of its research.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B,C

- To complete a research paper.
- Students can search of the necessary article and data.
- Students can makes sentences as the research paper.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Student will be expected to spend four hours after each supervision.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on research paper(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%) .

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

### 【到達目標】

授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を収集し、輪読、議論を行います。フィールドバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第2回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をとおして学習する
第3回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をとおして学習する
第4回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第5回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第6回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	近接領域における先行研究のレビュー
第7回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第8回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第9回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第10回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第11回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第12回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第13回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第14回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

### 【参考書】

・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規  
 ・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実際』中央法規

### 【成績評価の方法と基準】

・授業内報告 50%  
 ・課題提出 50% 具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

### 【担当教員の専門分野】

<専門領域>ソーシャルワーク論、グリーフケア  
 <研究テーマ>ソーシャルワークにおける死別ケア研究、セルフヘルプグループ研究

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.

【Learning Objectives】 The goal is to understand social work practice theory and ownership

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on report (50%) and presentation performance (50 %).

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

**地域・政策系特殊講義Ⅱ**

佐野 竜平

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「国内外のコミュニティに根ざした持続可能なインクルーシブな開発」を具体化した事例について、循環型・双方向型の強みやチャレンジに関する分析を行いつつ、持続可能性の観点から検討する。

**【到達目標】**

国内外で実践されている様々な取り組みのステークホルダーを可視化し、新たな現場実践につなげる実力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義内容およびスタイルは、受講生の関心に沿いつつ柔軟に対応する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogleフォーム等でその都度行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	コミュニティの状況①	保健と開発課題①分析
第3回	コミュニティの状況②	保健と開発課題②考察
第4回	コミュニティの状況③	教育と開発課題①分析
第5回	コミュニティの状況④	教育と開発課題②考察
第6回	コミュニティの状況⑤	生計と開発課題①分析
第7回	コミュニティの状況⑥	生計と開発課題②考察
第8回	コミュニティの状況⑦	社会と開発課題①分析
第9回	コミュニティの状況⑧	社会と開発課題②考察
第10回	コミュニティの状況⑨	エンパワメントと開発課題①分析
第11回	コミュニティの状況⑩	エンパワメントと開発課題②考察
第12回	コミュニティの状況⑪	アップサイクルの基礎
第13回	コミュニティの状況⑫	アップサイクルの応用
第14回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定なし。

**【参考書】**

必要に応じて資料等を適宜配布。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：50%、課題・発表：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容・計画に関する院生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

**【学生が準備すべき機器他】**

研究を進めるための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)。論文執筆にかかる諸準備。

**【その他の重要事項】**

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

**【担当教員の専門分野等】**

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】** The course will examine cases illustrating the concept of community-based inclusive development both in Japan and internationally, analyzing them from a sustainability perspective and exploring their cyclical and interactive strengths and challenges.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to visualize various initiatives implemented in Japan and abroad, gaining the ability to connect these visualizations to new field practices.

**【Learning activities outside of classroom】** Before or after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course contents.

**【Grading Criteria /Policy】** Grading will be determined by a combination of in-class contribution (50%) and the evaluation of reports and presentations (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

小林 由佳

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

### 【到達目標】

産業・労働分野における心理臨床活動の実践に関わる技法と活動の効果を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	産業カウンセリング	職域で活用されるカウンセリング技法と理論についての講義
第3回	認知行動療法1	第三世代認知行動療法の技法と理論についての講義
第4回	認知行動療法2	認知行動療法の職域での活用についての講義
第5回	個別介入の効果	職域での個別介入の効果評価研究についての講義
第6回	ケースマネジメント	ケースマネジメントの実際と効果についての講義
第7回	コンサルテーション	コンサルテーションの有効性と実際についての講義
第8回	コンフリクトマネジメント	コンフリクトマネジメントが求められる場面と有効な対応についての講義
第9回	惨事ケア	惨事における個人、集団への有効な介入に関する講義
第10回	ファシリテーション	ファシリテーションの有効な方法についての講義
第11回	職場環境改善	職場環境改善の有効な方法についての講義
第12回	調査・分析と提案	職域における各種調査結果の分析とより良い提案に関する講義
第13回	組織介入の効果	職域での組織介入の効果評価研究についての講義
第14回	まとめ	これまでの学びの振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

「産業心理職のコンピテンシー その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・島津美由紀・高原龍二編著（川島書店、2023）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法

< 研究テーマ >

働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ

< 主要研究業績 >

1) Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). *Frontiers in Psychology*. 11:1711.2020.

2) 産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推定:デルファイ法による検討. *産業ストレス研究*. 27(2):263-271. 2020.

3) What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Frontiers in Psychology*. 11:528656. 2020.

### 【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

**人間福祉特別演習 I**

伊藤 正子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士学位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

**【到達目標】**

テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**  
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

**【授業の進め方と方法】**

まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式での開講。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討
第24回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第28回	まとめ	データ収集のスケジュール検討とまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行うておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めず、適宜資料を配付する。

**【参考書】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

1. 演習への積極的参加（20%）

2. 演習内課題（50%）

3. 博士論文構想発表会(30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

**【その他の重要事項】**

医療機関・外国人支援N G Oソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

**【担当教員の専門分野等】**

&lt;専門領域&gt; 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

&lt;研究テーマ&gt; マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

**【Outline (in English)】**

This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a dissertation. Students will be expected to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation(30%),and in-class contribution (20%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

岩田 美香

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けて、基礎的な研究、研究計画の検討など、論文構想を練り上げる。

### 【到達目標】

博士論文研究テーマを決定し、さまざま研究方法論（歴史研究、理論研究、政策研究、比較研究など）ならびに、先行研究をレビューし、仮説の設定、フィールドワークなど実証研究の方法を用いて、博士論文執筆にむけての研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

・博士論文を執筆するための先行研究レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討などについて、個別指導を行う。また、博士論文構想発表会が予定されていることから、それに向けての指導・支援を行う。  
・課題のフィールドバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究指導の説明
第2回	関心領域・テーマ検討1	関連領域の研究動向の整理
第3回	関心領域・テーマ検討2	関連領域の研究動向を報告
第4回	関心領域・テーマ検討3	海外論文の動向を整理
第5回	関連領域・テーマ検討4	海外論文の動向を報告
第6回	先行研究のレビュー1	先行研究の検索と整理
第7回	先行研究のレビュー2	先行研究の報告
第8回	先行研究のレビュー3	先行研究の検討
第9回	研究仮説の検討1	研究課題と仮説の設定
第10回	研究仮説の検討2	研究課題と仮説の検討
第11回	研究仮説の検討3	研究課題と仮説の明確化
第12回	研究方法の検討	研究デザインと研究方法の明確化
第13回	博士論文構想発表会準備	研究目的、背景、研究計画の明確化
第14回	中間総括	構想発表会後の反省、研究課題再検討
第15回	秋学期の研究指導の概要	秋学期の計画の検討・確定
第16回	夏季中の課題報告	夏季中に実施したプレ調査の成果報告
第17回	調査研究構想の明確化1	研究テーマと調査検討
第18回	調査研究構想の明確化2	研究テーマと調査の確定
第19回	探索的調査の検討	研究調査に向けての課題設定
第20回	探索的調査の実施1	研究テーマに基づく調査研究実施
第21回	探索的調査の実施2	研究テーマに基づく調査研究まとめ
第22回	調査結果の検証1	調査結果の報告
第23回	調査結果の検証2	調査結果の分析
第24回	調査結果の検証3	調査結果の考察
第25回	研究計画書の明確化1	調査研究と論文章構成の検討
第26回	研究計画書の明確化2	調査研究と論文章構成の報告
第27回	研究計画書の明確化3	調査研究と論文章構成の再検討

第28回 総括

1年間の総括と今後の研究課題検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・計画的に博士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメを用意して演習に臨むこと。  
・本授業の準備・復習時間は各回8時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

### 【参考書】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（20%）、演習内課題（50%）、博士論文構想発表会（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論  
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等、
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

### 【Outline (in English)】

This course focuses especially on the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their doctoral dissertation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation (30%), and in-class contribution (20%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 II

佐野 竜平

配当年次/単位数：2年次/4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

先行研究のレビューと研究骨子の検討に継続しつつ、積み上げてきたテーマ、仮説および方法に基づく主要な研究活動を行う。

### 【到達目標】

研究の根幹に関わる重要な内容に踏み込むために必要な研究活動を実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

履修生との間で研究スケジュールに沿ったタイムリーなやり取りの仕組みを継続する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。学習支援システムやその他オンラインツールを利用して課題等のフィードバックを行っていく。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション前半	年間および春学期の計画・方針の確認
第2回	テーマの検討 (再考)	研究テーマの意見交換 (再考)
第3回	テーマの設定 (再考)	研究テーマの確立 (再考)
第4回	調査手法の検討 (再考)	テーマに基づく調査手法の議論 (再考)
第5回	調査手法の確立 (再考)	テーマに基づく調査手法の確認 (再考)
第6回	先行研究の見直し (再考)	先行研究の追加 (再考)
第7回	先行研究のレビュー (国内分の再考)	先行研究の見直し (国内関連)
第8回	先行研究のレビュー (海外分の再考)	先行研究の見直し (海外関連)
第9回	研究課題の整理 (再考)	研究課題の見直し (再考)
第10回	前年度フィールド調査見直し	前年度フィールド調査の確認
第11回	今年度フィールド調査準備	今年度フィールド調査の準備
第12回	今年度フィールド調査計画	今年度フィールド調査の計画
第13回	今年度フィールド調査実施	今年度フィールド調査の実施
第14回	これまでの振り返り	達成度の確認と課題の明確化
第15回	オリエンテーション後半	秋学期の計画・方針を確認
第16回	進捗状況の報告準備	課題への対応の整理
第17回	進捗状況の報告	課題への対応に関する意見交換
第18回	章立て (再考)	章立て案の作成 (再考)
第19回	仮説の検討 (再考)	研究仮説を検討 (再考)
第20回	仮説の整理 (再考)	研究仮説の設定 (再考)
第21回	研究方法の確認	課題解決の研究方法を確認
第22回	研究方法の具体化 (再考)	課題解決方法の設定 (再考)
第23回	データ分析の検討 (再考)	研究テーマに沿ったデータ分析の検討 (再考)
第24回	データ分析の準備 (再考)	研究テーマに沿ったデータ分析の準備 (再考)
第25回	データ分析の実施 (再考)	研究テーマに沿った調査の実践と検証 (再考)

第26回 データ分析の再確認 研究テーマに沿ったデータ分析をレビュー

第27回 草案の発展 表出した内容の昇華

第28回 草案の見直し 内容の確認と修正

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

### 【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

### 【成績評価の方法と基準】

研究成果の報告 (ペーパー) 50%、報告 (プレゼン) 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

院生による様々なアイデアを応用。

### 【学生が準備すべき機器他】

研究を進めるための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)。論文執筆にかかるとする諸準備。

### 【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

### 【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

### 【Outline (in English)】

【Course Outline】 While working on the literature review and reviewing previous studies, core research activities for the proposed research will be conducted based on the research theme, hypothesis, and research methods.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to carry out the main research activities necessary for developing key content for the dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined based on in-class contribution (50%), reports, and presentations (50%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的实践を学ぶ。

### 【到達目標】

カルチュラル・コンピテンスおよび反抑圧的实践の重要概念を説明できる。  
 マジョリティ側の特権や抑圧について意識し、説明できる。  
 移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義では、エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践についてアメリカを中心として概観し、その上で近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	マイノリティについて	マイノリティとは何かーインターセクショナルリティ概念
第3回	マジョリティについて	マジョリティの特権と抑圧
第4回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史の変遷
第5回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第6回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第7回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第8回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第9回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第10回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	反抑圧的ソーシャルワーク
第11回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論⑤	カルチュラル・コンピテンス
第12回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第13回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第14回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求められることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 講義内発表と討論参加(50%)
2. 課題の提出(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論  
 <研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

### 【Outline (in English)】

This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities issues in Japan and anti-oppressive practice of social work. At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding the reality of ethnic minorities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), and in-class contribution(50%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 II

末武 康弘

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

### 【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

特別演習 I に引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年度目標と課題の確認	博士論文作成のために今年度達成すべき目標と課題を確認します。
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索します。
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集します。
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析します。
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討します。
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査します。
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習 I で確定した研究デザインを再検討します。
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習 I で確定した研究デザインを洗練します。
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習 I で確定した研究方法を再検討します。
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習 I で確定した研究方法を洗練します。
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習 I で確定した研究デザインと研究方法を洗練します。
第12回	論文投稿の準備1	博士論文提出の条件となる学会誌あるいは大学院紀要への論文投稿について、その準備を指導します。
第13回	論文投稿の準備2	大学院紀要や学会への投稿論文のデータ収集について指導します。
第14回	論文投稿の準備3	大学院紀要や学会への投稿論文のデータの分析について指導します。
第15回	研究倫理の指導	大学院紀要や学会への投稿論文の研究倫理について指導します。
第16回	論文執筆の指導1	大学院紀要や学会への投稿論文の書き方について指導します。
第17回	論文執筆の指導2	大学院紀要や学会への投稿論文の目的の書き方について指導します。
第18回	論文執筆の指導3	大学院紀要や学会への投稿論文の方法の書き方について指導します。
第19回	論文執筆の指導4	大学院紀要や学会への投稿論文の結果の書き方について指導します。

第20回	論文執筆の指導5	大学院紀要や学会への投稿論文の考察の書き方について指導します。
第21回	論文執筆の指導6	2本日以降の投稿論文執筆の指導を行います。
第22回	論文執筆の指導7	2本日以降の投稿論文の目的の書き方について指導します。
第23回	論文執筆の指導8	2本日以降の投稿論文の方法の書き方について指導します。
第24回	論文執筆の指導9	2本日以降の投稿論文の結果の書き方について指導します。
第25回	論文執筆の指導10	2本日以降の投稿論文の考察の書き方について指導します。
第26回	博士論文執筆の指導1	博士論文作成に向けたスケジュールの指導を行います。
第27回	博士論文執筆の指導2	博士論文の構成の組み立て方について指導します。
第28回	博士論文執筆の指導3、まとめ	博士論文の展開について指導し、指導のまとめを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、投稿論文の執筆、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（70%）と投稿論文の内容（30%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度はアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法  
 <研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究  
 <主要研究業績>  
 ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)  
 ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）  
 ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門（共編著、金子書房、2016年）

### 【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義 I

伊藤 正子

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおけるクライアント理解の視点を学ぶ。

### 【到達目標】

グローバル時代における抑圧の構造と生活問題の特質を説明できる。  
クライアントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず、生活を規定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点を、マジョリティの視点とマイノリティの視点の双方から、正義の原理、ケアと責任の原理およびポストコロナル・社会構成主義、それぞれの特徴を捉え、社会福祉的観点から課題を考察する。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	生活問題論①	経済的規定性
第3回	生活問題論②	生活と人格発達
第4回	生活問題論③	集団と人格発達
第5回	生活問題論④	障害と人格発達
第6回	生活問題論⑤	病と人格発達
第7回	生活問題論⑥	文化、宗教、エスニシティとこころ
第8回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動と資本主義的世界システム
第9回	グローバリゼーション時代の生活問題②	新自由主義、マネジリアリズムと個人化
第10回	グローバリゼーション時代の生活問題③	世界都市における生活問題とまとめ
第11回	クライアント理解の視点①	正義の原理とケアと責任の原理
第12回	クライアント理解の視点②	ポストコロナル・社会構成主義
第13回	クライアント理解の視点③	インターセクショナルリティ
第14回	まとめ	クライアント理解の理論的変遷と課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求められることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 講義内発表と討議参加（50%）
2. 課題の提出（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

### 【その他の重要事項】

医療機関・外国人支援NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

### 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論  
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding client condition. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria】 Final grade will be calculated according to the following process: Participation in presentations and discussions during lectures(50%), and term-end examination (50%).

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

## 地域・政策系特殊講義Ⅱ

### 土肥 将敦

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業と社会のインターフェース(境界領域)にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、講義の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。

#### 【到達目標】

「地域・政策系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSRのグローバルな潮流や、社会的企業が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスチョンの導出を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第2回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第3回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第4回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する
第5回	文献輪読①	文献の論点を確認し、自らの研究との関係性を捉える
第6回	文献輪読②	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスチョンを明確にする①
第7回	調査報告①	各自のインタビュー調査の中間報告を行う①
第8回	調査報告②	各自のインタビュー調査の中間報告を行う②
第9回	文献輪読③	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスチョンを明確にする②
第10回	文献輪読④	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する①
第11回	文献輪読⑤	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する②
第12回	文献輪読⑥	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する③
第13回	調査報告③	先行研究のまとめとインタビュー調査の報告①

#### 第14回 調査報告④

先行研究のまとめとインタビュー調査の報告②

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外にも、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

#### 【参考書】

適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%, 研究報告 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論  
<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方  
<主要研究業績>

『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』(単著、千倉書房)

『ソーシャル・ビジネス・ケース』(共著、中央経済社、2015年)

『ソーシャル・エンタプライズ論』(共著、有斐閣、2014年)

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版、2013年)

#### 【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義 I

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

### 【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる  
地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解説、先進事例の分析について中心に取り組む。後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第2回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第3回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第4回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第5回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第6回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第7回	チームアプローチ	理論と実践
第8回	ネットワーク形成	理論と実践
第9回	地域福祉システム	内容と事例分析
第10回	地域福祉計画①	今日的意義
第11回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第12回	地域福祉計画③	課題の明確化
第13回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第14回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）と提出課題の内容（40％）により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の理論と先進事例－』（中央法規）2018年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018年
- ・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

### 【Outline (in English)】

In this lecture, it attempts to understand the concept and theory of the community social work. Also, analyze the case of the community social work.

The goals of this course are to understand the concept and theory of the community social work and analyze the case of the community social work.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

**地域・文化系特殊講義 I**

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」

成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

**【到達目標】**

豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第3回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第4回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第5回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第6回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第7回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第8回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第9回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第10回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第11回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第12回	生活景②	景観を育む取り組み 金沢大野
第13回	生活景③	景観を育む取り組み 伊勢河崎
第14回	生活景④	生活景と都市計画

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

「都市をつくる風景」中村良夫、藤原書店、2010年

「イタリア小さなまちの底力」陣内秀信、講談社、2000年

「生活景」日本建築学会編、学芸出版社、2009年

**【参考書】**

必要に応じて、適宜資料として配付する。

**【成績評価の方法と基準】**

討論への参加 (50%) とレポート (50%) によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

**【その他の重要事項】**

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

**【担当教員の専門分野等】**

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

**【主要研究業績】**

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

「地方都市の再生戦略」(共著) 学芸出版社、2013年

「生活景」(共著) 学芸出版社、2009年

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire that the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for creating affluence of life and directing the individuality of the region, while comparing domestic and overseas.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding the role of "landscape" in advocating a community that can enjoy affluence from the perspective of "policy"

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習Ⅲ

宮城 孝

配当年次／単位数：3年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、オリジナル・データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

### 【到達目標】

得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的・体系的に論文を執筆することができる。  
自らの研究の意義と今後の課題を自覚できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個別的な研究指導による。研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の目標とスケジュールについて
第2回	研究指導	先行研究のレビューの再確認
第3回	研究指導	先行研究のレビューの中間報告
第4回	研究指導	先行研究のレビューのまとめについて
第5回	研究指導	仮説の設定について
第6回	研究指導	仮説の設定の検証
第7回	研究指導	仮説の設定の総括
第8回	研究指導	オリジナルデータの分析について
第9回	研究指導	オリジナルデータの分析の枠組みについて
第10回	研究指導	オリジナルデータの分析のまとめ(妥当性・信頼性)
第11回	研究指導	オリジナルデータの分析の総括
第12回	研究指導	論文の文章化について
第13回	研究指導	論文の文章化についての中間報告
第14回	春学期の総括	研究の到達点の振り返りと中間的総括
第15回	オリエンテーション (秋学期の目標とスケジュール)	秋学期の目標の明確化
第16回	研究指導	論理の体系化について
第17回	研究指導	論理の体系化の中間まとめについて
第18回	研究指導	論理の体系化の総括
第19回	研究指導	総合的な考察の視点と内容について
第20回	研究指導	総合的な考察の中間まとめ
第21回	研究指導	総合的な考察の理論化について
第22回	研究指導	総合的な考察のまとめについて
第23回	研究指導	総合的な考察の文章化について
第24回	研究指導	博士論文の文章化の留意点について
第25回	研究指導	博士論文の文章化についての中間まとめ
第26回	研究指導	博士論文の文章化についての最終まとめ
第27回	研究指導	研究発表について

第28回 秋学期の総括

研究の到達点の振り返りと今後の課題について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の研究指導までに、課題について事前にレポート等にまとめておくこと。本授業の準備、復習時間は、各回4時間を標準とする

### 【テキスト（教科書）】

特になし

### 【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、研究の報告内容60%によって評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑むー』（編集代表）、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探るー』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発ー開発的ソーシャルワークの理論とスキルー』（監訳）丸善、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

For its own research subject, it guide an advice in the setting subject, the research way and so on appropriately. Then it create the research paper of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to A and B

- A. Students can search of the necessary article and data
- B. Students can makes sentences as the research paper.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on research paper(60%), and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%)

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

**福祉臨床系特殊講義Ⅱ**

岩田 美香

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会福祉援助実践を深めていくために、その背景にある理論を実践に展開し、また実践の積み重ねを理論化していくための検討を行う。

**【到達目標】**

本年度は、福祉臨床においても重要となる貧困問題について、その概念や言説、ポリティクスを通して考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを全員が用意し、討論を進めていく。  
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、各自の問題関心の紹介
第2回	貧困の概念、定義、測定基準	なぜ概念が重要なのか
第3回	貧困を定義する1	貧困を定義するためのアプローチ
第4回	貧困を定義する2	絶対的／相対的の二分法を超えて
第5回	貧困を測定する	・「なぜ」と「どのように」の問題 ・「なにか」の問題 ・「だれが」の問題
第6回	不平等、社会的区分、さまざまな貧困の経験1	・不平等、社会階級、二極化 ・貧困の経験 ・ジェンダー ・「人種」と民族
第7回	不平等、社会的区分、さまざまな貧困の経験2	・障害 ・年齢 ・地理
第8回	貧困についての言説1	・「他者化」と言説の力 ・「P」ワード
第9回	貧困についての言説2	・貧困の表現 ・ステイグマ ・尊厳と尊重・敬意
第10回	貧困とエイジェンシー1	・エイジェンシー ・やりくり
第11回	貧困とエイジェンシー2	・やりかえし ・ぬけだし ・組織化
第12回	貧困、人権、シチズンシップ	・声 ・「哀れみではなく力を」
第13回	概念からポリティクスへ	・構造とエイジェンシー ・再分配のポリティクス
第14回	総括：文献全体を通してのディスカッション	自らの研究との関連での検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを用意すること。

・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

ルース・リスター著 松本伊智朗監訳、松本淳・立木勝訳（2023）『【新版】貧困とは何か 概念・言説・ポリティクス』明石書店

**【参考書】**

履修者の関心も含めて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

講義内発表と討議参加（50%）、課題の提出（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【担当教員の専門分野】**

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論

〈研究テーマ〉1. 子育て・子育ての社会的不平等

2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

**【Outline (in English)】**

This course focuses specifically on the theoretical framework for social work practice. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking about social issues related to poverty.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

末武 康弘

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

### 【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	オリエンテーション
第2回	研究計画の概要の検討2	研究の意図を検討
第3回	研究計画の概要の検討3	研究の背景を検討
第4回	研究計画の概要の検討4	研究の目的を検討
第5回	研究計画の概要の検討5	研究の社会的な意義を検討
第6回	研究計画の概要の検討6	研究のオリジナリティを検討
第7回	研究計画の概要の検討7	研究のグローバル性を検討
第8回	研究計画の概要の検討8	研究のアップデートな意義を検討
第9回	研究計画の概要の検討9	研究の臨床的な意義を検討
第10回	研究計画の概要の検討10	研究の倫理性を検討
第11回	先行研究の探索と検討1	研究テーマに関連する先行研究の概要を検討
第12回	先行研究の探索と検討2	研究テーマに関連する先行研究の探索
第13回	先行研究の探索と検討3	研究テーマに関連する先行研究の探索と検討
第14回	先行研究の探索と検討4	研究テーマに関連する先行研究の分析
第15回	研究デザインと研究方法の検討1	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法の概要を検討
第16回	研究デザインと研究方法の検討2	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法のバリエーションを検討
第17回	研究デザインと研究方法の検討3	研究テーマに沿った研究デザインを検討
第18回	研究デザインと研究方法の検討4	研究テーマに沿った研究方法を検討
第19回	研究デザインと研究方法の検討5	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法を検討
第20回	研究デザインと研究方法の検討6	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法をさらに検討

第21回	研究デザインと研究方法の確定1	研究デザインと研究方法の確定に向けた検討
第22回	研究デザインと研究方法の確定2	研究デザインと研究方法を確定
第23回	データ収集と処理検討1	データ収集の方法を検討
第24回	データ収集と処理検討2	データ処理の方法を検討
第25回	データ収集と処理検討3	データ収集と処理の方法を検討
第26回	論文執筆の指導1	大学院紀要等の論文執筆について指導
第27回	論文執筆の指導2	学会投稿論文等の執筆について指導
第28回	論文執筆の指導3、まとめ	博士論文作成の目的と方法の書き方を指導、指導のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（70%）と投稿論文等の内容（30%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度はアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

### 【担当教員の専門分野等】

- <専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法  
 <研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究  
 <主要研究業績>  
 ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)  
 ②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）  
 ③『主観性を科学化する』質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

### 【Outline (in English)】

You learn the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

The goals of this course are to acquire the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (70%), and contributing activity at academic associations (30%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

佐藤 蘭美

配当年次/単位数：1年次/4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

### 【到達目標】

博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第2回	関心領域・テーマの検討1	関心に沿った課題の探索
第3回	関心領域・テーマの検討2	研究課題設定に関する報告
第4回	関心領域・テーマの検討3	研究課題の検討
第5回	関心領域・テーマの検討4	研究課題の設定
第6回	先行研究のレビュー1	先行研究の探索
第7回	先行研究のレビュー2	先行研究の検討
第8回	先行研究のレビュー3	先行研究に関する報告
第9回	先行研究のレビュー4	先行研究の整理
第10回	先行研究のレビュー5	近接領域の先行研究の検討
第11回	研究テーマの仮説検討1	先行研究の精査
第12回	研究テーマの仮説検討2	先行研究の精査と問題の明確化
第13回	研究テーマの仮説検討3	近接領域の先行研究との比較検証
第14回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第17回	研究方法の検討1	論文で用いる研究方法の探索
第18回	研究方法の検討2	論文で用いる研究方法の検討
第19回	研究方法の検討3	論文で用いる研究方法の設定
第20回	研究方法の検討4	研究方法の妥当性の検討
第21回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第22回	探索的調査の実施1	調査の実施
第23回	探索的調査の実施2	調査結果のまとめ
第24回	調査結果の検証1	調査の実施と成果の検証
第25回	調査結果の検証2	調査の実施と成果の報告
第26回	調査結果の検証3	成果のまとめ方と分析方法の検討
第27回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化

第28回 1年間の成果まとめ これまでの総括と今後の展望の議論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

①演習への参加姿勢 20% ②課題提出 40% ③論文構想発表会 40%

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

### 【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67号.2019

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

【Learning Objectives】 The goal of this lecture is to acquire the skills necessary for writing a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), in-class contribution (20%), Doctoral dissertation presentation (40%) .

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

## 地域・政策系特殊講義 I

### 土肥 将敦

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業と社会のインターフェース(境界領域)にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っている。ゼミナールの大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

#### 【到達目標】

企業と社会の関係性を理解するとともに、CSRのグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。また、テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスチョンの導出を行う。COVID-19にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第2回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第3回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第4回	候補文献についての検討	輪読文献を持ち寄り検討する
第5回	文献輪読①	文献内容の把握・理解①
第6回	文献輪読②	文献内容の把握・理解②
第7回	文献輪読③	論点の整理と問題提起①
第8回	文献輪読④	論点の整理と問題提起②
第9回	文献輪読⑤	関連する国内外の事例検討①
第10回	文献輪読⑥	文献内容の把握・理解③
第11回	文献輪読⑦	文献内容の把握・理解④
第12回	文献輪読⑧	論点の整理と問題提起③
第13回	文献輪読⑨	論点の整理と問題提起④
第14回	文献輪読⑩	関連する国内外の事例検討②

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

#### 【参考書】

適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%, 研究報告 50%

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』(単著、千倉書房、2022年)

『ソーシャル・ビジネス・ケース』(共著、中央経済社、2015年)

『ソーシャル・エンタプライズ論』(共著、有斐閣、2014年)

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版、2013年)

#### 【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

**福祉臨床系特殊講義 I**

岩田 美香

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代家族の多様性を原書講読を通して考察する。

**【到達目標】**

- ・諸外国、主にアメリカの家族の現状について家族に関する神話も含めて理解する。
- ・日本の現状も踏まえて、家族の多様性と社会について検討する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・主にアメリカにおける現代家族のペーパーを読み、日本の現状も踏まえた上で討論を進める。
- ・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介、講義の進め方
第2回	Images, Ideals, and Myths	家族をめぐるイメージや神話に関する文献
第3回	Family Diversity 1	家族内の多様性に関する文献
第4回	Family Diversity 2	社会における家族の多様性に関する文献
第5回	Class, Race, and Gender 1	主に階層、人種に関する文献
第6回	Class, Race, and Gender 2	主にジェンダーに関する文献
第7回	Cohabitation and Marriage	同棲と結婚に関する文献
第8回	Parents and Children 1	親子関係に関する文献(乳幼児・学齢期)
第9回	Parents and Children 2	親子関係に関する文献(思春期以降)
第10回	Foster Parent and Adoption	里親と養子縁組に関する文献
第11回	Violence in Families 1	家庭内暴力に関する文献(子どもの虐待とDV)
第12回	Violence in Families 2	家庭内暴力に関する文献(高齢者虐待)
第13回	Divorce and Remarriage	離婚と再婚に関する文献
第14回	Family Policy	家族政策に関する文献

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も、事前にペーパーを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
- ・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

講義内で指定する。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

講義内発表と討論参加（50%）、課題の提出（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【担当教員の専門分野】**〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論  
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

**【Outline (in English)】**

In this course, we will examine family diversity through reading American research papers. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking about family diversity and society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

関谷 秀子

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【Outline (in English)】

We will learn the way environmental factors influence the process of internal development from infancy to early adulthood and acquire basic knowledge of psychodynamic psychotherapy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から初期成人期に至る発達の内的過程とそれに影響する環境要因との関係を理解して、力動的心理療法の基礎知識を得る。

### 【到達目標】

情緒発達とそれに影響する環境要因との関係の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書を用いる。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	口唇期①	口唇期の欲動と対象、目的
第2回	口唇期②	口唇期の防衛、すなわち、現実歪曲、否認、投影、投影性同一視
第3回	口唇期③	欲求充足水準の対象関係
第4回	肛門期①	欲動満足か母親の愛情か→自律性の発生
第5回	肛門期②	反動形成、理性化、合理化、隔離、取り消しやり直し
第6回	肛門期③	肛門期の対象関係
第7回	幼児性器期①	幼児性器期の対象は全体対象である。幼児期対象の性愛化と同性の親との葛藤
第8回	幼児性器期②	男児の去勢不安と女児の分離不安
第9回	幼児性器期③	性別同一性の確立と両親の役割
第10回	潜伏期	超自我の内在化と自我の発達
第11回	思春期	親表象からの脱離給、同性仲間による集団形成と禁止系超自我の緩和・自我理想の改訂
第12回	不安の増大と退行	欲動退行と自我退行
第13回	神経症病理	精神神経症と退行
第14回	パーソナリティ病理	自我親和的な防衛配置（パーソナリティ形成）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

精神分析的発達論の統合② P.タイソン/R・Lタイソン（皆川邦直 監訳）岩崎学術出版社

### 【参考書】

子どもの心理療法 モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

### 【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義Ⅱ

高良 麻子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や分野ごとの縦割りによる弊害への対処を目指した、地域共生社会の実現に向けて、包括的な相談支援体制と地域住民による地域課題への対応のための体制構築に必要なソーシャルワークを理解する。

### 【到達目標】

- ・地域共生社会とは何かを説明できる。
- ・ジェネラリスト・ソーシャルワークを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点から地域共生社会の実現に向けたジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	地域共生社会と背景	地域共生社会とは
第3回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク①	システム理論
第4回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク②	生態学理論
第5回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク③	ストレングスモデル
第6回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク④	エンパワメントアプローチ
第7回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑤	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程： エンゲージメント、アセスメント、プランニング
第8回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑥	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程：計画の実施、モニタリング・評価、終結、フォローアップ
第9回	事例分析①	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：交互作用に注目して
第10回	事例分析②	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ストレングスに注目して
第11回	事例分析③	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：エンパワメントに注目して
第12回	事例分析④	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：マイクロ・メゾ・マクロの循環に注目して
第13回	地域ケア会議	地域ケア会議の機能と方法
第14回	総括	振り返りとまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から地域共生社会等に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーク－社会福祉士による実践事例から－』中央法規  
高良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－スクールソーシャルワーカーの事例から－』かもがわ出版。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論  
高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処』中央法規。  
高良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）、42-54、日本社会福祉学会。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for generalist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義 I

高良 麻子

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題とは何かについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

### 【到達目標】

- ・社会問題とは何かを説明できる。
- ・社会問題を構造的に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、担当者がテキストをまとめて発表し、全員で議論することで、社会問題とは何かを検討する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標) 社会問題の連鎖
第4回	第1章 社会問題過程	クレーム申し立て活動の過程
第5回	第2章 クレーム	クレームとは何か
第6回	第3章 クレーム申し立て者としての活動家	クレーム申し立て者としての活動家の役割
第7回	第4章 クレーム申し立て者としての専門家	クレーム申し立て者としての専門家の役割
第8回	第5章 メディアとクレーム	社会問題過程におけるメディア
第9回	第6章 大衆の反応	世論の測定
第10回	第7章 政策形成	政策形成の流れ
第11回	第8章 社会問題ワーク	政策の実施
第12回	第9章 政策の影響	政策評価にもとづく新たなクレーム
第13回	第10章 時空をかけるクレーム	クレーム申し立てのサイクル
第14回	第11章 構築主義スタンスの使い方	社会問題過程の活用

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

ジュエル・ベスト、赤川学監訳（2020）『社会問題とは何か—なぜ、どのように生じ、なくなるのか？』筑摩書房

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点60%
- ・レポート40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野】

ソーシャルワーク論

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル—「制度からの排除」への対処』中央法規。

高良麻子（2013）『日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践』『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to explore social problems from the perspective of social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

ARSk500J3 (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 500)

**地域・文化系特殊講義Ⅱ**

野田 岳仁

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

**【到達目標】**

「地域・文化系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、地域政策全般に対して、現場の人びとの立場から有効性のある政策論を構想する力を養い、水準の高い学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスションを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	生活論という方法	生活論の系譜とその発展
第2回	生活論からみた現代社会	生活論の有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における研究の位置付けの確認
第7回	民俗学分野における課題論文の輪読	民俗学における課題論文について論点整理
第8回	民俗学における課題論文の討議	民俗学における研究の位置付けの確認
第9回	文化人類学における研究論文の輪読	文化人類学における課題論文について論点整理
第10回	文化人類学における研究論文の討議	文化人類学における研究の位置付けの確認
第11回	観光学における研究論文の輪読	観光学における課題論文について論点整理
第12回	観光学における研究論文の討議	観光学における研究の位置付けの確認
第13回	生活論からみた地域政策	地域政策の課題と展望
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

**【参考書】**

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

討議や発表を含めた平常点 (50%) とレジュメやレポートなどの成果物 (50%) を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを積極的に活用する。

**【その他の重要事項】**

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

**【担当教員の専門分野等】**

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』(単著、筑波書房、2023年)

『Everyday Life-Environmentalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』(共著書、Routledge、2023年)

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019年)

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018年)

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017年)

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成にむけた研究指導を行う。

### 【到達目標】

博士論文にむけて研究計画を明確にする。

先行研究の検討を行う。

第一次調査の設計を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

### 【授業の進め方と方法】

個別指導により、研究テーマの深化と、研究方法論の検討を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画の概略をたてる
第2回	研究計画の概要の検討2	研究目的の明確化をはかる
第3回	研究計画の概要の検討3	基本的な研究動向を整理する
第4回	研究計画の概要の検討4	基本的な研究動向を発表する
第5回	研究計画の概要の検討5	自らの研究のオリジナリティを検討する
第6回	研究計画の概要の検討6	自らの研究のオリジナリティを発表する
第7回	研究計画の概要の検討7	研究方法を検討する
第8回	研究計画の概要の検討8	研究方法を発表する
第9回	研究計画の概要の検討9	研究対象を検討する
第10回	研究計画の概要の検討10	研究対象を発表する
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究（歴史）を検討する
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究（現状）を検討する
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究（課題）を検討する
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究（関連領域）を検討する
第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習5	先行研究（隣接領域）を検討する
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習6	先行研究（研究方法）を検討する
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習7	先行研究（解釈枠組み）を検討する
第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習8	先行研究（国際比較アメリカ）を検討する
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習9	先行研究（国際比較ヨーロッパ）を検討する
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習10	先行研究（国際比較アジア）を検討する
第21回	調査研究の内容の検討1	データクリーニングを行う
第22回	調査研究の内容の検討2	記述統計を検討する

第23回	調査研究の内容の検討3	多変量解析を行う
第24回	調査研究の内容の検討4	解析結果を検討し、仮説との適合性を検討する
第25回	調査研究の内容の検討5	追加の解析について検討する
第26回	調査研究の内容の検討6	追加の解析結果を検討する
第27回	調査研究の内容の検討7	改めて仮説との適合性を検討する
第28回	調査研究の内容の検討8	調査結果の全体を検討する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行い、考察すること。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しませんでした。

### 【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

### 【Outline (in English)】

Research guidance for doctor dissertation preparation.

The goals of this course are to improve doctor dissertation preparation ability.

Students will be expected to have completed the required assignments

after each class meeting. Your study time will be more than four hours

for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in

class contribution: 100%.

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

**臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I**

関谷 秀子

配当年次/単位数：1～3年次/2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、乳児期から幼児期、児童期、思春期青年期そして初期成人期に至る精神分析的発達論の基礎を形成するところにある。

**【到達目標】**

情緒発達の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教科書または論文をあらかじめ指定する。発表の分担を定めてレジュメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	妊娠中	妊娠中の胎児への幻想
第2回	乳児期	乳児期の発達と母親の幻想、愛着
第3回	幼児期前期①	母子の分離と幼児の個体化
第4回	幼児期前期②	自律性の発生と個体化、自己保存
第5回	幼児期後期①	エディプスコンプレクス
第6回	幼児期後期②	男児の去勢不安
第7回	幼児期後期③	女児の分離不安
第8回	児童期（潜伏期）	超自我の内在化、対象関係の拡大、昇華チャンネルの発生と拡大
第9回	思春期①	前、初期、中期（固有の）、後期
第10回	思春期②	親表象からの脱備給と自我理想の改訂、禁止系超自我の緩和、対象関係の拡大
第11回	青年期①	アイデンティティの確立
第12回	青年期②	サイコソーシャル・モラトリアム、孤独感の男女差と種の保存
第13回	青年期③	対象の発見と再発見
第14回	初期成人期	性器統裁とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

精神分析的発達論の統合① P.タイソン/R・Lタイソン（馬場禮子監訳）岩崎学術出版社

**【参考書】**

子どもの心理療法 モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

**【担当教員の専門分野】**

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

**【Outline (in English)】**

We will learn the basics of psychoanalytic development through the period of infantile, childhood, adolescence, and early adulthood. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process : In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

土肥 将敦

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

### 【到達目標】

研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、リサーチ・クエスチョンを構築していく。COVID-19にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第2回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第3回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第4回	調査手法の設定と確認①	調査手法を確認する①
第5回	調査手法の設定と確認②	調査手法を確認する②
第6回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第7回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第8回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第9回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第10回	RQの創出①	問いをたてる①
第11回	RQの創出②	問いをたてる②
第12回	フィールド調査報告①	フィールド調査を踏まえた研究報告①
第13回	フィールド調査報告②	フィールド調査を踏まえた研究報告②
第14回	フィールド調査報告③	フィールド調査を踏まえた研究報告③
第15回	前期の振り返り	前期の達成度を確認し課題を抽出する
第16回	ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する
第17回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況の報告①
第18回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況の報告②
第19回	RQ再設定と仮説導出①	RQの再設定と仮説の導出①
第20回	RQ再設定と仮説導出②	RQの再設定と仮説の導出②
第21回	RQ再設定と仮説導出③	RQの再設定と仮説の導出③

第22回	調査報告①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第23回	調査報告②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第24回	調査報告③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第25回	調査報告④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第26回	章立て案の作成	章立て案を作成する
第27回	追加フィールド調査①	追加のフィールド調査報告①
第28回	追加フィールド調査②	追加のフィールド調査報告②

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100%）をもとに判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『社会的企業者— CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

### 【Outline (in English)】

This course will provide not only the basic skills to produce a high-quality research paper, but also a better understanding of the interpretation of these ethnographic method.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習Ⅲ

末武 康弘

配当年次／単位数：3年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

### 【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやZoom等のオンライン）によって行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画の確認	博士論文作成の年度計画確認
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを再検討
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを洗練
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅱで確定した研究方法を再検討
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅱで確定した研究方法を洗練
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅱで確定した研究デザインと研究方法を洗練
第12回	博士論文の構成の検討1	博士論文の構成の整合性を検討
第13回	博士論文の構成の検討2	博士論文の構成を洗練
第14回	博士論文予備登録の指導	博士論文予備登録のための指導
第15回	博士論文完成の指導1	博士論文を上げるための指導
第16回	博士論文完成の指導2	博士論文のテーマの妥当性の指導
第17回	博士論文完成の指導3	博士論文の論述形式の妥当性の指導
第18回	博士論文完成の指導4	博士論文の論理的整合性の指導
第19回	博士論文完成の指導5	博士論文の論述内容の妥当性の指導
第20回	博士論文完成の指導6	博士論文の研究倫理の検討
第21回	博士論文完成の指導7	博士論文のオリジナリティの検討
第22回	博士論文完成の指導8	博士論文の社会的意義の検討
第23回	博士論文完成の指導9	博士論文の学術的意義の検討

第24回	博士論文完成最終指導1	博士論文を上げるため最終的な指導
第25回	博士論文完成最終指導2	最終的な論述形式の指導
第26回	博士論文完成最終指導3	最終的な論述内容の指導
第27回	博士論文審査に向けた指導	博士論文審査に向けた指導
第28回	博士論文発表に向けた指導、まとめ	博士論文発表に向けた指導とまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（40％）と論文の内容（60％）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度はアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）
- ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門（共編著、金子書房、2016年）

### 【Outline (in English)】

You learn the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.

The goals of this course are to acquire the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (40%), and the content of doctoral dissertation (60%)

SOW500J3 (社会福祉学 / Social Welfare 500)

## 福祉臨床系特殊講義Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をとおして検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

### 【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域福祉領域の研究法	研究テーマに関する研究法の検討について
第2回	テーマに関する研究法	研究テーマに適合した研究法の選択について
第3回	レポートによる報告①	研究対象と研究法の検討
第4回	レポートによる報告②	研究法の選択とデータの収集方法
第5回	地域福祉に関する先行研究について	先行研究の検討
第6回	レポートによる報告③	先行研究の選択とその概要
第7回	レポートによる報告④	先行研究のレビューについての検討
第8回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第9回	地域福祉領域の先進事例について	先進事例の分析の視点
第10回	レポートによる報告⑤	先進事例の分析についての検討
第11回	地域福祉領域におけるデータ分析について	データの分析の視点と方法
第12回	レポートによる報告⑥	具体的なデータ分析と検討
第13回	まとめに向けて	中間的なまとめに向けた検討
第14回	レポートによる報告⑦	中間的なまとめの検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、レポートの提出と報告内容60%により評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

### 【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

### 【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉論

### 【主要研究業績】

- ・『住民力－超高齢社会における地域のチカラ－』（単著）2021年
- ・『仮設住宅 その10年 陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000年

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analyze the case of the community social work.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course A and B.

A To understanding about the practical contents and skills of Community

social work.through the case analysis.

B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and

thinking skills of Community Social work.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Short report(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40%) .

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

関谷 秀子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究目的と方法および研究対象に関すること、データ収集に関すること、データの解析に関すること、得られたデータの解釈に関すること、解釈に関する考察および研究の結論に関することが博士課程レベルに到達する必要がある。

### 【到達目標】

研究の諸段階の各目標が達成されると次の目標を目指す作業に入ることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

到達目標及びテーマに必要な質問と議論を1対1形式で行なう。オフィス・アワーで、課題に対して講評する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの選び方①	展望論文の選択①
第2回	研究テーマの選び方②	展望論文の選択②
第3回	研究テーマの選び方③	展望論文の選択③
第4回	研究テーマと研究目的の決定	十分な先行論文検索から研究の流れと最先端を知る。現在の最先端の状況把握をする。
第5回	フィールドの選び方①	先行研究論文を検索①
第6回	フィールドの選び方②	先行研究論文を検索②
第7回	フィールドの選び方③	十分な先行研究展望から、どのようなフィールドでデータは取りえるか、また、それぞれのメリット・デメリットを考察する。
第8回	研究フィールドの決定	理想的な研究フィールドと現実
第9回	研究方法の選び方①	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。①
第10回	研究方法の選び方②	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。②
第11回	研究方法の決定①	対象群と比較対照、分析方法の決定。
第12回	研究方法の決定②	評価者問信頼性チェックの必要性がある場合、その方法を決定する。
第13回	倫理委員会申請準備	研究倫理委員会規定を踏まえて、誰からどのような研究協力の承諾を得るべきか検討する。
第14回	研究倫理委員会申請	必要な書式を準備して申請する
第15回	研究実施の最終チェック	必要な書類の準備と研究フィールド準備
第16回	研究実施①	データ収集上の問題点のチェック①
第17回	研究実施②	データ収集上の問題点のチェック②
第18回	研究実施③	データ収集上の問題点のチェック③
第19回	研究実施④	データ収集上の問題点のチェック④
第20回	研究実施⑤	データ収集上の問題点のチェック⑤
第21回	研究実施⑥	データ収集上の問題点のチェック⑥

第22回	研究実施⑦	データ収集上の問題点のチェック⑦
第23回	研究実施⑧	データ収集上の問題点のチェック⑧
第24回	研究実施⑨	データ収集上の問題点のチェック⑨
第25回	研究実施⑩	データ収集上の問題点のチェック⑩
第26回	研究実施⑪	データ収集上の問題点のチェック⑪
第27回	論文作成①	目的（実証すべき作業仮説に至る先行研究の展望を含む） 研究方法
第28回	論文作成②	研究方法

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究検索、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは専門雑誌に掲載されている先行研究論文である。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

日々の学習意欲と研究への取り組みの姿勢によって評価する(100%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していないため、授業アンケートを実施していない。

### 【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

### 【Outline (in English)】

Analysis and study of theory at a doctoral level concerning research objective methods and study, and data collection and analysis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the contribution in class.

SOW700J3 (社会福祉学 / Social Welfare 700)

## 人間福祉特別演習 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

### 【到達目標】

博士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成計画の検討①	論文作成の流れの確認
第2回	論文作成計画の検討②	論文の構成案の検討
第3回	論文作成計画の検討③	研究作業スケジュールの確認
第4回	先行研究のレビュー①	関連テーマ①に関する検索結果
第5回	先行研究のレビュー②	関連テーマ①の主要論文の概要
第6回	先行研究のレビュー③	関連テーマ②に関する検索結果
第7回	先行研究のレビュー④	関連テーマ②の主要論文の概要
第8回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の概要整理
第9回	研究仮説の検討①	先行研究から導き出された研究課題の提示
第10回	研究仮説の検討②	研究仮説案の確認
第11回	研究仮説の検討③	研究仮説の修正
第12回	研究方法の検討①	文献調査・参与観察の検討
第13回	研究方法の検討②	量的調査手法の検討
第14回	研究方法の検討③	質的調査手法の検討
第15回	研究構成の検討①	研究のフローの確認
第16回	研究構成の検討②	研究の章立て案の確認
第17回	研究構成の検討③	研究の章立ての修正
第18回	データ収集分析①	調査データの分析
第19回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第20回	データ収集分析③	調査データの分析
第21回	データ収集分析④	分析結果の考察
第22回	論文執筆の指導①	序章に関する指導助言
第23回	論文執筆の指導②	調査対象・研究の方法に関する指導助言
第24回	論文執筆の指導③	調査結果分析に関する指導助言
第25回	論文執筆の指導④	考察素案に対する指導助言
第26回	論文執筆の指導⑤	考察修正に関する指導助言
第27回	論文投稿の指導①	学会への投稿に向けた技術的な指導
第28回	論文投稿の指導②	同上に向けた構成内容の吟味

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

### 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

### 【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

### 【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

### 【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire practically learn the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation according to the field in which each person is interested.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Learn the skills of writing a doctoral dissertation.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

PSY500J3 (心理学 / Psychology 500)

## 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

末武 康弘

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

### 【到達目標】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主にジェンドリンの『パターンを超えて思考する（Thinking beyond patterns）』の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探求します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第2回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンの Thinking beyond patterns の背景を考察します。
第3回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1 を検討します。
第4回	Thinking beyond patterns 講読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2 を検討します。
第5回	Thinking beyond patterns 講読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3 を検討します。
第6回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4 を検討します。
第7回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5 を検討します。
第8回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1 を検討します。
第9回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2 を検討します。
第10回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3 を検討します。
第11回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4 を検討します。
第12回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5 を検討します。
第13回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6 を検討します。
第14回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト Thinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute. [http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2159.html](http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html)

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を合わせて評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

2023年度はアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年）
- ③ 『プロセスモデル—暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

### 【Outline (in English)】

You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

The goals of this course are to understand the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 近現代デザイン概論

今村 創平

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築院：建築士

都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。

建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

### 【到達目標】

建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。

講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーティズム 田園都市、CIA的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクススペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アバンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粹形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリスム コラージュ 野生の思考、プリコラージュ
9	グリッド	ロウ「コラージュ・シティ」 プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート アートの起源から印象派まで
10	美術史・コンセプト	モダンアート、コンセプチュアル アール、ミニマルアートなど コンセプトとは

11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチュリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルボ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 エモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

今村創平「現代都市理論講義」

ロバート・ヴェンチュリ他「ラスベガス」

コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」

その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【参考書】

講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート(40%)とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいています。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

### 【その他の重要事項】

実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

### 【Outline (in English)】

This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.

Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 近現代デザイン概論

今村 創平

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築院：建築士

都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。

建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

### 【到達目標】

建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。

講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーティズム 田園都市、CIA的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクススペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アバンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粹形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリスム コラージュ 野生の思考、ブリコラージュ ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート アートの起源から印象派まで
10	美術史・コンセプト	モダンアート、コンセプチュアル アール、ミニマルアートなど コンセプトとは

11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチュエリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルボ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 エモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

今村創平「現代都市理論講義」

ロバート・ヴェンチュエリ他「ラスベガス」

コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」

その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【参考書】

講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート(40%)とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいています。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

### 【その他の重要事項】

実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

### 【Outline (in English)】

This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.

Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 近現代デザイン概論

今村 創平

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築院：建築士

都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。

建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

### 【到達目標】

建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。

講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーティズム 田園都市、CIA的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクススペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アバンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粹形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリスム コラージュ 野生の思考、プリコラージュ ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート アートの起源から印象派まで
10	美術史・コンセプト	モダンアート、コンセプチュアル アール、ミニマルアートなど コンセプトとは

11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチュリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルボ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 エモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

今村創平「現代都市理論講義」  
ロバート・ヴェンチュリ他「ラスベガス」  
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」  
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【参考書】

講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート(40%)とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいています。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

### 【その他の重要事項】

実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

### 【Outline (in English)】

This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.

Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

CST500N1 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 景観デザイン概論

萩原 知子、福島 秀哉

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

### 【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う。miroを用いたグループワークを行う。

教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する。
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する。
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する。
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する。
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する。
6	グループディスカッション（2）	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する。
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する。
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する。
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う。

・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木業著・内山久雄編／オーム社

### 【参考書】

景観用語事典（増補改訂第二版）2021、篠原修編／彰国社  
その他授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワーク実施のため、貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

### 【Outline (in English)】

Outline:

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

Objectives:

- 1) To acquire the basics of landscape design and analysis
- 2) To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
- 3) To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure

Learning activities outside of classroom:

To review the concepts and terminology mentioned in each session.

Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

CST500N1 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 景観デザイン概論

荻原 知子、福島 秀哉

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

### 【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う。miroを用いたグループワークを行う。

教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する。
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する。
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する。
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する。
5	グループディスカッション (1)	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する。
6	グループディスカッション (2)	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する。
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する。
9	水辺のデザイン実践 (1)	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
10	水辺のデザイン実践 (2)	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
11	道のデザイン実践 (1)	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
12	道のデザイン実践 (2)	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する。
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う。

・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木業著・内山久雄編／オーム社

### 【参考書】

景観用語事典（増補改訂第二版）2021、篠原修編／彰国社

その他授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワーク実施のため、貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

### 【Outline (in English)】

Outline:

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

Objectives:

- 1) To acquire the basics of landscape design and analysis
- 2) To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
- 3) To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure

Learning activities outside of classroom:

To review the concepts and terminology mentioned in each session.

Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

CST500N1 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 景観デザイン概論

萩原 知子、福島 秀哉

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

### 【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う。miroを用いたグループワークを行う。

教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する。
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する。
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する。
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する。
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する。
6	グループディスカッション（2）	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する。
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する。
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける。
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う。
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する。
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う。

・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木業著・内山久雄編／オーム社

### 【参考書】

景観用語事典（増補改訂第二版）2021、篠原修編／彰国社  
その他授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワーク実施のため、貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

### 【Outline (in English)】

Outline:

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

Objectives:

- 1) To acquire the basics of landscape design and analysis
- 2) To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
- 3) To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure

Learning activities outside of classroom:

To review the concepts and terminology mentioned in each session.

Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

### 【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑 (1)	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑 (2)	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑 (1)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑 (2)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑 (3)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表 (1)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表 (2)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表 (3)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

14 研究発表 (4)

自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特段なし (その都度、紹介する。)

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果(50%)、プレゼンテーション能(50%)力により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

## 【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

14 研究発表（4）

自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特段なし（その都度、紹介する。）

## 【参考書】

適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果(50%)、プレゼンテーション能(50%)力により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

## 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

## 【Outline (in English)】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

### 【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑 (1)	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑 (2)	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑 (1)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑 (2)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑 (3)	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表 (1)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表 (2)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表 (3)	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

14 研究発表 (4)

自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特段なし (その都度、紹介する。)

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果(50%)、プレゼンテーション能(50%)力により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ENV500N1 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。
- ②英語論文を構成する項目(タイトル、アブストラクト、キーワード、序論、材料・方法または実験・理論、結果、考察、結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。
- ③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究論文等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりはA4版4~6ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1)毎回の授業では、各回テーマの解説、履修学生による演習と発表等で構成する。
- (2)授業テーマに「演習」とある回では、授業時間を英語論文作成演習に充てる。
- (3)英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。
- (4)英語論文の典型的な英語構文や例文、ならびに専門用語を収集するため、履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方、授業計画等を把握する。 ・技術系の英語論文特有のスタイル、英語論文を作成するためのテクニックを整理する。
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する。 ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する。 ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する。
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する。
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・序論に含めるべき情報を整理する。 ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する。
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する。
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する。 ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する。
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する。
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する。 ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する。
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する。 ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する。 ・キーワードの決め方を把握する。
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

★第1回\_ガイダンス

【準備学習】

・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な事項を整理しておく。(1時間)

★第2回\_英語論文の基本ルールとテンプレート

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な専門用語等を整理しておく。(1時間)

★第3回\_タイトルの決め方と演習

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・作成した英語タイトルについて、精査しておく。(1時間)

★第4回\_序論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第5回\_序論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第6回\_材料・方法または実験・理論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第7回\_材料・方法または実験・理論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第8回\_結果のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第9回\_結果の作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### ★第10回\_考察のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第11回\_考察の作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### ★第12回\_結論のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第13回\_アブストラクトとキーワードのまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第14回\_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### 【テキスト(教科書)】

・教科書は特に指定しません。

#### 【参考書】

・「理工系の英語論文講座」, 佐藤洋一著, オーム社, 2008年, ¥2,420 ← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成。

・「最短ルートで迷子にならない! 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019年, ¥2,640

・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016年, ¥2,200

・「英語論文ライティング教本 一正確・明確・簡潔に書く技法-I (KS語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018年, ¥3,850

・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009年, ¥1,980

・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017年, ¥1,650

#### 【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート(各自の研究論文等の英語論文)により到達度を測定(点数化)し、100点満点として総合的に成績評価する(60点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ40点、60点とする。

#### 【到達目標と評価の対応】

①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

②英語論文を構成する項目(タイトル, アブストラクト, キーワード, 序論, 材料・方法または実験・理論, 結果, 考察, 結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出せる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。→平常点10点+期末レポート30点=小計40点

・平常点には、課題と質疑応答・発表等が含まれる。

・期末レポートは、各自の研究成果等の英語論文を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価:D)とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

・2023年度授業では、学生による授業評価アンケートの対象外であったため、特段の気づきはないが、2024年度においてもオンライン形式を採用することにより、より一層、履修学生に対する指導を充実させていきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・プリント教材の配布や演習の提出と返却、および各種の連絡に法政大学学習支援システムやWebメールシステムを利用するので、同システムの操作には十分に慣れておくこと。

#### 【その他の重要事項】

・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

#### 【Learning Objectives】

1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.

2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.

3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.

4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).

#### 【Learning activities outside of classroom】

#### # The 1st classroom: guidance

#### < preparation >

You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)

#### < review >

You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)

#### # The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)

#### # The 3rd classroom: title development and its exercise

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should critically review candidate your paper title. (one hour required)

#### # The 4th classroom: development of introduction

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

#### # The 5th classroom: exercise for development of introduction

#### < preparation >

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

#### < review >

You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

#### # The 6th classroom: development of material/ method or experiment/ theory

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

#### # The 7th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory

#### < preparation >

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

#### < review >

You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)

#### # The 8th classroom: development of results

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 9th classroom: exercise for development of results

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the results and critically review the products. (one hour required)

# The 10th classroom: development of discussions

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 11th classroom: exercise for development of discussions

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)

# The 12th classroom: development of conclusions

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 13th classroom: development of abstract and key words

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)

# The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)

**[Grading Criteria /Policy]**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%

2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%

3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%

4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%

# A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.

# Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ENV500N1 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。
- ②英語論文を構成する項目(タイトル、アブストラクト、キーワード、序論、材料・方法または実験・理論、結果、考察、結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。
- ③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究論文等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりはA4版4~6ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1)毎回の授業では、各回テーマの解説、履修学生による演習と発表等で構成する。
- (2)授業テーマに「演習」とある回では、授業時間を英語論文作成演習に充てる。
- (3)英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。
- (4)英語論文の典型的な英語構文や例文、ならびに専門用語を収集するため、履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方、授業計画等を把握する。 ・技術系の英語論文特有のスタイル、英語論文を作成するためのテクニックを整理する。
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する。 ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する。 ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する。
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する。
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・序論に含めるべき情報を整理する。 ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する。
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する。
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する。 ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する。
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する。
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する。 ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する。
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する。 ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する。 ・キーワードの決め方を把握する。
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

★第1回\_ガイダンス

【準備学習】

・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な事項を整理しておく。(1時間)

★第2回\_英語論文の基本ルールとテンプレート

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な専門用語等を整理しておく。(1時間)

★第3回\_タイトルの決め方と演習

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・作成した英語タイトルについて、精査しておく。(1時間)

★第4回\_序論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第5回\_序論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第6回\_材料・方法または実験・理論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第7回\_材料・方法または実験・理論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第8回\_結果のまとめ方

## 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

## 【復習】

・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

## ★第9回\_結果の作成演習

## 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく。

## 【復習】

・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

## ★第10回\_考察のまとめ方

## 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

## 【復習】

・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

## ★第11回\_考察の作成演習

## 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく。

## 【復習】

・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

## ★第12回\_結論のまとめ方

## 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

## 【復習】

・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

## ★第13回\_アブストラクトとキーワードのまとめ方

## 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

## 【復習】

・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

## ★第14回\_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習

## 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく。

## 【復習】

・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

## 【テキスト(教科書)】

・教科書は特に指定しません。

## 【参考書】

・「理工系の英語論文講座」, 佐藤洋一著, オーム社, 2008年, ¥2,420 ← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成。

・「最短ルートで迷子にならない! 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019年, ¥2,640

・「理工系なら必ず知っておきたい英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016年, ¥2,200

・「英語論文ライティング教本 一正確・明確・簡潔に書く技法-I (KS語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018年, ¥3,850

・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009年, ¥1,980

・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017年, ¥1,650

## 【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート(各自の研究論文等の英語論文)により到達度を測定(点数化)し、100点満点として総合的に成績評価する(60点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ40点、60点とする。

## 【到達目標と評価の対応】

①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

②英語論文を構成する項目(タイトル, アブストラクト, キーワード, 序論, 材料・方法または実験・理論, 結果, 考察, 結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出せる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。→平常点10点+期末レポート30点=小計40点

・平常点には、課題と質疑応答・発表等が含まれる。

・期末レポートは、各自の研究成果等の英語論文を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価:D)とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・2023年度授業では、学生による授業評価アンケートの対象外であったため、特段の気づきはないが、2024年度においてもオンライン形式を採用することにより、より一層、履修学生に対する指導を充実させていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

・プリント教材の配布や演習の提出と返却、および各種の連絡に法政大学学習支援システムやWebメールシステムを利用するので、同システムの操作には十分に慣れておくこと。

## 【その他の重要事項】

・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

## 【Learning Objectives】

1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.

2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.

3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.

4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).

## 【Learning activities outside of classroom】

## # The 1st classroom: guidance

## &lt; preparation &gt;

You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)

## # The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper

## &lt; preparation &gt;

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)

## # The 3rd classroom: title development and its exercise

## &lt; preparation &gt;

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should critically review candidate your paper title. (one hour required)

## # The 4th classroom: development of introduction

## &lt; preparation &gt;

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

## # The 5th classroom: exercise for development of introduction

## &lt; preparation &gt;

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

## # The 6th classroom: development of material/ method or experiment/ theory

## &lt; preparation &gt;

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

## # The 7th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory

## &lt; preparation &gt;

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)

## # The 8th classroom: development of results

## &lt; preparation &gt;

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

## &lt; review &gt;

You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 9th classroom: exercise for development of results

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the results and critically review the products. (one hour required)

# The 10th classroom: development of discussions

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 11th classroom: exercise for development of discussions

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)

# The 12th classroom: development of conclusions

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 13th classroom: development of abstract and key words

< preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

< review >

You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)

# The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words

< preparation >

You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)

< review >

You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)

**[Grading Criteria /Policy]**

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%

2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%

3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%

4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%

# A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.

# Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.

# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ENV500N1 (環境保全学 / Environmental conservation 500)

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。
- ②英語論文を構成する項目(タイトル、アブストラクト、キーワード、序論、材料・方法または実験・理論、結果、考察、結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。
- ③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究論文等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりはA4版4~6ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1)毎回の授業では、各回テーマの解説、履修学生による演習と発表等で構成する。
- (2)授業テーマに「演習」とある回では、授業時間を英語論文作成演習に充てる。
- (3)英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。
- (4)英語論文の典型的な英語構文や例文、ならびに専門用語を収集するため、履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方、授業計画等を把握する。 ・技術系の英語論文特有のスタイル、英語論文を作成するためのテクニックを整理する。
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する。 ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する。 ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する。
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する。
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・序論に含めるべき情報を整理する。 ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する。
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する。 ・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する。
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、材料・方法または実験・理論を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する。 ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する。
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する。
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして、論文内容に対応した結果を作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する。 ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する。 ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する。
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する。 ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する。 ・キーワードの決め方を把握する。
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する。 ・作成したコンテンツを発表する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

★第1回\_ガイダンス

【準備学習】

・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な事項を整理しておく。(1時間)

★第2回\_英語論文の基本ルールとテンプレート

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り、英語論文文化に必要な専門用語等を整理しておく。(1時間)

★第3回\_タイトルの決め方と演習

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・作成した英語タイトルについて、精査しておく。(1時間)

★第4回\_序論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第5回\_序論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第6回\_材料・方法または実験・理論のまとめ方

【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

【復習】

・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

★第7回\_材料・方法または実験・理論の作成演習

【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく。

【復習】

・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

★第8回\_結果のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第9回\_結果の作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### ★第10回\_考察のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第11回\_考察の作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### ★第12回\_結論のまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第13回\_アブストラクトとキーワードのまとめ方

#### 【準備学習】

・授業解説スライド等を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1時間)

#### 【復習】

・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について、他論文等をあたって収集しておく。(1時間)

#### ★第14回\_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習

#### 【準備学習】

・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく。

#### 【復習】

・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく。(1時間)

#### 【テキスト(教科書)】

・教科書は特に指定しません。

#### 【参考書】

・「理工系の英語論文講座」, 佐藤洋一著, オーム社, 2008年, ¥2,420 ← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成。

・「最短ルートで迷子にならない! 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019年, ¥2,640

・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016年, ¥2,200

・「英語論文ライティング教本 一正確・明確・簡潔に書く技法-I (KS 語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018年, ¥3,850

・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009年, ¥1,980

・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017年, ¥1,650

#### 【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート(各自の研究論文等の英語論文)により到達度を測定(点数化)し、100点満点として総合的に成績評価する(60点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ40点、60点とする。

#### 【到達目標と評価の対応】

①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

②英語論文を構成する項目(タイトル, アブストラクト, キーワード, 序論, 材料・方法または実験・理論, 結果, 考察, 結論)の基本的な考え方や作成方法を習得できる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出せる。→平常点10点+期末レポート10点=小計20点

④卒業研究論文等を題材として、英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる。→平常点10点+期末レポート30点=小計40点

・平常点には、課題と質疑応答・発表等が含まれる。

・期末レポートは、各自の研究発表等の英語論文を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価:D)とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

・2023年度授業では、学生による授業評価アンケートの対象外であったため、特段の気づきはないが、2024年度においてもオンライン形式を採用することにより、より一層、履修学生に対する指導を充実させていきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・プリント教材の配布や演習の提出と返却、および各種の連絡に法政大学学習支援システムやWebメールシステムを利用するので、同システムの操作には十分に慣れておくこと。

#### 【その他の重要事項】

・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

#### 【Learning Objectives】

1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.

2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.

3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.

4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).

#### 【Learning activities outside of classroom】

#### # The 1st classroom: guidance

#### < preparation >

You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)

#### < review >

You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)

#### # The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)

#### # The 3rd classroom: title development and its exercise

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should critically review candidate your paper title. (one hour required)

#### # The 4th classroom: development of introduction

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

#### # The 5th classroom: exercise for development of introduction

#### < preparation >

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

#### < review >

You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

#### # The 6th classroom: development of material/ method or experiment/ theory

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

#### # The 7th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory

#### < preparation >

You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)

#### < review >

You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)

#### # The 8th classroom: development of results

#### < preparation >

You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)

#### < review >

You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 9th classroom: exercise for development of results  
< preparation >  
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)  
< review >  
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)

# The 10th classroom: development of discussions  
< preparation >  
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)  
< review >  
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 11th classroom: exercise for development of discussions  
< preparation >  
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)  
< review >  
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)

# The 12th classroom: development of conclusions  
< preparation >  
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)  
< review >  
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)

# The 13th classroom: development of abstract and key words  
< preparation >  
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)  
< review >  
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)

# The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words  
< preparation >  
You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)  
< review >  
You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)

**[Grading Criteria /Policy]**  
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >  
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%  
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%  
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%  
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%

# A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.  
# Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.  
# You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LAW500N1 (法学 / law 500)

## 知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的ななどな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

### 【到達目標】

好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

対面方式となる。

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する3Dプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21世紀前半の知的財産権論を概括する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860円プラス税

### 【参考書】

その都度、講義中に知らせる。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50%）と期末レポート（50%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考に授業改善に取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

### 【その他の重要事項】

議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多岐な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。

教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。

各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

### 【Outline (in English)】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence and others.

LAW500N1 (法学 / law 500)

## 知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

## 【到達目標】

好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面方式となる。

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する3Dプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21世紀前半の知的財産権論を概括する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860円プラス税

## 【参考書】

その都度、講義中に知らせる。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50%）と期末レポート（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考に授業改善に取り組む。

## 【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

## 【その他の重要事項】

議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多岐な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。

教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。

各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

## 【Outline (in English)】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence and others.

LAW500N1 (法学 / law 500)

## 知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

### 【到達目標】

好むと好まざるに関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

対面方式となる。

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。

後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。

8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する3Dプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21世紀前半の知的財産権論を概括する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

「正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860円プラス税

### 【参考書】

その都度、講義中に知らせる。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50%）と期末レポート（50%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

### 【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

### 【その他の重要事項】

議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多岐な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。

教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。

各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

### 【Outline (in English)】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence and others.

MAN500N1 (経営学 / Management 500)

現代産業論

今橋 隆

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に適用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2回	成熟経済における産業発展	1990年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の3つが重要である。
9回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。

12回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13回	現実への適用	安全保障、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

とくに使用しない。

【参考書】

赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』新世社 2008年  
八田達夫 『ミクロ経済学Expressway』東洋経済新報社 2013年  
イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』

NTT出版 2012年

一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』有斐閣 2013年  
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』NTT出版 2011年

【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。平常点20%、小テスト(レポート含む)40%、期末試験40%という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline (in English)】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1 (経営学 / Management 500)

## 現代産業論

今橋 隆

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に適用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

### 【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2回	成熟経済における産業発展	1990年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の3つが重要である。
9回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。

12回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13回	現実への適用	競争政策、安全保障などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

### 【参考書】

赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』 新世社 2008年  
 八田達夫 『ミクロ経済学 Expressway』 東洋経済新報社 2013年  
 イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』 NTT出版 2012年  
 一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』 有斐閣 2013年  
 ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』 NTT出版 2011年

### 【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。平常点20%、小テスト（レポート含む）40%、期末試験40%という組み合わせで評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

### 【Outline (in English)】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1 (経営学 / Management 500)

現代産業論

今橋 隆

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に適用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2回	成熟経済における産業発展	1990年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の3つが重要である。
9回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。

12回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13回	現実への適用	安全保障、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

とくに使用しない。

【参考書】

- 赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』 新世社 2008年
- 八田達夫 『ミクロ経済学Expressway』 東洋経済新報社 2013年
- イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』 NTT出版 2012年
- 一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』 有斐閣 2013年
- ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』 NTT出版 2011年

【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。平常点20%、小テスト(レポート含む)40%、期末試験40%という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline (in English)】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

ADE500N2 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 建築プロフェッショナル総合演習 1

赤松 佳珠子、志賀 良和、坂田 泉、藤澤 百合

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

### 【到達目標】

- 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
- 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合わせた授業形式による。ワークショップは3分野それぞれ4回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。

### 【合同ガイダンスについて】

A期第1週に建築プロフェッショナル総合演習1および2の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・合同ガイダンス ・ワークショップ/照明 計画とデザイン1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業 (導入段階)
第2回	ワークショップ/照明 計画とデザイン2	(試行段階)
第3回	ワークショップ/照明 計画とデザイン3	(発展段階)
第4回	ワークショップ/照明 計画とデザイン4	発表および講評
第5回	ワークショップ/建築 企画デザイン1	(導入段階)
第6回	ワークショップ/建築 企画デザイン2	(試行段階)
第7回	ワークショップ/建築 企画デザイン3	(発展段階)
第8回	ワークショップ/建築 企画デザイン4	発表および講評
第9回	建築家の職能意識1	・セミナー形式による授業
第10回	建築家の職能意識2	・セミナー形式による授業 ・発表および講評
第11回	ワークショップ/グラフィックに関わるデザイン1	(導入段階)
第12回	ワークショップ/グラフィックに関わるデザイン2	(試行段階)
第13回	ワークショップ/グラフィックに関わるデザイン3	(発展段階)
第14回	ワークショップ/グラフィックに関わるデザイン4	発表および講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて授業内で紹介

本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書はないが必要な参考文献は授業内で紹介する

### 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

### 【成績評価の方法と基準】

レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする

配分：レポート10%、ワークショップ成果物30%×3回

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、デジタルカメラ、必要に応じて授業内に指定されたソフト

### 【その他の重要事項】

- ・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
- ・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
- ・A期第1週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習1・2合同ガイダンス」にて抽選を行うので、1または2を履修希望する学生は必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
- ・希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.

#### 【Learning Objectives】

- To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.
- To deepen students' understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Instructions will be given at the time of guidance.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.

Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30% x 3 times

ADE500N2 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

**建築プロフェッショナル総合演習2**

赤松 佳珠子、石渡 智秋、鈴木 研一、畠中 克弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

**【到達目標】**

1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学部建築学ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合わせた授業形式による。ワークショップは3分野それぞれ4回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。

**【合同ガイダンスについて】**

A期第1週に建築プロフェッショナル総合演習1および2の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業
第2回	建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営2	・セミナー形式による授業 ・発表・講評
第3回	ワークショップ/コミュニティデザイン1	(導入段階)
第4回	ワークショップ/コミュニティデザイン12	(試行段階)
第5回	ワークショップ/コミュニティデザイン13	(発展段階)
第6回	ワークショップ/コミュニティデザイン14	発表・講評
第7回	ワークショップ/建築写真と撮影手法1	(導入段階)
第8回	ワークショップ/建築写真と撮影手法2	(試行段階)
第9回	ワークショップ/建築写真と撮影手法3	(発展段階)
第10回	ワークショップ/建築写真と撮影手法4	発表・講評
第11回	ワークショップ/建築音響計画とデザイン1	(導入段階)
第12回	ワークショップ/建築音響計画とデザイン2	(試行段階)
第13回	ワークショップ/建築音響計画とデザイン3	(発展段階)
第14回	ワークショップ/建築音響計画とデザイン4	発表・講評

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ガイダンス時に指示される

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はないが、必要な参考文献については授業内で指示される

**【参考書】**

必要に応じて授業内で紹介

**【成績評価の方法と基準】**

レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする

配分：レポート10%、ワークショップ成果物30%×3回

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートPC、デジタルカメラ

**【その他の重要事項】**

・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。

・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。

・A期第1週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習1・2合同ガイダンス」にて抽選を行います。プロ演習2を履修希望する学生も必ず「合同ガイダンス」に出席すること。

・履修希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.

**【Learning Objectives】**

1. To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.

2. To deepen students’ understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly.

**【Learning activities outside of classroom】**

Instructions will be given at the time of guidance.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

**【Grading Criteria /Policy】**

Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.

Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30% x 3 times

ADE500N2 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 建築構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築構造物をもつべき適切な骨格を描き出す創造的行為が構造デザインである。そして、構造デザインは、科学や技術だけではなく多くのものと結びついている。審美、歴史、文化、哲学、思想、経済・・・一般的に構造設計としてイメージされる構造計算は、この活動において、仕上げの筆を加え、その構造物が要求にそった強さや健全さを持っている事を証明することにすぎない。そのような段階に入る前に統合的な判断に基づく基本的な構造概念の構築を行う必要があり、それが構造計画である。本授業では、このような構造計画から構造計算までの一連の構造デザインの流れについて、著名な構造設計者の例を研究するとともに、実際の構造物の設計を通して体感する。

### 【到達目標】

構造計画立案のための基本的な構造原理や著名構造設計者などの専門家の言葉を理解する力の養成と、我が国の構造関係技術基準の把握、それに適合した構造設計・構造計算法の理解を到達目標とし、その過程で構造デザインの真髄の一端に触れる事をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP6」、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まずはじめに、著名構造設計者の設計例を調査し、その拠り所となる構造原理、推進力となる設計思想、手だてとしての設計手法を整理・研究する。その際には構造模型なども作製し五官を総動員させながら構造デザインの神髄の理解に努める。その後、日本における構造関係技術基準を総覧した上で、実際に自分の力で建築物の構造設計に取りかかり、構造設計図書をまとめる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス 構造デザインとは
第2回	事例研究	著名構造設計者の文献・作品調査 設計思想・設計手法の把握
第3回	事例研究	構造模型製作 構造原理の把握
第4回	事例研究	発表会
第5回	構造関係技術基準	構造関係規定の構成と要求性能 仕様規定・構造計算規定 荷重・外力 耐震計算
第6回	構造関係技術基準	許容応力度・材料強度 鉄骨造の技術規準 鉄筋コンクリート造の技術規準
第7回	設計演習（課題設定）	課題設定エスキス 与条件の把握
第8回	設計演習（構造計画）	要求性能・設計方針決定 荷重表作成 仮定断面の設定
第9回	設計演習（構造計画）	構造解析モデルの作成 略構造図の作成
第10回	設計演習（構造解析）	応力計算 変形計算
第11回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 柱の断面検定 梁の断面検定
第12回	設計演習（構造計算）	耐震壁の断面検定 許容応力度計算 接合部の断面検定 2次部材の断面検定 基礎の断面検定
第13回	設計演習（構造計算）	層間変形角の検討 剛性率・偏心率の検討 保有水平耐力の検討
第14回	設計演習（構造図）	基礎伏図の作成 梁伏図の作成 軸組図の作成 部材リスト図の作成 構造詳細図の作成

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査および構造模型製作、発表会のための資料作成、構造設計図書の作成とそのための学習など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では、これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

とくになし。

### 【参考書】

とくになし。

### 【成績評価の方法と基準】

授業内発表（30%）、期末レポート（構造設計図書）（70%）

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

情報教室のPCもしくは配布ノートPC

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

Structural design is the creative act of drawing out the appropriate framework that a building structure should have. Structural design is not only related to science and technology, but also to many other things. Aesthetics, history, culture, philosophy, ideology, economics, and so on. Structural calculations, which are generally thought of as structural design, are just a way to add the finishing touches to this activity and prove that the structure is strong and sound enough to meet the requirements. Before entering such a stage, it is necessary to construct a basic structural concept based on an integrated judgment, which is structural planning. In this class, we will study the examples of famous structural designers and experience the flow of structural design from structural planning to structural calculation through the design of actual structures.

### Learning Objectives:

The course aims to cultivate the ability to understand basic structural principles and the words of famous structural designers and other experts for structural planning, to grasp the technical standards related to structure in Japan, and to understand structural design and structural calculation methods that conform to these standards, and in the process, to touch the essence of structural design.

### Learning activities outside of classroom:

Independent study outside of class time is very important, such as literature research, structural model making, preparation of materials for presentations, and preparation of structural design documents and study for them. In the class, students are mainly expected to explain the progress of their work and confirm any questions they may have. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on in-class presentations and final reports.

OTR500N3 (その他 / Others 500)

## 都市環境デザイン工学基礎2

高見 公雄、酒井 久和、内田 大介

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部で学習した基礎的な教科のうち、空間の視覚モデル化とその表現、景観デザイン、地盤力学と地盤環境、構造力学と鋼構造に関する知識のエッセンスを再確認する。

## 【到達目標】

上記内容について基礎的な能力を修得とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

上記内容について講義と演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、土の物理量、土の分類と力学的性質	土の物理量、土の分類と力学的性質についての演習問題と解答、関連する講義
2	地盤内の水の動き	地盤内の水の動きについての演習問題と解答、関連する講義
3	圧密沈下量、圧密時間	圧密沈下量、圧密時間についての演習問題と解答、関連する講義
4	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法についての演習問題と解答、関連する講義
5	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する2・3次元物体の応力と変形	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する2・3次元物体の応力と変形についての演習問題と解答、解説
6	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法(1)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説
7	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法(2)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説。関連する講義
8	トラス構造の部材力と変形の計算方法	トラス構造の部材力と変形の計算方法についての演習問題と解答、解説
9	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法についての演習問題と解答、解説
10	土地区画整理事業の成果	都市計画の母、と呼ばれる土地区画整理事業がこれまでのわが国の都市整備に果たしてきた役割を理解する
11	土地区画整理事業の事業計画の仕組み	土地区画整理事業の国庫補助の仕組みを始め、市街地の設計が事業収支にどう影響するかなど、事業構造のポイントを知る
12	例題市街地の設計	都内の具体的な地区を取り上げ、土地区画整理事業にて整備するとした場合の市街地設計を行う
13	例題市街地の設計に基づく土地区画整理事業の事業計画検討	設計した市街地に、現状の地価、整備後の可能処分価格、整備事業費などから、事業計画としての成立性について検討する
14	土地区画整理事業としての成立性	望ましい市街地形成に向けて、現実的な事業費検討を踏まえた事業計画案をとりまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に無し。適宜指示する。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポートによる(100%)。遅刻・欠席は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓

## 【その他の重要事項】

3名の教員は、それぞれ都市計画、橋梁設計、土構造物設計に実務者として携った経験を有し、その知見を活かした講義を行う。

## 【Outline (in English)】

The program objectives of Basics of Civil Engineering 2 are to confirm fundamental knowledge and skills related to structural engineering, steel structure, geomechanics, environmental geotechnics, landscape and city planning.

・ Grading Criteria

The goals of this course are to acquire the contents of above outline.

・ Learning activities outside of classroom

Review each class meeting. Standard study time is 2 hours for each time.

・ Grading Criteria

Grading will be decided based on each time exercises.

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 災害リスクマネジメント

竹末 直樹、細川 雅則、真下 義章、泉 千年、加古 聡一郎、溝口 宏樹

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の様々なインフラの計画、建設、維持・管理における災害リスクおよびその対応・対策について、経験に基づく事例紹介や解説を行う。講義を通じて、インフラの災害リスク・対応の現状、最新動向、課題等の把握・理解を深めることを目的とする。

### 【到達目標】

- 1) リスクマネジメントの概念・手法を理解する。
- 2) 自然・労働などの災害リスクおよび、災害対策の概要・現状を把握する。
- 3) 海外プロジェクトにおけるリスク、その対策を理解する。
- 4) 危機対応における組織の役割や連携、事前対策の重要性について認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

災害リスクに関する講義・説明を受け、質疑応答や演習を通じて理解を深める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リスクマネジメントの概説	リスクマネジメントの概念・手法、適用事例等を紹介し、一部演習を実施する。
2	公共施設マネジメントとリスクマネジメント	リスクを考慮した地方自治体の公共施設マネジメントの手法を紹介し、一部演習を実施する。
3	都市内高速道路の大雪対策	首都高速道路を例に、大雪対応の基本方針、路面凍結予防、除排雪作業、交通情報提供など大雪対策の概要を理解する。
4	アジア開発銀行の紹介とコロナ危機への対応	アジア開発銀行の設立目的や戦略、実績などを紹介する。またコロナ危機にあたっての対応とその成果を検証する。
5	アジア都市鉄道プロジェクト、財源リスクへの対応	アジア都市交通における課題と都市鉄道が果たす役割を取り上げる。また、都市鉄道開発を行うにあたり、直面する財源問題とその対策を協議する。
6	持続可能な開発 (Sustainable Development Goal) とリスク対応	気候変動など世界的な災害リスクの現状を紹介し、アジア開発銀行のSDGへの取組みを、ケーススタディを交えて紹介する。
7	都市内高速道路の地震対策	首都高速道路を例に、高架橋の耐震補強、地震発生時の初動対応、緊急輸送路の道路啓開など大地震への備えを理解する。
8	水害リスクと対策	気候変動と水害リスク、頻発する水害と課題、治水対策の今後の方向性、避難行動と情報について、事例を示しながら解説する。
9	水害対応の実例	令和元年東日本台風での水害対応、国土交通省TEC-FORCEなど、災害対応の実例について、行政での経験談を交えて解説する。
10	日本の社会課題と災害リスクマネジメント	日本の社会課題である人口減少と社会インフラの老朽化について、増加する自然災害発生時の対応状況から問題点を議論する。事例として平成30年7月西日本豪雨災害への対応を解説。
11	老朽化するインフラへの対応と建設会社の役割	社会インフラの老朽化に伴い災害発生時のリスクが増加することへの対応として、官民連携の拡大と建設会社の新たな役割を考える。増加するコンセッション案件の取組を紹介。
12	建設現場のリスクマネジメント	建設現場におけるリスクとしての自然災害、労働災害及び周辺環境に及ぼす影響とその対策を実例を交えて実践的に学ぶ。

- |    |                     |   |
|----|---------------------|---|
| 13 | 建設プロセスにおける防災技術の最前線  | 建設現場での災害リスク軽減に資する防災技術を中心に、近年実用化が進む自動化・機械化技術、ICT、CIM等を用いた建設技術の最新動向を解説。 |
| 14 | 防災減災/災害復旧プロジェクト事例紹介 | 震災復興事業、治水・治山事業など、大規模土木プロジェクトの事例を写真や動画を用いて分かりやすく紹介する。                  |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題、講義への積極的参加を求める。本授業の準備・復習時間は、約各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし。

### 【参考書】

災害危機管理理論入門、吉井裕明+田中 淳、弘文堂  
 防災学原論、岡田憲夫監修、築地書房  
 災害の経済学、馬奈木俊介、中央経済社  
 その他適宜追加する。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート発表60%、小テスト20%、講義における積極的参加度20%。

### 【学生の意見等からの気づき】

担当者変更により講義内容を大幅に変更したため、今後の学生意見を反映して、次年度以降の講義内容・方法について検討を行いたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。  
 講義にPPT使用。適宜資料を配布する。

### 【その他の重要事項】

インフラ関係の管理者側、建設コンサルタント、ゼネコン、国際開発金融機関、経営コンサルタントの実務に携わっている実務者により、それぞれの立場から経験に基づいた講義を行う。

### 【Outline (in English)】

The course introduces case studies based on experience and provides commentary on disaster risk and response/measures in the planning, construction, maintenance, and management of various infrastructures in Japan and overseas. The objective of the course is to deepen understanding of the current status, trends, and unsolved problems of disaster risk and response for infrastructure.

This course's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Reports 60% + Short tests 20% + Activities 20%=100%.

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

材料科学概論

羽原 俊祐

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建設に使用される主要材料の物理的・化学的特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これらの諸材料の材料設計に関する基本的な考え方、ならびにコンクリートの体積変化の種類と制御技術を修得する。

【到達目標】

材料の化学的側面を理解し、材料の諸特性を定量的に評価する技術とコンクリートの体積変化制御技術を身につけることを本授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

今年は休講します。  
社会環境材料としてのセメント系材料の現状や技術的課題、さらに新材料・技術について概説する。具体的な講義内容としては、社会環境材料としてのセメント系材料の物理的・化学的特性、セメント系材料の水和物とその利用、社会環境材料と資源循環、セメント・コンクリートの高性能化・多機能化、コンクリートの空隙と体積変化のメカニズムの概説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 材料科学概論	授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法
2	材料科学的な設計方法の考え方	組成と構造(キャラクター)とその評価方法(キャラクターゼーション)
3	セメント・コンクリートの歴史	セメント・コンクリートの歴史
4	セメント製造プロセスの変遷	セメント製造プロセスの変遷
5	セメントクリンカ原料としての廃棄物利用	廃棄物利用と環境負荷の低減、廃棄物・副産物利用による環境影響評価、廃棄物の利用拡大に向けて
6	CO2削減の取り組み	代替原料の利用と混合セメント LC3 Limestone Calcined Clay Cement
7	セメント系材料の水和と組織形成	水反応と組織形成の研究の意義、ポルトランドセメントの水和、ポルトランドセメントの水和による硬化体組織の形成 カルシウムシリケート系水和物(C-S-H)、エトリンガイト系水和物(AFt相)、モノサルフェート系水和物(AFm相)、水酸化カルシウム

8	混和材料（混和材）	高炉スラグ、フライアッシュ、フライアッシュ、シリカフェーム 石灰石微粉末、もみ殻灰、仮焼スラグ
9	混和剤	・化学混和剤の種類と性能 ・AE剤、AE減水剤・高性能減水剤
10	セメント・コンクリートの高性能化	高強度化・超早強化技術
11	実際の装置、施設の見学・実習1	セメント会社研究所視察を予定
12	実際の装置、施設の見学・実習2	セメント会社研究所視察を予定
13	コンクリートの弱点寸法変化 寸法変化 低減技術	乾燥収縮・自己収縮 膨張 塩害・膨張、硫酸塩劣化・DEF、凍害、アルカリ骨材反応 まとめ・課題発表
14	まとめ・課題発表	まとめ・課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布資料による準備学習・講義した内容の復習  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。パワーポイントおよび印刷物による授業

【参考書】

田沢栄一、佐伯昇 コンクリート工学 微視構造と材料特性 技報堂出版

【成績評価の方法と基準】

レポートによる評価  
成績評価は100点満点として、セメント系材料の熟知度およびセメント関連英文パワーポイントの和訳にて評価し、60点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

セメント業界・大学での研究開発と製造実績の経験を活かし、材料の物理的・化学的特性、コンクリートのひび割れ制御技術ならびに環境に及ぼす影響について解説する。

【Outline (in English)】

(Learning Objectives) In this course students will be expected to fully understand how to use physical and chemical properties of main materials for construction use. In addition, they will be able to learn the basic concept of material design for such construction materials, including types of volume change for concrete and methods of control.  
(learning activities outside of class room)  
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
(Grading Criteria /Policy)  
Grading will be decided based on reports and discussions of student.

ADE500N3 (建築学 / Architecture and building engineering 500)

## 比較都市環境デザイン

高見 公雄、伊藤 香織、橋本 圭央

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では前世紀後半の戦災復興から都市化の時代に、猛烈なスピードで都市が計画され、つくられてきた。21世紀に入り一転して人口減少を最大要因としながら都市化の時代への反省、拡がり過ぎた市街地の集約化の時代を迎えた。このように常に荒波の中にあると言えるわが国の都市整備の環境の中、都市環境デザインの妥当性、あるべき姿を見いだすためには、時間的、空間的な比較の中で、私たちの置かれている状況を認識する力が求められる。当授業はこのような視点に基づき、時間的、地域的、また国際的視野の中で都市環境デザインを捉え評価することを狙いとして進める。

### 【到達目標】

わが国の都市環境デザインの現状を客観的に認識する能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市整備の今後を考える時、現状を的確に判断できる能力が求められる。わが国の多くの都市は中世までそのルーツを遡ることができ、また地勢や気候風土の固有性を背景として多様な都市環境ができあがってきた。一方近代以降の時代においては少なからず欧米の都市づくりの影響を受け、またその後の極端な人口移動等に応じて、その時々求められる量的な課題に応えつつ都市はつくられてきた。このような固有性、外的または社会的影響などを切り口にして、都市環境デザインの今後と現状について論じる（高見 公雄）。都市や地域に関するデータの飛躍的増加に伴い、膨大な情報の中から何を読み取りどのように伝えていくのが重要性を増している。一方、個々の都市に目を向けると、都市ブランディングや市民とのコミュニケーションなど都市の個性を戦略的都市運営に結び付ける試みが盛んになっている。本講義では、世界の状況の視覚化によって都市のグローバルな様相を論じるとともに、都市の個性を育てるコミュニケーションの手法と理念を概観する（伊藤 香織）。近代以降、様々な分野において機能主義的な建築・都市環境の概念形成を批判的に捉えなおすために、人間目線でのミクロな考察や実践が重要とされるようになっている。一方で、そこでの建築・都市環境の概念形成を捉える際に、中世から続く視覚中心主義、近代における動線分離、近代以降における境界・周縁性等の現代まで続く影響に対する人間目線での通時的な考察はこれまであまりなされていない。そのため、本講義では、近代以前から現代までの建築・都市環境の概念形成について、特に人間目線におけるそれらの記述の過程を概観したうえで、その限界と今後の展望を見通す。（橋本圭央）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	過去～戦後復興期の都市と建築	経済成長とともに進められた都市づくり
第2回	安定成長期の都市デザイン	一時代を築いた都市環境デザイン
第3回	フィールドワーク	20世紀末の跡地開発プロジェクトの代表例を現地にて説明、視察
第4回	フィールドワーク	20世紀末の跡地開発プロジェクトの代表例を現地にて説明、視察
第5回	データマイニング	所在情報 情報相互の関連性
第6回	都市の視覚化	意思決定のためのプラットフォーム ステップアップの戦略
第7回	都市の個性とコミュニケーション	良さ・利点の発見と確認 表現方法
第8回	事例研究	市民参加 さまざまなイベント 都市情報センター
第9回	近代以前における建築・都市環境の概念形成	視覚中心主義、および遠近法の影響を確認
第10回	近代における建築・都市環境の概念形成	機能主義、および動線分離の問題を例証
第11回	近代以降における建築・都市環境の概念形成	機能主義批判、および境界・周縁性を検証
第12回	現代における建築・都市環境の概念形成	多自然主義、感覚人類学等、およびネットワーク論の可能性を検討
第13回	各自論ずる比較都市環境デザイン1（発表会）	第12回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する

第14回 各自論ずる比較都市環境デザイン2（発表会） 第12回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に教員より必要な指示が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成のプリントが配布される。

【参考書】

各回の内容に即して参考書の紹介がある。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）並びに研究発表（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

随時に関連情報を捕捉しつつ講義を理解することが望ましく貸与パソコン等を常に携帯することが望ましい。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。担当教員の執務上の都合により、5～12回はリモートまたはオンデマンド方式の授業となる場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn about important observations when considering urban environment, including topics such as period and regions.

Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 社会基盤施設の資産管理

丸山 明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、社会基盤施設の特徴を知り、社会基盤施設の戦略的な資産管理に必要な技術を修得し、修得した能力を実務で発揮できるようになる。社会基盤施設の老朽化による影響を近年の具体的な事例から学び、土木分野におけるアセットマネジメントの特徴を解説し、現状求められる維持管理戦略を学ぶ。一方、個別構造物に発生する変状の種類と特徴、変状の発見と診断、変状の進展予測、変状の最適修繕時期、修繕方法等の短期計画の策定の流れを理解する。中長期計画と短期計画、両者の理解により、インフラマネジメントの全体像、各プロセスの要素技術、PDCAサイクルの重要性を習得し、その結果、学生は、社会基盤施設の運営・管理を効率的に行い、その後、業務を指導できる専門技術者となる。

## 【到達目標】

到達目標は、①社会基盤施設の現状と抱えている課題を正しく理解する。②分野におけるアセットマネジメントの違いや考え方を正しく理解する。③既設構造物にどのような変状（損傷と劣化）が発生するか、またその原因は何かを理解する。④社会基盤設備の中長期維持管理計画、短期修繕計画策定について、その要諦を理解する。⑤社会基盤施設の建設から維持管理、補修・補強、更新までをマネジメントする技術を理解する。最終目標は、①～⑤までを理解し、自分のスキルとすることで実務に活かし、職務遂行能力に優れ、説明責任を適切に果たす能力と倫理観のある優れた技術者となることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義は、建設コンサルタントとして実践経験や学会等で修得した広範囲な知見と技術力によって、社会基盤施設の戦略的管理を実施、指導できる実務型技術者育成を目指す。このような観点から、講義用に作成したパワーポイント及び板書によって各ステップの必要項目を解説し、理解度を高める講義方式を採用する。学生の質問、要望については、臨機応変に対応し、相互理解のもと進める。なお、講義に使用するパワーポイントは、事前に公開し、予習、復習に役立てる。また、社会に出て、即戦力として機能するように、プレゼンテーション能力を高める実務型スタイルも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インフラ施設とその現状	インフラにはどのような施設があり、どのような役割があるかを説明し、インフラが現在どのような状況になるかを解説する。
第2回	自然災害・老朽化による影響(1)	インフラ施設への自然災害や老朽化による影響、近年相次ぐ落橋事故の原因のほか、地震が橋梁に及ぼす影響について解説する。
第3回	自然災害・老朽化による影響(2)	第2回に続き、インフラ施設への自然災害や老朽化による影響、近年相次ぐ落橋事故の原因のほか、地震が橋梁に及ぼす影響について解説する。
第4回	アセットマネジメントとその変遷(1)	なぜアセットマネジメントが必要なのか。そもそもアセットマネジメントとは何かを説明し、土木分野におけるアセットマネジメントと建築分野におけるアセットマネジメントの違い等について解説する。
第5回	アセットマネジメントとその変遷(2)	第4回に続き、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセットマネジメントを解説する。(2)では1990年代から2010年代まで。
第6回	アセットマネジメントとその変遷(3)	第5回に続き、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセットマネジメントを解説する。(3)では2010年代以降、現在まで。
第7回	長寿命化修繕計画	長寿命化修繕計画の詳細と課題を説明する。その上で実践的な長寿命化修繕計画を、事例を用いて解説する。
第8回	新技術の導入(1)	最新のICT技術等を用いた維持管理などを解説する。
第9回	新技術の導入(2)	第8回に続き、最新のICT技術等を用いた維持管理などを解説する。

第10回	官民連携事業(1)	官民連携手法を用いた施設の整備・運営・維持管理について解説する。
第11回	官民連携事業(2)	第10回に続き、官民連携手法を用いた施設の整備・運営・維持管理について解説する。
第12回	住民の維持管理参加	行政ではなく住民自らのインフラ施設維持管理への参加を、事例を用いて解説する。
第13回	資産管理演習	想定した仮想地方公共団体において、与えられた施設状況から行政職員の立場で施設の維持管理方針を定め、その実現までのプロセスについてまとめ、PPTや関連資料を使った発表を行う。
第14回	建設コンサルタントの役割と業務領域	社会基盤施設に関する建設コンサルタントの役割と業務領域について説明する。また、社会基盤施設の戦略的資産管理について講師とのミーティングを通じ、更なるスキルアップを目指して実戦力となるよう導く。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外の社会基盤施設の現状と課題、資産管理手法（インフラマネジメント）に関する事前学習が望ましい。

講義前に公開する講義用資料によって予習し、講義時に疑問点を質問し、理解度を高めるのが好ましい。講義が進む過程で2回程度の課題を講師が設定、課題レポートとしてプレゼンテーション資料を提出する。本授業1回あたりの準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

講義用資料：各講義開始前日までにネットで公開する。

## 【参考書】

- アセットマネジメント導入への挑戦：土木学会
- これならわかる「道路橋の点検」：建設図書

## 【成績評価の方法と基準】

- 演習成果発表の評価：40%
- 課題レポート（1回程度）：30%
- 講義支援体制評価：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も机上理論だけではなく、インフラ資産維持管理の現場での課題や実装に至る障害等について、リアリティを持って講義する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータ（ワード、エクセル、パワーポイントソフト含む）

## 【その他の重要事項】

・新潟市等の地方公共団体に、戦略的維持管理の実装に関して建設コンサルタントの立場で支援してきた教員が、自らの知見とスキルによって戦略的資産管理手法について指導する。  
・即戦力として機能する人材育成が目標であることから、講義中、講義後に分からないこと、知りたいことを積極的にヒヤリングすることが望ましい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

The aim of this course is to learn about infrastructures in civil engineering and skills for their strategic assessment. Practical knowledge and skills obtained from this course can be applied to actual projects. One will learn the impact of aging social infrastructure facilities from recent specific case studies, by deciphering characteristics of asset management in the civil engineering field, and also learn about maintenance and management strategies that are currently required. At the same time, topics such as typical degradation and damage of infrastructure, inspection methods and diagnostics, performance prediction, reinforcing and retrofitting, planning of management and their PDCA cycle will be discussed in class. By understanding both medium-to-long term and short period plans, one will be able to acquire the overall picture of infrastructure management, the elemental technology of each process, and the importance of a PDCA cycle. By taking this course, students will become highly qualified engineers, being able to perform operation and management of infrastructures in civil engineering efficiently and give guidance as a specialist.

## 【Learning Objectives】

Learning Objectives are as follows:

① To be able to properly understand the current situation and challenging issues that infrastructures are facing. ② To be able to properly understand differences and concepts of asset management within the field. ③ To understand what kind of deformation (damage and deterioration) will occur to already-existing structures and trace its cause. ④ To understand the essence and keystone of medium to long term maintenance management plans and short term restoration programs of infrastructure. ⑤ To understand management technology concerning infrastructure from construction to operation and maintenance, repair, reinforcement and renewal. The final objective is to understand ①~⑤, to refine it as your own skill, apply it in practice, maximize job performance and become a leading engineer that has the ability to perform one's duty with clear explanations with a sense of ethics.

**[Learning activities outside of classroom]**

Prior learning is advised, concerning the current situation and challenging issues of infrastructure and the asset management method, both domestic and international.

Students are recommended to study in advance using lecture materials that will be disclosed beforehand and to be able to ask questions to be clarified during the lecture and increase their depth of understanding throughout the lecture. Lecturer will set 2 assignments (approximately) during the course, and presentation materials will have to be submitted as assigned reports. Time for preparation and review per class will be an average of one hour respectively.

**[Grading Criteria /Policy]**

Overall grade in the course will be decided based on the following:

1. Evaluation on presentations of exercise achievements: 40%
2. Assigned reports (1 report assumed): 30%
3. Evaluation on ones' status of supporting the course :30%

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

**鋼橋の点検・診断・対策技術**

杉本 一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、主として鋼橋を対象とした維持管理に関するもので、大学院デザイン工学研究科を対象としたものである。この授業では、鋼橋の維持管理計画、点検、診断、対策などについて紹介する。学生は対策方法、モニタリングなどのケーススタディを通じて基礎的な概念を学ぶことができる。また、維持管理において必要な溶接継手とボルト継手の基礎知識についても習得できる。鋼橋の維持管理の課題の理解を通じて、「土木鋼構造診断士補」レベルとしての素養を身に付けることが期待される。

Final grade will be based on term-end report (70%) and in-class discussion (30%).

**【到達目標】**

鋼橋の維持管理に関連する各種事項の理解に務めると共に、土木鋼構造診断士補と同等の専門的知識を習得することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を行う。授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1・2回	ガイダンス、点検・診断の概要と演習	ガイダンスを行うと共に、鋼橋の点検・診断の概要について述べると共に演習を行う。
第3・4回	主要材料の性質と変遷、接合方法の概要と演習	主要材料の特徴とこれまでの変遷及び接合方法について述べると共に演習を行う。
第5・6回	損傷の種類と測定方法の概要と演習	損傷の種類と測定方法について述べると共に演習を行う。
第7・8回	損傷の点検と測定方法の概要と演習	損傷の点検と測定方法に関して述べると共に演習を行う。
第9・10回	損傷部材の評価の概要と演習	損傷部材の評価方法について述べると共に演習を行う。
第11・12回	補修・補強の概要と演習	補修・補強方法について述べると共に演習を行う。
第13・14回	鋼道路橋、鋼鉄道橋他、鋼構造物に関する損傷と演習	鋼道路橋、鋼鉄道橋他、鋼構造物の損傷に関して紹介すると共に演習を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

鋼構造に関する知識を習得しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

日本鋼構造協会 土木鋼構造物の点検・診断・対策技術  
授業でのプリント配布

**【参考書】**

特に指定しない。（必要に応じて講義で紹介する）

**【成績評価の方法と基準】**

レポートの課題（70%）と授業中の討議（30%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生との対話型の授業を目指します。

**【その他の重要事項】**

鉄道の土木鋼構造物の設計から維持管理業務に携わってきた教員が、土木鋼構造物の維持管理について解説する。

**【Outline (in English)】**

This class mainly introduces the maintenance and management of steel bridges, and is intended for graduate students in the division of civil and environmental engineering.

The class introduces maintenance planning, inspection, diagnosis, countermeasures, etc., for steel bridges through case studies of countermeasures and monitoring of steel bridges.

At the end of the class, the goal is to deepen the understanding of various matters related to the maintenance and management of steel bridges, and to acquire specialized knowledge equivalent to that of a steel infrastructure inspection engineer.

Although the class consists of lectures and exercises, it is important to prepare and review in order to understand of the class.

The standard time of preparation and review is 2 hours each.

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 複合材料構造解析

山本 佳士

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート構造物の設計において利用されつつある、非線形有限要素法と各種要素モデルの概要、およびその利用方法について概説する。

### 【到達目標】

鉄筋コンクリート構造物に対する専門的な知識を習得するきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

鉄筋コンクリート構造物の設計の基本となる数値解析手法および構成則の概説と、構造物設計に関する最近の話題について研究情報を紹介する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	線形有限要素法(1)	仮想仕事式の導出、有限要素離散化の概要
2	線形有限要素法(2)	アイソパラメトリック要素(1次元)
3	線形有限要素法(3)	アイソパラメトリック要素(2次元)
4	線形有限要素法(4)	有限要素法のプログラム実装
5	非線形有限要素法の概要	増分形仮想仕事式、ニュートンラフソン法、収束計算
6	弾塑性構成則(1)	1次元弾塑性構成則
7	弾塑性構成則(2)	3次元弾塑性構成則、von Mises モデル
8	弾塑性構成則(3)	弾塑性構成則のプログラム実装
9	鉄筋コンクリートの構成則(1)	鉄筋コンクリートの非線形材料応答、ひび割れのないコンクリートの構成モデル
10	鉄筋コンクリートの構成則(2)	ひび割れが生じた鉄筋コンクリートの構成モデル
11	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(1)	熱伝導方程式（拡散方程式）の有限要素離散化
12	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(2)	初期ひずみを考慮した非線形有限要素解析の概要
13	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(3)	温度応力解析の概要
14	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(4)	乾燥収縮・クリープ解析の概要

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回講義の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定なし

### 【参考書】

- 非線形有限要素法-弾塑性解析の理論と実践, EA de Souza Neto(原著) D Peric(原著) DRJ Owen(原著) 寺田 賢二郎(監訳), 森北出版
- コンクリート構造物の塑性解析, W.F.Chen(著), 色部 誠(翻訳), 丸善
- 鉄筋コンクリートの非線形解析と構成則, 岡村甫, 前川宏一, 技報堂出版
- 初期応力を考慮したRC構造物の非線形解析法, 田辺忠顕, 技報堂出版

### 【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、毎回の演習課題（60%）、最終レポート（期末テストに準ずる課題）（40%）、とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

なし

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【Outline (in English)】

This course provides an overview of nonlinear finite element methods and various element models that are increasingly being used in the design of reinforced concrete structures, as well as their applications.

The goals of this course are to provide students with an understanding of (1) basic theories of nonlinear finite element methods, (2) material nonlinear constitutive laws for steel and concrete, and (3) basic theories for moisture transfer analysis, heat transfer analysis, and volume change analysis associated with moisture and heat transfer.

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

Grading will be based on each exercise (60%) and a final report (equivalent to a final exam) (40%).

ADE500N3（建築学 / Architecture and building engineering 500）

## サステイナブル都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業の目標は、サステイナブル都市デザイン、即ち持続可能な都市をどのように作るかである。まずは、「地区の課題を見つけ、その解決策としての市街地整備の形を提案する」ということの訓練を行う。授業は演習形式とし、『都市問題を考えつつ、手仕事としての図面、そのテクニック』の習得を中心に進める。

### 【到達目標】

現下の都市整備課題を理解し、自ら設定したテーマに即して例示される市街地においてその解答を見い出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

国の社会資本整備審議会における、サステイナブル都市への指向などを捉え、最新の社会状況を紹介しつつ、各自テーマを見つけ研究を進める。講義と演習を適宜組み合わせる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市街地整備の歴史と到達点	今日までの都市整備の流れ、歴史の概要を理解する。
第2回	人口減少社会における都市づくり サステイナブル都市デザインの課題	今後の持続可能なまちづくりのポイントを理解する。
第3回	状況視察	課題の対象地を視察する。
第4回	状況視察	課題の対象地を視察し、現状を理解する。
第5回	テーマ発表、討論	各自より研究テーマを発表する。
第6回	サステイナブル都市づくり演習（1）課題の抽出と整理	テーマに即して、具体的なまちづくり検討を進める。
第7回	サステイナブル都市づくり演習（2）類似対応策の検索と評価	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第8回	サステイナブル都市づくり演習（3）課題対応の方向性検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第9回	テーマへのアプローチに関する評価	中間的な発表を行い、課題の理解についての講評を得る。
第10回	求められている都市デザインの方向	中間発表を踏まえ、まちづくりのポイントを明らかにしていく。
第11回	サステイナブル都市デザイン演習（1）求められるデザインの指向性	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第12回	サステイナブル都市デザイン演習（2）デザイン案比較検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第13回	サステイナブル都市デザイン演習（3）デザイン案の確定とブラッシュアップ	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第14回	発表、講評	研究成果を発表し、講評を得る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読み社会の動きを理解する。各種報道、専門書などに幅広く接し、都市整備に関する関心を高める。

現地に関する情報収集等のため、個別にフィールドワークを行う必要が生ずると想定される。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義にPPTを使用する。

### 【参考書】

サステイナブル都市に関する最新の刊行物など

### 【成績評価の方法と基準】

課題の選定、取り上げた課題に対応した検討内容(50%)、検討成果と発表(50%)により評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

演習課題の作図には、初期エスキスにおいて定規などの製図器具を用い、仕上げに際しては貸与PC等を使用して、デジタルツールによる図面作成を行う。

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course is a collaboration with Project Studio in the undergraduate program to examine and develop the planning of target districts.

Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3 (土木工学 / Civil engineering 500)

## 構造解析と設計

奥井 義昭

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択  
備考（履修条件等）：都市院：建築士

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁設計法の基本原理を学び、設計に必要な構造解析手法をFEMソフトウェアを用いた実習を通して理解する。

### 【到達目標】

実際の構造解析が実行でき、さらに解析結果を判断し、設計に結びつけられるようになることを目指す。線形弾性解析、粘弾性論、弾塑性解析の内容を理解して実施できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義とPCを用いた実習をほぼ半々で行う。そのため、授業時間には毎回ノート型PCを持参のこと。構造解析のソフト(DIANA)は初回の授業時にインストール方法などを説明する。4/21よりZoomによるオンライン授業を開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、構造物の設計法の概要	授業の全体の概要とソフトウェアの設定、構造物の設計法を概説する。
2	FEMソフトウェアの紹介、信頼性設計理論	汎用FEMソフトの概要を理解する。信頼性設計理論の説明
3	モデル化と線形解析	構造、荷重、境界条件、材料のモデル化、橋梁設計のための格子解析を紹介
4	FEMのデータ作成演習	プリプロセッサを用いて3次元のRC橋脚のモデル作成
5	弾性解析の実施と結果の表示に関する演習	橋脚モデルの弾性解析とポストプロセッサの活用
6	粘弾性論の基礎	粘弾性論をレオロジーモデルを用いて説明する。
7	コンクリートのクリープ	粘弾性論の応用としてコンクリートのクリープの問題を説明する
8	塑性論の基礎：弾性、塑性、降伏関数	鋼材の弾塑性挙動、降伏関数を理解する
9	流れ則と硬化則	鋼材を対象とした流れ則、硬化則を理解する
10	非線形方程式の求解	Newton Raphson法と計算の制御、収束判定について学ぶ
11	弾塑性FEM解析の予備段階として弾性解析の演習	円孔をもつ鋼板のFEM解析、メッシュ作成と弾性解析まで実施する
12	弾塑性FEM解析の演習	円孔をもつ鋼板のFEM解析、メッシュ作成と弾塑性解析までを実施
13	期末レポートの内容とレポートの構成	期末レポートの課題についてレポートの構成、内容について議論する

14 期末レポートの実施 期末レポートの課題を実施する。終わらなかった部分はレポートして後日提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解析ソフトのインストール、授業の復習、レポートの作成、解析ソフトウェアを用いたデータ作成、解析の実行など。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

1冊の教科書に沿って行う授業ではないが、適宜、以下の参考書を参照してください。

### 【参考書】

実践有限要素法シミュレーション、泉聡志、酒井信介共著、森北出版  
塑性の有限要素法、Owen他著、科学技術出版  
非線形CAE協会監修、岸正彦著、構造解析のための有限要素法実践ハンドブック、森北出版

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート40%、期末レポート60%

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート対象外のためアンケート結果なし

### 【学生が準備すべき機器他】

以下の条件を満足するノート型PCを毎回授業に持参してください。

Microsoft Windows 10, 11

(64 bit)

### 【その他の重要事項】

鋼構造物の製作会社に4年間勤務し、鋼橋の設計と研究に従事していた。そのため本授業では設計実務のための基礎的な知識を座学で講義し、構造解析ソフトを用いた実習を行っている。

### 【Outline (in English)】

#### [Course outline]

In this course, students will study the fundamentals of bridge design, and understand structural analysis methods for structural design through practice with FEM software.

#### [Learning Objectives]

To understand standard procedures and methods for design and analysis

#### [Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

#### [Grading Criteria /Policy]

Final grade will be calculated according to mid-term reports (40%) and a term-end report (60%).

LANe500N4 (英語 / English language education 500)

## テクニカルライティング

豊島 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバルゼーションとEmailの普及によって、自らの考えを英語で発信できる能力一特にライティングによるコミュニケーション力一が社会で活躍するための要件となってきました。

この授業の目的は、工学系大学院生にとって特に重要な「具体的かつ論理的にメッセージを伝えられる英語ライティング力を身につけること」です。この目的を達成するために、情報の受け手を常に意識しながら、しっかりと組み立てられた明快な英文を書けるように考え方とスキルを学んでいきます。

### 【到達目標】

英文ライティングにおいて、自分の伝えたいメッセージを相手に正確に伝え、その内容を納得してもらうには、文章のストラクチャー（組立て）がきわめて重要です。

この授業の目標は「読み手にとってわかりやすく機能的な英文を書けるようになること」です。そして、その目標を達成するために工学系大学院生に必須のEmail、CV（英文履歴書）、英語プレゼンテーション原稿、アブストラクトを題材に英語で書く練習をします。特に論文要旨を200ワード程度に凝縮させたアブストラクトを書くには「誰の為」、「何の為にその研究を行ったか」、そして「既存研究と比べてどこが新しいのか」を明示する必要があります。要点をわかりやすく簡潔に表現する能力は、研究活動のみならず、様々な場面で不可欠と言えます。修士論文の冒頭に必要なアブストラクトを自信をもって書けるように授業でしっかり学んでいきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義と実習からなり、オンラインと対面の両方で行います。初回授業はコースの概要と進め方について対面で説明します。尚、学習支援システムの「お知らせ」にオンライン授業用URLをアップロードしますのでご確認ください。

テキストにそって各テーマ（Email, CV, 英語プレゼンテーション、英語要旨等）に関する講義を受けた後、受講者はライティングの課題に取り組みます。テキスト以外にもOWL/Purdue Writing Lab, British Council等の優れた英語学習サイトを題材にして学びを深めます。

受講者は講義後に作成した原稿を相互にピア・レビューしあいます。中間と学期末の課題は口頭発表していただきます。各自のプレゼンテーション技術の向上のため、発表はビデオ撮影し、聞き手である教員、TA、受講者がフィードバックします。ライティングの課題は主として授業中にフィードバックしますが、学習支援システムを通じてコメントする場合があります。

最終課題は修士論文執筆時に必要なアブストラクト（英語要旨）で、各自の研究テーマにそって書き上げます。アブストラクトを執筆する準備としてそれぞれの専門分野の英語論文をレビューし、専門用語や表現を学びます。

尚、詳細な授業計画と内容は初回授業で説明します。授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	テクニカル・ライティング概論	初日はガイダンスとテクニカルコミュニケーションについてお話します。

2	英語ライティングの基本(パラグラフ構造とエッセーについて)	英語のパラグラフ、エッセイの書き方を復習し、実際に書く練習をします。
3	英語論文の書き方 "Keys to Writing Great Papers"の講読	大学院生向けに英語論文執筆の秘訣が書かれた"Keys to Writing Great Papers"を読み、優れた英語論文を書くための心構えと方法を学びます。
4	第3章 英文メール術	英文メールの基礎と構成を学びます。そしてフォーマルとインフォーマルなライティングの違いと書き方を学習します。
5	第3章 英文メール術	さまざまな事例を研究して実際に書く練習をします。
6	第6章 CV、レジメ(英語履歴書)	自分の経歴と業績をCV、レジメのフォーマットにまとめる方法を学びます。
7	第6章 CV、レジメ(英語履歴書)	CV、レジメを実際を書く練習をします。
8	Article Review	各自の専門分野の英語論文をレビューして発表します。発表はビデオ撮影します。発表者はビデオ録画、教員、TA、受講者によるフィードバックを参照して自己省察レポートを書きます。
9	第4章 プレゼンテーションの極意	英語プレゼンテーションの事例研究を行い、実際にロジカルなプレゼンテーションを組み立てる練習をします。
10	第4章 プレゼンテーションの極意	新形態のポストカードプレゼンテーションの練習をします。
11	第1章 アブストラクトの書き方	アブストラクト（英語要旨）の構成を学び、実際に書く練習をします。
12	第1章 アブストラクトの書き方	作成したアブストラクト第一稿をピア・レビューし、フィードバックをもとに原稿を修正して仕上げます。
13	第1章 アブストラクトの書き方	アブストラクトを書いた研究について口頭発表後、アブストラクト最終稿を提出します。発表はビデオ撮影します。発表者は教員、TA、受講者のフィードバックとビデオ録画を参考に省察レポートを書きます。
14	まとめ	第13回目の授業で提出されたアブストラクトを教員が添削し、各受講者にフィードバックします。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の学習内容をテキストにそって予習し、授業にのぞみます。ライティングの課題は各自が期日までに授業外で準備し、授業時にピア・レビューし、グループまたは個人でプレゼンテーションをします。

Midterm Reviewには各自の専門分野の英語論文をレビューして口頭発表していただきますので、紹介する英語論文を探しておいてください。そして、最終課題として各自の研究を題材に英語要旨を書きますので、とりあげる研究テーマ（学部の卒論テーマも可）を考えておいてください。

尚、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

・「ハーバードでも通用した研究者の英語術-ひとりで学べる英文ライティング・スキル」 島岡 要、Joseph A.Moore、羊土社、ISBN978-4-7581-0840-9

#### 【参考書】

・「Keys to Writing Great Papers: Advice for Graduate Students and Young Researcher」(中島エリザベス著、BookWay)  
・Rosenberg, B.(2005). *Technical Writing for Engineers and Scientists*. New Jersey:Pearson Education.  
・Wallwork, A.(2011). *English for Writing Research Papers*.New York: Springer  
・Zemach, D.E., Broudy, D.,&Valvona, C.(2011). *Writing Research Papers - From Essay to Research Paper* . Oxford: Macmillan Education  
・「科学技術系の現場で役立つ英文の書き方」(N.マッカードル、J.T.ムラオカ、時国滋夫著、講談社サイエンティフィック)  
・「ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方」(小野義正著、丸善株式会社)  
・「理系研究者のためのアカデミック・ライティング」(ヒラリー・グラスマン・ディール著、東京書籍)  
・The Purdue Online Writing Lab (OWL) <https://owl.english.purdue.edu/>

#### 【成績評価の方法と基準】

・Midterm Review 22% (Presentation 12%, Paper 10%)  
・課題 28%  
・最終課題 40% (Presentation 12%, Paper 28%)  
・授業への取組み 10 %  
・授業の3分の1を超えて欠席した場合、単位は不可とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「修士論文の冒頭に必要な英語要旨の構成や書き方がわかって、大変ためになった」、「自分の研究分野の英語論文を読む機会ができてよかった」、「学会参加の際に役立つ知識やスキルを学べ、大いに役立った」というコメントをいただきました。ライティング力だけでなくコミュニケーション力を高めるために、日常生活で使用頻度の高い実践的な内容を選び、授業を進めてまいります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加できるデバイスを用意してください。

#### 【その他の重要事項】

ニューヨーク州立大学(UB)で理工系学生(STEM)向けのテクニカル・コミュニケーションを修了し書籍および実務翻訳を手がけてきた教員が、機能的で明快な英文ライティングの書き方を指導します。

#### 【Outline (in English)】

Modern engineers need strong communication skills to be successful in the global world. This course aims to improve graduate students' verbal English communication skills, especially writing skills, to thrive in the worldwide engineering community. The course aims to instruct students on structuring explicit, concise, and audience-directed texts. The 14-week course consists of lectures, writing projects, discussions, and presentations. Students learn to write documents such as e-mail messages, PowerPoint presentation slides, CVs, and academic papers. Also, they will collaborate with their peers to critique the assigned writing tasks. The final goal of this course is to write an English abstract of their research. Before writing their abstracts, students will read English academic articles related to their specializations. They will review the content and make presentations about their chosen articles to familiarize themselves with common phrases and expressions applicable to their writings. Students will make their final presentations on their abstracts.

HUI500N4 (人間情報学 / Human informatics 500)

## ヒューマンサイエンス論

谷 直道、榎原 毅

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様な応用領域でシステムデザインを適用し、社会実装するためには人とシステムの相互作用を分析し、デザイン案へと落とし込むことが不可欠である。本講義ではヒューマンサイエンスの基礎である人間工学の最新知見から、人間の諸特性とモノ・コト・体験のデザインアプローチを習得する。

### 【到達目標】

- ・多様な社会課題の解決策を導出するトレーニングを通じて、人間工学の理論、原則、設計参照データおよび手法を学ぶ
- ・人の諸特性を理解する(身体・認知・行動特性のメカニズムの理解)
- ・世界標準の人間工学に基づく課題解決アプローチを体得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はケースメソッド(課題解決型学習:PBL)方式を多く採用し、実際の社会課題に直結した事例を用いた演習トレーニングを通じて、デザインソリューション提案スキルを獲得する。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヒューマンサイエンス基礎：人間工学とは	本講義の目標と進め方について説明を行う。ヒューマンサイエンスの基礎理論である人間工学の考え方を学ぶ。
2	ケースメソッド (PBL) (1)：現場観察と作業環境デザイン	現場ニーズに基づく課題解決プロジェクトの手続きを学ぶ。オフィス空間やワークステーション設計のソリューション提案の視点を学ぶ。
3	ケースメソッド (PBL) (2)：業種別の課題解決型デザイン 1	システムデザインの観点から業種別の労働災害の課題解決案を検討する。労働災害の約6割を占める腰痛災害を防止するために、製造業の重量物取扱作業を事例としたPBLにより、課題解決のアプローチを学ぶ。
4	PBL解説：ものづくりに活かす生体力学の基礎と国際標準の腰痛リスク評価法	ケースメソッドの解説を通じて、科学的根拠に基づくデザイン(Evidence based design)に必要な生体力学の基礎、国際標準規格ISO11228-1に準拠した腰痛リスク評価法などの理論を学ぶ。
5	ケースメソッド (PBL) (3)：高齢・障害者のQOL向上とアクセシブルデザイン	高齢・身体障害者(車いす利用者)の生活ニーズ・経済状況・住環境などの諸情報を把握し、当事者が望む生活を営めるようにQOL(Quality of Life)を高めるソリューション創出方法を学ぶ。
6	PBL解説：イノベーションのメカニズム	ケースメソッドの解説を通じて、ニーズの把握、ステークホルダ参画型解決、アクセシブルデザインなどの手法を学ぶ。
7	ケースメソッド (PBL) (4)：業種別の課題解決型デザイン 2	システムデザインの観点から業種別の労働災害の課題解決案を検討する。陸上貨物運送業の重量物取扱作業を事例としたPBLにより、課題解決のアプローチを学ぶ。
8	PBL解説：ものづくりに活かすデジタルヘルステクノロジー	アシストスーツ、予防介入アプリなどのデジタルヘルステクノロジー、発荷物のデザインの工夫等の多面的アプローチに加え、IEA(国際人間工学連合)が提唱する、現場に根付く解決策を普及させるためのプロジェクト設計の基礎を学ぶ。

9	ケースメソッド (PBL) (5)：働き方とUXデザイン	働き方改革や人的資本経営(ISO30414:2018)が近年重視される。人が持つ知識・能力・技術などを資本とみなす人的資本の考え方の普及に伴い、新発想の働き方やUXデザインによる解決策が求められる。夜勤交代勤務の検査作業を事例に、システムズ・アプローチによるデザインを学ぶ。
10	PBL解説：システムズ・アプローチによるシステムデザイン	ケースメソッドの解説を通じて、近年人間工学領域で国際的に注目されているシステムズ・アプローチの考え方を身につける。社会実装をはかるためには、企業経営が求めるperformanceと、労働者のwell-being(健康や働きがいなど)の調和を図ることが重要であり、その均衡設計の考え方を学ぶ。
11	行動科学と人の意思決定特性	社会の課題解決に資するソリューションデザインには、人々の行動変容を促し、意思決定を支援するデザインが必要である。システムデザインに応用可能な行動科学の基礎を学ぶ。
12	ケースメソッド (PBL) (6)：サービス・価値デザイン	より実践的な現場ニーズに基づく課題解決プロジェクトの手続きを学ぶ。健康経営の課題解決事例をベースに、従業員の行動変容を促すサービスデザイン、multiple winに基づく価値デザインの考え方を学ぶ。
13	ISO国際標準規格にみる人間工学設計の基本理論	安全・安心・快適なものづくりや製品デザイン、システムデザインを指向するためには、人間工学の要求事項に対応することが求められる。ユーザビリティの定義や測定法・結果報告書式、Human Centered Design(HCD)プロセスなど、国際標準規格ISOで定められている各種人間工学国際規格を概説する。
14	まとめ：これからのヒューマンサイエンスとバックキャスト型デザイン	講義全体を振り返り解説する。また、従来のニーズドリブンのフォアキャスト型デザインではなく、近年注目されているバックキャスト型デザインの考え方や事例を紹介し、ヒューマンサイエンスを応用した課題解決手法を総括する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、PBL課題に関して予習・復習を求められます。授業時間内で受講生間の議論がまとまらない場合は授業時間外での事例検討などが必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は、原則各2時間程度を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

教科書の指定はありません。各回講義ごとに、資料を配布します。

### 【参考書】

講義時に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

・PBLへの参加姿勢・提案内容50%、講義終了時のレポート50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

対面での講義を基本として、本講義全体におけるさらなるアクティブラーニングの導入と、講義手順の改善を行うことで、専門的な知識と実践的な知識をより身につけられるよう努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

### 【その他の重要事項】

様々な人間工学関連の国際標準規格の策定に関わり、歴史ある人間工学誌の編集委員長、国際ジャーナルの編集委員長などを歴任し、国際的にも人間工学の研究と実践をリードする榎原教授の講義を受けられる貴重な機会です。

### 【Outline (in English)】

Course outlines:

Disseminating and implementing system design in the general public or working environment, it is essential to analyze the interaction between humans and systems and apply it to design for solution proposals.

This course aims to learn about understanding the interactions among humans and other elements of a system and to learn how to apply theory, principles, data, and methods to design in order to optimize human well-being and overall system performance.

The lecture mainly adopts a Problem-Based Learning (PBL) approach, and students will acquire the ergonomic skills to propose design solutions through practice training using various case studies directly related to actual social issues.

ART500N4 (芸術学 / Art studies 500)

## 身体表現論

山中 玲子、観世 暁夫、観世 喜正、中司 由起子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本が世界に誇る伝統芸能、能についての基本的な知識を身につけ、その身体表現の特徴を知るとともに、現在の能をとりまく環境（新型コロナウイルス流行や少子高齢化など）の影響を通して、今を生きる能の課題と展望を考える。

## 【到達目標】

- 1) 能について、参考書を丸写しにした知識だけではなく、自分の言葉で説明できる。
- 2) 能の謡や所作の基本、舞台や装束の特性等を、体験によって知り、自分の言葉で伝えることができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

オムニバス方式の授業である。授業日程には通常と異なる部分があるので、「授業計画」でよく確認してほしい。

- 1) 映像資料も用いながら能についての基礎知識を学ぶ授業と、2) 第一線で活躍中の能楽師による、「役者の身体やその基礎となる稽古」「現代における能の公演形態の問題等を考える授業」を組み合わせ、現代の能楽に関する総合的な知見を身につけていく。能楽堂における実地授業（4コマ分）もおこなう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	9月30日 能の基礎知識（中司）	講義・実習についてのガイダンス及び、受講に必要な最低限の基礎知識の学習。
第2回	10月7日 能楽師の活動（観世喜正）	家元制度や内弟子制度など、現代に生きる能楽師の暮らし（活動の実態）について学ぶ。
第3回	10月21日 能の興行（観世喜正）	能の興行がどのようにおこなわれるのか、計画の段階から当日までの流れをおさえる。
第4回	10月28日 能の特色（観世鏡之丞）	能楽師自身の言葉を通して、能の芸の特色を知る。能楽鑑賞〈紅葉狩〉の予習。
第5回	11月10日（日）15時30分 能楽鑑賞（中司）	観世九阜会（矢来能楽堂）定例会の能〈紅葉狩 鬼揃〉を鑑賞する。
第6回	11月11日 能の伝承（観世鏡之丞）	能がどのように伝承されているのか、能楽師の修業について知る。
第7回	11月18日 9時30分～12時30分 実習①（観世鏡之丞・中司・山中）	青山の鏡仙会能舞台にて実習。能舞台上を歩く。能の謡・舞の体験。第8回と連続授業。
第8回	11月18日 9時30分～12時30分 実習②（観世鏡之丞・中司・山中）	青山の鏡仙会能舞台にて実習。能装束と能面を実際に見る。第7回と連続授業。

第9回	11月25日 実習のフィードバック（観世喜正）	前回の実習および第5回の能楽鑑賞会をふりかえり、未来の能楽に向けてディスカッション。
第10回	12月2日 身につけた知識の整理と考察（中司）	ここまでの授業や体験を踏まえ、能楽に関する知識を再整理しつつ深める。
第11回	12月9日 9時30分～12時30分 実習③（観世喜正・中司・山中）	矢来能楽堂での実習。能舞台の特徴。能の謡と所作の体験。第12回と連続授業。
第12回	12月9日 9時30分～12時30分 実習④（観世喜正・中司・山中）	矢来能楽堂での実習。能装束に実際に触れ、その扱いを学ぶ。第11回と連続授業。
第13回	12月16日 実習のふりかえりとレポート作成に向けた学習（中司）	前回の実習で生じた疑問点等を共有し、レポート作成に向けて、現代の公演状況を知る。
第14回	1月13日。レポート発表とディスカッション（中司）	各自のレポートを発表し、討議をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今年度は11月10日（日）に授業の1コマ分として、能楽鑑賞会を用意しているが、その外にも、NHKの古典芸能番組やYouTubeの動画など、実際の能の演技や演出に触れる機会は多くある。ぜひ、そうした動画などにも触れて、率直な感想や疑問点などを講師にぶつけてほしい。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

受講前に、市販のガイドブックや宣伝チラシなど、何でも良いので自分なりに能についての情報を得ておいてほしい。「文化デジタルライブラリー」にも基本情報を載せてある。

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（30%）。課題「現在の社会状況において能楽を普及、活性化するにはどうしたらよいか」、2回の実習と鑑賞会への参加（50%）、平常点（20%。講義中の発言等）を総合して決める。

## 【学生の意見等からの気づき】

文系・理系の学生が混ざる珍しいクラスなので、最終回に出席者が互いの意見を聞き合う機会を設けた。最終回に限らず、通常の授業中でも、ちょっとした感想、小さな疑問など、遠慮せず、積極的に発言してほしい。

## 【その他の重要事項】

★第一線で活躍中の能楽師を講師に招いての授業なので、授業日程が多少変則的になっています。特に2回の実習授業は、学外の施設にて、1限・2限の時間帯2コマ分を使つての授業です。単位取得のためには2回の実習授業出席は必須としますので、よく考えて受講計画をたててください。

★11月10日（日）の矢来能楽堂定例会を鑑賞します（2,000～3,000円程度の料金が発生します）。「能楽堂で実際に能を見ること」も、単位取得に必須となっています。この会に参加できない場合は、講義内で推奨する他の公演を必ず鑑賞すること。ガイダンスの際に詳細を説明します。

★実習時には足袋が必要となります。入手方法はガイダンスの際に伝えます。

**【Outline (in English)】**

《Course outline》 The aim of this class is to acquire a basic knowledge of Noh, learn about the characteristics of its physical expression, and consider the current environment and issues surrounding Noh and its future prospects.

Learning objectives of this class are: 1) to learn basic information about Noh and its body techniques, 2) to think about the meaning of Noh in modern society.

Outside of the classroom, students are required to watch a Noh performance at a Noh theater.

《Grading criteria》 \*Report 30 %. Participation in practical training and viewing of Noh plays 50%. Ordinary marks 20%.

SES500N4 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## ソシオシステムデザイン論

廣田 尚子

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活・社会・ビジネスを横断した解決すべき課題を取り上げて、本質的価値の循環を生むシステムのデザインプロセスを学びます。仕組みのデザインでは、社会や環境が抱える問題の解決・人々の生活の質が向上し心が豊かになる価値の創造・新しいビジネス創出を切り分けて考える部分解決ではなく、それらが深く関連することで価値が循環する全体解決のシステム設計が求められています。全体解決を見出すデザインには、論理的思考とクリエイティブな発想の両方の力が求められているため、この授業は実践的作業を繰り返し行い、論理的思考と発想力を同時に身につけるプログラムとしています。

### 【到達目標】

社会の多くの場面で求められているデザインの思考を身につけ、アイデアを生む発想法と実践力を強化する。特に論理的思考とクリエイティブな発想の連携の習得を目標とする。また実践的作業プロセスにおいて、次の習得も行う。

- ・ユーザー視点の徹底化
- ・多重する複雑な情報から問題を抽出する情報分析力
- ・問題とニーズを把握して繋げる発見力
- ・イノベティブなアイデアを生み出す発想力

深掘りする思考法、アイデアを生み出し方、システム構築法を実践的に強化することにより、自己研究分野における開発力と推進力の向上が可能になる。将来に向けては、更に経営デザインを理解できる人材の育成を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

#### 【内容】

実際のコンペに応募する想定で基礎学習を行った後に本提案を制作します。

#### 【進め方】

本年度は教室で行います。PC持参してください。個人または3名程度のグループワークで行います。オンラインホワイトボードアプリMiroを使い情報共有をしながら、グループディスカッションによって各自の制作提案を高めていきます。各回の最後には情報共有のため発表会を行います。

#### 【日程】

第1週 オリエンテーション・課題提示

第2週 練習課題・テーマ設定

第3週 調査・分析

第4週 フィールドワーク・その他調査・分析

第5週 コンペ応募を想定した思考レッスン

第6週 コンペ応募を想定した思考レッスン

第7週 プレゼンテーション・講評

グッドデザイン賞を受賞したソーシャルデザイン・ビジネスデザインの優良事例を参考に、社会的問題解決を生む提案作業を行います。

- ・優良事例の研究
- ・ブレインストーミングによる課題抽出
- ・調査分析とアイデアを生む思考の構築を繰り返し行う（グループディスカッション）
- ・提案システムの伝達と運用方法の提案
- ・論理的思考によるデザイン手法を総合的に理解する

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1週	第1回 オリエンテーション 課題提示	課題内容の説明
2週	第2回 デザインの概論的解説	デザインの役割と可能性を講義形式にて解説
3週	第3回 優良練習課題	優良事例を詳細に解説し、練習課題を行う。ディスカッションによりテーマを選定する
4週	第4回 テーマ選定 発表会	優良事例を詳細に解説し、練習課題を行う。ディスカッションによりテーマを選定し、発表する
5週	第5回 調査・分析	ブレインストーミングを行い、グループのテーマについて詳細に調査・分析する。
6週	第6回 調査・分析 発表会	ブレインストーミングを行い、グループのテーマについて詳細に調査・分析・発表する。
7週	第7回 分析と統合	ブレインストーミングを行い、調査の分析、課題の抽出と選択、統合によりコンセプトを明確化する。
	第8回 分析と統合 発表会	ブレインストーミングを行い、調査の分析、課題の抽出と選択、統合によりコンセプトを明確化して発表する。
	第9回 情報の抽象化	複雑で膨大な情報をどのように処理しアイデアを生む準備作業。
	第10回 抽象化の分析 発表会	通常ブラックボックス化されている思考作業を紐解く。
	11回 情報のアイデア化	分析・抽象化した情報をアイデアに昇華する
	12回 ストーリー構築 システムフローの作成	プロセスの解説と実践。
	第13回 プレゼン準備	アイデアを核に、完結したストーリーへ構築するプロセスの実践。
	14回 成果発表	成果発表と講評。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の不都合や問題点を抽出し、各自に於いて思考の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を提示する。

### 【参考書】

基本的にはテーマの進行に合わせて提示するが、基本参考書としては下記の書籍を紹介する。  
 ・アナロジー思考：細谷功  
 ・ソーシャルリサーチ：ジェフ・ペイン  
 ・意味論的転回：クリッペンドルフ、最適デザインの概念：松岡由幸

・未来を洞察する：鷺田祐一、第3の波：アルビン・トフラー  
 その他

**【成績評価の方法と基準】**

チーム発表の成果と個人のチーム貢献度を中心に評価。欠席は2回まで認め、出席日数を個人評価に加算される。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎年、履修者による満足度は極めて高いが、更なる改善を目指し、各国の工学系・デザイン系・ビジネス系の授業を参考に講義内容の修正を行っている。

**【学生が準備すべき機器他】**

履修者はPCを持参し、必要ソフト（Miro・PaworPoint）は事前にインストール済みとする。

**【その他の重要事項】**

企業の製品開発デザインと開発コンサルの経験、グッドデザイン賞ビジネスモデル部門審査委員、ビジネスデザインアワード審査委員長の経験を活かして、仕組みのデザインを指導する。

**【Outline (in English)】**

In this course students will learn about system design processes which give way to fundamental value cycles, engaging in areas which cut across topics in daily life, society and business. In this design, rather than clearly categorizing the value/creation of businesses which sustain and solve problems in society and environment towards better quality of living, we study their deep-set relationships to discover systems of value cycles. The design of such solutions requires both logical and creative processes, which this program aims to develop through the exploration of practical exercises.

HUI500N4（人間情報学 / Human informatics 500）

## インタフェースデザイン論

土屋 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の情報社会では、電子機器の多機能化、高機能化の進展により、インタフェースがより多様化、複雑化するため、ユーザーに過度な操作の負担や不安を与えることが多くなっている。ユーザーの操作技術や記憶に頼らず、効率的で快適な人と機器の対話（インタラクション）と、より高次の感性価値実現を目指すインタフェースデザインの方法論を、実製品のインタフェースの評価分析とラピッドプロトタイプイングによる新たな提案を通して学習する。

## 【到達目標】

具体的事例を通して、インタフェースデザインのコンセプト立案からプロトタイプ制作までのプロセスと、そのユーザビリティ（操作性）、およびアクセプタビリティ（受容性）評価手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

具体的な製品のインタフェースを、ISOのインタフェース設計ガイドラインやユーザビリティワークショップ等の評価手法を用いて評価・分析することで、インタフェースデザインに必要な技術を体感的に確認すると同時に、次世代の入出力デバイスの技術動向を踏まえた新しいインタフェースのデザインとラピッドプロトタイプの製作を通して、実践的デザイン手法を学習する。授業の中で複数の演習を行い、その成果物に対して講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	インタフェースデザインの現状、必然性・可能性両面からのデザイン手法等を概説する
2	製品観察	実製品を事例にユーザーの操作行為の観察とインタフェースの問題点抽出手法を解説する
3	製品分析、問題点抽出	ユーザー行為の観察データ、およびユーザーニーズの定量的・定性的分析手法を解説する
4	情報の企画（仮説構築）	身体的・認知的両面からのインタフェースデザインコンセプトを構築する
5	情報の構造化	ユーザーと機器とのインタラクションを操作フローとしてとりまとめる
6	情報の可視化（1）	身体的・認知的インタフェースの基本デザイン案を制作、GUI要素をデータ化する
7	情報の可視化（2）	インタラクション確認のための動作プロトタイプを制作する
8	情報の検証（1）	インタフェース設計ガイドライン、およびユーザビリティワークショップを用いた評価実験を実施する
9	情報の検証（2）	評価実験で得られたデータの分析を行い、改善案をとりまとめる

10	インタフェース開発の現状	インタフェース開発の歴史と開発動向について解説する
11	インタフェース開発環境とデバイス	オーサリング、プロトタイプ、ホットモデルの開発ツール、入出力デバイスを解説する
12	身体的インタフェース	タンジブルインタフェース、フィジカルインタラクションの開発手法を解説する
13	ラピッドプロトタイプング1	ラピッドプロトタイプングツールを用いた製品提案を行う。
14	ラピッドプロトタイプング2	ラピッドプロトタイプングツールを用いた製品のユーザビリティ評価実験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に対する調査、レポートの作成を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。インタフェースデザインに関する展示会視察、市場調査を含みます。具体的には授業内で説明します。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

## 【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会  
ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版  
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版  
ユーザビリティハンドブック、共立出版

## 【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業内での発表、授業態度をもとに総合的に評価する。

平常点（40%）＋各課題合計（60%）＝合計100%

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションによる学生同士の意見交流を取り入れる。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

## 【その他の重要事項】

実践的なユーザビリティ評価手法を学習するため、企業訪問を行うことがあるので、実施方法については指示に従うこと。

## 【Outline (in English)】

In the information society, interfaces are becoming more complicated due to the progress of electronic device multifunctionality, leading to greater burden being placed on users. Through the evaluation analysis of interface and rapid prototyping, we will learn about the interface design methodology aiming for efficient and comfortable human-machine interaction without undue reliance on users' operation skills.

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports following each subject.

Your overall grade in the class will be decided based the following,

In class contribution:40%, Short report:60%.

MEC500N4 (機械工学 / Mechanical engineering 500)

## 品質マネジメント論

池庄司 雅臣

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

品質マネジメント論では、様々な形のデータに対する捉え方や扱い方を学ぶことで、実践的な問題解決能力を育成することを目的とする。とりわけ問題解決へのアプローチとしては、統計的品質管理 (Statistical Quality Control : SQC) の基礎的な理論と、代表的な統計手法を理解すること。そして実際にデータに触れて分析して見ることを重視する。授業を通じて、仮説検定などの統計的な考え方や分析方法を身につけることで、様々な問題や事象の背後にあるデータが身近な存在となり、主体的に分析・評価できるようになるための一助となれば幸いである。

### 【到達目標】

統計的な考え方に基づく問題解決としては、以下のようなプロセスが挙げられる。

- ①. 与えられたデータを客観的な事象として観察
- ②. データをもとに事象全体の構造を仮説として設定
- ③. 仮説を説明する統計的数理モデルの構築
- ④. 数理モデルに対する評価検証

①～④のプロセスについて、演習を通して理解することに重点を置きつつ、その背後にある基礎的な確率・統計の知識についても学習する。さらに、エクセルの「分析ツール」をメインとした、基礎的なデータの取り扱いについても習得する。

また、演習では必要最低限の記述・説明を意識してもらい、その都度、講師からの十分な解説も反映させることで、論理的なレポートを作成できることを企図する。

以上を本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に前半の講義と後半の演習から構成され、演習ではノートパソコン（主にエクセル）を利用する。

演習レポートは、電子ファイル形式（ワードまたはエクセル）での提示とする。最後の自由演習については、パワーポイントにまとめて発表する場を設ける。（最終発表）

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や構成、また品質マネジメントの有り方などについて説明
2	QC 7つ道具	基礎的な品質管理の考え方について説明
3	管理図	管理図の作成方法と、その背後にある統計的考え方について説明
4	推定・検定の考え方 (1)	平均や分散、正規分布などについて説明
5	推定・検定の考え方 (2)	t検定・カイ2乗検定・F検定について説明
6	分散分析	一元配置と二元配置の分散分析について説明
7	実験計画法	実験計画法について説明
8	品質工学 (1)	品質工学の考え方とSN比の説明
9	品質工学 (2)	品質工学の適用事例と損失関数の説明
10	相関と回帰	相関と単回帰分析について説明
11	重回帰分析	重回帰分析について説明
12	主成分分析	主成分分析について説明
13	総括および自由演習	授業のまとめを行い、個々が題材とするテーマから自由にデータを分析
14	最終発表	自由演習の結果について発表 (ppt形式の資料を準備)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。  
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み、毎回の演習、および最終発表をもとに評価する。  
(平常点：30%、演習レポート：40%、最終発表：30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートPC

### 【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、データの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course in quality management theory is learn about methods of capturing and handling various sorts of data in order gain skills in solving practical problems.

At the forefront of problem solving approaches are the understanding of fundamental theory of statistical quality control (SQC) as well as representative statistical methods. Focus will also be given on experience of analyzing real data.

Through this course, by obtaining skills in statistical approaches and analysis methods such as hypothesis testing, students should become familiar with the data underlying various problems and phenomena and reach a position to analyze and evaluate them independently.

HUI500N4 (人間情報学 / Human informatics 500)

## プロダクトデザイン論

安積 伸

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テクノロジーの進化は社会の構造や人の価値観に影響を与え、人間とデザインの関係も様々な広がりを持ちながら変化しています。この授業では、多様な広がりを見せるデザインの事例を理解しながら、その文化的価値、芸術的視点、表現としての魅力を理解し、クリエイティブな表現領域の現在と未来を考察する事を目的とします。

本年度のテーマとするデザイン領域は、D期開始時に発表します。

## 【到達目標】

今日的なデザイン事例を様々な切り口で読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。

学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形のデザイン表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来る可能性があるか、考察を含む提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

様々な切り口でデザイン事例を読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。

学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形の表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来るか、考察を含むレポートあるいは提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
2	プロダクトデザインをとりまく歴史・文化とその周辺	プロダクトデザインの歴史と現状を読み解く。
3	参考作品鑑賞 視聴学外調査1準備	テーマとするプロダクトデザインの商品・記録などの研究。学外調査を行うための準備。
4	学外調査1-1	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
5	学外調査1-2	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
6	学外調査1まとめ学外調査2準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。第2回目学外調査の準備。
7	学外調査2-1	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
8	学外調査2-2	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
9	調査2まとめ学外調査3準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。第3回目学外調査の準備。
10	学外調査3-1	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
11	学外調査3-2	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
12	調査3まとめ個人課題検討	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。訪問調査により得られた知見を元に各自の提案テーマの検討を行う。
13	個人課題進捗発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の中間進捗発表を行う。
14	最終発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の最終発表を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習 各テーマの自主的調査

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業内で適宜指示。

## 【参考書】

近代デザインの歩み (橋本 太久磨：理工学社)

The Shock of the New (Robert Hughes : Thames &amp; Hudson)

## 【成績評価の方法と基準】

課題発表40点、授業50点、提出レポート10点、とします。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をD、未受験をEとする。

積極的な調査への参加、授業態度を評価対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容・進行スケジュールに関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

## 【その他の重要事項】

デザイナーとしての経験を有する教員が、現在進行形のクリエイティブワークに関する授業を行います。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to look at the current expansion of design expression, and to consider a more diverse and fertile form of design by understanding the cultural and artistic aspects of design adjacent to design. The theme is announced at the beginning of the D semester.

OTR500N4 (その他 / Others 500)

## システムデザインワークショップ (PBL)

野々部 宏司、安積 伸、田中 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様々な人工的な「もの・こと」は、人間が生活していくためのもの・ことであり、「ものづくり」は、いわば現在の様々な課題の解決策ととらえることができる。「ものづくり」にあたっては、(1)デザイン、(2)機能、安全性、(3)公知といったデザインに関わる3つの事項を確保しなければならない。これを実現するためには、「もの・こと」としてそのものを生成する為に多面的に熟慮されたデザイン設計計画、材料や加工技術やメカニズム、エレクトロニクスといったテクノロジーに関わる知識が不可欠である。さらに、「ものづくり」に際して、クラウドコンピューティングを活用し様々な情報を得ながら政策を進める。また制作はプロトタイプにはコンピュータ数値制御でのデスクトップ工房を活用する。また限られた資源を有効に利用し、環境に配慮すること、また創出された「ものづくり」を世の中に認知させるためのマネジメントを忘れてはならない。この実習講義では、実社会の課題に対して、クリエイション系計画、テクノロジー系計画、マネジメント系計画の三つの観点から具体的な解決策を制作し、総合的にものづくりの本質を学ぶ事が出来る。

### 【到達目標】

クリエイション系計画、テクノロジー系計画、マネジメント系計画の三つの観点から具体的な製品プロトタイプを制作し、総合的にものづくりの本質を学び、デザイン成果物を製作する事を目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実際の製品は、クリエイション、テクノロジー、マネジメントのコラボレーションにより創造される。本講義では、「もの・こと」の課題を設定し、実際の企画・製作・製造プロセスを体験しながら、ものづくりをクリエイション、テクノロジー、マネジメントの各系を連携した総合的デザイン視座に立った(意匠、機構、管理の視点求められる。)実習形式で学ぶ。作業はチーム編成による集中講義等に対応する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 制作テーマの発表	授業の進め方、本年度の「ものづくり」テーマ発表、制作チーム編成
第2回	デザイン開発計画企画	テーマに沿った、開発事象(デザイン)の策定、初期製品開発企画立案法を学ぶ。
第3回	デザイン開発計画方向性立案	デザイン開発企画立案よりより具体的なデザイン対象を見だし、その対象の調査研究を行う。調査方法の精査法を学び、初期デザイン開発計画提案資料作成を行う。
第4回	デザイン開発計画の発表(第1回デザインレビュー) 第一次プロトタイプ	前回までの、作業プロセスをまとめ、開発対象物の第一次プロトタイプをまとめて発表を行う。
第5回	機構企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの機構について学び、機構企画を行う。
第6回	機構の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの表現調整と機構の適合性について学ぶ。
第7回	機構の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、機構の決定の仕方を学ぶ。
第8回	機構計画の発表(第2回デザインレビュー) 第二次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ機構計画を中心に第二次プロトタイプをまとめて発表を行う。発表を行う、また調整によって変更された意匠仕様変更についても発表を行う。
第9回	販売企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、対象製品の販売企画の仮説立案法を学び、初期販売企画をたてる。

第10回	販売の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、販売企画の方向性を立案し、立案された計画の整合性について学ぶ。
第11回	販売方法の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観と実装機構の整合性を調整し、販売方法、効果の決定法を学ぶ。
第12回	販売計画の発表(第3回デザインレビュー) 第三次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ販売計画を中心に発表を行う、また調整によって変更された意匠仕様変更、機構変更についても発表を行う。第三次プロトタイプ
第13回	開発計画企画の策定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観決定、実装機構決定、販売法の決定の整合性を調整し、開発計画全体の企画書の策定法を学ぶ。
第14回	総合デザインレビュー 総合講評	授業で行った全ての作業プロセスをまとめ最終プロトタイプ、制作フロー、問題点等のプレゼンテーションを行う。全体講評。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テーマの基礎調査、調査データの分析、分析より得られたテーマに沿った「ものづくり」方向性立案、基本方針より導きだされる課題テーマに対する現在の問題点の抽出から問題点解決のための第一次仮説立案までを、しっかりとまとめる事が重要である。様々な基礎データの収集を各チームが行う。また、問題可決された提案モデルの制作を行ないプレゼンテーションをする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。演習時必要な参考資料は適宜配布する。

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

最終作品、プレゼンテーション内容、発想能力などにより総合的に評価する。(100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業環境の改善

### 【その他の重要事項】

■英国、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

### 【Outline (in English)】

In this practical lecture (PBL), we generate concrete solutions from the three viewpoints of creation, technology, and management planning, considering real-world social problems and studying the foundations of making comprehensive systems.

SES500N4 (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500)

## デザイン創生学特論

土屋 雅人、安積 伸、大西 景太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本特論では、人間の感性へ大きく依存するノンバーバル(nonverbal)分野へ科学的方法論を導入し、ノンバーバル分野における普遍性や規則性を、内外の先端的なデザイン事例や演習などを交えながら考究する。このような考究に基づき物作りの基盤を成すデザイン創生学を論ずる。(オムニバス方式/全15回)

### 【到達目標】

以下の能力を身につけることを目標とする。

1. インターフェイスデザイン理論的思考能力
2. ヒューマニティーデザイン理論的思考能力
3. ビジュアライゼーションデザイン理論的思考能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

最近の研究動向を把握するため、国内外の学術雑誌を中心に文献調査を行い、それらの内容に対するプレゼンテーションとディスカッションを行う。5回づつ、3名の教員がオムニバス方式で講義する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターフェイスデザイン観点1（土屋雅人）	インターフェイスデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通して、インターフェイスデザインの理論的デザイン創生学を考究する。 ディスカッション1
第2回	インターフェイスデザイン観点2（土屋雅人）	ディスカッション2（テーマ討議）
第3回	インターフェイスデザイン観点3（土屋雅人）	ディスカッション3（考察）
第4回	インターフェイスデザイン観点4（土屋雅人）	ディスカッション4（評価）
第5回	インターフェイスデザイン観点5（土屋雅人）	ディスカッション5（発表）
第6回	ヒューマニティーデザイン観点1（安積伸）	ヒューマニティーデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通して、デザインの理論的デザイン創生学を考究する。 ディスカッション1
第7回	ヒューマニティーデザイン観点2（安積伸）	ディスカッション2（テーマ討議）
第8回	ヒューマニティーデザイン観点3（安積伸）	ディスカッション3（考察）
第9回	ヒューマニティーデザイン観点4（安積伸）	ディスカッション4（評価）
第10回	ヒューマニティーデザイン観点5（安積伸）	ディスカッション5（発表）
第11回	ビジュアライゼーションデザイン観点1（大西景太）	ビジュアライゼーションデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通して、デザインの理論的デザイン創生学を考究する。 ディスカッション1
第12回	ビジュアライゼーションデザイン観点2（大西景太）	ディスカッション2（テーマ討議）
第13回	ビジュアライゼーションデザイン観点3（大西景太）	ディスカッション3（考察）
第14回	ビジュアライゼーションデザイン観点4（大西景太）	ディスカッション4（発表）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、分析

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員から進捗に合わせ適宜配布する。

### 【参考書】

担当教員から学生の相談に合わせ適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション、ディスカッションなどから総合的に判定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目につきアンケートを実施していません

### 【その他の重要事項】

■デザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン、サービスデザイン、コンテンツデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

### 【Outline (in English)】

Through advanced design cases and domestic and foreign examples, we will study universality and regularity in non-linguistic fields.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士研修 1

小堀 哲夫

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクト I で必要となる基礎的な専門技術を指導する。

### 【到達目標】

専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基礎資料の紹介と説明、調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第3回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第4回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の基礎 4	資料の読み合わせと解説
第6回	研修の実践 1	実践課題の説明
第7回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第8回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第9回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第10回	中間報告	中間報告と討議
第11回	研修の応用 1	応用課題の説明
第12回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第13回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第14回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

Course outline:

As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.

Learning Objectives:

Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

**建築学修士研修 1**

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクト I で必要となる基礎的な専門技術を指導する。

**【到達目標】**

専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基礎資料の紹介と説明、調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第3回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第4回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の基礎 4	資料の読み合わせと解説
第6回	研修の実践 1	実践課題の説明
第7回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第8回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第9回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第10回	中間報告	中間報告と討議
第11回	研修の応用 1	応用課題の説明
第12回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第13回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第14回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

**【参考書】**

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Course outline:

As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.

Learning Objectives:

Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士研修2

山道 拓人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロジェクトIで得られた研究成果を分析し、修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また、修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

### 【到達目標】

より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに、学内外の様々な研究資料に触れ、異なる研究テーマへの理解を深め、現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較、検証を実施し、既存研究のレビューとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

資料の読み合わせ、調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続2	資料の収集と分類
第4回	研修の継続3	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張2	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張3	検証の実施
第8回	研修の拡張4	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ2	研究方法の改良、追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ4	検証結果、新提案を含む研究課題の位置付けを行い、レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めませんが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

N/A

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline:

In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.

#### Learning Objectives:

To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.

#### Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### Grading Criteria/Policy:

The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

**建築学修士研修2**

小堀 哲夫

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プロジェクトIで得られた研究成果を分析し、修士論文作成に必要なより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また、修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

**【到達目標】**

より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに、学内外の様々な研究資料に触れ、異なる研究テーマへの理解を深め、現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較、検証を実施し、既存研究のレビューとしてまとめる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

資料の読み合わせ、調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続2	資料の収集と分類
第4回	研修の継続3	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張2	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張3	検証の実施
第8回	研修の拡張4	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ2	研究方法の改良、追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ4	検証結果、新提案を含む研究課題の位置付けを行い、レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

**【参考書】**

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

N/A

**【その他の重要事項】**

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.

Learning Objectives:

To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士研修2

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロジェクトIで得られた研究成果を分析し、修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また、修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

### 【到達目標】

より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに、学内外の様々な研究資料に触れ、異なる研究テーマへの理解を深め、現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較、検証を実施し、既存研究のレビューとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

資料の読み合わせ、調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続2	資料の収集と分類
第4回	研修の継続3	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張2	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張3	検証の実施
第8回	研修の拡張4	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ2	研究方法の改良、追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ4	検証結果、新提案を含む研究課題の位置付けを行い、レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めませんが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

N/A

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.

Learning Objectives:

To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

**建築学修士プロジェクト 1**

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

研究課題を設定し、研修1で習得した技能を駆使して、いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

**【到達目標】**

与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

研究課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、論文作成指導、口頭発表練習。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの企画1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第3回	プロジェクトの企画2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第4回	プロジェクトの企画3	プロジェクトに関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第5回	プロジェクトの企画4	プロジェクト課題の検討と策定
第6回	プロジェクトの立案1	プロジェクト課題に必要な技術（機器、ソフト）のリストアップ
第7回	プロジェクトの立案2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第8回	プロジェクトの立案3	調査・実験・ソフト開発の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトの展開1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第11回	プロジェクトの展開2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第12回	プロジェクトの展開3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第13回	プロジェクトの展開4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第14回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

**【参考書】**

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【その他の重要事項】**

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.

Learning Objectives:

The student will bring his/her own unique perspective and ingenuity to a given research topic and summarize it in a single, unique paper.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and to strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard total preparation and review time for this class is one hour.

Grading Criteria/Policy:

The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士プロジェクト 1

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究課題を設定し、研修Iで習得した技能を駆使して、いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

### 【到達目標】

与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

研究課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、論文作成指導、口頭発表練習。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの企画1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第3回	プロジェクトの企画2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第4回	プロジェクトの企画3	プロジェクトに関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第5回	プロジェクトの企画4	プロジェクト課題の検討と策定
第6回	プロジェクトの立案1	プロジェクト課題に必要な技術（機器、ソフト）のリストアップ
第7回	プロジェクトの立案2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第8回	プロジェクトの立案3	調査・実験・ソフト開発の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトの展開1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第11回	プロジェクトの展開2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第12回	プロジェクトの展開3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第13回	プロジェクトの展開4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第14回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.

Learning Objectives:

The student will bring his/her own unique perspective and ingenuity to a given research topic and summarize it in a single, unique paper.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and to strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard total preparation and review time for this class is one hour.

Grading Criteria/Policy:

The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士プロジェクト2

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コースワークの最終段階として、修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し、設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

### 【到達目標】

プロジェクトⅠ、研修Ⅱの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要、学内外の論文・情報誌に投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続2	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続3	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続4	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトのまとめ1	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ2	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し、提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表、修正の有無を検討し、完成稿の内容を確認する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.

### Learning Objectives:

Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.

### Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.

### Grading Criteria/Policy:

The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 建築学修士プロジェクト2

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コースワークの最終段階として、修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し、設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

### 【到達目標】

プロジェクトⅠ、研修Ⅱの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要、学内外の論文・情報誌に投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続2	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続3	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続4	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトのまとめ1	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ2	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し、提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表、修正の有無を検討し、完成稿の内容を確認する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めませんが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.

### Learning Objectives:

Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.

### Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.

### Grading Criteria/Policy:

The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

**修士論文（建築）**

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文を執筆する。

**【到達目標】**

修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続2	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続3	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続4	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第10回	プロジェクトのまとめ1	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ2	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し、提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表、修正の有無を検討し、完成稿の内容を確認する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

**【参考書】**

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミでの貢献度、報告書の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【その他の重要事項】**

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.

Learning Objectives:

Completion of Master's thesis.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2 (建築学 / Architecture and building engineering 600)

## 修士論文 (建築)

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文を執筆する。

### 【到達目標】

修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続2	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続3	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続4	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第10回	プロジェクトのまとめ1	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ2	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書 (修士論文相当) について討議し、提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表、修正の有無を検討し、完成稿の内容を確認する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

### 【参考書】

特に定めませんが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度、報告書の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.

Learning Objectives:

Completion of Master's thesis.

Learning activities outside of classroom:

Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

## 都市環境デザイン工学研究 1

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

## 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 14

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50%）とその口頭諮問（50%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 1

福島 秀哉、渡邊 竜一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にもつくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景観工学・景観デザインに関する文献調査(1)	景観工学・景観デザインに関する文献・知見の調査方法について
2	景観工学・景観デザインに関する文献調査(2)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認(1回目)
3	景観工学・景観デザインに関する文献調査(3)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認(2回目)
4	景観工学・景観デザインに関する文献調査(4)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認(3回目)
5	景観工学・景観デザインに関する文献調査(5)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認(4回目)
6	国内外のデザイン作品レビュー(1)	国内外のデザイン作品のレビュー方法について
7	国内外のデザイン作品レビュー(2)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介(1回目)
8	国内外のデザイン作品レビュー(3)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介(2回目)
9	国内外のデザイン作品レビュー(4)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介(3回目)
10	まちなみの見方しらべ方(1)	景観上特徴のあるまちなみの調査方法について
11	まちなみの見方しらべ方(2)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認(1回目)
12	まちなみの見方しらべ方(3)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認(2回目)
13	まちなみの見方しらべ方(4)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認(3回目)
14	まとめ	景観工学・景観デザインに関する知識や、これらに関する問題意識を確認することを通じ、修士論文テーマの方向性について個別に議論する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しないが、以下の書籍の内容の習得が前提となる。

篠原修編：景観用語事典 増補改訂第二版、彰国社、2021

【参考書】

特に無し。適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する (100%)。60点以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】

Outline:

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Objectives:

The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.

Specifically, the goal is to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.

Learning activities outside of classroom:

Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.

Grading Criteria /Policy:

Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 1

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

## 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	特定テーマに関する議論
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	研究計画の策定
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	同上内外の文献等の講読
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	研究方針・計画の修正
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	研究方法の策定
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	研究の推進
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	研究の推進
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	研究の推進
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	研究の推進
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	研究の推進
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	研究の推進
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	中間報告書の作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

## 【参考書】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。取り組み(100%)

法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

## 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.

Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究2

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13

14 都市環境デザイン工学 内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50%）とその口頭諮問（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究2

福島 秀哉、渡邊 竜一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据え、修士論文のテーマを具体的に定めるための学習や調査を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にもつくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもつぎ研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の方向性について	これまでの学習を踏まえて、修士論文の大きなテーマについて確認し、研究方針について検討を行う。
2	既往研究レビュー(1)	修士論文のテーマに関する既往研究をリストアップする。
3	既往研究レビュー(2)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し、目的、方法及び到達点について整理する。
4	既往研究レビュー(3)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し、目的、方法及び到達点について整理する。
5	既往研究レビュー(4)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し、目的、方法及び到達点について整理する。
6	修士論文テーマの概要決定	既往研究のレビュー等に基づき、修士論文のテーマとして取り扱う内容（目的、対象等）について確認する。
7	修士論文の対象・方法検討(1)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
8	修士論文の対象・方法検討(2)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
9	修士論文の対象・方法検討(3)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
10	予備調査・予備実験(1)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する。
11	予備調査・予備実験(2)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する。

12	予備調査・予備実験(3)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する。
13	学会発表・聴講(1)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し、他の研究者の研究内容や発表方法について確認する。
14	学会発表・聴講(2)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し、他の研究者の研究内容や発表方法について確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。

### 【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）。60点以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

### 【Outline (in English)】

Outline:

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Objectives:

The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.

Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.

Learning activities outside of classroom:

Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.

Grading Criteria /Policy:

Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究2

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

### 【参考書】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み(100%)

法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.

Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究3

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

主として自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

#### ・ Learning Objectives

The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.

#### ・ Learning activities outside of classroom

Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

#### ・ Grading Criteria

Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究3

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13

14 都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14) 内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50%）とその口頭諮問（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究3

福島 秀哉、渡邊 竜一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの確認	各自の研究課題について、これまでに実施した内容を論文形式にまとめ提出し、課題や今後の方向性を議論する
2	研究構成と研究方法の確認(1)	研究の構成と方法について、手順やスケジュールを計画として作成する
3	研究構成と研究方法の確認(2)	研究の構成と方法について、手順やスケジュールを計画として確定させる
4	調査及び実験等の準備(1)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。
5	調査及び実験等の準備(2)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
6	調査及び実験等の準備(3)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
7	調査及び実験等の準備(4)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
8	調査及び実験等の実施(1)	計画した調査及び実験等を実施する。
9	調査及び実験等の実施(2)	計画した調査及び実験等を実施する。
10	調査及び実験等の実施(3)	計画した調査及び実験等を実施する。
11	調査及び実験結果等の分析・考察(1)	得られた情報やデータを整理し、統計的処理や図化等の分析作業を行った後、考察を行う。
12	調査及び実験結果等の分析・考察(2)	得られた情報やデータを整理し、統計的処理や図化等の分析作業を行った後、考察を行う。
13	中間とりまとめ準備	これまでの研究成果を論文形式にまとめ、指導教員の確認・修正指示を受ける
14	中間とりまとめ	指示に基づいて修正作業を行い、中間報告書とする。状況に応じて学会等の口頭発表論文として投稿する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。

### 【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）。60点以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

修士二次次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

### 【Outline (in English)】

Outline:

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

Objectives:

The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.

Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.

Learning activities outside of classroom:

Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.

Grading Criteria /Policy:

Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究3

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、都市環境デザイン工学の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み(100%)

法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.

Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

**都市環境デザイン工学研究3**

山本 佳士

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

**【到達目標】**

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合学習(1)	国内外の文献等の収集と講読 1
2	都市環境デザイン工学に関する総合学習(2)	国内外の文献等の収集と講読 2
3	都市環境デザイン工学に関する総合学習(3)	国内外の文献等の収集と講読 3
4	都市環境デザイン工学に関する総合学習(4)	国内外の文献等の収集と講読 4
5	都市環境デザイン工学に関する総合学習(5)	国内外の文献等の収集と講読 5
6	都市環境デザイン工学に関する総合学習(6)	国内外の文献等の収集と講読 6
7	都市環境デザイン工学に関する総合学習(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する総合学習(8)	国内外の文献等の収集と講読 7
9	都市環境デザイン工学に関する総合学習(9)	国内外の文献等の収集と講読 8
10	都市環境デザイン工学に関する総合学習(10)	国内外の文献等の収集と講読 9
11	都市環境デザイン工学に関する総合学習(11)	国内外の文献等の収集と講読 10
12	都市環境デザイン工学に関する総合学習(12)	国内外の文献等の収集と講読 11
13	都市環境デザイン工学に関する総合学習(13)	国内外の文献等の収集と講読 12
14	都市環境デザイン工学に関する総合学習(14)	本授業で学んだ成果のとりまとめと総括発表

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し、自らの理解を促進するためにとりまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

**【参考書】**

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline (in English)】**

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

This class's standard preparation and review time is about 4 hours, respectively.

Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 4

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

### 【Outline (in English)】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.

・ Learning activities outside of classroom

Continued learning from a wide range of self-development perspectives.

Standard study time is 10 hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 4

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（30%）とその口頭諮問（70%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 4

福島 秀哉、渡邊 竜一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	取り組んだ研究の進捗状況確認	これまでの研究成果について確認し、再度課題の抽出を行い、研究の方向性を議論する。
2	継続的研究実施(1)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
3	継続的研究実施(2)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
4	継続的研究実施(3)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
5	継続的研究実施(4)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
6	論文の論理構成の確認(1)	最終的なまとめにむけて、方法の検討、データの収集や処理過程についてまとめ、指導教員に報告・議論する。
7	論文の論理構成の確認(2)	論文の目的と得られた結果についての対応を確認し、必要に応じて修正を行う。
8	論文執筆(1)	研究の位置づけについて再度確認した上で論文として執筆する。
9	論文執筆(2)	用語の統一、図表表現の統一等に注意し、確認を行う。
10	論文執筆(3)	背景目的と結論の対応関係について注意し、確認を行う。
11	論文草稿完成	論文としての体裁を整える。自分で全体を読み直して修正を行う。
12	論文草稿チェック	論文草稿について主査の確認を受ける。必要に応じて修正する。
13	副査による指導	草稿をもとに副査の指導を受け、必要な修正を加える。
14	論文としての仕上げ	論文の体裁を整えて完成させる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に無し。

### 【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）。60点以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

### 【Outline (in English)】

#### Outline:

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

#### Objectives:

The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.

Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.

#### Learning activities outside of classroom:

Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a particular topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.

#### Grading Criteria / Policy:

Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 4

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

## 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

(概要) 各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。取り組み(100%)

法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

## 【Outline (in English)】

In this course, students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.

Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 都市環境デザイン工学研究 4

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸水域の環境水工学に関わる研究テーマを対象として応用的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することを目標とする。修士論文テーマに関わる国内外の文献等の収集と講読、現地調査と情報収集、研究を進める上での議論や調査・研究などを通じてテーマに関する問題意識を形成し、問題解決のための応用能力を開発することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。陸水域の環境解析に必要な数理的素養と調査方法を習得するために、水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を講読し、担当教員・学部学生との議論を通して理解を深める。また、水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し、修士論文テーマの課題を設定する。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し、自らの理解を促進するためにとりまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

指定なし。

### 【参考書】

授業を通して適宜提供するとともに自らの学習を通して参考文献を収集する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間発表（30%）と総括発表（70%）により評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【その他の重要事項】

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

The goal of this course is to acquire the knowledge and skills necessary to carry out research related to the master's thesis.

The goal is to develop an awareness of the issues related to the master's thesis theme through the collection and reading of domestic and international literature, field surveys and information gathering, and discussions, surveys and research in the course of the research, and to develop basic skills for problem solving.

Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).

CST700N3 (土木工学 / Civil engineering 700)

## 都市環境デザイン工学特別研究 1\_2014年度以降入学

今井 龍一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し、研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

### 【到達目標】

博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力を習得することを目標とする。具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読、必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査、研究を通じてテーマに関する問題意識を形成、問題解決のための応用能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び、様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での議論・討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。都市環境デザイン工学分野に関する書籍・文献を購読かつ現地調査を通じて、担当教員との議論を通して理解を深める。また、当該分野の国内外の研究動向を調査し、博士論文テーマの研究を進める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(1)	国内外の文献・資料の収集と購読1
2	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(2)	国内外の文献・資料の収集と購読2
3	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(3)	国内外の文献・資料の収集と購読3
4	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(4)	国内外の文献・資料の収集と購読4
5	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(5)	国内外の文献・資料の収集と購読5
6	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(6)	国内外の文献・資料の収集と購読6
7	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(8)	国内外の文献・資料の収集と購読7
9	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(9)	国内外の文献・資料の収集と購読8
10	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(10)	国内外の文献・資料の収集と購読9
11	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(11)	国内外の文献・資料の収集と購読10
12	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(12)	国内外の文献・資料の収集と購読11
13	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(13)	国内外の文献・資料の収集と購読12
14	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定テーマに関する専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

A broad range of self-developmental continuing education, from specialized knowledge of a specific topic to the formation of research-level problem-solving skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

特になし。適宜指示する。

### 【参考書】

特になし。適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する(100%)。

Evaluated through self-motivated daily research and research efforts (100%).

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

Continue professional study and research on research topics in the field of civil and environmental engineering. The students will be supervised through discussion with their professor. The goal is to acquire in depth the specialized knowledge and abilities necessary to carry out research related to the doctoral dissertation.

CST700N3 (土木工学 / Civil engineering 700)

## 都市環境デザイン工学特別研究2\_2014年度以降入学

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し、研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

### 【到達目標】

博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力をより深く習得することを目標とする。具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読、必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査、研究を通じてテーマに関する問題意識を深め、問題解決のための総合能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び、様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。都市環境デザイン工学分野に関する書籍・文献を購読かつ現地調査を通じて、担当教員との議論を通して理解を深める。また、当該分野の国内外の研究動向を調査し、博士論文テーマの研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(1)	国内外の文献・資料の収集と購読1
2	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(2)	国内外の文献・資料の収集と購読2
3	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(3)	国内外の文献・資料の収集と購読3
4	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(4)	国内外の文献・資料の収集と購読4
5	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(5)	国内外の文献・資料の収集と購読5
6	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(6)	国内外の文献・資料の収集と購読6
7	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(8)	国内外の文献・資料の収集と購読7
9	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(9)	国内外の文献・資料の収集と購読8

10	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(10)	国内外の文献・資料の収集と購読9
11	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(11)	国内外の文献・資料の収集と購読10
12	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(12)	国内外の文献・資料の収集と購読11
13	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(13)	国内外の文献・資料の収集と購読12
14	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

A broad range of self-developmental continuing education, from specialized knowledge of a specific topic to the formation of research-level problem-solving skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### 【テキスト（教科書）】

特になし。適宜指示する。

### 【参考書】

特になし。適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する(100%)。Evaluated through self-motivated daily research and research efforts (100%).

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

Continue professional study and research on research topics in the field of civil and environmental engineering. The students will be supervised through discussion with their professor. The goal is to acquire in depth the specialized knowledge and abilities necessary to carry out research related to the doctoral dissertation.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 修士論文 (都市)

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し、研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

## 【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組み30%、論文50%、発表20%により評価する。法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

## 【Outline (in English)】

Continue professional study and research on research topics in the field of civil and environmental engineering. The students will be supervised through discussion with their professor. The goal is to acquire in depth the specialized knowledge and abilities necessary to carry out research related to the doctoral dissertation.

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 修士論文 (都市)

溝淵 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

### 【到達目標】

都市環境デザイン工学研究1～4にて修得した知識やスキルをもとに、これまでの研究成果を学術論文としての修士論文にとりまとめることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にもつくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

都市環境デザイン工学研究1～4を通じて取り組んできた修士論文の研究目的を達成し、論文執筆計画に基づいて国内外の研究集会や学術誌への発表を前提として研究成果をとりまとめる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの決定	研究の目的・対象を定める。
2	既往研究レビュー	研究テーマに関する既往研究についてレビューし、研究の位置づけを確認する。
3	研究の構成及び方法の検討	研究目的を達成するための論理的な構成や具体的な方法について吟味し、決定する。
4	文献収集・調査・実験等の実施(1)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
5	文献収集・調査・実験等の実施(2)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
6	文献収集・調査・実験等の実施(3)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
7	分析・考察(1)	得られたデータについて整理・分析し、その結果についての考察を行う。
8	分析・考察(2)	得られたデータについて整理・分析し、その結果についての考察を行う。
9	中間取りまとめ	ここまで得られた成果について取りまとめの上で、今後必要な作業について確認・検討を行う。
10	追加作業(1)	各自の状況に応じて追加作業を行う。
11	追加作業(2)	各自の状況に応じて追加作業を行う。
12	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる。
13	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる。
14	研究取りまとめと発表準備	修士論文審査会での発表準備について指導教員の指導を受ける。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

特になし。各自のテーマや進捗状況により紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

提出された論文の内容 (60%)、審査会での発表・質疑の内容 (40%) により評価し、全体で60%以上を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当無し。

### 【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

### 【Outline (in English)】

In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.

### Learning Objectives

Based on the knowledge and skills acquired in Urban Environmental Design Engineering Research 1-4, the goal is to summarize the research results so far in a master's thesis as an academic paper.

### Learning activities outside of classroom

Weekly class review and a wide range of self-development continuing learning, from basic knowledge on specific topics to research-level assignments. The standard time for preparation and review for this class is 4 hours per session.

### Evaluation Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the submitted thesis (60%) and the content of the presentation and question-and-answer session (40%).

CST600N3 (土木工学 / Civil engineering 600)

## 修士論文 (都市)

鈴木 善晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市環境デザイン工学の専門分野のうち、水工学の分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、修士論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

## 【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてプログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、修士論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ (問題解決能力の向上) を図ることが本授業における到達目標となる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

水工学の分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての修士論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習、各種分析手法に関する課題演習

- |   |             |  |
|---|-------------|--|
| ⑦ | 基本スキルの習得(2) | プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習、各種分析手法に関する課題演習   |
| ⑧ | 基本スキルの習得(3) | プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習、各種分析手法に関する課題演習   |
| ⑨ | 基本スキルの習得(4) | プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習、各種分析手法に関する課題演習   |
| ⑩ | 基本スキルの習得(5) | プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習、各種分析手法に関する課題演習   |
| ⑪ | 課題への取り組み(1) | 研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション |
| ⑫ | 課題への取り組み(2) | 研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション |
| ⑬ | 課題への取り組み(3) | 研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション |
| ⑭ | 課題への取り組み(4) | 研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である (本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする)。

## 【テキスト (教科書)】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

## 【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

日常的な学習・研究への取り組み状況を50%、知識やスキルの習得状況および得られた研究成果を50%として総合的に評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline (in English)】

In this course, students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students. Before/after each activity in the lab, students will be expected to spend four hours to study about research technique and knowledge. Grading will be decided based on the students' performance including research results (50%), and students' acquired skills in the lab (50%).

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修 1

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルを修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の最初である、このシステムデザイン研修1では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修1では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることが目標とする。とくに、そのrationale(必然性、理論的根拠、妥当性)について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修1(春学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	Rationale の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるというRationale(論理的根拠、正当性)と呼ばれるものが必要である。Rationaleに関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究(case1)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case1について、より深くそのrationaleを考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究(case2)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case2について、より深くそのrationaleを考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究(case3)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case3について、より深くそのrationaleを考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究(case4)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case4について、より深くそのrationaleを考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究(case5)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case5について、より深くそのrationaleを考察する。
13	Rationale Case Study-6	関連する研究(case6)をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
14	まとめ	新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から指示・配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をD、未受験をEとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

## 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

## 【Outline (in English)】

This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This first part of the course 'System Design Training 1' will provide students with opportunities to take various approaches from different perspectives and to validate the studies.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修 1

姜 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の最初である、このシステムデザイン研修1では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修1では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることが目標とする。とくに、そのrationale(必然性、理論的根拠、妥当性)について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修1(春学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	Rationale の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるというRationale（論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。Rationaleに関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case 1 について、より深くそのrationaleを考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case 2）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case 2 について、より深くそのrationaleを考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case 3）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case 3 について、より深くそのrationaleを考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case 4）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case 4 について、より深くそのrationaleを考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case 5）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case 5 について、より深くそのrationaleを考察する。
13	Rationale Case Study-6 A	関連する研究（case 6）をひとつ取り上げ、そのrationaleを考察する。
14	Rationale Case Study-6 B まとめ	case 6 について、より深くそのrationaleを考察する。 新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から指示・配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

## 【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

## 【Outline (in English)】

In Master's Training 1, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修2

## 安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の秋学期である、このシステムデザイン研修2では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修2では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要な基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1（研究論文1）	関連する研究論文（論文1）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文1の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文1の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文1の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文1のテクニック	研究論文1で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
7	研究論文1のスキル	研究論文1で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
8	関連する分野の研究論文の調査2（研究論文2）	関連する研究論文（論文2）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
9	研究論文2の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
10	研究論文2の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文2の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文2のテクニック	研究論文2で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
13	研究論文2のスキル	研究論文2で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

修士課程前半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、  
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-  
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-  
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-  
60点未満をD、未受験をEとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

## 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

## 【Outline (in English)】

This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This second part of the course 'System Design Training 2' held during the autumn semester of the first year will provide students with the necessary research methods, necessary rudimentary knowledge, theory, techniques and skills.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修2

姜 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の秋学期である、このシステムデザイン研修2では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修2では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要な基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1（研究論文1）	関連する研究論文（論文1）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文1の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文1の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文1の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文1の理論3	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
7	研究論文1のテクニック	研究論文1で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
8	研究論文1のスキル	研究論文1で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
9	関連する分野の研究論文の調査2（研究論文2）	関連する研究論文（論文2）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
10	研究論文2の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文2の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文2の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
13	研究論文2のテクニック、スキル	研究論文2で用いられているテクニック、スキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

修士課程前半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

## 【Outline (in English)】

In Master's Training 2, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修3

### 安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生春学期の修士研修3に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

#### 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修3では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修3(春学期)に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1(研究論文1)	関連する研究論文(論文1)を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文1の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
4	研究論文1の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文1の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査2(研究論文2)	関連する研究論文(論文2)を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文2の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
8	研究論文2の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文2の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査3(研究論文3)	関連する研究論文(論文3)を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文3の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
12	研究論文3の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
13	研究論文3の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ 論文の論理構造と、その記述方法 問題設定と、その結論の対応関係	研究論文(レポート)を作成する上で重要となる、論理構造と記述方法、問題設定の在り方、対応する結論の在り方についてについて纏める。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

#### 【参考書】

指導教員から指示

#### 【成績評価の方法と基準】

修士課程後半(前期)を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点をSとし、  
89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-  
79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-  
69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-  
60点未満をD、未受験をEとする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

#### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

#### 【Outline (in English)】

This course will prepare students for the 'System Design Training 3' course in the spring semester of the second year of a master's degree. It provides students with its significance and a summary of related issues, focusing on the logical structure of studies, validity of argument, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修3

姜 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生春学期の修士研修3に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修3では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修3(春学期)に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1(研究論文1)	関連する研究論文(論文1)を取り上げ、そこの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文1の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
4	研究論文1の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文1の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査2(研究論文2)	関連する研究論文(論文2)を取り上げ、そこの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文2の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
8	研究論文2の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文2の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査3(研究論文3)	関連する研究論文(論文3)を取り上げ、そこの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文3の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうかあるべきかを学ぶ。
12	研究論文3の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
13	研究論文3の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ	研究論文(レポート)を作成する上で重要となる、その論理構造と、その記述方法、問題設定の在り方、対応する結論に在り方について纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半(前期)を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95)、A(94-80)、B(79-70)、C(69-60)、D(59-0)、E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

This course will prepare students for 'System Design Training 3' in the spring semester of the second year of their master's degree. It provides students with the significance and the summary of the related topics, focusing on the logical structure of studies, validity of arguments, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修4

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生秋学期の修士研修4に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる。

### 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修4では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修4(秋学期)に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	類似研究調査1	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査2	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査3	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査4	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査5	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査6	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査1	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査2	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査3	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査4	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査5	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。
14	まとめ	学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

### 【参考書】

指導教員から指示

### 【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をD、未受験をEとする。

### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

### 【Outline (in English)】

This course will prepare students for the 'System Design Training 4' course in the autumn semester of the second year of a master's degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士研修4

姜 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生秋学期の修士研修4に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる。

## 【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修4では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修4(秋学期)に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	類似研究調査1	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査2	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査3	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査4	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査5	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査6	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査1	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査2	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査3	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査4	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査5	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	周辺研究分野調査6	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
14	まとめ:学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

## 【Outline (in English)】

This course will prepare students for the 'System Design Training 4' course in the autumn semester of the second year of a master's degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト 1

### 安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。  
この修士1年生春学期のプロジェクトは、比較的小規模なプロジェクトで当該分野に関連する研究プロジェクトの概要を知ることを目的とする。

#### 【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定しすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト1（春学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。最初のプロジェクトであるので、比較的小規模なものでも今後の基礎となるものを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン1	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の纏めを行う。
7	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン2	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の纏めを行う。
9	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン3	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の纏めを行う。
11	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン4	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の纏めを行う。
13	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン5の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

#### 【参考書】

指導教員から指示

#### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をD、未受験をEとする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

#### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

#### 【Outline (in English)】

Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. 'System Design Master's Project 1' in the spring semester of the first year is relatively small-scale and helps to provide an overview of related research projects.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト2

### 安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。

この修士1年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

#### 【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト2（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン1	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の纏めを行う。
7	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン2	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の纏めを行う。
9	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン3	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の纏めを行う。
11	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン4	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の纏めを行う。
13	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン5の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

#### 【参考書】

指導教員から指示

#### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をD、未受験をEとする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

#### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

#### 【Outline (in English)】

Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of the first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate problem-solving skills.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト2

姜 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。

この修士1年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

### 【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト2（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマ候補の選定	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。さらに、テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	マイルストーン1	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の纏めを行う。
6	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	マイルストーン2	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の纏めを行う。
8	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	マイルストーン3	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の纏めを行う。
10	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	マイルストーン4	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の纏めを行う。
12	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。

13	マイルストーン5	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン5の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

### 【参考書】

指導教員から指示

### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

### 【Outline (in English)】

Various projects are held to provide students the basic knowledge and skills of the subjects required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate their problem-solving skills.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト3

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト3はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

### 【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定しすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト3, 4 (春学期・秋学期) に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。
3	テーマ候補に関する調査および精査	テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく2つのテーマに分割する。(テーマ1およびテーマ2) 各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	テーマ1のマイルストーン1	テーマ1のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ1のマイルストーン1	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン1の締めを行う。
7	テーマ1のマイルストーン2	テーマ1のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ1のマイルストーン2	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン2の締めを行う。
9	テーマ1のマイルストーン3	テーマ1のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ1のマイルストーン3	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン3の締めを行う。
11	テーマ1のマイルストーン4	テーマ1のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ1のマイルストーン4	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン4の締めを行う。
13	テーマ1のマイルストーン5	テーマ1のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、テーマ1のマイルストーン5の締めを行う。

14 テーマ1の取り纏め、プロジェクトの成果を纏め、成果物をテーマ1の成果に基づき対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ2の修正を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指導教員から配布

### 【参考書】

指導教員から指示

### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-、79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-、69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-、60点未満をD、未受験をEとする。

### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

### 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト3

姜 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト3はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

### 【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定して進める。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト3, 4（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマ候補に関する調査	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。さらに、テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく2つのテーマに分割する。（テーマ1およびテーマ2）各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	テーマ1のマイルストーン1	テーマ1のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ1のマイルストーン1	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン1の纏めを行う。
6	テーマ1のマイルストーン2	テーマ1のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ1のマイルストーン2	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン2の纏めを行う。
8	テーマ1のマイルストーン3	テーマ1のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ1のマイルストーン3	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン3の纏めを行う。
10	テーマ1のマイルストーン4	テーマ1のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ1のマイルストーン4	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン4の纏めを行う。
12	テーマ1のマイルストーン5	テーマ1のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。

13	テーマ1のマイルストーン5	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン5の纏めを行う。
14	テーマ1の取り纏め、テーマ1の成果に基づくテーマ2の修正	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ2の修正を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

### 【参考書】

指導教員から指示

### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。  
成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

### 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

### 【Outline (in English)】

Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト4

## 安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト4はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

## 【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン修士プロジェクト3で行ったテーマ1の総括とテーマ2に関する準備を行う。
2	テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	テーマ1の反省を踏まえ、テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う。
3	テーマ2のマイルストーン1	テーマ2のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
4	テーマ2のマイルストーン1	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン1の締めを行う。
5	テーマ2のマイルストーン2	テーマ2のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ2のマイルストーン2	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン2の締めを行う。
7	テーマ2のマイルストーン3	テーマ2のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ2のマイルストーン3	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン3の締めを行う。
9	テーマ2のマイルストーン4	テーマ2のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ2のマイルストーン4	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン4の締めを行う。
11	テーマ2のマイルストーン5	テーマ2のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ2のマイルストーン5	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン5の締めを行う。
13	テーマ2の締めと総括、不足データ・補足データの収集と検証および最終的な締め	テーマ2の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足データ・補足データを検証し、最終的な締めを行う。
14	テーマ1およびテーマ2の統合および対外的提示	テーマ1およびテーマ2を統合してひとつのプロジェクトとして締め、対外的に提示可能な形とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をD、未受験をEとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

## 【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

## 【Outline (in English)】

In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## システムデザイン修士プロジェクト4

姜 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト4はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

## 【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	システムデザイン修士プロジェクト3で行ったテーマ1の反省を踏まえ、テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う
2	テーマ2のマイルストーン1	テーマ2のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
3	テーマ2のマイルストーン1	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン1の纏めを行う。
4	テーマ2のマイルストーン2	テーマ2のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ2のマイルストーン2	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン2の纏めを行う。
6	テーマ2のマイルストーン3	テーマ2のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ2のマイルストーン3	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン3の纏めを行う。
8	テーマ2のマイルストーン4	テーマ2のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ2のマイルストーン4	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン4の纏めを行う。
10	テーマ2のマイルストーン5	テーマ2のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ2のマイルストーン5	アドバイスを従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン5の纏めを行う。
12	テーマ2の纏めと総括、不足部分の抽出	テーマ2の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足部分や、補足データ収集に関する計画を立てる
13	不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	得られた不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ1およびテーマ2の統合および対外的提示	テーマ1およびテーマ2を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

## 【参考書】

指導教員から指示

## 【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。  
成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

## 【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

## 【Outline (in English)】

Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## 修士論文 (SD)

## 安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学位取得のための修士論文の作成を行う。研究の基盤となる知識やスキルの修得、実証データの提示作業、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して研究手法を学ぶ。

## 【到達目標】

修士学位論文を作成することを最終目標とし、その作成ために必要となる考え方や各種スキルを身につけることを副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、途中経過の問題点、最終目標の再検討を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト後半 (後期) に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
第2回	テーマに関するプレーストリーミング1	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第3回	テーマに関するプレーストリーミング2	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第4回	テーマの合理性 (社会的意義・学術的意義)	取り上げたテーマが、研究対象として相応しいか否かを、検証する。その学術的意義や社会的意義についても検討する。
第5回	先行研究調査1	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第6回	先行研究調査2	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第7回	ゴール・サブゴールの設定 研究計画の作成	研究を遂行するための研究計画を作成する。とくに、必要となるマイルストーンを設定する。
第8回	サブゴール1の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第9回	サブゴール2の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第10回	サブゴール3の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第11回	サブゴール4の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第12回	サブゴール5の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第13回	研究成果の取り纏め	研究成果を取り纏め、成文化する。各章の構成や緒言、参考文献の記述を行う。
第14回	対外的に提示可能な成果物としての取り纏め	修士論文を公開可能なものとするための最終検証を行う。とくに、新規性や著作権問題に関するチェックを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献の調査、修士研究、修士論文作成  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半 (後期) を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、  
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-  
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-  
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-  
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】

In this program students will write a thesis for their master's degree. During the process, they will learn research methods by gaining fundamental knowledge and skills for their field, presenting empirical data and referencing information in related areas.

OTR600N4 (その他 / Others 600)

## 修士論文 (SD)

姜 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学位取得のための修士論文を執筆する。

### 【到達目標】

- ・修士論文として適切なテーマを設定すること。
- ・関連研究を調査すること。
- ・研究テーマの実現に必要な知識・技術を把握し、習得すること。
- ・研究成果をあげ、修士論文としてまとめあげること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、問題点の把握、最終目標の再検討を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文を執筆する心構えやその意義、関連事項の概要について学ぶ。
2	研究テーマの選定	院生の関心に合致し、修士論文として適切な研究テーマを選定する。
3	先行研究の調査	研究テーマに関連する先行研究を調査する。
4	先行研究の整理	収集した先行研究を整理し、課題等をまとめる。
5	研究企画の立案	先行研究を調査・整理した結果を踏まえ、研究の目標、方法、手順等を整理する。
6	関連知識の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる知識を把握・習得し、研究テーマに応用する。
7	関連技術の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる技術を把握・習得し、研究テーマに応用する。
8	調査・実験の実施	研究の中核となる調査・実験の実施を行う。
9	調査・実験結果の考察	調査・実験の結果を整理し、考察を行う。
10	問題点の把握・解決方法の検討	研究上の問題点を把握し、その解決方法を検討する。
11	研究成果の整理・論文構成の検討	研究成果を整理し、研究の全体像を把握して論文の構成を検討する。
12	修士論文の執筆	論文構成に沿い、修士論文 (第1稿) を執筆する。
13	修士論文の推敲・修正	第1稿の推敲・修正を行い、修士論文を完成させる。
14	修士論文の内容確認・質疑応答	修士論文の内容を再確認し、発表および質疑応答の練習を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連研究の調査、知識・技術の習得、調査・実験の実施、論文の執筆  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究テーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline (in English)】

In this program, students prepare their master's thesis for graduation, acquiring knowledge and skills important for the foundations of research. In addition, students learn research methods through presentations of empirical data, and surveying references and related research fields.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 経営イノベーション体系

Principles of Management and Innovation

玄場 公規、坂本 和子、高田 朝子、丹下 英明、豊田 裕貴、松本 敦則、山田 久

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業経営におけるイノベーションの具体例と役割を考えます。企業経営は、イノベーションの連続です。イノベーションを怠ると企業は衰退していきます。健全な企業経営には何が必要かを理論と実際の両面から学びます。

### 【到達目標】

経営学的な思考方法を身につけるとともに、大学院で研究する上で必要とされるレポートの書き方や文献研究の方法を学びます。同時に、抽象化された概念から具体的な事象を思い浮かべ、その事象の特徴を把握する訓練も行います。抽象と具象の間を往復することで現実の問題への理解が深まることを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

2コマ単位で進めます。1コマ目は教員が講義をし、2コマ目は提案されたテーマに対するディスカッションを行います。講義とディスカッションを組み合わせ、各テーマを理解していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	企業経営とイノベーション (1)	イノベーションについての議論を紹介し、イノベーションの本質を理解する
2	企業経営とイノベーション (2)	イノベーションを起こすには、何が問題かがわからなければならない。問題発見から問題解決までの不確実性に向き合う必要性などについて議論する
3	大企業と中小企業のどちらがイノベーションに向くのか?	中小企業におけるイノベーション戦略の現状と課題を踏まえたうえで、大企業と中小企業のどちらがイノベーションに向くのか、ディスカッションを行う。
4	中小企業のイノベーション戦略	中小企業がイノベーションを実現するためにはどのような戦略が有効なのか、事例をもとにディスカッションを行う。
5	イノベーションにつながる人材マネジメント (1)	人材管理の基本を理解し、イノベーションを促す仕組みを考える
6	イノベーションにつながる人材マネジメント (2)	やる気はイノベーションの源。従業員はどのようなときにやる気を出すのか、どのような人事管理を行えばいいかを議論する
7	イノベーションをうみだすリーダーシップ①	リーダーシップというと暗黙のうち「強いリーダー」を意識するが、リーダーは常に強くなければならないのか。リーダーシップの本質を理解する。

8	イノベーションをうみだすリーダーシップ②	状況に応じて行動を変えることができるのが本当のリーダーである。リーダーとして何をするのが部下の信頼を得ることになるのかを議論する。
9	イノベーション創出のためのマーケティング①	従来の論理思考に加え、デザインやアート概念、方法論などを取り入れた異分野からアプローチするマーケティングについて考える。
10	イノベーション創出のためのマーケティング②	Marketing 6.0: The Future Is Immersiveによる新しいマーケティングの方向性とイノベーションとの関係を議論する。
11	イノベーションとデータ活用① (ヒント・チャンスの発見)	イノベティブなアイデアや仮説を考えるには、現状把握とその構造把握が不可欠である。この回は、ビジネスデータ活用として、ヒントやチャンスの発見の方法を考える。
12	イノベーションとデータ活用② (アイデア・仮説の検証)	イノベティブなアイデアや仮説ほど「本当にそうだろうか」といった懸念が生じるものである。この回は、データによるアイデアや仮説の検証の方法を考える。
13	ファミリー企業のイノベーション①	日本はファミリー企業大国である。長く続いているファミリー企業は、環境変化に直面したとき、本業を大切にしながらイノベーションを起こし柔軟に変化してきている。企業のこれからのあり方をファミリー企業の経営を通して議論する。
14	ファミリー企業のイノベーション②	日本だけではなく外国にも多くのファミリー企業がある。事例研究とグループワークを通してその特徴や現状を検討する。また、それに伴う事業承継についても議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、課題文献を提示しますので、それを熟読し、自分自身の考えをA4版1~2ページ程度にまとめてきて下さい。読むだけでなく、書くことによって理解を深めるねらいがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

榊原清則『経営学入門(上)』『経営学入門(下)』(日経文庫)を使います。その他の教材は、適宜指示します。

### 【参考書】

講義の中で適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

次の2つの要素を合計して評価します。

①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(50%)

②自分でテーマ設定したレポートの作成(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

必読文献の量と題材を工夫します。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー：講義終了後、相談を受け付けます。

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to understand meanings of innovation in business. Continuous innovation is necessary for management. How to make business innovative is the main theme of the lecture.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 中小企業戦略論

Strategic Management in SMEs

丹下 英明 [Hideaki TANGE]

単位数：4単位

学期：春学期授業/Spring

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 【授業の目的】

本講義は、経営戦略や経営計画の策定、策定した経営計画を実行するためのマネジメントについて、中小企業に的確な支援ができるスキルを修得することを目的としています。そのために、中小企業がどのような戦略を策定し、マネジメントしているのか、実際の事例をとりあげながら、講義やグループワークを通じて、体系的に学んでいただきます。

本講義は、中小企業経営に興味がある方に向けた講義です。

#### 【授業の概要】

本講義は、大きく、前半(第1~7回)と後半(第8~14回)に分かれます。

前半は、「フレームワークの意義と限界を学ぶ」をテーマに、経営戦略の理論やフレームワークを学んでいただきます。そして、講義で採り上げるフレームワークをグループワークで実際の企業に適用してみることで、その意義と限界を学んでいきます。

これらによって、経営戦略策定のためのプロセス(外部環境・内部環境の分析→ドメインの明確化→経営戦略の確立)を学んでいただきます。

後半は、実際の企業事例を通じて、経営戦略を経営計画に落とし込み、マネジメントしていくプロセスを学んでいただきます。国際化や新事業開発、M&Aといった個別テーマに関して、中小企業の事例をとりあげ、そのマネジメントプロセスを学んでいきます。

また、本講義では、グループによる戦略提案を2回行っていただきます(戦略提案①および戦略提案②)。

戦略提案①は、講義前半に行います。各グループが選定した企業について、講義で学ぶフレームワークを用いて現状分析を行ったうえで、第6回の講義で今後の戦略提案を発表していただきます(発表時に、選定先企業の経営者に参加いただくことも歓迎します)。

戦略提案②は、講義後半に行います。教員が指定した企業1社について、各グループがそれぞれ独自に分析を行い、戦略提案と経営計画をまとめていただきます。第14回の講義では、当該企業の経営陣に対して、実際に提案を行い、講評をいただく予定です。

以上、本講義では、一方的な聴講型ではなく、アクティブ・ラーニング型の授業を目指します。そのため、本講義では、講義内での発表や発言、ディスカッションを重視します。

#### 【到達目標】

1. 経営戦略を策定するための基礎理論を体系的に習得し、分析に活用することで、的確な戦略策定ができる。
2. 戦略の実行を支援するため、経営計画を策定し、マネジメントの仕組みを構築できる。
3. 経営戦略策定・実行・評価の全プロセスを中小企業に合った形で指導・支援・アドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

##### 【授業形態、授業内での発表】

講義では、基本的知識や理論の説明を行うとともに、中小企業のケースを用いて議論を行います。

また、グループに分かれて、企業に対する戦略提案を行っていただきます。講義内でその結果を発表していただきます。

なお、第1回から第5回、第12回講義については、事前講義動画を視聴したうえで、講義に臨んでいただきます。視聴方法など詳細につきましては、第1回講義前に学習支援システムにて連絡しますので、必ずご確認ください。

##### 【課題提出とフィードバック】

講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。

個人課題およびグループ戦略提案については、講義内および学習支援システムを通じて、採点結果とコメントをフィードバックさせていただきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

##### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経営戦略論の体系的 理解：戦略とは何か	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・自己紹介を行う。 ・グループ戦略提案①の進め方について説明する。 ・グループを決定し、各グループで戦略提案を行う対象企業を決める。 ・戦略とは何か、経営戦略策定の基本プロセスと構成要素はどのようなものかについて説明する。
2	経営戦略策定のための 分析：ドメイン	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・ドメインとは何か、ドメインを定義する重要性や方法、課題を説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にドメインを定義する。
3	経営戦略策定のための 分析：外部環境分 析(SCPモデル、 ファイブフォース)	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・SCPモデル、ファイブフォースとは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にファイブフォース分析を行う。
4	経営戦略策定のための 分析：内部環境分 析(RBV)	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・RBVとは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にRBV分析を行う。
5	経営戦略策定のための 分析：外部・内部 環境分析(3C、 PEST、SWOT)	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・3CやPEST、SWOT分析などの環境分析フレームワークについて説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にSWOT分析を行う。
6	経営戦略策定 グループ戦略提案① 発表	・前回講義への質問回答を行う。 ・各グループによる戦略提案発表を行う。

7	小括：講評と振り返り グループ戦略提案②について 経営計画策定とマネジメント 概略説明	・前回講義への質問回答を行う。 ・グループ戦略提案①の採点結果発表および講評を行う。 ・グループ戦略提案②について、対象企業の概要や進め方を説明する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。 ・経営戦略を具体化するための経営計画の立て方について学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。	・グループによる戦略提案に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。 ・グループによる戦略提案については、授業時間内だけでなく、授業時間外も活用して進めてください。 ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
8	経営計画策定とマネジメント：新製品開発	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は新製品開発に取り組む際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。	<b>【テキスト（教科書）】</b> ・グロービス経営大学院編著『新版 グロービスMBA経営戦略』ダイヤモンド社、2017年 ・丹下英明『中小企業の国際経営：－現地市場開拓と撤退にみる海外事業の変革－』同友館、2016年
9	経営計画策定とマネジメント：資金調達と計数マネジメント	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、どのように資金調達と計数マネジメントを行えばよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。	<b>【参考書】</b> <b>【経営戦略に関する参考書】</b> ・網倉久永；新宅純二郎『マネジメント・テキスト 経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年 ・伊丹敬之『経営戦略の論理（第4版）－ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞社、2012年 ・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年 ・グロービス『ダークサイドMBAコンセプト』東洋経済新報社、2019年 ・山田英夫『ビジネス・フレームワークの落とし穴』光文社新書、2019年 ・山田英夫『競争しない競争戦略：環境激変下で生き残る3つの選択』日経BP、日本経済新聞出版本部、日経BPマーケティング、2021年
10	経営計画策定とマネジメント：M&A	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、M&Aに際して、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。	<b>【中小企業戦略に関する参考書】</b> ・井上善海，瀬戸正則ほか『中小企業の戦略：戦略優位の中小企業経営論』同友館、2009年 ・植田浩史ほか『中小企業・ベンチャー企業論－グローバルと地域のはざままで新版』有斐閣、2014年 ・奥山雅之、加藤秀雄、柴田仁夫、丹下英明『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』文眞堂、2022年 ・商工総合研究所『商工金融』 ・鈴木智博『戦略的中期経営計画で会社は変わる！後継者の経営力向上入門』プレジデント社、2019年 ・中小企業庁『中小企業白書（各年版）』 ・日本政策金融公庫総合研究所『調査月報』 ・日本政策金融公庫総合研究所『日本公庫総研レポート』 ・日本政策金融公庫総合研究所『日本政策金融公庫論集』 ・安田武彦、鈴木正明 他『中小企業論：組織のライフサイクルとエコシステム』同友館、2021年
11	経営計画策定とマネジメント：海外市場開拓	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業はどの海外市場を開拓する際、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループごとに中間発表を行う。	
12	経営計画策定とマネジメント：海外進出と撤退	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は海外進出する際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。	<b>【成績評価の方法と基準】</b> ・個人による成果・講義への参加姿勢（講義への貢献、グループワークへの貢献、レポート課題など）：50% ・グループによる戦略提案の成果:50% ・60%以上で合格。
13	経営計画策定とマネジメント：サステナビリティ	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、SDGsなどサステナビリティ戦略に取り組む際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。	<b>【学生の意見等からの気づき】</b> ・ゲスト講義時には特に、ディスカッションの時間を多めにとりたいと考えています。 ・引き続き、事前講義動画を一部活用するなどによって、グループディスカッションの時間確保と充実化に努めたいと考えています。
14	経営計画策定とマネジメント：新事業開発 グループ戦略提案②まとめ	・前回講義への質問回答を行う。 ・各グループによる戦略・経営計画提案の発表を行う。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。 ・講義の振り返りと質疑応答を行う。	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> ・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではPCを使いますので、ご準備ください。 ・講義資料は、原則、2日前までに学習支援システムに掲示します。 ・課題提出は、学習支援システムを利用します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
- ・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
- ・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。

**【その他の重要事項】**

- ・「経営戦略論」（土曜日開講）を受講された方（または受講される方）へ：本講義の前半（第1～7回）は、経営戦略の基本的な理論やフレームワークを学ぶ内容となっています。そのため、「経営戦略論」と講義内容が一部重複しています。本講義の受講を希望される方は、その点をご理解いただいたうえで、受講をご判断ください。
- ・後半（第8～14回）の講義については、ゲスト講師の都合により、日程やテーマの変更が生じることがあります。
- ・教員の実務経験：株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

**【Outline (in English)】**

This course provides learning about the management strategy of small and medium enterprises.

In particular, we will focus on management strategies for innovation such as new business development.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## マーケティング

Marketing

坂本 和子 [Kazuko SAKAMOTO]

単位数：4単位

学期：春学期授業/Spring

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義はマーケティングの基礎概念や諸理論を体系的に学び、各ケースへの取り組みなどを通して、イノベーションを起こすためのノウハウ習得やスキルの滋養を目的とする。

### 【到達目標】

- ・マーケティングの基本概念や諸理論を理解し、それを使って身の回りの事象が説明できるようにする。
- ・モノづくりに生かす知識と実践力を身につける。
- ・マーケティングの視点から経営環境の諸問題を捉え、課題解決の手がかりを習得する。
- ・マーケティング分析手法による市場の理解と提案スキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

2時限続きで14日、全28回の開講

教科書とスライド教材を基に講義を進める。

- ・各テーマにおいて、教員によるレクチャーの後、受講生によるショートケースの解説と分析を発表。その後、クラス全員で発表内容についてディスカッションする。
- ・提出物やプレゼンテーションに対して講評などフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Nature of Marketing①	マーケティングの基礎概念、定義と意義
2	The Nature of Marketing②	演習/討議
3	Marketing Strategy and Planning①	マーケティング戦略と計画
4	Marketing Strategy and Planning②	演習/討議
5	Understanding Customer Behavior①	消費者特性と行動、消費者心理
6	Understanding Customer Behavior②	演習/討議
7	Marketing Research and Customer Insights①	理論フレームと調査分析、インサイト
8	Marketing Research and Customer Insights②	演習/討議

9	STP①	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
10	STP②	演習/討議
11	Latest topics	ゲストスピーカーによる講義、担当教員によるまとめと解説
12	Value through Products and Brands①	演習/討議
13	Value through Products and Brands②	製品開発
14	Value through Products and Brands③	演習/討議
15	Value through Products and Brands④	プロダクトライフサイクル、ブランディング
16	Value through Products and Brands⑤	演習/討議
17	Value through Services, Relationship, Experience①	サービス、関係性、経験価値マーケティング
18	Value through Services, Relationship, Experience②	演習/討議
19	Delivering and Managing Customer Value①	ゲストスピーカーによる講義、担当教員にまとめと解説
20	Delivering and Managing Customer Value②	演習/討議
21	Delivering and Managing Customer Value③	流通政策
22	Delivering and Managing Customer Value④	演習/討議
23	Integrated Marketing Communication I①	offline
24	Integrated Marketing Communication I②	演習/討議
25	Integrated Marketing Communication II①	online
26	Integrated Marketing Communication II②	演習/討議
27	The Marketing Environment①	マーケティング環境、最新動向、Topic
28	The Marketing Environment②	演習/討議

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を目安とする。
- ・教科書の指定する箇所や事例を読み込み講義に臨むようにする。
- ・事前に指定したショートケースを読み、設問に対する回答を準備する。
- ・プレゼンテーションを担当する回には発表用ファイルを作成し、事前提出する。

### 【テキスト (教科書)】

John Fahy, David Jobber(2022), "Foundations of Marketing"(7nd Edition), UK Higher Education Business Marketing.

**【参考書】**

参考書は項目ごとにその都度、講義中にて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

ショートケースのプレゼンテーション50%、ディスカッションへの貢献20%、ゲストスピーカー講義のミニ課題ほか30%、左記の割合で総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

ハイフレックス講義における工夫と満足度向上に努める。

**【その他の重要事項】**

「オフィスアワー」木曜日の3時限目（13:10～15：00）

**【Outline (in English)】**

The purpose of this lecture is to systematically learn the fundamental concepts and theories of marketing, and to acquire the know-how and cultivate skills to develop innovations through practical cases.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## ファイナンス I

Finance I

山崎 泰明 [Yasuaki YAMASAKI]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定を研究・体得する分野である「コーポレートファイナンス」について学びます。もう少し平易にいうと企業のおカネに関するマネジメントを研究する科目です。ビジネスの原理や構造、その管理法などを研究するという点では経営学の一つですが、限られた資源をいかに効率よく利用するかを検討するという点では経済学の一つでもあります。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出方法に必要な知識と実務に付随することを習得することです。ファイナンス I では、主として伝統的ファイナンス理論からのアプローチを行います。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンス II とともに受講することを望みます。

### 【到達目標】

以下の5つを目標とします。

- ①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
- ②資本市場の仕組みを理解する。
- ③主要なファイナンス理論の枠組みを理解する。
- ④ファイナンスの観点からの財務分析を理解する。
- ⑤資本市場における企業の価値決定の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のCFOや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④ファイナンスを身近に感じるためのクイズ
第2回	バリュエーション①	①リスクと期待収益率 ②投資家のリスク選好 ③要求収益率 ④将来価値と現在価値

第3回	バリュエーション②	①将来価値 ②現在価値 ③合理的期待形成
第4回	ポートフォリオ理論とCAPM①	①ポートフォリオ理論 ②分散投資によるリスクの軽減 ③相関係数
第5回	ポートフォリオ理論とCAPM②	①効率的フロンティア ②ベータ値 ③CAPM
第6回	資本予算：投資プロジェクト①	①投資プロジェクト ②キャッシュフローの予測
第7回	資本予算：投資プロジェクト②	①正味現在価値：NPV ②永久年金型 ③割増永久年金型 ④ターミナルバリュエーション ⑤リアルオプション
第8回	資本予算：投資プロジェクト③	①回収期間法 ②内部収益率：IRR ③投資価値と企業価値
第9回	資本コスト	①株主と金融債権者 ②WACC ③財務レバレッジ
第10回	資本構成①	①MM命題 ②投資家の視点 ③裁定取引と一物一価 ④株式のエージェンシー費用 ⑤負債のエージェンシー費用
第11回	資本構成②	①余剰資金 ②資本構成の実証的事実 ③情報の非対称性 ④株価のミスマイシンク ⑤株式発行の過大評価シグナル ⑥ベッキングオーダー仮説
第12回	ペイアウト：配当政策①	①配当政策と投資政策 ②既存株主への影響 ③株価に与える影響 ④株主への影響
第13回	ペイアウト：配当政策②	①配当のMM命題 ②売買に関わるコスト等
第14回	ペイアウト：自社株買い	①自社株買いの方法 ②自社株買いと株価への影響 ③自社株買いと市場のタイミング仮説

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので、2時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に2時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

### 【テキスト (教科書)】

・講義用資料 (パワーポイント)

### 【参考書】

リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝茂樹監訳、「コーポレートファイナンス (上) (下)」日経BP社 2014年  
森直哉著、「コーポレートファイナンス」創成社 2018年

**【成績評価の方法と基準】**

- ・最終確認テスト 40%
- ・各回の小レポート 30%
- ・授業での関与度 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

多くの意見を期待します。

**【学生が準備すべき機器他】**

Excelが使用できるパソコンが必要です。

**【その他の重要事項】**

三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。

**【オフィスアワー】**

質問等は、木曜日の3限目（13:10-14:50）に受け付けます。  
別途、事前に連絡をいただければ、対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

**【実務家教員】**

30数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

Financial knowledge is very important for corporate management to make correct decisions. It is important and has a significant impact on the success or failure of your business. In this lecture, you will learn about corporate finance.

**【Learning Objectives】**

The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practical skills necessary to calculate various "values" that are important factors in business management decision making. In Finance I, you will mainly study traditional finance theory. We provide full support to help all students achieve a certain level of goals. If possible, I would like to take Finance II as well.

**【Learning activities outside of classroom】**

Two hours of preparation and two hours of review.

**【Grading Criteria/Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination : 40%、Short report : 30%、in class contribution : 30%

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## ファイナンス II

Finance II

山崎 泰明 [Yasuaki YAMASAKI]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定に関わる投資理論について主に学びます。ファイナンス I で学ぶ伝統的投資理論を発展させたものや派生させた分野です。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出について多方面からアプローチするために必要な知識と実務に付随することを習得することです。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンス I とともに受講することが望ましいでしょう。

### 【到達目標】

以下の5つを目標とします。

- ①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
- ②資本市場の仕組みを理解する。
- ③株式や債券の投資について理解する。
- ④原資産の派生商品を知る。
- ⑤伝統的ファイナンス理論以外のアプローチ方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のCFOや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④株式投資コンテスト
第2回	ファイナンス概論①	①株式会社の起源と仕組み ②株式市場の仕組み ③債券市場の仕組み
第3回	ファイナンス概論②	①キャッシュフロー ②資金調達構造 ③利益分配構造 ④内部留保構造 ⑤企業価値とは
第4回	証券の価格：株式	①株式の価格 ②配当割引モデル ③市場の効率性 ④ランダムウォーク

第5回	証券の価格：債券	①債券の利回り ②社債の価格
第6回	株式投資理論	①ファンダメンタルズ分析 ②テクニカル分析 ③株式投資コンテスト
第7回	行動ファイナンス①	①代表性バイアス ②利用可能性のバイアス ③保守性バイアス
第8回	行動ファイナンス②	①プロスペクト理論 ②バリュー効果 ③効率的/非効率的市場と株式市場
第9回	外部講師招聘	コーポレートガバナンス改革と日本市場 担当教員によるまとめ
第10回	外部講師招聘	米国株式市場制度の特色 担当教員によるまとめ
第11回	デリバティブ取引①	先物取引
第12回	デリバティブ取引②	オプション取引
第13回	デリバティブ取引③	①スワップ取引 ②転換社債等
第14回	総括	①確認テスト ②株式投資コンテストの講評

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義中にも説明は行ないませんが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので事前に2時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に2時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

### 【テキスト (教科書)】

・講義用資料 (パワーポイント)

### 【参考書】

ダニエル・カーネマン著、村井章子訳、「ファスト&スロー (上) (下) 」ハヤカワノンフィクション文庫 2014年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・最終確認テスト 40%
- ・各回の小レポート 30%
- ・授業での関与度 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

多くの意見を期待します。

### 【学生が準備すべき機器他】

Excelが使用できるパソコンが必要です。

### 【その他の重要事項】

三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。

### 【オフィスアワー】

質問等は、木曜日の3限目 (13:10-14:50) に受け付けます。別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

### 【実務家教員】

30数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

### 【Outline (in English)】

### 【Course outline】

Knowledge of finance is extremely important for business management in making the right decisions, and it greatly affects the success or failure of a business. In this lecture, you will mainly learn about investment theory related to financial decision making of corporations. It is a field that is a development or derivative of the traditional investment theory learned in Finance I.

**[Learning Objectives]**

The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practices necessary for a multifaceted approach to the calculation of various "values" that are important factors in corporate management decision-making. We will provide full support to ensure that all students reach a certain level of goals. If possible, it is advisable to take this course together with Finance I.

**[Learning activities outside of classroom]**

Two hours of preparation and two hours of review.

**[Grading Criteria/Policies]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination : 40%、Short report : 30%、in class contribution : 30%

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

人的資源管理論

Human Resource Management

山田 久 [Hisashi YAMADA]

単位数：4単位

学期：春学期授業/Spring

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

事業活動の担い手は人であり、イノベーションを産み出すのも人です。そして、経済社会環境が高度化し複雑化した今日、事業活動・イノベーション活動は、人の集合体である企業組織を通じて行われるのが一般的です。本講義では、「企業経営・組織運営における人材」にまつわる諸問題を取り上げ、歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、戦略的人材マネジメントの考え方——事業価値創造のために、最も重要な経営資源である人材をどう活かしていくべきか——の要点を幅広い視野で多角的に学びます。

【到達目標】

人材マネジメントの基本要素（採用・育成・評価・配置）についてのベーシックなロジックを習得することが第1の目標です。同時に「マクロ環境(経営・事業環境)—企業経営(事業戦略)—人材」という三層構造の中に人材を位置づけたうえで、これら三層の相互の関係性の理解を深めます。それにより、既存の枠組みの根本的な見直しが求められるVUCA時代において、イノベーションを興すための人材活用・組織運営に必要な思考——経済社会の在り方まで遡って大局的かつ本質を突いた見方・考え方——ができるようになることを目指します。歴史的視点と国際比較の視点を交えて学び、目の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2コマ単位で進める。まず教員が講義し、各回のテーマの概要をつかんだうえで、グループディスカッションを行う。その後グループごとに発表してもらい、補足的な講義を行いながら各回のポイントの理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人的資源管理とは、人材を巡る問題	人的資源管理で何を学ぶかの概要を示し、いま日本の雇用・人事の現場でどういったことが問題になっているか、を理解する。
1	日本的人事の特徴と変遷	欧米比較からみたわが国雇用システムの特徴を理解し、歴史的に日本の雇用・人事はどう変わってきたかを学び、その現在へのインプリケーションを議論する。
2	採用戦略と若年雇用(1)	若者雇用の現状はどうなっているか、海外の若年雇用の状況との違いは何かを学ぶ。若者の離職率が高いのはなぜか、どうすれば定着するかを議論する。

2	採用戦略と若年雇用(2)	社会経済の環境変化を踏まえ、どうすれば優秀な人材を採用できるか、いかにすれば優秀な人材を確保できるかについて、議論する。
3	人材育成とキャリア開発(1)	人材不足が深刻になっているがその背景は何か、企業の人材育成の現状はどうなっているかについて、国際比較の観点から学ぶ。
3	人材育成とキャリア開発(2)	なぜ企業は人材投資を十分に行わないか、「できる人材」はどういった能力を持っているのか、どうすれば人材は効果的に育つのか、といった論点について議論する。
4	人事評価と昇進管理(1)	評価はどういった要素を対象にし、そもそも何のために行うのか、評価者が陥りやすい誤りにどのようなことがあるか等、評価の基本的ロジックを学び、企業を発展させる評価制度とはどのようなものか、議論する。
4	人事評価と昇進管理(2)	日本企業の昇進制度の特徴はどういったものかを国際比較の観点から理解し、遅い選抜・早い選抜の功罪について議論する。
5	報酬管理と福利厚生(1)	賃金とは何か、どのような機能があるか、どのように決まるのか、といった賃金にまつわる基本的論理と、国際比較からの日本の特徴を理解する。やる気をもたらす賃金制度とはどういったものかを議論する。
5	報酬管理と福利厚生(2)	春闘(春季労使交渉)や福利厚生にはどういう意味があるのかを考え、それらは時代遅れになったといえるのか、その今日的な意味合いを議論する。
6	労働時間管理と柔軟な働き方(1)	わが国労働者の長時間労働の実態を把握したうえで、残業削減にはどういった目的があり、それに副作用はないかを議論する。
6	労働時間管理と柔軟な働き方(2)	裁量労働制や高度プロフェッショナル制度の意義を理解し、適正運用の課題は何かを考える。テレワークにはどういった功罪があるか、転勤制度は必要かを議論する。
7	労働移動と退職管理(1)	わが国の雇用の流動性の現状はどうなっているか、終身雇用の崩壊は本当か、わが国が解雇しにくいのは本当か、海外のリストラはどうなっているか、といった点を学ぶ。
7	労働移動と退職管理(2)	人員削減はどのようなときに合理化され、どういったコストを企業にもたらすのか、適正な人員管理にはどのような考え方が必要か、について議論し、人材ビジネスの役割は何かについても考える。
8	非典型労働者(1)	非典型労働者にはどのような種類があり、どういった分野で多く働いているか、企業が非典型労働者を活用する理由は何か、個人が非典型労働で働く理由は何か、等について学ぶ。そのうえで、企業にとって非典型労働者のメリットとデメリットは何かを議論する。

8	非典型労働者(2)	非典型労働者にモチベーション高く働いてもらうにはどうすればよいか、正規・非正規間の公平な処遇にはどういった考え方が必要かについて議論する。
9	女性活躍とダイバーシティー経営(1)	女性活躍の現状を知り、それを阻害している要因を理解する。わが国に特有な男女賃金格差の原因を理解し、コロナ禍によって生じた変化を踏まえ、今後の可能性について議論する。
9	女性活躍とダイバーシティー経営(2)	ダイバーシティー&インクルージョンの考え方を理解し、全員を戦略化するためのチーム運営の在り方を考える。
10	高齢者就労と障がい者雇用(1)	シニア・高齢者雇用の現状と、シニア・高齢者雇用を推進する意義はどういったところにあるのかを理解する。国際比較した場合のその課題は何かを学ぶ。そのうえで、シニア就労の障害はどういったところにあるのか、シニア就労を進めるために企業はどのようなことに取り組むべきかを議論する。
10	高齢者就労と障がい者雇用(2)	個人が長く働き続けるにはどのようなことが重要かを議論し、障がい者雇用の課題と可能性を考える。
11	フリーランス・兼業(1)	フリーランスの現状と課題について、その理論的な位置づけや国際比較の観点からの特徴など、多角的に学ぶ。
11	フリーランス・兼業(2)	インディペンデントコントラクター(専門性と自律性の高いフリーランス)になるための条件と課題を議論する。兼業の意味を考える。
12	グローバル化と人材管理(1)	日本企業のグローバル化の歴史とグローバル人事の現状と課題を学ぶ。そのうえで、人材マネジメントの観点から海外事業法人をどう運営すべきかを議論する。
12	グローバル化と人材管理(2)	国内での外国人労働者の現状と課題を学び、外国人材が日本企業で活躍できるために何が求められるかを議論する。
13	労使コミュニケーション(1)	集団的な労使関係への社会的な関心が薄れたのはなぜかを考え、労使関係の良し悪しは経営にどう影響するかを議論する。
13	労使コミュニケーション(2)	労働組合にはどのような役割があるかを、海外の労使関係との比較から理解する。そのうえで、労使共栄のためにはどういった取り組みが必要かを議論する。
14	日本型人材マネジメントの未来(1)	経営・事業環境にどういった変化が生じているかを改めて理解し、近年の労働政策の在り方を踏まえ、日本の雇用システムが全体としてどういう形が変わっていくと考えられるかを議論する。
14	日本型人材マネジメントの未来(2)	今後の事業変化の方向性を理解し、その中で事業創造していくために人材マネジメントに何が求められるかを総合的に議論する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

毎回、授業で行ったディスカッション・テーマについて、講義で学んだことやディスカッションした内容を踏まえ、自分の考えをA4版1~2ページにまとめて提出する。書くという作業によって学習効果が高まるからである。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

毎回講義資料を配布する。

**【参考書】**

基本参考文献として、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(新装版)』日本経済新聞出版、守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、山田久『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社。その他参考文献は適宜指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

次の要素を合計して評価する。①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(40%)、②毎回提出するレポート(20%)、③期末レポートの作成および小テスト(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

講義資料の見やすさを工夫し、ディスカッションを活発化させるグループ人数を設定するよう心がけます。

**【その他の重要事項】**

民間シンクタンクでのジェネラルマネジャー(部長)を6年間勤め、人材マネジメントの実際を経験しています。また、「働き方改革」関連の政府審議会に属したことがあり、企業人事実務者や労組幹部向けの講演を通じて様々な意見交換をしてきました。そうした実務経験で得た知識を活かしながら、人材マネジメントの現場に即したディスカッションを行い、組織と人の問題の実際を学べる場を提供できればと考えています。

**【担当教員の専門分野、最近の主要業績】**

<専門領域>労働経済学、人的資源管理論  
<研究テーマ>新しい労働市場のグランド・デザイン、VUCA時代の人材マネジメント  
<主要研究業績>  
①『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、②『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社、③『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社

**【Outline (in English)】**

Human resources are the most important elements to enhance business innovations. The propose of the lecture is to understand core concepts of human resource management in Japan. Students will learn various issues concerning Strategic Human Resource Management, from the viewpoints of historical context and international comparison.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 人的資源管理論 I

Human Resource Management 1

山田 久 [Hisashi YAMADA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

事業活動の主体的な担い手は人であり、イノベーションを実現するのも人です。そして、経済社会環境が高度化し複雑化した今日、あらゆる事業活動・イノベーション活動は、基本的に人の集合体である企業組織を通じて行われます。本講義では、「企業経営・組織運営における人材」に関連する中核的なトピックスを取り上げ、歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、戦略的人材マネジメントの考え方——事業価値創造のために、最も重要な経営資源である人材をどう活かしていくべきか——の要点を学びます。

### 【到達目標】

人材マネジメントの基本要素（採用・育成・評価・配置）についてのベーシックなロジックを習得することが目標です。同時に「マクロ環境(経営・事業環境)—企業経営(事業戦略)—人材」という三層構造の中に人材を位置づけたうえで、これら三層の相互の関係性の理解を深めます。それにより、既存の枠組みの根本的な見直しが求められるVUCA時代において、イノベーションを興すための人材活用・組織運営に必要な思考——経済社会の在り方まで遡って大局的かつ本質を突いた見方・考え方——ができるようになることを目指します。歴史的視点と国際比較の視点を交えて学び、目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まず教員が講義し、各回のテーマの概要をつかんだうえで、グループディスカッションを行う。その後グループごとに発表してもらい、補足的な講義を行いながら各回のポイントの理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理とは、人材を巡る問題	人的資源管理で何を学ぶかの概要を示し、いま日本の雇用・人事の現場でどういったことが問題になっているか、を理解する。
第1回	日本的人事の特徴と変遷	欧米比較からみたわが国雇用システムの特徴を理解し、歴史的に日本の雇用・人事はどう変わってきたかを学び、その現在へのインプリケーションを議論する。
第2回	採用戦略と若年雇用(1)	若者雇用の現状はどうなっているか、海外の若年雇用の状況との違いは何かを学ぶ。若者の離職率が高いのはなぜか、どうすれば定着するかを議論する。
第2回	採用戦略と若年雇用(2)	社会経済の環境変化を踏まえ、どうすれば優秀な人材を採用できるか、いかにすれば優秀な人材を確保できるかについて、議論する。

第3回	人材育成とキャリア開発(1)	人材不足が深刻になっているがその背景は何か、企業の人材育成の現状はどうなっているかについて、国際比較の観点から学ぶ。
第3回	人材育成とキャリア開発(2)	なぜ企業は人材投資を十分に行わないか、「できる人材」はどういった能力を持っているのか、どうすれば人材は効果的に育つのか、といった論点について議論する。
第4回	人事評価と昇進管理(1)	評価はどういった要素を対象にし、そもそも何のために行うのか、評価者が陥りやすい誤りにどのようなことがあるか等、評価の基本的ロジックを学び、企業を発展させる評価制度とはどのようなものか、議論する。
第4回	人事評価と昇進管理(2)	日本企業の昇進制度の特徴はどういったものかを国際比較の観点から理解し、遅い選抜・早い選抜の功罪について議論する。
第5回	報酬管理と福利厚生(1)	賃金は労働の対価。賃金支払いの基準、適切な賃金水準を決める方法。
第5回	報酬管理と福利厚生(2)	賃金体系のあり方。定期昇給の意味。ボーナスの支払基準。
第6回	労働時間管理と柔軟な働き方(1)	わが国労働者の長時間労働の実態を把握したうえで、残業削減にはどういった目的があり、それに副作用はないかを議論する。
第6回	労働時間管理と柔軟な働き方(2)	裁量労働制や高度プロフェッショナル制度の意義を理解し、適正運用の課題は何かを考える。テレワークにはどういった功罪があるか、転勤制度は必要かを議論する。
第7回	労働移動と退職管理(1)	わが国の雇用の流動性の現状はどうなっているか、終身雇用の崩壊は本当か、わが国が解雇しにくいのは本当か、海外のリストラはどうなっているか、といった点を学ぶ。
第7回	労働移動と退職管理(2)	人員削減はどのようなときに合理化され、どういったコストを企業にもたらすのか、適正な人員管理にはどのような考え方が必要か、について議論し、人材ビジネスの役割は何かについても考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業で行ったディスカッション・テーマについて、講義で学んだことやディスカッションした内容を踏まえ、自分の考えをA4版1~2ページにまとめて提出する。書くという作業によって学習効果が高まるからである。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回講義資料を配布する。

### 【参考書】

基本参考文献として、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(新装版)』日本経済新聞出版、守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、山田久『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社。その他参考文献は適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

次の3つの要素を合計して評価します。

- ①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(40%)
- ②毎回提出するレポートの質(20%)
- ③レポートの作成および小テスト(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

講義資料の見やすさを工夫し、ディスカッションを活性化させるグループ人数を設定するよう心がけます。

**【その他の重要事項】**

人的資源管理論Ⅱを併せて履修することが望ましい。

**【担当教員の専門分野、研究テーマ、最近の主要な業績】**

<専門領域>労働経済学、人的資源管理論

<研究テーマ>新しい労働市場のグランド・デザイン、VUCA時代の人材マネジメント

<主要研究業績>

①『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、②『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社、③『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社

**【Outline (in English)】**

Human resources are the most important elements to enhance business innovations. The propose of the lecture is to understand core concepts of human resource management in Japan. Students will learn core issues concerning Strategic Human Resource Management, from the viewpoints of historical context and international comparison.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

人的資源管理論Ⅱ

Human Resource Management 2

山田 久 [Hisashi YAMADA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

事業活動の担い手は人であり、イノベーションを産み出すのも人です。そして、経済社会環境が高度化し複雑化した今日、事業活動・イノベーション活動は、人の集合体である企業組織を通じて行われるのが一般的です。本講義では、「企業経営・組織運営における人材」にまつわる具体的な諸問題を取り上げ、歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、戦略的人材マネジメントの考え方——事業価値創造のために、最も重要な経営資源である人材をどう活かしていくべきか——の要点を幅広い視野で多角的に学びます。

【到達目標】

人材マネジメントの基本要素（採用・育成・評価・配置）についてのベーシックなロジックを習得することが第1の目標です。同時に「マクロ環境(経営・事業環境)—企業経営(事業戦略)—人材」という三層構造の中に人材を位置づけたうえで、これら三層の相互の関係性の理解を深めます。それにより、既存の枠組みの根本的な見直しが求められるVUCA時代において、イノベーションを興すための人材活用・組織運営に必要な思考——経済社会の在り方まで遡って大局的かつ本質を突いた見方・考え方——ができるようになることを目指します。歴史的視点と国際比較の視点を交えて学び、目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2コマ単位で進める。まず教員が講義し、各回のテーマの概要をつかんだ上で、グループディスカッションを行う。毎回必読文献を用意し、それを読んだ上での出席を前提とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	非典型労働者(1)	非典型労働者にはどのような種類があり、どういった分野で多く働いているか、企業が非典型労働者を活用する理由は何か、個人が非典型労働で働く理由は何か、等について学ぶ。そのうえで、企業にとって非典型労働者のメリットとデメリットは何かを議論する。
1	非典型労働者(2)	非典型労働者にモチベーション高く働いてもらうにはどうすればよいか、正規・非正規間の公平な処遇にはどういった考え方が必要かについて議論する。
2	女性活躍とダイバーシティー経営(1)	女性活躍の現状を知り、それを阻害している要因を理解する。わが国に特有な男女賃金格差の原因を理解し、コロナ禍によって生じた変化を踏まえ、今後の可能性について議論する。

2	女性活躍とダイバーシティー経営(2)	ダイバーシティー&インクルージョンの考え方を理解し、全員を戦略化するためのチーム運営の在り方を考える。
3	高齢者就労と障がい者雇用(1)	ダイバーシティ・マネジメントの重要性が言われるが、ダイバーシティーはとてめんどろであることが多くの人にはわかっていない。
3	高齢者就労と障がい者雇用(2)	個人が長く働き続けるにはどのようなことが重要かを議論し、障がい者雇用の課題と可能性を考える。
4	フリーランス・兼業(1)	フリーランスの現状と課題について、その理論的な位置づけや国際比較の観点からの特徴など、多角的に学ぶ。
4	フリーランス・兼業(2)	インディペンデントコントラクター(専門性と自律性の高いフリーランス)になるための条件と課題を議論する。兼業の意味を考える。
5	グローバル化と人材管理(1)	日本企業のグローバル化の歴史とグローバル人事の現状と課題を学ぶ。そのうえで、人材マネジメントの観点から海外事業法人をどう運営すべきかを議論する。
5	グローバル化と人材管理(2)	国内での外国人労働者の現状と課題を学び、外国人材が日本企業で活躍できるために何が求められるかを議論する。
6	労使コミュニケーション(1)	集团的な労使関係への社会的な関心が薄れたのはなぜかを考え、労使関係の良し悪しは経営にどう影響するかを議論する。
6	労使コミュニケーション(2)	労働組合にはどのような役割があるかを、海外の労使関係との比較から理解する。その上で、労使共栄のためにはどういった取り組みが必要かを議論する。
7	日本型人材マネジメントの未来(1)	経営・事業環境にどういった変化が生じているかを改めて理解し、近年の労働政策の在り方を踏まえ、日本の雇用システムが全体としてどういう形が変わっていくと考えられるかを議論する。
7	日本型人材マネジメントの未来(2)	今後の事業変化の方向性を理解し、その中で事業創造していくために人材マネジメントに何が求められるかを総合的に議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業で行ったディスカッション・テーマについて、講義で学んだことやディスカッションした内容を踏まえ、自分の考えをA4版1~2ページにまとめて提出する。書くという作業によって学習効果が高まるからである。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回講義資料を配布する。

【参考書】

基本文献として、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(新装版)』日本経済新聞出版、守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、山田久『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社。その他参考文献は適宜指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

次の要素を合計して評価する。①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(40%)、②毎回提出するレポート(20%)、③期末レポートの作成と小テスト(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

講義資料の見やすさを工夫し、ディスカッションを活性化させるグループ人数を設定するよう心がけます。

**【その他の重要事項】**

人的資源管理論 I を受講していることを前提に授業を進めます。

**【担当教員の専門分野と最近の主要業績】**

<専門領域>労働経済学、人的資源管理論

<研究テーマ>新しい労働市場のグランド・デザイン、VUCA時代の人材マネジメント

<主要研究業績>

①『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、②『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社、③『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社

**【Outline (in English)】**

Human resources are the most important elements to enhance business innovations. The propose of the lecture is to understand core concepts of human resource management in Japan. Students will learn various issues concerning Strategic Human Resource Management, from the viewpoints of historical context and international comparison.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

**財務会計論 (M特必修)**

Financial Accounting

石島 隆 [Takashi ISHIJIMA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

財務諸表は、事業活動の成果と資産・負債等の状況を簡潔に要約し、株主・債権者等に伝達する媒体である。従って、財務諸表の内容を正確に理解できることは、経営者にとっても、また、それを支援する立場である経営管理スタッフやコンサルタントにとっても重要である。

学生は、本授業において、財務諸表(貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書等)を分析する手法を学ぶことにより、企業の経営状況の特徴を財務の視点から理解できるようになることを目指す。

公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、中小企業の財務会計と経営指標の特徴についても学ぶ。

**【到達目標】**

学生が財務諸表数値の内容を理論的に理解するだけでなく、実際に財務諸表を分析し、分析結果を解釈できるようになることを目標とする。

このため、授業内で行うグループ討議と発表において、各単元の理解度を確認するとともに、最終レポートにおいて、学生が自ら選定した企業の財務諸表分析の結果を報告することで目標達成度を評価する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、受講者が会計学の基本的な知識を持っていること(中小企業診断士第1次試験の「財務・会計」に合格したレベル又は「会計入門」を受講済みのレベル)を前提とする。

財務諸表分析に関するグループ討議を行い、分析結果の発表を求めることにより、財務会計に対する実践的な知識の理解を図る。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務会計の役割と財務分析の目的 財務諸表の体系・表示方法、財務情報の入手方法	財務会計の役割と財務分析の目的について討議し、授業の到達目標を共有する。 有価証券報告書の構成、財務諸表の体系・表示方法、及び財務分析のためのデータの入手方法を学ぶ。
2	財務諸表の全体構造 財務諸表分析の方法	財務諸表の全体構造と財務諸表分析の方法を学び、実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
3	分析対象会社の選定と資本利益率の分析	分析対象会社の選定と資本利益率の分析についてグループ討議を行い、結果を発表する。 担当教員によるまとめ
4	費用・収益の会計と分析方法(1)	収益・費用の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。

5	費用・収益の会計と分析方法(2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち売上高利益率、②生産性指標、③各種の収益・費用項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
6	資産の会計と分析方法(1)	資産の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
7	資産の会計と分析方法(2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち資本回転率、②設備の状況、③各種の資産項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
8	負債・純資産及び税金の会計と分析方法(1)	負債・純資産及び税金の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
9	負債・純資産及び税金の会計と分析方法(2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①安全性指標及び財務レバレッジ、②株価関連指標、③成長性指標、④各種の負債・純資産項目の内容、⑤法人税等の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
10	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法(1)	キャッシュ・フロー計算書の構造と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
11	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法(2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①キャッシュフロー関連指標、②各種のキャッシュフロー項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
12	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論(1)	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論のまとめ方について学ぶ。
13	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論(2)	分析対象会社の財務諸表を用いた経営分析結果の総合的な結論のとりまとめについて、グループ討議を行い、結果を発表する。
14	中小企業の会計基準と財務指標の特徴	「中小企業の会計に関する指針」と財務指標の特徴を学ぶ。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本講義では、ノートPCを用いた経営分析の演習を行う。グループ別に会社を選定して、分析と討議を行い、分析結果の発表を求めることによって、各種分析手法を学んでいく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

桜井久勝著『財務諸表分析(第8版)』中央経済社(税込¥3,740)  
なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第8版でも学習に差し支えないように配慮する。

**【参考書】**

桜井久勝著『財務会計講義(第24版)』中央経済社(税込¥4,180)

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に行うグループ討議結果に関する発表及び積極的な質問や発言(50%)  
最終レポート(50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

経営分析の結果を実践において活用できるようにするための体系的な考え方を身につけられるようにする。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料の配付は、授業支援システムで行う。  
授業中に行うグループ討議のための情報収集、とりまとめ、発表にノートPCを利用するので、毎回、ノートPCを持参すること。

**【その他の重要事項】**

授業の中での活発な質問、討議と質の高い最終レポートを期待する。

<オフィスアワー>

春学期：月曜日5限目（16:50-18:30）

この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。

教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。これらの経験を生かして、財務分析を企業経営の実態を理解するためのツールとして活用できるように指導する。

**【Outline (in English)】**

Financial statements are mediums that briefly summarize the outcomes of business activities and the status of assets, liabilities, etc. and convey them to shareholders, creditors, etc. Therefore, being able to understand the contents of financial statements accurately is also important for management and for management staff and consultants who are in a position to support it.

In this class, students aim to be able to understand the characteristics of corporate management situations from a financial perspective by learning techniques for analyzing financial statements(balance sheet, income statement, cash flow statement, etc.).

We will use the published financial statements of listed companies as the analysis target, but also learn about the characteristics of financial accounting and management indicators of SMEs.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

**財務会計論**

Financial Accounting

内山 峰男 [Mineo Uchiyama]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、受講者が会計学を初めて学習することを前提として、新聞やテレビ等の報道で取り上げられる会計問題等、身近な話題も題材にしなが、会計に関する幅広い知識を習得していくことを目的としている。

**【到達目標】**

企業の会計に関して、企業の作成する財務諸表の具体的な内容を理解し、財務諸表が社会的にどのような役割と機能を備えているのか、さらには財務諸表を通じて企業がどのように活動しているのかについて、実際の数値を分析したり、モデルの数値を作成することにより理解をはかっていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

財務諸表を分析するにあたりに必要な基本知識を講義し、具体的な事例を紹介すると共に、各自興味のある会社を実際に分析し発表してもらいこれを題材に議論する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財務情報の内容・役割を解説し、具体的な入手方法を説明する。
2	企業の情報開示	金融商品取引法と会社法の情報開示についてその目的・内容について説明する。
3	会計情報の作成方法	会計情報はどのように作成されるかについて、具体的な数値を用いて、複式簿記の基礎を説明する。
4	財務諸表の種類	個別財務諸表と連結財務諸表の記載内容について説明する。
5	貸借対照表	貸借対照表の作成原則および構成する資産・負債・純資産の記載内容について説明する。
6	損益計算書	損益計算書の作成原則および構成する費用・収益・利益の記載内容について説明する。
7	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー作成原則および具体的キャッシュの記載内容について説明する。
8	株主資本等変動計算書およびセグメント情報	株主資本等変動計算書およびセグメント情報の作成原則および記載内容について説明する。
9	財務諸表分析の具体的方法(1)	財務分析の方法その目的について説明する。
10	財務諸表分析の具体的方法(2)	具体例を用いて財務の安全性に関する分析の手法を説明する。
11	財務諸表分析の具体的方法(3)	具体例を用いて財務の収益性に関する分析の手法を説明する。

12	財務諸表分析の具体的方法(4)	具体例を用いて財務の生産性・成長性に関する分析の手法を説明する。
13	財務諸表分析事例(1)	受講生の選定した企業を具体的な事例として財務分析を行い議論する。
14	財務諸表分析事例(2)	受講生の選定した企業を具体的な事例として財務分析を行い議論する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自興味のある企業を選定し、そのビジネスモデルや競合企業について、企業のWeb (IR情報) 等により情報を入手し調べておくこと。

**【テキスト (教科書)】**

特になし

**【参考書】**

- ・新版 会計学入門(第4版) 千代田邦夫著 中央経済社
- ・新・現代会計入門 第2版 伊藤邦雄 日本経済新聞出版社
- ・新・企業価値評価 伊藤邦雄 日本経済新聞出版社
- ・財務諸表読解入門 高田直芳 日本実業出版社
- ・決定版 ほんとうにわかる財務諸表 高田直芳 P H P 研究所
- ・増補改訂 財務3表一体理解法 (朝日新書) 國貞克則著 朝日新聞出版
- ・財務3表図解分析法 (朝日新書) 國貞克則著 朝日新聞出版
- ・財務3表実践活用法 國貞克則著 朝日新聞出版

**【成績評価の方法と基準】**

(発表：レポート) 30%：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

The lecture intends for a student learning after starting accounts. I take up the basic knowledge of accounts and an imminent topic. It is intended to learn the wide knowledge about accounts.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 管理会計論

Managerial Accounting

石島 隆 [Takashi ISHIJIMA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理会計は、経営管理を支援するためにさまざまな会計情報に基づいて構築された管理システムである。本授業では、管理会計の理論を学び、実践事例を検討することにより、効果的な経営管理のための管理会計の手法を学ぶ。

なお、本授業では、主として大企業の管理会計の実践事例を取り上げるが、中小企業向けに応用するための観点についても議論する。

### 【到達目標】

本授業では、学生が管理会計の理論を活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織における経営管理に関する問題点を分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。

管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果を発表し、最終レポートとして報告することで目標達成度を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業方法は、講義を中心とするが、内容をより深く理解するために、適宜ノートPCでExcelを用いた計算演習を行う。また、最終回では、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。さらに、管理会計の理論と実務適用に関する知見を得るためにゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	管理会計の役割と体系	管理会計の役割と体系について学ぶ。
2	原価概念と原価計算モデル	原価概念と製造業・サービス業の原価計算の方法の概要を学ぶ。
3	企業評価と財務諸表分析	企業価値評価と財務諸表分析の方法について学ぶ。
4	中長期経営計画、利益計画と予算管理	中期経営計画と利益計画について、上場企業における中期経営計画の事例を検討する。予算管理については、脱予算管理の論点も含めて学ぶ。
5	バランススコアカード (BSC)	バランススコアカードの考え方や適用方法について学ぶ。
6	直接原価計算とCVP分析	直接原価計算の考え方やCVP分析 (原価・営業量・利益の関係に関する分析)の手法について学ぶ。
7	活動基準原価計算 (ABC) と戦略的コストマネジメント	活動基準原価計算 (ABC)、マテリアルフローコスト会計 (MFCA)、ライフサイクル・コストニング、品質コストマネジメント等の手法について学ぶ。
8	営業費管理会計	営業費の管理会計について学ぶ。

9	設備投資の経済性計算	投資決定プロセスの内容と投資経済計算の手法について学ぶ。
10	事業部制とセグメント利益管理	事業セグメント別の利益管理の考え方、内部振替価格の設定、共通費配賦の手法について学ぶ。また、企業間取引価格の設定に関連して、移転価格税制の考え方についても学ぶ。
11	製造業の管理会計 (1)	ゲスト講師を招聘し、製造業の管理会計の考え方について学ぶ。担当教員によるまとめ
12	製造業の管理会計 (2)	ゲスト講師を招聘し、製造業の管理会計について質疑及び討議を行う。担当教員によるまとめ
13	学生による事例研究発表 (1)	管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査結果又は特定の事例への適用例の作成を行い、その結果を発表する。担当教員によるまとめ
14	学生による事例研究発表 (2)	前回の続きを行う。担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当する章を事前に読んでおくこと。また、最終回に、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査 (自社事例調査、関連文献調査等) 又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

櫻井通晴著『管理会計論 第7版』同文館出版 (税込¥6,490)

### 【参考書】

吉川武男著『決定版バランス・スコアカード』生産性出版 (税込¥2,640)

上總康行著『ケースブック 管理会計』新世社 (税込¥2,805)

加登豊・李建著『ケースブック コストマネジメント 第2版』 (税込¥2,695)

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に行う討議への積極的な参加と発表 (60%)  
最終レポート (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中の討議・演習の機会を増やし、管理会計の考え方が体得できるようにする。製造業のみではなく、多様な業種における管理会計の考え方を取り扱うようにする。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義の内容をより深く理解するために、適宜ノートPCでExcelを用いた計算演習を行う。また、資料はeラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノートPCを持参すること。

### 【その他の重要事項】

授業中での活発な質問と討議を期待する。

<オフィスアワー>

秋学期・金曜日5限目 (16:50-18:30)

この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。

教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後大学教員となった。これらの経験を生かして、管理会計の様々な手法を組織の経営に有効に活用するための考え方について指導する。

**【Outline (in English)】**

The management accounting is a management system constructed based on various accounting information to support business management. In this class, you will learn the theory of management accounting and study management accounting methods for effective business management by examining practical cases. In this class, we will mainly focus on practical cases of management accounting of large companies, but we will also discuss the viewpoints for applying it to small and medium-sized enterprises.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## ビジネスと租税法

Tax Law

金田 勇 [Isamu KANEDA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

わが国の租税法について、租税の意義から主な税目の概要まで、一通りの基本的事項を学習し、租税法を体系的に修得することを目的とする。さらに、租税法は、法律のみならず、会計、経済、経営の領域にもまたがる学際的な学問であることから、各ビジネス実務への高い対応能力を修得することも目的とする。なお、本授業は個人と法人（中小法人、大企業）に関する租税を対象としている。

### 【到達目標】

租税法の基本を理解したうえで、適切な事例を参照・検討しながら、租税理論と租税実務の相違点を把握して、さまざまなビジネス取引に当てはめることのできる能力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、教員と学生との質疑応答や、学生からの課題の発表等によるディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	租税の意義	租税法における租税とは何か。租税の定義、根拠、種類、目的、制度沿革、原則、体系等を通じて、租税の意義を理解する。
2	租税法の意義	租税に関する学問分野の1つである租税法について、その体系、特色等を通じて、租税法の意義を理解する。
3	租税法の基本原則①	租税法の全体を支配する基本原則について理解する。次に、基本原則のひとつである租税公平主義とりあげて、その意義と機能について考察する。
4	租税法の基本原則②	租税法の基本原則のひとつである租税法律主義を取りあげて、その意義と機能について考察する。
5	相続税法の法源と効力	租税法の法源として、わが国の法体系を理解する。さらに、租税法の効力が及ぶ適用範囲を検討する。
6	租税法の解釈と適用	租税法を適用するためには、法の意味内容についての法解釈が重要である。裁判例等を検討することによって、様々な法解釈論を修得する。
7	課税要件総論	納税義務の成立要件たる課税要件について理解する。特に、各租税に共通の課税要件について一般的・体系的に検討する。

8	課税要件各論①	所得税の課税要件について理解する。
9	課税要件各論②	所得税の税務訴訟事例を検討する。
10	課税要件各論③	法人税の課税要件について理解する。
11	課税要件各論④	法人税の税務訴訟事例を検討する。
12	課税要件各論⑤	相続税・贈与税の課税要件について理解する。
13	課税要件各論⑥	相続税・贈与税の税務訴訟事例を検討する。
14	まとめ	授業において議論した論点や裁判例等を整理・確認しながら、授業内容を総括する。また、試験等により学生の評価も行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習、補助レジュメの復習、授業内で指示された課題の提出・発表の対応、裁判例等の検索・整理。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

補助レジュメを配付する

### 【参考書】

税務大学校講本（税務大学校HPからダウンロード）  
金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂、2021）  
金子宏他共編著『ケースブック租税法（第5版）』（弘文堂、2017）  
中里実他共編『租税判例百選（第7版）』別冊ジュリストNo.253（有斐閣、2021）  
中里実他共編『租税法判例六法（第5版）』（有斐閣、2021）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート・課題発表50%、試験20%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

レポート等提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

### 【その他の重要事項】

公認会計士・税理士として税務会計業務に精通しているため、授業内容と実務の関連性についても説明する。また専門職大学院での教員歴も長いので、資格取得のためのアドバイスも行う。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this study is to systematically learn tax law by learning a general set of basic matters, from the significance of tax to the outline of major tax items, regarding tax law in Japan. Furthermore, since tax law is an interdisciplinary discipline that spans not only law but also accounting, economics, and management, the purpose is to acquire a high level of ability to respond to each business practice. This study covers taxes related to individuals and corporations (SMEs and large corporations).

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## ロジカル・シンキング

Logical Thinking

村上 健一郎 [Kenichiro MURAKAMI]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、ビジネスのデザインを目的として、課題解決のための論理的な仮説検証の思考方法、および、フレームワークをプロジェクトメソッドで学ぶ。まず、ロジカルシンキングの概要と原理や経営学の各分野における代表的なフレームワークを理解する。そして、自分のビジネスプロジェクトについて最新のジョブ理論とリーンスタートアップ理論によるビジネスデザインを行う。なお、ビジネスプランや論文のロジカルライティングについても説明する。(中小企業、大企業の両方向け。)

### 【到達目標】

目標は、各学生が、自分のプロジェクトテーマに本講義の内容を適用することによって、ビジネスのデザインを行えるようになることである。従って、毎回の講義で習得した論理思考の技法やフレームワークを自分のプロジェクトへ適用した結果を提出すること、および、そのプレゼンテーションが課せられる。これらの一連の課題を通し、デザインプロセス全体を体験してデザインの技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は2コマ単位で進める。資料を毎回配布し、それに基づいて講義を進めてゆく。受講者には、毎回課題が課せられ、1コマ目はその発表と議論から始まる。基本的に下記のスケジュールで進め、学生の理解の状況によって適宜見直す。ケースメソッドではなくプロジェクトメソッドで講義を行うため、自分のビジネスプロジェクトが必要である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジカルシンキングとビジネスモデル	ビジネスデザインにおける、よくある間違いについて学ぶ。また、PICT図によりビジネス分析を行い、ビジネスモデルの基本を知る。
2	ビジネスデザインとロジカルシンキング	ビジネスデザインとロジカルシンキングとの関係について説明し、ウォーターフォールとリーンスタートアップとの2つのデザインモデルについて説明する。
3	ジョブ理論と切実な課題JTBD	切実な課題JTBDの発見と、それがニーズにつながるメカニズムを学ぶ。また、自分のプロジェクトについてニーズのメカニズム分析を行う。
4	論理展開	代表的な論理展開法である演繹法、帰納法、逆演繹 (アブダクション) について学ぶ。また、因果関係の把握を簡単なケースを使って行う。

5	仮説思考と多段階検証	課題や解決策発見のための仮説思考について説明する。また、自分のプロジェクトに適用し、課題仮説とソリューション仮説とを立てる。
6	BMCによるビジネスデザイン	ビジネスモデルキャンパスBMCの基礎を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用し、9つの要素から成るビジネスモデルのデザインを行う。
7	MECE(ミーシー)とフレームワーク思考	さまざまなフレームワークの基礎となるミーシー(漏れなく、ダブリなく)を4つの例題を使って説明する。また、その落とし穴についても言及する。
8	ロジックツリー	ロジックツリーの概要と作成のコツについて説明する。また、応用として、原因追求、解決策探索のロジックツリーを自分のプロジェクトに適用する。
9	フレームワークの適用	分析や課題解決に用いられる代表的なフレームワーク3Cs, 5Fs, SWOTの適用例を例題で学ぶ。また、これらを自分のプロジェクトへ適用して仮説検証を行う。
10	市場規模の推定	フェルミ推定によって、市場規模の予測を行う方法を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用して規模を推定するとともに、ビジネスとして成立するかどうかの判断を行う。
11	フレームワークの実際	ビジネスデザインで用いられるSTPと4Pフレームワークを具体的に学び、自分のプロジェクトにそれらを適用してプロジェクトの改善を行う。
12	ビジネスプランの書き方	ビジネスプランの構成、要件、作成プロセスについて説明する。また、スタートアップに必要なメンターの役割、投資家へのエレベータピッチについても解説する。
13	論文の構成と要件	論文の構成、要件、作成プロセスについて説明する。論文形式PREPについて示し、取りかかり方のノウハウについても解説する。
14	ロジカルプレゼンテーションの技法	プレゼンの種類を説明し、聞き手という視点からのプレゼンの構成方法、準備が8割である等のノウハウ、よくある失敗例を示す。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義は反転授業の形式で進められる。即ち、講義の終わりには自分のプロジェクトテーマに講義で説明を受けたフレームワークを適用する課題が毎回課せられる。この結果は、パワーポイントやワードなどを使って文書化し、講義の冒頭で発表することが求められる。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストとして、pdf化した講義資料を学習支援システムにて毎回事前配布する。参考書については、毎回の講義の中で適宜指示する。

### 【参考書】

理科系の作文技術 (新書)、木下是雄著、中央公論新社、ISBN4-12-100624-0(¥756)

世界一やさしい問題解決の授業、渡辺健介著、ダイヤモンド社、ISBN：978-4-478-00049-6(¥1,200)

ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーパーコリンズ・ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(¥2,160)

ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977 (¥2,728)

リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経BP社、ISBN-10:  
4822248976 (¥1,980)

アントレプレナーの教科書、ステイブ・ブランク著、翔泳社、ISBD-10:  
4798143839 (¥2,640)

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の3つの点から評価する。

(1) 毎回の課題と発表の品質(25%)、(2) 講義への関与度と貢献度(25%)、(3) 総合演習レポートの品質(50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

アサインメントを毎回課すためにアサインメントの数が多すぎるとの指摘や、逆に、毎回アサインメントに関するプレゼンテーションを受講者全員ができるようにすべき、との相反する意見がある。前者に対しては、本講義が各学生に課せられたビジネスプロジェクトの促進の目的があること、また、アサインメントが毎回課されることを初回の講義で伝える。後者に対しては、講義時間が有限であることから、ラウンドロビンでプレゼンテーションや発言の機会を用意することにより、全体の講義を通じて平等になるように工夫する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(キーボードのついているもの、スマホでは迅速な検索や発表ができないため)

#### 【その他の重要事項】

本講義では、学生自身のビジネスプロジェクトへ学びを適用するプロジェクトメソッドで講義を行います。例題は自分自身のプロジェクトとなります。

毎回の課題は、各自のプロジェクトのレビューと再デザインを目的としている。オフィスアワーは本講義前の5限目(16:50-18:20)としますが、プロジェクトの秘密保持のため、他の学生と重ならないように事前にメールで確認願います。

この講義には、NTT研究所での研究実用化と論文執筆の実務経験を活かし、課題解決法とフレームワーク、および、論文執筆の基礎を織り込んでいます。

#### 【Outline (in English)】

This course focuses on problem solving and business design. First, it introduces fundamental logical thinking methods such as induction, deduction, and abduction. Then, it refers to typical frameworks and concepts for problem solving in business management. Students are assigned to review and improve their own business projects based on the frameworks. Each lecture starts with PowerPoint presentations of the improved business projects by some students. In addition to logical thinking, this course explains logical writing principles for writing a business plan, papers, and a master thesis.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## コンサルティング技法

Consulting Skills

並木 雄二 [Yuji NAMIKI]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスパーソンやコンサルタントに必要な助言能力の基礎について学ぶ。「調べること、考察すること、発表すること、書くこと」という一連の課題に対して基礎的な知識と実践方法を得るための授業である。経営目標の達成を図るため、企業の問題発見・問題解決プロセスに参加し、信頼感を獲得したうえで、的確な指導・支援・アドバイスができるスキルを習得する。

### 【到達目標】

経営コンサルタントとして求められる課題の発見、そして課題の設定、情報収集とリサーチ、考察、プレゼンテーションとドキュメンテーションまでの一連の流れを理解し、主体的に取り組む基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

MBA課程の入り口の講義として、その後に求められる様々な調査のやり方の基礎を作る。講義と実践を半々で行う。学生は常に課題についての予習をすることが求められる。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義科目の目的や全体構成について	各領域の重要ポイントと関連性、及びプロジェクトや各講義、実習で求められるシーンシーンについて学ぶ
2	プロジェクト構想と情報収集の技術	プロジェクトテーマの設定や情報収集の留意点と仮説づくり
3	企業コンサルティング事例	実際の企業経営者とのヒアリングと質問 問題形成と課題設定
4	問題点の整理と構造化 PDCAサイクルとKPIマネジメント	問題を共通認識とするために整理分析の手法を学ぶ PDCAサイクルとKPIマネジメントによるコンサルティング手法を事例と演習で学ぶ
5	コンサルタントの思考法	論理的思考、問題発見、問題解決技法などの思考法を学ぶ
6	課題解決手法	課題解決を具体的な事例と演習で学ぶ
7	コンサルティングプロセス I	経営診断のためのコミュニケーションの技術、調査の設計、アポイントの取り方、経営者へのインタビューの仕方とまとめ方などを具体的に修得する
8	コンサルティング事例 I	経営診断のケース事例演習からコンサルティング技法を学ぶ

9	コンサルティングと講師業務	コンサルタントによる講師業務の実際とメニュー開発、組み立て、評価方法などを学ぶ
10	コンサルティング事例 II	実際のコンサルティング事例から討議を行う
11	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの基礎から構成法、デリバリー手法を理解
12	コンサルティング事例 III	中小企業のコンサルティング事例を学び、討議を行う
13	コンサルティング事例とコンサルタントに求められる要件①	コンサルティング事例からコンサルタントに求められる要件を学ぶ。
14	コンサルティング事例とコンサルタントに求められる要件②	コンサルティング事例からコンサルタントに求められる要件を学ぶ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業のコンサルティングレポートをチームで作成してプレゼンテーションを行う

講義以外でチームで取り組むことが求められる

各種レポートの提出とプレゼンテーション準備本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義中に指定する。

### 【参考書】

講義中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

討議への参加 (50%) レポートと発表 (50%)

討議は一日一回の積極的な発表を求めます。討議に参加する姿勢が重要です。

レポートと発表は、

企業コンサルのレポートをチームで作成します。最終日に企業経営者にプレゼンテーションを行います。レポート作成、プレゼンテーションは分担で行いますが、全員参加です。

企業経営に役立つ具体的なレベルのものを求めます。

### 【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるための演習や討議の時間を増やす。

### 【その他の重要事項】

授業中での活発なディスカッションを期待する。

オフィスアワー

前期は火曜日 16時50分～17時50分

他は随時アポイントをお願いします。

### 【受講要件】

実務経験3年以上。

### 【Outline (in English)】

Learn the basics of advising abilities required for business persons and consultants. It is a lesson to obtain basic knowledge and practical method.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## エスノグラフィのビジネス応用

Business Application of Ethnography

石山 恒貴 [Nobutaka ISHIYAMA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

激変する社会環境において、革新的なビジネスモデルを創造するためには、お客様の潜在ニーズを把握するだけでなく、自らお客様の不便さを体感し、その解決策を創造することが求められます。お客様の潜在的な困りごとへの解決策を創造するために、フィールドワークとエスノグラフィを応用していきます。

エスノグラフィのさまざまなスキルは、ビジネスの状況を見極めるために重要ですので、中小企業向け、大企業向け、両方を対象とした内容になります。

### 【到達目標】

- ・学問分野における研究法としてのとしてのフィールドワークとエスノグラフィを理解する。
- ・関連領域として、学問分野における質的研究法の基礎を理解する
- ・学問分野とビジネスにおけるエスノグラフィの違いを理解する
- ・ビジネスにおけるフィールドワークとエスノグラフィの活用方法について理解し、問題設定と解決を主体的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学問分野としての研究法である質的研究法の基礎とフィールドワークとエスノグラフィを理解し、ビジネスへの活用方法について学ぶ。そのうえで、受講者は、自分の組織でエスノグラフィのビジネス応用を実践し、その事例研究の結果を授業中に発表する。またゲストによる講演を行い、エスノグラフィの実例を解説していただく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークとエスノグラフィの基本	フィールドワークとエスノグラフィの基本について理解する
第2回	討議その1	自分がとりあげたい組織の問題について議論する
第3回	エスノグラフィと行動観察の事例	代表的なエスノグラフィと行動観察の事例について理解する
第4回	討議その2	ケース事例をリッチピクチャーにまとめる
第5回	ゲスト講演1	エスノグラフィの考え方と事例につき、講演いただく 担当教員によるまとめ
第6回	ゲスト講演2	ゲスト講演とともに、その考え 方・事例を自組織にひきつけ議 論する 担当教員によるまとめ
第7回	データの収集方法	フィールドワークでデータをい かに収集するかについて、理解 する。効果的なフィールドノ ーツなど

第8回	討議その3	ケース事例を因果ループ図にまとめる
第9回	データのコーディングと分析方法	収集したデータをいかにコーディングし、分析するかについて理解する
第10回	討議その4	ケース事例の問題設定と解決施策について討議する
第11回	事例研究発表その1	受講者による事例研究発表と討議
第12回	事例研究発表その2	受講者による事例研究発表と討議
第13回	事例研究発表その3	受講者による事例研究発表と討議
第14回	まとめ	授業全体のふりかえりを行い、理解を深める

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分で観察可能な場所、組織、たとえば自分の組織、自分の好きなお店、自分の属する様々な団体、自分の身の回りの関心事項、などについて、実際にエスノグラフィを実践し、その結果を授業内に発表すること

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業において、都度、授業資料を配布します。

### 【参考書】

佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社、2006年  
高橋広嗣『半径3メートルの行動観察から大ヒットを生む方法』SBクリエイティブ、2015年  
ギデオン・クンダ著 榎村志保訳『洗脳するマネジメント』日経BP社、2005年  
安斎勇樹『問いかけの作法』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021年

### 【成績評価の方法と基準】

授業における討論参加の状況による得点 (35点) と各自が担当する事例研究発表の得点 (65点) の合計点により評価する

### 【学生の意見等からの気づき】

エスノグラフィを行うためのさまざまな手法が、企業の状況を見極めるための基本的なスキルとして重要であるところのご意見をいただいた。また、実際に授業で学んだ手法を用いたところ、業務改善に大きな成果 (売上向上、効率化など) があつたとの報告をいただいた。そこで、実際の業務に応用可能となるよう留意しつつ、エスノグラフィのさまざまな手法について、わかりやすく解説し、討議を促進して理解を深めることに努める

### 【その他の重要事項】

授業開始前または終了後に質問を受け付ける

3社の企業における実務経験に基づき、組織エスノグラフィとしての解説の観点を盛り込む

### 【Outline (in English)】

Outline and objectives

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of fieldwork and ethnography.

The various skills of ethnography are important for identifying business situations, so the content will be geared towards both small and large companies.

Goal

At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of business ethnography and understand the basics of qualitative research methods in academic fields.

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%,in  
class contribution: 35%

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 経営情報戦略

Business Innovation and IT Strategy

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：4単位

学期：春学期授業/Spring

授業分類：専門講義

基礎科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営情報戦略の目的は、主として一般企業（事業会社）の経営改革を担当する要員が身につけるべき知識とスキル、気づきをチーム演習・発表、相互評価を通じて、実践的な力を身につけることである。経営改革の必要性を理解し、経営戦略立案に対応するビジネスモデルを支援するIT戦略について学ぶ。春学期を通して一貫したコンサルティング事例として実践体験しながら、業務効率化・DX化などの経営情報化ビジネスモデルを創出することで、必要なマネジメント、創造力のスキルを身につける。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

### 【到達目標】

- ①知識・思考：経営情報戦略に関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
- ②技能・表現：具体的に課題を通じて経営情報戦略の知識やスキルを使って課題を解決できる。
- ③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、経営情報戦略に関心を持ち、経営情報戦略マネジメントに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学で、経営情報戦略に関する考え方や知識を説明する。チーム演習では、講師から経営情報戦略に関する演習課題を提示するので、チームまたは個人で、経営情報戦略に関する知識や考え方、さらには幅広い観点から演習課題を検討し、発表またはレポートを作成して相互評価、相互学習を行う。

演習に関してはオンラインホワイトボードを利用する。

対面必須の回をのぞきオンライン・対面によるハイブリッド方式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	講義全体概要、授業の進め方、経営情報化戦略の背景とトレンド、チーム・マネジメント
第02回	チームビルディング	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント
第03回	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント	ビジョン・ミッション、ポートフォリオ・マネジメント、プロダクト・ライフサイクル、DXのトレンド
第04回	経営ビジョン（演習）	ミッション・ステートメント、エイベルの事業ドメイン（AsIs）
第05回	ビジネス・アナリシス	ビジネス・アナリシスとは、ステークホルダー分析、経営戦略と潜在要求の発見、要求の妥当性確認

第06回	要求分析（演習）	ステークホルダー分析と要求引き出し、要求のトレーサビリティ、要求の優先順位づけ（仮）
第07回	環境分析と重要成功要因	内部環境分析、外部環境分析、重要成功要因
第08回	環境分析と重要成功要因（演習）	SWOT分析、クロス分析、重要成功要因（仮）抽出
第09回	ボトムアップのソリューションデザイン	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第10回	ソリューション検討（演習）	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第11回	イノベーション・ソリューションデザイン	システム×デザイン思考、リフレーミング、新市場の発見、プロトタイプ、イノベーションのジレンマ
第12回	イノベーション・ソリューションデザイン（演習）	リフレーミング、二軸図、プロトタイプまたはアンケートと調査
第13回	顧客視点によるソリューションデザイン	プロダクトアウトとマーケットイン、事業ドメイン、顧客視点によるビジネスモデル
第14回	顧客視点によるソリューションデザイン（演習）	エイベルの事業ドメイン（ToBe）、ビジネスモデル・キャンバス作成、妥当性確認（これまでの成果）
第15回	ソリューションの具体化	機能要求と非機能要求、要求引き出しに関するガイドライン、業務フロー、日本版EA、SOA
第16回	ソリューションの具体化（演習）	業務フロー図、ベルソナ・シナリオ・デザインによる機能要求引き出し、妥当性確認
第17回	リスクマネジメントとソリューション選定	リスクマネジメントのプロセス、リスク分析、リスク対応、課題管理、リスクコントロール、ソリューション選定手法
第18回	リスクマネジメント（演習）	RBSとリスク登録簿、ソリューション比較
第19回	経営情報戦略の可視化とスコープ定義	プログラム・マネジメント、フィービリティ・スタディ、経営情報戦略の可視化
第20回	経営情報戦略の可視化（演習）	妥当性確認のうえ→重要成功要因確定、戦略の可視化、経営情報戦略企画書作成
第21回	ITシステムの調達マネジメント	調達マネジメントの概要、提案依頼書、入札説明会、契約形態とリスク、キックオフミーティング、ベンダーマネジメント
第22回	RFPと提案評価基準作成（演習）	提案依頼書（PFP）作成、提案評価項目作成
第23回	プロジェクト・マネジメント	プロジェクト・マネジメントの基礎、発注側と受注側のトレンド、成功するプロジェクト・マネジメント
第24回	プロジェクト計画	プロジェクト憲章（プロジェクト・マネジメント計画書）作成
第25回	経営情報戦略の視点	外部講師による事例とテラーリング
第26回	経営情報戦略の視点	担当教員によるまとめ
第27回	発表会・テスト	外部講師による事例とテラーリング
第28回	発表会・テスト	担当教員によるまとめ
第29回	発表会・テスト	外部講師による事例とテラーリング
第30回	発表会・テスト	担当教員によるまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】****準備学習**

当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。

また、演習の課題が提示されている場合には、事前に、読んでおき、関連情報を収集するなどの準備をしてチーム演習に臨むこと。ハイブリッド形式の授業に鑑み、オンライン・ホワイトボードMiroを活用する。授業中にレクチャーを行うが操作練習用ボードを事前に提供する。

**復習・宿題等**

授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業時間内に終了しなかった個人ワーク、グループワーク等を次回までに完成させる。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは、講師が資料を提示する。

**【参考書】**

講師が授業中に指定する場合がある

**【成績評価の方法と基準】**

- ・講義、チーム演習への参加姿勢（50%）、指定の提出物（50%）
- ・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習や個人レポート作成を行う。
- ・参加度合いが60%に満たない場合には、評価の対象としない。

**【学生の意見等からの気づき】**

コースの全体像を毎回共有し、全体の中での位置づけを認識できるようにする。オンラインホワイトボードの利用について習熟差を極力なくすよう配慮する。

**【学生が準備すべき機器他】**

学生は、パソコンを授業に持参すること（講義資料の閲覧、チーム演習、発表に際に必要）

**【その他の重要事項】**

- ・イノベティブなITビジネスのデザインに興味がある場合は「プロジェクトデザインマネジメント（春学期後半）」の受講により更に理解が深まる。
- ・経営情報戦略に関する資格取得を目指す場合は「ITCケース研修」の受講も推奨する
- ・担当教員は、これまでに経営情報戦略に関連した大手企業および中小企業のコンサルティング、教育、制度設計の実務経験を有する。また、金融機関における融資審査、経営革新支援法元審査委員等の経営戦略評価の実務経験を有する。中小企業庁の優秀アドバイザー受賞。
- ・質問・相談がある場合には、
  1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
  2. 講師からの連絡をお待ちください。

**【Outline (in English)】**

The objective of the management information strategy is to provide practical power through team exercises and presentations, mutual evaluation, knowledge, skills, and awareness that personnel in charge of management reform of business companies should acquire. Understand the necessity of management reform and learn about IT strategies to support business models that correspond to management strategy planning. Through practical experience as a consulting case study throughout the spring semester, students will acquire the necessary management and creativity skills by creating business models such as business efficiency, DX and so on.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 消費者行動論

Theory of Consumer Behavior

坂本 和子 [Kazuko SAKAMOTO]

単位数：2単位

学期：秋学期集中/Intensive(Fall)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学や社会学など多くの領域で学際的な研究が進む消費者行動論について、マーケティング戦略、特にモノづくりに生かすための基礎概念、諸理論を理解する。さらにさまざまな事例を通して、消費者視点での市場の捉え方や社会で活用するための方法論について学び、実践力を身につける。

### 【到達目標】

- ・消費者行動における基礎理論を理解する。
- ・消費者行動がマーケティング戦略を構築する上でどう関わっているかを理解する。
- ・消費者心理を科学的に分析する技術を身につける。
- ・知識の体系的理解を深め、問題解決に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

製品開発や販売促進に必要な消費者行動の基礎知識習得のため、デザイン学や言語学などの学際的アプローチを行う。

集中講義形式のため、スタンフォード大やデルフト工科大のケースメソッドや演習等を取り入れ、授業内での発表やディスカッション等を実施するなど、講義と演習をバランス良く組み合わせた形態とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と消費者行動に関する研究領域について概説する。
第2回	消費者行動における問題認識と購買意思決定	問題認識、ニーズの分類、購買意思決定のプロセスについて説明する。
第3回	消費者行動における情報探索と選択肢評価	内的・外的情報検索、選択評価、決定方略等について説明する。
第4回	消費者の態度形成	フィッシュバインモデルを中心に態度の形成と変容について説明する
第5回	消費者の関与と個人特性	関与の種類とどのような時にそれが高まるのかを解説する。またパーソナリティやライフスタイルなど個人的影響要因についても言及する。
第6回	消費者行動への心理学的アプローチ① (知覚、記憶)	五感を通じて外界から選択的に情報を入手して意味づけを行う知覚について説明する。
第7回	消費者行動への心理学的アプローチ② (学習、動機づけ)	古典的条件付けとオペラント条件付けという2つの学習プロセスについて検討し、マーケティングにどう活用されているのかを説明する。

第8回	消費者行動への社会的アプローチ	社会や文化による消費者特性が購買に与える影響について解説する。
第9回	デザインと消費者行動①	デザインシンキングによる消費者の理解と製品開発への応用を解説する。
第10回	デザインと消費者行動②	消費者のデザイン嗜好や国際比較に関する傾向や最新トピックについて解説する。
第11回	消費者行動の調査と分析	ヒアリング、調査票調査の方法と分析について解説する。
第12回	価格とブランドからアプローチする消費者行動	消費者の心理動向と価格、ブランドの態度形成等について解説する。
第13回	レポート課題報告会	レポート課題に関する発表と講評を行う。
第14回	まとめ	全体の総括を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回ではないが、次回までのミニ課題を提示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業毎に資料を配布する。

### 【参考書】

Marketing and Design Management, Margaret Bruce and Rachel Cooper, INTERNATIONAL THOMSON BUSINESS PRESS, 1997

HOW TO RESEARCH TRENDS, Els Dragt, B/S PUBLISHERS, 2017

消費者理解のための心理学, 杉本徹雄, 福村出版, 1997

### 【成績評価の方法と基準】

レポート60%と授業への積極的関与(プレゼンテーションほか)40%として、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習と講義をバランスよく組み込んだ授業とする。テクニカルタームなど分りにくい言葉がある際は、事例などを駆使して理解を深めるよう努力する。グローバルレベルでのビジネスに対応するため、海外トレンド情報を網羅する。

### 【Outline (in English)】

The consumer behavior theory has been studied in the interdisciplinary domain of many, such as psychology and sociology. This course deals with the basic concept and theories for employing in production efficiently. It also enhances the development of students' skill in analyzing markets from various cases and utilizing in society.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

**創業・ベンチャー起業論**

Entrepreneurship

丹下 英明 [Hideaki TANGE]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

**【目的】**

本講義では、創業・ベンチャー起業について、企業の成長ステージに応じた特有の経営課題（ビジネスモデルの構築、経営資源の確保・充実など）について、総合的かつ実践的な指導・支援・アドバイスができるスキルを修得することを目的としています。そのために、本講義では、実際にグループでビジネスプランを策定することで、起業プロセスを体験していただきます。

本講義は、創業に関心のある方だけでなく、大企業内で新事業開発を目指す方や、大企業から独立しての起業を目指す方など、大企業向けも想定した講義内容となっております。幅広い方の受講をお待ちしております。

**【概要】**

第1～6回講義では、創業・ベンチャー起業のビジネスモデル構築、経営資源の確保・充実、ビジネスプラン作成等における成功要因について学んでいただきます。

第7～14回講義では、創業・ベンチャー起業の課題発見・解決のための助言の進め方について学んでいただきます。

また講義全体を通じて、グループでビジネスプランを策定していただきます。

以上を通じて、創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や、経営資源の確保・充実についての確かな助言ができるようになることを目指します。

**【到達目標】**

1. 創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や経営資源の確保・充実についての確かな助言ができる。
2. 創業プロセスを理解したうえで、みずからビジネスプランを作成し、プレゼンテーションすることができる。
3. 創業・ベンチャー支援における中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

**【授業形態、授業内での発表】**

講義では、基本的知識や理論の説明を行い、みなさんとディスカッションを行います。

また、グループに分かれてビジネスプランを作成していただきます。第7回の講義ではグループで作成したビジネスプランの中間発表を、第13回の講義では、最終発表をしていただきます。

**【課題提出とフィードバック】**

講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 創業・ベンチャーへの助言能力養成：支援機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・グループによるビジネスプラン作成の進め方について説明する。 ・支援機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
2	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築 支援：事業アイデアの創出、評価、事業コンセプト固め	・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、①事業アイデアの創出、②事業アイデアの評価、③事業コンセプト固めについて、説明する。 ・支援機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決や経営資源の確保・充実に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
3	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築 支援：事業アイデアの創出、評価	・前回講義への質問に回答する。 ・各人が事前に考えた事業アイデアを発表する。 ・他者が発表した事業アイデアについて、①革新性、②実現性、③発展性の視点から評価する。
4	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築 支援：チームビルディング、事業コンセプト固め	・グループを決定し、各グループで事業コンセプトを固める。 担当教員によるまとめ
5	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築 支援：ビジネスプランの作成、経営資源の確保・充実	・前回講義への質問に回答する。 ・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、④ビジネスプラン作成について、説明する。 ・創業・ベンチャーの経営資源の確保・充実について、説明する。
6	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築 支援：ビジネスプランの作成	・各グループでビジネスプラン作成を進める。 担当教員によるまとめ
7	ビジネスプラン中間発表	・前回講義への質問に回答する。 ・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。
8	ビジネスプラン中間発表への講評	・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。 ・教員よりビジネスプラン中間発表への講評を行う。 ・講評を踏まえて、各グループでビジネスプラン作成を進める。
9	創業・ベンチャーへの助言能力養成：金融機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・金融機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
10	創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション	・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。 ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
11	創業・ベンチャーへの助言能力の養成：起業事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・起業事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。

- 12 創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション
- ・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。
  - ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
- 13 ビジネスプラン最終発表
- ・前回講義への質問に回答する。
  - ・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。
- 14 ビジネスプラン最終発表  
総括
- ・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。
  - ・教員よりビジネスプランの講評を行う。
  - ・最後に、講義の振り返りと質疑応答を行う。

・教員の実務経験：株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to acquire skills that can give practical advice to startups.

In addition, in order to acquire support skills, you will be asked to create a business plan in a group.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
- ・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
- ・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。
- ・グループでのビジネスプラン作成に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。
- ・グループによるビジネスプラン作成については、授業時間内だけでなく、授業時間外も活用して進めてください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・グロービス経営大学院『グロービスMBA ビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010年
- ・ダイアナ・キャンダー著；牧野洋訳『Startup：スタートアップ：アイデアから利益を生み出す組織マネジメント』新潮社、2017年

#### 【参考書】

- ・エリック・リース著；井口耕二訳『リーン・スタートアップ：ムダのない起業プロセスでイノベーションを生み出す』日経BP社、日経BPマーケティング、2012年
- ・ステイブ・G.ブランク、ボブ・ドーフ著；堤孝志、飯野将人訳『スタートアップ・マニュアル：ベンチャー創業から大企業の新事業立ち上げまで』翔泳社、2012年
- ・ステイブ・G.ブランク著；堤孝志、渡邊哲訳『アントレプレナーの教科書：シリコンバレー式イノベーション・プロセス』翔泳社、2016年
- ・長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018年
- ・柳孝一『ベンチャー経営論：創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、2004年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・個人による成果・講義への参加姿勢（講義への貢献、グループワークへの貢献、レポート課題など）：50%
- ・グループによるビジネスプラン作成の成果:50%
- ・60%以上で合格。
- ・最終講義時までに、各チームで作成したビジネスプラン（データ）を合わせて提出すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの時間を講義内になるべく設けたいと考えています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- ・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではPCを使いますので、ご準備ください。
- ・講義資料は、原則、2日前までに学習支援システムに掲載します。
- ・課題提出は、学習支援システムを利用します。

#### 【その他の重要事項】

- ・教科書については、夏季休暇中に目を通したうえで、講義に臨んでください。

- ・第1回講義までに以下の事前課題を提出していただきます。詳細につきましては、別途事前にご連絡させていただきます。

#### 「事前課題

自分がやってみたいと考えるビジネスアイデアを一つあげて、A4用紙1~2枚程度で概要を説明してください。」

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## コーチング

Coaching

稲川 由太郎 [Yutaro INAGAWA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 【目的】

本講義は、コーチングの理論や考え方を学び、受講者自身がコーチングを実践することを通じて、コーチングマインド・スキルの習得を目的とする。受講者が所属するチーム・組織において、コーチングを活用し、人材開発・組織開発を自ら推進できる状態を目指す。

#### 【概要】

近年、企業の経営者をはじめ、ビジネスシーンで、専任のコーチを活用する例が増えている。

コーチは、コーチングを受ける人(以下、コーチー)に対して、一切アドバイスをしない。[問い]を間に置き、[対話]へといざなう。本講義では、コーチングとは何か、コーチとコーチーとの間で行われている[対話]とはどのようなものなのか、また、その対話がどのように組織のリーダー・経営者の成長や、企業の業績向上に貢献するのかを学ぶ。

本講義を通じて得られるコーチング、対話の能力は、現代の組織におけるリーダー開発、組織開発に向けて非常に重要な能力である。それらは、

- ・部下やチームメンバーの、効果的な目標設定を支援する
  - ・組織の目的や目標に向けた主体的な行動をとる人を増やす
  - ・部下やチームメンバーと共にコラボレーション(共創)ができるチームをつくる
- といったことにもつながっていく。

すなわち1on1のコーチングの実践は、目の前のリーダーの開発にとどまらず、組織全体の変革へとつながる。

コーチングは、実践を通じてしか身につかない。したがって、本講義では、受講者が選んだコーチーに対し講義外でコーチングを実践し、その体験を通じた気づきや学びを講義内で扱いながら、講義を進める。

#### 【対象者】

リーダーシップ、モチベーション、チームビルディング、キャリアという様々な面で、自らの所属するチームに影響力を発揮するマネージャーになりたい、また、組織全体を変革するリーダーになりたいと考えている方。中小企業、大企業、職種は問わない。講義外でのコーチングの実践が可能な人を対象とする。

#### 【到達目標】

コーチングとは何か、それが組織で働く人・組織にとってどのように活用されるものなのかを理解している。

コーチングスキルを活用して、周囲とコミュニケーションをとることができる。

(やや発展的) 職場でコーチング・コミュニケーションが実践されている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

##### ■授業形態

オンライン講義(※対面に変更になる可能性あり。)

演習・実践型

##### ■詳細

この授業は、組織変革を実現するエグゼクティブ・コーチング・ファームである株式会社コーチ・エィの講師陣が担当し、実践的なスキルの獲得を目指したレクチャーと演習を行う。授業内では、様々なコミュニケーションを体験するための(実習)に重点を置く。また、講義内での学びを活用し、実際に職場でのコーチングを繰り返し実践することで、自身のコミュニケーションを内省する。そして、さらに効果的なコミュニケーションスタイルへのバージョンアップを目指す。最終回では、その実践をもとに受講者が自身の体験を発表する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜ今、企業はコーチングを活用するのか？	近年、世界中でコーチングを活用する企業が増えている。コーチングとは何か。なぜ、今企業はコーチングを導入するのか。どのようにコーチングを活用し、どのような成果を手に行っているのか。コーチングが、組織や個人の「変化する未来をつくる”対話”の手法」として注目を集める今日の社会背景を、様々な事例とともに紹介する。
第2回	コーチングとは何か？	コーチングとは何かについて理解を深めるため、コーチングの歴史やコーチングの対話の構造、コーチングの三原則を学習する。
第3回	目標設定	コーチングは、コーチーの目標に向けて行うものである。この講義では、「目標」という概念に対する理解を深めた後、エクササイズを通じて、コーチーと目標設定を行うための対話を体験的に学習する。
第4回	聞く	相手の話を聞く能力はコーチングの基礎であり、非常に重要な要素である。なぜ聞くことが重要であるのか、聞くことを阻害する要因は何か、相手の話を深く聞くためには何に意識を払う必要があるのか、について学習する。
第5回	コーチングフロー	効果的なコーチング・セッションを実践する上で、もっとも基本となる対話の流れ「コーチングフロー」を習得する。
第6回	効果的な問い	コーチにとって最大の武器になる「問い」について学習する。コーチングにおいて、どのような問いが機能するのか。エクササイズを通じて体験的に学習する。
第7回	観察と個別対応	コーチングの根幹には、「人はひとりひとり違う」という考え方があり。一人ひとりのコーチーに対して、効果的なコーチングを行うために欠かせないのが「個別対応」である。個別対応を実践するための具体的な切り口として、コミュニケーションの「タイプ分け」を学習する。
第8回	アクノレジメント(承認)	一人ひとりのコーチーと信頼関係を築き、相手の行動変容を促進するための関わり、「アクノレジメント(承認)」について学習する。

第9回	フィードバック	コーチが自分に見えている視点を相手に伝える「フィードバック」は、コーチの新たな気づきや行動変容につながり、目標達成を促す。 また、コーチをする側も、自分に対するフィードバックを受け取ることで、自身のコミュニケーションや行動を軌道修正することができる。 ここでは、効果的なフィードバックの伝え方と受け取り方について、学習する。
第10回	コーチングとリーダー開発	コーチングとリーダー開発について扱う。さらに組織開発とのつながりを理解する。コーチの置かれた組織・環境（システム）を考慮した、より広く深い視点でのコーチング実践により、コーチのアカウントビリティ（「すべては自分で選んでいる」という感覚）の醸成を促す。
第11回	成果のエバリュエーション	コーチング期間中の取り組みとその成果について振り返ることを「エバリュエーション」と呼ぶ。効果的なエバリュエーションに必要な観点と、コーチングを振り返るためのツール（Ayce）を紹介する。
第12回	コーチングの活用事例（ゲストスピーカー）	実際にコーチングを活用している企業のエグゼクティブにご登壇いただき、経営者に対するエグゼクティブ・コーチングや企業の組織開発における実例をご紹介します。
第13回	成果発表①	コーチととのコーチング実践について、履修者自身の体験を発表する。
第14回	成果発表②	コーチととのコーチング実践について、履修者自身の体験を発表する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講者自身が3名のコーチ（コーチングを受ける人）を選び、1名あたり週30分のコーチングセッションを計5回実践する意思と時間を確保することを条件とする。講義の最後には、実際にコーチングを行ったクライアントからフィードバックをもらう。国際コーチング連盟指定のコーチングの質・効果を測定するエバリュエーションシステム（Ayce）を活用し、自らのコーチングについて振り返る。

**【テキスト（教科書）】**

毎講義資料を [hoppii](https://www.hoppii.com/) に掲載する。※著作権の関係で一部抜粋・編集をしている。

**【参考書】**

- ・コーチ・エイ著『この1冊ですべてわかる 新版 コーチングの基本』日本実業出版社、2019
- ・鈴木義幸著『新 コーチングが人を活かす』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2020
- ・鈴木義幸著『未来を共創する 経営チームをつくる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2020
- ・コーチングのポータルサイト「Hello, Coaching!」  
<https://coach.co.jp/>

**【成績評価の方法と基準】**

- ・出席点（マイク・カメラオン、講義への積極的な参加姿勢、講義後の提出物）40%
- ・クライアントへのコーチング実施状況20%
- ・成果発表に対する評価40%

**【学生の意見等からの気づき】**

2023年度に実施した本講義において、毎講義後のエバリュエーション中の「今回の講義内容を有意義に感じた」の項目平均は、「6.45/7」であった。講義で学んだことを自身の職場で実践し、その結果を講義に持ち込んで他の参加者と対話する、という学習サイクルを確立できた受講生から、毎年高い評価を得ている。

**【受講生からの声】**

- ・コーチングを学んだことにより、私も相手に対してフィードバックを行い、より良い信頼関係が築けるように努めたいと自然に思えるようになった。
- ・（自分のコーチングに対する）エバリュエーションを行うことで、目標達成に向けた取り組みやその過程で起きた変化などをコーチとの間でお互いに言語化することができ、今後に生かせる気づきや学びへと昇華させることができた実感できた。
- ・今後、自組織にコーチングを取り入れたいと考えている。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoomが使用できるPC

**【その他の重要事項】**

**【注意事項】**

- ・この授業は対話の実践（エクササイズ）に主眼をおいているため、聴講や10分以上の遅刻、離席を認めない。
- ・カメラ、マイクオンでの参加が必須。エクササイズに参加できない環境（移動中、電車の中など）は出席として認めない。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, students will learn the theory and philosophy of coaching and acquire coaching skills by practicing coaching on their own. The coach does not give any advice to the person being coached (hereafter referred to as "coachee"). Students will be able to practice coaching in their own working environment and promote the organizational development as leaders.

**【Outline】**

In recent years, there has been a rapid increase in the number of leaders including corporate executives who have a full-time coach. The coach generates questions and invites coachee to the dialogue. In this lecture, you will learn what coaching is, what the dialogue between the coach and the coachee is like, and how this dialogue contributes to the growth of organizational leaders and managers and to the improvement of corporate performance.

The coaching and dialogue skills gained through this course are very important skills for leader development and organizational development in today's organizations. They help you to:

- ・assist subordinates and team members in setting effective goals.
- ・increase the number of people who take proactive actions toward organizational goals and objectives.
- ・create a team which is collaborative and co-creative.

Therefore, the practice of 1-on-1 coaching leads not only to the development of the leader in front of you, but also to the transformation of the entire organization.

Coaching can only be acquired through practices. Therefore, in this lecture, participants will practice coaching outside of the lecture with coachees they chose by themselves, and the lecture will proceed by handling the insights and learnings gained through those experiences.

**【Target Audience】**

Anyone who wants to become a manager who can influence his/her own team in various aspects of leadership, motivation, team building, and career, as well as a leader who can transform the entire organization. Small, medium or large companies, any type of job is acceptable.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## プロジェクト・デザインマネジメント I

Project Design Management I

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プロジェクトとは、特定の使命を受けて、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で達成を目指す、将来に向けた価値創造事業である。プロジェクトの特徴は、①目的を達成する活動である、②特定された始まりと終了の時点がある、③使用できる資源の制約がある、④ある特定の成果を出すあるいは特定の問題や課題を解決するので何を達成するのか明確であり成否がはっきりわかる。プロジェクトマネジメントは、プロジェクトを成功に導くために、事業主体や他のステークホルダーの要求事項や期待を充足する、またはそれ以上の成果を上げるために、最適な知識、技術、ツールそして技法を適用することである。本授業は、座学でプロジェクトマネジメントに関する知識、スキルを理解し、チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントの適用を体得する。

### 【到達目標】

- ①知識・思考：プロジェクトマネジメントに関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
- ②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントの知識やスキルを自業務にテラリングできる。
- ③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントに関心を持ち、自己のプロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学で、プロジェクトマネジメントに関する体系、知識、プロセス、ツールと技法を説明し、プロジェクト推進に求められるスキルを伝える。各自の論文またはビジネスの実プロジェクトを題材にグループ演習と個人演習を行う。講義部分についてはビデオ教材を利用する場合もある。オンラインによる参加も認めるが、指示がある場合は対面にて参加のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	はじめに、プロジェクトとは	プロジェクトとは、プロジェクトマネジメントとは、組織とプロジェクト、プログラムマネジメントとプロジェクトマネジメントについて説明する
第02回	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習を行う。
第03回	ステークホルダーの要求分析とスコープマネジメント	スコープマネジメントとステークホルダーの要求分析について説明する。
第04回	ステークホルダーの要求とスコープマネジメント演習	ステークホルダーの要求引き出しと構造化演習

第05回	チーム・マネジメント	人的資源、チーム・コミュニケーションについて説明し、演習する。
第06回	リスクと変更管理	問題発生時の対応について説明し、演習する。
第07回	ステークホルダー・マネジメント	ステークホルダー特定、マネジメント計画、エンゲージメント、エンゲージ・コントロールについて説明する。
第08回	スコープ&スケジュールマネジメント	スコープ&スケジュールその他のマネジメントに関して説明する。
第09回	スコープ&スケジュールマネジメント	スコープ定義、WBS、スケジュールについて説明する。
第10回	モニタリング&コントロール	プロジェクトの進捗管理について説明する。
第11回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演
第12回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演
第13回	その他のマネジメント	担当教員によるまとめ
第14回	その他のマネジメント	その他のマネジメント項目について説明する。
第14回	前回のまとめ	まとめおよび事例紹介、テスト

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。

復習・宿題等

授業スケジュール (各回の授業テーマと内容) に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは、講師がPowerpoint等を使った資料を提示する。

### 【参考書】

授業中に講師が指示する

(参考 ※購入の必要はない)

「プロジェクトマネジメント知識体系 (PMBOK® Guide)」

「プロジェクトマネジメントの教科書」(著者 山戸昭三 出版社 大学教育出版) ISBN978-4-86692-222-5 C3034

### 【成績評価の方法と基準】

- ・講義・演習への参加姿勢 (30%)、提出物 (70%)
- ・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
- ・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
- ・参加度合いが75% (21コマ=2100分=35時間) 以上に満たない場合には、評価の対象としない。

### 【学生の意見等からの気づき】

経営情報戦略科目およびITCケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学生は、PC持参のこと (講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用)。

### 【その他の重要事項】

- ・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメントII (春学期後半)」の受講も推奨する。前半 (I) ではプロジェクト推進の手法を中心に学び、後半 (II) ではプロジェクトでの成果物 (サービスや製品、ビジネスモデルなど) のアイデア創出方法を学ぶ。
- ・ITプロジェクトに興味がある場合は、「経営情報戦略」「ITCケース研修」にてマネジメントすべきITプロジェクトの設定を学ぶことができる。
- ・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。PMP、ITコーディネータ、CBAPの資格も有する。
- ・質問・相談がある場合には、  
1.メールで講師に、質問・相談内容 (日時、質問事項など)、希望日時などを伝えてください。

2. 講師からの連絡をお待ちください。

**【Outline (in English)】**

A project is a value-creating undertaking that aims to achieve its objectives within a specified period of time and under specified constraints, including resources and circumstances.

Project management is the application of the most appropriate knowledge, skills, tools and techniques to successfully deliver a project to meet or exceed the requirements and expectations of the business unit and other stakeholders.

This course systematically teaches project management knowledge through lectures on global standard project management knowledge and exercises based on each students own projects in INOMANE.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

Project Design Management I (Japanese curriculum)

Project Design Management I

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Project is activities for future value creation under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a specified start and finish point, (3) there are restrictions on the resources that can be used, (4) since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to achieve is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management applies optimal knowledge, technology, tools and techniques to meet the requirements and expectations of business units and other stakeholders, or to achieve other results to make the project a success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management in the lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

【到達目標】

- 1). Knowledge and thinking: thinking about the project management knowledge and skills required to understand.
- 2). Skills and expression: specifically through the challenges can be resolved issues using the project management knowledge and skills.
- 3). Interest, attitude and motivation: can use project management through a team practice, have interest in the project manager.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Firstly, the lecture explains the system, knowledge, process, tools and techniques related to project management and the skills required of the project manager. In the exercise, the lecturer presents exercises related to project management, so that the study or exercise is studied by the team or individual from the knowledge and thinking learned in the lecture and from a wide range of perspectives, and a presentation or report is prepared.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Episode 01	Introduction, what is a project.	Project, explain about project management, organization and project, program management and project management.
Episode 02	Team exercises on projects and project management.	Team exercises on projects and project management.

Episode 03	Project integration management (initial stage)	Explanation of project charter, confirmation of project goal, preparation of project plan.
Episode 04	Team exercises on project integration management (initial stage).	Team exercises on project integration management (initial stage).
Episode 05	Project Integrated Management (Execution ,Monitoring & Control stage)	Explanation of leadership and project management, integrated (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 06	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 07	Stakeholder Management	Explanation about stakeholder identification, management plan, engage management, engage control.
Episode 08	Team exercises on stakeholder management.	Team exercises on stakeholder management.
Episode 09	Scope management	Explanation about Scope definition, WBS creation.
Episode 10	Team exercises on scope management.	Team exercises on scope management.
Episode 11	Resilience(1) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 12	Resilience(2) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 13	Schedule management	Explanation about Activity definition, Sequence setting, Resource estimate, Duration estimation, Schedule creation.
Episode 14	Team exercises on schedule management.	Team exercises on schedule management.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

2 hours of preparation and review or completion of exercises required. Quizzes may be given.

【テキスト (教科書)】

For the text, the instructor presents materials using Powerpoint etc.

【参考書】

- 1) A guide to the Project Management Body Of Knowledge 6th Edition, Project Management Institute, 2017.
- 2) IT project management by WBS/EVM 978-4-88373-274-6 Shoso Yamato, Kenichi Nagachi, Soft Research Center, 2009.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Attitude to participate in lectures (30%), Participation in team exercise (30%), Mutual evaluation (40%)
- ・ Team exercises and report preparation using knowledge learned in the lecture and information studied by oneself.
- ・ Team exercises and evaluations are carried out every time.
- ・ In the case of team exercises, conduct studies by mutual assessment by students, attitudes towards consideration, enthusiasm, presentation and question-and-answer.
- ・ If the degree of participation is less than 75% (21frames= 2100minutes= 35hours), it is not subject to evaluation.

**【学生の意見等からの気づき】**

ITC Case Training Course, Management Information Strategy Course and the necessary tools and techniques are introduced.

**【学生が準備すべき機器他】**

Students should bring their own personal computer or lending computer to the class. It is necessary for viewing lecture materials, team exercises and presentations.

**【その他の重要事項】**

- ・ If there is a question or consultation,
  1. Please tell the lecturer by e-mail the question / consultation details (date, question, etc.), desired date and time etc.
  2. Please wait for contact from the instructor.

**【Outline (in English)】**

Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

Project Design Management II (Japanese curriculum)

Project Design Management II

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

【到達目標】

- 1). Knowledge and thinking: thinking about the project management knowledge and skills required to understand.
- 2). Skills and expression: specifically through the challenges can be resolved issues using the project management knowledge and skills.
- 3). Interest, attitude and motivation: can use project management through a team practice, have interest in the project manager.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Firstly, the lecture explains the system, knowledge, process, tools and techniques related to project management and the skills required of the project manager. In the exercise, exercises related to project management are presented by the lecturer, so the study or exercise is studied by the team or individual from the knowledge and thinking learned in the lecture and from a wide range of perspectives, and a presentation or report is prepared.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Episode 01	Introduction, what is a project.	Project, explain about project management, organization and project, program management and project management.
Episode 02	Team exercises on projects and project management.	Team exercises on projects and project management.

Episode 03	Project integration management (initial stage)	Explanation of project charter, confirmation of project goal, preparation of project plan.
Episode 04	Team exercises on project integration management (initial stage).	Team exercises on project integration management (initial stage).
Episode 05	Project Integrated Management (Execution ,Monitoring & Control stage)	Explanation of leadership and project management, integrated (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 06	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 07	Stakeholder Management	Explanation about stakeholder identification, management plan, engage management, engage control.
Episode 08	Team exercises on stakeholder management.	Team exercises on stakeholder management.
Episode 09	Scope management	Explanation about Scope definition, WBS creation.
Episode 10	Team exercises on scope management.	Team exercises on scope management.
Episode 11	Resilience(1) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 12	Resilience(2) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 13	Schedule management	Explanation about Activity definition, Sequence setting, Resource estimate, Duration estimation, Schedule creation.
Episode 14	Team exercises on schedule management.	Team exercises on schedule management.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation

Lecture materials on the class schedule (class theme and contents of each class) will be posted in advance, so prepare and learn about themes related to the lesson through literature survey etc.

Review / Homework

Based on the class schedule (each lesson theme and contents), team exercises are conducted, so review the points to be arranged and unclear points. If you still have any questions, do a literature survey or ask the instructor. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【テキスト (教科書)】

For the text, the instructor presents materials using Powerpoint etc.

【参考書】

- 1) A guide to the Project Management Body Of Knowledge 6th Edition, Project Management Institute, 2017.
- 2) IT project management by WBS/EVM 978-4-88373-274-6 Shoso Yamato, Kenichi Nagachi, Soft Research Center, 2009.

【成績評価の方法と基準】

・ Attitude to participate in lectures (30%), Participation in team exercise (30%), Mutual evaluation (40%)

- ・ Team exercises and report preparation using knowledge learned in the lecture and information studied by oneself.
- ・ Team exercises and evaluations are carried out every time.
- ・ In the case of team exercises, conduct studies by mutual assessment by students, attitudes towards consideration, enthusiasm, presentation and question-and-answer.
- ・ If the degree of participation is less than 75% (21frames= 2100minutes= 35hours),it is not subject to evaluation.

**【学生の意見等からの気づき】**

ITC Case Training Course, Management Information Strategy Course and the necessary tools and techniques are introduced.

**【学生が準備すべき機器他】**

Students should bring their own personal computer or lending computer to the class. It is necessary for viewing lecture materials, team exercises and presentations.

**【その他の重要事項】**

- ・ If there is a question or consultation,
  1. Please tell the lecturer by e-mail the question / consultation details (date, question, etc.), desired date and time etc.
  2. Please wait for contact from the instructor.

**【Outline (in English)】**

Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## プロジェクト・デザインマネジメントⅡ

Project Design Management II

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プロジェクトとは、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で目標達成を目指す、価値創造事業である。ビジネスや製品・サービスの創造、研究、イベントなど様々なプロジェクトがあるが、イノベティブで価値ある成果物を創造するために、以下の3つ体系と手法を学ぶ。①デザイン思考 (新しい視点でイノベティブなデザインを発想する思考法) ②システム思考とシステムエンジニアリング (アイデアを論理的に構造化し、全体と部分の整合性を明確にするための体系) ③ビジネス・アナリシス (ビジネス視点と顧客視点の要求からソリューション=解決策を創出するための要求分析体系)

### 【到達目標】

- ①知識・思考：プロジェクトマネジメントとビジネスや製品・サービスなどのアイデア創出に関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
- ②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントやシステム×デザイン思考の知識やスキルを自業務にテラリングできる。
- ③意欲・関心・態度等：演習を通じて、プロジェクト・デザインに関心を持ち、プロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義により、プロジェクトマネジメントやシステム×デザイン思考に関する体系、知識、プロセス、ツールやフレームワークなどを説明し、プロジェクト・デザインに求められるスキルを伝える。各自の論文またはビジネスの実プロジェクトを題材にグループ演習と個人演習を行う。講義部分についてはビデオ教材を利用する場合もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	はじめに、プロジェクト・デザインとは	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系
第02回	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系	イノベティブで価値のある成果を創出するためのプロジェクトマネジメント
第03回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレイクスルーする手法やツールの紹介
第04回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレイクスルーする手法やツールの適用
第05回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレイクスルーする手法やツールの紹介
第06回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレイクスルーする手法やツールの適用

第07回	要求分析とビジネスアナリシス	ビジネス・アナリシス体系とビジネス・顧客とソリューションのトレーサビリティ、および要求分析の説明
第08回	要求分析とビジネスアナリシス	要求分析およびトレーサビリティの演習
第09回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	システムエンジニアリング体系の紹介と要求の妥当性確認についての説明
第10回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	要求妥当性確認の演習
第11回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第12回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第13回	まとめと最終発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト
第14回	まとめと胚珠発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。

復習・宿題等

授業スケジュール (各回の授業テーマと内容) に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは、講師がPowerpoint等を使った資料を提示する。

### 【参考書】

授業中に講師が指示する

(参考 ※購入の必要はない)

「システム×デザイン思考で世界を変える」

「ビジネスアナリシス知識体系 (BABOK® Guide)」

「システムエンジニアリングハンドブック」

### 【成績評価の方法と基準】

- ・講義・演習への参加姿勢 (30%)、提出物 (70%)
- ・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
- ・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
- ・参加度合いが75% (21コマ=2100分=35時間) 以上に満たない場合には、評価の対象としない。

### 【学生の意見等からの気づき】

経営情報戦略科目およびITCケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

### 【学生が準備すべき機器他】

学生は、PC持参のこと (講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用)。

### 【その他の重要事項】

- ・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメントⅠ・Ⅱ」(春学期)の受講も推奨する。
- ・ITを利用したイノベティブ・プロジェクトに興味がある場合は「経営情報戦略」においてビジネスモデルのデザインを体系的に経験することができる。
- ・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。PMP、ITコーディネータ、CBAPの資格も有する。
- ・質問・相談がある場合には、
  1. メールで講師に、質問・相談内容 (日時、質問事項など)、希望日時などを伝えてください。
  2. 講師からの連絡をお待ちください。

### 【Outline (in English)】

A project is a value-creating enterprise that takes a specific mission and aims to achieve it in a specific period of time and under specific constraints.

There are various types of projects such as business, product/service creation, research, and invent, etc. In order to create innovative and valuable deliverables, the following three systems and methods are studied.(1) Design Thinking (2) Systems thinking and systems engineering (3) Business Analysis (a system for analyzing requirements to create solutions from the business perspective and the customer perspective)

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## リスクマネジメント概論

Risk Management

指田 朝久 [Tomohisa SASHIDA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業は商品やサービスを社会に提供し適切な対価を得て継続的に発展することを目的としています。しかしその目的の達成を阻害する様々な事象が発生し、場合によっては企業の継続が不可能になります。自然災害や火災、製品事故、地政学リスクなど、この様々な事象である事件や事故をいかに未然に防ぎ、また万が一発生した場合にもその影響を最小限に止める経営手法がリスクマネジメントです。この授業で、企業を継続的に発展させるための経営者としてのリスクマネジメントの考え方を学びます。起業を目指す学生にとっても、中小企業診断士を目指す学生にとっても企業経営のリスクマネジメントの考え方を身につけることは重要です。また、リスクマネジメントの考え方を身につけることはプロジェクトの推進にも役立ちます。リスクマネジメントの考え方は大企業・中堅中小企業すべてに共通です。なお、授業の演習で用いるモデル企業は資本金1億円従業員300人の製造業を扱います。

### 【到達目標】

企業経営としてのリスクマネジメントの考え方として、国際標準規格ISO31000(2018年改訂)を学びます。モデル企業のリスクマネジメントの仕組みを構築することにより、リスクマネジメントの実践手法を学びます。実際の危機発生時の企業の対応から危機管理の仕組みを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

国際標準規格ISO31000の概要を説明したのち、モデル企業のリスクマネジメントを毎回の演習やグループディスカッションにより構築していきます。

危機に陥った企業のケーススタディや意思決定ゲームに取り組むことにより、危機管理の能力を身につけます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要、リスクとは、リスクマネジメントとは	地震・水害・情報漏洩事件など最近のリスク事例を振り返りながら、リスクマネジメントの概論を説明します
2	リスクマネジメント規格ISO31000	国際標準規格ISO31000の概要、章立て、主要な項目などを説明します。
3	リスクマネジメント方針、組織の状況の理解	モデル企業を例にグループディスカッションによりISO31000の要求項目を具体的に検討します。経営者の定める方針と自社の現状把握を行います。
4	リスクの発見、リスクの種類、リスクの分類、主なリスクの理解	企業を取り巻く様々なリスクを解説します。演習としてモデル企業のリスクの特定を行います。

5	リスクの算定、リスクマップ	モデル企業の各リスクの発生頻度と企業に与える影響度を見積もり、リスクマップを作成します。
6	被害想定、リスクの評価	重要なリスクの被害想定を作成し、企業が取り扱うリスクの優先順位を決定します。
7	リスクの対応	重要なリスクに如何に対処するか、回避、低減、共有、保有などのリスク対策について具体的に学び、モデル企業に適用します。また、事件事故を経験した企業のケーススタディを行います。
8	パフォーマンス評価と有効性評価、是正改善、モニタリング	リスク対応が具体的に企業の日常業務の中で対処できているか、モニタリングを行う仕組みを検討します。
9	マネジメントレビュー、リスクコミュニケーション	経営者が実施するレビューによる継続的改善を検討します。またステークホルダーとの情報共有を学びます。
10	損害保険の役割、リスクコスト	企業は財務諸表で評価されます。財務的側面で重要な保険とリスクコストについて学びます。
11	危機管理、インシデントコマンドシステムICS	万が一の事件事故に遭遇した場合の危機への対処方法を机上訓練などで学びます。
12	ケーススタディトレーニング	実際の事件や事故のケーススタディや意思決定ゲームにより、危機管理における意思決定を学びます。
13	事業継続計画(BCP)	地震や水害、工場火災、システムダウン、感染症等を踏まえて注目されているBCPにつき解説します。
14	まとめ、レポートの説明	リスクマネジメントと危機管理の振り返りをします。またレポート課題の説明を行います。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自分の会社および自分の会社の業種、あるいは起業を検討している業種の上場企業を中心に、各社の有価証券報告書に記載されている「事業等のリスク」について情報収集をおこなってください。授業の中で発表してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック：東京海上ディーアール株式会社編；同文館出版；2022年；2400円＋税；ISBN978-4-495-39066-2

### 【参考書】

- ①JISQ31000:2019(日本工業規格；日本規格協会；2625円)
- ②ISO31000リスクマネジメント解説と適用ガイド:2018年版(日本規格協会；4400円＋税)ISBN：978-4-5424-02812
- ③ケースブックあなたの組織を守る危機管理(ぎょうせい；4762円＋税)ISBN978-4-324-09258-3
- ④企業の地震リスクマネジメント入門(日科技連；3200円＋税)ISBN978-4-8171-9498-5

### 【成績評価の方法と基準】

レポートの提出および内容(60%)、出席および小課題の提出(20%)、積極的な発表など授業への貢献(20%)

### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションやケーススタディの割合をより充実させていきます。また、発表においては、生徒同士の発表のほか、過去の履修生(匿名)の回答の中から参考となる事例も紹介していきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

zoom等を用いて各自の発表をスクリーンに投影することにより、グループディスカッションを実施していきます。また、資料配布や課題提出のために学習支援システムを用いるため、パソコンは必要になります。

**【その他の重要事項】**

テキスト（教科書）にそって授業をすすめていきます。毎回授業のポイントにそった小課題を検討し演習を行います。また、実際に発生した事件や事故についても適宜ケーススタディを行い議論や意見交換を行っていきますので出席が重要です。また、マスコミやインターネット、業界紙などで報道されている企業の事件・事故事例について関心をもってください。

経営コンサルティングの実務経験から、生徒のディスカッションや演習結果につき、実際の企業の考え方をフィードバックしていきます。オフィスアワー 授業開始前または終了後に質問を受け付ける。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of a company is to provide goods and services to society, obtain appropriate money, and develop continuously. However, various events occur and hinder the achievement of corporate objectives. In some cases, the event causes the company to go bankrupt. The event is natural disaster, fire, product accident, geopolitical risk, etc. Risk management prevents incidents and accidents that are various events. Risk management also minimizes the impact of events that have occurred. In this lesson, students learn about thinking about risk management as a top manager to continuously develop the company.

**【Learning Objectives】** Understand the international standard ISO31000 (revised in 2018) as a concept of risk management as corporate management. Understand crisis management methods from the company's response when an actual crisis occurs.

**【Learning activities outside of classroom】** Collect information on the "business risks" described in each company's securities report. Have them make a presentation in class.

The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】** Contents of the term-end report (60%),Attendance and submission of small assignments (20%),Contribution to class such as active presentation(20%).

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 事業リスクマネジメントと内部統制

Enterprise Risk Management and Internal Control

石島 隆 [Takashi ISHIJIMA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

事業リスクマネジメント (Enterprise Risk Management) とは、戦略策定及び業績評価と統合されたリスク管理のための組織のカルチャー・ケイパビリティ・実務をいう。また、内部統制とは、企業組織の全ての階層を通じたガバナンスとマネジメントのプロセスにおけるコントロール機能を意味する。

本授業において学生は、最初に、企業において、どのようにして戦略策定及び業績評価とリスク管理を一体化させるかを学び、その実現手段として、内部統制を組み込んだビジネスプロセスをどのように構築・運用すればよいかを学ぶ。また、これらに共通に関わる要素としての内部監査の計画・手順・方法についても学ぶ。

本授業のケーススタディでは、グローバル展開している大規模上場企業など大企業の事例を主として取り上げるが、中小・中堅企業の改善にも資するように、新興市場の小規模上場会社の事例も取り上げる。

### 【到達目標】

学生は、事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークを活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織におけるガバナンスとマネジメントにおける問題点を調査・分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。

自らが選定した組織における事業リスクマネジメントと内部統制の問題点を調査・分析し、改善策の策定を適切に行うための報告書を作成することをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークについて解説した後、それらの実践をより深く理解するためにケースを用いたグループ討議を行う。

また、事業リスクマネジメントと内部統制の実践における課題及び改善策を把握するため、ゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業リスクマネジメントのフレームワーク(1)	事業リスクマネジメントのフレームワークの考え方について学び、戦略策定及び業績評価との関係を検討する。
2	事業リスクマネジメントのケーススタディ(1)	製造業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
3	事業リスクマネジメントのケーススタディ(2)	卸売業又は小売業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
4	事業リスクマネジメントのフレームワーク(2)	事業リスクマネジメントの構成要素の内容と論点について学ぶ。

5	事業リスクマネジメントのケーススタディ(3)	金融機関における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
6	内部統制のフレームワーク	内部統制のフレームワークと「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」の制度について学ぶ。
7	内部統制のケーススタディ(1)	全社的な内部統制について、ケースを用いて討議する。
8	不正会計と内部統制とデータ分析	不正会計に対応するための内部統制とデータ分析について学ぶ。
9	内部統制のケーススタディ(2)	海外子会社における内部統制について、ケースを用いて討議する。
10	内部監査の計画・実施・報告	内部監査の計画・実施・報告の手順と方法について学ぶ。
11	事業リスクマネジメントと内部監査の実務(1)	事業リスクマネジメントと内部監査について、ゲスト講師を招いた講義を行う。
12	事業リスクマネジメントと内部監査の実務(2)	上記のゲスト講師への質疑及び討議を行う。
13	学生による事例研究発表(1)	事業リスクマネジメントと内部統制の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例研究を行い、その結果を発表する。前回の続きを行う。
14	学生による事例研究発表(2)	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配付するケーススタディの資料を読んで、授業までに検討しておくこと。

ケーススタディに関する討議後の自己の見解のレポートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

日本内部監査協会他監訳『COSO 全社的リスクマネジメントー戦略およびパフォーマンスとの統合』同文館出版 (税込¥6,380)  
各回の資料は、授業支援システムよりダウンロードすること。

### 【参考書】

八田信二他訳『COSO 全社的リスクマネジメントー戦略およびパフォーマンスとの統合ー事例の解説篇』日本内部監査協会 (税込¥3,190)  
齋藤 正章、蟹江 章『現代の内部監査』放送大学教材 (税込¥2,750)

### 【成績評価の方法と基準】

授業中に行う討議への積極的な参加と討議後のレポートの提出 (60%)  
最終レポート (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ケースの討議結果についての学生へのフィードバックの文書化を行い、学生の理解度を深める。

### 【学生が準備すべき機器他】

ケースに関するグループ毎の討議結果のとりまとめにノートPCを利用する。  
また、資料はeラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノートPCを持参すること。

### 【その他の重要事項】

授業中での活発な質問と討議を期待する。

<オフィスアワー>

秋学期：金曜日5限目 (16:50-18:30)

この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。

教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後、大学教員となった。これらの経験を生かして、企業におけるリスクマネジメントと内部統制の実態を理解し、改善策が策定できるように指導する。

**【Outline (in English)】**

Enterprise Risk Management refers to the culture, capability, and practice of an organization for risk management integrated with strategy formulation and performance evaluation. In addition, internal control means the control function in the process of governance and management through all the layers of an enterprise organization.

In this class, students learn how to integrate strategy formulation, performance evaluation and risk management at enterprises first, how to build a business process incorporating internal control as a means to realize it learn how to operate. Also learn about planning, procedures, and methods of internal audit as elements related to these in common.

The case study of this class mainly deals with cases of large companies such as large-scale listed companies that are developing globally, but also cases of small listed companies in emerging markets, so as to contribute to improvement of small and medium-sized enterprises.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 生産マネジメント

Production Management

都丸 孝之 [Takayuki TOMARU]

単位数：4単位

学期：春学期授業/Spring

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、大手企業と中小企業のパートに分け製品設計や生産現場を解説する。前半は、知的財産を活用するためのオープン・クローズド戦略、ものづくりのための生産設計の方法や効率的で無駄の少ないリーン生産をどのように実現しているのか解説する。後半は、中小企業の事業継承や技術伝承の課題、さらには、補助金を活用する上での注意点、企業間連携による新たな価値作りなど、実際の中小企業の課題をテーマに議論を交わしながら中小企業の実態を理解する。さらに、工場を経営するビジネスゲームを併用することで、品質・納期ペナルティを最小限にするための生産ラインの設計を学ぶ。

### 【到達目標】

ものづくり中小企業の経営や、生産現場を改善するための必要な知識・スキルを習得し、現場目線での能動的な改善提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講師の示す課題に対するグループ討議から講義の理解度を深めていく。工場経営ゲームにおいては、品質問題を最小限に抑え、生産のリードタイムを短縮するためには、どのような施策を実行したらよいかグループで議論しながら進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	貿易ゲーム	限られた資源 (道具) で、指定された製品を短時間で製造・販売する。チーム内での協業、他チームとの交渉を行いながら、チームの利益最大化を目指す。
第02回	中小ものづくり企業の海外展開事例	町工場の汚泥乾燥装置の開発と海外事例展開。JETROの活用。
第03回	製品開発の課題と実際	電子デバイス材料の事例から中間材製造業の製品開発の実態を解説する
第04回	製造業の知的財産戦略	業務提携の課題とオープン&クローズド戦略について解説する
第05回	生産プロセス技術の変遷	中間材製造業を事例にプロセス改革がどう進んできたか、また、これからの課題について解説する
第06回	生産設計	生産現場のPQCD Sマネジメントと製造業の業種による捉え方を説明する
第07回	LEAN生産マネジメント①	リーンによる生産性改善の概要、現状分析ツールを理解する。 LEANに関する4回の講義を通じて展開する演習を紹介し、グループにより現状分析ツールを使ってみる。

第08回	LEAN生産マネジメント②	オペレーションの詳細分析ツールを理解する。グループで詳細分析ツールを活用する演習を行う。
第09回	LEAN生産マネジメント③	リーンオペレーションにおけるプロセスの流れの概念を理解する。グループで演習を通じてリーンオペレーションを目指す。(講義③の続き) 演習でリーンオペレーションを目指した結果を振り返り、LEANによる生産性改善に関する理解を深める。
第10回	LEAN生産マネジメント④	複製機・プリンタに搭載されているハードディスクドライブのEOLによる、代替品の確保と品質問題の事例を紹介する
第11回	電子部品のEnd of Life	パソコンの故障の発生を予防するための、製品の設計時、製造時でどのような不具合が発生するのかを予測し、品質不良を未然に防止するためのFMEA(Failure Mode Effect Analysis)の演習を行う。
第12回	品質不良の未然防止策 (FMEA)	中小製造業における経営支援の実務に必要な最低限知っておきたい基礎知識として、生産管理の基本的な考え方や用語、現場管理のポイントなどを解説する。
第13回	中小製造業における生産管理の基礎知識	DX(デジタルトランスフォーメーション)への関心の高まる中、中小製造業の経営改善に必須となる工場のデジタル化の基礎知識について解説する。
第14回	中小製造業のデジタル化の基礎知識	段ボール印刷、コンクリート製造、鉗子。デジタル化の課題と対策
第15回	中小製造業のデジタル化の実践事例	人権への注目が世界的に高まっている。企業・事業活動においてどのような人権問題が生じており、それが中小企業の経営にどのような影響を及ぼすリスクとなるかについて考える。
第16回	中小企業の「人権」	国家資格である「中小企業診断士」の期待役割や基本実務について、実務・実践の観点で学ぶ。その上で、仮想の中小事例企業に対し、中小企業診断士になりきって紙上の模擬診断・助言を行う。
第17回	中小企業診断士を「体験」する	地球温暖化を止めるための「脱炭素」。温室効果ガス(GHG)の排出量や製品単位の算定、省エネと再エネ促進による排出削減の考え方を学び、これらを活かして簡易な「中小企業の脱炭素経営計画」を作成する。
第18回	中小企業の脱炭素経営	CSR、CSV、SDGs、ESG、サステナビリティ、レスポンシブル・ビジネスなど、多様な言葉が飛び交う。これらの言葉を理解しながら、中小企業が持続的に発展・成長するための考え方や方法について理解する。
第19回	中小企業のサステナブル経営	中小企業に多い同族経営。一般的な長所と短所を理解し、現実には起きている事業承継の実態を見ながら、あるべき姿や中小企業診断士としての支援の形について、ディスカッションを通じて考える。
第20回	中小企業の同族経営と事業承継の実態	

第21回	公的補助金と中小企業	国や自治体等の補助金は、中小企業の成長に向けた大きな後押しとなる。一方で依存が強すぎると経営の健全性を失うため、「劇薬」でもある。事例に学びながら、補助金活用の考え方や留意点について考える。	・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。
第22回	～事例から学ぶ～ 老舗中小製造業の海外事業戦略	創業100年を迎えた老舗の金属加工機械製造業が、外部環境変化を見据えて自社の強みを活かした海外市場戦略を進めている。この事例を講師が紹介しながら診断士の視点で解説を加え、ディスカッションを行う。	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> ウェブ上でグループワーク用の演習シートにアクセスするためパソコンが必要
第23回	～事例から学ぶ～ 地域密着型中小興行業の成長戦略	代表者が現役選手でもあるプロレス興行業が、地域にない存在となることを目指した成長戦略を進めている。この事例を講師が紹介しながら診断士の視点で解説を加え、ディスカッションを行う	<b>【その他の重要事項】</b> ものづくり企業における、設計や生産業務の内容を事前に理解しておくこと。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行う。
第24回	小規模事業の付加価値経営例 前編	付加価値をベースとした経営手法を、製造業にて実践する考え方や事例を紹介する。業務の棚卸：労働者の工数を詳細に把握し、工程の改善や対価の設定と紐づける事例を紹介する。	<b>【Outline (in English)】</b> This lecture will cover product design and production for large and small companies. The first lecture will explain open and closed strategies for utilizing intellectual property. how to design production for manufacturing and how to achieve efficient and lean production. It also explains how to design for manufacturing and how to achieve efficient and lean production. The second it will explain the challenges of business succession and technology transfer for small and medium-sized enterprises. In addition, by using the business game of running a factory in conjunction, students learn to design production lines to minimize quality and delivery penalties.
第25回	小規模事業の付加価値経営例 後編	開発支援：3D CADを活用したプロダクト開発について、顧客とリスクを分担しながら、ミニマムリソースでの開発を実現した事例を紹介する。ハブ企業：パートナーシップにより信頼コストを下げつつ、付加価値を継いでいく小規模ならではのネットワーク構築例を紹介する。	
第26回	工場経営ゲーム① (生産管理ゲーム)	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。各期毎に工場の生産効率改善のためのディスカッションを行う。	
第27回	工場経営ゲーム② (生産管理ゲーム)	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。各期毎に工場の生産効率改善のためのディスカッションを行う。	
第28回	工場経営ゲーム③ (生産管理ゲーム)	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。各期毎に工場の生産効率改善のためのディスカッションを行う。	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

大手企業、中小企業の生産現場の実態を事前に調査しどのような課題を抱えているのか文献や新聞等で情報収集しておくこと。本講義の事前学習、復習時間は、2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

毎回講義資料を配布します。

**【参考書】**

・藤本隆宏「生産マネジメントⅠ・Ⅱ」、日本経済新聞社、2001年  
・石川 和幸「生産管理のすべてがわかる本」日本実業出版社、2022年  
・商工総合研究所「競争力強化に挑む中小製造業 躍進するものづくり企業」、商工総合研究所、2014年

**【成績評価の方法と基準】**

・チーム討議（50%）、課題レポート（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮します。

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## サプライチェーンマネジメント

Supply chain Management

都丸 孝之 [Takayuki TOMARU]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、企業の生産活動や物流活動を実際に体験するためのサプライチェーンに関するビジネスゲームを取り入れ、在庫をどうやって圧縮しているのか、リードタイムを短縮するためにはどうしたらよいのか、受講生同士のディスカッションを通じてサプライチェーンの理解を深める。また、大手飲料業界や大手小売り業界がどのようにして需要予測を行っているのか、また物流拠点、在庫計画など実際の現場を詳しく解説する。

### 【到達目標】

ビジネスゲームを取り入れること、また実際の企業が行っている生産・物流活動を理解することで、生産から物流全体を横断したサプライチェーンの理解を深め、現場目線での能動的な改善提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ビジネスゲームを活用した能動的学習法を取り入れることで履修者同士のディスカッションを促す。また、飲料業界や小売りなどの業界の課題を理解することで、生産や物流ネットワークのあり方をディスカッションする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	貿易ゲーム	限られた資源 (道具) で、指定された製品を短時間で製造・販売する。チーム内での協業、他チームとの交渉を行いながら、チームの利益最大化を目指す。
第2回	サプライチェーンの課題と対策	サプライチェーンマネジメントへの要求事項、課題を俯瞰し、課題に向けた対応策の事例を紹介する。
第3回	ビールゲーム①	小売り、2次卸、1次卸、工場に分かれたサプライチェーンを体感するビジネスゲーム。在庫費、受注残費を最小限にすることが求められる。
第4回	ビールゲーム②	小売り、2次卸、1次卸、工場に分かれたサプライチェーンを体感するビジネスゲーム。在庫費、受注残費を最小限にすることが求められる。
第5回	生産性改善①	サプライチェーンの生産性向上における基本的な考え方を、演習を交えながら理解する。
第6回	生産性改善②	生産性向上における基本的な考え方を演習を交え、更に発展させる。在庫管理に影響を与える要因を論理的に整理して、課題と取り組み事例を整理する。

第7回	ビジネスゲーム (CANDY OG)①	ビジネスゲームによる疑似体験を通じ、生産性改善と在庫管理に関する基本的なポイントを再確認する。
第8回	ビジネスゲーム (CANDY OG)②	ビジネスゲームにおいて競争と協業を疑似体験し、サプライチェーンを俯瞰する視点の重要性を理解する。
第9回	サプライチェーンと中小企業	大企業は、投資家からグローバル基準で厳しい評価にさらされている。サプライチェーンの特性を把握し、直接・間接で中小企業として果たす役割や、顧客大企業の期待に応える取り組みについて考える。
第10回	S&OP (Sales and Operations Planning)	S&OPとはS&OPの目的と効果を説明する。
第11回	業界事例	飲料業界の事例。震災時の供給と最盛期の供給対応を解説する。
第12回	物流戦略	物流ネットワーク。VMI。在庫配置。輸送管理
第13回	SCMにおけるベンチャー企業の取組み事例	店内物流の改善事例を紹介する。
第14回	プロジェクト事例	大型物流倉庫を活用したサプライチェーンネットワークの構築

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

生産・物流現場の実態を事前に調査しどのような課題を抱えているのか文献や新聞等で情報収集しておくこと。本講義の事前学習、復習時間は、2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回講義資料を配布する。

### 【参考書】

- ・シヨシヤナ・コーエン「戦略的サプライチェーンマネジメント」英治出版、2015
- ・ハーバード・ビジネス・レビュー「デジタル変革で強化するサプライチェーンの競争力」ダイヤモンド社、2020年12月号

### 【成績評価の方法と基準】

- ・グループ討議 (50%)、課題レポート (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮する。
- ・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

ビジネスゲームにおいては、ウェブアクセスが必要なためパソコンが必要

### 【その他の重要事項】

企業における、生産活動や物流活動の内容を事前に理解しておくこと。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行う。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, a business game about supply chain will be introduced to experience the production and logistics activities of enterprises. In addition, this lecture introduces theory to help students understand the importance of inventory compression and lead-time reduction. lecturers will describe actual supply chain sites, including logistics and inventory planning of the major beverage industries.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## プラットフォーム戦略

Platform strategy

長谷川 純一 [Junichi HASEGAWA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Google (Alphabet)・Amazon・Facebook (Meta)・Apple・Microsoftを総称して **Big Five** と呼ぶが、彼らはプラットフォーム企業として、エコシステムを形成し、膨大なネットワーク効果を生み、急激な事業成長を遂げてきた(これをプラットフォーム・スケールと呼びます)。また、Uber、Airbnbなども、シェアリング・エコノミーを実現するプラットフォームとして注目されている。これらプラットフォーム企業は、これまでの経営戦略と異なった戦略に基づき、プラットフォームの構築、事業の拡大を実現している。

今日、革新的な製品を生んでも、競合他社により短期間でコモディティ化されてしまう。このため、製品を核にプラットフォームを形成し、競争力を高める必要が生まれている。また、プラットフォーム企業は多面市場で事業を展開しており、ある市場で無償や安価に製品やサービスを展開し、それをテコに別の市場で収益をあげる戦略を取ることがある。このため、製品ベンダーは、プラットフォーム企業による脅威に潜在的に曝されている。

本講義では、プラットフォーム・ビジネスの本質を紐解き、プラットフォームをどのようにデザインし、ローンチさせるべきか。製品事業をどのようにプラットフォーム事業へシフトすべきか。プラットフォーム時代の競争戦略はどうあるべきか等について論じる。

### 【到達目標】

この授業を履修することで、以下のスキルの習得を目標としています。

1. Big Five、Uber、Airbnbなどのプラットフォーム・ビジネスの基本原理の理解
2. 新たなプラットフォームをどうデザインし、ローンチさせるべきかの戦略立案力
3. プラットフォーム時代における事業戦略、競争戦略について論じる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DPI」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ケースを用いながら講義内容の理解を深めます。また、グループ課題として、プラットフォームを活用したビジネスモデルの創出にチャレンジしてもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プラットフォームとその戦略	・オリエンテーション ・プラットフォーム時代の到来 ・Amazonはどのようにプラットフォームを作ったのか? ・プラットフォーム戦略 ・プラットフォーム・マニユフェスト
2	デジタル変革: 製品からプラットフォームへ	・プラットフォームへのシフト ・プラットフォームのもたらすネットワーク効果
3	ケース: Apple iTunes	・プラットフォームとしてのiTunes ビジネス モデル

4	ネットワーク効果	・プラットフォームと規模の経済 ・マルチホーミングとスイッチングコスト ・二面市場ネットワーク
5	ケース: Intuit QuickBooks	会計ソフトウェアからクラウドベースのプラットフォームへの転換
6	成功するプラットフォームをデザインする	・パイブ ビジネスとプラットフォーム ビジネス ・プラットフォームの設計指針 ・実用最小限のプラットフォーム ・プラットフォームの収益化
7	ケース: Airbnb, Etsy, Uber	成功したプラットフォームはどのように生まれたのか?
8	プラットフォームのローンチと成長の戦略	・「鶏が先か卵が先か」問題 ・ローンチ戦略 ・モジュール構造とAPI戦略
9	オープンイノベーションの活用	・オープンイノベーション ・何をオープンにし、何を占有すべきか? ・エコシステムの管理
10	プラットフォーム ガバナンス	・なぜガバナンスが必要か? ・ガバナンスの設計原理 ・ガバナンス ツール ・ガバナンス ルール
11	ケース: Uber	・シェアリング・エコノミーと規制 ・プラットフォーム・ガバナンスの実装
12	プラットフォーム時代の競争と戦略	・なぜプラットフォームは製品を凌駕するのか? ・プラットフォーム時代の戦略 ・ネットワーク効果と事業戦略
13	グループ課題のプレゼンテーション	グループ課題(プラットフォーム・ビジネスの創出アイデア)をグループごとにビジネスピッチ形式で発表し、議論
14	プラットフォーム革命の未来	・プラットフォーム戦略を採用している企業群 ・様々な分野で展開されるプラットフォーム革命

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は、毎回の講義の終わりに、次回の講義までに事前学習すべき項目やプレゼンテーションを行う準備について指示を受ける。事前課題を指示された場合には、講義の初めに提出する。事前課題を含め、本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

グループ課題(プラットフォーム・ビジネスの創出)については、グループでの議論、プレゼンテーション準備を要します。プラットフォーム戦略について考察する個人課題を1つ設定。

### 【テキスト (教科書)】

Harvard Business Publishingで指定した Coursepack (4 cases) を購入していただきます。和文抄訳を別途提供します。

### 【参考書】

『プラットフォーム・レボリューション PLATFORM REVOLUTION 未知の巨大なライバルとの競争に勝つために』ダイヤモンド社  
ジェフリー・G・パーカー 著/マーシャル・W・ヴァン・アルスタイン 著/サンジート・ポール・チョーダリー 著/妹尾 堅一郎 監訳/渡部 典子 訳

ISBN : 978-4-478-10003-5

### 【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から総合的に評価する。

- (1) 授業への貢献: 23%
- (2) ケースに対する事前課題: 32% (8% x 4 ケース)
- (3) 個人課題: 20%
- (4) グループ課題: 25%

**【学生の意見等からの気づき】**

プロジェクト・メソッドにおいてプラットフォーム関連のプロジェクトを検討、進めている学生には、プロジェクトに関する個別の相談にも応じます。

**【学生が準備すべき機器他】**

PDFで配布されるケースが読み取れ、課題レポートが作成・提出できる情報機器。

**【その他の重要事項】**

経営戦略の基礎を学んでいると講義での議論の質をより高めることができるが、基礎を平行して学ぶ受講者でも無理のない講義への参加ができるよう、オリエンテーション時にレベルを確認し、内容および進捗を調整する。

講義やケーススタディにおいて、講師が、アマゾン、オラクルなど成功したプラットフォーム企業のほか、プラットフォーム構築を目指すスタートアップで経験したことを適宜お話しします。

**【Outline (in English)】**

Today is the era of data, network, and platform. Platform players, such as Google (Alphabet), Amazon, Facebook (Meta), Apple and Microsoft (Big Five) have established ecosystems, been enjoying vast network effects, and grown dramatically (it is called “Platform Scale”). Fresh players such as Uber and Airbnb, have formed sharing economies without owning considerable assets. Those platform players take different strategies from the ones of traditional business strategies. This course covers those topics through lectures, case studies and individual & group exercises.

Through the lectures, you can obtain the following skills:

1. Understand basic principles of platform businesses, driven by Big Five, Uber, Airbnb, etc.
2. Capability to design a new platform, and to plan its successful launch.
3. Ability to discuss platform strategy

Grading criteria are followings:

- (1) Class contributions: 23%
- (2) Pre-class quizzes for cases: 32% (8% \* 4)
- (3) Individual exercise: 20%
- (4) Group exercise: 25%

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## グローバルビジネス経営論

Global Business Management

山本 晋也 [Shinya YAMAMOTO]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースは、バイオ医薬品産業におけるグローバル・マネジメントと、AIなどの新興テクノロジーが組織に与える影響について包括的に理解することを目的としています。学生は、現在の業務ワークフローにおける知識と経験の重要性、イノベーションのジレンマによってもたらされる課題、グローバルなビジネス環境における小規模組織と社会起業家の重要性について探求します。さらに、このコースでは、Web3、分散型自律組織 (DAO)、およびグローバル・マネジメントへのそれらの影響に関連するトピックも取り上げます。

### 【到達目標】

1. バイオ医薬品産業とその世界的な経営課題について深い理解を深める。
2. AI テクノロジーがグローバルな経営と意思決定プロセスに及ぼす影響を調査する。
3. 運用ワークフローの管理における知識と経験の重要性を理解する。
4. イノベーターのジレンマとそれがグローバル組織に与える影響を分析する。
5. グローバルなビジネスエコシステムにおける小規模組織と社会起業家の重要性と可能性を認識する。
6. Web3 と分散型自律組織 (DAO) の概念と、グローバル・マネジメントに対するそれらの影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

このコースでは、講義、ケーススタディ、グループディスカッション、業界専門家によるゲスト講義を組み合わせ実施します。理解と批判的思考を高めるために、実例と実践的な応用を重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週目	グローバル経営とバイオ医薬品産業の紹介	1. グローバルな事業環境 2. 現在の業界動向 3. バイオ医薬品産業
2週目	グローバル経営におけるAI技術	1. LLM (Large Language Models) 2. AI Agent 3. AGI (Artificial General Intelligence) 4. ASI (Artificial Superintelligence)
3週目	バイオ医薬品産業の最先端のトレンドと手法: パート I	1. 運用ワークフローに関する知識と経験
4週目	バイオ医薬品産業の最先端のトレンドと手法: パート II	1. イノベーションのジレンマとグローバル組織に与える影響
5週目	グローバル経営における最先端の意思決定手法: パート I	1. グローバル経営における小規模組織 (スタートアップ) とコミュニティの重要性

6週目	グローバル経営における最先端の意思決定手法: パート II	1. 世界のビジネス環境における社会起業家精神
7週目	グローバル経営における最先端の意思決定手法: パート III	1. web3 / 分散型自律組織 (DAO) の概要とグローバル管理への影響

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は各授業の前に、指定された関連記事、事例研究、研究論文を読むことが求められます。また、コースのトピックに関連するオンラインフォーラムやディスカッションに積極的に参加することも求められます。

### 【テキスト (教科書)】

1. The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail - by Clayton M. Christensen
2. Lead and Disrupt: How to Solve the Innovator's Dilemma - by Charles A. O'Reilly III and Michael L. Tushman
3. Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know - by David Bornstein

### 【参考書】

コース全体を通じて、バイオ医薬品産業における AI、DAO、Web3 テクノロジーなどの関連トピックに関する追加の読み物や参考資料を適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は授業への参加 (30 点)、グループプロジェクト (20 点)、フィールドワーク (20 点)、最終レポート (30 点) に基づいて決定されます。

### 【学生の意見等からの気づき】

グローバル企業を運営する実際の事例から実学を学べるように努めたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

学生用のラップトップ/タブレットは、BYOD (Bring Your Own Device) として準備する必要があります。

### 【その他の重要事項】

このクラスは、大手/中規模/中小企業、スタートアップ、コミュニティ、中央政府/地方自治体、病院、大学/研究機関などのあらゆる組織を対象としています。

### 【Outline (in English)】

This course aims to provide a comprehensive understanding of global management practices in the biopharmaceutical industry and the impact of emerging technologies, such as AI, on organizations. Students will explore the importance of knowledge and experience in current operational workflows, the challenges posed by the innovator's dilemma, and the significance of small organizations and social entrepreneurship in the global business landscape. Additionally, the course will cover topics related to web3, Decentralized Autonomous Organizations (DAO), and their implications for global management.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## コミュニケーションマネジメント

Communication Management

浦上 早苗 [Sanae URAGAMI]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「役員は日経とWBSに取り上げられたがるけど、学生は全然見えないので人事からは採用のためにウェブでの露出を強化してほしいと言われる」「YouTuberから取材依頼が来たけど対応が分からず断った」

企業の広報責任者からこんな悩みを聞くことが増えました。情報発信のツールやメディアが多様化し、インフルエンサーやYouTuberに代表されるように、個人やスタートアップができるマーケティング活動も広がっています。一方、情報が瞬時に拡散し、残り続ける社会にあって、情報発信のリスクもかつてなく高まっています。

講義では新聞、テレビなど旧メディアからSNS、動画プラットフォームといった新興メディアを介した情報発信の全体像を知り、世の中に流れている情報がどのような意図でピックアップされているのかを、実際のケースを基に学び、各自のビジネスへの活用を目指します。メディアリレーションとSNS運用の比率を1:1で扱う予定です。

### 【到達目標】

- ・情報発信に関係するプラットフォーム全般に対する知識を得て、発信したい情報に応じた適切な手法を選択できることを目指します。
- ・特に小さな企業、スタートアップにおいては、経営者の発信能力が、商品販売、サービス展開だけでなく採用活動においても重要です。大手企業の広報担当部門が担う役割を1人でこなし、費用を抑えながら自社の情報を伝えるスキルを磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義にグループワークを組み入れます。プレスリリースの作成、記者レク実践などを予定しています。履修者にはSNSアカウントを開設し、数カ月間運用してもらうため、継続的に授業外での作業が発生します。広報業務における履修者の具体的な経験や疑問、反省を教材として取り上げるため、オリエンテーションでレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	オリエンテーション・メディア概論	新聞・雑誌からウェブメディア、ソーシャルメディアまで多様化するメディアの現状、講義の目的について概観します。

3,4	メディアを通じた情報発信 プレスリリースグループワーク	自社の情報を発信する際には、その内容だけでなく、時期、ビジュアル、経路(レクをするかプレスリリースを投げ込むか、ツテをあたるか、オウンドメディアを使うか)など、さまざまな要素を考慮することで、効果を大きくできます。具体的なノウハウを実例を交えて説明します。
5,6	SNSを通じた情報発信 プレスリリースグループワーク	Twitter、インスタグラムなど利用者の傾向、企業の活用方法などについて学びます。
7,8	広報の役割 プレスリリース演習	企業の広報担当者は、社内と社外とのコミュニケーションをつなぐ重要な役割を担います。組織内における位置づけや、多様化している広報の業務、情報発信から逆算した企画の作り方を考えます。情報発信の手段として最も一般的なのが「プレスリリース」の公開です。実際に作成し、学生間で講評します。
9,10	リスクマネジメントと情報発信 プレスリリース演習	ネット社会においては、自社が悪いことをしていても、社会問題が飛び火し、炎上するケースが後を絶ちません。自分たちが炎上の当事者となったとき、風評被害を受けそうなどの対処法を学びます。
11,12	ゲスト講師による講義 プレスリリース演習	インスタグラムやTwitterなどSNS投稿をAIで分析するツールを開発している企業の担当者を引き、大量の文書データから知見を得る「テキストマイニング」の手法を説明いただきます。テキストマイニングは政治家の所信表明分析やアマゾンのレビュー分析などさまざまな場面で活用されているほか、学術研究で使う人もいます。
13,14	謝罪会見、振り返り	対面授業の場合は、記者・企業側に分かれ謝罪会見をします。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

SNS時代になり、企業や著名人のちょっとした発言・投稿が炎上したり、10年前は誰も気に留めていなかった事象が「不祥事」として掘り起こされるなど、発信の効果とリスクは絶えず変化を続けています。企業側も学習し、対策を取っているのですが変化の方が速く、100%の先回りや対策はできないのが現状です。

学生の皆さんもニュースを見て「なぜこんなに叩かれるのだろう」「どうしてこの会社ばかり取り上げられるのだろう」「わが社の広報体制は弱いのではないか」など、疑問に感じていることがあると思うので、授業の時間にこれまで以上に意識して「情報」に接し、講義で積極的にシェアしてください。

また、最近は情報拡散とSNSが切っても切り離せないことから、講義期間中はSNS(Facebook除く)の運用を必須とし、期末の成績にも反映します。

リリースの作成や記者レクの準備など、授業時間外の宿題に相当する作業が数回発生します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

実際のニュースを題材にすることが多いので、講義期間中にその都度指定します。

### 【参考書】

参考書は指定しませんが、課題をやり遂げるために広範囲の情報収集が必要になります。企業広報をゼロから学びたい方は「ひとり広報」(同文館出版)がお勧めです。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30点（欠席・遅刻・早退の取り扱いは講義冒頭で説明します。出張などでやむをえず欠席する際は、レポートや発表によって授業の一部を代替することがあります）

SNSの運用：40点。本講義を担当して6年目になりますが、年々情報拡散におけるSNSの果たす役割が大きくなっており、その割には企業の意思決定層のキャッチアップが追い付かず、対応が後手に回ったり炎上するケースが後を絶ちません。実践力を身に着けるために、Twitter、インスタグラムなどのアカウントを作成し（既存アカウントの利用も可）、テーマや目標を決めて運用し、最終発表（レポート）を行います。

授業時の課題30点：プレスリリースの作成、謝罪会見

**【学生の意見等からの気づき】**

「情報発信」という概念が非常に広く、日々変化している領域のため、毎年学生の興味関心のばらつきが大きく、初回の授業の後にレポートを書いてもらい、2回目以降の講義を組み立てています。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題の作成においてPCなど入力機器が必要です。

**【その他の重要事項】**

グループワークの発表回数など、履修生の人数によって調整があるため、各回の構成やゲスト講師の招聘回が変更される可能性があります。

広報機能が薄い中小企業、スタートアップの社員、起業を目指している人、個人事業主などを履修生として想定しています。

実践・実務寄りの講義であるため、PRやブランディングの実務経験がある方とそうでない方で知識量に大きな差があることを踏まえ、その年の履修生の構成、バックグラウンドによって講義の重点を調整しています。初回に参加した上で履修登録するかを判断してください。

**【Outline (in English)】**

Learning how to communicate with consumers.

We have been hearing more and more of these concerns from corporate PR staff.

While PR opportunities are expanding for individuals and start-ups that previously had no contact with the mass media due to the diversification of information transmission tools and media, the skills that companies and CEOs demand of PR personnel are expanding, and the burden on PR staff who have to deal with multiple media is increasing.

In a society where a vast amount of information flows from old media such as newspapers and TV to SNS and video platforms, participants will learn the current situation and methods surrounding information dissemination in order to effectively utilize the media while preparing for new risks.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## ヘルスケアマネジメント

Health Care Management

山田 敦弘 [Atsuhiko YAMADA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 1. 授業の目的

本講座では、「ヘルスケア×まちづくり×エコシステム (持続的に循環する仕組み)」の視点を重視しながら、ヘルスケア分野における課題解決策を自ら創出していくためのノウハウや考え方を学んで行く。我が国の高齢化は、急速に進んでおり、厚生労働省の「今後の高齢者人口の見通しについて」によると2025年には30%を上回り、これに伴い疾病の増加も予測されている。厚生労働省の「医療費の将来見通し」によると、2025年には54兆円を超え、2035年には69兆円にも達すると予測されている。このような状況の中で、財政面に加えて、個人の生活の質の向上の観点からも、健康増進や予防 (発症抑制、早期発見など) が益々重要な取り組みとなる。加えて公的保険外サービスにおいて、個人や企業などが健康増進や予防へ取り組むことが盛んになっている。このようなヘルスケア産業市場の規模は、2016年に約25兆円だったものが、2025年には約33兆円になると推計(経産省調べ)されている。

また、近年の技術開発の進展は目覚しく、体温や血圧の測定だけではなく、血中酸素度、心電図、メンタルの状況などが簡単に測定できるデバイスやツールが開発されていることや、循環器疾患や認知症の将来予測など、AI技術等を活用した検出手法などが開発されている。

他方、いくら技術が発展しても、それを多くの方が適切・効果的に利用し、また持続的に継続できなければ、健康課題の解決には繋がらない。利用者の置かれている環境に合わせた提供方法の確立、自治体や企業などのステークホルダーとの連携など、まちづくりに融合・親和することがなければ、解決策としては期待できない。本講座では、これらのヘルスケアを巡る多岐にわたる要素・要因を勘案し、「ヘルスケア×まちづくり×エコシステム (持続的に循環する仕組み)」の視点を重視しながら、医療・保健・福祉にかかるサービスを提供する仕組みを構築・運営することをヘルスマネジメントと定義し、その知見を深め、何らかの実践に繋げることを目指す。

なお、本講座では、ヘルスケアマネジメントを広義に捉えており、医療・保健・福祉に精通している方も、していない方も、一緒に学んで行く場としたい。

#### 【到達目標】

本講座の到達目標は、ヘルスケアマネジメントに関して、「事例を整理・分析するスキル」、「ケーススタディでディスカッションするスキル」、「事業企画書を作成するスキル」の3つのスキルを習得することである。これらはMBAレベルのヘルスケアマネジメントのスキルとして不可欠と考える。具体的には以下である。

- ①「事例を整理・分析するスキル」では、一定のフォーマットに準じて事例を整理・分析し、コンパクトにわかりやすく人に伝えること。
- ②「ケーススタディでディスカッションするスキル」では、各個人がケーススタディについて、コンパクトに分析した内容を持ち寄って人とディスカッションすること。
- ③「事業企画書を作成するスキル」では、定められた項目 (視点) について触れながら、事業企画書を作成する。事業企画書は、クラス発表、ディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業については、基本的に対面に実施し、ディスカッションを織り交ぜながら進める。履修証明プログラムの学生、ならびにリアルを受講が難しい学生についてはウェブ受講も選択肢のひとつとする。開講時に講師に相談されたい。本講座においては、ヘルスケアマネジメントを主題としているが、それらに関連する国、自治体、企業などの動向や知見についても併せてテーマとして取り上げる。

また、事例調査及び事業企画書作成については、講座時間外で準備していただき、発表及びディスカッションを行うことを予定している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	第1回9月25日水曜日 アイスブレイク ヘルスケアマネジメントについてのイメージ合わせ	講師から長めの自己紹介と本講座の目指すべき方向性の説明を行います。 学生からの自己紹介もお行います。 ・米国MBAヘルスサービスマネジメントの概要 ・ヘルスケアを取り巻く環境 ・ケーススタディの進め方
3-4	第2回10月2日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(1) ・地方自治体の役割 ・ケーススタディ実践(1)	・ヘルスケアビジネスの事例紹介及び作成方法の説明 (講師からの紹介) ・医療・保健・福祉サービスにおける地方自治体の役割 ・チームに分かれてケーススタディの実施(1)
5-6	第3回10月9日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(2) ・事業企画書作成の進め方 ・地域支援事業の事例 ・ケーススタディ実践(2)	・ヘルスケアビジネスの事例紹介 (学生から紹介) ・ビジネスモデルの事業企画書の作成方法についての説明 ・地域支援事業 (地域福祉事例の紹介) ・チームに分かれてケーススタディの実施(2)
7-8	第4回10月16日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(3) ・事業企画書相談会 ・ビジネスモデル事例の紹介(3) ・事業企画書相談会 ・米国医療サービス概要 ・ケーススタディ実践(3)	・ヘルスケアビジネスの事例紹介 (学生から紹介) ・サービスモデルの事業企画書の作成方法についての説明 ・地域支援事業 (地域福祉事例の紹介) ・チームに分かれてケーススタディの実施(3)
9-10	第5回10月23日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(4) ・スマートシティ×ヘルスケア ・事業企画書中間報告	・ビジネスモデル事例の紹介(4) ・スマートシティの取り組み概要とヘルスケアサービスとの関連性 ・事業企画書中間報告 (発表、意見交換)
11-12	第6回10月30日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(5) ・ケーススタディ実践(4) ・事業企画書相談	・ビジネスモデル事例の紹介(5) ・ヘルスケアビジネスの事例紹介 ・事業企画書相談 ・チームに分かれてケーススタディの実施(4)
13-14	第7回11月6日水曜日 ・事業企画書発表会 ・講座の最後に伝えたいこと	・クラスを企画会議と見立てて、事業企画を発表し、全員でディスカッション ・7回の講座を通して伝えたかったことを解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1から2回程度のミニ調査を宿題として提出・発表依頼する。また、サービスモデルの事業企画書を各自にて準備し、最終日に発表する。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。参照すべきインターネットサイトなどについては、随時、授業内にて伝える。

**【参考書】**

特になし。参照すべき文献などについては、随時、授業内にて伝える。

**【成績評価の方法と基準】**

クラスへの貢献度（出席、発言、材料提供）及び提出課題を評価対象とする。割合については概ね以下を想定している。

出席 30%

発表 40%

ディスカッション 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面、メール等で、随時改善点、希望などを募集。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマホやパソコンは必須。プレゼンテーションできるアプリケーションも必要。

**【その他の重要事項】**

なし

**【Outline (in English)】**

**【Course Outline】**

In this course, you will learn the know-how and ways of thinking to create your own solutions to problems in the healthcare field. And also, we will learn Community Development and Ecosystem (sustainably circulating system) that are strongly related to healthcare.

**【Leading Objectives】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1: Organize and analyze business cases in Health care management
- 2: Manage case study discussion in Health care management
- 3: Write a business plan in Health care management

**【Learning active outside of classroom】**

One or two mini-surveys will be presented as homework. In addition, each participant will prepare a business plan for the service model and present it on the final day.

**【Grading Criteria/ Policies】**

Contribution to the class (attendance, remarks, provision of materials) and submitted assignments will be evaluated. The following ratios are generally assumed.

Attendance 30%, Presentation 40%, Discussion 30%

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## コンテンツビジネス論

Multi-use Content Business Strategy

岩崎 達也 [Tatsuya IWASAKI]

単位数：2単位

学期：秋学期集中/Intensive(Fall)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

DX化が進む現在のビジネス環境下では、コンテンツビジネスの展開も大きく変わってきている。メディアの受け手である生活者は、コンテンツをさまざまなデバイスで受け取り、さらに創作して発信するなど一つのメディアとして機能している。近年のアニメコンテンツの大ヒットも、戦略的なメディアミックスによるところが大きい。生活者参加のコンテンツ消費の時代には、どのようなコミュニケーション戦略、マーケティング戦略をとればよいのか、時代の捉え方やマーケティング理論、さらにメディアとコンテンツについて、毎回テーマを決め講義を行う。さらに、アニメ、映画、スポーツ、TVなどの様々なコンテンツビジネスの現状を説明し、学術的な理論と実務的な手法を教授することで、使える知識としていく。また、アニメ聖地巡礼などコンテンツによる地域誘客や地域ブランディングなどについても講義する。

### 【到達目標】

代表的なメディアの思想やメディアの受け手について学ぶ。また、ドラマ、アニメ、映画、音楽など、コンテンツビジネスの現状を把握し、変化が著しい市場を分析するために、マーケティングやブランディングの基本についても理解する。コンテンツビジネスにおいては、各ジャンルの特性を学び、広告、PR、SPなどを活用したコミュニケーションデザインができることまでを到達目標とする。また、コンテンツを通じた地域振興やコンテンツツーリズムについての現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義全体を通して、第1部から第3部まで、以下のような流れになる。第1部:「メディアを理解する」新たなものを生み出す発想 (1・2回)、メディアの思想とメディアの受け手 (3・4回)、コンテンツビジネスの実際について外部講師による講義 (5・6回)、第2部:「マーケティング理論とコンテンツ、マーケティング・コミュニケーション」マーケティング1.0から5.0、コンテンツ・マーケティングと物語論 (7・8回)、マーケティング・コミュニケーション (9・10回)、スポーツマーケティング (11・12回)、第3部:「地域とコンテンツ」コンテンツによる地域誘客と地域ブランディング (13・14回)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス (授業の進め方) ・自己紹介	授業への臨み方。授業の進め方。採点方法。
2	・企画立案手法、コンセプトワークの手法。	企画立案の際にもっとも重要である新たな切り口や発想の仕方などを学ぶ。
3	メディアとは。その歴史と思想	メディアコミュニケーションの歴史と基本的なメディアの思想を学ぶ。ベンヤミン、マクルーハン、ブーアスティンなどを理解する。

4	メディアとコミュニケーション	メディアとコンテンツの実際をより具体的に感じ、身に付けてもらう。
5	テレビの歴史と今後の展開 (1) ゲスト講師による講義。	テレビ局員によるテレビの過去、現在、未来。
6	テレビの歴史と今後の展開 (2) ゲスト講師による講義の後、岩崎解題。	テレビビジネスと多角的展開。テレビは、どう生きるべきか。
7	コトラーのマーケティング1.0から5.0までを学ぶ。	時代とともに、マーケティング理論も変化してきたが、コトラーのマーケティング理論の概要を1.0から5.0までを理解する。
8	コンテンツ・マーケティング	コンテンツの解釈と生成を学ぶ。また、コンテンツにおけるメディアミックスなど、マネジメント手法を学ぶ。
9	広告概論 (時代と広告の変容)	広告の考え方。実際の広告事例をあげて仕組みを説明する。
10	マーケティング・コミュニケーション (広告、SP、PR、OOH)	新しい広告の傾向から刺さるマーケティング・コミュニケーションを学ぶ。受賞広告を分析して新たな広告の方向を探る。
11	スポーツのスポンサー	スポーツコンテンツをビジネスの視点で理解し、マネジメントを学ぶ。
12	オリンピックとFIFAワールドカップ	オリンピックとFIFAワールドカップの変遷をビジネス視点で捉え、今後のあり方についても探索する。
13	地域ブランドの概念とブランドストーリーのつくり方	地域も資源の伝達だけではその魅力は伝わらない。物生成生成と、地域のブランド力を上げる方法を学ぶ。
14	コンテンツツーリズム	ドラマ、アニメ、映画の舞台へのツーリズムが盛んである。アニメ聖地巡礼を事例として、巡礼者の分析と地域施策について学ぶ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最近の企業の情報伝播の手法や新たなコンテンツビジネスの台頭などを注視しておいてください。また、地域はコンテンツを活用したツーリズム (アニメ聖地巡礼やドラマツーリズムなど) やメタバースを活用した地域体験など、さまざまな施策を実施しているが、各地域の施策など事前の情報を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しないが、講義によっては、下記【参考書】の内容を用いて説明する。

### 【参考書】

岩崎達也『実践メディア・コンテンツ論入門』慶応義塾大学出版会  
岩崎達也・小川孔輔編著『メディアの循環 伝えるメカニズム』(生産性出版)  
岩崎達也・高田朝子『本気で地域を変える-地域づくり3.0の発想とマネジメント』(晃洋書房)  
岩崎達也『日本テレビの1秒戦略』(小学館新書)

### 【成績評価の方法と基準】

最終レポート(50%)、出席とクラスでの議論(50%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

座学を中心とした講義であるが、毎回の講義テーマにおけるディスカッションをしたい。受講生たちも、社会人としてそれぞれの道のプロである。特に、デジタルメディアに関しては、多くの知見をもつ受講生もおり、それが講義をより豊穡なものとしてくれるはずである。活発な意見交換によって、授業を双方向の議論の場としたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

**【その他の重要事項】**

メディアおよびコンテンツの状況は、社会の変化とともに日々変化しており、最新の情報を加味していくため、内容を変更する可能性がある。また、講義のテーマが授業の流れによって前後、追加、省略する場合がある。

・外部講師による、メディアおよびコンテンツマネジメントの講義を予定している。

**【Outline (in English)】**

In the current business environment where digital transformation is advancing, the way of developing the content business is also changing drastically. Consumers, who are the recipients of media, receive content on various devices, create it, and send it out, functioning as a single medium. The big hit of "Kimetsu no Yaiba" is also largely due to the background of this era and the good use of media. In the era of content consumption with consumer participation, we will give lectures on what kind of communication strategy and marketing strategy should be taken, how to grasp the era, marketing theory, media and content every time. Furthermore, by explaining the current state of diversifying content businesses such as animation, movies, sports, and TV, and teaching academic theory and practical methods, we will use it as knowledge that can be used. In addition, lectures will be given on regional attraction and regional branding through content tourism such as pilgrimage to anime sacred sites.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 中小企業総合経営論 I

General management for small and family companies I

並木 雄二 [Yuji NAMIKI]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

全社的な経営診断を踏まえ、経営戦略の策定、経営課題の抽出、課題解決を目指した実行計画策定という一連の経営戦略診断プロセスを学ぶことにより、中小企業経営について総合的かつ実践的な指導、支援、アドバイスができるスキルを修得する。

全社的に経営診断を実施するという想定で、検討の材料は可能な限り、経営を俯瞰的に把握できる定性的情報(経営者、社員へのインタビュー報告等)、定量的情報(財務、販売、生産、モラルサーベイ等)を盛り込んだ内容とする。

### 【到達目標】

1. 経営戦略を策定するため必要となる分析を絞り込み、的確な分析ができること。
2. 中小企業経営の特性を踏まえ、中期経営計画を策定するための基本戦略と戦略オプション(戦略候補、戦略代替案)を提案できるスキルを修得していること。
3. 経営戦略を推進するための2~3つの重要課題について、具体的かつ実践的な提案ができるスキルを修得していること。
4. 重要課題の解決策の1つとして、中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得していること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

中小企業経営への総合的な指導、支援、アドバイスができるため、実際の企業の経営診断を行い、それに基づいて経営戦略、また施策活用も含めた経営戦略の実行対策について提案を行う。  
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中小企業概要	中小企業の現状と中小企業政策の動向などをマクロ的な理解を行う
2	外部環境分析、内部資源分析 演習(実習)	全社的かつ総合的に、経営の現状分析、戦略形成のための分析の進め方を学ぶ。経営の現状分析について企業事例の演習を行う。
3	中小企業と経営理念	経営理念の重要性と浸透させる方法、また経営課題を抽出する進め方を総合的に学ぶ。
4	経営理念と経営計画(実習)	経営理念について基づいて経営計画策定の企業事例の演習を行う。
5	経営課題の抽出と重点化	経営課題の抽出と重点化の手法を学ぶ。
6	経営課題の抽出と重点化演習(実習)	経営課題の抽出と重点化について企業事例の演習を行う。

7	中小企業の事業承継	ゲスト講師による事例などにもとづいて解説を行う
8	ゲスト講師事例の討議とまとめ	事例を含めて具体的な討議を行う
9	中小企業施策の活用	中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得する。
10	中小企業施策の活用事例	中小企業施策の活用事例の実際を学ぶ。
11	中小企業の情報化とセキュリティ対策	中小企業の情報化の課題と実際の対応策を学ぶ
12	中小企業支援事例	実際の支援事例から中小企業経営を学ぶ
13	発表評価	発表に基づいて評価点、改善点を説明する。
14	まとめ	中小企業の経営及び経営診断の体系を理解する

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義時間以外のグループワーク、フィールドワークが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定なし

### 【参考書】

特に指定なし

### 【成績評価の方法と基準】

講義、グループワークへの貢献度 60%  
発表、報告書の評価 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【その他の重要事項】

#### 【オフィスアワー】

授業開始前または終了後に質問を受け付けます。  
そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問等を受け付けます。

#### 【受講要件】

実務経験3年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

#### 【Outline (in English)】

learn comprehensive and practical guidance on SME management, by learning a series of management strategy diagnosis process such as formulation of management strategy, extraction of management tasks and implementation plan aiming at problem solving. Learn the skills that you can give advice and advice.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 中小企業総合経営論Ⅱ

General management for small and family companies Ⅱ

都丸 孝之 [Takayuki TOMARU]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ものづくり中小企業の多くが、顧客視点で新製品やサービスなどを創り出し新しいビジネスに繋げることができないという課題を抱えている。そこで本講義では、ものづくり中小企業の経営課題を理解しながら顧客視点で新しい製品、サービスをつくりあげ、ビジネスとして実現可能かどうか収益性の検証を行います。特に、ものづくり企業のもつ生産技術や加工技術などの強み、さらには企業間ネットワークを活用した新製品やサービスの提案も試みます。

### 【到達目標】

顧客のニーズ・課題を分析し、新しい製品・サービスなどを積極的に提案できる力を身につけます。提案した製品やサービスがビジネスとして成立するかどうか検証するための方法論を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義では新製品やサービスなどのビジネスを創出する上での方法論を演習を通じて解説します。各回で学んだ方法論を活用し、新たなビジネスの提案を行うプロジェクト型の講義スタイルとなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	顧客ニーズの分析と製品企画	QFD(Quality Function Deployment)を用いた製品企画
第2回	顧客価値連鎖分析	CVCA(Customer Value Chain Analysis)を用いたステークホルダーのニーズ・課題分析
第3回	新製品・サービスのアイデア創出1	マトリックス法
第4回	新製品・サービスのアイデア創出2	構造シフト発想法
第5回	新製品・サービスのアイデア創出3	オズボーンのチェックリスト、モホロジカル分析
第6回	新製品・サービスのアイデア創出4	バリュエグラフ、シナリオグラフ
第7回	リーンキャンパス	リーンキャンパスを用いたビジネス全体像のスケッチ
第8回	プロトタイプ1	プロトタイプの事例紹介。プロトタイプの演習
第9回	プロトタイプ2	ダーティープロトタイプングの演習
第10回	ビジネスリスク	FMEA (Failure Mode Effect Analysis) を用いたビジネスリスク洗い出し
第11回	ビジネスの収益性検証1	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証 (講義)
第12回	ビジネスの収益性検証2	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証 (実践)
第13回	ビジネス提案1	チーム発表 担当教員によるまとめ

第14回 ビジネス提案2 チーム発表  
担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、講義で学んだビジネス創出の方法論を活用し、チーム協業で課題を実施していただきます。チーム課題の作業時間の目安は2時間です。

### 【テキスト (教科書)】

毎回講義資料を配布します。

### 【参考書】

- ・前野隆司ら「システム×デザイン思考で世界を変える」日本経済新聞出版、2012年
- ・Krista M. Donaldson, Kosuke Ishii, Sheri D. Sheppard, Customer Value Chain Analysis, Research in Engineering Design, Volume 16, Issue 4, pp 174-183,2006.
- ・石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社、2022年
- ・土井秀生「DCF企業分析と価値評価」東洋経済新報社、2001年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・チーム課題 (40%)、チーム活動の貢献度 (30%)、チームの最終発表 (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮します。
- ・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワークに用いる、演習シートをオンライン上でアクセスしていただくため、パソコンが必要となります。

### 【その他の重要事項】

チーム協業のプロジェクト形式ですので、チーム活動に必ず参加してください。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行います。

### 【Outline (in English)】

Many small and medium-sized enterprises (SMEs) face the challenge of creating new products and services from the customer and business needs. In this course, students will create new products and services based on customer needs while understanding the business challenges of small and medium-sized companies, and make business proposals. In addition, Students will also attempt to propose new products and services that take advantage of the processing technology of SMEs and their inter-company networks.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## リテール・マネジメント

Retail Management

並木 雄二 [Yuji NAMIKI]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

リテールマネジメントは、従来の商業・経営学的なアプローチをベースにしながらも、現在の小売業に求められる最新経営実務や流通業務を革新する手法を学ぶ。流通を取り巻く経営環境が激しく変化している状況を見据え、フィールドを顧客の視点から分析し、支援者や実務家の立場で問題解決していくことを志向する。実際の実務事例を多く取り入れながら、流通の業務を革新できるプロフェッショナルを教育する。

### 【到達目標】

流通企業の経営診断についての知識を習得し、中小小売店舗などを改善できる実践的な視点とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ゲスト・スピーカーによる講義も入れ、実務の実際に合わせた知識も習得する。グループワークで課題解決に取り組み、最終回に発表する。発表は外部の方も参加し評価する。2回連続のため、講義回数は7回である。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リテールマネジメントの概要	小売業経営の理解と小売業診断スキルについて学ぶ。
2	小売店経営の現状と課題	日本の小売業の現状を業態別、組織別に分析し、今後の小売店経営に求められる機能を学ぶ。
3	店舗生産性向上を高めるメカニズム	小売店の売上高、利益の構造を理解し、客数、客単価を向上させる技術を理解する。
4	店舗レイアウトとスペースマネジメント	店舗レイアウトの理論や実例を学び、効果を高めるスペースマネジメントの手法を理解する。
5	流通の最新事例・統合マーケティングと組織マネジメントの成功事例・プロモーション改革・原材料江東の中での価格戦略	大手流通企業のマーケティング責任者をゲストに迎えて最新事例の解説を行う
6	最新事例の討議	上記事例について学び、討議を行う。
7	チェーンストアシステムと店舗運営原則	運営の基本的な技術と顧客満足度を高めるQSCの改善方法を学ぶ。
8	ケース3	顧客満足度を高める事例について学び、討議を行う。

9	流通情報システムと活用	POSデータとマーチャンダイジングシステムなどの技術とそれらを用いた診断や改善方法を学ぶ。
10	ケース4	流通情報システムの事例について学び、討議を行う。
11	店舗経営診断と改善指導の技術	流通企業の経営診断の事例から経営診断、経営改善指導の取り組みの考え方や手順を理解する。
12	ケース5	組織形態や規模、業種ごとの改善指導のポイントを学ぶ。
13	課題グループ発表、	グループごとに課題発表を行う。評価者は外部流通企業などからお招きすることもある。担当教員によるまとめ
14	課題グループ発表	各グループの評価を行うとともに優秀グループを選出する。担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義時間以外にフィールドワークとグループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業中に適宜配布をする。

### 【参考書】

「スーパーバイザーの実務」(商業界)

他は授業中に適宜指示をする。

### 【成績評価の方法と基準】

授業テーマの取り組みと授業貢献 (60%)、課題の取り組みと発表 (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心によってゲストスピーカーを調整したい。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー

前期は水曜日12時40分～13時30分

他は随時アポイントをお願いします。

### 【受講要件】

実務経験3年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

### 【Outline (in English)】

Retail management learns how to innovate the latest management practices and distribution operations required for the current retail industry, based on traditional commercial and business approaches. Looking at situations where the business environment surrounding distribution is undergoing drastic changes, we analyze the field from the customer's point of view, and intend to solve problems from the standpoint of supporters and practitioners.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## MBA特別講義 (マクロ経済と人材経営)

Topics from Master of Business Administration

山田 久 [Hisashi YAMADA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デジタル技術の革新やグローバルな経済関係の変化が進展し、地球環境問題への危機感が高まるなか、企業経営を取り巻く環境は複雑化し、変化のスピードも加速しています。それは顧客、資金提供者、従業員、地域社会などステークホルダーと企業の関係が大きく変化していることを意味し、その変化を的確に捉えることで、新たなビジネスチャンスを掴むことができそうです。そうした認識のもと、「プロジェクト」を推進するにあたって有益な知見を様々な角度から提供すべく、本授業では、「経営環境 (マクロ環境) — 経営戦略 — 経営資源 (人材)」という三層構造のなかに企業活動を位置づけたうえで、人材面に焦点を当てつつ企業と各ステークホルダーとの関係変化を多角的に取り上げ、複雑化する経営の課題とそれへ対応について考えていきます。事業環境の先行きを読むのに不可欠な、マクロ的な視点を取得することも目指します。

### 【到達目標】

グローバル規模で生じている経営環境変化の方向性を大掴みしたうえで、「コスト競争」ではなく、「イノベーション競争 (付加価値競争)」を選択することの必要性を理解し、短期的な動向に惑わされることなく、長期的な展望に立って考えていく能力や姿勢を取得することを目標とします。とくに、人材面からのアプローチを中心に講義します。同時に、マクロ的な視点にもとづき、物事を大局的につかむ能力の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義と討議を組み合わせる形で行います。2コマ単位で進め、3コマ目以降、事前に出題されるテーマに関連した設問について、各人の意見を発表してもらったうえで、関連した講義を行います。その後、グループ討議を経て、テーマに関する考えを深めていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション —マクロ・経営・人材	マクロ的な見方とは、三層構造で見ることの意味合い
1	企業経営を取り巻くマクロ環境の変化	これからの企業経営・事業創造にとって重要なマクロ環境は何か、これにどう対処するか
2	事業戦略とプライシング戦略 (1)	低価格戦略の有効性と限界を整理し、値付け戦略を考える
2	事業戦略とプライシング戦略 (2)	平均単価を引き上げるために求められる経営戦略は
3	コーポレートガバナンス論 (1)	コーポレートガバナンスとは何か、日本の企業統治の特徴は
3	コーポレートガバナンス論 (2)	経営者に求められる資質とは、企業統治と労働組合
4	労働市場の日米欧比較からみた人材マネジメントの方向性	日米欧の労働市場の違いは何か、日本の人事の歴史

4	労働市場の日米欧比較からみた人材マネジメントの方向性	働き方改革の理想と現実、今後の人材マネジメントの方向性は
5	働き方の未来 (1)	雇われない働き方 (起業とインディペンデントコントラクター)、デジタル革命の影響
5	働き方の未来 (2)	良い兼業・悪い兼業、生涯現役を実現するための条件は
6	グローバル経営と人材活用 (1)	経営のグローバル化にどのような課題があるか
6	グローバル経営と人材活用 (2)	外国人材の能力を引き出す組織・人材マネジメントとは
7	C S R 論 (1)	企業経営と社会問題のかかわり、企業の社会的責任は何か、それはなぜ必要か
7	C S R 論 (2)	C S V の考え方は、社会的事業のベストプラクティス

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

2コマ単位で進めます。事前 (前回) に出題される、テーマに関連した設問について、各人の意見をまとめてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義資料を毎回配布します。

### 【参考書】

拙書『市場主義3.0』東洋経済新報社、『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社、のほか、講義中に適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

①出席および討議参加への積極度 (50%) と②期末レポートおよび小テスト (50%) で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

経済学部出身者以外にもマクロ経済を知ることの有用性が分かってもらえるよう、具体的なエピソードを交えながら解説することを心掛けます。

### 【その他の重要事項】

一部テーマが「人的資源理論Ⅱ」とかぶりますが、異なる角度からアプローチします。

### 【Outline (in English)】

Business circumstances have been changing drastically during over the past 2 or 3 decades, which means the relationships of companies with stakeholders, such as customers, lenders, employees and local communities are changing. The objectives of this lecture are providing students with better understandings about new relationships with stakeholders, as well as acquiring macro-economic views to prospect the future.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## サービスマネジメント

Service Management

齋藤 隆行 [Takayuki SAITO]

単位数：2単位

学期：秋学期集中/Intensive(Fall)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デジタル社会の進展により産業の主役は、製造業からサービス産業へ移行しつつある。また、商品においても有形財と無形財の垣根が曖昧になり、顧客ベネフィットを重視したビジネス展開が肝要である。企業は「デジタル社会で市場はどう変わったのか」を理解し、付加価値の高いサービス提供と自社の利益最大化を両立させることが大きな課題である。本授業の目的は、サービスビジネスの概念を理解しながら、デジタル社会におけるイノベーション創出に向けた実践的な方法論を習得することである。授業では、新たな概念として登場しているデジタル財やサブスクリプション、オムニチャネル、トリプルメディアなどの潮流に触れながら、企業が取り組むべきサービス・マネジメントの本質を探究する。(大企業・中小企業の両方向け)

### 【到達目標】

- ・サービス(無形財)の特徴やサービス・マーケティングの基本知識を習得する。
- ・サービス産業におけるイノベーション創出のプロセスを理解し、ビジネス企画力を習得する。
- ・サービスマネジメントに関する課題解決力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、単に知識を習得するのみならず、ビジネス実践力向上を目指す。そのため、授業は、講義とグループワークおよびディスカッション形式で進行する。グループワークでは、幾つかのケース学習を行い、理解促進を図る。また、サービス産業におけるイノベーションプランを企画・発表し、相互評価を行う。学生には、相互啓発志向を持って建設的な議論を行っていただくことを期待する。2回連続であり、授業日は7日間となる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル社会における市場の変化	・授業ガイダンス ・デジタル社会におけるビジネスの変化 ・自己紹介およびグループ編成
第2回	サービスとイノベーション	・サービスの特徴とサービス・マーケティング ・イノベーションの3類型(変革型・開発型・改善型)
第3回	プロフィット・ゴール・マネジメント	・プロフィット・ゴールの考え方 ・価値ある商品の条件(VGI)と7パターン(Vup7)
第4回	カスタマーリレーションシップ	・顧客満足とLTV(Life Time Value) ・顧客ニーズの類型 ・課題検討①(目標設定)
第5回	サービス・デザイン	・デジタル財、クラウドソーシング ・カスタマー・ジャーニーマップ

第6回	プロトタイプ設計	・サービス・コンセプト ・課題検討②(仮説立案)
第7回	プライシング	・ダイナミックプライシングとレベニューマネジメント ・サブスクリプションとは
第8回	営業戦略	・O2Oとオムニチャネル ・トリプルメディア戦略 ・課題検討③(仮説修正)
第9回	オペレーションマネジメント	・従業員のオペレーション力向上策 ・サービスマニュアルづくりのポイント ・課題検討④(営業戦略立案)
第10回	課題検討	・クレーム発生時の対応
第11回	クレームマネジメント	・クレームマネジメントのポイント
第12回	課題検討	・課題検討⑤(発表準備)
第13回	課題発表1	プレゼンテーションと相互評価
第14回	課題発表2	プレゼンテーションと相互評価

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

短期集中授業であることから、理解促進を図ることを目的に、毎回授業レポート(A4一枚)の提出を求める。その他にケース学習の予習、課題発表の準備等、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

適宜、資料を配布する。

### 【参考書】

齋藤隆行・福岡宣行・松尾泰・蔵田浩(2020)「プロフィットゴール・マーケティング」産業能率大学出版部

### 【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参画態度(発言の量と質) 20%
2. 授業レポート(量と質) 20%
3. 課題発表(グループ発表) 40%
4. 個人レポート(グループ発表を踏まえたレポート) 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業においてグループ討議が課題作成において有益であったことから、討議中心で授業を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン

### 【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to learn management in providing customers with services that are invisible intangible goods. While paying attention to differences from tangible goods management, we will consider how to provide intangible services to customers. The lecture is practical oriented that strongly considers providing knowledge that can be used in practice. In addition to understanding phenomena, we will focus on providing tools that can be used at the worksite.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 流通・マーケティング戦略論

Retail management and marketing strategy

岩瀬 敦智 [Atsutomu IWASE]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、主要な流通業（主に大規模小売業）のマーケティング戦略の概要、背景にある環境情報、マーケティング上の特徴を捉えた理論的枠組みを学習する。各主要流通業のマーケティングへの学びを深めることで、流通マーケティングへの視野を拡げ、流通業の未来の展開を分析し施策を構想できる実務能力を身につけることを目的とする。

### 【到達目標】

- (1)任意の流通事業者を取り上げ、その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を背景にある環境情報や理論的枠組みに基づいて説明できる。
- (2)その企業や事業がとるべき未来への方略を根拠を示しながら提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- (1)授業形態：各回、講義を主体として進め、講義中にグループ討議を織り交ぜながら進める。
- (2)授業内での発表：あらかじめグループを形成し準備を進め、最終講義にてグループごとにプレゼンテーションを求める。
- (3)最終課題：個人ごとにレポート提出を求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通マーケティング革新の勃興	ドラッカーの流通マーケティング研究への関与
第2回	流通マーケティング進化の変遷	American Marketing Associationの定義の変遷、コトラーの理論展開
第3回	流通・マーケティングの基礎	マーケティング・マネジメントの概念、マーチャンダイジングの概念、流通の3つの機能と関連理論
第4回	西洋・日本における商業近代化	西洋における近代小売商業の誕生、商業倫理の確立、チェーンストアによる流通革命、eコマースの台頭、デジタル破壊、日本の近代商業の発展経路
第5回	百貨店のマーケティング戦略研究	百貨店のリテールブランド戦略、百貨店のコミュニケーション戦略
第6回	スーパーマーケットのマーケティング戦略研究	スーパーマーケットの業務システム革新、スーパーマーケットのブランド力と業態認識
第7回	GMS(総合品揃えスーパー)のマーケティング戦略研究	GMS(総合品揃えスーパー)のマーケティングと経営戦略転換、GMSのグローバル戦略

第8回	コンビニエンスストアのマーケティング戦略研究	コンビニエンスストアの事業システム、コンビニエンスストアの創造的連続適応
第9回	ショッピングセンターのマーケティング戦略研究	ショッピングセンターの革新性と変容、ショッピングセンターのコミュニケーション戦略
第10回	製造小売業のマーケティング戦略研究	製造小売業モデルの経営革新、製造小売業のマーチャンダイジング戦略
第11回	オムニチャネル、小売DXに関する研究	ゲストスピーカーによる講演と担当教員による論点整理。オムニチャネル、小売DXの近年の動向
第12回	デジタル・プラットフォームのマーケティング戦略研究	通信販売と経営革新の展開、デジタル・プラットフォームがもたらす流通のディスラプション
第13回	グループ討議と担当教員による論点整理	グループごとの主要な流通業に関するマーケティング戦略の整理と未来への方略の検討 担当教員による論点整理
第14回	グループ・プレゼンテーションと担当教員によるフィードバック	グループごとの主要な流通業に関するマーケティング戦略の整理と未来への方略のプレゼンテーション 担当教員によるフィードバック

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1)本授業の準備学習・復習時間は各2時間を目安とする。
- (2)事前に指定するテーマについて情報収集・検討した上で講義に臨む。
- (3)グループによるプレゼンテーションの準備を行う。
- (4)グループによるプレゼンテーションを担当する回には資料を作成し事前提出する。
- (5)個人によるレポート作成を行う。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、講義資料を配布する。

### 【参考書】

- (1)矢作敏行『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版、2021年
- (2)渦原実男『流通・マーケティング革新の展開』同文館出版、2017年
- (3)その他は随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

- (1)講義時間中の議論への関与 (40%)
- (2)グループによるプレゼンテーションの質 (40%)
  - a)グループごとに任意に具体的な流通事業者を選定する。
  - b)その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を整理する。
  - c)その企業や事業について未来に向けた方略を検討する。
  - d)上記a~cを説明するための資料を作成する。
  - e)資料を活用しながら授業内でグループ・プレゼンテーションを行う。
- (3)個人によるレポートの質 (20%)
  - a)個人ごとに任意に具体的な流通事業者を選定する。  
※グループ・プレゼンテーションとの重複不可
  - b)その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を整理する。
  - c)その企業や事業について未来に向けた方略を検討する。
  - d)上記a~cについてレポートを作成し提出する。

### 【学生の意見等からの気づき】

- (1)グループディスカッションの時間の確保  
昨年度、議論による気づきが貴重だったという意見が複数あがったことから、引き続きグループディスカッションの時間を確保する。
- (2)実務家ゲストスピーカーの招聘  
昨年度、ゲストスピーカーが実践的で学びが多かったという意見があがったことから、引き続き実務家のゲストスピーカーを招聘する。

### 【学生が準備すべき機器他】

- (1)グループディスカッション時は、パワーポイントによる資料作成などPCを使用するため各自で準備を要する。
- (2)講義資料は、学習支援システムに掲示する。
- (3)課題提出は、学習支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

**(1)講義について**

・各回で流通業のマーケティングを捉えるためのマーケティングの知識を上げるため、マーケティング関連の他の授業で提示される知見との重複が発生する可能性がある。

**(2)教員の実務経験**

・大手百貨店での勤務経験の後、経営コンサルタントとして百貨店、スーパーマーケット、GMS、コンビニエンスストア、ショッピングセンター、製造小売業でのコンサルテーションや人材育成支援に従事した経験を有する。

・本授業は主要な流通マーケティング領域の学術研究、流通業に関する時事情報、教員の実務経験を統合する形で進める。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire Distribution Marketing.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 公共・非営利・社会的企業経営論

佐藤 裕弥 [Yuya SATO]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

資本主義社会の是正の観点から、「新しい資本主義」が模索されており、これまでの「効率性」「収益性」の視点に加えて、「公共性」、「公益性」、「公正性」などの視点を交えた経営が求められてきている。その中でもとくに人口減少問題と地方創生などの観点から、公共（国・地方公共団体等）・非営利（NPO/NGO等）および社会的企業（社会的目的をもった企業。株主、オーナーのために利益の最大化を追求するのではなく、コミュニティや社会活動に利益を再投資する企業）の存在と社会貢献が注目されてきている。

本講座では、営利企業とはその存在理由を異にする公共・非営利企業のあり方と事例に基づいた経営戦略を学ぶ。

また、営利企業であってもSDGs経営、環境経営などに見られるように、企業活動と社会性・公共性の調和を意識した「社会的企業」の成長が期待されていることから、広く社会的存在としての企業経営を学ぶことを目的としている。

この授業を通じて、公共・非営利・社会的企業における経営の着眼点と実際について学び、今後の企業経営のあり方や中小企業診断士などのコンサルタントが担うべき役割などを理解し、実社会に活かせるよう事例研究等を通じて学ぶことを予定している。

### 【到達目標】

1. 公共・非営利・社会的企業が重要視する「公益性」を学び、持続可能な社会を構築するための着眼点を理解すること。
2. 環境問題、少子高齢化に伴う社会問題や、格差社会における社会・経済情勢の変化に対応した社会的企業の経営戦略を理解すること。
3. SDGs経営について理解し、経営戦略を策定できること。
4. 公共・非営利・社会的企業について、具体的かつ実践的な提案ができる基礎的なスキルを習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」

「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

公共・非営利・社会的企業に対する総合的指導、支援、アドバイスができるよう、事例研究を含めて具体的な論点を整理して進めます。グループディスカッションなどの方法を取り入れて、各グループの発表をもとに議論を進め、全体としてのとりまとめを行ないます。またレポート等を通じて各人の理解を促すとともに、注目すべき見解を授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	公共・非営利・社会的企業論の視座	公共・非営利・社会的企業の存在意義・社会的役割・事業の範囲を学ぶ。
第2回	国・地方公営企業の現状と経営戦略	市場の失敗の克服策として存在する公営企業の経営戦略を学ぶ
第3回	NPO/NGOの現状と経営戦略	NPO/NGOの事例に基づいて、経営上の問題点・課題を抽出し、経営戦略を学ぶ。

第4回	非営利目的企業の現状と経営戦略	非営利目的の企業（例、病院等）の経営の現状と今後の経営戦略を学ぶ。
第5回	SDGsと社会的企業の現状と経営戦略	SDGsを取り入れた企業の経営の現状と経営戦略を学ぶ。
第6回	ソーシャル・マーケティングの理論と経営戦略	ソーシャル・マーケティングの考え方を活かした経営戦略の実例を学ぶ
第7回	日本の成長戦略と市場開放	政府の規制改革による公共・非営利組織と民間企業の連携方策を学ぶ。
第8回	公民共同企業体の経営戦略	第一セクター（国および地方公共団体が経営する公企業）や第二セクター（私企業）とは異なる第三の方式による法人の現状と経営戦略を学ぶ。
第9回	行財政改革と地方創生・地域活性化の自治体経営・マーケティング	行政のスリム化、地方財政の健全化と持続可能な地域住民へのサービス提供のための経営戦略を学ぶ。
第10回	人口減少下における社会インフラの維持と社会的企業の経営戦略	水道、下水道、電気、ガスなどの公益事業の現状と課題を学び、その維持に関わる企業活動のあり方を学ぶ。
第11回	社会的企業の現状と経営戦略	社会的企業（例、医療・福祉・介護サービス）の現状と経営戦略を学ぶ。
第12回	政府規制改革と民間企業の公共マーケットへの参入手法	官民連携手法の多様化と民間企業のビジネスチャンス学ぶ。
第13回	人口減少社会の現状と地方創生における公共・非営利・社会的企業の役割	地域資源を活用したビジネスについて、地方創生に関わる公共・非営利・社会的企業の経営戦略を学ぶ。
第14回	公共・非営利・社会的企業経営論のまとめ	持続可能な社会に向けた資本主義の修正と、社会・経済情勢の変化に対応した企業活動のあり方について学ぶ。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義時間以外のグループワーク、フィールドワーク等による学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし

### 【参考書】

・フィリップ・コトラー（著）、松野弘（翻訳）、熊倉広志（翻訳）、玉村雅敏（翻訳）『「公共の利益」のための思想と実践：企業・政府・非営利団体の戦略』、ミネルヴァ書房（2022）。

・ヘンリー・ミンツバーグ（著）、池村千秋（翻訳）『私たちはどこまで資本主義に従うのか』ダイヤモンド社（2015）。

・ヘンリー・ミンツバーグ（著）、池村千秋（翻訳）『MBAが会社を滅ぼす』日経BP（2006）。

その他、授業の中で取り上げて参考文献を紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

講義、グループワークへの貢献度 60%

発表、レポートの評価 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

### 【その他の重要事項】

#### 【オフィスアワー】

授業開始前または終了後に質問を受け付けます。

そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問を受け付けます。

#### 【実務経験と授業の基本的な方針】

30年を超える中小企業診断士としての活動経験を有し、経済産業省ほかの有識者委員を務めています。

また、JICA（国際協力機構）専門家としてSDGsに関する活動を行っています。

そのほか地球環境問題の支援を目的とするNPO法人の理事として運営方針の決定に携わっていると同時に、開発途上国の支援を目的とするNGO法人のメンバーとして海外で幼児・児童教育環境整備事業を担当しています。

**【担当教員の専門分野等】**

- ・ 公共・非営利方針の経営診断技法の開発
- ・ 産学官連携の推進
- ・ 政府規制改革による非営利部門への民間企業の参入推進
- ・ 市場競争と公共性・公益性の調和
- ・ SDG s 経営とNPO/NGOの経営戦略

**【Outline (in English)】**

In this course, students will learn business management of national government, public organizations, and non-profit organizations, comparing them with for-profit corporate activities.

The course also aims to teach SDGs management strategies and management strategies of social enterprises.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 収益モデルの構築

Earnings Model

山崎 泰明 [Yasuaki YAMASAKI]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卓越した事業アイデアだけではビジネスは実現しません。そのアイデアを活かし、事業機会につなげるによりビジネス化が可能となります。そのためには将来の事業を構想し、具体的な数値に落とし込むことが不可欠です。将来の事業構想とは、新規事業や企業買収などといった新たな取り組みだけではなく、製造工程の自動化やSCMの推進などといった既存のやり方の変更なども含まれます。本講義の目的は、これら将来の事業に関する意思決定を行なうためのファイナンス理論をベースに事業の数値化を習得します。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートします。また、可能であるならば、ファイナンスⅠ、ファイナンスⅡとともに受講することが望ましいでしょう。

### 【到達目標】

急速な成長を目指すベンチャー起業家および企業内で新たなビジネスの構築を担う者が、事前に有用なコーポレートファイナンスに関わる知識やスキルをすべて習得することは決して簡単なものではありません。そのため、本講義では、事業アイデアをビジネス化するために必要と考えられる収益モデルの構築に絞り基礎的な素養を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

新規事業の創出ならびに既存事業の改善等の収益モデルを構築する知識やスキルを習得する授業という点から、演算演習を交えた講義形式で進めていきます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半で行なう確認課題に取り組み、それによって議論をおこなう、各自の意見などを紹介します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について
第2回	事業構想段階の留意点と、新しいアイデアの調達方法	①事業家としての適格度 ②サービスイノベーション戦略 ③ビジネスプランに関する課題 ④主なアプローチ方法 ⑤事業アイデアと事業機会
第3回	マネタイズモデルの種類	①リアルビジネスでのモデル ②プラットフォームビジネス
第4回	実務家の経験談	・ゲストスピーカー 担当教員によるまとめ

第5回	ビジネスプランの概要	①事業アイデアの具体化 ②ビジネスプラン作成時の留意点
第6回	収益モデルの構築①	①お金の時間的価値 ②DCF法
第7回	収益モデルの構築②	①予測キャッシュフローの想定 ②バリュチェーンとキャッシュフロー
第8回	収益モデルの構築③	①予測キャッシュフローの現在価値 ②ターミナルバリュー
第9回	収益モデルの構築④	①資本コスト ②機会コストと要求リターン
第10回	事業の数値化①	①要素の洗い出しと数値化
第11回	事業の数値化②	①事業創出型の数値化 ②M&Aにおけるデュエリジェンス
第12回	事業の数値化③	①既存事業型の数値化
第13回	新規事業の普及	①イノベーションの普及
第14回	確認テスト、総括	・ビジネスモデルと事業の数値化

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表に触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので2時間程度の事前学習をお勧めします。復習に関しては、各回の授業の終わりに確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に2時間程度の復習を各自で行なうように努めて下さい。

### 【テキスト (教科書)】

講義用資料 (パワーポイント)

### 【参考書】

リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井真理子、國枝茂樹監訳、「コーポレートファイナンス (上) (下)」日経BP社 2014年  
磯崎哲也著、「起業のファイナンス」日本実業出版社 2020年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・最終確認テスト 40%
- ・各回の小レポート 30%
- ・授業での関与度 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

多くの意見を期待します。

### 【学生が準備すべき機器他】

Excelが使用できるパソコンが必要です。

### 【その他の重要事項】

三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。

### 【オフィスアワー】

質問等は、木曜日の3限目 (13:10-14:50) に受け付けます。別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

### 【実務家教員】

30数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

### 【Outline (in English)】

### 【Course outline】

A business cannot be realized only by excellent business ideas. By utilizing the idea and connecting it to business opportunities, it will be possible to commercialize it. For that purpose, it is indispensable to envision future businesses and reduce them to concrete figures. Future business plans include not only new initiatives such as new businesses and acquisitions, but also changes to existing methods such as automation of manufacturing processes and promotion of SCM.

**【Learning Objective】**

The purpose of this lecture is to learn the quantification of businesses based on the finance theory for making decisions about these future businesses. We will fully support all students to reach a certain level of goals. Also, if possible, it is advisable to take the course together with Finance I and Finance II.

**【Learning activities outside of classroom】**

two hours of preparation and two hours of review.

**【Grading Criteria/Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination : 40%、Short report : 30%、in class contribution : 30%

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## 事業再生・経営革新

Business turnaround and alliance

栗本 興治 [Koji KURIMOTO]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

事業が毀損、衰退し、財務体質が悪化する中、企業を取り巻く利害関係者間の利害を調整するとともに、毀損、衰退した事業を立て直す一連のプロセスを「事業再生」と定義し、また、事業者が新事業活動を行うことにより、その経営の相当程度の向上を図ることを「経営革新」と定義し、講義を進める。

本授業の目的は、事業再生や経営革新の意義、目的、効果、概要(一連のプロセスを含む)を理解するとともに、ビジネスイノベーターとして変容する市場ニーズに対応するべく、中小企業の適時適切な変革やビジネスイノベーションをリードできる素養を修得することにある。

### 【到達目標】

- ①事業再生及び経営革新の目的や効果を理解すること
- ②実務で利用される事業再生手法の体系と各手法のプロセスを理解すること
- ③事業再生に着手するタイミングとその効果を理解すること
- ④経営改革を促進するための制度概要と進め方の概略につき理解すること
- ⑤事業再生や経営革新に関与する各プレイヤー(主にアドバイザー)が期待され求められる役割を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は毎回講義を中心に進めるが、授業の一部は受講生参加型のディスカッションにあて理解を深める。

なお本講義のまとめとして、(実例もしくは仮想)事例を使ってグループ発表会を開催する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業再生の概要、目的、定義の理解【理論編】	事業再生につき、その概要、定義、目的、その効果等を理解するとともに、実例や学際的視点(法学的、経済学的視点を含む)からも考察、理解する。
2	事業再生の概要、目的、定義の理解【実務対応編】	事業再生が必要となる状況や兆候を理解するとともに、会社を取り巻く各利害関係者との関係性の変化と変化に伴い再構築するプロセス(事業再生実務全般)の概要を理解する。
3	事業再生手法の体系の理解【理論編】	再生可能性の検討方法、事業再生手法の選定プロセス実務やその特徴、加えて事業再生実務や事業再生に活用される組織再編行為に関する主な法的・税務的論点の概要(例)等を理解する。

4	事業再生手法の体系の理解【実務対応編】	事業再生手法の選定プロセスにおける現状把握・現状分析方法や再生スキームの策定方法の考え方につきケーススタディーを通して再生実務を理解する。
5	事業再生(法的整理)の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	法的整理の制度概要及び各手法の概要、プロセス、特徴等を理解する。
6	事業再生(法的整理)の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	法的整理の利用状況を理解するとともに、過去事例を用いてプロセス概要を理解する。
7	事業再生(私的整理)の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	私的整理制度の変遷、各手法の概要及び進め方のプロセスを理解する。法的整理との比較を通して私的整理の意義を理解する。
8	事業再生(私的整理)の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	私的整理制度の利用状況を理解するとともに、主に中小企業の再生実務に即した具体的な私的整理手続の進め方と最近の傾向を理解する。
9	経営革新の概要【理論編】	経営革新の定義、目的を理解するとともに、経営革新に関する制度概要とその効果等につき理解する。加えて「イノベーション」に関し経営学の視点から考察する。
10	経営革新を促進する制度/仕組【実務対応編】	経営革新を促進する制度の概要、その制度を利用する際の進め方、得られる効果やメリットに加え、利用状況等につき理解する。
11	企業のライフステージ別経営革新及び事業再生局における利害関係者とアドバイザーの役割【理論編】	企業のライフステージ別に事業再生及び経営革新の視点から、関与する専門家や実務家の担当領域や求められる役割について理解する。
12	企業のライフステージ別経営革新及び事業再生局における利害関係者とアドバイザーの役割【実務対応編】	認定経営革新等支援機関の活動実績や活動状況を把握する。さらに事業再生局面や経営革新の概要と活用方法を理解し、ビジネスイノベーターとして如何に関与するべきかを考察する。
13	ケーススタディー/チーム発表【1/2】	仮想の事例を設定し、これに基づき事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する(グループ発表とディスカッション)。
14	ケーススタディー/チーム発表【2/2】	仮想の事例を設定し、これに基づき事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する(グループ発表とディスカッション)。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 授業前は参考文献を読む等の予習をし、授業後はレジュメを中心に復習する。
- 予習復習各1時間程度を標準学習時間とする。
- 毎週授業前までにオンラインにて復習テスト(20分程度)を受けて頂く。
- グループ発表は、グループメンバー全員参加型でプレゼン資料を作成し、発表も全員で発表して頂く。

### 【テキスト(教科書)】

毎回レジュメを配布する。

### 【参考書】

- 『事業再生』岩波新書 高木新二郎著
- 『事業再生の実践(第I巻～第III巻)』商事法務 産業再生機構著

- 『経営研究調査会研究報告第62号「早期着手による事業再生の有用性について」』日本公認会計士協会
  - 『事業再生の実務』日本公認会計士協会出版局 日本公認会計士協会編
  - 『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞出版社 一橋大学イノベーション研究センター編
- その他必要に応じて授業で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

##### ①試験評価40%程度

- 各講義日終了後、次回の講義開始前までに20分程度の復習テストを実施（全6回実施）
- 復習テストの内容は、講義で説明した主なポイントに関する理解度を確認するために実施する

##### ②平常評価60%程度

- 授業中の発言等積極性、授業への貢献度、グループ発表（演習評価）を加えたものを平常評価とする

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 受講生参加型（可能な限り質疑の時間やディスカッションの時間を設ける）で講義を進め、馴染みの薄い事業再生実務を理解して頂く。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC及び電卓

#### 【その他の重要事項】

- 質問については、授業後に口頭で、もしくは授業終了後翌週火曜日までにメールで受付け、次回以降の授業の冒頭で、復習テスト後に授業を通じて回答する。

#### 【Outline (in English)】

A business turnaround is a series of restructuring processes of an underperforming company, including reconciling interests among stakeholders and rebuilding its struggling business.

Business innovation is defined as seeking a considerable degree of management improvement by conducting new business activities.

The objective of this class is to understand the significance, purpose, effects, process of turnarounds and business innovation, and to acquire basic knowledge to lead timely and appropriate reforms and business innovation in SMEs, while responding to the changing market needs.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## デジタル・マーケティング

Digital Marketing

村上 健一郎 [Kenichiro MURAKAMI]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、ジョブ理論とリーンメソッドをベースとし、マーケティングファネルとリードの概念や、検索エンジン/ネット広告/ソーシャルメディアなどから構成されるデジタルマーケティングの原理と応用を、ウェブでの調査や議論を通じて学ぶ。受講者はスモールワールドの構成とリーチの概念、ターゲティング広告、ソーシャルメディアによる情報拡散の仕組みを理解し、戦略の策定と検証方法を統合的に理解する。そして、デジタルマーケティングの全体像をつかむ。(中小企業、大企業の両方向け)

### 【到達目標】

ファネルを理解しデジタルマーケティング戦略を策定できること、および、総合的にデジタルマーケティングを展開できる実践的な知識を身につけることを目標とする。このために、ファネルの概念を中心として、顧客との関係CR(Customer Relationship)構築のために用いられるシステムや手法、投資判断に用いられる重要な評価指標KPIを具体的に学ぶ。特に、製造から販売まですべてをオンラインで行う直販ビジネスD2C(Direct To Consumer)を事例として、SNSやウェブを通じた顧客との対話や顧客の行動トラッキングによる広告手法を学び、最終的にはデジタルマーケティングプラットフォームDMPの理解へとつなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は、事例調査および分析、課題発表と議論、の2つを中心とし、2コマ単位で進める。基本的に下記のスケジュールで進めるが、受講者の知識レベルや進捗状況によって適宜見直す。履修者はネットに接続された自分のパソコンを操作しながら、リアルタイムにネットで検索や検証を行い、議論を進めていく。なお、グループワークでは調査や分析を行い、最終的にはデジタルマーケティング戦略の理解と組み立てができる能力の獲得を目指す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタルマーケティング入門	リードジェネレーションからコンバージョンまでのマーケティングとセールスのファネルの概要、Get/Keep/Growのプロセスについて説明する。
2	D2Cビジネスとデジタルマーケティング	ネット直販ビジネスD2C(Direct To Consumer)の代表例を調査し、どのようにデジタルマーケティングを行っているかを学ぶ。
3	マーケティング投資と回収のKPI	マーケティングは投資であることを知り、リードジェネレーション、コンバージョン、リテンション費用と顧客生涯価値LTVとの関係を学ぶ。

4	デジタルマーケティングシステムの構築	カスタマジャーニーを中心としたデジタルマーケティングシステムの構築手順と方法について学び、自分のプロジェクトへの適用を行う。
5	行動トラッキングの仕組み	ネットでは過剰な行動のトラッキングが行われている。その理由と手段とを知り、その是非および許容範囲について議論する。
6	ネット広告入門	行動トラッキング情報がどのようにネット広告に利用されているのかを知る。また、広告種別や発生する費用体系について理解する。
7	ソーシャルグラフとイノベーションの普及	スモールワールド理論を学び、社会の構造と情報の伝達速度とを知る。また、情報伝搬とイノベーションの普及との関係を考え、アーリーアダプタとマジョリティへのアプローチが全く異なることを認識する。
8	D2Cビジネスとインスタグラム	D2CビジネスがどのようにSNS、特にInstagramを活用しているかを知り、顧客との関係構築について学ぶ。
9	検索エンジン入門	Google検索エンジンの歴史と仕組みを学び、リードジェネレーションやコンバージョンにおける役割の重要性を理解する。
10	検索エンジンの仕組み	Google検索エンジンにおけるキーワードと表示形式の関係について学ぶ。そして、Googleが検索キーワードではなく検索意図を判断していることを理解する。
11	検索エンジン最適化	検索エンジンで上位に表示される仕組みと、そのパラメータを学ぶ。また、D2Cビジネスにおける検索エンジン最適化の例から、最適化のキープポイントと効果を知る。
12	検索エンジンエミュレーション	検索エンジンの仕組みをグループワークによるエミュレーションで学ぶ。各受講者は検索エンジンの構成要素となり、体と頭を使うことにより理解を深める。
13	ゲスト講師(1/2)デジタルマーケティングシステムの概要	企業における実際のデジタルマーケティングシステムについて、ゲスト講師の講義で学ぶ。講師は学研のCMO(Chief Marketing Officer)を予定している。
14	ゲスト講師(2/2)デジタルマーケティングシステムの利用	担当教員によるまとめ デジタルマーケティングの実践事例についてゲスト講師が講義を行い、解決してきた課題とアプローチを学ぶ。また、これからの展望について議論を行う。 担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講者が少ない場合は個人単位で、多い場合にはグループワークで、事例調査、マーケティング戦略の設計、統計情報を使った検証などを行う。講義は反転授業の形式で進められる。即ち、毎回の講義の終わりには事例調査および分析の課題が出され、次の講義は、この進捗および分析結果の発表から始め、議論を行う。このため、本授業の準備学習・復習には、1から2時間程度が必要となる。

### 【テキスト (教科書)】

テキストとして、毎回、事前に、学習支援システムにてpdf化した講義資料を配布する。その中で、参考書を紹介する。

#### 【参考書】

- (1) ダンカン・ワッツ (辻竜平・友知政樹訳)、“スモールワールド・ネットワーク - 世界を知るための新科学的思考法”、阪急コミュニケーションズ、ISBN-10: 4484041162
- (2) DMP入門、横山隆治 他著、インプレス、ISBN-10: 484439584X
- (3) ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーバードビジネス・ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(¥2,160)
- (4) ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977 (¥2,728)
- (5) リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経BP社、ISBN-10: 4822248976 (¥1,980)
- (6) アンブレブレナーの教科書、ステイブ・ブランク著、翔泳社、ISBN-10: 4798143839 (¥2,640)

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の4つの点から評価する。

- (1) 講義での発言と貢献(30%)
- (2) 毎回のレポートとグループワークでの貢献(20%)
- (3) 総合演習レポートの提出(50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

教室のwifi環境が悪く講義中のワークでウェブの閲覧が困難なことが指摘されたため、最初の講義で学生にネット接続の状況を確認し、問題があればwifi環境の良い教室へ変更することにする。また、講義ではジョブ理論をベースとした実践的かつ最新のデジタルマーケティングの知識を得られたという意見がある一方、デジタルの基礎知識がないと理解が難しい部分があるという意見があるため、講義中でも中断して基礎的な質問ができることを最初の講義時間に学生に周知する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン(キーボードのないものは不可)

#### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは本講義前の5限目(16:50-18:20)としますが、事前にメールで確認願います。なお、この講義には、NTT研究所での研究実用化の経験と、スタートアップ企業でのデジタルマーケティング経験から得られた最新のノウハウを織り込んでいます。

#### 【Outline (in English)】

This course focuses on the theory and practice of digital marketing. It starts with the major marketing concepts such as marketing funnel and lead generation. Then, it provides detailed knowledge on digital channels and platforms, such as Google Search Engine, Google Analytics, Net Advertisement, and Social Media, for getting, keeping customers. By understanding these means, students get a clear knowledge on the relationship between digital marketing platforms and sales funnel.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## ITCケース研修

IT Coordinator Case Training

大塚 有希子 [Yukiko OTSUKA]

単位数：4単位

学期：秋学期授業/Fall

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

新しいビジネスや業務への変革により競争優位をめざすDXにおいては、ITを効果的に活用することが不可欠となっている。ITとビジネスが結びつくことで、情報制約や物理制約が克服され、①革新的な製品・サービスの創出(需要面における変革)、②供給効率性の飛躍的向上(供給面における変革)が起きる可能性がある。現代は、あらゆる産業において、需要・供給の両面から、破壊的なイノベーションを通じた新たな価値創造が求められている。ITは企業経営を飛躍的に成長させる潜在能力を持っている。ITありきではなく、ITをツールとして経営改革に活かすための経済産業省推奨のフレームワークがITコーディネータプロセスである。ITCケース研修の目的は、ケース研修を通じてIT経営を実現するプロフェッショナル人材を養成することである。中小企業の経営者とITを結びつける架け橋となるITコーディネータ資格取得の要件ともなる実践的研修として、ITコーディネータ協会の協力を得て開講される。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

### 【到達目標】

- ①知識・思考：IT経営推進プロセスガイドラインに関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
- ②技能・表現：具体的に課題を通じてIT経営推進プロセスガイドラインの知識やスキルを使って課題を解決できる。
- ③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、IT経営推進プロセスガイドラインに関心を持ち、IT経営推進プロセスガイドラインに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学で、IT経営推進プロセスガイドラインに関する考え方や知識を説明する。チーム演習では、講師からIT経営推進プロセスガイドラインに関係する演習課題を提示するので、チームまたは個人で、IT経営推進プロセスガイドラインに関する知識や考え方を理解し、さらには幅広い観点から演習課題を検討し、発表またはレポートを作成して相互学習を行う。

オンラインによる参加も認めるが、対面でワークを行うべき回数を講師より指定する。

ITC協会より指定された動画受講、アンケート提出の必要がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	開講式、オリエンテーション、IT経営とは	はじめに、評価の方法、ケース研修の進め方などを説明する。概説「IT経営とは」、概説「IT経営推進プロセスガイドライン」概説「変革認識プロセス(A1)」、IT経営、経営者、IT経営推進者、IT経営支援者、IT経営の「進め方」、IT経営を成功に導く7つの基本原則

第2回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」	課題1_手順1気づき情報の収集、課題1_手順2変革に向けての課題の抽出
第3回	IT経営の認識	概説「IT経営の推進方法」、概説「IT経営認識領域(A)」、戦略経営サイクル、イノベーション経営サイクル、IT経営の成熟度、プロセスとプロジェクトの関係、セキュリティマネジメント、リスクマネジメント、変革認識プロセス(A1)、変革マネジメントプロセス(A2)、持続的成長認識プロセス(A3)、変革、経営戦略の見直しのサイクル、破壊的イノベーター企業、「組織的な」プロセス、経営者の役割
第4回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題1_手順3本質的な課題の理解、課題1_手順4解決策の検討と策定
第5回	変革構想書	概説「IT経営認識領域(A)」、概説「変革認識プロセス(A1)」A共通の基本原則、変革のための企業体質の確立、変革への気づき、変革に向けての課題・解決策の可視化、変革に対するコミットメント、変革認識プロセス(A1)の基本原則
第6回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題1_手順5経営者の判断、課題1_手順6変革構想書の作成と変革の表明
第7回	経営環境の分析	概説「IT経営実現領域(B)」、IT経営実現領域の各プロセス、成果物の関連図、目標とKGI/KPIの関連、全体プロセス、基本原則(B共通)
第8回	課題2「企業理念・使命の確認と経営環境情報収集・分析」	課題2_手順1企業理念・使命の確認、課題2_手順2事業ドメインの確認、課題2_手順3外部経営ミクロ環境情報収集、課題2_手順4外部経営マクロ環境情報収集、課題2_手順5内部経営環境情報収集
第9回	あるべき姿の構築	概説「経営戦略プロセス(B1)」、経営戦略プロセス(B1)の基本原則
第10回	課題3「あるべき姿の構築」	課題3_手順1経営環境分析の実施、課題3_手順2経営課題の導出 課題3_手順3CSF(案)の導出、課題3_手順4経営ビジョン(案)とビジネスモデル(案)の構築
第11回	経営リスクの評価と対応	概説「IT経営共通領域(C)」、概説「プロジェクトマネジメント(C1)」
第12回	課題4「経営リスクの評価と対応」	課題4_手順1経営リスクの特定、課題4_手順2経営リスクの分析と評価、課題4_手順3経営リスクの対応、課題4_手順4経営リスク顕在時の対応
第13回	経営戦略策定	概説「モニタリング&コントロール(C2)」
第14回	課題5「経営戦略策定」	課題5_手順1経営ビジョン、ビジネスモデル、CSFの最終決定 課題5_手順2経営戦略目標の決定、課題5_手順3KPIの定義、課題5_手順4経営戦略実行の組織体制の設定、課題5_手順5経営戦略企画書の作成
第15回	経営戦略の展開	概説「コミュニケーション(C3)」

第16回	課題6「経営戦略の展開」	課題6_手順1中期の経営改革への展開、課題6_手順2中期経営計画の策定、課題6_手順3中期経営計画書の作成
第17回	業務改革	概説「業務改革プロセス（B2）」
第18回	課題7「IT戦略の策定と展開」	課題7_手順1現行業務プロセス分析、課題7_手順2IT領域環境分析、課題7_手順3目標業務プロセスの策定、課題7_手順4目標IT環境の策定
第19回	IT戦略	概説「IT戦略プロセス（B3）」
第20回	課題7「IT戦略の策定と展開」続き	課題7_手順5IT戦略評価項目、達成指標、目標値、課題7_手順6IT環境構築の基本方針、課題7_手順7目標ITサービスレベルの設定、課題7_手順8IT戦略企画（実行計画）書の作成
第21回	IT資源調達	概説「IT利活用プロセス（IT資源調達ステップ）（B4-1）」
第22回	課題8「IT資源調達」	課題8_手順1提案評価基準書の作成、課題8_手順2RFPの作成、課題8_手順3RFPの発行と調達先の選定、契約
第23回	IT導入とITサービス利活用	概説「IT利活用プロセス（IT導入ステップ）（B4-2）」、概説「IT利活用プロセス（ITサービス利活用ステップ）（B4-3）」
第24回	課題9「IT導入」と課題10「ITサービス利活用」	課題9_手順1IT導入マネジメント、課題10_手順1SLMの実施 課題10_手順2IT戦略達成度評価、課題10_手順3経営戦略達成度評価
第25回	持続的成長の認識	概説「持続的成長認識プロセス（A3）」、概説「変革マネジメント（A2）」
第26回	課題11「持続的成長認識」と課題12「変革マネジメント」	課題11_手順1IT経営成熟度の評価、課題11_手順2将来に対する変革への洞察、課題11_手順3持続的成長に対するコミットメント、課題12_手順1変革マネジメント体制の構築、課題12_手順2変革の実行状況の把握と是正
第27回	新たな旅立ち	学生の決意表明、プレゼン内容についてのチーム討議
第28回	ケース研修のまとめ、修了式	活躍するITコーディネータからの期待 ゲスト講師：平野尚也様

- ・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
- ・原則として、チーム演習、評価は、毎回、実施する。
- ・チーム演習の場合、検討内容や熱意、発表や質疑応答への態度を受講生による相互評価を行う。
- ・参加度合いが24コマ/全28コマ以上を満たし、かつeラーニング指定成果物を提出していること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経営情報戦略科目、プロジェクトマネジメント科目との関連や必要なツールと技法を紹介する。  
ITC資格取得の知識試験学習の情報も提供する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学生は、パソコンを授業に持参のこと。（講義資料の閲覧、チーム演習、発表の際に利用）  
チーム演習ではマイクロソフト・パワーポイントによるテンプレートを配布する予定。

#### 【その他の重要事項】

- ・本科目の受講対象者は、在学生のみとする。
- ・本科目の受講には、8万円（税抜き）の教材費（教科書代およびeラーニング受講費を含む）が必要である。
- ・本科目の開始約2週間前に、オリエンテーションを行う。その際に、受講者名簿をITコーディネータ協会に通知し、それに基づいてeラーニング受講のための情報を付与する。
- ・本科目の修了者は、ITコーディネータ協会がITコーディネータの資格要件の一つであるケース研修修了とみなされる。
- ・担当教員は、これまでに中小企業のIT戦略に関する中小企業庁、経済産業省のコンサルティング表彰や助成金を受賞。元経営革新支援法審査委員。経営情報戦略に関連した大手・中小企業のコンサルティング、人材開発、制度設計、監査の実務経験を有し、PMP®、1級FP、CBAP®の資格を有する。ITコーディネータ立ち上げ時からケース研修のインストラクション、継続学習コース設計・指導などを行う。
- ・質問・相談がある場合には、  
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。  
2. 講師からの連絡をお待ちください。

#### 【Outline (in English)】

In DX, which aims for competitive advantage through transformation to new business and operations, effective use of IT is indispensable. By effectively utilizing IT, it is possible to newly acquire and analyze a large amount of data, and to use it. By linking IT and business, information constraints and physical constraints are overcome, (1) creation of innovative products and services (change in demand side), (2) drastic improvement of supply efficiency (change in supply side) can occur. There is sex. In today's society, new value creation through destructive innovation is required from both demand and supply in all industries. IT has the potential to dramatically grow corporate management.

The IT Coordinator Process is a framework recommended by the Ministry of Economy, Trade and Industry to utilize IT as a tool for management reform. The purpose of the ITC case training is to develop IT management professionals.

The course is offered in cooperation with the IT Coordinators Association of Japan as a practical training course for IT coordinator certification, which serves as a bridge between small- and medium-sized business managers and IT.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

##### 準備学習

当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。

##### 復習・宿題等

授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・IT経営推進プロセスガイドライン  
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会発行
- ・ITコーディネータ資格認定制度ケース研修資料  
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会発行

#### 【参考書】

- ・講師が授業を通じて適切な参考書を紹介する。
- 「プロジェクトマネジメントの教科書」（著者 山戸昭三 出版社 大学教育出版）ISBN978-4-86692-222-5 C3034

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・講義・チームへの参加姿勢（30%）、チーム・個人レポート（70%）

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## デジタル広告論

Theory of Digital Advertising

高田 勝裕 [Katsuhiko TAKATA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在のデジタルマーケティング活動は、パーソナライゼーションをコアテクノロジーとするデータドリブンアプローチへと大変革を遂げている。世界最大の広告代理店であるWPPの元CEOであるマーティン・ソレル卿は、マーケティングの鍵を握るのは「データ」であると宣言し、データアセットの集約と活用のためにデジタルマーケティングにかかわる数多くの会社を買収した。一方で、データアセットの活用に着目したITコンサルティング会社であるIBM、アクセンチュア、デロイトなどは経営活動と販売活動を一貫通貫するマーケティングサービスを広告主に提案して、総合広告代理店と広告販売で競合するようになり、広告業界を構成する顔ぶれが大きく変貌した。

それらが成立した背景として、(1)生活者のオンライン・オフライン活動が共にデータとして計測可能となること、(2)マーケティング活動がすべてデータで取得・管理できるようになること、そして(3)マーケティング活動の諸プロセスがプログラマティックに自動化されたことがあげられる。さらにGAFAM (Google Amazon Facebook Apple Microsoft) に代表されるテックジャイアントと呼ばれる企業群の中でも、デジタルマーケティングビジネスを展開してそれらに関する膨大なデータを所有するGoogle、Facebook、Amazonは自社プラットフォーム上の個人に関するデータアセットを独占利用できる立場により、高度なテクノロジーを駆使して広告主に大きな広告成果を提供している。さらに、それぞれ広告主企業のデジタルマーケティング活動の場を自社プラットフォーム内に完結させることで、より独占的な収益を獲得することに成功している。

そこで本講義の目的は、デジタルマーケティングにおける広告を「デジタル広告」と定義して、「デジタル広告」の全体を俯瞰し、さらに現在の高度なテクノロジーの基礎を成す主要な手段であるパーソナライズ技術やターゲティング技術を中心に、「デジタル広告」が変遷してきた経緯を踏まえてその基礎概念・技術を体系的に理解・習得することを目的とする。

### 【到達目標】

本講義の目標は、パーソナライズやデータドリブンアプローチなど先端テクノロジーを活用し、AI (人工知能) と融合する「デジタル広告」を理解することにより、それらが持つ特性やベネフィットを自身の事業やビジネスモデルに適切・応用展開することである。

さらに、それらのテクノロジー等によって成立する「デジタル広告」が、特定の企業群をテックジャイアントだけに膨大な利益をもたらしたのか、その過程を振り返って学生自身の知識として具備することにより、自身の未来環境におけるビジネスの成功確率の向上に寄与することを目指す。

また、現在ではオウンドサイトやブログなどのウェブメディア、さらに、Facebook、X (Twitter)、Instagramなどソーシャルメディアでの発信者が「デジタル広告」を通じて収益を得ることが一般的となっている。本講義ではそれらの収益モデルも合わせて解説するため、自身をウェブサイトやソーシャルメディアを通じて発信することに取り組む学生にとっても非常に役立つものと確信する。

本講義では「デジタル広告」におけるテックジャイアントが駆使する手法の初歩的なものを自身の環境で動作させて体験する。適宜、生成AIを活用して、技術的な背景なども解説を加えていく。これら応用方法の体験により、学生自身の将来において、コンピュータの利活用による競争上の優位性を得ることにつながることを望む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は2コマ単位で、スケジュールにのっとり進める。

各講義で前半では座学を中心とした講義をおこなう。講義の前半では「デジタル広告」に関するホットトピックを毎回数点選んで解説する。後半では前半の講義に関する技術を実際にR言語のライブラリを用いて体感する。学生の希望に応じて、著名な実務者をゲスト講師として迎えて、実ビジネスでの活用や進行中の課題などについて議論する機会も用意することも考える予定である。

後半の講義ではティーチングアシスタントがすべての学生の補助にあたり、実際に「デジタル広告」で利用されている主要アルゴリズムについてR言語を利用してデータ処理して、そのアウトプットを吟味する。なお、R言語の実習を希望しない学生については、デジタル広告実務に関するデータ分析実習を用意する予定である (過年度はソーシャルメディアアカウントの運用に関するデータ分析実習を用意した)。

なお、学生に対しては「デジタル広告」の経験や背景、技術的知識を問わない。

各回においてレポート課題を与えるので、その前提で出席すること。すべての講義は大学設備またはオンラインなどを状況に応じて適宜選択する。実習は学生自身のノートパソコン上の環境上またはクラウドなども積極的に活用する予定である。環境の構築は最初の講義でおこないティーチングアシスタントが実習環境の導入を支援する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタル広告序説	我が国において、1996年に初めてヤフージャパンのトップページにバナー広告が掲載されてから「デジタル広告」は20年以上の歴史を持つことになった。このバナー広告は、単なる掲載されるものから、閲覧者の興味関心に対して訴求をおこなうターゲティング広告に進化し、また毎日数千億回を超える広告表示が生活者に対して供給されるレベルまで成長した。既存の広告手段とも比較しながら、これに至る背景を説明する。また各学生が応用を考えているビジネスについて確認して、本講義のゴールについて確認する。
2	演習 (1)	「デジタル広告」の基礎は膨大なデータにもとづくパーソナライズである。本方法を確認するためにR言語によるデータ処理環境を各学生のパソコンまたは大学設備に構築する。クラウド上の環境も利用できる場合は利用する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には別途の演習課題を提案する。

3	データホリスティックとマーケティングミックスモデリング(MMM)	「デジタル広告」が急成長した主要の概念となる「データホリスティック」がある。「データホリスティック」は「全体性」の側面から事象や現象をデータによって総体的に取り扱う考え方である。近年では、この概念を土台とした、売上などのマーケティング目標に影響していると考えられる多数の要因を時系列に蓄積し、統計的手法モデルを導き出すことで、要因の相互関係や影響度合いを明示し、広告予算を効果的に分配する(アロケーション)手法が主流となった。これはマーケティングミックスモデリング(MMM)と呼ばれ、デジタル広告時代における最も重要な広告予算最適化手法となった。本講義で説明する。	7	広告と生活者のプライバシー	現在、個々人の趣味や趣向に即した広告配信を実現させる企業が現れてきた一方で、そのデータアセットの中身は、生活者の生活を写す大量のデータであり、個々人のプライバシー侵害など、思わぬ問題点が明らかになりつつある。中でも、2016年に「ケンブリッジ・アナリティカ」は、生活者に同意を得ないままSNS上のデータを取得・活用して効果的な政治広告を展開して大きな疑惑とプライバシー保護に関する議論を呼んだ。そこで欧州では2018年にデータ保護法(GDPR)が、米国加州で2019年にカリフォルニア州消費者プライバシー法(CCPA)が制定、2020年にはカリフォルニア州プライバシー権法(CPRA)が承認され、生活者のプライバシーに配慮したデータ利用が厳しく求められるようになってきている。本講義ではこれら業界の状況を説明し、さらに近年進行中の事案を議論する。
4	演習(2)	パーソナライズにおいて最も有名かつ利用されているアルゴリズムの基礎を演習する。具体的には生活者の趣味趣向を計数したり、または測定するために利用する統計量について演習する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法の基礎概念をエクセルで演習する。	8	演習(4)	パーソナライズの基礎となるアルゴリズムを実際に各自の環境でデータ処理する応用演習をおこなう。本講義では具体的なデータを用意して、学生自身の環境でコンピュータが生活者の趣味趣向をもとに判定する状況を体験する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法の応用処理をエクセルで演習する。
5	ウェブメディア・ソーシャルメディアでの情報発信とその広告効果の分析アプローチ	「デジタル広告」は広告の成果が可視化されることで大きく発展を遂げた。これは具体的には、ウェブメディアやソーシャルメディアなどオーディエンスに届けられる情報に掲載された広告を通じて発生した成果をデータとして取得し、その分析によって発信者側の側面と広告出稿側の側面のそれぞれの実務的な基礎を学ぶ。発信者側としては、Facebook、X(Twitter)、Instagramなどのソーシャルメディアの発信者によるフォロワー獲得やウェブメディアでのページビュー獲得などの情報発信側の広告トラフィック獲得とその広告収益について基礎を学ぶ。広告出稿側としては、発信者への広告依頼により配信された広告の広告効果を発信者の計測データの分析により広告効果を分析する。これにより、学生は学生自身が発信側としても広告出稿側としても活動できる基礎的な知識を得て自身のビジネスに活かすことができる。	9	業界分析1「なぜITコンサルティング会社と総合広告代理店は競争するのか」	「デジタル広告」業界では、IBM、アクセンチュア、デロイトなどのITコンサルティングファームが多くの広告関連企業を買収して、WPP、ピューブリシス、オムニコム、電通等の従前の総合広告代理店と「デジタル広告」の覇権をかけた勝負に出ている。なぜこのようになったのか、至る背景をふまえて、業界を俯瞰しつつ、今後のビジネスに与える影響を議論する。各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、実際の意思決定に用いられる実環境を体験する。具体的には、コンピュータの計算結果をインタラクティブに可視化するまでの環境構築をおこなう。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータビジュアライゼーション手法をエクセルで演習する。
6	演習(3)	「デジタル広告」においてパーソナライズの基礎となるアルゴリズムを実際に各自の環境でデータ処理する基礎演習をおこなう。本講義によりコンピュータが生活者の趣味趣向を計数化することを体験する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法を実際にエクセルで演習する。	10	演習(5)	

- 11 業界分析2「プラットフォームにより占有されるデジタル広告市場」 「デジタル広告」に必要なデータアセットはプラットフォームにより占有され、その結果として世界のデジタル広告市場は、テックジャイアントの数が独占する状況に陥った。本講義では、グローバルで起こっているデジタル広告の寡占状況を解説し、さらに学生諸君と共に今後のビジネスへの影響と対策を議論する。
- 12 演習（6） 各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、「デジタル広告」に関する意思決定を体感する。具体的には、実データを利用してコンピュータの計算を反映させたビジュアライゼーション環境から意思決定をおこなうための要素やその可視化要素を実際に構築する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務における分析結果を用いた戦略立案を演習する。
- 13 イノベーションの創出 要望に応じて、ゲスト講師として著名実務者を迎え、業界で現在進行しているイノベーションについて聴講する。さらに、そのイノベーションにより変化する未来のビジネス展望について学生と議論をおこなう。
- 14 演習（7） 全演習について総括をおこなう。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1. 短時間で多くの内容を説明する場合は、事前に目を通して内容を告知するので、それらを必ず理解した上で講義に参加すること。
2. 各学生の課題意識に応用できる演習を予定しているため、各学生においては、事前に課題意識を整理のうえで講義に参加することが望ましい。
3. 学生に対して講義の内容を要旨としてまとめるレポート（A4で1枚以内）の提出を適宜求める。優秀なレポートは授業で表彰する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。なお、別講義などの課題や実習で時間が取りづらい場合もあると思われるため、そのような場合は講師側へ事前に当該事項を相談する対応をおこなっている。

**【テキスト（教科書）】**

適宜授業で関連記事を紹介し解説する予定である。

**【参考書】**

本講義で扱う領域は変化が激しく、有益な情報はウェブサイトや生の展示会を中心に提供されている。

そこで「デジタル広告」先進国である米国の情報を中心に有益な情報を掲載するサイトとして以下をあげる。

1. Website:"AdExchanger.com", <https://adexchanger.com/>
2. Website:"Digiday", <https://digiday.com/>

**【成績評価の方法と基準】**

以下の点から評価する。

1. レポート 40%
2. 出席と積極的な発言 30%
3. 最終レポート 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義では数学的な知識を求めず、論理的思考のみで理解できるような表現を工夫している。ティーチングアシスタントも参加して学生の支援をおこなう。さらに講義の内容に応じてゲスト講師を招聘する場合は、国内外の第一線で活躍する著名実務者を迎えることで、実務の現場を各学生が体感できるように工夫している。実講義については、オンラインと対面とも、両方の学生が受講しやすいように配慮した講義資料の作成や設計をおこなっている。演習については、オンライン形式だと1人の学生との対話時間が長くなる傾向があり、サポートを受けたい学生全員の要望を聞きづらいことが生じたため、サポートルーム設置（ブレイクアウトルームを用いる方法）をはじめることとした。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコン、スマートフォン

**【その他の重要事項】**

講師は「デジタル広告」業界の萌芽期に始まり、プラットフォームに占有される現代にかけて、「デジタル広告」ビジネスの第一線で活躍する起業家／実務者であり、デジタルマーケティングに関する諸問題を学生と一緒に議論したいと考えている。本講義に関しては、オフィスアワーとして特定の時間を定めないが、電子メールアドレス [gogokarubi@gmail.com](mailto:gogokarubi@gmail.com) でいつでも質問を受け付けている。

**【Outline (in English)】**

Today's digital marketing activities are changing to a data-driven approach with personalization as the core technology. Sir Martin Sorrell, the former CEO of WPP, the world's largest advertising agency, declared that "data" is the key to marketing and acquired a number of companies involved in digital marketing to consolidate and utilize data assets. At the same time, IBM, Accenture, Deloitte, and other IT consulting companies that excelled in using data assets proposed marketing services that integrated management and sales activities to advertisers and began to compete with general advertising agencies in advertising sales. The face of the advertising industry has changed dramatically.

The background to these changes is that (1) both online and offline activities of consumers can be measured in the form of data, (2) all marketing activities can be acquired and managed in the form of data, and (3) the various processes of marketing activities have been programmatically automated. Furthermore, among the tech giants represented by GAFAM (Google, Amazon, Facebook, Apple, and Microsoft), Google, Facebook, and Amazon, which possess vast amounts of data related to digital marketing activities, have developed their own data assets about individuals on their platforms. With its exclusive access to the data assets related to each individual on its platform, Google, Facebook, and Amazon use advanced technology to provide advertisers with significant advertising results. In addition, each of them has succeeded in gaining more exclusive revenue by completing the digital marketing activities of advertisers within their platforms.

Therefore, the purpose of this lecture is to define "digital advertising" as advertising in digital marketing and to provide an overview of "digital advertising" as a whole, as well as to systematically understand and master the basic concepts and technologies of "digital advertising" based on the history of its transition, focusing on personalization and targeting technologies, which are the main tools that form the basis of the current advanced technologies. This course aims to systematically understand and master the basic concepts and technologies of "digital advertising," focusing on personalization and targeting technologies, which are the main means that form the basis of today's advanced technologies.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## データマイニング

Data Mining

豊田 裕貴 [Yuki TOYODA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスでのデータ活用が期待されている反面、まだまだ十分に活用しきれていない状況がある。その一因としてデータ分析手法がExcelでできることだけに留まってしまっている点が挙げられる。そこで、Excelでできることを超えて、より積極的なビジネスデータ活用をデータマイニングという領域に広げ、学習する。その際、フリーソフトでありデータ分析に特化したR言語を活用し、より高度な手法を活用し、ビジネスデータから知見を導き出す(マイニングする)方法を学習するのが、本講義の目的である。

### 【到達目標】

学習する手法について、各自のテーマに応用できることを目指す。その際、手法の仕組みについてある程度理解し、どんなデータにどんな手法を行うと何が明らかになるのかについて理解し、手法を活用できるよう担うことも目指す。本講義は数学としてデータマイニングを学ぶ講義ではなく、あくまでどのようにビジネスに活用するかを考え、実際に分析する力を身につけることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義では、手法の解説をしたうえで、実際に各自がRでデータを分析し、その結果を解釈するというスタイルをとる。Rについては、ビジネスデータ分析アドバンスで学習するため、この講義では、ゼロから解説することはしないため、注意すること(ビジネスデータ分析アドバンスの受講を必須とはしていないが、Rが使える前提で講義になることに注意(ビジネスデータ分析アドバンスの受講を強く推奨する))。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2講	yが量的変数のマイニング	関係性の分析として、y(結果系変数)が量的変数の分析(マイニング)を学習する。具体的には、回帰分析および決定木について学習し、ビジネスに生かす方法を考える。
3-4講	yが質的変数のマイニング	関係性の分析として、y(結果系変数)が質的変数の分析(マイニング)を学習する。具体的には、ロジスティック回帰分析および決定木について学習し、ビジネスに生かす方法を考える。
5-6講	多変のyのマイニング+アンサンブル学習 RandomForestの活用～	決定木の応用としてRandom Forestというアンサンブル学習手法を学習する。加えて、過学習というデータマイニングで重要なポイントについても学習する。

7-8講	アソシエーション ルール分析	何を買った人は他に何をかうかというようなルール抽出の手法として「アソシエーションルール分析(マーケットバスケット分析)」を学習する。
9-10講	レコメンドエンジンの構築	マーケティングの分野では、顧客に適切な商品を推奨するためにデータを活用することが求められている。その方法として、協調フィルタリングを中心に、どのように推奨する仕組みを作るかについて学習する。
11-12講	テキストデータの分析	ビジネスでは分析するデータがテキスト(文字情報)の場合も少なくない。そこで、テキストデータの分析としてテキストマイニングの基礎について学習する。
13-14講	関連手法の解説とまとめ	ここまで学習してきた手法を組み合わせた活用方法や講義内に追加でリクエストされた手法の解説などを行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。必要に応じて分析手順などの動画をアップするので、予習・復習に活用し、実際に使える知識として手法を学習すること。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定なし

### 【参考書】

・豊田裕貴(2017)『Rによるデータ駆動マーケティング』オーム社  
 ・ブレット・ランツ(2017)『Rによる機械学習』翔泳社  
 ・山本義郎、藤野友和、久保田貴文(2015)『Rによるデータマイニング』オーム社  
 ※その他、随時紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート(50点)、講義内課題(30点)ならびに普段の取り組み(20点)

### 【学生の意見等からの気づき】

・多様な分野の院生の受講に応じるため、前提となる高度な数学やデータ分析の知識は設定せず基礎から解説する。ただし、ビジネスデータ分析(ベーシックおよびアドバンス)で解説される要約とモデル分析の基礎についてはある程度理解していることを前提として講義をする。

### 【学生が準備すべき機器他】

・講義内でデータ分析実習を行うため、各自、ExcelおよびRが使える(かつZOOMで参加できる)PC環境を用意すること(大学の貸与PCもしくは演習室のPCの利用も可)。  
 ・対面講義を基本とするが、ハイフレックス形式で開講するため、ZOOMでの受講も可(演習が多いので、対面参加を推奨)。

### 【その他の重要事項】

<講義について>

・本講義では、Rというデータ分析ソフトを利用する。受講者の環境依存の問題を回避するため、Rstudio Cloudにて演習を行う。Rstudio Cloudの設定方法や基本的な使い方については、動画配信するので、確認の上、各自IDを取得すること。

<教員について>

・「実務経験のある教員」か否かについて：担当する教員は、データ分析に関連した実務経験(シンクタンクでのリサーチやデータ分析、コンサルティングなど)があり、単に知識としてのデータ分析ではなく、実際に使える知識としてのデータ分析を解説する。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we think that data mining is a method to derive findings that contribute to business from data. Therefore, we will learn with the emphasis on what kind of data is applied to what kind of data as a tool, and how to use the result for business.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## デザイン思考とビジネス創出

A design thinking and creation of new business

都丸 孝之 [Takayuki TOMARU]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、ビジネスを創出する上で必要な、近年注目されているデザイン思考を用いた、新たなビジネス提案を行うプログラムです。特に顧客ニーズの導き出し方や、顧客価値連鎖などのビジネスを考える上で効果的な方法論を使いながら顧客視点で新しい価値を創造、新たなビジネスの仮説を導き出します。また、ビジネスの実現性を検証するための、ビジネスリスクや正味現在価値法を用いた収益性を学びます。

### 【到達目標】

顧客価値の導き出し方を理解し、顧客視点で新しい価値を創造し、ビジネスモデルの仮説を作り出します。また、提案したビジネス仮説が、現場や顧客課題を本当に解決できるかどうかを検証するためのスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、ビジネスを創出する上での方法論を、演習を通じて理解します。その方法論を使いながら新たなビジネスの提案を行うチーム協業で行うプロジェクト形式の講義となります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デザイン思考とは	デザイン思考の概要説明
第2回	参与観察からビジネス仮説を導き出す1	みかん畑の耕作放棄地を活用するための地域活動の事例
第3回	参与観察からビジネス仮説を導き出す2	参与観察。問いの立て方。仮説の導き出し方を解説
第4回	顧客価値連鎖分析	お金、もの、情報の流れを可視化。ステークホルダーのニーズ・課題分析
第5回	システムの問題分析	現状問題構造ツリーを用いた問題の根本原因の分析
第6回	アイデア創出 1	マトリックス法、構造シフト発想法
第7回	アイデア創出 2	シナリオグラフ
第8回	アイデア創出 3	バリュエグラフを用いた顧客価値検証
第9回	リーンキャンバス	リーンキャンバスを用いたビジネス全体像のスケッチ
第10回	ビジネスリスク	FMEAを用いたビジネスリスクの洗い出しと未然防止
第11回	シナリオプロトタイプング	シナリオを用いたプロトタイプングの演習
第12回	ビジネスの収益性検証 1	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証 (講義)
第13回	ビジネスの収益性検証 2	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証 (演習)
第14回	ビジネス提案	チーム発表 担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、講義で学んだビジネス創出の方法論を活用し、チーム協業で課題を実施していただきます。チーム課題の作業時間の目安は2時間です。

### 【テキスト (教科書)】

毎回講義資料を配布します。

### 【参考書】

- ・前野隆司ら「システム×デザイン思考で世界を変える」日本経済新聞出版、2012年
- ・Krista M. Donaldson, Kosuke Ishii, Sheri D. Sheppard, Customer Value Chain Analysis, Research in Engineering Design, Volume 16, Issue 4, pp 174-183,2006.
- ・石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社、2022年
- ・土井秀生「DCF企業分析と価値評価」東洋経済新報社、2001年

### 【成績評価の方法と基準】

- ・チーム課題 (40%)、チーム活動の貢献度 (30%)、チームの最終発表 (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮します。
- ・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

グループワークに用いる、演習シートをオンライン上でアクセスしていただくため、パソコンが必要となります。

### 【その他の重要事項】

チーム協業のプロジェクト形式ですので、チーム活動に必ず参加してください。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行います。

### 【Outline (in English)】

This lecture is a program to propose new business proposals using design thinking. It is designed to create new value based on the customer's needs and derive new business hypotheses by using effective methodologies such as customer value chain analysis (CVCA). In addition, this course will cover business risk and profitability using the net present value method (NPV) to verify business feasibility.

MAN540F2 (経営学 / Management 500)

## ビジネスイノベーター育成セミナー

Seminar of Business Innovators

坂本 和子 [Kazuko SAKAMOTO]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

応用科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科のミッションの一つとして、文系・理系といった枠にとらわれず、幅広いアプローチによる課題の発見や解決、そしてそれらを社会的価値に転換・創造していく能力を有する人材、いわゆるビジネス・イノベーターの育成があげられる。

本講義はそれを実現するために、世界へ挑戦しているエンジニア、イノベーションに貢献しているデザイナー、そして幾多の苦難を乗り越えてイノベーションを創出してきたビジネスリーダー等のゲスト講師が、体験や実学のレクチャーを実施する。加えてPBL (Project-Based Learning) をベースとしたグループ演習を行うことで、学習動機や理論・手法の応用力の獲得や社会人基礎力の向上を目的とする。

### 【到達目標】

- ・様々な社会ニーズに対応できる幅広い学術基盤をベースとする事業推進力を習得する。
- ・科学者、技術者のマインドやアーティストの感性を取り入れたビジネス開発力を習得する。
- ・チームを起動させ、チーム単位での事業開拓やアイデア発想、企画力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・2時限続きで14回開講。
- ・初回にPBLの課題を提示する。
- ・2回セットで前半はテーマに沿ったゲスト講師が講演後、質疑応答やディスカッションを実施。後半はPBLによるグループ演習を実施し、授業の最後にリフレクションシート (今回の学び、気づき、疑問点等を記載) を提出してもらう。
- ・8回目に中間報告会を行う。
- ・最終回に課題の最終報告会をコンペ形式で行い、担当教員により講評。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス	本講義のガイダンスと、グループ演習の課題提示。
	立つDEM (デザイン・エンジニアリング・マネジメント) の融合、VTSの実践	ゲスト講師によるVTSを実施する。 担当教員によるまとめ
3,4	事例研究①デザインを起点に考えるイノベーションとは	アイデア発想法とデザインシンキングの講義とワークショップの実施
5,6	事例研究②どんな技術がイノベーションを起こすのか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後、グループ演習により技術とイノベーションについて考察 担当教員によるまとめ

7,8	中間報告会 事例研究③問いを改めてデザインする	グループによる中間報告とグループ演習により”問い”について再考察 担当教員によるまとめ
9,10	事例研究④DEMを活かして、日本からグローバルへの展開	ゲスト講師の講義とディスカッションの後、グループ演習によりグローバル戦略を考慮した課題への取り組み 担当教員によるまとめ
11,12	事例研究⑤技術を社会にどう実装していくか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後、グループ演習により技術ブランディングと実現可能性について検討 担当教員によるまとめ
13,14	最終報告会	グループによる最終発表と講評 担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講に当たって事前の準備学習を必要としないが、中間報告会や最終報告会へ提出するアプトブットやプレゼンテーション準備に時間を必要とする (1回の授業に対して平均2時間程度が望ましい)

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じ、授業内で適宜、ゲスト講師と講義内容に関する資料を配布する。

### 【参考書】

安斎勇樹・塩瀬隆之 (2020) 「問いのデザイン」 学芸出版社  
太田伸之 (2014) 「クールジャパンとは何か？」 ディスカヴァー・トゥエンティワン  
佐藤聡 (2010) 「技術を魅せる化する - テクノロジーブランディング」 技術評論社

Thomas Lockwood8 (2009) ”Design Thinking: Integrating Innovation, Customer Experience, and Brand Value”, Allworth Press; Original

### 【成績評価の方法と基準】

グループ評価60% (中間報告20%, 最終報告40%), 毎回の出席と討議への貢献20%, リフレクションシート20%で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループ演習を円滑に進めるための工夫  
ビジネスイノベーター育成のための選りすぐりの講師を招聘

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回グループ演習を実施し、最終報告のアプトブットを作成していくので、ノートパソコン等を持参すること

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー：講義前の1時間

### 【Outline (in English)】

One of our mission statements is to develop human resources, so-called business innovators, who have the ability to discover and solve problems through a wide range of approaches, and to convert and create social values, regardless of the framework of humanities and science.

In order to realize this, this lecture will be a lecture by guest lecturers such as engineers who are challenging the world, designers who are contributing to innovation, and business leaders who have overcome many hardships and created innovation. In addition, by conducting group exercises based on PBL (Project-Based Learning), we aim to acquire learning motivation and application skills of theory and methods, and to improve fundamental skills of a working adults.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## データベースの基礎

Database

五月女 健治 [Kenji SAOTOME]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報は、ビジネスにおける重要な資源のひとつである。その情報を蓄積・管理する手段として、データベースがある。近年、ビッグデータやデータ分析が注目されているが、データベースはこれらの技術の基礎である。この講義では、データベースによる、データ (情報) の設計・蓄積から活用 (データ分析) まで、一連のデータのライフサイクルを学習する。対象は、中小企業を想定する。

### 【到達目標】

データモデリングによるデータの設計、アプリケーションによるデータの蓄積、データ分析によるデータの活用を体験して、データのライフサイクルを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

馴染みのMS Officeと親和性のあるツールを利用して演習する。具体的には、MS Access (データベースアプリ、以下Access)、Power BI Desktop (データ分析・可視化アプリ) を使用する。授業は、データのライフサイクルの最終段階であるデータの活用 (データ分析) からスタートする。どのようなデータが必要となるかを知った上で、データのライフサイクルの始まりであるデータの設計、次にデータの蓄積の順序で進める。

各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	EXCELのデータ操作機能を学習することで、データ操作の概要をつかむ。
第2回	演習ツール概要	データ活用のためのツール Power BI Desktopの利用方法を演習する。
第3回	データ活用 講義	Power BI Desktopを利用した分析方法について講義する。
第4回	データ活用 演習	Power BI Desktopを利用して、OLAP (ダイニング、スライシング、ドリルダウン、ドリルスルー) を演習する。これにより、データ活用に求められるデータの形式や内容について学習する。
第5回	データベース 講義	AccessおよびSQLによるデータベース操作 (結合、集計、並び替えなど) の概念を講義する。
第6回	データベース 演習	AccessおよびSQLで、データベース操作 (結合、集計、並び替えなど) を演習する。
第7回	データモデリング 講義	ERモデル、エンティティとリレーションシップについて講義する。

第8回	データモデリング 演習	Accessで、エンティティとリレーションシップからなるデータモデルを作成する演習を行う。
第9回	データモデルパターン 講義	典型的なデータモデルのパターンおよび正規化について、講義する。正規化とは、データの冗長性を取り除く作業である。
第10回	データモデルパターン 演習	Accessで、作成したデータモデルを典型的なデータモデルのパターンに変換して、データモデルを完成させる演習を行う。
第11回	総合演習 講義	Accessを使用したアプリケーションの作成方法を講義する。
第12回	総合演習	アプリケーション作成を中心に、例題に基づいたデータ設計・蓄積・活用を演習する。
第13回	データベースのアーキテクチャ	トランザクション、RAID、データウェアハウスなどについて講義を行う。
第14回	総括	学習内容の振り返りを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間、宿題は各1時間 (6回) を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

以下の参考書は貸与するので、必ずしも購入する必要はない。  
・「データベース応用 ―データモデリングから実装まで― (未来へつなぐデジタルシリーズ) (共立出版) (ISBN-13: 978-4320123540)。  
・その他、配布資料あり。

### 【参考書】

以下の参考書は準備するので、必ずしも購入する必要はない。  
・「ソフトウェアシステム工学入門 (未来へつなぐ デジタルシリーズ 22) (共立出版) (ISBN-13: 978-4320123427)  
・「30時間でマスター Access2013 (実教出版) (ISBN-13: 978-4407332681)

### 【成績評価の方法と基準】

各回の課題演習 (40%)、期末レポート (60%)

### 【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。

理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。

このことは授業の最初にアナウンスする。

### 【学生が準備すべき機器他】

Accessを利用できるOfficeを搭載している、およびPower BI Desktopを使用できるPC (Windows) が必要 (MacのOfficeにはAccessがないので不可)。イノベーション・マネジメント研究科管理の演習室で授業行う場合は、演習室PCを利用できる。上述の条件を満たすPCを持たない場合で、演習室以外の環境で使用するとき、大学の貸与PCを利用することを検討すること。

### 【その他の重要事項】

必要な前提知識として、基本的なExcelの操作ができる程度の知識を有すること。

オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。

大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

### 【Outline (in English)】

Information is one of the important resources in business. There is the Database as a means for storing and managing that Information. In recent years, Big Data and Data Analysis have attracted attention, but Database is the basis of these technologies. In this lecture, we learn a series of the life cycle of Data, that is the design, storing and utilization with Database. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN500F2 (経営学 / Management 500)

## 会計入門

Intensive accounting

石島 隆 [Takashi ISHIJIMA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

基礎科目

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業会計は、企業の経済活動を貨幣価値で表現するための仕組みである。企業の財務諸表を見ることによって企業の事業活動の状況を理解することができる。

本授業で学生は、企業における財務会計（外部に報告するための会計）の基本的な考え方や財務諸表の見方・分析方法を学ぶ。

公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、財務会計の基本的な事項を取り扱うので、大企業のみでなく、中小・中堅企業の経営状況の把握にも役立てることができる。

### 【到達目標】

学生は、本授業において、ビジネスに携わる上での常識としての会計知識と企業の財務諸表に記載された情報の活用方法の基本を身につけることを目標とする。

なお、本授業は、財務会計に関する初心者のための授業であるので、財務会計に関する基本知識がある学生は「財務会計論」を受講されたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業の講義は、大部分をオンデマンド型のeラーニングとして実施する。

講義を中心とするが、基礎的な会計知識については、演習問題の解答の提出を求める。

教材の配信は、第1回～第3回分と第4回～第6回分をまとめて行い、演習問題の解答の提出についても第1回～第3回分と第4回～第6回分をまとめて期限を設定する。

授業の内容に関する質問については、随時E-Mailで受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを2回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。

また、最終回（第7回）には、学生が自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンラインで行い、その内容について最終レポートの提出を求める。最終回（第7回）に出席できない学生は、発表内容を録画して提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回(1)	会計の種類と役割 [テキスト第1章]	会計にはどのような種類があり、それぞれどのような役割を果たすのか、企業会計を中心として検討する。
第1回(2)	財務会計のシステムと基本原則 [テキスト第2章] 財務諸表の作成と公開 [テキスト第10章]	財務会計のシステムの基本となる取引や仕訳の考え方、損益計算と資産評価の基本原則、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の相互関係について学ぶ。 外部に公表する財務諸表の種類、作成と公開の方法について学ぶ。

第2回(1)	企業の設立と資金調達 [テキスト第3章]	企業の設立手続と資金調達取引に関する会社法の定めとその会計処理について学ぶ。
第2回(2)	仕入・生産活動 [テキスト第4章]	商品や材料の調達活動と製品を製造するための生産活動に関する会計処理を学ぶ。
第3回(1)	販売活動（1） [テキスト第5章]	収益の計上時期、売上原価の計算方法など販売活動に関する会計処理全般を学ぶ。
第3回(2)	販売活動（2） [テキスト第5章]	建設業や受託ソフトウェア開発業で用いられる工事進行基準など特殊な収益計上の会計処理について学ぶ。
第4回(1)	設備投資と研究開発 [テキスト第6章]	固定資産の取得、減価償却、売却、売却などの設備投資に関連する活動及び研究開発活動に関する会計処理を学ぶ。
第4回(2)	資金の管理と運用 [テキスト第7章]	資金の管理と運用に関する活動の会計処理とキャッシュフロー計算書の作成方法について学ぶ。
第5回(1)	国際活動 [テキスト第8章] 税金と配当 [テキスト第9章]	輸出入活動、海外投資活動など国際活動に関連する会計処理を学ぶ。 企業に課される税金の会計処理及び配当の形態と会計処理について学ぶ。
第5回(2)	企業集団の財務報告 [テキスト第11章]	企業集団の財務報告のために作成される連結財務諸表の作成方法を学ぶ。
第6回(1)	財務諸表による経営分析（1） [テキスト第12章]	財務諸表数値を用いた収益性の分析の方法を学ぶ。
第6回(2)	財務諸表による経営分析（2） [テキスト第12章]	財務諸表数値を用いた安全性の分析の方法を学ぶ。
第7回(1)	経営分析結果の学生発表（1）	自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンラインで行う。発表の実施日時については、学生と個別に調整する。担当教員によるまとめ
第7回(2)	経営分析結果の学生発表（2）	前回の続きを行う。担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、オンデマンドで動画教材を視聴するとともに、教科書の該当する章を読んで理解を深めること。

また、自らが関心を持っている企業の事業内容と業績について、新聞記事や企業のWebサイトを見て、企業がどのような事業を行い、そこにどのようなリスクがあり、その結果が決算にどのように反映するのかという観点を持って、会計処理を理解することにより、最終回（第7回）の学生発表につなげること。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門（第16版）』有斐閣アルマ（税込¥1,980）

なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第16版でも学習に差し支えないように配慮する。

### 【参考書】

國貞克則著『【新版】財務3表図解分析法（朝日新書）』朝日新聞出版（税込¥891）

### 【成績評価の方法と基準】

演習問題の解答の提出及び積極的な質問や発言（50%）  
経営分析結果の発表と最終レポート（50%）

### 【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、質疑のためのオンラインミーティングを設定する。また、学生発表の参考にするため、財務諸表による経営分析の方法について、説明動画を配信する。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンデマンド方式の授業のため、PCの利用が必須である。また、授業の教材、動画、問題は、学習支援システムを利用して提供する。

**【その他の重要事項】**

「授業形態」が「オンライン」となっているが、最終回（第7回）の学生発表を除いて「オンデマンド」で行う。最終回に出席できない場合は、発表の動画による提出も可能である。

なお、授業の内容に関する質問については、随時E-Mailで受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを2回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。

<オフィスアワー>

春学期：月曜日5限目（16:50-18:30）

この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。

教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後、に大学教員となった。これらの経験を生かして、企業経営の実態を理解するための財務会計の基本が理解できるように指導する。

**【Outline (in English)】**

Business accounting is a mechanism for representing the economic activity of a company in monetary value. By looking at the company's financial statements, you can understand the situation of business activities of the company.

In this class, students learn the basic idea of financial accounting (accounting for reporting to the outside) and how to view and analyze financial statements.

Although it uses the published financial statements of listed companies as the analysis target, it handles the basic matters of financial accounting, so it can be useful not only for large enterprises but also for grasping the management situation of small- and medium-sized enterprises.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## クラウドコンピューティング

Cloud computing

五月女 健治 [Kenji SAOTOME]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

クラウドコンピューティングの利用が急速に広がっている。クラウドコンピューティングによって、選択肢が広がって、さまざまなビジネスシーンでの活用が可能となっている。特に、ITの難しいスキルを取得することなくサービスの利用ができており、我々が直接ITを利用する時代が近づいている。一方で、いくつかの問題があることも事実である。ただ、このような光と影についての情報はあふれていて、すでに周知のことである。この授業では、実際にクラウドを体験して、利点・問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識を習得することが目的である。対象は、中小企業を想定する。

## 【到達目標】

クラウドで提供されるサービスは、主にSaaS、PaaS、IaaSに分類される。この授業では、SaaSとPaaSの著名なサービスを体験する。また、クラウドと社内のコンピュータ環境を連携する演習も実施して、クラウドサービスの理解を深める。

(SaaS：Software as a Service、アプリケーション機能を提供するサービス)

(PaaS：Platform as a Service、アプリケーション開発環境を提供するサービス)

(IaaS：Infrastructure as a Service、ハードウェア環境を提供するサービス)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

クラウドサービスで最も利用されているオンラインストレージ(Dropbox、OneDrive、Googleドライブ)を取り上げ、Zoomオンライン会議での活用方法の演習を行う。

PaaSとして、プログラミングレスのアプリケーション作成環境であるサイボウズ社のKintoneを取り上げ、それを利用したアプリケーション作成の演習を行う。また、作成したアプリケーションで生成されたデータの活用方法として、データ分析の演習を行う。

SaaSとして、プラットフォームビジネス(マッチング、シェアリングエコノミなど)を構築できるクラウドサービスを取り上げ、そのサービスのアカウント作成や運用・利用を体験する。

ただし、提供者側の状況によっては、利用するサービスの変更があり得る。

各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	クラウドコンピューティングの種類・技術の現状や利点・問題点などについて、講義する。
第2回	オンラインストレージ演習-1	オンラインストレージ演習の準備を行う。

第3回	オンラインストレージ演習-2 講義	オンラインストレージとZoomオンライン会議での活用方法を講義する。
第4回	オンラインストレージ演習-2 演習	オンラインストレージとZoomオンライン会議での活用方法を演習する。
第5回	PaaS演習-1 講義	Kintoneの利用準備と簡単なアプリ作成の方法を講義する。
第6回	PaaS演習-1 演習	Kintoneの利用準備を行い、簡単なアプリを作成する。
第7回	PaaS演習-2 講義	Kintoneによる、アプリ(請求書)の作成方法を講義する。
第8回	PaaS演習-2 演習	Kintoneで、アプリ(請求書)を作成する。
第9回	データ活用 講義	Kintoneで生成したデータを利用して、データ分析を行う方法を講義する。
第10回	データ活用 演習	Kintoneで生成したデータを利用してデータ分析を行う。データ分析で利用するツールは、Power BI Desktop(データ分析・可視化アプリ)を利用する。
第11回	SaaS演習 講義	プラットフォームビジネスについて講義する。
第12回	SaaS演習 演習	プラットフォームビジネスを構築するクラウドサービスのアカウントを取得し、運用・利用する演習を行う。
第13回	活用事例	「ゲスト講師による講義・担当教員によるまとめ」
第14回	総括	学習内容の振り返りを行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。本授業の準備学習・復習時間は各1時間、宿題は各1時間(6回)を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

配布する。

## 【参考書】

・サイボウズ提供の「はじめてのKintoneガイドブック」(無償配布)をPDFファイルで配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

各回の課題演習(40%)、期末レポート(60%)

## 【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。

理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。

このことは授業の最初にアナウンスする。

## 【学生が準備すべき機器他】

自身のPCを各自準備する。Power BI DesktopのみWindowsPCが必要である。イノベーション・マネジメント研究科管理の演習室で授業を行う場合は、演習室PCも利用可能である。上述の条件を満たすPCを持たない場合で、演習室以外の環境で使用するときは、大学の貸与PCを利用することを検討すること。

## 【その他の重要事項】

必要な前提知識として、基本的なExcelの操作ができる程度の知識を有すること。

オフィスアワーは、金曜日5限とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。

大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマとして、ITの総合的な観点で授業を実施する。

**【Outline (in English)】**

The use of cloud computing is rapidly expanding. Cloud computing has made it possible to use it in various business scenes. Especially, the services of cloud computing are being used without acquiring the difficult skills of IT, and the era when we use IT directly is approaching. On the other hand, it is a fact that there are some problems. However, such information on light and shadows is already well-known. The purpose of this class is to experience the cloud computing, understand advantages and problems, and acquire knowledge that enables practical judgment when necessary. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## モバイルプログラミング

Mobile programming

五月女 健治 [Kenji SAOTOME]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

MIT App Inventor (以降、App Inventor) により、モバイルアプリの作成を通して、基本的なプログラミング技術を学びつつ、ビジネスで必要となるさまざまな技術を体験することによって、企業人としての高度なITの知識の習得を可能とする。

現在の時代の転換期において、企業は本格的なデジタルトランスフォーメーション (DX) に取り組むべき時期にきている。しかし、企業人のITリテラシーは、そのスピードに対応できているのか。

App Inventor は、学校でのプログラミング教育に使用されているScratchと同じビジュアルプログラミングであると同時に、ビジネスで必要となる技術を利用して、本格的なモバイルアプリを作成できるプログラミング環境である。

対象は、中小企業を想定する。

## 【到達目標】

基本的なプログラミング技術と、ビジネスで必要となるさまざまなIT技術を、プログラミングを通して体験することによって、企業人としての高度なITの知識を習得する。

自身のソリューションを想定したアプリ作成ができるプログラミングスキルを習得したいときは、当科目を受講後に「モバイルプログラミング (アドバンス)」を受講すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

App Inventor を利用して、プログラミング技術の基礎を演習する。授業は、演算、分岐や繰り返しを行うプログラミングとしての基本的な機能とIT関連の外部機器やサービスを利用する機能 (コンポーネント) を使用して、基礎的なモバイルアプリの作成を行う。

各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	アプリ作成環境 講義	App Inventorでモバイルアプリを作成する開発環境について講義する。
第2回	アプリ作成環境 演習	App Inventorでモバイルアプリを作成する開発環境を、自身のPCとモバイル端末で構築する。
第3回	チュートリアル初級 講義	App Inventorが提供する基礎的なチュートリアルアプリについて講義する。
第4回	チュートリアル初級 演習	基礎的なチュートリアルアプリを作成し、App Inventorの基本を学習する。
第5回	プログラム構造 講義	演算機能、分岐や繰り返しを行う機能など、どのようなプログラミング言語にも備わっている必須の機能について講義する。

第6回	プログラム構造 演習	App Inventorによって、演算機能、分岐や繰り返しを行う機能を演習する。
第7回	チュートリアル中級 講義	App Inventorが提供するコンポーネントについて講義する。
第8回	チュートリアル中級 演習	応用的なチュートリアルアプリを作成し、App Inventorのアプリ作成方法を演習する。
第9回	コンポーネント 講義	コンポーネントについて講義する。
第10回	コンポーネント 演習	いくつかのコンポーネントを組み合わせて、アプリを作成する。
第11回	拡張機能 講義	App Inventorの拡張機能 (IoT) を講義する。
第12回	拡張機能 デモ	拡張機能 (IoT) を使用したアプリを作成するデモを行う。
第13回	まとめ	App Inventorについて、まとめる。
第14回	期末課題	期末課題のテーマ選定と作成に着手する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

## 【テキスト (教科書)】

講義資料を配布する。

## 【参考書】

・MIT App Inventorの公式サイト  
<https://appinventor.mit.edu/>

## 【成績評価の方法と基準】

各回の課題演習 (70%)、期末課題 (30%)。

期末課題として、この授業で習得したスキルに基づいて、以下のいずれかのテーマのレポートを求める。

・自身の企業・組織におけるプログラミングなどのIT教育  
・App Inventorによるアプリ作成

## 【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。

理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。このことは授業の最初にアナウンスする。

## 【学生が準備すべき機器他】

App Inventorのアプリを作成するPC (WindowsまたはMac) と、アプリの実行環境としてAndroidまたはiOSを搭載したモバイル端末 (スマートフォンまたはタブレット) が必要である。

## 【その他の重要事項】

必要な前提知識として、日常的な使用程度のモバイル端末の操作ができること。

プログラミングの知識・体験は、不要である。

オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。

大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

## 【Outline (in English)】

Using MIT App Inventor, it is possible to acquire advanced IT literacy as a business person by learning basic programming technology and experiencing various technologies required for business through the creation of mobile apps. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN510F2 (経営学 / Management 500)

## モバイルプログラミング (アドバンス)

Mobile programming:Advance

五月女 健治 [Kenji SAOTOME]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

専門科目

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

MIT App Inventor (以降、App Inventor) により、モバイルアプリの作成を通して、基本的なプログラミング技術を学びつつ、ビジネスで必要となるさまざまな技術を体験することによって、企業人としての高度なITの知識の習得を可能とする。

この科目は、科目「モバイルプログラミング」の応用科目である。この科目を受講することで、自身の課題を想定し、それを解決するITソリューションを実現するプロセスを体験する。この体験は、より高度なITの知識の習得を可能とする。

現在の時代の転換期において、企業は本格的なデジタルトランスフォーメーション (DX) に取り組むべき時期に来ている。しかし、企業人のITリテラシーは、そのスピードに対応できているのか。

App Inventorは、学校でのプログラミング教育に使用されているScratchと同じビジュアルプログラミングであると同時に、ビジネスで必要となる技術を利用して、本格的なモバイルアプリを作成できるプログラミング環境である。

対象は、中小企業を想定する。

## 【到達目標】

この科目は、科目「モバイルプログラミング」の応用科目である。自身の課題を想定し、それを解決するITソリューションを実現するプロセスを体験する。この体験によって、App Inventorまたは他のプログラミング言語によるアプリケーションの設計、作成の基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

App Inventorが提供する言語機能とIT関連の外部機器やサービスを利用する機能 (コンポーネント) の全体像を把握し、それらを利用して実現できるソリューション例を体験する。また、期末課題として、個別指導を行いつつ、自身のソリューションを実現する。各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	言語機能 講義	App Inventorが備えるリスト、辞書、関数など、言語としての応用機能について講義する。
第2回	言語機能 演習	リスト、辞書、関数など、応用機能を演習する。
第3回	コンポーネント1 講義	App Inventorが提供する各コンポーネントの基本的な機能と動作について講義する。
第4回	コンポーネント1 演習	約40種類のコンポーネントのうち20種類のコンポーネントの基本的な機能と動作について演習する。

第5回	コンポーネント2 講義	App Inventorが提供する各コンポーネントの基本的な機能と動作について講義する。
第6回	コンポーネント2 演習	約40種類のコンポーネントのうち20種類のコンポーネントの基本的な機能と動作について演習する。
第7回	ソリューション1 講義	App Inventorが提供するコンポーネントを統合したソリューション (例題1) について講義する。
第8回	ソリューション1 演習	ソリューション (例題1) の実現を演習する。
第9回	ソリューション2 講義	App Inventorが提供するコンポーネントを統合したソリューション (例題2) について講義する。
第10回	ソリューション2 演習	ソリューション (例題2) の実現を演習する。
第11回	拡張機能 講義	App Inventorの拡張機能 (IoT、AI) を講義する。
第12回	拡張機能 デモ	拡張機能 (IoT、AI) を使用したアプリを作成するデモを行う。
第13回	まとめ	App Inventorについて、まとめる。
第14回	期末課題	ソリューションを想定し、その実現に着手する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

## 【テキスト (教科書)】

講義資料を配布する。

## 【参考書】

・MIT App Inventorの公式サイト  
<https://appinventor.mit.edu/>

## 【成績評価の方法と基準】

各回の課題演習 (70%)、期末課題 (30%)。期末課題として、自身の課題を設定し、App Inventorにより、そのソリューションを実現する。必要なら、期末課題の一連の作業について個別に指導する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。このことは授業の最初にアナウンスする。

## 【学生が準備すべき機器他】

App Inventorのアプリを作成するPC (WindowsまたはMac) と、アプリの実行環境としてAndroidまたはiOSを搭載したモバイル端末 (スマートフォンまたはタブレット) が必要である。

## 【その他の重要事項】

必要な前提知識として、科目「モバイルプログラミング」の受講、またはプログラミング経験を必要とする。なお、プログラミング経験者の場合は、事前または必要になった時に、科目「モバイルプログラミング」の講義資料を参照する必要がある。期末課題について、それぞれの受講者の興味・スキルはさまざまであるので、自身に合ったソリューションを考える。そのためこれについては個別に指導する。オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

**【Outline (in English)】**

Using MIT App Inventor, it is possible to acquire advanced IT literacy as a business person by learning basic programming technology and experiencing various technologies required for business through the creation of mobile apps. This lecture is for Small to Medium Business.

This subject is the applied subject of the subject "Mobile Programming".

MAN550F2 (経営学 / Management 500)

## Global Management

Global Management

山本 晋也 [Shinya YAMAMOTO]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course aims to provide a comprehensive understanding of global management practices in the biopharmaceutical industry and the impact of emerging technologies, such as AI, on organizations. Students will explore the importance of knowledge and experience in current operational workflows, the challenges posed by the innovator's dilemma, and the significance of small organizations and social entrepreneurship in the global business landscape. Additionally, the course will cover topics related to web3, Decentralized Autonomous Organizations (DAO), and their implications for global management.

### [Goal]

1. To develop a deep understanding of the biopharmaceutical industry and its global management challenges.
2. To explore the impact of AI technologies on global management and decision-making processes.
3. To understand the importance of knowledge and experience in managing operational workflows.
4. To analyze the innovator's dilemma and its implications for global organizations.
5. To recognize the significance and potential of small organizations and social entrepreneurship in the global business ecosystem.
6. To comprehend the concepts of web3 and Decentralized Autonomous Organizations (DAO) and their implications for global management.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

### [Method(s)]

This course will employ a combination of lectures, case studies, group discussions, and guest lectures from industry experts. Real-world examples and practical applications will be emphasized to enhance understanding and critical thinking.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Introduction to Global Management and the Biopharmaceutical Industry	1. Global Business Environment 2. Current Industry Trends 3. Biopharmaceutical Industry
2nd	AI Technologies in Global Management	1. LLM (Large Language Models) 2. AI Agent 3. AGI (Artificial General Intelligence) 4. ASI (Artificial Superintelligence)

3rd	Cutting Edge Trends and Methods in the Biopharmaceutical Industry: Part I	1. Knowledge and Experience in Operational Workflows
4th	Cutting Edge Trends and Methods in the Biopharmaceutical Industry: Part II	1. The Innovator's Dilemma and its Impact on Global Organizations
5th	Cutting Edge Methods for Decision Making in the Global Management: Part I	1. Importance of Small Organizations (Startups) and Community in Global Management
6th	Cutting Edge Methods for Decision Making in the Global Management: Part II	1. Social Entrepreneurship in the Global Business Landscape
7th	Cutting Edge Methods for Decision Making in the Global Management: Part III	1. Introduction to web3 / Decentralized Autonomous Organizations (DAO) and their Implications for Global Management

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be expected to read relevant articles, case studies, and research papers as assigned before each class. They will also be required to actively participate in online forums and discussions related to the course topics. In general students may expect 3 to 5 hours per week required outside of class for reading and assignments.

### [Textbooks]

1. The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail - by Clayton M. Christensen
2. Lead and Disrupt: How to Solve the Innovator's Dilemma - by Charles A. O'Reilly III and Michael L. Tushman
3. Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know - by David Bornstein

### [References]

Additional reading materials and references will be provided throughout the course on relevant topics, such as AI in biopharmaceutical industry, DAOs, and web3 technology.

### [Grading criteria]

Grades will be based on class participation(30 pts), group projects(20 pts), field work(20 pts) and a final report(30 pts).

### [Changes following student comments]

I would like to try to let students learn practical lessons from actual cases of managing a global company.

### [Equipment student needs to prepare]

Laptop/Tablet for student should be prepared as BYOD (Bring Your Own Device).

### [Others]

This class is geared to aii organizations major/ medium/ small enterprises, startup, community, Central/ Local Government, Hospital and University/ Institute.

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[None]

None

【None】

None

【Outline (in English)】

This course aims to provide a comprehensive understanding of global management practices in the biopharmaceutical industry and the impact of emerging technologies, such as AI, on organizations. Students will explore the importance of knowledge and experience in current operational workflows, the challenges posed by the innovator's dilemma, and the significance of small organizations and social entrepreneurship in the global business landscape. Additionally, the course will cover topics related to web3, Decentralized Autonomous Organizations (DAO), and their implications for global management.

MAN550F2 (経営学 / Management 500)

## Business Communication in Japanese Organization

Business Communication in Japanese Organization

一守 靖 [Yasushi ICHIMORI]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course presents communication as a critical component for success in the workplace. To develop yourself as a leader who is capable of decision-making from a global perspective that takes consideration of various viewpoints, who possess thoroughgoing knowledge of Japanese small, mid to large corporations, who is capable of creating connections around the world, you have to become more aware of the differences between yourselves and people from other countries. In this class, you will learn cultural, behavioral and organizational differences between Japan and other countries, including your mother country, to make an effective communication strategy in a workplace.

### [Goal]

Upon successful completion of this class, you will be able to:

- Build an understanding of different organizational cultures, business practices, and social norms to communicate more effectively in Japan and cross-cultural business contexts.
- Employ principles of effective group communication to cultivate trust and understanding, increase open participation, and strengthen decision making in work groups and teams.
- Profile and develop your intercultural competence.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

### [Method(s)]

This class is conducted based on a case-method. Some lectures will also be provided to support the class discussion.

I will share my experiences how I communicated effectively in a real working place at a local and a multinational company. I also provide you an opportunity to communicate with non-Japanese people who have an experience in working with Japanese people so that you understand the real situation from a non-Japanese viewpoint. You can get may feedback by email when you submit a final report.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Class#1	Understanding the	Welcome
June 8	Foundations of Business	Course overview and policy The Foundations of Business
	Communication	Communication
Class#2	Cultural	Cultures and Organization
June 8	Differences	Trust Building

lass#3  
June 15 Human Resource Management in Japanese and Multi-National Company

Case: “I don’t want to take a new role”  
Questions  
Q1. Why the company changes her role so often?  
Q2. What are main features of Japan employment system and Human Resource management?

Class#4  
June 15 Individualism (Individualist vs. Collectivist)

Case: “Sense the Atmosphere”  
Questions  
Q1 Why did the procurement manager get angry?  
Q2 If you were Huang Yong, how would you communicate with the procurement manager?  
Q3 If you were the procurement manager, how would you communicate with Huang Young?

Case: “Expensive Signboard”  
Questions

Q1 Why did the marketing manager complete the sign-board setting by himself?  
Q2 If you were the marketing manager, how would you proceed the task?

Q3 If you were president Sugiyama, how would you communicate with the marketing manager?

Class#5  
June 22 Uncertainty Avoidance (Weak vs. Strong)

Case: Still 9:30 am!  
Questions  
Q1. How did Maha feel?  
Q2. Why did Mr. Tanaka check the progress in the (too) early stage?

Q3. If you were Mr. Tanaka (Maha), how would you communicate?

Case: “Ho-Ren-So”  
Questions

Q1.What is a “Ho-Ren-So” and what are benefits to do so?

Q2.Why Alili and Yama didn’t report the situation to Hamada-san?

Q3. How do you advise Hamada-san to improve the situation?

Class#6 June 22	Long-Term Orientation (Short-term vs. Long-term)	<p>Case: "I can't change it"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why did Mr. Takagi get angry?</p> <p>Q2. If you were Ann, how would you reply to Mr. Tanaka?</p> <p>Q3 How do you advise for Ann to improve the situation?</p> <p>Case "Same conclusion"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why did the customer get angry against Kamara's reply?</p> <p>Q2. Why did the customer ask the same question to Nisha?</p> <p>Q3. Why did the customer get satisfaction from the reply by Nisha, although it was the same reply as one Kamara did?</p> <p>Case: Sales Incentive Program</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why do Japanese employees think a sales incentive program was not effective for Japan office?</p> <p>Q2. Do you like the program or not? Why?</p> <p>Q3. How do you modify the program for Japan office?</p>	Class#8 June 29	Masculinity (Feminine vs Masculine)	<p>Case: "Nominucation 1"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. How do you think the president's behavior?</p> <p>Q2. If you were Yumi, how would you behave under the situation?</p> <p>Case: "Nominucation - Soramichi"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. If you were the president of a company, would you encourage "Nominucation" in your company? Why ?</p> <p>Q2. How, would you interpret the generational views on "Nominucation" presented in this case?</p> <p>Q3. In this case, the frequency of "Nominucation" was reported by age group. What other categories do you think are possible?</p>
Class#7 June 29	High / Low context culture	<p>Case: "I was delegated ..."</p> <p>Questions</p> <p>Q1. What was Mr. Ichikawa's expectation for Kumar?</p> <p>Q2. How did Kumar think when he got a request from Mr. Ichikawa?</p> <p>Q3. Please give Mr. Ichikawa and Kumar advice about how to avoid miscommunication next time.</p> <p>Case: "Please complete it like what you do with other Japanese company"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why did Japan team do sightseeing within the city before the meeting?</p> <p>Q2. How do you understand what Mr. Takahashi said at the last time?</p> <p>Q3. Why were Panda's expectations disappointed?</p>	Class#9 July 6	Power Distance (Small vs. Large)	<p>Case "New Japanese president in Korea"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why did president Tanaka behave like that?</p> <p>Q2. Why Korean employees didn't accept Tanaka's behavior?</p> <p>Q3. If you were president Tanaka, how would you behave?</p> <p>Case: "A capable boss"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. Why does Mr. Ueda get a good reputation from his subordinates?</p> <p>Q2. Why does Mr. Ueda get a low evaluation from Peter?</p> <p>Q3. How do you advise for Mr. Ueda if he needs to change his behavior? Why?</p> <p>Case: "No submission"</p> <p>Questions</p> <p>Q1. What is the problem from Jack's point of view?</p> <p>Q2. How well do you think Jack understands the reasons for Akash's behavior?</p> <p>Q3. What is Jack's proposal to solve the problem? What other solutions could be there?</p>
			Class#10 July 6	Business Communication - Japanese point of view	<p>Lecture 1</p> <p>Reality of business communication in large traditional Japanese company [Guest Speaker]</p> <p>Seiya Raiju, VP Global QA/RA at HOYA K.K.</p>

<p>Class#11 Managing conflict July 13</p>	<p>Case “Performance Improvement Plan” Questions Q1. how did this happen? Q2: If you were Manager Kizuki, how would you proceed? Q3: It is said that communication in business is becoming increasingly difficult. Why is this? And what can we do about it? Case: “Beautiful Format” Questions Q1. Do you agree with the explanation Mr. Yamashita did? Q2. Why is Japanese meticulous about the format? Q3. If you were Sharm, how would you do for the request? Case: “Delivery at an interim stage” Questions Q1. Why did the Japanese company test and point out a defect for incomplete product? Q2. What are problems at this stage? Q3. If you were Dill, how would you do to improve the situation?</p>	<p>(Cases in the book will be translated and distributed by lecturer – Translation was permitted by authors for the purpose of this class) 【References】 • Hofstede, G. et al. (2010) Cultures and Organizations: software of the mind: intercultural cooperation and its importance for survival 3rd edition, McGraw-Hill • Trompenaars, F. and Hampden-Turner, C. (2012) Riding the waves of culture – Understanding Diversity in Global Business, Clerkenwell, London • Meyer, E. (2015) The Culture Map – Decoding how people think, lead, and get things done across cultures, International edition, PublicAffairs, New York. 【Grading criteria】 Assignments Grade Weights Contribution to class discussion 80% Excellent(E)80% Good(G) 60% Average(A) 40% Poor(P) 0% Final report 20% Excellent(E)20% Good(G) 10% Average(A) 5% Poor(P) 0% Total 100% 【Changes following student comments】 Encourage students to share their opinion so that all of the participants learn from others, learn diversity. 【Equipment student needs to prepare】 N/A 【Others】 I have a long year’s experience as a HR Head at several multi-national/local companies and I can lead our discussion both theoretically and practically. 【Outline (in English)】 (Course outline)】 This course is to learn not only business communication but also cross-cultural management in a diverse work place. (Learning Objectives)】 The goal of this course is to build an understanding of effective communication in Japan and cross-cultural business contexts. (Learning activities outside of classroom)】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two to four hours to understand the course content (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (20%), and in-class contribution (80%).</p>
<p>Class#12 Business July 13</p>	<p>Communication – Non Japanese point of view Lecture How to work effectively with Japanese colleagues as a Non-Japanese</p>	
<p>Class#13 Cross Cultural July 20</p>	<p>Management Case “Ben &amp; Jerry’s Japan” Questions Q1. What are strengths, weaknesses, opportunities and threads of Ben &amp; Jerry’s ? Q2. What do you think Japanese consumers are looking for in ice cream? Q3. If you were a member of Ben &amp; Jerry’s top management team, what decision would you make - Go with Iida or Go with Yamada or No go?</p>	
<p>Class#14 Intercultural July 20</p>	<p>Competence Profile and develop an intercultural competence 1. Analyze your intercultural competency. 2. Create three personal development targets. 3. Share your personal development targets with class mates and get insights</p>	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You are required to read a case which will be provided in advance of the class, and prepare your thoughts on questions delivered together with the case.(As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】

近藤彩ほか著 『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』 ココ出版 ISBN978-4-904595-37-4 JPY1,728

MAN550F2 (経営学 / Management 500)

## Management Strategy

Management Strategy

栗原 浩一 [Koichi KURIHARA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

An effective management strategy is absolutely necessary for companies to create innovation. Students will learn the basic knowledge and essential skills to plan and practice management strategy.

### [Goal]

Management strategy is decision making necessary to achieve the company's goal. The purpose of this course is to systematically learn the basic knowledge and the theory which are necessary for planning management strategy, through case study and group discussions.

By planning strategies for specific case companies, students learn the process of planning a detailed strategy. Based on the basic knowledge and concepts such as the "five forces," SWOT, and the Balanced Scorecard, students improve their skill at analyzing companies' practical innovations. It is very important for students to have a thorough, structured, and consistent understanding of basic concepts and theories of strategic management.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP1", "DP2", "DP3" and "DP4".

### [Method(s)]

Basic concepts and theories for planning strategies are provided briefly in each lecture. Students must apply them to specific companies and plan the detailed strategies in their group work. Students will be expected to formulate an agenda for group work, develop a presentation file, and make a presentation and lead the subsequent discussion in the next lecture.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Guidance	What is management strategy? Process of planning a strategy; selection of specific case companies
2nd	Strategy	Definition of strategy Management strategy and innovation
3rd	Domain	Definition of domain Domain setting
4th	Competitive Strategy	Five forces Competitive Advantage
5th	Resource Strategy	Resource-based view VRIO
6th	Business Model	Business model creation Balanced Scorecard
7th	Discussion	Final presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each class included a detailed agenda for group work. Students must prepare a presentation file going over the results of group work in each lecture. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

[Textbooks]

Koichi Kurihara and Kiminori Gemba, Basic of Management Strategy, 2019, Amazon Kindle.

[References]

Michael E. Porter, Competitive strategy : techniques for analyzing industries and competitors : with a new introduction, Free Press ,1998

Jay Barney, Gaining and sustaining competitive advantage, Prentice Hall, 2002

[Grading criteria]

Class Participation:40%

Presentation:30%

Report:30%

[Changes following student comments]

The process of planning a strategy will be explained in detail.

[Outline (in English)]

An effective management strategy is absolutely necessary for companies to create innovation. Students will learn the basic knowledge and essential skills to plan and practice management strategy.

MAN550F2 (経営学 / Management 500)

## Strategic Organizational Management

Strategic Organizational Management

伊東 久美子 [Kumiko ITO]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This is a basic MBA course of Strategic Organizational Management, designed to give students basic knowledge and skills of management.

As a business leader, it is essential to learn options through a variety of experiences in order to flexibly adapt to the rapidly changing business environment. In this course, you will have them and understand the "real" businesses. "Experience" will be strongly emphasized through lectures, group work, field research, and discussions with members of Japanese companies in order to deeply understand Japanese companies by looking at the Japan-specific characteristics (such as its organizational management) from the global standard point of view.

You are expected to maximize this opportunity by taking this course for your own promising future career development.

### [Goal]

Course Objectives and Goals

By the end of this course, students are expected to be able to;

- 1) develop to understand the basics of managing people and organizations
- 2) be able to formulate basic strategies to manage organization
- 3) recognize the various challenges faced by today's managers and organizations in Japan

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP1", "DP2", "DP3", "DP4" and "DP5".

### [Method(s)]

In order to understand real businesses, this course will focus on experiential learning by integrating lectures, group work, field research, and discussions with members of Japanese companies.

You will be expected to actively participate in all classes.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Session 1-2	-Introduction -What is OB? -What is Strategy?	-Introduction of the concept and the requirement in this course -Essential factors of organizational management -How to prepare business presentations including formulating strategy -In-class activity and short quiz
Session 3-4	-Career development	-Guest speaker 1 -Career development -Career strategy -Sponsorship and Mentorship

Session 5-6	-Current issues in Japanese organization	-Diversity management -Cross-cultural understanding -In-class activity and short quiz
Session 7-8	-Leadership -Individual behavior -Team	-Leadership -Motivation, Trust -Team building -Role play and short quiz
Session 9-10	-Case study (Presentation)	Presentation
Session 11-12	- Working in International Business	-Guest speaker 2 -In-class activity and short quiz
Session 13-14	-Final quiz -Feedback	-Final written test 90 min -Feedback and lecture

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Group works and one-page paper for next class are required. Preparation 1.5 hours, review 1 hour, a total of 2.5 hours per week.

[Textbooks]

To be confirmed. Handouts and/or URLs to reference materials will be provided

[References]

"Fundamentals of Management" Global Edition, 2014 or 2013, by S. Robbins, D. DeCenzo and M. Coulter, published by Prentice Hall.

[Grading criteria]

Course grades are calculated according to the following method  
< 50%> : class attendance and submission of one-page paper answering a question assigned at each class session and small quiz at end of the class. The both paper work as a proof of your attendance and understanding.

< 30%> : active participation in class discussions and presentations.

< 20%> : final exam

More detailed information including schedule will be provided at the first class

[Changes following student comments]

No previous class

[Outline (in English)]

This is a basic MBA course of Strategic Organizational Management, designed to give students basic knowledge and skills of management.

As a business leader, it is essential to learn options through a variety of experiences in order to flexibly adapt to the rapidly changing business environment. In this course, you will have them and understand the "real" businesses. "Experience" will be strongly emphasized through lectures, group work, field research, and discussions with members of Japanese companies in order to deeply understand Japanese companies by looking at the Japan-specific characteristics (such as its organizational management) from the global standard point of view.

You are expected to maximize this opportunity by taking this course for your own promising future career development.

MAN550F2 (経営学 / Management 500)

## Business Practice in Japan

Business Practice in Japan

高田 朝子、Kenneth Pechter

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course provides an introduction to standard business practice in Japan. The purpose of this introduction is to provide general preparation for working in Japan, as well as specific preparation for the practical learning opportunities students will encounter in the form of internships or field research. Accordingly, this course also provides an overview of these practical learning opportunities, internship and field research. In the process, students will discuss and be exposed to key traits and behaviors that will help them to successfully navigate the GMBA program.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

### [Goal]

The goal of this course is to develop understanding of standard business practice in Japan, in order for students to make the most of their practical learning experiences via internships or field research. In the process, students work on developing key traits and behaviors to support successful completion of the GMBA program, as well as future careers both in and out of Japan.

Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of standard business practice in Japan, including:

- Business Professionalism in Japan
- Business Communication in Japan
- Organizational Behavior and Japan Regional Government
- Business Strategy in Japan
- Legal Compliance for Internships in Japan
- Business Manners in Japan

This learning is relevant to work in both large corporations as well as small & medium enterprises in Japan.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

### [Method(s)]

The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion, and be prepared to ask questions of concern based on their own experiences.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Business Professionalism in Japan

2	Organizational Behavior and Japan Regional Government	Regional government structure, organizational behavior and business practice in Japan
3	Legal Compliance for Internships in Japan	Legal and regulatory compliance while doing an internship in Japan
4	Business Manners in Japan Part I	Business manners and culture in Japan
5	Business Manners in Japan Part II	Business manners and culture in Japan
6	Consumer Psychology and Marketing in Japan	Characteristics of Japanese market, design and brand
7	Wrap-up	Integrity, accountability and business professionalism in Japan

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

For the most part, each week will be conducted as a separate unit, and so material will be provided in class. In the case that readings are required for a specific week's class, they will be assigned before, during or after class by individual instructors. Assignments may be assigned as needed in the form of short reports, presentations or take-home exams.

(In general students may expect few if any reading or other assignments outside of class.)

### [Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [References]

Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [Grading criteria]

[Final grade is determined by]

- ・ Professional attitude 60%
- ・ Assigned work in class 40%

Students will be assessed based on their overall professional attitude, and completion of assignments should any be assigned.

Professional attitude will be judged on characteristics including the following:

- Positive and cooperative attitude during class
- Active participation during class
- Proper and business-like communications in email and other submissions
- Critical assessment and decision-making
- Punctuality during class and with regard to communications and any required submissions

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

1 Practical Management Competency

Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

2 Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

3 Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

**[Changes following student comments]**

Not applicable

**[Equipment student needs to prepare]**

Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

**[Others]**

1) Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

2) Each class above (1~7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

**[None]**

None

**[None]**

None

**[None]**

None

**[None]**

None

**[None]**

None

**[Outline (in English)]**

This course provides an introduction to standard business practice in Japan. The purpose of this introduction is to provide general preparation for working in Japan, as well as specific preparation for the practical learning opportunities students will encounter in the form of internships or field research. Accordingly, this course also provides an overview of these practical learning opportunities, internship and field research. In the process, students will discuss and be exposed to key traits and behaviors that will help them to successfully navigate the GMBA program.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Accounting

Accounting

鳥飼 裕一 [Yuichi TORIKAI]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

In this course, we study the basics of financial accounting. After studying basic accounting theory, e.g. what is accounting, who is the user of accounting information, what is GAAP etc., we study how to prepare the financial statements and provide an analysis on the accounting information. We also study key areas in the financial accounting including consolidation, revenue recognition, pension accounting, deferred tax accounting for understanding the financial statements of listed companies. The objective of the class is to improve your understanding about accounting theory and practice, and build the ability to prepare the financial statements and provide the analysis on the accounting information.

## 【Goal】

The students are able to read the accounting information of listed companies, provide the analysis, and achieve a base for discussing the accounting treatment in the complex areas. The students will also be able to understand the structure and management of accounts for preparing the accounting information. Through this course, the students are expected to achieve the basic level for the various accounting license examination.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain“DP1”and“DP2”.

## 【Method(s)】

This is a lecture type class. However, some part of the class is allocated to a group discussion on the topics related to the lecture.

At each class quizzes and exams are also provided to confirm the students' understanding about the lecture.

The teaching materials are distributed in Resource section of the database before each class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Session 1	Introducing Accounting and Financial Statements	What is accounting? Who are the users of accounting information? Financial statements
Session 2	Generally Accepted Accounting Principles	Who are the SEC, AICPA, FASB, and IASB? What are Generally Accepted Accounting Principles(GAAP)?
Session 3	The Balance Sheet and its Components	Understanding the balance sheet Components of the balance sheet

Session 4	The Income Statement	Understanding the income statement Presentation of income statement
Session 5	The Double-Entry Accounting	The general journal The general ledger Trial balance Adjusting journal entries
Session 6	The Corporation	The definition of corporation What is capital stock? Cash dividends, stock dividends, and stock splits
Session 7	Preparing and Using a Statement of Cash Flows	What is a statement of cash flows? Cash and cash equivalents The presentation of the statement of cash flows
Session 8	Consolidated Financial Statements	Basis for consolidation Consolidation procedure Asset valuation Non controlling interest
Session 9	Revenue Recognition	Accounting for revenue from contracts with customers Application of 5 step model
Session 10	Pension Accounting	What is pension accounting? Defined contribution plan Defined benefit plans
Session 11	Deferred Tax Accounting	Impact of deferred tax on financial information Accounting base and tax base Temporary differences Accounting for deferred tax liability and tax asset
Session 12	Using Financial Statements for Short-term Analysis	Using short-term ratios Current and quick ratio Working capital
Session 13	Using Financial Statements for Long-term Analysis	Quality of earnings Rate of return on investment Sales-based ratios or percentage Earnings data Rate of return on investment
Session 14	Last Examination and its Explanation	Examination is set out of the subjects studied at this course. Explanation for the examination is provided in advance.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to prepare by reading the teaching materials and the corresponding area of the textbook before each class and review them after each class. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review are required).

【Textbooks】

Wayne A. Label, Accounting for Non-Accountants 3rd Edition, 2018, sourcebooks.

【References】

Wayne A. Label and Cheryl Kennedy Henderson, Study Guide and Workbook for Accounting for Non-Accountants 4th Edition, 2019, sourcebooks.

F. Greg Burton and Eva K. Jermakowicz, International Financial Reporting Standards A Framework-based Perspective, 2015, Routledge.

【Grading criteria】

Contribution to the class through participating to the discussion 30%, Short test 30%, Last examination 40%.

【Changes following student comments】

N/A

実務経験のある教員による授業科目 発行日：2024/5/1

**【Outline (in English)】**

N/A

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Logical Thinking vs Intuition

Logical Thinking vs Intuition

西出 香 [Kaori NISHIDE]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

Logical thinking is a powerful approach for decision making in complex situations. You will learn the theory and how to apply them in practice. However, intuition is sometimes more important than logical thinking. You will discuss in groups when it is wise to follow the logics and when to rely on intuition.

## 【Goal】

The goal of this course is to get familiar with logical thinking processes so that it becomes your natural thinking process. You will also sharpen your intuitive ability to make a good balance with logical thinking. By the end of this course, you will be able to approach to problems or issues logically based on existing data, information and own hypotheses, but also using the intuition.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

## 【Method(s)】

Lesson method

- The lessons consist of lectures of half an hour, followed by individual/group works and presentations.
- Theoretical input
- Application of logical thinking in case studies
- Simulation game in groups
- One lesson by a guest lecturer
- Writing a report in the final class

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guideline
2	Basic logical thinking	Theory and case studies
3	Problem breakdown	Lecture, individual work in a case study
4	Questioning your level of success	Simulation game: Fisherman
5	Analytical approach	Lecture, individual work in case studies
6	What-if analysis	Simulation game: Opening a coffee shop
7	Decision making in innovation	Lecture, individual work in case studies
8	Commitment from stakeholders	Group work in simulation games: Product marketing
9	Design-based thinking (guest lecturer)	Lecture
10	Design-based thinking (guest lecturer)	Design thinking workshop
11	Hypothesis verification	Lecture, individual work in case studies

12	Selling your products	Simulation game: Sustainable operation
13	Overall review	Simulation game: Community network
14	Writing a report	Assignment will be given during the class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Assignments 2 hours, review of the class 1 hour, apply in real life 1 hour. A total of 4 hours per week.

【Textbooks】

Slides will be mailed every week.

【References】

Students are required to read at least one book of their choice over the summer to present in class.

【Grading criteria】

Performance in group works (discussions and presentations) 50%

Final exam (writing a short report based on a case study) 50%

【Changes following student comments】

Gives opportunities to consider whether or not the current way of making decision is the best approach for the given complex situation. The course is practice-oriented.

【Equipment student needs to prepare】

PC and internet.

【Prerequisite】

Willingness to switch your current thinking process towards a more flexible and creative way.

【Outline (in English)】

The class consists of a short lecture of theory, individual work and simulation game in groups. Students will be given a number of case studies with multiple conditions how to make decisions in complex situations. We will discuss possible solutions and the reasoning. In a real life, however, we often have to cope with conflicting interests and uncertainties, whereby flexible and creative solutions are also required based on logical thinking. Students will be challenged to take unprecedented solutions, taking other aspects into consideration such as human relation, effective leadership and different interests of stakeholders.

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Financial Management

Financial Management

関 雄太 [Yuta SEKI]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

In terms of financial management, corporate managers should be able to deal with two fundamental issues: (1) Selecting an investment project that maximizes the value of a firm, and (2) Choosing an appropriate financial policy (of dividend or capital structure) to persuade investors or banks to provide funds. This course aims at providing basic principles of corporate finance and investment theories. The course also covers topics such as concepts of net present values and cost of capital, valuation of debt instruments (bonds) and equities, firm valuation and portfolio theories. The course uses simple problem sets that require students to calculate net present values or to build models analyzing ROEs and other important ratios. This course is suitable for students who will be working both at large companies and at small- & mid-sized companies, but most case studies would be based on numbers of publicly traded companies.

### [Goal]

At the end of this course, students should be able to:

1. Understand key theories, principles and trends in corporate finance
2. Demonstrate effective approaches to the analysis of corporate finance structure and corporate financial statements, using applicable ratio analysis tools and techniques
3. Assess the practical application of models and theories to decisions on investment
4. Understand how investors evaluate corporations in the capital market and what corporate managers try to do to maximize their firm values.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP4”.

### [Method(s)]

1. Lecturing: Students will be asked to preview materials (and textbooks) and to be ready for discussion on related topics. Short quiz might be presented to check the learning progress.
2. Case analysis: Students will be assigned to create and conduct a brief presentation to analyze a certain publicly-traded company for applying financial models and for learning investment decision making methods intensively

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
第1回	Financial Management Overview	A general guidance on the course method. Understand the basic concept of corporate finance and goal of corporation. In order to comprehend the role of financial management, discuss the relationships amongst corporate managers, shareholders, banks and other stakeholders. Reading assignment: Desai Introduction, Chapters 1 and 3. Brealey, Myers and Allen (BMA) Chapter 1
第2回	How to Calculate Present Values	Understand the time value of money and the basics of net present value calculation Reading assignment: Desai Chapters 1 and 2. BMA Chapter 2.
第3回	Valuing Bonds	Overview the variety of corporate financing methods. Understand the bond price calculation and the term structure of interest rate. Learn the basics of corporate bond and credit market Reading assignment: Desai Chapters 1 and 2. BMA Chapter 3.
第4回	Valuing Equities	Overview the publicly-traded equity market. Understand the basic concept of dividends and cash flows, the valuation methods of equities such as Dividend Discount Model Reading assignment: Desai Chapters 1, 2 and 3. BMA Chapter 4.
第5回	Financial Analysis (1): ROE (Return on Equity) and Value Creation	Understand the analytical tools on financial performance and profitability including ROE. Able to utilize various ratios. Reading assignment: Desai Chapters 2, 4 and 5.
第6回	Financial Analysis (2): Free Cash Flows	Understand the difference between accounting and financial perspectives. Analyzing cash flows based on actual cases. Reading assignment: Desai Chapters 2, 4 and 5.
第7回	Cost of Capital (1): WACC and Optimal Capital Structure	Understand how to measure cost of equity and the concept of weighted average cost of capital (WACC). Understand the optimum level of debt and dividend payout. Discuss how capital structure impacts on firm values Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapters 7, 8 and 9.

第8回	Cost of Capital (2): Risks Associated with Investment and CAPM	Understand the relationship between risk and return in the capital market. Understand the implication of beta as the expected return by the investor and the impact on the firm valuation Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapters 7, 8 and 9.	ISBN10: 1633696707 ISBN13: 9781633696709 Brealey, R., Myers, S., and Allen, F., "PRINCIPLES OF CORPORATE FINANCE" 13th Edition [BMA], McGraw-Hill, (2020) ISBN10: 1260013901 ISBN13: 9781260013900 Lecture notes in a form of power point presentation would be provided in advance together with necessary cases.
第9回	Firm Valuation: Discounted Free Cash Flow Model and Alternative Models	Able to integrate various methods to evaluate a firm as a whole. Understand other valuation models and useful ratios. Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapter 4	<b>[References]</b> Jonathan Berk and Peter DeMarzo, "Corporate Finance", 5th Edition, Global Edition, Pearson Education (2019) ISBN10: 12923044154 ISBN13: 9781292304151 <b>[Grading criteria]</b> Final case assignment (material and presentation): 50% Quiz and interim assignments: 30% Contribution to the class: 20%
第10回	Capital Allocation and Payout Policy	Understand the basic decision making process of capital allocation. Discuss how payout (dividend and share repurchase) impacts on firm values Reading assignment: Desai Chapter 6. BMA Chapters 12 and 16	<b>[Changes following student comments]</b> Based on the experience last year, we will try to discuss more qualitative issues. Certain number crunching works cannot be avoided but you don't have to memorize formulas. Focus on understanding the relationship between corporate management and financial markets. Also the lecture notes should be posted Hoppii folder prior enough to each class so that students can preview them. Furthermore, we try to keep interactive even in lecturing session and active feedbacks from the class are highly appreciated. The situations in corporate finance and capital market may vary between regions or countries. I would appreciate if you could bring insights or practical experiences in your home country into the class discussion.
第11回	M&A and Corporate Restructuring	Understand the dynamics of M&A activities and how a leveraged buyout works in order for a private equity fund to capture the values created by turnaround Reading assignment: Desai Chapters 5 and 6. BMA Chapters 31 and 32	<b>[Equipment student needs to prepare]</b> Microsoft Excel is required to understand and exercise financial formulas and ratios.
第12回	Venture Capital and IPO	Understand the corporate growth cycle and the role of venture capital fund. Discuss the issues associated with pricing/valuations when a startup tries an initial public offering Reading assignment: Desai Chapters 3 and 5. BMA Chapter 15.	<b>[Others]</b> Any questions and inquiries are welcome before and after class. Also students can contact lecturer by email anytime during the course. <b>[Outline (in English)]</b> In terms of financial management, corporate managers should be able to deal with two fundamental issues: (1) Selecting an investment project that maximizes the value of a firm, and (2) Choosing an appropriate financial policy (of dividend or capital structure) to persuade investors or banks to provide funds. This course aims at providing basic principles of corporate finance and investment theories. The course also covers topics such as concepts of net present values and cost of capital, valuation of debt instruments (bonds) and equities, firm valuation and portfolio theories. The course uses simple problem sets that require students to calculate net present values or to build models analyzing ROEs and other important ratios. This course is suitable for students who will be working both at large companies and at small- & mid-sized companies, but most case studies would be based on numbers of publicly traded companies.
第13回	Corporate Governance	Understand the current issues on corporate control and governance by considering the asymmetric information problem and principal-agent model Reading assignment: Desai Chapters 3, 4, 5 and 6. BMA Chapter 33.	
第14回	Current Issues on Corporate Finance and Capital Market	Review key principles of corporate finance and discuss the recent issues of capital market such as ESG related debate.	

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

Students are usually required to spend 3 to 4 hours per week outside of class for reading class materials and assignments. In addition, students who are not familiar with finance and accounting would need some self-study to enhance the level of basic understandings.

**[Textbooks]**

Mihir A. Desai, "How Finance Works: The HBR Guide to Thinking Smart about the Numbers" [Desai], Harvard Business Review Press (2019)

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Global Economic Issues and Innovative Solutions

Global Economic Issues and Innovative Solutions

谷口 和繁 [Kazushige TANIGUCHI]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

In order to become a successful policy maker and/or a business leader, it is critical to understand the state of global economic development and policy issues such as sustainable development goals (climate change, global health and gender equality, etc.). This course will provide you with knowledge and methodology to identify issues and find possible policy options, particularly focusing on innovative solutions. You will learn cross-country analysis and cross-sectoral approach to make your proposal more convincing and operational. You will also learn lessons from Japan's experiences. In addition, you will learn the important role of private sector and social entrepreneurship.

### [Goal]

Upon completion of the class, you will be able to:

1. Understand and evaluate the current global economic developments and key policy issues such as climate change, global health and gender equality;
2. Understand Japan's economic and social experiences after the collapse of bubble and rapid aging as a reference for other countries;
3. Design policy options and operational measures with cross-country analysis and cross-sectoral approach that are commonly used in the managerial/operational decision making in the World Bank;
4. Understand how to design an innovative solution with financial and technological instruments;
5. Learn skills to make presentation; and
6. (if requested by students) Learn critical skills to write and improve CVs.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP4”.

### [Method(s)]

Lecturing with Power Point presentation, reading/researching relevant info/data through websites, class discussions, and individual and group presentations.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
第1回	Overview of class objectives	Increased role of developing countries.
	Current developments of global economies	Increased cross-border activities. Importance of demographic trend. Global risks and opportunities. Explanation of cross-sectoral approach and cross-country analysis.

第2回	Current/historical developments of Japanese economy	Rapid growth after the war, sluggish economy after the bubble. Huge budget deficit and demographic challenge.
第3回	Sustainable development goals	Understanding SDGs and use of cross-sectoral approach and cross-country analysis.
第4回	Sustainable development goals - How to achieve?	Class discussion (individual presentation) on SDG policy options using cross-sectoral approach and cross-country analysis
第5回	Economic Development Assistance - Options of interventions	Increasing number of donors. Increased role of private sector. From charity to investment. Grant, loan and investment. Multilateral and bilateral approaches.
第6回	Multilateralism – Agenda and implementation. Human Resource Management.	Key international schemes for multilateral cooperation - United Nations and World Bank. Human resource management and recruitment.
第7回	Role of private sectors	Importance of direct Investment and measures to promote it. Importance of small and medium enterprises.
第8回	Ethics of economic development	Social entrepreneurship. Negative implications of economic development such as pollution, corruption, and harmful tax practices. Role of safeguard.
第9回	Innovation (including technology and finance) and social entrepreneurship for economic development	Importance of innovative approaches including technology and finance to avoid bottlenecks and generate sustainable growth. Issue-driven/demand-driven instead of supply-driven.
第10回	Specific issues - gender	Gender - Champion of cross-sectoral approach. Mainstreaming of gender as policy agenda and business practices.
第11回	Specific issues - quality infrastructure	Infrastructure as means of sustainable development including disaster risk management. Importance of logistics.
第12回	Specific issues - global health	Global health - cross-sectoral approach (sometimes clean water is more important than expensive medicine) and role of finance.
第13回	Individual presentation and discussion – Cross sectoral approach (such as health, education and infrastructure)	Individual presentation - Student will pick one sectoral issue and propose possible solutions with cross-sectoral approaches. Cross-country analysis will be also recommended.

第14回 Group presentation and discussion – social entrepreneur and technological/financial solutions Group will pick one sector/issue and design innovative solutions with new technology and/or financial instruments or new application of existing technology.

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

Those who are not familiar with the basics of development economics might wish to do some self-study to enhance the level of basic understanding. Lecture notes would be provided in the form of power point presentation and/or short memo. Websites of the World Bank and other relevant institutions are critical to understand the issue. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

**[Textbooks]**

Textbook will not be used.

**[References]**

Websites of World Bank and other relevant institutions including Japanese ministry of finance will be used. These include:

<https://www.worldbank.org/en/home>

<https://data.worldbank.org/>

<https://www.mof.go.jp/english/>

**[Grading criteria]**

Method of evaluation

Group presentation 40 %

Individual presentation 30%

Contribution to the class discussion 30 %

**[Changes following student comments]**

I appreciate active feedback from the class and encourage each student to contribute to the class discussion and ask questions.

**[Equipment student needs to prepare]**

PC or other devices to view websites of relevant institutions and prepare presentation.

**[Outline (in English)]**

In order to become a successful policy maker and/or a business leader, it is critical to understand the state of global economic development and policy issues such as sustainable development goals (climate change, global health and gender equality, etc.). This course will provide you with knowledge and methodology to identify issues and find possible policy options, particularly focusing on innovative solutions. You will learn cross-country analysis and cross-sectoral approach to make your proposal more convincing and operational. You will also learn lessons from Japan's experiences. In addition, you will learn the important role of private sector and social entrepreneurship.

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Human Resource Management in Japan

Human Resource Management in Japan

Nichols David [Nichols David WILLIAM]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### 【Outline and objectives】

Every company, government and non-government organization must manage its human resources taking into account how its human resources will be used to support the organization's primary mission. While companies in Japan have the similar human resource management requirements as other organizations throughout the world, the way that HRM is executed in Japan has been greatly influenced by Japanese history, society and culture. This course will focus on how human resources are managed in companies in Japan both presently and how it may evolve in the future.

The course objective is to give students an understanding of how and why human resource management is applied by companies operating in Japan and be able to apply that understanding to operate successfully in the Japanese business environment both now and as human resource needs change in the future to address societal, economic and demographic changes.

While HR professionals are welcome, this course is intended to enable line managers to maximize the impact of the human resources they are responsible for managing.

### 【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- Explain how Human Resources are typically managed by companies in Japan, and the strengths and weaknesses of the Japanese approach
- Understand how historical, cultural, demographic, and other societal factors influenced human resource management in Japan
- Develop a point of view about how HRM in Japan differs from other markets around the world and situational positive and negatives of the Japanese system relative to other systems
- Analyze the implications for managers building their careers in the Japanese business environment
- Hypothesize how HRM in Japan will evolve in response to the global economy and Japan's changing society

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP4”.

### 【Method(s)】

Lecture / Group discussion / Activity /Presentation

1 Lecture

2 Group discussion

3 Group activity to re-enforce lecture concepts

4 Written report

5 Presentation of final project

Students are expected to read all pre-assignments

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & the fundamentals of HRM	- Self-introduction – students & instructor - HRM and the company mission - 7 policies of traditional Japanese HRM
2	Societal changes impacting Japanese HRM	- Declining & aging population - Female participation in the workforce - Technology - Globalization including foreigners in Japan
3	Lifetime Employment	- Key characteristics of lifetime employment - What % of workforce actually included? (myths of Japanese HRM) - Strengths and weaknesses - Temporary workers
4	Life Inside the Company	- Recruitment - Training & development - Performance evaluation - Explanation of titles - Employee retention - Retirement
5	Life Inside the Company 2	- Compensation and promotion - Legal and market framework - Employee grievances and dispute resolution
6	Japanese HRM Changing to Meet the Future	- Addressing social change - The changing business environment - Diversity & inclusion - Going global and accepting HR imports
7	Summary and Presentations	- Course summary - Project presentations - Group Feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to read the assigned articles provided before class. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

### 【Textbooks】

articles will be posted on the Learning Management System.

### 【References】

None

### 【Grading criteria】

Class participation and attitude 40%

Peer evaluations 10%

Written report 20%

Final project 30%

### 【Changes following student comments】

Will give more specific guidance on which specific articles are relevant for specific classes.

### 【Equipment student needs to prepare】

Materials and equipment necessary to deliver presentations

### 【Others】

Office hours: after each lecture

**【Outline (in English)】**

Every company, government and non-government organization must manage its human resources taking into account how its human resources will be used to support the organization's primary mission. While companies in Japan have the similar human resource management requirements as other organizations throughout the world, the way that HRM is executed in Japan has been greatly influenced by Japanese history, society and culture. This course will focus on how human resources are managed in companies in Japan both presently and how it may evolve in the future.

The course objective is to give students an understanding of how and why human resource management is applied by companies operating in Japan and be able to apply that understanding to operate successfully in the Japanese business environment both now and as human resource needs change in the future to address societal, economic and demographic changes.

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Managing Talent

Managing Talent

豊嶋 晴美

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

The goal of this course is to understand and be able to explain Japanese work society and its globalization particularly from different aspects, such as business communicating across cultures in workplace, organizational behavior, human capital management, general local recruiting process, and learning and development. This course helps students apply the knowledge to achieve preparation for working in Japan with various nationalities of people and managing organizational people who are critical to achieve their mission. Class will be conducted closely with instructor. This course is applicable to the both corporate size and small size of company, but if we had to choose one, then corporate is more suitable to practice.

### [Goal]

By the end of the course:

1. Students are able to practice and develop their business communications skills to communicate with people who have Japanese cultural background, as well as others with various different cultural backgrounds.
2. Students are able to understand what managing talent means today on the front lines.
3. Students are able to understand the importance of the basic concepts of recruiting, training, OJT (On the Job Training), feedback and counselling in managing talent.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

### [Method(s)]

#### IN-CLASS ACTIVITY WORKSHEETS:

This course uses In-Class Activity Worksheets as a way to facilitate students' in-class discussion activities (e.g., group discussions) as an important learning activity of this course. This worksheet lists several open-ended questions relevant to the main topic of the class and provide some space for each question in which to handwrite the answer.

#### LECTURES WITH POWERPOINT SLIDES:

Each lecture is delivered with a set of PowerPoint presentation slides that will be projected in the classroom.

Over the course of this semester, students are required to take notes on all major information delivered through the PowerPoint lecture slides in each class.

#### PRESENTATION AND FINAL PAPER:

The topic to be announced in the early stage of this course. The topic of both the final paper and the presentation will be the same.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Welcome to this course	-Course & Class Introduction
2	What is managing talent?	-Human Capital Management

3	Japan business uniqueness	-Japan labor environment -Japan organization structure and behavior -Retention
4	What does talent value?	- Competency - Specialty
5	How can we measure?	- Social skills
6	Communications	-Communications style with people who have Japanese cultural background
7	What are key concepts for talent managing by recruiting leader/learning and development leader?	- Recruiting - Learning - On the job training(counseling/feedback)
8	What are you being expected by recruiter from company?	-Recruiting process and placement
9	What is effective way of communications?	- Diversity, Equity, and Inclusiveness - Work ethic
10	Comparisons between Japanese working style and other country's	-Students will be allowed to choose one country to compare with Japan work society
11	Presentation by students	-Topic to be announced
12	Presentation by students	-Topic to be announced
13	Human Resources technology today at front line	-People data analytics -People engagement -Digital HR
14	Course wrap-up	Course wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to prepare their assignments, presentation, and final paper by the due date. Students' preparation and review time will be 4 hours per course. Further details will be announced in the course.

### [Textbooks]

For this course, students are NOT required to purchase any textbook. Instead, students are expected to research by their own outside of class for paper.

### [References]

Again Students are NOT expected to buy any books. The books are only references.

GALLUP and Tom Rath

StrengthsFinder 2.0

The new book has your unique access code to take the assessment. This access code is valid for one use only. Do not buy this book if this packet has been opened, therefore the used book is not suitable.

Erin Meyer

Culture Map

### [Grading criteria]

1. Class Attendance: 20%
2. Class Participation: 30%
3. In-class Paper Presentation: 10 %
4. Final Research Paper: 40 %

[Changes following student comments]

More case studies to be included to practice

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

N/A

**【Contact】**

Contact: If you have questions or other needs for communication with the instructors, please send email to;

Harumi Toyoshima's email :

harumi.toyoshima.33@hosei.ac.jp

Kiyohito Shiraishi's email: kiyoinstructor@gmail.com

**【Warning】**

Making copy from other student's case material is the infringement of copyright. IF ILLEGAL COPY IS FOUND, THE CREDIT WILL NOT BE AWARDED.

**【Outline (in English)】**

The goal of this course is to understand and be able to explain Japanese work society and its globalization particularly from different aspects, such as business communicating across cultures in workplace, organizational behavior, human capital management, general local recruiting process, and learning and development. This course helps students apply the knowledge to achieve preparation for working in Japan with various nationalities of people and managing organizational people who are critical to achieve their mission. Class will be conducted closely with instructor. This course is applicable to the both cooperate size and small size of company, but if we had to choose one, then corporate is more suitable to practice.

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Opportunity and Entrepreneurship in Japan

Opportunity and Entrepreneurship in Japan

KENNETH G PECHTER [Kenneth Gordon PECHTER]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course provides an introduction to entrepreneurship and related opportunities in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core seeks to link the power of emerging ideas to the development of profitable business. Entrepreneurship is a key mode for this linkage. The Japan specific context for entrepreneurship is explored, along with the evolving nature of work and the career opportunities and challenges connected to this evolution.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

Note that this course does not repeat the same content that is contained in similarly named courses the same Spring 2nd Quarter, Professor Komura's Entrepreneurship and New Business Creation and Professor Connor's Leadership, Strategy, and Entrepreneurship. In fact, the three courses complement each other well.

### [Goal]

The goal of this course is to develop understanding of the opportunities and challenges related to entrepreneurship in Japan, and the forces driving them. Upon completion of the course, students should be able to answer the question, What is entrepreneurship and why does it matter? Students should understand the specific context for entrepreneurship in Japan, and the major constraints driving change in this context. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the opportunities afforded by entrepreneurship – both to the entrepreneurs themselves and to the broader workforce – for both large corporations as well as small & medium enterprises.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”and“DP5”.

### [Method(s)]

The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is entrepreneurship, and what opportunities does it create?

2	Innovation & Organizations	The interaction between organizational dynamics and the innovation process
3	Entrepreneurship	The role of entrepreneurship in innovation
4	Entrepreneurship in Japan	Long-term postwar growth, the bubble economy, the lost decades, 311 and beyond
5	Escalators vs Elevators	Models for career advancement
6	Work, Love, Play and The Gig Economy	New opportunities for work in the Gig Economy
7	What's Next?	Outlook for opportunity & entrepreneurship

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.

(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

### [Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [References]

Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [Grading criteria]

Participation and ability to use concepts 50%

Mid-term assignments 20%

Final assignments 30%

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

1 Practical Management Competency

Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

2 Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

3 Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

[Changes following student comments]

Not applicable

**【Equipment student needs to prepare】**

Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

**【Others】**

1) Office Hours:

Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)

2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

3) Each class above (1~7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

**【Outline (in English)】**

This course provides an introduction to entrepreneurship and related opportunities in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core seeks to link the power of emerging ideas to the development of profitable business. Entrepreneurship is a key mode for this linkage. The Japan specific context for entrepreneurship is explored, along with the evolving nature of work and the career opportunities and challenges connected to this evolution.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Media and Entertainment

Media and Entertainment

KENNETH G PECHTER [Kenneth Gordon PECHTER]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course provides an introduction to the Media & Entertainment industries. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core points to a major challenge of such industries: developing profitable business out of creative activity. These industries include TV, film, animation, gaming, publishing and other creative industries, with an emphasis on the situation in Japan.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

### [Goal]

The goal of this course is to develop understanding of the Media & Entertainment industries, and the forces driving them. Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of the main components of these industries in Japan and overseas, of the specific characteristics of these industries in Japan, and of the major constraints driving change in these industries. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the strategies for competition and growth suitable to these industries for both large corporations as well as small & medium enterprises.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

### [Method(s)]

The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What are the media & entertainment industries, and why do they matter?
2	Media & Economic Development	The role of the media & entertainment industries in economic development
3	Media & Innovation	Creative industries and innovation in Japan
4	Film & TV Industries	Film industry, TV industry, etc.

5	Entertainment & Other Visual Media Industries	Visual media entertainment, manga, anime, games, etc.
6	Music & Media Industries	Music industry, distribution & payment models
7	What's Next?	Outlook for media & entertainment

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.

(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

### [Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [References]

Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

### [Grading criteria]

Participation and ability to use concepts 50%

Mid-term assignments 20%

Final assignments 30%

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

1 Practical Management Competency

Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

2 Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

3 Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

[Others]

1) Office Hours:

Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)

2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

3) Each class above (1~7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

**【Outline (in English)】**

This course provides an introduction to the Media & Entertainment industries. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core points to a major challenge of such industries: developing profitable business out of creative activity. These industries include TV, film, animation, gaming, publishing and other creative industries, with an emphasis on the situation in Japan.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Marketing in Japan

Marketing in Japan

大澤 裕 [Yutaka OSAWA]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

The objectives of this course are to learn practical marketing method in Japan and to gain a deeper understanding of its theory.

Specifically, the students will learn how to effectively attract interest in products/services, and how to build win-win relationships with sales partners in Japan.

(Each student will choose a product or service that he/she would like to sell in Japan.)

### [Goal]

The goals of this course are as follows;

1) To master how to advertise products/services attractively, how to create marketing materials, and how to make presentations.

2) To master negotiation skills for creating win-win relationships with sales partners in Japan.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

### [Method(s)]

Lecture / Presentation / Discussion

Each student will create marketing materials and make presentations to market a product of his/her choice in Japan.

Presentations will be made several times. By getting feedback from other classmates and outside guests, you will come to understand your strengths and weaknesses.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Lecture	<ul style="list-style-type: none"> <li>Types of sales partners</li> <li>Difficulties of marketing in Japan</li> </ul>
2	Self-Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>Self-introduction and introduction of a classmate</li> </ul>
3	Lecture	<ul style="list-style-type: none"> <li>Business practice in Japan</li> <li>Win-win relationships with sales partners</li> </ul>
4	Presentation /Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation and discussion of what products/services you want to sell in Japan</li> </ul>
5	Lecture	<ul style="list-style-type: none"> <li>How to prepare catalogs and marketing materials</li> <li>Tradeshows</li> </ul>
6	Presentation /Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation to end-users in Japan</li> <li>Discussion about the presentations</li> </ul>
7	Lecture	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sales Promotion</li> <li>How to approach distributor</li> </ul>

8	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation to distributors in Japan</li> <li>Discussion about the presentations</li> </ul>
9	Lecture	<ul style="list-style-type: none"> <li>Pricing Strategy</li> <li>How to approach manufacturer</li> </ul>
10	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation to manufacturers</li> <li>Discussion about the presentations</li> </ul>
11	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentations for end-users, distributors and manufactures</li> </ul>
12	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Discussion regarding marketing materials and presentations</li> </ul>
13	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Final presentations for end-users, distributors and manufactures</li> </ul>
14	Presentation / Discussion	<ul style="list-style-type: none"> <li>Final presentations for end-users, distributors and manufactures</li> </ul>

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each student will prepare six PowerPoint presentations. (As a standard, 4 hours for preparation and 1 hour for review: a total of 5 hours.)

[Textbooks]

None

[References]

None

[Grading criteria]

Class participation 30%

1-6th presentation 30%

Final presentation 40%

[Changes following student comments]

One student commented that there was a little too much homework, but I believe that the content of the assignments should be the same as in the previous year.

[Equipment student needs to prepare]

Personal computer

[Outline (in English)]

The objectives of this course are to learn practical marketing method in Japan and to gain a deeper understanding of its theory.

Specifically, the students will learn how to effectively attract interest in products/services, and how to build win-win relationships with sales partners in Japan.

(Each student will choose a product or service that he/she would like to market in Japan.)

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Service Management in Japan

Service Management in Japan

KENNETH G PECHTER [Kenneth Gordon PECHTER]

単位数：2単位

学期：秋学期後半/Fall(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

This course provides an introduction to Service Management in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, for which the service sector is a key and growing platform, and which also provides a framework for understanding challenges to service sector growth in Japan. The Japan-specific context for Service Management is explored, with special attention on such cultural artifacts as “omotenashi” - Japanese style hospitality - which is widely considered to be a core asset of Japanese service offerings.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

## 【Goal】

The goal of this course is to develop understanding of Service Management in Japan, and the forces driving it. Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of the main components of and expectations for the service sector in Japan and overseas, of the specific characteristics of services in Japan, and of the major constraints driving change in them. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the word “Omotenashi” (Japanese style hospitality), which has become the focal point for the discussion of services and Service Management in Japan for both large corporations as well as small & medium enterprises.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP1”, “DP2”, “DP3”, “DP4” and “DP5”.

## 【Method(s)】

The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is service management?
2	Global Promise of Services	Economic development and the service sector
3	Promise of Services in Japan	Economic development and Japan's service sector
4	Services & Innovation	Problem solving, organizational dynamics and service management

5	Inside the Black Box of Service Businesses	Japanese-style communication and the service business value chain
6	Tourism and Omotenashi	What is Omotenashi, and does it make an industry?
7	What's Next?	Outlook for service management

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.

(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

## 【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

## 【References】

Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

## 【Grading criteria】

Participation and ability to use concepts 50%

Mid-term assignments 20%

Final assignments 30%

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

1 Practical Management Competency

Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

2 Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

3 Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

## 【Changes following student comments】

Not applicable

## 【Equipment student needs to prepare】

Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

## 【Others】

1) Office Hours:

Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)

2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

3) Each class above (1~7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

**【Outline (in English)】**

This course provides an introduction to Service Management in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, for which the service sector is a key and growing platform, and which also provides a framework for understanding challenges to service sector growth in Japan. The Japan-specific context for Service Management is explored, with special attention on such cultural artifacts as “omotenashi” - Japanese style hospitality - which is widely considered to be a core asset of Japanese service offerings.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Innovation in Global business

Innovation in Global business

BIERER, Wolfgang [BIERER, Wolfgang]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

In this course we will study innovation in an increasingly global business environment. We will develop an innovation toolkit with state of the art tools to improve processes and team performance designed to enhance collaboration and iteration in global development. We will discuss with industry leaders real business cases, research innovation leaders' in global business and work on developing our own innovative business ideas.

### [Goal]

- 1) To understand the innovation framework and how to apply modern tools
- 2) To understand key challenges and benefits of Global Innovation Management
- 3) To create your own innovative business ideas

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

### [Method(s)]

The approach for this course is active in-class discussion, lectures and interaction with real business leaders. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments and exams.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
09/23	Introduction Framework of Innovation Think Globally - Innovate locally	What is innovation? Types of innovation and what innovation is in a global context and why it is so important. Learning modern tools and processes of innovation.
09/30	Design Thinking and innovation process	Learn how design thinking works, learn the processes and apply it to use cases in teamwork. Prepare presentation and questionnaire to discuss with our future guest Hiromi Hara, MD of SAP LABS JAPAN

10/07	Doblin's 10 Types of Innovation	We learn how globalization and foreign competition increase the pressure for businesses to innovate continually. Doblin's 10 Types of Innovation is a framework that helps to identify elements of the business can be innovated. We will learn the components and apply it to a business case.
10/14	Innovation in the world leading truly global software company - SAP	Our guest Hiromi Hara, MD of SAP LABS JAPAN will give us her insights into Design Thinking and corporate innovation processes on global scale and will discuss with us our presentation and questions prepared in our previous session.
10/21	Analysis of the global innovation strategies of most innovative companies in 2023	3 teams will research innovation strategies from top 100 innovative companies and present it in class
10/28	Climate change is the most demanding area for innovation - how companies address this issue	Lecture and discussion with business leader(tbd) in this area how to tackle the issue with innovation. Students present ideas and discuss concrete action points and how they already contribute.
11/04	Social innovation manifests in various forms - from cutting-edge technologies to innovative business models, policies, programs, and services - all designed to make a tangible impact on individual lives and community well-being.	Lecture and discussion with business leader (tbd) in this area how to tackle the issue with innovation. Students present ideas for a concrete case previously selected and discuss concrete action points.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]  
In order to prepare a group presentation to invited business leaders, Approximately 4-6 hours group works are required. It will be a little bit hard, but will be worthwhile. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

[Textbooks]  
Slide decks and reading lists on various lecture content.

[References]  
Internet link list, will be provided.

[Grading criteria]  
Participation and ability to use concepts 50%  
Mid-term assignments 20%  
Final assignments 30%  
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:  
1. Practical Management Competency  
Learning Outcome 1a. Management Planning:  
Student demonstrates competency in the application of the principles of

management theory & practice to the planning of new business and/or the

assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of

management strategy to the planning of new business and/or the assessment

of existing business

2. Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate

the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate

the planning of new business and/or the assessment of existing business

3. Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

**[Changes following student comments]**

Students comments will be actively encouraged and if changes required Wolfgang Bierer will incorporate changes wherever possible.

**[Others]**

Each class above (1~7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class. In between we will schedule a short break.

**[Outline (in English)]**

In this course we will study innovation in an increasingly global business environment. We will develop an innovation toolkit with state of the art tools to improve processes and team performance designed to enhance collaboration and iteration in global development. We will discuss with industry leaders real business cases, research innovation leaders' in global business and work on developing our own innovative business ideas.

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Leadership, Strategy, and Entrepreneurship

Leadership, Strategy, and Entrepreneurship

CONNOR Timothy Michael [CONNOR Timothy Michael]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

The global economy is based on value creation, and at the heart of value creation is entrepreneurship. Entrepreneurship comes in many forms and takes many shapes from the moment a new business idea is formed. The path of an entrepreneur is never a straight line and will go through many challenges and paths to growth. Not all ventures succeed, and this course is designed to let students discover and experience the many facets of entrepreneurship. As ventures grow, their strategy and the leadership skills necessary will change. Through a series of cases, material provided in advance, a venture simulation along with preparation assignments/questions and presentations students will virtually experience the six or seven stages of an entrepreneurial venture

### [Goal]

1. To understand how entrepreneurial ventures and strategies change as they grow
2. To develop deductive reasoning and critical thinking skills and a framework for evaluating venture ideas
3. To learn to recognize the types of leadership and relevant skills necessary at each stage of growth of an entrepreneurial venture
4. To experience communication, teamwork, strategy building, and leadership practice just as in a real life venture

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

### [Method(s)]

The class learning method consists of reading assignments, preparation in advance, class discussion/participation, report writing, and a simulation

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1: 6/6	Introduction From Idea to Launch preparation	Why entrepreneurship? What does a new entrepreneur need to consider when thinking about starting a venture?
2: 6/6	Setting up and what to look out for Simulation introduction	Considering the pitfalls of founders. Prepare for running the simulation of a venture.
3: 6/13	From founder led to CEO led	When should a founder bring on a CEO. Introduction of Strategic Leadership
4: 6/13	Why pivot is so powerful.	What can a CEO from outside do, and what skills do they need? First session of simulation

5: 6/20	Different business models in the same industry	How do you analyze a business model? Introduction of business model development
6:6/20	Competitive Advantages	Comparing business models and frameworks Second session of simulation
7: 6/27	Managing and embracing change	How can the business grow sustainably? The importance of a pivot.
8: 6/27	Managing and embracing change (2)	When should you embrace change and pivot? Third session of simulation
9: 7/4	Growing pains and management systems	Looking at cases and when a venture needs to embrace management systems.
10 7/4	Growing pains and management systems (2)	Looking at management systems and maintaining agility Fourth session of simulation
11: 7/11	Culture and Innovation	How do you maintain the culture of innovation and a growth mindset?
12: 7/11	Culture and Innovation	Growth mindset Fifth session of simulation
13: 7/18	Path to scale and sustainable growth	Looking to growth in five years
14: 7/18	Simulation presentations	Presentation and feedback from Prof. and from peers

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- 1) Group work for simulation
- 2) Group presentation preparation
- 3) Preparation in advance of relevant questions
- 4) Framework development

Weekly Time Required for work outside of class: 3 to 5 hours per week

[Textbooks]

No textbook will be used

Handouts will be provided by the lecturer

[References]

None

[Grading criteria]

- 1) Class participation/discussion and group leadership (50%)
  - 2) A quality of presentation by Group work (24%)
  - 3) Submission of a report or framework for business models
- Grade A:80-100%, Grade B:60~80%, Grade C:40-60%, Grade F: under 40%

[Changes following student comments]

Not applicable

[Outline (in English)]

The global economy is based on value creation, and at the heart of value creation is entrepreneurship. Entrepreneurship comes in many forms and takes many shapes from the moment a new business idea is formed. The path of an entrepreneur is never a straight line and will go through many challenges and paths to growth. Not all ventures succeed, and this course is designed to let students discover and experience the many facets of entrepreneurship. As ventures grow, their strategy and the leadership skills necessary will change. Through a series of cases, material provided in advance, a venture simulation along with preparation assignments/questions and presentations students will virtually experience the six or seven stages of an entrepreneurial venture

MAN560F2 (経営学 / Management 500)

## Applied Marketing

Applied Marketing

坂本 和子 [Kazuko SAKAMOTO]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This lecture aims to acquire cutting-edge marketing knowledge and practical methodologies through the reading of Marketing 5.0 by Kotler.

### [Goal]

Understand the transition of marketing and acquire practical utilization methods that are in line with the needs of the times. Be able to master marketing adapted to technological progress. Grasp various business environment problems from a marketing perspective and acquire clues to solve them.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP4”.

### [Method(s)]

The lecture primarily proceeds with the use of textbooks and slide materials.

"Marketing 5.0" the latest in a trilogy that Kotler calls Marketing X.0, will be used as the textbook. Also, the latest version 6.0 will be supported to the extent possible.

The group responsible for each chapter is decided in advance, and each group presents a summary of one chapter, including examples applied to real-world companies and consumer behavior.

Students will deepen their understanding of the presentation through questions and discussions.

Additionally, students will be required to submit a reflection sheet after each class, where they will state what they have learned, their newfound awareness, and any remaining questions they may have.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
第1回	Introduction	Course overview, intro of group project, some house-keeping works
第2回	Prior to Marketing 5.0①	Overview of Marketing 1.0 + 2.0 : Traditional Marketing Theory
第3回	Prior to Marketing 5.0②	Overview of Marketing 3.0 + 4.0 : Value Principle and Self-Actualization
第4回	Introducing Marketing 5.0	Technology for Humanity
第5回	Generation Gap in Marketing 5.0	Report by group : Baby Boomers,X,Y,Z
第6回	Prosperity Polarization in Marketing 5.0	Report by group : Creating Inclusivity and Sustainability for Society
第7回	Digital Divide in Marketing 5.0	Report by group : Markting Tech Personal,Social,and Experiential

第8回	The Digital-Ready Organization in Marketing 5.0	Report by group : One Strategy Doesn't Fit All
第9回	The Next Tech in Marketing 5.0	Report by group : It's Time for Human-Life Technology Take Off
第10回	The New CX in Marketing 5.0	Report by group : Machines Are Cool,but Humans Are Warm
第11回	Data-Driven Marketing in Marketing 5.0	Report by group : Building a Data Ecosystem for Better
第12回	Predictive Marketing in Marketing 5.0	Report by group : Anticipating Market Demand with Proactive Actor
第13回	Contextual Marketing in Marketing 5.0	Report by group : Making a Personalised Sense-and-Respond Experience
第14回	Augmented Marketing and Marketing in Marketing 5.0	Report by group : Delivering Tech-Empowerd Human Interaction, Executing Operations Pace and Scale

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Each group should prepare presentation materials for the chapters assigned to them.
- They should also review the chapters that are not assigned to them and come up with some relevant questions in advance.
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

### [Textbooks]

Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2021), "Marketing 5.0: Technology for Humanity", Wiley.

### [References]

Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2016), "Marketing 4.0: Moving from Traditional to Digital ", Wiley.

Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2010), "Marketing 3.0: From Products to Customers to the Human Spirit ", Wiley.

Philip Kotler, Waldemar Pfoertsch, Uwe Sponholz(2020), "H2H Marketing: The Genesis of Human-to-Human Marketing", Springer.

### [Grading criteria]

Method of evaluation

Group presentation: 50%

Contribution to the class: 20 %

Reflection sheets : 30 %

### [Changes following student comments]

Ingeniously create lecture content and materials to increase interest.

### [Outline (in English)]

This lecture aims to acquire cutting-edge marketing knowledge and practical methodologies through the reading of Marketing 5.0 by Kotler.

MAN650F2 (経営学 / Management 600)

## Project 1-A (Internship)

Project 1-A(Internship)

高田 朝子、Kenneth Pechter、HUG, Jose

単位数：6単位

学期：秋学期授業/Fall

授業分類：専門演習

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

Project 1-A is a group internship project (referred to as Internship 1), which generally takes place with a regional government office in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to private sector, non-profit sector or – in rare cases – overseas organizations.) The internship takes place for at least 160 hours over approximately 18 weeks in the October-February time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 1.

The purpose of Internship 1 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions.

The internships are arranged and assigned by the GMBA program faculty.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 1 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
  - People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
  - Special institutional arrangements requiring a field research project
  - Special company dispatches requiring a field research project
- In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) instead of 1-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)

In case of a time conflict during Academic Year 1, it is possible though not recommended that Project 1-A may be taken in Year 2 along with Project 2-A.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

## 【Goal】

Internship 1 provides a real-world business learning experience. This serves as a complement to the project-based learning approach promoted in the Hosei Business School of Innovation Management, in which classroom learning is facilitated through the exploration of practical, real-world problem solving. Internship 1 (and later Internship 2 in Academic Year 2) corresponds to the “project method” used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.

As the majority of students in the GMBA program are anticipated to be non-native Japanese speakers, Internship 1 also provides the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning while experiencing real-world workplace conditions in Japan. This enables the student to cultivate the global perspective that the GMBA program values.

The primary job responsibility of interns is to work on projects assigned to them by their host organization, as well as on their own individual project on topics assigned by the GMBA program, such as the improvement of inbound tourism.

Goals:

- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
- To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP1”, “DP2”, “DP3”, “DP4” and “DP5”.

## 【Method(s)】

In order to clarify the purpose and procedures, and to explain the specific goal and deliverables of Internship 1, orientation meetings are provided in the months prior to the internship, and this is furthermore supported by individual discussions with the internship coordinators.

The internship itself is a required over 160 hours, during which the student works with the internship organization under the direction of a supervisor in the assigned organization. The general format for the internship is small-group hybrid format, in which, say, two to five students are assigned to work with a regional organization, and work is carried out via a range of remote and face-to-face action. This range goes from online video meetings to city visits and/or city stays.

This amount of time varies over the course of the internship, but the total hours by the end of February will be at least 160 hours.

Weekly timesheets and periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.

Towards the end of the internship students will make a Summary Presentation to their host organizations at the internship location (face-to-face if possible, but online is acceptable). A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo in late February.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Internship 1 Orientation Period Week 1	General information on Internship 1
2	Internship 1 Orientation Period Week 2	General information on Internship 1
3	Internship 1 Orientation Period Week 3	General information on Internship 1
4	Internship 1 Planning Period Week 1	Familiarization with host region and organization

5	Internship 1 Planning Period Week 2	Familiarization with host region and organization
6	Internship 1 Planning Period Week 3	Familiarization with host region and organization
7	Internship 1 Preparation Week 1	Determination of internship project topic
8	Internship 1 Preparation Week 2	Determination of internship project topic
9	Internship 1 Preparation Week 3	Determination of internship project topic
10	Internship 1 Internship Week 1	Finalization of project work in coordination with regional organization
11	Internship 1 Internship Week 2	Finalization of project work in coordination with regional organization
12	Internship 1 Internship Week 3	Finalization of project work in coordination with regional organization
13	Internship 1 Internship Week 4	Summary Presentation at internship location
14	Internship 1 Final Week	Final Presentation in Tokyo

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The student must attend the orientation meetings (dates to be announced).

During the first part of the internship, students will work in small groups to learn about their assigned regions, and start interacting with internship hosts.

As this interaction proceeds, student groups will work with their hosts to develop an appropriate project topic or two, which they will work towards completion by the end of the internship. Faculty will support the students in this effort.

Students will keep track of their working hours in weekly timesheets and submit these regularly, as will be specified during the orientation and assignment period.

During the term of the internship, periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.

Towards the end of the internship, the student will make a presentation to their host organization summarizing their assigned duties during the internship, their own individual project (for example, promotion of inbound tourism), and their feelings on the overall internship experience. The student is encouraged to do this Summary Presentation in Japanese (or bilingual Japanese and English) if at all possible, both as a goal for improving Japanese ability, and as an expression of gratitude to hosts who have so kindly accepted the student for the internship. Ideally this would be done at the internship location, although remote presentation is also acceptable.

After returning to Tokyo a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.

(In general students may expect 2 to 4 hours per week of preparation prior to the internship, 10 to 20 hours per week during the internship and in preparation for the Final Presentation after the internship.)

【Textbooks】

Not applicable

【References】

Not applicable

【Grading criteria】

[Final grade is determined by]

- ・ Administrative Cooperation 30%
- ・ Professional Communications 30%
- ・ Project Planning & Execution 40%

Students will be judged on their overall professional attitude and completion of assigned tasks.

The assigned tasks include:

- Attendance at orientation and training sessions
- Creation and maintenance of a weekly timesheet (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of regular reports in English (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- Submission of final weekly report, and a Summary Presentation (in Japanese if possible) at the internship location, and a Final Presentation (usually in English but Japanese also possible) at the Internship Presentation Conference following the internship (detailed instructions to be provided during the orientation period)

Professional attitude will be judged on characteristics including the following:

- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in training
- Proper and business-like communications in email and report submissions
- Critical assessment and decision-making during the internship

- Collegial relationships with colleagues in both the GMBA program and at the internship locations

- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines

In making the assessments, the GMBA faculty also works with the internship hosting organizations, so that the overall grade will also take account of the intern's performance as assessed by the intern's supervisor in the organization.

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

1 Practical Management Competency

Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

2 Critical Analytical Competency

Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

3 Communication Competency

Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】

Although the small-group hybrid internship format is robust, it is always possible that operations of the internship could be affected by COVID-19 pandemic. The faculty and/or the Innovation Management Office will provide guidance should this happen.

**【Equipment student needs to prepare】**

Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

**【Others】**

Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

Specifically in the case of project courses, the projects (usually internships) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

**【Outline (in English)】**

Project 1-A is a group internship project (referred to as Internship 1), which generally takes place with a regional government office in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to private sector, non-profit sector or – in rare cases – overseas organizations.) The internship takes place for at least 160 hours over approximately 18 weeks in the October-February time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 1.

The purpose of Internship 1 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions.

The internships are arranged and assigned by the GMBA program faculty.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 1 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
  - People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
  - Special institutional arrangements requiring a field research project
  - Special company dispatches requiring a field research project
- In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) instead of 1-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)

In case of a time conflict during Academic Year 1, it is possible though not recommended that Project 1-A may be taken in Year 2 along with Project 2-A.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN650F2 (経営学 / Management 600)

## Project 1-B (Field Research)

Project 1-B(Field Research)

KENNETH G PECHTER [Kenneth Gordon PECHTER]

単位数：6単位

学期：秋学期授業/Fall

授業分類：専門演習

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence

- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home

- Special institutional arrangements requiring a field research project

- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)

The purpose of the Project 1-A & 2-A (Internship) and the Project 1-B & 2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

### [Goal]

Field Research provides real-world business learning experiences. Project 1-B (Field Research) in Academic Year 1 and Project 2-B (Field Research) in Academic Year 2 correspond to the "project method" (also known as Project-based Learning) used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program, in which learning is facilitated through the exploration of practical, real-world problem solving. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project

Goals:

- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice

- To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners

- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP1", "DP2", "DP3", "DP4" and "DP5".

### [Method(s)]

The student is to develop and carry out a Field Research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors. In order to do this, the student will first identify a general area or areas of interest based on past and current work experience and career interest. Then with this as a starting point, the student will meet with the faculty advisor(s) to be determined by the GMBA faculty.

The project is to be identified through the literature search and consultation with the faculty adviser(s) to identify a company or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires and data analysis. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.

In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.

The deliverables ( problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final report) will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with the faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year, and will be accompanied by a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and other relevant faculty.

A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability).

**[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]**

あり / Yes

**[Fieldwork in class]**

あり / Yes

**[Schedule]** 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General guidance on the process of Field Research project
2	Research Methods Overview	Overview of general Field Research methodology
3	Problem Identification	Identification of general problem
4	Problem Development	Development of problem issues
5	Presentation of Problem Statement	Presentation of arrived at problem statement for discussion by faculty advisor(s)
6	Project Planning	Discussion and development of project approach
7	Literature Review	Review of literature relevant to the project topic, problem, and methodology
8	Project Design	Bring together project approach and findings from the literature search into a design of the project
9	Presentation of Project Plan	Presentation of arrived at project design for discussion by faculty advisor(s)
10	Field Work 1	Planning of field work (company visits, survey questionnaires, etc)
11	Field Work 2	Carrying out of field work
12	Project Conclusion	Synthesis of problem findings into business recommendations
13	Faculty Presentation	Presentation of project findings and recommendations to faculty advisor(s)
14	Final Presentation	General Presentation of project findings and recommendations at Internship Presentation Conference

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

The student is to develop and carry out a field research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors.

In order to do this, the student will first identify and general areas of interest based on past and current work experience and career interest, and with this as a starting point, faculty advisor(s) will be determined by the GMBA faculty (but will include the faculty assigned to this course).

The field research is to be conducted through the literature search, and in consultation with the faculty adviser(s) to identify a company and/or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires, and data analysis. All of this will be supported by the management principles being learned in the GMBA courses. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.

In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.

These deliverables will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year.

Towards the end of the project, the student will make a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and any other relevant faculty members, in which the student presents the field research topic, problem, analytical approach, findings and field research conclusion. This is done in English.

After the Field Research is finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This is a simplified version of the Faculty Presentation, suited for a general audience. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

(Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.)

**[Textbooks]**

Not applicable

**[References]**

Not applicable

**[Grading criteria]**

[Final grade is determined by]

- Administrative Cooperation 30%
- Professional Communications 30%
- Project Planning & Execution 40%

Students will be judged on their overall professional attitude, completion of assigned tasks, development the Field Research project, and findings resulting from the project.

The assigned tasks include:

- Attendance at orientation and regular meetings with the faculty advisor(s)
- Creation of a problem statement, research thesis, and research plan (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of initial, midterm, and final reports (detailed instructions to be provided during the orientation period)

- Presentation of Field Research project at the Final Faculty Presentation (in English) and at the Internship Presentation Conference (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability)

Detailed instructions on the above task will be provided during the orientation period and via the regular faculty advisor meetings.

Professional attitude will be judge on characteristics including the following:

- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in all aspects of the Field Research Project
- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with faculty advisor(s) and other faculty
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines

For Project 1-B and Project 2-B, assessment of the Field Research project will place greater weight on the planning and the implementation of the project than it will for the project results.

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

#### 1 Practical Management Competency

##### Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

##### Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

#### 2 Critical Analytical Competency

##### Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

##### Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

#### 3 Communication Competency

##### Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

##### Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

**[Changes following student comments]**

Not applicable

**[Equipment student needs to prepare]**

Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

#### **[Others]**

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan. Given this objective, Field Research reports and presentations are not modeled after typical academic papers, but instead should take the form and style of standard business materials. It does not constitute a standard Master's Thesis.

Moreover, the Business School of Innovation Management is a Professional School, not a research-oriented Master's degree program. For these reasons, the completion of the Field Research project and the attainment of the MBA degree itself do not necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD. The decision as to whether the Field Research work supports such advancement is solely at the discretion of the academic program the student may apply to in the future.

Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

Specifically in the case of project courses, the projects (in this case, field research) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

#### **[Outline (in English)]**

Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)

The purpose of the Project 1-A & 2-A (Internship) and the Project 1-B & 2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN650F2 (経営学 / Management 600)

## Project 2-A (Internship)

Project 2-A(Internship)

Kenneth Pechter、大澤 裕

単位数：6単位

学期：年間授業/Yearly

授業分類：専門演習

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

Project 2-A is an internship (referred to as Internship 2), which generally takes place at a private sector company in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to other organizations or – in rare cases – overseas organizations). The internship takes place for at least 160 hours sometime in the summer-fall-winter time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 2.

The purpose of Internship 2 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions. (In cases where the student is a native Japanese speaker, alternative placements may be made to provide equivalent learning opportunities in a non-Japanese environment.)

The internships are generally found by the students themselves, but the GMBA program faculty also help support this process and will make appropriate introductions for students in need.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 2 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 2-B (Field Research) instead of 2-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

### [Goal]

Internship 2 provides a real-world business learning experience. This serves as a complement to the project-based learning approach promoted in the Hosei Business School of Innovation Management, in which classroom learning is facilitated through the exploration of practical, real-world problem solving. Internship 2 (and Internship 1 in Academic Year 1) corresponds to the “project method” used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.

As the majority of students in the GMBA program are anticipated to be non-native Japanese speakers, Internship 2 also provides the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning while experiencing real-world workplace conditions in Japan. This enables the student to cultivate the global perspective that the GMBA program values.

Student interns perform as if they were regular employees of the organization, including expectations of neatness, punctuality, productivity, and openness to supervision (this rule still holds in the case the internship is conducted in remote format according to the judgment of the host company). The primary job responsibility of interns is to work on projects assigned to them by their host organization, as well as on their own individual project on topics assigned by the GMBA program, such as a competitiveness assessment. Interns are also expected to do routine tasks and clerical work.

Goals:

- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
- To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP1”, “DP2”, “DP3”, “DP4” and “DP5”.

### [Method(s)]

In order to clarify the purpose and procedures, and to explain the specific goal and deliverables of Internship 2, orientation meetings are provided in the months prior to the internship, and this is furthermore supported by individual discussions with the internship coordinators.

The internship itself is a required over 160 hours, during which the student works in the internship organization under the direction of a supervisor in the assigned organization.

Based on a maximum full-time work schedule, the internships are expected to last longer than a single month but will often be completed within 2 months. However, the internship may also take longer than 2 months if the work schedule is fewer than 8 hours a day, 5 days a week; this is fine.

In general students are not permitted to finish the internship in less than a single month. In cases where the student has a valid reason for wanting to finish the internship within a single month, permission may be granted on a case-by-case basis. The student is required to bring such requests to the Office in advance for consideration of a grant of permission.

Periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.

Towards the end of the internship the student will make a Summary Presentation to their host organizations at the internship location, A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo following the internships.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Internship 2 Orientation Period Week 1	General information on Internship 2

2	Internship 2 Orientation Period Week 2	General information on Internship 2	(In general students may expect 2 to 4 hours per week of preparation prior to the internship, just the internship hours worked during the internship, and then 5 to 10 hours per week in preparation for the Final Presentation after the internship.)
3	Internship 2 Orientation Period Week 3	General information on Internship 2	<b>[Textbooks]</b> Not applicable
4	Internship 2 Search & Negotiation Week 1	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement	<b>[References]</b> Not applicable
5	Internship 2 Search & Negotiation Week 2	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement	<b>[Grading criteria]</b> [Final grade is determined by] · Administrative Cooperation 30% · Professional Communications 30% · Project Planning & Execution 40%
6	Internship 2 Search & Negotiation Week 3	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement	Students will be judged on their overall professional attitude and completion of assigned tasks. The assigned tasks include: - Attendance at orientation and training sessions - On-time submission of regular reports (detailed instructions to be provided during the orientation period) - Submission of final weekly report, and a Summary Presentation (in Japanese if possible) at the internship location, and a Final Presentation (usually in English but Japanese also possible) at the Internship Presentation Conference following the internship (detailed instructions to be provided during the orientation period)
7	Internship 2 Internship Week 1	Work at company	Professional attitude will be judge on characteristics including the following: - Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
8	Internship 2 Internship Week 2	Work at company	- Active participation in training
9	Internship 2 Internship Week 3	Work at company	- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
10	Internship 2 Internship Week 4	Work at company	- Critical assessment and decision-making during the internship
11	Internship 2 Internship Week 5	Work at company, make Summary Presentation	- Collegial relationships with colleagues in both the GMBA program and at the internship locations
12	Internship 2 Follow-up Week 1	Finalizing internship matters and preparing final report and presentation	- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines
13	Internship 2 Follow-up Week 2	Finalizing internship matters and preparing final report and presentation	In making the assessments, the GMBA faculty also works with the internship hosting organizations, so that the overall grade will also take account of the intern's performance as assessed by the intern's supervisor in the organization.
14	Internship 2 Final Week	Final Presentation in Tokyo	Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies: 1 Practical Management Competency Learning Outcome 1a. Management Planning: Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business Learning Outcome 1b. Strategy Execution: Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business 2 Critical Analytical Competency Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting: Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing: Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business 3 Communication Competency Learning Outcome 3a. Written Communication Demonstrates competency in professional written communication Learning Outcome 3b. Spoken Communication Demonstrates competency in professional spoken communication

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

The student must attend the orientation meetings (dates to be announced).

During the term of the internship, the student will participate in the activities of the host organization, as well as work on an individual project (such as conducting a competitiveness assessment of the organization).

Periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.

Towards the end of the internship, the student will make a Summary Presentation to their host organization summarizing their assigned duties during the internship, their own individual project (for example, competitiveness assessment, assuming the organization welcomes such an assessment), and their feelings on the overall internship experience. The student is encouraged to do this Summary Presentation in Japanese (or bilingual Japanese and English) if at all possible, both as a goal for improving Japanese ability, and as an expression of gratitude to hosts who have so kindly accepted the student for the internship (unless of course the organization uses English as their standard language).

After the internships are finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.

**【Changes following student comments】**

Not applicable

**【Equipment student needs to prepare】**

Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

**【Others】**

Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

Specifically in the case of project courses, the projects (usually internships) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

**【Outline (in English)】**

Project 2-A is an internship (referred to as Internship 2), which generally takes place at a private sector company in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to other organizations or – in rare cases – overseas organizations). The internship takes place for at least 160 hours sometime in the summer-fall-winter time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 2.

The purpose of Internship 2 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions. (In cases where the student is a native Japanese speaker, alternative placements may be made to provide equivalent learning opportunities in a non-Japanese environment.)

The internships are generally found by the students themselves, but the GMBA program faculty also help support this process and will make appropriate introductions for students in need.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 2 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 2-B (Field Research) instead of 2-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN650F2 (経営学 / Management 600)

## Project 2-B (Field Research)

Project 2-B(Field Research)

Kenneth Pechter、佐藤 裕弥

単位数：6単位

学期：年間授業/Yearly

授業分類：専門演習

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence

- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home

- Special institutional arrangements requiring a field research project

- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)

The purpose of the Project 1-A & 2-A (Internship) and the Project 1-B & 2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

## 【Goal】

Field Research provides real-world business learning experiences. Project 1-B (Field Research) in Academic Year 1 and Project 2-B (Field Research) in Academic Year 2 correspond to the “project method” (also known as Project-based Learning) used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program, in which learning is facilitated through the exploration of practical, real-world problem solving. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project

Goals:

- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice

- To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners

- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP1”, “DP2”, “DP3”, “DP4” and “DP5”.

## 【Method(s)】

The student is to develop and carry out a Field Research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors. In order to do this, the student will first identify a general area or areas of interest based on past and current work experience and career interest. Then with this as a starting point, the student will meet with the faculty advisor(s) to be determined by the GMBA faculty.

The project is to be identified through the literature search and consultation with the faculty adviser(s) to identify a company or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires and data analysis. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.

In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.

The deliverables ( problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final report) will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with the faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year, and will be accompanied by a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and other relevant faculty.

A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability).

**[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]**

あり / Yes

**[Fieldwork in class]**

あり / Yes

**[Schedule]** 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General guidance on the process of Field Research project
2	Research Methods Overview	Overview of general Field Research methodology
3	Problem Identification	Identification of general problem
4	Problem Development	Development of problem issues
5	Presentation of Problem Statement	Presentation of arrived at problem statement for discussion by faculty advisor(s)
6	Project Planning	Discussion and development of project approach
7	Literature Review	Review of literature relevant to the project topic, problem, and methodology
8	Project Design	Bring together project approach and findings from the literature search into a design of the project
9	Presentation of Project Plan	Presentation of arrived at project design for discussion by faculty advisor(s)
10	Field Work 1	Planning of field work (company visits, survey questionnaires, etc)
11	Field Work 2	Carrying out of field work
12	Project Conclusion	Synthesis of problem findings into business recommendations
13	Faculty Presentation	Presentation of project findings and recommendations to faculty advisor(s)
14	Final Presentation	General Presentation of project findings and recommendations at Internship Presentation Conference

**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

The student is to develop and carry out a field research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors.

In order to do this, the student will first identify and general areas of interest based on past and current work experience and career interest, and with this as a starting point, faculty advisor(s) will be determined by the GMBA faculty (but will include the faculty assigned to this course).

The field research is to be conducted through the literature search, and in consultation with the faculty adviser(s) to identify a company and/or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires, and data analysis. All of this will be supported by the management principles being learned in the GMBA courses. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.

In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.

These deliverables will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year.

Towards the end of the project, the student will make a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and any other relevant faculty members, in which the student presents the field research topic, problem, analytical approach, findings and field research conclusion. This is done in English.

After the Field Research is finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This is a simplified version of the Faculty Presentation, suited for a general audience. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.

It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.

The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.

(Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.)

**[Textbooks]**

Not applicable

**[References]**

Not applicable

**[Grading criteria]**

[Final grade is determined by]

- Administrative Cooperation 30%
- Professional Communications 30%
- Project Planning & Execution 40%

Students will be judged on their overall professional attitude, completion of assigned tasks, development the Field Research project, and findings resulting from the project.

The assigned tasks include:

- Attendance at orientation and regular meetings with the faculty advisor(s)
- Creation of a problem statement, research thesis, and research plan (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of initial, midterm, and final reports (detailed instructions to be provided during the orientation period)

- Presentation of Field Research project at the Final Faculty Presentation (in English) and at the Internship Presentation Conference (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability)

Detailed instructions on the above task will be provided during the orientation period and via the regular faculty advisor meetings.

Professional attitude will be judge on characteristics including the following:

- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in all aspects of the Field Research Project
- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with faculty advisor(s) and other faculty
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines

For Project 1-B and Project 2-B, assessment of the Field Research project will place greater weight on the planning and the implementation of the project than it will for the project results.

Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:

#### 1 Practical Management Competency

##### Learning Outcome 1a. Management Planning:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory & practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business

##### Learning Outcome 1b. Strategy Execution:

Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business

#### 2 Critical Analytical Competency

##### Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:

Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

##### Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:

Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

#### 3 Communication Competency

##### Learning Outcome 3a. Written Communication

Demonstrates competency in professional written communication

##### Learning Outcome 3b. Spoken Communication

Demonstrates competency in professional spoken communication

**[Changes following student comments]**

Not applicable

**[Equipment student needs to prepare]**

Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

#### **[Others]**

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan. Given this objective, Field Research reports and presentations are not modeled after typical academic papers, but instead should take the form and style of standard business materials. It does not constitute a standard Master's Thesis.

Moreover, the Business School of Innovation Management is a Professional School, not a research-oriented Master's degree program. For these reasons, the completion of the Field Research project and the attainment of the MBA degree itself do not necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD. The decision as to whether the Field Research work supports such advancement is solely at the discretion of the academic program the student may apply to in the future.

Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOPPII system (学習支援システム) for specific online instructions of each course.

Specifically in the case of project courses, the projects (in this case, field research) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

#### **[Outline (in English)]**

Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.

In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):

- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project

In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)

The purpose of the Project 1-A & 2-A (Internship) and the Project 1-B & 2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory & practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

- 1 Practical Management Competency
- 2 Critical Analysis Competency
- 3 Communication Competency

MAN570F2 (経営学 / Management 500)

## Japanese Management

Japanese Production Management &amp; Supply Chain Management

長谷川 卓也 [Takuya HASEGAWA]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

## 【Outline and objectives】

Since the Meiji Restoration (1868) and the end of World War II (1945), Japan has achieved great success and economic prosperity. While glorious examples are published in textbooks, disappointing examples may or may not be. This course is intended for those who wish to learn about the gap between ideals and reality through unfortunate examples of Japanese-style management and apply the knowledge to future business creation.

- 1) Identify the gap between ideal and reality
- 2) Select and analyze a specific case study
- 3) Identify irrational behavior and countermeasures

## 【Goal】

In addition to general knowledge of innovation science, students will develop critical thinking skills based on behavioral and evolutionary economics, recognize innovation stagnation in the real world, and formulate original hypotheses and responses to overcome it.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain“DP1”, “DP3”and“DP5”.

## 【Method(s)】

Introduction and discussion with two guest lectures and three group presentations. Students are required to submit a "Final Essay". The essay is a short 6 pages in PowerPoint format, so students are required to maximize the density of information in a limited number of words.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction (1)	Self-introduction of the instructor and students
2	Lecture (1)	“Japanese management” by Peter Drucker, Business creation and business operation
3	Group presentation (1)	"Drucker's paper: Difference between 1971 and 2020"
4	Lecture (2)	Innovation science, Structural inertia, Gaussian distribution, The PayPal mafia
5	Lecture (3)	Schumpeter theory, Water bath heating, Oslo manual, Where strategic planers live?
6	Lecture (4)	Definitions of business, #1.Diversity, #2.Future projection
7	Guest lecture (1)	"Leadership and management" (Hiroshi Tamura, Brand Ambassador, Nissan Motor)

8	Guest lecture (2)	"Leadership and management" (Hiroshi Tamura, Brand Ambassador, Nissan Motor)
9	Lecture (5)	#3.Nazokake, #4.Bystander effect
10	Guest lecture (3)	"A review of the economic concept - ecosystem design" (Xiao Yang, senior consultant, Arthur D. Little Japan)
11	Lecture (6)	Episode ZERO of Birdy Fuel Cells LLC
12	Lecture (7)	Long delay, Philosophers
13	Group presentation (3)	"Confront the stagnation"
14	Group presentation (4)	"Confront the stagnation"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Please read before the course starts.

1) Drucker, P.F. (1971). What we can learn from Japanese management. Harvard Business Review (March/April 1971), pp. 110-22. (<https://hbr.org/1971/03/what-we-can-learn-from-japanese-management>)

2) Thiel, P. A., & Masters, B. (2014). Zero to one: Notes on startups, or how to build the future. Broadway Business.

Anticipated weekly hours:

1. Preparation for each class 120min
2. Review for each class 120min that may include:
3. Pre-reading of 1)&2) 180min
4. Preparation for group presentation 60min each
5. Preparation for final essay 180min

## 【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the lecturer.

## 【References】

1934 The Theory of Economic Development 2nd Ed.: Joseph Schumpeter

1970 The Structure of Scientific Revolutions 2nd Ed.: Thomas Kuhn

1997 The Innovator's Dilemma: Clayton Christensen

2000 UBIQUITY: Mark Buchanan

2008 Predictably Irrational: Dan Ariely

2010 HBR's 10 Must Reads The Essentials: Harvard Business School Press

2014 Zero to One: Peter Thiel

## 【Grading criteria】

Class contribution (40%)

Group discussion and presentation (40%)

Final essay (20%)

- 5% Template (organized?)

- 5% Unique (new?)

- 5% Reasoning (deep?)

- 5% Conclusion (specific?)

## 【Changes following student comments】

Final essay:

1. Cover page (1 page)
2. Executive Summary (1 page)
3. My Unique Findings (3 pages)
4. Conclusion (1 page)

- Identify the gap.

- Create a nice but tentative idea, break it yourself, create an idea that is just a little better than that, and break it again yourself. Repeat the process three or four times.

## 【Equipment student needs to prepare】

Notebook computer

## 【Others】

Work experience of the lecturer:

<https://www.linkedin.com/in/takuya-hasegawa-4759243b/>

The lecturer has over 30 years of experience in advanced technology and market development with more than 100 team members and 500 suppliers + partners.

In 2012-15, he served as a chief engineer of Nissan's last fuel cell electric vehicle research prototype.

In 2021, he and his co-founder established a Japanese hydrogen technology company to further accelerate the deployment of large-scale energy storage systems with automotive fuel cell and water electrolyzer technologies.

<https://www.birdyfuelcells.com/>

**【Outline (in English)】**

Since the Meiji Restoration (1868) and the end of World War II (1945), Japan has achieved great success and economic prosperity. While glorious examples are published in textbooks, disappointing examples may or may not be. This course is designed for those who want to learn about the gap between ideals and reality through unfortunate examples of Japanese-style management and apply the knowledge to future business creation.

- 1) Identify the gap between ideal and reality
- 2) Select and analyze a specific case study
- 3) Identify irrational behavior and countermeasures

MAN570F2 (経営学 / Management 500)

## Japanese Production Management & Supply Chain Management

Japanese Management

長谷川 卓也 [Takuya HASEGAWA]

単位数：2単位

学期：春学期前半/Spring(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### 【Outline and objectives】

After World War II, Japan has led the world in all aspects of production and supply chain management, including design, purchasing, manufacturing, transportation, and delivery methods. Today, however, Japan is facing a serious stagnation in innovation. This course will focus on how to recognize and overcome this stagnation in innovation by focusing on raw material and manufacturing costs of various products, with lectures by guest speakers with expertise in the automotive, hydrogen, and semiconductor industries. The objective of this course is not to learn academic theory, but to develop practical skills, especially in cost calculation, necessary for business.

### 【Goal】

In addition to general knowledge of production management and supply chain management, students will acquire critical thinking based on cost engineering and behavioral economics, recognize stagnation of innovation in the real world, and formulate original hypotheses and countermeasures to overcome it.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain“DP1”,“DP2”and“DP4”.

### 【Method(s)】

Introduction and discussion with three guest lectures and four group presentations. Students are required to submit a "Final Essay". The essay is in Power Point format and is only 6 pages long, so students are required to maximize the density of information with a limited number of words.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction (1)	Course assessment
2	Lecture (1)	Objectives of this course, About wealth, Basics knowledge, A quiz
3	Group presentation (1), Lecture (2)	TOC quiz 2, How to dive into the blue ocean, Simple. Simple. Simple., Dichotomy, Skunkworks
4	Lecture (3)	Innovation analysis in industry, A-U Theory, Art of approximation
5	Guest lecture (1)	"Semiconductor Industry" (iXOS Co., Ltd., Koichi Nakajima, President)
6	Guest lecture (2)	"Automotive Industry" (Deloitte Tohmatsu Consulting, Fumikazu Kitagawa, Partner)
7	Individual presentation (1)	Art of Approximation

8	Lecture (4)	Dr. Hasegawa's Fermi Estimate: world energy design
9	Lecture (5)	Value added Price per kg, Trade statistics
10	Guest lecture (3)	"Hydrogen Industry" (Hywealth, Katsuhiko Hirose, CEO & Chief Consultant)
11	Group presentation (2), Lecture (6)	Trade statistics, Inertia & Pivot, Schumpeter's five cases, Impairment loss, Five cases + Inertia
12	Lecture (7)	An instinctive problem of disruptive innovation, Prof. Christensen's prescription, Human instincts in economics
13	Group Presentation (3)	"Confront the stagnation"
14	Group Presentation (4)	"Confront the stagnation"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Please read 1) or 2) before the course starts.

1) Goldratt, E. M., & Cox, J. (2016). The goal: a process of ongoing improvement. Routledge.

2) ザ・ゴール コミック版 単行本 (ソフトカバー) - 2014/12/5 エリヤフ・ゴールドラット/ジェフ・コックス

Anticipated weekly hours:

1. Preparation for each class 120min

2. Review for each class 120min

that may include:

Anticipated weekly hours:

1. Preparation for each class 120min

2. Review for each class 120min

that may include:

3. Pre-reading of 1) or 2) 120min

4. Preparation for group presentation 60min each

5. Preparation for final essay 180min

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the lecturer.

【References】

Web:

1. [http://www.toyota.co.jp/jpn/company/vision/production\\_system/](http://www.toyota.co.jp/jpn/company/vision/production_system/)

2. <http://www.nissan-global.com/JP/NISSANCRAFTSMANSHIP/>

3. [http://keio-ocw.sfc.keio.ac.jp/International\\_Center/09B-016\\_e/list.html](http://keio-ocw.sfc.keio.ac.jp/International_Center/09B-016_e/list.html)

Book:

1. <https://www.amazon.co.jp/英語でkaizen-トヨタ生産方式-成沢俊子/dp/4526060151>

【Grading criteria】

Class contribution (40%)

Group discussion and presentation (40%)

Final essay (20%)

- 5% Template (organized?)

- 5% Unique (new?)

- 5% Reasoning (deep?)

- 5% Conclusion (specific?)

【Changes following student comments】

Final essay:

1. Cover page (1 page)

2. Executive Summary (1 page)

3. My Unique Findings (3 pages)

4. Conclusion (1 page)

- Identify the gap.

- Create a nice but tentative idea, break it yourself, create an idea that is just a little better than that, and break it again yourself. Repeat the process three or four times.

**[Equipment student needs to prepare]**

Notebook computer

**[Others]**

Work experience of the lecturer:

<https://www.linkedin.com/in/takuya-hasegawa-4759243b/>

The lecturer has over 30 years of experience in advanced technology and market development with more than 100 team members and 500 suppliers + partners.

In 2012-15, he served as a chief engineer of Nissan's last fuel cell electric vehicle research prototype.

In 2021, he and his co-founder established a Japanese hydrogen technology company to further accelerate the deployment of large-scale energy storage systems with automotive fuel cell and water electrolyzer technologies.

<https://www.birdyfuelcells.com/>

**[Outline (in English)]**

After World War II, Japan has led the world in all aspects of production and supply chain management, including design, purchasing, manufacturing, transportation, and delivery methods. Today, however, Japan is facing a serious stagnation in innovation. This course will focus on how to recognize and overcome this stagnation in innovation by focusing on raw material and manufacturing costs of various products, with lectures by guest speakers with expertise in the automotive, hydrogen, and semiconductor industries. The objective of this course is not to learn academic theory, but to develop practical skills, especially in cost calculation, necessary for business.

MAN570F2 (経営学 / Management 500)

## Open Innovation

Open Innovation

RADHAKRISHNAN NAIR [Radhakrishnan NAIR]

単位数：2単位

学期：秋学期前半/Fall(1st half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

Open Innovation (OI) enables companies to access wider external innovation sources to accelerate the pace of innovation needed to sustain business in the fast changing world and stay competitive. Several global companies successfully created OI strategies which helped them accelerate innovation to market and build business. Procter and Gamble's Connect and Develop (C&D) is one of the well known examples.

The course will start with introducing the need of accelerated innovation in the fast changing world and ,through subsequent lectures and discussions, build an overview of OI strategies, models and successful examples. The course is aimed introducing OI as one of the strategies to build business by accessing external innovation sources.

### [Goal]

The course is designed to introduce Open Innovation (OI) mindset through compelling case studies from world's leading innovative companies.

At the end of the course, students will get basic understanding of OI with successful examples through case studies and their own research on companies doing OI.

Students will be introduced to resources through reference books and articles to further enable them to learn more on OI and prepare them to influence the organizations they work for in the future.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain“DP1”

### [Method(s)]

Group discussion- debate , lectures, case study analysis. Researching and presentations of OI examples from global and domestic corporations. Group exercise on developing OI strategies for different business scenarios.

### [Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

### [Fieldwork in class]

なし / No

### [Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Types of Innovation- Introductory Lecture.	Introduction to Types of Innovation.. Sustaining, disruptive. Examples and case studies.
2	Open Innovation frame-work.	Introducing Open Innovation. Why Open Innovation and why companies adapt OI. P&G Case study and examples.
3	Strategic Approach to Open Innovation -	Management strategies for a successful Open Innovation. Leadership Issues and Challenges.

4	Organization Development for Open Innovation.	Developing OI culture in the organization. Identifying Opportunities. Case Studies.
5	Tools for Open Innovation	Different approaches of Open Innovation explained with case studies from companies. Risk Avoidance in OI. Business models for OI. Legal, IP issues in OI. Pitfalls of OI.
6	Developing OI network and building OI partnership.	OI network and partnerships, how to develop effective external eco system. Case studies.
7	Future Vision of Open Innovation	How OI will evolve in the new digital era. Crowd sourcing, Hackathons, Lean Innovation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading recommended books, articles, and also some examples (internet search and read) (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

### [Textbooks]

Reference text books will be recommended.

### [References]

- (i) A guide to Open Innovation and CrowdSourcing: Advice from Experts in the Field (Edited by Paul Sloane)
- (ii) Open Service Innovation (Henry Chesbrough)
- (iii) <https://hbr.org/2006/03/connect-and-develop-inside-procter-gambles-new-model-for-innovation>

### [Grading criteria]

- (i) Class Participation 50% and 50% on the 3 assignments below)
- (ii) Case study and presentation - Students need to research on Open Innovation example of a company of their choice and make presentation.
- (iii) Short essay on OI case study - Make a short essay (max 2 pages) based on the case study research above.
- (iv) Group work and presentation - Group work on business case study and short presentation

### [Changes following student comments]

Guest Lecture by Japanese industry expert on Open Innovation.

### [Equipment student needs to prepare]

none

### [Others]

none

### [none]

none

**【Outline (in English)】**

Open Innovation (OI) enables companies to access wider external innovation sources to accelerate the pace of innovation needed to sustain business in the fast changing world and stay competitive. Several global companies successfully created OI strategies which helped them accelerate innovation to market and build business. Procter and Gamble's Connect and Develop (C&D) is one of the well known examples.

The course will start with introducing the need of accelerated innovation in the fast changing world and ,through subsequent lectures and discussions, build an overview of OI strategies, models and successful examples. The course is aimed introducing OI as one of the strategies to build business by accessing external innovation sources.

MAN570F2 (経営学 / Management 500)

## Entrepreneurship and New Business Creation

Entrepreneurship and New Business Creation

小村 隆祐 [Ryusuke KOMURA]

単位数：2単位

学期：春学期後半/Spring(2nd half)

授業分類：専門講義

Global MBA

その他属性：〈実〉

### [Outline and objectives]

This course focuses on “Entrepreneurship”, the way to survive/thrive in the VUCA(\*) world. The students will learn about the unique mindset & way of behaviors that entrepreneurs practice through class discussions and experiencing the business formulation process in group and individually. This course is an action-oriented course with several hands-on experiences & workshops. The students are encouraged to embrace teamwork, unleash creativity and actually take action.

\*The acronym of “Volatility, Uncertainty, Complexity and Ambiguity.”

### [Goal]

Upon the completion of this course, the students should be able to:

Understand the mindset & the unique way of behaviors that entrepreneurs have and practice it

Acquire the fundamental understanding of knowledge & terminologies in the sphere of startup/ entrepreneurship

Gain the confidence as an entrepreneur or to be entrepreneurial to make a difference in the uncertain world (Yes you can do it!)

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Program is intended to acquire all of dp1 to dp5. But order is illustrated in terms of Likelihood of acquiring.

### [Method(s)]

1. Class discussions & Lectures

2. Workshop

3. Dialogue with gusset speakers (Entrepreneur, VC etc)

4. The students will formulate two types (group and individual) of launch plan(\*) of their business(or NPO) throughout the course with learnings from each class and present (pitch) them in the course

\*We use the term, “Launch Plan” instead of “Business Plan” as entrepreneurial activities are dynamic and must be always adaptive to possible changes. In other words, there is no definite plan for a business especially in the early phase with much uncertainty. What we can do is fairly create a “launch plan”.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Entrepreneurial Mindset (& Action)	How can we be an entrepreneur? Or what is entrepreneurship after all!? In this session, we will focus on the unique mindset & way of behaviors that entrepreneurs practice to start your entrepreneurial journey.

2	Unleashing Your Creativity	Can anybody be creative? Yes creativity is for everyone. We will unleash (y)our creativity through some hands-on experience.
3	The power of team	Collaboration is the source of innovation but it can be a really tiring process. We will look into what is good about "team" and how we can unleash the possibility of team.
4	Evolving as a team	In this session, we will cultivate the teamwork with group-work.
5	Design Thinking - Introduction	Design thinking emphasizes direct observation, engagement, and deep understanding of user needs and behavior. The fundamental framework of Design Thinking is introduced in this session.
6	Design Thinking - Practice	Design thinking emphasizes direct observation, engagement, and deep understanding of user needs and behavior. We will practice several methodologies of Design Thinking following the introduction.
7	The Pitch	Entrepreneurship is a process of acquiring resources to pursue an opportunity from the external. We will focus on the effective way of communication in the form of "pitch" to practice entrepreneurship.
8	Business Model	Business Model Canvas is introduced. You will map out your business idea on the framework to examine the feasibility of your idea.
9	Rocket Pitch (Mid-term presentation)	Rocket Pitch is a pitch format of 3 minutes & 3 slides. You will present your business ideas with the format.
10	Guest Speaker Session 1	We will dialogue with a real entrepreneur in order to cultivate the understanding of entrepreneurship.
11	Startup Finance - Primer	The foundation of startup finance is introduced.
12	Guest Speaker Session 2	We will dialogue with a real entrepreneur in order to cultivate the understanding of entrepreneurship.
13	Final Pitch Presentation	You will pitch your launch plan in the class.

14	Reflection & Growing Pain	In the world of entrepreneurship, action trumps everything but also reflection trumps everything too. We will reflect the journey you have taken throughout the course and extract the learning out of it. As a final topic we will also touch upon the frequent pitfalls that entrepreneurs/ startups face as they grow.	<b>【Outline (in English)】</b> This course focuses on “Entrepreneurship”, the way to survive/ thrive in the VUCA(*) world. The students will learn about the unique mindset & way of behaviors that entrepreneurs practice through class discussions and experiencing the business formulation process in group and individually. This course is an action-oriented course with several hands-on experiences & workshops. The students are encouraged to embrace teamwork, unleash creativity and actually take action. *The acronym of “Volatility, Uncertainty, Complexity and Ambiguity.”
----	---------------------------	---	---

**【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】**

The students are required to work on two types of the business ideas (group and individual) outside the class. Assignments will be announced after each class. The students are expected to dedicate, on average, two hours for the preparation for each class.

**【Textbooks】**

N/A

**【References】**

· Leonard A. Schlesinger, Charles F. Kiefer, Paul B. Brown.(2012) Just Start: Take Action, Embrace Uncertainty, Create the Future | ISBN-10 : 1422143619 | ISBN-13 : 978-1422143612

**【Grading criteria】**

1. Class Participation/ : 50%

The course contains a number of interactive discussions. Class Participation is judged on quantity and quality of the contribution to the discussion/group-work within the classes. Leadership Contribution that deepen the class learning is highly valued.

2. Rocket Pitch(Mid-term Presentation) 10%

The students are required to submit & perform the pitch based on the pitch format suggested in the class.

3. Final Presentation 40%

The final presentation will be judged by 1) Entrepreneurship (how much action/ experiment to be taken in order to improve your business ideas), 2) Persuasiveness (How convincing your presentation is), 3) Social Impact (How promising your business idea is to create social impact, whether it is really feasible in terms of technology or with your team)

**【Changes following student comments】**

N/A

**【Equipment student needs to prepare】**

PC or other devices that is needed to work on the launch plan within the classes

**【Others】**

Ryusuke is a passionate supporter for entrepreneurs of all kinds and an experienced entrepreneur himself. He started his career as an intrapreneur within a Japanese major corporation. After having received MBA degree from Babson College, he worked for GLOBIS as a senior consultant. At GLOBIS he was involved with a number of projects of executive education for Japanese major corporations & organization development of startup. He was also engaged with developing several cases that focus on entrepreneurship & startup for a business school. Since 2018 he has been leading the establishment of Venture Café Tokyo, the innovation ecosystem/ community builder in Japan that is part of a global innovation network from Boston (Venture Café Global Institute).

BSP500R1（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 500）

## 政策分析の基礎

高尾 真紀子、石山 恒貴、柿野 成美、橋本 正洋、増淵 敏之、井上 善海、小方 信幸、北郷 裕美

科目分類：基本科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策の分析や研究論文作成に必要な統計データの分析手法、社会調査における量的・質的データの収集と分析、フィールドワーク、政策及び企業の事例研究の手法等をその背景にある学術的根拠とともに学ぶ。

### 【到達目標】

修士論文の作成に必要な分析スキルを身に付け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回の担当教員がテーマに沿って講義、グループディスカッション、レポート、プレゼンなどを交えた授業を行う。毎回何らかの課題（小レポート等）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	質的調査の方法と分析（石山）	質的調査の背景にある学術的根拠を理解したうえで、データを収集し、その分析を行う手法について学ぶ。さらに、分析結果を政策分析に反映する考え方について学ぶ。
2回(3・4)	量的調査の方法と分析（高尾）	量的調査の質問票の作成方法と基本的な分析手法について学び、目的に応じ、どのような分析手法を選択すべきかを検討する。
3回(5・6)	政策プロセス科学（橋本）	国家政策のプロセスについて概観し政策企画立案執行等に関する俯瞰的知識を得る。
4回(7・8)	フィールドワーク（増淵）	地理学的なアプローチでのフィールドワークについて論じる。事例を挙げてわかり易く説明することを念頭に置く。
5回(9・10)	企業事例研究（井上） CSR・SRI定量分析（小方）	事例研究（ケース・スタディ）は、単一ないし少数の事例を対象に深く多面的な分析を行う研究アプローチで、「だれが」「なぜ」「どのように」といった質問に答える際に役立つ。本講義では、企業を対象とした事例研究の方法と分析手法について学ぶ。 CSR・SRI定量分析では、事前に配布する2つの定量分析の論文を読みつつ、論文の構成と重回帰分析の使い方について学ぶ。
6回(11・12)	統計データと政策分析（柿野）	政府統計データや個票データの扱いについて学び、分析結果の記述方法とそれを踏まえた政策分析について検討する。

7回(13・14) フィールドワーク（事例研究）（北郷）  
具体的なフィールドワーク・テーマを基に半構造化インタビューの課題等、社会調査の意味を考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ごとにテーマに対応した課題（小レポート等）を課す。新聞やその他のメディアで、今起きていることを各自が把握して授業に参加するようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』2017年、ダイヤモンド社

### 【成績評価の方法と基準】

各回のレポート及び平常点（授業への貢献等）の総合点を合計して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の学びやすさを考慮し順序を変更した。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master methods and methodologies necessary for policy analysis and preparing master's thesis. Students learn about analysis of statistical data, collection and analysis of quantitative / qualitative data in social surveys, field work, case study.

BSP500R1 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

## 政策ワークショップ

柿野 成美

科目分類：基本科目(必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

当科目では、受講生がワークショップを通じて、政策提言の疑似体験を行うことを目的とする。

### 【到達目標】

毎回講師が提示する政策提言に関するテーマ・論点に応じたワークショップ(共同作業)を運営することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

当授業は、当研究科の教員が毎回ゲストとして講義に加わる。授業前半は各教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、各教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表し、最後に担当教員が講評を行う。毎回の授業運営は受講生中心に行う。受講生は、全員が各回のファシリテーション・グループに割り振られ、授業の準備、当日の進行、授業後の報告書作成など担当する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス及びワークショップ準備	当科目の主旨及び内容説明。グループ分け。グループ毎に次週以降担当する回のワークショップ準備。
2回(3・4)	ワークショップ①	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
3回(5・6)	ワークショップ②	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
4回(7・8)	ワークショップ③	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
5回(9・10)	ワークショップ④	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
6回(11・12)	ワークショップ⑤	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
7回(13・14)	ワークショップ⑥	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

担当する回のワークショップの準備、ならびに担当したワークショップに関する報告書の作成に相当の時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

### 【参考書】

「政策創造のすすめ」(政策創造研究科同窓会編)。前年度の「政策ワークショップ報告書」。その他、講義内容に応じて適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点60%、討議への参加30%、担当したワークショップ報告書10%。

### 【学生の意見等からの気づき】

限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回、ノートPCを持参すること。

### 【Outline (in English)】

This course provides students with an opportunity to simulate policy proposals through workshops.

BSP510R1 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

調査法

高尾 真紀子

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的データの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

統計データの解析等の実証分析の方法を理解し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト (EXCEL) による分析方法を実習し、分析結果を正しく解釈するための統計の基礎を学ぶ。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としないが、エクセルの基礎的操作は習得していることが望ましい。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション 経済統計の基礎	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2回(3・4)	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3回(5・6)	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、t検定、F検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4回(7・8)	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5回(9・10)	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
6回(11・12)	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。

7回(13・14) 課題発表

各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。  
授業中のデータをUSB等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門(修士論文)に関連したテーマを選び、現状分析を行い(データをさがし加工する)、レポートを作成(文章と図表で説明)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

- 分析例  
内閣府「経済財政白書」厚生労働省「労働経済白書」等
- 統計データ  
総務省統計局「国勢調査」「家計調査」「全国消費実態調査」「社会生活基本調査」「労働力調査」「経済センサス」 <http://www.stat.go.jp/>  
内閣府「国民経済計算 (GDP統計)」 <http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>  
財務省「貿易統計」 <http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm>  
日本銀行統計 <http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>
- その他  
鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社  
伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書  
中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』  
森田果『実証分析入門』日本評論社  
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社  
西内啓『統計学が日本を救う 少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社  
涌井良幸、涌井 貞美『Excelで学ぶ統計解析』  
涌井良幸、涌井 貞美『図解 使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、実習 (30%)、レポート (50%) を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用 (インターネットによるデータのダウンロードが行える) しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期 (1年目) に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

## 研究法

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

Survey and analysis of previous research according to your theme

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

### 【到達目標】

研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2回(3・4)	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3回(5・6)	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4回(7・8)	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5回(9・10)	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6回(11・12)	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7回(13・14)	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### [Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

#### [Learning Objectives]

Setting research themes and creating research plans based on previous research.

#### [Learning activities outside of classroom]

ECN510R1 (経済学/Economics 500)

## 日本経済論

梅溪 健児

科目分類：基本科目(選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は過去半世紀の日本経済の成長と停滞について、①オーソドックスな経済学的整理、②過去の経済社会からのレガシー、③国民に共有されているくらしの通念などの視点から理解を深めることを目的とする。日本経済の最近のトピックとしては、地方の衰退、格差拡大、止まらぬ少子化などを取り上げる。人々の通念として大きく関係するのが、公共投資重視、日本型雇用の支持、家庭や社会における固定的役割分業意識などである。授業は経済学者の問題整理を出発点とし、社会学者を含め多様な専門家の論考で補足しながら、停滞からの脱出を図る政策討議に幅広い論点を提供する。

## 【到達目標】

本講義の目標は次の3点である。第一に、過去半世紀にわたる日本経済の動向を経済成長の視点から理解し、今日的な経済社会の課題について熟慮した発言ができるようになること。第二に、マクロ経済の展開と人々の生活の営みは相互に影響し合っている点を確認し、データで論理的に示すことができること。第三に、同じ事象であっても経済学者と社会学者の分析には差異があることを具体的に理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は教材(パワポ)の他、必要に応じて関係資料(文献等)を講義1週間前にHoppiiに掲載する。授業の前半は講義形式で行い、後半は討議または輪読にあてる。経済学の予備知識は問わない。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	総論：日本経済の成長と失われた20年	1960年代から70年代の高度成長期とバブル崩壊後の失われた20年余りを概観する。前者は好循環、後者はデフレ均衡を視点として、成長と停滞が持続するメカニズムを学ぶ。
2回(3・4)	総論：高成長の持続により経済社会に形成された慣習と考え方	昭和の時代に実行または形成された地域開発、インフラ整備、雇用、家族、社会保障などの典型的な姿を学び、現在へのつながりを考察する。
3回(5・6)	総論：経済の長期停滞により経済社会にもたらされた困難	平成の時代に浮かび上がった地方の衰退と東京一極集中、非正規雇用の拡大と格差拡大、超高齢化と止まらぬ少子化を高度成長期との対比で学ぶ。
4回(7・8)	各論：経済成長と日本型雇用の関係	経済学の視点から終身雇用や年功賃金について長所短所を考察し、今後のあり方を学ぶ。
5回(9・10)	各論：経済成長と格差拡大の関係	格差拡大や階層固定化の現状について経済学や社会学の文献に基づきながら論点を学ぶ。
6回(11・12)	各論：経済成長と少子化の関係	少子化について経済学者と社会学者の主張を比較しながら学ぶ。働き方、教育などの通念が出生に与える影響を理解する。

7回(13・14) レポート発表と意見交換 期末レポートを発表し、日本経済の課題について討議を行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から新聞、ニュース報道などを通じて日本経済の動きに注意し、エビデンスと政策のポイントを整理しておくことが望ましい。さらに、自身で経済社会データを検索し、図表化することを心がけてほしい。

## 【テキスト(教科書)】

講義用の教材と討議用資料を配布する。教材でメインとなるのは、参考書に示した伊藤・星(2023)及び小峰・村田(2020)である。

## 【参考書】

伊藤隆敏・星岳雄(2023)『日本経済論』東洋経済新報社(原著(2020英書)の和訳)  
 小熊英二(2019)『日本社会の仕組み』講談社現代新書  
 小峰隆夫・村田啓子(2020)『最新日本経済入門(第6版)』日本評論社  
 日本経済新聞社編(2014)『日本経済を変えた戦後67の転機』日経プレミアシリーズ  
 藤井彰夫(2023)『「正義」のバブルと日本経済』日経プレミアシリーズ  
 プリントン、メアリー・C(2022)『縛られる日本人』中公新書  
 山田昌弘(2007)『少子社会日本』岩波新書  
 吉川洋(2016)『人口と日本経済』岩波新書  
 吉見俊哉(2019)『平成時代』岩波新書

## 【成績評価の方法と基準】

討議または輪読50%(10%×5)、レポート作成と発表50%(受講生数に応じて変更することがあり得る)

## 【学生の意見等からの気づき】

(かつての授業からの気づき) 経済社会のデータに接し、それを議論に活用する習慣を身につけ、各自の研究を深める踏み台となることを期待する。トピックは幅広くなるが、自身の研究テーマの歴史的視野を深めることに役立つと思われる。

## 【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表には、図表(パワポ・エクセル等で自身が作成したもの)を持参すること。

## 【その他の重要事項】

記載した授業計画は網羅的なもので、講義の際には内容を絞ることを予定している。

## 【Outline (in English)】

This course aims to build a historical perspective on important issues that have shaped the development of the Japanese economy by reviewing the contrasting economic mechanisms between the high-growth era around the 1960s to 1970s and the two lost decades after the bubble burst in the early 1990s. Some important issues to be tackled in this course are the shrinking of local regions, expanding income gaps among people, and the accelerating decline of baby births. The class is provided with stylized facts and economic explanations by economists, together with interesting thoughts from other scholars, including sociologists in order to widen and deepen the academic expertise of students who wish to contribute to policy discussions for growth out of the long stagnation. Students are expected to prepare for the class for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded with in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

MAN510R1 (経営学 / Management 500)

## 人的資源管理論

石山 恒貴

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

### 【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくり上げていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回(3・4)	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回(5・6)	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する
4回(7・8)	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。

5回(9・10)	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6回(11・12)	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7回(13・14)	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

### 【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年  
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社、2020年  
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

### 【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

### 【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of

Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

ARS1510R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 地域活性化システム論

高尾 真紀子

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師 (関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者) が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

## 【到達目標】

学外講師 (関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家) とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム (R E S A S) を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している (2019年度：人を育てる、2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり)。2024年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2023年度の内容を記す (講師の肩書きは講義時のもの)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	内閣府地方創生推進室 矢野純也氏 「地方創生の推進について」
2回(3・4)	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	岡山県美咲町 政策監 宇佐見卓也氏 「地方自治体における地域活性化と人づくり」
3回(5・6)	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	特定非営利法人 土佐山アカデミー事務局長 吉富慎作氏 「地域における越境学習と人材育成」
4回(7・8)	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所 主席研究員 鴨志田武史氏 「地方創生とR E S A S (地域経済分析システム)」

5回(9・10)	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 常務理事 尾田洋平氏 「地域みらい留学を通じた人材育成」
6回(11・12)	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 榎田みどり氏 「農業・農村政策と人づくり」
7回(13・14)	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

講義ごとにレジュメを配布する。

## 【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社  
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容(1/3)を総合的に勘案する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレイクアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを接続して画面をスクリーンに表示できる設備  
DVDの動画番組をスクリーンに表示できる設備

## 【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。  
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

## 【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO510R1 (地理学 / Geography 500)

## 文化地理学

増淵 敏之

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

### 【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効果をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・ Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
2回(3・4)	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回(5・6)	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回(7・8)	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students

5回(9・10) 言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape

言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory

6回(11・12) 習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them

儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences

7回(13・14) ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture

これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習をしていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを中心に授業を進める。

### 【参考書】

「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ出版

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー：金16-18時

### 【Outline (in English)】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx510R1 (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 500)

## 都市空間論

上山 肇

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市空間の成立条件 (構成要素、計画、ルール、プロセス等) について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

### 【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践 (実務) の両方の視点から解説します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回(3・4)	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業 等
3回(5・6)	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法1	(1)市民参加と合意形成 等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回(7・8)	(1)都市空間の規制手法2 (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5回(9・10)	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み 等 (2)中心市街地の活性化
6回(11・12)	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究1 (事業)	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7回(13・14)	(1)事例研究2 (制度) (2)事例研究3 (テーマ型)	(1)地域地区、地区計画 等 (2)水辺空間の再生 (国内・海外事例) 等

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

実践・自治体まちづくり学 (上山肇編著、公人の友社)。その他については講義の中で必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例 (現地視察を含む) を授業に取り入れたいと考えています。

### 【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業 (1回程度) を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.

#### 【Learning Objectives】

This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Please read the materials to be distributed.

#### 【Grading Criteria / Policy】

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TRS510R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

## 観光社会学

北郷 裕美

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

観光社会学とは何か 社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

### 【到達目標】

現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すか、言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの (中略) として理論化するもの (須藤・遠藤 2018) である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておく。必要に応じてレジュメの配布 (学習支援システムに事前アップ)、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回(3・4)	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える 近代化と観光社会学 および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回(5・6)	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害 ～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回(7・8)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会的な視点を持つ
5回(9・10)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等 多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する

6回(11・12)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し 各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7回(13・14)	観光施設の社会性 (観光の文化装置としての事例研究)	観光社会学総括 これからの観光を考える (湯布院を事例として)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容 (報道等) には注意深くあつて欲しい。

### 【テキスト (教科書)】

特には設けないが毎回作成配布するPPTを通して独自のノートを作成してほしい 文献等は都度紹介していく

### 【参考書】

須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018年  
遠藤 英樹、堀野 正人、寺岡 伸悟『観光メディア論』ナカニシヤ出版、2014年  
ジョン アーリ (著)、ヨナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014年  
その他 講義内で適宜紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポート70点。

### 【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

### 【Outline (in English)】

What is tourism sociology? The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology. Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society. Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN510R1 (経営学 / Management 500)

**地域産業論**

橋本 正洋

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、実績のあるゲストを招いて話題提供をお願いし、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを旨とするために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

**【到達目標】**

日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

担当教授によるイントロダクション (第一回講義) に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲスト講師から担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回(3・4)	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲスト講師からの話題提供を基に教授と指導のもと討議する。
3回(5・6)	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。
4回(7・8)	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。
5回(9・10)	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。
6回(11・12)	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。
7回(13・14)	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

**【テキスト (教科書)】**

講義の際に配布する。

**【参考書】**

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (おおむね50%)、プレゼンテーション (おおむね50%) とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

ゲスト講師が遠隔で話題提供を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

**【その他の重要事項】**

ゲスト講師を事前に提示するので、予習をしておくこと。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical presentation and sufficient discussion under professor's moderation. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.

MAN510R1 (経営学 / Management 500)

## 中小企業論

井上 善海

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

### 【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。授業は完全オンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回(1・2)	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2回(3・4)	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3回(5・6)	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。

4回(7・8)	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5回(9・10)	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6回(11・12)	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7回(13・14)	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300円）

### 【参考書】

井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800円）  
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）  
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（40%）、講義内で課す課題レポート（60%）により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN510R1 (経営学 / Management 500)

## CSR論

小方 信幸

科目分類：基本科目 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では、CSRを本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造するCSV (Creating Shared Value, 共通価値の創造) と定義する。CSVを経営戦略として如何にサステナビリティ経営を実現するべきであるかを考える。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業がサステナビリティ経営を実現する要因を学ぶことを目的とする。

## 【到達目標】

学生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造するCSVを経営戦略とすることにより、サステナビリティ経営を実現することが出来ることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSVを実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する要因を学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 歴史から学ぶCSR概念の形成と変遷
2回(3・4)	共通価値の創造 (CSV)	(1) M.ポーター他「共通価値の創造」戦略 (2) ケース：ネスレのCSV戦略
3回(5・6)	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営 サステナビリティのためのガバナンスを学ぶ
4回(7・8)	クレドール経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条 (Our Credo) と人的資本重視の経営を学ぶ
5回(9・10)	日本企業のCSV経営	ケース：味の素
6回(11・12)	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7回(13・14)	日本の中小企業におけるCSV戦略	ケース：石坂産業株式会社

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。

(2) 授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

## 【参考書】

都度紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献 (40%)、期末レポート (60%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

(2) 企業のサステナビリティ・CSR部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員からCSRおよびCSVについての理解が深まったとの感想が寄せられた。2024年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

## 【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘などに伴い、授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

## 【Outline (in English)】

In this class, we define CSR as Creating Shared Value (CSV), which is the creation of social and economic value through core business activities, and consider how sustainability management should be realized through CSV as a management strategy. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. Through the lecture, group discussion, and class discussion, the objective is to learn the factors that enable companies to realize sustainability management.

ECN520R1 (経済学 / Economics 500)

## 少子高齢化と社会保障

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を獲得する。

### 【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し (講義)、課題解決の方法について資料を提示したうえで、各回ディベート形式で討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化及び移民問題についても議論する。
2回(3・4)	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3回(5・6)	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4回(7・8)	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5回(9・10)	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6回(11・12)	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
7回(13・14)	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくこと役に立つ。毎回、次回のディベートのテーマを示すので、参考資料を読んで準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配布する

### 【参考書】

- 政府の白書等  
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
- その他  
エスピノーアンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房  
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書  
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫  
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社  
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書  
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社  
河野稠果『人口学への招待』中公新書  
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ  
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房  
友原章典『移民の経済学』中公新書  
永吉希久子『移民と日本社会』中公新書  
山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社  
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書  
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書  
吉川洋『人口と日本経済』中公新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への参加) (30%)、各回の課題 (20%)、最終レポート (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ECN520R1 (経済学/Economics 500)

## ウェルビーイング論

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目(選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：経済・社会・雇用/

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

## 【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、EBPM(根拠に基づく政策形成)に資する政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し(講義)、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回(3・4)	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング(幸福)に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回(5・6)	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回(7・8)	お金とウェルビーイング(ワークショップ)	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5回(9・10)	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回(11・12)	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回(13・14)	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策(方策)について発表とディスカッションを行う。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ウェルビーイング(幸福、健康)は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配布する

## 【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社  
大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010年、日本評論社  
小塩隆士『「幸せ」の決まり方 主観的厚生と経済学』2014年、日本経済新聞社  
キャロル・グラハム(多田洋介訳)『幸福の経済学』2013年、日本経済新聞出版社  
経済協力開発機構『OECD幸福度白書2—より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年、明石書店  
島井哲志『幸福の構造—持続する幸福感と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか?』2015年、有斐閣  
橋木俊詔『「幸せ」の経済学』2013年、岩波書店  
友原章典『会社ではネガティブな人を活かしなさい』2021年、集英社新書  
ブルーノ・S・フライ(白石小百合訳)『幸福度をはかる経済学』2012年、NTT出版  
デレック・ボック(土屋直樹、茶野努、宮川修子訳)『幸福の研究—ハーバード元学長が教える幸福な社会』2011年、東洋経済新報社  
前野隆司『幸せのメカニズム—実践・幸福学入門』2013年、講談社現代新書  
矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年、草思社文庫  
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年、草思社  
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年、光文社新書

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(議論への参加・貢献)(30%)、各回の課題(20%)、最終レポート(50%)を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

## 【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520R1 (経済学/Economics 500)

## 実証分析入門

柿野 成美

科目分類：プログラム科目(選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：経済・社会・雇用/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

### 【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解すること、2. 先行研究の分析結果の読み方を習得すること、3. 各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意された論文に事前に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回(3・4)	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回(5・6)	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回(7・8)	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5回(9・10)	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回(11・12)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回(13・14)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌(査読論文が望ましい)にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

### 【テキスト(教科書)】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

### 【参考書】

浦上昌則・脇田貴文(2021)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版』東京図書  
小塩真司(2021)『第3版 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで』東京図書  
小塩真司(2021)『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%  
期末レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回、パソコンを持参する。

### 【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

### 【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

雇用政策研究 (マクロ)

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ)について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	－そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思いついてる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回(3・4)	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本の雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3回(5・6)	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える

4回(7・8)	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となりが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5回(9・10)	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6回(11・12)	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7回(13・14)	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。  
1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと  
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする(どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように)。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ (若山由美訳)『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶應義塾大学出版会, 2016年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会, 2021年
6. 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7. 西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ&キャリア』中央経済社,2023年

【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点(1回当たり5点満点で計35点満点)、②2500字以上の長さの科目レポートの得点(65点満点)で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題(修士論文テーマ)に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## キャリア政策研究

岸田 泰則

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア・マネジメントはますますその価値を高めている。本授業では、個人のキャリア・マネジメントについての理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

## 【到達目標】

本授業では、個人のキャリア・マネジメントに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えるきっかけを得ることができる。さらには、キャリア・マネジメントの先行研究 (質的研究) を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
- ・ Evaluate previous studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各回とも学生が分担して、先行研究 (質的研究) をレビューし、その結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半でグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション	授業の目的・到達目標、そして、先行研究のレビューの仕方について説明する。中間発表のスケジュールを確定する。
2回(3・4)	ゲスト講演	キャリア政策の事例について、ゲスト講師から説明する。その後、ディスカッション、担当講師によるまとめを行う。
3回(5・6)	若年者のキャリア・マネジメント	若年者のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
4回(7・8)	ミドル・シニアのキャリア・マネジメント	ミドル・シニアのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
5回(9・10)	女性のキャリア・マネジメント	女性のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
6回(11・12)	フリーランスのキャリア・マネジメント	フリーランスのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
7回(13・14)	グローバル人材 (外国人を含む) のキャリア・マネジメントとまとめ	グローバル人材 (外国人を含む) のキャリア・マネジメントについての理解を深める。授業全体のふりかえりを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として事前に指定された先行研究 (論文) を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、この課題は分担として、授業7回の中で1回は担当するようにする。本授業の準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間を標準とする。

Students will be expected to read the previous study, review them from your own original perspective, and present your findings. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

## 【テキスト (教科書)】

各回の授業において、授業資料と論文 (質的研究) を配布する。

## 【参考書】

近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書—論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房 2022年  
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎 2023年

## 【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点 (授業への参加、グループ討議) 35%
- ②各自が担当する発表 (中間発表) 30%
- ③最終レポート 35%

最終レポートとして、キャリア・マネジメントに関わる先行研究のレビューを

3000字程度のレポートとして提出する。

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 35%, mid-term report 30%, and 35% final report.

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にないが、授業時にPC等を利用することは構わない。

## 【その他の重要事項】

オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of measures to encourage career management of workers. In this course, we will consider the meaning of work consistently.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 地域雇用政策事例研究

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

### 【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回(3・4)	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンの含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回(5・6)	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス (NPO、プロボノ、読書会など) や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回(7・8)	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5回(9・10)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討 (その1)	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回(11・12)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討 (その2)	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。

7回(13・14) 地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討(その3) 地域雇用の未来とまとめ

地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること (その成果を授業中に発表していただく)
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

### 【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年

### 【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点 (1回当たり5点満点で計35点満点)、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点 (65点満点) の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジユメのみで行うかは任意。

### 【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of

Regional Employment Policy.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 人材育成論

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について報告することを求める。

### 【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について報告することを求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回(3・4)	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回(5・6)	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回(7・8)	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5回(9・10)	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。

6回(11・12)	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回(13・14)	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

いずれかの人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

### 【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年  
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年  
石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点 (1回当たり5点満点で計35点満点)、②各自が分担する事例発表の得点 (65点満点) で、両者を足した総得点による。

### 【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

### 【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 地域コミュニティ論

中島 由紀

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位

群/プログラム：経済・社会・雇用/

群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。

▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。

▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてである。この点について考えていく。

▼最終回の2回は、ここ数年で激変している日本社会。これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

### 【到達目標】

- ①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。
- ②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。

以上の2点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。

・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方 (主にクロス集計、多変量解析) について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。

・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。

・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらおうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ 一理論の系譜 ○近代から現代の変化	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジンメル、ワース、パー ジェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。

2回 ○近代から現代都市論からみたコミュニティ  
○日本の共同体から都市化の変化  
第1回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。

3回 ○コミュニティ政策の変遷  
○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み  
1970年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。今回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。

4回 ○コミュニティ参加の問題  
○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題  
日本のNPOや公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。

5回 ○日本人の生活と価値観の変化  
○「ウチ/ソト」「タテ/ヨコ」社会、「信頼と安心」  
○ネット社会がもたらしたコミュニティの変化  
日本の生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的地域コミュニティの変化の問題を考えていく。

6回 ○「新しい地域コミュニティ」を考える  
○関係人口、DAOといった新しい形のコミュニティ形成を考える  
2020年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害や、働き方が多様になり副業社会へと移行してきている日本。私たちの生活環境はここ数年で激変してきている。この社会変化の中で、コミュニティの存在意義を考える。これから求められているコミュニティの在り方は？ 特に、最近の新しいコミュニティの形として、関係人口創出事業やDAOについても触れる。

第6回は、これらの変化を念頭にグループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。

7回 ○コミュニティの行方  
○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？  
第6回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

### 【参考書】

#### 《必読》

- 『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
- 『共同体の基礎理論』内山節,2010年（農山漁村文化協会）
- 『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
- 『都市コミュニティの社会学』中村八朗,1973（有斐閣双書）
- 『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
- 『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
- 『都市の共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
- 『われらの子ども 一米国における機会格差の拡大』ロバート・D・バットナム,2017（訳（創元社）
- 『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
- 『集団と組織の社会学—集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
- 『サードプレイス 「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所』レイ・オルデンバーグ,2013（みすず書房）

### 【成績評価の方法と基準】

- ・授業の参加とコメントシートの提出（60%）
  - ・6回目のグループワーク&7回目の発表（20%）
  - ・最終レポート提出（20%）
- ※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

### 【学生の意見等からの気づき】

●今日的「コミュニティ問題」の扱い方について  
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日的「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。

●毎年、講義以外に調査方法として多くの学生が良かった点で挙げてくれるのは以下の3点がある。実際にもらったコメントと併せて紹介する。

- ①コミュニティの歴史と年表について「コミュニティの概念を歴史を遡り各時代での意味と意義を考える行為は非常に参考になった。年表を作成して考えを整理する方法も、別のテーマでも応用できる」
- ②文献の探し方「国会図書館や公文書検索について「論文作成に非常に参考になった」
- ③統計データの探し方について「e-statは少しいじったことがあったが、具体的なリサーチ方法や入口を聞いて非常に役に立ちました」

### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

### 【Outline (in English)】

The first half organizes the classic concept of community theory and its transition. From there, we will look at how it was treated in Japanese society. The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community". By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
- ・ To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
- ・ Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520R1 (経済学 / Economics 500)

## 消費者政策論

柿野 成美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位

群 / プログラム：経済・社会・雇用 /

群 / プログラム：地域産業・企業 /

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

### 【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1. 消費者被害とその対応、2. 消費者の自立支援 (消費者教育・啓発)、3. SDGs達成に向けた消費者と企業との共創 (エシカル消費・消費者志向経営) である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回(3・4)	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回(5・6)	地方消費者行政の実際 (現地調査)	東京都消費生活総合センター (飯田橋) を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	消費者政策の最前線 (ゲストスピーカー)	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5回(9・10)	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回(11・12)	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回(13・14)	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連する諸課題に関心を持つようにすること。

### 【テキスト (教科書)】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

### 【参考書】

『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年

『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50%、平常点：50%  
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

### 【Outline (in English)】

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 生活政策論

柿野 成美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
 群/プログラム：経済・社会・雇用/  
 群/プログラム：地域産業・企業/

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

## 【到達目標】

地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回(3・4)	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン (ゲストスピーカー：田中美帆氏)	地域における生活課題解決にデザインを活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回(5・6)	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回(7・8)	地域における私設図書館による場づくり (ゲストスピーカー：土肥潤也氏)	私設図書館を開設して地域における場づくりを行っている「みりー「みんとしょ」を事例として (ゲストスピーカー：土肥潤也氏)」の事例を紹介し、その可能性と課題について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
5回(9・10)	生産者と消費者をつなぐ学習プログラム「SDGs調査隊」を事例として	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回(11・12)	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。
7回(13・14)	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

## 【テキスト (教科書)】

毎回、レジメや参考資料を配布する。

## 【参考書】

○政府の白書  
 内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」  
 厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」  
 環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」  
 消費者庁「消費者白書」等  
 ○『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度 (50%)、最終レポート (50%) を総合的に勘案する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSI520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 男女共同参画政策論

池永 肇恵

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：経済・社会・雇用/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

### 【到達目標】

男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー(社会的・文化的な性別)のバイアスに気付き、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわらず能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらい。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン (Zoom) 講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終日のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回(1・2)	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2回(3・4)	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DVや性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3回(5・6)	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4回(7・8)	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。

5回(9・10)	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。
6回(11・12)	国際動向と残された課題/最近のトピック	SDGsを含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AIやコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
7回(13・14)	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

### 【参考書】

内閣府「男女共同参画白書」  
内閣府男女共同参画局HP <https://www.gender.go.jp/>  
イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT出版 2018年  
キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』河出書房新社 2020年  
マシュー・サイド『多様性の科学』ディスカバー・トゥエンティワン 2021年  
前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019年  
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書 2019年

### 【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%)

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度 (平常点) として評価する。受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン (Zoom) 講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

### 【その他の重要事項】

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 実践地方行政論

池永 肇恵

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：経済・社会・雇用/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取り組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

### 【到達目標】

生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン (Zoom) 講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終回のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回(1・2)	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2回(3・4)	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3回(5・6)	商工・労働/農林水産業/地域公共交通	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応、地域インフラとして重要な地域公共交通の動向を学ぶ。
4回(7・8)	生活インフラ/防災	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災における行政の役割や取組を学ぶ。
5回(9・10)	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6回(11・12)	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。

7回(13・14) まとめ、レポート発表・ディスカッション  
これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

### 【参考書】

総務省「地方財政白書」  
大森彌・大杉覚「これからの地方自治の教科書」第一法規 2019年

### 【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%)

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度 (平常点) として評価する。

受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン (Zoom) 講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

### 【その他の重要事項】

### 【Outline (in English)】

This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520R1 (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 500)

## 地域社会論

上山 肇

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位

群/プログラム：経済・社会・雇用/

群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

### 【到達目標】

地域社会を形成している諸要素 (計画、ルール、コミュニティ、住民参加等) を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論 (理論と方法) について話します。
2回(3・4)	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。 事例研究(1)
3回(5・6)	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステイナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(2)
4回(7・8)	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(3)
5回(9・10)	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権権」や「参加」、「ルール」等について考えます。事例研究(4)
6回(11・12)	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(5)
7回(13・14)	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(6)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

実践・自治体まちづくり学 (上山肇編著、公人の友社)。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業 (1回程度) を休日を利用して現地視察に振り替えることがあります。

### 【Outline (in English)】

#### [Course Outline]

This course introduces local community and community development to students taking this course.

#### [Learning Objectives]

1. Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).
2. Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

#### [Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

#### [Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSk520R1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

**比較都市事例研究**

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位  
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国内の都市（地域、地区）を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

**【到達目標】**

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディスカッションを全員で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスと講義	都市比較の要点
2回(3・4)	事例研究1：事例紹介と作業（対象地域に関する資料収集）	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
3回(5・6)	事例研究2：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
4回(7・8)	中間発表	作成途中の作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション
5回(9・10)	事例研究3：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
6回(11・12)	事例研究4：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）作成
7回(13・14)	最終発表	学生による完成作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）の説明（発表）、質疑応答、ディスカッション、講評

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。

**【参考書】**

実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、発言20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

**【Outline (in English)】****[Course Outline]**

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

**[Learning Objectives]**

At the same time as acquiring a multifaceted perspective on urban analysis, you will acquire the basics of comparative research.

**[Grading Criteria / Policy]**

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 文化基盤形成論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要もあるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

### 【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチの検討/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2回(3・4)	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village

3回(5・6)	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
4回(7・8)	札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開/Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
5回(9・10)	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク/Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
6回(11・12)	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.
7回(13・14)	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students	履修学生の発表を行う/Announce students

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。13/14回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

### 【テキスト (教科書)】

とくになし

### 【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社  
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (発表含む) 30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味を持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

とくになし

### 【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。

### 【Outline (in English)】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## コミュニティーメディア論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会を含む様々なコミュニティーに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

### 【到達目標】

本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在 (失われた空間の意味するところ) : マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回(3・4)	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティーメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回(5・6)	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access) を視聴する：米国映画 (Public Access) についての意見交換と解説

4回(7・8)	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティー放送前夜の時代を描いた作品)を視聴する：日本のコミュニティー・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5回(9・10)	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティー放送の概要と機能 公共性指標	日本のコミュニティー FM放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴 意見交換と解説：北海道のコミュニティー FM放送調査を事例に解説
6回(11・12)	コミュニティー放送の運営課題：コミュニティー放送と防災	日本のコミュニティー FM放送の組織経営の在り方と課題について：様々な事例より、コミュニティーメディアの防災側面 リスク最大値からの教訓を考える
7回(13・14)	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー：ネット社会とコミュニティーメディア	映像をまじえて『メディアリテラシー』全般について考える：コミュニティーメディアのインターネット空間への広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

### 【テキスト (教科書)】

・『コミュニティー FMの可能性: 公共性・地域・コミュニケーション』(北郷裕美著 青弓社)

### 【参考書】

・『日本のコミュニティー放送-理想と現実の間で-』(北郷裕美 共著 晃洋書房)  
・『新・公共経営論』(北郷裕美 共著 ミネルヴァ書房)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート試験 70%を原則的な配分として評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義は原則として、毎回PC機器、視聴覚機器 (DVD等) を使ったプレゼンテーション型の講義をPPTで行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSI520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 都市文化論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

### 【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置 (劇場、映画館、カフェなど) にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回(3・4)	近代における都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回(5・6)	「考現学入門」解説とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device

4回(7・8) 百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo

都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo

5回(9・10) 東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels

文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels

6回(11・12) アジアの諸都市/Asian cities

アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila

7回(13・14) 都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities

異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを使用

### 【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC.DVDの使用もある。

### 【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。

### 【Outline (in English)】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

## ニューツーリズム論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマスツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。隔年開講であるため、観光開発論の内容も一部付加し、ニューツーリズムの振興について観光の歴史を踏まえながら俯瞰する

### 【到達目標】

観光立国推進基本法が成立してから20年弱。この間観光形態も変容し、また東日本大震災、さらにコロナ禍も挟んで観光の在り方そのものの加筆修正が続いてきた。本講義で扱う、ニューツーリズムは、この20年ほどで注目されてきた新たな旅行スタイルである。かつて、旅行形態の中心は団体で世界中の観光名所を旅して回るマスツーリズムであった。現在注目されてきたニューツーリズムは、個人を対象に、多様な嗜好に重点をおき、企画開発された「体験型」且つ「交流型」の旅を指す。さらにニューツーリズムは地域資源を活かせる地域創生事業という側面もあり、政府、観光庁も積極的に取り組みを行っている。斯様な文脈から多様な視点でニューツーリズムを理解し、今後の観光の在り方をクリティカルに検証することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面で行う。パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材 (You tube、DVD 動画等) も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス ニューツーリズムとは何か	・本講義の位置づけ (観光開発論 観光社会学との関連) ・ニューツーリズムのメリット & デメリットを考える
2回(3・4)	日本の観光開発の歴史 (復習も兼ねて)	・日本におけるインバウンド観光の歴史と現在について ・マスツーリズムからの変容を時系列で把握する
3回(5・6)	ニューツーリズムの振興①	・観光開発の歴史 ・オルタナティブ観光とサステイナブル観光の違い
4回(7・8)	ニューツーリズムの振興②	・地域創生における観光のありかたを考察する
5回(9・10)	ニューツーリズムの振興／多様過ぎる種類と事例①	・サステナブル・ツーリズム誕生までの経緯 ・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み例

6回(11・12)	ニューツーリズムの振興／多様過ぎる種類と事例②	・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み例
7回(13・14)	新しい観光"メタ観光"とは 総括	・通常の観光形態よりも一段上位 (メタ) にある観光概念について考察する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

### 【テキスト (教科書)】

特に設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい 文献等は講義の前後に適宜紹介していく

### 【参考書】

特に設けないが文献、論文等はその都度紹介していく

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポート70点

### 【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う  
受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

### 【その他の重要事項】

講義の進め方等について初回ガイダンス時に解説する。講義内容は、受講者の関心等に沿って進捗を鑑み変更することも可とする。

### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

TRS520R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

## コンテンツツーリズム論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るといふものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

### 【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2回(3・4)	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3回(5・6)	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom

4回(7・8) 「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon

マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism

5回(9・10) 司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content

歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images

6回(11・12) ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"

ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism

7回(13・14) 新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work

現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを中心に授業を進める。

### 【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社  
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

### 【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。

### 【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

BSP520R1 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

## フィールドワーク論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、フィールドワーク(現地調査)の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に質的調査に軸足を置く予定である。

### 【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布 (学習支援システムに事前アップ)、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、新型コロナ感染対応の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンフィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究 (調査) の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回(3・4)	フィールドワークの基本②	定性調査を基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回(5・6)	フィールドワーク事例①	映画視聴 理論に基づいた事例研究に際し、方法論 (調査技法) の長所短所について検証する
4回(7・8)	フィールドワーク事例 ②	テキストベースの文献調査、アクションとしての参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5回(9・10)	フィールドワークの実践的リアリティ	アンケート・インタビュー手法を中心に具体的なシミュレーションを行う
6回(11・12)	CASE STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの実際について、事例を基に学ぶ 例)『暴走族のエスノグラフィー (佐藤郁哉著)』 例)『コミュニティFMの可能性 (北郷裕美著)』を用いて視覚的に解説する

7回(13・14) 総括 フィールドワーク調査をもとに課題を提起、改善点を考える

これまでの学びを通して、収集した資料の分類・整理から生まれる新たな知見や理論構築について再考する  
またデータ分析等に用いる様々なツール (ハード機器 ソフトウェア) を情報リテラシーを用いて整理し、受講生各自の今後のフィールドワーク活動についての方針や計画についての発表を行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容 (報道等) には注意深くあつて欲しい。

### 【テキスト (教科書)】

特に設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

### 【参考書】

佐藤郁也(2008)「質的データ分析法—原理・方法・実践」新曜社  
佐藤郁哉 (1984-2011)『暴走族のエスノグラフィー』新曜社  
はか多くの参考文献があるが講義中に適宜紹介する

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork). This lecture will basically focus on qualitative research.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARS1520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

メディア産業論

増田 弘道

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本を代表するポップカルチャーとなったアニメとはどのようなものであるのかについて正確な認識を持つ。アニメが古くから絵画、物語など日本の伝統文化と深く関わっていることを把握し、国際化する社会の中で日本の産業・文化としてどのように位置づけられるのかについて考える。また未来産業としてのアニメについても言及する。

【到達目標】

アニメについての正確に語れるようになること。日本のみならず、アメリカやその他の諸国、また近年存在感を増している中国などで、アニメがどのような状況になっているのかについて正確に知り、伝えられるようになる。世界の共通言語となりつつあるアニメをコミュニケーションツールとして使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 映像等を見ながら国内外のアニメーションの歴史やその文化的位置付けを把握する
- 2) アニメ産業の基礎知識 (産業構造、収益手段 (ウィンドウ)、ディズニーやピクサー他日米主要スタジオ、人材育成、著作権) を得る
- 3) アニメがどのようにつくられているのかを知る (企画から制作、回収、分配までの工程。プロデューサーの役割など)
- 4) アニメを考える上で有効と思われるその時々トピックを取り上げて解説する

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	アニメ概論 introduction ～アニメ概論/アニメーション・アニメの定義	自己紹介、推薦図書、推薦映画とアニメーション・アニメの定義について
2回(3・4)	アニメーションの歴史①before Walt～	ミッキーマウス以前のアニメーション、ハリウッドの成り立ちについてなど
3回(5・6)	アニメーションの歴史②～after Walt～ アメリカンアニメーションの黄金時代	ミッキーマウス登場以降出現したアニメーションの黄金時代につて述べる
4回(7・8)	アニメーションの歴史③～ディズニーの復活、そしてCGアニメーションの時代とピクサー	アメリカン・アニメーションの復活、企業としてのディズニー・ピクサーについて
5回(9・10)	アニメーションの歴史④日本におけるアニメの成り立ち～そしてアニメの黄金時代	日本のマンガ・アニメ文化が持つ1,000年の歴史について研究する。そして、戦後日本のアニメが大発展した理由について

6回(11・12) マンガ・アニメの定義 イメージパワーが未来を創る/アニメはどのようにして作られるのか? 誰が何のために創るのか? 2 (ビジネスの視点から見たアニメ)

日本のマンガ・アニメが持つイメージパワーについて/アニメの生態系 製作と制作と流通・映像は誰のものなのか? ・製作委員会について・アニメーターは低賃金なのか?

7回(13・14) アニメをつくるアニメ制作フロー

アニメ制作ではなく製作における企画開発から、制作、流通、分配までのシステムを研究する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

[予習・復習映画]

- 1) 『機動警察パトレイバー 2 the Movie』(1993年113分日本)  
・日本の危機管理を問う押井守の最高傑作
- 2) 『東京ゴッドファーザーズ』(2004年92分日本)  
・奇才今敏のハート・ウォーミング・クリスマス・ストーリー
- 3) 『ペルセポリス』(2007年95分フランス) \*アカデミー賞候補  
・イラン革命の内実を鋭く語る社会派アニメーション
- 4) 『ブレンダンとケルズの秘密』(2009年75分アイルランド) \*アカデミー賞候補  
・アイルランドでつくられたケルト三部作 (Cartoon Saloon制作)、世界で最も美しい福音本『ケルズの書』を巡る神秘的ストーリー
- 5) 『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』(2014年アイルランド) \*アカデミー賞候補  
・ケルト三部作、羽衣伝説など日本の縄文文化にも通じるケルト的ファンタジー
- 6) 『この世界の片隅に』(2016年129分日本) \*アカデミー賞候補  
・『火垂るの墓』と並ぶ不朽の戦争名作アニメーション
- 7) 『KUBO/クボ 二本の弦の秘密』(2016年102分アメリカ) \*アカデミー賞候補  
・日本びいきのNIKE創業者の息子であるトラビス・ナイトが監督する超絶ハイテク人形アニメーション
- 8) 『生きのびるために』(2017年94分アイルランド) \*アカデミー賞候補  
・女性一人の外出が許されないタリバン支配下における惨状を描いた問題作品
- 9) 『幸福路のチー』(2018年111分台湾)  
・一見ちびまる子風のホームドラマのようにも見えて、実は国民党から民進党へと政権移行する台湾現代政治史が実にリアルに描かれている必見作品、実は台湾では李登輝がそれほど評価されていないことが分かる
- 10) 『犬ヶ島』(2018年105分アメリカ) \*アカデミー賞候補  
・ハリウッドに居ながら自分の好きなテーマで映画を撮れる鬼オウエス・アンダーソン、本作では驚くなかれオノ・ヨーコが自身の役柄で声優を務めている
- 11) 『ウルフウォーカー』(2020年103分アイルランド) \*アカデミー賞候補  
・ケルト三部作最終章、ジブリ作品が「漫画映画」に見えてしまう深い精神性を持つファンタジー傑作
- 12) 『ソウルフルワールド』(2020年101分アメリカ) \*アカデミー賞グランプリ  
・生まれ変わりの霊的な世界観が示されたピクサー最高傑作

【テキスト (教科書)】

全てAmazonのkindleで発売。

- 1) 『アニメビジネス叢書①アニメ産業論～定義と歴史2021』Kindle版
- 2) 『アニメビジネス叢書②2021アニメ産業生態系論 製作と制作と流通/アニメ製作論/制作工程論/デジタル化論/製作委員会論/労働環境論/アニメに携わる仕事』Kindle版
- 3) 『アニメビジネス叢書③2021アニメ産業論 アニメ産業統計による産業構造把握/テレビアニメ/劇場アニメ/ビデオ/商品化/遊興/音楽/ライブエンタテインメント/海外/日本のアニメは空洞化しているのか/日本のアニメが海外で売れた三つの理由』Kindle版
- 4) 『アニメビジネス叢書④手塚治虫論評集「手塚治虫世界遺産論」 「マンガ・アニメの“神様” 手塚治虫はどのようにして生まれたのか』Kindle版

【参考書】

- ① 『日本アニメの革新 歴史の転換点となった変化の構造分析』(角川新書)

- ②『ディズニーCEOが実践する10の原則』（早川書房）
- ③『大塚康生 作画汗まみれ 改訂最新版』（文春文庫）
- ④『ピクサー流 創造するちから—小さな可能性から、大きな価値を生み出す方法』（ダイヤモンド社）
- ⑤『アニメを仕事に! トリガー流アニメ制作進行読本』（星海社新書）
- ⑥『アニメプロデューサーになろう! アニメ「製作(ビジネス)」の仕組み』（星海社新書）
- ⑦『TYPE-MOONの軌跡（星海社新書）』
- ⑧『小池一夫のキャラクター進化論(1)漫画原作マル秘の書き方<<まんげん・ピ!>>』

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート(3~4回を想定) 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

1年毎の講座のため前回は一昨年になりますが、初のオンライン授業で操作などにも慣れていなかったため予習がなかったようで、受講生との対話も少なかった。今回は受講生の話や意見を授業に組み入れるよう心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業に必要な機器（PC等）、環境（wifi等）。

**【Outline (in English)】**

Anime has become Japan's leading pop culture, so we have an accurate understanding of it in this class. We have to understand that anime has been deeply related to Japanese traditional culture such as paintings and stories since ancient times, and to consider how it is positioned as a Japanese industry and culture in an internationalized society. We also mentions animation as a future industry.

ARSI520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## イベント・フェスティバル論

山中 聡

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：文化・都市・観光/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

音楽や映画などポップ・カルチャー・コンテンツを使ったイベント・フェスティバルを時間軸を追って学び、それらを使った企画で少子高齢化、地域活性化などSDGsをテーマとした独自性のあるイベント・フェスティバルをプランニングしマネージメントを学ぶ。  
パンデミックで一気に発展したオンデマンドやサブスクリプション・ビジネスなど新たなマーケットとメディアの現状と今後を考え、集客目的のプロモーションやイベント関連の収益事業を考え、行政や企業との関わりなども視野に入れて具体的な提案を試みる。また、パンデミック収束後から戻ってきたインバウンド・ビジネスの今後にも視野に入れ、海外観光客向けの日本の文化コンテンツを使った街作りや持続可能な集客イベントをプランニングする。

### 【到達目標】

授業の到達目標は自らイベント、フェスティバルを企画、運営するためのマネージメントにおける基礎知識を習得する事です。また、事例を持って日本や世界のポップ・カルチャー史を学ぶことから世代を超えたグローバルなポップ・カルチャー・マーケットを把握し、彼らを集客するイベント・フェスティバル創りへつなげます。創造的な企画力と実行へのマネージメントを学ぶことでスキルアップをはかります。

パンデミックで加速したオンデマンド、サブスクリプションが世界を凌駕したエンタメ界を認識し、今後の世界と日本のマーケットを分析することでマーケティングに生かす。進化するSNSなど新たなコミュニケーション・ツールを含めたメディア・プロモーションを知り、有効なメディア・ミックスを模索する。リアルとバーチャル、新たな時代のイベント・フェスティバル企画を作るノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業毎にテキストを用意し、授業内で共有しながら進行します。個々の質問や全員での意見交換も大切にします。各授業内に簡易な課題も設け、最終的には課題レポートを課し評価します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	音楽、その時代背景と 昨今ロックフェスや映画祭など多様化した様々な文化系イベントを学ぶ。	ウッドストックからフジロックなど時代とともに進化していく、自然共存型や都市型の様々なフェスや文化コンテンツによるイベントを検証する。
2回(3・4)	マーケティングとプロモーション。	メディアの現在、過去、未来を俯瞰しつつ、イベント・フェスティバルでの有効なメディアの使い方を考察する。
3回(5・6)	イベントにおけるマネージメントを俯瞰する。	イベント目的に応じた企画、制作と著作権やマーチャンダイジングなど具体的な現場でのマネージメントを学ぶ。

4回(7・8) 少子高齢化や過疎化などSDGsを念頭にこれからのイベントを考える。

少子化と高齢化、過疎化の進む日本での今後のイベントのあり方とテーマ。海外観光客によるインバウンドによる地域創生、活性化させる具体論を検証し考える。

5回(9・10) 音楽、映画、文学、ファッションなどポップ・カルチャーをテーマにしたイベント考察。

1970年代、1980年代など世代共有による横軸と音楽や映画などポップ・カルチャーの共有による縦軸をテーマにイベントを創る。

6回(11・12) パブリックな意図を持った行政との連携による公園や街中でイベント、フェスティバル考察。

地球温暖化への更なる啓蒙や防災などを視野に入れ、地域創生を目指す都市型野外イベント・フェスティバルを企画する。

7回(13・14) イベント、フェスティバル論総括。各々レポート課題のテーマを考える。

様々の目的を明確にした、イベント、フェスティバルを自らプロデュース。講義で得たノウハウを具体化し、プランニングする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業に用意するテキストを復習しながら、課題があった場合は提出を指示します。

### 【テキスト (教科書)】

毎回のテキストは授業内で配布します。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点と各授業内での質疑応答内容など：60%  
授業終了時に課すレポートの内容：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

レコード会社、マネージメント会社でのアーティスト・マネージメント、コンサートやイベント制作、CM音楽制作などの音楽業界での経験と文化庁、環境庁、観光庁など行政との具体的なイベント企画制作を例にしつつ、ポップカルチャー・コンテンツを使った新たな発想を育む講義を目指します。

### 【Outline (in English)】

Students will learn about events and festivals that use pop culture content such as music and movies over time, and plan and manage unique events and festivals with the theme of SDGs, such as the declining birthrate and aging population, and regional revitalization, using them.

Considering the current status and future of new markets and media, such as on-demand and subscription businesses, which have developed rapidly due to the pandemic, we will consider promotions and event-related revenue businesses for the purpose of attracting customers, and try to make concrete proposals with a view to involvement with governments and companies. In addition, with a view to the future of inbound business, which has returned after the pandemic has subsided, we will plan urban development using Japan cultural content for overseas tourists and sustainable events to attract customers.

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

**観光マーケティング論**

青木 洋高

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位  
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

**【到達目標】**

観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。

講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。なお、その場合も担当教員が取り纏めを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2回(3・4)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3回(5・6)	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。LCCとFSA、プライシング戦略など。
4回(7・8)	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
5回(9・10)	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6回(11・12)	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7回(13・14)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

レジュメを中心に授業を進める。

**【参考書】**

講義の中で、適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30%、レポート70%。

**【学生の意見等からの気づき】**

各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

**【その他の重要事項】**

一部講義をオンラインで行う場合がある。

**【Outline (in English)】**

“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 地域経営戦略論

橋本 正洋

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務 (政策立案・運営、企業戦略) に活かすことを目指す。

### 【到達目標】

具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッション及び全体討議を行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回(3・4)	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策 (マクロ、地方振興策など) の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
3回(5・6)	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
4回(7・8)	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を担当教授の指導の下行う。
5回(9・10)	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。
6回(11・12)	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。

7回(13・まとめ14)

担当教授の指導の下、一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

### 【テキスト (教科書)】

教員、ゲストから資料を提示する。

### 【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (おおむね50%)、プレゼンテーション (おおむね50%) とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションへの積極的参加が重要。地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

### 【学生が準備すべき機器他】

一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, having lectures of landscape for regional policy strategy by professor, I welcome leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. I consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).

ARSI520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

**地域イノベーション論**

橋本 正洋

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：地域産業・企業/

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素 (国、自治体の関与) がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

**【到達目標】**

政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回(3・4)	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回(5・6)	イノベーション政策 1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4回(7・8)	イノベーション政策 2	大学等技術移転促進法制定 (TLO法)、99年：産業活力再生特別措置法制定 (日本版バドール) と大学技術移転、大学発ベンチャー
5回(9・10)	イノベーション政策 3	国立大学法人化・大学改革
6回(11・12)	イノベーション政策 4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回(13・14)	イノベーション政策 5	省庁再編・独法改革

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

**【テキスト (教科書)】**

講義の際に配布する。

**【参考書】**

講義の際に適宜資料を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題 (実施の場合およそ50%) により採点する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

**【学生が準備すべき機器他】**

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

**【その他の重要事項】**

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

**【Outline (in English)】**

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general. Students who have policy elements (involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course. Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 商店街活性化論

井上 善海

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を發揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

### 【到達目標】

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回(1・2)	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2回(3・4)	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3回(5・6)	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4回(7・8)	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5回(9・10)	商店街活性化政策①「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6回(11・12)	商店街活性化政策②「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。

7回(13・14) 商店街活性化政策③「若手・後継者などの内部人材を後継者育成」  
商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義の際に資料を配布します。

### 【参考書】

中小企業庁編『中小企業白書』(各年度版)  
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点(講義内での発言・貢献度)40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 新産業創出論

井上 善海

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位

群 / プログラム：経済・社会・雇用 /

群 / プログラム：地域産業・企業 /

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

IoT、ビッグデータ、人工知能 (AI)、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第4次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。

本講義では、第4次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

## 【到達目標】

- ①第4次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
- ②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
- ③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

5回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	第4次産業革命と新産業創出	第4次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2回(3・4)	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：実務家教員】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。
3回(5・6)	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手メーカー R&D担当】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。
4回(7・8)	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：元公的支援機関職員・現金融機関シンクタンクコンサルタント】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

5回(9・10) 新産業創出と知的財産権

迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。  
【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】

担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

6回(11・12) IT投資による新産業創出

新産業創出におけるIT投資の重要性について。

【ゲスト講師：元外資系企業IT担当・現ITコンサルタント】

担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

7回(13・14) 産学連携による新産業創出

大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

講義の際に資料を配布します。

## 【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点 (講義内での発言・貢献度) 40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【Outline (in English)】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## イノベーション・マネジメント論

田中 克昌

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イノベーションは、企業経営にとどまらず、行政等の政策にも幅広く求められています。ただし、イノベーションが何であるか、さらに、それを実現するため、どのようなマネジメントが求められるのか、についての探求は尽きることがありません。本授業の目的は、イノベーションを「マネジメント」するという重要かつ、本来的に実現の困難なテーマについて学修し、考察することにあります。

### 【到達目標】

- ・イノベーションに関する多様な理論について習得し、活用できるようになる。
- ・大企業や中小企業等、イノベーション・マネジメントに関する幅広い事例を通じた学修により、自らの研究及び実務に応用し活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はテキストと講師が提供する資料をもとに行います。授業で学修した内容の定着と実践的な活用を図るため、グループディスカッション等により実践的に考察を深めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イノベーション・マネジメントとは	イノベーションに関する多様な研究者の理論について学修し、イノベーションとは何か、そのマネジメントとはどういうことなのか、について考察します。
2回(3・4)	DXとイノベーション	産業界ではDX (デジタルトランスフォーメーション) への取り組みが活発になっています。製造業での取り組み等を中心に、イノベーションの視点から考察します。
3回(5・6)	オープン・イノベーションの進展とマネジメント	多様な企業が事業成長を目指し、オープン・イノベーションに取り組んでいます。授業では、その前提となるネットワーク効果やプラットフォームについて学修した上で、成長市場における企業の事例から、オープン・イノベーションの進展と、企業に求められるマネジメントについて考察します。
4回(7・8)	中小企業のイノベーション・マネジメント	中小企業はどのようにイノベーションに取り組むのでしょうか。中小製造業での取り組みを中心に、自社製品の創出により、下請体質からの脱却を図るイノベーションへの取り組みについて考察します。

5回(9・10) イノベーション・マネジメントの進展

企業は、現業の発展により事業成長を目指します。デジタル化の進展で、ユーザーが自らイノベーションを起こすようになり、多様な視点から競争優位性を確保する必要が生じています。この授業では、既存企業が競争優位を確保し、生存し続けるためのイノベーション・マネジメントについて考察します。

6回(11・12) SDGsとイノベーション

SDGsの実現には、企業や行政を含むマルチセクターで取り組む必要があります。この授業では、セクターの境界を越え、相互に強みを持ち寄り、複雑かつ混沌とする社会課題の解決を目指すアプローチをもとに、イノベーションについて考察します。ネクストノーマルの到来や、デジタル化の進展は、今後、どのようなイノベーションをもたらすでしょうか。この授業では、「今後」求められるイノベーション・マネジメントについて考察します。

7回(13・14) ダイバーシティとイノベーション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の前後に、4時間ほどかけて授業内容を理解することを目安とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内容によって、講師が資料を用意します。受講者数に応じて、ビジネスシミュレーションを活用したワークショップも実施する予定です。

### 【参考書】

田中克昌『戦略的イノベーション・マネジメント』中央経済社 (2700円+税)。  
適宜、授業の中で提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本授業の総合的な成績は、以下の項目に基づいて決定します。期末レポート 40%、ショートレポート：30%、平常点 30%。

### 【学生の意見等からの気づき】

本科目は前年度にアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

本授業は対面形式で行います。ただし、授業形式が変更 (オンライン等) になる場合には、事前に連絡しますので、各自PCを用意ください。

### 【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：担当教員は約20年にわたる大手電機メーカー勤務経験を有し、経営戦略の策定と実行にも携わった経験がある。また、博士学位 (経営学) とともに、経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士としても活動している。これらの経験を活かし、理論と実践を融合した観点からイノベーション・マネジメントについて学修機会を提供できる。

### 【Outline (in English)】

Innovation is required not only in corporate management but also in a wide range of government policies. However, there is a never-ending quest to understand what innovation is and what kind of management is required to realize it. The purpose of this course is to learn and reflect on the important and inherently challenging subject of "managing" innovation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following  
Term-end reports: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

**事業承継論**

黒澤 佳子

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、日本経済の喫緊の課題である事業承継について、その課題に対し経営学的アプローチにて考察することをねらいとします。まず老舗企業が最も多いとされる日本の企業環境の特性を踏まえて、事業承継の類型別にデータ比較を行いながら、事業承継の課題を明らかにします。事業承継における大企業と中小企業の課題の違い、親族内承継と第三者承継の課題の違いについて考察していきます。

**【到達目標】**

- ①事業承継をするにあたり経営に影響する基本的な要素を説明できる。
- ②事業承継について、大企業と中小企業の違い、同族企業と非同族企業の違いが説明できる。
- ③事業承継後の時代の変化に対応するマネジメントについて説明できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にもメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクションと事例紹介	講義の目的、到達目標、成績評価の方法等の説明および事例をもとに事業承継とはどういうものか理解する。
2回(3・4)	事業承継の現状	なぜ日本において事業承継が問題になるのか、超高齢化社会と人口減少による産業の衰退化を防ぐために何ができるのか、経営者の高齢化と後継者不足以外の問題についても事業承継への影響を学ぶ。
3回(5・6)	事業承継をする上で問題の所在	事業承継＝経営者の交代と捉えると、大企業と中小企業では事業承継が与える影響が異なってくる。経営資源や経営特性の違いから、企業存続や事業成長、永続性、革新性といった問題の捉え方を考察する。
4回(7・8)	海外の事業承継と日本の事業承継の違い	ファミリービジネスについて海外と日本では経営特性の違いがあるのか、事業承継への影響について考察する。
5回(9・10)	データが示す事業承継上の課題	事業承継をした企業と起業・創業した企業とでは、どんな違いがあるのか、データを用いて比較分析し、考察を行う。

- 6回(11・事例分析(1)12) 親から子へ事業承継した企業と、第三者に事業承継した企業とで、事業承継時の課題や事業承継後の経営の違いはあるのかを考察する。
- 7回(13・事例分析(2)14) 第二創業や事業承継後に新事業を立ち上げる事例をもとに、事業承継と革新性、アントレプレナーシップが事業承継に与える影響を考察する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

黒澤佳子 (2024) 『事業承継の成長戦略』 中央経済社

**【参考書】**

井上善海・田中克昌・黒澤佳子 (2024) 『事業創造入門』 中央経済社  
井上善海・遠藤真紀・山本公平 (2022) 『企業経営入門』 中央経済社

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度 (50%)、講義内で課す課題レポート (50%) により成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline (in English)】**

This lecture aims to examine business succession, an urgent issue for the Japanese economy, by business management issue. First, based on the characteristics of Japan's corporate environment, which is said to have the largest number of long-established companies, we will clarify the challenges of business succession by comparing data for each type of business succession. We will examine the differences in challenges between large and small companies in business succession, as well as the differences between family and third-party successions.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 経営戦略論

井上 善海

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群/プログラム：地域産業・企業/

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

### 【到達目標】

- ①経営戦略論の史の変遷を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を実践 (ケーススタディ) で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりと深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2回(3・4)	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3回(5・6)	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を4つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4回(7・8)	製品ポートフォリオ・マネジメント 成長戦略の展開	2次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。 グローバル戦略、戦略提携について。
5回(9・10)	業界の構造分析 競争の基本戦略	5つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。

6回(11・12)	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコアベティション戦略について。 タイムベース戦略、ディファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7回(13・14)	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

井上・大杉・森 (2022) 『経営戦略入門』中央経済社 (2,200円)

### 【参考書】

井上善海・佐久間信夫編 (2008) 『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房 (2,500円)

その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度 (40%)、講義内で課す課題レポート (60%) により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## ESG投資と企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位

群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では、ESG投資家と企業経営者が建設的な対話を行うことにより、企業は持続可能な成長を実現し、投資家は長期投資で高いリターンを実現することを理解する。その結果、社会の持続可能性が高まる仕組みを理解する。

### 【到達目標】

学生は下記3点について理解できる。

(1) 投資の意思決定の際に、環境 (Environment, E)、社会 (Social, S)、ガバナンス (Governance, G) の3つの非財務要因 (ESG要因) を考慮するESG投資を理解できる。

(2) ESG投資が生まれた歴史的背景を理解できる。

(3) ESG投資家と企業経営者がESG要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

当授業では、ESG投資家と企業経営者の建設的対話を理解するために、まず、講義を通じてESG投資と企業の情報開示に関して理解する。つぎに、基礎的な知識を用いて、具体的なケースをグループまたはクラス全体で討議する。このようなプロセスを通じてESG投資家と企業の対話の重要性を認識できるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 講義の進め方 (2) ESG投資の歴史 (3) 日米欧のESG投資市場の概要
2回(3・4)	証券投資の基礎	(1) 債券投資 (2) 株式投資
3回(5・6)	ESG投資家の企業評価	(1) ESG評価 (2) 主な財務・株価指標 (3) 資本コストとROE
4回(7・8)	統合報告書の基礎	開示すべき財務・非財務情報を知る。
5回(9・10)	日本企業の統合報告書	ESG投資家が評価する日本企業の統合報告書を読み解く。
6回(11・12)	非財務情報開示の国際的潮流	(1) TCFD 環境関連情報開示に関して学ぶ (2) ISSB 世界の非財務情報開示の潮流
7回(13・14)	ESG投資家の議決権行使	ESG投資家の議決権行使基準を知る。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。

(2) 授業を振り返り、論点を整理する。

本授業の準備学習および復習の時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

### 【参考書】

小方信幸 (2016) 『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンスーESG投資の本質を歴史からたどるー』 同文館出版

菊池勝利・東京海上アセットマネジメント編著 (2021) 『「対話」による価値創造ーESG・統合報告・資本コストをめぐる企業と投資家の協創ー』 日本経済新聞出版

その他の参考書は都度紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるとのフィードバックがあったので、本年度も同様の授業スタイルを継続する。

### 【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘に伴い授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

### 【Outline (in English)】

In this class, students will understand that constructive dialogue between ESG investors and corporate management will enable companies to achieve sustainable growth and investors to realize higher returns on their long-term investments. As a result, students will understand how sustainability is enhanced.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## SDGsと企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では、国連が持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) を制定した歴史的背景を理解したうえで、SDGsの17目標について理解し、さらに、SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

- (1) 国連が持続可能な開発目標 (SDGs) を制定した歴史的背景を理解できる。
- (2) SDGsの17の目標を理解できる。
- (3) SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGsと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 国連の理念 (2) SDGs誕生の歴史的背景 (3) 企業がSDGsに取り組む理由
2回(3・4)	SDGsの人々 (People) に関する目標 (1)	SDGs目標 1-6 (1) 人権についての基本的な理解を深める (2) ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3回(5・6)	SDGsの人々 (People) に関する目標 (2)	SDGs目標 1-6 貧困問題に取り組むソーシャルビジネスの可能性を考える。
4回(7・8)	SDGsの繁栄 (Prosperity) に関する目標 (1)	SDGs目標 7-11 企業におけるジェンダーダイバーシティ
5回(9・10)	SDGsの繁栄 (Prosperity) に関する目標 (2)	SDGs目標 7-11 (1) 従業員の働き方改革 (2) 人的資本経営
6回(11・12)	SDGsの地球 (Planet) に関する目標 (1)	SDGs目標 12-15 (1) 気候変動 (2) 脱炭素
7回(13・14)	SDGsの地球 (Planet) に関する目標 (2)	SDGs目標 12-15 (1) 廃棄物 (2) 生物多様性

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回の授業で資料を配布する。

### 【参考書】

都度紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

### 【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することもある。ただし、ゲストスピーカーを招聘する場合も、授業を運営は担当教員の責任で行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

### 【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the historical background of the United Nations' establishment of the Sustainable Development Goals (SDGs), to understand the 17 goals of the SDGs, and to further understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## コーポレートガバナンス

林 順一

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

### 【到達目標】

コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方の説明とその確認 (2) 最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2回(3・4)	米国のコーポレートガバナンス	(1) 米国のコーポレートガバナンスの変遷 (1930年代から現在まで、事例を含む) (2) 最近の動き (ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など)
3回(5・6)	英国のコーポレートガバナンス	(1) 伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み (機関投資家の役割の重視など) (2) 最近の動き (コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など)
4回(7・8)	わが国のコーポレートガバナンス	(1) 外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史 (2) アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5回(9・10)	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	(1) ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題 (2) サプライチェーンの人権問題への対応
6回(11・12)	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	(1) フランスのコーポレートガバナンスの特徴 (2) ベネフィットコーポレーション、ダノンの事例分析など
7回(13・14)	ESG投資とSDGs、ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理	(1) ESG投資とSDGs (2) ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。  
(1) 事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。(2) 授業を振り返り、論点を整理してください。(3) 期末レポートの作成があります。

### 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布します。

### 【参考書】

林順一(2022)『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ 会社の目的を考える』文真堂。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、期末レポート (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

### 【学生が準備すべき機器他】

該当ありません。

### 【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合  
実務家教員 (非常勤)。銀行・証券業界28年、不動産・資産運用会社10年余の実務経験 (コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む) を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 企業活動と社会 I

小方 信幸

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では企業活動と社会の関係を経営倫理の視点で理解することを目的とする。最初に、経営倫理の基礎である功利主義、倫理的利己主義、義務論、正義論に関する講義を行う。次に、サプライチェーンの人権問題や環境問題などの具体的なケースをグループまたはクラス全体で討議を行うことにより、経営倫理について理解する実践的な授業である。

### 【到達目標】

- (1) 経営倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が直面する倫理的課題を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて経営倫理について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議またはクラス全体の討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 講義：倫理的利己主義と功利主義の理論 (1) 利己主義 功利主義と現代社会 (2) ケース：フォード・ピントのケース
2回(3・4)	経営倫理の理論 (2)	(1) 講義：カント「義務論」 カント「義務論」 (2) ケース：ブレント・スパーの処理を巡るケース
3回(5・6)	経営倫理の理論 (3)	(1) 講義：ロールズ「正義論」 ロールズ「正義論」 (2) ケース：貧富の差について考える
4回(7・8)	経営倫理の実践 (1)	経済的格差の是正に必要なこと ロールズ「正義論」は何か。 の視点で米国社会の現状を考える。
5回(9・10)	経営倫理の実践 (2)	(1) 講義 顧客関連の倫理 (2) ケース：シアーズ自動車センター
6回(11・12)	経営倫理の実践 (3)	(1) 講義 従業員関連の倫理 (2) ケース：ソーラーブラインド
7回(13・14)	経営倫理の実践 (4)	(1) 講義：児童労働 国際経営の倫理 (2) ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

### 【参考書】

梅津光弘 (2002)『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900円＋税  
マイケル・サンデル (訳) 鬼澤忍 (2011)『これからの「正義」の話  
をしよう』早川書房 (ハヤカワ・ノンフィクション文庫)、900円＋  
税 その他の参考書は都度紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末レポート60%を基準に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゲスト講師を招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲスト講師招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

### 【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。ただし、ゲスト講師の授業の場合も、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand the relationship between business activities and society from the perspective of business ethics. First, lectures on utilitarianism, libertarianism, deontology, and a theory of justice, which are the foundations of business ethics, will be given. Next, students will engage in group or whole-class discussions on specific cases, such as human rights and environmental issues, to understand business ethics in this practical class.

ECN500R1 (経済学 / Economics 500)

経済学

梅溪 健児

科目分類：導入科目 (選択) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では入門レベルの経済学(ミクロ経済学が中心)を学ぶ。教材は当研究科での研究に資するであろうと考えられる経済学の現実適用事例に重点を置く。授業の目的は、第一に、経済学は当研究科で調査分析を進める上での確かな理論枠組みの一つであることから、個人や組織の選択に関する基礎的な理論体系を理解する。第二に、家計・雇用・政策選択などの研究及び経済学の適用事例を学び、経済学の有用性と残された課題を理解する。

これまで経済学を履修したことのない学生の受講を想定するが、すでに履修経験のある学生にとっても本講義が研究の進捗に少しでも役立つことを期待しているので受講を歓迎する。

【到達目標】

本講義の目標は、①個人や組織が物事を選択する(質的ではなく)数量的な判断基準を再確認できること(例、消費者余剰の最大化)、②日常生活やビジネスで遭遇する事象を説明する経済学用語を使いこなせるようになること(例、情報の非対称性)、③個人や組織の利便性を高めたり地域社会の困難に対処するために経済学の原理が適用されている最近の事例(例、ダイナミック・プライシング(変動価格制))とその限界を理解できることの3点である。いずれも教材に図表は多用するが、数式は原則用いない。

また、期末レポートは執筆の問題意識や論理構成等において受講生の研究スタートにふさわしいものになるように配慮する。

なお、各自の研究に応じて、経済学の研究手法及び補完的に習得すべきスキル(例、量的調査の実施、統計分析の知識、エクセル等の技能)の必要性を自ら認識できることが望まれる。数学や統計学については初級レベルの内容を授業の中で紹介するとどまる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

経済学の全体像を把握できるように授業の進行は入門テキストに基づくが、すべての内容を順を追って取り上げるのではなく、必要な部分を抽出した教材を配布して講義を行う。そして、受講生の理解を促すため、①講義において輪読または質疑応答と意見交換を行う(必要な教材は一部を除いて1週間前に配布)。②講義において復習テストを出題し(提出は後日)、次回講義にてフィードバックを行う。③経済学の貢献事例の理解に役立つ文献や資料を紹介する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	経済学の問題意識 消費者行動	需要と供給による市場の均衡を理解する。 需要曲線、無差別曲線、限界効用、効用の最大化、消費者余剰などを学ぶ。 経済学からラーメン店を考える。
2回(3・4)	企業行動	供給曲線、利潤の最大化、生産関数、限界費用、生産者余剰、余剰分析、労働需要などを学ぶ。 経済学から外食チェーンを考える。

3回(5・6)	市場の均衡と市場の失敗	部分均衡と一般均衡、競争による資源配分の最適化、外部経済効果、規模の経済、公共財、公共政策などを学ぶ。 経済学からJリーグ(サッカー)を考える。
4回(7・8)	情報の経済学とゲームの理論(基礎)	情報の非対称性、モラルハザード、逆選択、シグナリング、囚人のディレンマなどを学ぶ。 経済学から人や店舗の見た目を考える。
5回(9・10)	コロナ禍における経済学の貢献 輪読	コロナ禍(日本)における政策形成において経済学の知見がどのように活用されたかを学ぶ。 経済学者vs医学者を考える。 後半は全員参加の輪読を行う。
6回(11・12)	政策研究における経済学と社会学の比較	具体的な研究分野(労働、結婚等)について経済学と社会学では手法や結論導出にどのような特徴があるかを学ぶ。 機会費用vs世間の圧力を考える。
7回(13・14)	レポート発表・討議	共通課題に関するレポート(当研究科スタイルに即して)を発表し討議を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃からニュースや記事に接する時に、経済学が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのに関心を持つことを勧める。イベントや食品のダイナミック・プライシング、交通渋滞に対処するピークロード・プライシング、ゲームの理論を用いたマッチングの最適化などが経済学の今日的な適用例である。

【テキスト(教科書)】

伊藤元重(2015)『入門経済学(第4版)』日本評論社

【参考書】

市村英彦・岡崎哲二他編(2020)『経済学を味わう』日本評論社  
伊藤元重(2021)『ビジネス・エコノミクス』(第2版)日本経済新聞出版  
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社  
坂井豊貴(2013)『マーケットデザイン』ちくま新書  
坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書  
日本経済新聞社編(2014)『身近な疑問が解ける経済学』日経文庫  
松井彰彦(2018)『市場って何だろう』ちくまプリマー新書

【成績評価の方法と基準】

復習テスト4回(40%)、輪読(10%)、レポート(50%)の合計(なお、受講生数によっては変更があり得る。)

【学生の意見等からの気づき】

復習テストは最初は重荷に感じたが、回を重ねるごとに知識の習得に効果が出てきたとの意見がかつてあったので継続する予定である。身近な事例の紹介は経済学の理解にとっても役立つとの指摘があったので引き続き行う(例、百貨店vs業種専門店：消費者行動、自治体サービスと居住地選択：市場メカニズム、ワクチン接種の無料提供：外部経済効果、ネット保険はなぜ安いのか：情報の非対称性、学歴の使われ方：情報の非対称性、人はなぜお土産を渡すのか：ゲームの理論など)。

【学生が準備すべき機器他】

教材は学習支援システム(Hoppi)に掲載する。また、レポートは図表を各自作成するのでパソコンが必要。

【その他の重要事項】

対面授業を基本とする。経済学のうちマクロ経済学は、本講義では原則として取り上げない。

**【Outline (in English)】**

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the intellectual contribution of the economics to the solution of social problems and the policy proposals among conflicting interests of people. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded according to the following scales: 4 take-home exams (40%), in-class discussion (10%) and the term paper (50%).

SOS500R1 (その他の社会科学 / Social science 500)

**英語論文文献講読**

橋本 正洋

科目分類：導入科目(選択) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【Outline (in English)】**

This course aims to enhance the English proficiency to find references and grasp existing literature in an efficient manner. In class students are encouraged to fast read papers that are selected in principle from quality journals with referees.

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

英語文献収集や先行研究把握に必要な英文読解力を習得することが目的である。

**【到達目標】**

研究に必要な論文検索・収集方法を獲得し、英語論文等から筆者の問題設定と結論を効率的に把握するための慣れを身につけることが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は専門論文または海外公的機関が発行した報告書を教材とする。受講生各人が自らの研究に密接に関連した参考文献および先行研究を取得する。取得のための方法論に関する基礎的講義を行う。グループワーク、受講生の発表討論の機会を設ける。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション イノベーション学を 俯瞰する	web上の研究論文をキーワードから絞り込んで取得するための演習を行う。
2回(3・4)	専門論文を読む1	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
3回(5・6)	専門論文を読む2	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
4回(7・8)	専門論文を読む3	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。。
5回(9・10)	専門論文を読む4	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
6回(11・12)	専門論文を読む5	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
7回(13・14)	専門論文を読む6	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

課題論文を事前に学習するための予習時間と講義後の復讐時間が必要である。

**【テキスト(教科書)】**

講義の際に提示する。

**【参考書】**

講義の際に必要な応じ紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(おおむね50%)、課題発表の内容(おおむね50%)とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

今後聴取する。

MAN520R1 (経営学 / Management 500)

## 非営利組織特論

今瀬 政司

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位  
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、社会貢献を第一に考え、公益活動あるいはビジネス・経済活動を行う「民間非営利組織」を理論的かつ実践的に学ぶ。民間非営利組織には、狭義の非営利組織 (NPO法人、市民公益活動団体、ボランティア団体等) と広義の非営利組織 (公益社団法人、公益財団法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農業協同組合、宗教法人等) がある。「社会貢献とビジネスを両立する働き方」を目指して、NPO法人や一般・公益社団法人などで就職や起業する人も増えている。こうした民間非営利組織について、全国各地の多数の具体的な事例も交えて理解するとともに、NPO法人を具体的に設立や運営を行うための実践的ノウハウも学ぶ。NPOと行政、企業等の協働事業や地域づくり、ならびに地縁型非営利組織による新たな地域自治システムについても学ぶ。

### 【到達目標】

民間非営利組織について、「非営利」の概念・特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義、活動や政策の歴史的な経緯、現場の実態や課題などを理解すると共に、その公益・公共性の高い社会的役割と、ベンチャー以上のベンチャーとしてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する経済的役割を理論的かつ実践的に理解する。また、NPO法人を具体的に設立して運営を行ったり、政策的な対応などを行う上での実践的な知識・ノウハウを身につけ、自らの考え方を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教員資料や参考書等を使いながら知識・ノウハウを学ぶ講義を進めるとともに、受講者の問題意識、研究テーマ、日々の取組みに関連した内容も取り上げながら、質疑応答や自由なディスカッション等にもできる限り時間をかける。実践的な学習に重点を置いて、具体的な団体・活動事例や日々の社会的な出来事も積極的に話題として取り上げ、現場の民間非営利組織や行政・企業等の視点からそれらの本質について討論する機会も設ける。特に、担当教員が実際に様々な非営利組織の活動に携わった事例、あるいは調査研究で関わった事例を主に取り上げることで、リアリティを持って理解できるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと非営利組織の概論	受講者の問題意識・研究テーマ等の確認と授業の進め方などの説明を行う。その上で民間非営利組織の概論を学ぶ。
2	非営利組織の特徴と活動史・政策史	非営利組織の組織・運営形態、特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義などを学ぶ。1980年代後半から市民が切り拓いてきた狭義の非営利組織 (NPO) の活動と政策の歴史を学ぶ。

3	狭義と広義の非営利組織	狭義の非営利組織 (NPO法人、市民公益活動団体等) と広義の非営利組織 (公益法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農協等) のそれぞれについて学ぶ。
4	公益と経済の担い手としての非営利組織	公益・公共概念の変化を踏まえた上で、狭義の非営利組織の「公益の担い手」としての社会的役割と実態・課題を学ぶ。また、「経済主体」としてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する役割と実態・課題を学ぶ。
5	NPO法人の概要と設立・運営ノウハウ	NPO法人 (特定非営利活動法人) について、その組織運営形態、設立要件、法人化の長所・短所などを学ぶ。また、NPO法人を具体的に設立し運営するための必要書類や手続き等のノウハウを学ぶ。
6	協働による地域づくりと社会的課題の解決	NPOと行政の協働事業の概念と実態・課題について、従来型の地域づくり等との違いを踏まえながら学ぶ。また、NPOと企業の協働事業、企業のCSR、SDGsなどの実態と課題を学ぶ。
7	地縁型非営利組織による地域自治システム	市町村合併の影響や地域自治組織・システムの再編などに伴って変わる住民自治と、「地縁型非営利組織」としての住民組織・地域自治組織やその関連政策の実態と課題を学ぶ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に授業テーマに関する予習をしておき (各回1時間程度)、事後に授業での学びを整理して考察すること (各回3時間程度)。学んだことを実社会での出来事と照らし合わせることも、そこから自らの疑問や興味に応じて様々な手段で学びを深めて、自らの考え方を構築していくこと。参考書『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』を事前に読むことをお勧めします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

今瀬政司 (2011) 『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』学芸出版社、ISBN978-4-7615-2525-5 (事前に読むことをお勧めします)

テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を必要に応じて授業中に紹介する。

担当教員 (今瀬) のWeb公開論文や実践活動資料等も必要に応じて紹介する。

[http://sicnpo.jp/imase\\_profile.html](http://sicnpo.jp/imase_profile.html)

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題70%、平常点30%

理解力・探究力・活用力・表現力等で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教員資料や参考書等をより有効に活用しながら、質疑応答や自由な討論等にもできる限り時間をかけながら授業を進める。また、受講者のニーズに応じて、知識・ノウハウの理解と共に、より実践的な学習にも重点をおいて進める。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

担当教員 (今瀬) は、シンクタンク企業や民間非営利組織10団体以上に所属して、様々な実践活動や国・自治体の政策形成にも関わってきていることから、その具体的な実務経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持てるようにする。

今瀬政司の実務実績&研究実績のホームページ

[http://sicnpo.jp/imase\\_profile.html](http://sicnpo.jp/imase_profile.html)

(NPO法人市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学経営学部教授、公益社団法人奈良まちづくりセンター理事)

**【Outline (in English)】**

An increasing number of people are finding employment or starting a business in a private non-profit organization with the aim of "a work style that balances social contribution and business." In this class, you will learn theoretically and practically "private non-profit organizations" that carry out public interest activities or business / economic activities. Private non-profit organizations include non-profit organizations in a narrow sense (civil activity groups, etc.) and non-profit organizations in a broad sense (public interest corporations, etc.).

Learn about private non-profit organizations with a number of concrete examples:

(1)Organization / operation form and characteristics, (2)Social significance that cannot be done by companies or governments, (3)Historical history of activities and policies, (4)Actual conditions and issues in the field, (5)Practical know-how to specifically establish a private non-profit organization, (6)Collaboration business by NPO and government / company, community development, (7)A new regional autonomy system by a non-profit organization based on the territory.

Prepare for the lesson theme in advance (about 1 hour each time), and organize and consider what you learned in the lesson after the fact (about 3 hours each time). While comparing what you have learned with events in the real world, you will deepen your learning by various means according to your own doubts and interests, and build your own way of thinking.

Grades are 70% for report assignments and 30% for normal scores. Evaluation is based on comprehension, inquiry, utilization, and expressiveness.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

柿野 成美

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

### 【到達目標】

研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを設定し深める。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて確認する
2回(3・4)	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回(5・6)	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
4回(7・8)	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
5回(9・10)	先行研究の検討	先行研究のサーベイ方法と記述方法を学ぶ。
6回(11・12)	先行研究の検討	各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
7回(13・14)	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
8回(15・16)	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
9回(17・18)	リサーチクエスションの検討	先行研究を踏まえ、リサーチクエスションを設定する方法を理解し、各自検討する。
10回(19・20)	質的調査の方法	質的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
11回(21・22)	量的調査の方法	量的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
12回(23・24)	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13回(25・26)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14回(27・28)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に十分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

### 【参考書】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加貢献 (50%) と個人発表内容 (50%) に基づき総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

### 【その他の重要事項】

校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。その場合、授業計画を変更することがある。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

柿野 成美

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

### 【到達目標】

研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを深め、表現する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	授業の進め方について確認する。 夏休み期間の研究の進捗状況を報告する。
2回(3・4)	研究内容・方法の検討	各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて研究内容と方法の見直し・検討をする
3回(5・6)	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
4回(7・8)	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
5回(9・10)	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。最後に担当教員によるまとめを行う。
6回(11・12)	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
7回(13・14)	中間レビュー	研究計画の発表・見直しを行う。
8回(15・16)	論文の記述方法の確認	序論・本論・結論の書き方や具体的な記述方法について確認する
9回(17・18)	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。担当教員によるまとめを行う。
10回(19・20)	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
11回(21・22)	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
12回(23・24)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
13回(25・26)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14回(27・28)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に十分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

### 【参考書】

ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加貢献 (50%) と個人発表内容 (50%) に基づき総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

### 【その他の重要事項】

校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。また、ゼミ生の進捗状況によって授業計画を変更することがある。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようになる。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

### 【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究に当たり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回(3・4)	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回(5・6)	研究テーマの調査方法(その1)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その1)
4回(7・8)	研究テーマの調査方法(その2)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その2)
5回(9・10)	研究テーマの調査方法(その3)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その3)
6回(11・12)	調査結果の分析方法(その1)	調査結果の分析手法の検討(その1)
7回(13・14)	調査結果の分析方法(その2)	調査結果の分析手法の検討(その2)
8回(15・16)	調査結果の分析方法(その3)	調査結果の分析手法の検討(その3)
9回(17・18)	調査結果から考察する方法(その1)	調査結果から考察する手法の検討(その1)
10回(19・20)	調査結果から考察する方法(その2)	調査結果から考察する手法の検討(その2)
11回(21・22)	調査結果から考察する方法(その3)	調査結果から考察する手法の検討(その3)
12回(23・24)	提言の検証方法(その1)	提言を検証する方法の検討(その1)
13回(25・26)	提言の検証方法(その2)	提言を検証する方法の検討(その2)
14回(27・28)	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

### 【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

### 【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

### 【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

### 【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究に当たり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回(3・4)	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回(5・6)	研究テーマの調査方法(その1)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その1)
4回(7・8)	研究テーマの調査方法(その2)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その2)
5回(9・10)	研究テーマの調査方法(その3)	選んだ研究テーマの調査方法の検討(その3)
6回(11・12)	調査結果の分析方法(その1)	調査結果の分析手法の検討(その1)
7回(13・14)	調査結果の分析方法(その2)	調査結果の分析手法の検討(その2)
8回(15・16)	調査結果の分析方法(その3)	調査結果の分析手法の検討(その3)
9回(17・18)	調査結果から考察する方法(その1)	調査結果から考察する手法の検討(その1)
10回(19・20)	調査結果から考察する方法(その2)	調査結果から考察する手法の検討(その2)
11回(21・22)	調査結果から考察する方法(その3)	調査結果から考察する手法の検討(その3)
12回(23・24)	提言の検証方法(その1)	提言を検証する方法の検討(その1)
13回(25・26)	提言の検証方法(その2)	提言を検証する方法の検討(その2)
14回(27・28)	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

### 【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

### 【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

### 【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

### Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

### Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

### 【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2回(3・4)	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回(5・6)	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4回(7・8)	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5回(9・10)	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6回(11・12)	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7回(13・14)	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8回(15・16)	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
9回(17・18)	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
10回(19・20)	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11回(21・22)	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12回(23・24)	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13回(25・26)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14回(27・28)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。

その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

その都度指定する。

### 【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017年、中公新書

伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011年、東京大学出版会

上野千鶴子『情報生産者になる』2018年、ちくま新書

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』2017年、晃洋書房

佐藤郁哉『社会調査の考え方(上下)』2015年、東京大学出版会

その他についてはその都度指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCを接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

### 【その他の重要事項】

※授業の内容やスケジュールは変更する場合があります。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

### 【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2回(3・4)	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3回(5・6)	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4回(7・8)	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5回(9・10)	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6回(11・12)	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する。
7回(13・14)	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8回(15・16)	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9回(17・18)	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10回(19・20)	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11回(21・22)	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12回(23・24)	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13回(25・26)	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14回(27・28)	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。  
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

その都度指定する。

### 【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017年、中公新書  
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』2011年、東京大学出版会  
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』2017年、晃洋書房

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCを接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

### 【その他の重要事項】

※授業の内容・スケジュールは変更する場合があります。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ること目標とする。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標とする。

### 【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標とする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回(3・4)	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回(5・6)	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回(7・8)	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5回(9・10)	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献の作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回(11・12)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回(13・14)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回(15・16)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回(17・18)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回(19・20)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回(21・22)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation

12回 研究発表/Research presentation  
23・24回 ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/summary

14回 まとめ/summary  
27・28回 本年度の振り返り/Looking back on this year

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

### 【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

### 【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは毎週月曜日16-18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

### 【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導管的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目指す。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回(3・4)	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回(5・6)	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回(7・8)	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5回(9・10)	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献の作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回(11・12)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回(13・14)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回(15・16)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回(17・18)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回(19・20)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回(21・22)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation

12回(23・24)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回(25・26)	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14回(27・28)	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは毎週月曜日16-18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文作成に向けた演習

### 【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回(3・4)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回(5・6)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回(7・8)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5回(9・10)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回(11・12)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回(13・14)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回(15・16)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回(17・18)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10回(19・20)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

11回(21・22)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12回(23・24)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13回(25・26)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14回(27・28)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】発表に向けた準備。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

【Learning Objectives】

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

【Learning activities outside of classroom】

Preparation for presentation.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回(3・4)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回(5・6)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回(7・8)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5回(9・10)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回(11・12)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回(13・14)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回(15・16)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回(17・18)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10回(19・20)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

11回(21・22)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12回(23・24)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13回(25・26)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14回(27・28)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表に向けた準備。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

【Learning Objectives】

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

【Learning activities outside of classroom】

Preparation for presentation.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

北郷 裕美

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光およびメディアである。

### 【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、個人の進度に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2回(3・4)	論文作成に向けた演習	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。 個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3回(5・6)	論文作成に向けた演習	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。 個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4回(7・8)	各々の研究テーマ計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
5回(9・10)	各々の研究テーマ計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
6回(11・12)	各々の研究テーマ計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
7回(13・14)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション①	購読、視聴後グループディスカッション
		『文献購読』『映画視聴』
8回(15・16)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション②	購読、視聴後グループディスカッション
		『文献購読』『映画視聴』
9回(17・18)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション③	購読、視聴後グループディスカッション
		『文献購読』『映画視聴』

10回(19・20) 観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション④

購読、視聴後グループディスカッション

『文献購読』『映画視聴』

11回(21・22) 観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑤

購読、視聴後グループディスカッション

『文献購読』『映画視聴』

12回(23・24) 各々の研究テーマ考察①

各々の研究テーマについて検討する

13回(25・26) 各々の研究テーマ考察②

各々の研究テーマについて検討する

14回(27・28) 夏休みの研究の準備

各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかプランを検討する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社  
そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

### 【参考書】

その都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

### 【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

### 【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器 (ノートパソコン、タブレット等) を用意いただきたい

### 【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

プログラム演習

北郷 裕美

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。  
 修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。  
 修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を基本に進める。校外学習 (フィールドワーク) は合同ゼミ合宿を想定して行う (予定)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回 (1・2)	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
	夏休み中の研究についての結果発表	受講生各々が研究発表を行う
2回 (3・4)	論文作成に向けた演習	受講生の個人発表とディスカッション、研究スキルの学習
3回 (5・6)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション①	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	
4回 (7・8)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション②	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	
5回 (9・10)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション③	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	
6回 (11・12)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション④	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	
7回 (13・14)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑤	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	

8回 (15・16)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑥	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存先行論文購読』	
9回 (17・18)	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑦	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
	『既存論文 購読』	
10回 (19・20)	修士論文構想確認	修士論文の構想を受講生各々が発表
11回 (21・22)	修士論文の進捗状況 報告①	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
12回 (23・24)	修士論文の進捗状況 報告②	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
13回 (25・26)	① 修士論文内容発表会	修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する。論文の形式の確認。指導。
14回 (27・28)	② 修士論文内容発表会	修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する。論文の形式の確認。指導。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

演習に必要な論文や資料は毎回HOPPIIにアップロードもしくはコピーして配布する。

【参考書】

その都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器 (ノートパソコン、タブレット等) を用意いただきたい

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。やむを得ず欠席する際は事前に申し出ること。

【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

橋本 正洋

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習 (ゼミ) 形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法 (定性的・定量的)、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

### 【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習 (ゼミ) 方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習 (ゼミ) の進め方についての説明。
2回(3・4)	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3回(5・6)	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4回(7・8)	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー (剽窃、注、参考文献) について。
5回(9・10)	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6回(11・12)	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7回(13・14)	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8回(15・16)	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9回(17・18)	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10回(19・20)	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11回(21・22)	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12回(23・24)	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13回(25・26)	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。

14 回 まとめ  
(27・28)

論文の書き方についての最終確認を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを旨とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

### 【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度 (50%)、研究発表内容 (50%) により成績評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

### 【学生が準備すべき機器他】

ゼミにはパソコンを用意すること。HDMI端子があることが望ましい。

### 【その他の重要事項】

ゼミの日程は、研究の進捗状況により変更するので、橋本研の googledrive を確認すること。

### 【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

橋本 正洋

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習 (ゼミ) 形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法 (定性的・定量的)、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

## 【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習 (ゼミ) 方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習 (ゼミ) の進め方についての説明。
2回(3・4)	論文作成の基礎知識 ①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3回(5・6)	論文作成の基礎知識 ②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4回(7・8)	論文作成の基礎知識 ③	研究論文執筆上のマナー (剽窃、注、参考文献) について。
5回(9・10)	研究テーマの設定 方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6回(11・12)	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7回(13・14)	研究計画書の作成 方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8回(15・16)	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9回(17・18)	先行研究レビューの 方法 個人研究発表	文研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10回(19・20)	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11回(21・22)	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12回(23・24)	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13回(25・26)	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。

14 回 まとめ  
(27・28)

論文の書き方についての最終確認を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを旨とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

## 【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

## 【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度 (50%)、研究発表内容 (50%) により成績評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

## 【Outline (in English)】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習 (ゼミ) 形式で行います。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法 (定性的・定量的)、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得していただきます。

### 【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得できている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得できている。
- ③調査分析結果の考察方法を習得できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習 (ゼミ) 方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実させていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習 (ゼミ) の進め方についての説明。
2回(3・4)	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3回(5・6)	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4回(7・8)	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー (剽窃、注、参考文献) について。
5回(9・10)	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6回(11・12)	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7回(13・14)	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8回(15・16)	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9回(17・18)	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10回(19・20)	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11回(21・22)	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12回(23・24)	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13回(25・26)	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。

14 回 まとめ  
(27・28)

論文の書き方についての最終確認を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等をしていただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

演習に必要な資料を毎回配布します。

### 【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度 (40%)、研究発表内容 (60%) により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline (in English)】

We will conduct research guidance for preparing master thesis and policy research papers in a seminar (seminar) format. Students should acquire knowledge and research skills for preparing papers such as preparation of research plan, selection of research theme, review of prior research, survey analytical method (qualitative / quantitative), examination of survey results.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文・政策研究論文の完成に向けた研究指導を演習 (ゼミ) 形式で行います。各自の論文執筆状況を報告してもらい、それを皆で討議することで、論文の完成度を高めていきます。

### 【到達目標】

- ①研究の方法論を理解したうえで、論文を完成させている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を踏まえたうえで論文を完成させている。
- ③調査分析結果を考察した論文を完成させている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習 (ゼミ) 方式で、各自が論文執筆状況を順次報告し、全員で議論することで研究内容を充実させていきます。また、論文執筆のための個別指導を授業以外でも随時行っていきます。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習 (ゼミ) の進め方についての説明を行う。
2回(3・4)	論文執筆状況の報告と討議①	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
3回(5・6)	論文執筆状況の報告と討議②	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
4回(7・8)	論文執筆状況の報告と討議③	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
5回(9・10)	論文執筆状況の報告と討議④	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
6回(11・12)	論文執筆状況の報告と討議⑤	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
7回(13・14)	論文執筆状況の中間報告	各自の論文執筆状況の中間報告を行う。
8回(15・16)	論文の見直し、修正①	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
9回(17・18)	論文の見直し、修正②	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
10回(19・20)	論文の見直し、修正③	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
11回(21・22)	完成論文の最終チェック①	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
12回(23・24)	完成論文の最終チェック②	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
13回(25・26)	完成論文の最終チェック③	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
14回(27・28)	まとめ	論文提出の準備を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

### 【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度 (50%)、研究発表内容 (50%) により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

We will conduct research guidance to complete master's thesis / policy research paper in a seminar (seminar) form. We will report the status of writing their own papers and discuss them with everyone to improve the completeness of the thesis.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

## プログラム演習

小方 信幸

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習 (ゼミ) 形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法 (定性分析・定量分析) など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的な自らの研究成果を発表することが求められる。

### 【到達目標】

- (1) 研究の方法論を理解することができる。
- (2) 修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

授業内容は、学生による発表を中心としたゼミ形式で行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回 (1・2)	ガイダンス	学術論文を書くことの意義
2回 (3・4)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 研究の進め方 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
3回 (5・6)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 論文の構成 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
4回 (7・8)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 論文の引用、研究倫理 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
5回 (9・10)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 先行研究レビュー (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
6回 (11・12)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 分析対象、データ、方法 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
7回 (13・14)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 定性的方法論 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
8回 (15・16)	論文の書き方 個人研究発表	(1) 定量的方法論 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
9回 (17・18)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
10回 (19・20)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況

11回 (21・22)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
12回 (23・24)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
13回 (25・26)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
14回 (27・28)	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文の講読 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 配布資料、指定する文献、論文等を事前に読み、ゼミで発言ができるよう準備する。
- (2) ゼミを振り返り論点を整理する。
- (3) 常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保していただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

### 【参考書】

都度紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、個人研究発表 50%、

### 【学生の意見等からの気づき】

学期初めからゼミで研究法を学んだことにより、学術論文に対する理解が深まったとの意見があった。今年度も学期初めから研究方法について学ぶ。

### 【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することがある。ただし、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。授業外でのゼミ合宿、企業訪問に加え、他ゼミの学生も参加することができる横断ゼミを検討する。

### 【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

OTR600R1 (その他 / Others 600)

**プログラム演習**

小方 信幸

科目分類：演習科目 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習 (ゼミ) 形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法 (定性分析・定量分析) など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

**【到達目標】**

- (1) 研究の方法論を理解することができる。
- (2) 修士論文を作成することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生の発表を中心にゼミを行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 個人研究発表	(1) 教員による授業の進め方 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
2回(3・4)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
3回(5・6)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
4回(7・8)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
5回(9・10)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
6回(11・12)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
7回(13・14)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
8回(15・16)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
9回(17・18)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
10回(19・20)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
11回(21・22)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
12回(23・24)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
13回(25・26)	個人研究発表	修士論文の進捗状況
14回(27・28)	個人研究発表	修士論文の進捗状況

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- (1) 配布資料、指定文献・論文等を事前に読み、ゼミで発言できるよう準備する。
- (2) ゼミを振り返り、論点を整理する。
- (3) 常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

毎回資料を配布する。

**【参考書】**

都度紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 50%、個人研究発表 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

ゲストスピーカー招聘の希望があるので、ゼミ生の研究に参考となる専門性の高い方の招聘を検討する。

**【その他の重要事項】**

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合、授業計画を変更することがある。ただし、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

**【Outline (in English)】**

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

BSP580R1 (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500)

## 研究法

石山 恒貴、増淵 敏之、北郷 裕美、井上 善海、高尾 真紀子、小方 信幸、橋本 正洋、上山 肇

科目分類：博士後期 (必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士論文を執筆するために社会科学的研究及び政策研究の基礎について学習する。より円滑かつ的確に博士論文を執筆できるように博士論文の執筆過程をイメージしながら基礎的な事項を確認していく。

### 【到達目標】

・政策を研究する際或いは社会科学分野の研究を行う際に必要な知識、技術、勘所等について、基本的な水準に到達すること。  
・各自の博士論文について、今後の作成計画や構想を具体的にイメージできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

必要事項の講義、講義に基づく討論・グループ討論、課題についてのペーパーワーク等により進める。また、博士論文を執筆した先輩の経験談を聞く。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	博士論文における文献サーベイ (増淵) 博士論文の構成 (北郷)	博士論文には独創性が求められる。先行研究のサーベイを通じてのテーマ設定及び着眼点について議論していく。典型的な博士論文を読み、その構成について考える。
2回(3・4)	研究のプロセスおよびリサーチデザイン (石山)	博士論文を書くうえで、自身の研究領域および存在論・認識論の観点で、どのようなリサーチデザイン、分析を行うべきか考える。また、研究のプロセスのあり方について考える。
3回(5・6)	質的調査 (事例調査)の方法 (井上)	過去の博士論文を参照しながら、特に事例調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。
4回(7・8)	計量経済学的手法の活用 (小方)	計量経済学的手法を用いた査読論文を教材とし、査読プロセスを踏まえた上で、データ・分析手法・結論の導出などの特徴について議論する。
5回(9・10)	量的調査 (質問紙調査)の方法 (高尾)	過去の博士論文を参照しながら、特に質問紙調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。
6回(11・12)	「研究方法」「論文執筆」等に関する再確認 (上山)	この時期だからこそ再度、研究の基本に立ち返る。「研究とは」「論文執筆の注意点」「査読論文」等について考える。

7回(13・14) 社会人博士の取り方と論文検索の方法論 (橋本)

社会人経験を有する学生を中心として、学位取得に向けた自身の経験を踏まえたガイダンスを行うとともにディスカッションを通して、研究テーマ、研究の進め方など論文執筆に有益な機会とすることを旨とする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1 授業と並行して自分の博士論文の作成計画及び構想を練る。
- 2 論文作成法などの本を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは用いない。毎回ごとに参考文献を挙げる。

### 【参考書】

野村康『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』2017年、名古屋大学出版会

自分の研究領域の優れたモノグラフが一番の参考文献となる。一般的には社会科学系の論文作成法の本は参考となる。研究法については、その都度、本や文献等を指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

各回のレポート、授業への貢献等の総合点を合計して評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

博士号取得者の経験は役に立つとの声が多いため、講義にも取り入れていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる提出物作成は必須。

### 【その他の重要事項】

一般的な研究法の知識等を概説するにとどまるので、実際の展開は各人が指導教員と相談しながら進めていただきたい。授業後に質問等を受け付ける。

### 【Outline (in English)】

This course introduce the basics of social science research and policy research to write a doctoral thesis. Students are required to confirm fundamental skills while imagining the writing process of doctoral thesis.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to be able to visualise a concrete plan and concept for the future preparation of each individual's doctoral thesis.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

SOS580R1 (その他の社会科学 / Social science 500)

**外国語文献講読**

橋本 正洋

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【Outline (in English)】**

This course aims to enhance the English proficiency to find references and grasp existing literature in an efficient manner. In class students are encouraged to fast read papers that are selected in principle from quality journals with referees.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学位論文作成に必要な英語文献収集や先行研究把握の力を習得することが目的である。

**【到達目標】**

英語論文から、研究の方向性、結論、考察等を俯瞰的、網羅的かつ効率的に把握するための力を身につけることが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は専門論文または海外公的機関が発行した報告書を教材とする。受講生各人が自らの研究に密接に関連した参考文献および先行研究を取得する。取得のための方法論に関する基礎的講義を行う。グループワーク、受講生の発表討論の機会を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション イノベーション学を 俯瞰する	web上の研究論文をキーワードから絞り込んで取得するための演習を行う。
2回(3・4)	専門論文を読む1	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
3回(5・6)	専門論文を読む2	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
4回(7・8)	専門論文を読む3	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。。
5回(9・10)	専門論文を読む4	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
6回(11・12)	専門論文を読む5	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。
7回(13・14)	専門論文を読む6	選択した論文をグループまたは個人で発表しディスカッションする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

課題論文を事前に学習するための予習時間と講義後の復讐時間が必要である。

**【テキスト（教科書）】**

講義の際に配布する。

**【参考書】**

講義の際に必要な応じ紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への貢献（平常点。おおむね50%）、課題発表の内容（おおむね50%）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

今後聴取する。

OTR580R1 (その他 / Others 500)

## 合同ゼミ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、学生全員での議論の場を設けたい。とくに他領域での学生の発言が研究の奥行きと広がりにつながることを期待している。学会での発表に結び付けることを到達目標としたい。

### 【到達目標】

投稿論文の掲載を到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1回につき1名の学生の発表とする。ひとりにつき発表時間は40分、議論60分とする。レジュメは当日、配布、書式は基本的に自由だが、P・Pは使用しないことを基本とする。発表の順番、司会進行は学生が行う。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress
2-5	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
6-7	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation、担当教員によるまとめ/Summary
8	中間取り纏め/Intermediate summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress
9-12	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
13	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation/担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14	纏め/Summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都度学生と相談して進め方を決めていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言を中心に評価していく。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の人数によって授業の実施方法を工夫していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

自分の発表の回には配布用資料を用意のこと。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー毎週月曜日16-18時。

### 【Outline (in English)】

As doctoral students will increase their expertise, we want to set up a forum for discussion among all students. In particular, I hope that the remarks of the students in other areas will lead to the depth and spread of the research. I would like to make my goal to be connected with presentations at academic societies.

MAN700R1 (経営学 / Management 700)

## 雇用政策特殊研究 I

石山 恒貴

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の初年度に該当し、最終的な博士論文の完成を可能とするための知識・スキルの習得を重点的に行う。

### 【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

個別に指定する。

### 【参考書】

個別に指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN720R1 (経営学 / Management 700)

雇用政策特殊研究Ⅲ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

特に博士後期課程の集大成として、博士論文の完成に関連する内容を重点的に実施する。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

本授業は博士後期課程の集大成となることから、博士論文そのものの完成に該当するレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level corresponding to the completion of the doctoral dissertation itself.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

ARSI700R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation)  
700)

## 文化政策特殊研究 I

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

### 【到達目標】

1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する。

### 【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

### 【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

### 【その他の重要事項】

基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

### 【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARS1710R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 700)

## 文化政策特殊研究Ⅱ

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

### 【到達目標】

2年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	研究についての個別指導/Individual guidance on research	研究についての個別指導/Individual guidance on research
2回(3・4)	同上	同上
3回(5・6)	同上	同上
4回(7・8)	同上	同上
5回(9・10)	同上	同上
6回(11・12)	同上	同上
7回(13・14)	同上	同上
8回(15・16)	同上	同上
9回(17・18)	同上	同上
10回(19・20)	同上	同上
11回(21・22)	同上	同上
12回(23・24)	同上	同上
13回(25・26)	同上	同上
14回(27・28)	同上	同上
15回(29・30)	研究についての個別指導/Individual guidance on research	研究についての個別指導/Individual guidance on research
16回(31・32)	同上	同上
17回(33・34)	同上	同上

18回(35・36)	同上	同上
19回(37・38)	同上	同上
20回(39・40)	同上	同上
21回(41・42)	同上	同上
22回(43・44)	同上	同上
23回(45・46)	同上	同上
24回(47・48)	同上	同上
25回(49・50)	同上	同上
26回(51・52)	同上	同上
27回(53・54)	同上	同上
28回(55・56)	同上	同上

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、推薦する。

### 【参考書】

適宜、推薦する

### 【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

### 【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

### 【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARS1720R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 700)

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

2年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	研究に関する個別指導/Individual guidance on research	研究に関する個別指導/Individual guidance on research
2回(3・4)	同上	同上
3回(5・6)	同上	同上
4回(7・8)	同上	同上
5回(9・10)	同上	同上
6回(11・12)	同上	同上
7回(13・14)	同上	同上
8回(15・16)	同上	同上
9回(17・18)	同上	同上
10回(19・20)	同上	同上
11回(21・22)	同上	同上
12回(23・24)	同上	同上
13回(25・26)	同上	同上
14回(27・28)	同上	同上
15回(29・30)	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
16回(31・32)	同上	同上
17回(33・34)	同上	同上
18回(35・36)	同上	同上

19回(37・38)	同上	同上
20回(39・40)	同上	同上
21回(41・42)	同上	同上
22回(43・44)	同上	同上
23回(45・46)	同上	同上
24回(47・48)	同上	同上
25回(49・50)	同上	同上
26回(51・52)	同上	同上
27回(53・54)	同上	同上
28回(55・56)	同上	同上

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

MAN720R1 (経営学 / Management 700)

## 企業経営特殊研究Ⅲ

井上 善海

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3年次は、博士論文の完成を目指します。具体的には、博士論文の完成度を高めるため、学会発表、投稿論文を積み重ねていきます。

### 【到達目標】

- ①博士論文の全体構成のバランスがとれている。
- ②複数の学会での発表、論文投稿ができています。
- ③博士論文が完成している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	前半演習ガイダンス	前半における演習 (ゼミ) の進め方についての説明を行う。
2回	博士論文執筆指導① 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
3回	博士論文執筆指導② 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
4回	博士論文執筆指導③ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
5回	博士論文執筆指導④ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
6回	博士論文執筆指導⑤ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
7回	博士論文執筆指導⑥ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
8回	博士論文執筆指導⑦ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
9回	博士論文執筆指導⑧ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
10回	博士論文執筆指導⑨ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
11回	博士論文執筆指導⑩ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
12回	博士論文執筆指導⑪ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。

13回	博士論文執筆指導⑫ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
14回	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15回	後半演習ガイダンス	後半における演習 (ゼミ) の進め方についての説明を行う。
16回	博士論文完成度向上① 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
17回	博士論文完成度向上② 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
18回	博士論文完成度向上③ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
19回	博士論文完成度向上④ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
20回	博士論文完成度向上⑤ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
21回	博士論文完成度向上⑥ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
22回	博士論文完成度向上⑦ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
23回	博士論文完成度向上⑧ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
24回	博士論文完成度向上⑨ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
25回	博士論文完成度向上⑩ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
26回	博士論文完成度向上⑪ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
27回	博士論文完成度向上⑫ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
28回	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

### 【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline (in English)】**

The third year aims to complete the doctoral thesis. Specifically, in order to raise the degree of completion of the doctoral thesis, I will accumulate academic presentations and submitted papers.

ARS1710R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 700)

## 地域社会政策特殊研究Ⅱ

高尾 真紀子

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

### 【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1・2回	授業全体のガイダンス及び研究計画の確認	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール・研究計画の進捗確認
3・4回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
5・6回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7・8回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
9・10回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
11・12回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13・14回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
15・16回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
17・18回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
19・20回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
21・22回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
23・24回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

25・26回 論文作成に向けた個別指導 結果と考察 各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

27・28回 論文作成に向けた個別指導 査読論文 各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

### 【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

### 【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ECN590R1 (経済学 / Economics 500)

**経済政策特殊講義 (実証分析入門)**

柿野 成美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

**【到達目標】**

1. 実証研究論文の構成と作法を理解すること、2. 先行研究の分析結果の読み方を習得すること、3. 各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意された論文に事前に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回(3・4)	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回(5・6)	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回(7・8)	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5回(9・10)	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回(11・12)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回(13・14)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌 (査読論文が望ましい) にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

**【テキスト (教科書)】**

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

**【参考書】**

浦上昌則・脇田貴文 (2021) 『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版』 東京図書  
小塩真司 (2021) 『第3版 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで』 東京図書  
小塩真司 (2021) 『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 50%  
期末レポート 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回、パソコンを持参する。

**【その他の重要事項】**

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

**【Outline (in English)】**

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

ARSI590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 経済政策特殊講義 (消費者政策論)

柿野 成美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

### 【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1. 消費者被害とその対応、2. 消費者の自立支援 (消費者教育・啓発)、3. SDGs達成に向けた消費者と企業との共創 (エシカル消費・消費者志向経営) である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回(3・4)	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回(5・6)	地方消費者行政の実際 (現地調査)	東京都消費生活総合センター (飯田橋) を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	消費者政策の最前線 (ゲストスピーカー)	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員によるまとめを行う。
5回(9・10)	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回(11・12)	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回(13・14)	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連する諸課題に関心を持つようにすること。

### 【テキスト (教科書)】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

### 【参考書】

『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年

『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50%、平常点：50%  
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

### 【Outline (in English)】

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 経済政策特殊講義 (生活政策論)

柿野 成美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

### 【到達目標】

地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回(3・4)	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン (ゲストスピーカー：田中美帆氏)	地域における生活課題解決にデザインを活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回(5・6)	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回(7・8)	地域における私設図書館による場づくり「みんとなしよ」を事例として (ゲストスピーカー：土肥潤也氏)	私設図書館を開設して地域における場づくりを行っている「みんとなしよかん (みんとなしよ)」の事例を紹介し、その可能性と課題について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
5回(9・10)	生産者と消費者をつなぐ学習プログラム「SDGs調査隊」を事例として	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回(11・12)	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。
7回(13・14)	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

### 【参考書】

○政府の白書  
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」  
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」  
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」  
消費者庁「消費者白書」等  
○『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度 (50%)、最終レポート (50%) を総合的に勘案する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 雇用政策特殊講義 (雇用政策研究 (マクロ))

石山 恒貴

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ)について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

### 【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的とする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	－そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思いついてる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回(3・4)	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3回(5・6)	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものは？さらに、労働市場の基本構造を考える
4回(7・8)	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となりが違うのか？環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える

5回(9・10) 非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方

非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える

6回(11・12) 兼業・副業と雇用によらない働き方

兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。

7回(13・14) ミドル・シニアの働き方とまとめ

日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする(どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように)。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャバリ (若山由美訳)『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶應義塾大学出版会, 2016年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会, 2021年
6. 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7. 西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ&キャリア』中央経済社,2023年

### 【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点(1回当たり5点満点で計35点満点)、②2500字以上の長さの科目レポートの得点(65点満点)で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題(修士論文テーマ)に引きつけて書くことが望ましい。

### 【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

### 【その他の重要事項】

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 雇用政策特殊講義 (人的資源管理論)

石山 恒貴

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例 (企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例) について報告することを求める。

### 【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業/組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回(3・4)	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回(5・6)	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する。
4回(7・8)	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。

5回(9・10)	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6回(11・12)	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7回(13・14)	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

### 【参考書】

石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020年  
石山恒貴『組織内専門人材のキャリアと学習』生産性労働情報センター 2013年  
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018年

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点 (1回あたり5点満点で計35点満点)、②受講者による事例発表の得点 (65点満点)で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

### 【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

### 【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 雇用政策特殊講義 (人材育成論)

石山 恒貴

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について報告することを求める。

### 【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について報告することを求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回(3・4)	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回(5・6)	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回(7・8)	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5回(9・10)	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。

6回(11・12)	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回(13・14)	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

いずれかの人材育成に関する事例 (企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など) について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

### 【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年 石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年 石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

### 【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点 (1回当たり5点満点で計35点満点)、②各自が分担する事例発表の得点 (65点満点) で、両者を足した総得点による。

### 【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

### 【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

#### Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 雇用政策特殊講義 (地域雇用政策事例研究)

石山 恒貴

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

### 【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回(3・4)	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンのを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回(5・6)	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス (NPO、プロボノ、読書会など) や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回(7・8)	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5回(9・10)	地域雇用の対比 - 地域雇用の諸事例の対比と検討 (その1)	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回(11・12)	地域雇用の対比 - 地域雇用の諸事例の対比と検討 (その2)	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。

7回(13・14) 地域雇用の対比 - 地域雇用の諸事例の対比と検討(その3) 地域雇用の未来とまとめ

地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること (その成果を授業中に発表していただく)
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

### 【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年

### 【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点 (1回当たり5点満点で計35点満点)、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点 (65点満点) の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジユメのみで行うかは任意。

### 【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of

Regional Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 地域社会政策特殊講義 (ウェルビーイング論)

高尾 真紀子

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

### 【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、EBPM (根拠に基づく政策形成) に資する政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し (講義)、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回(3・4)	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング (幸福) に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回(5・6)	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策を学び、政策のあり方について議論する。
4回(7・8)	お金とウェルビーイング (ワークショップ)	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5回(9・10)	企業におけるウェルビーイング	健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回(11・12)	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回(13・14)	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策 (方策) について発表とディスカッションを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ウェルビーイング (幸福、健康) は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくのと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配布する

### 【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社  
大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010年、日本評論社  
小塩隆士『「幸せ」の決まり方 主観的厚生と経済学』2014年、日本経済新聞社  
キャロル・グラハム (多田洋介訳)『幸福の経済学』2013年、日本経済新聞出版社  
経済協力開発機構『OECD幸福度白書2—より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年、明石書店  
島井哲志『幸福の構造—持続する幸福と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか?』2015年、有斐閣  
橋木俊詔『「幸せ」の経済学』2013年、岩波書店  
友原章典『会社ではネガティブな人を活かしなさい』2021年、集英社新書  
ブルーノ・S・フライ (白石小百合訳)『幸福度をはかる経済学』2012年、NTT出版  
デレック・ボック (土屋直樹、茶野努、宮川修子訳)『幸福の研究—ハーバード元学長が教える幸福な社会』2011年、東洋経済新報社  
前野隆司『幸せのメカニズム—実践・幸福学入門』2013年、講談社現代新書  
矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年、草思社文庫  
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年、草思社  
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年、光文社新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への参加・貢献) (30%)、各回の課題 (20%)、最終レポート (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションやワークショップによる気づきが得られたとの感想・意見があったため、引き続きディスカッションやワークショップを取り入れていく。

### 【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ARSI590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 地域社会政策特殊講義 (少子高齢化と社会保障)

高尾 真紀子

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

### 【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し (講義)、課題解決の方法について資料を提示したうえで、各回ディベート形式で討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化及び移民問題についても議論する。
2回(3・4)	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3回(5・6)	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4回(7・8)	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5回(9・10)	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6回(11・12)	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
7回(13・14)	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくことと役に立つ。毎回、次回のディベートのテーマを示すので、参考資料を読んで準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配布する

### 【参考書】

○政府の白書等  
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」  
○その他  
エスピーン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房  
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書  
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫  
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社  
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書  
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社  
河野稠果『人口学への招待』中公新書  
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ  
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房  
友原章典『移民の経済学』中公新書  
永吉希久子『移民と日本社会』中公新書  
山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社  
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書  
山崎史郎『人口減少と社会保障 - 孤立と縮小を乗り越える』中公新書  
吉川洋『人口と日本経済』中公新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への参加) (30%)、各回の課題 (20%)、最終レポート (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 地域社会政策特殊講義 (地域活性化システム論)

高尾 真紀子

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師 (関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者) が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

## 【到達目標】

学外講師 (関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家) とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム (RESAS) を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している (2019年度：人を育てる、2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり)。2024年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2023年度の内容を記す (講師の肩書きは講義時のもの)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	内閣府地方創生推進室 矢野純也氏 「地方創生の推進について」
2回(3・4)	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	岡山県美咲町 政策監 宇佐見卓也氏 「地方自治体における地域活性化と人づくり」
3回(5・6)	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	特定非営利法人 土佐山アカデミー事務局長 吉富慎作氏 「地域における越境学習と人材育成」
4回(7・8)	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所 主席研究員 鴨志田武史氏 「地方創生とRESAS(地域経済分析システム)」

5回(9・10)	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 常務理事 尾田洋平氏 「地域みらい留学を通じた人材育成」
6回(11・12)	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 榎田みどり氏 「農業・農村政策と人づくり」
7回(13・14)	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

講義ごとにレジュメを配布する。

## 【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社  
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容(1/3)を総合的に勘案する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレイクアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCを接続して画面をスクリーンに表示できる設備  
DVDの動画番組をスクリーンに表示できる設備

## 【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。  
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

## 【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

ARSx590R1 (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 500)

## 都市政策特殊講義 (地域社会論)

上山 肇

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

### 【到達目標】

地域社会を形成している諸要素 (計画、ルール、コミュニティ、住民参加等) を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論 (理論と方法) について話します。
2回(3・4)	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における‘混住地域’などをテーマに授業を進めます。事例研究(1)
3回(5・6)	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、‘サステイナブル・シティ’などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(2)
4回(7・8)	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から‘地域社会とまちづくり’などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(3)
5回(9・10)	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に‘地方分権権’や‘参加’、‘ルール’等について考えます。事例研究(4)
6回(11・12)	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に‘再開発’や‘福祉のまちづくり’といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(5)
7回(13・14)	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に‘都市計画’や‘景観’などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(6)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

実践・自治体まちづくり学 (上山肇編著、公人の友社)。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

### 【学生が準備すべき機器他】

### 【その他の重要事項】

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業 (1回程度) を休日を利用して現地視察に振り替えることがあります。

### 【Outline (in English)】

#### [Course Outline]

This course introduces local community and community development to students taking this course.

#### [Learning Objectives]

1. Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).

2. Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

#### [Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1 (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 500)

## 都市政策特殊講義 (都市空間論)

上山 肇

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市空間の成立条件 (構成要素、計画、ルール、プロセス等) について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

### 【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践 (実務) の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回(3・4)	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業 等
3回(5・6)	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法1	(1)市民参加と合意形成 等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回(7・8)	(1)都市空間の規制手法2 (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5回(9・10)	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み 等 (2)中心市街地の活性化
6回(11・12)	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究1 (事業)	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7回(13・14)	(1)事例研究2 (制度) (2)事例研究3 (テーマ型)	(1)地域地区、地区計画 等 (2)水辺空間の再生 (国内・海外事例) 等

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

実践・自治体まちづくり学 (上山肇編著、公人の友社)。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例 (現地視察を含む) を授業に取り入れたいと考えています。

### 【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業 (1回程度) を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course Outline】

In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.

#### 【Learning Objectives】

This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Please read the materials to be distributed.

#### 【Grading Criteria / Policy】

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1 (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 500)

## 都市政策特殊講義 (比較都市事例研究)

上山 肇

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国内の都市 (地域、地区) を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

### 【到達目標】

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディスカッションを全員で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスと講義	都市比較の要点
2回(3・4)	事例研究1：事例紹介と作業 (対象地域に関する資料収集)	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
3回(5・6)	事例研究2：事例紹介と作業 (作品作成)	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) 作成
4回(7・8)	中間発表	作成途中の作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション
5回(9・10)	事例研究3：事例紹介と作業 (作品作成)	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) 作成
6回(11・12)	事例研究4：事例紹介と作業 (作品作成)	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) 作成
7回(13・14)	最終発表	学生による完成作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) の説明 (発表)、質疑応答、ディスカッション、講評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

実践・自治体まちづくり学 (上山肇編著、公人の友社)。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作) 30%で行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が作品 (課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター) 製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

[Learning Objectives]

At the same time as acquiring a multifaceted perspective on urban analysis, you will acquire the basics of comparative research.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 文化政策特殊講義 (都市文化論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

### 【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置 (劇場、映画館、カフェなど) にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回(3・4)	近代における都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回(5・6)	「考現学入門」解説とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device

4回(7・8) 百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo

都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo

5回(9・10) 東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels

文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels

6回(11・12) アジアの諸都市/Asian cities

アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila

7回(13・14) 都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities

異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを使用

### 【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC.DVDの使用もある。

### 【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。

### 【Outline (in English)】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 文化政策特殊講義 (コンテンツツーリズム論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るといえるものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

### 【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツツーリズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2回(3・4)	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3回(5・6)	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom

4回(7・8) 「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon

マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism

5回(9・10) 司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content

歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images

6回(11・12) ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"

ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism

7回(13・14) 新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work

現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを中心に授業を進める。

### 【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社

「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

### 【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16 - 18時。

### 【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARSI590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 文化政策特殊講義 (文化地理学)

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

### 【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効果をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
2回(3・4)	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回(5・6)	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回(7・8)	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students

5回(9・10) 言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape

言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory

6回(11・12) 習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them

儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences

7回(13・14) ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture

これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習をしていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

レジュメを中心に授業を進める。

### 【参考書】

「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ 出版

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワー：金16-18時

### 【Outline (in English)】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARS1590R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

## 文化政策特殊講義(文化基盤形成論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要があるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

### 【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチ/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2回(3・4)	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village

3回(5・6) サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street

4回(7・8) 札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo

5回(9・10) 福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian

6回(11・12) 海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas

7回(13・14) 履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。13/14回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト (教科書)】  
とくになし

【参考書】  
今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社  
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】  
平常点 (発表含む) 30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】  
より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】  
とくになし

【その他の重要事項】  
新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。

【Outline (in English)】  
Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

TRS590R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

**観光政策特殊講義 (観光社会学)**

北郷 裕美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

観光社会学とは何か 社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

**【到達目標】**

現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すか、言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの (中略) として理論化するもの (須藤・遠藤 2018) である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておく。必要に応じてレジュメの配布 (学習支援システムに事前アップ)、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回(3・4)	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える 近代化と観光社会学 および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回(5・6)	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害 ～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回(7・8)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会的な視点を持つ
5回(9・10)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等 多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する

6回(11・12)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し 各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7回(13・14)	観光施設の社会性 (観光の文化装置としての事例研究)	観光社会学総括 これからの観光を考える (湯布院を事例として)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容 (報道等) には注意深くあつて欲しい。

**【テキスト (教科書)】**

特には設けないが毎回作成配布する PPT を通して独自のノートを作成してほしい 文献等は都度紹介していく

**【参考書】**

須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018年  
遠藤 英樹、堀野 正人、寺岡 伸悟『観光メディア論』ナカニシヤ出版、2014年  
ジョン アーリ (著)、ヨナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30 点、レポート 70 点。

**【学生の意見等からの気づき】**

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

**【Outline (in English)】**

What is tourism sociology? The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology. Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society. Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism. Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
- Class attendance and attitude in class: 30%  
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

## 観光政策特殊講義 (フィールドワーク論)

北郷 裕美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、フィールドワーク(現地調査)の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に質的調査に軸足を置く予定である。

### 【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布(学習支援システムに事前アップ)、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、新型コロナ感染対応の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスフィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究(調査)の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回(3・4)	フィールドワークの基本②	定性調査を基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回(5・6)	フィールドワーク事例①	映画視聴 理論に基づいた事例研究に際し、方法論(調査技法)の長所短所について検証する
4回(7・8)	フィールドワーク事例②	テキストベースの文献調査、アクションとしての参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5回(9・10)	フィールドワークの実践的なりアリティ	アンケート・インタビュー手法を中心に具体的なシミュレーションを行う ロールプレイ的に簡単なワークショップも想定している
6回(11・12)	CASE STUDY(事例をもとに)	フィールドワークの実際について、事例を基に学ぶ 例)『暴走族のエスノグラフィー(佐藤郁哉著)』 例)『コミュニティFMの可能性(北郷裕美著)』を用いて視覚的に解説する

7回(13・14) 総括 資料作りと様々なフィールドワーク・ツール

これまでの学びを通して、収集した資料の分類・整理から生まれる新たな知見や理論構築について再考する  
またデータ分析等に用いる様々なツール(ハード機器 ソフトウェア)を情報リテラシーを用いて整理し、受講生各自の今後のフィールドワーク活動についての方針や計画についての発表を行う

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容(報道等)には注意深くあつて欲しい。

### 【テキスト(教科書)】

特には設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

### 【参考書】

佐藤郁也(2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社  
北郷裕美(2015)『コミュニティFMの可能性』青弓社  
佐藤郁哉(1984-2011)『暴走族のエスノグラフィー』新曜社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

### 【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork). This lecture will basically focus on qualitative research.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSI590R1

観光政策特殊講義（コミュニティーメディア論）

北郷 裕美

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

【到達目標】

本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在(失われた空間の意味するところ)：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回(3・4)	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティーメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回(5・6)	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画(Public Access)を視聴する：米国映画(Public Access)についての意見交換と解説
4回(7・8)	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティー放送前夜の時代を描いた作品)を視聴する：日本のコミュニティー・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説

5回(9・10)	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティー放送の概要と機能 公共性指標	日本のコミュニティーFM放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴 意見交換と解説：北海道のコミュニティーFM放送調査を事例に解説
6回(11・12)	コミュニティー放送の運営課題：コミュニティー放送と防災	日本のコミュニティーFM放送の組織経営の在り方と課題について：様々な事例より、コミュニティーメディアの防災側面 リスク最大値からの教訓を考える
7回(13・14)	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー：ネット社会とコミュニティーメディア	映像をまじえて『メディアリテラシー』全般について考える：コミュニティーメディアのインターネット空間への広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】

『コミュニティーFMの可能性：公共性・地域・コミュニケーション』（北郷裕美著 青弓社）

【参考書】

『日本のコミュニティー放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著 晃洋書房）  
『新・公共経営論』（北郷裕美 共著 ミネルヴァ書房）その他講義に際し適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート試験 70%を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義は原則として、毎回PC機器、視聴覚機器(DVD等)を使ったプレゼンテーション型の講義をPPTで行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者とのディスカッションに沿って変更することも可能とする。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1 (観光学 / Tourism Studies 500)

## 観光政策特殊講義 (ニューツーリズム論)

北郷 裕美

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマスツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。

### 【到達目標】

観光立国推進基本法が成立してから20年弱。この間観光形態も変容し、また東日本大震災、さらにコロナ禍も挟んで観光の在り方そのものの加筆修正が続いてきた。本講義で扱う、ニューツーリズムは、この20年ほどで注目されてきた新たな旅行スタイルである。かつて、旅行形態の中心は団体で世界中の観光名所を旅して回るマスツーリズムであった。現在注目されてきたニューツーリズムは、個人を対象に、多様な嗜好に重点をおき、企画開発された「体験型」且つ「交流型」の旅行を指す。さらにニューツーリズムは地域資源を活かせる地域創生事業という側面もあり、政府、観光庁も積極的に取り組みを行っている。斯様な文脈から多様な視点でニューツーリズムを理解し、今後の観光の在り方をクリティカルに検証することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面で行う。パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材 (You tube、DVD 動画等) も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス ニューツーリズムとは何か	・本講義の位置づけ (観光開発論 観光社会学との関連) ・ニューツーリズムのメリット & デメリットを考える
2回(3・4)	日本の観光開発の歴史 (復習も兼ねて)	・日本におけるインバウンド観光の歴史と現在について ・マスツーリズムからの変容を時系列で把握する
3回(5・6)	ニューツーリズムの振興①	・観光開発の歴史 ・オルタナティブ観光とサステナブル観光の違い
4回(7・8)	ニューツーリズムの振興②	・地域創生における観光のありかたを考察する
5回(9・10)	ニューツーリズムの振興/多様過ぎる種類と事例①	・サステナブル・ツーリズム誕生までの経緯 ・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み例
6回(11・12)	ニューツーリズムの振興/多様過ぎる種類と事例②	・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み例

7回(13・14) 新しい観光"メタ観光"とは 通常の観光形態よりも一段上位 (メタ) にある観光概念について考察する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

### 【テキスト (教科書)】

特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい 文献等は講義の前後に適宜紹介していく

### 【参考書】

特には設けないが文献、論文等はその都度紹介していく

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポート70点

### 【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う  
受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

### 【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回ガイダンス時に解説する。講義内容は、受講者の関心等に沿って進捗を鑑み変更することも可とする。

### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

**産業政策特殊講義 (地域産業論)**

橋本 正洋

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、実績のあるゲストを招き、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

**【到達目標】**

日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

イントロダクションに続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲスト講師からの話題提供及び担当教授の指導の下グループディスカッションを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回(3・4)	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲスト講師からの話題提供を基に担当教授の指導の下討議する。
3回(5・6)	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
4回(7・8)	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
5回(9・10)	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
6回(11・12)	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
7回(13・14)	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

**【テキスト (教科書)】**

講義の際に配布する。

**【参考書】**

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (おおむね50%)、プレゼンテーション (おおむね50%) とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

講師が遠隔で講義を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

**【その他の重要事項】**

ゲスト講師を事前に提示するので、予習をしておくこと。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical lecture and sufficient discussion. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 産業政策特殊講義 (地域経営戦略論)

橋本 正洋

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務 (政策立案・運営、企業戦略) に活かすことを目指す。

### 【到達目標】

具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略など必要な発想、取り組みを考察する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回 (1・2)	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回 (3・4)	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策 (マクロ、地方振興策など) の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
3回 (5・6)	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。
4回 (7・8)	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に担当教授の指導の下、地域におけるイノベーション創生の議論を行う。
5回 (9・10)	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。
6回 (11・12)	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。
7回 (13・14)	まとめ	一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

### 【テキスト (教科書)】

教員、ゲスト受講者から資料を提示する。

### 【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (おおむね 50%)、プレゼンテーション (おおむね 50%) とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションへの積極的参加が重要。  
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

### 【学生が準備すべき機器他】

一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we welcomed leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. We consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

**産業政策特殊講義 (地域イノベーション論)**

橋本 正洋

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素 (国、自治体の関与) がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

**【到達目標】**

政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回(3・4)	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回(5・6)	イノベーション政策 1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4回(7・8)	イノベーション政策 2	大学等技術移転促進法制定 (TLO法)、99年：産業活力再生特別措置法制定 (日本版パトロール) と大学技術移転、大学発ベンチャー
5回(9・10)	イノベーション政策 3	国立大学法人化・大学改革
6回(11・12)	イノベーション政策 4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回(13・14)	イノベーション政策 5	省庁再編・独法改革

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

**【テキスト (教科書)】**

講義の際に配布する。

**【参考書】**

講義の際に適宜資料を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題 (実施の場合およそ50%) により採点する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

**【学生が準備すべき機器他】**

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

**【その他の重要事項】**

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

**【Outline (in English)】**

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general. Students who have policy elements (involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course. Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 企業経営特殊講義 (中小企業論)

井上 善海

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

### 【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。授業は完全オンラインで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回(1・2)	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2回(3・4)	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3回(5・6)	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。

4回(7・8)	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5回(9・10)	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6回(11・12)	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7回(13・14)	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

井上善海編著 (2022) 『中小企業経営入門』中央経済社 (2,300円)

### 【参考書】

井上善海編 (2009) 『中小企業の戦略』同友館 (2,800円)  
中小企業庁編『中小企業白書』(各年度版)  
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度(40%)、講義内で課す課題レポート(60%)により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

**企業経営特殊講義 (経営戦略論)**

井上 善海

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

**【到達目標】**

- ①経営戦略論の史の変遷を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を実践 (ケーススタディ) で検証できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりと深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2回(3・4)	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3回(5・6)	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を4つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4回(7・8)	製品ポートフォリオ・マネジメント 成長戦略の展開	2次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。 グローバル戦略、戦略提携について。
5回(9・10)	業界の構造分析 競争の基本戦略	5つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。

6回(11・12)	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコアベティション戦略について。 タイムベース戦略、ディファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7回(13・14)	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

井上・大杉・森 (2022) 『経営戦略入門』中央経済社 (2,200円)

**【参考書】**

井上善海・佐久間信夫編 (2008) 『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房 (2,500円)

その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度 (40%)、講義内で課す課題レポート (60%) により成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline (in English)】**

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## 企業経営特殊講義 (新産業創出論)

井上 善海

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

IoT、ビッグデータ、人工知能 (AI)、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第4次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。本講義では、第4次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

### 【到達目標】

- ①第4次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
- ②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
- ③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

5回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	第4次産業革命と新産業創出	第4次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2回(3・4)	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	宇宙産業と中小製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：元大手電機メーカー経営企画担当】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。
3回(5・6)	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手飲料メーカーR&D担当】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。
4回(7・8)	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：中小機構チーフアドバイザー】 担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

5回(9・10) 新産業創出と知的財産権

迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。  
【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】  
担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

6回(11・12) IT投資による新産業創出

新産業創出におけるIT投資の重要性について。  
【ゲスト講師：元マイクロソフトIT担当】

担当教員によるファシリテーションや全体のまとめなどを行う。

7回(13・14) 産学連携による新産業創出

大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしていてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講義の際に資料を配布します。

### 【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点 (講義内での発言・貢献度) 40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【Outline (in English)】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

**企業経営特殊講義 (商店街活性化論)**

井上 善海

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。

本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を發揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

**【到達目標】**

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：オンライン/online**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2回(3・4)	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3回(5・6)	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4回(7・8)	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5回(9・10)	商店街活性化政策①「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6回(11・12)	商店街活性化政策②「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7回(13・14)	商店街活性化政策③「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

講義の際に資料を配布します。

**【参考書】**

中小企業庁編『中小企業白書』(各年度版)  
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点(講義内での発言・貢献度)40%、講義内で課す課題レポート60%により成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline (in English)】**

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## CSR特殊講義 (CSR論)

小方 信幸

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では、CSRを本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造するCSV (Creating Shared Value, 共通価値の創造) と定義する。CSVを経営戦略として如何にサステナビリティ経営を実現するべきかを考える。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業がサステナビリティ経営を実現する要因を学ぶことを目的とする。

### 【到達目標】

学生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造するCSVを経営戦略とすることにより、サステナビリティ経営を実現することが出来ることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。

原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSVを実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する要因を学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 歴史から学ぶCSR概念の形成と変遷
2回(3・4)	共通価値の創造 (CSV)	(1) M.ポーター他「共通価値の創造」戦略 (2) ケース：ネスレのCSV戦略
3回(5・6)	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営
4回(7・8)	クレド経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条 (Our Credo)
5回(9・10)	長期志向経営	ケース：ノボ・ノルディスク
6回(11・12)	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7回(13・14)	日本の中小企業におけるCSV戦略	ケース：石坂産業株式会社

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。  
(2) 授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

### 【参考書】

都度紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献 (40%)、期末レポート (60%) で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

(2) 企業のサステナビリティ・CSR部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員からCSRおよびCSVについての理解が深まったとの感想が寄せられた。2024年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

### 【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師を招く場合は、授業計画を一部変更することがある。ただし、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

### 【Outline (in English)】

In this class, we define CSR as Creating Shared Value (CSV), which is the creation of social and economic value through core business activities, and consider how sustainability management should be realized through CSV as a management strategy. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. Through the lecture, group discussion, and class discussion, the objective is to learn the factors that enable companies to realize sustainability management.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

**CSR特殊講義 (企業活動と社会 I)**

小方 信幸

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

当授業では企業活動と社会の関係を経営倫理の視点で理解することを目的とする。最初に、経営倫理の基礎である功利主義、倫理的利己主義、義務論、正義論に関する講義を行う。次に、サプライチェーンの人権問題や環境問題などの具体的なケースをグループまたはクラス全体で討議を行うことにより、経営倫理について理解する実践的な授業である。

**【到達目標】**

- (1) 経営倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて経営倫理について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議またはクラス全体の討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション 経営倫理の理論 (1) 功利主義と現代社会	(1) 講義：倫理的利己主義と功利主義 (2) ケース：フォード・ピントのケース
2回(3・4)	経営倫理の理論 (2) カント「義務論」	(1) 講義：カント「義務論」 (2) ケース：プレント・スパーの処理を巡るケース
3回(5・6)	経営倫理の理論 (3) ロールズ「正義論」	(1) 講義：ロールズ「正義論」 (2) ケース：貧富の差について考える
4回(7・8)	経営倫理の実践 (1) ロールズ「正義論」 の視点で米国社会の現状を考える。	(1) 講義：経済的格差の是正に必要なことは何か。 (2) ケース：シアーズ自動車センター
5回(9・10)	経営倫理の実践 (2) 顧客関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：ソーラーブライント
6回(11・12)	経営倫理の実践 (3) 従業員関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み
7回(13・14)	経営倫理の実践 (4) 国際経営の倫理	(1) 講義：児童労働 (2) ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

毎回資料を配布する。

**【参考書】**

梅津光弘 (2002) 『ビジネスの倫理学』 丸善出版、1,900円 + 税

マイケル・サンデル (訳) 鬼澤忍 (2011) 『これからの「正義」の話しよう』 早川書房 (ハヤカワ・ノンフィクション文庫)、900円 + 税 その他参考書は都度紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点40%、期末レポート60%を基準に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゲスト講師を招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲスト講師招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

**【その他の重要事項】**

ゲスト講師招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。ただし、ゲスト講師による授業においても、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to understand the relationship between business activities and society from the perspective of business ethics. First, lectures on utilitarianism, libertarianism, deontology, and a theory of justice, which are the foundations of business ethics, will be given. Next, students will engage in group or whole-class discussions on specific cases, such as human rights and environmental issues, to understand business ethics in this practical class.

MAN590R1 (経営学 / Management 500)

## CSR特殊講義 (ESG投資と企業経営)

小方 信幸

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当授業では、ESG投資家と企業経営者が建設的な対話を行うことにより、企業は持続可能な成長を実現し、投資家は長期投資で高いリターンを実現することを理解する。その結果、社会の持続可能性が高まる仕組みを理解する。

### 【到達目標】

学生は下記3点について理解できる。

- (1) 投資の意思決定の際に、環境 (Environment, E)、社会 (Social, S)、ガバナンス (Governance, G) の3つの非財務要因 (ESG要因) を考慮する ESG投資を理解できる。
- (2) ESG投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
- (3) ESG投資家と企業経営者がESG要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

当授業では、ESG投資家と企業経営者の建設的対話を理解するために、まず、講義を通じてESG投資と企業の情報開示に関して理解する。つぎに、基礎的な知識を用いて、具体的なケースをグループまたはクラス全体で討議する。このようなプロセスを通じてESG投資家と企業の対話の重要性を認識できるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 講義の進め方 (2) ESG投資の歴史 (3) 日米欧のESG投資市場の概要
2回(3・4)	証券投資の基礎	(1) 債券投資 (2) 株式投資
3回(5・6)	ESG投資家の企業評価	(1) ESG評価 (2) 主な財務・株価指標 (3) 資本コストとROE
4回(7・8)	統合報告書の基礎	開示すべき財務・非財務情報を知る。
5回(9・10)	日本企業の統合報告書	ESG投資家が評価する日本企業の統合報告書を読み砕く。
6回(11・12)	非財務情報開示の国際的潮流	(1) TCFD 環境関連情報開示 (2) ISSB 世界の非財務情報開示の潮流
7回(13・14)	ESG投資家の議決権行使	ESG投資家の議決権行使基準

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。

本授業の準備学習および復習の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回資料を配布する。

【参考書】

小方信幸 (2016) 『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンスー ESG投資の本質を歴史からたどるー』 同文館出版

アムンディ・ジャパン (2021) 『社会を変える投資 ESG入門 (新版)』 日本経済新聞出版

その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるとのフィードバックがあったので、本年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘に伴い授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

In this class, students will understand that constructive dialogue between ESG investors and corporate management will enable companies to achieve sustainable growth and investors to realize higher returns on their long-term investments. As a result, they will understand how sustainability is enhanced.

MAN590R1 (経営学/Management 500)

## CSR特殊講義(SDGsと企業経営)

小方 信幸

科目分類：博士後期(選択必修) | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

当授業では、国連が持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)を制定した歴史的背景を理解したうえで、SDGsの17目標について理解し、さらに、SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解することも目的とする。

## 【到達目標】

- (1) 国連が持続可能な開発目標(SDGs)を制定した歴史的背景を理解できる。
- (2) SDGsの17の目標を理解できる。
- (3) SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGsと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 国連の理念 (2) SDGs誕生の歴史的背景 (3) 企業がSDGsに取り組む理由
2回(3・4)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(1)	SDGs目標1-6 (1) 人権についての基本的な理解を深める (2) ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3回(5・6)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(2)	SDGs目標1-6 貧困問題に取り組むソーシャル ビジネスの可能性を考える。
4回(7・8)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(1)	SDGs目標7-11 企業におけるジェンダーダイ バーシティ
5回(9・10)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(2)	SDGs目標7-11 (1) 従業員の働き方改革 (2) 人的資本経営
6回(11・12)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(1)	SDGs目標12-15 (1) 気候変動 (2) 脱炭素
7回(13・14)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(2)	SDGs目標12-15 (1) 廃棄物 (2) 生物多様性

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

毎回の授業で資料を配布する。

## 【参考書】

都度紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

## 【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することもある。ただし、ゲスト講師による授業であっても、担当教員の責任で授業を運営する。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

## 【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the historical background of the United Nations' establishment of the Sustainable Development Goals (SDGs), to understand the 17 goals of the SDGs, and to further understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

## 情報学入門 I / II (2019年度以降入学者)・情報科学実習 I / II (2018年度以前入学者)

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最近では、様々な場面においてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換することができるようになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになってきている。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なく PC や情報通信ネットワークを使いこなすことができるようになることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の 6 つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

### 【到達目標】

情報学の基礎となる概念と技術を学び、技術を理解することを目標とする。評価に関わる目標は、各コース毎に異なる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

〔データ演習コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的な Visual Basic for Applications を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

〔データベースコース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

〔空間情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

〔メディア情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

〔言語データ処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要な IT スキルの基本を学ぶ。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
各コースの	各コースのページを参	各コースのページを参照。
ページを参	照。	

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各コースのページを参照。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

各コースのページを参照。

### 【参考書】

各コースのページを参照。

### 【成績評価の方法と基準】

各コースのページを参照。

### 【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

### 【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

### 【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

### 【関連科目】

各コースのページを参照。

### 【Outline (in English)】

The goal of these courses of informatics is to get the ability for you to become familiar with PCs and information networks and to use them effectively to solve problems in the information society.

Specifically, the first is to become familiar with information and communication equipment and to learn information literacy. Students will not only be able to work with existing software, but will be able to create your own programs and solve problems yourself.

The following six courses are set up in this practical subject so that students can learn the basics of informatics.

